

# 日本医科大学研究業績年報

第 46 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 46



平成 11 ( 1999 ) 年度

April 1999 | March 2000

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 46 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 46

平成 11 ( 1999 ) 年度

April 1999—March 2000

# まえがき

学長 浅野 伍朗

ここに1999年度の日本医科大学の研究業績年報が完成した。1999年度も基礎科学，基礎医学，臨床医学の領域において前年度に続き本学の研究の質の向上と共に論文総数の増加がみられ英文論文数の比率も34.51%と増加がみられる。また，その中の掲載誌をみても高く評価されている専門誌が多い。そして著書数も554編を数え，1986年と対比すると1.63倍と著しく増加しているのも特徴である。

これからの21世紀の競争社会の中での研究の実施にあたり，優れた研究者の養成，学術研究の高度化と国際貢献が求められている。そのためにも充実した研究環境の整備とその中で国際的にも評価が受けられる独創的研究が実施され，その結果が発表されることを期待する。

これらの実績は科学研究費や私立大学経常費補助金など各種研究補助金の取得にも関連すると思われ，本学での各専門領域における独創的研究の実施とさらなる発展を願うものである。

最後に，この業績集編集にご尽力下さいました芝崎研究委員会委員長，大学事務局の方々に謝意を表します。

1999年度研究業績年報内訳表

年度	総頁数	基礎科学	基礎医学	臨床医学	付置施設
1989	300	16	43	229	3
1990	327	17	40	252	6
1991	349	18	45	271	6
1992	351	18	43	276	4
1993	367	14	48	289	6
1994	393	15	56	304	10
1995	429	14	60	340	15
1996	434	14	57	348	15
1997	443	17	63	346	17
1998	446	14	66	343	23
1999	459	15	60	362	22

1頁 = 52字数 × 42行 = 2184字

	1986年度	1998年度	増加率(倍)	1986年度	1999年度	増加率(倍)
論文数	1189	1888	1.59	1189	1927	1.62
著書数	339	426	1.26	339	554	1.63
学会発表数	2492	3871	1.55	2492	3885	1.56

	1998年度	1999年度	増加率(倍)
論文数	1888	1927	1.02
著書数	426	554	1.30
学会発表数	3871	3885	1.00

年度	総論文数	英文論文数	比率(%)
1990	1432	210	14.66
1991	1555	200	12.86
1992	1492	208	13.94
1993	1618	250	15.45
1994	1634	308	18.85
1995	1885	380	20.16
1996	1766	401	22.71
1997	1774	464	26.16
1998	1888	634	33.58
1999	1927	665	34.51

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
[国文学] .....	1
[哲学・倫理学] .....	2
[心理学] .....	3
[歴史学] .....	4
[文化人類学] .....	4
[経済学] .....	5
2. 自然科学 .....	5
[数 学] .....	5
[物理学] .....	6
[化 学] .....	8
[生物学] .....	9
3. 外国語 .....	12
[英 語] .....	12
[ドイツ語] .....	13
4. スポーツ科学 .....	14
[スポーツ科学] .....	14

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	19
2. 解剖学第二講座 .....	22
3. 生理学第一講座 .....	25
4. 生理学第二講座 .....	28
5. 生化学第一講座 .....	31
6. 生化学第二講座 .....	35
7. 薬理学講座 .....	40
[薬理学] .....	40
[臨床薬理センター] .....	42
8. 病理学第一講座 .....	45
9. 病理学第二講座 .....	49
10. 微生物学・免疫学講座 .....	56
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	61
12. 法医学講座 .....	63
13. 医療管理学講座 .....	66
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	71
[実験動物管理室] .....	71
[中央電子顕微鏡研究施設] .....	73

[ 情報科学センター ] .....	74
〔3〕 臨床医学	
1. 内科学第一講座 .....	81
[ 付属病院第1内科 ] .....	81
[ 付属病院老人科 ] .....	94
[ 第二病院内科 ] .....	98
[ 多摩永山病院内科 ] .....	101
2. 内科学第二講座 .....	104
[ 付属病院第2内科 ] .....	104
[ 付属病院リウマチ外科 ] .....	120
3. 内科学第三講座 .....	126
[ 付属病院第3内科 ]( 内分泌・消化器・血液内科 ).....	126
4. 内科学第四講座 .....	138
[ 付属病院第4内科 ] .....	138
5. 精神医学講座 .....	146
[ 付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科 ] .....	146
[ 付属病院東洋医学科 ] .....	152
6. 小児科学講座 .....	155
[ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ] .....	155
7. 放射線医学講座 .....	165
[ 付属病院放射線科 ] .....	165
[ 第二病院放射線科 ] .....	176
[ 多摩永山病院放射線科 ] .....	178
[ 千葉北総病院放射線科 ] .....	179
8. 皮膚科学講座 .....	183
[ 付属病院皮膚科 ] .....	183
[ 第二病院皮膚科 ] .....	188
[ 多摩永山病院皮膚科 ] .....	191
[ 千葉北総病院皮膚科 ] .....	191
9. 外科学第一講座 .....	193
[ 付属病院第1外科 ] .....	193
[ 多摩永山病院外科 ] .....	218
[ 多摩永山病院消化器科 ] .....	222
[ 千葉北総病院外科 ] .....	223
10. 外科学第二講座 .....	228
[ 付属病院第2外科 ] .....	228
[ 第二病院外科 ] .....	239
[ 多摩永山病院内視鏡科 ] .....	241
[ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ] .....	244

11. 脳神経外科学講座 .....	247
[ 付属病院脳神経外科 ] .....	247
[ 第二病院脳神経外科 ] .....	258
[ 多摩永山病院脳神経外科 ] .....	261
[ 千葉北総病院脳神経外科 ] .....	265
12. 整形外科科学講座 .....	268
[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ] .....	268
13. 産婦人科学講座 .....	278
[ 付属病院産婦人科 ] .....	278
[ 第二病院産婦人科 ] .....	289
[ 多摩永山病院産婦人科 ] .....	294
[ 千葉北総病院産婦人科 ] .....	297
14. 耳鼻咽喉科学講座 .....	300
[ 付属病院耳鼻咽喉科 ] .....	300
[ 第二病院耳鼻咽喉科 ] .....	310
[ 多摩永山病院耳鼻咽喉科 ] .....	310
[ 千葉北総病院耳鼻咽喉科 ] .....	312
15. 泌尿器科学講座 .....	315
[ 付属病院泌尿器科 ] .....	315
[ 第二病院泌尿器科 ] .....	323
[ 多摩永山病院泌尿器科 ] .....	323
[ 千葉北総病院泌尿器科 ] .....	325
16. 眼科学講座 .....	328
[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科 ] .....	328
17. 麻酔科学講座 .....	335
[ 付属病院麻酔科 ] .....	335
[ 第二病院麻酔科 ] .....	339
[ 多摩永山病院麻酔科 ] .....	340
[ 千葉北総病院麻酔科 ] .....	343
18. 救急医学講座 .....	347
[ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ] .....	347
[ 多摩永山病院救命救急センター ] .....	357
[ 千葉北総病院救命救急センター ] .....	361
19. 形成外科学講座 .....	368
[ 付属病院形成外科 ] .....	368
[ 第二病院形成外科 ] .....	374
[ 千葉北総病院形成外科 ] .....	375

20 . 付属病院付置施設等 .....	376
[ 付属病院集中治療室 ] .....	376
[ 付属病院病理部 ] .....	381
[ 付属病院中央検査部 ] .....	384
[ 付属病院薬剤部 ] .....	387
[ 付属病院生理機能センター ] .....	388
[ 付属病院看護部 ] .....	389
[ 付属病院放射線科技師室 ] .....	390
[ 日本医科大学腎クリニック ] .....	392
[ ワクチン療法研究施設 ] .....	393
21 . 第二病院付置施設等 .....	395
[ 第二病院消化器病センター ] .....	395
[ 第二病院リハビリテーションセンター ] .....	399
[ 第二病院健康管理科 ] .....	402
[ 第二病院病理部 ] .....	403
[ 第二病院中央検査室 ] .....	407
[ 第二病院薬剤科 ] .....	408
22 . 多摩永山病院付置施設等 .....	410
[ 多摩永山病院病理部 ] .....	410
[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	413
[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	414
[ 多摩永山病院看護部 ] .....	416
23 . 千葉北総病院付置施設等 .....	418
[ 千葉北総病院内科 ] .....	418
[ 千葉北総病院集中治療部 ] .....	426
[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	429
[ 千葉北総病院病理部 ] .....	430
[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	435
[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	435
[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	436
[ 千葉北総病院歯科 ] .....	438

#### 〔4〕付置研究施設

1 . 老人病研究所 .....	443
[ 病理部門 ] .....	443
[ 生化学部門 ] .....	445
[ 免疫部門 ] .....	448
[ 疫学部門 ] .....	451
[ 分子生物学部門 ] .....	455

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	467
1. 平成11年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	467
2. 平成11年度文部省科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況 .....	473
3. 平成11年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況 .....	473
4. 平成11年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況 .....	476
5. 平成11年度各種補助金の交付状況一覧 [ 内訳 ] .....	477



## 〔 1 〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [国文学]

### 研究概要

本年度は、文学作品における空間の意味、現代女性作家研究、芥川龍之介とその周辺の作家研究という三つのテーマによって、研究を展開した。

に関しては、鹿鳴館と、泉鏡花「貧民倶楽部」、芥川龍之介「舞踏会」、三島由紀夫「鹿鳴館」のそれぞれの主題との関連を論じ、伊香保温泉を廻る徳富蘆花「不如帰」と林芙美子「浮雲」との比較を考察した。また「東京の文学空間」と題して、都民大学で、停車場 百貨店 社交場 遊郭 居留地 など東京の文学的空間を作品にそって論じる連続講演をおこなった。

については、山田詠美の作家論、作品論を試み、女性作家全集において林京子の解説と年譜を、佐藤愛子の随筆・アンソロジーにおいて、佐藤愛子の年譜を執筆した。また、河野多恵子の研究史を、学会誌『昭和文学研究』に発表した。

に関しては、芥川龍之介「或阿呆の一生」論、「芥川文学のヒロイン像」を執筆し、世紀末的美意識において、芥川と強い関わりを持つ梶井基次郎の「桜の樹の下には」の作品論を試みた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 神田由美子：河野多恵子研究史。昭和文学研究 1999；(39)：140-144。
- 2) 神田由美子：梶井基次郎「桜の樹の下には」。国文学解釈と鑑賞 1999；64(6)：139-142。
- 3) 神田由美子：鹿鳴館 というドラマ：鏡花・芥川・三島。国語展望 1999；(104)：14-16。
- 4) 神田由美子：山田詠美：皮膚感覚の大人の物語。月刊国語教育 1999；19(5)：12-13。
- 5) 神田由美子：芥川龍之介「或阿呆の一生」。国文学解釈と鑑賞 1999；64(11)：145-148。
- 6) 神田由美子：伊香保温泉の男女：「不如帰」と「浮雲」。国語展望 1999；(105)：17-19。
- 7) 神田由美子：芥川文学のヒロイン像：芥川文と秀しげ子。湘南文学 2000；(13)：82-87。

##### (2) 随筆：

- 1) 神田由美子：上村悦子先生の思い出。東洋学園研究室だより 1999；(31)：72-74。

#### 著書

- 1) 神田由美子：〔解説・年譜〕「林京子」解説・年譜。女性作家シリーズ5 三枝和子、林京子、富岡多恵子集、1999；pp422-427、角川書店。
- 2) 神田由美子：〔分担〕山田詠美「ひよこの眼」。新しい作品論へ、新しい教材論へ(田中実・須貝千里)、1999；pp1-17、右文書院。
- 3) 神田由美子：〔年譜〕佐藤愛子・年譜。不運は面白い 幸福は退屈だ(佐藤愛子)、1999；pp268-277、海竜社。

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 神田由美子：東京の文学空間。東京国際フォーラム内「都民カレッジ」、1999. 10-12。

## [ 哲学・倫理学 ]

### 研究概要

1. 「ドイツ観念論における自然哲学」というテーマがこれまで研究してきた問題である。このテーマはさらに、1) 文献学的資料的研究、特に当時の「ブラウン説」論争とシェリング自然哲学との関連に焦点を絞って研究を行っている。この方面での資料に関しては、レシュラウプの文献の収集を行っている。また、当時の有機体論がその前提になる。当時の「鉱物有機体」の問題について資料の収集も行っている。2) 理論的問題。ヤコービ-ケッペン-フリースの線とドイツ観念論の交差という方向で整理している。これに関しては、二つの方向で「シェリングとエッセンマイヤー」、「フィヒテとシェリング」というテーマで解決する予定。3) 研究動向のフォロー。この点では、ドイツの研究者との連携が成果を上げている。とりわけ二つの自然哲学研究集団があり、その集団との連携が重要な課題となっている。また、最近自然哲学関係の研究文献が続出しているため、それについて今年は口頭発表という形で成果の発表を行った。

このテーマで1999年度から3年間の予定で科研費「基盤研究C」に採択された。そのため、1)と3)の関連文献を集中的に集めている。現在順調に集まり始めている。最近研究も進み、様々な研究書が出版され始めている。それらに目を配りながら、研究を進めていくことにする。動向の整理は、自分の研究の方向とどう交差するのかを確認する上で大事な課題である。そして昨年はドイツ、ベルリンとボンを中心として研究状況把握を行った。成果としてまとめることが重要な課題になっている。

2. 「生命倫理」の問題では、「出生をめぐる生命倫理上の問題」が第1のテーマになっている。特に「子供の権利」の検討が課題として浮かび上がってきた。第2の課題は、インフォームド・コンセント、その中でも「代理同意」の問題に焦点を絞っている。昨年からは日本医学哲学倫理学会の方では理事となり、そのための仕事が増大してきている。また、情報科学センターの兼任でもあることから「医療情報」をめぐる倫理的問題も検討している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 長島 隆：体系期ヘーゲルにおける自然把握と自然哲学の基礎づけ：講義筆記録を通して、『ヘーゲル哲学への新視角』（加藤尚武編） 1999；129-151。

#### 著書

- 1) 長島 隆：〔編集〕患者の自己決定権、エホバの証人、シンガー事件及びあとがき。生命倫理のキーワード（編集）、1999；理想社。
- 2) 長島 隆：〔編集〕「シェリングとガルヴァニスムス」及び前書き。シェリング自然哲学とその周辺（編集）、2000；pp178-198，梓出版社。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 長島 隆，伊藤高司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日医大情報科学センター)：「医療情報」の帰属性について：「共同所有」論をめぐって。第19回医療情報学連合大会，1999。11。
- 2) 長島 隆：レシュラウプのMagazinについて。自然哲学研究会，1999。12。
- 3) 長島 隆：ドイツにおける二つの「自然哲学研究集団」について。自然哲学研究会，2000。3。

## [ 心理学 ]

### 研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に加えて、新しい投影描画法テストである「星と波テスト」の研究と入門書の出版を行った。また防音具のノイズ環境における心理的効果の研究を行った。

1. 「日本における星と波テストの試み そのII」を東京外国語大学の鈴木康明氏と学会発表した。また早稲田大学大学院生森 秀都氏と共同で発達機能テストとしての星と波テスト 「幼児の描画の実際」を資料としてまとめた。

2. 「星と波テスト入門」(共著)を出版した。

3. 「現代のエスプリ 385号コラージュ療法特集」を京都文教大学の森谷寛之氏と共同編集した。

4. 「防音具がノイズ環境において気分と作業の与え得る影響について」の研究では本学の学生を含めた53人の実験を行い論文にまとめた。これは2000年7月の日本健康心理学会で発表する予定である。

5. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を5月,7月,9月,11月,2000年3月の5回行った。うつ症状の大学生・摂食障害の中学生と大学生・保健室登校の高校生・問題行動の定時制高校生の5事例を検討した。福井県教育研究所,国立大洲青年の家,横浜市教育センターなどで講演を行った。また学生相談学会,箱庭療法学会,心理臨床学会で座長を務めた。

6. 学生相談室が開室以来5年目となった。新入生全員にUPI(学生健康調査)テストを行った。1998年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第4号を発行した。また日本学生相談学会の資格問題を検討する特別委員会委員を務めた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

1) 杉浦京子,鈴木康明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京外国語大学):日本における「星と波テスト」の試み:そのII.日本心理臨床学会 第18回 1999;472-473.

2) 杉浦京子,鈴木康明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京外国語大学):星と波テストの特質:「死別の問題」の事例から.第31回日本芸術療法学会 1999;26-26.

3) 杉浦京子,森 秀都<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学大学院):発達機能テストとしての星と波テスト:幼児の描画の実際.日本医科大学基礎学科紀要 1999;(27):19-43.

#### 著書

1) 杉浦京子:〔分担〕アート体験法・音楽療法・芸術心理学など.臨床心理辞典(恩田彰・伊藤隆三),1999;八千代出版.

2) 杉浦京子,森谷寛之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都文教大学):〔分担〕総説(座談会),同時制作法,グループでの使用.現代のエスプリ コラージュ療法(森谷寛之・杉浦京子),1999;至文堂.

3) 杉浦京子:〔分担〕コラージュ療法におけるイメージと心の癒し.イメージと心の癒し(福島 章),1999;pp109-130,金剛出版.

4) 杉浦京子:〔分担〕子どもが友だちとのかかわりにつまずいたとき.児童心理 臨時増刊号,2000;pp44-50,金子書房.

5) 杉浦京子,ブルーノリーネル<sup>1)</sup>,鈴木康明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国際日本文化研究センター,<sup>2)</sup>東京外国語大学):〔共著〕日本における星と波テスト.星と波テスト入門,2000;pp111-148,川島書店.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 杉浦京子, 入江 茂<sup>1)</sup>, 服部令子<sup>2)</sup>, 緒方一子<sup>3)</sup>, 村上凡子<sup>4)</sup>, 近喰ふじ子<sup>5)</sup>, 森谷寛之<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>入江クリニック, <sup>2)</sup>早稲田大学, <sup>3)</sup>営団地下鉄相談室, <sup>4)</sup>㈱学研GIC, <sup>5)</sup>東京家政大学, <sup>6)</sup>京都文教大学): コラージュ療法の様々な現場における適用. 日本心理臨床学会, 1999. 9.

### (2) 一般講演：

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京外国語大学): 星と波テストの特質：「死別の問題」の事例から. 日本芸術療法学会, 1999. 11.

### (3) 研修会：

- 1) 杉浦京子, 青木健次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都大学): イメージワーク(コラージュ療法). 日本学生相談学会, 1999. 7.
- 2) 杉浦京子, 森谷寛之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都文教大学): コラージュ療法. 日本臨床心理学会, 1999. 11.

### (4) ポスターセッション：

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京外国語大学): 日本における「星と波テスト」の試み：そのII. 日本心理臨床学会, 1999. 9.

## [ 歴史学 ]

### 研究概要

本年は、前々からしばしば問題になっていながら、なかなか研究者の手の及ばなかった『日本人の名前の歴史』について若干の卑見をまとめてみた。直後、かなりの反応があったのには驚いた。去年に発表した『鎌倉史跡事典』のコンパクト版が出た。また『源氏21流歴史大事典』や、得宗被官の一覧表を作成するなど、本年は中世の人名に凝っていた感がある。成人向け歴史講座は、例年の如く、朝日カルチャーなどで行ってきた。

### 研究業績

#### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 奥富敬之：源実朝の基礎知識. 歴史研究 1999 ; ( 455 ): 14-21 .
- 2) 奥富敬之：武家の名家・名門かくて誕生す. 歴史と旅 1999 ; 26 ( 9 ): 36-41 .
- 3) 奥富敬之：源氏二十一流歴史大事典. 歴史読本 1999 ; 44 ( 10 ): 145-211 .
- 4) 奥富敬之：名字順得宗被官一覧. 日本医科大学基礎科学紀要 1999 ; ( 27 ): 1-26 .

#### 著書

- 1) 奥富敬之：〔自著〕鎌倉史跡事典コンパクト版, 1999 ; pp1-331, 新人物往来社 .
- 2) 奥富敬之：〔自著〕日本人の名前の歴史, 1999 ; pp1-254, 新人物往来社 .

## [ 文化人類学 ]

### 研究概要

人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性、ならびに人間の行動原理と現代における大きな社会的諸問題との関連性について究明している。また、これらの社会的諸問題の根本的解決策についても模索している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 伊藤末博：豊かな生活への必要条件と豊かな社会への所得均等配分制度について．日本医科大学基礎科学紀要 1999；(27)：11-18．

## [ 経済学 ]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し、これまでの研究を継続、発展させてきた。日本経済に関してはこれまで通り「日本的経済システム」を、また世界経済では「環太平洋アジア地域の経済発展」をテーマとした。

また文部省科学研究費補助金の交付を受けて実施してきた電子マネーに関する研究は、日本および世界各地における実証実験や導入の事例をフォローしつつ、電子マネーの貨幣論・金融論上の位置づけを明確にするという理論的研究をすすめた。

さらに、「平成9年度健康保険法改正による受療行動の変化に関する研究」を行った。平成9年9月の健康保険法改正以降の患者受療動向を、厚生省メディアスならびにサンプリング調査で得られたデータから分析し、被用者本人における実患者数が9月以前と比較して大きく減少し、また全患者における平均通院日数も顕著な減少を示していることを確認した。なお、本研究は老人保健事業の第4次計画策定に向けた基礎的知見の確保を目的として実施したものである。

### 研究業績

#### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 三輪春樹：東アジアの通貨・金融危機と日本．新世紀・序章 2000；269-309．
- 2) 三輪春樹：電子マネーが拓く社会．新世紀・序章 2000；310-346．

#### (2) 研究報告書：

- 1) 三浦宏一<sup>1)</sup>，太田保世<sup>2)</sup>，鈴木久雄<sup>3)</sup>，福田 潤<sup>4)</sup>，中林 梓<sup>5)</sup>，林 芳弘<sup>2)</sup>，三輪春樹( <sup>1)</sup>東海大学文明研究所，<sup>2)</sup>東海大学医学部，<sup>3)</sup>健康保険組合，<sup>4)</sup>桜美林大学，<sup>5)</sup>梓診療報酬研究所)：薬剤費一部負担金制度導入における受療行動の変化に関する研究：平成9年度健康保険法改正による受療行動の変化に関する研究．今後の老人保健事業のあり方に関する調査・研究事業報告書 1999；pp695-762．

## 2．自然科学

## [ 数 学 ]

### 研究概要

三宅：統計授業にパソコンを導入するという努力を十数年継続してきた。平成十年度の「特色ある教育研究を推進する補助金」を受けて、その努力の集大成と近代化を心掛けた。教材印刷、マーク・カード・テスト、演習問題、採点、成績表示等のシステムの整理統合を試みた。計算手段に利用していたBASICが時代遅れになったので、統計ソフトとして広く普及しているEXCELへの変換を試みた。教材のカラー化を試みた。

儀我：楕円型の偏微分作用素を考えると、1階微分の項も入れると Laplacian+ 定数だけのときとは様子が異なる。ある種の semigroup の問題について1階微分の項を入れても同様の議論ができるよう工夫を試みた。

渡辺：強結合くり込み群の一例として、hierarchical Ising model のくり込み群軌道を解析した。強結合領域においては誤差を厳密に評価した数値計算により、弱結合領域においては特性関数を用いる新しい方法によって、4次元以上において連続極限が自由場になることを示した。また、場の量子論の数学的構成におけるくり込み群の方法に関して、数理物理学者向けに連続講義した。

飯田：コンピュータと深くかかわりのあるアルゴリズムについて、グラフ論的問題を中心に据え、アルゴリズムの発見、改良、P-NP問題などを研究。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 渡辺 浩：Hierarchical model and (non-) triviality of  $\phi_4$  in 4 dimensions . 京都大学数理解析研究所繰り込み群の数理科学での応用，1999 . 7 .
- 2) 渡辺 浩：場の量子論の数学的構成におけるくり込み群の方法 . 学習院大学数理物理 '99，1999 . 9 .

#### (2) セミナー：

- 1) 儀我真理子：Lipschitz 領域における楕円型偏微分作用素と解の延長について . お茶の水女子大学解析学セミナー，1999 . 10 .

#### (3) 一般講演：

- 1) 飯田博和：棄却域と危険率 . 数学教育学会秋季例会，1999 . 9 .
- 2) 儀我真理子：集合論，濃度 密度 論理 . 数学教育学会春季年会，2000 . 3 .

## [ 物理学 ]

### 研究概要

1) アデノシン三リン酸の化学エネルギーが筋肉収縮の力学エネルギーに変換される機構の解明のため、アデノシン三リン酸と筋肉蛋白質の小部分についての半経験的分子軌道法計算を行った。その結果、フロンティア分子軌道が加水分解の初期過程を示唆するという興味深い結果を得た。それと関連して、リン酸やアミノ酸などの酸解離の量子化学研究を始めた。[香川]

2) 1. シアノバクテリアの集光性超分子会合体フィコビリソームを作っている中心的なタンパク質であるCフィコシアニンの三次元構造とそこに含まれる発色団の光吸収特性に関する関係を、基準振動解析及びモジュール構造に基づいてまとめた。2. フィコビリソーム内の発色団間の励起エネルギー移動に関する考察を始めた。[菊地]

3) 前年度に続いて量子領域でのカオスの存在について検討している。また、生体系の安定性について物理的に捉えることを試みている。神経系についてシミュレーションプログラムを開発している。[須田]

4) 以前にスピン1/2の低い重粒子の質量を計算して発表した。チャーム粒子が1個混じる場合は、当時は未測定の粒子もあったが、現在では全部観測され、それらの実験値は我々の推測値とほぼ一致している。実験値との少しのずれがあったが、その後の実験値の精度が上がっているのを考慮して、再び解析した。また、同時にチャームが2個混じる粒子の質量も将来観測されると予想されるので、これらについても推測値を計算し、将来発表されるであろう測定値との比較を待っている。[三浦]

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Kagawa H , Mori K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Waseda Computational Science Consortium ): Molecular Orbital Calculations Indicate the Hydrolytic Water of ATP Hydrolysis in the MgATP-Myosin Motor Domain Complex . Bull Lib Arts & Sci Nippon Med Sch 1999 ; ( 26 ): 1-6 .
- 2) Kagawa H , Mori K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Waseda Computational Science Consortium ): Molecular Orbital Study of the Interaction between MgATP and the Myosin Motor Domain : The Highest Occupied Molecular Orbitals Indicate the Reaction Site of ATP Hydrolysis . J Phys Chem B 1999 ; 103 ( 34 ): 7346-7352 .
- 3) Itoh C<sup>1)</sup>, Minamikawa T<sup>2)</sup>, Miura K , Watanabe T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physics, Meiji-Gakuin Univ. , <sup>2)</sup>Department of Physics, Tokyo Univ. of Mercantile Marine , <sup>3)</sup>Department of Physics, Asia Univ. ): Doubly charmed baryon masses and quark wave functions in baryons . Physical Rev D 2000 ; 61 : 057502-1-057502-4 .

### 著書

- 1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Kikuchi H , Murakami A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ. , <sup>2)</sup>Research Center for Inland Sea, Kobe Univ. ): [ 分担 ] Structure and Function of Phycobilisomes . Concepts in Photobiology ( ed. Singhal G S, Renger G, Sopory S K, Irrgang K-D, Govidjee ), 1999 ; pp104-135 , Kluwer Academic Publishers ( The Netherlands ), and Narosa Publishing House ( India ).

### 学会発表

#### (1) 招待講演 :

- 1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Kikuchi H (<sup>1)</sup>Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ. ): Symmetry structure of the antenna system in photosynthesis : coincidence or consequence? . Second Asian Photochemistry Conference ( Taejon ( Korea ) ), 1999 . 6 .

#### (2) シンポジウム :

- 1) Kikuchi H , Wako H<sup>1)</sup>, Mimuro M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>School of Social Sciences, Waseda Univ. , <sup>2)</sup>Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ. ): The specific amino acid in C-phycocyanin determines the electronic state of a chromophore through a stabilized dynamic structure . The 25th Annual Symposium of the Japan Bioenergetics Group ( Kochi ( Japan ) ), 1999 . 8 .

#### (3) ワークショップ :

- 1) 菊地浩人 , 輪湖 博<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学社会科学部 , <sup>2)</sup>山口大学理学部自然情報科学科 ): ドメイン構造の組み合わせで生じる新たな機能について : フィコビリントンパク質の基準振動解析を例にして . 第2回「生物マシーナリー」ワークショップ , 1999 . 8 .

#### (4) 一般講演 :

- 1) Kagawa H , Nagai Y<sup>1)</sup>, Mori K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Center for Information Science, and School of Political and Economic Sciences, Kokushikan Univ. , <sup>2)</sup>Waseda Computational Science Consortium ): Molecular Orbital Study on Interaction between MgATP and Myosin . 5th World Congress of Theoretically Oriented Chemists ( London ), 1999 . 8 .
- 2) 菊地浩人 , 輪湖 博<sup>1)</sup>, 郷 通子<sup>2)</sup>, 三室 守<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学社会科学部 , <sup>2)</sup>名古屋大学大学院理学研究科 , <sup>3)</sup>山口大学理学部自然情報科学科 ): 基準振動解析によって明らかにされたフィコビリントンパク質の二つの



- ドメイン構造の意義．第50回タンパク質構造討論会, 第11回蛋白質学会年会(蛋白合同年会 横浜99), 1999 . 6 .
- 3) 香川 浩, 森 和英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田計算科学コンソーシアム): MgATP-ミオシン複合体の分子軌道計算．第5回早稲田計算科学コンソーシアム講演会, 1999 . 7 .
- 4) 小田井圭<sup>1)</sup>, 菊地浩人, 鈴木英雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>湘北短期大学電子情報, <sup>2)</sup>早稲田大学理工学部): バクテリオロドプシン発色団とそのアミノ酸残基との電気的相互作用．日本物理学会 秋の分科会, 1999 . 9 .
- 5) 香川 浩, 森 和英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田計算科学コンソーシアム): MgATP-ミオシン複合体の分子軌道計算: ATP加水分解初期過程の考察．日本生物物理学会第37回年会, 1999 . 10 .

## [化 学]

### 研究概要

石田:

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム(IV), ハフニウム(IV), 及び他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原:

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び, 不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中:

- (1) 水素結合の関与した金属錯体の酸化還元反応
- (2) 生体内微量元素および化合物と疾患, 環境等との関係

永井:

2, 2'-ピピリジンまたは1, 10-フェナントリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究 .
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田:

CMセルロースTLC及びゼオライトTLCに関する研究

- (1) 塩類水溶液系 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動
- (2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討
- (3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Sugahara K, Inaba A<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>2)</sup>, Sakamoto M<sup>2)</sup>, Mino T<sup>2)</sup>, Ubukata Y<sup>2)</sup>, Abe T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Takasago International. Co., LTD. , <sup>2)</sup> Chiba Univ. ): Convenient Preparation of Allylic and Vinylic Ketones from Carboxylic Esters and Grignard Reagents. Synthesis of ar-Turmerone . J Jpn Oil Chem Soc 1999 ; 48 : 1257-1262 .
- 2) Naito E<sup>1)</sup>, Pausawasdi A<sup>2)</sup>, Miki M<sup>3)</sup>, Tanaka M ( <sup>1)</sup> Center for Digestive Diseases, Second Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol Univ. , <sup>3)</sup> Shiroishichiro Hospital ): Comparative Studies on Iodine Levels in Gallstones and Bile of Japanese and Thais ( Chiang Mai and Bangkok ). J Med Assoc Thai 1999 ; 82 ( 4 ): 374-382 .
- 3) Matsubara I<sup>1)</sup>, Takeda Y, Ishida K ( <sup>1)</sup> Laboratory of Chemistry, Tokyo Women's Medical Univ. ): Improved recovery of trace amounts of gold ( III ), palladium ( II ) and platinum ( IV ) from large amounts of associated base metals using anion-exchange resins . Fresenius J Anal Chem 2000 ; 366 : 213-217 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 田中幹夫, 三木瑛一<sup>1)</sup>, 石森達二郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 立教大学理学部化学科 ): [Ru ( CN )<sub>2</sub> ( bpy )<sub>2</sub>] 錯体の LSIMS マススペクトル上で観測されたグリセロール中の水分量変化に伴う分子イオン種の変化 . 第47回質量分析総合討論会, 1999 .
- 2) 田中幹夫, 三木瑛一<sup>1)</sup>, 石森達二郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 立教大学理学部化学科 ): [Ru ( CN )<sub>2</sub> ( bpy )<sub>2</sub>] とグリセロール, 3-ニトロベンジルアルコール混合溶媒の相互作用と, 混合溶媒中で観測されたマススペクトルとの関連 . 第49回錯体化学討論会, 1999 .

## [ 生物学 ]

### 研究概要

1) 北極圏や高山帯で植物の生態学的な研究を行っている。これらの地域は、地球温暖化の影響が大きいと予想されていることや、変動環境への生物の適応を研究する上で理想的なフィールドであることから注目されている。生育可能な期間が短く、しかも環境の年変動が激しい地域において、植物がどのような外的環境や内的な状態に依存して成長と繁殖を制御しているかを、ムカゴトラノオ(タデ科)をモデルとして、野外調査と栽培実験の両面から明らかにしようとしている。(西谷)

2) カロテノイド色素の化学構造決定、物理化学的性質、生理学的機能、生合成経路および生合成遺伝子と酵素の性質などを研究している(国際、国内共同研究): 高等植物から藻類まで葉緑体のネオキサンチンは全て9'-シス型であることの研究。フェムト秒領域でのカロテノイドの蛍光より励起エネルギー転移の研究。紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* のカロテノイド合成遺伝子の単離と酵素の性質および生合成経路の研究。葉緑体を光障害から守る酵素の性質と機能の研究。大腸菌内で代謝工学的手法によりカロテノイド合成酵素を組み合わせて発現させその性質の研究。新規光合成細菌の色素分析、生合成経路の研究。原始的緑藻の進化と色素組成変化との関係の研究。など(高市)

3) 光合成細菌のカロテノイド分布と生合成経路の英文総説が出版された。日本脂質生化学会が主体となって生理活性脂質のデータベースを構築しつつあり、そのカロテノイド部門を担当することとなった。他大学の大学院生などに対する研究指導も行っている。(高市)

4) 棘皮動物のウニ類, ヒトデ類, ナマコ類の体腔細胞のうち phagocyte について, 運動・食食能の比較を行った。ウニ類では4種の体腔細胞の微細構造と発生学的な由来について検討を継続した。また, 医学教育における一般教育(特に生物学教育)のあり方について資料収集と検討を始めた。(関)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Takaichi S, Wakao N<sup>1)</sup>, Hiraishi A<sup>2)</sup>, Itoh S<sup>3)</sup>, Shimada K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Iwate Univ. , <sup>2)</sup> Toyohashi Univ. Technology , <sup>3)</sup> Natl. Inst. Basic Biol. , <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): Nomenclature of metal-substituted ( bacterio ) chlorophylls in natural photosynthesis : metal ( bacterio ) chlorophyll and M- ( B ) Chl . Photosynth. Res. 1999 ; 59 ( 2/3 ): 255-256 .
- 2) Nishitani S , Takada T<sup>1)</sup>, Kachi N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido Tokai Univ. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): Optimal resource allocation to seeds and vegetative propagules under density-dependent regulation in *Syneilesis palmata* ( Compositae ). Plant Ecol. 1999 ; 141 : 179-189 .
- 3) Takaichi S , Shimada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): Pigment composition of two pigment-protein complexes derived from anaerobically and semi-aerobically grown *Rubrivivax gelatinosus*, and identification of a new keto-carotenoid, 2-ketospirilloxanthin . Plant Cell Physiol. 1999 ; 40 ( 6 ): 613-617 .
- 4) Takaichi S , Oh-oka H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka Univ. ): Pigment composition in the reaction center complex from the thermophilic green sulfur bacterium, *Chlorobium tepidum* : Carotenoid glucoside esters, menaquinone and chlorophylls . Plant Cell Physiol. 1999 ; 40 ( 7 ): 691-694 .
- 5) Breitenbach J<sup>1)</sup>, Kuntz M<sup>2)</sup>, Takaichi S , Sandmann G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Goethe Univ. , <sup>2)</sup> Univ. J. Fourier ): Catalytic properties of an expressed and purified higher plant type -carotene desaturase from *Capsicum annum* . Eur. J. Biochem. 1999 ; 265 ( 1 ): 376-383 .
- 6) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Takaichi S , Mimuro M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido Univ. , <sup>2)</sup> Yamaguchi Univ. ): Excitation relaxation of carotenoids within the S<sub>2</sub> state probed by the femtosecond fluorescence up-conversion method . Chem. Phys. Lett. 1999 ; 313 ( 1-2 ): 63-68 .
- 7) Takaichi S , Tamura Y<sup>1)</sup>, Miyamoto T , Azegami K , Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Ishidsu J ( <sup>1)</sup> Meiji Univ. ): Carotenogenesis pathway of novel carotenoid glucoside mycolic acid esters in *Rhodococcus rhodochrous* using carotenogenesis mutants and inhibitors . Biosci. Biotechnol. Biochem. 1999 ; 63 ( 11 ): 2014-2016 .
- 8) Kuwabara T<sup>1)</sup>, Hasegawa M<sup>1)</sup>, Kawano M<sup>1)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Univ. Tsukuba ): Characterization of violaxanthin de-epoxydase purified in the presence of Tween 20 : effects of dithiothreitol and pepstatin A . Plant Cell Physiol. 1999 ; 40 ( 11 ): 1119-1126 .
- 9) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Takaichi S , Mimuro M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido Univ. , <sup>2)</sup> Yamaguchi Univ. ): Excitation relaxation dynamics of linear carotenoids . J. Lumines. 2000 ; 87 : 797-799 .

#### (2) 研究報告書:

- 1) 高市真一: 葉緑体のネオキサンチンは全て9'-シス型である: 系統発生と分布と機能. 平成10-11年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書 2000; pp1-58.

#### (3) 総説:

- 1) Takaichi S : Carotenogenesis in photosynthetic bacteria . Carotenoid Sci. 2000 ; 3 : 22-27 .

### 著書

- 1) Takaichi S : [ 分担 ] Carotenoids and carotenogenesis in anoxygenic photosynthetic bacteria . The Photo-

chemistry of Carotenoids (H. A. Frank, A. J. Young, G. Britton and R. J. Cogdell), 1999 ; pp39-69, Kluwer Academic Publishers .

2) 関 俊則：〔分担〕ヒトの発生．古くて新しい生物学，2000；pp165-213，宣協社．

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Akimoto S<sup>2)</sup>, Takaichi S, Yamazaki I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Yamaguchi Univ. , <sup>2)</sup>Hokkaido Univ. ): Excited state dynamics of carotenoids in relation to the biological functions . Interactions between Chlorophylls and Carotenoids in Photosynthesis ( Kemer-Antalya, Turkey ), 1999 . 10 .

2) 高市真一：光合成細菌のカロテノイドの生合成経路．第13回カロテノイド研究談話会，1999．9．

##### (2) 教育講演：

1) 高市真一，平石 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>豊橋技科大エコロジー工): 光合成細菌の属名の略称と，属名の変更．光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー - VII，1999．6．

##### (3) シンポジウム：

1) 高市真一：カロテノイドと光合成の進化：植物のカロテノイドはどこから来たか．北海道大学低温科学研究所シンポジウム 光合成の進化：温度，光，水への適応，1999．10．

##### (4) ワークショップ：

1) 関 俊則：医学・歯学教育に求められる生物学．日本動物学会第70回大会 分科会，1999．9．

##### (5) 一般講演：

1) Takaichi S, Mimuro M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Yamaguchi Univ. ): 9'-*Cis* neoxanthin, a sole molecular form in chloroplasts of higher plants and green algae . 12th International Carotenoid Symposium ( Cairns, Australia ), 1999 . 7 .

2) Takaichi S : Carotenogenesis in purple photosynthetic bacteria . 12th International Carotenoid Symposium ( Cairns, Australia ), 1999 . 7 .

3) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Takaichi S, Mimuro M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Hokkaido Univ. , <sup>2)</sup>Yamaguchi Univ. ): Excitation relaxation dynamics of linear carotenoids . International Conference on Luminescence and Optical Spectroscopy of Condensed Matter ( Osaka, Japan ), 1999 . 8 .

4) Kawano M<sup>1)</sup>, Takaichi S, Kuwabara T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Univ. Tsukuba): Inhibitor studies on violaxanthin de-epoxidase . Information Exchange Seminar on Photoconversion and Photosynthesis: Past, Present and Future Prospects ( Okazaki, Japan ), 1999 . 11 .

5) Nishitani S, Masuzawa T<sup>1)</sup>, Gabrielsen GW<sup>2)</sup>, Misato N<sup>1)</sup>, Kanda H<sup>3)</sup>, Ishidzu J (<sup>1)</sup>Shizuoka Univ. , <sup>2)</sup>Norwegian Polar Inst. , <sup>3)</sup>Natl. Inst. Polar Res. ): Arctic *Polygonum viviparum* ; Growth and reproduction in relation to preformation . 2nd International Symposium on Environmental Research in the Arctic ( Tokyo, Japan ), 2000 . 2 .

6) 秋本誠志<sup>1)</sup>, 山崎 巖<sup>1)</sup>, 高市真一, 三室 守<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北大院工, <sup>2)</sup>山口大理): カロテノイド系分子のS<sub>2</sub>状態における励起緩和：フェムト秒蛍光アップコンバージョン法による測定．日本化学会第76春季年会，1999．3．

7) 高市真一, Imhoff JF<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Univ. Kiel): *Halorhodospira*のカロテノイド：リコペン配糖体脂肪酸エステル．光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー - VII，1999．6．

8) 原田二郎<sup>1)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 高市真一, 三沢典彦<sup>2)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立大院理, <sup>2)</sup>キリンビール基盤研): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* の phytoene 不飽和化酵素遺伝子 *crtI* の機能解析．第13回カロテノイド研究談話会，1999．9．

9) 高市真一, Imhoff JF<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Univ. Kiel): 紅色光合成細菌 *Halorhodospira* のカロテノイド：ジヒドロキシ・リコペン・配糖体脂肪酸エステル．第13回カロテノイド研究談話会，1999．9．

- 10) 秋本誠志<sup>1)</sup>, 山崎 巖<sup>1)</sup>, 高市真一, 三室 守<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北大院工,<sup>2)</sup>山口大理): カロテノイド系分子の電子励起状態における励起緩和. 日本化学会第77秋季年会, 1999. 9.
- 11) 原田二郎<sup>1)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>, 三沢典彦<sup>2)</sup>, 高市真一(<sup>1)</sup>東京都立大院理,<sup>2)</sup>キリンビール基盤研): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* のカロテノイド合成酵素遺伝子 *crtI* の機能解析. 日本生物物理学会第37回年会, 1999. 10.
- 12) 高市真一: ネオキサンチンの立体異性体, 性質, 機能. 日本植物学会第63回大会, 1999. 10.
- 13) 西谷里美, 増沢武弘<sup>1)</sup>, ゲイル・ガブリエルセン<sup>2)</sup>, 美里直美<sup>1)</sup>, 神田啓史<sup>3)</sup>, 石津純一(<sup>1)</sup>静岡大理,<sup>2)</sup>ノルウェー極地研,<sup>3)</sup>国立極地研): 北極圏のムカゴトラノオにおける, フェノロジーとプレフォーメーション. 第22回極域生物シンポジウム, 1999. 12.
- 14) 高市真一, Milford AD<sup>1)</sup>, Madigan MT<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Southern Illinois Univ. ): 新規紅色光合成細菌 *Rhodobaca* のカロテノイドとその生合成経路. 日本植物生理学会2000年度年会および第40回シンポジウム, 2000. 3.
- 15) 原田二郎<sup>1)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 高市真一, 三沢典彦<sup>2)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立大院理,<sup>2)</sup>キリンビール基盤研): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* の phytoene 不飽和化酵素 *CrtI* の機能解析. 日本植物生理学会2000年度年会および第40回シンポジウム, 2000. 3.
- 16) 花田 智<sup>1)</sup>, 高市真一, 松浦克美<sup>2)</sup>, 中村和憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>工業技術院生命工学技術研,<sup>2)</sup>東京都立大院理): クロロゾームを欠く新規好熱性繊維状光合成細菌. 日本植物生理学会2000年度年会および第40回シンポジウム, 2000. 3.
- 17) 加藤 彰<sup>1)</sup>, Alia<sup>2)</sup>, Chen THH<sup>3)</sup>, 西山住孝<sup>2)</sup>, 高市真一, 石崎公康<sup>4)</sup>, 福澤秀哉<sup>4)</sup>, 村田紀夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>筑波大生物科学,<sup>2)</sup>基生研,<sup>3)</sup>Oregon State Univ. ,<sup>4)</sup>京大生命科学): クラムドモナスの violaxanthin から neoxanthin 変換に関与する遺伝子の解明. 日本植物生理学会2000年度年会および第40回シンポジウム, 2000. 3.
- 18) 吉井幸恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 井上 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>筑波大生物科学): プラシノ藻 *Pterosperma cristatum* に存在する新規カロテノイド. 日本藻類学会第24回大会, 2000. 3.
- 19) 高市真一, Imhoff JM<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Univ. Kiel): 紅色光合成細菌 *Halorhodospira* の新規カロテノイド配糖体脂肪酸エステル: 構造と機能. 日本農芸化学会2000年度大会, 2000. 3.
- 20) 西谷里美, 増沢武弘<sup>1)</sup>, 美里直美<sup>1)</sup>, 神田啓史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大理,<sup>2)</sup>国立極地研): 雪解け傾度に沿ったムカゴトラノオの成長・繁殖特性. 第47回日本生態学会, 2000. 3.
- 21) 西谷里美: 変動環境とムカゴトラノオの成長・繁殖特性. 第47回日本生態学会, 2000. 3.

### 3. 外国語

#### [ 英 語 ]

##### 研究概要

The 1999 academic year saw the start of the new curriculum. This made little practical difference to the English Department, however, and we continued to offer what we considered to be well-balanced basic training in the four major language skills. We were unable to take advantage of the opportunity to offer seminars to last year's freshmen because of our commitments to the second-year students, but seminars on media English and literature are scheduled for this year's freshmen in the second term.

Student grading presented us with a problem : whereas we had previously graded the students separately on their respective performances in the reading/writing and aural/oral components of our programme ( English A and English B ), the new curriculum obliged us to combine their results. We felt it was a disadvantage not to be

able to identify excellence or deficiency in one particular area of language study. We also encountered problems in administering repeat examinations in this regard.

The department was fairly active in publishing and contributed to the production of a university listening comprehension textbook and two English-language reference works. Research was continued on medical English writing and on English literature. The focus of the latter research was the story of Patient Griselda in the sixteenth century and Chaucerian publication in the eighteenth century. The results of this study were partly published, and a full account is scheduled for future publication.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Nakamura T : The Influence of Publishing Climate on the Popularisation of Chaucer in Eighteenth-Century Britain With Particular Reference to Modernisations of the Canterbury Tales . Colloquia 1999 ; 20 : 81-90 .
- 2) ミントン T. D. : 日本人のための英字新聞リーディング講座 . 生き残るためのビジネス英語習得術 2000 年度版 1999 ; 100-101 .
- 3) 中村哲子 : 英国ルネサンス期の庶民に親しまれた「グリセルダの話」. 日本医科大学基礎科学紀要 1999 ; 27 : 1-10 .

#### (2) 解説：

- 1) 中村哲子 : 英語辞典と参考文献 . 日本医科大学基礎科学紀要 1999 ; 26 : 17-27 .

### 著書

- 1) Lowe G , Gen. ed<sup>1)</sup>, Nakamura T , et al , eds ( <sup>1)</sup> Cambridge University ): [ 分担編集 ] Annual Bibliography of English Language and Literature for 1997, Vol. 72 , 1999 ; p1306 , Modern Humanities Research Association .
- 2) 山口俊治 , ミントン T. D. : [ 共著 ] Listen to Speak Better 話すための口語英語リスニング , 2000 ; pp1-120 , 成美堂 .
- 3) 山口俊治 , ミントン T. D. : [ 共著 ] Listen to Speak Better 話すための口語英語リスニング, Teacher's Manual , 2000 ; pp1-93 , 成美堂 .
- 4) ミントン T. D. : [ 共著 ] 東大英語のすべて ( 上 ) , 1999 ; pp1-285 , 研究社出版 .
- 5) ミントン T. D. : [ 共著 ] 東大英語のすべて ( 下 ) , 1999 ; pp1-249 , 研究社出版 .
- 6) ミントン T. D. : [ 自著 ] 日本人の英文法 , 1999 ; pp1-161 , 研究社出版 .

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) ミントン T. D. : 英語ビジネスリーディングセミナー . 主催アルク , 1999 . 11 .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮

しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く「Kommunikativer Sprachunterricht」が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個人的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 安藤 勉：〔翻訳〕ヨーゼフ・クライナー（ボン大学日本文化研究所所長）：東京のなかのドイツ 製薬の泰斗 星一，アインシュタイン来日の「衝撃」と、ベルリン日本研究所設立．東京人 1999；14（12）：90-97．
- 2) 安藤 勉：〔翻訳〕ヨーゼフ・クライナー（ボン大学日本文化研究所所長）：東京のなかのドイツ 浜離宮を訪れた二人のオーストリア大公．東京人 2000；15（2）：102-107．
- 3) 安藤 勉：〔翻訳〕ヨーゼフ・クライナー（ボン大学日本文化研究所所長）：東京のなかのドイツ 幕末の未解決刺殺事件 1861年のヒュースケン暗殺．東京人 2000；15（3）：91-97．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 国信浩洋：F・zu・オイレンブルクの見た江戸近郊名所．日本独学史学会，1999．11．
- 2) 安藤 勉：ウィーン分離派第二代会長F・ホーエンベルガー：東方への門ウィーンの系譜として．日本独学史学会，1999．11．

## 4．スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上：以下の3項目についての研究を行った。1)「杜仲樹皮エキスがストレス負荷時のテストステロン分泌に及ぼす影響」について検討した。結果は、杜仲樹皮エキスの投与は尾部懸垂負荷によるストレス負荷時のラットにおけるテストステロン分泌の低下を抑制することを明らかにした。2)「ビタミンE投与が運動トレーニング時の過酸化脂質生成に及ぼす抑制効果について」、本学学生（第一学年のセミナー受講者）と共同実験を行った。この結果、運動トレーニング時の抗酸化物質摂取の重要性を示す結果が得られた。3)「運動時のストレスタンパク質の発現に関する研究」では、運動トレーニングがストレスタンパク質（HSP72）の合成増加とmRNA発現抑制をもたらす結果を得て、現在この結果をまとめているところである。4) 生体内尿酸の持つ抗酸化作用に関するこれまでの研究結果をまとめ、

2編の論文として発表した。

武藤：幼児から高齢者に至るまでの体格と体力について継続して研究している。今年度は特に青少年期を中心に研究を行った。1)患者の高齢化が進むことにより、ますます看護職の健康と体力の維持が重要となるので、基礎的データを得るため看護学生の体格と体力を測定し検討した。体格はBMIによる肥満度ではマイナス傾向がみられたが体脂肪率は高く、いわゆる「隠れ肥満」の傾向もみられた。さらに基礎的体力の低下がみられ、基礎的運動能力の低下が顕著にうかがわれた。2)今年度から改定された文部省のスポーツテスト(20~64歳用)を医科学生に実施し、測定結果および評価方法についてのいくつかの問題点を検討した。新体力テストでは持久力が高く評価され、スポーツテストと全く異なる結果であった。総合評価と体力年齢については厳しい評価基準であることが示唆された。3)高校生(普通科生および保健体育科生)における体力の現状と、さらに体力低下の原因について測定調査中である。

## 研究業績

### 論文

(1)原著:

- 1) Mikami T, Yoshino Y<sup>1)</sup>, Ito A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Life Science, Faculty of Life Science, Showa Women's University, <sup>2)</sup> Laboratory of Exercise Biochemistry, Institute of Health and Sports Science, University of Tsukuba ): Dose a relationship exist between the urate pool in the body and lipid peroxidation during exercise? . Free Rad Res 2000 ; 32 : 31-39 .
- 2) Mikami T, Tomita S<sup>1)</sup>, Qu Gang-J, Tasaki Y<sup>1)</sup>, Ito A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratory of Exercise Biochemistry, Institute of Health and Sports Science, University of Tsukuba ): Is allantoin in serum and urine a useful indicator of exercise-induced oxidative stress in humans? . Free Rad Res 2000 ; 32 : 235-244 .
- 3) 武藤三千代, 白石まりも<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 二松学舎大学 ): 看護学生の体格と体力について . 日本体育学会測定評価専門分科会機関誌サーキュラー 1999 ; 60 : 179-184 .
- 4) 曲 剛健<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 金子 浩<sup>1)</sup>, 海老根直之<sup>1)</sup>, 北加代子<sup>1)</sup>, 富田誠次<sup>1)</sup>, 田崎洋佑<sup>1)</sup>, 伊藤 朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大学体育科学系運動生化学 ) 尾部懸垂ラットへの杜仲樹皮エキスの投与が血清テストロン濃度に及ぼす影響 . 体力科学 1999 ; 48 : 510-518 .

### 学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 三上俊夫: 運動と尿酸 . 第10回北陸尿酸研究会, 1999 .

(2) 一般講演:

- 1) 三上俊夫: 持久的運動トレーニングがHSP70の発現に及ぼす影響 . 第55回日本体力医学会, 1999 . 9 .
- 2) 武藤三千代, 白石まりも<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 二松学舎大学 ): 看護学生の体格と体力について . 日本体育学会第50回記念大会, 1999 . 10 .
- 3) 武藤三千代, 高橋修和<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ホリスティック健康医学センター ): 新体力テストに関しての一考察 . 第58回日本公衆衛生学会総会, 1999 . 10 .
- 4) 三上俊夫, 石橋佳朋<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所生化学 ): 持久的運動トレーニングは生体のストレス耐性の獲得に有効か否か: HSP70の発現からの検討 . 第22回日本分子生物学会年会, 1999 . 12 .



## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

本年度も各方面で多様な研究が進められ、成果が得られた他、新しい試みも始められた。

生物学的機能の重要性が指摘されている一酸化窒素 (NO) の組織化学的観察法について培養血管内皮細胞を用いて開発した。NO 蛍光指示薬である 4, 5-diaminofluorescein diacetate により細胞内で産生された NO を捕捉した後、アルデヒド系固定剤で処理をすることによりこれらの NO を可視化することができた。この方法は、生体血管内皮細胞にも応用でき、共焦点レーザー顕微鏡法と組み合わせたり、他の細胞・組織にも適用できるようにして応用範囲を高めるよう努めている。

伸縮刺激に対して細胞や細胞骨格が示す方向性に関する既報の新事実については、in vivo で弾性血管の平滑筋配列に見る例証と共に、機械工学的考察を加え、理論の正しさを補強した。

呼吸筋の形態と機能を調べる目的で、Anabolic steroid (AS) 投与による形態的影響を Duchenne 型筋ジストロフィーを示す mdx マウスの横隔膜を用いて調べ、小型の再生筋が多く出現し、繊維化が抑えられることを明らかにした。

明暗環境変化と c-fos mRNA の発現に関する研究では、静脈内麻酔薬であるプロポフォールの影響を in situ hybridization 法を用いて考察した。暗期の 2 時間前よりプロポフォールの持続投与を始めておくと、暗期に入っても c-fos mRNA の発現の上昇は見られず、ほとんど c-fos mRNA の発現が観察されない状態が続いた。催眠作用が大脳皮質の c-fos mRNA の発現の上昇を抑えている可能性が示唆された。

トリ肉腫ウイルスより発見された mafV 遺伝子のラットのホモロジーである maf-2 mRNA について、これが腎近位尿管管に発現することを認め、発生段階での推移について研究を進めた。

組織の立体構築については、現在における最良の方法論の確立とともに、肝臓の血管構築、腎臓の糸球体旁複合体におけるレニン分泌細胞と緻密斑の立体配置などについて興味ある所見を得た。

糖尿病動物の膵島の B 細胞の動態についてモデル動物による顕著な相違を認め、B 細胞の増生型では膵管からの新生像を確認した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Minami S<sup>1)</sup>, Nakata T<sup>1)</sup>, Tokita R<sup>1)</sup>, Onodera H, Imaki J ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School ): Cellular localization of prolactin-releasing peptide messenger RNA in the rat brain . *Neurosci Lett* 1999 ; 266 : 73-75 .
- 2) Murashige N, Gotoh T, Ichikawa Y, Yamashita K : Normal structure and morphological effects of a corticosteroid on the peripatellar synovial membrane of the rat . *Acta Anat Nippon* 1999 ; 74 ( 2 ) : 183-189 .
- 3) Yamada K<sup>1)</sup>, Wada E<sup>1)</sup>, Imaki J, Ohki H<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Degenerative Neurological Diseases, National Institute of Neuroscience ): Hyperresponsiveness to palatable and aversive taste stimuli in genetically obese ( bombesin receptor subtype-3-deficient ) mice . *Physiol Behav* 1999 ; 66 : 863-867 .
- 4) Kamei Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi O<sup>1, 2)</sup>, Yamakawa A<sup>3)</sup>, Oka Y<sup>4)</sup>, Taketani Y<sup>1)</sup>, Imaki J ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, University of Tokyo , <sup>2)</sup> CREST, Japan Science and Technology , <sup>3)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>4)</sup> Third Department of Internal Medicine, Yamaguchi University ): Maternal epidermal growth factor deficiency causes fetal hypoglycemia and intrauterine growth retardation in mice :

possible involvement of placental glucose transporter GLUT3 expression . *Endocrinology* 1999 ; 140 : 4236-4243 .

- 5) Tokita R<sup>1)</sup>, Nakata T<sup>1)</sup>, Katsumata H<sup>1)</sup>, Konishi S<sup>1)</sup>, Onodera H , Imaki J , Minami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School ): Prolactin secretion in response to prolactin-releasing peptide and the expression of the prolactin-releasing peptide gene in the medulla oblongata are estrogen dependent in rats . *Neurosci Lett* 1999 ; 276 : 103-106 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) Imaki J , Onodera H , Yamashita K , Yoshida K<sup>1)</sup>, Sakai M<sup>2)</sup>, Imaki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Hokkaido University , <sup>2)</sup> Department of Biochemistry, Hokkaido University , <sup>3)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School ): Developmental Expression of maf-1 and maf-2 mRNA in Rat Kidney by in situ Hybridization Histochemistry . The Endocrine Society's 81 Annual Meeting ( San Diego ), 1999 . 6 .
- 2) Onodera H<sup>1)</sup>, Nakata T<sup>2)</sup>, Tokita R<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Imaki J , Imaki T<sup>2)</sup>, Minami S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Institute of gerontology, Nippon Medical School ): Cellular localization of PRRP mRNA-and its receptor mRNA-containing cells in the rat brain . The 13th Asian Pacific Endocrine Conference ( Honolulu ), 2000 . 2 .
- 3) Yamanaka A<sup>1)</sup>, Akira S<sup>1)</sup>, Ishihara T<sup>1)</sup>, Seto M<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Imaki J ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics & Gynecology, Nippon Medical School ): Expression of CRF-R type I messenger RNA in the rat fetal brain and its responsiveness to LPS challenge . The 13th Asian Pacific Endocrine Conference ( Honolulu ), 2000 . 2 .
- 4) Tokita R<sup>1)</sup>, Nakata T<sup>1)</sup>, Katsumata H<sup>1)</sup>, Konishi S<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>2)</sup>, Imaki J , Imaki T<sup>1)</sup>, Minami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Prolactin secretion in response to prolactin releasing peptide ( PRRP ) and the expression of the PRRP gene in the medulla oblongata are estrogen dependent in rats . The 13th Asian Pacific Endocrine Conference ( Honolulu ), 2000 . 2 .
- 5) 石川博臣, 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : ラット胎児の臍血管内皮細胞の形態変化に影響を及ぼす機械刺激の解析 . 第38回日本エム・イー学会大会, 1999 . 4 .
- 6) 小野寺英貴, 今城純子 : c-fos expression in the rat midline thalamic nucleus by in situ hybridization . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 5 .
- 7) 小野寺英貴, 今城純子, 時田玲子<sup>1)</sup>, 勝又晴美<sup>1)</sup>, 中田朋子<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 ): ラット脳におけるプロラクチン放出ペプチド mRNA 含有細胞の局在 : in situ ハイブリダイゼーション . 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999 . 6 .
- 8) 時田玲子<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 中田朋子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴, 今城純子, 小野昌美<sup>2)</sup>, 三木伸泰<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 , <sup>2)</sup> 東京女子医大内分泌センター内科 ): ラットにおけるプロラクチン放出ペプチドに対するプロラクチン分泌反応 . 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999 . 6 .
- 9) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 固定資料における細胞内 NO の検出 . 第2回日本血管細胞生物学会, 1999 . 9 .
- 10) 南 史朗<sup>1)</sup>, 時田玲子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>, 勝又晴美<sup>1)</sup>, 中田朋子<sup>1)</sup>, 今城純子 ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 , <sup>2)</sup> 麻酔科 ): ラット脳におけるプロラクチン放出ペプチド mRNA 含有細胞の局在 . 第26回日本神経内分泌学会, 1999 . 10 .
- 11) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 今城純子, 小川 龍<sup>1)</sup>, 小西俊一郎<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科 , <sup>2)</sup> 神経科 , <sup>3)</sup> 老人病研究所 ):

ラット大脳新皮質における c-fos mRNA の日内変動．第26回日本神経内分泌学会，1999．10．

- 12) 阿部芳子，石川朋子，山下和雄：マウス系球体傍細胞の三次元的観察．第105回日本解剖学会全国学術集会，2000．3．
- 13) 今城純子，三嶋拓也，小野寺英貴，山下和雄，土谷 健<sup>1)</sup>，今城俊浩<sup>2)</sup>，吉田和彦<sup>3)</sup>，酒井正春<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大・腎センター内科，<sup>2)</sup>老人病研究所，<sup>3)</sup>北大医・眼科，<sup>4)</sup>北大医・生化学第一)：ラット腎臓における maf-1 および Pod-1 遺伝子の発現．第105回日本解剖学会全国学術集会，2000．3．

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は神経解剖学と人体肉眼解剖学の二つの分野からなっている。神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRPやDilを用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系、などである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Xue H-G, Hamada Y<sup>1)</sup>, Toshima T<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Nagasawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Yamanashi Medical College ): Cadaveric studies on lunate articular cartilage degeneration. The Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand 1999 ; 15 ( 6 ): 823-828 .
- 2) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Ito H ( <sup>1)</sup> Division of Biology, National Institute of Radiological Sciences ): A brain atlas of a wild-type inbred strain of the medaka, *Oryzias latipes*. Fish Biol J MEDAKA 1999 ; 10 : 1-26 .
- 3) Shimizu M, Yamamoto N, Yoshimoto M, Ito H : Fiber connections of the inferior lobe in a percomorph teleost, *Thamnaconus Æi Navodon Æ j modestus*. Brain Behav Evol 1999 ; 54 ( 3 ): 127-146 .
- 4) Yoshimoto M, Kikuchi K<sup>1)</sup>, Yamamoto N, Somiya H<sup>2)</sup>, Ito H ( <sup>1)</sup> School of Veterinary Medicine, Azabu University, <sup>2)</sup> Faculty of Bioresources, Laboratory for Fish Biology, Mie University ): Sonic motor nucleus and its connections with octaval and lateral line nuclei of the medulla in a rockfish, *Sebastes marmoratus*. Brain Behav Evol 1999 ; 54 ( 4 ): 183-204 .
- 5) Yang C-Y, Atsumi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Yamanashi Medical University ): Synaptic architecture of glomeruli in the lamina II of the chicken spinal cord, as revealed by ultrathin section and freeze fracture techniques. Neurosci Res 1999 ; 35 ( 1 ): 43-52 .
- 6) Saito T<sup>1)</sup>, Den S<sup>1)</sup>, Tanuma K, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Carney E<sup>1)</sup>, Christer C<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Anesthesiology of National Cancer Center Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Teikyo University, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology,

Lund University, Sweden ): Anatomical bases for paravertebral anesthetic block : fluid communication between the thoracic and lumbar paravertebral regions . Surg Radiol Anat 1999 ; 21 ( 6 ): 359 -363 .

7) Sawai N, Yamamoto N, Yoshimoto M, Ito H : Fiber connections of the corpus mamillare in a percomorph teleost, Tilapia Oreochromis niloticus . Brain Behav Evol 2000 ; 55 ( 1 ): 1-13 .

8) 齊藤敏之, 金子明博<sup>2)</sup>, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 横川陽子<sup>1)</sup>, 平賀一陽<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院麻酔科, <sup>2)</sup>国立がんセンター眼科): 13q 遺伝子欠損を伴った網膜色素細胞種の挿管困難症例 . 臨床麻酔 1999 ; 23 ( 4 ): 723 -724 .

9) 山科正平<sup>1)</sup>, 石村和敬<sup>2)</sup>, 伊藤博信, 他 (<sup>1)</sup>北里大学医学部, <sup>2)</sup>徳島大学医学部): 解剖学教員の教育評価にかかわる諸問題 : 平成9・10年度日本解剖学会教育委員会報告 . 解剖学雑誌 1999 ; 74 ( 4 ): 507-510 .

10) 齊藤敏之, 成毛韶夫<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 横川陽子<sup>1)</sup>, 平賀一陽<sup>1)</sup>, Christer C<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院麻酔科, <sup>2)</sup>Department of Anesthesiology, Lund University, Sweden ): 永久気管口患者に新ダブル・ルーメン・チューブ (成毛式) を使用した2症例 . 臨床麻酔 1999 ; 23 ( 9 ): 1467- 1469 .

## (2) 総説 :

1) 伊藤博信 : 硬骨魚類の大脳新皮質 . 比較生理生化学 2000 ; 17 ( 1 ): 32-39 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

1) 伊藤博信 : 人間はなぜ考えるのか : 動物の脳とヒトの脳 . 下仁田文化ホール, 1999 . 5 .

### (2) シンポジウム :

1) 伊藤 博信 : 硬骨魚類の「大脳新皮質」. 第4回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 1999 . 9 .

2) 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1)</sup>三重大学生物資源学部): カサゴの sonic motor neurons と聴覚 側線感覚系との関連 . 第4回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 1999 . 9 .

3) 山本直之, 伊藤博信 : 硬骨魚類の終神経の神経節への入力 . 第4回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 1999 . 9 .

4) 澤井信彦, 山本直之, 伊藤博信 : 硬骨魚類の乳頭体核の出力 . 第4回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 1999 . 9 .

### (3) セミナー :

1) 伊藤博信 : 人間はなぜ考えるか : 大脳新皮質の系統発生 . 広島大学生物生産学部, 1999 . 12 .

2) 伊藤博信 : 硬骨魚類の大脳新皮質 . 三重大学生物資源学部, 1999 . 12 .

### (4) 一般講演 :

1) Saito T<sup>1)</sup>, Den S<sup>1)</sup>, Tanuma K, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Christer C<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Anesthesiology of National Cancer Center Hospital, <sup>2)</sup>Department of Anatomy, Teikyo University, <sup>3)</sup>Department of Anesthesiology, Lund University, Sweden ): Fluid communication between the thoracic and lumbar paravertebral regions . 15th Congress of International Federation of Associations of Anatomists ( Rome ), 1999 . 9 .

2) 山本直之, 吉本正美, 伊藤博信 : 硬骨魚類テトラピアにおける終神経GnRH細胞への入力終末 . 第22回神経科学学会大会, 1999 . 7 .

3) Kawate T<sup>1)</sup>, Yang C-Y, Li Y-N<sup>1)</sup>, Atsumi S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山梨医科大学第二解剖学): Localization of mu and delta opioid receptors in the synaptic glomerulus with substance P- containing central terminals in the chicken dorsal horn . 第22回神経科学学会大会, 1999 . 7 .

4) 澤井信彦, 伊藤博信 : 硬骨魚類のいわゆる乳頭体核の出力 . 第22回神経科学学会大会, 1999 . 7 .

5) 齊藤敏之<sup>1)</sup>, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 平賀一陽<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院麻酔科, <sup>2)</sup>帝京大学医学部解剖学): 胸部傍脊椎麻酔の下限 . 第12回日本局所麻酔学会, 1999 . 9 .

- 6) 高松 真, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 吉本正美, 伊藤博信, 白井康正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): ラット最長筋紡錘における感覚神経終末の組織化学的観察. 日本解剖学会第87回関東地方会, 1999. 10.
- 7) 斉藤敏之<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 田 秀蘭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院麻酔科, <sup>2)</sup>帝京大学医学部解剖学): 胸部・腰部傍脊椎領域の体液のつながり. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.
- 8) 二見長一郎, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部・解剖学): 冠状動脈開口部の局在性と刺激伝導系: とくに洞房結節に分布する動脈. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.
- 9) 川手豊子<sup>1)</sup>, 李 永<sup>1)</sup>, 楊 春英, 熱海佐保子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山梨医科大学・第二解剖学): ニワトリ脊髄前角における delta opioid receptor 免疫染色陽性線維について. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.
- 10) 井村幸介, 山本直之, 吉本正美, 澤井信彦, 伊藤博信: 硬骨魚類テイルピアの後交連傍核 (nucleus paracommissuralis) の線維連絡. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.
- 11) 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明<sup>1)</sup>, 伊藤博信(<sup>1)</sup>三重大学・生物資源学部): 硬骨魚類のカサゴの発音筋運動ニューロンに終止する運動前ニューロンの終末. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.
- 12) 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類における終神経の細胞群への入力. 第105回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2000. 3.

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

現在アカデミックスタッフ8名, 研究技術員2名, 大学院生5名の他, 工業技術院ポスドクトラルフェロー1名, 外国人留学生1名が研究・教育に従事しており, 総勢17名で生殖内分泌を中心とする神経内分泌学・生殖生理学の研究を行っている。この期間に公刊した英文原著論文は11編で, 他に国内学会では13演題, 国外では6演題を発表した。うちシンポジウムなど指名講演は4題であった。本年度採択された科学研究費補助金は何れも継続課題で基盤研究が3件, 奨励研究1件であった。学内外のご支援を得て, 私立大学等研究設備整備費等補助金により画像解析装置を整備した。その他の公的助成による共同研究として本年度は日本学術振興会の未来開拓学術研究推進事業「生命体の形成機構」, 岡崎国立研究機構生理学研究所計画共同研究「個体レベルの遺伝子操作を用いた生理学的研究」, 通産省工業技術院生命工業技術研究所競争特研などに参画している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Chiba H<sup>1)</sup>, Nakamura M<sup>2)</sup>, Iwata M<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Yamauchi K<sup>3)</sup>, Parhar IS ( <sup>1)</sup>School of Fisheries Sciences, Kitasato University, <sup>2)</sup>Department of Biology, Faculty of Medicine, Teikyo University, <sup>3)</sup>Department of Biology, Faculty of Fisheries, Hokkaido University ): Development and Differentiation of Gonadotropin Hormone-Releasing Hormone Neuronal Systems and Testes in the Japanese Eel ( *Anguilla japonica* ). *General and Comparative Endocrinology* 1999 ; 114 : 449-459 .
- 2) Wada-Kiyama Y, Kuwabara K, Sakuma Y, Onishi Y<sup>1)</sup>, Trifonov EN<sup>2)</sup>, Kiyama R<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>National Institute of Bioscience and Human Technology, Ministry of International Trade and Industry, <sup>2)</sup>Department of Structural Biology, Weizmann Institute of Science ): Localization of curved DNA and its association with nucleosome phasing in the promoter region of the human estrogen receptor  $\alpha$  gene . *FEBS Letters* 1999 ; 444 : 117-124 .
- 3) Wada-Kiyama Y, Suzuki K, Kiyama R<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>National Institute of Bioscience and Human Technology, Ministry of International Trade and Industry ): DNA Bend Sites in the Human  $\beta$ -Globin Locus : Evidence for a Basic and Universal Structural Component of Genomic DNA . *Molecular Biology and Evolution* 1999 ; 16 ( 7 ) : 922-930 .
- 4) Kato M, Sakuma Y : The Effect of GHRP-6 on the Intracellular Na<sup>+</sup> Concentration of Rat Pituitary Cells in Primary Culture . *Journal of Neuroendocrinology* 1999 ; 11 : 795-800 .
- 5) Kondo Y, Sakuma Y, Tomihara K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>University of Tsukuba ): Sensory Requirements for Noncontact Penile Erection in the Rat . *Behavioral Neuroscience* 1999 ; 113 ( 5 ) : 1062-1070 .
- 6) Chen L<sup>1)</sup>, Sakai T<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>1)</sup>, Kato M, Inoue K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Regulation Biology, Faculty of Sciences, Saitama University ): Direct evidence of gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) stimulated nitric oxide production in the LbT-2 clonal gonadotropes . *Pituitary* 1999 ; 2 : 191-196 .
- 7) Parhar IS : Multiple gonadotropin-releasing hormone systems in vertebrates . *Korean Journal of Biological Sciences* 1999 ; 3 : 1-7 .
- 8) Parhar IS, Soga T, Sakuma Y : Thyroid Hormone and Estrogen Regulate Brain Region-Specific Messenger Ribonucleic Acids Encoding Three Gonadotropin-Releasing Hormone Genes in Sexually Immature Male Fish,



Oreochromis niloticus . Endocrinology 1999 ; 141 ( 5 ) : 1618-1626 .

- 9) Ejima J<sup>1)</sup>, Ijichi T<sup>1)</sup>, Ohnishi Y<sup>1)</sup>, Maruyama T<sup>2)</sup>, Kaji Y<sup>2)</sup>, Kanaya S<sup>3)</sup>, Fujino T<sup>3)</sup>, Uyesaka N, Ohmura T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Institute of Rheological Function of Foods Co. Ltd. , <sup>2)</sup> The First Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kyushu University , <sup>3)</sup> Institute of Health Science, Kyusyu University ): Relationship of high-density lipoprotein cholesterol and red blood cell filterability : cross-sectional study of healthy subjects . Clinical Hemorheology and Microcirculation 2000 ; 22 : 1-7 .
  - 10) Orikasa C , McEwen B<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>2)</sup>, Sakuma Y , Hayashi S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Laboratory of Neuroendocrinology, The Rockefeller University , <sup>2)</sup> Department of Anatomy and Embryology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience ): Estrogen receptor alpha, but not beta, is expressed in the interneurons of the hippocampus in prepubertal rats : an in situ hybridization study . Developmental Brain Research 2000 ; 120 : 245-254 .
  - 11) Kato A , Sakuma Y : Neuronal activity in female rat preoptic area associated with sexually motivated behavior . Brain Research 2000 ; 862 : 90-102 .
  - 12) 小山哲司<sup>1)</sup>, 賀羽常道<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>(株) 司測研・技術部 , <sup>2)</sup>(株) 司測研・バイオメディカル部 ): 連続減衰負圧を用いたニッケルメッシュ・フィルトレーション法の開発 . 日本バイオレオロジー学会誌 2000 ; 14 ( 1 ) : 40-45 .
- (2) 総説 :
- 1) 近藤保彦 , 佐久間康夫 : 性ホルモンによる性欲の発現とその脳内神経回路 . 内分泌・糖尿病科 2000 ; 10 ( 3 ) : 265-272 .

#### 学会発表

##### (1) 招待講演 :

- 1) 佐久間康夫 : 性ホルモン感受性脳内回路と性行動 . 第5回山口県生殖内分泌研究会 , 1999 . 8 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 佐久間康夫 : 性ホルモンによる性欲の発現に関わる脳内神経回路 . 第72回日本内分泌学会 , 1999 . 5 .
- 2) 大西忠博<sup>1)</sup>, 坂下可奈子<sup>1)</sup>, 石岡憲昭<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup> 関東通信病院 , <sup>2)</sup> 宇宙開発事業団 ): 細胞内シグナル伝達系による赤血球変形能の制御について . 膜シンポジウム , 1999 . 11 .
- 3) 折笠千登世 , 林しん治<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup> 東京都神経研解剖発生 ): 幼若期ラット脳内エストロゲン受容体bの性差 . 第77回日本生理学会大会 , 2000 . 3 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) Parhar IS : Hormon regulation of GnRH gene expression . 6th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish ( Bergen, Norway ), 1999 . 7 .
- 2) Rozenberg J<sup>1)</sup>, Lisovskaya I<sup>1)</sup>, Uyesaka N , Kawa T<sup>2)</sup>, Ataulkhanov F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Laboratory of Physical Biochemistry, National Research Center for Hematology ( Russia ), <sup>2)</sup> Tsukasa Sokken Co. Ltd. ): Filtration of erythrocyte suspensions with defferent hematocrit through 3mm Nuclepore filters and 3mm Nickel-Mesh filters . 10th International Congress Biorheology ( Pecs, Hungary ), 1999 . 7 .
- 3) Oonishi T<sup>1)</sup>, Sakashita K<sup>1)</sup>, Suematu N<sup>2)</sup>, Uyesaka N ( <sup>1)</sup> NTT Medical Research Institute, Kanto Teishin Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Yokufukai Hospital ): Regulation of human red blood cell filterability by intracellular signaling pathways . 10th International Congress Biorheology ( Pecs, Hungary ), 1999 . 7 .
- 4) Kondo Y , Jordan P<sup>1)</sup>, Sachs B<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Connecticut ): Small medial amygdala lesions prevent non-contact erection in rats without impairing copulation or partner preference . Society for Neuroscience 29th Annual Meeting ( Miami Beach, FLA. ), 1999 . 10 .
- 5) Wada-Kiyama Y , Onishi Y<sup>1)</sup>, Kiyama R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Bioscience and Human-Technology ): Pe-

- riodic Bent DNA Regulates Nucleosomal Phases and Enhancer Activity at HS2 of the Human b-LCR . The American Society of Hematology 41st Annual Meeting ( New Orleans, Louisiana ), 1999 . 12 .
- 6) Parhar IS : Regulation of GnRH gene expression by steroids . 第4回日本内分泌学会生殖内分泌分科会 , 1999 . 9 .
- 7) 小山哲司<sup>1)</sup>, 賀羽常道<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>(株) 司測研・技術部, <sup>2)</sup>(株) 司測研・バイオメディカル部 ): 連続減衰負圧を用いた赤血球変形能計測装置法の開発 : 第一報 . 第22回日本バイオレオロジー学会年会 , 1999 . 6 .
- 8) 加藤昌克, 佐久間康夫 : ATPラットは下垂体濾胞星状細胞 ( FSC ) に作用し一酸化窒素 ( NO ) 合成を促進する . 第22回日本神経科学大会 , 1999 . 7 .
- 9) 石原珠紀, 折笠千登世, 佐久間康夫 : 内側視索前野における一酸化窒素合成酵素 mRNA の発現 . 第22回日本神経科学大会 , 1999 . 7 .
- 10) 小山哲司<sup>1)</sup>, 賀羽常道<sup>1)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>(株) 司測研 ): 連続減衰負圧を用いた新しい赤血球変形能計測装置 . 第47回レオロジー討論会 , 1999 . 10 .
- 11) 木山裕子, 大西芳秋<sup>1)</sup>, Wanapirak C<sup>1)</sup>, 木山亮一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>通産省・工技院・生命研 ): クロマチン構造を介した周期性bentDNAによる転写制御 . 第22回日本分子生物学会 , 1999 . 12 .
- 12) Wanapirak C<sup>1)</sup>, 大西芳秋<sup>1,2)</sup>, 木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>通産省・工技院・生命研, <sup>2)</sup>NEDO ): グロビン遺伝子におけるbentDNAとサイレンサー活性との関係 . 第22回日本分子生物学会 , 1999 . 12 .
- 13) 大西芳秋<sup>1,2)</sup>, 木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>通産省・工技院・生命研, <sup>2)</sup>NEDO ): ヒトb-グロビン遺伝子LCRのHS2領域における周期性bentDNA構造のヌクレオソーム位相およびエンハンサーに対する影響 . 第22回日本分子生物学会 , 1999 . 12 .
- 14) 木山裕子, 佐久間康夫 : ヒト・エストロゲン受容体a遺伝子転写制御におけるbentDNA構造の意義 . 第77回日本生理学会大会 , 2000 . 3 .
- 15) 須藤隆彦, 佐久間康夫, 加藤昌克 : アンギオテンシン2とブラジキニンはラット下垂体濾胞星状細胞の細胞内カルシウムを上昇させる . 第77回日本生理学会大会 , 2000 . 3 .

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

当講座が新しい体制になってから3年が経過した。まだまだ目指す研究レベルには到達していないが、徐々に各研究スタッフおよび大学院生の研究成果が実を結んできており、英文の原著論文がようやく2桁に達した。もちろん論文の数より質が問われるべきであるが、研究者として " active " であることを示すためには最低限の発表原著論文の数が継続的に維持されていかねばならない。これにより初めて研究者として評価の対象になりうるからである。今年度は、念願であった脳内の種々の神経ペプチドおよびそれら受容体の発現に関する形態学的解析が当講座でようやく可能になった。まだ研究の成果の発表までには至っていないが、今後は神経内分泌学の研究の幅がさらに広がると期待できる。

今年度に行われた主な研究内容は、ストレス反応機構、摂食調節機序、中枢性摂食異常症の病態などの解析、偽性低アルドステロン症の遺伝子解析、てんかんの発症機序に関する検討などである。次年度の業績集には、この3年間に遂行された当講座独自の研究テーマに関する論文がより多く掲載されると期待している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Fujioka T<sup>1)</sup>, Sakata Y<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Kato H<sup>2)</sup>, Nakamura S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Physiology, Yamaguchi University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Yamaguchi University School of Medicine): The effects of prenatal stress on the development of hypothalamic paraventricular neurons in fetal rats. *Neuroscience* 1999; 92 (3): 1079-1088.
- 2) Makino S<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Yamauchi N, Nishioka T<sup>1)</sup>, Mimoto T<sup>1)</sup>, Wakabayashi I<sup>2)</sup>, Philip W. G<sup>3)</sup>, Hashimoto K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kochi Medical School, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Clinical Neuroendocrinology Branch, National Institute of Mental Health): Psychological stress increased corticotropin-releasing hormone mRNA and content in the central nucleus of the amygdala but not in the hypothalamic paraventricular nucleus in the rat. *Brain Res* 1999; 850: 136-143.
- 3) Sugihara H<sup>1)</sup>, Emoto N<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Kamegai J<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Minami S<sup>2)</sup>, Wakabayashi I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School): Effect of insulin-like growth factor-I on growth hormone-releasing factor receptor expression in primary rat anterior pituitary cell culture. *Neurosci Lett* 1999; 276: 87-90.
- 4) Yamagata K<sup>1)</sup>, Andreasson KI<sup>2)</sup>, Maru E, Dominipue M<sup>3)</sup>, Irie Y<sup>4)</sup>, Miki N<sup>4)</sup>, Hayashi Y<sup>5)</sup>, Yoshioka M<sup>6)</sup>, Kaneko K<sup>6)</sup>, Kato H<sup>6)</sup>, Woley PF<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Neurobiology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, <sup>2)</sup> Department of Neuroscience and Neurology, Johns Hopkins University School of Medicine, USA, <sup>3)</sup> Department of Pharmacology, Centre Medical Universitaire, Switzerland, <sup>4)</sup> Department of Pharmacology, Osaka University School of Medicine, <sup>5)</sup> Nagano Nursing University, <sup>6)</sup> Department of Physiology, Yamagata University School of Medicine): Arcadlin is a neural activity-regulated cadherin involved in long term potentiation. *J Biol Chem* 1999; 274: 19473-19479.
- 5) Nishiyama M<sup>1)</sup>, Hori N<sup>2)</sup>, Watanabe T<sup>1)</sup>, Hori T<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>3)</sup>, Watanabe K<sup>3)</sup>, Maru E, Shimizu T<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Neurosurgery, Tottori University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Pharmacology, Kyushu University School of Dentistry, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>4)</sup> De-

partment of Biochemistry, University of Tokyo School of Medicine ): Lipid peroxides and neuronal plasticity .  
Adv Exp Med Biol 1999 ; 496 : 43-48 .

- 6) Arai K , Zachman K<sup>1)</sup> , Shibasaki T Chrousos GP<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Developmental Endocrinology Branch NICHD, NIH ): Polymorphisms of amiloride-sensitive sodium channel subunits in five sporadic cases of pseudohypoadosteronism : Do they have pathologic potential? . J Clin Endocrinol Metab 1999 ; 84 : 2434-2437 .
- 7) Hotta M<sup>1)</sup> , Fukuda I<sup>1)</sup> , Sato K<sup>1)</sup> , Hizuka N<sup>1)</sup> , Shibasaki T , Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University ): The relationship between bone turnover and body weight, serum insulin-like growth factor ( IGF ) I, and serum IGF-binding protein levels in patients with anorexia nervosa . J Clin Endocrinol Metab 2000 ; 85 ( 1 ): 200-206 .
- 8) Kuriyama H , Hotta M<sup>1)</sup> , Wakabayashi I<sup>2)</sup> , Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University , <sup>2)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School ): A 6-day intracerebroventricular infusion of the growth hormone-releasing peptide KP-102 stimulates food intake in both non-stressed and intermittently-stressed rats . Neurosci Lett 2000 ; 282 : 109-112 .
- 9) Fujita H<sup>1)</sup> , Maru E , Shimada M<sup>1)</sup> , Suzuki H<sup>1)</sup> , Ogiuchi H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Tokyo Women's Medical University , <sup>2)</sup> Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Tokyo Women's Medical University ): A decrease in seizure susceptibility to lidocaine in kindled epileptic rats . Anesth Analg 2000 ; 90 : 1129-1134 .
- 10) Otsu Y , Maru E , Ohata H , Takashima I<sup>1)</sup> , Kajiwar R<sup>1)</sup> , Iijima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular and Cellular Neuroscience Section, Electrotechnical Laboratory ): Optical recording study of granule cell activities in the hippocampal dentate gyrus of kainate-treated rats . J Neurophysiol 2000 ; 83 : 2421-2430 .
- 11) 植山珠代<sup>1)</sup> , 丸 栄一 , 嶋田将之<sup>1)</sup> , 鈴木英弘<sup>1)</sup> , 池田みさ子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学麻酔科 ): 塩酸リドカインによるラット海馬神経細胞の興奮性上昇 . 麻酔 1999 ; 48 ( 7 ): 739-746 .

[ 1998 年度追加分 ]

研究報告書 :

- 1) 芝崎 保 , 新井桂子 , 堀田真理<sup>1)</sup> , 出村 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学内分秘疾患総合医療センター内科 ): 神経性食欲不振症患者の corticotropin-releasing factor 1 受容体遺伝子の解析 . 厚生省特定疾患内分秘系疾患調査研究班中枢性摂食異常症平成9年度研究報告書 1998 ; pp39-43 .

( 2 ) 研究報告書 :

- 1) 芝崎 保 , 新井桂子 , 大畠久幸 , 堀田真理<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学内分秘疾患総合医療センター内科 ): 神経性食欲不振症の病態における CRF 受容体サブタイプに関する考察 . 厚生省特定疾患内分秘系疾患調査研究班中枢性摂食異常症平成10年度研究報告書 1999 ; pp58-68 .

( 3 ) 総説 :

- 1) Wakabayashi I<sup>1)</sup> , Sugihara H<sup>1)</sup> , Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School ): Growth hormone secretagogue influences feeding behaviour in experimental animals . Growth Hormone Secretagogues 1999 ; 279-284 .
- 2) 新井桂子 , 芝崎 保 : ストレスは計れるか? . 総合臨牀 2000 ; 49 ( 1 ): 128-135 .
- 3) 丸 栄一 : てんかん発作発生と停止の神経機構 . 神経研究の進歩 2000 ; 44 : 36-50 .

学会発表

( 1 ) シンポジウム :

- 1) 芝崎 保 : 臨床内分秘学の進歩 神経性食欲不振症の病因・病態に関わる神経ペプチドの基礎的, 臨床的検討 . 第72回日本内分秘学会学術総会 , 1999 . 5 .

- 2) 新井桂子, 芝崎 保: 腎におけるNa輸送の調節とその異常: 偽性低アルドステロン症1型とLiddle症候群. 第34回日本小児腎臓病学会, 1999. 5.
- 3) 丸 栄一: てんかんにおけるシナプス再構築の生理的役割. 第33回日本てんかん学会, 1999. 10.

(2) 一般講演:

- 1) Arai K, Nakagomi Y<sup>1)</sup>, Amemiya S<sup>1)</sup>, Oyama K<sup>1)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Yamanashi Medical University ): The amiloride-sensitive sodium channel gene in Japanese sporadic case with pseudohypoadosteronism. . 81th Annual Meeting of the Endocrine Society ( San Diego, USA. ), 1999. 6.
- 2) Arai K, Kaneko K, Iketani M, Yamauchi N, Otagiri A, Shibasaki T : Chronic nicotine administration increases leptin mRNA expression in white adipose tissue of rats. . 81th Annual Meeting of the Endocrine Society ( San Diego, USA. ), 1999. 6.
- 3) Soga T, Sakuma Y<sup>1)</sup>, Parhar I<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Physiology 1, Nippon Medical School ): Regulation of GnRH mRNA subtypes and peptide by 11-ketotestosterone in sexually immature and mature male in tilapia. The 6th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish ( Bergen, Norway ), 1999. 7.
- 4) 新井桂子, 中込美子<sup>1)</sup>, 雨宮 伸<sup>1)</sup>, 大山健司<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup> 山梨医科大学小児科 ): 本邦孤発例の偽性低アルドステロン症におけるアミロライド感受性ナトリウムチャネルの遺伝子解析. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 5) 山内直子, 新井桂子, 金子勝美, 小田切あすか, 芝崎保: ニコチン慢性投与によるラットの摂食抑制および体重減少における脂肪組織のレプチンの役割. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 6) 大畠久幸, 新井桂子, 芝崎 保: 拘束ストレスおよびUrocortinによる摂食抑制におけるCorticotropin-releasing factor ( CRF ) type 1受容体の関与. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 7) Saeed S, 大畠久幸, 芝崎 保: Corticotropin-releasing factor ( CRF ) type 1受容体選択的拮抗薬の飲水行動および摂食行動に及ぼす作用. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 8) 小田切あすか, 若林一二<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup> 内科第3 ): 条件性恐怖ストレスによる視床下部室傍核 ( PVN ) におけるnorepinephrine ( NE ) の分泌亢進に対するcorticotropin releasing fctor ( CRF ) 1型受容体拮抗薬の効果. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 9) 原田嘉夫: 幼若脊髄の抑制系遮断時に記録される後根の同期した周期性興奮. 第22回日本神経科学大会, 1999. 7.
- 10) 山形要人<sup>1)</sup>, 杉浦弘子<sup>1)</sup>, 鈴木香子<sup>1)</sup>, 丸 栄一 ( <sup>1)</sup> 東京都神経科学総合研究所分子神経生物 ): けいれん発作によって誘導される新しい神経接着分子Arcadlin. 第33回日本てんかん学会, 1999. 10.
- 11) 須藤孝子<sup>1)</sup>, 山形要人<sup>2)</sup>, 川上順子<sup>1)</sup>, 丸 栄一 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第1生理, <sup>2)</sup> 東京都神経科学総合研究所分子神経生物 ): 発作発現および発作後抑制における脳内プロスタグランジン ( PG ) の役割. 第33回日本てんかん学会 ( 仙台 ), 1999. 10.
- 12) 大畠 久幸, 芝崎 保 : Corticotropin-releasing factor ( CRF ) の摂食抑制作用発現部位の検討. 第26回日本神経内分泌学会, 1999. 11.

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では生理的および病的に重要な生体内の現象を分子レベルで解明するため、それに関わる蛋白質分子の構造と機能の解明を中心課題として研究している。NOやスーパーオキシドなど近年情報伝達や病態などに広くかかわっている分子の生成と制御機能を中心として、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因など幅広い問題に分子生物学的手法、分光光学をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1. スーパーオキシドや一酸化窒素などのラジカル分子の生成と制御の機構：低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。

a) スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素（脱水素酵素）については分光学的解析や反応速度論的解析を継続的に展開しており、今年度は昨年度に引き続きバキュロウイルス/昆虫細胞系を用いた発現系を用いた種々の変異酵素を作成し、その解析を行っている。また、文部省国際学術共同研究としてX線結晶解析による三次元構造の解析を行い、ラジカル生産機構を分子レベルで解明した。

b) 一酸化窒素合成酵素については、一酸化窒素合成酵素の活性制御物質の検討を行った。一酸化窒素合成酵素自身については、昨年に引き続きcDNA発現系によって得たマウス小脳の天然の変異酵素や野性型酵素の特にヘム周囲の分光学的検討、分子的性質の検討を行ってきた。

2. 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質であろうと予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その性質の検討をおこなった。また、その蛋白の結晶を得て、立体構造の解明を行った。さらに、各種酸化還元酵素やその他の蛋白質につき他大学・研究機構との共同研究も行ってきた。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Coper N. J<sup>1)</sup>, Stalhandske C. M. V<sup>1)</sup>, Iwasaki H<sup>2)</sup>, Oshima T<sup>3)</sup>, Scott R. A<sup>1)</sup>, Iwasaki T ( <sup>1)</sup>University of Georgia, <sup>2)</sup> Nagoya University, <sup>3)</sup> Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): Structural conservation of the isolated zinc site in archaeal zinc-containing ferredoxins as revealed by X-ray absorption spectroscopic analysis and its evolutionary implications. J. Biol. Chem 1999; 274: 23160-23168.
- 2) Iwasaki T, Dikanov S. A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>University of Illinois ): Probing the cluster surrounding in sulredoxin from the thermoacidophilic archaeon *Sulfolobus* sp. strain 7, a novel water-soluble Rieske [2Fe-2S] protein. J. Inorg. Biochem 1999; 74: 113-113.
- 3) Ishii M<sup>1)</sup>, Takishita S<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Peerapornpisal Y<sup>1)</sup>, Yoshino Y<sup>1)</sup>, Kodama T<sup>1)</sup>, Igarashi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>University of Tokyo ): Purification and characterization of membrane-bound hydrogenase from *Hydrogenobacter thermophilus* strain TK-6, an obligately autotrophic, thermophilic, hydrogen-oxidizing bacterium. Biosci. Biotechnol 1999; 64: 492-502.
- 4) Hori H, Iwasaki T, Hayashi Y, Kurahashi Y, Matsumura T, Nishino T: Inhibition of Neuronal Nitric Oxide Synthase by Phosphatidylinositol 4, 5-Bisphosphate and Phosphatidic Acid. J. Biochem 1999; 126: 829-837.
- 5) Iwasaki T, Hori H, Hayashi Y, Nishino T, Tamura K<sup>1)</sup>, Oue S<sup>1)</sup>, Iizuka T<sup>1)</sup>, Ogura T<sup>2)</sup>, Esumi H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>RIKEN, <sup>2)</sup>National Cancer Center Research Institute East ): Characterization of Mouse nNOS2, a Natur-

- al Variant of Neuronal Nitric-oxide Synthase Produced in the Central Nervous System by Selective Alternative Splicing . The Journal of Biological Chemistry 1999 ; 274 ( 25 ) : 17559-17566 .
- 6) Nishino T , Okamoto K , Hori H , Kounosu A , Nishino T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Yokohama City University ): The Mechanism of Conversion from Xanthine Dehydrogenase to Oxidase of Rat Enzyme Studied by Site-Directed Mutagenesis . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 791-794 .
  - 7) Okamoto K , Enroth C<sup>1)</sup> , Eger B. T<sup>1)</sup> , Pai E. F<sup>1)</sup> , Iwasaki T , Nishino T<sup>2)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup>University of Toronto , <sup>2)</sup>Yokohama City University ): Crystal structure of Xanthine Oxidoreductase and EPR Assignment of Fe/S Centers . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 783-786 .
  - 8) Igarashi K<sup>1)</sup> , Samejima M<sup>1)</sup> , Verhagen M. F. J. M. <sup>2)</sup> , Eriksson K. -E. L. <sup>2)</sup> , Schulein M<sup>3)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup>The University of Tokyo , <sup>2)</sup>University of Georgia , <sup>3)</sup>Novo Nordisk A/S ): A Flavohemoprotein from the Cellulolytic Fungus *Humicola insolens* Contains 6-Hydroxy-FAD as the Dominant Active Cofactor . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 119-122 .
  - 9) Nimura Y<sup>1)</sup> , Nishiyama Y<sup>1)</sup> , Takeda K<sup>1)</sup> , Tsuji Hirokazu<sup>1)</sup> , Ohnishi Kenji<sup>1)</sup> , Watanabe T<sup>1)</sup> , Nishino T , Massey V<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo University of Agriculture , <sup>2)</sup>University of Michigan Medical School ): An NADH Oxidase Functional as Alkyl Hydroperoxide Reductase . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 677-680 .
  - 10) Lee W. C. L<sup>1)</sup> , Hirai T<sup>1)</sup> , Kobori T<sup>1)</sup> , Sasaki H<sup>1)</sup> , Koike H<sup>1)</sup> , Tanokura M<sup>1)</sup> , Nishino T , Murphy M. E. P<sup>2)</sup> , Adman E. T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>University of Tokyo , <sup>2)</sup>University of British Columbia , <sup>3)</sup>University of Washington ): Reaction and substrate recognition of the flavin reductase FRaseI from bioluminescent bacterium *Vibrio fischeri* : Biochemistry and X-ray Crystallography of FRaseI . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 709-718 .
  - 11) Iwasaki T , Aoshima T<sup>1)</sup> , Kounosu A , Oshima T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>The University of Tokyo , <sup>2)</sup>Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): Respiratory complex II from the thermoacidophilic archaeon, *Sulfolobus* sp. strain 7 : genes and protein . In Flavins and Flavoproteins 1999, Agency for Scientific Publ. , Berlin 1999 ; 13 : 779-781 .
  - 12) Hirotsu S<sup>1)</sup> , Abe Y , Okada K<sup>1)</sup> , Nagahara N , Hori H , Nishino T , Hakoshima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nara Institute of Science and Technology ): Crystal structure of a multifunctional 2-Cys peroxiredoxin heme-binding protein 23 kDa/proliferation-associated gene product . Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A 1999 ; 96 ( 22 ) : 12333-12338 .
  - 13) Miyoshi H , Youtani T<sup>1)</sup> , Ide H<sup>2)</sup> , Hori H , Okamoto K , Ishikawa M<sup>3)</sup> , Wakiyama M<sup>1)</sup> , Nishino T , Ishida T<sup>1)</sup> , Miura Kin-ichiro<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka University of Pharmaceutical Sciences , <sup>2)</sup>Gakushuin University , <sup>3)</sup>Tokyo Institute of Technology ): Binding Analysis of *Xenopus laevis* Translation Initiation Factor 4E ( eIF4E ) in Initiation Complex Formation . J. Biochem 1999 ; 126 ( 5 ) : 897-904 .
  - 14) Iwasaki T , Okamoto K , Nishino T<sup>1)</sup> , Mizuhashi J , Hori H , Nishino T ( <sup>1)</sup>Yokohama City University ): Sequence Motif-Specific Assignment of Two [2Fe-2S] Clusters in Rat Xanthine Oxidoreductase Studied by Site-Directed Mutagenesis . J. Biochem 1999 ; 127 : 771-778 .
  - 15) Youtani T<sup>1)</sup> , Tomoo K<sup>1)</sup> , Ishida T<sup>1)</sup> , Miyoshi H , Miura Kin-ichiro<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka University of Pharmaceutical Sciences , <sup>2)</sup>Gakushuin University ): Regulation of Human eIF4E by 4E-BP1 : Binding Analysis Using the Surface Plasmon Resonance Method . IUBMB Life 2000 ; 49 ( 1 ) : 27-31 .

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Bryan T. E<sup>1)</sup>, Emil F. P<sup>1)</sup>, 岡本 研, 岩崎俊雄, 西野朋子, 堀 弘幸, 西野武士 ( <sup>1)</sup> トロント大学生化学 ): Crystal structure of Xanthine Oxidoreductase and EPR Assignment of Fe/S Centers . 13th International Congress FLAVINS AND FLAVOPROTEINS ( Konstanz, Germany ), 1999 . 8 .
- 2) 西野武士 : Structure and Function of Xanthine Dehydrogenase and Xanthine Oxidase . 生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学 . 第4回公開ワークショップ , 1999 . 11 .
- 3) 西野武士 : NO合成酵素の反応と制御の機構 . 第3回岡崎機構セミナー「生体内NO化学と生理機能」, 2000 . 1 .

### (2) 招待講演：

- 1) 西野武士 : Site-directed mutagenesis studies of rat liver xanthine dehydrogenase/oxidase . Gordon Research Congress "Molybdenum & Tungsten Enzymes" ( Plymouth State Univ. U. S. A. ), 1999 . 7 .
- 2) 西野武士 : Metalloenzymes and their model systems . . Riken International Conference ( Zushi, Japan ), 1999 . 4 .
- 3) 西野武士 : Xanthine oxidase, structure, function and role of enzyme in reperfusion injury . Symposium on purine metabolic enzymes . , 1999 . 4 .
- 4) 西野武士 : キサンチンオキシダーゼおよびキサンチンデヒドロゲナーゼの結晶構造と反応機構 . 慶應医学賞記念セミナー1999 , 1999 . 11 .
- 5) 西野武士 : キサンチン脱水素酵素の結晶構造と反応 : 制御の機構 . 「シンクロトロン放射光による生物マシナリーの構造生物学」公開シンポジウム , 2000 . 1 .

### (3) シンポジウム：

- 1) 阿部靖子, 岩原信一郎, 永原則之, 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 西野武士, 安藝理彦<sup>1)</sup>, 北川禎三<sup>2)</sup>, 広津晶子<sup>3)</sup>, 岡田健吾<sup>3)</sup>, 箱嶋俊雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 総研大, <sup>2)</sup> 分子研, <sup>3)</sup> 奈良先端大学・パイオサイエンス ): HBP23の構造と機能 . 第72回 日本生化学会, 1999 . 10 .

### (4) 一般講演：

- 1) 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>, 鯨島正浩<sup>1)</sup>, Vehagen M. F. J. M<sup>2)</sup>, Eriksson K. E. L<sup>2)</sup>, Schulein M<sup>3)</sup>, 西野武士 ( <sup>1)</sup> 東京大学農学部, <sup>2)</sup> ジョージア大学生化分生, <sup>3)</sup> ノボルディクス ): A Flavohemoprotein from the Cellulolytic Fungus *Humicola insolens* Contains 6-Hydroxy-FAD as the Dominant Active Cofactor . 13th International Congress FLAVINS AND FLAVOPROTEINS ( Konstanz, Germany ), 1999 . 8 .
- 2) 西野朋子<sup>1)</sup>, 岡本 研, 堀 弘幸, 鴻巣麻子, 西野武士 ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学・医・一生化 ): The Mechanism of conversion from Xanthine Dehydrogenase to Oxidase of Rat Enzyme Studied by Site-directed Mutagenesis . 13th International Congress FLAVINS AND FLAVOPROTEINS ( Konstanz, Germany ), 1999 . 8 .
- 3) 陽谷 武<sup>1)</sup>, 北原久也<sup>1)</sup>, 友尾幸司<sup>1)</sup>, 石田寿昌<sup>1)</sup>, 三好 洋, 三浦謹一郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪薬科大学第二物理, <sup>2)</sup> 学習院大学生命研 ): eIF-4Eと4E binding protein ( 4EBP ) の相互作用におけるcap構造とリン酸化の影響 . 日本薬学会第119年会, 1999 . 4 .
- 4) 伊東孝祐<sup>1)</sup>, 三好 洋, 西山 真<sup>1)</sup>, 西郷 薫<sup>2)</sup>, 三浦謹一郎<sup>3)</sup>, 田野倉優<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学, 院農, <sup>2)</sup> 東京大学, 院理, <sup>3)</sup> 学習院大学生命研 ): ショウジョウバエ背腹軸形成に関するタンパク質の大量発現 . 1999年度日本動物細胞工学会, 1999 . 5 .
- 5) 三好 洋, 清水裕佳子<sup>1)</sup>, 陽谷 武<sup>2)</sup>, 前田裕子, 井出寛子<sup>3)</sup>, 堀 弘幸, 岡本 研, 脇山素明<sup>1)</sup>, 西野武士, 石田寿昌<sup>2)</sup>, 三浦謹一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 学習院大学, 生命研, <sup>2)</sup> 大阪薬科大学第二物理 ): *Xenopus*翻訳開始因子eIF-4Eと4E-BPの相互作用 . 第72回 日本生化学会大会, 1999 . 10 .
- 6) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 桐生千花, 林 陽子, 西野武士 : 神経系NO合成酵素 : プテリン結合と酵素の活性化 . 第72回 日本生化学会, 1999 . 10 .



- 7) 岡本 研, 岩崎俊雄, 今井竹夫<sup>1)</sup>, 漆山秋雄<sup>1)</sup>, 西野武士<sup>(1)</sup>立教大学・理・化学): デフラボ型キサントキシゲナーゼの鉄硫黄中心の性質. 第72回 日本生化学会, 1999. 10.
- 8) 西野朋子<sup>1)</sup>, 岡本 研, 堀 弘幸, 鴻巣麻子, 中西成子, 西野武士<sup>(1)</sup>横浜市立大学・医・一生化): 部位特異的変異によるキサントキシゲナーゼの機能解析(2). 第72回日本生化学会, 1999. 10.
- 9) 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>, 鮫島正浩<sup>1)</sup>, Verhagen M. F. J. M<sup>2)</sup>, Eriksson K-E. L<sup>2)</sup>, Schulein M<sup>3)</sup>, 西野武士<sup>(1)</sup>東京大学・農学部, <sup>2)</sup>ジョージア大学生化分生, <sup>3)</sup>ノボルディクス): セロピオース脱水素酵素のpH依存性に与える補欠分子族間電子伝達の影響. 第72回日本生化学会, 1999. 10.
- 10) 広津晶子<sup>1)</sup>, 阿部靖子, 岡田健吾<sup>1)</sup>, 岩原信一郎, 堀 弘幸, 西野武士, 箱嶋敏雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>奈良先端大学院): 活性部位でS-S結合を生成する多機能性の新規な過酸化水素分解酵素ペルオキシレドキシニンHBP23/PAGの結晶構造. 第37回日本生物物理学会, 1999. 10.
- 11) 安藝理彦<sup>1)</sup>, 阿部靖子, 北川禎三<sup>1,2)</sup>, 西野武士<sup>(1)</sup>総研大・数物, <sup>2)</sup>分子研): ヘム結合型Heme-Binding protein 23の可視共鳴ラマンスペクトル. 第37回日本生物物理学会, 1999. 10.
- 12) 三好 洋, 陽谷 武<sup>1)</sup>, 前田裕子, 堀 弘幸, 岡本 研, 脇山素明<sup>2)</sup>, 西野武士, 友尾幸司<sup>1)</sup>, 石田寿昌<sup>1)</sup>, 三浦謹一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大阪薬科大学第二物理, <sup>2)</sup>学習院大学生命研): *Xenopus*翻訳開始因子eIF-4Eと4E-BPの相互作用による翻訳調節. 第22回 日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 13) 伊東孝祐<sup>1)</sup>, 三好 洋, 西山 真<sup>1)</sup>, 西郷 薫<sup>2)</sup>, 三浦謹一郎<sup>3)</sup>, 田野倉優<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学, 院農, <sup>2)</sup>東京大学, 院理, <sup>3)</sup>学習院大学生命研): ショウジョウバエ背腹軸形成に関するタンパク質の発現系作製. 第22回 日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 14) 藤井正彰<sup>1)</sup>, 堀 弘幸, 鶴田浩史<sup>1)</sup>, 五十嵐圭日子<sup>1)</sup>, 西野武士, 鮫島正浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学農学部): 白色木材腐朽菌 *Phanerochaete chrysosporium* におけるセロピオース脱水素酵素の遺伝子の発現と制御. 第22回日本分子生物学会, 2000. 2.
- 15) 西野武士, 岡本 研, Enroth C<sup>1)</sup>, Eger B. T<sup>1)</sup>, Pai E. P<sup>1)</sup>, 西野朋子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>トロント大学, <sup>2)</sup>横浜市立大学・医・一生化): キサントキシゲナーゼ, 酸化酵素の結晶構造. 第33回日本痛・核酸代謝学会, 2000. 2.
- 16) 岡本 研, 岩崎俊雄, Enroth C<sup>1)</sup>, Eger B. T<sup>1)</sup>, Pai E. P<sup>1)</sup>, 堀 弘幸, 西野朋子<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>(1)</sup>トロント大学, <sup>2)</sup>横浜市立大学・医・一生化): キサントキシゲナーゼにおける鉄硫黄中心. 第33回日本痛・核酸代謝学会, 2000. 2.
- 17) 西野朋子<sup>1)</sup>, Enroth C<sup>2)</sup>, Eger B. T<sup>2)</sup>, Pai E. F<sup>2)</sup>, 岡本 研, 堀 弘幸, 西野武士<sup>(1)</sup>横浜市立大学・医・一生化, <sup>2)</sup>トロント大学): 部位特異的変異法及び, 結晶構造から解析したキサントキシゲナーゼの酸化酵素型への変換機構. 第33回日本痛風・核酸代謝学会, 2000. 2.

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

<ハイテクリサーチプロジェクト 遺伝子治療基盤技術の開発 >

1) ベクターの開発: 次世代の遺伝治療用ベクターとして期待されているHIVベクターとAAVベクターの作製法の開発を行っている。濃縮法の改良を進めるとともに、パッケージングに必要なウイルス蛋白を大量発現させるためのアデノウイルスベクターを使ったハイブリッドベクターを作製している。

2) 前臨床試験: ArylsulfataseA (ASA) 遺伝子の欠損症である異染性白質ジストロフィー (MLD) の遺伝子治療を目指し, ASA 遺伝子を持つレトロウイルスベクターを作製し, 患者皮膚細胞線維芽細胞やヒトの骨髄幹細胞への導入実験を行った。a-galactosidaseA (a-galA) 遺伝子の欠損症であるFabry病の遺伝子治療を目指し, a-galA 遺伝子を持つAAVベクターを作製し, 培養細胞や, 患者皮膚線維芽細胞の治療実験を行った。更に, Fabry マウスに対する治療効果の検討を進めている。胃癌の遺伝子治療を目指し, ENNG 投与により作製したイヌの胃癌に対し, レトロウイルスやアデノウイルスベクターの導入効率を比較した。更に HSVTK 自殺遺伝子を持つアデノウイルスベクターを作製し, 治療実験を行った。

3) 遺伝子ターゲティング: 2本鎖DNAの任意の塩基を改変する Triplex Forming Oligonucleotide Assay の基礎研究を行い, Binding Assay 系を確立した。RNA-DNA キメラオリゴヌクレオチドを用いた遺伝子の改変技術におけるミスマッチ認識機構の検討を始めた。

<分子遺伝学>

4) DNA ミスマッチ修復: ゲルシフトアッセイとWestern法を組み合わせたShiftWestern法を開発し, ヒトの主要ミスマッチ修復複合体である, hMutSaとhMutSbの構成蛋白を明らかにした。hMSH3遺伝子内の多型と, 日本人散发性大腸癌の関連を明らかにした。

5) アルカリホスファターゼの遺伝子解析: 低ホスファターゼ症について, ドイツ人小児型家系の遺伝子解析を行い, 5種の新規ミスセンス変異を発見した。日本人4家系の遺伝子解析により, 日本人のhot spotと考えられる変位を見出した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kitamura Y<sup>1)</sup>, Ishikawa T<sup>2)</sup>, Okui N<sup>3)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Shimada T, Miyake K, Yoshiike K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Molecular Genetics, National Institute of Infection Diseases, <sup>2)</sup> Institute of Medical Science, Terumo Corporation Research and Development Center, <sup>3)</sup> Department Urology, Faculty of Medicine, University of Tokyo): Inhibition of Replication of HIV-1 at Both Early and Late Stages of the Viral Life Cycle by Single-Chain Antibody Against Viral Integrase. J. AIDS Hum. Retrovirol 1999; 20: 105-114.
- 2) Koseki S<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>2)</sup>, Tani K<sup>2)</sup>, Asano S<sup>2)</sup>, Shioda T<sup>3)</sup>, Nagai Y<sup>3)</sup>, Shimada T, Ohkawa J<sup>1)</sup>, Taira K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Institute of Applied Biochemistry, University, <sup>2)</sup> Department of Hepatology/Oncology, <sup>3)</sup> Department of Viral Infection): Factors governing the activity in vivo of ribozymes transcribed by RNA polymerase III. J. Virol 1999; 73: 1868-1877.
- 3) Watanabe H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Iimura T<sup>3)</sup>, Oida S<sup>3)</sup>, Orimo H, Ishikawa I<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, <sup>3)</sup> Department of Oral Biology, Tokyo Medical and Dental University): Molecu-

- lar diagnosis of hypophosphatasia with severe periodontitis . J. Periodontol 1999 ; 70 ( 6 ) : 688-691 .
- 4) Nakajima E , Ikejima M , Watanabe A , Shimada T : Identification of the components of mismatch binding complexes in human cells using a gel-shift assay . FEBS Letters 1999 ; 453 : 85-89 .
  - 5) Matsukura N<sup>1)</sup> , Hoshino A<sup>2)</sup> , Igarashi T , Hasegawa H<sup>1)</sup> , Okino T , Onda M<sup>1)</sup> , Iijima O<sup>3)</sup> , Akiyama K<sup>3)</sup> , Goto T<sup>3)</sup> , Takubo K<sup>4)</sup> , Suzuki S , Shimada T ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery , <sup>2)</sup> Second Department of Surgery , <sup>3)</sup> Tsukuba Laboratory, Hisamitsu Pharmaceutical Co. , Inc. , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ) : In situ gene transfer and suicide gene therapy of gastric cancer in dogs induced by N-ethyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine . J. Jpn. J. Cancer Res 1999 ; 90 : 1039-1049 .
  - 6) Asano-Tsutsuda A , Migita M , Takahashi K , Shimada T : Transduction of fibroblasts and Cd34+progenitors using a selectable retroviral vector containing cDNAs encoding arylsulfatase A and CD24 . J. Hum. Genet 1999 ; 45 : 18-23 .
  - 7) Orimo H , Nakajima E , Ikejima M , Emi M<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ) : Frameshift mutations and a length polymorphism in the *hMSH3* gene and the spectrum of microsatellite instability in sporadic colon cancer . Jpn. J. Cancer Res 1999 ; 90 ( 12 ) : 1310-1315 .
  - 8) Takeda K<sup>1)</sup> , Takemoto C<sup>2)</sup> , Kobayashi I<sup>3)</sup> , Watanabe A<sup>4)</sup> , Nobukuni Y<sup>5)</sup> , Fisher D. E<sup>6)</sup> , Tachibana M<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> NIDCD, NIH, 東北大学医学部 , <sup>2)</sup> Harvard Medical School , <sup>3)</sup> NIDCD, NIH, 北海道大学医学部小児科 , <sup>4)</sup> NIDCD, NIH, 日本医科大学第2生化学 , <sup>5)</sup> 京都府立医科大学 , <sup>6)</sup> Harvard Medical School , <sup>7)</sup> NIDCD, NIH, 埼玉がんセンター ) : Ser298 of MITF, a mutation site in Waardenburg syndrome type 2, is a phosphorylation site with functional significance . Human Molecular Genetics 2000 ; 9 ( 1 ) : 125-132 .
  - 9) Yaoita H , Orimo H , Shirai Y<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery ) : Expression of bone morphogenetic proteins and rat distal-less homolog genes following rat femoral fracture . J. Bone Miner. Metab 2000 ; 18 ( 2 ) : 63-70 .
  - 10) 三宅弘一 , 鈴木紀子 , 島田 隆 : AIDSの遺伝子治療 ( 特集 : 遺伝子治療の進歩 ) . 血液 , 腫瘍科 1999 ; 39 ( 6 ) : 477-483 .
  - 11) 渡辺 淳 , 右田 真<sup>1)</sup> , 渡辺裕子<sup>2)</sup> , 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院遺伝外来 , 同小児科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院遺伝外来 , 同看護部 ) : 遺伝子診療のめざすもの . 日医大誌 1999 ; 66 : 340-342 .
  - 12) 渡辺 淳<sup>1)</sup> , 武田和久<sup>2)</sup> , Ploplis B<sup>3)</sup> , 橋 正芳<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> NIDCD, NIH, 日本医科大学第2生化学 , <sup>2)</sup> NIDCD, NIH, 東北大学医学部 , <sup>3)</sup> NIDCD, NIH , <sup>4)</sup> NIDCD, NIH, 埼玉がんセンター ) : 転写因子PAX3の遺伝子変異による Waardenburg 症候群における症状惹起メカニズム . 日本先天代謝異常学会誌 1999 ; 15 ( 2 ) : 49-53 .
  - 13) 三宅弘一 , 島田 隆 : HIVベクター . 分子細胞治療 2000 ; 1 ( 2 ) : 72-73 .
- ( 2 ) 総説 :
- 1) 島田 隆 : 新しい遺伝子導入/遺伝子治療技術の開発 ( 特集 : 遺伝子医療の発展 ) . 最新医学 2000 ; 55 ( 1 ) : 51-58 .

## 著 書

- 1) 島田 隆 : [ 分担 ] ガン細胞を特異的に殺傷する遺伝子治療法の開発 . Academia , 1999 ; pp30-35 , 学術新報 .
- 2) 平井幸彦 : [ 分担 ] 1. 8 " AAVベクター " , 第2節 各論 , 第3章導入技術 . 日本遺伝子治療学会編 遺伝子治療開発研究ハンドブック ( 大野典也 , 衛藤義勝 ) , 1999 ; pp377-384 , エヌティーエス .
- 3) 三宅弘一 , 島田 隆 : [ 分担 ] HIVベクター , 第2節 各論 , 第3章導入技術 . 日本遺伝子治療学会編 遺伝子治療開発研究ハンドブック ( 大野典也 , 衛藤義勝 ) , 1999 ; pp404-409 , エヌティーエス .
- 4) 島田 隆 : [ 分担 ] 導入技術・標的特異性 : 細胞特異的遺伝子導入法 . 「 遺伝子治療開発研究ハンドブック 」 日本遺伝子治療学会編 , 1999 ; pp302-309 , エヌティーエス .

- 5) 島田 隆：〔分担〕ガイドライン・厚生省/文部省。「遺伝子治療開発研究ハンドブック」日本遺伝子治療学会編，1999；pp757-806，エヌティーエス。
- 6) 島田 隆：〔分担〕HIVベクター。「セルセラピー」(関口定美編)，1999；pp100-109，エフ・コピント富士書院。
- 7) 島田 隆：〔分担〕遺伝子治療。岩波講座現代医学の基礎「細胞増殖とがん」(黒木登志夫，渋谷正史編)，1999；pp232-248，岩波書店。
- 8) 折茂英生：〔翻訳〕72章 エネルギー論と代謝量，73章 体温，体温調節，発熱。ガイドン臨床生理学(早川弘一)，1999；pp907-928，医学書院。
- 9) 神田佳和：〔分担〕特集1，ビタミンの新たな展開：ビタミンA。医薬ジャーナル(高木洋治)，1999；pp85-93，医薬ジャーナル社。
- 10) 島田 隆：〔分担〕遺伝子治療の現状と展望。よくわかる遺伝子工学(村松正寛編)，2000；pp145-160，羊土社。
- 11) 中島英逸，島田 隆：〔分担〕遺伝子の組換えと修復。臨床遺伝医学ガイダンス(小澤敬也編)，2000；pp26-33，南山堂。

#### 学会発表

〔1998年度追加分〕

#### 特別講演：

- 1) 折茂英生：低ホスファターゼ症の遺伝子解析と分子病態。第66回日本医科大学医学会総会，1998.9。

#### (1) ワークショップ：

- 1) 池島三与子，中島英逸，渡辺 淳，折茂英生，島田 隆：ミスマッチ修復異常と発癌。第3回がん分子標的治療研究会総会，1999.6。

#### (2) 一般講演：

- 1) Shimada T：A novel strategy of cell targeting by two step gene transfer. Second US-JAPAN Gene Therapy Conference (Bethesda)，1999.2。
- 2) Shimada T：Tissue specific gene delivery by retroviral vectors. 1999 Tandem Bone Marrow Transplantation Meetings (Keystone)，1999.3。
- 3) Miyake K，Suzuki N，Tsuganezawa T，Iijima O，Gotoh T，Shimada T：TARGETED GENE TRANSFER INTO OLIGODENDROCYTES BY TWO STEP GENE TRANSFER USING ADENOVIRAL AND HIV VECTORS. 2nd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (Washington, DC)，1999.6。
- 4) Suzuki N，Miyake K，Iijima O，Akiyama K，Gotoh T，Uchida K，Yokoyama K，Shimada T：INHIBITION OF HUMAN IMMUNODEFICIENCY VIRUS TYPE-1 INFECTION BY A RECOMBINANT HIV VECTOR EXPRESSING ANTISENSE-CXCR4. 2nd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (Washington, DC)，1999.6。
- 5) Sakai N，Miyake K，Suzuki N，Shimada T：TARGETED GENE TRANSFER INTO HIV INFECTED CELLS BY THE COMBINATION OF HIV AND MLV VECTORS. 2nd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (Washington, DC)，1999.6。
- 6) Satoh W，Hirai Y，Tamayose K，Shimada T：SITE SPECIFIC INTEGRATION OF THE AAV VECTOR SEQUENCE CAN BE ACHIEVED BY REGULATED EXPRESSION OF REP PROTEINS USING THE CRE/LOXP SYSTEM. 2nd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (Washington DC, USA. )，1999.6。

- 7) Mochizuki H<sup>1)</sup>, Migita M, Tsuganesawa T, Takahashi K, Sakuragawa N<sup>2)</sup>, Shimada T, Mizuno Y<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>順天堂大学附属病院 脳神経内科, <sup>2)</sup>国立精神・神経センター 神経研究所 疾病研究第五部): Cell therapy for Parkinson's disease using genetically modified amniotic epithelial cells. 2nd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Washington. D. C. ), 1999. 6.
- 8) Miyake K, Suzuki N, Koyanagi Y, Shimada T: IN VIVO TARGETED GENE TRANSFER INTO CD4 POSITIVE T-CELLS BY HIGH TITER RECOMBINANT HIV VECTORS. 41th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( New Orleans, Louisiana ), 1999. 12.
- 9) Miyake K, Suzuki N, Koyanagi Y, Shimada T: IN VIVO TARGETED GENE TRANSFER INTO CD4 POSITIVE T-CELLS BY HIGH TITER RECOMBINANT HIV VECTORS. Eight International Conference on Gene Therapy of Cancer ( San Diego, California ), 1999. 12.
- 10) Suzuki N, Miyake K, Hirai Y, Shimada T: RECOMBINANT ADENO-ASSOCIATED VIRUS MEDIATED GENE TRANSFER INTO HUMAN PRIMARY LYMPHOCYTES. Eight International Conference on Gene Therapy of Cancer ( San Diego, California ), 1999. 12.
- 11) Nakajima E, Sakai N, Yamamoto M, Miyake K, Shimada T: Genomic instability of retroviral vectors. Keystone Symposia, Gene Therapy: The Next Millennium ( Keystone, Colorado ), 2000. 1.
- 12) Sakai N, Miyake K, Suzuki N, Shimada T: A NOVEL STRATEGY OF TARGETED GENE TRANSFER INTO HIV INFECTED CELLS. KeyStone Symposia, Gene Therapy ( Keystone, Colorado, USA ), 2000. 1.
- 13) Migita M, Takahashi K, Tsuganesawa T, Hirai Y, Shimada T: rAAV vector containing cDNA of arylsulfatase A enables transduction of glia in CNS and enzymatic correction of cells from patients with metachromatic leukodystrophy. The 5th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, 1999. 6.
- 14) Nakano K, Migita M, Tsuganesawa T, Takahashi K, Shimada T: Bone marrow cells differentiate into both hematopoietic and neuronal cells. The 5th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, 1999. 6.
- 15) 三宅弘一, 鈴木紀子, 島田 隆: HIVベクターによるCXCR4を標的としたAIDSの遺伝子治療. 第61回日本血液学会総会, 1999. 4.
- 16) 山田 薫<sup>1)</sup>, 二木真琴<sup>1)</sup>, 三宅弘一, 鈴木紀子, 山下孝之<sup>1)</sup>, 島田 隆, 中畑龍俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大医科研, 病態薬理): Bicistronic retrovirus vectorを用いたA群Fanconi貧血の迅速診断. 第61回日本血液学会総会, 1999. 4.
- 17) Miyake K, Suzuki N, Iijima O, Akiyama K, Gotoh T, Uchida K, Yokoyama K, Shimada T: INHIBITION OF HUMAN IMMUNODEFICIENCY VIRUS TYPE-1 INFECTION BY A RECOMBINANT HIV VECTOR EXPRESSING ANTISENSE-CXCR4. The 5th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, 1999. 6.
- 18) Miyake K, Suzuki N, Tsuganezawa T, Iijima O, Goto T, Shimada T: TARGETED GENE TRANSFER INTO OLIGODENDROCYTES BY TWO STEP GENE TRANSFER USING ADENOVIRAL AND HIV VECTORS. The 5th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, 1999. 6.
- 19) Sakai N, Miyake K, Suzuki N, Shimada T: TARGETED GENE TRANSFER INTO HIV INFECTED CELLS BY THE COMBINATION OF HIV AND MLV VECTORS. The 5th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, 1999. 6.
- 20) 折茂英生, Girschick H<sup>1)</sup>, 島田 隆(<sup>1)</sup>Wurzburg大・小児科): ドイツ人小児型低ホスファターゼ症家系の遺伝子解析. 第17回日本骨代謝学会, 1999. 7.
- 21) 大井田新一郎<sup>1)</sup>, 五関・曾根正江<sup>2)</sup>, 井上美津子<sup>3)</sup>, 渡辺 久<sup>4)</sup>, 折茂英生(<sup>1)</sup>鶴見大・歯・生化, <sup>2)</sup>日本女子大・食物, <sup>3)</sup>昭和・歯・小児歯科, <sup>4)</sup>東京医歯大・歯・第2保存): 低ホスファターゼ症の遺伝子診断. 第16回歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い, 1999. 10.

- 22) 池島三与子, 中島英逸, 渡辺 淳, 島田 隆: 抗体を用いたhMSH3蛋白質の機能解析. 第58回癌学会総会, 1999. 10.
- 23) 市川 稔<sup>1)</sup>, 中津可道<sup>1)</sup>, 池島三与子, 島田 隆, 田中亀代次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 阪大, 細胞セ): A群色素性乾皮症モデルマウスにおける紫外線誘発皮膚癌由来細胞株の紫外線抵抗性獲得機構の解析. 第58回癌学会総会, 1999. 10.
- 24) 神田佳和: 大腸ガン細胞(BM314)に対するMGFおよびRAの活性. 第72回日本生化学会大会, 1999. 10.
- 25) 折茂英生, 五関-曽根正江<sup>1)</sup>, 井上美津子<sup>2)</sup>, 椿尾百合子<sup>3)</sup>, 崎山武志<sup>4)</sup>, 島田 隆(<sup>1)</sup>日本女子大・食物,<sup>2)</sup>昭和大・歯・小児歯科,<sup>3)</sup>大阪市立十三市民病院・小児科,<sup>4)</sup>聖マリアンナ医大・病理): 組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子1735Tの欠失は日本人低ホスファターゼ症のhot spotである. 日本人類遺伝学会第44回大会, 1999. 11.
- 26) 中野起久恵, 右田 真, 津金澤俊和, 高橋久美, 島田 隆: 神経系細胞を標的とした遺伝子治療に向けて: 骨髄細胞からの神経系細胞への分化脳の検討. 日本人類遺伝学会第44回大会, 1999. 11.
- 27) 中島英逸, 堺 則康, 山本基子, 三宅弘一, 島田 隆: レトロウイルスベクターのゲノム安定性に関する研究. 第22回日本分子生物学会, 1999. 12.
- 28) 久安早苗, 平井幸彦, 島田 隆: 組換えセンダイウイルスにより哺乳動物細胞に発現させたAAV-Rep78蛋白質の精製と特性. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 29) 平井幸彦, 佐藤 越, 島田 隆: Rep蛋白質の直接導入によるAAVベクタープラスミドの部位特異的導入. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 30) 三宅弘一, 鈴木紀子, 島田 隆: HIVベクターによるリンパ球特異的In vivo遺伝子導入法. 第62回日本血液学会総会, 2000. 3.

## 7. 薬理学講座

### [ 薬理学 ]

#### 研究概要

当教室では、A) 神経細胞死の機構の解明と治療法の開発、B) シナプス伝達機構の検索、C) 脊髄発生分化関連遺伝子の検索、D) 神経因性疼痛の発生機序解明、E) 気管支拡張薬の薬理作用の解明を目的とし、以下の研究を行っている。

A) (1) 運動ニューロンの生存、神経突起伸展活性を示す物質が骨格筋中に存在するとの仮定のもとに、ニワトリ胚後肢筋抽出物よりこの物質の分離精製をおこなってきた。その結果、平成10年度に精製に成功した。諸種の実験結果から、その物質は蛋白質ではなくRNAであると結論した。RNAを直接抽出する方法によってもRNAに生存因子活性があることを明らかにした。活性を有するRNAの構造解析を行っている。(2) ショウジョウバエ中枢神経系より樹立した細胞株においてアポトーシスを誘導する系を確立し、神経細胞のアポトーシスの細胞内機構を解析している。(3) すでに新生ラットを用いた研究で明らかにした運動ニューロン生存の臨界期における神経栄養因子とアポトーシス関連遺伝子の相互関係の解析を行っている。

B) 抑制性シナプス伝達を修飾する機構について、特に神経ペプチドを中心に検討している。

C) ニワトリ胚の脊髄発生分化関連遺伝子の検索を行い、幾つかの遺伝子を単離した。そのうちの1つをSCDGFと命名し、その発現パターンおよび増殖活性のあることを明らかにした。さらに、他の単離した新規遺伝子の発現パターンと機能についても解析を行っている。

D) ラット神経因性疼痛モデルを用い、各種栄養因子の分布、発現を調べ、神経因性疼痛発生における神経栄養因子の関与と作用機序の解析を行っている。

E) 喘息発作時に使用される治療薬の気管平滑筋に対する薬理作用を解明する目的で、モルモット摘出気管平滑筋の膜透過性標本を作成し、 $Ca^{2+}$ 濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応に対する薬物の作用を検討している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hase A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Arahata K<sup>1)</sup>, Akazawa C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Neuroscience, NCNP ): Expression of human GFR -1 ( GDNF receptor ) at the neuromuscular junction and myelinated nerves . Neuroscience Letters 1999 ; 269 : 55-57 .
- 2) Nemoto K , Okamura T : Relaxing action of adrenergic  $\alpha_2$ -agonists on guinea-pig skinned tracheal muscle . Allergology International 1999 ; 48 : 287-295 .
- 3) Sato A<sup>1)</sup>, Kojima T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K , Miyata Y , Saigo K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo ): Dfrizzled-3, a new *Drosophila* Wnt receptor, acting as an attenuator of Wingless signaling in *wingless* hypomorphic mutants . Development 1999 ; 126 : 4421-4430 .
- 4) Suzuki H , Konishi S<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences , <sup>2)</sup> CREST ( JST ) ): Roles of tachykinins in synaptic mechanisms in the rat amygdala . Brain Research 1999 ; 848 : A34 .
- 5) Takagi Y<sup>1, 2)</sup>, Ui-Tei K , Hirohashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hirohashi Cell Configuration Project, ERATO , <sup>2)</sup> Frontier Research Center, Fukuoka Dental College ): Laminin-mediated cell spreading caused integrin colocalization with intracellular signaling molecules ( PAK and Ena ) in a *Drosophila* neuronal cell line . In Vitro Cell. Dev. Biol. Animal 1999 ; 35 : 549-552 .

- 6) 張 天祥: ショウジョウバエ中枢神経由来のクローン細胞に対するカテコールアミンの非伝達物質様作用の検討. 日医大誌 1999; 66(2): 113-118.

(2) 総説:

- 1) 長谷麻子<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 赤澤智宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター神経研究所): ヒト骨格筋におけるGDNF(グリア細胞株由来神経栄養因子)の発現. 脳の科学 Brain Science 1999; 21(8): 883-886.
- 2) 高橋直樹<sup>1)</sup>, 鈴木秀典(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学歯科麻酔学): 痛覚伝達に関わる一次ニューロンの栄養因子依存性とその発達変化. Clinical Neuroscience 2000; 18(3): 351.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Suzuki H, Konishi S<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences, <sup>2)</sup>CREST (JST)): Roles of tachykinins in synaptic mechanisms in the rat amygdala. Second Brain Research Interactive Conference, Neuropeptides at the Millennium, Satellite Symposium to the 1999 Meeting of the Society for Neuroscience (Miami, Florida, USA), 1999. 10.
- 2) Suzuki H, Konishi S<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences, <sup>2)</sup>CREST (JST)): Tachykininergic regulation of synaptic transmission in the rat amygdala. Society for Neuroscience 29th Annual Meeting (Miami Beach, Florida, USA), 1999. 10.
- 3) Sato A<sup>1)</sup>, Kojima T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K, Miyata Y, Saigo K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo): Dfrizzled-3, a new *Drosophila* Wnt receptor, acting as an attenuator of Wingless signaling. 41th Annual Drosophila Research Conference (Pittsburgh, Pennsylvania, USA), 2000. 3.
- 4) 程 久美子, 高宮正也<sup>1)</sup>, 永野昌俊, 鈴木秀典, 鈴木昭憲<sup>1)</sup>, 片岡宏誌<sup>1)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>東京大学農学部農学生命科学): 運動ニューロン生存活性を持つ新規物質の骨格筋からの分離・同定. 第22回日本神経科学大会, 1999. 7.
- 5) 浜田 剛, 程 久美子, 今城純子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>解剖第一): ニワトリ胚脊髄の発生分化関連遺伝子の単離と発現解析. 第22回日本神経科学大会, 1999. 7.
- 6) 程 久美子, 高宮正也<sup>1)</sup>, 永野昌俊, 鈴木秀典, 片岡宏誌<sup>1)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>東京大学農学部農学生命科学): 骨格筋から分離・同定した運動ニューロン生存活性を持つ物質はRNAであった. 第1回RNAミーティング(日本RNA学会年会), 1999. 8.
- 7) 佐藤 淳<sup>1)</sup>, 小嶋徹也<sup>1)</sup>, 程 久美子, 宮田雄平, 西郷 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学理学部生物化学): Dfrizzled-3, a new *Drosophila* Wnt receptor, acting as an attenuator of Wingless signaling. 日本ショウジョウバエ研究会第4回研究集会, 1999. 8.
- 8) 程 久美子, 浜田 剛, 宮田雄平: ショウジョウバエ株細胞におけるecdysteroidによる細胞死関連遺伝子とecdysone受容体isotypeの発現. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 9) 浜田 剛, 程 久美子, 今城純子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>解剖第一): ニワトリ胚脊髄より単離した新規遺伝子はfloor plateに発現し, その産物は細胞増殖活性をもつ. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 10) Sato A<sup>1)</sup>, Kojima T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K, Miyata Y, Saigo K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学理学部生物化学): Dfrizzled-3, a new *Drosophila* Wnt receptor, acting as an attenuator of Wingless signaling. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 11) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Lipopolysaccharideのモルモット腸管収縮抑制作用機序. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 12) 朴 正福, 程 久美子, 宮田雄平: 細胞死誘導遺伝子によるアポトーシスにおけるprotein kinaseの関与. 第



73回日本薬理学会年会，2000．3．

- 13) 二宮宣文<sup>1)</sup>，根本香代，岡村忠夫，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：モルモット腸管の収縮反応に及ぼす lipopolysaccharide の抑制作用．第73回日本薬理学会年会，2000．3．
- 14) 鈴木秀典，中野朝彩子<sup>1)</sup>，小西史朗<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所，<sup>2)</sup>CREST (JST))：ラット扁桃体 GABA 作動性シナプス伝達におけるタキキニンの修飾作用．第73回日本薬理学会年会，2000．3．
- 15) 鈴木秀典，小西史朗<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所，<sup>2)</sup>CREST (JST))：ラット扁桃体のタキキニン受容体活性化による GABA シナプス伝達の増強．第77回日本生理学会大会，2000．3．

## [ 臨床薬理センター ]

### 研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている．

1) Population pharmacokinetics の研究：NONMEM ( Non-Linear Mixed Effect Model ) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能な population pharmacokinetics 理論を応用した薬物動態解析プログラムで，その臨床の有用性を研究している．

2) センター長の大橋は，新GCPに関する平成9年度，10年度，厚生科学研究の“ モニタリングと監査のあり方 ” に参加し，また平成11年度“ 医療機関におけるモニタリング受け入れガイドライン ” 作成のため厚生省の作業班に参加し，この方面の研究を重ねてきた．平成11年11月より日本医科大学付属病院に治験支援室が新設され臨床薬理センターもその業務を担当している．特に治験データの品質管理，品質保証部門を臨床薬理センターが担当し，モニタリングのあり方についての研究成果を実地に役立てているが，今後更にモニタリング特にデータマネジメントについて研究を進めていく．

3) 新薬開発における臨床試験のあり方，評価方法，薬物治験審査委員会 ( IRB ) のあり方などを委員会事務局としての業務経験を生かして研究している．本学で行われている治験に対する IRB 調査の方法論，継続審査時の副作用情報とその活用法，IRB の内部監査的役割について検討している．

4) スナネズミを用いて Helicobacter pylori 感染モデルを作成し，胃粘膜中に COX-2 が誘導されてくることを見出した．そこでこうした COX-2 蛋白が胃粘膜内においてどのような役割を持っているのか，リンパ球に注目し検討を進めている．具体的には胃粘膜におけるリンパ球の分化誘導に COX-2 蛋白が果たす役割を明らかにするため，患者血液より分離したリンパ球に COX-2 選択的阻害剤である NS-398 を加えることによりリンパ球の分化誘導にどのような影響を与えるか検討中である．

5) 自然発症慢性膵炎モデルの WBN / Kob ラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究．開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せ検討している．

6) 皮膚科学教室から厚生省「医薬品副作用モニター報告」に報告された副作用を分析し，因果関係判定に必要な情報と報告用紙に必要な判定項目を検討した．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 坂井文彦<sup>1)</sup>，福内靖男<sup>2)</sup>，松本 清<sup>3)</sup>，宮崎東洋<sup>4)</sup>，中島健二<sup>5)</sup>，大橋和史 (<sup>1)</sup>北里大学病院神経内科，<sup>2)</sup>慶應義塾大学病院神経内科，<sup>3)</sup>昭和大学病院脳神経外科，<sup>4)</sup>順天堂大学医学部附属順天堂医院麻酔科，<sup>5)</sup>鳥取大学医学部附属病院脳神経内科)：SN-308 ( Sumatriptan ) 皮下注射液の第III相臨床試験：片頭痛患者を対象としたプラセボ注射液との二重盲検比較試験．臨床医薬 2000；16(3)：283-300．
- 2) 坂井文彦<sup>1)</sup>，福内靖男<sup>2)</sup>，松本 清<sup>3)</sup>，宮崎東洋<sup>4)</sup>，中島健二<sup>5)</sup>，大橋和史 (<sup>1)</sup>北里大学病院神経内科，<sup>2)</sup>慶應

- 義塾大学病院神経内科,<sup>3)</sup> 昭和大学病院脳神経外科,<sup>4)</sup> 順天堂大学医学部附属順天堂医院麻酔科,<sup>5)</sup> 鳥取大学医学部附属病院脳神経内科): SN-308 (Sumatriptan) 皮下注射液の第III相臨床試験: 群発頭痛患者を対象としたプラセボ注射液との二重盲検比較試験. 臨床医薬 2000; 16(3): 301-323.
- 3) 阿曾亮子, 原 浩子, 奈良弘恵, 大須賀恵美子, 大橋和史, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 薬疹, 接触皮膚炎を中心とした日本医科大学皮膚科の10年間の副作用1, 167症例の統計: 厚生省「医薬品副作用モニター報告制度」への自発報告データの分析. 日本皮膚アレルギー学会雑誌 1999; 7(3): 83-100.
- 4) 阿曾亮子, 大須賀恵美子, 大橋和史, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 日本医科大学皮膚科から厚生省に報告した副作用自発報告1, 167症例の臨床薬理学的分析: 因果関係判定に必要な情報と報告用紙に必要な判定項目の検討. 臨床薬理 2000; 31(2): 221-228.
- 5) 大橋和史: 「新GCP下でのデータマネジメントのあり方」 モニタリング・監査からみたデータマネジメント. 臨床医薬 1999; 15(5): 700-709.
- 6) 大須賀恵美子, 大橋和史: 薬が投与されてから治療効果を現すまで: ジギタリスを例として. ハートナーシング 1999; 12(7): 50-56.
- 7) 阿曾亮子, 大橋和史: 薬物治療モニタリング(TDM)と投与計画. ハートナーシング 1999; 12(7): 57-64.
- 8) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 抗生物質の分類と種類について. NIC STUDY 1999; 22-24.
- 9) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 高脂血症とその治療薬について. NIC STUDY 1999; 22-24.
- 10) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 消化性潰瘍の病態生理と治療薬. NIC STUDY 1999; 26-28.
- 11) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 高血圧症と降圧薬. NIC STUDY 1999; 22-24.
- 12) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 糖尿病用薬の分類とその作用. NIC STUDY 2000; 22-24.
- 13) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 睡眠薬の種類とその特徴. NIC STUDY 2000; 22-24.

## 著 書

- 1) 大橋和史: [分担] 癌化学療法 of 臨床薬理. 疾患からみた臨床薬理学(大橋京一, 藤村昭夫), 1999; pp283-302, 薬業時報社.
- 2) 大橋和史: [分担] モニタリング・監査からみたデータマネジメント. 新GCP下での治験データマネジメント: 国際品質保証時代の体制構築に向けて(植松俊彦), 1999; pp57-67, ライフサイエンス出版.
- 3) 大橋和史: [分担] 直接閲覧実施上の問題点とデータマネジメントのあり方. 直接閲覧に必要なカルテの見方(大橋和史), 1999; pp189-203, サイエンティスト社.
- 4) 大須賀恵美子: [分担] カルテなど医療記録に関して. 直接閲覧に必要なカルテの見方(大橋和史), 1999; pp1-32, サイエンティスト社.

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション:

- 1) 大橋和史: 薬の効用と限界. 第2回浜松市民公開講座, 1999. 7.

### (2) セミナー:

- 1) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 大橋和史, 奈良弘恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 「新GCP施行から1年: 問題点と対策」日本医科大学. 第14回臨床薬理 富士五湖カンファレンス, 1999. 8.

### (3) 一般講演:

- 1) 阿曾亮子, 大須賀恵美子, 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 太田詩穂子<sup>1)</sup>, 大橋和史(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 日本医科大学付属4病院薬物治験審査委員会(IRB)年間報告(平成10年度). 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 2) 二神生爾<sup>1)</sup>, 広田 薫<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup>, 大橋和史, 長田久美子<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>3)</sup>, 高橋秀実<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三, <sup>2)</sup>兵庫医科大学細菌学, <sup>3)</sup>微生物学免疫学): 慢性胃炎患者

におけるH. pylori ureaseに対する血清中及び胃粘膜局所における免疫応答の検討．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．

- 3) 大橋和史，阿曾亮子，大須賀恵美子，奈良弘恵<sup>1)</sup>，太田詩穂子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 小児を対象とした治験のIRB審査について．第20回日本臨床薬理学会，1999．12．
- 4) 大須賀恵美子，阿曾亮子，大橋和史，奈良弘恵<sup>1)</sup>，太田詩穂子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 継続審査の現状とIRB調査の重要性．第20回日本臨床薬理学会，1999．12．
- 5) 阿曾亮子，大須賀恵美子，奈良弘恵<sup>1)</sup>，太田詩穂子<sup>1)</sup>，大橋和史(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 新GCP下の治験の治験審査委員会による実施状況の評価．第20回日本臨床薬理学会，1999．12．

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

研究主題は、腎臓、肺臓、心臓の病理を中心とするが、眼病理、皮膚病理、腫瘍病理などにも及んでおり、炎症の修復機転、臓器の線維化機序、諸病変の血管変化、アポトーシスについて検討したものが多く、NIHおよび Massachusetts General Hospital 病理部門への留学生派遣による肺線維症や腎移植病理に関する研究も推進されている。腎病理については、長年にわたり動物実験モデルを用いた糸球体腎炎の研究が続けられている。本年度は、内皮細胞障害が腎炎修復や線維化に及ぼす影響についての解明が進展し、腎炎における内皮細胞障害の重要性が明らかにされた。また腎間質病変の進展に傍尿細管毛細血管が大きく関わっていることが確定された。高血圧の腎炎発症・進展への影響についての明確な形態学的根拠が示された他、レーザー顕微鏡による Thy 1 腎炎の3次元解析、糖尿病性腎症の血管変化、急性腎不全とアポトーシスの関連、移植腎拒絶反応、腎炎に対する HGF の抑制効果についての研究が進行中である。肺臓研究グループは、間質性肺炎の病態解明をめざし、matrix metalloproteinase (MMP) とその inhibitor である TIMP の動態を中心に、線維化における血管新生、BOOP における病理学的問題点の解析、肺線維症の肺泡再構築機転についての研究を行っている。また、新たな形態形成因子であるエピモルフィンの肺線維症および肺癌における発現の検討がなされた。心臓については、floppy valve における MMP/TIMP の関与についての研究が行われている。その他、胃組織の MMP/TIMP の分布、皮膚腫瘍の弾性線維の動態などが検討された。さらに、技師により免疫染色による炎症活動性検索についての方法論的手法が検討されている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Haraguchi S, Fukuda Y, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部): Pulmonary carcinosarcoma : Immunohistochemical and ultrastructural studies. . *Pathol Int* 1999 ; 49 ( 10 ): 903-908 .
- 2) Ohashi R, Kitamura H, Yamanaka N : Peritubular capillary injury during the progression of experimental glomerulonephritis in rats . *Journal of American Society of Nephrology* 2000 ; 11 ( 1 ): 47-56 .
- 3) Tatsuguchi A, Fukuda Y, Ishizaki M, Yamanaka N : Localization of matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases-2 in normal human and rabbit stomachs. . *Digestion* 2000 ; 60 ( 3 ): 246-254 .
- 4) Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup>, Wada K<sup>1)</sup>, Akamatsu T<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Yamanaka N, Kobayashi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三): Localisation of cyclooxygenase 1 and cyclooxygenase 2 in Helicobacter pylori related gastritis and gastric ulcer tissues in humans. . *Gut* 2000 ; 46 : 782-789 .
- 5) 清水 章, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部) : 腎生検所見から何を学ぶか, 遅発性純粋妊娠中毒症の臨床経過をとって、電顕で糸球体に dense deposit を認めた1例, 病理側の考え方. *腎と透析* 1999 ; 47 ( 1 ): 98-104 .
- 6) 安藤真彦<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>2)</sup>, 田島広之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 持丸 博, 逸見しのぶ, 福田 悠 (<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>放射線科, <sup>3)</sup>外科第2) : 末梢小型肺腺癌のCT画像所見と確定診断に至る経緯の検討. *気管支学* 1999 ; 21 : 381-386 .
- 7) 都築 閱<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 吉岡央子<sup>1)</sup>, 逸見しのぶ, 日比野俊<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 高崎雄司<sup>1)</sup>, 福田 悠, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4) : 血管炎発症2年前に肺好酸球増多所見を認め、肺内リンパ節を伴った Churg Strauss 症候群の一例. *日呼吸学誌* 1999 ; 37 : 817-821 .
- 8) 中本 安, 山中宣昭, 内田俊也 (<sup>1)</sup>吉祥寺あさひ病院, <sup>3)</sup>帝京大学内科) : 比較的急速に進行した尿細管間質

性腎炎の1例．腎と透析 1999 ; 46 : 530-536 .

- 9) 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 川本雅司, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科学, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 細胞診にて発見され腫瘍随伴神経症候群を呈したneuroendocrine carcinoma. 日本産科婦人科学会東京地方部会会誌 1999 ; 48 (4): 496-500 .

(2) 総説 :

- 1) 清水 章 : Mesangiolytic . 腎と透析 1999 ; 47 (2) : 239-244 .  
2) 清水 章 : 急性腎不全の基礎 . 腎臓 1999 ; 22 (2) : 82-90 .  
3) 福田 悠 : 疾患概念 . 特集 : 臨床, NSIP . 分子呼吸器病 1999 ; 3 : 266-271 .  
4) 福田 悠 : 病理からみた間質性肺炎 . 特集 : 間質性肺炎最近の話題 . BIO Clinica 1999 ; 14 : 772-777 .  
5) 山中宣昭 : 急性腎不全とアポトーシス . 腎と透析 1999 ; 47 : 479-485 .  
6) 山中宣昭 : 糸球体メサンギウムの特性 (機能と動態) . 腎と透析 1999 ; 47 : 163-169 .  
7) 清水 章 : 腎臓病とアポトーシス . 現代医療 2000 ; 32 (3) : 729-734 .

著 書

- 1) Fukuda Y : [分担] Ultrastructural Pathology of Pulmonary Lymphangiomyomatosis, in LAM and Other Diseases Characterized by Smooth Muscle Proliferation . Lung Biology in Health and Disease, vol 131 ( Moss J), 1999 ; pp219-239, Marcel Dekker. INC (New York) .  
2) 福田 悠 : [分担] 硝子膜形成 . KEYWORD 呼吸器系 1999-2000 (小倉 剛, 日和田邦男, 山木戸道郎), 1999 ; pp96-97, 先端医学社 .  
3) 福田 悠 : [分担] 肺の構成細胞・細胞外基質 . 内科学 (黒川 清, 松沢佑次, 北 徹, 貴和敏博, 永井良三, 千葉 勉, 井廻道夫, 岡 芳知), 1999 ; pp171-176, 文光堂 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 清水 章 : 免疫寛容過程における移植腎内の acceptance reaction . 日本医科大学医学会 第98回例会, 1999 . 5 .  
2) 山中宣昭 : 腎炎の発症と進展 . 第35回富山腎・高血圧講演会, 1999 . 6 .  
3) 山中宣昭 : 腎間質の構造的特性 . 第3回腎間質障害研究会, 1999 . 9 .  
4) 山中宣昭 : 腎糸球体の構造特性 . 第3回腎糸球体カンファレンス, 1999 . 11 .  
5) 山中宣昭 : 糖尿病性腎症における microangiopathy . 第11回日本糖尿病性腎症研究会, 1999 . 11 .  
6) 福田 悠 : NSIP の病理 . 第22回胸部放射線研究会東京部会, 1999 .

(2) 招待講演 :

- 1) 清水 章 : 免疫学的寛容と慢性拒絶反応 . 第3回移植病理研究会, 1999 . 7 .  
2) 大橋隆治 : 慢性腎不全に移行するラット実験腎炎モデル (WKYラットのanti-GBM GN) における糸球体硬化, 間質病変の進展と腎機能について . 第9回関東腎研究会, 2000 . 1 .

(3) 教育講演 :

- 1) 清水 章 : 腎生検セミナー, 臨床に役立つ組織病変の解析, MPGN病変の組織解析 . 第29回日本腎臓学会東部学術大会, 1999 . 10 .

(4) シンポジウム :

- 1) 福田 悠 : 膠原病にみられる間質性肺炎の病理 . テーマ : 膠原病の肺病変 . 第35回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1999 . 10 .  
2) 福田 悠 : BOOPの病理学的問題点 . テーマ : BOOPの診断と治療 . 第40回日本呼吸器学会総会, 2000 . 3 .

(5) ワークショップ:

- 1) Kawamoto M: A Case of Thyroid Tumor. The Sixth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2000. 2.

(6) 一般講演:

- 1) Fukuda Y, Mochimaru H, Terasaki Y, Kudoh S<sup>1)</sup>, Kitaichi M<sup>2)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>京都大学病理部): Pulmonary structural remodeling in nonspecific interstitial pneumonia. 1999 Int Conf Am Thoracic Society ( San Diego ), 1999. 4.
- 2) Mochimaru H, Fukuda Y, Terasaki Y, Kawamoto M, Uematsu S<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>内科第4): Epithelial Cell Proliferation and Its Regulation In Usual Interstitial Pneumonia. 1999 Int Conf Am Thoracic Society ( San Diego ), 1999. 4.
- 3) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Shipley JM<sup>1)</sup>, Senior RM<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Washington University, Department of Internal Medicine): Role of gelatinase B in bleomycin-induced lung injury. 1999 Int Conf Am Thoracic Society ( San Diego ), 1999. 5.
- 4) Masuda Y, Shimizu A, Ohashi R, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): Glomerular endothelial injury with capillary destruction induces glomerular sclerosis in progressive glomerulonephritis. American Society of Nephrology, 32nd annual meeting ( Miami ), 1999. 11.
- 5) Shimizu A: Prevention of mesangial cell proliferation accelerates angiogenic glomerular capillary repair in progressive glomerulonephritis. American Society of Nephrology, 32nd annual meeting ( Miami ), 1999. 11.
- 6) Ohashi R, Kitamura H, Shimizu A, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): Peritubular capillary injury during the progression of experimental glomerulonephritis in rat. American Society of Nephrology, 32nd annual meeting ( Miami ), 1999. 11.
- 7) Ohashi R, Shimizu A, Masuda Y, Yamanaka N: Peritubular capillary alterations during the progression of tubulointerstitial fibrosis in the ureteral obstruction model. Tsurumi seminar on tubulointerstitial injury, 2000. 2.
- 8) 清水 章, 杉崎祐一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 遅発性純粋妊娠中毒症の臨床経過をとり, 電顕で糸球体に dense deposit を認めた1例, 病理側の考え方. 第9回東京腎生検カンファランス, 1999. 4.
- 9) 橋本網子, 福田 悠, 山中宣昭: ケラトアカントーマにおける弾性線維の排泄機序. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 10) 飯田竹美<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 石崎正道, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>外科第二): 大動脈弁 Floppy Valve における MMPs/TIMPs の発現. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 11) 福田 悠, 辰口篤志, 川本雅司, 石崎正道, 山中宣昭: 間質性肺炎の早期線維化巣における血管新生. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 12) 王 培栄, 北村博司, 益田幸成, 石崎正道, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 高血圧自然発症ラットにおける Thy-1 腎炎進展過程の検討. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 13) 森 貴博, 益田幸成, 清水 章, 大橋隆治, 石崎正道, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 抗 Thy-1 腎炎に対する HGF の抑制効果. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 14) 益田幸成, 清水 章, 大橋隆治, 森 貴博, 石崎正道, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 少量投与 Thy-1 腎炎の障害・増殖期におけるメサンギウム転送機能障害. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 15) 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>1)</sup>, 石崎正道, 益田幸成, 清水 章, 北村博司, 山中宣昭 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部): 共焦点レーザー顕微鏡による腎糸球体の三次元解析: Thy-1 腎炎を中心に. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 16) 清水 章, 益田幸成: 腎障害を合併した Castleman's disease の1例, 病理側の考え方. 第12回東京腎生検カンファランス, 1999. 7.

- 17) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 徹<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>(<sup>1)</sup>外科学第2)</sup>: 心・血管合併切除を要した原発性肺癌に対する評価と反省．第40回日本肺癌学会総会, 1999．10．
- 18) 宮本哲也<sup>1)</sup>, 仲吉 隆<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 三上 徹<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 川本雅司, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 歩行障害にて発症した, 小児縦隔小円形細胞腫瘍の一症例．第40回日本肺癌学会総会, 1999．10．
- 19) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 武井寛之<sup>1)</sup>, 須賀 優<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 森 貴博, 清水 章<sup>(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第2)</sup>: 広汎な間質病変を伴ったbenign anterior nephrosclerosisの一症例．第29回日本腎臓学会東部学術大会, 1999．10．
- 20) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 浅川一枝<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 過敏性肺臓炎の気管支洗浄液に出現する異型リンパ球の検討．第38回日本臨床細胞学会秋期大会, 1999．11．
- 21) 河本陽子<sup>1)</sup>, 川本雅司, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 藤井雄文<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 西海けい子<sup>1)</sup>, 村松浩美<sup>1)</sup>, 浅野伍郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): Elastica-Masson-Goldner 染色法の染色結果改善の試み．第46回日本臨床病理学会総会, 1999．11．
- 22) 新井孝司, 清水 章, 益田幸成, 山中宣昭: 活動性炎症性疾患とcytotoxic T cell: 炎症の活動性の指標としてのcytotoxic granule protein陽性細胞の検索の有用性．第46回日本臨床病理学会総会, 1999．11．
- 23) 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 栗本太嗣<sup>1)</sup>, 小野啓資<sup>1)</sup>, 中広一善<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 高崎雄司<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>(<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>外科第2)</sup>: 下肢静脈血栓, 心筋梗塞後に多発性肺梗塞を繰り返したプロテインC欠乏症の一例．第133回日本呼吸器学会関東地方会, 1999．
- 24) 辻野一三<sup>1)</sup>, 谷野美智枝<sup>1)</sup>, 谷野功典<sup>1)</sup>, 牧田比呂仁<sup>1)</sup>, 竹藪公洋<sup>1)</sup>, 斉藤俊一<sup>1)</sup>, 西村正治<sup>1)</sup>, 川上義和<sup>1)</sup>, 本田泰人<sup>1)</sup>, 宮本顕二<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>(<sup>1)</sup>北海道大学第一内科): 肺気腫との鑑別を要する中高年喫煙者の慢性閉塞性換気傷害．第72回日本呼吸器学会北海道地方会, 1999．</sup>
- 25) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 三上 徹<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>(<sup>1)</sup>外科学第2)</sup>: Pancoast 症候群を呈した悪性胸膜中皮腫の1例．第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2000．2．
- 26) 大橋隆治, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): エンドトキシン吸着療法が著効したSIRS(全身性炎症反応症候群)を伴う無尿性急性腎不全の一例, 病理側の考え方．第16回東京腎生検カンファレンス, 2000．3．
- 27) 寺崎泰弘, 福田 悠, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 安藤正幸<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>外科第2, <sup>3)</sup>熊本大学第1内科): 肺線維症, 肺癌におけるepimorphinの発現．第40回日本呼吸器学会総会, 2000．3．

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

1) 細胞の増殖・分化には、間質の血管や細胞外基質の動態が関与し、各受容体を介してその増殖制御に関わっている。本教室では、癌細胞・前立腺細胞・血管内皮細胞・中膜平滑筋細胞の増殖・分化において、細胞外基質であるフィブロネクチン・グリコサミノグリカン・ラミニン・コラーゲンについて、その合成、各受容体の局在を観察し、mRNAの発現をin situ hybridization法で確認している。また、上皮細胞、癌細胞、平滑筋細胞では、細胞外基質の生成に加えて、FGF, VEGF, TGF- $\beta$ , HGF, IGF-Iなどの増殖因子とカドヘリンなどの接着因子が病態進展に関与している。これらの作用機構については、さらに、細胞内の細胞内骨格を介したシグナル伝達系、特に、hsp,  $\alpha$ -5-Integrin, DNAas-1-カテニン, カテプシンB, クエルセチン, MAPKとの関連性の上から、細胞内における遺伝子情報発現と遺伝子制御機構の解明も試みている。

2) 動脈硬化症の発症の基盤としては、高脂血症、高血圧、糖尿病などの関与が注目される。これまで、内皮細胞の再生過程における細胞外基質 FGF, VEGF, TGF- $\beta$ , HGF, IGF-Iなどの増殖因子、さらにエンドセリン、一酸化窒素(NO)の産生動態を解明してきた。AGEs, RAGE, NF- $\kappa$ Bの関与と内皮細胞・平滑筋細胞の相互作用の観点から、動脈硬化の発生と関連した平滑筋細胞の増殖機序の解明を試みている。また特に動脈硬化の促進因子、ADHの役割と冠状動脈の疎水性環境の特異性につきADH, Apo A, ApoB, HPの存在状態から超音波顕微鏡、レーザー顕微鏡や蛍光偏光顕微鏡などで多次元画像解析的手法を用いて検討している。

3) 虚血性病変の発生機序の解明を目的として、心臓の機能不全や血管障害についてフリーラジカル、NO, hsp, MAPKの産生を介した細胞機能障害の発生機序に注目し、アポトーシスの出現と制御機構について検討している。

4) 神経病理学的には、アルツハイマー病など変性疾患を中心に、その発生病理につき、ADHとの関連に注目し、解明を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Ishiwata T<sup>1)</sup>, Friess H<sup>2)</sup>, Büchler M W<sup>2)</sup>, Lopez M E<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, <sup>2)</sup> Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern, Switzerland ): Characterization of keratinocyte growth factor and receptor expression in human pancreatic cancer . Am. J. Pathol. 1998 ; 153 ( 1 ): 213-222 .
- 2) Nishigaki R, Guo F, Onda M, Yamada N, Yokoyama M, Naito Z, Asano G, Shimizu-Suganuma M<sup>1)</sup>, Shichinohe K<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Laboratory Animal Science, <sup>2)</sup> First Department of Internal Medicine ): Ultrastructural changes and immunohistochemical localization of nitric oxide synthase, advanced glycation end products and NF- $\kappa$ B in aorta of streptozotocin treated Mongolian gerbils . Nippon Med. Sch. Med. 1999 ; 66 : 166-175 .
- 3) Sato S, Dai W, Liu Xiao-L, Asano G : The protective effect of hepatocyte growth-promoting factor ( pHGF ) against carbon tetrachloride-induced acute liver injury in rats : an ultrastructural study . Med. Electron Microsc. 1999 ; 32 : 184-192 .
- 4) Shichinohe K<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M<sup>1)</sup>, Shiota K<sup>2)</sup>, Masuda H<sup>2)</sup>, Nishigaki R, Arai S, Mwanatambwe M, Asano G, Kalengayi M R<sup>3)</sup>, Tsuchiya J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Département des Sciences Animaux, <sup>2)</sup> Institut des techniques médicales de Tobu, <sup>3)</sup> Département d'Anatomie Pathologique, Faculté de Médecine, Université de Kin-



- shasa , <sup>4)</sup> Simonita Primary School ): Influence des Bioconditons D' elevage sur L'apparition du Diabetesucre induit parle virus de L' encephalomyocardite che la souris . 東武医学技術専門学校紀要 1999 ; 4 : 45-53 .
- 5) Maruyama H , Kleeff J<sup>1)</sup> , Wildi S<sup>1)</sup> , Friess H<sup>2)</sup> , Buchler M W<sup>2)</sup> , Israel M A<sup>3)</sup> , Korc M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Endocrinology, Diabetes, and Metabolism, ' Departments of Medicine, Biological Chemistry and Pharmacology, University California, Irvine, California , <sup>2)</sup> Division of Visceral and Transplantation Surgery, University of Berrn, Bern, Switzerland, and the Preuss Laboratory , <sup>3)</sup> Division of Neurological Surgery, University of California, San Francisco, California ): Id-1 and Id-2 are overexpressed in pancreatic cancer and in dysplastic lesions in chronic pancreatitis . Am. J. Pathol. 1999 ; 155 ( 3 ) : 815-822 .
- 6) Omi T<sup>1, 5)</sup> , Honda M<sup>1)</sup> , Yamamoto K<sup>2)</sup> , Hata M<sup>3)</sup> , Akimoto M<sup>4)</sup> , Asano G , Kawana S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Queen:s Square Medical Center, Kanagawa , <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Aiiiku Hospital , <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School, 2nd Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School , <sup>5)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Histologic effects of ruby laser hair removal in japanese patients . Laseres in Surg. Med. 1999 ; 25 : 451-455 .
- 7) Machida M<sup>1)</sup> , Kameyama K , Asano G , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ( MM, TK ) , Nippon Medical School ): Fluorescence spectroscopic and histochemical analysis using, hematoporphyrin as a microenvironmental probe for atherosclerotic change in the human aorta . Lab. Invest. 1999 ; 79 ( 6 ) : 733-745 .
- 8) Yano M<sup>1)</sup> , Naito Z , Yokoyama M<sup>1)</sup> , Shiraki Y , Ishiwata T , Inokuchi M<sup>1)</sup> , Asano G ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ): Expression of hsp90 and cyclin D1 in human breast cancer . Cancer Letters 1999 ; 137 : 45-51 .
- 9) Takashi E , Wang Y<sup>1)</sup> , Ashraf M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati Medical Center ): Activation of mitochondrial KATP channel elicits late preconditioning against myocardial infarction via protein kinase C signaling pathway . Circ. Res. 1999 ; 85 : 1146-1153 .
- 10) Matsumoto K , Yamamoto T , Min W , Yamada N , Asano G , Moriyamal M , Matsumoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Juntendo University, School of Medicine, Tokyo, Japan ): Ossifying fibromyxoid tumor of soft parts : Clinicopathologic, immunohistochemical and ultrastructural study of four cases . Pathol. Internat. 1999 ; 49 : 742-746 .
- 11) Kudo M , Yokoyama M , Asano G : Effects of quercetin and sunphenon on responses of cancer cells to heat shock damage . Exp. Mol. Pathol. 1999 ; 66 : 66-75 .
- 12) Matsumoto K , Watanabe Y , Asano G : Thyroid papillary carcinoma arising in ectopic thyroid tissue within a branchial cleft cyst . Pathology International 1999 ; 49 : 444-446 .
- 13) Hirai K , Yokoyama M , Asano G , Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Department of Surgery ): Expression of cathepsin B and cystatin C in human colorectal cancer . Hum. Pathol. 1999 ; 30 : 680-686 .
- 14) Liu A-M<sup>1)</sup> , Ghazizadeh M<sup>2)</sup> , Onouchi Z<sup>3)</sup> , Asano G ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopc Researches , <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Devison of Pediatrics, Children's Research Hospital, Kyoto Prefectural Univiersity of Medicine ): Ultrastructural characteristics of myocardial and coronary microvascular lesions in kawasaki disease . Microvasc. Res. 1999 ; 58 ( 1 ) : 10-27 .
- 15) Mori O , Haseba T<sup>1)</sup> , Kameyama K , Shimizu H , Kudoh M , Ohaki Y , Arai Y<sup>2)</sup> , Yamazaki M<sup>2)</sup> , Asano G ( <sup>1)</sup> Department of Legal Medicine , <sup>2)</sup> 2nd Department of Internal Medicine , <sup>3)</sup> ): Histological distribution of class III alcohol dehydrogenase in human brain . Brain Res. 2000 ; 852 : 186-190 .
- 16) Wei L , Guo F , Kudo M , Asano G : Epithelial and stromal changes after castration and testosterone treatment in rat prostate . Conn. Tissue 2000 ; 32 : 17-25 .
- 17) Lu Y P , Nishigai K , Ishiwata T , Asano G : Differential expression of hepatocyte growth factor and its receptor ( c-Met ) in a rat artificial anus model . Wound Rep Reg 2000 ; 8 : 59-67 .

- 18) Takashi E, Ashraf M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati Medical Center): Pathologic assessment of myocardial cell necrosis and apoptosis after ischemia and reperfusion with molecular and morphological markers. *J Mol Cell Cardiol* 2000; 32: 209-224.
- 19) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): リンパ節の細胞診における pitfalls: その原因別分類と対策. *日本臨床細胞学会関東連合会誌* 1998; (12): 47-52.
- 20) 松久威史<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 伊藤 博<sup>1)</sup>, 吉原一郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* 感染からみた胃ポリープ. *臨床と研究* 1999; 76.
- 21) 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): Sydney System の評価: 3点生検法を用いて. *消化器科* 1999; 28: 647-654.
- 22) 松久威史, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* 感染の臨床的観察. *日医大誌* 1999; 66: 222-228.
- 23) 松久威史<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 権田昌洋<sup>1)</sup>, 中村 洋<sup>1)</sup>, 吉野槇一<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>付属病院リウマチ科): レバミピドにて組織学的胃炎の改善を認めた関節リウマチ患者の2例. *臨床と研究* 1999; 76: 143-148.
- 24) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* 陽性消化性潰瘍における背景慢性胃炎の組織学的研究: 胃潰瘍と十二指腸潰瘍の相違. *消化器内視鏡の進歩* 1999; 54: 90-91.
- 25) 石渡俊行, 浅野伍朗: 広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査(4) —その数値をどう読むか— 尿中塩基性線維芽細胞増殖因子. *日本臨床* 1999; 57(増刊): 589-592.
- 26) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup>同整形外科): 穿刺吸引細胞診の役割. *病理と臨床* 1999; 17: 886-893.
- 27) 石内直樹<sup>1,2)</sup>, 吉野槇一<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>白十字総合病院整形外科・リウマチセンター,<sup>2)</sup>付属病院リウマチ科): 慢性関節リウマチ滑膜における eNOS および iNOS の発現. *リウマチ* 1999; 39(5): 749-756.
- 28) 石渡俊行, 西海けい子, 川原清子, 浅野伍朗: 組織標本上での messenger RNA 発現細胞検出: Digoxigenin labeled probe を用いた in situ hybridization (ISH) 法の技術と留意点. *日医大誌* 2000; 67(1): 38-41.
- (2) 総説:
- 1) Asano G, Wang R, Kameyama K, Yamada N, Onda M, Naio Z, Yokoyama M: Risk factors and pathogenesis of atherosclerotic lesion. *J Nippon Med. Sch.* 1999; 66(6): 4-13.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 亀山孝二, 長谷場健<sup>1)</sup>, 王 若皎, 手塚 潔, 町田 稔, 恩田宗彦, 森 修, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>法医学): 冠動脈平滑筋細胞の膜変化とアルコール脱水素酵素(ADH)の発現. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 2) 町田 幹<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 恩田宗彦, 内藤善哉, 横山宗伯, 山田宣孝, 浅野伍朗, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 血管壁での HDL (ApoA-1), LDL (Apo B) の分布の変化と動脈硬化病変の差異. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.

### (2) ワークショップ:

- 1) Haseba T<sup>1)</sup>, Kameyama K, Mashimo K<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Legal Medicine): Complex contribution of liver class I and class III ADHs to alcohol metabolism. アルコール関連疾患の研究に関する日米共同ワークショップ(東京), 1998. 11.
- 2) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>外科学第一): 中国, タイ, ベトナム人にお

ける *Helicobacter pylori* 感染，背景胃粘膜の比較観察．*Helicobacter pylori* 感染の診断と治療に関するコンセンサス会議，1999．11．

(3) 一般講演：

- 1) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N, En Y D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科)：Study of *Helicobacter pylori* infection and gastroduodenal disease in China (Beijing) and Japan．中日消化内鏡及消化病學術交流會(中国，瀋陽)，1999．6．
- 2) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Yamada N(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>外科第1)：An endoscopic observation of *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosa in Asian people．11th Asian Pacific Congress of Gastroenterology(中国，香港)，2000．3．
- 3) 三科 香<sup>1)</sup>，桐山智成<sup>1)</sup>，手塚 潔，菅沼(清水)眞澄<sup>1)</sup>，七戸和博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>実験動物)：スナネズミの臭腺について．平成11年度日仏獣医学会総会(東京)，1999．1．
- 4) Mwanatambwe M, Fukunishi Y<sup>1)</sup>, Yajima M<sup>2)</sup>, Suzuki K<sup>2)</sup>, Asiedu K<sup>3)</sup>, Yamada N, Asano G(<sup>1)</sup>National Sanatorium, Matsuoka Hoyo-en. Aomori. Japan, <sup>2)</sup>National Leprosy Research Institute, Tama. Japan, <sup>3)</sup>Global Tuberculosis Program, World Health Organization. Geneva, Switzerland)：Clinical and histopathological findings of buruli ulcer．第73回日本ハンセン病学会総会，2000．3．
- 5) 松久威史<sup>1)</sup>，権田昌洋<sup>1)</sup>，日下部史郎<sup>1)</sup>，羽山享宏<sup>1)</sup>，山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科)：The Updated Sydney Systemに基づく慢性胃炎の胃内分布：*Helicobacter pylori*陽性消化性潰瘍の観察．第85回日本消化器病学会総会，1999．4．
- 6) 松久威史<sup>1)</sup>，山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科)：タイ王国における胃十二指腸疾患の特徴：*Helicobacter pylori*感染と慢性胃炎の胃内分布．第57回日本消化器内視鏡学会総会，1999．5．
- 7) 亀山孝二，長谷場 健<sup>1)</sup>，手塚 潔，王 若皎，町田 稔，恩田宗彦，森 修，浅野伍朗(<sup>1)</sup>法医学)：冠動脈の粥腫破壊を伴う脂質蓄積と疎水環境における平滑筋細胞のアルコール脱水素酵素(ADH)発現．第31回日本動脈硬化学会総会，1999．6．
- 8) 王 若皎，秦 漢娟，工藤光洋，横山宗伯，浅野伍朗：血管平滑筋細胞の増殖制御機構に関する研究．第31回日本動脈硬化学会総会，1999．6．
- 9) 森 修，鈴木恒道<sup>1)</sup>，浅野伍朗，渡部英樹<sup>2)</sup>，真柳任昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院病理，<sup>2)</sup>東京警察病院脳神経外科)：難治性てんかんの外科病理．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 10) 新井裕至<sup>1)</sup>，山崎峰雄<sup>1,3)</sup>，森 修，村松浩美，浅野伍朗，岩坪 威<sup>2)</sup>，片山泰戯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2，<sup>2)</sup>東京大学大学院薬学系研究科臨床薬学，<sup>3)</sup>初石病院神経内科)：アルツハイマー型およびLewy小体型痴呆における-synuclein陽性構造物の検討．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 11) 松久威史<sup>1)</sup>，山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科)：老年者慢性関節リウマチ患者における*Helicobacter pylori*感染，胃病変の臨牀的観察．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 12) 群司直哉<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>1)</sup>，永島正一<sup>1)</sup>，石渡俊行，横山宗伯，浅野伍朗(<sup>1)</sup>リウマチ科)：関節リウマチにおける炎症とオピオイドレセプターとの関連．日本リウマチ学会総会，1999．6．
- 13) 小林 匡<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，会田邦晴<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科学第一)：粘液性膵嚢胞疾患の増殖能に関する検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 14) 山村 進<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，井上松応<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，小林匡<sup>1)</sup>，会田邦晴<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科学第一)：RGDpeptideのハムスター膵癌腹膜播種抑制効果に関する検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 15) 田中宣威<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>2)</sup>，横井公良<sup>2)</sup>，京野昭二<sup>2)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>，小泉岐博<sup>2)</sup>，高橋由至<sup>2)</sup>，古川清憲<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院・外科，<sup>2)</sup>外科学第一)：大腸癌肝転移症例における

VEGF および matrix metalloproteinase 9 (MMP 9) 発現の意義 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .

- 16) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 秋丸疏甫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 工藤光洋, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 ): アルコール代謝酵素の遺伝的個体差と肝がん発症および cytochrome p450 2E1 ( CYP2E1 ) の肝組織における局在と遺伝子多型性との関連 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 17) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松下洋久<sup>2)</sup>, 工藤光洋, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 , <sup>2)</sup> ニチレイ ): 残胃のがん発生機序の解明 : Cytochrome p4502E1 ( CYP2E1 ) の遺伝子多型性および酵素活性の個体差との関連 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 18) 福原宗久<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 井上松応<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林匡<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 ): 微小血管密度との関連からみた膵癌肝転移巣と肝内移植巣における VEGF 発現の実験的検討 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 19) 柳 健<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 井上松応<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林匡<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 ): Angiostatin の実験膵癌肝転移におよぼす転移抑制効果 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 20) 松下 晃<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 前川隆司<sup>2)</sup>, 吉岡貴幸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第一 , <sup>2)</sup> 塩野義中央研 ): MMP 阻害剤 ( MMI-166 ) の実験膵癌における抗腫瘍効果の検討 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 21) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 第二病院・消化器センター ): 大腸癌における keratinocyte growth factor ( KGF ) とそのレセプターの発現 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 22) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 高橋由至<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 高崎秀明<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院・外科 , <sup>2)</sup> 外科学第一 ): 早期大腸癌における p53 , p21 , p27 の発現 . 第58回日本癌学会総会 , 1999 . 9 .
- 23) 王 春梅, 百束比古, 石渡俊行, 浅野伍朗, 中沢南堂 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科 ): ケロイドおよび肥厚性瘢痕における p53 遺伝子変異の発現の検討 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 24) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 穿刺吸引材料に対する電顕的検索が診断に有用であった乳癌の1例 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 25) 福原宗久<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 呂 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 井上松松<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 石渡俊行 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 ): 実験膵癌の肝転移巣と肝内移植巣におけ VEGF 発現の意義 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 26) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 福原宗久, 柳 健, 山村 進, 井上松松, 中村慶春, 小林 匡, 会田邦晴, 相本隆幸, 横山 正, 江上 格, 田尻 孝, 内藤善哉, 浅野伍朗, 前川隆司<sup>2)</sup>, 吉岡貴幸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第一 , <sup>2)</sup> 塩野義製薬中央研究所 ): 実験膵癌における膵内移植モデルにおける MMP 阻害剤 ( MMI-166 ) の抗腫瘍効果の検討 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 27) 柳 健<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗 ( <sup>1)</sup> 外科学第一 ): 実験膵癌肝転移モデルにおける angiostatin の転移抑制効果 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 28) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 権田昌洋<sup>1)</sup>, 山田宣孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科 ): Helicobacter pylori 感染からみた食道炎 : 血清ガストリン値 , ペプシノゲン I/II 比との関連を含めて . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
- 29) 日下部史郎<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科 ): 疣状 ( びらん性 ) 胃炎の内視鏡的検討 : Helicobacter pylori 感染を含めて . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .

- 30) 載 威<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 劉 効蘭<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 四塩化炭素による慢性肝傷害にたいする促肝細胞増殖因子の治療効果. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 31) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>多摩永山病院外科): 約10年間の緩慢な臨床経過を示す肺原発CD5<sup>+</sup> low-grade B-cell MALT lymphomaと考えられる1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 32) 藤井雄文, 西海けい子, 手塚 潔, 河本陽子, 川原清子, 西垣龍太郎, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗, 菅沼真澄<sup>1)</sup>, 七戸和博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>実験動物管理室): ストレプトゾトシン投与後のスナネズミの心臓と大動脈におけるAGEs, RAGE, iNOSの局在. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 33) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>外科学第一): アジア人における背景胃粘膜の観察: Helicobacter pylori感染との関連も含めて. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 34) 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): 中国(北京)と日本におけるHelicobacter pylori感染, 胃十二指腸疾患の比較観察. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 35) 松久威史<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): 除菌前の尿素呼気試験値からみたHelicobacter pylori除菌率. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 36) 秦 漢娟, 王 若皎, 藤井雄文, 工藤光洋, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞の形質変換への細胞外基質の役割. 第10回 日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 37) 王 春梅<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 浅野伍朗, 中沢南堂<sup>(1)</sup>付属病院形成外科): ケロイド及び肥厚性瘢痕におけるp53遺伝子変異の発現の検討. 第10回 日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 38) 呂 月平, 石渡俊行, 川原清子, 西海けい子, 浅野伍朗: ラットの人工肛門治療モデルにおけるhepatocyte growth factor (HGF) とHGF receptor (c-met) の発現とその役割. 第10回 日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 39) 徐 光, 工藤光洋, 藤井雄文, 川原清子, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: ラット心筋虚血再灌流モデルにおけるリン酸化MAPKsの局在と超微形態学的観察. 第10回 日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 40) 孫 瑞岐<sup>1)</sup>, 永島正一<sup>1)</sup>, 和宇慶晃一<sup>1)</sup>, 石神 伸<sup>1)</sup>, 吉野槇一<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>付属病院リウマチ外科): 関節リウマチに合併したprotein S欠損症: 人工股関節置換術後肺塞栓症をおこした1例. 第10回 日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 41) 下村隆保, 工藤光洋, 徐 光, 藤井雄文, 川原清子, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: ラット心筋虚血再灌流モデルにおけるリン酸化MAPKsの局在と超微形態学的観察. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1999. 11.
- 42) 秦 漢娟, 王 若皎, 藤井雄文, 工藤光洋, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞の形質変換への細胞外基質の役割. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1999. 11.
- 43) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 渡辺国博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>脳神経外科学): 培養ヒト悪性グリオーマ細胞における抗microtubule剤Estramustine誘発アポトーシスの電子顕微鏡学的研究. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1999. 11.
- 44) 新井 悟<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 五味淵誠<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同胸部・心臓血管・呼吸器外科): 肺びまん性過誤腫性脈管筋腫症(LAM)の病理組織学的・免疫組織化学的・超微形態学的検索. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1999. 11.
- 45) 早澤久美<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 新井裕至<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>内科学第二): 消化管症状を伴うMELASM (Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes)の腸管超微形態. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1999. 11.
- 46) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 村瀬幸広<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯, 古川清憲<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第一): 男性の乳腺アポクリン癌の1

例．第38回日本臨床細胞学会秋期大会 ，1999．11．

- 47) 呂 月平，石渡俊行，西海けい子，川原清子，浅野伍朗：ラット人工肛門モデルの諸臓器における Hepatocyte Growth Factor (HGF) 産生動態の検討．第29回創傷治癒研究会，1999．12．
- 48) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二，恩田宗彦，内藤善哉，浅野伍朗，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：大動脈硬化巣におけるヘマトポルフィリンを用いた微小環境変化の蛍光スペクトル解析．第40回日本脈管学会総会，1999．12．
- 49) 松久威史<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>2)</sup>，山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>外科学第一)：タイ人における Helicobacter pylori 感染，萎縮，腸上皮化生：日本人との比較観察．第69回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．12．
- 50) 矢島幹久<sup>1)</sup>，成田 稔<sup>1)</sup>，山田宣孝，浅野伍朗(<sup>1)</sup>国立療養所全生園)：ハンセン病の末梢神経病変と血管．第73回日本ハンセン病学会総会，2000．3．

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、教室員および大学院生が一丸となって感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などの研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。また講座主任高橋が、昨年6月より客員教授として赴任している京都大学においても、京都大学大学院生ならびに助手の福島らとともにサルを用いたHIV感染抵抗性の解明に向けた研究を進めている。

感染症学および感染免疫学：[A]エイズウイルスに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1)感染抵抗性の本体と想定されてきたウイルス特異的キラーT細胞(CTL)を優位に誘導するHIV-V3領域を導入した組み換えワクチンアウイルス、および経鼻免疫可能な組み換えインフルエンザウイルスの作成に成功した。(2)また、こうしたCTLの活性が血液中に浮遊したウイルス断片により抑制されるメカニズムならびに活性抑制されたCTLの細胞内動態を追跡したところ、CTLの活性化に関わる新たな液性因子を見出した。(3)DNAワクチン開発の過程で遺伝子内に特殊な配列CpGモチーフが存在すると、効率的に樹状細胞が取り込みCTLを活性化することを発見した。(4)京都大学との共同研究により感染抵抗性を獲得したサルから、感染モデル系を樹立することに成功した。(5)また、ウイルスの細胞内侵入抑制に関与するケモカインの多量体作成にも着手し、新たな感染制御法の開発にも取り組んでいる。[B] Leishmaniaに対する免疫応答の検索をすすめる、細胞性免疫の感染防御における重要性を確認した。[C](1)ヘリコバクター・ピロリの胃粘膜への着生に関するウレアーゼの中和抗体認識部位を同定し、それがこの酵素活性の鍵を握るCoの結合部位に一致することを見出した。[D]MRSAなどの薬剤耐性菌を制御し院内感染拡大を防ぐための方策を検討している。

腫瘍免疫学：(1)腫瘍化により消失した免疫活性化分子であるB7分子を腫瘍細胞に導入発現させたところ、この腫瘍細胞により腫瘍特異的CTLが誘導された。(2)こうしたCTLは腫瘍細胞表面より弱酸抽出法により腫瘍特異抗原分離・採取した抗原物質を特異的に認識していることを確認するとともに、(3)この抗原物質をB7の発現している樹状細胞とともにモデル動物に接種したところ、特異的CTLが誘発できることを見出した。(4)また、再発した腫瘍細胞上からはB7分子のみならず腫瘍抗原提示能も抑制されている結果を得た。以上を基に現在癌ワクチンの開発を進めている。

アレルギー・膠原病学：[A](1)卵白OVAを経口投与した場合にはアレルギーの原因である特異的IgE抗体産生が抑制される寛容状態が誘導されること、ならびにこのOVAを門脈投与した場合には逆に抗体産生が亢進されることを見出し、(2)OVA特異的なヘルパーT細胞レセプターを発現したTgマウスを用いてそのメカニズムを探ることにより、IgEの関与するアレルギーの制御法の研究に着手している。

### 研究業績

#### 論文

[1998年度追加分]

#### 原著：

- 1) Ise W<sup>1)</sup>, Totsuka M<sup>1)</sup>, Takato R<sup>1)</sup>, Hachimura S<sup>2)</sup>, Sato T<sup>2)</sup>, Ametani A<sup>1)</sup>, Kumagai Y, Habu S<sup>2)</sup>, Kaminogawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, University of Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Immunology, Tokai University School of Medicine ): Primary response of naive CD4<sup>+</sup> T cells to amino acid-substituted analogs of an antigenic peptide can show distinct activation patterns: Th1- and Th2-type cytokine secretion, and helper activity for antibody production without apparent cytokine secretion. FEBS Letters 1999; 465: 28-33.

(1) 原著 :

- 1) Takahashi M , Nishimura T<sup>1)</sup> , Yokomuro K ( <sup>1)</sup>Department of Urology, Nippon Medical School ): Quantitative analysis of cytokine gene expression in the liver . *Immunol. Cell Biol* 1999 ; 77 ( 2 ): 139-142 .
- 2) Terabe M , Hatabu T<sup>1)</sup> , Takahashi H , Onodera T<sup>1)</sup> , Matsumoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Immunology, School of Agriculture and Life Science, University of Tokyo ): *Leishmania amazonensis* infection in nude mice . *Exp. Animal* 1999 ; 42 : 119-123 .
- 3) Mabuchi A , Shimizu M , Kikuchi K , Nakagawa Y , Takahashi H , Kakiuchi T<sup>1)</sup> , Yokomuro K ( <sup>1)</sup>Department of Immunology, Toho University School of Medicine ): Cultured murine parenchymal liver cells induce differentiation of bone marrow cells to macrophage like cells which present antigen to Th1 clones but inhibit their proliferation by nitric oxide and prostaglandins . *Cell. Immunol* 1999 ; 196 : 14-22 .
- 4) Nakatsuka K , Sugiyama H , Nakagawa Y , Takahashi H : Purification of antigenic peptide from murine hepatoma cells recognized by class-I major histocompatibility complex molecule-restricted cytotoxic T-lymphocytes induced with B7-1-gene transfected hepatoma cells . *J. Hepatol* 1999 ; 30 : 1119-1129 .
- 5) Terabe M , Kuramochi T<sup>1)</sup> , Hatabu T<sup>1)</sup> , Ito M<sup>1)</sup> , Ueyama Y<sup>1)</sup> , Katakura K<sup>1)</sup> , Kawazu S<sup>1)</sup> , Onodera T<sup>1)</sup> , Matsumoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Immunology, School of Agriculture and Life Science, University of Tokyo ): Non-ulcerative cutaneous lesion in immunodeficient mice with *Leishmania amazonensis* . *Parasitol. Int* 1999 ; 48 : 47-563 .
- 6) Matsui S , Ahlers J. D<sup>1)</sup> , Votmeyer A<sup>1)</sup> , Terabe M , Tsukui T , Carbone D. P<sup>1)</sup> , Liotta L. A<sup>1)</sup> , Berzofsky J. A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>米国NCI, NIH ): A model for CD8<sup>+</sup> CTL tumor immunosurveillance and regulation of tumor escape by CD4<sup>+</sup> T cells through an effect on quality of CTL . *J. Immunol* 1999 ; 163 : 184-193 .
- 7) Chiba M<sup>1)</sup> , Takahashi H , Kato K<sup>1)</sup> , Nakagawa Y , Fukushima T , Iinuma H<sup>1)</sup> , Nerome K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Medical Development Department of the Nisshin Oil Misl, Ltd. , <sup>2)</sup>Second Department of Surgery, Teikyo Univ. School of Med. , <sup>3)</sup>Department of Virology I, National Institute of Health ): Recombinant vaccinia virus expressing an immunodominant epitope of HIV-1 envelope protein within an influenza hemagglutinin cassette predominantly prime epitope-specific CD8<sup>+</sup> CTL . *Arch. Virol* 1999 ; 144 : 1469-1485 .
- 8) Wakabayashi A , Utsuyama M<sup>1)</sup> , Hosoda T<sup>1)</sup> , Sato K<sup>1)</sup> , Hirokawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pathology and Immunology, School of Medicine, Tokyo Medical & Dental University ): Differential age effect of oral administration of an antigen on antibody response : an induction of tolerance in young mice but enhancement of immune response in old mice . *Mech. Ageing Dev* 1999 ; 109 : 191-201 .
- 9) Shinya E , Dervillez X , Edward-Levy F , Duret V , Brisson E , Ylisastigui L , Levy M. C , Cohn J. H. M , Klatzmann D : In-vivo delivery of therapeutic proteins by genetically-modified cells : comparison of organoids and human serum albumin alginate-coated beads . *Biomed. & Pharmacother* 1999 ; 53 : 471-483 .
- 10) Hiromoto Y , Yamazaki Y , Fukushima T , Saito T , Lindstrom. S. E , Omoe K , Nerome R , Lim W , Sugita S , Nerome K : Evolutionary characterization of the six internal genes of H5N1 human influenza A virus . *J. Gen. Virol* 2000 ; 81 : 1293-1303 .
- 11) Takeshita T<sup>1)</sup> , Satomi M<sup>1)</sup> , Akira S<sup>1)</sup> , Nakagawa Y , Takahashi H , Araki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department Gynecology ): Preventive effect of monoclonal antibodies to ICAM-1 and LFA-1 on murine spontaneous fetal resorption . *Am. J. Rep. Immunol* 2000 ; 43 : 180-185 .
- 12) 野呂瀬嘉彦 , 高橋秀実 : 手指に付着した細菌群の実体と腫瘍排除を司る免疫システム . *日医大誌* 1999 ; 66 ( 3 ): 158-159 .
- 13) 大園英一 , 栗原 怜<sup>1)</sup> , 大和田一博<sup>1)</sup> , 桜井裕成<sup>1)</sup> , 小野田教高<sup>1)</sup> , 竹内正至 , 葉山修陽<sup>2)</sup> , 飯野靖彦<sup>2)</sup> , 武田



竜司<sup>3)</sup>, 佐治 守<sup>3)</sup>, 米島秀雄<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 大国寿士 ( <sup>1)</sup>春日部秀和病院・腎内科, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>第一病院感染対策委員会 ): 外来維持血管透析患者の上気道における細菌学的検討. 透析会誌 1999 ; 32 : 185-190 .

14) 太刀川貴子<sup>1)</sup>, 渡理英二, 染谷健二<sup>2)</sup>, 池田年純<sup>3)</sup>, 荒明美奈子<sup>4)</sup>, 藤巻わかえ<sup>5)</sup>, 金井孝夫<sup>6)</sup>, 内山竹彦<sup>5)</sup>, 宮永嘉彦<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京女子大・眼科, <sup>2)</sup>国立感染研究所, <sup>3)</sup>オムロ・オーエムシー, <sup>4)</sup>明治製菓, <sup>5)</sup>東京女子医大・微生物, <sup>6)</sup>同・実験動物中央施設 ): 各種病原微生物に対する弱酸性電解水の効果. 環境感染 1999 ; 14 ( 4 ): 255-263 .

## (2) 研究報告書 :

1) 高橋秀実, 中川洋子, 高橋めぐみ : HIV ペプチド断片によるCTL 活性抑制 : そのメカニズムの解析 . 平成10年度 厚生省HIV 感染 / AIDS の感染病態とその生体防御に関する研究報告書 1999 ; pp72-76 .

## (3) 総説 :

1) 熊谷善博 : クローン作製技術 I. 現状 . バイオサイエンスインダストリー 1999 ; 57 : 44-47 .

2) 熊谷善博 : クローン作成技術 II. 未来 . バイオサイエンスインダストリー 1999 ; 58 : 44-47 .

3) 高橋秀実 : AIDS 最新の進歩 : ワクチン開発の現状と展望 . BIO Clinica 1999 ; 14 : 440-444 .

4) 高橋 秀実 : DNA ワクチン : その実体と可能性 . 医学の歩み 1999 ; 189 : 416-417 .

5) 斉藤哲也<sup>1)</sup>, 平松太一<sup>1)</sup>, 三井健一<sup>1)</sup>, 二見端子<sup>1)</sup>, 稲田祐二<sup>1)</sup>, 熊谷善博, 西村裕之<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>桐蔭横浜大学・人間工学 ): 抗原特異的免疫寛容 . BIO INDUSTRY 1999 ; 16 : 9-16 .

6) 高橋秀実 : 胃炎慢性化とピロリ菌ウレアーゼに対する抗体産生 . 臨床免疫 1999 ; 32 : 721-725 .

7) 中川洋子, 高橋秀実 : エイズワクチン開発の現状 . ワクチン最前線 1999 ; 3 : 83-91 .

8) 斉藤哲也<sup>1)</sup>, 平松太一<sup>1)</sup>, 三井健一<sup>1)</sup>, 熊谷善博, 佐藤健人<sup>2)</sup>, 垣生園子<sup>2)</sup>, 小寺 洋<sup>1)</sup>, 廣戸三佐雄<sup>1)</sup>, 二見端子<sup>1)</sup>, 稲田祐二<sup>1)</sup>, 西村裕之<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>桐蔭横浜大学・人間工学, <sup>2)</sup>東海大医・免疫 ): 抗原の修飾とトランス誘導 . アレルギー 1999 ; 6 : 416-423 .

9) 高橋秀実 : 樹状細胞と腫瘍免疫 . 癌と化学療法 1999 ; 14 : 2121-2126 .

10) 熊谷善博 : アレルギー抑制モデルマウスと免疫療法 . 環境と健康 2000 ; 13 : 35-44 .

## 著 書

1) 高橋秀実 : [ 分担 ] エイズの治療戦略 . 世界大百科事典, 1999 ; pp227-228, 平凡社 .

2) 高橋秀実 : [ 分担 ] ワクチン接種 . 免疫学イラストレイティッド ( 多田富雄 ), 2000 ; pp263-272, 南江堂 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

1) 高橋秀実 : ウイルス感染と免疫 . 第2回肝病態・治療研究会, 1999 . 5 .

2) 高橋秀実 : 細胞性免疫による体内制御 . 第61回東京医科大学免疫・アレルギー研究会, 1999 . 5 .

3) 熊谷善博 : アレルギー制御モデルマウスと免疫療法 . 体質研究会, 1999 . 10 .

### (2) シンポジウム :

1) Sugiyama H, Yanagie H<sup>1)</sup>, Misao S<sup>2)</sup>, Kakumu S<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup>Tumor Surgery Institute of Medical Science, Univ. of Tokyo. 2) First Internal Medicine, Aichi Medical University ): Identification and analysis of cytotoxic element of hepatitis C virus NS2 . Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, 2000 ( Steamboat, Colorado, USA ), 2000 . 1 .

2) Takahashi H, Norose Y, Nakagawa Y, Takahashi M, Sakagushi M<sup>1)</sup>, Takebe Y<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>AIDS Research Center, National Institute of Infections Disease ): Efficient priming of HIV-specific CD8<sup>+</sup> CTL with dendritic cells presensitized with HIV-DNA plasmid . The 12th Joint Scientific Meeting of AIDS( Santsf, New Mexico, USA ), 2000 . 3 .

3) 中塚雄久, 中川洋子, 清水真澄, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup>, 杉山弘高, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>内科第3): マウス肝細胞癌特異的CTLが認識するClass I MHC分子拘束性peptideの解析. 第35回日本肝臓学会, 1999. 6.

(3) 一般講演:

- 1) Sakaue G<sup>1)</sup>, Hiroi T<sup>1)</sup>, Kunisawa J<sup>1)</sup>, Fukushima T, Takahashi H, Kiyono H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Mucosal Immunology Research Institute for Osaka University Microbial Diseases): HIV mucocosal Vaccine: Nasal Immunization with gp160 encapsulated HVJ-liposomeInduces Antigen-specific IgA and IgG Responses in Mucosal and Systemic Tissue. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 2) 福島達伸, 栗林秀樹, 中川洋子, 渡理英二, 速水正憲<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>阪大・微研・免疫科学): HIV-1 V3領域内P18を導入した組み換えインフルエンザウイルスの作成とその免疫誘発能の検索. 第47回日本ウイルス学会, 1999. 11.
- 3) 上坂浩実<sup>1)</sup>, 福島達伸, 杉山弘高, 宇井雅弘<sup>1)</sup>, 田丸敬次郎<sup>1)</sup>, 寺部正記, 速水正憲<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>京大・ウイルス研・感染病態): SHIV感染防御能獲得サルを用いた感染抵抗性の解析 ( <sup>1)</sup>SHIV感受性CD4陽性細胞株の樹立. 第47回日本エイズ学会, 1999. 11.
- 4) 榎瀬良美<sup>1)</sup>, 三宅在子<sup>1)</sup>, 上坂浩実<sup>1)</sup>, 田丸敬次郎<sup>1)</sup>, 宮崎恭行<sup>1)</sup>, 宇井雅弘<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 速水正憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>京大・ウイルス研・感染病態): nef 遺伝子欠損SHIVのアカゲザルへの経鼻投与による感染と粘膜免疫誘導. 第13回日本エイズ学会, 1999. 12.
- 5) 熊谷善博, 沢田信一郎<sup>1)</sup>, 大脇敦子, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>理化学研究所ライフサイエンス): 抗体超可変部に多価に表現したHIV-1 V3エピトープ移植抗体を利用したHIV感染制御の試み. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 6) 伊勢 渉<sup>1)</sup>, 高東留美<sup>1)</sup>, 八村敏志<sup>1)</sup>, 佐藤健人<sup>2)</sup>, 飴谷章夫<sup>1)</sup>, 熊谷善博, 垣生園子<sup>2)</sup>, 戸塚 護<sup>1)</sup>, 上野川修一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東大・応用生命科学, <sup>2)</sup>東海大・免疫): 抗原の濃度の違いにより, naive CD4<sup>+</sup> T細胞に生じる抗体産生誘導能変化の機構解析. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 7) 松井 聡, 高橋秀実, Jay A. Berzofsky<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>米国・NCI, NIH): 腫瘍再発を促進するCD4<sup>+</sup>T細胞と腫瘍拒絶におけるCD8<sup>+</sup>CTLの細胞障害活性ならびにIFN-g産生の役割. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 8) 中川洋子, 清水真澄, 高橋秀実: HIV-env抗原特異的キラーT細胞前駆細胞のエピトープペプチド処理による活性抑制. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 9) 中島裕史, 高橋めぐみ, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実: 胸腺細胞のapoptosis誘導に対する局所麻酔薬の影響. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 10) 斉藤哲也, 平松太一, 黒沢 大, 熊谷善博, 佐藤健人, 垣生園子, 小寺 洋, 廣戸三佐雄, 松島端子, 稲田祐二, 西村裕之: ポリエチレングリコール (PEG) 修飾抗原による抗原特異的免疫寛容誘導の機序. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 11) 高橋秀実, 野呂瀬嘉彦, 中川洋子, 納富香子<sup>1)</sup>, 戸田雅子<sup>2)</sup>, 渡辺くほみ, 坂口雅弘<sup>2)</sup>, 武部 豊 ( <sup>1)</sup>国立感染症研・免疫部, <sup>2)</sup>同エイズ疫学): 樹状細胞を介したHIV-1 env遺伝子による特異的CTLの誘導. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 12) 高橋めぐみ, 中川洋子, 清水真澄, 高橋秀実: 浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞の細胞障害活性抑制の機序: (II) 不応答CTLより産生されるT細胞活性化因子. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 13) 橋口昌章<sup>1)</sup>, 倉岡昌征<sup>1)</sup>, 飴谷章夫<sup>1)</sup>, 佐藤健人<sup>2)</sup>, 熊谷善博, 垣生園子<sup>2)</sup>, 八村敏志<sup>1)</sup>, 上野川修一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東大・応用生命科学, <sup>2)</sup>東海大・免疫): 未感作パリエル板CD4<sup>+</sup>T細胞と未感作脾臓T細胞の差異. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 14) 竹下俊行<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 中川洋子, 高橋めぐみ, 市川雅男, 金 栄淳, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>日本医大・産婦人科): 流産モデルマウス (CBA/J x DBA/2) におけるICAM-1/LFA-1相互作用の意義. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.

- 15) 横須賀忠<sup>1)</sup>, 高瀬 完<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 荒瀬 尚<sup>1)</sup>, 齊藤 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大・遺伝子制御): HIVgp160特異的 TCRトランスジェニックマウスの抗原認識におけるTCRa鎖の重要性. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 16) 若林あや子, 宇津山正典, 熊谷善博, 高橋秀実, 広川勝日: OVAの門脈投与により免疫寛容は誘導されない. 第29回日本免疫学会総会, 1999. 12.

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

今年度は、昨年度に続き行われた『サリン被爆時におけるコンタミネーションの存在』を明らかにするためのバイオロジカル・モニタリングの研究が多彩に展開した。本研究を着実に進めて来た結果として、次年度の科学研究費助成(B)につながったことはさらに研究を進める原動力になろう。同時に免疫関連では、(1)パラ・クロロニトロベンゼン、ジエチルアニリンの免疫毒性に関する研究、(2)NK細胞の作用機序の解明を目的としたヒト・グランザイムのクローニングおよび発現の試み、有機リン中毒関連では、(1)有機リンによるヒト・血清コリンエステラーゼの比活性低下の測定を目的としたモノクローナル抗体の作製、(2)有機リンによる阻害機序の解明を目的としたヒト・アセチルコリンエステラーゼ、ブチリルコリンエステラーゼのクローニングおよび発現の試み、その他、シアンに対する生体防御因子であるメルカプトピルピルピル酸硫黄転移酵素の研究、喫煙の社会的および身体的影響に関する研究、鉛中毒に関する研究など多くの芽が育ちつつある。これらの研究には派手さは無いが、いずれも着実に進められているものとする。

今後、研究室でさらに議論を重ねまた協力して教室の財産であるこれらの研究を大事に育てていきたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ichikawa M, Minami M : Correlations between corticotropin-releasing hormone and L-3, 4-dihydroxyphenylalanine in plasma, and dopamine and prostaglandins in urine in pregnant mothers . Biogenic Amines 1999 ; 15 ( 2 ): 287-306 .
- 2) Mogi M<sup>1)</sup>, Otogoto J<sup>2)</sup>, Ota N<sup>2)</sup>, Inagaki H, Minami M, Kojima K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Aichi-Gakuin Univ. , <sup>2)</sup> Matsumoto Dent. Univ. , <sup>3)</sup> Food and Drug Safety Center ): Interleukin 1 , interleukin 6 ,  $\alpha_2$ -microglobulin, and transforming growth factor- $\beta$  in gingival crevicular fluid from human periodontal disease . Arch. Oral Biol 1999 ; 44 ( 6 ): 535-539 .
- 3) Li Q, Minami M, Hanaoka T<sup>1)</sup>, Yamamura Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute for Science of Labor ): Acute immunotoxicity of *p*-chloronitrobenzene in mice : II. Effect of *p*-chloronitrobenzene on the immunophenotype of murine splenocytes determined by flow cytometry . Toxicology 1999 ; 137 ( 1 ): 35-45 .

##### (2) 研究報告書：

- 1) 稲垣弘文：中毒の指標としての血清コリンエステラーゼのホモ比活性．平成10～11年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 研究成果報告書 2000 .

##### (3) 総説：

- 1) Nagahara N, Ito T<sup>1)</sup>, Minami M ( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. ): Mercaptopyruvate sulfurtransferase as a defense against cyanide toxication : Molecular properties and mode of detoxification . Histol. Histopathol 1999 ; 14 ( 4 ): 1277-1286 .
- 2) 南 正康, 恵 答美：スルフヘモグロビン．日本臨床 1999 ; 57 ( 増刊 ): 737-740 .
- 3) 南 正康, 勝又聖夫：メトヘモグロビン．日本臨床 1999 ; 57 ( 増刊 ): 741-744 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Nagahara N, Minami M : Property of an active site of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase ( In : Session of sulphur-containing amino acids ). 6th International Congress on Amino Acids ( Bonn ), 1999 . 8 .

### (2) 一般講演 :

- 1) 李 卿, 平田幸代, 朴 順愛 : *N, N*-diethylanilineのマウスNK 活性, CTL 活性及びリンパ球幼若化反応に対する影響 . 第72回日本産業衛生学会, 1999 . 5 .
- 2) 前原直樹<sup>1)</sup>, 佐々木司<sup>1)</sup>, 李 卿, 澤 貢<sup>1)</sup>, 守 和子<sup>1)</sup>, 花岡知之<sup>1)</sup>, 渡辺明彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>労働科学研究所 ): 常夜勤タクシー運転手のVPC出現増加での職務ストレスの役割 . 第72回日本産業衛生学会, 1999 . 5 .
- 3) 恵 答美, 南 正康 : サリン被曝者尿中のMPA と弗素のモニタリング . 第21回日本中毒学会総会, 1999 . 7 .
- 4) 葉 恵娟, 勝又聖夫, 南 正康 : 漢方薬中の鉛について ( 2 ). 第21回日本中毒学会総会, 1999 . 7 .
- 5) 永原則之, 中川淑郎<sup>1)</sup>, 南 正康 ( <sup>1)</sup>Technische Univ. Darmstadt ): ラット mercaptopyruvate sulfurtransferase の反応機構 : chloropyruvic acid は mechanism-based inactivator になるか . 第72回日本生化学会大会, 1999 . 9 .
- 6) 稲垣弘文, 恵 答美, 南 正康 : ヒト血清コリンエステラーゼに対するモノクローナル抗体の作成とその応用 . 第72回日本生化学会大会, 1999 . 9 .
- 7) 勝又聖夫, 斉藤麗子<sup>1)</sup>, 南 正康 ( <sup>1)</sup>東京都本郷保健所 ): 医学生に対する三つの禁煙教育の比較検討 . 第58回日本公衆衛生学会総会, 1999 . 10 .
- 8) 若山葉子, 荒牧琢巳<sup>1)</sup>, 植田悠紀子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第一, <sup>2)</sup>長崎シーボルト大 ): 肝炎流行地区の予後の検討 : 24年間の肝疾患死亡の推移 . 第58回日本公衆衛生学会総会, 1999 . 10 .
- 9) 勝又聖夫, 斉藤麗子<sup>1)</sup>, 南 正康 ( <sup>1)</sup>東京都本郷保健所 ): 医学生の喫煙習慣と学業意欲との関連性 . 第70回日本衛生学会総会, 2000 . 3 .

## 12. 法医学講座

### 研究概要

当教室では、以下のような研究を主に行っている。法医学実務としては、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。また、親子鑑定を行い得るよう、DNA分析を含め検査能力の維持を計っている。

#### 1. 臨床法医中毒学

救急医学教室と共同で急性薬物中毒の疑われる入院患者の緊急薬物分析法を開発し、GC/MS・LC/MS等を用いたより精度の高い分析システムの開発に取り組んでいる。また、覚醒剤・コカイン・麻薬等の不法薬物の分析も行っている。さらに、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の薬物分析に取り組んでいる。

#### 2. アルコール代謝

アルコール代謝における中心的酵素であるアルコール脱水素酵素・アルデヒド脱水素酵素の isozyme レベルでの代謝調節を検討し、アルコール感受性に対する個体差の解明に取り組んでいる。また、アルコールの臓器障害の機序やアルコールの溶液構造の影響を究明するため、培養細胞などを用いて生理学的・生化学的実験を行っている。さらに、アルコール脱水素酵素の遺伝子改変による molecular toxicology の研究を進めている。

#### 3. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・病理学第2と共同研究を行っている。

#### 4. その他の研究

- 1) 医事法や生命倫理に関わる種々の問題を法医学的・社会医学的な立場から調査検討している。
- 2) 将来の司法解剖実施を睨み、病理組織学的手法による組織の死後変化を検討している。また、死後経過時間推定に関する研究等の実務的研究を行っている。さらに、トリカブト毒の薬物動態に関する研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mashimo K, Haseba T, Ohno Y : Flow cytometric and fluorescence microscopic analysis of ethanol-induced G<sub>2</sub>+M block : Ethanol dose-dependently delays the progression of the M phase . Alcohol and Alcoholism 1999 ; 34 ( 3 ) : 300-310 .
- 2) Mori O<sup>1)</sup>, Haseba T, Kameyama K<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Kudoh M<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Arai Y<sup>2)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>2nd Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School ) : Histological distribution of class III alcohol dehydrogenase in human brain . Brain Res 2000 ; 852 : 186-190 .
- 3) 富田ゆかり, 仁平 信, 大野曜吉, 佐藤 茂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ) : 主要臓器における早期死後変化の組織学的検討 : パラフィン包埋法とエポキシ樹脂包埋法との比較 . 日本法医学誌 1999 ; 53 ( 2 ) : 207-217 .
- 4) 黒須三恵, 長谷場 健, 大野曜吉 : 刑事事件におけるDNA鑑定に関する法規の欧米との比較 : DNA鑑定の信用性と人権擁護の視点から . 法医学の実際と研究 1999 ; 42 : 309-314 .

##### (2) 研究報告書：

- 1) 大野曜吉, 仁平 信, 林田真喜子 : 薬物中毒, 薬害, 農薬中毒等の予防と原因解明のための毛髪診断研究 : 毛

髪からのパラコート分析 (統括: 中原雄二). 厚生科学研究平成11年度研究報告書 2000; pp147-172.

## 著書

- 1) 吉岡尚文<sup>1)</sup>, 仁平 信, 林田眞喜子, 権守邦夫<sup>1)</sup>, 田中栄之介<sup>2)</sup>, 斉藤 剛<sup>3)</sup>, 高安達典<sup>4)</sup>, 鈴木 修<sup>5)</sup>, 寺田賢<sup>6)</sup>, 木村恒二郎<sup>7)</sup>, 屋敷幹雄<sup>8)</sup>, 奈女良昭<sup>8)</sup>, 宮崎哲次<sup>9)</sup>, 福家千昭<sup>9)</sup>, 影浦光義<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>秋田大学医学部法医学, <sup>2)</sup>筑波大学社会医学系法医学, <sup>3)</sup>東海大学医学部法医学, <sup>4)</sup>金沢大学医学部医学科法医学, <sup>5)</sup>浜松医科大学法医学, <sup>6)</sup>大阪大学医学部法医学, <sup>7)</sup>島根医科大学法医学, <sup>8)</sup>広島大学医学部法医学, <sup>9)</sup>琉球大学医学部法医学, <sup>10)</sup>福岡大学医学部法医学): [分担]薬毒物検査マニュアル, 1999; 日本法医学会.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) Ohno Y, Nihira M, Tomita Y, Hirakawa K, Uekusa K, Haseba T: Concentrations and Eliminations of Aconitine in Poisoned Animal Organs. International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting (Los Angeles), 1999. 8.
- 2) Nihira M, Ohno Y, Hayashida M, Yamada T: New Method of Preparation for Analysis of Aconitine from Various Organs. International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting (Los Angeles), 1999. 8.
- 3) Kurosu M, Haseba T, Ohno Y: Comparison of laws of DNA testing between in Japan and in the Western countries. International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting (Los Angeles), 1999. 8.
- 4) Kurosu M, Ohno Y: Euthanasia in Japan. International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting (Los Angeles), 1999. 8.
- 5) Tomita Y, Nihira M, Ohno Y: Ultrastructural changes of various organs during the early postmortem interval in rats: a comparative study between cervical dislocation and exsanguination. International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting (Los Angeles), 1999. 8.
- 6) Jinno K<sup>1)</sup>, Kawazoe M<sup>1)</sup>, Hayashida M (<sup>1)</sup>Toyohashi Univ. of Technology): Solid Phase Microextraction Coupled with Microcolumn LC for the Analysis of Tricyclic Antidepressants in Human Urine. The 22nd International Symposium on Capillary Chromatography (愛知), 1999. 11.
- 7) Saito Y<sup>1)</sup>, Kawazoe M<sup>1)</sup>, Jinno K<sup>1)</sup>, Hayashida M (<sup>1)</sup>Toyohashi Univ. of Technology): Direct Coupling of Microcolumn Liquid Chromatography with In-Tube Solid-Phase Microextraction for the Analysis of Antidepressants in Human Fluid. The 22nd International Symposium on Capillary Chromatography (愛知), 1999. 11.
- 8) 林田眞喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): パラコート/ダイコート合剤を飲用後短時間で入室した中毒患者体液中パラコートならびにダイコート濃度の推移. 第83次日本法医学会総会, 1999. 4.
- 9) 真下啓子, 長谷場健, 大野曜吉: エタノールの細胞分裂抑制効果と微小管の変化: 培養細胞による検討. 第83次日本法医学会総会, 1999. 4.
- 10) 平川慶子, 植草協子, 仁平 信, 大野曜吉: <sup>1</sup>H-MRS法を用いた死後経過時間の推定に関する基礎的研究. 第83次日本法医学会総会, 1999. 4.
- 11) 仁平 信, 林田眞喜子, 山田丈士, 大野曜吉, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): ネコソギエース®服用の1症例. 第21回日本中毒学会総会, 1999. 7.
- 12) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子 (<sup>1)</sup>形成外科学): 乳房埋入異物の核磁気共鳴装置を用いた化学分析法の検討. 第67回日本医科大学医学部総会, 1999. 9.

- 13) 仁平 信, 大野曜吉, 梶原正弘<sup>1)</sup>, 早川秀幸, 林田眞喜子, 山田丈士, 崔 范来<sup>(1)</sup>杏林大学医学部法医学): Rocky Mountain Poison and Drug Center を見学して. 第68回日本法医学会関東地方会, 1999. 10.
- 14) 長谷場 健, 江口航生<sup>1)</sup>, 清川貴志<sup>1)</sup>, 佐藤裕司<sup>1)</sup>, 中川正宏<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 真下啓子, 崔 范来, 杉本淳一<sup>2)</sup>, 佐藤茂生<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部6年生, <sup>2)</sup>ニッカウヰスキー(株)生産技術研究所): ウィスキー熟成の酩酊およびアルコール代謝に及ぼす影響. 第68回日本法医学会関東地方会, 1999. 10.
- 15) 黒須三恵: 日本における生命倫理学の現状と課題. 第18回日本医学哲学・倫理学会大会, 1999. 10.
- 16) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子(<sup>1)</sup>形成外科学): 乳房埋入異物(シリコン)の核磁気共鳴装置を用いた化学分析法. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 17) 林田眞喜子: 多波長検出器付高速液体クロマトグラフィーを用いた緊急薬毒物分析の現状と問題点: 医薬品急性中毒に関連して. 第137回液体クロマトグラフィー研究懇談会, 1999. 11.
- 18) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子(<sup>1)</sup>形成外科学): 体内埋入異物患者の自己抗体陽性値と摘出後経過の検討. 第22回日本美容外科学会, 1999. 11.
- 19) 王 春梅<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 青木 律<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>1)</sup>, 大野曜吉(<sup>1)</sup>形成外科学): <sup>1</sup>H-NMR法を用いた癒痕組織の代謝学的分析: ケロイドと肥厚性癒痕の分類について. 第29回創傷治癒研究会, 1999.
- 20) 仁平 信, 林田眞喜子, 大野曜吉, 山田丈士, 早川秀幸, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, Subharat T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>Dept. of Legal Medicine, Division of Toxicology, Chiangmai University, Thailand): タイ人の薬物中毒の一症例. 第14回日本中毒学会東日本地方会, 2000. 1.



## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

(1) 平成11年度の文部省、厚生省科学研究費の助成を受けて木村が障害保健福祉事業の身体障害者福祉法における障害認定のあり方に関する研究、精神疾患研究費の委託費を受けて中枢神経疾患の介護機器の開発と応用に関する研究を行っている。教室に事務局をおく医療の質に関する研究会では、感染管理に関する評価基準を策定し、病院で実際に評価を行った。癒しの環境研究では、閉鎖空間における心理的、生理的、免疫学的変化についてボランティアを用いて研究し成果をあげている。国際的には、木村がJICAの依頼を受けて、チリで医療福祉機器の活用に関する指導を行った。日本病院会のストップ エイズ キャンペーン企画委員会として高柳がエイズ教育に取り組んでいる。

(2) 学会活動は介護保険をテーマに日本病院管理学会の例会を教室主催で行った。

(3) リハビリテーション国際セミナー(チリ)や国際ライフサポート学会で木村が、国際医療文化芸術シンポジウムで高柳が招待講演を行い、欧州外科研究学会で救急医療の質の評価をテーマに共同研究者が発表するなどした。教室員が日本の関係諸学会にも多くの発表を行った。

(4) 学生への教育では自主学習で患者の視点から医療を見つめる社会学的研究、精神安寧状態での生理的活動の研究を行った。4,5年の授業は国家試験のブループリントで医療管理が関係する必修項目のうち授業で行うべきものを新しくシラバスに定めた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Takayanagi K, Kawai S<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Hospital ): The cost of Burn Care and implications for efficient care. Clinical Performance and Quality Health Care 1999 ; 7 ( 2 ): 70-73 .
- 2) Tanimoto S, Takayanagi K, Y<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> : The psychological and Physiological Effects of an Intensive Care Unit Environment on Healthy Individuals . Clinical Performance and Quality Health Care 1999 ; 7 ( 2 ): 77-82 .
- 3) Takayanagi K : Healing Environment in The Healthcare Settings . Culture , Health , and the Arts World Symposium 1999 ; 1 ( 1 ): 13-18 .
- 4) Iwai M, Takayanagi K : Perception Towards Death Education II . JJCT 1999 ; ( 4 ): 62-67 .
- 5) Ota H, Tanimoto S, Takayanagi K, Kimura T, Oida T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Public Health Policy, National Institute of Public Health ): A Preliminary Study on the Knowledge and Attitudes of Physicians at Two University Hospitals towards the Medical Insurance System of Japan . 2000 ; 190 ( 2 ): 143-155 .
- 6) 高柳和江, 谷本佐理名, 太田久彦, 木村哲彦 : カルテ開示の日米の意識の比較と医療連携 . グループ診療研究 1999 ; 5 ( 1 ): 34-41 .
- 7) 高柳和江 : 手術と病院管理 : 病院管理とクリティカル・パス . 日本手術医学会誌 1999 ; 20 ( 2 ): 128-135 .
- 8) 高柳和江 : 科学が支える癒しの場としての医療環境 . 治療 1999 ; 81 ( 7 ): 122-123 .
- 9) 周 書義, 高柳和江, 木村哲彦 : 退院サマリーの認識に影響を与える要因に関する研究 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 4 ): 52-60 .
- 10) 谷本佐理名, 簗輪眞澄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立公衆衛生院 ): 渋谷駅周辺の路上生活者の生活と健康 . 日本公衛誌 1999 ; 46 ( 9 ): 838-847 .

- 11) 木村哲彦, 四宮葉一<sup>1)</sup>, 仲島了治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>松下電工研究所): VR乗馬療法システムの開発とその効果検証に向けての取り組み. 1999; 1(4).
- 12) 北川恒実, 高柳和江, 谷本佐理名, 太田久彦, 山川久仁子, 木村哲彦, 大井田 隆<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦<sup>2)</sup>, 小川龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院, <sup>2)</sup>国立医療・病院管理研究所, <sup>3)</sup>日本医科大学附属病院麻酔科): 臨床研修病院の設立母体による手術室の仕事効率. 病院管理 1999; 36(142): 105-105.
- 13) 木村哲彦: 他動運動により誘発される自動運動の訓練効果. ロボット学会誌 1999; 131(11): 21-26.
- 14) 針田 哲, 大井田 隆<sup>1)</sup>, 太田久彦, 谷本佐理名, 木村哲彦, 高柳和江(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院): 救急搬送システムに関する一考察. 病院管理 2000; 37(1): 25-33.

[ 1998 年度追加分 ]

研究報告書:

- 1) 太田久彦, 谷本佐理名, 北川恒実, 山川久仁子, 高柳和江, 大井田隆<sup>1)</sup>, 木村哲彦(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院): 保険診療制度と診療報酬情報の開示に関する一般病院勤務医の意識, 医療法改正に伴う医療提供体制に関する研究. 厚生科学研究費補助金平成10年度医療技術評価総合研究事業 1998; pp271-275.
- 2) 谷本佐理名, 太田久彦, 高柳和江, 北川恒実, 山川久仁子, 大井田隆<sup>1)</sup>, 木村哲彦(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院): カルテの開示に関する意識調査, 医療法改正に伴う医療提供体制に関する研究. 厚生科学研究費補助金平成10年度医療技術評価総合研究事業 1998; pp279-285.

(2) 研究報告書:

- 1) 高柳和江: 医薬品情報の非対称制に対する欧米患者団体の動向: 日本との比較において. 製薬企業/団体と医療消費者とのコミュニケーションに関する欧米調査団調査報告書 2000; pp152-157.
- 2) 瀬田克孝<sup>1)</sup>, 高柳和江(<sup>1)</sup>社団法人日本病院会非常任理事): 日本病院会会員のエイズ診療推進に関する研究, HIV感染症の医療体制に関する研究班. 平成11年度研究報告書, 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 2000; pp289-309.

(3) 総説:

- 1) 木村哲彦: 福祉機器の選び方. 総合臨牀 1999; 48(5): 1361-1365.
- 2) 木村哲彦: 福祉機器の供給システム. 総合リハ 1999; 27(9): 381-385.
- 3) 木村哲彦: 高度先進工業技術の医療福祉機器への導入. 日医大誌 1999; 66(5): 295-299.
- 4) 高柳和江: 病院を「癒しの環境」につくり変える: 安らぎが得られ患者の意欲と自然治癒力高める医療空間を. ばんぶう 1999; (211): 56-59.
- 5) 高柳和江: 患者の目からみた癒しの病院づくりを. JAMIC J 1999; 19(4): 61-61.
- 6) 高柳和江: よりよい医療環境をつくりあげるために. 看護実践の科学 1999; 10-10.
- 7) 高柳和江: 患者満足度調査はどこまで進んでいるか. 看護展望 1999; 24(4): 418-422.
- 8) 高柳和江: プレントリー運動. アポロニア21 1999; (65): 90-91.
- 9) 高柳和江: カルテ開示と問題点: 患者と医師双方に意識改革が必要. ラージュ 1999; 252(5): 31-33.
- 10) 高柳和江: ぴょういんアラカルト. ホスピタウン 1999; 7(5): 92-93.
- 11) 高柳和江: 手術室とクリティカル・パス. ルミエール 1999; (11): 2-2.
- 12) 高柳和江: 患者の目からみた癒しの病院づくりを. OPE nursing 1999; 14(5): 90-91.
- 13) 高柳和江: 患者への情報公開の視点に立って広告規制は完全自由化にすべき. オピニオンMMP 1999; 26-27.
- 14) 高柳和江: 科学が支える癒しの場としての医療環境. アポロニア21 1999; (66): 90-91.
- 15) 高柳和江: 増える患者の航空機搬送!: スムーズな航空機利用が患者のQOLを高める. JAMIC J 1999; 19(7): 58-66.
- 16) 高柳和江: 「癒しの環境研究会」活動中. SCOPE 1999; 38(8): 14-15.
- 17) 高柳和江: リスクマネージメント. アポロニア21 1999; (68): 90-91.

- 18) 高柳和江：I love you！．アポロニア21 1999；(69)：90-91．
- 19) 小井土雄<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，犬塚 祥<sup>1)</sup>，松田 潔<sup>1)</sup>，高橋 聡<sup>1)</sup>，平間久雄<sup>1)</sup>，高柳和江<sup>(1)</sup>日本医科大学救命救急センター)：救急医療現場におけるEBM．日救急医学会誌 1999；10(9)：543-543．
- 20) 長澤 泰<sup>1)</sup>，星 和夫<sup>2)</sup>，高柳和江<sup>(1)</sup>東京大学工学部建築学科，<sup>2)</sup>青梅市立総合病院)：改めて癒しの環境を問う．病院 1999；58(9)：18-24．
- 21) 高柳和江：医療事故．アポロニア21 1999；(70)：90-91．
- 22) 高柳和江：ゆとりと癒し．OPE NURSING 1999；14(11)：11-18．
- 23) 高柳和江：食べられる，飲み込める，元気の出る食事．栄養ニュース 1999；33(4)：1-7．
- 24) 高柳和江：地域の生活．アポロニア21 1999；(71)：90-91．
- 25) 高柳和江：違和感．アポロニア21 1999；(72)：90-91．
- 26) 高柳和江：救急医療の課題と展望．ばんぶう 1999；(222)：122-122．
- 27) 高柳和江：性(男女)の選択．アポロニア21 2000；(73)：90-91．
- 28) 高柳和江：病院，患者心理と癒しの環境：これから病院に求められる癒しの環境．WAM 2000；(421)：30-31．
- 29) 高柳和江：外来の癒しの環境：これから病院に求められる癒しの環境2．WAM 2000；(422)：30-31．
- 30) 高柳和江：リスクマネジメントとクライシスマネジメント．nurse data 2000；21(1)：42-48．
- 31) 高柳和江：患者団体．アポロニア21 2000；(74)：90-91．
- 32) 山崎章郎<sup>1)</sup>，大村和弘<sup>2)</sup>，高柳和江<sup>(1)</sup>聖ヨハネホスピス，<sup>2)</sup>帝京大学)：ターミナル・ケア：現実と理想の狭間で．Junior 2000；(390)：1-7．
- 33) 高柳和江：医療の品質管理方法論．nurse data 2000；21(3)：97-101．
- 34) 高柳和江：エデンの園運動．アポロニア21 2000；(75)：90-91．
- 35) 高柳和江：癒しの環境づくりの視点：これから病院に求められる癒しの環境3．WAM 2000；(423)：29-30．

## 著 書

- 1) 高柳和江：〔分担〕日曜喫茶室・頭の特効薬．日曜喫茶室・頭の特効薬(高柳和江，安野光雅，はかま満緒編)，2000；pp38-59，講談社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Kimura T：Development of Horseback Riding Simulator and Possibility of Application to Clinical Use．国際ライフサポート学会(Tian Jin)，1999．10．
- 2) Ideta S<sup>1)</sup>，Ideta H<sup>2)</sup>，Takayanagi K<sup>(1)</sup>Ideta Eye Hospital)：QOL Value Shift in Vitreoretinal Diseases．Schepens International Society(Boston)，1999．12．
- 3) 高柳和江：手術と病院管理：病院管理とクリティカル・パス．日本手術医学会総会，1998．10．
- 4) 木村哲彦：介護保険と福祉機器．日本学術会議医療工学分科会，1999．12．

### (2) 招待講演：

- 1) Kimura T：SENSUS OF HANDICAPPED PERSON．リハビリテーション国際セミナー(Santiago)，1999．4．
- 2) Takayanagi K：The Healing Environment in The Healthcare Settings．Culture Health and the Arts World Symposium(Manchester)，1999．5．
- 3) 木村哲彦：医療とQOL．リハビリテーション工学シンポジウム，1999．7．

(3) 教育講演：

- 1) 木村哲彦：車椅子の処方。(日本整形外科学会，リハビリテーション医学会，厚生省)共催研修コース，2000．1．
- 2) 木村哲彦：介護保険と評価．日本病院学会，2000．2．
- 3) 木村哲彦：介護保険導入と福祉用具支給における問題点．山形大学医用工学シンポジウム，2000．3．

(4) 基調講演：

- 1) 木村哲彦：高度先進工業技術の医療福祉分野への応用．精密工学会，1999．8．
- 2) 木村哲彦：介護と福祉機器．ライフサポート学会，2000．2．

(5) シンポジウム：

- 1) 木村哲彦：高齢社会医療における問題点．千葉工科大学会，1999．10．

(6) 一般講演：

- 1) Sakamoto T<sup>1)</sup>, Takayanagi K, Sugimoto K<sup>2)</sup>, Koseki K<sup>3)</sup>, Aruga T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Showa General Hospital, <sup>2)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Showa University Hospital, <sup>3)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kawaguchi municipal Hospital): A new detailed CT classification based on traumatic coma data bank. 34th Congress of the European Society for Surgical Research (Bern), 1999. 4.
- 2) Sugimoto K<sup>1)</sup>, Takayanagi K, Aruga T<sup>1)</sup>, Koseki K<sup>2)</sup>, Sakamoto T<sup>3)</sup>, Koido Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Showa University Hospital, <sup>2)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kawaguchi municipal Hospital, <sup>3)</sup> Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Showa General Hospital, <sup>4)</sup> Department of Emergency and Clinical Care Medicine, Nippon Medical School Hospital): A large scales of clinical study for geriatric trauma patients in level I trauma centers in Japan. 34th Congress of the European Society for Surgical Research (Bern), 1999. 4.
- 3) 岩井美詠子，高柳和江：緩和ケア教育における「死のシュミレーション」教育法の効果．第49回日本病院学会，1999．6．
- 4) 太田久彦，大井田隆<sup>1)</sup>，谷本佐理名，高柳和江，木村哲彦，山川久仁子(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院疫学部): 保険診療制度と医療情報開示に関する大学病院勤務医の意識について．第49回日本病院学会，1999．6．
- 5) 谷本佐理名，太田久彦，山川久仁子，高柳和江，木村哲彦，大井田隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院疫学部): カルテ開示は診療内容に影響を与えるか：勤務医に対するアンケート調査から．第49回日本病院学会，1999．6．
- 6) 木村哲彦：総ての疾患障害に対するリハビリテーション．第49回日本病院学会，1999．6．
- 7) 岩井美詠子，高柳和江：態度教育におけるベースライン・トレーニング(BLT)手法の紹介．第31回日本医学教育学会大会，1999．7．
- 8) 高柳和江，太田久彦，谷本佐理名，木村哲彦：診療情報の位置づけが研究教育に果たす役割．第31回日本医学教育学会大会，1999．7．
- 9) 谷本佐理名，太田久彦，高柳和江，木村哲彦：カルテ開示と医学教育．第31回日本医学教育学会大会，1999．7．
- 10) 高柳和江，谷本佐理名，太田久彦，木村哲彦：心理的ストレス負荷をおこす医療環境による患者の心理的变化．第58回日本公衆衛生学会総会，1999．10．
- 11) 谷本佐理名，太田久彦，大井田隆<sup>1)</sup>，長谷川敏彦<sup>2)</sup>，高柳和江，木村哲彦(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院疫学部，<sup>2)</sup>国立医療・病院管理研究所): カルテ開示の賛否とその関連事項．第58回日本公衆衛生学会総会，1999．10．
- 12) 木村哲彦：大学教育におけるリハビリテーション．第58回日本公衆衛生学会総会，1999．10．
- 13) 岩井美詠子，高柳和江：看護職からみた必要・不必要病院患者のニーズ分析と問題点．第37回日本病院管理学会学術総会，1999．11．

- 14) 高柳和江, 太田久彦, 谷本佐理名, 北川恒実, 山川久仁子, 木村哲彦, 新井桂子<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理学第二): 閉鎖空間ストレス下での笑いによる免疫能の上昇に関する研究. 第37回日本病院管理学会学術総会, 1999. 11.
- 15) 太田久彦, 谷本佐理名, 山川久仁子, 高柳和江, 木村哲彦, 大井田隆<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院疫学部, <sup>2)</sup>国立医療・病院管理研究所): 医療保険制度と診療報酬情報の開示に関する一般病院勤務医の意識. 第37回日本病院管理学会学術総会, 1999. 11.
- 16) 谷本佐理名, 太田久彦, 大井田隆<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦<sup>2)</sup>, 高柳和江, 木村哲彦(<sup>1)</sup>国立公衆衛生院疫学部, <sup>2)</sup>国立医療・病院管理研究所): カルテ開示 医療情報の行方. 第37回日本病院管理学会学術総会, 1999. 11.
- 17) 北川恒実, 高柳和江, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 臨床研修病院の設立母体による手術室の仕事効率. 第37回日本病院管理学会学術総会, 1999. 11.

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

糖尿病は、生活習慣病の一つとして現代人の健康に対する脅威であり、現代医療の大きな課題になっているため、研究に用いる動物モデルの開発は重要視されている。WBN/kobラットは、自然発症の非肥満性NIDDMモデルラットであるが、発症までに長期飼育を要し汎用に欠ける面がある。当教室では、発症の短期化を図るため、WKY-+/Lepr<sup>fa</sup>ラットとの計画交配によって、WBN/kobラットにLepr<sup>fa</sup>遺伝子を導入し、肥満性NIDDMモデルとしてのWBN/kob-Lepr<sup>fa</sup>コンジェニックラットの作出を進めている。現在、ほぼ完成に近いN<sub>4</sub>世代に達しており、この時点における形質発現の経過観察中である。また、実験的糖尿病モデルとして催糖尿病薬であるストレプトゾトシン投与スナネズミを用いて、大動脈病変を主とした合併症の解析を行った。

WBN/lla-Ht ratは、ホモ個体では無毛、ヘテロ個体では貧毛を示す優性ヘアレス遺伝子(*Ht*)を持つヘアレスラットである。ホモ個体は、哺育期に体表皮角化異常を起こし、コンベンショナル環境では離乳前に大部分の個体が死亡するが、SPF条件下では生存する。このSPFホモ個体とBrown Norwayラットとの戻し交配個体を用いて連鎖解析を行い、*Ht*遺伝子座が、ラット第10染色体上に位置することを明らかにした。

近年、注目されている代替・補完療法には薬理作用や機序が不明なものが多いため、植物精油中の芳香性薬理活性物質の皮膚アレルギーに対する効果およびサメ軟骨の腫瘍増殖速度に対する影響について、動物モデルを用いて検討した。

基礎医学実験動物管理室の衛生管理の一貫として、SPFおよびコンベンショナルラット・マウス飼育室の感染症モニタリングを行い、清浄度の維持に勤めている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Fujii T<sup>1)</sup>, Nishigaki R<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K ( <sup>1)</sup>病理学第二): Ultrastructural changes and immunohistochemical localization of advanced glycation end products in the heart of streptozotocin-treated Mongolian gerbils. Med Electron Microsc 1999; 32 (1): 43-49.
- 2) Nishigaki R<sup>1)</sup>, Guo F<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Aramaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>内科学第一): Ultrastructural changes and immunohistochemical localization of nitric oxide synthase, advanced glycation end products and NF- $\kappa$ B in aorta of streptozotocin-treated Mongolian gerbils. J Nippon Med Sch 1999; 66 (3): 166-175.
- 3) Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Shirota K<sup>1)</sup>, Masuda H<sup>1)</sup>, Nishigaki R<sup>2)</sup>, Arai S<sup>3)</sup>, Mwanatambwe M<sup>2)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>, Kalengayi M<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>東武医技専, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup>キンシャサ大): Influence des bioconditions d'élevage sur l'apparition du diabète sucré induit par le virus de l'encephalomyocardite chez la souris. Bull Tobu Co-med Coll 1999; 4 (1): 45-54.

##### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) Shimizu-Suganuma M, Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Iida K<sup>2)</sup>, Shichinohe K ( <sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>ワクチン療法研究施

- 設): Effect of shark cartilage on tumor growth and survival time in mice . 35th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology ( Atlanta, USA ), 1999 . 5 .
- 2) Shimizu-Suganuma M , Iida K<sup>1)</sup>, Shichinohe K ( <sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設 ): Shark cartilage product suppressed tumor growth in mice . 2nd International Conference on Food Factors ( Kyoto, Japan ), 1999 . 12 .
  - 3) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M , Shichinohe K , Kabongo M<sup>2)</sup>, Kalengayi M<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>キンシャサ大 ): Histopathological profile of *Helicobacter pylori* gastritis in tropical africa : Diagnostic value of routine histochemical staining at Kinshasa university . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 4) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 月館説子<sup>1)</sup>, 藤田紘一郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東医歯大・医・医動物 ): フィラリア症に対する PF1022 経口投与の影響 . 第68回日本寄生虫学会大会 , 1999 . 4 .
  - 5) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄 : アロキサン糖尿病マウスに対するサメの軟骨成分の影響 . 第53回日本栄養・食糧学会大会 , 1999 . 5 .
  - 6) 刈田貴久<sup>1)</sup>, 刈田 毅<sup>1)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>アロマ研究所 ): 植物の芳香性薬理活性物質を成分とする新規 DDS である DGDS のメカニズム . 第100回日本薬理学会関東部会 , 1999 . 6 .
  - 7) 菅沼 (清水) 眞澄, 刈田貴久<sup>1)</sup>, 刈田 毅<sup>1)</sup>, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>アロマ研究所 ): 新規 DDS ( DGDS ) による植物性精油の利用 ( 2 ) . 第100回日本薬理学会関東部会 , 1999 . 6 .
  - 8) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 芳賀克也<sup>1)</sup>, 家所哲夫<sup>1)</sup>, 月館説子<sup>1)</sup>, 藤田紘一郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東医歯大・医・医動物 ): PF1022A の *Brugia pahangi* 感染スナネズミに対する影響 . 第40回日本熱帯医学会・第14回日本国際保健医療学会合同大会 , 1999 . 9 .
  - 9) 白石政明, 手塚 進, 芹田成司, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅 : 基礎医学動物室における感染症モニタリング 1. コンベンショナルラット・マウス飼育室について . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 10) 手塚 進, 白石政明, 芹田成司, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅 : 基礎医学動物室における感染症モニタリング 2. SPF ラット・マウス飼育室について . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 11) 箱崎謙太<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 有馬留志<sup>1)</sup>, 立澤夏紀<sup>2)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>日医大4年, <sup>2)</sup>日医大5年 ): アロマオイルを生体内に吸収させる方法の試み . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 12) 桑子智之<sup>1)</sup>, 有馬留志<sup>1)</sup>, 箱崎謙太<sup>1)</sup>, 立澤夏紀<sup>2)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>日医大4年, <sup>2)</sup>日医大5年 ): 気体制剤によるアロマオイルの抗ヒスタミン作用について . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 13) 有馬留志<sup>1)</sup>, 箱崎謙太<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, ムワナタンブエ・ミランガ<sup>2)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>日医大4年, <sup>2)</sup>病理学第二 ): 気体制剤によるアロマオイルの駆虫作用について . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 14) 藤井雄文<sup>1)</sup>, 西海けい子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 菅沼眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>病理学第二 ): ストレプトゾトシン投与後のスナネズミの心臓と大動脈における AGEs, RAGE, iNOS の局在 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .
  - 15) 張 雪君<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 秋元敏雄 ( <sup>1)</sup>内科学第一 ): 門脈圧亢進症実験モデルの動脈血酸素化に及ぼす一酸化窒素 ( NO ) の影響 . 第6回日本門脈圧亢進症学会 , 1999 . 9 .
  - 16) 秋元敏雄, 鈴木浩悦<sup>1)</sup>, 仲間一雅, 鈴木勝士<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>日獣大・獣医・獣医生理 ): ヘアレスラット ( WBN/IIa-Ht rat ) の原因遺伝子マッピング . 第128回日本獣医学会総会 , 1999 . 10 .
  - 17) 菅沼 (清水) 眞澄, 刈田貴久<sup>1)</sup>, 刈田 毅<sup>1)</sup>, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>アロマ研究所 ): 植物性精油の新規 DDS によるアレルギー性皮膚炎への利用 . 第49回日本アレルギー学会総会 , 1999 . 10 .
  - 18) 三科 香<sup>1)</sup>, 桐山智成<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>2)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>日医大3年, <sup>2)</sup>病理学第二 ): スナネズミの臭腺について . 第23回日仏獣医学会総会 , 2000 . 3 .
  - 19) 吉田結富子<sup>1)</sup>, 北村由梨<sup>1)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 ( <sup>1)</sup>日医大3年 ): スナネズミのアルコール感受性に

ついて．第23回日仏獣医学会総会，2000．3．

- 20) 田崎基行<sup>1)</sup>，桑子智之<sup>2)</sup>，箱崎謙太<sup>2)</sup>，立澤夏紀<sup>3)</sup>，菅沼（清水）眞澄，七戸和博（<sup>1)</sup>日医大3年，<sup>2)</sup>日医大4年，<sup>3)</sup>日医大5年）：植物性精油によるアレルギー性皮膚炎治療の試み．第23回日仏獣医学会総会，2000．3．
- 21) 橋本晴夫<sup>1)</sup>，菅沼（清水）眞澄，七戸和博（<sup>1)</sup>日獣大・獣医・実験動物）：泌乳牛における代謝ホルモンの分泌応答および乳生産に及ぼす暑熱の影響．第23回日仏獣医学会総会，2000．3．

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本共同利用施設では，ヒト生検組織の電顕診断と動物実験による研究と共に基礎医学，ならびに臨床医学の各講座との共同研究や電顕技術提供が行われている．

5月には日本電子製1010型透過型電子顕微鏡が設置され，低倍率での観察が容易となりヒト生検組織診断を行ううえでより正確な検索が可能となった．

研究面では，中国で広く肝炎に使用されている促肝細胞増殖因子（pHGF）を用いて幾つかの実験を行い，pHGFが急性肝炎に対して肝細胞の細胞膜障害や肝細胞内の酵素失活を抑制することを明らかとした．また pHGFは実験的急性肺障害を抑制することも明確にした．これらのことより，pHGFは肝炎患者のみならずARDSの発症を保護する薬としても使用される可能性が見い出された．

反復性一過性脳虚血により特異的に海馬領域の神経細胞が壊死融解し，壊死した神経細胞内にはカルシウム以外にアルミニウムも含まれることを初めて報告した．そしてこの融解壊死した神経細胞をOligodendrocyteとmicrogliaが貪食することも併せて報告した．

共同研究の一環として，生物組織のみならず工業材料を薄切する際の評価法の一つである硬さと切削条件との相関性においてウルトラマイクロトームの有用性を探究した．また透過型電子顕微鏡を用いて含水試料を観察するための観察室（ガス雰囲気試料室）の研究開発を行っており，パラミオシンの観察に成功し有意義な結果を得ている（帝京大学医学部生理学教室との共同研究による）．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Liu A. M, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Onouchi Z<sup>2)</sup>, Asano G : Ultrastructural characteristics of myocardial and coronary microvascular lesions in Kawasaki disease . Microvasc. Res 1999 ; 58 ( 1 ): 10-27 .
- 2) Sato S, Dai W, Liu Xiao-L, Asano G : The protective effect of hepatocyte growth-promoting factor ( pHGF ) against carbon tetrachloride-induced acute liver injury in rats : an ultrastructural study . Med Electron Microsc 1999 ; 32 ( 3 ): 184-192 .
- 3) Jiang Jing-tao, Sato S : Detection of calcium and aluminum in pyramidal neurons in the gerbil hippocampal CA1 region following repeated brief cerebral ischemia : X-ray microanalysis . Med Electron Microsc 1999 ; 32 ( 3 ): 161-166 .
- 4) Jiang Jing-tao, Sato S, Yamanaka N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The 1st Department of Pathology) : Changes in cerebral blood flow and blood brain barrier in the gerbil hippocampal CA1 region following repeated brief cerebral ischemia . Med Electron Microsc 1999 ; 32 ( 3 ): 175-183 .
- 5) 飯田泰人<sup>1)</sup>，石崎正通<sup>2)</sup>，佐藤 茂<sup>1)</sup>（飯田整形ペインクリニック，<sup>2)</sup>病理学第一）：変形性膝関節症における関節軟骨の内軟骨性石灰化と骨形成因子（BMP）の発現．臨床電顕誌 1999；32（1）：3-13．
- 6) 富田ゆかり<sup>1)</sup>，仁平 信<sup>1)</sup>，大野曜吉<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>1)</sup>（法医学）：主要臓器における早期死後変化の組織学的検



討：パラフィン包埋法とエポキシ樹脂包埋法との比較．日本法医誌 1999；53(2): 207-217．

- 7) 劉 效蘭, 戴 威, 佐藤 茂：過酸化水素投与による肺傷害に対する促肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth-Promoting Factor) の保護効果．日本界面医学会雑誌 1999；30(1,2): 96-103．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 劉 效蘭, 戴 威, 佐藤 茂：過酸化水素投与による急性肺傷害に対する促肝細胞増殖因子の保護効果：形態学的研究．第35回日本界面医学会，1999．10．

##### (2) 一般講演：

- 1) Tomita Y<sup>1)</sup>, Nihira M<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup>, Sato S ( <sup>1)</sup>Dept. of Legal Medicine ): Ultrastructural changes of various organs during the early postmortem interval in rats : a comparative study between cervical dislocation and exsanguination .International Association of Forensic Sciences 15th Triennial Meeting( IAFS )( Los Angeles ), 1999 . 8 .
- 2) 潘 欣, 佐藤 茂, 姜 景涛：ラット大脳皮質における神経細胞と血管網の発達．第88回日本病理学会総会，1999．4．
- 3) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 安達彰子, 佐佐木喜広：実験的急性肝障害に対する促肝細胞増殖因子 (pHGF) の治療効果．第88回日本病理学会総会，1999．4．
- 4) 秋元 剛<sup>1)</sup>, 広畑泰久<sup>1)</sup>, 鈴木李直<sup>1)</sup>, 杉 晴夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大医学部): 生体高分子の動的変化を観察するためのガス雰囲気試料室の開発．日本電子顕微鏡学会第55回学術講演会，1999．5．
- 5) 広畑泰久, 朝倉健太郎<sup>1)</sup>, 相原 薫 (<sup>1)</sup>東京大学大学院工学系研究科金属工学専攻): ウルトラマイクロトームにおける工業材料の硬さと切削条件に関する再評価．日本電子顕微鏡学会第55回学術講演会，1999．5．
- 6) 姜 景涛, 佐藤 茂, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): 反復性一過性脳虚血による脳神経細胞壊死とカルシウムとアルミニウムの細胞内動態：X線解析を用いて．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 7) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 浅野伍朗：四塩化炭素による慢性肝傷害に対する促肝細胞増殖因子の治療効果．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．

##### (3) 技術認定委員会セッション：

- 1) 広畑泰久：良い写真を撮るための電子顕微鏡操作のポイント．日本電子顕微鏡学会第55回学術講演会，1999．5．

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

情報科学センターは「情報を通じた生命へ探求」を重要なテーマとし、多様な視点から活動を行っている。他大学との研究交流を重視しており東海大学とは「人間工学」面での研究交流を継続しており同学部の学生によるME学会での発表が行えた。

以下本年度におけるセンター構成員の研究概要を列挙する。

河野は放射線医学総合研究所における山本氏らの気功研究に重要なメンバーとして参加し、数々の結果を得ている。渡部は情報教育環境の充実に大きな努力をし、本学における教育用情報環境の構築について「医療情報学会」「情報教育研究集会」等に子細に報告している。

菊地はタンパク質の構造解析をすすめているが、本年は

1. シアノバクテリアの集光性超分子会合体フィコピリソームを作っている中心的なタンパク質であるCフィコシアニンの三次元構造とその中に含まれる発色団の光吸収特性に関する関係を、基準振動解析及びモジュール構造に基づ

いてまとめた。

2. フィコピリソーム内の発色団間の励起エネルギー移動に関する考察を始めた。

大坂は非線形理論の医学とくに循環器領域への応用をめざしている。

1) 京大大学生理研の野間教授との共同研究によりイオンチャンネルの数理解析を進めている。この解析法には高次元カオスの解析が必要で、独自にその方法を考案しその成果を論文として投稿中である。

2) 慶應義塾大学腎臓内科との共同研究において血圧・腎血流の神経支配に1Hz以下の成分が深く関与していることを見出した。この成果は昨年(1999)の第4回自律神経と高血圧研究会において共同研究者が一等賞を受賞した。血圧と神経の関与をさらに非線形解析で進めている。

長島は医療情報学会大会において「医療情報」の帰属性についてを講演し従来の技術的側面に偏しがちな日本の医療情報学に対して情報倫理からの観点を示した。本発表は「医療情報」新分野の萌芽で有ることを確信している。

## 研究業績

### 論文

(2) 原著:

- 1) Osaka M, Gohara K<sup>1)</sup>, Ishii S<sup>2)</sup>, Kishida H<sup>3)</sup>, Hayakawa H<sup>3)</sup>, Ito N<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Hokkaido University, <sup>2)</sup>Nara Institute of Science and Technology, <sup>3)</sup>Dept of Medicine, Nippon Medical school, <sup>4)</sup>The University of Tokyo): Symbolic Strings and spatial 1/f spectra. Physica D 1999; 125: 142-154.
- 2) Zhang T<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Hirasawa M<sup>1)</sup>, Kokado T<sup>1)</sup>, Kawano K, Kasuga T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup>Ochanomizu Women's University): Analysis of the EEG Wave Change in Qigong State. J Intl Soc Lifo Sci 1999; 17 (2): 328-337.
- 3) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Hirasawa M<sup>1)</sup>, Kokubo H<sup>1)</sup>, Tanaka M<sup>1)</sup>, Kawano K, Parkhomtchouk Dmitri V<sup>1)</sup>, Zhang T<sup>3)</sup>, Fukuda N<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>4)</sup>, Murakami S<sup>4)</sup>, Moroe T<sup>4)</sup>, Makino K<sup>4)</sup>, Tsuchiya K<sup>2)</sup>, Kokado T<sup>1)</sup>, Taniguchi J<sup>1)</sup>, Nakamura A, Kurano M, Furukawa A, Furukawa M, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Sakaida H, Machi Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup>Ochanomizu Women's University, <sup>3)</sup>Tokyo Denki University, <sup>4)</sup>NEC Corporation): Study on Analyzing Methods of Human Body Functions Using Various Simultaneous Measurements (VSM): The Fifth Year Report of the 5-Year Project Supported by Science and Technology Agency (STA), Japan. J Intl Soc Life Info Sci 2000; 18 (1): 61-97.
- 4) Tanaka M<sup>1)</sup>, Kokubo H<sup>1)</sup>, Hirasawa M<sup>1)</sup>, Kokado T<sup>1)</sup>, Taniguchi J<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kawano K ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences): Physiological Measurements during Qigong Training. J Intl Soc Life Info Sci 2000; 18 (1): 98-108.
- 5) Kawano K: EEG Analysis of Children while Concentration on Tasks Part II. J. Intl. Soc Lifo. Sci 2000; 18 (1): 121-126.
- 6) Kokubo H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Hirasawa M<sup>1)</sup>, Kawano K, Kokado T<sup>1)</sup>, Taniguchi J<sup>1)</sup>, Fukuda N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences): Analysis of Electrodermal Activity (EDA) in Remote Perception Task Using Electromagnetic Shield Cage. J Intl Soc Life Info Sci 2000; 18 (1): 127-133.
- 7) Zhang T<sup>1)</sup>, Hirasawa M<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kawano K ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences): REM Sleep-Like Response Hypothesis on the Neurophysiological Changes Due to Sustained Attention in Qigong. J Intl Soc Life Info Sci 2000; 18 (1): 134-157.
- 8) 竹澤健司<sup>1)</sup>, 森 隆夫<sup>1)</sup>, 木村真人<sup>1)</sup>, 鬼頭 諭<sup>1)</sup>, 鈴木 博子<sup>1)</sup>, 下田健吾<sup>1)</sup>, 河野貴美子 ( <sup>1)</sup>精神医学): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究: フラクタル次元解析を用いた検討 (第2報). 催眠と科学 1999; 14 (1): 55-59.
- 9) 鈴木達彦<sup>1)</sup>, 青木史穂利<sup>1)</sup>, 早坂明哲<sup>1)</sup>, 川村智一<sup>1)</sup>, 長島圭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東

海大学開発工学部医用生体工学科): 心電図と指尖容積脈波を指標とした心理的パニック状態の検討. 東海大学  
紀要開発工学部 1999; 9: 241-246.

10) 河野貴美子: 練功過程における脳波の経年変化. 人体科学 1999; 8(2): 21-26.

11) 河野貴美子: 各種リラクゼーション療法を脳波から考える. 医学のあゆみ 2000; 192(12): 1194-1199.

(3) 総説:

1) 山家智之<sup>1)</sup>, 阿部裕輔<sup>2)</sup>, 吉澤 誠<sup>3)</sup>, 井街 宏<sup>2)</sup>, 大坂元久, 田林光一<sup>1)</sup>, 高安秀樹<sup>4)</sup>, 竹田 宏<sup>3)</sup>, 仁田新一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学医学部, <sup>2)</sup>東京大学医学部, <sup>3)</sup>東北大学工学部, <sup>4)</sup>ソニーコンピューターサイエンス): カオスの応用による加齢現象の加速と制御. 日本臨床生理学会雑誌 1999; 26(6): 333-340.

2) 大坂元久, 伊藤高司: ゆらぎ解析. 日医大誌 1999; 66: 154-155.

著 書

1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Kikuchi H, Murakami A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ, <sup>2)</sup> Kobe Univ. Research Center for Inland Sea): [分担] Structure and Function of Phycobilisomes. Concepts in Photobiology (ed. G. S. Singhal, G. Renger, S. K. Sopory, K-D. Irrgang, Govidjee), 1999; pp104-135, Kluwer Academic Publishers (The Netherlands), and Narosa Publishing House (India).

2) 内山明彦<sup>1)</sup>, 他, 伊藤高司(<sup>1)</sup>早稲田大学): [分担] ME用語辞典. ME用語辞典(社団法人日本エム・イー学会), 1999; (株)コロナ社.

学会発表

(1) 特別講演:

1) 大坂元久: 循環器系のゆらぎ解析の意義. 第5回非線形循環器研究会, 1999. 12.

(2) 招待講演:

1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Kikuchi H(<sup>1)</sup> Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ): Symmetry structure of the antenna system in photosynthesis: coincidence or consequence?. Second Asian Photochemistry Conference, (Taejon (Korea)), 1999. 6.

2) 河野貴美子: 生命情報科学の今後. 第11回日本医療法政学会, 1999. 12.

(3) シンポジウム:

1) Kikuchi H, Wako H<sup>1)</sup>, Mimuro M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> School of Social Scienceda Univ, <sup>2)</sup> Department of Physics, Biology and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ): The specific amino acid in C-phycocyanin determines the electronic state of a chromophore through a stabilized dynamic structure. The 25th Annual Symposium of The Japan Bioenergetics Group, (Kochi (Japan)), 1999. 8.

(4) ワークショップ:

1) 菊地浩人, 輪湖 博<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学社会科学部, <sup>2)</sup>山口大学理学部自然情報科学科): ドメイン構造の組み合わせで生じる新たな機能について: フィコピリンタンパク質の基準振動解析を例にして. 第2回「生物マシーナリー」ワークショップ, 1999. 8.

(5) 一般講演:

1) Kawano K: Comparrison of EEGs during Various Kinds of Meditation. Toward a Science of Conscioousness - Fundamentai Approaches - Tokyo'99 (Tokyo), 1999. 5.

2) Iwasaki Yu-ki<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Osaka M, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Sasabe N<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 1st Dept of Medicine, Nippon Medical School): Spectral analysis of atrioventricular conduction time variability: A new method for quantitative evaluation of the effect of autonomic nervous activity on the atrioventricular node. American College of Cardiology 49th Annual Scientif-

ic Session ( Anaheim ), 2000 . 3 .

- 3) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山田達三<sup>1)</sup>, 谷口順子<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 福田信男<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 電磁シールド下での対人遠隔実験における脳波変化. 第7回生命情報科学シンポジウム, 1999. 3.
- 4) 河野貴美子, 山田達三<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 練功過程における生理変化. 第7回生命情報科学シンポジウム, 1999. 3.
- 5) 河野貴美子: コヒーレントに出現する 波の一考察. 第46回応用物理学関係連合講演会, 1999. 3.
- 6) 山田達三<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 練功過程に伴う心電図, 呼吸変化. 第46回応用物理学関係連合講演会, 1999. 3.
- 7) 大坂元久, 山家智之<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 吉澤 誠<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 仁田新一<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学医学部加齢医学研究所, <sup>2)</sup>内科第一): 非線形解析から評価した人工心臓下における自律神経活動. 第38回日本ME学会大会, 1999. 4.
- 8) 早坂明哲<sup>1)</sup>, 木村達洋<sup>1)</sup>, 川村智一<sup>1)</sup>, 真田尚久<sup>1)</sup>, 大橋俊彦<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科): VEPからみた視野闘争の性質. 第38回日本ME学会大会, 1999. 4.
- 9) 菊地浩人, 輪湖 博<sup>1)</sup>, 郷 通子<sup>2)</sup>, 三室 守<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学社会科学部, <sup>2)</sup>名古屋大学大学院理学研究科, <sup>3)</sup>山口大学理学部自然情報科学科): 基準振動解析によって明らかにされたフィコピリタンパク質の二つのドメイン構造の意義. 第50回タンパク質構造討論会, 第11回蛋白質学会年会, 1999. 6.
- 10) 河野貴美子: 脳波から見た各種リラクゼーション法. 第2回日本代替・相補・伝統医療連合会, 1999. 7.
- 11) 小田井圭<sup>1)</sup>, 菊地浩人, 鈴木英雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>湘北短大電子情報, <sup>2)</sup>早稲田大学理工学部): バクテリオロドプシン発色団とそのアミノ酸残基との電気的相互作用. 日本物理学会秋の分科会, 1999. 9.
- 12) 張 トウ<sup>2)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 春日 喬<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>お茶の水女子大学): 気功時における脳波 波変化の分析と注意理論に基づく検討. 第8回生命情報科学シンポジウム・第15回催眠学会合同大会, 1999. 9.
- 13) 河野貴美子: 催眠と生命情報. 第8回生命情報科学シンポジウム・第15回催眠学会合同大会, 1999. 9.
- 14) 大坂元久, 郷原一壽<sup>1)</sup>, 石井 信<sup>2)</sup>, 斎藤寛和<sup>3)</sup>, 伊藤高司, 伊藤伸泰<sup>4)</sup>, 早川弘一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北海道大学工学部, <sup>2)</sup>奈良先端技術大学院大学, <sup>3)</sup>第一内科, <sup>4)</sup>東京大学工学部): DNA塩基配列に見られる1/fゆらぎの生成モデル. 第3回生体カオス研究会, 1999. 10.
- 15) 清水秀一<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 八島正明<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 大坂元久, 小林義典<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 心房細動停止過程における細動波の周波数解析. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 16) 佐方克史<sup>1)</sup>, 熊谷裕生<sup>1)</sup>, 大坂元久, 松浦友一<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 猿田亨男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学医学部腎臓内科): スペクトル解析により分析した, 腎交感神経活動と腎血流量および血圧との相関関係: 正常血圧と高血圧ラットとの比較. 第4回自律神経と高血圧研究会, 1999. 10.
- 17) 佐方克史<sup>1)</sup>, 熊谷裕生<sup>1)</sup>, 大島直紀<sup>1)</sup>, 松浦友一<sup>1)</sup>, 猿田亨男<sup>1)</sup>, 大坂元久, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学医学部腎臓内科, <sup>2)</sup>内科第一): スペクトル解析により分析した腎交感神経活動と腎血流量および血圧との相関関係: 正常血圧と高血圧ラットとの比較. 第22回日本高血圧学会総会, 1999. 11.
- 18) 河野貴美子: 香りへの感受性と脳波の変化. 人体科学会第9回大会, 1999. 11.
- 19) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 河野貴美子(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 遮蔽・盲検状態での外気による脳波 波強度変化. 人体科学会第9回大会, 1999. 11.
- 20) 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 平澤雅彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 手用局所磁気シールドを用いた異常生体磁場の研究. 人体科学会第9回大会, 1999. 11.
- 21) 河野貴美子: 健康法鍛錬過程における脳波の経年変化. 第29回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1999. 11.

- 22) 長島 隆<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>(1)</sup> 情報科学センター情報倫理学部門): 「医療情報」の帰属性について: 「共同所有」論をめぐって. 第19回医療情報学連合大会, 1999. 11.
- 23) 渡部 昇, 大坂元久, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: マルチメディア教室での計算機利用学習. 情報処理教育研究集会, 1999. 11.
- 24) 渡部 昇, 大坂元久, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: 医学生のための情報処理ブレ教育の試み. 第19回医療情報学連合大会, 1999. 11.
- 25) 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 古角智子<sup>1)</sup>, 谷口順子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): DMILSにおける受診者EDAの変化. 日本超心理学会第32回大会, 1999. 12.
- 26) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 田中昌孝<sup>1)</sup>, 河野貴美子, デミトリパルホモチュク<sup>1)</sup>, 張 トウ<sup>1)</sup>, 福田信男<sup>1)</sup>, 平田 剛<sup>3)</sup>, 村上志緒<sup>3)</sup>, 諸江輝義<sup>3)</sup>, 土屋和彦<sup>3)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>, 谷口順子<sup>1)</sup>, 中村篤子<sup>1)</sup>, 蔵野美恵子<sup>1)</sup>, 古川 章<sup>1)</sup>, 古川雅英<sup>1)</sup>, 松本 徹<sup>1)</sup>, 境田英昭<sup>2)</sup>, 町 好雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>東京電機大学, <sup>3)</sup>日本電気株式会社): 多様同時計測による生体機能解析法の研究: 科技厅予算による5年計画研究活動の報告. 第9回生命情報科学シンポジウム, 2000. 3.
- 27) 田中昌孝<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>, 谷口順子<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 河野貴美子(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 練功者の生理測定. 第9回生命情報科学シンポジウム, 2000. 3.
- 28) 河野貴美子: 子供における課題集中時の脳波解析: Part II. 第9回生命情報科学シンポジウム, 2000. 3.
- 29) 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 古角智子<sup>1)</sup>, 谷口順子<sup>1)</sup>, 福田信男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 電磁シールドを用いた遠隔作用実験における皮膚電気活動の分析. 第9回生命情報科学シンポジウム, 2000. 3.
- 30) 張 トウ<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 河野貴美子(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 気功における局所的注意持続による脳生理学的変化に関する類REM反応仮説. 第9回生命情報科学シンポジウム, 2000. 3.
- 31) 小久保秀之<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 福田信男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 皮膚コンダクタンス変化に対する対人遠隔作用. 第47回応用物理学関係連合講演会, 2000. 3.
- 32) 河野貴美子: 精神集中における 波変化の年齢的考察. 第47回応用物理学関係連合講演会, 2000. 3.

## 〔 3 〕 臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 ]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学, 肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的, 基礎的研究を行った.

循環器病学では, 不整脈に関する研究として, 1) 心拍変動周波数解析などの数理的手法, 薬理的手法を用いた自律神経系と不整脈, 突然死発生との関連の検討, 2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用, 臨床効果の検討, 3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療, 4) 失神患者における自律神経機能の評価, 5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討ならびに抗不整脈薬の評価, 6) 単相性活動電位記録による不整脈発生機序の検討.

虚血性心疾患, 心筋疾患に関する研究として, 1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium, 心筋虚血の検出, 2) 虚血性心疾患における圧受容体反射, 自律神経機能との関連, 3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング, 4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連, 5) 虚血心筋保護法の検討, 6) 虚血性心疾患, 心筋疾患における成長因子, 細胞増殖因子の検討, 7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討.

肝臓病学では, 1) 門脈圧亢進症の病態, 薬物療法に関する検討, 2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態, 3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生, 4) 慢性肝疾患における肺循環異常, 5) 二次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係.

糖尿病学では, 1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性, 2) 糖尿病患者における自律神経機能, 3) 無症候性心筋虚血の病態, を検討している.

### 研究業績

#### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

#### 原著:

- 1) Kitayama H<sup>1)</sup>, Kiuchi K, Nejima J, Katoh T, Takano T, Hayakawa H (<sup>1)</sup> Department of Psychiatric, Kennan Hospital, Miyazaki): Long-term treatment with antipsychotic drugs in conventional doses prolonged QTc dispersion, but did not increase ventricular tachyarrhythmias in patients with schizophrenia in the absence of cardiac disease. Eur J Clin Pharmacol 1999; 55 (1): 259-262.

#### 総説:

- 1) 加藤貴雄: 塩酸ニフェカラント. 新しい治療薬のポイント 2000前期 1999; 12: 55-56.

#### (1) 原著:

- 1) Nagano T, Sato R<sup>1)</sup>, Matsuda H, Aramaki T (<sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University Medical School): Evidence for norepinephrine-activated Ca<sup>2+</sup> permeable channels in guinea-pig hepatocytes using a patch clamp technique. J Nippon Med Sch 1999; 66 (2): 127-133.
- 2) Kobayashi Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Kawaguchi N, Ogura H, Saitoh H, Ino T, Atarashi H, Kishida H, Hayakawa H: Uncommon Atrial Flutter Originating in the Left Atrioventricular Groove-Emergence After Successful Catheter Ablation for a Left Concealed Accessory Pathway-. Jpn Circ J 1999; 63 (5): 416-420.
- 3) Aramaki T: DIAGNOSIS AND TREATMENT OF AUTOIMMUNE HEPATITIS. Asian Med. J 1999; 42 (8): 349-355.

- 4) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y, Takahashi N, Ogawa T<sup>2)</sup>, Sakai K<sup>1)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Takano T, Kishida H, Hayakawa H ( <sup>1)</sup>Ebina General Hospital, <sup>2)</sup>Hakujikai Memorial Hospital ): Clinical Significance of Elevated Levels of Cardiac Troponin T in Patients With Chronic Heart Failure . Am J Cardiol 1999 ; 84 : 608-611 .
- 5) Kawaguchi N, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Atarashi H, Takano T, Hayakawa H : Incidence and Clinical Significance of Junctional Rhythm Remaining After Termination of Radiofrequency Current Delivery in Patients With Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia . Jpn Circ J 1999 ; 63 ( 11 ): 865-872 .
- 6) Kiuchi K<sup>1)</sup>, Nejima J, Kikuchi A, Takayama M, Takano T, Hayakawa H ( <sup>1)</sup>Intensive and Coronary Care Unit ): Left coronary artery-left ventricular fistula with acute myocardial infarction, representing the coronary steal phenomenon . J Cardiol 1999 ; 34 ( 5 ): 279-284 .
- 7) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ino T, Atarashi H : Local slow potential preceding the surface QRS complex detected at the subvalvular mitral annulus in patients with a left-sided concealed accessory pathway-Incidence, electrophysiological characteristics and the possible mechanism, with demonstration of anterograde concealed conduction through the pathway . Eur Heart J 1999 ; 20 ( 24 ): 1818-1825 .
- 8) Kotani E<sup>1)</sup>, Kiuchi K<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Tabata M, Aramaki T, Kawamata H<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>Coronary and Intensive Care Unit, <sup>2)</sup>The Department of Radiology ): Effectiveness of transcatheter chemoembolization for metastatic right ventricular tumor derived from hepatocellular carcinoma . Chest 2000 ; 117 ( 1 ): 287-289 .
- 9) Saitoh T, Kishida H, Tsukada Y, Fukuma Y, Sano J, Yasutake M, Fukuma N, Kusama Y, Hayakawa H : Clinical Significance of Increased Plasma Concentration of Macrophage Colony-Stimulating Factor in Patients With Angina Pectoris . JACC 2000 ; 35 ( 3 ): 655-665 .
- 10) Endo T, Katoh T, Kiuchi K, Katsuta Y, Shimizu S, Takano T : Famotidine and acquired long QT syndrome . Am J Med 2000 ; 108 ( 5 ): 438-439 .
- 11) 野村敦宣, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一 : 洞徐脈症例の脳虚血症状への 交感神経異常の寄与 薬理学的自律神経検査による検討 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 2 ): 119-126 .
- 12) 張 雪君, 清水秀治, 長野具雄, 古明地弘和, 大須賀 勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 : Portopulmonary hypertensionの自験例における血行動態の特徴 . 日門亢会誌 1999 ; 67-72 .
- 13) 清水秀一, 小林義典, 宮内靖史, 川口直美, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一 : 早期興奮時における時間的および空間的再分極不均一性の増大 : 単一早期刺激と二連続早期刺激の比較 . 心電図 1999 ; 19 ( 4 ): 351-361 .
- 14) 酒井俊太<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大國眞一<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 富田喜文, 草間芳樹, 高山守正, 宗像一雄, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科・集中治療室 ): 急性心筋梗塞に対する primary stentingの血管内視鏡所見 . Jpn J Interv Cardiol 1999 ; 14 ( 4 ): 338-345 .
- 15) 金 桂淑, 森田典成, 新 博次, 遠藤康実, 小林義典, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一 : 期外収縮における QT dispersion : 心房, 心室早期刺激による検討 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 6 ): 388-394 .
- 16) 佐野純子, 斎藤寛和, 小林義典, 池田真人, 小谷英太郎, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫, 矢野明彦<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉大学医学部寄生虫学 ): 心膜液ポリメラーゼ連鎖反応法によって診断された基礎疾患のないトキソプラズマ心膜炎の1例 . J Cardiol 2000 ; 35 ( 1 ): 47-54 .
- 17) 木内 要, 子島 潤<sup>1)</sup>, 川嶋修司, 高野照夫, 林 宏光<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科 ): 心異常陰影を認めた46歳女性 . J Cardiol 2000 ; 35 ( 2 ): 147-148 .

(2) 研究報告書 :

- 1) 清野精彦, 緒方憲一, 安武正弘, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 田中邦夫, 高野照夫, 大林完二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>大林内科医院 ): 9指 - 2循環器疾患における救急医療に関する研究 : 循環器救急における生化学的マーカー迅速診



断システムの導入と初期診療指針の作成．厚生省循環器病依託研究 2000；pp1-65．

(3) 総説：

- 1) 加藤貴雄，早川弘一：不整脈用語解説 65．緊急一時的ペーシング．Pharma Medica 1999；17(4)：214-219．
- 2) 新 博次：酢酸フレカイニド(タンボコール®)．臨床麻酔 1999；23(4)：718-719．
- 3) 斎藤寛和，早川弘一：T波変動解析．総合臨牀 1999；48(4)：625-632．
- 4) 小野卓哉，加藤貴雄：ムスカリン受容体遮断薬の薬理と使い分け．PTM 1999；10(1(8))．
- 5) 斎藤寛和：リン酸ジソピラミド静注による発作性心房細動の停止．PTM 1999；10(1(6))．
- 6) 関山達也，長戸孝道，清水秀治，古明地弘和，長野具雄，張 雪君，尹 明実，大須賀 勝，寺田秀人，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己，高木 亮<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：慢性肝疾患患者における頭部MRI T1強調画像淡蒼球高信号の病態．薬理と治療 1999；27：41-46．
- 7) 荒牧琢己：腹水．日本医師会雑誌 1999；121(8)：46-51．
- 8) 新 博次：心房細動の薬物療法・抗凝固療法治療：最近の知見．医学のあゆみ 1999；189(5)：364-369．
- 9) 緒方憲一，加藤貴雄：T wave alternans．医学のあゆみ 1999；189(5)：293-297．
- 10) 加藤貴雄，斎藤寛和，大野則彦，立野政雄<sup>1)</sup>，中村 幹<sup>1)</sup>，田頭 勲<sup>1)</sup>，小林真一<sup>2)</sup>，長澤紘一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>新座志木中央総合病院臨床薬理センター，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学薬理学教室，<sup>3)</sup>多摩永山病院内科)：モサプリドの健常成人における薬物相互作用に関する臨床薬理試験 モサプリド単独およびエリスロマイシン併用時の心電図，薬物動態に及ぼす影響．臨床医薬 1999；15(5)：753-763．
- 11) 勝田悌実，荒牧琢己：肝性浮腫(特集：見逃してはいけない浮腫)．臨床と薬物治療 1999；18(5)：446-449．
- 12) 荒牧琢己：肝疾患と臥床安静．Medical Practice 1999；16(5)：849-849．
- 13) 斎藤寛和，岩崎雄樹：ホルター心電図の読み方(今月の主題：不整脈患者のマネジメント病歴から検査まで)．medicina 1999；36(7)：1092-1096．
- 14) 新 博次：心房細動の診療の進めかた．Medical Practice 1999；16(8)：1279-1282．
- 15) 加藤貴雄：アミオダロン・ソタロールの適応と使用上の注意．Medical Practice 1999；16(8)：1295-1299．
- 16) 荒牧琢己，清水秀治：肝疾患に運動療法の実際(特集：成人病の運動療法・運動指導 その実際)．臨床成人病 1999；29(8)：1071-1075．
- 17) 岸田 浩：狭心症と無症候性心筋虚血の薬物療法(狭心症と無症候性心筋虚血)．診断と治療 1999；87(9)：1556-1562．
- 18) 加藤貴雄：QT延長症候群の背景因子とそれに対する注意(特集：QT延長症候群はどう捉えれば良いのか?)．Cardiologist 1999；4(9)：647-655．
- 19) 岸田 浩：狭心症と無症候性心筋虚血の薬物療法(狭心症と無症候性心筋虚血)．診断と治療 1999；87(9)：1556-1562．
- 20) 木内 要，高野照夫：急性疾患とエマージェンシー：急性心不全．救急医学 1999；23(10)：1239-1242．
- 21) 新 博次：不整脈と脳血管障害．日医大誌 1999；66(5)：343-345．
- 22) 荒牧琢己：ヘモクロマトーシス．日本医師会雑誌 1999；122(8)：207-209．
- 23) 岸田 浩，馬淵浩輔，富村正登：概日リズムと虚血性心疾患(特集：概日リズムと循環器疾患)．循環器科 1999；46：382-389．
- 24) 新 博次：非弁膜性心房細動の機序と薬物療法．日循協誌 1999；34(3)：224-233．
- 25) 清野精彦，池田真人，呉 小怡，柏木睦美：トロポニンT，ミオグロビン，ミオシン軽鎖，心筋型脂肪酸結合蛋白．medicina 1999；36(11)：276-278．
- 26) 加藤貴雄：植え込み型除細動装置の適応と注意(特集：不整脈治療の最近の動向 こわい不整脈とこわくない不整脈)．臨床成人病 1999；29(11)：1499-1505．

- 27) 加藤貴雄：Q. 急性心不全に伴う心室性不整脈の薬物療法に何を選ぶか？ A. I 郡薬（特集：Critical Care 領域における Controversy）. 集中治療 1999；11（11）：1111-1117.
- 28) 加藤貴雄：Sicilian Gambit. 臨床医 1999；25（11）：2054-2056.
- 29) 岸田 浩：ホルター心電図の意義と応用. 検査と技術 1999；27（12）：1418-1419.
- 30) 新 博次：心房細動に対する治療のポイント. Heart View 1999；3（11）：1156-1159.
- 31) 岸田 浩：無症候性虚血性心疾患. Medical Practice 1999；16（12）：2031-2034.
- 32) 中込明裕，清野精彦：全身性硬化症におけるレイノー現象に対する iloprost 静注療法の有効性に関する検討（特集：データブック 血栓症の大規模臨床試験）. 血栓と循環 1999；7（4）：178-179.
- 33) 笠神康平，高山守正：冠動脈造影（虚血性心疾患の診断の実際）. Medical Practice 1999；16（12）：1977-1985.
- 34) 岸田 浩：虚血性心疾患の薬物療法（虚血性心疾患治療における21世紀への課題）. 医学のあゆみ 2000；192（1）：84-89.
- 35) 清野精彦，緒方憲一，岩原信一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院循環器センター）：急性冠症候群の生化学的診断（急性冠症候群の診断）. medicina 2000；37（1）：44-48.
- 36) 木内 要，高野照夫：21世紀のCCUに求められるものは何か？. Medicina 2000；37（1）：116-117.
- 37) 木内 要，高野照夫：心不全の治療法：利尿薬の使い方と注意点. クリニカ 2000；27（1）：22-25.
- 38) 加藤貴雄，早川弘一：シベンゾリン：Cibenzoline（シベノール<sup>®</sup>）. Pharma Medica 2000；18（2）：263-267.
- 39) 佐野純子<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，大国真一<sup>1)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>千葉北総病院内科）：冠動脈狭窄に対する緑茶飲用の効果. 脈管学 2000；40（2）：93-98.
- 40) 荒牧琢己：化学薬物の抗原性獲得機序とチトクロームP450（特集：薬物アレルギーの診断と予防）. アレルギーの臨床 2000；20（2）：111-120.
- 41) 加藤貴雄：心不全例の症候性心室性不整脈の治療（特集：心不全例の不整脈管理）. 呼吸と循環 2000；48（2）：133-140.
- 42) 早川弘一，斎藤寛和：61. マイクロTWAと致死的不整脈（不整脈の診断と治療 その最近の進歩）. 興和医報 2000；43（2）：34-39.
- 43) 木内 要，高野照夫：CPK，ミオグロビン，心筋トロポニンT（CPK，トロポニン他）. Intensive & Critical Care Medicine 2000；12（3）：339-343.
- 44) 岸田 浩，及川恵子，塚田弥生：カルシウム拮抗薬（特集：狭心症）. 医学と薬学 2000；43（3）：499-506.
- 45) 加藤貴雄：シンビット注. 新しい治療薬のポイント 2000前期 2000；12：66-67.

## 著 書

- 1) 岸田 浩：〔分担〕4. 無症候性心筋虚血をどう診断するか？（虚血性心疾患と心電図）. 心電図の新しい読み方（小沢友紀雄），1999；pp141-145，中外医学社.
- 2) 野村敦宣，松本 真，加藤貴雄：〔分担〕4. T波変動解析（新しい心電図検査領域）. 心電図の新しい読み方（小沢友紀雄），1999；pp263-267，中外医学社.
- 3) 加藤貴雄：〔分担〕ペースメーカー植込み術の疾患別適応. 目でみる循環器病シリーズ11. 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），1999；pp43-49，メジカルビュー社.
- 4) 宮内靖史：〔分担〕一時的ペースキングの適応と手技. 目でみる循環器病シリーズ11. 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），1999；pp14-23，メジカルビュー社.
- 5) 小林義典：〔分担〕頻脈に対する電気生理学的検査. 目でみる循環器病シリーズ11. 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），1999；pp180-189，メジカルビュー社.
- 6) 古明地弘和，清水秀治，上田洋一，長野具雄，大須賀 勝，寺田秀人，関山達也，里村克章，勝田悌実，荒牧

- 琢己：〔分担〕当科における肝硬変の成因実態．肝硬変の成因別実態 1998（小林健一，清澤研道，岡上 武），1999；pp152-155，中外医学社．
- 7) 小倉宏道，加藤貴雄：〔分担〕Q30. 心房・心室頻拍の興奮頻度はどのくらいをいうのか？．不整脈Q & A（沢登 徹），1999；pp72-73，医薬ジャーナル社．
- 8) 小倉宏道，加藤貴雄：〔分担〕Q31. 実際には再灌流性不整脈はどのような場合に出現しうるか？．不整脈Q & A（沢登 徹），1999；pp74-75，医薬ジャーナル社．
- 9) 加藤貴雄：〔分担〕Q32. 心臓以外の疾患にともなう不整脈は？．不整脈Q & A（沢登 徹），1999；pp76-77，医薬ジャーナル社．
- 10) 加藤貴雄：〔分担〕Q34．遺伝性疾患に認める不整脈は？．不整脈Q & A（沢登 徹），1999；pp80-81，医薬ジャーナル社．
- 11) 関山達也，荒牧琢己：〔分担〕門脈圧亢進症（第5章 ウィルス性慢性肝疾患の合併症対策）．慢性肝炎・肝硬変・肝癌 - 新しい展開と診療の実際 -（藤原研司），1999；pp162-170，永井書店．
- 12) 岸田 浩：〔分担〕15. 20 心・血管外傷．内科学（杉本恒明，小俣政男），1999；pp635-636，朝倉書店．
- 13) 岸田 浩：〔分担〕4. 無症候性心筋虚血の治療（A 狭心症・心筋梗塞に対する治療成績のEvidence）．プラクティカル内科シリーズ8 狭心症・心筋梗塞 - 治療戦略へのアプローチと長期管理（山口 徹），1999；pp109-112，南江堂．
- 14) 清野精彦，佐藤直樹，岸田 浩：〔分担〕2. Ca拮抗薬の心不全治療に対する大規模介入試験と長期予後（III．心不全）．Ca拮抗薬のすべて（猿田享男，日和田邦男，荻原俊男），1999；pp312-318，先端医学社．
- 15) 平山悦之，新 博次：〔分担〕1. 抗不整脈治療の基本（C. 抗不整脈薬）．不整脈診療実践マニュアル（井上博），1999；pp53-62，文光堂．
- 16) 平山悦之，新 博次：〔分担〕4. 併用療法（C. 抗不整脈薬）．不整脈診療実践マニュアル（井上 博），1999；pp103-111，文光堂．
- 17) 平山悦之，新 博次：〔分担〕3. 心房細房と塞栓症（III．不整脈の治療）．不整脈診療実践マニュアル（井上博），1999；pp174-180，文光堂．
- 18) 木内 要，高野照夫：〔分担〕知っておきたいショックの新たな診療．心原性ショック（小川 龍），1999；pp104-117，真興交易医書出版部．
- 19) 高野照夫，木内 要：〔分担〕急性心・肺機能不全．新女性医学大系 産婦人科救急（武谷雄二），1999；pp48-62，中山書店．
- 20) 加藤貴雄：〔分担〕4. ホルター心電図法．不整脈（比江嶋一昌），1999；pp53-62，日本医事新報社．
- 21) 雪吹周夫，小原啓子，木内 要，清野精彦，高田加寿子，塚本 浩：〔翻訳〕ガイドン臨床生理学．TEXT-BOOK of MEDICAL PHYSIOLOGY（早川弘一（監訳），飯野靖彦，恩田昌彦，加藤貴雄，工藤翔二，島田隆，白井康正，清野精彦，田中茂夫，壇 和夫，寺本 明，西 克典，山下精彦，若林一二（編集）），1999；医学書院．
- 22) 木内 要，高野照夫：〔分担〕心筋梗塞に伴う低血圧とショック．循環器疾患 最新の治療2000-2001（篠山重威，矢崎義雄），2000；pp16-19，南江堂．
- 23) 木内 要：〔分担〕病態生理と薬効薬理から処方せんを見る．循環器疾患の病態生理，2000；pp3-37，日本薬剤師研修センター．
- 24) 清野精彦，福本裕子，柏木睦美：〔分担〕6. 大動脈・末梢血管疾患．認定医・専門医のための内科学レビュー 2000（酒井 紀，早川弘一，西崎 統，小林祥泰，福井次矢），2000；pp64-68，総合医学社．
- 25) 木内 要，加藤貴雄：〔分担〕標準集中治療医学．心血管作動薬（天羽敬祐），2000；pp64-68，真興交易医書出版部．
- 26) 木内 要：〔分担〕経静脈治療オーダーマニュアル．急性心筋梗塞（和田孝雄），2000；pp158-164，大阪書籍．

- 27) 小林義典, 新 博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): [共著] 5 電気生理学的検査法. Practical Seminar 不整脈第2版(比江嶋一昌), 2000; pp65-73, 日本医事新報社.
- 28) 加藤貴雄: [分担] 不整脈治療薬の催不整脈作用. 循環器疾患最新の治療 2000-2001(篠山重威, 矢崎義雄), 2000; pp310-313, 南江堂.

#### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

##### 一般講演:

- 1) Matsuda H, Nagano T, Kitamura A<sup>1)</sup>, Aramaki T (<sup>1)</sup>麻酔科): K<sup>+</sup> channels in human hepatocytes. Biophysical Society 43rd Annual Meeting ( Baltimore, USA ), 1999. 2.

##### (1) シンポジウム:

- 1) 木内 要, 高野照夫: 心不全における右心機能の役割: 右心機能と神経性因子. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 2) Atarashi H: Sotalol for ventricular tachyarrhythmias and atrial fibrillation. Asian Pacific Conference on Cardiac Electrophysiology and Pacing ( Hualien, Taiwan ), 1999. 12.
- 3) 新 博次<sup>1)</sup>, 井上 博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>不整脈薬物療法研究会): 心房細動と塞栓症予防: わが国の実態と問題点(上室性不整脈治療の現状と将来). 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999. 5.
- 4) 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹, 大野則彦, 緒方憲一, 松本 真, 平山悦之, 宗像一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科): T波変動解析: T wave alternans ( TWA ) を中心に. 第13回日本エム・イー学会秋季大会, 1999. 10.
- 5) 高山守正, 上村竜太, 高野照夫: 急性心筋梗塞の冠血行動態と左室機能維持効果について: 急性冠内圧評価(急性冠症候群の病態と治療における新戦略). 第27回日本集中治療医学会総会, 2000. 3.
- 6) 清野精彦, 池田真人, 柏木睦美, 緒方憲一, 安武正弘, 木内 要, 富田喜文, 高野照夫, 説田浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立駒込病院循環器科): 重症心不全における on-going myocardial damage の検出と治療 strategy (重症心不全治療の新たな展開). 第64回日本循環器学会学術集会, 2000. 4.
- 7) 小原俊彦, チェンベンシェン<sup>1)</sup>, カラグジアンハライヤ<sup>1)</sup>, 八島正明, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一(<sup>1)</sup>Cedars-Sinai Medical Center, Cardiology): 陳旧性心筋梗塞における心室細動の発生機序とその維持について: Restitution Theory に基づく心室局所の vulnerability の評価と心室 Gap Junction 構成蛋白 Connexin 45, 43 の発現抑制が果たす役割(重症心室性不整脈の基礎と臨床). 第64回日本循環器学会学術集会, 2000. 4.

##### (2) パネルディスカッション:

- 1) 清野精彦: 心機能障害(腎移植を成功させるためのチェックポイント). 第87回日本泌尿器科学会総会, 1999. 4.
- 2) 清野精彦, 高野照夫, 大林完二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Tokyo Troponin T Trial 代表): 急性冠症候群の初期診断と病診連携に関する検討: 東京地区循環器実地診療医との共同研究. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.

##### (3) セミナー:

- 1) 高野照夫: 循環管理 急性心不全に対する薬物療法の限界と補助循環. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.

##### (4) ワークショップ:

- 1) 勝田悌実, 張 雪君, 大須賀勝, 荒牧琢己: 肝硬変性門脈圧亢進症における肺循環: 門脈肺高血圧を中心に(肺循環障害・臨床). 第36回日本臨床生理学会総会, 1999. 10.

##### (5) 一般講演:

- 1) Katoh T, Yodogawa K, Hayakawa H: A New Simple Computer Algorithm for the Differential Diagnosis of

- Wide QRS Premature Contractions . International Society For Computerized Electrocardiology '99 ( Nara, Japan ), 1999 . 4 .
- 2) Ogata K : Analysis of Microscopic Alternans of T-wave and Monophasic Action Potential . International Society For Computerized Electrocardiology '99 ( Nara, Japan ), 1999 . 4 .
  - 3) Ohno N : Evaluation of Ventricular Repolarization Using Surface ECG . International Society For Computerized Electrocardiology '99 ( Nara, Japan ), 1999 . 4 .
  - 4) Takayama H : High Resolution Analysis of High Frequency Components of QRS Complex by Wavelet Transform in Patients with Cardiomyopathy . International Society For Computerized Electrocardiology '99 ( Nara, Japan ), 1999 . 4 .
  - 5) Morita N , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Hayashi M , Miyauchi Y , Saitoh H , Atarashi H , Katoh T , Kishida H : Bidirectional Conduction Property of the Right Atrial Lower Isthmus in Patients with Common Atrial Flutter . North American Society of Pacing and Electrophysiology 20th Annual Scientific Sessions ( Toronto, Canada ), 1999 . 5 .
  - 6) Oikawa K , Fukuma N , Tsuchida T , Aisu N , Tomimura M , Fukuma Y , Sano J , Saitoh T , Kusama Y , Munakata K , Kishida H : Modulation of neural and metabolic heart rate response to exercise by a baroreflex mechanism . 1st International Congress on Heart Disease ( Washington DC, USA ), 1999 . 5 .
  - 7) Sutovsky I , Wu XY , Seino Y , Katoh T , Hayakawa H : Is There Any Relationship Between Plasma BNP Concentration and Ventricular Arrhythmias in Early Stage of Heart Failure? . New Strategies for Antiarrhythmic Treatment ( Tokyo, Japan ), 1999 . 5 .
  - 8) Katoh T , Iinuma H<sup>1)</sup> , Inoue H<sup>1)</sup> , Ohe T<sup>1)</sup> , Ogawa S<sup>1)</sup> , Kasanuki H<sup>1)</sup> , Tanabe T<sup>1)</sup> , Hayakawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Executive Committee, JALT-2 ): Long-term Follow Up of Antiarrhythmic Therapy for Tachyarrhythmias JALT-2 ; A Multicenter Prospective Study in Japan . New Strategies for Antiarrhythmic Treatment ( Tokyo, Japan ), 1999 . 5 .
  - 9) Hayakawa H : Newly Amended Guidelines for the Clinical Evaluation of Antiarrhythmic Drugs in Japan . New Strategies for Antiarrhythmic Treatment ( Tokyo, Japan ), 1999 . 5 .
  - 10) Yasutake M , Jia DL , Kusama Y , Kishida H , Hayakawa H : Determination of Crucial Period For Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> Exchanger Inhibition to Protect Hearts in Rat Regional Low-Flow Ischemia Model . International Society for Heart Research XX European Section Meeting ( Maastricht, The Netherlands ), 1999 . 6 .
  - 11) Setsuta K<sup>1)</sup> , Arai M<sup>1)</sup> , Miyatake Y<sup>1)</sup> , Ogawa T<sup>2)</sup> , Seino Y ( <sup>1)</sup> Komagome Hospital , <sup>2)</sup> Hakujuikai Memorial General Hospital ): Elevated Levels of Heart Type Fatty Acid Binding Protein in Patients with Chronic Heart Failure . American Heart Association 72nd Scientific Sessions ( Atlanta, USA ), 1999 . 11 .
  - 12) Miyauchi Y , Kobayashi Y , Hayashi M , Morita N , Iwasaki Y , Abe J , Aizawa M , Yashima M , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Upper Extension of the Eustachian Ridge and Its Electrophysiological Characteristics . American Heart Association 72nd Scientific Session ( Atlanta, USA ), 1999 . 11 .
  - 13) Takayama H , Wu XY , Katoh T , Hayakawa H : The Influence of Amiodarone to the High Frequency Components of QRS Complex -High Resolution Analysis by Wavelet Transform . Asian Pacific Conference on Cardiac Electrophysiology and Pacing ( Heilien, Taiwan ), 1999 . 12 .
  - 14) Iwasaki Y , Miyauchi Y , Osaka M , Kobayashi Y , Morita N , Hayashi M , Sasabe N , Saitoh H , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Spectral Analysis of Atrioventricular Conduction Time Variability : A New Method for Quantitative Evaluation of the Effect of Autonomic Nervous Activity on the Atrioventricular Node . American College of Cardiology 49th Annual Scientific Session ( Anaheim, USA ), 2000 . 3 .
  - 15) Oikawa K , Fukuma N , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Matusda H , Kusama Y , Munakata K , Kishida

- H, Takano T, Kumita S, Kumazaki T : Relationship Between Exercise Capacity and Peripheral Vessel Sympathetic Function Determined with <sup>123</sup>I-meta-iodobenzylguanidine ( MIBG ). American College of Cardiology 49th Annual Scientific Session ( Anaheim, USA ), 2000 . 3 .
- 16) 小野卓哉, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 神経調節性失神における薬理的自律神経機能検査法 ( PAT ) の意義 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 3 .
- 17) 斉藤 勉, 安武正弘, 福間長知, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一 : 異型狭心症における冠トースヌスに対する流雪中 Macrophage Colony Stimulating Factor の関与 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 3 .
- 18) 小林義典, 林 明聡, 宮内靖史, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二外科 ): 重症心室性不整脈における植込み型除細動器の適応状況 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 3 .
- 19) 大村和子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): I 群抗不整脈薬により心房粗動に移行した心房細動例の臨床的特徴 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 3 .
- 20) 本間 博, 草間芳樹, 大塚俊昭, 桜井 薫, 内田拓実, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 : ドブタミン負荷心エコー法と integrated backscatter との併用による心筋 viability の評価 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 4 .
- 21) 田畑美弥子, 高山守正, 加藤浩司, 竹永清人, 高橋保裕, 徳山権一, 川嶋修司, 藤田進彦, 笠神康平, 桜井薫, 上村竜太, 関戸司久, 内田高浩, 安武正弘, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫 : 経皮的中隔心筋焼灼術 ( PT SMA ) による左室大動脈圧較差減少が慢性期に消失してしまった流出路兼中流部閉塞の肥大型閉塞性心筋症の1例 . 第14回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1999 . 4 .
- 22) 木村祐子, 加藤良人, 清水秀治, 宮内靖史, 福間長知, 上田洋一, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 : チクロピジンによると思われる肝障害経過中にアニラセタムによる肝障害が出現した1例 . 第254回日本消化器病学会関東支部例会, 1999 . 5 .
- 23) 木内 要, 高野照夫, 太田眞夫, 橋本英洋, 大竹 稔, 早川弘一 : 糖尿病患者における冠動脈硬化の発症, 進展に対する Advanced glycation end products の役割 . 第42回日本糖尿病学会総会, 1999 . 5 .
- 24) 太田眞夫, 田中古登子, 藤田進彦, 福本裕子, 木内 要, 橋本英洋, 高野照夫, 大竹 稔, 荒牧琢己, 早川弘一 : 糖尿病合併症の進展評価におけるペントシジン測定の意義 . 第42回日本糖尿病学会総会, 1999 . 5 .
- 25) 岩崎雄樹, 小林義典, 宮内靖史, 森田典成, 林 明聡, 大野則彦, 高山英男, 八島正明, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 左冠尖からの高周波通電により焼灼に成功した特異性心室頻拍の1例 . 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999 . 5 .
- 26) 大野忠明<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 壬生倉徹志<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 宮本新次郎<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 小林義典 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): 右室流出路起源心室頻拍, 心房頻拍アブレーション成功部位における単極誘導局所電位の特徴 : 至適通電指標としての rapid downstroke wave . 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999 . 5 .
- 27) 大森裕也<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 矢島俊巳<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 山内仁繁<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 山田研一<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 宮脇佳世<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 北川彰信<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 林 明聡, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 早川弘一 ( <sup>1)</sup>第二外科 ): ICD 誤作動例の検討 . 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999 . 5 .
- 28) 緒方憲一, 斎藤寛和, 品田卓郎, 清水秀一, 大野則彦, 遠藤康実, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄 : 活動電位持続時間はT波オルタナンスに関係するか? : 単相性活動電位での検討 . 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999 . 5 .
- 29) 呉 小怡, Sutovsky I, 高山英男, 加藤貴雄, 早川弘一 : 高分解能心電図を用いたピルジカイニドの薬理作用の検討 . 第14回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1999 . 5 .
- 30) 大野則彦, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 緒方憲一, 松本 真, 野村敦宣, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩,

- 早川弘一：QT間隔のtemporal dispersionの検討．第14回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，1999．5．
- 31) 田畑美弥子，清水秀治，古明地弘和，斉藤 勉，関山達也，荒牧琢己，小谷英太郎<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，川俣博志<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>放射線科)：肝細胞癌右心室転移による切迫流出路閉塞に対しTranscoronary Chemoembolizationが有効であった1例．第35回日本肝癌研究会，1999．6．
- 32) 川嶋修司，木内 要，斉藤 勉，斎藤寛和，草間芳樹，高山守正，高野照夫：労作時息切れおよび胸部不快感を契機に発見された左房瘤の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第172回学術集会，1999．6．
- 33) 上村竜太<sup>1)</sup>，桜井 薫<sup>1)</sup>，青木 聡<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，李 武司<sup>2)</sup>，安武正弘，草間芳樹，高山守正 ( <sup>1)</sup>八潮循環器病院循環器内科，<sup>2)</sup>同外科)：左回旋枝起始異常を伴う急性心筋梗塞症例に対してPTCAを施行した1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第172回学術集会，1999．6．
- 34) 相澤瑞穂，岩崎雄樹，森田典成，林 明聡，宮内靖史，小林義典，斎藤寛和，新 博次，岸田 浩，高野照夫：日本医科大学付属病院における 遮断薬使用実態調査：特に高齢者における使用について．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 35) 本間 博，西垣龍太郎，伊藤恵子，菅原博子，宗像一雄，岸田 浩，松崎つや子<sup>1)</sup>，佐藤淳子<sup>1)</sup>，水瀬 学<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>生理機能センター)：Integrated backscatter解析を用いた左室心筋viability評価と心機能回復予測．日本超音波医学会第72回学術集会，1999．6．
- 36) 長野具雄，佐藤良一<sup>1)</sup>，松田裕之，荒牧琢己 ( <sup>1)</sup>ノースウェスタン大学医学部薬理学部門)：モルモット肝細胞膜Ca<sup>2+</sup> permeable channelの活性化機構について．第35回日本肝臓学会総会，1999．6．
- 37) 松田裕之，佐藤良一<sup>1)</sup>，長野具雄，荒牧琢己 ( <sup>1)</sup>ノースウェスタン大学医学部薬理学部門)：ヒト肝細胞膜K<sup>+</sup> channel．第35回日本肝臓学会総会，1999．6．
- 38) 愛須紀子，福間長知，宗像一雄，岸田 浩，土田貴也，及川恵子，馬淵浩輔，松田裕之，富村正登，福間祐美子，佐野純子，斉藤 勉，草間芳樹，高野照夫，早川弘一：圧受容体反射機能障害を有する心不全症例における心室性期外収縮出現の特徴．第19回ホルター心電図研究会，1999．6．
- 39) 岩崎雄樹，大野則彦，緒方憲一，宮内靖史，小林義典，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，高野照夫，早川弘一，田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二外科)：植え込み型ホルター心電計の使用経験．第15回ホルター心電図研究会，1999．6．
- 40) 岩崎雄樹，小原啓子，斉藤 勉，清水秀治，古明地弘和，大須賀勝，関山達也，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己：急性肝炎様発症をした原発性胆汁性肝硬変の1例．第255回日本消化器病学会関東支部例会，1999．7．
- 41) 関戸司久，上村竜太，小谷英太郎，桜井 薫，内田高浩，横山広行，安武正弘，草間芳樹，高山守正，宗像一雄，高野照夫：虚血性心不全の病態と急性期治療戦略：冠血行再建術を含めて．第8回日本心血管インターベンション学会学術集会，1999．7．
- 42) 上村竜太，高山守正，小谷英太郎，桜井 薫，関戸司久，内田高浩，横山広行，安武正弘，木内 要，草間芳樹，高野照夫：冠内圧測定によるIABP効果の検討．第8回日本心血管インターベンション学会学術集会，1999．7．
- 43) 竹永清人，高山守正，関戸司久，小谷英太郎，上村竜太，横山広行，川嶋修司，高橋保裕，徳山権一，笠神康平，桜井 薫，内田高浩，安武正弘，本間 博，草間芳樹，宗像一雄，高野照夫：閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術の長期成績．第8回日本心血管インターベンション学会学術集会，1999．7．
- 44) 上村竜太<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，小谷英太郎<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，横山広行<sup>1)</sup>，木内 要<sup>1)</sup>，子島 潤<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，桜井 薫，内田高浩，安武正弘，富田喜文，草間芳樹 ( <sup>1)</sup>集中治療室)：非梗塞例における左室収縮能低下を生じる冠灌流圧の検討．第8回日本心血管インターベンション学会学術集会，1999．7．
- 45) 斎藤寛和<sup>1)</sup>，緒方憲一，平山悦之 ( <sup>1)</sup>第二病院内科)：μ V level T wave alternansの成因と臨床的意義．第34回理論心電図研究会，1999．7．
- 46) 桜井 薫，佐野純子，本間 博，草間芳樹，宗像一雄，岸田 浩，高野照夫，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>)放射線科): T1201-CI/Tc99m-sestamibi を用いたドプタミン負荷心筋シンチグラフィ短時間収集心拍同期 SPECT による心筋虚血の評価。第48回循環器負荷研究会, 1999. 8.
- 47) 高橋保裕, 吉川雅智, 安武正弘, 関戸司久, 木内 要, 小林義典, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫 (<sup>1</sup>)放射線科): 左外腸骨動脈瘤破裂に対しDacron Covered Stentの緊急留置が有効であった1例。第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999. 8.
- 48) 小倉宏道<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 石井律子<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 宮城泰雄<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1</sup>)千葉北総病院循環器センター): 完全房室ブロックによる心不全を発症した超高齢者に対しペースメーカー植込み術を施行した1例。第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999. 8.
- 49) 石井健輔, 安武正弘, 木内 要, 子島 潤, 太田眞夫, 橋本英洋, 荒牧琢己, 高野照夫: 超高齢者における血清アルブミン濃度の意義。第30回日本老年医学会関東甲信越地方会, 1999. 9.
- 50) 張 雪君, 大須賀勝, 勝田悌実, 荒牧琢己, 秋元敏雄<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)実験動物管理室): 門脈圧亢進症実験モデルの動脈血酸素化に及ぼす一酸化窒素(NO)の影響。第6回日本門脈圧亢進症学会総会, 1999. 9.
- 51) 新 博次, 遠藤康実, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 小林義典, 高野照夫: 新しいIII群抗不整脈薬sotalolの心房細動への使用経験。第7回不整脈薬物療法研究会, 1999. 9.
- 52) 相澤瑞穂, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 宮内靖史, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 高野照夫: 日本医科大学付属病院における遮断薬使用実態調査。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 53) 中島博子<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 本間 博, 新 博次, 岸田 浩, 高野照夫, 小林正文<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>内科学第3): 治験コーディネーター(CRC)業務を試行して。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 54) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 小松裕子<sup>1)</sup>, 関口由起子<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斉藤一<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 西垣龍太郎, 平山悦之, 本間 博, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫 (<sup>1</sup>)付属病院生理機能センター): 慢性心不全症例における末梢循環の評価: 塩酸オルブリン負荷とair-plethysmographyを用いて。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 55) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>, 横山広行, 及川恵子, 福間長知, 高野照夫 (<sup>1</sup>)泌尿器科): Sildenafil Citrate(パイアグラ)を用いた勃起不全(Erectile Dysfunction: ED)に対する治療とその問題点。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 56) 石川正也, 山科育子, 土田貴也, 小林義典, 清野精彦, 荒牧琢己, 高野照夫: 多発性筋炎に対して免疫抑制剤投与中に甲状腺機能低下症を合併し, CPKを指標とした薬効評価が困難であった1例。第475回日本内科学会関東地方会, 1999. 9.
- 57) 高橋保裕, 上田洋一, 小林義典, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 進士誠一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)第一外科): 肝炎症性偽腫瘍を合併した特発性門脈圧亢進症の1例。第256回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 9.
- 58) 谷口宏史, 宮内靖史, 桜井 薫, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫: EPSを契機に発見された重複下大動脈の2症例。日本循環器学会関東甲信越地方会第173回学術集会, 1999. 9.
- 59) 小島康正<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 増谷佑人<sup>1)</sup>, 渡辺綾子<sup>1)</sup>, 山口 寛<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 横山広行<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦, 高野照夫 (<sup>1</sup>)集中治療室): 先天性Protein S欠損に伴う肺血栓塞栓症の2例。日本循環器学会関東甲信越地方会第173回学術集会, 1999. 9.
- 60) 岩原信一郎<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 松山小太郎<sup>1)</sup>, 杉本忠彦<sup>1)</sup>, 佐々木建志<sup>1)</sup>, 小林明芳<sup>1)</sup>, 原田 厚<sup>1)</sup>, 清野精彦, 高野照夫 (<sup>1</sup>)海老名総合病院附属東病院循環器センター): H-FABP迅速検出試薬が有効であった急性心筋梗塞の3例。日本循環器学会関東甲信越地方会第173回学術集会, 1999. 9.
- 61) 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 横山広行, 木内 要, 安武正弘, 草間芳樹, 子島 潤, 宗像一雄, 高野照夫: 心収縮機能簡便指標の確立(Pressure-Volume LoopによるE<sub>max</sub>との対比)。第34回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.



- 62) 松本 真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 斎藤寛和, 岩崎雄樹, 大野則彦, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター ): T波オルタナンスにおける判定心拍数設定の問題点. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 63) 佐野純子, 桜井 薫, 斉藤 勉, 本間 博, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): Tc-99m-Tetrofosminを用いたドプタミン負荷心筋シンチグラフィ 短時間収集心拍同期SPECTデータによる負荷時機能解析の併用. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 64) 高山守正, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>東京都CCU連絡協議会 ): 多施設集計による急性大動脈解離の治療成績: 1997年東京CCU Network報告. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 65) 及川恵子, 福間長知, 愛須紀子, 土田貴也, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫, 早川弘一, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 下肢骨格筋交感神経機能と運動耐容能との関係: 骨格筋MIBGを用いた検討. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 66) 柏木睦美, 清野精彦, 本間 博, 草間芳樹, 松崎つや子, 大塚俊昭, 桜井 薫, 岸田 浩, 高野照夫: 心サルコイドーシスにおける心筋生化学マーカーおよび心筋integrated backscatterの分析について. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 67) 榎方美文<sup>1)</sup>, 清野精彦, 島井新一郎<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>島井内科小児科クリニック ): 第二世代心筋Troponin T測定による慢性腎透析症例における潜在性心筋傷害の診断と長期予後の分析. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 68) 淀川顕司, 高山英男, ストフスキイゴル, 呉 小怡, 加藤貴雄, 早川弘一: 心室頻拍を伴う右脚ブロック心電図の時間周波数解析. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 69) 高山英男, 淀川顕司, ストフスキイゴル, 呉 小怡, 加藤貴雄, 早川弘一: 肥大型心筋症における心電図微小高周波成分の変化と心室頻拍発生の関連性. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 70) Sutovsky I, Wu XY, 清野精彦, 加藤貴雄, 早川弘一: 血中BNP濃度は心室性不整脈の重症度を反映する. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 71) 小林義典, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 大野則彦, 高山英男, 宮内靖史, 八島正明, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一, 松本万夫<sup>1)</sup>, 中川 博<sup>2)</sup>, Wittkamp FHM<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学第二内科, <sup>2)</sup>University of Oklahoma, <sup>3)</sup>University Hospital Utrecht ): 心内電極位置の三次元認識システム“Localisa”の使用経験. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 72) 清水秀一, 緒方憲一, 八島正明, 平山悦之, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 高野照夫: 心房細動停止過程における細動波の周波数解析. 第16回日本心電学会学術集会, 1999. 10.
- 73) 淀川顕司, 高山英男, 加藤貴雄: ウェーブレット変換を用いた心電図QRS高周波微小成分の検討: 心筋症における心室頻拍との関連. 第15回心電図信号情報処理ワークショップ, 1999. 10.
- 74) 清水秀治, 長戸孝道, 古明地弘和, 長野具雄, 上田洋一, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 奥村英正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京白十字病院): 超高齢者の肝機能に関する検討. 第3回日本肝臓学会大会, 1999. 10.
- 75) 大須賀勝, 長戸孝道, 張 雪君, 清水秀治, 長野具雄, 古明地弘和, 上田洋一, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 女性におけるNon-alcoholic steatohepatitis (NASH) と脂肪肝の異同. 第3回日本肝臓学会大会, 1999. 10.
- 76) 相澤瑞穂, 小林義典, 阿部純子, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫: 心房不応期に対する短時間高頻度刺激の影響: 特に自律神経の関与について. 第36回日本臨床生理学会総会, 1999. 10.
- 77) 張 雪君, 本間 博, 清水秀治, 上田洋一, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 慢性肝疾患における低酸素血症と肺循環時間. 第36回日本臨床生理学会総会, 1999. 10.
- 78) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小倉宏道<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 酒井

- 俊太<sup>1)</sup>, 大國眞一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 血管内エコー ( IVUS ) による動脈硬化と Coronary Artery Distensibility ( DIST ) との関係 . 第36回日本臨床生理学会総会, 1999 . 10 .
- 79) 高山英男, 小林義典, 清野精彦, 勝田悌実, 高野照夫, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>第一外科, <sup>2)</sup>第二外科 ): 肝右葉に初発し区域切除術後, 両側副腎に再発した炎症性偽腫瘍の1例 . 第476回日本内科学会関東地方会, 1999 . 10 .
- 80) 石川正也<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 高井恵美子<sup>1)</sup>, 佐々木孝<sup>1)</sup>, 信士陽子<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 森田典成, 藤岡幹雄, 清野精彦, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 多枝冠攣縮が誘発された " たこつぼ型心筋症 " の2例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第174回学術集会, 1999 . 11 .
- 81) 田中古登子, 椎葉邦人, 古明地弘和, 斉藤 勉, 清野精彦, 高野照夫: マルフアン症候群に甲状腺機能亢進症を合併した1例 . 第477回日本内科学会関東地方会, 1999 . 11 .
- 82) 岩崎雄樹, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>2)</sup>, 小野いすず, 小野卓哉, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科 ): 神経調節性失神の精神的側面: パニック障害を誘因とした1例 . 第52回日本自律神経学会総会, 1999 . 11 .
- 83) 美浦和代, 加藤浩司, 宮内靖史, 清水秀治, 上田洋一, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 興味ある臨床像, 組織所見を呈した non-alcoholic setatohepatitis ( NASH ) の1例 . 第257回日本消化器病学会関東支部例会, 1999 . 12 .
- 84) 大野則彦, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 立野政雄<sup>1)</sup>, 中村 幹<sup>1)</sup>, 田頭 勲<sup>1)</sup>, 小林真一<sup>2)</sup>, 長澤紘一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>新座志木中央総合病院臨床薬理センター, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医大薬理学, <sup>3)</sup>多摩永山病院内科 ): 健康成人におけるモサブリド単独およびエリスロマイシン併用時の心電図に及ぼす影響 . 第20回日本臨床薬理学会年会, 1999 . 12 .
- 85) 横山広行, 及川恵子, 福間長知, 安武正弘, 高野照夫, 早川弘一, 松澤一郎<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>泌尿器科 ): Phosphodiesterase 5阻害薬シルデナフィル適応勃起不全例における冠危険因子と潜在的虚血性心疾患の検討 . 第20回日本臨床薬理学会年会, 1999 . 12 .
- 86) 西垣龍太郎, 本間 博, 平山悦之, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 慢性心不全例における末梢循環の評価: 塩酸オルプリノン負荷とair-plethysmographyを用いて . 第20回日本臨床薬理学会年会, 1999 . 12 .
- 87) 西垣龍太郎, 本間 博, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 平山悦之, 宗像一雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 慢性心不全症例におけるPDE-III阻害薬, 塩酸オルプリノン負荷 . 第40回日本脈管学会総会, 1999 . 12 .
- 88) 何 媛, 桜井 薫, 内田高浩, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 宗像一雄, 高野照夫: 25年間の急性心筋梗塞の冠動脈造影, 左室造影所見及び臨床像推移について . 第40回日本脈管学会総会, 1999 . 12 .
- 89) 田中古登子, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 斉藤 勉, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫: 糖尿病の発症により診断しえた著明な臍石, 石灰化を伴う特発性慢性膵炎の一例 . 第37回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2000 . 1 .
- 90) 堀江 格, 宮内靖史, 木内 要, 斉藤 勉, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫, 橋本綱子, 山田宣孝, 田村浩一, 山中宣昭: Fibromuscular dysplasiaに伴う上腸間膜動脈閉塞症により急性循環不全をきたした1剖検例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第175回学術集会, 2000 . 2 .
- 91) 高山英男, 淀川顕司, 吳 小怡, 加藤貴雄: 高分解能心電図を用いた抗不整脈薬・薬理作用の薬効力学的分析 . 第10回体表心臓微小電位研究会, 2000 . 2 .
- 92) 緒方憲一, 清水秀一, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 斎藤寛和<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院内科 ): 持続性T波オルタナンスの出現機序: 筋小胞体Calcium cyclingの影響 . 第10回体表心臓微小電位研究会, 2000 . 2 .
- 93) 山科育子, 横山広行, 安武正弘, 木内 要, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>麻酔科 ): 術後早期発症の急性肺血栓栓塞症に対する線溶療法の有効性と合併症に関する検討 . 第27回日本集中治療医学会総会, 2000 . 3 .

- 94) 石川正也<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 術中に発症した " たこつぼ型心筋症 " の回復後に肺血栓塞栓症を発症した1例. 第27回日本集中治療医学会総会, 2000 . 3 .
- 95) 緒方憲一<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 山科育子, 横山広行, 木内 要, 高野照夫, 川俣博志<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科 ): 急性肺血栓塞栓症に対する経カテーテル肺動脈血栓吸引術の効果. 第27回日本集中治療医学会総会, 2000 . 3 .
- 96) 山本 剛, 上田洋一, 古明地弘和, 里村克章, 勝田梯実, 荒牧琢己, 高野照夫, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 廣井 信<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>第二病理, <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科 ): 高度胆汁うっ滞を伴い先天性肝腺維症が疑われた興味ある1例. 日本消化器病学会関東支部第258回支部例会, 2000 . 3 .
- 97) 中込明裕, 高野照夫: ホルモン補充療法は, 閉経後女性の単球組織因子活性を減弱させる. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 98) 及川恵子, 福間長知, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 松田裕之, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 運動負荷時の交感神経活性化に対する心拍反応性の障害. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 99) 桜井 薫, 佐野純子, 本間 博, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科 ): <sup>201</sup>Tl-Cl/<sup>99m</sup>Tc-sestamibiを用いたドプタミン負荷心筋シンチグラフィ短時間収集心拍同期SPECTによる心筋虚血の評価. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 100) 高山守正<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 大井田史継<sup>2)</sup>, 深見建一<sup>3)</sup>, 榎田光夫<sup>4)</sup>, 武藤 誠<sup>5)</sup>, 竹永清人, 本間 博, 草間芳樹, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>獨協医科大学心血管肺内科, <sup>3)</sup>岩手医科大学第二内科, <sup>4)</sup>国立国際医療センター, <sup>5)</sup>埼玉県立循環器呼吸器病センター ): 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中等焼灼術の初期および長期成績. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 101) 森田典成, 小林義典, 山科育子, 堀江 格, 谷口宏史, 平澤泰宏, 阿部純子, 相澤瑞穂, 林 明聡, 宮内靖史, 大村和子, 八島正明, 平山悦之, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫: Common atrial flutterにおける下位右房解剖学的峡部の伝導様式の検討: Reversed common flutter誘発例と非誘発例の比較. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 102) 及川恵子, 福間長知, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 松田裕之, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 運動負荷に対するchronotropic incompetenceの機序: 代謝性因子と液性因子を介した心拍反応の検討. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 103) 緒方憲一<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦, 木内 要, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性冠症候群以外で心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験が陽性となる病態の検討. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 104) 緒方憲一<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦, 木内 要, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 重症心不全における心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験による心筋傷害の検出と病態の分析. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 105) 説田浩一<sup>1)</sup>, 相澤瑞穂<sup>1)</sup>, 荒尾正人<sup>1)</sup>, 宮武佳子<sup>1)</sup>, 今井 保<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>2)</sup>, 清野精彦, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>都立駒込病院循環器科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院循環器内科 ): 慢性心不全症例におけるヒト心臓脂肪酸結合蛋白による潜在性微小心筋傷害の検出と病態の分析. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 106) 中込明裕, 山本 剛, 藤田進彦, 青木 聡, 高野照夫, 山根吉人<sup>1)</sup>, 雪吹周夫<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 長澤絏一<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>博慈会記念病院循環器科 ): 冠攣縮性狭心症患者におけるアセチルコリン誘発試験時の冠攣縮形態とその成因の検討: 特に高インスリン血症と冠予備能の関与について. 第64回日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 107) 何 媛, 草間芳樹, 高山守正, 宗像一雄, 高野照夫: 急性心筋梗塞患者2235例の25年間における冠危険因子

の変遷．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．

- 108) 大野則彦，松本 真，緒方憲一，小林義典，新 博次，加藤貴雄，高野照夫，斎藤寛和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：急性心筋梗塞におけるQT variability index (QTVI) の経時的変化．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 109) 竹永清人，藤岡進彦，山本 剛，藤岡幹雄，草間芳樹，清野精彦，高野照夫，高山守正<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，上村竜太<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：肥大型心筋症における血中脳症利尿ペプチド値と左室内閉塞の関係．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 110) 宮内靖史，小林義典，岩崎雄樹，森田典成，林 明聡，相澤瑞穂，新 博次，加藤貴雄，高野照夫：Eustachian ridgeの上方進展度とその電気生理学的特徴．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 111) 林 明聡，小林義典，谷口宏史，山科育子，堀江 格，相澤瑞穂，阿部純子，森田典成，岩崎雄樹，大野則彦，高山英男，大野忠明，松本 真，宮内靖史，八島正明，新 博次，加藤貴雄，高野照夫：房室結節リエントリー性頻拍アブレーションにおける三尖弁輪：冠静脈洞間線状焼灼の有効性：電位ガイド下点状焼灼との比較．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 112) 岩崎雄樹，宮内靖史，大坂元久，相澤瑞穂，阿部純子，森田典成，林 明聡，大村和子，平山悦之，佐々部典子，小林義典，新 博次，加藤貴雄，斎藤寛和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：房室結節伝導時間変動の周波数解析 房室結節に対する自律神経活動の影響の定量化．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 113) 緒方憲一<sup>1)</sup>，大野則彦<sup>1)</sup>，上村竜太<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，清野精彦，木内要，高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室)：急性冠症候群における心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験の有用性に関する検討．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 114) 横山広行，及川恵子，福岡長知，安武正弘，高野照夫，松澤一郎<sup>1)</sup>，秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科)：Phosphodiesterase 5阻害薬シルデナフィル適応勃起不全例における冠危険因子と潜在的虚血性心疾患の検討．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 115) 上村竜太<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，加藤浩司，坪 宏一，藤岡進彦，山本 剛，桜井 薫，中込明裕，富田喜文，草間芳樹，高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室)：新世代冠動脈ステントの使用は急性冠症候群への治療に有効か：旧世代ステント使用時期との初期及び長期成績の比較．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．

#### (6) コロキウム：

- 1) 高山守正：閉塞性肥大型心筋症のカテーテル治療：経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA) (閉塞性肥大型心筋症の治療)．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

老年者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常および肥満などに関する臨床的研究を中心に行った．

糖尿病に関する研究：1) スルホニル尿素薬の至適投与法を血糖日内変動の面より明かにした．2) 血糖管理指標としての朝食前血糖値と朝食後血糖値の臨床的意義を比較検討した，3) 糖尿病罹病期間の延長がスルホニル尿素薬の血糖コントロールを困難にする一要因として重要であることを明らかにした．4) 老年糖尿病患者の食行動異常の特徴を明かにした．5) 糖尿病性腎症の早期の指標としての尿中アルブミン測定の意義を検討した．6) 糖尿病患者の心理学的特徴を明かにした．6) ジピリダモールが早期の糖尿病性腎症の進展を抑制する可能性を示唆する成績を得た．

動脈硬化に関する研究：1) インスリン抵抗性と動脈硬化進展との関連を検討した．2) 頸動脈の内膜肥厚度と脳梗塞発症との関連につき検討した．3) 総頸動脈血流速の左右差が虚血性心疾患発症の予測因子となることを明かに

した。

脂質代謝異常に関する検討：1) 糖尿病患者の穿通枝系脳梗塞発症に及ぼす血清Lp(a)の影響がそのフェノタイプにより差があることを明らかにした。2) 日本脂質介入試験(J-LIT)の一員として中間報告を行った。

肥満に関する検討：1) 血清レプチン濃度の加齢変化を性、体脂肪分布に配慮し明らかにした(本論文は第7回社団法人日本老年医学会優秀論文賞を受賞)。2) 肥満者におけるインスリン抵抗性の臨床的意義を検討した。3) 老年期の肥満と食行動異常との関連を検討した。

その他：1) 生活習慣病とインスリン抵抗性との関連をドック受診者につき検討した。

## 研究業績

### 論文

[1998年度追加分]

原著：

- 1) 松村典昭, 岡崎恭次, 犬塚有紀, 佐藤周三, 鈴木達也, 安室尚樹, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 山田宣孝<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>病理第2): 2年間の経過観察後, 原発性マクログロブリン血症に移行した1例。老年者造血器研究会誌 1998; 7(1): 6-10.

(1) 原著：

- 1) Oba K, Igari Y, Ajiro Y, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Nakano H, Metori S: Effects of dipyridamole treatment on persistent microalbuminuria in type 2 diabetic patients. Ther Res 2000; 21(2): 379-384.
- 2) 山口 寛, 大庭建三, 矢野 誠, 岡崎恭次, 猪狩吉雅, 鯉淵 仁, 佐藤周三, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平: 肝嚢胞が感染後に著明な縮小を来した老年者の1例。日老医誌 1999; 36(5): 369-372.
- 3) 大庭建三, 鯉淵 仁, 岡崎恭次, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 矢野 誠, 山口 祐, 網代由美子, 佐藤周三, 永井信也, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平: 老年糖尿病患者におけるスルホニル尿素薬療法: 糖尿病罹病年数と血糖日内変動の関係からの検討。日老医誌 1999; 36(10): 715-720.
- 4) 増谷祐人, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 秋田政彦<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>病理第2): 皮膚病変で初発したB細胞非ホジキンリンパ腫の1例。老年者造血器疾患研究会誌 1999; 8(2): 27-30.
- 5) 笹井恵子, 大庭建三, 中野博司, 妻鳥昌平: 血清レプチン濃度と加齢, 性および体脂肪分布との関係。日老医誌 1999; 36(12): 874-880.

(2) 総説：

- 1) 佐藤周三: Alzheimer病の体重変化と重症度, 死亡率の関係についての長期分析。老化と疾患 1999; 12(4): 393-393.
- 2) 中野博司, 岡崎恭次, 妻鳥昌平: 在宅医療と健康保険医療制度。Modern Physician 1999; 19(5): 469-474.
- 3) 網代由美子: 老年者における負荷後血糖値と心疾患の危険。老化と疾患 1999; 12(7): 800-800.
- 4) 中野博司, 網代由美子, 妻鳥昌平: 高齢者患者の在宅ケアとその問題点。Modern Physician 1999; 19(6): 758-760.
- 5) 大庭建三, 中野博司: 粘液産生膵腫瘍術後の高齢者の糖尿病管理。日本医事新報 1999; (3926): 104-105.
- 6) 大庭建三: 糖尿病とつきあう: 生活習慣病としての糖尿病。都薬雑誌 1999; 21(9): 17-23.
- 7) 大庭建三: 高齢者糖尿病の管理の実際。茅ヶ崎医師会報 1999; (53): 13-18.
- 8) 中野博司: 老年期発症の糖尿病。Modern Physician 1999; 19(9): 1193-1193.
- 9) 中野博司: 高齢者糖尿病。Modern Physician 1999; 19(10): 1325-1325.
- 10) 妻鳥昌平: 老年者生活習慣病への対応: かかりつけ医としての役割。老年者造血器疾患研究会誌 1999; 8

(2): 58-68 .

- 11) 大庭建三, 中野博司, 網代由美子, 犬塚有紀: 高齢者の低脂血症をみたら . The Lipid 2000 ; 11 (1): 54-61 .
- 12) 妻鳥昌平: 老いの文化 ' 心技体 ' . Geriat Med 2000 ; 38 (1): 103-103 .

## 著 書

- 1) 大庭建三: [ 分担 ] 特別な医学的配慮を必要とする介護: 糖尿病 . おとしよりとくらす ( 日本老年医学会 ), 1999 ; pp290-297, 文光堂 .
- 2) 大庭建三: [ 翻訳 ] インスリン, グルカゴンと糖尿病 . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ), 1999 ; pp981-994, 医学書院 .
- 3) 中野博司: [ 分担 ] 絶対禁忌; 治療; 老年病科 . 医療禁忌マニュアル ( 富野康日己 ), 1999 ; pp54-54, 医歯薬出版 .
- 4) 中野博司: [ 分担 ] 相対医療禁忌; 検査; 老年病科 . 医療禁忌マニュアル ( 富野康日己 ), 1999 ; pp121-121, 医歯薬出版 .
- 5) 中野博司: [ 分担 ] 相対医療禁忌; 治療; 老年病科 . 医療禁忌マニュアル ( 富野康日己 ), 1999 ; pp186-191, 医歯薬出版 .
- 6) 中野博司: [ 分担 ] 相対医療禁忌; 配合禁忌; 老年病科 . 医療禁忌マニュアル ( 富野康日己 ), 1999 ; pp283-284, 医歯薬出版 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 妻鳥昌平: 老年者生活習慣病の Up to date . 第83回置賜医学会学術講演会, 1999 . 7 .
- 2) 中野博司: 粥状硬化症: 最近の話題から . 第3回高齢者糖尿病研究会, 1999 . 10 .

### (2) 教育講演:

- 1) 中野博司: 高コレステロール血症の病態と治療 . 山梨中巨摩群・北巨摩郡医師会学術講演会, 1999 . 6 .
- 2) 大庭建三: 高齢者診療の注意点 . 小田原市医師会学術講演会, 1999 . 9 .
- 3) 松村典昭: 糖尿病患者の穿通枝系梗塞の危険因子としての高リポプロテイン ( a ) 血症の意義 . 第3回高齢者糖尿病研究会, 1999 . 10 .
- 4) 妻鳥昌平: 老年者生活習慣病への対応: かかりつけ医としての役割 . 第22回老年者造血器疾患研究会, 1999 . 11 .
- 5) 大庭建三: 高齢者診療の注意点: 生活習慣病の治療を中心に . 横須賀市医師会学術講演会, 2000 . 2 .

### (3) 一般講演:

- 1) Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Oba K, Metori S : A symmetry of common carotid artery velocity is marker for ischemic heart disease . 71th Congress of the European Atherosclerosis Society ( Athens ), 1999 . 5 .
- 2) Okazaki K, Nakano H, Suzuki T, Oba K, Metori S : Intima-media wall thickness and presence plaques of the carotid artery are important predictors of cerebral infarction . 71th Congress of the European Atherosclerosis Society ( Athens ), 1999 . 5 .
- 3) Suzuki T, Okazaki K, Nakano H, Oba K, Metori S : Apolipoprotein ( a ) phenotype and perforating artery occlusion type of cerebral infarction ( CVD ) in diabetic patients . 71th Congress of the European Atherosclerosis Society ( Athens ), 1999 . 5 .
- 4) Sasai K, Oba K, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Effects of age on serum leptin concentration . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .

- 5) Oba K, Okazaki K, Suzuki T, Sasai K, Nakano H, Metori S : Sulfonylureas and daily blood glucose profiles in the elderly diabetics . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .
- 6) Okazaki K, Nakano H, Suzuki T, Sasai K, Oba K, Metori S : Intima-media wall thickness and presence of plaques of the carotid artery are important predictors of cerebral infarction . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .
- 7) Suzuki T, Okazaki K, Sasai K, Nakano H, Oba K, Metori S : The effect of apolipoprotein ( a ) phenotype on perforating aretry occulsion type of cerebral infarction ( CVD ) in elderly diabetic patients . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .
- 8) Nakano H, Okazaki K, Sasai K, Suzuki T, Oba K, Metori S : Clinical usefulness of the laterality of blood flow velocity of the common carotid arteries . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .
- 9) 大庭建三, 高井恵美子, 鯉淵 仁, 岡崎恭次, 佐藤周三, 中野博司, 妻鳥昌平 : スルホニル尿素 ( SU ) 薬の至適投与法に関する検討 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 4 .
- 10) 中野博司, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 動脈硬化に及ぼすインスリン抵抗性の影響 : HOMA-Rを用いた検討 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 4 .
- 11) 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 糖尿病患者の穿通枝系脳梗塞発症に及ぼす血清Lp ( a ) の影響について : フェノタイプ別の検討 . 第96回日本内科学会講演会, 1999 . 4 .
- 12) 岡崎恭次, 高井恵美子, 増谷祐人, 西原亜希, 矢野 誠, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 猪狩吉雅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>岡崎病院) : グリベンクラミド, グリクラジドの至適投与法に関する検討 : 1回投与と分割投与による血糖日内変動の比較 . 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999 . 5 .
- 13) 鯉淵 仁, 大庭建三, 板垣真一, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平, 松村典昭<sup>1)</sup>, 平井眞明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮共立病院) : スルホニル尿素薬療法中の老年糖尿病患者の血糖管理 : 朝食前および朝食後血糖値測定の意義 . 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999 . 5 .
- 14) 大庭建三, 渡邊威之, 木川好章, 網代由美子, 笹井恵子, 永井信也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年糖尿病患者の食行動 : 「食行動質問表」による検討 . 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999 . 5 .
- 15) 中野博司, 水野重芳, 山口 寛, 渡邊健太郎, 佐藤周三, 大庭建三, 妻鳥昌平, 山口 祐<sup>1)</sup>, 犬塚有紀<sup>1)</sup>, 仲地紀勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮共立病院) : 早期腎症におけるアルブミン尿の病因判別の試み : 各種尿指標による検討 . 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999 . 5 .
- 16) 鈴木達也, 松村典昭<sup>1)</sup>, 木川好章, 網代由美子, 岡崎恭次, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平(<sup>1)</sup>大宮共立病院) : 老年者糖尿病患者の穿通枝脳梗塞発症に及ぼす血清Lp ( a ) の影響について : フェノタイプ別の検討 . 第41回日本老年医学会学術集会, 1999 . 6 .
- 17) 笹井恵子, 大庭建三, 猪狩吉雅<sup>1)</sup>, 松村典昭<sup>2)</sup>, 鯉淵 仁, 矢野 誠, 渡邊威之, 中野博司, 妻鳥昌平(<sup>1)</sup>岡崎病院内科, <sup>2)</sup>大宮共立病院) : 血清レプチン濃度に及ぼす加齢の影響 . 第41回日本老年医学会学術集会, 1999 . 6 .
- 18) 中野博司, 水野重芳, 渡邊健太郎, 犬塚有紀<sup>1)</sup>, 仲地紀勝<sup>1)</sup>, 佐藤周三, 大庭建三, 妻鳥昌平(<sup>1)</sup>大宮共立病院) : 老年糖尿病患者の早期腎症の指標としての尿アルブミンの病因判別の試み : 各種尿指標の有用性に関する検討 . 第41回日本老年医学会学術集会, 1999 . 6 .
- 19) 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 中野博司, 網代由美子, 山口 祐<sup>1)</sup>, 佐藤周三, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平(<sup>1)</sup>大宮共立病院) : 頸動脈病変と頭蓋内動脈血流との関連に関する検討 (第2報) : 頸動脈病変と脳梗塞との関連について . 第41回日本老年医学会学術集会, 1999 . 6 .
- 20) 岡崎恭次, 高井恵美子, 増谷祐人, 西原亜希, 猪狩吉雅<sup>1)</sup>, 矢野 誠, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平(<sup>1)</sup>岡崎病院内科) : グリベンクラミド, グリクラジドの至適投与法に関する検討 : 1回投与と分割投与による血糖日

内変動の比較．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．

- 21) 猪狩吉雅，大庭建三，板垣真一，鯉淵 仁，岡崎恭次，鈴木達也，平井眞明<sup>1)</sup>，中野博司，妻鳥昌平<sup>(1)</sup> (大宮共立病院内科)：老年糖尿病患者におけるスルホニル尿素薬療法：糖尿病罹病年数と血糖日内変動の関係からの検討．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 22) 中野博司，渡邊健太郎，岡崎恭次，井川宗彦，佐藤周三，笹井恵子，鈴木達也，大庭建三，妻鳥昌平：頸動脈病変と脳梗塞の関連について：超音波検査による検討．第31回日本動脈硬化学会総会，1999．6．
- 23) J-LIT研究会，鈴木達也：日本脂質介入試験 (J-LIT) についての調査報告 (第6報)：登録された高脂血症患者5万例の5年間追跡結果の分析．第30回日本動脈硬化学会総会，1999．6．
- 24) 増谷祐人，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，秋田政彦<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>(1)</sup>皮膚科)：皮膚病変で初発したB細胞非ホジキンリンパ腫の1例．第22回老年者造血管疾患研究会，1999．7．
- 25) 永井信也<sup>1)</sup>，安室尚樹<sup>1)</sup>，板垣真一<sup>1)</sup>，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平<sup>(1)</sup> (健康管理科)：生活習慣病におけるインスリン抵抗性について：人間ドックにおけるインスリン抵抗性測定の有用性．第40回人間ドック学会，1999．8．
- 26) 西原亜希，岡村弘次郎，網代由美子，山口 祐，佐藤周三，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：急性筋炎を認めた老年者インフルエンザA型感染症の2例．第30回日本老年医学会関東甲信越地方会，1999．9．
- 27) 永井信也<sup>1)</sup>，板垣真一<sup>1)</sup>，安室尚樹，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平<sup>(1)</sup> (健康管理科)：肥満におけるインスリン抵抗性について．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 28) 岡村弘次郎，西原亜希，増谷祐人，犬塚有紀，網代由美子，佐藤周三，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老年者の肥満と食行動異常：食行動質問表による検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 29) 西原亜希：血清レプチン濃度に及ぼす加齢の影響．第3回高齢者糖尿病研究会，1999．10．
- 30) 矢野 誠：グリベンクラミド，グリクラジドの至適投与法に関する検討．第3回高齢者糖尿病研究会，1999．10．
- 31) 水野重芳：Ultrasonic quantitative flow measurement system (QFM) による総頸動脈血流測定の臨床的意義．第3回高齢者糖尿病研究会，1999．10．
- 32) 岡村弘次郎，猪狩吉雅，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>(1)</sup>病理第2)：胸膜病変を合併した高齢者原発性マクログロブリン血症の1例．第23回老年者造血管疾患研究会，1999．11．
- 33) 柳田 円<sup>1)</sup>，近喰ふじ子<sup>1)</sup>，橋口英俊<sup>1)</sup>，木村真人<sup>2)</sup>，森 隆夫<sup>2)</sup>，下田健吾<sup>2)</sup>，大石光枝<sup>2)</sup>，鈴木博子<sup>2)</sup>，遠藤俊吉<sup>2)</sup>，大庭建三 (<sup>(1)</sup>東京家政大学大学院，<sup>(2)</sup>精神医学)：糖尿病患者における心理学的研究．第87回心身医学会関東地方会，1999．12．
- 34) 永井信也<sup>1)</sup>，板垣真一<sup>1)</sup>，渡邊威之<sup>1)</sup>，安室尚樹<sup>1)</sup>，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平<sup>(1)</sup> (健康管理科)：インスリン抵抗性と生活習慣病について．第17回川崎市医師会医学会，2000．2．
- 35) 矢野 誠，山本浩之，伊藤 民，岡村弘次郎，高井恵美子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：難聴を初発症状とした上小脳動脈領域梗塞の1例．第31回日本老年医学会関東甲信越地方会，2000．3．

## [ 第二病院内科 ]

### 研究概要

当内科では循環器，神経疾患，腎臓病，消化器病について研究を行っている．

本年度における主な研究内容は血液浄化療法前後における加算平均心電図変化の検討，集中治療室入室患者の急性期治療，血流分析による中枢神経系疾患の病態解析，不整脈に治療などである．



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

1) 齋藤寛和： $\mu$  V level T wave alternans ( $\mu$  V - TWA) の機序と臨床的意義．心臓 2000；32(1)：41-47．

#### (2) 総説：

1) 齋藤寛和：なぜ失神するのか．Cardiologist 1999；4(11)：790-795．

2) 齋藤寛和：虚血性心疾患，心臓突然死，不整脈にみられる生体リズム．日医会誌 1999；122(3)：415-419．

3) 早川弘一<sup>1)</sup>，齋藤寛和<sup>(1)</sup> 付属病院第一内科)：マイクロTWAと致死的不整脈．興和医報 2000；43(2)：34-39．

4) 齋藤寛和，岸田 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科)：薬物治療：抗不整脈の使い方．臨床と研究 2000；77(2)：46-52．

5) 山室 学，北村 伸，宗像一雄，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科)：神経Bechet病(Brain CT & MRI findings of neuro Bechet disease)．日医大誌 2000；67(1)：2-3．

6) 齋藤寛和：発作性心房細動の薬物治療．Therapeutic Research 2000；21(3)：508-515．

### 著書

1) 井上 博<sup>1)</sup>，中里祐二<sup>2)</sup>，安田正之<sup>2)</sup>，山下武志<sup>3)</sup>，鎌倉史郎<sup>4)</sup>，杉 薫<sup>5)</sup>，藤木 明<sup>1)</sup>，齋藤寛和，新 博次<sup>6)</sup>，平山悦之<sup>6)</sup>，村川裕二<sup>3)</sup>，櫻田春水<sup>7)</sup>，小林洋一<sup>8)</sup>，加藤林也<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>富山医科薬科大学第二内科，<sup>2)</sup>順天堂大学循環器内科，<sup>3)</sup>東京大学医学部付属病院循環器内科，<sup>4)</sup>国立循環器病センター内科心臓部，<sup>5)</sup>東邦大学大橋病院第三内科，<sup>6)</sup>付属病院第一内科，<sup>7)</sup>東京都立広尾病院循環器科，<sup>8)</sup>昭和大学第三内科，<sup>9)</sup>国立名古屋病院循環器科)：〔分担〕一般療法．不整脈診療実践マニュアル，1999；pp49-53，文光堂．

2) 比江嶋一昌<sup>1)</sup>，齋藤寛和<sup>2)</sup>，加藤貴雄<sup>2)</sup>，小林義典<sup>2)</sup>，新 博次<sup>2)</sup>，井上 紳<sup>3)</sup>，齋藤 司<sup>3)</sup>，本川克彦<sup>4)</sup>，平尾見三<sup>4)</sup>，高木 洋<sup>5)</sup>，鎌倉史郎<sup>6)</sup>，志賀 剛<sup>7)</sup>，大西 哲<sup>8)</sup>，笠貴 宏<sup>7)</sup>，櫻井正之<sup>9)</sup>，横式尚司，磯辺文隆，池下正敏，近藤一彦，齋藤 穎，渡辺一郎，小坂井嘉夫，三崎拓郎，岩 喬，村上裕二，加藤林也，板東重信，堀江 稔，杉 薫，池田隆徳，松原 哲，井上 博，鈴木文男，相澤善房，家坂善人，坂上 学，池田孝之，清水 歩，奥村謙一，櫻田春水，小川 聡(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学保健衛生，<sup>2)</sup>付属病院第一内科，<sup>3)</sup>昭和大学第三内科，<sup>4)</sup>東京医科歯科大学第一内科，<sup>5)</sup>国立循環器病センター循環動態機能部，<sup>6)</sup>国立循環器病センター内科心臓部，<sup>7)</sup>東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科，<sup>8)</sup>NTT東日本関東病院循環器科，<sup>9)</sup>北光記念病院)：〔分担〕不整脈．Practical Seminar 不整脈 第2版(早川弘一，酒井 紀，西崎 修)，2000；pp36-40，総合医学書．

3) 齋藤寛和，新 博次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科)：〔分担〕不整脈．認定医・専門医のための内科学レビュー，2000；pp36-40，総合医学社．

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

1) 齋藤寛和：T波オルタナンスの現状と展望．第15回循環器情報処理研究会，1999．11．

#### (2) 一般講演：

1) 北村 伸，三品雅洋<sup>1)</sup>，石渡明子<sup>1)</sup>，酒寄 修<sup>1)</sup>，駒場裕一<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科)：Alzheimer病例と加齢による物忘れ例の脳血流パターン：<sup>123</sup>I-IMP SPECT ARG法とstatistical parametric mappingを用いて．第40回日本神経学会総会，1999．5．

2) 網谷賢一，中村俊彦，鮎澤理人，山口朋禎，東海林智子，村澤恒男，上田征夫，原文男，伊藤正秀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：診断が困難であった食道平滑筋肉腫の1例．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方

- 会, 1999 . 6 .
- 3) 村澤恒男, 酒井行直, 原文男: 維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動(続報) ~ DM群と非DM群との比較と, データとの関連性. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999 . 6 .
  - 4) 村澤恒男, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 酒井行直, 西垣朝裕, 原文男: 維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動(続報): 遅延電位と細胞内外水分量, 除水率との関連性. 第44回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 1999 . 6 .
  - 5) 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 西垣朝裕, 村澤恒男, 原文男: 維持透析患者における血液透析前後の細胞内外水分量の変化率とANP, BNPとの関連についての検討. 第44回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 1999 . 6 .
  - 6) 伊佐治剛, 宜保陽介, 保倉利江, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 西垣朝裕, 村澤恒男, 原文男: 痛風結節と四肢拘縮を伴い, 血清K値が9.4mEq/Lまで上昇したにも関わらず救命し得た1症例. 第44回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 1999 . 6 .
  - 7) 稲葉敦彦<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 村澤恒男<sup>(1)</sup>第二病院人工透析室): ポリフラックス-S (MM-13)の溶質除去性能について. 第44回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 1999 . 6 .
  - 8) 高橋直人, 山口朋禎, 網谷賢一, 村澤恒男, 宗像一雄, 稲葉敦彦<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院透析室, <sup>2)</sup>第二病院放射線科): Neophyllin静注により急性増悪を繰り返したARDSの1例. 第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999 . 8 .
  - 9) 伊佐治剛, 村澤恒男, 宜保陽介, 保倉利江, 網谷賢一, 山口朋禎, 酒井行直, 西垣朝裕, 原文男, 宗像一雄: 痛風結節と四肢拘縮を伴い, 血清K値が9.4mEq/Lまで上昇したにも関わらず救命し得た1症例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
  - 10) 西島美輝子<sup>1)</sup>, 山賀節子<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 鈴木久美<sup>1)</sup>, 荒井誠一<sup>1)</sup>, 渡部紀子<sup>1)</sup>, 狩野貴子<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>(1)</sup>第二病院中央検査室): 老年層の白衣高血圧と血圧日内変動について. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
  - 11) 高橋直人, 山口朋禎, 網谷賢一, 内田高浩, 榎方美文, 齋藤寛和, 宗像一雄: 発症経過中に全く心電図変化を示さなかった急性心筋梗塞の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第173回学術集会, 1999 . 9 .
  - 12) 榎方美文, 清野精彦<sup>1)</sup>, 島井新一郎<sup>2)</sup>, 高野昭夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科, <sup>2)</sup>島井内小児科クリニック): 第二世代心筋TroponinT測定による慢性腎透析症例における潜在性心筋傷害の診断と長期予後の分析. 第47回日本心臓病学会, 1999 . 9 .
  - 13) 齋藤寛和, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 緒方憲一, 松本 真<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>(1)</sup>付属病院第一内科): T波変動解析: T wave alternans (TWA)を中心に. 第13回日本エム・イー学会秋季大会, 1999 . 10 .
  - 14) 齋藤寛和: 発作性心房細胞の薬物治療. 第17回東京不整脈シンポジウム, 1999 . 10 .
  - 15) 山室 学, 北村 伸, 宗像一雄, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科): 神経ペーチェット病の1例. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999 . 11 .
  - 16) 宜保陽介, 榎方美文, 網谷賢一, 山口朋禎, 高橋直人, 内田高浩, 内田拓実, 齋藤寛和, 宗像一雄: 頭痛・発熱を主訴に発症し, 広範囲に脳血栓を来たした感染性心内膜炎の一例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第175回学術集会, 2000 . 2 .
  - 17) 山口朋禎, 鯨澤理人, 高橋直人, 網谷賢一, 榎方美文, 宗像一雄, 織井恒安<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科): 心房内残存カテーテルのカテーテルによる抜去に成功した1例. 第17回川崎市医師会医学会, 2000 . 2 .
  - 18) 山口朋禎, 保倉利江, 網谷賢一, 中村俊彦, 鯨澤理人, 寺田秀人, 齋藤寛和, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: 特発性門脈圧亢進症にオリブ橋小脳変性症を合併した1例. 第480回日本内科学会関東地方会, 2000 . 3 .
  - 19) 伊佐治剛, 宜保陽介, 保倉利江, 網谷賢一, 山口朋禎, 酒井行直, 西垣朝裕, 村澤恒男, 宗像一雄: 日本医科大学付属第二病院人工透析室開設以来の血液浄化療法導入患者の分析について. 第64回神奈川県内科医学会集

## [ 多摩永山病院内科 ]

### 研究概要

当科は5人の循環器専門医が在籍していることもあり，循環器内科学を中心に以下のような臨床研究を行っている．

- 1) 冠動脈疾患に対する経皮的カテーテル治療，とくにステント留置後の再狭窄機序の解明（血小板凝集抑制薬，脂質代謝改善薬が内膜増殖に及ぼす長期的効果を血管内超音波を用いて検討）．
- 2) 冠攣縮性狭心症における初期動脈硬化性病変の関与，とくに冠血管床における炎症性サイトカインおよび接着因子産生が血管平滑筋カルシウム感受性に与える効果の解明．
- 3) 薬物および運動負荷心筋シンチグラムを用いての局所心筋血流/代謝の定量解析
- 4) 頻脈性不整脈の電気生理学的機序解明とカテーテルアブレーション治療の効果．
- 5) 頻脈性不整脈に対しての各種抗不整脈薬有効性に関する臨床薬理学的検討．
- 6) 心房細動に続発する血栓塞栓症予防を目的とした凝固学的アプローチ
- 7) 高血圧患者における降圧薬治療の自律神経機能に及ぼす影響（24時間携帯型血圧・心電図モニターを用いての検討）．また，当院は地域の一般病院としての性格も併せ持つため，呼吸器疾患，代謝性疾患への対応も要請されており，薬剤科と協力して次の様な研究も進行中である．
- 8) 気管支喘息；喘息患者の自己管理を目標としたピークフローメーターを用いての患者指導の確立，ならびに喘息治療のシステム化．
- 9) 脂質代謝改善薬が患者の長期予後，とくに心血管イベントに与える影響．

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著：

- 1) 加藤貴雄<sup>1)</sup>，斎藤寛和<sup>1)</sup>，大野則彦<sup>1)</sup>，立野政雄<sup>2)</sup>，中村 幹<sup>2)</sup>，田頭 勲<sup>2)</sup>，小林真一<sup>3)</sup>，長澤紘一（<sup>1)</sup> 付属病院第一内科，<sup>2)</sup> 新座志木中央総合病院臨床薬理センター，<sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学薬理学教室）：モサプリドの健常成人における薬物相互作用に関する臨床薬理試験：モサプリド単独およびエリスロマイシン併用時の心電図，薬物動態に及ぼす影響．臨床医薬 1999；15（5）：753-763．
- 2) 大野忠明，田寺 長，山中博之，鈴木 健，長澤紘一：HAMA（human anti-murinc antibodies）によりCA19-9，CA125，SCC，TSH，FT<sub>4</sub>，およびFT<sub>3</sub>に異常値をきたし，診断に困窮した健常者．内科 1999；84（1）：197-199．
- 3) 鈴木 健：ニトログリセリン放出様式と耐性の関係．医学と薬学 2000；43（2）：277-287．
- 4) 大野則彦<sup>1)</sup>，斎藤寛和<sup>1)</sup>，加藤貴雄<sup>1)</sup>，立野政雄<sup>2)</sup>，中村 幹<sup>2)</sup>，田頭 勲<sup>2)</sup>，小林真一<sup>3)</sup>，長澤紘一（<sup>1)</sup> 付属病院第一内科，<sup>2)</sup> 新座志木中央総合病院臨床薬理センター，<sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学薬理学）：健常成人におけるモサプリド単独およびエリスロマイシン併用時の心電図に及ぼす影響．臨床薬理 2000；31（2）：399-400．

##### (2) 総説：

- 1) 藤田信輔，壬生倉徹志，長澤紘一：アンジオテンシン受容体II（AT1，AT2）拮抗薬の薬理作用．医薬ジャーナル 1999；35（10）：2533-2539．
- 2) 新 博次：不整薬治療：最近の動向．今月の治療 2000；8（2）：144-147．

## 著書

- 1) 鈴木 健：〔分担〕動脈圧の長期調節と高血圧症における腎臓の主要な役割：圧調節のための統括システム．  
ガイドン臨床生理学（早川弘一），1999；pp225-240，医学書院．
- 2) 雪吹周生：〔分担〕心拍出量，静脈還流，およびその調節．ガイドン臨床生理学（早川弘一），1999；pp241-253，医学書院．
- 3) 斎藤 寛，新 博次：〔共著〕不整脈．内科学レビュー2000（酒井 紀，早川弘一，西崎 統，小林祥泰，福井次矢），2000；総合医学社．
- 4) 長澤統一，中込明裕：〔共著〕昇圧薬．循環器官用薬II，2000；pp267-306，株式会社ミクス．
- 5) 小林義典<sup>1)</sup>，新 博次<sup>(1)</sup> 付属病院第一内科)：〔共著〕電気生理学的検査法．Practical Seminar 不整脈 第2版（比江嶋一昌），2000；pp65-73，日本医事新報社．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 新 博次：心房細動の治療（主題：不整脈の診方と治療）．第34回日本成人病学会，2000．1．

### (2) 一般講演：

- 1) Tadera T, Ino T, Maruyama M, Miyamoto S, Kawaguchi N, Nagasawa K : Atrial double potentials recorded in the coronary sinus during retrograde conduction via left sided accessory pathway . Asian Pacific Symposium on Cardiac Electrophysiology and Pacing, 1999 . 12 .
- 2) 愛須紀子，雪吹周生，川嶋修司，土田貴也，大塚俊昭，山根吉人，青木 聡，田寺 長，藤田信輔，井野 威，鈴木 健，長澤統一：広範囲に異常Q波が出現し，多彩な刺激伝導傷害を呈するも経過中心収縮能は正常に保たれた心筋炎の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第174回学術集会，1999．11．
- 3) 大野忠明，井野 威，阿部純子，壬生倉徹志，丸山光紀，宮本新次郎，田寺 長，長澤統一，宮内靖史<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院第一内科）：右室流出路起源心室頻拍，心房頻拍アブレーション成功部位における単極誘導局所電位の特徴．第14回日本心臓ペースング，電気生理学会，1999．5．
- 4) 宮本新次郎，井野 威，平澤泰宏，壬生倉徹志，丸山光紀，大野忠明，遠藤康実，長澤統一，小林義典<sup>1)</sup>，新博次<sup>1)</sup>，早川弘一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院第一内科）：頻拍中に心房への2：1伝導を示した上大静脈起源心房頻拍の1例．第29回臨床心臓電気生理学会，1999．5．
- 5) 中込明裕，山根吉人，山本 剛，大野忠明，青木 聡，雪吹周生，藤田信輔，田中邦夫，鈴木 健，長澤統一：高齢者冠攣縮性狭心症における臨床像の特徴と成因．第41回日本老年医学会，1999．6．
- 6) 池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>(1)</sup> 多摩永山病院中央検査室)：呼吸器感染症の主な起因菌に対する経口セフェム剤の抗菌力．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 7) 中澤 宏<sup>1)</sup>，相澤泰与<sup>1)</sup>，渡部百合子<sup>1)</sup>，恩田怜子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>(1)</sup> 多摩永山病院中央検査室)：当院における血液学的検査基準値の設定．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 8) 鈴木純子<sup>1)</sup>，柴田明佳<sup>1)</sup>，真下 恵<sup>1)</sup>，佐藤知枝<sup>1)</sup>，菊池英子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>(1)</sup> 多摩永山病院中央検査室)：血液培養における細菌検出自動化の評価．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 9) 四田千穂美<sup>1)</sup>，菊池英子<sup>1)</sup>，杉原秀人<sup>1)</sup>，澤柳妙子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健，中野渡雄一<sup>2)</sup>，黒川 顕<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，前田昭太郎<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 多摩永山病院中央検査室，<sup>2)</sup> 同救命センター，<sup>3)</sup> 同病理部）：虫垂炎と診断されたアムーバ性大腸炎の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 10) 丸山光紀，井野 威，田寺 長，川口直美，宮本新次郎，菊池有希子，鈴木 健，長澤統一，高野照夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院第一内科）：三尖弁輪後側壁に起源を有する自働性心房頻拍の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第173回学術集会，1999．9．
- 11) 小林由子<sup>1)</sup>，村上隆介<sup>1)</sup>，小倉順子<sup>1)</sup>，玉井 仁<sup>1)</sup>，山本 鼎<sup>1)</sup>，田中古登子，藤田信輔，長澤統一，細根 勝<sup>2)</sup>，

- 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>同放射線科): 心膜中皮腫の1例. 第13回胸部放射線研究会, 1999. 10.
- 12) 山根吉人, 川嶋修司, 雪吹周生, 土田貴也, 大塚俊昭, 青木 聡, 藤田信輔, 鈴木 健, 長澤紘一: 急性心筋梗塞に対する再灌流療法の医療経済的効果. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- 13) 大野則彦<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 立野政雄<sup>2)</sup>, 中村 幹<sup>2)</sup>, 田頭 勲<sup>2)</sup>, 小林真一<sup>3)</sup>, 長澤紘一(<sup>1)</sup>付属病院第一内科,<sup>2)</sup>新座志木中央総合病院臨床薬理センター,<sup>3)</sup>聖マリアンナ医科大学薬理学): 健常成人におけるモサプリド単独およびエリスロマイシン併用時の心電図に及ぼす影響. 第20回日本臨床薬理学会, 1999. 12.
- 14) 山本 剛, 中込明裕, 山根吉人, 川嶋修司, 大野忠明, 青木 聡, 雪吹周生, 田中邦夫, 鈴木 健, 長澤紘一: 糖尿病患者の冠動脈病変は慢性動脈硬化性病変が多い. 第40回日本脈管学会, 1999. 12.
- 15) 山根吉人, 川嶋修司, 雪吹周生, 土田貴也, 大塚俊昭, 青木 聡, 藤田信輔, 鈴木 健, 長澤紘一: 急性心筋梗塞に対する再灌流療法の医療経済的効果. 第34回日本成人病学会, 2000. 1.
- 16) 川口直美, 井野 威, 丸山光紀, 緒方憲一, 宮本新次郎, 田寺 長, 新 博次, 鈴木 健, 長澤紘一, 大友建一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院循環器科): Verapamil投与により頻拍中にAV dissociationを呈したslow-slow型房室結節リエントリー頻拍の1例. 第3回 多摩不整脈研究会, 2000. 2.

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では、脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります。研究にあたっては、動物実験に基づく基礎的なアプローチと臨床データに基づいた臨床的アプローチの両面から行っています。実験的研究では、主としてラットを用いた中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明のためオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法を用いて局所脳循環代謝を測定している。また、脳梗塞体積および脳浮腫容積を測定し、各種薬剤の脳保護作用を検討している。近年、当教室で力を注いでいる研究の一つは免疫抑制薬の脳の保護作用であるが、同薬のアポトーシス誘導遺伝子への影響についても検討を行っている。また、ウイルスベクターを用いた遺伝子治療も試みている。

臨床的には脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, PerfusionWeighted Imageによる診断法の開発に力を注いでいる。また、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。また、平成元年度より開始された腎移植は現在症例数も増加し、その内容も充実しつつある。また、腎クリニックや千葉北総病院内科に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

- 1) 山口 博, 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎: 虚血性脳血管障害に対する Dynamic contrast enhanced perfusion MRI の臨床応用. J Nippon Med Sch 1998 ; 65 : 148-154 .
- 2) 山口 博, 河村 満, 横地正之, 矢野雄三: 右半球優位障害による緩徐進行性着衣・構成失行: 特に着衣失行についての考察. 臨床神経 1998 ; 38 : 897-903 .
- 3) 有井孝子, 神谷達司, 有井一正, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 の神経保護作用の検討: therapeutic time window の検討. 脳卒中 1998 ; 20 : 715-719 .
- 4) 片山泰朗, 神谷達司, 桂 研一郎, 五十嵐博中, 福地孝明: Pyruvate dehydrogenase (PDH) 活性および脳代謝からみた虚血性細胞傷害. 臨床神経 1999 ; 39 : 1300-1302 .
- 5) 雨宮志門, 中村恭子, 濱本 真, 永山 寛, 大久保誠二, 片山泰朗: 中枢神経浸潤とクリプトコッカス性髄膜炎を相ついで発症し, 髄腔内化学療法が有効であったくすぶり型成人 T 細胞白血病の 1 例. 神経治療 1999 ; 16 : 517-521 .
- 6) 片山泰朗, 上田雅之, 神谷達司, 五十嵐博中, 北村 伸, 赫 彰郎: ピンスワンガー型痴呆の成因. 老年痴呆 1999 ; 13 : 57-65 .
- 7) 赫 彰郎, 福内靖男, 水野美邦, 岩田 誠: 脳梗塞後遺症に伴う精神症候に対する塩酸チアプリド (グラマール®) の有効性, 安全性の検討: 特に多発小梗塞型脳血管障害 (ラクナ型, ピンスワンガー型) を中心に多施設共同研究. Geriatric Medicine (老年医学) 1999 ; 2 : 295-307 .

- 8) 福生吉裕, 多田紀夫, 山本匡介: 原発性胆汁性肝硬変における bezafibrate の効果に関する研究. 臨床成人病 1999 ; 29 ( 10 ): 1367-1372 .
- 9) 柏木哲也, 中島敦夫, 栗原 玲, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性腎不全患者および腎移植患者における可溶性 Fas 抗原. 老人病研紀 1999 ; 5 : 30-33 .
- 10) 柏木哲也, 飯野靖彦, 片山泰朗: 高齢慢性透析患者におけるアシドーシス改善の臨床的意義. 老人病研紀 1999 ; 5 : 34-36 .
- 11) 高木信一, 片山泰朗: 近赤外光を用いた in vitro ヒト血液透明化に関する検討. 日医放線会誌 2000 ; 60 : 45-47 .
- 12) 高木信一: アポ蛋白異常と脳血管障害. 臨成人 2000 ; 30 ( 2 ): 260-263 .

(1) 原著:

- 1) 片山泰朗, 安 惠美<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 荒牧琢巳<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>, 若林一二<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 田村浩一<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>内科第4, <sup>4)</sup>付属病院病理部): 《Conference Room》高度の鉄過剰症を伴う貧血に糖尿病, 下垂体機能低下症, 心不全を合併した症例. 内科 1999 ; 84 ( 152 ): 161 .
- 2) 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>4)</sup>, 若林一二<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>5)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 葉山修陽, 田村浩一<sup>6)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 荒牧琢巳<sup>2)</sup>, 内海甲一<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>内科第4, <sup>4)</sup>病理第2, <sup>5)</sup>病理第1, <sup>6)</sup>付属病院病理部, <sup>7)</sup>東京都臨床医学総合研究所臨床遺伝学研究部門): 《Conference Room》慢性腎不全に心肥大・徐脈を合併し入院精査中, 腸間膜脂肪織炎を発症した1例. 内科 1999 ; 83 ( 5 ): 939-950 .
- 3) Yamazaki M, Yagisita A<sup>1)</sup>, Nakano I<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立神経病院神経放射線科, <sup>2)</sup>自治医科大学神経内科): Pathology and neuroimaging of coagulation necrosis in cerebral infarcts . Neuropathology 1999 ; 19 : 129-136 .
- 4) Yamazaki. M, Oyanagi K<sup>1)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Kitamura S, Ohyama M, Terashi A, Kitamoto T<sup>3)</sup>, Katayama Y (<sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所神経病理学研究部門, <sup>2)</sup>日本医科大学病理第2, <sup>3)</sup>東北大学大学院病態科学): Variant Gerstmann-Sträussler syndrome with the P105L prion gene mutation : an unusual case with nigral degeneration and widespread neurofibrillary tangles . Acta Neuropathol 1999 ; 98 : 506-511 .
- 5) Katsumata T, Katayama Y, Obo R, Muramatsu H, Otori T, Terashi A : Delayed administration of ethyl eicosapentate improves local cerebral blood flow and metabolism without affecting infarct volumes in the rat focal ischemic model . Eur J Pharmacol 1999 ; 372 : 167-174 .
- 6) Mori T<sup>1)</sup>, Matsui T<sup>1)</sup>, Muramatsu H, Asano T, Ueda M, Kamiya T, Katayama Y, Abe T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学脳神経外科) Intraluminal increase of superoxide anion following transient focal cerebral ischemia in rats . Brain Research 1999 ; 816 : 350-357 .
- 7) Katsura K, Kurihara J<sup>1)</sup>, Siesjö B. K<sup>2)</sup>, Wieloch T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pharmacology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, <sup>2)</sup>Center for Study of Neurological Disease, Queen's Medical Center, <sup>3)</sup>Laboratory for Experimental Brain Research, Wallenberg Neuroscience Center, Lund University Hospital, Lund): Acidosis enhances translocation of protein kinase C but not Ca<sup>2+</sup> / calmodulin dependent protein kinase II to cell membranes during complete cerebral ischemia . Brain Research 1999 ; 849 : 119-127 .
- 8) Ohyama M, Senda M<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>1)</sup>, Mishina M, Ishii K<sup>1)</sup>, Toyama H<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Katayama Y (<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究部門): Preserved benzodiazepine receptors in Alzheimer's disease measured with C-11 flumazenil PET and I-123 inomezaniil SPECT in comparison with CBF . Ann Nucl Med 1999 ; 13 : 309-315 .
- 9) Koshi Y, Kitamura S, Ohyama M, Komiyama T, Komaba Y, Sakayori O, Mishina M, Ishiwata A, Terashi A, Katayama Y : Benzodiazepine receptor imaging with iomezaniil SPECT in aphasic patients with

cerebral infarction . *Ann Nucl Med* 1999 ; 13 : 223-229 .

- 10) Mishina M , Senda M<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Ohyama M , Kitamura S , Katayama Y ( <sup>1)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究部門 ): Cerebellar activation during ataxic gait in olivopontocerebellar atrophy : A PET study . *Acta Neurol Scand* 1999 ; 100 : 369-376 .
- 11) Arii T , Kamiya T , Arii K , Ueda M , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in focal cerebral ischemia . : Long therapeutic window for FK506 in transient focal ischemia . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S166 .
- 12) Katsumata T , Nishiyama Y , Otori T , Muramatsu H , Nakamura H , Katayama Y : Effect of JTP-2942, a novel thyrotropin-releasing hormone analogue, on behavioral pharmacology and cerebral circulation in the rat chronic hypoperfusion model . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S167 .
- 13) Ueda M , Kamiya T , Muramatsu H , Mori T , Arii T , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Delayed administration of immunosuppressant FK506 attenuates glial reaction and ameliorates white matter rarefaction in chronic cerebral hypoperfused rats . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S170 .
- 14) Katsura K , Kurihara J<sup>1)</sup> , Hiraide T , Memezawa H , Terashi A , Kato H<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>Department of Pharmacology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University ): Effects of ischemic preconditioning on the translocation of protein kinase C and CaM kinase II following lethal ischemia in the gerbil hippocampal CA1 neurons . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S346 .
- 15) Igarashi H , Yamaguchi H , Arii K , Terashi A , Katayama Y : Three dimensional contrast ( 3DAC ) magnetic resonance imaging of the human brain : Application to assess wallerian degeneration . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S445 .
- 16) Nishiyama Y , Katsumata T , Otori T , Nakamura H , Katayama Y : Differences between normotensive and hypertensive rats on rarefaction of the white matter and blood flow in the brain following bilateral common carotid artery stenosis . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S503 .
- 17) Katsura K , Rodriguez deTurco E. B<sup>1)</sup> , Terashi A , Katayama Y , Bazan NG<sup>1)</sup> , Siesjö BK<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Louisiana State University Eye Center and Neuroscience Center , <sup>2)</sup>Center for Study of Neurological Disease, Queen's Medical Center ): Effects of different levels of acidosis on lipid metabolism during complete ischemia . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S530 .
- 18) Igarashi H , Nakada T<sup>1)</sup> , Kwee IL<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup>Neurology University of California Davis ): Prediction of pathological outcome at the focal ischemic lesion using 1H-MR spectroscopic imaging . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S580 .
- 19) Ueda M , Iwabuchi K<sup>1)</sup> , Mishina M , Kamiya T , Nagatomo H<sup>1)</sup> , Senda M<sup>2)</sup> , Terashi A , Katayama Y ( <sup>1)</sup>Department of Neurology and Psychiatry, Kanagawa Rehabilitation Center , <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究部門 ): Benzodiazepine receptor binding in Japanese subtype of hereditary spastic paraplegia with a thin corpus callosum . *J Cereb Blood Flow Metab* 1999 ; 19 ( Suppl. 1 ): S824 .
- 20) Shibasaki Y<sup>1)</sup> , Tanaka H<sup>1)</sup> , Martinez-Murillo F<sup>1)</sup> , Kawasaki S<sup>1)</sup> , Kondo H<sup>1)</sup> , Uekawa K<sup>2)</sup> , Ueda M , Kamiya T , Katayama Y , Nakamura A<sup>3)</sup> , Nakagawa M<sup>3)</sup> , Masuda M<sup>4)</sup> , Utsumi H<sup>4)</sup> , Iwabuchi K<sup>5)</sup> , Hoffman EP<sup>1)</sup> , Tsuji S<sup>1)</sup> , Kobayashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Neurology, Brain Research Institute, Niigata University, Niigata, 2 ) National Kumamoto Minami Hospital, Kumamoto, 3 ) Third Department of Internal Medicine, Kagoshima University Kagoshima, 4 ) Third Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, 5 ) Department of Neurology and Psychiatry, Kanagawa Rehabilitation Center ): Further genetic heterogeneity in autosomal recessive spastic paraplegia . *Neurology* 1999 ; 52 ( Suppl. 2 ): A319 .
- 21) Mori O<sup>1)</sup> , Haseba T<sup>2)</sup> , Kameyama K<sup>1)</sup> , Shimizu H<sup>3)</sup> , Kudoh M<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>3)</sup> , Arai Y , Yamazaki M ,



- Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2,<sup>2)</sup>法医学,<sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): Histological distribution of class III alcohol dehydrogenase in human brain . Brain Research 2000 ; 852 : 186-193 .
- 22) Komaba Y , Osono E , Kitamura S , Katayama Y : Crossed cerebellocerebral diaschisis in patients with cerebellar stroke . Acta Neurol Scand 2000 ; 101 : 8-12 .
- 23) Nagayama H , Hamamoto M , Nito C , Takagi S , Miyazaki T , Katayama Y : Initial symptoms of parkinson's disease with elderly onset . Gerontology 2000 ; 46 : 129-132 .
- 24) Utsumi K , Kase R<sup>1)</sup> , Takata T<sup>1)</sup> , Sakuraba H<sup>1)</sup> , Matsui N<sup>2)</sup> , Saito H<sup>3)</sup> , Nakamura T , Kawabe M , Katayama Y , Iino Y (<sup>1)</sup>Department of Clinical Genetics, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , <sup>2)</sup>Department of Nephrology, Tsuchiura Kyodo Hospital, Ibaragi , <sup>3)</sup>Department of Nephrology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Fabry disease in patients receiving maintenance dialysis . Clinical and Experimental Nephrology 2000 ; 4 : 49-51 .
- 25) Kamiya T , Muramatsu H , Ueda M , Arii T , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Immunosuppressant FK506 alters HSP72 mRNA expression and prevents delayed neuronal death in the gerbil hippocampus . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 219-220 .
- 26) Arii T , Kamiya T , Arii K , Ueda M , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in focal cerebral ischemia in the rat . : long therapeutic window for FK506 in transient focal ischemia . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 221-222 .
- 27) Usuda K , Hiraide T , Nito C , Igarashi H , Sakamoto S , Katayama Y : Effect of the  $\alpha_1$ -adrenoceptor antagonist, Doxazosin Mesilate, on cerebral blood flow in patients with hypertensive chronic cerebral infarction . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 238-239 .
- 28) Sakamoto S , Katayama Y , Kamiya T , Katsumata T , Nito C , Hiraide T : Effects of thyrotropin releasing hormone on cerebral blood flow and metabolism in patients with chronic cerebral infarction . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 285-286 .
- 29) Komaba Y , Kitamura S , Katayama Y : Crossed cerebellocerebral diaschisis in patients with cerebellar stroke (SPECT study) . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( suppl. 1 ): 287-288 .
- 30) Yamaguchi H , Igarashi H , Hamamoto M , Okubo S , Amemiya S , Nagayama H , Ida M<sup>1)</sup> , Katayama Y (<sup>1)</sup>東京都立荏荏病院放射線科): Evaluation of acute ischemic stroke using echo-planar dynamic contrast enhanced perfusion . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 293-294 .
- 31) Katsura K , Rodriguez de Turco E. B<sup>1)</sup> , Terashi A , Katayama Y , Bazan NG<sup>1)</sup> , Siesjö BK<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Louisiana State University Eye Center and Neuroscience Center , <sup>2)</sup>Center for the Study of Neurological Disease, Queen's Medical Center ): Enhanced acidosis affects lipid metabolism during complete ischemia . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 349-350 .
- 32) Ueda M , Kamiya T , Muramatsu H , Mori T , Arii T , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Protective effects of immunosuppressant FK506 against white matter changes in chronic cerebral hypoperfused rats . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 359-360 .
- 33) Igarashi H , Nakada T<sup>1)</sup> , Kwee IL<sup>1)</sup> , Katayama Y (<sup>1)</sup>Neurology University of California Davis ): 1H magnetic resonance spectroscopic imaging of MCA occluded rat : Time course and identification of peaks . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( Suppl. 1 ): 368-369 .
- 34) Katsumata T , Nishiyama Y , Otori T , Muramatsu H , Nakamura H , Katayama Y : Spatial memory disturbance after chronic hypoperfusion in rat brain following bilateral carotid artery occlusion . J Stroke Cerebrovasc Dis 2000 ; 9 ( suppl. 1 ): 370-371 .
- 35) Oyanagi K , Chen Kwang-Ming , Craig Ulla K , Yamazaki M , Perl Danial P : Parkinsonism, dementia and verti-

- cal gaze palsy in a Guamanian with atypical neuroglial degeneration . Acta Neuropathol 2000 ; 99 : 73-80 .
- 36) 白田和弘, 平出智晴, 本橋典久, 野尻陽子, 上田雅之, 勝又俊弥, 駒場祐一, 山室 学, 福地孝明, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 診断に苦慮した髄膜脳炎の1例. 脳と神経 1999 ; 51 : 277-287 .
- (2) 総説 :
- 1) 片山泰朗: 急性期脳卒中の治療 最近の動向 . 日医大誌 1999 ; 66 (3) : 4-9 .
  - 2) 片山泰朗, 南澤宏明: 脳保護薬研究の現状 . 治療学 1999 ; 33 (5) : 489-493 .
  - 3) 片山泰朗, 五十嵐博中: 脳浮腫発現のメカニズムとそのコントロール . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 (5) : 499-501 .
  - 4) 有井孝子, 片山泰朗: 脳血管障害後の抑うつ状態の治療 : 内科の立場から . Clinical Pharmacotherapy 1999 ; 5 : 220-225 .
  - 5) 北村 伸, 赫 彰郎: 痴呆 . 神経治療 1999 ; 16 (4) : 459-462 .
  - 6) 五十嵐博中, 片山泰朗: Grönblad-Strandberg 症候群 . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 (11) : 1288 .
  - 7) 片山泰朗, 神谷達司: 高齢者医療と薬物療法 脳循環代謝改善薬 . 老化と疾患 1999 ; 12 (6) : 49-53 .
  - 8) 片山泰朗, 神谷達司: 血管炎の原因と対応策 . 医学のあゆみ 神経疾患 - state of arts 1999 ; 1 : 417-419 .
  - 9) 神谷達司, 片山泰朗: 脳梗塞は小さくとも脳血流低下領域は広汎に及ぶ . Medical Practice 1999 ; 16 (4) : 688 .
  - 10) 神谷達司, 片山泰朗: 脳梗塞慢性期の降圧治療薬は脳血流を増加させる降圧薬の選択を . Medical Practice 1999 ; 16 (6) : 1030 .
  - 11) 大山雅史, 千田道雄, 片山泰朗: 脳機能画像 (SPECT, PET など) の有用性 . 臨床と研究 1999 ; 76 : 2317-2322 .
  - 12) 目々澤 肇: 脳虚血と高体温・低体温 超急性期の病態 . 医学のあゆみ 1999 ; 191 : 651-656 .
  - 13) 西山 穰, 赫 彰郎, 片山泰朗: 痴呆の進展予防 . Clinical Pharmacotherapy 1999 ; 5 (1) : 64-68 .
  - 14) 片山泰朗: 脳動脈硬化 EPA . メジカルセンス 1999 ; 5 (3) : 1-5 .
  - 15) 柏木哲也, 飯野靖彦: 腎移植の適応と問題点になる合併症 . 老人病研紀 1999 ; 5 : 37-43 .
  - 16) 片山泰朗, 山室 学, 赫 彰郎: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて脳底動脈主幹部と分枝部 (橋の血管障害) . 日臨 1999 ; 26 (5) : 35-42 .
  - 17) 山室 学, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて核間性眼筋麻痺 (内側縦束症候群) . 日臨 1999 ; 26 (5) : 43-45 .
  - 18) 山室 学, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて口蓋 (咽頭・喉頭・眼・横隔膜) ミオクローヌス . 日臨 1999 ; 26 (5) : 46-49 .
  - 19) 坂本静樹, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて Horner 症候群 . 日臨 1999 ; 26 (5) : 50-52 .
  - 20) 坂本静樹, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて Raymond-Cestan 症候群 (橋上部被蓋症候群) . 日臨 1999 ; 26 (5) : 53-55 .
  - 21) 坂本静樹, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて : Marie-Foix 症候群 . 日臨 1999 ; 26 (5) : 56-57 .
  - 22) 白田和弘, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて : Millard-Gubler 症候群 (下交代性片麻痺) . 日臨 1999 ; 26 (5) : 58-60 .
  - 23) 白田和弘, 片山泰朗: 神経症候群 : その他の神経疾患を含めて : Foville 症候群 [ I 型, II 型, III 型 ] . 日臨 1999 ; 26 (5) : 61-63 .
  - 24) 白田和弘, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて : Brissaud 症候群 (Brissaud-Sicard 症候群) . 日臨 1999 ; 26 (5) : 64-65 .
  - 25) 有井一正, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて : Gasperini 症候群 (AICA 症候群 + 外転神経

- 麻痺). 日臨 1999 ; 26 ( 5 ): 66-68 .
- 26) 有井一正, 片山泰朗: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて: 上小脳動脈症候群 ( Mills 症候群 ). 日臨 1999 ; 26 ( 5 ): 69-70 .
- 27) 片山泰朗, 駒場祐一: 神経症候群 II : その他の神経疾患を含めて: 中心性橋白質融解症 . 日臨 1999 ; 27 ( 7 ): 447-449 .
- 28) 片山泰朗, 上田雅之: 神経症候群 II : その他の神経疾患を含めて: Binswanger 病 . 日臨 1999 ; 27 ( 7 ): 450-453 .
- 29) 片山泰朗, 大鳥達雄: 神経症候群 I : その他の神経疾患を含めて: 若年性遺伝性 Binswanger 型脳血管性痴呆 . 日臨 1999 ; 27 ( 7 ): 454-456 .
- 30) 飯野靖彦: 代謝性尿細管間質性腎障害 . 日内会誌 1999 ; 88 ( 8 ): 1459-1462 .
- 31) 飯野靖彦: 腎不全のときの栄養学, 慢性腎不全 . 内科 1999 ; 84 ( 1 ): 18-21 .
- 32) 中村 満, 土井永史, 一瀬邦弘, 諏訪 浩, 米良仁志, 武山静雄, 鮫島達夫, 前田 岳, 長尾毅彦, 矢野雄三: 慢性疼痛における視床機能の変化 脳機能画像による検討 . 脳の科学 1999 ; 20 ( 1 ): 21-26 .
- 33) 中村 満, 土井永史, 一瀬邦弘, 米良仁志, 鮫島達夫, 諏訪 浩, 武山静夫, 前田 岳, 長尾毅彦: ECT はなぜ効くのか 脳循環代謝の観点から . 脳の科学 1999 ; 21 ( 2 ): 185-199 .
- 34) 土井永史, 中村 満, 一瀬邦弘, 米良仁志, 長尾毅彦, 武山静夫, 鮫島達夫: 神経因性疼痛に対する ECT の治療効果 . 脳の科学 1999 ; 21 ( 2 ): 155-161 .
- 35) 永積 惇: 脳血管障害の薬物療法 2000 「慢性脳循環不全症の薬物療法」. Clinical Pharmacotherapy 1999 ; 5 ( 4 ): 284-288 .
- 36) 石渡明子, 永積 惇: 病期別にみた脳血管障害の治療 「急性期の治療」. Medicament News 1999 ; ( 1636 ): 11 .
- 37) 松信精一, 中村 正, 大沢弘和: 腎臓による尿の生成 1. 糸球体ろ過, 腎血流とその調節 . ガイトン 臨床生理学書 ( 翻訳 ) 1999 ; 10 : 319-334 .
- 38) 王 恒維, 鎌野千佐子, 武井寛之, 橋本和政: 糸球体ろ過物質の尿路管調節 . ガイトン 臨床生理学書 ( 翻訳 ) 1999 ; 10 : 335-352 .
- 39) 金子朋広: 細胞外液の浸透圧とナトリウム濃度の調節 . ガイトン 臨床生理学書 ( 翻訳 ) 1999 ; 10 : 353-368 .
- 40) 柏木哲也, 大園英一, 小原功裕: 腎臓と体液 血液量ならびに細胞外液量をコントロールする腎のメカニズム K, Ca および Mg の調節 . ガイトン臨床生理学書 ( 翻訳 ) 1999 ; 10 : 369-386 .
- 41) 橋本和政, 飯野靖彦: Liddle 症候群 . 腎・尿路疾患の診療指針'99 1999 ; 47 : 237-238 .
- 42) 河邊満彦, 秋元成太: ネフローゼ症候群 . 臨床外科 1999 ; 10 : 486-488 .
- 43) 福生吉裕: 単球・マクロファージの分化を調節する生理活性物質の精製と DNA クローニング . 科研費成果報告書 ( H8 年度 ~ H10 年度 ) 1999 ; 1-74 .
- 44) 福生吉裕, 永島幹夫, 本田治久, 赤石治美: レプチン感受性に及ぼす喫煙の影響基礎及び疫学的検討 ( 第 1 報 ) . 喫煙科学研究財団 研究年報 1999 ; 606-611 .
- 45) 長尾毅彦, 横地正之, 片山泰朗: 非リウマチ性心房細動を合併した脳梗塞患者における抗凝固療法の至適用量の検討 ( EAFT ) . 血栓と循環 1999 ; 7 ( 4 ): 377-379 .
- 46) 朝本俊司, 長尾毅彦, 杉山弘之, 土居 浩, 井田正博, 松本 清: 脊髄静脈 . 脳神経外科 1999 ; 27 ( 10 ): 911-913 .
- 47) 片山泰朗, 勝又俊弥, 神谷達司: 脳血管障害患者における脳ブドウ糖代謝 . COMPLICATION - 糖尿病と血管 2000 ; 5 ( 1 ): 113-118 .
- 48) 五十嵐博中, 片山泰朗: 脳卒中の診断はここまでできる: 機能診断 . 脳と循環 2000 ; 5 : 41-46 .
- 49) 片山泰朗, 臼田和弘: 私のファーストチョイス: 脳血管性うつ状態の薬剤選択 . メディカル朝日 2000 ; 29

(2): 40-42 .

- 50) 片山泰朗, 勝又俊弥: 脳梗塞と頭痛. Brain Medical 2000 ; 12 (1): 78-81 .
- 51) 柏木哲也, 飯野靖彦: 電解質輸液と栄養輸液: 選択と適正使用のための基礎知識. 「電解質輸液」体液分布と組織. 治療薬 2000 ; 5 (2): 19-22 .
- 52) 山崎峰雄, 中野今治: 特集 / 神経細胞死をめぐる C. 病態と神経細胞死 4. 筋萎縮性側索硬化症. Clinical Neuroscience 2000 ; 18 : 81-83 .
- 53) 山崎峰雄: アルツハイマー病のすべて 13. 正常加齢とアルツハイマー病の関連疾患 13-11. 嗜銀性顆粒痴呆症 (タウ異常症). 脳の科学 2000 ; 22 : 345-348 .
- 54) 片山泰朗, 大坪孝一: 脳梗塞治療の Time Window . 日医大誌 2000 ; 67 (2): 139-142 .
- 55) 北村 伸, 大石一二三, 谷 久典, 濱本 真, 山崎峰雄, 新井裕至, 森 修: アルツハイマー病における髄液中プレセニン, VIP の診断マーカーとしての有用性の検討. 大和証券ヘルス財団の助成による研究業績集 2000 ; 23 : 18-23 .
- 56) 白田和弘: 肩凝り・目の痛みをともなう頭痛. 暮らしと健康 2000 ; 2 : 73 .
- 57) 福生吉裕: 未病の今日の意義. Geriatric Medicine (老年医学) 2000 ; 38 (2): 157-162 .
- 58) 飯野靖彦: 輸液とは 輸液製剤の正しい使い方. レジデントノート 2000 ; 1 (4): 10-16 .
- 59) 飯野靖彦: 脱水患者への正しい対応の仕方. レジデントノート 2000 ; 2 (2): 73-79 .

## 著 書

[ 1998 年度追加分 ]

- 1) 福生吉裕, 渡辺照雄: [ 単著 ] 免疫からみた動脈硬化, 1998 ; pp1-157, ライフサイエンス・メジカ .
- 1) 長尾毅彦, 一瀬邦弘: [ 分担 ] 痴呆性疾患の鑑別診断 脳循環予備能の評価. 臨床医のための核医学検査ハンドブック (西村恒彦編), 1999 ; pp64-66, "プリメド社, 大阪" .
- 2) 長尾毅彦, 矢野雄三: [ 分担 ] 脳梗塞. 新・内科治療ガイド (矢崎義雄, 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一編), 1999 ; pp250-259, 文光堂 .
- 3) 柏木哲也: [ 分担 ] 目でみるトレーニング腎移植. medicina (高松純樹編), 1999 ; pp691-696, 医学書院 .
- 4) 酒寄 修: [ 分担 ] 無症候性脳梗塞と非特異的自覚症状. 無症候性脳血管障害と血管病変 (端 和夫, 小林祥泰編), 1999 ; pp161-166, 南山堂 .
- 5) 柏木哲也: [ 分担 ] 目でみるトレーニング IgA 腎症. medicina (川井 充 編), 1999 ; pp1375-1380, 医学書院 .
- 6) 片山泰朗, 上田雅之: [ 分担 ] 実験的白質病変. プラクティカル内科シリーズ7 脳血管障害: 最新の診断技術と治療・予防戦略 (東儀英夫, 小林祥泰編), 1999 ; pp183-187, 南江堂 .
- 7) 片山泰朗, 中澤 勝: [ 分担 ] SPECT. プラクティカル内科シリーズ7 脳血管障害: 最新の診断技術と治療・予防戦略 (東儀英夫, 小林祥泰編), 1999 ; pp54-60, 南江堂 .
- 8) 飯野靖彦: [ 分担 ] I 輸液の歴史 1 水は生命の源. 臨床看護セレクション 09 ナースに必要な輸液の知識 (五関謹秀, 飯野靖彦編), 1999 ; pp2-4, へるす出版 .
- 9) 飯野靖彦: [ 分担 ] I 輸液の歴史 2 進化と水. 臨床看護セレクション 09 ナースに必要な輸液の知識 (五関謹秀, 飯野靖彦編), 1999 ; pp5-7, へるす出版 .
- 10) 柏木哲也, 飯野靖彦: [ 分担 ] II 輸液を行うための基礎知識 A. 水と電解質 6 腎機能検査とその意義. 臨床看護セレクション 09 ナースに必要な輸液の知識 (五関謹秀, 飯野靖彦編), 1999 ; pp33-37, へるす出版 .
- 11) 柏木哲也, 飯野靖彦: [ 分担 ] II 輸液を行うための基礎知識 A. 水と電解質 7 尿からの情報 (尿の電解質と浸透圧). 臨床看護セレクション 09 ナースに必要な輸液の知識 (五関謹秀, 飯野靖彦編), 1999 ; pp38-41, へる

す出版．

- 12) 長尾毅彦, 赫 彰郎: [分担] 急性期の内科的治療: 抗凝固療法. 日常臨床医のための脳血管障害シリーズ III: 脳血管障害の治療 (内山真一郎, 山下博司編), 1999; pp83-100, 現代医療社.
- 13) 長尾毅彦: [分担] 急性期脳血管障害 虚血領域の判定と機能予後. 臨床医のための核医学検査ハンドブック (西村恒彦編), 1999; pp52-53, プリメド社, 大阪.
- 14) 長尾毅彦: [分担] 慢性期血管障害 (血行力学的虚血) 脳循環予備能の評価. 臨床医のための核医学検査ハンドブック (西村恒彦編), 1999; pp57-58, プリメド社, 大阪.
- 15) 福生吉裕: [単著] 改訂新版 からだがわかる本, 1999; pp1-195, 法研.
- 16) 飯野靖彦: [分担] のう胞性腎疾患. 内科学書 (改訂第5版) (島田馨編), 1999; pp1957-1959, 中山書店.
- 17) 飯野靖彦: [分担] 浮腫, 急性糸球体腎炎, 慢性糸球体腎炎, IgA 腎症, 腎硬化症, ネフローゼ症候群, 尿細管疾患, 薬剤性腎障害, 急性腎不全, 慢性腎不全, 腎盂腎炎, 電解質異常. 薬の処方 ハンドブック (奈良信雄編), 1999; pp319-353, 羊土社.
- 18) 飯野靖彦: [分担] 体液代謝の生理学. 経静脈治療オーダーマニュアル (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦編), 2000; pp426-430, メディカルレビュー社, 大阪.
- 19) 飯野靖彦: [分担] 水処理法. 血液浄化療法事典 (飯田喜俊, 二瓶 宏, 秋沢忠男編), 2000; p141, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 20) 飯野靖彦: [分担] ダイアライザーの再使用. 血液浄化療法事典 (飯田喜俊, 二瓶 宏, 秋沢忠男編), 2000; p143, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 21) 飯野靖彦: [分担] 短時間透析. 血液浄化療法事典 (飯田喜俊, 二瓶 宏, 秋沢忠男編), 2000; p147, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 22) 飯野靖彦: [分担] 長時間透析. 血液浄化療法事典 (飯田喜俊, 二瓶 宏, 秋沢忠男編), 2000; p148, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 23) 飯野靖彦: [分担] 腎移植から透析再導入. 血液浄化療法事典 (飯田喜俊, 二瓶 宏, 秋沢忠男編), 2000; p161, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 24) 飯野靖彦: [分担] 日本臓器移植ネットワークの現状と課題. 透析療法 new wave (丸茂文昭, 秋葉 隆編), 2000; pp266-271, 中外医学社.
- 25) 飯野靖彦: [分担] 血栓性微小血管症. 今日の治療指針2000 (多賀須幸男, 尾形悦郎編), 2000; pp489-490, 医学書院.
- 26) 飯野靖彦: [分担] 単離尿管還流法. 新生理学体系 腎および体液調節の生理学 (藤本 守, 今井 正編), 2000; pp141-145, 医学書院.
- 27) 飯野靖彦: [分担] オータコイド. 新生理学体系 腎および体液調節の生理学 (藤本 守, 今井 正編), 2000; pp369-378, 医学書院.
- 28) 飯野靖彦: [分担] 輸液. わかる薬の使い方 (奈良信雄編), 2000; pp231-242, 羊土社.
- 29) 片山泰朗, 福地孝明: [分担] 脳出血急性期の高血圧. Clinical-case Oriented/高血圧 (片山茂裕, 島田和幸, 後藤淳郎編), 2000; pp5-7, メジカルビュー社.
- 30) 片山泰朗: [分担] 高血圧脳症 今日の治療指針2000 (多賀須幸男, 尾形悦郎編), 2000; pp229-230, 医学書院.

#### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

#### 一般講演:

- 1) 駒場祐一, 岩田ともみ, 金子朋広, 須賀 優, 久金 誠, 酒寄 修, 於保倫之助, 目々澤 肇, 葉山修陽, 北

村 伸, 飯野靖彦, 片山泰朗: Oral-facial - digital syndromeと思われた1症例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

2) 小島康正, 田淵紀子, 駒場祐一, 久金 誠, 於保倫之助, 目々澤 肇, 片山泰朗: 運動優位型 Polyneuropathy を伴った肺小細胞癌の1例. 日本医科大学医学会第97回例会, 1999. 2.

3) 岡田牧子, 野本達也, 北見聡章, 横地正之, 萩原万里子: 興味ある画像所見を呈した脊髄炎の1例. 第148回日本神経学会関東地方会, 1999. 3.

(1) 特別講演:

1) 飯野靖彦: 腎生理から腎移植まで. 第67回日本医科大学 医学会総会, 1999. 9.

(2) 教育講演:

1) 片山泰朗: 「脳血管障害 脳梗塞の治療の問題点」. 日本医師会生涯教育講座, 1999. 2.

2) 長尾毅彦: 「脳梗塞における抗凝固療法: ヘパリン, アルガトロバンからワルファリンまで」. 第40回日本神経学会総会(ランチョンセミナー), 1999. 5.

3) 柏木哲也: 「腎移植患者におけるロサルタンの使用経験」. 第3回腎とレニンアンギジオテンシン研究, 1999. 7.

4) 五十嵐博中: 「脳梗塞超急性期の画像診断: MRIを中心に」. 日本神経学会関東地区生涯教育講演, 1999. 11.

5) 片山泰朗: 「脳保護薬」. 第11回関東脳卒中研究会, 1999. 11.

(3) シンポジウム:

1) 片山泰朗, 神谷達司, 桂研一郎, 五十嵐博中, 福地孝明: Pyruvate dehydrogenase (PDH) 活性および脳代謝からみた虚血性細胞傷害. 国際シンポジウム-6 Recent advances in pathophysiological research for ischemic brain damage. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.

2) 上田雅之, 神谷達司, 五十嵐博中, 勝又俊弥, 赫 彰郎, 片山泰朗: ピンスワンガー型白質脳症の成因: 実験的白質脳症. 第13回老年期痴呆研究会, 1999. 7.

3) 山県邦弘, 窪田 実, 柏木哲也: インターネットを利用した多施設病診連携システムの構築. 第5回 腹膜透析研究会, 1999. 10.

(5) 一般講演:

1) Minemastu K, Yasaka M, Yamaguchi T, Nagao T: Optimal intensity of warfarin therapy for secondary prevention of stroke in patients with nonvalvular atrial fibrillation: A prospective, randomized multicenter trial. The 24th American Heart Association International Conference on Stroke and Cerebral Circulation, 1999. 2.

2) Ariei K, Igarashi H, Ariei T, Katayama Y: The effect of heparin sodium / ozagrel sodium combined therapy on photochemical cerebral infarction in rat. International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ("Yokohama, Japan"), 1999. 4.

3) Kamiya T, Muramatsu H, Ueda M, Ariei T, Nito C, Terashi A, Katayama Y: Immunosuppressant FK506 alters HSP72 mRNA expression and prevents delayed neuronal death in the gerbil hippocampus. International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama (Yokohama, Japan), 1999. 4.

4) Ariei T, Kamiya T, Ariei K, Ueda M, Nito C, Terashi A, Katayama Y: Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in focal cerebral ischemia in the rat. long therapeutic window for FK506 in transient focal ischemia. International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama (Yokohama, Japan), 1999. 4.

5) Usuda K, Hiraide T, Nito C, Igarashi H, Sakamoto S, Katayama Y: Effect of the  $\alpha_1$ -adrenoceptor antagonist, Doxazosin Mesilate, on cerebral blood flow in patients with hypertensive chronic cerebral infarction.

- International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
- 6) Sakamoto S , Katayama Y , Kamiya T , Katsumata T , Nito C , Hiraide T : Effects of thyrotropin releasing hormone on cerebral blood flow and metabolism in patients with chronic cerebral infarction . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 7) Yamaguchi H , Igarashi H , Hamamoto M , Okubo S , Amemiya S , Nagayama H , Ida M , Katayama Y : The evaluation of acute ischemic stroke using echo-planar dynamic contrast enhanced perfusion MRI . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 8) Katsura K , Rodriguez de Turco E. B , Terashi T , Katayama Y , Bazan N. G , Siesj ¨ o B. K : Enhanced acidosis affects lipid metabolism during complete ischemia . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 9) Nishiyama Y , Katsumata T , Otori T , Nakamura H , Katayama Y : Differences between normotensive and hypertensive rats on pathological change of cerebral white matter and blood flow following bilateral common artery stenosis . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 10) Ueda M , Kamiya T , Muramatsu H , Mori T , Arii T , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Protective effects of immunosuppressant FK506 against white matter changes in chronic cerebral hypoperfused rats . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 11) Igarashi H , Nakada T , Kwee IL , Terashi A , Katayama Y : 1H magnetic spectroscopic imaging of MCA occluded rat : Time course and identification of peaks . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 12) Katsumata T , Nishiyama Y , Otori T , Muramatsu H , Nakamura H , Katayama Y : Spatial memory disturbance after chronic hypoperfusion in rat brain following bilateral Differences between carotid artery occlusion . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 13) Komaba Y , Kitamura S , Katayama Y : Crossed cerebellocerebral diaschisis in patients with cerebellar stroke . International Stroke Society Regional Meeting at Yokohama ( Yokohama, Japan ), 1999 . 4 .
  - 14) Kawabe M , Takei H , Oh T , Hayama N , Iino Y , Katayama Y : Evaluation of renal osteodystrophy with renal function . Clinical Nephrology Meetings ( Washington D. C. USA ), 1999 . 4 .
  - 15) Katsura K , Rodriguez de Turco E. B , Terashi T , Katayama Y , Bazan N. G , Siesj ¨ o B. K : Effects of different levels of acidosis on lipid metabolism during complete ischemia . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 16) Katsura K , Kurihara J , Hiraide T , Memesawa H , Terashi A , Kato H , Katayama Y : Effects of ischemic preconditioning on the translocation of protein kinase C and CaM kinase II following lethal ischemia in the gerbil hippocampal CA1 neurons . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 17) Igarashi H , Yamaguchi H , Arii K , Terashi A , Katayama Y : Tree dimensional contrast ( 3DAC ) magnetic resonance imaging of the human brain : Application to assess wallerian degeneration . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 18) Igarashi H , Nakada T , Kwee IL , Katayama Y : Prediction of pathological outcome at the focal ischemic lesion using 1H-MR spectroscopic imaging . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 19) Nishiyama Y , Katsumata T , Otori T , Nakamura H , Katayama Y : Differences between normotensive and hypertensive rats on rarefaction of the white matter and blood flow in the brain following bilateral common carotid artery stenosis . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism

- ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
- 20) Ueda M , Kamiya T , Muramatsu H , Mori T , Arii T , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Delayed administration of immunosuppressant FK506 attenuates glial reaction and ameliorates white matter rarefaction in chronic cerebral hypoperfused rats . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 21) Katsumata T , Nishiyama Y , Otori T , Muramatsu H , Nakamura H , Katayama Y : Effect of JTP-2942, a novel thyrotropin-releasing hormone analogue, on behavioral pharmacology and cerebral circulation in the rat chronic hypoperfusion model . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 22) Arii T , Kamiya T , Arii K , Ueda M , Nito C , Terashi A , Katayama Y : Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in transient focal cerebral ischemia in rats. -long therapeutic window for FK506 in transient focal ischemia- . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 23) Arii K , Igarashi H , Arii T , Katayama Y : The effect of heparin sodium / ozagel sodium combined therapy on photochemical cerebral infarct in rat . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 24) Ueda M , Iwabuchi K , Mishina M , Kamiya T , Nagatomo H , Senda M , Terashi A , Katayama Y : Benzodiazepine receptor binding in Japanese subtype of hereditary spastic paraplegia with a thin corpus callosum . The IVth International Conference on Quantification of Brain Function with PET ( Copenhagen Denmark ), 1999 . 6 .
  - 25) A. G. DeVolder , Kiyosawa M , M. C. Wanet-Defalque , Toyama H , Kimura Y , Nakano H , Mishina M , A. Vanlierde , Oda K , Ishiwata K , Senda M : Mental imagery of shape investigated by positron emission tomography in early blind humans . The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Brain'99 )( Copenhagen, Denmark ), 1999 . 6 .
  - 26) Nagayama H , Hamamoto M , Amemiya S , Okubo S , Katayama Y : Pharmacokinetics of levodopa in elderly patients with parkinson's disease . 6th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Seoul ), 1999 . 6 .
  - 27) Shibasaki Y , Tanaka H , Martinez-Murillo F , Kawasaki S , Kondo H , Uekawa K , Ueda M , Kamiya T , Katayama Y , Nakamura A , Nakagawa M , Masuda M , Utsumi H , Iwabuchi K , Hoffman EP , Tsuji S , Kobayashi H : Further genetic heterogeneity in autosomal recessive spastic paraplegia . The 51th Annual Meeting of the American Academy of Neurology ( Toronto, Canada ), 1999 . 9 .
  - 28) Asamoto S , Sugiyama H , Doi H , Nagao T , Ikeda Y , Mastumoto K : Striking points and clinical features associated with hyperextension spinal cord injury without bone damage - with special reference to relation between striking point and severity - II . The XIXth European Congress of Neurosurgery , 1999 . 9 .
  - 29) Mishina M , Senda M , Kiyosawa M , AG. DeVolder , Toyama H , Ishiwata K , Oda K , Kimura Y , Nakano H , Ohyama M , Kitamura S , Katayama Y : Benzodiazepine receptor distribution and cerebral blood flow in early blindness: A PET study . The 1999 Fifth International Conference on Xenon CT-CBF ( Tokyo ), 1999 . 9 .
  - 30) Ohyama M , Senda M , Mishina M , Kitamura S , Tanizaki N , Ishii K , Katayama Y : Semi- automatic ROI placement system for analysis of brain PET images based on elastic model : application to diagnosis of Alzheimer's disease . The 1999 Fifth International Conference on Xenon CT-CBF ( Tokyo ), 1999 . 9 .
  - 31) A. G. De Volder , M. C. Wanet-Defalque , Toyama H , A. Vanlierde , Kimura Y , Nakano H , Mishina M , Oda K , Ishiwata K , Kiyosawa M , Senda M : Crossmodal activation and mental imagery of shape in early



- blind humans : PET study . Society For Neuroscience, 29th Annual Meeting ( Florida ), 1999 . 10 .
- 32) Fukuo Y : Effect of smoking on susceptibility to leptin . 2nd Congress of the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases ( Chiangmai Thailand ), 2000 . 1 .
  - 33) Fukuo Y : Nobbel effect of bezafibrate on PBC . 2nd Congress of the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases ( Chiangmai Thailand ), 2000 . 1 .
  - 34) Takei H , Otsuka M , Komada Y , Hayama N , Lino Y , Katayama Y : Pulmonary calcification complicated by alkalosis in a hemodialysis patient . The 8thAsian Pacific congress of nephrology ( Taipeh ), 2000 . 3 .
  - 35) Shibasaki Y , Tanaka H , Iwabuchi K , Martinez-Murillo F , Inoue K , Kawasaki S , Kondo H , Uekawa K , Ueda M , Kamiya T , Katayama Y , Nakamura A , Nakagawa M , Masuda M , Utsumi H , Nakamuro T , Tada K , Kurohara K , Koike F , Sakai T , Hoffman EP , Tsuji S , Kobayashi H : Linkage of autosomal recessivespastic paraplegia with mental impairment and thin corpus callosum to chromosome 15q13-15 . The 52th Annual Meeting of the American Academy of Neurology ( San Diego ), 2000 .
  - 36) 雨宮志門 , 中村恭子 , 濱本 真 , 永山 寛 , 大久保誠二 : 中枢神経浸潤とクリプトコッカス性髄膜炎を相次いで発症し , 髄腔内化学療法が有効であったくすぶり型成人T細胞白血病の1例 . 第29回日本老年学会関東甲信越地方会 ,
  - 37) 西山 穰 , 中村秀紀 , 大鳥達雄 , 勝又俊弥 , 片山泰朗 : ラットの慢性脳循環不全モデルにおける大脳白質病変と高血圧の関連の検討 . 第96回日本内科学会総会 , 1999 . 3 .
  - 38) 有井孝子 , 神谷達司 , 上田雅之 , 有井一正 , 仁藤智香子 , 片山泰朗 : 脳虚血における免疫抑制剤治療の試み ( 第2報 ) -ラット一過性局所脳虚血モデルにおけるFK506の therapeutic time window の検討- . 第96回日本内科学会総会 , 1999 . 3 .
  - 39) 五十嵐博中 , 濱本 真 , 山口 博 , 大久保誠二 , 永山 寛 , 雨宮志門 , 片山泰朗 : 脳梗塞急性期におけるDiffusion MRI, Perfusion MRIによる組織予後の予測 . 第96回日本内科学会総会 , 1999 . 3 .
  - 40) 長尾毅彦 , 北見聡章 , 卜部貴夫 , 山口 博 , 岡田牧子 , 萩原万里子 , 片山泰朗 , 横地正之 : 頸動脈血流は脳循環予備能と相関するか? : 内頸動脈閉塞症における検討 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 41) 大久保誠二 , 濱本 真 , 永山 寛 , 雨宮志門 , 永島淳一 , 五十嵐博中 , 山口 博 , 片山泰朗 : EPI Perfusion MRIとHMPAO SPECTを用いた急性期脳梗塞の局所脳血流評価の検討 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 42) 山口 博 , 濱本 真 , 五十嵐博中 , 大久保誠二 , 永山 寛 , 雨宮志門 , 永島淳一 , 岡本 淳 , 片山泰朗 : 脳塞栓症に対するflow sensitive alternating inversion recovery ( FAIR ) の臨床応用 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 43) 西山 穰 , 勝又俊弥 , 片山泰朗 : 両側総頸動脈狭窄後の正常血圧及び高血圧ラットにおける脳梁白質のastrocyteの変化及び脳血流量変化 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 44) 雨宮志門 , 濱本 真 , 永山 寛 , 大久保誠二 , 永島淳一 , 五十嵐博中 , 片山泰朗 : 脳幹部急性期脳梗塞におけるEcho-Planar MR拡散強調画像の有用性について . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 45) 桂研一郎 , 栗原順一 , 赫 彰郎 , 片山泰朗 : 虚血耐性の脳保護作用発現のメカニズムProtein phosphorylationへの影響 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 46) 平出智晴 , 白田和弘 , 仁藤智香子 , 五十嵐博中 , 神谷達司 , 坂本静樹 , 片山泰朗 : 高血圧を伴う脳梗塞慢性期患者におけるメシル酸ドキサゾシンの脳血流に及ぼす効果 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 47) 有井一正 , 五十嵐博中 , 有井孝子 , 片山泰朗 : ラット脳血栓モデルに対するオザグレルおよびオザグレル/ヘパリン併用療法の効果 . 第24回日本脳卒中学会総会 , 1999 . 4 .
  - 48) 森 修 , 山崎峰雄 , 大秋美治 , 新井 悟 , 柳沢正志 , 新井裕至 , 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第2 ) : 腸管型MELASの腸管筋層の超微形態 . 第88回日本病理学会総会 , 1999 . 4 .

- 49) 清澤源弘, 中野秀樹, 三品雅洋, 千田道雄, 石渡喜一, 外山比南子, 木村裕一, アンヌ・デヴォルダール: 早期発症全盲者の脳血流と脳内ベンゾジアゼピン受容体分布. 第103回日本眼科学会総会, 1999. 4.
- 50) 勝又俊弥, 大鳥達雄, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: ラット慢性脳循環不全モデルにおける記憶学習障害の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 51) 内原俊記, 中村綾子, 山崎峰雄, 森 修: タウ陽性神経細胞の線維形成性: Thiazin Red 蛍光免疫二重染色によるCBDの特徴. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 52) 五十嵐博中, 山室 学, 山口 博, 有井一正, 赫 彰郎, 片山泰朗: Magnetic Resonance Axonography による脳血管障害患者の機能予後予測. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 53) 新井裕至, 山崎峰雄, 片山泰朗, 森 修, 村松浩美, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 岩坪 威<sup>(1)</sup>病理第2): 変性型痴呆の連続30例における  $\alpha$ -synuclein 陽性構造物の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 54) 駒場祐一, 北村 伸, 片山泰朗: SPECT を用いた大脳皮質脳血管障害患者における Crossed cerebellar diaschisis を生じる病巣部位の詳細な検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 55) 柴崎陽子, 小林 央, 田中 一, 川崎砂里, 近藤 浩, 辻 省次, 中村昭範, 中川正法, 増田真之, 内海裕也, 植川和利, 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, 岩淵 潔: 脳梁の菲薄化を伴う常染色体劣性遺伝性痙性対麻痺 (ARFSP) の連鎖解析による検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 56) 萩原万里子, 稲村憲治, 片山泰朗, 赫 彰郎, Julio H Garcia: 中大脳動脈永久閉塞局所脳虚血モデルにおける神経病理所見と臨床所見. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 57) 有井一正, 五十嵐博中, 有井孝子, 片山泰朗: ラット脳血栓モデルにおけるオザグレレル投与の効果とヘパリン併用の有用性に関する検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 58) 有井孝子, 神谷達司, 有井一正, 赫 彰郎, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 の神経保護作用の検討: therapeutic time window の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 59) 桂研一郎, 赫 彰郎, Bazan N. G, Siesjö B. K, 片山泰朗: 脳虚血中の増強した Acidosis の脂質代謝に及ぼす影響. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 60) 南澤宏明, 上田雅之, 片山泰朗: 脳虚血時の大脳皮質神経細胞内カルシウムイオン動態. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 61) 上田雅之, 濱本 真, 永山 寛, 雨宮志門, 大久保誠二, 片山泰朗: パーキンソン病における悪性症候群急性期・寛解期の髄液モノアミン代謝物の変動. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 62) 永山 寛, 濱本 真, 雨宮志門, 大久保誠二, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ吸収における薬理的検討: 第二報. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 63) 濱本 真, 五十嵐博中, 永山 寛, 大久保誠二, 雨宮志門, 永島淳一, 片山泰朗: 髄液循環障害を伴う高齢健忘患者の diffusion anisotropy による検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 64) 長尾毅彦, 井田正博, 岡田牧子, 北見聡章, 片山泰朗, 横地正之: 脳梗塞超急性期における拡散強調画像の高信号域は消失するか?. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 65) 北見聡章, 長尾毅彦, 平林久吾, 萩原万里子, 横地正之, 森 豊: 若年性パーキンソンニズムにおける <sup>123</sup>I-MIBG 心筋シンチグラフィの検討 (第二報). 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 66) 長尾毅彦, 土居 浩, 平林久吾, 横地正之: 結核による神経合併症の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 67) 山室 学, 五十嵐博中, 津金澤俊和, 大坪孝一, 片山泰朗: 脳梗塞各病型の拡散係数の経時的変化. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 68) 坂本静樹, 渡辺めぐみ, 山室 学, 白田和弘, 片山泰朗: MRI で両側海馬に病巣を認めるウイルス性脳炎の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 69) 三品雅洋, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 千田道雄, 清澤源弘: 先天性全盲における脳血流とベンゾジアゼ

ピン受容体分布．第40回日本神経学会総会，1999．5．

- 70) 山口 博，五十嵐博中，片山泰朗，大久保誠二，雨宮志門，永山 寛，濱本 真：急性期脳梗塞症例に対する dynamic contrast enhanced perfusion MRI の臨床応用．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 71) 津金澤俊和，右田 真，望月秀樹，平井幸彦，北村 伸，水野美邦，片山泰朗，島田 隆：rAAV ベクターを用いた中枢神経系細胞への遺伝子導入．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 72) 大久保誠二，濱本 真，永山 寛，雨宮志門，永島淳一，長谷部 伸，小川 桂，片山泰朗：髄液循環障害の評価における中脳水道 cine MRI と RI cisternography の検討．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 73) 北村 伸，三品雅洋，石渡明子，酒寄 修，駒場祐一，片山泰朗：Alzheimer 病例と加齢による物忘れ例の脳血流パターン：<sup>123</sup>I-IMP SPECT ARG 法と statistical parametric mapping を用いて．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 74) 大山雅史，三品雅洋，片山泰朗，千田道雄，外山比南子，織田圭一，谷崎直昭：FDG-PET を用いた痴呆の診断：弾性モデルに基づく ROI 自動設定システムを用いて．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 75) 三谷和子，山之内博，千田道雄，三品雅洋，大山雅史：Corticobasal degeneration におけるパーキンソン症候と黒質線条体ドパミン系障害：PET を用いた解析．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 76) 清水俊夫，佐藤 勝，塚本晃子，日野太郎，小森哲夫，平井俊策，前原建寿，清水弘之，広瀬和彦，成相 直，三品雅洋，千田道雄：一側大脳半球損傷例における健側大脳運動野の興奮性．第40回日本神経学会総会，1999．5．
- 77) 福生吉裕，大森暢久，高橋修和，平野 勉，足立 満，板部洋之：くさや摂取における血中過酸化脂質，変性 LDL への影響．第31回日本動脈硬化学会，1999．5．
- 78) 白田和弘，平出智晴，仁藤智香子，坂本静樹，片山泰朗：高血圧を伴う脳梗塞慢性期患者におけるメシル酸ドキシザシンの脳血流に及ぼす効果．第17回日本神経治療学会総会，1999．6．
- 79) 平出智晴，有井一正，五十嵐博中，有井孝子，片山泰朗：ラット脳血栓モデルにおけるオザゲレル投与の効果とヘパリン併用の有用性に関する検討．第17回日本神経治療学会総会，1999．6．
- 80) 永山 寛，濱本 真，雨宮志門，大久保誠二，片山泰朗：高齢パーキンソン病患者のレボドーパ吸収における変性の影響．第17回日本神経治療学会総会，1999．6．
- 81) 新井裕至，山崎峰雄，森 修，村松浩美，浅野伍朗，岩坪 威，片山泰朗：アルツハイマー型および Lewy 小体型痴呆における  $\alpha$ -synuclein 陽性構造物の検討．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 82) 山崎峰雄，新井裕至，岩坪威，森 修，片山泰朗，小柳清光：Guam parkinsonism-dementia complex の扁桃核に認められた  $\alpha$ -synuclein 陽性封入体．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 83) 内原俊記，中村綾子，山崎峰雄，森 修：タウ陽性神経細胞の線維形成性：Thiazin Red と蛍光免疫二重染色による CBD の特徴．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 84) 中村綾子，土谷邦秋，山崎峰雄，池田研二，内原俊記：Tau-2 免疫染色の界面活性剤による影響：脳梗塞とアルツハイマー病の比較．第40回日本神経病理学会総会学術研究会，1999．6．
- 85) 永積 惇，高橋真理子，越 泰彦，金内秀士，三品雅洋，赫 彰郎，片山泰朗：脳ドック受診者経過観察例におけるリスクファクターと予後に関する検討．第8回日本脳ドック学会総会，1999．6．
- 86) 山口 博，五十嵐博中，濱本 真，大久保誠二，雨宮志門，永山 寛，永島淳一，片山泰朗：Diffusion MRI, Perfusion MRI による脳塞栓急性期所見と亜急性期における病巣の進展の評価．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 87) 西山康裕，駒場祐一，大坪孝一，坂本静樹，片山泰朗：経過中脳出血を合併し Mitomycin-C による溶血性尿毒症症候群の1例．第149回日本神経学会関東地方会，1999．6．
- 88) 岡田牧子，長尾毅彦，平林久吾，萩原万里子，横地正之：痙性対麻痺を呈したプロムワレリル尿素中毒の一例．第149回日本神経学会関東地方会，1999．6．

- 89) 田中伸幸, 臼田和弘, 萩原博子, 三品雅洋, 中澤 勝, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: ヘルペス脳炎後に一過性の健忘を呈した1例. 第473回日本内科学会関東地方会, 1999. 6.
- 90) 河邊満彦, 武井寛之, 王 恒維, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 血清 AGE 値及び Neurometer-CPT 値からみた約1年間の 2MG 値. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 91) 斎藤 博, 吉川桃乃, 佐久間資子, 長井 徹, 柏木哲也, 内海甲一: 不明熱で入院し, 抗結核療法が著効した従隔リンパ節結核と考えられた1例. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 92) 吉山直樹, 小川健一, 矢島美子, 林 知子, 川島伊勢男, 飯島真一, 飯野靖彦: 離島における透析医療について: 透析室管理の側面から. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 93) 河邊満彦, 武井寛之, 王 恒維, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: %体重水分比及び hanp 値からの心胸比の問題点の検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 94) 武井寛之, 河邊満彦, 松信精一, 王 恒維, 飯野靖彦, 片山泰朗: ギランバレー症候群における免疫吸着療法の有効性と実施開始時期に関する検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 95) 王 恒維, 酒寄 修, 鎌野千佐子, 武井寛之, 石渡明子, 松信精一, 河邊満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病・非糖尿病維持血液透析患者の脳循環における至適 Hct 値の検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 96) 桂研一郎, 栗原順一, 赫 彰郎, 片山泰朗: 虚血耐性現象の脳保護メカニズムの解明. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 97) 王 恒維, 鎌野千佐子, 武井寛之, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病・非糖尿病血液透析患者の脳循環における至適 Hct の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 98) 西山康裕, 駒場祐一, 大坪孝一, 橋本和政, 坂本静樹, 永積 惇, 片山泰朗, 北村博司: 広汎な脳出血を合併した Mitomycin-C による溶血性尿毒症症候群の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 99) 野本達也, 上田雅之, 中澤 勝, 勝又俊弥, 福地孝明, 臼田和弘, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 輸血後20年で急性発症を来した HTLV-1 陽性脊髄炎の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 100) 北見聡章, 臼田和弘, 平出智晴, 上田雅之, 中澤 勝, 勝又俊弥, 福地孝明, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 経過中興味ある白質病変を呈し, 診断・治療に苦慮したクリプトコッカス髄膜脳炎の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 101) 酒巻雅典, 萩原 浩, 西山 穰, 片山泰朗: 強皮症に伴う多発性ニューロパチーの1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 102) 福生吉裕, 大森暢久, 高橋修和: くさやパラドックスの研究(クサヤ長期摂取における生体への影響について). 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 103) 北見聡章, 永山 寛, 山崎峰雄, 坂本静樹, 片山泰朗: 橋本病を伴い, HIV associated neuropathy と考えられた1例. 第150回日本神経学会関東地方会, 1999. 9.
- 104) 菱山潤二, 越村 勲, 三品雅洋, 井田正博, 横地正之: 一過性のパーキンソニズムで発見された原発性胆汁性肝硬変. 第150回日本神経学会関東地方会, 1999. 9.
- 105) 中島亜希子, 臼田和弘, 上田雅之, 中澤 勝, 勝又俊弥, 福地孝明, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 免疫グロブリン療法を試みた軸索障害優位の多巣性運動ニューロパチーの1例. 第475回日本内科学会関東地方会, 1999. 9.
- 106) 土井永史, 中村 満, 一瀬邦弘, 長尾毅彦, 米良仁志: Electroconvulsive therapy for central poststroke pain. 第9回世界疼痛会議, 1999. 9.
- 107) 中村 満, 土井永史, 一瀬邦弘, 長尾毅彦: Thalamic dysfunction in postherpetic neuralgia. 第9回世界疼痛会議, 1999. 9.
- 108) 桂 研一郎, 赫 彰郎, Bazan N. G, Siesjö B K, 片山泰朗: 脳虚血中の増強したアシドーシスの脂質代謝に

- 及ぼす影響．第11回日本脳循環代謝学会総会，1999．10．
- 109) 五十嵐博中，濱本 真，山口 博，大久保誠二，片山泰朗：Perfusion MRIによる脳塞栓急性期における病巣進展予測．第11回日本脳循環代謝学会総会 プレナリーセッション，1999．10．
- 110) 仁藤智香子，神谷達司，上田雅之，有井孝子，赫 彰郎，片山泰朗：Gerbil 60分前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討：mitochondrial enzyme, energy metabolitesに及ぼす影響．第11回日本脳循環代謝学会総会，1999．10．
- 111) 山崎峰雄，新井裕至，岩坪 威，森 修，片山泰朗，小柳清光： $\alpha$ -synucleinとtauとの関連：parkinsonism dementia complexの扁桃核における観察．第18回日本痴呆学会学術研究会，1999．10．
- 112) 小柳清光，河上江美子，山崎峰雄：Ghost tangleは処理される：グアム島パーキンソン痴呆症の海馬CA1における観察．第18回日本痴呆学会学術研究会，1999．10．
- 113) 内原俊記，土谷邦秋，中村綾子，近藤ひろみ，森 修，山崎峰雄，池田研二：タウ陽性神経細胞の線維形成性：Thiazin Redと蛍光二重染色による検討．第18回日本痴呆学会学術研究会，1999．10．
- 114) 櫻澤 誠，臼田和弘，神谷信雄，中澤 勝，福地孝明，勝又俊弥，五十嵐博中，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：トルエン吸入によると思われる低カリウム性ミオパチーの1例．第476回日本内科学会関東地方会，1999．10．
- 115) 三品雅洋，大山雅史，北村 伸，片山泰朗，清澤源弘，織田圭一，石井信一，佐々木 徹，石渡喜一，千田道雄，外山比南子，Ann G. De V：早期発症全盲者の安静時脳血流は周辺視野領域で高いが神経細胞密度は晴眼者と同等である．第39回日本核医学会総会，1999．10．
- 116) 大山雅史，三品雅洋，北村 伸，片山泰朗，織田圭一，石井信一，佐々木 徹，石渡喜一，千田道雄，谷崎直昭，外山比南子：弾性モデルに基づくROI自動設定システムを用いたアルツハイマー病のFDG画像の解析．第39回日本核医学会総会，1999．10．
- 117) 成相 直，太田禎久，秋元秀昭，平川公義，清水弘之，三品雅洋，千田道雄：PETとTMSによる難治性てんかんに対する一側大脳半球切除術前後の運動機能評価．第39回日本核医学会総会，1999．10．
- 118) 織田圭一，石井賢二，千田道雄，外山比南子，三品雅洋：PETにおけるエミッションとトランスミッションのrealignmentの検討．第39回日本核医学会総会，1999．10．
- 119) 武井寛之，飯野靖彦，片山泰朗：高血圧を伴わずRenal crisisを呈したSystemic Sclerodermの1例．第29回日本腎臓学会東部学術大会，1999．10．
- 120) 児玉美樹，岡野麻由美，柏木哲也，金子朋広，松信精一，飯野靖彦，片山泰朗：右半身マヒでCAPD導入する患者の在宅に向けてのアプローチ．第5回腹膜透析研究会，1999．10．
- 121) 斎藤祐子，山崎峰雄，金澤一郎，村山繁雄：Argyrophilic grain dementiaの臨床病理学的検討．関西臨床神経病理懇和会，1999．10．
- 122) 長尾毅彦，越村 勲，平林久吾，萩原万里子，横地正之：痙攣重積で発症し，非対称性脳萎縮を呈した甲状腺機能亢進症の若年女性例．第17回城南神経懇話会，1999．10．
- 123) 新井弘一，加藤健吾，高田大輔，橋本和政，片山泰朗：線条体内包梗塞の2例．第39回全国国保地域医療学会，1999．10．
- 124) 和田健太郎，臼田和弘，神谷達司，中澤 勝，福地孝明，勝又俊弥，五十嵐博中，坂本静樹，片山泰朗：頭痛を主訴とし，播種性血管内凝固症候群（DIC），心筋炎を合併した髄膜炎の1例．第27回日本頭痛学会総会，1999．11．
- 125) 斎藤サビーネ京子，水越元気，臼田和弘，坂本静樹，片山泰朗：自己免疫性肝炎に合併した重症筋無力症の1例．第151回日本神経学会関東地方会，1999．11．
- 126) 雨宮志門，濱本 真，後藤雄一，埜中征哉，片山泰朗：ミトコンドリア脳筋症（C3256T）の1例：臨床経過と臓器ヘテロプラスミーについて．第151回日本神経学会関東地方会，1999．11．

- 127) 岡田牧子, 長尾毅彦, 平林久吾, 萩原万里子, 横地正之: 精神分裂病として長期加療されていた側頭葉硬化症の1例. 第151回日本神経学会関東地方会, 1999. 11.
- 128) 町田佳恵, 白田和弘, 金子朋広, 中澤 勝, 福地孝明, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 飯野靖彦, 片山泰朗: 検診で見つかった肝転移を伴う腹腔内悪性神経鞘腫の1例. 第477回日本内科学会関東地方会, 1999. 11.
- 129) 桂研一郎, 栗原順一, 赫 彰郎, 片山泰朗: 虚血耐性現象の脳保護メカニズムの解明: Protein Kinase C, Ca<sup>2+</sup>/calmodulin-dependent protein kinase IIへの関与. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- 130) 山室 学, 北村 伸, 宗像一雄, 片山泰朗: 神経ペーチェット病の1例. 日本医科大学 医学会第99回例会, 1999. 11.
- 131) 高田大輔, 白田和弘, 王 恒維, 中村 正, 柏木哲也, 清水光義, 坂本静樹, 河邊満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: サルコイドーシスの腹膜病変によってCAPDの施行が困難となった1例. 第478回日本内科学会関東地方会, 1999. 12.
- 132) 菅谷量俊, 渡辺史子, 中島基広, 西澤健司, 福生吉裕: 市販薬(OTC薬)・健康食品と薬品との併用に関する実態調査. 第6回日本未病システム学会, 2000. 1.
- 133) 福生吉裕, 渡辺景子, 高橋修和: 高脂血症は生活習慣病か. 第6回日本未病システム学会, 2000. 1.
- 134) 田村哲彦, 福生吉裕, 田代真一: 未病システムとしての新規ファーマシー設立の重要性について(1). 第6回日本未病システム学会, 2000. 1.
- 135) 新谷文隆, 田村哲彦, 福生吉裕: 未病システムとしてのホームファーマシーの問題点とその対策について(2). 第6回日本未病システム学会, 2000. 1.
- 136) 根井貴仁, 桂研一郎, 木嶋祥一郎, 渡辺めぐみ, 白田和弘, 五十嵐博中, 勝又俊弥, 神谷達司, 片山泰朗: 診断に苦慮した腹腔内原発肉腫の例. 第479回日本内科学会関東地方会, 2000. 2.
- 137) 高田大輔, 内海甲一, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: Fabry病の血液透析患者にWeber症候群を合併した1例. 第152回日本神経学会関東地方会, 2000. 3.
- 138) 大塚美穂, 桂研一郎, 鎌野千佐子, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 勝又俊弥, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: Ca, IP値のコントロールにより肺異所性石灰化の著名な改善が認められた1例. 第480回日本内科学会関東地方会, 2000. 3.
- 139) 野本達也: 「小脳, 脳幹の萎縮を来し, 痴呆を呈した1症例」. 第9回お茶の水 Visual Neurology, 2000. 3.

## [ 付属病院リウマチ外科 ]

### 研究概要

リウマチ外科における研究課題は, 関節リウマチ(RA)・全身性変形性関節症(JOA)のトータルマネージメントと, 滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究, 膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御に関する検討を行っている。

より具体的に述べれば, 臨床研究として1) 根治的多関節滑膜切除術(RaMs)による関節リウマチの集学的治療法, 2) より大きな可動域を追及した人工膝関節システムの開発, 3) 慢性関節リウマチ患者さんの全人的ケアのため, 精神・神経-免疫-内分泌システムの相関に関する研究を中心として行っている。

一方, 基礎的研究としては, 1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与, 2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用, 3) 全身性エリトマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御, 4) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析, Th1/Th2誘導に関する分子群の同定とその機能, 5) JOA発症における免疫学的機序の解明, などを行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Koizumi F<sup>1)</sup>, Matsuno HI<sup>1)</sup>, Wakaki K<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Kurashige Y<sup>1)</sup>, Nakamura H ( <sup>1)</sup> Toyama Medical and Pharmaceutical University ): Synovitis in rheumatoid arthritis : scoring of characteristic histopathological features . *Pathol Int* 1999 ; 49 ( 4 ): 298-304 .
- 2) Nakamura H , Yoshino S , Kato T<sup>1)</sup>, Tsuruha J<sup>1)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University ): T-cell mediated inflammatory pathway in osteoarthritis . *Osteoarthritis Cartilage* 1999 ; 7 ( 4 ): 401-402 .
- 3) Sekine T<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Masuko-Hongo K<sup>1)</sup>, Nakamura H , Yoshino S , Nishioka K<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University , <sup>2)</sup> Tokyo University ): Type II collagen is a target antigen of clonally expanded T cells in the synovium of patients with rheumatoid arthritis . *Ann Rheum. Dis* 1999 ; 58 ( 7 ): 446-450 .
- 4) Fujimori J<sup>1)</sup>, Yoshino S , Koiwa M<sup>2)</sup>, Nakamura H , Shiga H<sup>3)</sup>, Nagashima M ( <sup>1)</sup> The Bofu Clinic for orthopaedics and rheumatology , <sup>2)</sup> Kasukabe Syuwa Hospital , <sup>3)</sup> Takebayashi Hospital ): Ankle arthrodesis in rheumatoid arthritis using an intramedullary nail with fins . *Foot Ankle Int* 1999 ; 20 ( 8 ): 485-490 .
- 5) Kitagawa M<sup>1)</sup>, Mitsui H<sup>1)</sup>, Nakamura H , Yoshino S , Miyakawa S<sup>1)</sup>, Ochiai N<sup>1)</sup>, Onobori M<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Sumida T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> University of Tsukuba ): Differential Regulation of Rheumatoid Synovial cell Interleukin-12 Production by Tumor Necrosis Factor and CD40 Signals . *Arthritis Rheum* 1999 ; 42 ( 9 ): 1917-1926 .
- 6) Kurokawa M<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Masuko-Hongo K<sup>1)</sup>, Ueda S<sup>4)</sup>, Kobata T<sup>2)</sup>, Okubo M<sup>5)</sup>, Nishimaki T<sup>3)</sup>, Akaza T<sup>6)</sup>, Yoshino S , Kasukawa R<sup>3)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup> Rheumatology Immunology and Genetics Program Institute of Medical Science st Marianna Univ. Sch. of Med. , <sup>2)</sup> Division of Immunology, Inst. for Med. Science, Dokkyo Univ. Sch. of Med. , <sup>3)</sup> Dept. of Internal Medicine II, Fukushima Medical College. , <sup>4)</sup> Division of Allergology and Rheumatology, Dept. of Med. Univ. of Tokyo. , <sup>5)</sup> Blood Transfusion Service, Saitama Medical Center Saitama Medical School. , <sup>6)</sup> Japanese Red cross Central Blood Center. ): Characterisation of T cell clonotypes that accumulated in multiple joints of patients with rheumatoid arthritis . *Ann. Rheum. Dis.* 1999 ; 58 ( 9 ): 546-553 .
- 7) Suzuki N , Nakajima A , Yoshino S , Matsushima K<sup>1)</sup>, Yagita H<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of Hygien. Tokyo Univ. Sch. of Med. , <sup>2)</sup> Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med. ): Selective accumulation of CCR5<sup>+</sup> T lymphocytes into inflamed joint of rheumatoid arthritis . *Int. Immunol* 1999 ; 11 : 553-559 .
- 8) Akiba H<sup>1)</sup>, Oshima H<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>1)</sup>, Atsuta M<sup>1)</sup>, Nakano H<sup>1)</sup>, Nakajima A , Nohara C<sup>1)</sup>, Yagita H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med. , <sup>2)</sup> Dept. of 1st Surgery. Tokyo Univ. Sch. of Med. ): CD28-independent costimulation of T cells by OX40 ligand and CD70 on activated B cells . *J. Immunol* 1999 ; 162 : 7058-7066 .
- 9) Moriguchi M<sup>1)</sup>, Terai C<sup>1)</sup>, Koseki Y<sup>1)</sup>, Uesato M<sup>1)</sup>, Nakajima A<sup>1)</sup>, Inaba S<sup>1)</sup>, Nishinarita M<sup>1)</sup>, Uchida S<sup>1)</sup>, Nakajima A , Seong Yoon K<sup>2)</sup>, Ching-Lang C<sup>3)</sup>, Kamatani N<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Cent. of Rheuma. College of Tokyo women Med. ): Influence of genotypes at SAA1 and SAA2 loci on the development and the length of latent period of secondary AA-amyloidosis in patients with rheumatoid arthritis . *Hum. Genet* 1999 ; 105 : 360-366 .
- 10) Nagashima M , Yoshino S , Aono H<sup>1)</sup>, Takai M<sup>1)</sup>, Sasano M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Developmental Research Division, Santen Pharmaceutical Co. Ltd. Osaka ): Inhibitory effects of anti-rheumatic drugs on vascular endothelial growth factor in cultured rheumatoid synovial cells . *Clin. Exp. Immunol.* 1999 ; 116 : 360-365 .
- 11) Yoshino S , Shiga H<sup>1)</sup>, Nakamura H , Nagashima M ( <sup>1)</sup> Takebayashi Hospital ): Longterm outcome of total

joint arthroplasty in nonambulatory patients with rheumatoid arthritis . J. Rheumatol. 1999 ; 26 ( 5 ) : 1076-1079 .

- 12) Nakamura H , Yoshino S , Nagashima M , Suzuki N , Gunji N : IgG rheumatoid factor in early rheumatoid arthritis as a predictor of radiological changes and disease activity . J. J. Rheum. 1999 ; 9 ( 2 ) : 159-166 .
- 13) Mukasa R<sup>1)</sup> , Homma T<sup>1)</sup> , Hosono O<sup>1)</sup> , Yoshino S , Nishioka K<sup>2)</sup> , Fukuda M<sup>3)</sup> , Morimoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Clinical Immunology and AIDS Research Center. , <sup>2)</sup> Rheumatology Immunology and Genetics Program, Inst. of Med. Science. , <sup>3)</sup> Glycobiology Program The Burnham Institute, La Jolla Cancer Research Center. ) : Human T lymphocyte populations which bind to P- or E- selectin are enriched with cells expressing core 2 o-glycans . Immunol. Letters. 1999 ; ( 67 ) : 117-124 .
- 14) Nakajima A , Hirai H , Kayagaki N<sup>1)</sup> , Yoshino S , Hirose S<sup>2)</sup> , Yagita H<sup>1)</sup> , Okumura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Immunol. Juntendo Univ. Sch. of Med. , <sup>2)</sup> Dept. of Pathol. Juntendo Univ. Sch. of Med. ) : Treatment of lupus in NZB/W F1 mice with monoclonal antibody against Fas ligand . J. Autoimmun. 2000 ; 14 : 151-157 .
- 15) Gunji N , Nagashima M , Asano G<sup>1)</sup> , Yoshino S ( <sup>1)</sup> Dept. of 2nd Pathology. ) : Expression of k-opioid receptor mRNA in human peripheral blood lymphocytes and the relationship between its expression and the inflammatory changes in rheumatoid arthritis . Rheum Int. 2000 ; 19 : 95-100 .
- 16) 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 郡司直哉 , 立原章年 , 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 人工膝関節置換術 . PHARMA MEDICA 1998 ; 16 ( 12 ) : 79-84 .
- 17) 平井 博 , 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 白土雅美<sup>1)</sup> , 西島 徹 , 角本土幸 , 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 関節リウマチとステロイド剤 . 薬局 1998 ; 49 ( 3 ) .
- 18) 立原章年 , 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 吉野槇一 , 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 関節リウマチの滑膜切除術 . 骨・関節・靭帯 1999 ; 12 ( 5 ) : 579-584 .
- 19) 平井 博 , 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 永島正一 , 吉岡太郎 , 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 人工膝関節置換術後に腓骨神経麻痺をきたした2例 . リウマチ科 1999 ; 22 ( 1 ) : 110-112 .
- 20) 山本宗宏 , 内田詔爾<sup>1)</sup> , 黄田道信 , 久我芳昭<sup>1)</sup> , 伊藤勝巳 ( <sup>1)</sup> 東京都立墨東病院・リウマチ膠原病科 ) : リウマチ母指CM関節に対する短母指伸筋腱を用いた腱固定術 . リウマチ科 1999 ; 22 ( 4 ) .
- 21) 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 郡司直哉 , 立原章年 , 半沢幸一<sup>1)</sup> , 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : リウマチ患者の心のケア . CURRENT THERAPY 1999 ; 17 ( 1 ) : 84-90 .
- 22) 丹野 亮 , 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 郡司直哉 , 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 関節リウマチの外科的治療の適応 . Modern Physician 2000 ; 20 ( 1 ) : 99-103 .
- 23) 吉岡太郎 , 中村 洋 , 永島正一 , 平井 博 , 吉野槇一 : 人工股関節置換術の術後13 ~ 15年経過例の検討 : 3種類の比較 . 整形外科 2000 ; 51 ( 3 ) : 278-282 .
- 24) 志賀弘朗<sup>1)</sup> , 郡司直哉 , 立原章年 , 松岡利明 , 吉野槇一 , 石内直樹 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ) : 関節リウマチの外科的治療とタイミング . 整形・災害外科 2000 ; 43 ( 4 ) : 375-380 .

## (2) 総説 :

- 1) 中島敦夫 , 八木田秀雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大・医・免疫学教室 ) : 慢性関節リウマチとケモカイン・ケモカイン受容体 . 医学のあゆみ 1999 ; 190 : 803-806 .
- 2) 中島敦夫 , 吉野槇一 : COX-2 選択的阻害剤 : 腎臓への影響 . 医薬ジャーナル 1999 ; 35 : 176-179 .
- 3) 中島敦夫 : 腎とケモカイン . Annual Review 2000 ; 25-31 .

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 永島正一 : 血管増殖因子抑制効果からみたDMARDsコンビネーション療法 . 1999年度日本リウマチ学会教育



研修会，1999．11．

(2) 一般講演：

- 1) Yoshino S, Nagashima M : Hy-Flex II人工膝関節置換術の短期臨床成績．Societe Internationale de Chirurgie Orthope digue et de Traumatologie ( SICOT)( オーストラリア ), 1999 . 4 .
- 2) Ishii H, Yoshino S : Immunophenotyping of synovial activated T cells and expression of TH1/TH2 cytokines in osteoarthritis . American college of rheumatology 1999 annual scientific meeting ( アメリカ ), 1999 . 11 .
- 3) Kitagawa M<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Nakamura H, Yoshino S, Miyakawa S<sup>1)</sup>, Ochiai N<sup>1)</sup>, Sumida T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tsukuba University ): CD3 Stimulation induces CD154 expression on synovial T cell and IL-12 production by CD40+, CD68+ Macrophage-like synovial cell .63th annual meeting and ACR basic research conference( Boston ), 1999 . 11 .
- 4) Sakata M<sup>1)</sup>, Masuko-Hongo K<sup>1)</sup>, Tsuruha J<sup>1)</sup>, Nakamura H, Sekine T<sup>1)</sup>, Yoshino S, Takigawa M<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University ): A novel arthritis model mice by secretory protein of articular chondrocytes, YKL-39 . 63th annual meeting and ACR basic research conference ( Boston ), 1999 . 11 .
- 5) Tsuhara J<sup>1)</sup>, Masuko-Hongo K<sup>1)</sup>, Sakata M<sup>1)</sup>, nakamura H, Sekine T<sup>1)</sup>, Yoshino S, Takigawa M<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University ): Augment of articular immune responses to gp-39 and YKL-39 in patients with osteoarthritis . 63th annual meeting and ACR basic research conference ( Boston ), 1999 . 11 .
- 6) Ishii H, Nakazawa M<sup>1)</sup>, Yoshino S, Nishioka K<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Rheumatology Immunology and Genetics Program Institute of Medical Science st Marianna Univ. Sch. of Med. ,<sup>2)</sup> Univ. of Tsukuba. ): Expression of notch receptor and ligand in synovium tissues of rheumatoid arthritis .第29回日本免疫学会総会・学術集会，1999 . 12 .
- 7) 志賀弘朗<sup>1)</sup>, 西島 徹, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ): 歩行不能RAの実態調査．第8回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会，1998 . 11 .
- 8) 吉岡太郎, 吉野槇一, 中村 洋, 平井 博, 斉藤公久, 山下倫世: 人工股関節置換術の長期成績：術後12年以上経過症例の検討．第72回日本整形外科学会学術集会，1999 . 4 .
- 9) 中村 洋, 吉野槇一, 永島正一, 平野大地, 石神 伸, 山初晋也, 松岡利明: 慢性関節リウマチに対する根治的多関節滑膜切除術の抗リウマチ効果：抗リウマチ剤併用療法との比較．第72回日本整形外科学会学術集会，1999 . 4 .
- 10) 平井 博, 吉野槇一, 志賀弘朗<sup>1)</sup>, 永島正一, 吉岡太郎 ( <sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター ): RA患者の一次的両側人工膝関節における貯血式自己輸血と術後回収式自己輸血の有用性．第38回関東整形災害外科学会，1999 . 5 .
- 11) 永島正一, 吉野槇一, 吉岡太郎, 平井 博, 山初晋也, 松岡利明: 骨組織存在下における関節リウマチ滑膜細胞の破骨細胞への分化と誘導．第43回日本リウマチ学会総会・学術集会，1999 . 6 .
- 12) 鈴木伸之, 中島敦夫, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup>, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup> 順天堂大・医・免疫学教室 ): CCR5/CCR4陽性T細胞の慢性関節リウマチにおける発現．第43回日本リウマチ学会総会・学術集会，1999 . 6 .
- 13) 中村 洋, 吉野槇一, 平野大地: 根治的多関節滑膜切除術の術後成績：寛解例と非寛解例の比較．第43回日本リウマチ学会総会・学術集会，1999 . 6 .
- 14) 山下倫世, 吉野槇一, 中村 洋, 斉藤公久, 周 豪奎, 松岡利明, 山初晋也, 山本 要: 関節リウマチにおける頸椎障害の頻度とその特徴．第43回日本リウマチ学会総会・学術集会，1999 . 6 .
- 15) 平野大地, 吉野槇一, 永島正一, 山本 要, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第2 ): 関節リウマチにおけるHGF-activator, HGFおよびC-Metの役割．第43回日本リウマチ学会総会・学術集会，1999 . 6 .

- 16) 永島正一, 吉野慎一, 石神 伸, 宮本洋介, 青野浩之<sup>1)</sup>, 高井美和<sup>1)</sup>, 笹野 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 参天製薬開発研究本部薬理研究グループ): 関節リウマチにおける血管増殖因子と血管増殖抑制因子との関連: DMARDs療法の基礎. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 17) 郡司直哉, 吉野慎一, 永島正一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第2): 関節リウマチにおける炎症とオピオイドレセプターとの関連. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 18) 鶴羽淳一郎<sup>1)</sup>, 中村 洋, 石井博泰, 吉野慎一, 黒川真奈絵<sup>1)</sup>, 加藤智啓<sup>1)</sup>, 西岡久寿樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医大・難病治療研究センター): 変形性関節症における滑膜浸潤T細胞のクロナリティとTCR 鎖CDR3領域の解析. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 19) 石井博泰, 吉野慎一, 中村 洋, 石崎正通<sup>1)</sup>, 鶴羽淳一郎<sup>1)</sup>, 加藤智啓<sup>1)</sup>, 西岡久寿樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医大・難病治療研究センター): 変形性関節症における滑膜浸潤リンパ球の組織学的検討. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 20) 小野田教高<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>2)</sup>, 米島秀夫<sup>2)</sup>, 小岩政仁<sup>3)</sup>, 吉野慎一 (<sup>1)</sup> 春日部秀和病院・内分泌内科, <sup>2)</sup> 春日部秀和病院・腎臓内科, <sup>3)</sup> 春日部秀和病院・整形外科・リウマチ科): 全身性変形性骨関節症 (GOA) に合併する甲状腺疾患の臨床的検討. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 21) 向井英一, 吉野慎一, 中村 洋, 加藤 興, 松崎 剛: 関節リウマチの神経: 内分泌: 免疫系~健康者との比較検討. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 22) 柏木伸仁<sup>1)</sup>, 吉野慎一, 粕川禮司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本抗体研究所, <sup>2)</sup> 福島県立医大・第二内科): 顆粒球体外吸着除去カラムG-1の免疫調節作用. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 23) 松崎 剛, 吉野慎一, 中村 洋, 宮本洋介: 関節リウマチにおける腰椎変化: 単純X-pを中心とした腰椎病変発生頻度. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 24) 山本宗宏, 内田詔爾<sup>1)</sup>, 黄田道信, 久我芳昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京都立墨東病院・リウマチ膠原病科): アクタリットの関節破壊抑制効果に対する検討. 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会, 1999. 6.
- 25) 志賀弘朗<sup>1)</sup>, 郡司直哉, 立原章年, 吉野慎一 (<sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター): 当科における寝たきりリウマチ患者6例. 福島県リウマチフォーラム, 1999. 6.
- 26) 志賀弘朗<sup>1)</sup>, 郡司直哉, 立原章年, 志賀麻記子<sup>1)</sup>, 半沢幸一<sup>1)</sup>, 吉野慎一 (<sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター): 当科における人工膝関節・人工股関節の使用経験. 第76回常磐医学会, 1999. 7.
- 27) 和宇慶晃一, 永島正一, 松岡利明, 吉野慎一, 石渡俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第2): 急速な足趾壊死をきたした悪性関節リウマチの1例. 第28回リウマチの外科研究会, 1999. 8.
- 28) 松崎 剛, 佐野茂夫<sup>1)</sup>, 木村雅弘<sup>1)</sup>, 岩崎元重<sup>1)</sup>, 門野夕峰<sup>1)</sup>, 上田直哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 三楽病院・整形外科): Graf-systemを用いた固定隣接椎間制動術. 第6回日本脊椎脊髄神経手術手技学会, 1999. 8.
- 29) 山本宗宏, 内田詔爾<sup>1)</sup>, 高橋 央, 久我芳昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京都立墨東病院・リウマチ膠原病科): RAに対する伸筋腱形成術の工夫: 張力系を用いた縫合腱緊張度の決定. 第27回日本リウマチ・関節外科学会, 1999. 9.
- 30) 松崎 剛, 佐野茂夫<sup>1)</sup>, 木村雅弘<sup>1)</sup>, 岩崎元重<sup>1)</sup>, 門野夕峰<sup>1)</sup>, 上田直哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 三楽病院・整形外科): 各種脊椎instrumentのrod曲げ試験. 第48回東日本整形災害外科学会, 1999. 9.
- 31) 永島正一, 平野大地, 和宇慶晃一, 石神 伸, 吉野慎一: 関節リウマチにおける血管増殖因子と血管増殖抑制因子とのバランス機構: 血管新生抑制療法の基礎. 第14回日本整形外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 32) 永島正一, 平野大地, 和宇慶晃一, 吉野慎一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第2): 関節リウマチにおけるHGF-activator, HGFおよびC-Metの役割. 第14回日本整形外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 33) 郡司直哉, 志賀弘朗<sup>1)</sup>, 立原章年, 半沢幸一<sup>1)</sup>, 吉野慎一 (<sup>1)</sup> 竹林病院・リウマチ関節疾患センター): 当科における寝たきりRA患者の1例. 第9回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会, 1999. 10.
- 34) 平野大地, 吉野慎一, 永島正一, 和宇慶晃一, 石神 伸, 松崎 剛: 関節リウマチにおける腰椎病変. 第2回東京リウマチ膠原病研究会, 1999. 11.

- 35) 平野大地, 永島正一, 向井英一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 吉野槇一( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): 慢性関節リウマチ患者における精神的ストレスの有無と血清IL-6などとの関係. 第29回日本免疫学会総会・学術集会, 1999. 12.
- 36) 中村 洋, 吉野槇一, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 岩瀬育男<sup>2)</sup>, 杉山泰憲<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>原整形外科病院, <sup>2)</sup>松井外科病院, <sup>3)</sup>埼玉脳神経外科病院 ): 変形性関節症に対するGlucosamine / Chondroitin 合剤による補助療法の短期治療成績. 第14回日本臨床リウマチ学会, 1999. 12.
- 37) 宮本洋介, 小岩政仁<sup>1)</sup>, 山崎純司, 森下 実, 栗原 怜<sup>2)</sup>, 大和田一博<sup>2)</sup>, 米島秀夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>春日部秀和病院・整形外科・リウマチ科, <sup>2)</sup>春日部秀和病院・腎臓内科 ): 透析導入後早期に手根管症候群を発症したIgD型多発性骨髄腫の2例. 第37回埼玉県医学会, 2000. 1.
- 38) 和宇慶晃一, 森下 実, 小山泰朗, 菊池 修, 倉井年幸, 富田真智子, 平野大地, 永島正一, 吉野槇一, 加藤信也<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): 人工膝関節置換術と塞栓症: 駆血帯使用の有無による塞栓発症への影響. 第30回日本人工関節学会, 2000. 2.
- 39) 石神 伸, 永島正一, 森下 実, 斉藤公久, 小山泰朗, 菊池 修, 倉井年幸, 吉野槇一, 滋野恭子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>情報科学センター ): Hy-flex II Total Knee SystemにおけるPCL温存例, 切離例の比較検討: X線学的運動解析. 第30回日本人工関節学会, 2000. 2.
- 40) 丹野 亮, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 吉岡太郎( <sup>1)</sup>武蔵野赤十字病院・整形外科 ): 人工膝関節再置換術後に頸骨コンポーネントの破損をきたした1症例. 第30回日本人工関節学会, 2000. 2.

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 内分泌 , 消化器 , 血液内科 ) ]

##### 研究概要

内分泌・代謝領域の基礎的研究では、(1) 甲状腺腫瘍における FGF の意義、(2) Growth Hormone-Releasing Peptide (GHRP) 受容体発現の調節、GHRP 受容体に対する抗体の作成、(3) GHRP 受容体に対する内因性リガンドとして発見されたグレリンの作用機序、中枢神経に与える影響を観察した。臨床的研究では、(1) 成長ホルモン不応症の患者の GH 受容体の解析を行い、(2) 厚生省特定疾患調査研究班 原発性高脂血症調査研究、健康科学総合研究事業・多施設共同糖尿病研究、慢性疾患総合研究事業に参加した。

消化器病学は 1) 逆流性食道炎、食道運動機能障害に対する病態生理学的検討、2) 上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義、3) 大腸腺腫、癌の病態に対する検討、4) 大腸癌の診断に関する研究、5) 門脈圧亢進に対する径頸静脈的肝内門脈大循環短絡術および全身に及ぼす影響に関する研究、6) 慢性活動性 C 型肝炎の治療と免疫能など臨床的課題について昨年に引き続き研究をすすめ、基礎的研究として、7) 教室でクローニングした増殖因子 tomoregulin の作用解析、および組織修復、8) 消化器癌と COX-2 の関係などの検討が行われた。

血液学領域の基礎的研究では、(1) 巨核球成熟機構に関する基礎的研究、(2) 骨髄異形成症候群の細胞生物学的研究、(3) 造血器腫瘍の発症と進展に関する分子生物学的研究、(4) 急性白血病における細胞生物学的研究などを重点的に行い、臨床研究では、(5) 様々な条件下における造血幹細胞移植療法に関する研究、(6) 悪性リンパ腫の治療成績のまとめ、(7) 急性白血病の予後解析、などを行い、また多くの開発試験、多施設共同研究に参加した。

##### 研究業績

###### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Tatsuguchi A, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1): Localization of matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases-2 in normal human and rabbit stomachs. *Digestion* 1999; 60 (3): 246-254.
- 2) Li F, Kishida T, Kobayashi M: Serum iron and ferritin levels in patients with colorectal cancer in relation to the size, site, and disease stage of cancer. *J Gastroenterol* 1999; 34 (2): 195-199.
- 3) Kamegai J, Wakabayashi I, Kineman R<sup>1)</sup>, Frohman LA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): Growth hormone-releasing hormone receptor (GHRH-R) and growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) mRNA levels during postnatal development in male and female rats. *J Neuroendocrinol* 1999; 11 (4): 299-306.
- 4) Sasajima K<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Takubo K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>東京都老人病研究所臨床病理): Thoracoscopic excision with mini-thoracotomy for a bronchogenic cyst of the esophagus. *Hepato-Gastroenterology* 1999; 46 (27): 1785-1787.
- 5) Yamaguchi H, Inokuchi K, Hanawa H, Tanosaki S, Shinozawa I, Matsuoka H, Dan K: Establishment of a near-triploid human B-cell lymphoma cell line with t(14; 18) and a p53 gene point mutation. *Br J Haematol* 1999; 105 (3): 764-767.
- 6) Iwakiri K, Sugiura T, Kotoyori M, Yamada H, Hayashi Y, Nakagawa Y, Kawakami A, Kobayashi M: Effect of body position on lower esophageal sphincter pressure. *J Gastroenterol* 1999; 34 (3): 305-309.
- 7) Nakatsuka K, Sugiyama H<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunol-

- ogy, Nippon Medical School ): Purification of antigenic peptide from murine hepatoma cells recognized by Class-1 major histocompatibility complex molecule-restricted cytotoxic T-lymphocytes induced with *B7-1*-gene-transfected hepatoma cells . J Hepatology 1999 ; 30 ( 6 ) : 1119-1129 .
- 8 ) Matsui S<sup>1)</sup>, Ahlers JD<sup>1)</sup>, Vortmeyer AO<sup>2)</sup>, Terabe M<sup>1)</sup>, Tsukui T , Carbone DP<sup>3)</sup>, Liotta LA<sup>2)</sup>, Berzofsky JA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Molecular Immunogenetics and Vaccine Research Section, Metabolism Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health , <sup>2)</sup> Laboratory of Pathology, National Cancer Institute, National Institutes of Health , <sup>3)</sup> Department of Medicine, Vanderbilt Cancer Center, Vanderbilt University School of Medicine ): A model for CD8+CTL tumor immunosurveillance and regulation of tumor escape by CD4+T cells through an effect on quality of CTL . J Immunol 1999 ; 163 ( 1 ) : 184-193 .
- 9 ) Shuto Y , Nakano T<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Domoto H<sup>3)</sup>, Sugihara H , Wakabayashi I ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery , <sup>3)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital ): Reduced growth hormone receptor messenger ribonucleic acid in an aged man with chronic malnutrition and growth hormone resistance . J Clin Endocrinol Metab 1999 ; 84 ( 7 ) : 2320-2323 .
- 10 ) Fujimori S , Kishida T , Yoshida Y , Kobayashi M : Superficial blood flow, blood volume and blood velocity in colorectal tubular adenomas and adenocarcinomas . J Gastroenterol 1999 ; 34 ( 4 ) : 467-473 .
- 11 ) Kineman RD<sup>1)</sup>, Kamegai J , Frohman LA<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of Illinois at Chicago ): Growth hormone ( GH ) -releasing hormone ( GHRH ) and the GH secretagogue ( GHS ) , L692, 585, differentially modulate rat pituitary GHS receptor and GHRH receptor messenger ribonucleic acid levels . Endocrinology 1999 ; 140 ( 8 ) : 3581-3586 .
- 12 ) Hoshida Y<sup>1)</sup>, Yamakado S<sup>1)</sup>, Shinoki K , Takeuchi T , Nagai T<sup>1)</sup>, Hyakuna Y<sup>2)</sup>, Itoh Y<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>2)</sup> Division of Surgery, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>3)</sup> Division of Pathology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital ): Aged Budd-Chiari syndrome attributed to chronic deep venous thrombosis with alcoholic liver cirrhosis . J Gastroenterol 1999 ; 34 ( 5 ) : 634-639 .
- 13 ) Sanno N<sup>1)</sup>, Tahara Y<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Onose H , Wakabayashi I , Teramoto A<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery ): Ectopic corticotroph adenoma in the cavernous sinus . Neurosurgery 1999 ; 99 ( 4 ) : 914-917 .
- 14 ) Sasajima K<sup>1)</sup>, Inokuchi K , Onda M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Okawa K<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 外科第1 , <sup>2)</sup> 東京都老人病研究所臨床病理 ): Detection of T cell apoptosis after major operations . Eur J Surg 1999 ; 165 ( 11 ) : 1020-1023 .
- 15 ) Noguchi H<sup>1)</sup>, Sakamoto C , Wada K , Akamatsu T , Uchida T<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A , Matsui H<sup>1)</sup>, Fukui H<sup>2)</sup>, Fujimori T<sup>2)</sup>, Kasuga M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Second Department of Internal Medicine, Kobe University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Dokkyo University School of Medicine ): Expression of heregulin , erbB2, and erbB3 and their influences on proliferation of gastric epithelial cells . Gastroenterology 1999 ; 117 ( 5 ) : 1119-1127 .
- 16 ) Uchida T<sup>1)</sup>, Wada K , Akamatsu T<sup>1)</sup>, Yonezawa M , Noguchi H<sup>1)</sup>, Mizoguchi A<sup>2)</sup>, Kasuga M<sup>1)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Second Department of Internal Medicine, Kobe University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Kyoto University School of Medicine ): A novel epidermal growth factor-like molecule containing two folistatin modules stimulates tyrosine phosphorylation of erbB-4 in MKN28 gastric cancer cells . Biochemical and biophysical research communications 1999 ; 266 ( 2 ) : 593-602 .
- 17 ) Sugihara H , Emoto N , Tamura H , Kamegai J , Shibasaki T<sup>1)</sup>, Minami S<sup>2)</sup>, Wakabayashi I ( <sup>1)</sup> Department of Physiology , <sup>2)</sup> Institute of Gerontology ): Effect of insulin-like growth factor-1 on growth hormone-

- releasing factor receptor expression in primary rat anterior pituitary cell culture . *Neurosci Lett* 1999 ; 276 ( 2 ): 87-90 .
- 18) Makino S<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>2)</sup>, Yamauchi N<sup>2)</sup>, Nisioka T<sup>1)</sup>, Mimoto T<sup>1)</sup>, Wakabayashi I, Gold PW<sup>3)</sup>, Hashimoto K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Kouchi Medical School , <sup>2)</sup> Department of Physiology , <sup>3)</sup> Clinical Neuroendocrinology Branch, National Institute of Mental Health, Bethesda ): Psychological stress increased corticotropin-releasing hormone mRNA and content in the central nucleus of the amygdala but not in the hypothalamic paraventricular nucleus in the rat . *Brain Res* 1999 ; 850 ( 1-2 ): 136-143 .
- 19) Ishikawa H, Iwakiri K, Sugiura T, Kobayashi M : Effect of nifedipine ( 10mg ) on gastroesophageal reflux . *J Gastroenterol* 2000 ; 35 ( 1 ): 43-46 .
- 20) Tajika K, Nakamura H, Nakayama K, Dan K : Thrombopoietin can influence mature megakaryocytes to undergo further nuclear cytoplasmic maturation . *Exp Hematol* 2000 ; 28 ( 2 ): 203-209 .
- 21) Yasukawa M<sup>1)</sup>, Ohminami H<sup>1)</sup>, Kojima K<sup>2)</sup>, Inokuchi K, Nishimura Y<sup>3)</sup>, Fujita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 愛媛大学第一内科 , <sup>2)</sup> 愛媛県立中央病院 , <sup>3)</sup> 熊本大学免疫識別学 ): Analysis of HLA-DRB1 alleles in Japanese patients with chronic myelogenous leukemia . *Am J Hematol* 2000 ; 63 ( 2 ): 99-101 .
- 22) Luo Shan-S, Ogata K, Yokose N, Kato T<sup>1)</sup>, Dan K ( <sup>1)</sup> キリンビール研究所 ): Effect of thrombopoietin on proliferation of blasts from patients with myelodysplastic syndromes . *Stem Cells* 2000 ; 18 ( 2 ): 112-119 .
- 23) Kawamata H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Kanazawa H, Takahashi S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科 ): Transjugular intrahepatic portosystemic shunt in a patient with cavernomatous portal vein occlusion . *Cardiovasc Intervent Radiol* 2000 ; 23 ( 2 ): 145-149 .
- 24) Fujimori S, Kishida T, Yonezawa M, Shibata Y, Shinozawa I, Tanaka S, Hoshino T, Tatsuguchi A, Sato J, Yoshida Y, Yokoi K, Tanaka N, Ohaki Y, Sakamoto C, Kobayashi M : Mean corpuscular volume ( MCV ) may be a useful index of the risk of colorectal adenoma in middle-aged Japanese men . *Am J Gastroenterol* 2000 ; 95 ( 3 ): 793-797 .
- 25) Kuriyama H<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>1)</sup>, Wakabayashi I, Shibasaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology ): A6-day intracerebroventricular infusion of the growth hormone-releasing peptide KP-102 stimulates food intake in both non-stressed and intermittently-stressed rats . *Neurosci Lett* 2000 ; 282 ( 1-2 ): 109-112 .
- 26) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文, 渡 淳<sup>1)</sup>, 大国真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 狭心症と nutcracker esophagus が併存したと考えられた1例 . *日本消化器病学会雑誌* 1999 ; 96 ( 4 ): 398-402 .
- 27) 飯泉 匡, 三宅一昌, 平塚哲郎, 篠木 啓, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 名知志子, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文 : HTLV-1 関連脊髄症 ( HAM ) の治療中に発症した , 食道病変を伴う重症型糞線虫症の1例 . *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 55 ( 2 ): 72-73 .
- 28) 山田久木, 岩切勝彦, 小林正文 : Ca拮抗薬 ( Nifedipine 10mg ) 内服の胃食道逆流に及ぼす影響 . *Therapeutic Research* 1999 ; 20 ( 5 ): 1633-1636 .
- 29) 浦部晶夫<sup>1)</sup>, 外山圭助<sup>2)</sup>, 浅野茂隆<sup>3)</sup>, 池田康夫<sup>4)</sup>, 檀 和夫 ( <sup>1)</sup> 関東逓信病院内科 , <sup>2)</sup> 東京医科大学第一内科 , <sup>3)</sup> 東京大学医科学研究所 , <sup>4)</sup> 慶應義塾大学内科 ): 造血管疾患に併発した重症感染症に対する Cefepime の有効性 . *Antibiotics and Chemotherapy* 1999 ; 15 ( 6 ): 103-111 .
- ( 2 ) 総説 :
- 1) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川真一 ( <sup>1)</sup> 東北大学第三内科 ): 臨床に必要な脂質代謝の理解 : 内因・外因を中心に . 診断と治療 1999 ; 87 : 1960-1996 .
- 2) 檀 和夫 : 専門医への紹介のタイミング : 白血球系 . *medicina* 1999 ; 36 ( 4 ): 598-600 .
- 3) 猪口孝一 : アルプロスタジル . 臨床と薬物療法 1999 ; 18 ( 4 ): 372-373 .

- 4) 猪口孝一: Ras/MAPKシグナル伝達経路と白血病. 現代医療 1999; 31(5): 33-38.
- 5) 檀 和夫: 非ホジキンリンパ腫. 内科 1999; 83(6): 1428-1431.
- 6) 津久井 拓, 坂本長逸: 増殖因子・増殖因子レセプター遺伝子異常と消化管悪性腫瘍. 現代医療: 消化管疾患の分子医学 1999; 31(6): 1481-1486.
- 7) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 平川恒久, 坂本長逸, 小林正文: 逆流性食道炎の病態: 胃・十二指腸を重視した立場から. 胃と腸 1999; 34(8): 995-999.
- 8) 檀 和夫: 巨赤芽球性貧血の病態ならびに診断と治療. 診断と治療 1999; 87(8): 1357-1360.
- 9) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 小林正文: NUD (non-ulcer dyspepsia), 問診のコツと検査計画のたて方. 消化器の臨床 1999; 4(4): 367-370.
- 10) 檀 和夫: ヘモグロビン(Hb)・分画. 日本臨床 1999; 57(増刊): 731-733.
- 11) 和田 謙, 坂本長逸: 胃線維芽細胞における heregulin- の発現. 消化性潰瘍: 臨床と基礎 1999; 18(1): 22-28.
- 12) 三宅一昌, 坂本長逸: *H. pylori* 関連疾患の新しい治療戦略, NSAIDs潰瘍の治療. Progress in medicine 1999; 19(9): 2060-2064.
- 13) 及川眞一, 斉藤喬雄<sup>1)</sup>, 佐々木淳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学第二内科, <sup>2)</sup>福岡大学第二内科): リポ蛋白糸球体症. Tokyo Tanabe Quarterly 1999; 44: 184-192.
- 14) 檀 和夫: 血球検査 特殊染色. medicina 1999; 36(11): 134-135.
- 15) 檀 和夫: 貧血. 臨床外科 1999; 54(11): 494-495.
- 16) 津久井拓, 坂本長逸: COX-2選択的阻害剤 基礎研究とその臨床的意味づけ4) 胃粘膜への影響. 医薬ジャーナル 1999; 35(10): 182-190.
- 17) 猪口孝一, 檀 和夫: 特発性血小板減少性紫斑病. 医学と薬学 1999; 42(5): 728-734.
- 18) 檀 和夫: 寒冷凝集反応. 日本臨床 1999; 57(増刊): 117-119.
- 19) 小林正文, 岩切勝彦: 胃食道逆流症(GERD), III. 胃食道逆流の発生機序. 日本内科学会雑誌 2000; 89(1): 14-20.
- 20) 亀谷 純, 若林一二: 成長ホルモン(GH). Annual Review 内分泌, 代謝 2000; 173-179.
- 21) 杉原 仁, 若林一二: 成長ホルモン分泌促進ペプチド: 診断・治療への応用. 特集 内分泌 Up-to-Date 2000; 85(1): 100-105.
- 22) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 石川久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: Los Angeles分類からみた逆流性食道炎の食道運動機能. 消化器科 2000; 30(2): 149-154.
- 23) 江本直也: Basedow病の診断と治療. J Nippon Med Sch 2000; 67(1): 35-37.
- 24) 天野康雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田近賢二, 檀 和夫(<sup>1)</sup>放射線科): 悪性リンパ腫の画像診断. 日本臨床 2000; 58(3): 629-634.
- 25) 檀 和夫: Evidenceに基づく内科的治療の進め方 特発性血小板減少性紫斑病. 最新医学 2000; 55(増刊): 639-646.
- 26) 猪口孝一: DNA塩基配列決定法. 血液・腫瘍科 2000; 40(増刊): 381-391.
- 27) 三宅一昌, 坂本長逸: 図解 病態のメカニズム: 胃疾患(5) 胃粘膜とプロスタグランディン. medicina 2000; 37(3): 485-487.

## 著 書

- 1) Wakabayashi I, Sugihara H, Sibasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physiology): [分担] Growth hormone secretagogue influences feeding behavior in experimental animals. Growth Hormone Secretagogues: Basic Findings and Clinical Implications (Ghigo E, Boghen M, Casanueva F. F, Dieguez C. (eds)), 1999; pp279-284, Else-

vier Science .

- 2) Wakabayashi I, Shuto Y, Kamegai J, Sugihara H, Parhar I<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology ): [ 分担 ] Gene mutations in hypophysiotropic hormone receptors with special emphasis on growth hormone axis . Progress in Molecular Endocrinology , 1999 ; pp49-54 , The Korean Endocrine Society .
- 3) 横山善文, 小林正文 : [ 分担 ] 緊急内視鏡ガイドライン . 消化器内視鏡ガイドライン ( 日本消化器内視鏡学会監 , 日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会編 ) , 1999 ; pp123-133 , 医学書院 .
- 4) 檀 和夫, 長谷川節雄, 大木一郎, 山田 隆, 猪口孝一 : [ 編集 ] UNITVI 血球, 免疫, 血液凝固 . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ) , 1999 ; pp423-476 , 医学書院 .
- 5) 小林正文, 岩切勝彦 : [ 分担 ] GERD とその周辺, 循環器領域 : 狭心症様症状を呈した胃食道逆流症 . GERD の診断と治療 : GERD の臨床と今日的意義 ( 常岡健二監 , 木暮 喬 , 星原芳雄編 ) , 1999 ; pp117-123 , メディカルレビュー社 .
- 6) 杉原 仁 : [ 翻訳 ] 下垂体ホルモンと視床下部によるその調節 . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ) , 1999 ; pp941-953 , 医学書院 .
- 7) 江本直也 : [ 翻訳 ] 甲状腺ホルモン . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ) , 1999 ; pp955-966 , 医学書院 .
- 8) 鈴木信周, 小野瀬裕之 : [ 翻訳 ] 副腎皮質ホルモン . ガイトン臨床生理 ( 早川弘一 ) , 1999 ; pp967-979 , 医学書院 .
- 9) 岡田憲明, 長谷川 修, 周東祐仁 : [ 翻訳 ] 副甲状腺 ( 上皮小体 ) ホルモン, カルシトニン, カルシウムとリンの代謝, ビタミンD, 骨, 歯 . ガイトン臨床生理 ( 早川弘一 ) , 1999 ; pp995-1012 , 医学書院 .
- 10) 末岡伸夫, 西垣 均, 坂本長逸 : [ 分担 ] GERD と鑑別を要する疾患 : HIV 感染症・AIDS , その他 . GERD の診断と治療 : GERD の臨床と今日的意義 , 1999 ; pp145-152 , メディカルレビュー社 .
- 11) 金沢秀典 : [ 分担 ] 腹水および難治性腹水の治療と看護 . 消化器疾患の治療と看護 ( 國分茂博編 ) , 2000 ; pp112-120 , 南江堂 .

#### 学会発表

##### (1) 招待講演 :

- 1) Wakabayashi I : Gene mutations in hypophysiotropic hormone receptors with special emphasis on growth hormone axis . The Korean Society of Endocrinology ( Seoul ) , 1999 . 11 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) Ogata K , Tamura H , Luo Shan-S , Nakamura K , Yokose N , Dan K , Tohyama K<sup>1)</sup> , Yoshida Y<sup>1)</sup> , Hamaguchi H<sup>2)</sup> , Sakamaki H<sup>3)</sup> , Kuwaki T<sup>4)</sup> , Tahara T<sup>4)</sup> , Kato T<sup>4)</sup> , Nomura T ( <sup>1)</sup> Kyoto University , <sup>2)</sup> Musashino Red Cross Hospital , <sup>3)</sup> Metropolitan Komagome Hospital , <sup>4)</sup> Kirin Brewery Co. ) : Plasma thrombopoietin ( TPO ) levels and expression of TPO receptor ( TPO-R ) on platelets in patients with myelodysplastic syndromes ( MDS ) . 5th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes ( Prague ) , 1999 . 4 .
- 2) Iwakiri K , Kobayashi M : Esophageal response to rapid swallowing . 第41回日本消化器病学会大会 , 1999 . 10 .
- 3) 岩切勝彦, 小林正文 : 逆流性食道炎, パレット食道の食道運動機能 . 第57回日本消化器内視鏡学会総会 , 1999 . 5 .
- 4) 西垣 均, 末岡伸夫 : Barrett 食道, 短Barrett 食道の診断と発育進展における臨床像の検討 . 第57回日本消化器内視鏡学会総会 , 1999 . 5 .
- 5) 三宅一昌, 坂本長逸, 小林正文 : シドニーシステムを用いた *H. pylori* 除菌後の胃炎および萎縮の評価 . 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会 , 1999 . 6 .



- 6) 中塚雄久, 中川洋子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文, 杉山弘高<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学): マウス肝細胞癌特異的CTLが認識するclass-1 MHC分子拘束性peptideの解析. 第35回日本肝臓学会総会, 1999. 6.
- 7) 坂本長逸: 胃粘膜病変とCOX-2. 第9回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 1999. 9.
- 8) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 小林正文: Los Angeles (LA)分類からみた逆流性食道炎(RE)の発生頻度, 及びRE, Barrett's esophagus (BE)の食道運動機能. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 9) 及川真一: 糖尿病と動脈硬化: 海外文献からのまとめ. 第14回日本糖尿病合併症学会, 1999. 10.
- 10) 山口博樹, 猪口孝一, 檀 和夫: 慢性骨髄性白血病のc-kit遺伝子突然変異の解析. 第19回血液幹細胞シンポジウム, 1999. 11.
- 11) 及川真一: 糖尿病における血管合併症. 第10回臨床内分泌代謝Update, 2000. 3.
- (3) ランチョンセミナー:
- 1) 及川真一: 糖尿病の進展とLipototoxicity. 第37回臨床分子医学会, 2000. 3.
- 2) 及川真一: 高齢者高脂血症管理の問題点. 第10回臨床内分泌代謝Update, 2000. 3.
- (4) ワークショップ:
- 1) 金沢秀典, 斎藤 整: TIPSの長期予後. 第6回日本門脈圧亢進症学会総会, 1999. 9.
- 2) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 小林正文: 食事中的つかえ感と食道運動異常との関連: 食道内圧検査による検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- (5) プレナリーセッション:
- 1) Hirakawa T: Diagnosis of Hp under endoscopy. World Chinese Congress of Digestion (Beijing, China), 1998. 10.
- (6) 一般講演:
- 1) Tatsuguchi A, Tsukui T, Wada K, Miyake K, Akamatsu T, Sakamoto C, Kobayashi M: Localization of cyclooxygenase 1 and cyclooxygenase 2 in gastric ulcer in human. The 8th Taisho International Symposium on Gastroenterology (Shimoda, Japan), 1999. 4.
- 2) Tatsuguchi A, Tsukui T, Wada K, Miyake K, Akamatsu T, Sakamoto C, Kobayashi M: Localization of cyclooxygenase-1 and cyclooxygenase-2 in gastric ulcer in human. DDW (Orlando, U. S. A. ), 1999. 5.
- 3) Nishigaki H, Hiratsuka T, Tanaka S, Tatsuguchi A, Satoh J, Tsukui T, Sakamoto C: Combined magnification video-endoscopy with methylene blue staining for the assessment of intestinal metaplasia in the patients with Barrett's esophagus. DDW (Orland, U. S. A. ), 1999. 5.
- 4) Noguchi H, Sakamoto C, Wada K, Akamatsu T: Expression of heregulin-, erbB2 and erbB3 and the influences on epithelial cell proliferation in the stomach. DDW (Orland, U. S. A. ), 1999. 5.
- 5) Tabuchi M<sup>1, 2)</sup>, Sueoka N, Kato Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of gastroenterology, Nakameguro Digestive Disease Clinic, <sup>2)</sup> Department of surgery, Tokyo University, <sup>3)</sup> Department of pathology, Cancer Institute): Usefulness of endoscopic clipping in the treatment of colorectal penetration and small perforation. DDW (Orland, U. S. A. ), 1999. 5.
- 6) Emoto N, Shimizu K<sup>1)</sup>, Onose H, Sugihara H, Shimonaka M<sup>2)</sup>, Wakabayashi I (<sup>1)</sup> Department of Surgery, <sup>2)</sup> Department of Chemistry, Science University of Tokyo): Synthesis of abnormal heparan sulfates is a mechanism for the increase of intra-tissue ECM-free FGF-2 in human papillary thyroid carcinomas and graves thyroids. The Endocrine society 81th Annual meeting (San Diego), 1999. 6.
- 7) Kamegai J, Tamura H, Ishii S, Shuto Y, Sugihara H, Kineman RD<sup>1)</sup>, Frohman LA<sup>1)</sup>, Wakabayashi I (<sup>1)</sup> Department of Medecine, University of Illinois at Chicago): Glucocorticoid regulation of pituitary growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) gene expression. The Endocrine society 81th Annual meeting

- ( San Diego ), 1999 . 6 .
- 8) Shuto Y, Nakano T<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Domoto H<sup>3)</sup>, Sugihara H, Wakabayashi I ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, <sup>3)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital ): Reduced growth hormone receptor mRNA in an aged man with chronic malnutrition and growth hormone resistance . The Endocrine society 81th Annual meeting ( San Diego ), 1999 . 6 .
  - 9) Tabuchi M<sup>1,2)</sup>, Sueoka N, Kato Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Nakameguro Digestive Disease Clinic, <sup>2)</sup> Department of surgery, Tokyo University, <sup>3)</sup> Department of pathology, Cancer Institute ): A new classification of shapes of gland outlet using high resolution colonoscope made a perfectly diagnosis of diminutive colorectal neoplasmas . 7th United European Gastroenterology Week ( Roma, Italy ), 1999 . 11 .
  - 10) Sueoka N, Nishigaki H, Tatsuguchi A, Aoki M, Tsukui T, Sakamoto C : Combined magnification video-endoscopy with methylene blue staining for the assessment of gastric metaplasia and gastric heterotopia in the duodenal bulb . 7th United European Gastroenterology Week ( Roma, Italy ), 1999 . 11 .
  - 11) 横瀬紀夫, 塩井由美子, 中村恭子, 田村秀人, 安 恵美, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): CD20陽性T細胞性腫瘍 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 12) 中村恭子, 安 恵美, 緒方清行, 塙 圭子, 羅 善順, 塩井由美子, 横瀬紀夫, 猪口孝一, 檀 和夫 : 急性骨髄性白血病細胞の細胞周期 : 治療開始前後での比較 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 13) 山口博樹, 猪口孝一, 足澤美紀, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 田近賢二, 緒方清行, 檀 和夫 : 慢性骨髄性白血病の病態とc-kit遺伝子突然変異の解析 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 14) 足澤美紀, 猪口孝一, 山口博樹, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 田近賢二, 緒方清行, 檀 和夫 : 各種血液疾患における可溶性CD44v6値と臨床的意義 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 15) 中村佳代, 中村弘之, 足澤美紀, 山口博樹, 山田 隆, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫 : Fluorouracilによる化学療法後にminor bcr陽性CMLを発症した一例 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 16) 猪口孝一, 山口博樹, 足澤美紀, 田野崎栄, 松岡弘樹, 田近賢二, 緒方清行, 三宅弘一, 檀 和夫 : DCCおよびDPC4遺伝子欠失細胞株の樹立 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 17) 浜口裕之<sup>1)</sup>, 猪口孝一, 長田 薫<sup>1)</sup>, 山口光子<sup>1)</sup>, 高島輝之<sup>1)</sup>, 谷脇雅史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵野日赤病院, <sup>2)</sup> 京都府立医大 ): p73およびp53遺伝子変異を認めたadd ( 1 ) ( p36 ), t ( 8 ; 21 ) を有するAML細胞株 ( YSK ) の樹立と性状 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 18) 篠澤 功, 猪口孝一, 山口博樹, 足澤美紀, 田野崎栄, 松岡弘樹, 田近賢二, 緒方清行, 檀 和夫 : 造血器腫瘍細胞のsurvivin, EPR-1遺伝子発現の検討 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 19) 田野崎栄, 高田康成<sup>1)</sup>, 大沢宣明<sup>1)</sup>, 蜂谷みさお<sup>1)</sup>, 猪口孝一, 明石真人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学総合研究所 ): OK432による紫外線照射誘発好中球アポトーシスの抑制について . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 20) 中村弘之, 田近賢二, 中山一隆, 水木太郎, 橋本充弘, 檀 和夫 : Thrombopoietin ( TPO ) の成熟巨核球におよぼす影響 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 21) 水木太郎, 田近賢二, 橋本充弘, 中村弘之, 山口博樹, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫 : 当科におけるATRA症候群発生状況の検討 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 22) 橋本充弘, 山口博樹, 水木太郎, 猪口孝一, 田近賢二, 檀 和夫 : 血球貪食症候群 ( HPS ) にて発症した横紋筋原発のanaplastic large T cell lymphomaの一例 . 第61回日本血液学会総会, 1999 . 4 .
  - 23) 藤森俊二, 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 李 峰, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文, 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第1 ): 平均赤血球容積 ( MCV ) と大腸腺腫に関する検討 . 第85回日本消化器病学会総会, 1999 . 4 .
  - 24) 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 李 峰, 藤森俊二,

- 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 結腸癌患者における血清胆汁酸分析の検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 25) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 山田久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 食事中的つかえ感と食道運動機能との関連: 食道内圧検査による検討. 第13回EG club, 1999. 4.
- 26) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: Los Angeles (LA) 分類 grade A, Bの違い (粘膜障害5mmの意義について, 食道内圧検査による検討). 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 27) 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 杉浦敏昭, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 同一施行医による初回内視鏡検査の逆流性食道炎の頻度, 症状, ヘルニアに関する prospective な検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 28) 三宅一昌, 辰口篤志, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 赤松知憲, 二神生爾, 和田 謙, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文: マウス胃内における酸性化エタノール刺激により誘導されるCOX2の胃粘膜防御作用. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 29) 津久井 拓, 水野 寿<sup>1)</sup>, 赤松知憲, 三浦崇幣, 和田 謙, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 辰口篤志, 西垣均, 二神生爾, 伊月葉子, 三宅一昌, 末岡伸夫, 平川恒久, 坂本長逸, 小林正文<sup>(1)</sup> (国立神戸病院内科): マウス胃粘膜上皮細胞におけるシクロオキシゲナーゼ遺伝子発現に対する抗潰瘍剤の影響. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 30) 吉本 均, 金沢秀典, 榎原義之, 長田祐二, 間宮康貴, 中塚雄久, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) の胃静脈瘤へ及ぼす効果. 第85回日本消化器病学会大会, 1999. 4.
- 31) 橋本充弘, 平塚哲郎, 山口博樹, 横瀬紀夫, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫: 急激な経過を呈したCD5陰性B-CLLの1例. 第135回日本臨床血液学会例会, 1999. 5.
- 32) 篠澤 功, 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 玉川恭二, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 当科における大腸腫瘍内視鏡的分割切除症例の検討. 第57回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 5.
- 33) 平塚哲郎, 末岡伸夫, 西垣 均, 辰口篤志, 津久井 拓, 青木正明, 坂本長逸, 小林正文: *H. pylori*除菌前後における, 胃体部胃炎像の変化に関する拡大内視鏡を用いた検討: 胃体部皺壁胃小窩の赤色点を中心に. 第57回日本消化器内視鏡学会, 1999. 5.
- 34) 津久井 拓, 坂本長逸: 内視鏡下生検組織におけるシクロオキシゲナーゼ (COX) 遺伝子発現の検討. 第57回日本消化器内視鏡学会, 1999. 5.
- 35) 末岡伸夫, 西垣 均, 平塚哲郎, 辰口篤志, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文, 田淵正文<sup>1)</sup> (1) 中目黒消化器クリニック): 平坦・陥凹型 (0-IIb, 0-IIc) 微小・小胃癌の高解像度 (41万 pixel) 拡大電子内視鏡による検討. 第57回日本消化器内視鏡学会, 1999. 5.
- 36) 杉原 仁, 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 若林一二: グルココルチコイドのGrowth Hormone Secretagogue (GHS) 受容体遺伝子発現におよぼす効果. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 37) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 若林一二: 絶食のGrowth Hormone Secretagogue (GHS) 受容体遺伝子発現におよぼす効果. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 38) 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 若林一二 (1) 外科第2): 甲状腺乳頭癌およびバセドウ甲状腺における組織内遊離FGF-2増加のメカニズム. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 39) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 若林一二: Growth Hormone Secretagogue (GHS) によるGHS受容体のdownregulation. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 40) 小野瀬裕之, 江本直也, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 若林一二 (1) 外科第2): 甲状腺組織内プロテオグリカンのイ

- ムノプロット法を用いた新しい定量的分析法の開発．第72回日本内分泌学会学術総会，1999．5．
- 41) 岩切勝彦，杉浦敏昭，石川久木，小林正文：multiple rapid swallowによる食道体部運動．第16回臨床食道専門研究会，1999．6．
- 42) 篠木 啓，三宅一昌，西垣 均，水木太郎，杉浦敏昭，小野瀬裕之，佐藤 順，坂本長逸：O-ringを用いたEMRにより治療した胃毛細血管拡張症の1例．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 43) 飯泉 匡，塩井由美子，平塚哲郎，田中 周，間宮康貴，長田祐二，小泉信人，名知志子，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸，小林正文：糞線虫による食道病変を伴ったHTLV-I関連脊髄症（HAM）の1例．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 44) 津久井 拓，坂本長逸，辰口篤志，和田 謙，赤松知憲，三浦崇幣，篠木 啓，飯泉 匡，平塚哲郎，二神生爾，三宅一昌，末岡伸夫，福田 悠<sup>1)</sup>，山中宣昭<sup>1)</sup>，小林正文（<sup>1</sup>）病理第1）：穿孔胃潰瘍手術標本におけるシクロオキシゲナーゼ陽性細胞の免疫組織学的検討．第5回白河カンファランス，1999．6．
- 45) 津久井 拓，坂本長逸，辰口篤志，和田 謙，赤松知憲，二神生爾，三宅一昌，末岡伸夫，福田 悠<sup>1)</sup>，山中宣昭<sup>1)</sup>，小林正文（<sup>1</sup>）病理第1）：ヒト胃潰瘍周囲粘膜におけるシクロオキシゲナーゼ陽性細胞の局在に関する組織学的検討．第5回ヒスタミンレセプター研究会，1999．6．
- 46) 片倉玲樹，林 良紀，中村恭子，山田 隆，田近賢二，緒方清行，猪口孝一，檀 和夫：MCNUによる治療経過中4年後に間質性肺炎を併発した原発性骨髄線維症．第22回老年者造血管疾患研究会，1999．7．
- 47) 瀬尾継彦，長田祐二，間宮康貴，小泉伸人，岩切勝彦，津久井 拓，金沢秀典，黒田 肇，坂本長逸，小林正文：短期間に再発したガス産生性肝膿瘍の1例．第255回日本消化器病学会関東支部例会，1999．7．
- 48) 二神生爾，平塚哲郎，坂本長逸：*H. pylori*感染とNSAIDの相互作用に果たすCOX-2蛋白の役割．第6回胃の炎症を考える会，1999．7．
- 49) 二神生爾，平塚哲郎，坂本長逸：*H. pylori*感染とNSAIDの相互作用に果たすCOX-2蛋白の役割．第18回消化器病態生理勉強会，1999．8．
- 50) 山口博樹，猪口孝一，檀 和夫：Minor bcr-abl発現の慢性骨髄性白血病の特徴．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 51) 足澤美樹，山口博樹，中村恭子，横瀬紀夫，山田 隆，田近賢二，緒方清行，猪口孝一，檀 和夫：診断に苦渋し急激な経過をとった表在リンパ節腫脹を伴う非典型的慢性骨髄性白血病と思われる1例．第136回日本臨床血液学会例会，1999．9．
- 52) 和田 謙，赤松知憲<sup>1)</sup>，内田 亨<sup>1)</sup>，坂本長逸（<sup>1</sup>）神戸大学第二内科）：follistatin様構造をもつ新規EGF様蛋白質の機能解析．第85回日本癌学会総会，1999．9．
- 53) 赤松知憲，内田 亨<sup>1)</sup>，和田 謙，溝口 明<sup>2)</sup>，坂本長逸，春日雅人<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）神戸大学第二内科，<sup>2)</sup>京都大学第二解剖学）：ヒト胃粘膜線維芽細胞より新たに分離同定されたEGF様蛋白質の構造と組織発現分布．第85回日本癌学会総会，1999．9．
- 54) 林 良紀，岩切勝彦，杉浦敏昭，石川久木，琴寄 誠，中川義也，川上明彦，坂本長逸，小林正文：nutcracker esophagus（NE）とhypertensive LES（HLES）の併存がみられた1例．第256回日本消化器病学会関東支部例会，1999．9．
- 55) 長田祐二，金沢秀典，榎原義之，間宮康貴，小泉信人，吉本 均，斉藤 整，黒田 肇：TIPSおよびTIPSを介した側副血行路塞栓術により止血を得た十二指腸静脈瘤の1例．第6回日本門脈圧亢進症学会，1999．9．
- 56) 榎原義之，金沢秀典，間宮康貴，長田祐二，小泉信人，中塚雄久，吉本 均，斉藤 整，黒田 肇，坂本長逸，小林正文：肝硬変における治療反応性腹水と難治性腹水の比較検討．第6回日本門脈圧亢進症学会，1999．9．
- 57) 津久井 拓，辰口篤志，和田 謙，赤松知憲，二神生爾，三宅一昌，末岡伸夫，福田 悠<sup>1)</sup>，山中宣昭<sup>1)</sup>，坂本長逸，小林正文（<sup>1</sup>）病理第1）：ヒト胃潰瘍におけるシクロオキシゲナーゼ陽性細胞に関する組織学的検討．第8回潰瘍病態研究会，1999．9．

- 58) 二神生爾<sup>1)</sup>, 後藤正道<sup>1)</sup>, 長江安洋<sup>1)</sup>, 三石 卓<sup>1)</sup>, 香取利一<sup>1)</sup>, 桑名莊太郎<sup>1)</sup>, 平塚哲郎, 坂本長逸, 小林正文, 高橋秀実<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱大倉山病院内科, <sup>2)</sup>微生物学・免疫学 ): *Helicobacter pylori* 感染性慢性胃炎患者の血清中および胃粘膜局所における *Helicobacter pylori urease* に対する免疫応答の検討. 第24回港北医学会, 1999. 9.
- 59) 山口博樹, 猪口孝一, 足澤美樹, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 緒方清行, 山田 隆, 檀 和夫: 急性白血病における予後因子としての bcl-x, p53 遺伝子の検討. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 60) 足澤美樹, 山口博樹, 中村恭子, 田野崎栄, 山田 隆, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: del(5)(q13q15) 核型異常を呈した非典型的慢性骨髄性白血病より樹立した白血病細胞株の性状. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 61) 塩井由美子, 横瀬紀夫, 中村恭子, 安 恵美, 田近賢二, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 当科における急性骨髄性白血病(AML)症例の核型・表面形質と予後との関連について. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 62) 横瀬紀夫, 羅 善順, 塩井由美子, 中村恭子, 安 恵美, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 炭酸リチウム投与が有効と思われた低形成骨髄異形成症候群(MDS)の1例. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 63) 中村恭子, 塩井由美子, 羅 善順, 安 恵美, 横瀬紀夫, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病(AML)の微小残存病変(MRD)解析: CD15+CD117+細胞およびCD34+CD56+細胞について. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 64) 中山一隆, 大井 淳, 友成 章, 森 勇一, 澤田道夫, 長山人三, 白藤尚毅, 井関 徹, 東條有伸, 谷憲三郎, 浅野茂隆: 海外バンクからの臍帯血を用いて同種移植を施行した化学療法抵抗性成人白血病の1例. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 65) 水木太郎, 田近賢二, 橋本充弘, 中山一隆, 中村弘之, 山口博樹, 山田 隆, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: Tandem自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を施行しえた高齢者悪性リンパ腫の1例. 第41回日本臨床血液学会総会, 1999. 10.
- 66) 西垣 均, 末岡伸夫, 三宅一昌, 赤松知憲, 津久井 拓, 青木正明, 坂本長逸, 小林正文: 高齢者における逆流性食道炎, Barrett 食道の臨床的検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 67) 平塚哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 和田 謙, 津久井 拓, 細根 勝<sup>1)</sup>, 秋元敏雄<sup>2)</sup>, 坂本長逸, 小林正文 ( <sup>1)</sup>多摩厚山病院病理部, <sup>2)</sup>実験動物管理室 ): 動物モデルを用いたNSAIDs胃粘膜傷害におけるHP感染症の役割に対する検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 68) 二神生爾, 広田 薫, 辰口篤志, 平塚哲郎, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文, 大橋和史<sup>1)</sup>, 長田久美子<sup>2)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>3)</sup>, 高橋秀実<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>臨床薬理センター, <sup>2)</sup>微生物学・免疫学, <sup>3)</sup>兵庫医科大学細菌学 ): 慢性胃炎患者における *H. pylori urease* に対する血清中及び胃粘膜局所における免疫応答の検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 69) 津久井 拓, 坂本長逸, 辰口篤志, 和田 謙, 赤松知憲, 飯泉 匡, 三浦崇幣, 篠木 啓, 平塚哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 末岡伸夫, 福田 悠<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup>, 小林正文 ( <sup>1)</sup>病理第1 ): ヒト胃潰瘍組織標本におけるシクロオキシゲナーゼ陽性細胞の局在. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 70) 赤松知憲, 内田 亨<sup>1)</sup>, 和田 謙, 溝口 明<sup>2)</sup>, 春日雅人<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup>神戸大学第二内科, <sup>2)</sup>京都大学第二解剖学 ): ヒト胃粘膜線維芽細胞より新たに分離同定されたEGF様蛋白質の構造, 組織分布, 細胞増殖・接着への関与に対する検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 71) 和田 謙, 野口 仁<sup>1)</sup>, 赤松知憲, 辰口篤志, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup>神戸大学第二内科 ): 消化管における heregulin, erbB2, erbB3 の発現と作用についての検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 72) 三浦崇幣, 津久井 拓, 和田 謙, 赤松知憲, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸, 小林正文: 培養ヒト胃粘膜線維芽細胞における血管内皮細胞増殖因子の産生. 第41回日本消化器病学会大

- 会, 1999 . 10 .
- 73) 三宅一昌, 坂本長逸, 篠木 啓, 平塚哲郎, 西垣 均, 和田 謙, 岩切勝彦, 津久井拓, 末岡伸夫, 平川恒久, 小林正文: *H. pylori*除菌療法による内視鏡および組織所見の変化 . 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999 . 10 .
- 74) 名知志子, 金沢秀典, 斉藤 整, 吉本 均, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸, 小林正文: 食後の門脈血行動態変化へのOctreotideによる影響: 超音波ドプラ法による検討 . DDW, 1999 . 10 .
- 75) 間宮康貴, 金沢秀典, 榎原義之, 長田祐二, 名知志子, 中塚雄久, 小泉信人, 吉本 均, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: Octreotide投与による肝硬変患者の門脈左および門脈血行動態の変化 . DDW, 1999 . 10 .
- 76) 末岡伸夫, 西垣 均, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文, 山田宣孝: *H. pylori*除菌前後における, 胃体部胃炎の変化に関する拡大内視鏡を用いた検討 . 第41回日本消化器病学会大会, 1999 . 10 .
- 77) 末岡伸夫, 西垣 均, 津久井 拓, 坂本長逸, 小林正文, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): *H. pylori*感染の内視鏡診断: *H. pylori*除菌前後における, 胃体部胃炎の変化に関する拡大内視鏡を用いた検討 . 第4回Helicobacter pylori内視鏡研究会, 1999 . 10 .
- 78) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 若林一二: 甲状腺ホルモンのGrowth Hormone Secretagogue (GHS) 受容体の遺伝子発現におよぼす効果 . 第26回日本神経内分泌学会, 1999 . 10 .
- 79) 杉原 仁, 亀谷 純, 周東祐仁, 田村秀樹, 小野瀬裕之, 若林一二: GH分泌促進ペプチド(GHRP)とACTHのGH分泌促進作用の機序について . 第26回日本神経内分泌学会, 1999 . 10 .
- 80) 篠澤 功, 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 田中 周, 星野哲夫, 佐藤 順, 藤森俊二, 田口文彦, 玉川恭二, 吉田 豊, 小林正文: 過去5年間における大腸の進行癌と早期癌に関する都市部と町村部との疫学的比較検討 . 第17回大腸検査学会総会, 1999 . 11 .
- 81) 杉浦敏昭: Los Angeles分類からみた逆流性食道炎とBarett's esophagusの食道運動機能 . 第4回GERD研究会学術集会, 1999 . 11 .
- 82) 江本直也, 小野瀬裕之, 石井新哉, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 若林一二(<sup>1)</sup>外科第2): 腫大性甲状腺疾患における細胞外マトリックス・ヘパラン硫酸の量的および質的变化とFGF-2活性制御の検討 . 第42回日本甲状腺学会, 1999 . 11 .
- 83) 楠 正典, 三宅一昌, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 名知志子, 津久井 拓, 川上明彦, 瀬底正彦, 坂本長逸, 小林正文: Ball valve syndromeを来し, 過形成性ポリープから発生したと考えられる早期胃癌の1例 . 第69回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999 . 12 .
- 84) 谷村恭子, 金沢秀典, 小泉信人, 名知志子, 三宅一昌, 間宮康貴, 長田祐二, 榎原義之, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: CO<sub>2</sub>を用いたTIPSが著効した肝腎症候群による難治性腹水の1例 . 第257回日本消化器病学会関東支部例会, 1999 . 12 .
- 85) 内田直也, 谷村恭子, 片倉玲樹, 進士陽子, 中村佳代, 中村恭子, 安 恵美, 山田 隆, 田近賢二, 緒方清行, 檀 和夫: 間歇的に出現する溶血性貧血と血小板減少症で発症したthrombotic thrombocytopenic purpura (TTP)の1例 . 第137回日本臨床血液学会例会, 2000 . 2 .
- 86) 渡邊綾子, 周東祐仁, 杉原 仁, 小野瀬裕之, 亀谷 純, 若林一二: 食事摂取にGHが著明に反応した先端巨大症の1例 . 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000 . 2 .
- 87) 猪口孝一, 足澤美樹, 山口博樹, 田近賢二, 檀 和夫: CD44リガンド結合によるシグナル伝達系遺伝子発現変化の解析 . 第62回日本血液学会総会, 2000 . 3 .
- 88) 足澤美樹, 猪口孝一, 田野崎栄, 松岡弘樹, 山口博樹, 檀 和夫: CD44リガンド結合による急性白血病細胞表面抗原変化の解析 . 第62回日本血液学会総会, 2000 . 3 .
- 89) 山口博樹, 猪口孝一, 足澤美樹, 中村佳代, 埴 秀樹, 田野崎栄, 檀 和夫: 慢性骨髄性白血病の病態とc-kit

- 遺伝子突然変異の機能解析．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 90) 中村佳代，猪口孝一，足澤美樹，山口博樹，山田 隆，田近賢二，檀 和夫：好酸球増多症を伴ったPh陰性CMLの3症例．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 91) 岩切理歌<sup>1)</sup>，御子柴路郎<sup>1)</sup>，堤 久<sup>1)</sup>，熊川寿郎<sup>1)</sup>，大田雅嗣<sup>1)</sup>，森 真由美<sup>1)</sup>，猪口孝一，檀 和夫<sup>(1)</sup>（東京老人医療センター）：高齢者AMLの予後因子に対するMDR1, MRP, TopoisomeraseII の関与について．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 92) 安 恵美，兵働英也，橘 美紀子，塩井由美子，中村恭子，羅 善順，横瀬紀夫，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：正常高齢者のナチュラルキラー（NK）細胞活性と感染症の発生・予後との関連（前方追跡調査の結果）．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 93) 羅 善順，横瀬紀夫，安 恵美，中村恭子，塩井由美子，兵働英也，橘美紀子，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：トロンボポイエチン（TPO）の骨髄異形成症候群（MDS）芽球増殖に対する効果：第2報．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 94) 水木太郎，田近賢二，橋本充弘，塩井由美子，中山一隆，中村弘之，山口博樹，中村佳代，中村恭子，横瀬紀夫，安 恵美，山田 隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：当科における非ホジキンリンパ腫治療の現況．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 95) 田近賢二，青木克益，檀 和夫，Tosato G<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>NCI, NIH, USA）：KSHV-Encoded Interleukin-6（vIL-6）の巨核球成熟に及ぼす効果．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 96) 中村弘之，田近賢二，中山一隆，水木太郎，橋本充弘，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：Thrombopoietin（TPO）による成熟巨核球のcyclin D3発現誘導．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 97) 中山一隆，水木太郎，山口博樹，中村弘之，橋本充弘，田近賢二，野村武夫，檀 和夫，鈴木 剛<sup>1)</sup>，野中泰延<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東京警察病院）：血球貪食症候群で発症した悪性リンパ腫に対し自家末梢血幹細胞移植を施行した2症例．第62回日本血液学会総会，2000．3．
- 98) 城所 葉，津久井 拓，二俣 健，吉本 均，小泉伸人，三井啓吾，林 良紀，三宅一昌，末岡伸夫，岩切勝彦，田島広之<sup>1)</sup>，坂本長逸，隈崎達夫<sup>1)</sup>，小林正文（<sup>1)</sup>放射線科）：動脈塞栓術により治癒した腭吻合枝動脈瘤破裂の1例．第246回日本消化器病学会関東支部例会，2000．3．
- 99) 進士陽子，小野瀬裕之，周東祐仁，亀谷 純，杉原 仁，江本直也，及川眞一，若林一二：橋本病に合併したACTH単独欠損症．第10回臨床内分泌代謝Update，2000．3．
- 100) 二俣 健，進士陽子，周東祐仁，小野瀬裕之，亀谷 純，江本直也，及川眞一，杉原 仁，若林一二：副腎癌の1例．第10回臨床内分泌代謝Update，2000．3．
- 101) 岡島史宣，周東祐仁，杉原 仁，亀谷 純，小野瀬裕之，田村秀樹，江本直也，岡田憲明<sup>1)</sup>，及川眞一，若林一二（<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院内科）：Addison病の1例．第10回臨床内分泌代謝Update，2000．3．
- (7) ラウンドテーブルディスカッション：
- 1) 岩切勝彦，杉浦敏昭，琴寄 誠，小林正文：逆流性食道炎の重症度と食道運動機能．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 2) 藤森俊二，岸田輝幸：血液疾患の大腸腺腫，癌合併頻度．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 3) 山門 進，竹内 司，永井俊彦：Portal Hypertensive Colopathy（PHC）．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院第 4内科 ]

#### 研究概要

内科学第四講座では呼吸器疾患を対象に平成11年度に以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究として、マクロライドやN-acetylcysteine等の薬剤による特発性間質性肺炎およびその急性増悪に対する有効性の検討、サルコイドーシス患者の気管支肺胞洗浄液中の細胞の解析、特発性間質性肺炎患者の血中内皮細胞障害マーカーの評価、高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における患者指導に関する研究、テレメディスンによる病診連携、睡眠時無呼吸症候群の血液凝固へ及ぼす影響、慢性閉塞性肺疾患患者と類瘦、成長ホルモンの検討、日常労作（入浴等）の慢性閉塞性肺疾患患者の肺機能に及ぼす影響、肺音および咳嗽の音響学解析、肺癌化学療法臨床研究 [ 非小細胞肺癌：weekly CDDP+CPT-11 (phase II), CDDP+CPT-11 vs CDDP+VDS (phase III), low dose CDDP+UFT (phase II), CDDP+taxotere+UFT (phase I, II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞癌：alternating chemotherapy ], 各種制吐剤の臨床試験等を行った。基礎研究としては、プレオマイシンにより誘発されるマウス肺臓炎に対するマクロライドの予防効果とその機序、糖尿病モデル動物を用いた実験的間質性肺炎の研究、培養内皮細胞に対するプレオマイシンの作用、新規薬剤の実験的間質性肺炎抑制効果の検討、DPBに関する遺伝子の解析、ヒト肺腺癌株(PC-9)由来多臓器高転移株を用いたIntegrinと転移臓器特異性に関する検討、Laminin-1 peptides (AC-Y16, AG-73)の腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、マクロライドの実験的肺転移抑制効果の機序、新規抗癌剤を用いた併用療法のマウスにおける基礎的検討、サルコイドーシスにおけるApoptosis抑制因子の関与、癌遺伝子治療の基礎的研究、細胞周期調節因子のクローニングとゲノム構造の決定、ヒト肺癌における癌抑制遺伝子候補の変異解析、癌発生母地としての肺線維症の分子生物学的研究等の研究を推進した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Chu SC<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Usuki J, Avila NA<sup>1)</sup>, Chen CC<sup>1)</sup>, Travis WD<sup>2)</sup>, Ferrans VJ<sup>1)</sup>, Moss J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NHLBI, NIH, <sup>2)</sup>AFIP ): Comprehensive evaluation of 35 patients with lymphangioleiomyomatosis. Chest 1999 ; 115 ( 4 ): 1041-1052 .
- 2) Emi M, Keicho N, Tokunaga K, Katsumata H, Souma S, Nakata K, Taguchi K, Ohishi N, Azuma A, Kudoh S : Association of diffuse panbronchiolitis with microsatellite polymorphism at the human interleukin 8 ( IL-8 ) locus . J Hum Genet 1999 ; 44 : 167-172 .
- 3) Kobayashi K, Bouscarel B<sup>1)</sup>, Matsuzaki Y, Ceryak S<sup>1)</sup>, Kudoh S, Fromm H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Gastroenterology and Nutrition, The George Washington University ): PH dependent uptake of irinotecan and its active metabolite, SN-38, by intestinal cells. . International J Cancer 1999 ; 83 : 491-496 .
- 4) Kobayashi K, Ishihara Y<sup>1)</sup>, Nukariya N, Niitani H, Furue H<sup>2)</sup> and Joint Research Group for Tropisetron Double-Blind Comparative Study ( <sup>1)</sup>Department of Hygiene & Public Health, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup>Teikyo University School of Medicine ): Effects of anti-emetic drug ( tropisetron ) on quality of life during chemotherapy : use of a diary-type questionnaire and application of summary measures for assessment in a randomized, multicentre study. Joint Research Group for Tropisetron Double-Blind Comparative Study. . Respirology 1999 ; 40 ( 3 ): 229-238 .



- 5) Ishihara Y , Sakai H , Nukariya N , Kobayashi K , Yoneda S , Matsuoka R , Hohjo T , Nishiwaki Y , Hoshi A , Kuratomi Y , Nagai A , Kagawa J , Kitamura S : A diary form quality of life questionnaire for Japanese patients with lung cancer and summarization techniques for longitudinal assessment. . *Respirology* 1999 ; 4 ( 1 ): 53-91 .
- 6) Keicho N , Emi M , Nakata K , Taguchi Y , Azuma A , Tokunaga K , Ohishi N , Kudoh S : Promoter variation of tumor necrosis factor-alpha gene : possible high risk for chronic bronchitis but not diffuse panbronchiolitis. . *Respir Med* 1999 ; 93 : 752-753 .
- 7) Hosoya Y , Gemma A , Seike M , Kurimoto F , Uematsu K , Hibino S , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Alteration of the PTEN/MMAC1 gene locus in primary lung cancer with distant metastasis . *Lung Cancer* 1999 ; 25 : 87-93 .
- 8) Kurihara M , Shimizu HH , Tsuboi K , Kobayashi K , Murakami M , Eguchi K , Shimotsuma K : Development of quality of life questionnaire in Japan : Quality of Life Assessment of Cancer Patients Receiving Chemotherapy . *Psycho-oncology* 1999 ; 8 : 355-363 .
- 9) Matsumoto Y<sup>1)</sup> , Horiba K<sup>1)</sup> , Usuki J , Chu SC<sup>1)</sup> , Ferrans VJ<sup>1)</sup> , Moss J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NHLBI, NIH ): Markers of cell proliferation and expression of melanosomal antigen in lymphangioleiomyomatosis . *Am J Respir Cell Mol Biol* 1999 ; 21 ( 3 ): 327-336 .
- 10) Balducci E<sup>1)</sup> , Horiba K<sup>1)</sup> , Usuki J , Park M<sup>1)</sup> , Ferrans VJ<sup>1)</sup> , Moss J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NHLBI, NIH ): Selective expression of RT6 superfamily in human bronchial epithelial cells . *Am J Respir Cell Mol Biol* 1999 ; 21 ( 3 ): 337-346 .
- 11) Hosomi Y , Ohe Y , Mito K<sup>1)</sup> , Uramoto H<sup>1)</sup> , Moriyama E<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Kodama K<sup>1)</sup> , Niho S<sup>1)</sup> , Goto K<sup>1)</sup> , Ohmatsu H<sup>1)</sup> , Matsumoto T<sup>1)</sup> , Hojo F<sup>1)</sup> , Kakinuma R<sup>1)</sup> , Nishiwaki U<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Thoracic Oncology, National Cancer Center East ): Phase I study of cisplatin and docetaxel plus mitomycin C in patients with metastatic non-small cell lung cancer . *Jpn J Clin Oncol* 1999 ; 29 ( 11 ): 546-549 .
- 12) Shimbara A , Christodoulouopoulos P<sup>1)</sup> , Soussi-Gounni A<sup>1)</sup> , Olivenstein R<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>1)</sup> , Levitt RC<sup>1)</sup> , Nicolaidis NC<sup>1)</sup> , Hamid QA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Meakins-Christie Laboratories, McGill University ): IL-9 and its receptor in allergic and non allergic lung disease: Increased expression in asthma . *J Allergy Clin Immunol* 2000 ; 105 ( 1 ): 108-115 .
- 13) Azuma A , Takahashi S , Nose M , Araki K , Araki M , Takahashi T , Hirose M , Kawashima H , Miyasaka M , Kudoh S : Role of E-selectin in Bleomycin -Induced Lung Fibrosis in Mice . *Thorax* 2000 ; 55 : 147-152 .
- 14) Keicho N , Ohashi J , Tamiya G , Nakata K , Taguchi Y , Azuma A , Ohishi N , Emi M , Park MH , Inoko H , Tokunaga K , Kudoh S : Fine Localization of a Major Disease-Susceptibility Locus for Diffuse Panbronchiolitis . *Am J Hum Genet* 2000 ; 66 : 501-507 .
- 15) Miyamoto H , Azuma A , Taniguchi H , Takahashi T , Kudoh S : A Case of Interstitial Pneumonia Complicated by Sjogren's Syndrome, Hashimoto Disease, Rheumatoid Arthritis and Primary Biliary Cirrhosis . *Jpn J Int Med* ( in press Sep. ) 2000 ; 00-00 .
- 16) Abe S , Takizawa H<sup>1)</sup> , Sugawara I<sup>2)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Department of Laboratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine , <sup>2)</sup>Department of Molecular Pathology, The Research Institute of Tuberculosis, Tokyo, Japan ): Diesel Exhaust ( DE ) -Induced Cytokine Expression in Human Bronchial Epithelial Cells. A Study with a New Cell Exposure System to Freshly Generated DE In Vitro . *Am J Respir Cell Mol Biol* 2000 ; 22 ( 3 ): 296-303 .
- 17) 安藤真弘 , 清家正博 , 吉村明修 , 弦間昭彦 , 渋谷昌彦 , 工藤翔二 , 渡 潤<sup>1)</sup> , 田島廣之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学 ): 末梢型小型肺腺癌のCT 画像所見と確定診断に至る経緯の検討 . *気管支学* 1999 ; 21 ( 6 ): 381-386 .

- 18) 榎本達治, 川並汪一<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 中田紘一郎<sup>3)</sup>, 永井英明<sup>4)</sup>, 倉島篤行<sup>4)</sup>, 蛇澤 晶<sup>4)</sup>, 杉田博宣<sup>5)</sup>, 河端美則<sup>6)</sup>, 岩井和郎<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>第2病院放射線科, <sup>3)</sup>虎ノ門病院呼吸器科, <sup>4)</sup>国立療養所東京病院呼吸器科, 検査科, <sup>5)</sup>結核予防会複十字病院呼吸器内科, <sup>6)</sup>埼玉県立循環器・呼吸器病センター検査科, <sup>7)</sup>結核予防会結核研究所病理部): ランゲルハンス細胞性肉芽腫症の気管支肺胞洗浄中に出現する特異な組織球. 呼吸 1999; 18(5): 528-536.
- 19) 都築 閱, 榎本達治, 吉岡央子, 逸見しのぶ, 日比野俊, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 福田 悠, 工藤翔二: 血管炎発症2年前に肺好酸球増多所見を認め, 肺内リンパ節を伴った, Churg-Strauss症候群の1例. 日呼吸会誌 1999; 37(10): 817-822.
- 20) 竹中 圭<sup>1)</sup>, 吉村明修, 岡野哲也<sup>1)</sup>, 清家正博, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 植松和嗣, 渡辺秀一<sup>1)</sup>, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦, 工藤翔二(<sup>1)</sup>慈山会医学研究所付属坪井病院内科): 特発性間質性肺炎(IIP)合併肺癌における肺癌治療に伴うIIP急性増悪の検討. 肺癌 1999; 39(7): 955-962.
- 21) 村田 朗: 現在の診療体系下の在宅酸素療法: 在宅人工呼吸療法患者の問題点. Jpn J Cancer Chemotherapy 1999; 26(Supplement II): 207-212.
- 22) 倉根修二: 厚生省モデル事業としての一般病棟内結核病室開設1年を振り返って. 結核 2000; 75(2): 119-124.
- 23) 都築 閱, 榎本達治, 吉岡央子, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 日比野俊, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 福田 悠<sup>1)</sup>, 工藤翔二(<sup>1)</sup>病理第1): 血管炎発症2年前に肺好酸球増多所見を認め, 肺内リンパ節を伴った, Churg-Strauss症候群の1例. 日呼吸会誌 1999; 37(10): 817-822.
- (2) 研究報告書:
- 1) 高崎雄司, 村田 朗, 中広一善, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 菅野トシエ<sup>1)</sup>, 小森和子<sup>1)</sup>, 竹内美恵子<sup>1)</sup>, 後藤 元<sup>2)</sup>, 岡村 樹<sup>2)</sup>, 小野田一枝<sup>3)</sup>, 合澤亜矢子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>都立駒込病院呼吸器科, <sup>3)</sup>都立駒込病院看護部): 地域の医師会及び開業医との連携による, 高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患の包括ケアに関する研究. 大気汚染による環境影響に関する総合的研究, 第10回研究懇話会発表要旨集 公健協会 1999; pp56-60.
- 2) 高崎雄司: 高齢者における睡眠呼吸障害. 高齢者閉塞性肺疾患における総合ケアのあり方に関する研究. 平成10年度厚生科学研究補助金(長寿科学総合研究事業)研究報告書 1999; pp126-128.
- 3) 工藤翔二, 吉村明修, 植松和嗣, 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌発生母地としての特発性間質性肺炎の遺伝子不安定性の解析. 喫煙科学研究財団研究年報 1999; pp502-507.
- (3) 総説:
- 1) Kobayashi K: Irinotecan in combination with weekly administration of cisplatin for non-small-cell lung cancer 3(5) 7-9 1999. Cancer Conference Highlights 1999; 3(5): 7-9.
- 2) 村田 朗: 肺線維症の聴診の特徴. THE LUNG perspective 1999; 7(2): 214-215.
- 3) 工藤翔二, 倉根修二: 効果的に結核を治療する. MEDICAL DIGEST 1999; 48(4): 22-28.
- 4) 村田 朗, 工藤翔二: 救急に必要な薬物療法 気管支拡張薬. 臨床医 1999; 25(増刊号): 744-748.
- 5) 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二: 肺癌に対する在宅酸素療法. 肺癌の臨床 1999; 2(2): 221-226.
- 6) 村田 朗: 在宅酸素療法の現状と展望. 新医療 1999; 5(293): 128-131.
- 7) 伊藤永喜, 吾妻安良太: 慢性呼吸不全の診療: 気管支肺胞洗浄法. 総合臨床 1999; 48: 874-878.
- 8) 吾妻安良太, 工藤翔二: 話題の疾患: DPB. 感染・炎症・免疫 1999; 292: 50-52.
- 9) 榎本達治, 吾妻安良太, 工藤翔二: 特集: 常用薬の副作用 マクロライド系抗生物質. 総合臨床 1999; 48(6): 1460-1464.
- 10) 吾妻安良太: 「間質性肺傷害: 最近の話題」間質性肺炎の診断法. BIOClinica 1999; 149: 34-40.
- 11) 村田 朗: 在宅酸素療法とNIPPVの適応と実際. CURRENT THERAPY 1999; 17(8): 94-99.

- 12) 小林国彦：二つの国際共同研究．日医大誌 1999；66(2)：148-149．
- 13) 吾妻安良太，工藤翔二：特集：慢性閉塞性肺疾患，V-6 DPB．日本臨床 1999；579：193-197．
- 14) 小林国彦：国内におけるQOL調査票の開発，妥当性検証．癌と化学療法 1999；26(2)：189-195．
- 15) 橋元恭士，村田 朗，工藤翔二：去痰薬をめぐる最近の話題(4)．Pharma Medica 1999；17(10)：115-120．
- 16) 村田 朗：特集 わが国における在宅医療(ハイテク医療を中心に)在宅酸素療法．CURRENT THERAPY 1999；17(10)：1665-1672．
- 17) 白杵二郎，吾妻安良太：非感染性慢性呼吸器疾患の管理 細気管支閉塞性肺疾患の病態と治療 びまん性汎細気管支炎，BOOP．Medical Practice 1999；16(10)：1645-1650．
- 18) 白杵二郎，吾妻安良太：非感染性呼吸器疾患の管理；治療2：細気管支閉塞性肺疾患の病態と治療：DPB，BOOP．Medical Practice 1999；16：1645-1650．
- 19) 宮本晴子，吾妻安良太，工藤翔二：閉塞性肺疾患，気道疾患 呼吸困難にどう対応するか，びまん性汎細気管支炎．内科 1999；84(5)：854-857．
- 20) 小林国彦：悪性腫瘍とQOL．腎と透析 1999；46(3)：345-350．
- 21) 高崎雄司，金子泰之，伊藤永喜，村田 朗：原発性肺低換気症候群．メヂチーナ 1999；36(6)：968-970．
- 22) 弦間昭彦：遺伝子異常と予後：最近の知見．MEDICO 1999；30：1-5．
- 23) 吾妻安良太，工藤翔二：特集：成人病の展望，呼吸器領域における病気の変遷と未来：びまん性肺疾患．臨床成人病 2000；301：73-82．
- 24) 村田 朗，工藤翔二：COPD患者の呼吸管理．PROGRESS IN MEDICINE 2000；20(4)：823-826．
- 25) 工藤翔二，竹中 圭：肺癌治療～最近の動向．実践・癌化学療法別副作用対策 2000；32-33．

## 著 書

- 1) 吉村明修，工藤翔二，石岡伸一<sup>1)</sup>，山木戸道郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>広島大学医学部第2内科)：〔分担〕特発性間質性肺炎 抗がん剤による肺傷害と特発性間質性肺炎の急性増悪．厚生省特定疾患 呼吸器系疾患分科会 平成10年度研究報告書(工藤翔二)，1999；pp61-64，(株)太陽社．
- 2) 渋谷昌彦：〔分担〕癌とマクロライド：癌転移，特に接着・浸潤機構との関わり．炎症・免疫とマクロライド．UP-TO-DATE シリーズ2(清水喜八郎，大村 智監修 工藤翔二編集)，1999；pp173-180，医薬ジャーナル社．
- 3) 渋谷昌彦：〔分担〕新GCPと臨床試験：新効果判定基準．第37回日本癌治療学会総会・臨床腫瘍医のための教育セミナー集(第37回日本癌治療学会総事務局)，1999；pp105-107，第37回日本癌治療学会総事務局．
- 4) 渋谷昌彦：〔分担〕非小細胞性肺癌の化学療法．呼吸器疾患-専門医にきく最新の臨床-(工藤翔二，永井厚志)，1999；pp240-242，中外医学社．
- 5) 宮本晴子，吾妻安良太，工藤翔二：〔分担〕5．呼吸器疾患，びまん性汎細気管支炎．今日の処方(改訂第3版)，1999；南江堂．
- 6) 榎本達治，吾妻安良太，工藤翔二：〔分担〕31．間質性肺炎・肺線維症(データ・ブック)．臨床看護(5月臨時増刊号)，1999；p256，へるす出版．
- 7) 工藤翔二，吉村明修：〔分担〕〔内視鏡手術と内科医〕自然気胸 内科の立場から．診断と治療 Vol. 87, No. 7, 1999；pp1207-1209，診断と治療社．
- 8) 細見幸生，佐々木康綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター東病院 化学療法科)：〔分担〕抗癌剤の薬物動態．KEY WORD 1999-2000 呼吸器疾患(山木戸道郎，日和田邦男，小倉 剛)，1999；pp76-77，先端医学社．
- 9) 吉村明修，工藤翔二，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，矢野 侃<sup>2)</sup>，松本満臣<sup>3)</sup>，宮本忠昭<sup>4)</sup>，松本 徹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>(財)荒川区がん予防センター，<sup>3)</sup>東京都立保健科学大学，<sup>4)</sup>放射線医学総合研究所)：〔分担〕III．課題研究結果 2．荒川区がん予防センターにおけるらせんCTによる肺癌1次検診の成績．らせんCTによる集

団肺癌検診システム開発・評価に関する研究報告書((財)荒川区がん予防センター,放射線医学総合研究所,日本医科大学),1999;pp45-52.

- 10) 村田 朗,工藤翔二:〔分担〕慢性呼吸不全の急性増悪.救急医学 臨時増刊号(vol 23, no. 10) 急性疾患とエマージェンシー(森田 大),1999;pp1309-1313,へるす出版.
- 11) 吾妻安良太,工藤翔二:〔分担〕1症候:23.咳・痰・血痰・喀血.CLIENT 21(臨床耳鼻咽喉科・頭頸部外科)(野村恭也,小松崎篤,本庄 巖),1999;pp155-161,中山書店.
- 12) 吉村明修:〔分担〕D.間質性肺炎 5.薬剤性肺傷害の診断と治療.呼吸器疾患 専門医にきく最新の臨床(工藤翔二,永井厚志),2000;pp172-174,中外医学社.
- 13) 吉村明修:〔分担〕D.間質性肺炎 6.放射線肺炎の診断と治療.呼吸器疾患 専門医にきく最新の治療(工藤翔二,永井厚志),2000;pp175-175,中外医学社.
- 14) 吉村明修:〔分担〕E.アレルギー性肺疾患 6.薬物によるアレルギー性肺疾患の診断と治療.呼吸器疾患 専門医にきく最新の臨床(工藤翔二,永井厚志),2000;pp188-189,中外医学社.
- 15) 細見幸生,大松広伸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター東病院 呼吸器科):〔分担〕孤立性病変.胸部疾患におけるヘリカルCT 検査と読影(森 清志),2000;pp45-63,真興交易 医学出版部.
- 16) 渋谷昌彦:〔分担〕肺癌の診断と病期.呼吸器疾患-専門医にきく最新の臨床-(工藤翔二,永井厚志),2000;pp234-236,中外医学社.
- 17) 村田 朗,工藤翔二:〔分担〕異常呼吸.臨床看護5 臨時増刊号(vol 26, no. 5)(板橋 繁),2000;pp927-931,へるす出版.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演:

- 1) 渋谷昌彦:新GCPと臨床試験:新効果判定基準.第37回日本癌治療学会総会,1999.10.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 倉根修二:厚生省モデル事業としての一般病棟内結核病室開設1年を振り返って.第74回日本結核病学会総会,1999.4.
- 2) 村田 朗:東京都に於ける在宅呼吸ケアの現状.第7回東京在宅呼吸ケア研究会,2000.3.

##### (3) セミナー:

- 1) 村田 朗:包括的呼吸リハビリテーション.呼吸療法士認定更新のための講習会,2000.2.
- 2) 工藤翔二,村田 朗:目でみる肺聴診 肺音を画像解析で診断する.第40回日本呼吸学会総会総会,2000.3.

##### (4) ワークショップ:

- 1) 弦間昭彦,植松和嗣,清家正博,栗本太嗣,細谷曜子,吉村明修,渋谷昌彦,工藤翔二,竹之下誠一<sup>1)</sup>,萩原弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学第二外科,<sup>2)</sup>東北大学加齢研):原発性肺癌におけるTGF-b1耐性のメカニズムと治療標的について.第37回日本癌治療学会総会,1999.10.

##### (5) 一般講演:

- 1) Seike M, Gemma A, Hosoya Y, Kurimoto F, Uematsu K, Hibino S, Yoshimura A, Shibuya M, Kudou S: Alteration of the PTEN/MMAC1 gene locus in primary lung cancer with distant metastasis. 1999 American Thoracic Society International Conference (San Diego, California, USA), 1999.4.
- 2) Miyamoto H, Enomoto T, Usuki J, Takahashi T, Azuma A, Kudoh S: Serum Thrombomodulin and Coagulation-Fibrinogenolysis Markers in Patients with Interstitial Pneumonia. ALA/ATS International Conference (San Diego), 1999.4.
- 3) Gemma A, Hosoya Y, Uematsu K, Seike M, Kurimoto F, Yoshimura A, Hagiwara K<sup>1)</sup>, Bennett W. P<sup>2)</sup>,

- Harris C. C<sup>2)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Tohoku Univ. , <sup>2)</sup>National Cancer Institute ): The genomic structure of the gene encoding M6P/IGF2R and mutation analysis in human cell lines resistant to growth inhibition by TGF $\beta$ 1 . 90th annual meeting of American Association for Cancer Research ( Philadelphia, PA, USA ), 1999 . 4 .
- 4) Yoshimura A , Furuse K<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>2)</sup>, Kudoh S , Niitani H<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>National Kinki Central Hospital for Chest Disease , <sup>2)</sup>Tsuboi Memorial Cancer Research Institute , <sup>3)</sup>The Tokyo Cooperative Oncology Group ): Phase I Trial of Intravenous FK317 in Patients with Refractory Solid Tumors . 35th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology ( Atlanta, GA, USA ), 1999 . 5 .
- 5) Kobayashi K , Takeda Y , Akiyama Y , Soma T , Handa T , Kudo K , Kudoh S : Reduced irinotecan-induced side-effects by the oral alkalinization . . 35th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology ( ASCO ), 1999 . 7 .
- 6) Yoshimori K , Kobayashi K , Kaneko H , Mizutani S , Takeda Y , Kudo K , Morikawa T , Takeuchi K , Takenaka K , Hasegawa K , Yoneda S , Sakai H , Sakai M , Iizuka K , Hisakatsu S , Ono Y , Hino M , Hayashihara K , Ando M , Yoshimura M , Kudoh S : Cross-cultural validation of an international questionnaire, the Functional Assessment of Cancer Therapy Scale-General ( FACT-G ) , for Japanese . . 35th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology ( ASCO ), 1999 . 7 .
- 7) Uemura S , Ohashi Y , Kobayashi K : Structure and construct validity of Japanese QLQ-C30 by structural equation modeling . . the 6th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research , 1999 . 9 .
- 8) Yoshimura A , Andoh M , Shibuya M , Kudoh S , Tajima H<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup>, Yano T<sup>2)</sup>, Matsumoto M<sup>3)</sup>, Miyamoto T<sup>4)</sup>, Matsumoto T<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Arakawa City Cancer Prevention Center , <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan University of Health Sciences , <sup>4)</sup>National Inst. Radiol. Sciences ): A pilot study of lung cancer screening with low-dose spiral CT . 1999 Annual Congress European Respiratory Society ( Madrid, Spain ), 1999 . 10 .
- 9) Murata A , Nakahiro K , Kaneko Y , Itoh E , Kudoh S , Takasaki Y : Does the present medical care system satisfy patients with home oxygen therapy ( HOT ) in Japan? : An answer from a questionnaire analysis . 1999 Annual Congress European Respiratory Society ( Madrid, Spain ), 1999 . 10 .
- 10) Hashimoto Y , Murata A , Soma T , Hino M , Takasaki Y , Kudoh S : Change of Respiratory Sounds in Patients with Acute Attacks of Bronchial Asthma Treated with Non Invasive Positive Pressure Ventilation . 24th International Lung Sounds Conference ( Marburg, GERMANY ), 1999 . 10 .
- 11) Choh S<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Tomoda K<sup>1)</sup>, Komeda H<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Shibuya A<sup>2)</sup>, Tanahashi H<sup>2)</sup>, Kudoh S , Murata A , Narita N<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>Pulmonary Division, Department of Medicine, Saiseikai Suita Hospital , <sup>2)</sup>Graduate School of Human Life Science, Japan Women University , <sup>3)</sup>the 2nd Department of Medicine, Nara Medical University ): Analysis of Acoustic Feature of the Tracheal Sounds in Patients with Bronchial Stenosis Effect of the Height of a Pillow . 24th International Lung Sounds Conference ( Marburg, GERMANY ), 1999 . 10 .
- 12) Azuma A , Kamio K , Keicho N , Watanabe K , Aoyama A , Kudoh S : FAMILIAL LUSTERING OF DIFFUSE PANBRONCHIOLITIS IN A JAPANESE WARRIOR LEFT IN CHINA . WASOG ( Kumamoto ) ( 熊本 ), 1999 . 11 .
- 13) Abe S , Sugawara I , Yamada H , Ohtomo K , Aoki T , Mizuno S , Udagawa T , Iwai K , Takahashi T , Azuma A , Kudoh S : Experimental Granuloma Induced by Inhalation Exposure of Propionibacterium acnes . WASOG ( Kumamoto ), 1999 . 11 .

- 14) Ichino K, Takahashi T, Azuma A, Abe S, Miyamoto H, Enomoto T, Usuki J, Yamaguchi K, Kawanami O, Ohara K and Kudoh S : Significance of Lymphocytosis in Broncho-Alveolar Lavage in Patients Who were Suspected Sarcoidosis by Ocular Involvement . WASOG (( Kumamoto )), 1999 . 11 .
- 15) Takahashi T, A Azuma A, YJ Li YJ, S Abe S, Miyamoto H, Enomoto T, Usuki J, Akita K, Ohara K, Kudoh S : Case Report : Sino-Bronchial Syndrome ( SBS ) with sarcoidosis . WASOG (( Kumamoto )), 1999 . 11 .
- 16) Enomoto T, Usuki J, Azuma A, Miyamoto H, Takahashi T, Kudoh S : The influence of hyperglycemia to the severity of bleomycin induced lung fibrosis . WASOG (( Kumamoto )), 1999 . 11 .
- 17) Tsuduki E, Enomoto T, Azuma A, Henmi S, Yoshimura A, Y Takasaki Y, Kudoh S : A case of churg-Strauss syndrome with pulmonary eosinophilia and intrapulmonary lymphnodes two years before the onset of vasculitis . WASOG (( Kumamoto )), 1999 . 11 .
- 18) 齊藤 均<sup>1)</sup>, 久勝章司<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 弦間和仁<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 博慈会記念総合病院 第一内科, <sup>2)</sup> 同 放射線科): エタノール注入とEMS挿入が奏功した肺癌の1例 . 日本気管支学会関東支部会, 1999 . 7 .
- 19) 鈴木淳子, 清家正博, 弦間昭彦, 堀江秀治, 榎本達治, 植松和嗣, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 病理第1): 好酸球浸潤を伴う壊死性気道病変を認めた慢性好酸球性肺炎の1例 . 第90回日本気管支学会関東支部会, 1999 . 9 .
- 20) 清家正博, 弦間昭彦, 栗本太嗣, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌の転移過程, p53変異とp16の不活性化 . 第67回日本医科大学医学部総会, 1999 . 9 .
- 21) 宮本晴子, 松本亜紀, 吾妻安良太, 臼杵二郎, 榎本達治, 高橋卓夫, 栗本太嗣, 堀江秀治, 工藤翔二, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第1病理 ): 繰り返す気胸を契機に発見された家族性肺骨化症の1例 . 第136回日本呼吸器学会 関東地方会, 1999 . 9 .
- 22) 宮本晴子<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1,2)</sup>, 菅原 勇<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第四, <sup>2)</sup> 結核予防会結核研究所 ): プレオマイシン低濃度暴露によるヒト臍帯静脈血管内皮細胞のサイトカイン発現について . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
- 23) 弦間昭彦, 植松和嗣, 萩原弘一<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>2)</sup>, Harris CC<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 東北大学加齢研, <sup>2)</sup> 群馬大学第二外科, <sup>3)</sup> National Cancer Institute ): 原発性肺癌における TGF- $\beta$ 1 耐性のメカニズムと治療標的について . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
- 24) 清家正博, 弦間昭彦, 谷口泰之, 栗本太嗣, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌の転移過程, p53変異とp16の不活性化 . 第40回日本肺癌学会総会, 1999 . 10 .
- 25) 清家正博, 弦間昭彦, 植松和嗣, 日比野俊, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌の転移過程とp53変異における p16 hypermethylation . 第57回日本癌学会総会, 1999 . 10 .
- 26) 武村 明, 吉村明修, 安藤真弘, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 宮本忠昭<sup>4)</sup>, 松本 徹 ( 1 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup> 東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup> 放射線医学総合研究所 ): らせんCTによる肺癌1次検診: 2年間のフォローアップ成績 . 第40回日本肺癌学会総会, 1999 . 10 .
- 27) 安藤真弘<sup>1)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 日比野 俊, 吉村明修, 弦間昭彦, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慈山会医学研究所 坪井病院, <sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター ): 腸管内アルカリ化による下痢対策を施したイリノテカン ( CPT-11 ) とシスプラチン ( CDDP ) の分割投与法の検討 . 日本肺癌学会総会, 1999 . 10 .
- 28) 小林国彦, 他: CPT-11 とその活性化体 SN-38 の腸上皮吸収を変化させる因子: pH とミセル . 日本癌学会58回総会, 1999 . 10 .
- 29) 村田 朗, 工藤翔二, 渋谷惇夫<sup>1)</sup>, 村竹虎和<sup>2)</sup>, 中島慎男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本女子大学家政学科, <sup>2)</sup> ケンツ・メディコ株

- 式会社): 新しいLUNG SOUNDS ANALYZER. 第24回肺音(呼吸音)研究会, 1999. 11.
- 30) 武村 明, 清家正博, 栗本太嗣, 植松和嗣, 竹中 圭, 日比野俊, 弦間昭彦, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 非小細胞肺癌に対する新規抗癌剤の効果について. 第99回日本医科大学医学会例会, 1999. 11.
- 31) 弦間昭彦, 清家曜子, 栗本太嗣, 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 原発性肺癌における mitotic checkpoint 遺伝子, hBUB1 遺伝子の変異. 第40回日本肺癌学会総会, 1999. 11.
- 32) 慶長直人<sup>1)</sup>, 大橋 順<sup>2)</sup>, 田宮 元<sup>3)</sup>, 吾妻安良太, 大石展也<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>4)</sup>, 猪子英俊<sup>2)</sup>, 山本一彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 徳永勝士<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東大・医・内, <sup>2)</sup>東大・医・人類遺伝, <sup>3)</sup>東海大・分子生命科学, <sup>4)</sup>日医大・老研): びまん性汎細気管支炎に想定される MHC 関連疾患感受性遺伝子の候補領域の推定. 第29回日本免疫学会, 1999. 12.
- 33) 楯戸律子, 宮本晴子, 日比野 俊, 白杵二郎, 高橋卓夫, 榎本達治, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 寺崎泰弘<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 石原得博<sup>2)</sup>, 星井嘉信<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1, <sup>2)</sup>山口大学第1病棟): 気管, 気管支アミロイドーシスの一例. 第91回 日本気管支学会関東地方会, 1999. 12.
- 34) 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 高崎雄司: 睡眠時無呼吸症候群治療の新しい客観的評価の検討. 第24回睡眠呼吸障害研究会, 2000. 2.
- 35) 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 中広一善, 高崎雄司: 睡眠時無呼吸症候群の客観的評価の検討. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 36) 武村 明, 吉村明修, 安藤真弘, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 田島廣之, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 宮本忠昭<sup>4)</sup>, 松本 徹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup>東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所): らせんCTによる肺癌1次検診: 2年間のフォローアップ成績. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 37) 竹中 圭, 弦間昭彦, 植松和嗣, 日比野 俊, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 吉森浩三<sup>1)</sup>, 奥村昌夫<sup>1)</sup>, 水谷清二<sup>1)</sup>, 杉田博宣<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>結核予防会複十字病院呼吸器科): 非小細胞肺癌に対する Cisplatin (CDDP) + Docetaxel (TXT) + UFT 併用療法の第一相試験. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 38) 斉藤 均<sup>1)</sup>, 久勝章司<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 篠田欣也<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 高橋卓夫, 高野照夫<sup>2)</sup>, 緒方憲一<sup>2)</sup>, 福島正人<sup>2)</sup>, 上田洋一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院 第一内科, <sup>2)</sup>内科第一): 左右対称性に気管支出血を認めたプロテイン S 欠損症の1例. 日本気管支学会関東支部会, 2000. 3.
- 39) 神尾孝一郎, 吾妻安良太, 慶長直人, 渡邊和子, 徳永勝士, 青山昭徳, 長谷川浩一, 工藤翔二, 神尾孝一郎, 吾妻安良太, 慶長直人, 渡邊和子, 徳永勝士, 青山昭徳, 長谷川浩一, 工藤翔二: 中国残留孤児の一家系におけるびまん性汎細気管支炎の家族 集積例: 疾患感受性遺伝子の検討. 第40回日本呼吸器学会(広島), 2000. 3.
- 40) 榎本達治, 白杵二郎, 吾妻安良太, 青山昭徳, 工藤翔二: プレオマイシン肺傷害における Advanced glycation end products の関与. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 41) 宮本晴子, 阿部信二<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 松田久仁子, 白杵二郎, 高橋卓夫, 榎本達治, 青山昭徳, 吾妻安良太, 工藤翔二(<sup>1)</sup>結核予防会結核研究所): プレオマイシンの低濃度暴露によるヒト臍帯静脈血管内皮細胞のサイトカイン発現について. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.

## 5. 精神医学講座

[ 付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科 ]

### 研究概要

教室の研究は、精神生理学、コンサルテーション・リエゾン精神医学をはじめ、精神内分泌学、力動精神医学など多岐に亘る。精神生理学の分野では、従来の気分障害に対する脳波分析、事象関連電位、フラクタル解析のほか今年度は体感症の脳画像解析が進み、視床を中心としたSPECT高集積を見いだしている。また、脳波分析、事象関連電位、フラクタル解析などによる香りの精神的疲労や脳機能に対する研究が厚生省科学研究費補助金による研究事業の一環として行われた。時間生物学的研究では、従来の気分障害や抗うつ薬のほかアルツハイマー型老年痴呆についてリズム異常、認知機能、深部体温、メラトニンさらに高照度光療法の効果などが研究された。アイオワ大学との共同研究では、poststroke depression について認知機能との関連、性機能障害との関連が研究された。精神内分泌学では、うつ病のデキサメサゾン-CRH 負荷試験および健康人を用いた基礎的研究が始まった。コンサルテーション・リエゾンの領域では、総合病院における精神科をめぐる諸問題が活発に研究されたほか、虚血性心疾患、癌患者の希死念慮、高齢者のICU 治療、術後精神障害など様々なテーマについての研究が行われた。力動精神医学の分野では、ミュンヒハウゼン症候群、解離性障害について症例を通しての研究、二次性自己愛と抑うつ、暗示と催眠・精神療法などが行われた。催眠現象の脳生理学的研究では、主に脳波のフラクタル次元解析が行われた。さらに、催眠療法や行動療法の分野で臨床的研究がすすめられるようになった。犯罪精神医学の領域では、非行少年と双極性障害の関連がまとめられた。その他、皮膚寄生虫妄想、セネストパチー、拡大自殺、ナルコレプシーなどの症例研究が行われている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yamadera H, Suzuki H, Nakamura S, Endo S: Effect of trazodone on polysomnography, blood concentration and core body temperature in healthy volunteers. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1999; 53: 189-191.
- 2) Sakamoto A<sup>1)</sup>, Hoshino T<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Kimura M<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry ): Repeated propofol anesthesia for a patient with a history of neuroleptic malignant syndrome. *J Nippon Med Sch* 1999; 66 ( 4 ): 262-265.
- 3) Hosaka T<sup>1)</sup>, Aoki T<sup>1)</sup>, Watanabe T<sup>1)</sup>, Okuyama T<sup>1)</sup>, Kurosawa H ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部精神医学教室 ): Comorbidity of depression among physically ill patients and its effect on the length of hospital stay. *Psychiatry and clinical neuroscience*. 1999; 53: 491-495.
- 4) Robinson RG<sup>1)</sup>, Murata Y, Shimoda K ( <sup>1)</sup> University of Iowa ): Dimensions of social impairment and their effect on depression and recovery following stroke. *Int Psychogeriatr* 1999; 11 ( 4 ): 375-384.
- 5) James J. S<sup>1)</sup>, Ricardo Campos-R<sup>2)</sup>, Serafim C<sup>3)</sup>, Albert D<sup>4)</sup>, Ulric F. M<sup>5)</sup>, Graeme S<sup>6)</sup>, Richard M<sup>7)</sup>, John L<sup>8)</sup>, Kurosawa H, Luis G<sup>9)</sup>, Ruiz F<sup>9)</sup>, Angela Caltagna-R<sup>10)</sup>, Paulo Z<sup>11)</sup>, Jay. J. S<sup>12)</sup> ( <sup>1)</sup> Mount Sinai-NYU Medical Center, <sup>2)</sup> Hospital Clinico Universitario de Zaragoza, <sup>3)</sup> The Portuguese C/L and Psychosomatic Group, <sup>4)</sup> The German Psychiatric Association, <sup>5)</sup> University of Oslo, <sup>6)</sup> Monash Medical Center, <sup>7)</sup> Oxford School of Medicine, <sup>8)</sup> Northwestern University, <sup>9)</sup> National Medical Center, <sup>10)</sup> Mount Sinai-NYU Medical Center, <sup>11)</sup> Hospital Sao Lucas, <sup>12)</sup> Beth Israel Deaconess Medical Center ): Further Evolution of a



Literature Daterbase ; The International Use of a Common Software Structure and Methodology for the Establishment of National Consultation/Liaison . General Hospital Psychiatry 1999 ; 21 : 402-407 .

- 6) Sakamoto A<sup>1)</sup>, Hoshino T<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Kimura M<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology , <sup>2)</sup>Department of Neuropsychiatry ): Effects of propofol anesthesia on cognitive recovery of patients undergoing electroconvulsive therapy . Pshchiatry and Clinical Neurosciences 1999 ; 53 : 655-660 .
- 7) Takaishi N : The Effect of Hypnosis Through Comparative Study on Convert Sensitization with and without Hypnosis . hypnosis 2000 ; 27 ( 1 ) : 36-42 .
- 8) 高石 昇 : 解離性健忘の治療経験 : 催眠と記憶回復 , とくに司法催眠の議論をめぐって . 催眠学研究 1999 ; 44 ( 1 ) : 27-35 .
- 9) 野村俊明, 奥村雄介<sup>1)</sup>, 青島多津子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>関東医療少年院) : 躁状態で非行を重ねた少女の一例 : 双極性気分障害と少年非行の関連について . 犯罪学雑誌 1999 ; 65 ( 2 ) : 61-65 .
- 10) 遠藤幸彦 : 二次的自己愛の障害と抑うつ . 精神分析研究 1999 ; 43 : 161-171 .
- 11) 鈴木英朗, 山寺博史, 中村秀一, 遠藤俊吉 : 塩酸トラゾドンによる終夜睡眠脳波の変化とトラゾドン血中濃度 , 直腸温との関連について . 日本薬物脳波学会雑誌 1999 ; 1 ( 1 ) : 26-28 .
- 12) 遠藤幸彦, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 精神分析的精神療法と暗示 : フロイトの「催眠・暗示の再評価」 . 精神科治療学 1999 ; 14 ( 7 ) : 777-785 .
- 13) 遠藤幸彦 : 薬物依存症の1例における精神療法 . 精神科治療学 1999 ; 14 ( 7 ) : 767-773 .
- 14) 伊藤敬雄, 山寺博史, 伊藤理津子, 遠藤俊吉 : アルツハイマー型痴呆患者の認知機能障害に対する高照度光療法の影響 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 4 ) : 229-238 .
- 15) 西松能子 : ミュンヒハウゼン症候群 : 背景に存在する人格障害 , 診断と対処 . 精神科治療学 1999 ; 14 ( 8 ) : 867-874 .
- 16) 竹澤健司, 森 隆夫, 木村真人, 鬼頭 諭, 鈴木博子, 下田健吾, 河野貴美子<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>情報科学センター) : ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究 . 催眠と科学 1999 ; 14 ( 1 ) : 55-59 .
- 17) 遠藤幸彦, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 催眠・暗示・精神療法 . 催眠と科学 1999 ; 14 ( 1 ) : 60-66 .
- 18) 山寺博史, 中村秀一, 鈴木英朗, 遠藤俊吉 : Trazodoneの終夜睡眠脳波に及ぼす影響と抗うつ薬としての作用機序と睡眠に対する効果 : imipramineと比較して . Progress in Medicine 1999 ; 19 ( 11 ) : 2540-2544 .
- 19) 岸 泰宏, 黒澤 尚, 小泉幸子, 田川一郎, 吉川栄省, 井上かんな : 無床総合病院精神科での精神科入院治療 : 一般病床での精神科入院治療 : Cluster bedsでの試み . 総合病院精神医学 1999 ; 11 : 123-130 .
- 20) 三浦貞則<sup>1)</sup>, 山下 格<sup>2)</sup>, 浅井昌弘<sup>3)</sup>, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>北里大学, <sup>2)</sup>北海道大学, <sup>3)</sup>慶応大学) : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬塩酸パロキセチンのうつ病およびうつ状態に対する臨床評価 : 塩酸イミプラミンを対照とした用量設定試験 . 薬理と治療 2000 ; 28 : 137-160 .
- 21) 三浦貞則<sup>1)</sup>, 小山 司<sup>2)</sup>, 浅井昌弘<sup>3)</sup>, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>北里大学, <sup>2)</sup>北海道大学, <sup>3)</sup>慶応大学) : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬塩酸パロキセチンのうつ病およびうつ状態に対する臨床評価 : 塩酸アミトリプチリンを対照とした二重盲検群間比較試験 . 薬理と治療 2000 ; 28 : 187-210 .
- 22) 野村俊明, 奥村雄介<sup>1)</sup>, 西松能子, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>関東医療少年院) : 双極性障害と少年非行の関係についての研究 . 犯罪学雑誌 2000 ; 66 ( 1 ) : 21-29 .
- 23) 木村真人, 南 史朗<sup>1)</sup>, 森 隆夫, 鈴木博子, 鈴木英朗, 下田健吾, 小宅理佳子, 木村美保, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>老人病研究所) : うつ病患者におけるデキサメタゾン-CRH負荷試験の検討 . ACTH RELATED PEPTIDES 10 2000 ; 10 : 89-95 .
- 24) 黄 珉淑, 西松能子, 佐藤忠宏, 遠藤俊吉 : 結婚を契機に事例化した解離性同一性障害の3症例 . 日社精医学会誌 2000 ; 8 ( 3 ) : 183-193 .
- 25) 高石 昇 : 素人催眠療法に続発した有害事象の治療経験 . 臨床催眠学 2000 ; 1 ( 1 ) : 17-24 .

26) 鈴木博子, 木村真人, 森 隆夫, 黒澤 尚: 日本医科大学付属病院における精神科救急の現状: 時間外診療と他科依頼を通して. 精神科救急 2000; 3: 48-57.

(2) 研究報告書:

1) 兼子 直<sup>1)</sup>, 村中秀樹<sup>2)</sup>, 丹羽真一<sup>3)</sup>, 菅るみ子<sup>4)</sup>, 小野常夫<sup>5)</sup>, 堀川紀子<sup>6)</sup>, 福田正人<sup>7)</sup>, 小出博義<sup>8)</sup>, 後藤雄一<sup>9)</sup>, 橋本大彦<sup>10)</sup>, 中村祐輔, 磯村 実, 小穴康功, 大澤真木子, 小国弘量, 小国美也子, 山寺博史, 橋本清, 前澤真理子, 熊谷公明, 辻省次, 鈴木隆, 和知学, 遠藤耕太郎, 大沼悌一, 小西徹, 前田郷子, 渡辺一功, 麻生幸三郎, 武田明夫, 伊藤正利, 長藤洋, 大谷和正, 山磨康子, 安田雄, 久郷敏明, 佐野輝, 森本武彦, 南武嗣, 満留昭久, 廣瀬伸一, 和田一丸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>弘前大学, <sup>3)</sup>福島県立医大, <sup>5)</sup>星総合病院 星ヶ丘病院, <sup>6)</sup>筑波記念病院, <sup>7)</sup>群馬大学, <sup>8)</sup>埼玉医科大学, <sup>9)</sup>精神・神経センター 神経研究, <sup>10)</sup>東京大学): てんかん・熱性けいれん遺伝(子)解析に関する多施設共同研究. てんかん治療研究振興財団研究年報 1999; 11: pp83-91.

2) 遠藤俊吉, 鈴木博子, 森 隆夫, 木村真人, 竹澤健司, 鬼頭 諭: 精神作業負荷による疲労ならびに不安に対する香りの効果. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業-疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究- 2000; pp100-108.

(3) Proceeding:

1) Ito T, Yamadera H, Ito R, Endo S: Therapeutic usefulness of morning bright light on cognitive disturbances in Alzheimer-type dementia. Psychiatry and Clinical Neurosciences 1999; 53: 95-95.

(4) 巻頭言:

1) 高石 昇: 創刊によせて: 今なぜ催眠か. 臨床催眠学 2000; 1.

(5) Proceedings:

1) Shimoda K, Kimura M, Tateno A, Mori T, Suzuki H, Endo S: Changes in regional blood flow and P300 amplitude on recovery from depression -relationship with dominated clinical dimension-. Psychiatry and Clinical Neurosciences 1999; 53: S110-S110.

2) Shimoda K, Kimura M, Tateno A, Mori T, Suzuki H, Endo S: Changes in regional blood flow and P300 amplitude on recovery from depression -relationship with dominated clinical dimension-. Clinical Neurophysiology 1999; 110 (13): 2334-2334.

(6) 書評:

1) 高石 昇: 精神生物学: 心身のコミュニケーションと治癒の新理論 アーノルド・L・ロッシ. 精神療法 1999; 25 (5): 94-95.

[ 1998 年度追加分 ]

総説:

1) 西松能子: Munchausen syndrome by proxy. 臨床精神医学 1999; 14: 112-112.

2) 山寺博史: 特集: 「脳の謎」にせまる. メラトニンと睡眠. 治療 1999; 81 (1): 11-15.

3) 山寺博史: 特集: 不眠症治療へのスチラテジー (山寺博史編) 睡眠の働き: 睡眠の特性, 加齢による変化やサーカディアンリズムなどとの関連. 治療 1999; 81 (3): 816-828.

(7) 総説:

1) Hosaka T<sup>1)</sup>, Aoki T<sup>1)</sup>, Watanabe T<sup>1)</sup>, Okuyama T<sup>1)</sup>, Kurosawa H (<sup>1)</sup>東海大学医学部精神医学教室): General hospital psychiatry from the perspective of medical economics. Psychiatry and clinical neuroscience 1999; 53: 449-453.

2) 鈴木博子, 木村真人, 森 隆夫: 睡眠薬依存症. 精神科治療学 1999; 14 (3): 293-299.

3) 西松能子, 黒澤 尚: 高齢者の精神科救急. 総合臨床 1999; 48 (増刊): 1134-1137.

4) 岸泰宏, 黒澤 尚, 長谷川朝穂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉県精神科医療センター): 救急医療における医師のストレス: 救急医療の現場から. ストレス科学 1999; 14: 34-38.

- 5) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 術後せん妄を予防するには. 臨床看護 1999; 25: 1631-1637.
  - 6) 遠藤幸彦: 転移の分析. 精神科治療学 1999; 14(7): 1427-1430.
  - 7) 鈴木博子: 総合病院精神科における精神科救急. 医学のあゆみ 1999; 190(3): 205-208.
  - 8) 黒澤 尚: 総合病院精神医学と日本総合病院精神医学学会について. 最新精神医学 1999; 4: 415-420.
  - 9) 西松能子, 黒澤 尚: 高齢者の集中治療における精神管理. 集中治療 1999; 11(8): 777-782.
  - 10) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: コミュニケーションのとり方. 病院経営新事情 1999; (196): 57-61.
  - 11) 西松能子, 斉藤卓弥, 黒澤 尚: 急性心筋梗塞患者の精神的問題への対処. 救急医学 1999; 23(9): 1091-1093.
  - 12) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 人間関係にかかわる個々の性格(1). 病院経営新事情 1999; (198): 80-84.
  - 13) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 人間関係にかかわる個々の性格(2). 病院経営新事情 1999; (200): 68-72.
  - 14) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 自己の評価と欲求(1). 病院経営新事情 1999; (202): 80-84.
  - 15) 鈴木博子: 大学病院における精神科救急. 日本医事新報 1999; 3948: 85.
  - 16) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 自己の評価と欲求(2). 病院経営新事情 2000; (203): 107-111.
  - 17) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 他人に対する評価(1). 病院経営新事情 2000; (205): 57-61.
  - 18) 森 隆夫: 活力ある職場づくりのための人間関係論: 他人に対する評価(2). 病院経営新事情 2000; (207): 66-70.
- (8) 分担:
- 1) Kathol Roger G<sup>1)</sup>, 岸 泰宏 (1) University of Iowa): 身体疾患を伴うパニック障害ならびに不安障害. Central Nervous System Today-2 不安障害 感情障害 睡眠障害 - 基礎から臨床まで 1999; 72-78.

## 著 書

- 1) 木村真人, 下田健吾: [翻訳] 痴呆患者. MGH総合病院精神医学マニュアル(黒澤 尚, 保坂 隆), 1999; pp113-136, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) Kishi Y, Kathol Roger G<sup>1)</sup>(1) University of Iowa): [共著] The high acuity (type IV) intergrated medicine and psychiatry treatment program: can Japan adopt this model of care?. Cutting Edge Medicine and Liaison Psychiatry (Matsushita M & Fukusnishi I), 1999; pp23-31, Psychiatric problems of organ transplantation, cancer, HIV/AIDS and genetic therapy.
- 3) 山寺博史: [分担] 第22章 産業保健活動の実際 (1) 早期発見と診断・治療・予防, 8. てんかん. 産業精神保健ハンドブック(日本産業精神保健学会編集, 加藤正明監修), 1999; pp816-828, 中山書店.
- 4) 西松能子: [分担] ヒステリー. 神経症とその周辺(黒澤尚, 大野裕, 北西憲二), 1999; pp156-171, 星和書店.
- 5) 黒澤 尚: [共著] 精神障害. 救急救命士標準テキスト改訂5版(厚生省救急救命士教育研究会), 1999; ヘルス出版.
- 6) 高石 昇: [分担] イメージ療法. 心身医学用語事典(社団法人 日本心身医学会 用語委員会), 1999; p14, 医学書院.
- 7) 高石 昇: [分担] 見当識. 心身医学用語事典(社団法人 日本心身医学会 用語委員会), 1999; p64, 医学

書院 .

- 8) 高石 昇：〔分担〕深層心理学．心身医学用語事典（社団法人 日本心身医学会 用語委員会），1999；p117，医学書院．
- 9) 高石 昇：〔分担〕戦略的心理療法．心身医学用語事典（社団法人 日本心身医学会 用語委員会），1999；p143，医学書院．
- 10) 高石 昇：〔分担〕苦行療法．家族心理学事典（日本家族心理学会），1999；p103，金子書店．
- 11) 黒澤 尚，保坂 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部精神医学教室)：〔翻訳〕総合病院におけるコンサルテーション精神医学の起源．MGH総合病院精神医学マニュアル，1999；メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 12) 岸 泰宏，Kathol Roger G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Iowa)：〔共著〕身体医学と精神医学の統合，The high acuity (type IV) integrated medicine and psychiatry treatment program：日本にこの治療モデル導入は可能か．先端医療とリエゾン精神医学（福西 勇夫（編集）），1999；pp19-25，金原出版．
- 13) 高石 昇：〔分担〕催眠療法・自律訓練法．臨床心理学 第1巻（高石昇，氏原寛，成田善弘），1999；pp186-193，培風館．
- 14) 高石 昇：〔監訳〕行動療法の展開：マルチモード・アプローチ．（アーノルド・A・ラザラス著），1999；二瓶社．
- 15) 本間房恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>松風荘病院)：〔分担〕心理検査．精神科ハンドブック（大原健士郎・本間修），1999；ppTAT38-50, CMI・FNI112-121, クレベリン 160-169，星和書店．
- 16) 黒澤 尚：〔共著〕救命医療の場における精神症状とその対処法．最新リエゾン精神医学（西山 詮），1999；pp47-74，新興医学出版社．
- 17) 山寺博史：〔分担〕手術後精神病，ICU症候群，人工透析・臓器移植関連精神障害．今日の治療指針2000（多賀須幸男・尾形悦郎），2000；pp296-297，医学書院．
- 18) 黒澤 尚：〔編集〕虚血性心疾患患者の精神症状：その理解と対応，2000；pp1-74，ヘルス出版．
- 19) 黒澤 尚：〔共著〕ICU症候群 術後精神障害 術後精神病 術後せん妄の考え方：虚血性心疾患患者の精神症状：その理解と対応，2000；pp39-42，ヘルス出版．

#### 学会発表

##### (1) 会長講演：

- 1) 高石 昇：臨床催眠の今日的意義と本学会の基本姿勢．日本臨床催眠研究会第一回大会，2000．3．

##### (2) 教育講演：

- 1) 岸 泰宏：歯科医に必要な精神科の知識．佐原歯科医師会，1999．5．

##### (3) シンポジウム：

- 1) Kishi Y, Kurosawa H：Current status and problems of consultation liaison psychiatry ando general hospital psychiatry in Japan. . The 9th Scientific Meeting of the Pacific Rim College of Psychiatrists (Sioul, Korea), 1999．10．
- 2) 鈴木博子，木村真人，森 隆夫，黒澤 尚：日本医科大学附属病院における精神科救急の現状：時間外診療と他科依頼を通して．第7回日本精神科救急学会総会，1999．9．

##### (4) ワークショップ：

- 1) 岸 泰宏，黒澤 尚，長谷川朝穂<sup>1)</sup>，村岡真理<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉県精神科医療センター，<sup>2)</sup>東京都立広尾病院)：救急医療現場での燃え尽き．第12回総合病院精神医学会総会，1999．12．

##### (5) 一般講演：

- 1) 吉川栄省，明智龍男<sup>2,3)</sup>，岸 泰宏，黒澤 尚，秋月伸哉<sup>1)</sup>，奥山徹<sup>3)</sup>，中野智仁<sup>3)</sup>，岡村仁<sup>3)</sup>，内富庸介<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup>国立がんセンター東病院精神科，<sup>2)</sup>国立がんセンター中央病院精神科，<sup>3)</sup>国立がんセンター研究所支所精

- 神漬瘍学研究所): がん患者における希死念慮: その精神医学的背景と経過. 第12回日本総合病院精神医学会総会, 1999. 12.
- 2) Honma F (1) Shoufusou Hospital): Clinical Use of S-con - Hidden Risk under High Lambda&Ambitent . International Rorshach Society '99 XVI Congress ( Amsterdam, the Netherland ), 1999 . 7 .
  - 3) Murata Y<sup>1)</sup>, Kimura M<sup>1)</sup>, Robert G. R<sup>2)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School , 2) Department of Psychiatry, University of Iowa College of Medicine ): Does cognitive impairment cause post-stroke depression? . 11th American Neuropsychiatry Association ( Fort Myers, Florida ), 2000 . 2 .
  - 4) Murata Y<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>2)</sup>, Shimoda K<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School , 2) Department of Psychiatry, University of Iowa College of Medicine ): Sexual Dysfunction Following Stroke . 3rd International of Neuropsychiatry ( Kyoto, Japan ), 2000 . 4 .
  - 5) 野村俊明, 奥村雄介<sup>1)</sup>, 青島多津子<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉 (1) 関東医療少年院 ): うつ状態で祖母との拡大自殺をはかった女子青年の一例 . 第36回日本犯罪学会, 1999 . 1 .
  - 6) 黄 珉淑, 西松能子, 笹尾 純<sup>1)</sup>, 佐藤忠宏<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉 (1) 公徳会佐藤病院 ): 結婚を契機に事例化した解離性同一性障害の3症例 . 第19回日本社会精神医学会, 1999 . 3 .
  - 7) 伊藤敬雄, 山寺博史, 鈴木英朗, 中村秀一, 伊藤理津子, 佐藤忠宏<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉 (1) 公徳会佐藤病院 ): アルツハイマー型痴呆患者の認知機能障害に対する光療法の治療効果について . 第21回日本生物学的精神医学会, 1999 . 4 .
  - 8) 下田健吾, 木村真人, 館野 周, 森 隆夫, 鈴木博子, 遠藤俊吉: うつ病者の123I-IMP SPECT 所見と事象関連電位P300所見について: 縦断的検討 . 第21回生物学的精神医学会総会, 1999 . 4 .
  - 9) 高石 昇: 催眠の種々の誘導法と原則 . 日本臨床催眠研究会第一回研修会, 1999 . 4 .
  - 10) 鈴木博子, 木村真人, 竹澤健司, 下田健吾, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 森 隆夫, 遠藤俊吉 (1) 麻酔科 ): modified ECT 施行後の再発について . 第95回日本精神神経学会総会, 1999 . 5 .
  - 11) 中間房恵<sup>1)</sup>, 木村真人, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 (1) 松風荘病院 ): 精神分裂病者における自殺未遂後のロールシャッハテストの特徴 . 第95回 日本精神神経学会総会, 1999 . 5 .
  - 12) 山寺博史, 伊藤敬雄, 鈴木英朗, 伊藤理津子, 朝山健太郎, 遠藤俊吉: アルツハイマー型痴呆患者の生態リズム異常と認知機能と睡眠リズムに対する高照度光療法の影響 . 日本睡眠学会第4回学術集会, 1999 . 6 .
  - 13) 伊藤敬雄, 山寺博史, 伊藤理津子, 鈴木英朗, 遠藤俊吉: アルツハイマー型痴呆患者の認知機能と深部体温リズムに対する高照度光療法の影響 . 第14回日本老年精神医学会, 1999 . 6 .
  - 14) 池森紀夫, 山寺博史, 中村秀一, 榮 兼作, 中尾泰崇, 下田健吾, 遠藤俊吉: Square Wave Jerksを呈したうつ病の一症例 . 第56回東京精神医学会, 1999 . 7 .
  - 15) 伊藤敬雄, 山寺博史, 鈴木英朗, 遠藤俊吉: 高照度光療法によるアルツハイマー型痴呆患者のメラトニンリズムへの影響 . 平成11年度メラトニン研究会, 1999 . 7 .
  - 16) 高石 昇: スポーツ心理学 . 辻学園スポーツコーディネーター養成コース, 1999 . 7 .
  - 17) 中間房恵<sup>1)</sup>, 山寺博史 (1) 松風荘病院 ): 睡眠覚醒リズム障害患者の心理特性 . 第63回 日本心理学会大会, 1999 . 9 .
  - 18) 竹澤健司, 森 隆夫, 木村真人, 鬼頭 諭, 鈴木博子, 下田健吾, 遠藤俊吉: 催眠施行中における脳波変化: フラクタル次元値の時間変動 . 第15回日本催眠学会, 1999 . 9 .
  - 19) 遠藤幸彦, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 万能感と暗示 . 第15回日本催眠学会, 1999 . 9 .
  - 20) 小西俊一郎, 岸 泰宏, 工藤吉尚, 小泉幸子, 黒澤 尚: ナルコレプシーと精神分裂病が合併した1症例・診断ならびに治療的検討 . 第19回日本精神科診断学会総会, 1999 . 9 .
  - 21) 榮 兼作, 竹澤健司, 葉田道雄, 遠藤俊吉: 皮膚寄生虫妄想の2症例 . 東京精神医学会 第57回学術集会, 1999 . 10 .

- 22) 高石 昇：催眠の倫理，限界，危険性．第45回日本催眠医学心理学会 催眠技法研修会，1999．11．
- 23) 柳田 円<sup>1)</sup>，木村真人，森 隆夫，下田健吾，鈴木英朗，大石光枝，鈴木博子，大庭建三<sup>2)</sup>，近喰ふじ子<sup>1)</sup>，橋口英俊<sup>3)</sup>，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>東京家政大学文学研究科，<sup>2)</sup>付属病院老人科，<sup>3)</sup>聖心女子大学）：糖尿病における心理学的研究．第87回 日本心身医学会関東地方会，1999．12．
- 24) 竹本恭子，木村真人，森 隆夫，鈴木英朗，葉田道雄，鈴木博子，坂本篤裕<sup>1)</sup>，近喰ふじ子<sup>2)</sup>，橋口英俊<sup>3)</sup>，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>付属病院麻酔科，<sup>2)</sup>東京家政大学文学研究科，<sup>3)</sup>聖心女子大学）：ペインクリニック通院患者の心理学的特性について．第87回 日本心身医学会関東地方会，1999．12．
- 25) 高石 昇：催眠深化法と抵抗対処法．日本臨床催眠研究会 第三回研修会，1999．12．
- 26) 高草木幸子，岸 泰宏，小泉幸子，吉川栄省，田川一郎，黒澤 尚：リエゾン活動の仕事量の検討．第12回総合病院精神医学会総会，1999．12．
- 27) 白石智子<sup>1)</sup>，黒木宣夫<sup>2)</sup>，青鷲和宏<sup>2)</sup>，小野沢雅子<sup>2)</sup>，太田亜紀<sup>2)</sup>，黒澤 尚（<sup>1)</sup>磯谷病院，<sup>2)</sup>東邦大佐倉病院）：精神科未設置一般病院における精神医療の需要に関する研究：総合病院精神科が設置されていない二次医療圏に限定．第12回日本総合病院精神医学会総会，1999．12．
- 28) 高石 昇：行動療法（II）臨床場面における技法の実際．関西カウンセリングセンターアドバンスコース，2000．1．
- 29) 渡 路子，竹澤健司，下田健吾，館野 周，遠藤俊吉：長期にわたる多剤乱用の1症例：画像診断等の検討．東京精神医学会 第58回学術集会，2000．2．
- 30) 荒川亮介，小泉幸子，田川一郎，榮 兼作，岸 泰宏，黒澤 尚：うつ病相に一致して性器の幻視が出現する1症例．東京精神医学会 第58回学術集会，2000．2．
- 31) 高石 昇：アマチュア催眠療法後遺症の治験．日本臨床催眠研究会第一回大会，2000．3．
- 32) 館野 周，木村真人，下田健吾，葉田道雄，森 隆夫，鈴木博子，遠藤俊吉，水村 直<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科）：セネストパチー症状の123I-IMP SPECT 所見について：セネストパチーとうつ病の比較．第21回日本生物学的精神医学会，2000．4．

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

東洋医学の有用性の研究と病態概念の科学的実証，これが当科の研究目標である．

本年度は，病的盗汗の東洋医学的理論の史的変遷，微熱と心身症，倒經の東洋医学的理論背景を明確にした．また，白頭翁湯の潰瘍性大腸炎への応用，大建中湯への月経痛への応用，温経湯の不眠への応用，更にアトピー性皮膚炎や咬筋攣縮症に対する鍼治療の効果など研究した．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 斎藤輝夫（<sup>1)</sup>斎藤医院）：アトピー性皮膚炎の治療．東静漢方研究室 1999；22（1）：1-5．
- 2) 三浦於菟：実践漢薬学第二回漢薬学各論：解表薬．漢方研究 1999；326：66-72．
- 3) 三浦於菟：実践漢薬学第三回漢薬学各論：清熱薬．漢方研究 1999；327：92-96．
- 4) 三浦於菟：漢方薬の副作用．日医大誌 1999；66（4）：285-285．
- 5) 斎藤輝夫（<sup>1)</sup>斎藤医院）：『五月病』と少陽病．東洋医学 1999；27（4）：32-35．
- 6) 斎藤輝夫（<sup>1)</sup>斎藤医院）：湿熱下注による下肢の疼痛と湿疹．東静漢方研究室 1999；22（2）：1-6．
- 7) 斎藤輝夫（<sup>1)</sup>斎藤医院）：麻黄と石膏の用量比率．東静漢方研究室 1999；22（2）：7-19．

- 8) 三浦於菟：実践漢薬学第四回漢薬学各論：清熱薬．漢方研究 1999；329：164-168．
- 9) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：少陽病と疲労倦怠．東静漢方研究室 1999；22(3)：1-7．
- 10) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：鼻疾患の治療：春の花粉症 他．東静漢方研究室 1999；22(3)：8-11．
- 11) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：最近の症例．東静漢方研究室 1999；22(4)：1-4．
- 12) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：葛根黄連湯の症例．東静漢方研究室 1999；22(5)：10-13．
- 13) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：消化器の機能．東静漢方研究室 1999；22(5)：92-99．

(2) 総説：

- 1) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：傷寒論新釈(2)．東静漢方研究室 1999；22(4)：5-15．
- 2) 斎藤輝夫<sup>(1)</sup> 斎藤医院)：傷寒論新釈(3)．東静漢方研究室 1999；22(5)：14-17．

著 書

- 1) 三浦於菟：〔分担〕盗汗証理論的歴史性変遷．伝統医学療法精粹，1999；pp6-9，湖北科学技術出版社．
- 2) 三浦於菟：〔分担〕40歳からの漢方薬辞典．同文書院，1999；pp88-98, 116-120，同文書院．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 三浦於菟：東洋医学では心身症をどう考えるか．第36回日本東洋心身医学研究会，2000．1．

(2) シンポジウム：

- 1) miura oto：Night sweat of theory．3rd international symposium on traditional medicine and medical apparatus (Kohukusyuu in China)，1999．6．
- 2) 三浦於菟：東洋医学の現状と問題点，今後の役割 「21世紀の医療における伝統・代替医学の役割」．ホリスティック医学シンポジウム，1999．11．

(3) 一般講演：

- 1) 三浦於菟，篠原明德，興津 寛，武島英人，斎藤輝夫，赤池正博，白石佳正，渡辺 裕：真寒假熱証の不眠．第50回日本東洋医学会学術総会，1999．5．
- 2) 興津 寛，篠原明德，武島英人，赤池正博，三浦於菟，斎藤輝夫，白石佳正，渡辺 裕：微熱の発生機序に関する考察．第50回日本東洋医学会学術総会，1999．5．
- 3) 篠原明德，興津 寛，赤池正博，白石佳正，渡辺 裕，斎藤輝夫，三浦於菟：白頭翁湯加味方が奏功した潰瘍性大腸炎の1例．第50回日本東洋医学会学術総会，1999．5．
- 4) 武島英人<sup>1)</sup>，篠原明德，興津 寛，赤池正博，白石佳正<sup>2)</sup>，三浦於菟，斎藤輝夫，渡辺 裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>武島医院，<sup>2)</sup>南林間外科医院，<sup>3)</sup> 峡西中央クリニック)：大建中湯で月経痛が軽快した1例．第50回日本東洋医学会学術総会，1999．5．
- 5) 三浦於菟，興津 寛，武島英人，篠原明德，赤池正博，土屋 喬，斎藤輝夫，白石佳正，渡辺 裕：倒経の一例．第56回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，1999．10．
- 6) 武島英人<sup>1)</sup>，興津 寛，赤池正博，岡田研吉<sup>2)</sup>，三浦於菟，斎藤輝夫<sup>3)</sup>，白石佳正<sup>4)</sup>，渡辺 裕<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>武島医院，<sup>2)</sup>岡田医院，<sup>3)</sup> 斎藤医院，<sup>4)</sup>南林間外科医院，<sup>5)</sup> 峡西中央クリニック)：温経湯不眠が軽快した症例．第56回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，1999．10．
- 7) 興津 寛，篠原明德，武島英人，赤池正博，三浦於菟，斎藤輝夫，白石佳正，渡辺 裕：湯剤と鍼，穴位注射の併用にて良好な経過がみられたアトピー性皮膚炎の2症例．第56回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，1999．10．
- 8) 篠原明德，興津 寛，赤池正博，白石佳正，渡辺 裕，斎藤輝夫，三浦於菟：風労病としての治療が奏功したSLEに伴う発熱の症例．第56回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，1999．10．

- 9) 土屋 喬<sup>1)</sup>, 三浦於菟, 斎藤輝夫<sup>2)</sup>, 白石佳正<sup>3)</sup>, 渡辺 裕<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>ツチヤ鍼療所, <sup>2)</sup>斎藤医院, <sup>3)</sup>南林間外科医院, <sup>4)</sup>峡西中央クリニック): 術後の咬筋攣縮症に対する鍼治療の1例. 平成12年度日本東洋医学会東海支部静岡県学術講演会, 2000. 3.



## 6. 小児科学講座

### [ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

#### 研究概要

小児科学教室では血液・腫瘍性疾患，膠原病・免疫性疾患，内分泌・代謝性疾患，循環器疾患，腎・泌尿器疾患，神経・筋疾患，新生児・未熟児，アレルギー疾患，呼吸器疾患を対象として，主に下記の研究を行っている。

付属病院では，産科および生化学第二との協力のもとに遺伝相談部門を開設している。なお，本年度より遺伝子治療の臨床応用にむけての基礎的研究をはじめている。業績は付属4病院一括して報告する。

血液・悪性腫瘍：小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子の解析，晩期障害の検討。鉄欠乏性貧血の病態解析，思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討。

膠原病・免疫：不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義。自己免疫性疾患における自己抗体産出機序の検討。

内分泌・代謝：肥満児の病態解析と治療法の開発。小人症の治療と随伴する微量元素の代謝。先天性代謝異常児の遺伝子解析。

循環器：薬剤負荷による各種評価法を用いた心筋虚血病変の検討。川崎病後の血管リモデリングに対する遺伝子および分子生物学的検討。心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する分子生理学・分子生物学を用いた検討。

神経・筋：けいれん性疾患脳波学的解析。各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析。筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析。

腎・泌尿器：各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の免疫学的臨床的検討。乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け。

アレルギー：アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討。食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討。

呼吸器：小児の呼吸音の解析。各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokoshiki H<sup>1)</sup>, Katsube Y, Sunugawa M<sup>1)</sup>, Seki T, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ of Cincinnati): Disruption of actin cytoskeleton attenuates sulfonyleurea inhibition of cardiac ATP-sensitive K<sup>+</sup> channels. *Pflugers Arch* 1997; 434 (2): 203-205.
- 2) Yokoshiki H<sup>1)</sup>, Sunagawa M<sup>1)</sup>, Seki T, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ of Cincinnati): ATP-sensitive K<sup>+</sup> channels in pancreatic, cardiac, and vascular smooth muscle cells. *Am J Physiol* 1998; 274 (1 Pt 1): C25-C37.
- 3) Sunagawa M<sup>1)</sup>, Yokoshiki H<sup>1)</sup>, Seki T, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ of Cincinnati): Intracellular application of calmidazolium increases Ca<sup>2+</sup> current through activation of protein kinase A in cultured vascular smooth muscle cells. *J Vasc Res* 1998; 35 (5): 303-309.
- 4) Yokoshiki H<sup>1)</sup>, Sunagawa M<sup>1)</sup>, Seki T, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ of Cincinnati): Antisense oligodeoxynucleotides of sulfonyleurea receptors inhibit ATP-sensitive K<sup>+</sup> channels in cultured neonatal rat ventricular cells. *Pflugers Arch* 1999; 437 (3): 400-408.
- 5) Seki T, Yokoshiki H<sup>1)</sup>, Sunagawa M<sup>1)</sup>, Nakamura M<sup>1)</sup>, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ of Cincinnati): An-

giotensin II stimulation of Ca<sup>2+</sup>-channel current in vascular smooth muscle cells is inhibited by lavendustin-A and LY-294002 . *Pflugers Arch* 1999 ; 437 ( 3 ): 317-323 .

- 6) Kawakami Y , Fukunaga Y , Kuwabara K , Fujita T , Fujino O , Hashimoto K : Cerebrospinal fluid levels of neopterin in child patients with neurological diseases -in correlation with IFN- or TNF- . *Pteridines* 1999 ; 10 ( 1 ): 27-31 .
- 7) Asano T , Tatsuma N , Ohashi R , Yoshida J , Tsuchiya M , Yamanaka N<sup>1)</sup> , Honda M<sup>2)</sup> , Yamamoto M ( <sup>1)</sup> Department of First Pathology , <sup>2)</sup> Department of Pediatric Nephrology, Metropolitan Kiyose Children's Hospital ): Association of angiotensin-converting enzyme gene polymorphism and renal pathology in Japanese children with IgA nephropathy . *Clinical Nephrology* 1999 ; 51 : 335-340 .
- 8) Hino Y , Ohkubo T , Katsube Y , Ogawa S : Changes in Endothelium-Derived vascular regulatory factors during Dobutamine stress-Induced silent myocardial ischemia in patients with Kawasaki disease . *Japanese Circulation Journal* 1999 ; 63 ( 7 ): 503-508 .
- 9) Nagamitsu S , Matsuishi T , Hashimoto K , Yamashita Y , Aihara M , Shimizu K , Mizuguchi M , Iwamoto H , Saitoh S , Hirano Y , Katoh H , Fukuyama Y , Shimada M : Multicenter study of paroxysmal dyskinesias in Japan clinical and pedigree analysis . *Movement Disorders* 1999 ; 14 ( 4 ): 658-663 .
- 10) Zhou Z<sup>1)</sup> , Zwelling LA<sup>1)</sup> , Kawakami Y<sup>1)</sup> , An T<sup>1)</sup> , Kobayashi K<sup>2)</sup> , Herzog C<sup>1)</sup> , Kleinerman ES<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cancer Biology, M. D. Anderson Cancer Center, University of Texas , <sup>2)</sup> Department of Cell Biology, Baylor College of Medicine ): Adenovirus-mediated human topoisomerase II gene transfer increases the sensitivity of etoposide-resistant human breast cancer cells . *Cancer Research* 1999 ; 59 : 4618-4624 .
- 11) Ioyama K<sup>1)</sup> , Okawa H<sup>1)</sup> , Hayashi Y<sup>1)</sup> , Hanada R<sup>1)</sup> , Okimoto Y<sup>1)</sup> , Maeda M , Saito T<sup>1)</sup> , Tsuchida M<sup>1)</sup> , Nakazawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> TCCSG ): Clinical and biological aspects of acute lymphoblastic leukemia in 62 infants ; Retrospective analysis of the Tokyo Children's Cancer Study Group . *Pediatrics International* 1999 ; 41 : 477-483 .
- 12) Kawakami Y , Fukunaga Y , Kuwabara K , Fujita T , Fujino O , Hashimoto K : Clinical and immunological significance of neopterin measurement in cerebrospinal fluid in patients with febrile convulsions . *Brain & Development* 1999 ; 21 ( 7 ): 458-460 .
- 13) Sunagawa M<sup>1)</sup> , Yokoshiki H<sup>1)</sup> , Seki T , Nakamura M<sup>1)</sup> , Laber P<sup>1)</sup> , Sperelakis N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ of Cincinnati ): Direct block of Ca<sup>2+</sup> channels by calmidazolium in cultured vascular smooth muscle cells . *J Cardiovasc Pharmacol* 1999 ; 34 ( 4 ): 488-496 .
- 14) Kajiwarra M<sup>1)</sup> , Nonoyama S<sup>1)</sup> , Eguchi M<sup>1)</sup> , Morio T<sup>1)</sup> , Imai K<sup>1)</sup> , Okawa H<sup>1)</sup> , Kaneko M<sup>2)</sup> , Sako M<sup>3)</sup> , Maeda M , Hibi S<sup>5)</sup> , Hashimoto H<sup>6)</sup> , Shibuya A<sup>7)</sup> , Ochs Hans. D<sup>8)</sup> , Nakahata T<sup>9)</sup> , Yata J<sup>1)</sup> , Ohga S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical and Dental Univ , <sup>2)</sup> Juntendo Univ , <sup>3)</sup> Osaka City Medical Center , <sup>4)</sup> Kyushu Univ , <sup>5)</sup> Kyoto Prefectural University of Medicine , <sup>6)</sup> Otowa Hospital , <sup>7)</sup> Saitama medical School , <sup>8)</sup> Washington Univ , <sup>9)</sup> Tokyo Univ ): WASP is involved in proliferation and differentiation of human haemopoietic progenitors in vitro . *Br J Haematol* 1999 ; 107 : 254-262 .
- 15) Tomita H , Nagamitsu S , Wakui K , Fukushima Y , Yamada K , Sadamatsu M , Masui A , Konishi T , Matsuishi T , Aihara M , Shimizu K , Hashimoto K , Mineta M , Matsushima M , tsujita T , Saitoh M , Tanaka H , Tsuji S , Takagi T , Nakamura Y , Nanko S , Kato N , Nakane Y , Niikawa N : Paroxysmal kinesigenic choreoathetosis locus maps to chromosome 16p11.2-q12.1 . *American Journal of Human Genetics* 1999 ; 65 ( 6 ): 1688-1697 .
- 16) Asano T , Ogawa S : Expression of monocyte chemoattractant protein-1 in Kawasaki disease ; The apparent anti-inflammatory effect of gamma globulin therapy . *Scandinavian Journal of Immunology* 2000 ; 51 :

98-103 .

- 17) 浅野 健, 羽鳥誉之, 都もと子<sup>1)</sup>, 村田光範<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>(1)</sup> (東京女子医大第二病院小児科): 東京の一地域における大学病院での小児科救急医療の過去20年間の推移. 日本小児保健研究 1999; 58: 541-545 .
- 18) 安保和俊, 土屋正己, 村上睦美, 山本正生: 小学生における腎異常発現頻度に関する縦断的研究. 日児誌 1999; 103: 543-548 .
- 19) 高瀬真人, 稲葉八興, 今井丈英, 今井大洋, 千葉 隆: 正常呼吸音スペクトル指標に対する心拍数変化の影響. 薬理と臨床 1999; 9: 427-433 .
- 20) 稲葉八興, 今井丈英, 今井大洋, 千葉 隆, 高瀬真人: 肺音指標による気道安定性評価の可能性. 薬理と臨床 1999; 9: 381-386 .
- 21) 伊藤保彦, 福永慶隆, 五十嵐徹, 吉田順子, 立麻典子, 今井大洋, 土屋正己, 村上睦美: 自己免疫性疲労症候群と線維筋痛症の関係についての検討. 日医大誌 1999; 66(3): 239-244 .
- 22) 倉持雪穂, 日野佳昭, 勝部康弘, 関 隆志, 大久保隆志, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一: 心血管・造影検査施行後の腎盂尿路造影像確認の必要性. 日小児循環器会誌 1999; 15(5・6): 650-653 .
- 23) 高瀬真人, 今井丈英, 向後俊昭: 正常新生児および非呼吸器疾患小児における血清KL-6値. 日小児呼吸器会誌 1999; 10(2): 99-104 .
- 24) 藤松真理子, 平山恒憲, 安保和俊, 村上睦美, 山本正生: 腸管組織に未熟な腎組織の混在した嚢胞を合併した重複腸管の1幼児例. 日児誌 1999; 103: 567-570 .
- 25) 倉持雪穂, 千葉 隆, 前田美穂, 大坪保雄<sup>1)</sup>, 柴田浩之<sup>2)</sup>, 尾花和子<sup>2)</sup>, 橋都浩平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大産婦人科, <sup>2)</sup>東京大学小児外科): 胎児期より疑いえた先天性梨状瘻の1例. 日小児呼吸器会誌 1999; 10(1): 4-7 .
- 26) 伊藤保彦, 林田真理, 吉田順子, 立麻典子, 今井大洋, 土屋正己, 村上睦美: 急性外陰部潰瘍 (Lipschitz潰瘍) の1例. 小児科 1999; 40(7): 919-920 .
- 27) 藤松真理子, 神保 修, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清, 黒田達夫<sup>1)</sup>, 中野美和子<sup>1)</sup>, 佐伯守洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院外科): 1カ月健診で発見された巨大未熟奇形種の1例. 小児科臨床 1999; 52(8): 95-99 .
- 28) 藤松真理子, 橋本 清, 平山恒憲, 川上康彦, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修: 良性経過をとる反復性身震い発作 (shuddering attacks) を呈した2例. 小児科 2000; 41(1): 147-150 .
- 29) 平山恒憲, 小川耕一, 桑原健太郎, 守田利貞<sup>1)</sup>, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清<sup>(1)</sup> (国立東静岡病院小児科): 家族歴で発作性運動誘発性舞蹈アテトーゼを有する乳児けいれんの2症例. 小児科臨床 2000; 53(2): 158-162 .

## (2) 研究報告書:

- 1) 村上睦美, 大西鐘尊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>香川医科大学): Off-label医薬品および新薬に関する日本小児腎臓病学会のpriority list. 厚生省科学研究, 厚生省医薬安全総合研究事業「小児薬物療法における医薬品の適正使用の問題点の把握及び対策に関する研究」平成10年度研究報告書 1999; p121 .
- 2) 村上睦美, 松井 晶<sup>1)</sup>, 平岡政弘<sup>2)</sup>, 松山 健<sup>3)</sup>, 伊藤 拓<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院, <sup>2)</sup>福井医科大学, <sup>3)</sup>東京都国保連福生病院, <sup>4)</sup>国立小児病院): 先天性腎尿路異常の超音波を用いたスクリーニングに関する研究. 平成10年度厚生科学研究(子ども家庭総合研究事業)報告書; 小児難治性腎尿路疾患の病因・病態の解明, 早期発見, 管理・治療に関する研究 1999; 4(6): pp179-180 .
- 3) 前田美穂, 濱田久光, 津田晃男, 福永慶隆: 再発および難治性小児急性白血病に対するIdarubicinの効果. 厚生省がん研究助成金平成10年度研究報告書 1999; pp6-8 .
- 4) 前田美穂: 思春期その実態と検査の重要性. 平成10年度東京都予防医学協会年報 2000; 29: pp64-66 .
- 5) 浅井利夫<sup>1)</sup>, 飯高喜久雄<sup>2)</sup>, 大国真彦<sup>3)</sup>, 北川照男<sup>4)</sup>, 長嶋正寛<sup>5)</sup>, 本田 真<sup>6)</sup>, 松浦信夫<sup>7)</sup>, 山内邦昭<sup>8)</sup>, 村上睦美<sup>(1)</sup> (東京女子医大, <sup>2)</sup>大和市立病院, <sup>3)</sup>(前)日本大学総合研究所, <sup>4)</sup>東京都予防医学協会, <sup>5)</sup>愛知県衛生部, <sup>6)</sup>福岡こども病院, <sup>7)</sup>北里大学, <sup>8)</sup>予防医学事業中央会): 平成10年度児童生徒の心臓検診・尿検査実

態調査報告．平成11年度学校保健センター事業報告書；日本学校保健 2000．

- 6) 伊藤保彦：自己免疫性疲労症候群患者から検出される自己抗体，抗Sa抗体の対応抗原について．平成11年度厚生省特別研究事業「疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究」班会議報告書 2000；pp84-90．

(3) 総説：

- 1) 村上睦美，土屋正己：健康障害をもった児童のスポーツ；腎炎とスポーツ．臨床スポーツ医学 1999；16：403-409．
- 2) 村上睦美，土屋正己：急性腎炎症候群．小児科診療 1999；62(増刊号)：378-380．
- 3) 大木由加志：低身長；心と体のQ&A，なんでも相談室．Growing 1999；4：11-12．
- 4) 大木由加志，折茂裕美：小児期2型糖尿病の診断・病態・治療原則；小児の糖尿病 III. 小児糖尿病の診断と治療．小児科診療 1999；62(4)：570-574．
- 5) 飛田正俊，向後俊昭：ツベルクリン反応とアトピー疾患．日医大誌 1999；66(3)：215．
- 6) 高瀬真人：小児の喘息(wheezing stridor)について．小児耳鼻咽喉科 1999；20：63-66．
- 7) 小川俊一：心疾患患児における歯科治療と感染性心内膜炎．日小児循環器会誌 1999；15(3)：443-444．
- 8) 大木由加志：小児糖尿病といわれた．クリニックQ&A 1999；5(夏号)：12-13．
- 9) 小川俊一：外来患者の素朴な疑問に答える「先天性心疾患」．小児科 1999；40(7)：826-832．
- 10) 村上睦美，土屋正己，立麻典子：腎臓病の子どもの食事指導．小児科 1999；40：632-639．
- 11) 小川俊一：川崎病の冠動脈疾患に対するカテーテル治療．Heart View 1999；3(7)：118-124．
- 12) 土屋正己，立麻典子，村上睦美：小児糸球体疾患：診断・治療・管理の最新知識：運動と慢性腎炎．小児内科 1999；31(7)：962-968．
- 13) 前田美穂：晩期障害と二次発がん．小児科診療 1999；62：1223-1228．
- 14) 前田美穂：小児におけるG型肝炎．小児科 1999；40：1351-1355．
- 15) 前田美穂：離乳期貧血の診断と管理．小児内科 1999；31：1433-1436．
- 16) 村上睦美：外来患者の素朴な疑問に答える；無症候性血尿・無症候性蛋白．小児科 1999；臨時増刊号：708-712．
- 17) 前田美穂：牛乳の多量摂取が招く鉄欠乏性貧血；牛乳貧血．小児科診療 1999；62：1455-1458．
- 18) 立麻典子，村上睦美：アンジオテンシン変換酵素遺伝子多型について．日医大誌 1999；66：365．
- 19) 村上睦美：Q&A 定期検診で尿の白濁が見つかりました．健 1999；28：6-8．
- 20) 浅野 健，村上睦美：糸球体腎炎とアンジオテンシン変換酵素の遺伝子多型(ポリモルフィズム)．小児科 1999；40：545-551．
- 21) 小川俊一：小児の救急医療；「手技・検査・モニタリング」血圧測定(非観血的，観血的)．小児内科 1999；31(増刊)：244-248．
- 22) 村上睦美，御手洗哲也<sup>1)</sup>，吉沢信行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医大第4内科，<sup>2)</sup>防衛医大公衆衛生学)：座談会；急性腎炎症候群の治療．今月の治療 1999；7：1299-1317．
- 23) 村上睦美，土屋正己，立麻典子：腎・尿路疾患の診療指針'99；II. 健診 21. 小児(学校検尿)．腎と透析 1999；47(増刊号)：104-108．
- 24) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：膠原病の母親から生まれた児の膠原病治療．小児科 1999；40(11)：1437-1445．
- 25) 伊藤保彦，福永慶隆：長期経過例から見た自己免疫疾患の問題点．全身性エリテマトーデス．小児内科 1999；31(11)：1573-1578．
- 26) 土屋正己，立麻典子，吉田順子，村上睦美：先天性腎尿路異常へのアプローチ2. マス・スクリーニングはいつどのように行うのが理想か．小児科 1999；40(13)：1675-1683．

- 27) 伊藤保彦：抗核抗体陽性慢性疲労症候群．スポット小児科医 1999；33：6-7．
- 28) 橋本 清：欠神てんかんとその周辺．脳と発達 1999；31：217-223．
- 29) 橋本 清：小児の治療指針：不随意運動．小児科診療 1999；62 (suppl)：479-482．
- 30) 橋本 清：欠神てんかん．Clinical Neuroscience 1999；78：318-320．
- 31) 小川俊一：成人生活習慣病のリスクファクターを有する子どもの管理「川崎病」．小児科 2000；41 (3)：371-380．
- 32) 村上睦美，土屋正己，立麻典子：腎疾患に対するステロイド・パルス療法の最近の評価．小児科 2000；41：421-429．

## 著 書

- 1) 藤田武久：〔分担〕神経皮膚症候群，脳性麻痺．ホームメディカ家庭医学館（柳下徳雄，服部光男，岡島重孝），1999；pp485-491，小学館．
- 2) 橋本 清：〔分担〕子どもの脳・脊髄・神経の病気．ホームメディカ家庭医学館（柳下徳雄，服部光男，岡島重孝），1999；pp482-484，小学館．
- 3) 村上睦美，土屋正己：〔分担〕先天性腎尿路疾患のエコースクリーニング．小児科学年鑑；小児科の進歩，1999；pp97-102，診断と治療社．
- 4) 高瀬真人：〔分担〕胸水．今日の小児診断指針第3版（前川善平，白木和夫，安次嶺馨），1999；pp195-197，医学書院．
- 5) 藤野 修：〔分担〕子どもの脳・脊髄・神経の病気1．ホーム・メディカ：家庭医学館（柳下徳雄，服部光男，岡島重孝），1999；pp480-484，小学館．
- 6) 土屋正己：〔分担〕(J) 基本的臨床検査と検査手技；(2) 基本的検査手技2. 採尿法．小児科研修医ノート（山中龍宏，五十嵐 隆，渡辺 博），1999；pp455-457，診断と治療社．
- 7) 村上睦美：〔分担〕慢性糸球体腎炎．小児特定疾患治療マニュアル（柳澤正義），1999；pp42-44，診断と治療社．
- 8) 村上睦美：〔分担〕遺伝性腎炎．小児特定疾患治療マニュアル（柳澤正義），1999；pp66-69，診断と治療社．
- 9) 小川俊一：〔分担〕心疾患を有する乳幼児の日常生活の管理と指導．今日の治療指針第12版（矢田純一，柳澤正義，山口規容子，大関武彦），2000；pp328-329，医学書院．
- 10) 大木由加志：〔分担〕くる病（Rickets）．臨床薬物学治療学-疾病の解説と薬の使い方-3. 骨関節疾患（医療薬学研究協議会），2000；pp191-194，アーク・メディア．
- 11) 橋本 清：〔分担〕小児の細菌性髄膜炎．今日の治療指針，2000；pp843-844，医学書院．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 土屋正己：先天性腎尿路異常早期発見のための1ヶ月検診児の腎エコースクリーニング．第19回埼玉小児腎泌尿器疾患談話会，1999．7．
- 2) 福永慶隆：原発性免疫不全症の診断・治療の進歩と臨床における問題点．第67回日本医大医学会総会，1999．9．
- 3) 前田美穂：見逃されている軽度貧血．第206回学校保健セミナー，1999．11．
- 4) 橋本 清：小児のけいれん性疾患の最近の知見．第63回日本小児科学会茨城地方会，1999．11．
- 5) 橋本 清：私の経験した神経疾患のビデオライブラリーから．第203回川崎市小児科医会研究会，2000．3．

### (2) 教育講演：

- 1) 村上睦美：腎炎の子どもの日常生活について．第34回日本小児腎臓病学会，1999．5．

- 2) 千葉 隆：小児喘息とその治療．荒川区小児療養講座，1999．10．
- 3) 大木由加志：子供の2型糖尿病（小児から青春期への橋渡し）．第33回糖尿病週間講演会・東京'99，1999．11．
- (3) 基調講演：
- 1) 村上睦美：児童・生徒の尿検査の実態：日本学校保健会全国調査より．第2回学童腎臓病健診研究会，1999．2．
- (4) 記念講演：
- 1) 橋本 清：小児の神経疾患の最近の話題．平成11年度沼津市学校保険会総会，1999．5．
- (5) シンポジウム：
- 1) Murakami M：Incidence and cause of chronic renal failure．The 10th Asian Congress of Pediatrics ( Taipei, TAIWAN ), 2000．3．
- 2) 伊藤保彦：自己免疫性疲労症候群患者から検出される自己抗体，抗Sa抗体の対応抗原について．平成11年度厚生省特別研究事業「疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究」班会議，1999．12．
- 3) 伊藤保彦：慢性疲労と自己免疫．第5回慢性疲労症候群（CFS）研究会，2000．2．
- 4) 右田 真：ゴーシェ病の遺伝子診断と治療．第37回日本臨床分子医学学会学術総会，2000．3．
- (6) パネルディスカッション：
- 1) 小川俊一，日野佳昭，勝部康弘，林 毅陸，関 隆志，大久保隆志，倉持雪穂，福見大地，内木場庸子，平山恒夫：川崎病の冠動脈合併症に対するインターベンションの指針（PTCA，ステント，CABGなど）川崎病罹患後の無症候性心筋虚血に対するPTCAの有用性．第35回日本小児循環器学会，1999．7．
- (7) セミナー：
- 1) 土屋正己：溶連菌感染後急性糸球体腎炎（PSAGN）：本当に減少化，軽症化しているか？：5．治療．第34回日本小児腎臓病学会，1999．5．
- 2) 伊藤保彦：小児の慢性疲労症候群と自己免疫．第5回日本医科大学感染・免疫・アレルギー研究会，1999．6．
- (8) ワークショップ：
- 1) 千葉 隆，今井丈英：反復性・遷延性肺野異常陰影例における気管支ファイバースコープの検討．第32回日本小児呼吸器疾患学会，1999．11．
- (9) 一般講演：
- 1) Pugia M. J, Kitagawa T, Yamauchi K, Murakami M, Suhara Y, Kashima J, Ohta Y, Wallace J. F, Parker D. R：Performance of microalbumin / creatinine urinalysis strip in a 1999 masscreening of Japanese school children．IFCC-WORLD Lab, 17th International and 13th European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine ( Florence, ITALY ), 1999．6．
- 2) Ogawa S, Katsube Y, Ohkubo T, Kuramochi Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Hino Y：Myocardial fractional flow reserve calculated from coronary pressure measurements correlates of myocardial ischemia children with Kawasaki disease．1st International Congress on Heart Disease ( Washington, U. S. A ), 1999．6．
- 3) Ogawa S, Katsube Y, Seki T, Ohkubo T, Kuramochi Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Hino Y：Cardiac functional changes to low-and high-dose dobutamine after anthracycline therapy in patients with acute leukaemia．21st Congress of the European Society of Cardiology ( Barcelona, SPAIN ), 1999．8．
- 4) Katsube Y, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>1)</sup>, Momma K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical University ): Effects of levosimendan, a novel Ca<sup>2+</sup> sensitizer, on ionic currents of human cardiac cells．21st Congress of the European Society of Cardiology ( Spain ), 1999．8．
- 5) Kuwabara K, Hashimoto K, Hirayama T, Ogawa K, Fujita T, Fujino O：Co-segregation of benign infantile convulsions with paroxysmal kinetic choreoathetosis in two families．6th Asian&Oceanian Congress of Child Neurology ( Penang, Malaysia ), 1999．9．
- 6) Ogawa S, Kuramochi Y, Hino Y, Katsube Y, Seki T, Ohkubo T, Fukumi D, Uchikoba Y, Fukunaga

- Y : Estimation of silent myocardial ischemia and effectiveness after PTCA by myocardial fractional flow reserve and coronary flow ratio in children with Kawasaki disease . 72nd Scientific sessions of American Heart Association ( Atlanta, U. S. A ), 1999 . 11 .
- 7) Takase M , Inaba Y , Imai T , Imai T : Lung sound analysis in evaluation of airway lability in asthmatic children . 24th International Conference on Lung Sounds ( Marburg, Germany ), 1999 . 11 .
- 8) Itoh Y , Igarashi T , Fukunaga Y : Autoantibodies to the insoluble nuclear proteins in children with autoimmune fatigue syndrome . American College of Rheumatology. 63rd Annual Scientific Meeting ( Boston, MA. USA ), 1999 . 11 .
- 9) Takase M , Inaba Y , Imai T : Lung sound analysis in evaluation of airway lability in asthmatic children . 4th International Congress of Pediatrics Pulmonology ( Nice, France ), 2000 . 2 .
- 10) Imai T , Takase M , Kougo T : Serum KL-6 in children with and without respiratory disease . 4th International Congress of Pediatrics Pulmonology ( Nice, France ), 2000 . 2 .
- 11) Ohkawa T , Kishi M , Ohki Y , Orimo H , Irie M : Improvement of allergic symptoms during growth hormone therapy in growth hormone deficient children . The 5th International Turner Symposium ( Naples, ITALY ), 2000 . 3 .
- 12) 阿部 文, 川村哲也, 宇都宮保典, 細谷龍男, 城 謙輔, 村上睦美: 小児期に発症し9年の経過で暖徐にネフローゼ症候群に至った膜性増殖性糸球体腎炎 (MPGN) type III second formの1例. 第15回東京腎生検カンファレンス, 1999 . 1 .
- 13) 岡部俊成, 飛田正俊, 竹田幸代, 村上由加里, 名知尚子, 向後俊昭, 丸山和男<sup>1)</sup>, 坂口雅弘<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>丸山小児科, <sup>2)</sup>国立感染症研究所): アレルギー症状とBCG接種についての臨床的検討. 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 3 .
- 14) 毛利武弘<sup>1)</sup>, 粕谷泰次<sup>1)</sup>, 飛田正俊, 村上由加里, 名知尚子, 岡部俊成, 向後俊昭 (<sup>1)</sup>東京薬科大学臨床薬学教室): 小児気管支喘息患者におけるプロピオン酸ベクロメタゾン (BDP) 吸入の副腎皮質機能におよぼす影響. 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 3 .
- 15) 名知尚子, 飛田正俊, 竹田幸代, 村上由加里, 岡部俊成, 向後俊昭: アトピー性皮膚炎患児における黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA (SEA) およびB (SEB) 特異IgE抗体. 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 3 .
- 16) 浅野 健, 羽鳥誉之, 橋本 清: 東京の一地域にある大学病院の小児科救急医療の過去20年間の推移. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 17) 福見大地, 小川俊一, 浅野 健, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 大久保隆志, 倉持雪穂, 内木場庸子, 橋本清: 川崎病後の血管再構築におけるアンギオテンシンI変換酵素 (ACE) 遺伝子多型性の関与. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 18) 植田高弘, 吉野 浩<sup>1)</sup>, 海老原康博<sup>1)</sup>, 石井武文<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 田中竜平<sup>1)</sup>, 福永慶隆, 中畑龍俊<sup>2)</sup>, 辻造一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東大医科研小児科, <sup>2)</sup>京都大学小児科): NOD/SCID マウスを用いたヒト臍帯血造血幹細胞のex vivo 増幅法の検討. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 19) 大久保隆志, 勝部康弘, 深沢隆治, 関 隆志, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 日野佳昭, 小川俊一: 冠動脈内圧の測定による川崎病既往者における冠血行動態の検討. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 20) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 芦田光則<sup>2)</sup>, 山本博章<sup>3)</sup>, 村上睦美, 山内邦昭<sup>4)</sup>, 北川照男<sup>4)</sup>, 太田宣秀<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>大宮赤十字病院小児科, <sup>2)</sup>勝楽堂病院小児科, <sup>3)</sup>川崎協同こどもクリニック, <sup>4)</sup>東京都予防医学協会, <sup>5)</sup>パイエル・三共 (株)): 日本人健常小・中学生の尿中蛋白尿に関する検討 (1). 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 21) 前田美穂, 浅野 健, 津田晃男: 小児悪性腫瘍および血液疾患におけるTTVの検討. 第61回日本血液学会,

1999 . 4 .

- 22) 濱田久光, 前田美穂, 大久保隆志, 金子清志, 福永慶隆: 小児難治性急性非リンパ性白血病に対する Idarubicin・High dose Cytarabine 併用療法. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 23) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学, 橋本 清: 成長ホルモン (GH) 補充療法中にアレルギー症状の改善をみとめた成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) の検討. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 24) 稲葉八興, 今井丈英, 高瀬真人, 千葉 隆, 今井大洋: 肺音指標による気道安定性評価の可能性. 第102回日本小児科学会, 1999 . 4 .
- 25) 平山恒憲, 小川耕一, 川上康彦, 藤松真理子, 小松崎英樹, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清: 家族歴で発作性運動誘発性アテトーゼを有する乳児けいれん2症例. 第2回乳幼児けいれん研究会, 1999 . 4 .
- 26) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学, 橋本 清: 高頻度に存在する小児・思春期NIDDMの実態について: 肥満検診からの検討. 第42回日本糖尿病学会, 1999 . 5 .
- 27) 雨宮 伸<sup>1)</sup>, 望月美恵<sup>1)</sup>, 小林浩司<sup>1)</sup>, 大木由加志, 他<sup>(1)</sup>小児インスリン治療研究会): 前方視的研究にHbA1cの標準化の検討. 第42回日本糖尿病学会, 1999 . 5 .
- 28) 藤松真理子, 藤田武久, 橋本 清, 中川博文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日南学園): 光弾性手法によるDown症候群児の背臥位および腹臥位の接触圧分布解析 (第3報). 第41回日本小児神経学会, 1999 . 5 .
- 29) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 榎戸 久: SPECTによる小脳に血流低下がみられた症例の検討. 第41回日本小児神経学会, 1999 . 5 .
- 30) 右田 真, 前田美穂, 高石康子, 福永慶隆: A (H3 N2) 型インフルエンザ感染後に外眼筋麻痺を伴うGuillain-Barré症候群を呈した1例. 第476回日本小児科学会東京都地方会, 1999 . 5 .
- 31) 立麻典子, 伊藤保彦, 林田真理, 吉田順子, 今井大洋, 土屋正己, 村上睦美: 急性外陰部潰瘍 (Lipschitz潰瘍) の1例. 第153回日本小児科学会千葉地方会, 1999 . 6 .
- 32) 伊藤保彦, 五十嵐 徹, 福永慶隆: 自己免疫性疲労症候群患者における不溶性核抗原に対する自己抗体. 第43回日本リウマチ学会総会, 1999 . 6 .
- 33) 林田真理, 村上由加里, 今井丈英, 名知尚子, 稲葉八興, 高瀬真人, 日野佳昭, 飛田正俊, 向後俊昭: 股関節痛を初発症状として肝機能障害を合併した13歳潰瘍性大腸炎 (UC) の1例. 第465回日本小児科学会東京都地方会, 1999 . 6 .
- 34) 倉持雪穂, 日野佳昭, 勝部康弘, 関 隆志, 大久保隆志, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一: 心血管造影検査施行後の腎盂尿路造影像確認の有用性. 第35回日本小児循環器学会, 1999 . 7 .
- 35) 勝部康弘, 萩原誠久<sup>1)</sup>, 笠貫 宏<sup>1)</sup>, 門間和夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器, <sup>2)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器小児科): 新しいCa<sup>2+</sup>感受性増強剤levosimendanのヒト心筋イオンチャンネルに及ぼす影響. 第35回日本小児循環器学会, 1999 . 7 .
- 36) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: 周産期麻疹の3例: 新生児の病態. 第35回日本新生児学会総会, 1999 . 7 .
- 37) 関 隆志, Sperelakis N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Univ of Cincinnati): アンジオテンシンIIによる血管平滑筋Ca<sup>2+</sup>電流の調節. 第35回日本小児循環器学会, 1999 . 7 .
- 38) 藤田武久, 藤野 修, 橋本 清, 平山恒憲, 藤松真理子, 勝部康弘, 福井朋子: けいれんなく無治療で脳波異常が軽快した結節性硬化症の一乳児例. 第24回神奈川小児神経懇話会, 1999 . 7 .
- 39) 前田美穂, 金子清志, 浅野 健, 右田 真, 濱田久光, 津田晃男, 福永慶隆: 小児急性白血病長期生存例における肥満の検討. 第41回日本小児血液学会, 1999 . 9 .
- 40) 佐藤武幸<sup>1)</sup>, 土田昌宏<sup>1)</sup>, 豊田恭徳<sup>1)</sup>, 設楽利二<sup>1)</sup>, 木下明俊<sup>1)</sup>, 大平睦郎<sup>1)</sup>, 恒松由記子<sup>1)</sup>, 渋谷 温<sup>1)</sup>, 花田良二<sup>1)</sup>, 星 順隆<sup>1)</sup>, 石本浩市<sup>1)</sup>, 山田耕一郎<sup>1)</sup>, 小池健一<sup>1)</sup>, 和田恵美子<sup>1)</sup>, 小原 明<sup>1)</sup>, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 金子隆<sup>1)</sup>, 賀来秀文<sup>1)</sup>, 前田美穂, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 斎藤友博<sup>1)</sup>, 中澤真平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>TCCSG): 年長児 (10 ~ 15歳) 急性



- リンパ性白血病の臨床的検討：TCCSG L81-10～L95-14の解析．第41回日本小児血液学会，1999．9．
- 41) 岸 恵，大木由加志，大川拓也，折茂裕美，入江 学：世田谷区肥満検診における15年間にわたる各種合併症の推移について．第33回日本小児内分泌学会，1999．9．
- 42) 伊藤善也<sup>1)</sup>，奥野晃正<sup>1)</sup>，大木由加志，神崎 晋<sup>1)</sup>，他( <sup>1)</sup>小児インスリン研究会)：小児期1型糖尿病に関する検討：1型糖尿病患児の最終身長は低下している．第33回日本小児内分泌学会，1999．9．
- 43) 名知尚子，飛田正俊，竹田幸代，村上由加里，岡部俊成，向後俊昭：小児アトピー性皮膚炎における抗マラセチアIgE抗体．第49回日本アレルギー学会，1999．9．
- 44) 西澤善樹，藤松真理子，平山恒憲，藤田武久，松岡和彦，橋本 清：1998年秋に流行した麻疹患者の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 45) 松本多絵，浅野 健，前田美穂，福永慶隆，高橋 翼<sup>1)</sup>，小林 匡<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第一)：術前診断に苦慮したsolid and cystic tumorの1男児例．第480回日本小児科学会東京都地方会，1999．10．
- 46) 倉持雪穂，日野佳昭，勝部康弘，関 隆志，大久保隆志，福見大地，内木場庸子，深沢隆治，小川俊一：冠動脈病変を伴う川崎病既往者の冠内血行動態．小児心機能血行動態研究会，1999．10．
- 47) 吉田順子，土屋正己，日野佳昭，大橋隆治，立麻典子，安保和俊，宗像恵美子<sup>1)</sup>，村上睦美(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院小児科)：小児期水腎症に関する臨床的検討．第46回日本小児保健学会，1999．10．
- 48) 前田美穂，金子清志，浅野 健，右田 真，濱田久光，津田晃男，福永慶隆：小児血液・悪性疾患における輸血関連と考えられる肝炎ウイルス感染の検討．第41回日本臨床血液学会，1999．10．
- 49) 前田美穂，野呂恵子，福永慶隆，山内邦昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都予防医学協会)：中学・高校生における貧血健診の現状．第46回日本小児保健学会，1999．10．
- 50) 岸 恵，大木由加志，大川拓也，折茂裕美，入江 学：世田谷区肥満検診における各種合併症の経年的変化について．第20回日本肥満学会，1999．10．
- 51) 伊藤保彦，立麻典子，五十嵐徹，福永慶隆：自己免疫性疲労症候群患者から検出される自己抗体，抗Sa抗体の対応抗原について．第9回日本小児リウマチ研究会，1999．10．
- 52) 早川 潤，藤野 修，高石康子，藤田武久，平山恒憲，藤松真理子，羽鳥誉之，橋本 清：興味ある画像所見を呈した急性脳症の1例．第31回日本小児神経学会関東地方会，1999．10．
- 53) 岡部俊成，竹田幸代，飛田正俊，名知尚子，村上由加里，向後俊昭，坂口雅弘<sup>1)</sup>，井上 栄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所)：気管支喘息児の夏期転地療養期間中の発作状況と防ダニシートについて．第49回日本アレルギー学会，1999．10．
- 54) 西澤善樹，藤松真理子，藤田武久，藤野 修，松岡和彦，橋本 清：1998年秋に流行した麻疹患者の検討．第46回日本小児保健学会，1999．10．
- 55) 藤松真理子，平山恒憲，川上康彦，小松崎英樹，高石康子，藤田武久，藤野 修，橋本 清：良性経過をとる反復性身震い発作(Shuddering attacks)を呈した2例．第33回日本てんかん学会，1999．10．
- 56) 藤野 修，榎戸 久，藤田武久，高石康子，平山恒憲，川上康彦，桑原健太郎，藤松真理子，岡田一芳，橋本清：10～15歳で発症した小児てんかん症例の検討：5年以上追跡した例での検討．第33回日本てんかん学会，1999．10．
- 57) 高石康子，橋本 清，藤野 修，藤田武久，榎戸 久，小松崎英樹，川上康彦，平山恒憲，桑原健太郎，藤松真理子：てんかん患者と育児．第33回日本てんかん学会，1999．10．
- 58) 山西慎吾，津田晃男，右田 真，前田美穂，福永慶隆：多発性内分泌腺腫症IIB型の1例．第15回日本小児がん学会，1999．11．
- 59) 高瀬真人，今井丈英，稲葉八興，向後俊昭：小児科領域における血清KL-6の臨床的意義 第1報；標準値の検討．第32回日本小児呼吸器疾患学会，1999．11．
- 60) 今井丈英，高瀬真人，稲葉八興，向後俊昭：小児科領域における血清KL-6の臨床的意義：第2報；肺炎・気管

- 支喘息・麻疹患者における血清 KL-6 の検討．第 32 回日本小児呼吸器疾患学会，1999．11．
- 61) 城田和彦，高瀬真人，稲葉八興，Pasterkamp H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Manitoba): コンソリデーション肺における呼吸音の音響学的解析．第 32 回日本小児呼吸器疾患学会，1999．11．
- 62) 藤村樹里<sup>1)</sup>，右田 真<sup>1,2)</sup>，濱田久光<sup>1,2)</sup>，榎崎秀彦<sup>1)</sup>，渡辺 淳<sup>2)</sup>，高橋久美<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>2)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科，<sup>2)</sup>生化学第二): Gaucher 病 2 型に対する酵素補充療法：髄液への移行性の検討．第 42 回日本先天代謝異常学会，1999．11．
- 63) 川畑 建，勝部康弘，藤田武久，松岡和彦，橋本 清：非侵襲的な MR urography にて診断した重複腎盂尿管症．第 241 回日本小児科学会神奈川県地方会，1999．11．
- 64) 山下行雄<sup>1)</sup>，秋月哲史<sup>1)</sup>，岩田裕吉<sup>1)</sup>，小澤安文<sup>1)</sup>，勝部康弘，木村和弘<sup>1)</sup>，嶋崎 譲<sup>1)</sup>，田辺 誠<sup>1)</sup>，豊田博史<sup>1)</sup>，永原俊弘<sup>1)</sup>，三浦義幸<sup>1)</sup>，宮川政久<sup>1)</sup>，三宅良彦<sup>1)</sup>，村野浩太郎<sup>1)</sup>，柳澤信子<sup>1)</sup>，由井史樹<sup>1)</sup>，渡辺 茂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎市医師会学校医部会): 川崎市学校心臓検診の成績：最近 10 年間の検討．第 30 回関東甲信越静学校心臓病予防研究会，1999．11．
- 65) 西澤善樹，藤松真理子，藤田武久，松岡和彦，橋本 清：当院 NICU に転入院した慢性期患者の検討．第 44 回日本未熟児新生児学会，1999．11．
- 66) 千葉 隆：小児気管支喘息における気管支内視鏡検査・気管支肺胞洗浄液検査の有用性．第 6 回日本医科大学「感染・免疫・アレルギー研究会」，1999．12．
- 67) 平山恒憲，川畑 健，川上康彦，小川耕一，今井文英，藤松真理子，藤田武久，藤野 修，橋本 清，清水弘之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立神経病院脳神経外科): 外科治療にふみきった局在関連てんかん難治例 (ビデオ供覧)．第 25 回神奈川小児神経懇話会プログラム，2000．1．
- 68) 倉持雪穂，日野佳昭，勝部康弘，関 隆志，大久保隆志，福見大地，内木場庸子，小川俊一：川崎病既往児における Myocardial Fractional Flow Reserve と Relative Flow Reserve の相関とそれぞれによる心筋虚血推定能の検討．第 11 回 JPIC，2000．2．
- 69) 早川 潤，立麻典子，羽鳥誉之，吉田順子，倉持雪穂，今井大洋，伊藤保彦，土屋正己，藤野 修，村上睦美：頭蓋内出血から高度脳障害をきたした被虐待児症候群の一女兒例．第 155 回日本小児科学会千葉地方会，2000．2．
- 70) 浅野 健，川畑 建，植田高弘，右田 真，前田美穂，福永慶隆：鼠頸部原発と考えられるホジキン病の一男児例．平成 11 年度日本小児がん学会登録研究会，2000．3．
- 71) 太田美紀，西沢善樹，伊藤保彦，藤田武久，松岡和彦，橋本 清：胎児期に発見された卵巣嚢腫の 2 症例．第 243 回日本小児科学会神奈川県地方会，2000．3．
- 72) 山西慎吾，城田和彦，藤田武久，平山恒憲，橋本 清：HHV-6 IgM の上昇を認めた急性小児片麻痺の 1 乳児例．第 32 回日本小児神経学会関東地方会，2000．3．
- 73) 川上康彦<sup>1)</sup>，柳原 剛<sup>1)</sup>，宗像恵美子<sup>1)</sup>，安田 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院): 麻疹罹患中にけいれん重積をきたした，クモ膜嚢種合併 1 男児例．第 98 回日本小児科学会埼玉地方会，2000．9．

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

1) 血管造影IVRでは、ハイテクリサーチ構想の中で完成を見たIVRセンターにて、大動脈ステントグラフト、ASOに対するPTAやStent、肺動脈末梢動脈に対する血栓破砕溶解吸引療法などの研究に発展が見られた。肝内血行動態やコンビーム3次元CTの研究、気管支ステントやCTガイド下肺生検が臨床に直結した研究として成果をあげている。

2) CT部門は3次元CT診断の分野で国内外の指導的立場にあり、同法は血管系や中枢神経系を中心とした低侵襲的診断法として定着した。多列検出器型CTの導入に伴い、腫瘍性病変の血行動態解析、脳perfusion、広範囲に及ぶ高精細な3次元CT血管造影法が開発され、研究が進んでいる。

3) 核医学部門ではgated SPECTデータから解析するQGSプログラムを用い、左室容量、収縮機能に加えて拡張機能の解析が試みられ、虚血性心疾患の評価の研究が進んでいる。中枢神経領域ではSPMを用いた統計的画像解析が可能となり、視覚的に評価困難な初期痴呆の機能異常の検出を試みている。

4) MRI部門では血液疾患や位相画像の基礎的検討を続行し、高速撮像法の検討にも着手している。この撮像技術は躯幹部や循環器系の解剖学的機能的解析に必須で、その初期経験は学会に採用された。

5) 放射線治療部門では、良性疾患、乳癌、頭頸部腫瘍を対象とし、悪性リンパ腫なども増加している。頭頸部腫瘍のlate effect in normal tissue (LENT) 軽減の研究は引き続き行われ、その理論はCT-based planning systemにより応用されている。扁平上皮癌の治療時に行ってきた超音波検査の応用は、深部組織も対象となった。化学療法同時併用治療は頭頸部腫瘍、肺癌などで共同研究が進んでいる。

6) 画像通信系の検討として文施設と文研設の支援を受けたPACSの運用が開始された。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hayashi H, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Takagi R, Kawamata H, Ichikawa T<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Koga hospital, <sup>2)</sup> Dept of Radiology, Tama-Nagayama hospital ): Three-dimensional CT angiographic assessment of vascular diseases using various postprocessing techniques : the voxel transmission and cruising eye view methods and their respective merits . Int Angiol 1999 ; 18 : 113-121 .
- 2) Nakahara M, Hayashi H, Kumazaki T, Mori O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Value of magnetization transfer contrast as a sensitive technique to reflect histopathological changes in the white matter adjacent to the frontal horns of lateral ventricles . J Nippon Med Sch 1999 ; 66 ( 4 ) : 245-252 .
- 3) Tajima H, Kumazaki T : Re ; Left portal vein as a direct source of gastric varices. . Cardiovascular and Interventional Radiology 1999 ; 22 ( 6 ) : 531 .
- 4) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup>, Tajima H, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Department of Urology ): Elimination of non-ionic contrast medium by hemodialysis in patients with impaired renal function. . J Nippon Med Sch 1999 ; 66 ( 5 ) : 305-307 .
- 5) Kumita S, Cho K<sup>1)</sup>, Mizumura S, Kijima T<sup>2)</sup>, Nakajo H, Takahama K, Furukawa K, Kumazaki T, Sano J<sup>3)</sup>, Munakata K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Oarai-Kaigan Hospital, <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine, K ): Left ventricular

- function at rest and during bicycle exercise in normal subjects ; Assessment by ECG-gated myocardial SPECT with <sup>99m</sup>Tc . Nuclear Medicine Communications 1999 ; 20 : 427-432 .
- 6) Amano Y , Hayashi H , Ishihara M , Kumazaki T : Coronary flow reserve estimated with fast cine phase contrast magnetic resonance imaging in four patients with syndrome X . Can Assoc Radiol J 1999 ; 50 : 298-300 .
- 7) Kurosaki H<sup>1)</sup> , Karasawa K<sup>1)</sup> , Kaizu T<sup>1)</sup> , Matsuda T<sup>1)</sup> , Okamoto A<sup>1)</sup> , Sato T<sup>1)</sup> , Ebara T<sup>1)</sup> , Tanaka Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Departments of Radiology and Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital , <sup>2)</sup>Department of Radiology, Nihon University ): Intraoperative Radiotherapy for respectable extrahepatic bile duct cancer . International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics 1999 ; 45 ( 3 ) : 635-638 .
- 8) Amano Y , Ishihara M , Hayashi H , Gemma K , Kawamata H , Amano M , Kumazaki T : Metallic artifact of coronary and iliac arteries stents in MR angiography and contrast-enhanced CT . Clinical Imaging 1999 ; 23 : 85-89 .
- 9) Shinohara Y<sup>1)</sup> , Sugizaki K , Yamamoto K<sup>2)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Diagnostic Radiology, Tamabambu Chiiki Hospital , <sup>2)</sup>Toshima Health Kenshin Center ): A New Method of Thoracocentesis Using CT Guidance in Patients with a Small Amount of Pleural Fluid . Cardiovasc Intervent Radiol 1999 ; 22 : 260-261 .
- 10) Machida M<sup>1)</sup> , Kameyama K<sup>1)</sup> , Asano G<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Fluorescence Spectroscopic Histochemical Analysis Using Hematoporphyrin as a Microenvironmental Probe for Atherosclerotic Change in the Human Aorta . Laboratory Investigation 1999 ; 79 ( 6 ) : 733-745 .
- 11) Kotani E<sup>1)</sup> , Kiuchi K<sup>1)</sup> , Takayama M<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Tabata M<sup>2)</sup> , Aramaki T<sup>2)</sup> , Kawamata H ( <sup>1)</sup>Coronary and Intensive Care Unit , <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine ): Effectiveness of transcatheter chemoembolization for metastatic right ventricular tumor derived from hepatocellular carcinoma . Chest 2000 ; 117 : 287-289 .
- 12) 中條秀信 , 汲田伸一郎 , 水村 直 , 趙 圭一<sup>1)</sup> , 木島鉄仁<sup>2)</sup> , 隈崎達夫 , 佐野純子<sup>3)</sup> , 草間芳樹<sup>3)</sup> , 宗像一雄<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科 , <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科 , <sup>3)</sup>内科第1 ): Tc-99m-sestamibi 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた急性心筋梗塞における局所壁収縮能異常に関する検討 : Wall Thickening および Regional Ejection Fraction による罹患冠動脈検出能について . 核医学 1999 ; 36 ( 5 ) : 435-443 .
- 13) 田島廣之 , 隈崎達夫 : 肺動脈造影と IVR . 臨床放射線 1999 ; 44 ( 8 ) : 913-919 .
- 14) 渡 潤<sup>1)</sup> , 田島廣之 , 吉村明修<sup>2)</sup> , 工藤翔二<sup>2)</sup> , 五味淵誠<sup>3)</sup> , 矢野 侃<sup>4)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>下谷病院放射線科 , <sup>2)</sup>内科第4 , <sup>3)</sup>外科第2 , <sup>4)</sup>荒川がん予防センター ): Computed Radiography による肺癌検診比較読影システムの開発とその臨床応用 . 肺癌 1999 ; 39 ( 4 ) : 437-442 .
- 15) 田島廣之 , 隈崎達夫 , 川俣博志 , 高橋修司 , 後藤慎介 , 岡島雄史 , 市川和雄 , 高山守正<sup>1)</sup> , 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性肺血栓塞栓症に対する Interventional Radiology の進歩 . 脈管学 1999 ; 39 ( 9 ) : 475-479 .
- 16) 宮下次廣 , 館野 温 , 隈崎達夫 : 良性疾患放射線治療の今日的意義と問題点 . 日放線腫瘍会誌 1999 ; 11 ( 3 ) : 223-228 .
- 17) 川俣博志 , 館野 温 , 金子昌裕<sup>1)</sup> , 高橋修司 , 田島廣之 , 隈崎達夫 , 小嶋隆行<sup>1)</sup> , 田尻 孝<sup>1)</sup> , 恩田昌彦<sup>1)</sup> , 恩田宗彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>外科第1 , <sup>2)</sup>病理第2 ): 回転デジタル血管撮影下経カテーテル的動脈塞栓術で止血し得た空腸平滑筋腫の1切除例 . 日消病会誌 1999 ; 96 ( 10 ) : 1153-1158 .
- 18) 林 宏光 , 隈崎達夫 , 小林尚志<sup>1)</sup> , 宍戸文男<sup>2)</sup> , 森谷浩史<sup>2)</sup> , 塩山靖和<sup>3)</sup> , 松枝 清<sup>4)</sup> , 田中 修<sup>5)</sup> , 小林泰之<sup>5)</sup> , 若林洋行<sup>6)</sup> , 平松京一<sup>6)</sup> , 小林成司<sup>6)</sup> , 黒田知純<sup>7)</sup> , 細見尚弘<sup>7)</sup> , 小川 龍<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup>古賀病院附属医学研究所放射線科 , <sup>2)</sup>福島県立医科大学放射線科 , <sup>3)</sup>茨城県立中央病院放射線科 , <sup>4)</sup>愛知県立がんセンター放射線科 , <sup>5)</sup>自治医科大学附属大宮医療センター放射線科 , <sup>6)</sup>慶應義塾大学放射線診断科 , <sup>7)</sup>大阪府立成人病センター放射線

- 診断科,<sup>8)</sup>麻酔科): 高速らせんCTによる造影CT; イオヘキソールを用いた3次元CT血管造影法における造影効果, 安全性, 有用性ならびに至適用量の検討. 映像情報MEDICAL 1999; 31(22): 1261-1274.
- 19) 汲田伸一郎, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信, 趙圭一<sup>2)</sup>, 水村直, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>3)</sup>, 多田裕美子<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>3)</sup>, 宗像一雄<sup>3)</sup>, 岸田浩<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>内科第1): 心筋梗塞症例における<sup>123</sup>I-iodophney1-9-methyl-pentadecanoic acid (9MPA) 心筋シンチグラフィ: Tc-99m-sestamibi 心拍同期心筋SPECTを用い解析した局所収縮能との比較検討. 核医学 1999; 36(3): 241-248.
- 20) 高木亮, 天野康雄, 寺本明<sup>1)</sup>, 山王なほこ<sup>1)</sup>, 石原真木子, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>脳神経外科): 下垂体腺腫に対するmagnetization transfer contrast法を用いた初期臨床応用. ホルモンと臨床 1999; 47: 80-83.
- 21) 林宏光, 井上幸平<sup>1)</sup>, 若林洋行, 高浜克也, 石原真木子<sup>1)</sup>, 高木亮, 川俣博志, 市川太郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 血管病変の画像診断: 高速らせんCTの登場は何をもたらしたか, そして何をもたらすのか. 脈管学 1999; 39: 291-295.
- 22) 林宏光, 石原真木子<sup>1)</sup>, 高浜克也, 中條秀信, 井上幸平<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): Moving-table MR angiographyによるvascular treeの構築: 連続画像合成プログラムの開発と初期臨床応用. 日医放会誌 1999; 59: 409-411.
- 23) 田島廣之, 田島なつき<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>伊利医院, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 下肢静脈瘤の高精細造影MR Venography. 脈管学 2000; 40(1): 25-27.
- 24) 田島廣之, 後藤慎介, 隈崎達夫: [科研費研究課題の成果] 重症骨盤骨折の出血に関する研究: 回転デジタル血管撮影を用いた診断と治療. INNERVISION 1999; 14(8): 51.
- (2) 研究報告書:
- 1) 吉村明修<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 矢野侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 宮本忠昭<sup>4)</sup>, 松本徹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup>東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所): [分担] III. 課題 研究結果 2. 荒川区がん予防センターにおけるらせんCTによる肺癌1次検診の成績. らせんCTによる集団肺癌検診システム開発・評価に関する研究報告書(荒川区がんセンター放医総研, 日本医大) 1999; pp45-52.
- (3) 総説:
- 1) 林宏光: Report on first international symposium on multidetector row CT. World On-Line News: Radiology 2000; 22: 26-27.
- 2) 林宏光, 隈崎達夫: Clinical Quiz: Invasive Pulmonary Aspergillosis. Japan Clipping Today 2000; 4: 19-20.
- 3) 林宏光, 隈崎達夫: 3次元画像による血栓の画像診断: CT, MRIを中心に:(その1). 血栓と循環 1999; 7(2): 4-7.
- 4) 市川太郎, 隈崎達夫, 林宏光, 高木亮: 高速らせんCTの使い方. 臨床画像 1999; 86-87.
- 5) 隈崎達夫: 「経上腕動脈アプローチによる心臓カテーテル検査における術者被曝線量: 経大腿動脈アプローチとの対比」千田ら論文に対するコメント. 心臓 1999; 31(8): 593-594.
- 6) 林宏光, 高木亮, 市川太郎, 隈崎達夫: らせん走査型CTの新しい技術; Multidetector-row(多列検出器型)CTを理解するために. 日獨医報 1999; 44(2): 330-341.
- 7) 隈崎達夫: ビデオシンボジウム1. Interventional Radiologyの進歩. 序文. 脈管学 1999; 39(9): 457-457.
- 8) 林宏光, 川俣博志, 高木亮, 天野康雄, 高浜克也, 石原真木子<sup>1)</sup>, 古川一博, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 骨盤・四肢: 治療支援画像としての可能性を考える. 臨床画像 1999; 15(9): 1118-1130.
- 9) 天野康雄, 林宏光, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, Herfkens. R. J<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>スタンフォード大学放射線科): [連載] 画像から学ぶ血栓症 第15回 3次元画像による血栓の画像診断: CT, MRIを中心に:(その2, 肺血栓塞栓症). 血栓と循環 1999; 17(3): 208-211.
- 10) 村上隆介<sup>1)</sup>, 林宏光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): CT: 血管性病変. 画像診断 1999; 19(9):

1023-1029 .

- 11) 天野真紀 : Multidetector computed tomography による腹部血管の描出能の検討 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 5 ) : 359-360 .
- 12) 隈崎達夫 : IVRist とは . 治療学 1999 ; 33 ( 11 ) : 104 .
- 13) 林 宏光 , 隈崎達夫 : 三次元CT血管造影法 . Medicina 1999 ; 36 ( 12 ) : 1863-1865 .
- 14) 田島廣之 , 林 宏光 , 小林由子<sup>1)</sup> , 村上隆介<sup>1)</sup> , 高橋修司 , 岡島雄史 , 市川和雄 , 高浜克也 , 川俣博志 , 天野康雄 , 田島なつき<sup>2)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科 , <sup>2)</sup> 伊利医院 ) : 胸部疾患のMR診断 . 大動脈 , 肺動脈 , 大静脈 . 臨床画像 1999 ; 15 ( 10 ) : 46-56 .
- 15) 高木 亮 : 脳動脈瘤の最新の知見 ; 画像診断 . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 : 641-644 .
- 16) 高木 亮 , 林 宏光 , 村井保夫<sup>1)</sup> , 市川太郎 , 寺本 明<sup>1)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 脳神経外科 ) : CT 造影剤で可能になること : 頭部三次元CT血管造影法の最新の知見 . 新医療 1999 ; 298 : 89-92 .
- 17) 高木 亮 , 林 宏光 , 村井保夫<sup>1)</sup> , 池田幸穂<sup>2)</sup> , 寺本 明<sup>1)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 脳神経外科 , <sup>2)</sup> 昭和大学脳神経外科 ) : 三次元CTによる脳血管性病変の診断 . 脳神経 1999 ; 51 ( 12 ) : 1015-1022 .
- 18) 林 宏光 , 川俣博志 , 高木 亮 , 市川太郎 , 隈崎達夫 : 新しい画像診断 : 3次元CT . 臨床泌尿器科 1999 ; 53 : 385-390 .
- 19) 小林尚志<sup>1)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 古賀病院附属医学研究所 ) : CT 以前 , そしてマルチスライスCTとコーンビームCT の話題まで . 症例でみる高速ラセンCTの実際 . INTNERVISION 1999 ; 14 ( 3 ) : 4-11 .
- 20) 林 宏光 , 川俣博志 , 隈崎達夫 : 急性大動脈解離 : 画像診断における新しい知見とステントグラフト治療の可能性 . Tokyo Heart Journal 1999 ; 19 : 19-30 .
- 21) 小林尚志<sup>1)</sup> , 神田哲郎<sup>1)</sup> , 永松直樹<sup>1)</sup> , 井手克美<sup>1)</sup> , 古賀俊彦<sup>1)</sup> , 鈴木 聡<sup>2)</sup> , 大曲淳一<sup>2)</sup> , 林 宏光 , 高木亮 , 市川太郎 , 隈崎達夫 , 朝戸幹雄<sup>3)</sup> , 山田公治<sup>4)</sup> , 塩山靖和<sup>4)</sup> , 雨宮降太<sup>5)</sup> , 松枝 清<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 古賀病院附属医学研究所 , <sup>2)</sup> 古賀病院ガンマナイフセンター , <sup>3)</sup> 宮崎医科大学放射線科 , <sup>4)</sup> 茨城県立中央病院放射線科 , <sup>5)</sup> 茨城県立中央病院外科 , <sup>6)</sup> 愛知県がんセンター放射線診断部 ) : 症例で見る高速ラセンCTの実際 : CT 以前 , そしてマルチスライスCTとコーンビームCTの話題まで : シリーズ最終回にかえて . INNERVISION 1999 ; 14 : 4-11 .
- 22) 小林尚志<sup>1)</sup> , 永松直樹<sup>1)</sup> , 井手克美<sup>1)</sup> , 古賀 博<sup>1)</sup> , 森松康文<sup>1)</sup> , 神田哲郎<sup>2)</sup> , 大曲淳一<sup>2)</sup> , 鈴木 聡<sup>3)</sup> , 蒲池正浩<sup>4)</sup> , 古賀伸彦<sup>5)</sup> , 林 宏光 , 高木 亮 , 隈崎達夫 , 高木 博<sup>1)</sup> , 馬場理香<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 古賀病院放射線科 , <sup>2)</sup> 新古賀病院放射線科 , <sup>3)</sup> 新古賀病院ガンマナイフセンター , <sup>4)</sup> 新古賀病消化器外科 , <sup>5)</sup> 新古賀病院循環器内科 , <sup>6)</sup> 日立メディコ技術研究所 , <sup>7)</sup> 日立製作所中央研究所 ) : コーンビーム3次元CTの可能性と課題 . 新医療 1999 ; 298 : 58-62 .
- 23) 林 宏光 , 小林尚志<sup>1)</sup> , 高木 亮 , 石原眞木子<sup>2)</sup> , 高浜克也 , 若林洋行 , 中條秀信 , 市川太郎<sup>3)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 古賀病院附属医学研究所 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科 , <sup>3)</sup> 多摩永山病院放射線科 ) : 症例で見る高速ラセンCTの実際 : Voxel transmission法を用いた血管性病変の三次元CT血管造影 . INNERVISION 1999 ; 14 : 52-57 .
- 24) 沢野誠志<sup>1)</sup> , 林 敏彦<sup>1)</sup> , 山下 孝<sup>1)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 癌研究会附属病院放射線治療部 ) : ここまで来た画像診断 : 正常解剖ならびに腫瘍性病変の画像診断 ( 腸間膜について . カレントセラピー 1999 ; 17 ( 7 ) : 135-137 .
- 25) 隈崎達夫 : 超音波診断の最前線 . 何が進歩したか ( 序説 ) . 臨床画像 2000 ; 16 ( 2 ) : 145-145 .
- 26) 隈崎達夫 : 指導医制度設立計画を担当して思う事 . 日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2000 ; 15 ( 1 ) : 1 .
- 27) 汲田伸一郎 : 米国心臓核医学の動向 . ニュータウンカンファレンス報文集 2000 ; 24 ( 1 ) : 124-129 .
- 28) 高木 亮 , 天野康雄 , 寺本 明<sup>1)</sup> , 山王なほ子<sup>1)</sup> , 石原眞木子<sup>2)</sup> , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 脳神経外科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科 ) : 下垂体腺腫 : update , Mgnetaization Transfer Contrast 画像 . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 :

38-40 .

- 29) 木内 要<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>2)</sup>, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 林 宏光 ( <sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>集中治療室): 心異常陰影を認めた46歳の女性. 日本心臓病学会誌 2000 ; 35 : 147-148 .
- 30) 林 宏光, 隈崎達夫: Clinical Quiz : Inflammatory Abdominal Aortic aneurysm . Japan Clipping Today 2000 ; 5 : 19-20 .
- 31) 天野康雄, 隈崎達夫, 田近賢二<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3): 悪性リンパ腫の画像診断: その有用性と限界. 日本臨床 2000 ; 58 : 629-634 .

## 著 書

- 1) 宮下次廣, 菱沢利之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>藤間病院): [ 分担 ] 腰痛のX線CT診断: MRIのない施設でのノウハウ. 臨床放射線のコツと落とし穴, 「検査・診断 Part 2」(小塚隆弘編集), 1999 ; pp105-107, 中山書店 .
- 2) 田島廣之: [ 分担 ] 胸部. 上大静脈症候群に対するステント治療. 3臨床放射線のコツと落とし穴: IVR (小塚隆弘編集), 1999 ; pp38-39, 中山書店 .
- 3) 田島廣之: [ 分担 ] 救急. 急性肺血栓塞栓症に対するIVR. 3臨床放射線のコツと落とし穴: IVR (小塚隆弘編集), 1999 ; pp128-129, 中山書店 .
- 4) 高橋修司: [ 分担 ] 救急. 重症骨盤外傷に対するIVR. 3臨床放射線のコツと落とし穴: IVR (小塚隆弘編集), 1999 ; pp140-141, 中山書店 .
- 5) 隈崎達夫: [ 分担 ] 手技全般. 回転DSAの使い方のコツ. 3臨床放射線のコツと落とし穴: IVR (小塚隆弘編集), 1999 ; pp174-176, 中山書店 .
- 6) 隈崎達夫: [ 監修 ] イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; メディックメディア .
- 7) 市川和雄: [ 編集 ] イヤーノート・アトラス, 1999 ; メディックメディア .
- 8) 高木 亮: [ 分担 ] イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; pp36-38, メディックメディア .
- 9) 田島廣之: [ 分担 ] 胸部. イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; pp40-45, メディックメディア .
- 10) 岡島雄史: [ 分担 ] 上部消化管. イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; pp46-46, メディックメディア .
- 11) 市川太郎: [ 分担 ] 腹部: 腹部CTの読み方. イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; pp47-48, メディックメディア .
- 12) 林 宏光: [ 分担 ] 腹部. イヤーノート・アトラス (市川和雄編集), 1999 ; pp48-50, メディックメディア .
- 13) 宮下次廣, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科): [ 分担 ] ケロイドの放射線治療: 術後照射を中心に. 臨床放射線のコツと落とし穴, 第4巻「治療」(小塚隆弘編集), 1999 ; pp210-211, 中山書店 .
- 14) 林 宏光: [ 分担 ] 血管壁を診る. 臨床放射線のコツと落とし穴. 検査・診断 Part 2 (小塚隆弘編集), 1999 ; pp136-137, 中山書店 .
- 15) 天野康雄, 隈崎達夫: [ 分担 ] X骨髄. 現場で役立つ臨床MRIシリーズ第4巻骨軟部のMRI: 必修知識と読影のコツ (杉村和郎監修, 杉本英治編集), 2000 ; pp216-225, メディカル・ビュー .
- 16) 田島廣之, 隈崎達夫: [ 分担 ] 血管造影. 大腸: 癌発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000 ; pp135-150, メディカグローブ .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 天野康雄: Three-dimensional cardiac cine magnetic resonance imaging with ultrasmall superparamagnetic iron oxide blood pool contrast agent. 第67回日本医科大学医学学会総会, 1999 . 9 .
- 2) 天野真紀: Multidetector computed tomography ; Theory imaging protocol, and preliminary results of three

dimensional visceral and renal CT angiography . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .

- 3) 林 宏光 : 急性大動脈解離 : 画像診断における新しい知見とステントグラフト治療の可能性 . 第49回東京心臓の会 , 1999 . 5 .
- 4) 汲田伸一郎 : Quantitative Gate SPECT の臨床 . 第1回 Hyogo Gated SPECT 研究会 , 1999 . 7 .
- 5) 汲田伸一郎 : 最新の心臓核医学 . 第6回 FS フォーラム , 1999 . 8 .
- 6) 隈崎達夫 : 救急疾患の血管 IVR : IVR センター設立の一步を経て思う事 . 第13回日本血管造影・インターベンショナルラジオロジー学会 中国・四国地方会 , 1999 . 9 .
- 7) 宮下次廣 : Evidence based medicine の観点からみた標準的乳癌治療の検討「化学療法・ホルモン療法」. 第316回放射線治療談話会 , 1999 . 11 .
- 8) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の新しい展開 . 第45回沖縄県核医学懇話会 , 1999 . 11 .
- 9) 隈崎達夫 : Vascular Interventional Radiology の将来展望 : 夢を遂げさせよう , 患者さんの為に . 第20回岡山血管造影 INTERVENTIONAL RADIOLOGY 症例検討会20回記念講演会 , 2000 . 2 .
- 10) 林 宏光 : 3次元CTとマルチスライスCT : 現状と展望 . 第3回 ME 学会専門部注研究会「循環器機能情報イメージング研究会」, 2000 . 2 .
- 11) 林 宏光 : Multidetector-row CT : 基礎 , 技術 : CTA における進歩を中心に . 第22回 Radiology Update , 2000 . 2 .
- 12) 高木 亮 : 頭部三次元CTの実際 : 画像再構成法の現状と今後の展望 . 第2回日立CT user Meeting , 2000 . 2 .

#### (2) 招待講演 :

- 1) 汲田伸一郎 , 趙 圭一<sup>1)</sup> , 中條秀信 , 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科 ) : 心電図同期 SPECT の基礎 . 心電図同期 SPECT 研究会 , 1999 . 5 .
- 2) 汲田伸一郎 : 最新の心臓核医学 . 国公立大学病院診療放射線技術者研修 , 1999 . 6 .
- 3) 隈崎達夫 : 救急血管疾患の3次元画像診断とIVR・IVR センター設立をふまえて思う事 . 第222回 S. T. R. Medical Conference , 1999 . 7 .
- 4) 中條秀信 , 汲田伸一郎 : coronary MRA と心拍同期心筋 SPECT データを用いた3次元統合システム . 日立 / ADAC ユーザーズミーティング , 1999 . 10 .
- 5) 隈崎達夫 : 大血管 , 末梢血管の新しい画像診断と血管内治療 . 海老名市学術講演会 , 2000 . 2 .

#### (3) 教育講演 :

- 1) 隈崎達夫 : IVR の現状と将来展望 : IVR センター設立を踏まえて思う事 . 日本放射線技術学会第55回総会学術大会 , 1999 . 4 .
- 2) 隈崎達夫 : IVR 領域の進歩 ; 大血管の IVR とその進歩 . 第13回日本医学放射線学会冬季セミナー - 生涯教育講演会 - , 2000 . 2 .
- 3) 田島廣之 : 急性疾患の画像診断 . 腹部外傷 . 日本医学放射線学会関東地方会セミナー , 2000 . 2 .

#### (4) シンポジウム :

- 1) Kumita S , Cho K<sup>1)</sup> , Nakajo H , Mizumura S , Kijima T<sup>2)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Oarai-Kaigan Hospital ) : Assessment of LV function under stress using ECG-gated myocardial SPECT . . 4th International Conference of Nuclear Cardiology users group meeting ( Athens ) , 1999 . 4 .
- 2) 小林尚志<sup>1)</sup> , 古賀俊彦<sup>1)</sup> , 林 宏光 ( <sup>1)</sup> 古賀病院附属医学研究所 ) : 21世紀の画像診断 ; 三次元CT画像 . 第25回日本医学会総会 , 1999 . 4 .
- 3) 田島廣之 , 隈崎達夫 , 川俣博志 , 高橋修司 , 後藤慎介 , 岡島雄史 , 市川和雄 , 高山守正<sup>1)</sup> , 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ) : 血栓溶解療法と thrombectomy : 急性肺血栓塞栓症を中心として ( 主題 : IVR とニューテクノロジー ) . 第58回日本医学放射線学会総会 , 1999 . 4 .



- 4) 市川太郎, 隈崎達夫: 癌の早期診断: 膵癌の早期診断. 第25回日本医学会総会, 1999. 4.
- 5) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 水村 直, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>内科第1 ): 心電図同期心筋SPECTを用いた心筋灌流, 心機能の定量解析: 左室リモデリング評価への臨床応用をふまえて. 第20回心臓核医学研究会, 1999. 5.
- 6) 林 宏光, 石原真木子<sup>1)</sup>, 高浜克也, 天野康雄, 高木 亮, 隈崎達夫, 森谷浩人<sup>2)</sup>, 高橋良行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>GE横河メデシカルシステム ): 動脈硬化性血管疾患の画像診断; Moving-Table MR Angiographyのあたえるインパクト. GE横河メデシカルシステム, 1999. 6.
- 7) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性肺血栓塞栓症に対する血栓吸引療法: 手技上の工夫と適応の拡大 ( 主題: 静脈 ). 第5回日本血管内治療学会, 1999. 6.
- 8) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史: 血管内治療におけるコーンビームCTの応用 ( 主題: 画像診断I ). 第5回日本血管内治療学会, 1999. 6.
- 9) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 村田 智, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓吸引療法. 第11回関東IVR研究会, 1999. 7.
- 10) 田島廣之: 大動脈瘤と大動脈解離の臨床: 適応と治療法. 第9回循環器セラピューティック・フォーラム, 1999. 10.
- 11) 村田 智: 肝静脈閉塞 ( 主題: 肝内血流動態異常とそのイメージング ). 第35回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1999. 10.
- 12) 町田 幹<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>病理第2 ): 血管壁でのHDL ( Apo A-I ), LDL ( Apo B ) の分布の変化と動脈硬化病変の差異 ( 主題: 動脈硬化をめぐると最近の話題 ). 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 13) 亀山孝二<sup>1)</sup>, 長谷場 健<sup>2)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>1)</sup>, 町田 稔, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>法医学 ): 冠動脈平滑筋細胞の膜変化とアルコール脱水素酵素 ( ADH ) の発現. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 14) 高木 亮, 林 宏光, 村井保夫<sup>1)</sup>, 玉置智則<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>脳神経外科 ): 3D-CTAを用いた脳動脈瘤の診断: 最新の画像精度と新しい画像再構成法の臨床応用の実際. 第23回日本脳神経CI学会, 2000. 1.
- 15) 林 宏光, 隈崎達夫: 血管疾患のMRA. 第19回日本画像医学会, 2000. 2.
- (5) セミナー:
- 1) 林 宏光, 隈崎達夫: 3D-MRA, 3D-CTAによるMinimally Invasive Vascular Imaging: Update. 第27回日本磁気共鳴医学会大会, 1999. 9.
- (6) 一般講演:
- 1) Kumita S, Cho K<sup>1)</sup>, Mizumura S, Nakajo H, Kijima T<sup>2)</sup>, Kumazaki T, Sano J<sup>3)</sup>, Shinada T<sup>3)</sup>, Munakata K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Oarai-Kaigan Hospital, <sup>3)</sup>First department of internal medicine ): Left ventricular function at rest and during exercise in normal subjects: assessment by ECG-gated SPECT. 4th International Conference of Nuclear Cardiology ( Athens ), 1999. 4.
- 2) Nakajo H, Kumita S, Cho K<sup>1)</sup>, Mizumura S, Ishihara M, Kijima T<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Oarai-kaigan Hospital ): Three-dimensional unification of ECG-gated SPECG and coronary MR angiography. 4th international congress of nuclear cardiology ( Athens ), 1999. 4.
- 3) Toba M, Ishida Y<sup>1)</sup>, Fukuchi K<sup>1)</sup>, Fukushima K<sup>1)</sup>, Takamiya M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Cardiovascular Center ): Application of ECG-gated Tc-99m sestamibi cardiac imaging to patients with arrhythmogenic right ventricular dysplasia ( ARVD ). The 4th International conference of nuclear cardiology ( Athens ), 1999. 4.

- 4) Kawamata H, Tajima H, Takahashi S, Okajima Y, Ichikawa K, Ohya T<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, Nissan Tamagawa Hospital ): Wedge-shaped low density area of the liver on the contrast-enhanced CT after a TIPS creation ; A new sign of shunt dysfunction . ISIR & JSAIR 99' (7th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging, 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology )( Osaka ), 1999 . 5 .
- 5) Mizumura S, Kumita S, Cho K, Ishihara M, Kijima T, Nakajo H, Kojima T, Mizutani K, Kumazaki T : Disturbed brain circulation on Tc-99m ECD dynamic SPECT reflect compromised vasodilatory function in intracranial artery occlusive disease . European Association Nuclear Medicine ( Barcelona ), 1999 . 10 .
- 6) Tajima H, Kumazaki T, Watari J, Xu X, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Ando M<sup>1)</sup>, Kudo S<sup>1)</sup>, Yano M<sup>2)</sup>, Matsumoto M<sup>3)</sup>, Miyamoto T<sup>4)</sup>, Matsumoto T<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>4thInt. Med, <sup>2)</sup>Arakawa Cancer Prevention Center, <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan University of Health Sciences, <sup>4)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Peripheral lung cancer : Screening and detection with low-dose spiral computed tomography versus computed radiography . 12th European Congress of Radiology ( Vienna ), 2000 . 3 .
- 7) 林 宏光, 川俣博志, 高橋修司<sup>1)</sup>, 市川和雄, 岡島雄史, 田島廣之, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>杏林大学放射線科 ): Acute rupture of a thoracic aortic aneurysm relieved with use of endovascular stent-grafts ; a lethal adverse reaction following administration of tissue plasminogen activator . 第50回心臓血管放射線研究会, 2000 . 1 .
- 8) 宮下次廣, 館野 温, 石王道人, 市川太郎, 若林洋行, 阿部 豊, 吉田太郎, 隈崎達夫, 百束比古<sup>1)</sup>, 杉崎健一<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>多摩南部地域病院放射線科 ): 胸骨部ケロイドの放射線治療 : 術後自己管理の徹底を中心に . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 9) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 中條秀信, 秋山一義, 古川一博, 中澤 賢, 大石卓爾, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科 ): 心電図同期心筋SPECT データ短時間収集法に基づく運動負荷時佐室機能解析 : 虚血性心疾患症例への臨床応用 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 10) 林 宏光, 石原眞木子, 高浜克也, 古川一博, 松田 亮, 井上幸平<sup>1)</sup>, 高木 亮, 隈崎達夫, 森谷浩人<sup>2)</sup>, 高橋良行<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>GE 横河メディカルシステム ): Moving-Table MR Digital Subtraction Angiography による大血管 : 末梢血管病変の : 時的診断 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 11) 井手克己<sup>1)</sup>, 白石哲也<sup>1)</sup>, 森松康文<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>2)</sup>, 林 宏光, 山田公治<sup>3)</sup>, 青木祐子<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>古賀病院放射線部, <sup>2)</sup>古賀病院附属医学研究所, <sup>3)</sup>茨城県県立中央病院放射線技術科, <sup>4)</sup>日立メディコ ): 実機搭載型 Perspective Voxel Transmission 法と平行投影方による3D画像の比較検討 . 第55回日本放射線技術大会総会, 1999 . 4 .
- 12) 高木 亮, 天野康雄, 石原眞木子, 林 宏光, 高浜克也, 中原 圓, 井上幸平<sup>1)</sup>, 松田 亮, 市川太郎<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 下垂体腺種における Magnetization Transfer Contrast 画像の臨床応用 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 13) 高橋修司, 田島廣之, 川俣博志, 市川和雄, 後藤慎介, 岡島雄史, 森下 実, 館野展之, 吉田太郎, 隈崎達夫 : 下肢静脈造影に対する Digital Radiography の臨床経験 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 14) 水村 直, 汲田伸一郎, 石原眞木子, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 中條秀信, 秋山一義, 中澤 賢 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科 ): 慢性脳動脈閉塞症における ECD dynamic, static SPECT の乖離 : IMP SPECT との比較 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 15) 後藤慎介, 川俣博志, 田島廣之, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 植田候平, 吉川 晃, 館野展之, 隈崎達夫 : 腸骨動脈領域における閉塞性動脈硬化症に対する金属ステント留置術 : 長期成績に関する検討 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 16) 館野 温, 宮下次廣, 若林洋行, 阿部 豊, 山田 明, 清水康弘<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 福永 毅, 吉田太郎, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>坪井病院放射線科 ): 子宮頸癌腔内照射における子宮腔内線源による腸管障害の軽減対策 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .

- 17) 高浜克也, 林 宏光, 石原眞木子, 高木 亮, 中原 圓<sup>1)</sup>, 阿部 豊, 井上幸平<sup>2)</sup>, 松田 亮, 市川太郎, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科 ): 肝腫瘤性病変における造影MRI ; Ferumoxides 造影MRI とGd-DTPA 造影ダイナミックMRI の診断能の比較 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 18) 村上隆介<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 清水有二<sup>2)</sup>, 平岡保紀<sup>2)</sup>, 町田 稔<sup>3)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>病理第2 ): 腎癌に対するバルーン閉塞インターフェロン動注療法 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 19) 岡島雄史, 田島廣之, 石王道人, 川俣博志, 市川和雄, 松田 亮, 森下 実, 館野展之, 隈崎達夫, 渡 潤<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>下谷病院放射線科 ): 胸部病変に対するCTガイド下生検の成績 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 20) 石原眞木子, 林 宏光, 高木 亮, 天野康雄, 高浜克也, 中條秀信, 井上幸平<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 椋沢宏之<sup>2)</sup>, 高橋良行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>GE 横河メディカルシステム ): 局所脳拡散テンソル解析の有用性: 脳血管性病変及び加齢による影響 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 21) 植田候平, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 森下 実, 隈崎達夫: 急性肺血栓塞栓症に対する血栓吸引療法 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 22) 市川和雄, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史, 森下 実, 植田候平, 館野展之, 隈崎達夫: Aortic Stent-Graft 留置術におけるコーンビーム3次元CTの応用 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 23) 中條秀信, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 秋山一義, 清水康弘<sup>2)</sup>, 古川一博, 大石卓爾, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>坪井病院放射線科 ): 心拍同期心筋SPECT を用いた心筋梗塞症例における予後評価: QGS+TM プログラムによる軽時的心筋血流・心機能評価に基づいた検討 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 24) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 中條秀信, 石原眞木子, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 安藤 順, 岡田 進, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科 ): 心拍同期心筋SPECT を用いた急性心筋梗塞再灌流例における Salvaged Myocardium の評価 . 58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 25) 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 水村 直, 石原眞木子, 中條秀信, 秋山一義, 大石卓爾, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科 ): MCLS Cardiac Involvement におけるDOB 負荷 Tc-99m tetrofosmin 心筋SPECT の有用性 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .
- 26) 村上隆介<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 中澤 賢, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 町田 稔, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>病理第2 ): 後腹膜気腫性嚢腫の1例 . 第13回腹部放射線研究会, 1999 . 6 .
- 27) 後藤慎介, 田島廣之, 石王道人, 川俣博志, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 森下 実, 隈崎達夫, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科第1 ): 肺炎により右腎動脈に発生した仮性動脈瘤に対してTAE が著効を示した1例 . 第5回日本血管内治療学会, 1999 . 6 .
- 28) 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳健<sup>1)</sup>, 呂 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>外科第1 ): 重症急性肺炎に対する動注療法: 予後点数, APACHEII および重症度スコアの推移 . 第54回日本消化器外科学会総会, 1999 . 7 .
- 29) 谷口拓樹<sup>1)</sup>, 永尾朋洋<sup>1)</sup>, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>日立メディコ技術開発研究所 ): Curvedplanar Reconstruction システムの開発 . 第18回日本医用画像工学会大会, 1999 . 7 .
- 30) 高橋修司, 川俣博志, 市川和雄, 田島廣之, 岡島雄史, 後藤慎介, 村田 智, 隈崎達夫, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 小川 龍<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第2, <sup>3)</sup>外科第2, <sup>4)</sup>麻酔科 ): 胸部大動脈瘤破裂に対し緊急大動脈ステントグラフト留置術が奏効した1例 . 第11回関東IVR研究会, 1999 . 7 .
- 31) 武村 明<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 安藤真弘<sup>2)</sup>, 渋谷昌彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 矢野 侃<sup>3)</sup>, 松本満臣<sup>4)</sup>, 宮本忠昭<sup>5)</sup>, 松本 徹<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>内科第4, <sup>3)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>4)</sup>東京都立保健科学大学,

- 5) 放射線医学総合研究所): らせんCTによる肺癌1次検診: 2年間のフォローアップ成績. 第40回日本肺癌学会総会, 1999. 9.
- 32) 高浜克也, 林 宏光, 天野康雄, 高木 亮, 山田 明, 松田 亮, 市川太郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 石原真木子<sup>2)</sup>, 趙圭一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 肝腫瘤性病変における造影MRI. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 33) 舘野 温, 宮下次廣, 神代勝敏<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>付属病院放射線科技師): 放射線治療計画装置REXXAMの使用経験. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 34) 中條秀信, 汲田伸一郎: 心電図同期心筋シンチグラフィの臨床応用: 冠動脈MRAとの3次元統合を含めて. 放射線診療研究会, 1999. 9.
- 35) 吉田太郎, 水村 直, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩, 秋山一義, 小島豊之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>脳神経外科): Statistical Parametric Mappingを用いたSPECTデータの統計学的解析; 脳血管狭窄症におけるacetazolamide反応性評価. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 36) 中澤 賢, 町田 稔, 内山菜智子, 天野康雄, 高木 亮, 林 宏光, 市川太郎, 隈崎達夫, 増野智彦<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救命救急センター): 血胸にて発症した成人胸壁原発神経芽細胞腫の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 37) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤<sup>1)</sup>, 石王道人, 岡島雄史, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>下谷病院放射線科): 気管・気管支狭窄に対するExpandable metallic stentの臨床応用. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 38) 伊藤 民, 岡島雄史, 田島廣之, 石王道人, 市川和雄, 高橋修司, 川俣博志, 村田 智, Niggemann P, 隈崎達夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): 原発性肝細胞癌に対する経皮的高周波凝固術(PMCT)の経験. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 39) 隈崎達夫: 放射線の医用利用: 診断分野における動向. 長期計画策定会議第五分科会第2回会合, 1999. 10.
- 40) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 水村 直, 鳥羽正浩, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 秋山一義, 小島豊之<sup>3)</sup>, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>4)</sup>, 桜井 薫<sup>4)</sup>, 宗像一雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>脳神経外科, <sup>4)</sup>内科第1): 心電図同期心筋SPECT短時間収集法を用いたドブタミン負荷心筋シンチグラフィ. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 41) 高木 亮, 小島豊之<sup>1)</sup>, 山田 明, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>脳神経外科): 下垂体腺腫の術前診断におけるMTCの有用性. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 42) 水村 直, 汲田伸一郎, 石原真木子<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 小島豊之<sup>3)</sup>, 中條秀信, 秋山一義, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>脳神経外科): 虚血脳組織における<sup>99m</sup>Tc-ECD静注後の動態: 安静時, Diamox負荷時の血管相, 停滞相の相違. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 43) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 秋山一義, 大石卓爾<sup>3)</sup>, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>4)</sup>, 宗像一雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>博慈会記念総合病院放射線科, <sup>4)</sup>内科第1): 心拍同期心筋SPECTを用いた心筋梗塞症例における予後評価: Auto QUANTTMによる経時的心筋血流・心機能評価に基づいた検討. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 44) 石原真木子<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 斉藤晴美<sup>2)</sup>, 中村亜矢<sup>2)</sup>, 櫻井 実<sup>2)</sup>, 尾科隆司<sup>3)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同放射線科技師, <sup>3)</sup>付属病院放射線科技師): 心筋SPECT像のMRIを用いた部分容積効果補正: 拍動型心臓ファントムによる検討. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 45) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 中條秀信, 石原真木子<sup>1)</sup>, 櫻井 実<sup>3)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>千葉北総病院放射線科技師): 陳旧性心筋梗塞例における脂肪酸代謝低下領域と運動負荷虚血領域の乖離: 狭心症状の有無による対比. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 46) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信, 牧野仁美<sup>1)</sup>, 中村亜矢<sup>1)</sup>, 有馬光一<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田

- 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科技師, <sup>2)</sup> 同放射線科 ): 心筋軸の傾きによる線広がり関数の変化: 斜断面上の画像に与える影響. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 47) 中村垂矢<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 趙圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信, 尾科隆司<sup>3)</sup>, 櫻井実<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科技師, <sup>2)</sup> 同放射線科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科技師 ): QGSTM プログラムによる左室駆出率算出への心拍数の影響: R-R8 分割 vs 16 分割. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 48) 小島豊之<sup>1)</sup>, 水村直, 汲田伸一郎, 趙圭一<sup>2)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 木島鉄仁<sup>3)</sup>, 中條秀信, 秋山一義, 隈崎達夫, 寺本明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup> 大洗海岸病院放射線科 ): Tc-99m MIBI SPECT による下垂体腺腫の評価: 細胞活性から捉えた微小腺腫の検出へのアプローチ. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 49) 林敏彦<sup>1)</sup>, 澤野誠志<sup>1)</sup>, 鈴木文博<sup>2)</sup>, 有賀明子<sup>1)</sup>, 山田恵子<sup>1)</sup>, 小泉満<sup>1)</sup>, 山下孝<sup>1)</sup>, 加藤友康<sup>2)</sup>, 杉山裕子<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 癌研究会附属病院放射線科, <sup>2)</sup> 同婦人科 ): 子宮腺筋症に沿って進展した子宮内膜癌の1例. 第35回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 1999. 10.
- 50) 松田亮, 川俣博志, 田島廣之, 村田智, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫: 経大腿動脈的に掌動脈弓/指動脈レベルの超選択的血栓溶解療法を施行し治癒し得た上肢動脈血栓症の1例. 第9回救急放射線研究会, 1999. 10.
- 51) 林宏光, 高木亮, 天野真紀, 内山菜智子, 高浜克也, Niggemann P, 田島廣之, 隈崎達夫, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 谷口拓樹<sup>1)</sup>, 青木祐子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日立メディコ技術開発研究所 ): 仮想CT内視法を用いたCurved Planar Reconstruction Imagingの開発. 第10回医用デジタル動画像研究会, 1999. 10.
- 52) 山科育子<sup>1)</sup>, 横山広行<sup>1)</sup>, 飯泉匡<sup>1)</sup>, 木内要<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 池崎弘之<sup>3)</sup>, 小川龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科, <sup>2)</sup> 外科第1, <sup>3)</sup> 麻酔科 ): 術後早期発症の肺血栓塞栓症に対する線溶療法の用量・投与時期に関する検討. 第6回肺塞栓症研究会, 1999. 11.
- 53) 高橋修司<sup>1)</sup>, 川俣博志, 田島廣之, 市川和雄, 岡島雄史, 村田智, 隈崎達夫, 関戸司久<sup>2)</sup>, 吉川雅智<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 落雅美<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 吉川公彦<sup>4)</sup>, 打田日出夫<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 杏林大学放射線科, <sup>2)</sup> 内科第1, <sup>3)</sup> 外科第2, <sup>4)</sup> 奈良医科大学放射線科 ): 緊急stent-graft留置術にて治癒し得た外腸骨動脈瘤破裂の1例. 第16回日本Metallic Stent & Grafts研究会, 1999. 11.
- 54) 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 村田智, 高橋修司<sup>1)</sup>, 岡島雄史, 市川和雄, 町田稔, 松田亮, 館野展之 ( <sup>1)</sup> 杏林大学放射線科 ): マイクロカテーテルを用いた四肢急性動脈閉塞症に対する超選択的血栓溶解療法. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 55) 林宏光, 石原真木子<sup>1)</sup>, 高浜克也, 天野康雄, 高木亮, 川俣博志, 隈崎達夫, 森谷浩人<sup>2)</sup>, 高橋良行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> GE横河メディカルシステム ): Moving-table MR Angiographyによる骨盤・下肢閉塞性動脈硬化症の非侵襲的診断. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 56) 町田稔, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 病理第2 ): 大動脈硬化巣におけるヘマトポルフィリンを用いた微小環境変化の蛍光スペクトル解析. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 57) 中條秀信, 汲田伸一郎: 心筋SPECTとcoronary MRAの3次元統合システムの開発. 循環画像研究会, 1999. 12.
- 58) 町田幹<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup> 病理第2 ): 血管壁でのHDL ( Apo A-I ), LDL ( Apo B ) の分布の変化と動脈硬化病変の差異. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.
- 59) 林宏光<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 天野真紀<sup>1)</sup>, 町田稔<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 高木亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科, ハイテクリサーチセンター ): Multidetector-row CTによる血管病変の3D-CT Angiography: 初期臨床報告. 第5回3次元CT・MRI研究会, 2000. 3.
- 60) 高木亮<sup>1)</sup>, 林宏光<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 町田稔<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 天野真紀<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本

明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科, ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>脳神経外科): Multidetector-row CT (MDCT) を用いた脳血管性病変の初期臨床応用. 第5回3次元CT・MRI研究会, 2000. 3.

61) 内山菜智子<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 天野真紀<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科, ハイテクリサーチセンター): 門脈圧亢進症に伴う側副血行路の把握にMDCTを用いた3DCTが有効であった1例. 第5回3次元CT・MRI研究会, 2000. 3.

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

放射線診断学: 1) 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている.

2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし, 結核, 癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている. 肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している.

3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する, いわゆる Functional radiology に目標をおき, また *H. Pylori* の胃の胃粘膜変化についても研究 중이다.

4) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し, より効率の良い, より精度の高い集検体系の確立をめざし研究 중이다.

5) MRIによる乳腺疾患の質的診断における dynamic study の応用, 乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる. また, 高分解能MRIによる脾の微小病変の描出, 2次脾管描出の研究, dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究 중이다.

Interventional radiology: 1) 悪性胆道閉塞患者に対し, 減黄およびQOL向上を目的とし, スtent挿入および放射線治療を施行している. さらにこの分野での研究に取り組んでいる.

2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術, 経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる.

放射線治療学: 1) 肺癌に対して, 放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる.

核医学: 1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる.

2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) 榎本達治<sup>1), 2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 佐藤雅史, 中田紘一郎<sup>3)</sup>, 永井英明<sup>4)</sup>, 倉島篤行<sup>4)</sup>, 蛇澤 晶<sup>4)</sup>, 杉田博宣<sup>5)</sup>, 河端美則<sup>6)</sup>, 岩井和郎<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>内科第4, <sup>3)</sup>虎ノ門病院呼吸器科, <sup>4)</sup>国立療養所東京病院呼吸器科, 検査科, <sup>5)</sup>結核予防会複十字病院呼吸器内科, <sup>6)</sup>埼玉県立循環器・呼吸器病センター検査科, <sup>7)</sup>結核予防会結核研究所病理部): ランゲルハンス細胞性肉芽腫症の気管支肺泡洗浄液中に出現する特異な組織球. 呼吸 1999; 18(5): 528-536.

2) 菊池真理, 林 敏彦, 佐藤雅史, 梶原景子, 菊竹晴子, 南部春江, 山本博人, 小俣 香, 高橋政之, 山本 彰, 松本光司<sup>1)</sup>, 太田吉男<sup>1)</sup>, 長澤由英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 喀痰中に異型細胞が検出された肺塞栓症の1例. 日本胸部臨床 1999; 58(7): 491-495.

3) 池田幸穂<sup>1)</sup>, 松本 清<sup>1)</sup>, 林 敏彦, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学医学部脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科): 脳ドックにおける高速fluid-attenuated inversion recovery (FLAIR)法の有用性. BRAIN and NERVE 1999; 51(11): 933-937.

4) 川並汪一<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>(1)</sup> 老人病研究所病理部門): [ 肺の生検 ] 肺の組織診断におけるBALの重要性 . 病理と臨床 2000 ; 18 ( 3 ): 202-208 .

(2) 総説 :

1) 佐藤雅史, 小俣 香, 菊竹晴子, 梶原景子, 南部春江, 岡田 静, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰: 肺胞性疾患 ( 特集: 胸部X線単純撮影の読影と鑑別診断 ). 臨床画像 1999 ; 15 ( 5 ): 518-527 .

2) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>(1)</sup> 第二病院外科): 背部痛に胸壁腫瘤像を伴った57歳の男性 . Medicina 1999 ; 36 ( 12 ): 1909-1915 .

3) 佐藤雅史: 強度の貧血で受診し胸部の異常陰影を指摘された41歳の女性 . Medicina 1999 ; 36 ( 13 ): 2065-2069 .

学会発表

(1) 一般講演 :

1) 佐藤雅史, 高間都支, 菊竹晴子, 梶原景子, 南部春江, 菊池真理, 岡田 静, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰: 胸部単純写真がきっかけで発見された軽微な縦隔気腫症21症例の検討: とくにChest pain variant asthmaとの関連 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .

2) 山本 彰, 山本博人, 高橋政之, 菊池真理, 南部春江, 梶原景子, 菊竹晴子, 佐藤雅史: ヘリカルCTを用いた肺癌検診のための基礎的検討: 低コントラスト小病変の検出, ファントームを用いて 第2報 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .

3) 井上幸平<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 渡部典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 佐藤雅史, 山田雅彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 富士写真フィルム ): マルチ周波数処理を用いたFuji Computed Radiography ( FCR ) 胸部単純X線写真の画像評価 . 第58回日本医学放射線学会総会, 1999 . 4 .

4) 梶原景子, 佐藤雅史, 菊竹晴子, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰: Poland症候群に合併した気胸の1例 . 第21回胸部放射線研究会東京部会, 1999 . 6 .

5) 山本博人, 山本 彰, 菊竹晴子, 梶原景子, 高橋政之, 佐藤雅史: 透析シャント不全に対するPTA . 第415回日本医学放射線学会関東地方会, 1999 . 6 .

6) 高橋直人<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 網谷堅一<sup>1)</sup>, 村澤恒男<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 稲葉敦彦<sup>2)</sup>, 門松 豊<sup>2)</sup>, 佐藤雅史 ( <sup>1)</sup> 第二病院内科, <sup>2)</sup> 同透析室 ): Neophyllin 静注により急性増悪を繰り返したARDSの1例 . 第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999 . 8 .

7) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 川村純<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 松本光司<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 第2外科 ): 呼吸器外科手術における結核および非定型抗酸菌症例の検討 . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .

8) 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>1)</sup>, 川村純<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 松本光司<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 外科第2 ): 有茎肋間筋・動静脈・神経による横隔神経合併切除後神経再建の試みについて . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .

9) 菊竹晴子, 佐藤雅史, 梶原景子, 菊池真理, 南部春江, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰, 久吉隆郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院外科 ): 両側迷走神経より発生した叢状神経線維腫の1例 . 第12回頭頸部放射線研究会, 1999 . 10 .

10) 佐藤雅史, 梶原景子, 菊竹晴子, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰: 興味ある画像経過を追うことのできた非定型抗酸菌症の1例 . 第13回胸部放射線研究会, 1999 . 10 .

11) 高橋政之, 山本 彰, 山本博人, 菊池真理, 南部春江, 梶原景子, 菊竹晴子, 佐藤雅史: 術前診断に苦慮した肝血管腫 Hyalinized hemangioma の1例 . 第416回日本医学放射線学会関東地方会, 1999 . 12 .

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 当院, 救命救急センターと共同で頭部外傷, 胸, 腹部臓器損傷におけるMRI診断の有用性について研究を続けている.
2. 非イオン性造影剤の腎機能に及ぼす影響についての検討を継続している.
3. コンピューターを活用した医療画像処理の研究を続けている.
4. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療についての研究を行っている.
5. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断についての研究, 検討が行われている.
6. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている.
7. CTにおける経静脈性造影の最適タイミング, 方法について研究を行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Murakami R, Sugizaki K, Kobayashi Y, Ogura J, Yamamoto K, Kurokawa A<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Emergency Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Departments of Radiology Nippon Medical School ): Strangulation of Small Bowel Due to meckel Diverticulum : CT Findings . Clinical Imaging 1999 ; 23 ( 3 ): 181-183 .
- 2) Ichikawa T, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Radiology Nippon Medical School ): 4D-CT : A new development in three-dimensional hepatic computed tomography . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 ( 1 ): 24-27 .

##### (2) 総説:

- 1) 村上隆介, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): CT : 血管性病変 . 画像診断 1999 ; 19 ( 9 ): 1023-1029 .
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 小林由子, 村上隆介, 高橋修司<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 伊利医院 ): 胸部疾患のMR診断大動脈, 肺動脈, 大静脈 . 臨床画像増刊 1999 ; 15 ( 10 ): 46-56 .
- 3) 小林尚志<sup>1)</sup>, 神田哲朗<sup>1)</sup>, 永松直樹<sup>1)</sup>, 井手克美<sup>1)</sup>, 古賀俊彦<sup>1)</sup>, 鈴木 聡<sup>2)</sup>, 大曲淳一<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>3)</sup>, 高木亮<sup>3)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 古賀病院附属医学研究所, <sup>2)</sup> 同ガンマナイフセンター, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科 ): 症例で見る高速らせんCTの実際 ; CT以前, そしてマルチスライスCTとコーンビームCTの話題までシリーズ最終回にかえて . INNERVISION 1999 ; 14 ( 13 ): 4-11 .
- 4) 林 宏光<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>2)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>3)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 若林洋行<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 古賀病院附属医学研究所, <sup>3)</sup> 千葉北総病院放射線科 ): 症例で見る高速らせんCTの実際 ; Voxel transmission法を用いた血管性病変の3次元CT血管造影 . INNERVISION 1999 ; 14 ( 13 ): 52-57 .

#### 学会発表

##### (1) 学術講演:

- 1) 山本 鼎: 豊島健康審査センターにおけるCT, MRI検査の現況及び適用疾患の説明 . 豊島医師会学術講演会, 2000 . 1 .

##### (2) 一般講演:

- 1) 村上隆介, 小倉順子, 小林由子, 玉井 仁, 山本 鼎, 清水有二<sup>1)</sup>, 平岡保紀<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>



- (<sup>1</sup>多摩永山病院泌尿器科, <sup>2</sup>付属病院放射線科): 腎癌に対するバルーン閉塞下インターフェロン動注療法. 第58回日本医学放射線学会総会, 1999. 4.
- 2) 玉井 仁, 小倉順子, 小林由子, 村上隆介, 山本 鼎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科): 3D dynamic MRAの時相カラー表示. 第58回日本医学放射線学会総会, 1999. 4.
- 3) 村上隆介, 小倉順子, 小林由子, 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科): 後腹膜気管支性嚢腫の1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999. 6.
- 4) 小林由子, 村上隆介, 小倉順子, 杉崎健一<sup>1)</sup>, 玉井 仁, 山本 鼎, 三田俊二<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2</sup>多摩永山病院産婦人科, <sup>3</sup>同病理部, <sup>4</sup>付属病院放射線科): 卵巣hepatoid carcinomaの1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999. 6.
- 5) 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科): 最大造影時間を用いた臓器分離. 第18回日本医用画像工学会大会, 1999. 7.
- 6) 小林由子, 小倉順子, 村上隆介, 玉井 仁, 山本 鼎, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科): SSFSE法をnon breath-holdin 3D-MRCP: Intermitted breath-holding 3D-MRCPとの比較. 第27回日本磁気共鳴医学会大会, 1999. 9.
- 7) 高浜克也<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2</sup>千葉北総病院放射線科): 肝腫瘍性病変における造影MRI. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 8) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2</sup>同救命救急センター): 血胸にて発症した成人胸壁原発神経芽細胞腫の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 9) 小林由子, 小倉順子, 村上隆介, 玉井 仁, 山本 鼎, 市川太郎, 田中古登子<sup>1)</sup>, 藤田信輔<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科, <sup>2</sup>同病理部, <sup>3</sup>付属病院放射線科): 心膜中皮腫の1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999. 10.
- 10) 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 玉井 仁, 市川太郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>付属病院脳神経外科): 神経血管減圧術(MVD)におけるMR cisternographyの有用性; Distal portionでの圧迫が原因であった顔面痙攣の1例. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- (3) ミニレクチャー:
- 1) 市川太郎: 脾腫瘍のCT, MRI. 第16回多摩画像医学カンファレンス, 2000. 1.

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

北総病院放射線科での主な研究分野として, 核医学による心機能解析の研究・MRIによる脳機能の研究・MRIによる骨盤領域の研究・静脈系の研究・単純X-Pの画像改善に関する研究などがあげられる.

核医学による心機能解析の研究においては, まず体動や部分容積効果などによるアーチファクトおよび装置の特性を正しく評価し, 補正するための基礎的・臨床的な多くの研究が成されている. 臨床的には, 脂肪酸代謝低下領域と運動負荷虚血領域の乖離をTI-201とI-123 BMIPPの2各種同時SPECTにて評価し, 再狭窄評との関連を検討した. 心機能評価については, 心拍同期SPECTとシネMRIの比較検討も行っている.

MRIの研究においては, 脳機能の評価のために, 新しく開発したテンソル画像を用いて, 脳腫瘍の治療経過や急性性脳梗塞の検討を行い, 新知見を得ている. 機能性MRIを用いた, 感覚・疼痛の検討も行っている. MRIにおいては, 骨盤領域とくに卵巣腫瘍の画像の検討を, 今まで行った多くの症例の病理との詳細な検討を加えて行っている. その他, MRIによる血管撮影や胆道系の描出に関する研究などを行っている.

静脈系の研究においては、新しく開発した静脈フィルターの基礎的な多くのデータを評価し、発表している。臨床的には、下肢静脈の血流を造影や超音波によって評価し、体位や呼吸によって血流が著明に変化することを新たに見だし、これらの要素が下肢の静脈血栓の原因となりうることを検討している。

単純X-Pの画像改善に関する研究については、デジタル画像処理を従来よりも詳細に行うためのマルチ周波数処理を開発し、その最適な条件設定や従来法との診断能の向上につき、ファントムを用いた基礎的検討から臨床症例での検討まで行い、従来に比しアーチファクトの少ない診断能の高い画像を得ることに成功している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hosaka J<sup>1)</sup>, Roy S<sup>1)</sup>, Kvernebo K<sup>2)</sup>, Enge I<sup>1)</sup>, Laerum F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Section for Experimental Radiology, Institute for Surgical Research, The National Hospital, University of Oslo, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Ullevaal Hospital, University of Oslo ): In vivo evaluation of the adjustable temporary venous Spring filter and RF02 temporary filter : comparative study . Academic Radiology 1999 ; 6 : 343-351 .
- 2) Hosaka J<sup>1)</sup>, Roy S<sup>1)</sup>, Kuroki K<sup>1)</sup>, Xian Z<sup>1)</sup>, Kvernebo K<sup>2)</sup>, Enge I<sup>1)</sup>, Laerum F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Section for Experimental Radiology, Institute for Surgical Research, The National Hospital, University of Oslo, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Ullevaal Hospital, University of Oslo ): Placement of a Spring filter during interventional treatment of deep venous thrombosis to reduce the risk of pulmonary embolism . Acta Radiologica 1999 ; 40 : 545-551 .

#### (2) 総説：

- 1) 天野康雄, 林 宏光, 保坂純郎, 岡田 進, 隈崎達夫, Herfkens Robert J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> スタンフォード大学放射線科 ): 画像から学ぶ血栓症 第16回 3次元画像による血栓の画像診断: CT, MRIを中心に: ( その2 肺血栓塞栓症 ). 血栓と循環 1999 ; 3 : 208-211 .
- 2) 岡田 進: CRによる検査・診断の落とし穴, 頭頸部 . Innervision 2000 ; 15 ( 1 ): 22-24 .

### 著書

- 1) Hosaka J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Section for Experimental Radiology, Institute for Surgical Research, University of Oslo and Department of Radiology, Nippon Medical School ): [ 自著 ] Preclinical evaluation of the temporary venous "Spring filter" for prevention of pulmonary embolism, 1999 ; University of Oslo .
- 2) 保坂純郎, 岡田 進, 田島なつき<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 伊弉利院, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科 ): [ 分担 ] 7 静脈系 ; MR angiography . 現場で役立つ臨床MRIシリーズ 2 MR hydrographyとMR angiography : 水と流れの画像 ( 杉村和朗監修, 渡邊祐司編集 ), 1999 ; pp232-242 , Medical View .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Cho K, Kumita S<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Ishihara M, Sakurai M, Okada S, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): Relationship between wall thickening and jeopardized volume using ECG-gated myocardial SPECT with Tc-99m MIBI in patients with acute myocardial infarction . 4th International Conference of Nuclear Cardiology ( Athens, Greece ), 1999 . 4 .
- 2) Sakurai M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K, Mizumura S<sup>1)</sup>, Ishihara M, Kijima T<sup>1)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Nakamura A, Onidzuka T, Kawamura Y, Okada S, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): A comparison of 180-degree and 360-degree data reconstruction for Tc-99m myocardial SPECT images : Relationship

between pseudo-deficits and left ventricular long axis . 4th International Conference of Nuclear Cardiology ( Athens, Greece ), 1999 . 4 .

- 3) Ishihara M , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Takahama K<sup>1)</sup> , Hayashi H<sup>1)</sup> , Cho K , Okada S , Kabasawa H<sup>2)</sup> , Takahashi Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital , <sup>2)</sup> GE-YMS ): Quantitative Assessment of Interhemispheric Neuronal Connectivity Using Tensor Imaging . 7th Scientific Meeting and Exhibition, International Society for Magnetic Resonance in Medicine ( Philadelphia, Pennsylvania, USA ), 1999 . 5 .
- 4) Cho K , Saitoh H , Nakajo H<sup>1)</sup> , Tsuchihashi T<sup>1)</sup> , Ishihara M , Kumita S<sup>1)</sup> , Okada S , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Nozaki A<sup>2)</sup> , Takahashi Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital , <sup>2)</sup> GE-YMS ): Improved Contrast Enhancement in Coronary Trees Imaging Using Dual-Enhanced Breath Hold Three-Dimensional Spoiled Gradient-Echo MRA with ECG-Gating . 7th Scientific Meeting and Exhibition, International Society for Magnetic Resonance in Medicine ( Philadelphia, Pennsylvania, USA ), 1999 . 5 .
- 5) Hosaka J , Inoue K , Ando J , Cho K , Itoh K , Okada S , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): Usefulness and complication of the temporary inferior vena cava filters . Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe ( Prague, Czech Republic ), 1999 . 9 .
- 6) Cho K , Kumita S<sup>1)</sup> , Sakurai M , Nakamura A , Ishihara M , Okada S , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): Relationship between salvaged myocardium and recovery of cardiac function using dual SPECT with TI-201 and I-123 BMIPP in patients with acute myocardial infarction . European Congress of Radiology 2000 ( Vienna, Austria ), 2000 . 3 .
- 7) Ishihara M , Kumita S<sup>1)</sup> , Cho K , Sakurai M , Nakamura A , Saitoh H , Okada S , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): Correction of SPECT data for the effects of cardiac motion by MR imaging . European Congress of Radiology 2000 ( Vienna, Austria ), 2000 . 3 .
- 8) 中嶋隆夫<sup>1)</sup> , 白井康正<sup>1)</sup> , 玉井健介<sup>1)</sup> , 小林俊之<sup>1)</sup> , 星川裕一<sup>1)</sup> , 村田修二<sup>1)</sup> , 保坂純郎 ( <sup>1)</sup> 整形外科教室 ): 人工股関節置換術後 , 人口骨頭置換術後の深部静脈血栓症の検討 . 第29回日本人工関節学会 , 1999 . 1 .
- 9) 安藤 順 , 岡田 進 , 片桐宥代 , 井上幸平 , 矢野 潔 , 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): GE-EPIおよびGE-T2\*強調画像を用いた , 頭部外傷患者の検討 . 第58回日本放射線学会学術発表会 , 1999 . 4 .
- 10) 渡辺典男<sup>1)</sup> , 丸山智之<sup>1)</sup> , 川村義彦<sup>1)</sup> , 岡田 進 , 山田雅彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院中央画像室 , <sup>2)</sup> 富士写真フィルム ): CRにおけるMulti周波数処理を用いたOver shootの制御 . 日本放射線技術学会第5回総会学術大会 , 1999 . 4 .
- 11) 丸山智之<sup>1)</sup> , 渡辺典男<sup>1)</sup> , 川村義彦<sup>1)</sup> , 岡田 進 , 山田雅彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院中央画像室 , <sup>2)</sup> 富士写真フィルム ): Multi周波数処理を用いた低濃度信号の強調処理 . 日本放射線技術学会第5回総会学術大会 , 1999 . 4 .
- 12) 渡辺典男<sup>1)</sup> , 丸山智之<sup>1)</sup> , 川村義彦<sup>1)</sup> , 岡田 進 , 山田雅彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院中央画像室 , <sup>2)</sup> 富士写真フィルム ): 異なった周波数帯域のMulti周波数処理による画像処理 . 日本放射線技術学会第5回総会学術大会 , 1999 . 4 .
- 13) 保坂純郎 , 矢野 潔 , 片桐宥代 , 伊藤公一郎 , 岡田 進 , 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): 深部静脈血栓に対するintervention療法下でのtemporary Spring filterの有用性 ; in vivo下大静脈血栓モデルでの検討 . 第58回日本医学放射線学会総会 , 1999 . 4 .
- 14) 趙 圭一 , 汲田伸一郎<sup>1)</sup> , 水村 直<sup>1)</sup> , 木島鉄仁<sup>1)</sup> , 中條秀信<sup>1)</sup> , 石原真木子 , 保坂純郎 , 安藤 順 , 岡田 進 , 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): 心拍同期SPECTを用いた急性心筋梗塞再灌流例におけるSalvaged Myocardiumの評価 . 第58回日本医学放射線学会学術発表会 , 1999 . 4 .
- 15) 石原真木子 , 林 宏光<sup>1)</sup> , 高木 亮<sup>1)</sup> , 天野康雄<sup>1)</sup> , 高濱克也<sup>1)</sup> , 中條秀信<sup>1)</sup> , 井上幸平 , 隈崎達夫<sup>1)</sup> , 花沢宏之<sup>2)</sup> , 高橋良行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 , <sup>2)</sup> GE-YMS ): 局所拡散テンソル解析の有用性 : 脳血管病変及び加齢による影響 . 第58回日本医学放射線学会学術発表会 , 1999 . 4 .

- 16) 内山史生, 岡田 進, 井上幸平, 片桐究代, 安藤 順, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同産婦人科, <sup>3)</sup>付属病院・放射線科): 子宮内膜 Adenocanthoma に合併した子宮筋層内 Sex-cord like tumor の1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999. 6.
- 17) 斎藤晴美<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像室): 3dcard in C-package の使用経験. 第20回千葉 MR 研究会, 1999. 7.
- 18) 岡田 進, 内山史生, 井上幸平, 安藤 順, 趙 圭一, 伊藤公一郎, 保坂純郎, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河村<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同産婦人科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 嚢胞状卵巣甲状腺腫の画像診断. 第27回日本磁気共鳴医学会大会, 1999. 9.
- 19) 趙 圭一, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 石原眞木子, 櫻井 実, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 陳旧性心筋梗塞例における脂肪酸代謝低下領域と運動負荷虚血領域の乖離: 狭心症状有無による対比. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 20) 石原眞木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 斎藤晴美, 中村亜矢, 櫻井 実, 尾科隆司<sup>1)</sup>, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 心筋 SPECT 像の MRI を用いた部分容積効果補正: 拍動型心臓ファントムによる検討. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 21) 櫻井 実, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1)</sup>, 牧野仁美, 中村亜矢, 有馬光一, 川村義彦, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 心筋軸の傾きによる線拡がり関数の変化: 斜断面上の画像に与える影響. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 22) 櫻井 実, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1)</sup>, 牧野仁美, 中村亜矢, 有馬光一, 川村義彦, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 心筋軸の傾きによる線拡がり関数の変化: 斜断面上の画像に与える影響. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 23) 中村亜矢, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1)</sup>, 尾科隆司<sup>1)</sup>, 櫻井 実, 川村義彦, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): QGS プログラムによる左室駆出率算出への心拍数の影響: R-R 8分割 vs. 16分割. 第39回日本核医学会総会, 1999. 10.
- 24) 井上幸平, 趙 圭一, 斎藤晴美<sup>1)</sup>, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院・中央画像, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): MRI シネ画像を用いた 3D 心機能解析. 第21回千葉 MR 研究会, 2000. 2.

## 8. 皮膚科学講座

### [ 付属病院皮膚科 ]

#### 研究概要

- 1 皮膚の炎症反応におけるストレス関連ホルモン .  
免疫担当細胞, マスト細胞, 自律神経, 微小循環系に対するCRHの作用メカニズム .  
CRHが及ぼす情動, 異常搔破行動への影響 .  
アトピー性皮膚炎患者への精神医学的, 心理学的アプローチ .
- 2 自己免疫性水疱症の発症機序 .  
免疫担当細胞 (特にランゲルハンス細胞, マスト細胞) の動態について .
- 3 腫瘍免疫機構の解明 .  
皮膚腫瘍の免疫組織化学, 電顕的解析. 特にマスト細胞の動態について .  
悪性腫瘍における in vitro 制癌剤感受性試験および温熱感受性試験法の開発 .
- 4 薬疹, 接触皮膚炎の原因抗原の解析 .  
他抗原物質との交叉反応, 抗原決定基の研究. 遅延型過敏反応の in vitro 測定法の開発 .
- 5 ヘリコバクタ. ピロリ感染症と難治性皮膚疾患との関係 .  
慢性蕁麻疹, 掌蹠膿疱症, 乾癬, アトピー性皮膚炎が対象 .
- 6 紫外線の発癌メカニズム .  
皮膚ランゲルハンス細胞の動態を中心に研究 .
- 7 真菌感染と生体防御機構 .
- 8 レーザーによる非侵襲的 in vivo imaging の開発 .

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Miura Y, Hata M, Yuge M, Numano K, Iwakiri K : Allergic contact dermatitis from 1, 2, 6-hexanetriol in fluocinonide cream . Contact Dermatitis 1999 ; 41 : 118-119 .
- 2) Iwakiri K, Hata M, Miura Y, Numano K, Yuge M, Kawana S : Allergic contact dermatitis due to benzocaine and alclometasone dipropionate . Contact Dermatitis 1999 ; 41 ( 4 ) : 218-219 .
- 3) Omi T, Honda M, Yamamoto K<sup>1)</sup>, Mieko H, Akimoto M<sup>2)</sup>, Goro A<sup>3)</sup>, Seiji K ( <sup>1)</sup> Aiiiku Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pharmacology , <sup>3)</sup> Department of Pathology ) : Histologic Effects of Ruby Laser Hair Removal in Japanese Patients . Lasers Surg Med 1999 ; 25 : 451-455 .
- 4) Aoki M, Kawana S : The Ultrastructural Patterns of Mast cell Degranulation in Kimura's Disease . Dermatology 1999 ; 199 : 35-39 .
- 5) Kaneko K, Aoki M, Hattori S, Sato M<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Takenotsuka Dermatology Clinic ) : Successful treatment of Kimura's disease with cyclosporine . J Am Acad Dermatol 1999 ; 41 : 893-894 .
- 6) 中島美知子, 佐々木りか子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立小児病院皮膚科 ) : Bloch-Sulzberger 症候群の 20 例 . 皮膚科の臨床 1999 ; 41 ( 4 ) : 643-646 .
- 7) 菊地伊豆実, 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司 : 小児の指に発症した澄明細胞汗腺腫 . 日小児皮会誌 1999 ; 18 ( 1 ) : 21-23 .

- 8) 岩崎容子, 畑 三恵子, 榊原貴子, 青木順子, 藤本和久, 矢島 純, 本田光芳, 川名誠司: Lupus Miliaris Disseminatus Faciei in Children. 日小児皮会誌 1999; 18: 29-33.
  - 9) 木村陽一, 畑 三恵子, 山本泰一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 川名誠司, 田代征夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>横浜市): 下眼瞼に生じた悪性黒色腫の1例: Neural Transforming Malignant Melanoma. 日皮膚理組織会誌 1999; 15(1): 70-73.
  - 10) 青木恵理, 川名誠司: 小児腹壁遠心性脂肪萎縮症. 皮膚病診療 1999; 21(8): 711-714.
  - 11) 佐々木りか子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科): 乳幼児と小児のパッチテスト. 皮膚病診療 1999; 21(増刊号): 44.
  - 12) 菊地伊豆実, 金子勝美, 畑 三恵子, 福井朋子<sup>1)</sup>, 立麻典子<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>1)</sup>, 中原美和子<sup>2)</sup>, 茨木信博<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院小児科, <sup>2)</sup>付属病院眼科): 色素失調症の1例と本邦報告例の皮膚外合併症について. 日小児皮会誌 1999; 18(2): 107-110.
  - 13) 鈴木かやの, 矢代加奈, 堺 則康, 横山 泉, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): 足底に生じ石灰化を伴った血管平滑筋腫の1例. 皮膚科の臨床 1999; 41(4): 671-674.
  - 14) 濱崎せり<sup>1)</sup>, 佐々木りか子<sup>1)</sup>, 伊藤裕司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科, <sup>2)</sup>国立小児病院新生児科): 新生児皮下脂肪壊死症の1例. 日小児皮会誌 1999; 18(2): 137-140.
  - 15) 畑 三恵子, 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 川名誠司, 三浦祐理子, 沼野香世子, 岩切加奈, 弓削真由美, 尾見徳弥<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>横浜市): Image Colorimeterによる皮膚色の定量: 第1報. 日皮会誌 1999; 109(14): 2237-2241.
  - 16) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): アトピー性皮膚炎患者における黄色ブドウ球菌特異的IgE抗体の測定: 重症度別の比較検討. 日皮会誌 1999; 109(7): 1061-1063.
  - 17) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 伊東文行<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>横浜市): テガフルウラシルによる薬疹の2例. 日本皮膚アレルギー学会誌 1999; 7(2): 48-52.
  - 18) 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司: 胸腔鏡下胸部交感神経節切除術が奏効した肢端紅痛症の1例. 日皮会誌 1999; 109(1): 1347-1349.
  - 19) 杜 一原, 北原東一, 青木見佳子, 川名誠司: 膿疱性梅毒疹. 皮膚病診療 1999; 21(7): 581-584.
  - 20) 竹内淳子, 落合廣武, 新見やよい, 川名誠司, 篠木 啓<sup>1)</sup>, 宮田 新<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>東京都): 手指に水疱を形成した成人T細胞白血病(ATL)の1例. 皮膚科の臨床 2000; 42: 105-107.
  - 21) 木村陽一, 畑 三恵子, 川名誠司, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): 自然退縮傾向を認めた血管芽細胞腫(中川). 皮膚病診療 2000; 22(1): 53-56.
  - 22) 菊地伊豆実, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ジアゼパム(ダイアップ坐剤)による固定薬疹. 皮膚病診療 2000; 22(2): 137-140.
- (2) 総説:
- 1) 佐々木りか子(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科): 局所ステロイド薬の使い方と注意点 1) 皮膚科領域. アレルギーの臨床 1999; 19(4): 319-322.
  - 2) 川名誠司: アトピー性皮膚炎の診断と治療. 日医大誌 1999; 66(4): 279-282.
  - 3) 本田光芳, 新見やよい: 皮膚結核の最近の動向. 皮膚科の臨床 1999; 41(6): 1011-1019.
  - 4) 川名誠司: 伝染性軟属腫. 小児科 1999; 40(7): 759-762.
  - 5) 佐々木りか子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科): 新生児, 乳児のスキンケア. 周産期医学 2000; 30(1): 111-115.
  - 6) 尾見徳弥<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): 疣贅. 調剤と情報 2000; 6(2): 178-181.
  - 7) 佐々木りか子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科): 皮疹の診かた. 小児内科(東京医学社) 2000; 32(3): 347-351.
  - 8) 川名誠司: 紫斑 : 老人性紫斑からChurg-Strauss症候群まで. medicina 2000; 37(4): 517-521.

## 著 書

- 1) 佐々木りか子：〔分担〕乳児期の臨床症状．皮膚科診療プラクティス 6, 1999；pp40-45, 文光堂．
- 2) 佐々木りか子：〔分担〕小児の皮膚外用剤の投与方法．皮膚科薬剤ハンドブック（宮地良樹, 澤田康文）, 1999；pp214-226, 先端医学社．
- 3) 岩切加奈：〔分担〕Q5 STDが疑われる時の上手な病院のかかり方は？．性感染症Q & A（伊東文行, 宮地良樹）, 1999；pp20-21, 医薬ジャーナル社．
- 4) 佐々木りか子：〔分担〕小児の皮疹．CLIENT 21, 1999；pp209-215, 中山書店．
- 5) 堺 則康：〔分担〕HIV感染症：Q20-22．性感染症Q & A（伊東文行, 宮地良樹）, 1999；pp56-61, 医薬ジャーナル社．
- 6) 川名誠司：〔分担〕第18章 感覚器系．よくわかる立体組織学（渡 仲三, 宮澤七郎）, 1999；pp422-430, 中山書店．
- 7) 竹崎伸一郎：〔分担〕第18章 感覚器III 皮膚付属器．よくわかる立体組織学（渡 仲三, 宮澤七郎）, 1999；pp438-444, 学際企画（株）．
- 8) 川名誠司：〔分担〕紫斑．2000 今日の治療指針（多賀須幸雄, 尾形悦郎）, 2000；pp703-704, 医学書院．
- 9) 佐々木りか子：〔分担〕小児皮膚疾患にはどんな病気が多いか．皮膚科診療プラクティス 9 やさしい小児皮膚科学（斉藤隆三, 宮地良樹, 瀧川雅浩）, 2000；pp6-10, 文光堂．
- 10) 佐々木りか子：〔分担〕おむつ皮膚炎の対策．皮膚科診療プラクティス 9 やさしい小児皮膚科学（斉藤隆三, 宮地良樹, 瀧川雅浩）, 2000；pp30-34, 文光堂．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 竹崎伸一郎：ヘルペスウイルス感染症（Up-to-date）．瀋陽医学院50周年記念学会（中華人民共和国瀋陽市）, 1999．6．
- 2) 中川絵里, 畑 三恵子, 郡家正彦<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 川名誠司, 黒川昌子<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>鎌倉市）: Lymphangioma Circumscriptumの1例．日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999．6．
- 3) 新見やよい：皮膚結核：古くて新しい感染症．第22回神戸皮膚科フォーラム, 1999．12．

### (2) シンポジウム：

- 1) 畑 三恵子, 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 川名誠司（<sup>1)</sup>薬理学）: アトピー性皮膚炎の低出力半導体レーザー治療：イメージカラーメーターを用いた検討．日本医工学治療学会第14会学術大会, 2000．2．

### (3) 一般講演：

- 1) Sakai N, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Biochemistry）: Targeted gene transfer into HIV infected cells by the combination of HIV and MLV vectors．The 2nd Annual Meeting, American Society of Gene Therapy（Bethesda, Maryland, U. S. A. ），1999．6．
- 2) Arai K<sup>1)</sup>, Kaneko K, Iketani M<sup>1)</sup>, Yamauchi N<sup>1)</sup>, Otagiri A<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Physiology）: Chronic nicotine administration increases leptin mRNA expression in white adipose tissue of rats．ENDO'99（San Diego, U. S. A. ），1999．6．
- 3) Sakai N, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Biochemistry）: A novel strategy of targeted gene transfer into HIV infected cells．Gene Therapy: The Next Millenium, Keystone, Symposia（Keystone, Colorado, U. S. A. ），2000．1．
- 4) Kimura Y, Pawankar R<sup>1)</sup>, Aoki M, Niimi Y, Kawana S（<sup>1)</sup>Department of Otolaryngology）: Cytokines expressed by mast cells infiltrating the lesions of Kimura's disease．56th Annual Meeting American Academy of Allergy, Asthma & Immunology（San Diego）, 2000．3．

- 5) 畑 三恵子, 榊原貴子, 中川絵里, 沼野香世子, 弓削真由美, 秋本眞喜夫<sup>1)</sup>, 尾見徳弥<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>横浜市): アトピー性皮膚炎患者の半導体レーザー治療効果. 第11回日本レーザー治療学会, 1999. 7.
- 6) 青木恵理, 新見やよい, 堺 則康, 青木見佳子, 川名誠司, 西山康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): Ehlers-Danlos症候群IV型の1例. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 7) 新見やよい, 落合廣武, 森本健介, 青木見佳子, 川名誠司, 米山剛一<sup>1)</sup>, 篠田欣也<sup>2)</sup>, 楠 俊雄<sup>3)</sup>, 橋本 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科, <sup>2)</sup>内科第4, <sup>3)</sup>清瀬市, <sup>4)</sup>久留米大学皮膚科): 子宮癌を伴ったparaneoplastic pemphigus. 第98回日本皮膚科学会総会学術大会, 1999. 4.
- 8) 沼野香世子, 荒牧 純, 五十嵐 司, 青木見佳子, 川名誠司, 伊藤永喜<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 二神綾子(<sup>1)</sup>内科第4): 全身に転移を認めたNeuroendocrine carcinomaの1例. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 9) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 川名誠司: アトピー性皮膚炎患者における黄色ブドウ球菌特異的IgE抗体の測定. 第98回日本皮膚科学会総会学術大会, 1999. 4.
- 10) 畑 三恵子, 藤本和久, 服部怜美, 川名誠司, 矢島 純<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県, <sup>2)</sup>神奈川県): 33年間におけるアミノ配糖体系抗生物質アレルギー例. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 11) 小坂祥子, 岩切加奈, 三浦祐理子, 畑 三恵子, 伊東文行: Metallosis. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 12) 落合廣武, 中川絵里, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司: リウマトイド血管炎の1例. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 13) 岩崎容子, 榊原貴子, 畑 三恵子, 森本健介, 荒牧 純, 新見やよい, 川名誠司: 12年間に経験した顔面播種状粟粒性狼瘡の統計的観察. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 14) 青木恵理, 池村暁子, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: 足白癬に対する放射線治療50年を経て生じた足背の基底細胞癌. 第15回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 1999. 5.
- 15) 野尻陽子, 山西貴仁, 立原利江子, 川名誠司: Rheumatoid Papulesの1例. 日本皮膚科学会第746回東京地方会, 1999. 5.
- 16) 菊地伊豆実, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ジアゼパム(ダイアップ坐剤)による固定薬疹の1例. 日本小児皮膚科学会第23回学術大会, 1999. 5.
- 17) 榊原貴子, 木村陽一, 青木見佳子, 竹崎伸一郎, 川名誠司, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 楠 俊雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>清瀬市): 紅皮症を呈したT細胞性前リンパ球性白血病の1例. 日本皮膚科学会第746回東京地方会, 1999. 5.
- 18) 浜崎せり, 佐々木りか子: 新生児皮下脂肪壊死症の1例. 第23回日本小児科皮膚科学会学術大会, 1999. 5.
- 19) 浜崎せり, 佐々木りか子, 東 範行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院眼科): 最近当科で経験したアトピー性皮膚炎に伴う眼合併症. 第23回日本小児皮膚科学会学術大会, 1999. 5.
- 20) 岩切加奈, 青木見佳子, 川名誠司, 中村健一<sup>1)</sup>, 田中道雄<sup>2)</sup>, 楠 俊雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉市, <sup>2)</sup>流山市, <sup>3)</sup>清瀬市): Superficial granulomatous pyodermaを疑った2例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 21) 池村暁子, 森本健介, 立原利江子, 青木見佳子, 畑三恵子, 川名誠司: 血管芽細胞腫(中川)の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 22) 弓削真由美, 中川絵里, 畑三恵子, 山本泰一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 森山マサミ<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>横浜市): 腰部に生じた脂腺腫の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 23) 岩崎容子, 新見やよい, 川名誠司, 和田健太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2): 細菌性髄膜炎に続発した敗血疹の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 24) 鈴木かやの, 木村陽一, 青木見佳子, 竹崎伸一郎, 川名誠司, 土田貴也<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): 非定型疹を伴った成人発症Still病の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 25) 金子勝美, 新井桂子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第2): ストレスによる慢性接触皮膚炎の増悪機序におけるcorticotropin-releasing factor (CRF)の関与. 第72回日本内分泌学会, 1999. 6.



- 26) Sakai N, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry): Targeted gene transfer into HIV infected cells by the combination of HIV and MLV vectors. The 5th Annual Meeting, The Japan Society of Gene Therapy (Tokyo, Japan), 1999. 6.
- 27) 山内直子<sup>1)</sup>, 新井桂子<sup>1)</sup>, 金子勝美, 小田切あすか<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第2): ニコチン慢性投与によるラットの摂食抑制および体重減少における脂肪組織のレプチンの役割. 第72回日本内分泌学会, 1999. 6.
- 28) 五十嵐 司, 菊地伊豆実, 榊原貴子, 木村陽一, 青木恵理, 立原利江子, 川名誠司: Monoclonal Gammopathyを合併した壊疽性膿皮症の1例. 日本皮膚科学第748回東京地方会, 1999. 7.
- 29) 木村陽一, 畑三恵子, 山本泰一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 川名誠司, 田代征夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>横浜労災病院病理部): 下眼瞼腫瘍の1例. 第15回日本皮膚病理組織学会, 1999. 7.
- 30) 金子勝美, 新井桂子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第2): ストレスによる慢性接触皮膚炎の増悪機序における corticotropin-releasing factor (CRF) の関与. 第24回日本研究皮膚科学会, 1999. 7.
- 31) 堺 則康, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 中島英逸<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 青木恵理, 川名誠司(<sup>1)</sup>生化第2): Ehlers-Danlos症候群IV型(EDSIV)の遺伝子診断. 第24回日本研究皮膚科学会, 1999. 7.
- 32) 木村陽一, 畑 三恵子, 山本泰一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 川名誠司, 田代征夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>横浜市): 下眼瞼に生じた悪性黒色腫の1例: Neural Transforming Malignant Melanoma. 第15回日本皮膚病理組織学会, 1999. 7.
- 33) 東 直行, Karen B<sup>1)</sup>, 川名誠司, Kirstian T-P<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aarhus大学 Marselisborg病院皮膚科): アトピー性皮膚炎病巣部由来 cytokine 誘導 T cell line における cytokine 発現 pattern の解析. 日本研究皮膚科学会第24回年次学術大会・総会, 1999. 7.
- 34) 青木見佳子, 新見やよい, 竹崎伸一郎, 川名誠司: 急性進行性に発症し慢性に経過する皮膚原発 Ki-1 リンパ腫. 第18回皮膚リンフォーマ研究学会, 1999. 8.
- 35) 尾見徳弥, 本田光芳: レーザー脱毛における免疫病理組織学的観点からみた効果. 第17回日本美容皮膚科学会, 1999. 8.
- 36) 畑 三恵子, 沼野香世子, 川名誠司, 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 太田真琴<sup>1)</sup>, 松窪由美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): 乳酸を用いたケミカルピーリングの治療効果. 第17回日本美容皮膚科学会, 1999. 8.
- 37) 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 川名誠司, 尾見徳弥<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都, <sup>2)</sup>横浜市): ビデオカメラによる皮膚色計測装置の開発とその臨床への応用. 第17回日本美容皮膚科学会, 1999. 8.
- 38) 青木恵理, 池村暁子, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 足白癬に対する放射線治療後の慢性放射線皮膚炎上に棘細胞癌, ボーエン病, 基底細胞癌が生じた1例. 第67回日本医科大学医学部総会, 1999. 9.
- 39) 矢部朋子, 加藤陽子, 青木恵理, 川名誠司: 環状肉芽腫の2例. 日本皮膚科学会第749回東京地方会, 1999. 9.
- 40) 弓削真由美, 中川絵里, 五十嵐 司, 青木見佳子, 川名誠司: Napkin Psoriasisの1例. 日本皮膚科学会第749回東京地方会, 1999. 9.
- 41) 岩崎容子, 新見やよい, 川名誠司, 弓削真由美, 畑 三恵子: 小児膿疱性乾癬のシクロスポリン療法. 第14回日本乾癬学会, 1999. 9.
- 42) 秋本眞喜雄, 畑 三恵子, 川名誠司, 尾見徳弥<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): Image colorimeter による皮膚色の定量化の試み. 日本皮膚科学会東部支部総会学術大会, 1999. 9.
- 43) 畑 三恵子, 榊原貴子, 中川絵里, 沼野香世子, 弓削真由美, 川名誠司, 尾見徳弥<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): アトピー性皮膚炎患者の半導体レーザー治療効果. 日本皮膚科学会東部支部総会学術大会, 1999. 9.
- 44) 畑 三恵子, 沼野香世子, 立原利江子, 川名誠司: 特異IgE抗体価検査法の比較. 第49回日本アレルギー学会総会, 1999. 9.
- 45) 小坂祥子, 鈴木かやの, 五十嵐司, 川名誠司, 楠 俊雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): 膿瘍性穿掘性頭部毛包周囲炎の1例.

日本皮膚科学会第749回東京地方会，1999．9．

- 46) 五十嵐司，菊地伊豆実，榊原貴子，木村陽一，青木恵理，立原利江子，川名誠司，猪口孝一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3): Monoclonal gammopathy を合併した壞疽性膿皮症の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 47) 秋田政彦，五十嵐 司，川名誠司：顕症梅毒の3例．日本皮膚科学会第750回東京地方会，1999．10．
- 48) 尾見徳弥，本田光芳，畑 三恵子，川名誠司，山本一哉<sup>1)</sup>，KristianThestrup - P<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>愛育病院，<sup>2)</sup>Aarhus 大学)：皮膚固有Tリンパ球培養におけるフローサイトメトリーでの解析と病理組織学的検討．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 49) 野尻陽子，吉野 恵，鈴木かやの，青木見佳子，川名誠司：皮下型環状肉芽腫の1例．日本皮膚科学会第750回東京地方会，1999．10．
- 50) 池村暁子，竹崎伸一郎，川名誠司：陰囊Verruciform Xanthomaの1例．日本皮膚科学会第750回東京地方会，1999．10．
- 51) 木村陽一，Ruby P<sup>1)</sup>，青木見佳子，新見やよい，川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科)：木村病におけるマスト細胞の動態．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 52) 鈴木かやの，金森幸男，金子勝美，川名誠司：経皮感作成立における接触皮膚炎発現の必要性について．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 53) 吉野 恵，鈴木かやの，安本美奈子，野尻陽子，木村陽一，青木見佳子，川名誠司：痛風結節の2例．第751回日本皮膚科学会東京地方会，1999．10．
- 54) 片山美玲，木村陽一，菊地伊豆実，川名誠司：明らかな水痘の既往のない小児汎発型帯状疱疹の1例．日本皮膚科学会第751回東京地方会，1999．11．
- 55) 安本美奈子，木村陽一，青木恵理，川名誠司：シプロフロキサシンによるアナフィラキシー型薬疹の1例．日本皮膚科学会第751回東京地方会，1999．11．
- 56) 久保田智樹，五十嵐 司，川名誠司：ハンセン病の1例．日本皮膚科学会第751回東京地方会，1999．11．
- 57) 三浦祐理子，青木恵理，青木見佳子，川名誠司，田中道雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>流山市)：Lymphomatoid Papulosisの1例．日本皮膚科学会第753回東京地方会，2000．1．
- 58) 五十嵐 司，新見やよい，川名誠司，青木 律<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科)：鼻瘤の1例．日本皮膚科学会第753回東京地方会，2000．1．
- 59) 高田香織，荒牧 純，新見やよい，川名誠司，国松志保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学付属病院眼科)：緑内障を伴った太田母斑の1例．日本皮膚科学会第753回東京地方会，2000．1．
- 60) 鈴木かやの，吉野 恵，青木恵理，川名誠司：多発単神経炎を伴う高度の皮膚潰瘍を生じた結節性多発動脈炎の1例．第23回皮膚脈管懇話会 第14回膠原病研究会，2000．2．
- 61) 吉野 恵，鈴木かやの，木村陽一，五十嵐 司，青木見佳子，川名誠司，楠 俊雄，三上 曩(<sup>1)</sup>清瀬市，<sup>2)</sup>千葉大学真菌医学センター)：原発性皮膚ノカルジア症の1例．第63回東京支部学会学術大会，2000．2．

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

- 1．皮膚腫瘍の臨床診断，病理組織的検索，電顕，酵素抗体法，形成外科的治療
- 2．ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断．HIV感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索．T. Pallidumのcross reactivityの検討
- 3．GUPのPCRを用いた早期診断
- 4．接触皮膚炎，薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする．
- 5．アトピー性皮膚炎の増悪因子としてのブドウ球菌やM. furfurの果たす役割を特に成人型について検討する．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Iwakiri K, Hata M, Miura Y, Numano K, Yuge M, Sasaki E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Sasaki Clinic): Allergic contact dermatitis due to bendazac and alclometasone dipropionate. *Contact Dermatitis* 1999; 41(4): 218-219.
- 2) Omi T<sup>1)</sup>, Honda M<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Hata M<sup>3)</sup>, Akimoto M<sup>4)</sup>, Asano G<sup>5)</sup>, Kawana S<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>Queen's Square Medical Center, <sup>2)</sup>Aiiku Hospital, <sup>3)</sup>Nippon Medical School 2nd Hospital, <sup>4)</sup>Nippon Medical School, <sup>5)</sup>Nippon Medical School, <sup>6)</sup>Nippon Medical School): Histologic Effects of Ruby Laser Hair Removal in Japanese Patients. *Lasers in Surgery and Medicine* 1999; 25: 451-455.
- 3) Miura Y, Hata M, Yuge M, Numano K, Iwakiri K: Allergic contact dermatitis from 1, 2, 6-hexanetriol in fluocinonide cream. *Contact Dermatitis* 1999; 41(2): 118-119.
- 4) 矢島 純<sup>1)</sup>, 畑 三恵子(<sup>1)</sup>春日部皮膚科医院): プロポリスによる接触皮膚炎; 健康食品に気をつけよう. 治療(J. Therap.)別冊. 実地臨床PHOTOシリーズ[13] 1999; 81(4): 1402.
- 5) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 伊東文行<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): テガフルウラシルによる蕁疹の2例. *日本皮膚アレルギー学会雑誌* 1999; 7(2): 48-52.
- 6) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): アトピー性皮膚炎患者における抗黄色ブドウ球菌外毒性特異的IgE抗体の測定; 重症度別の比較検討. *日皮会誌* 1999; 109(7): 1061-1063.
- 7) 菊地伊豆美, 金子勝美, 畑 三恵子, 福井朋子<sup>1)</sup>, 立麻典子<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>1)</sup>, 中原美和子<sup>2)</sup>, 茨木信博<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院小児科, <sup>2)</sup>同眼科, <sup>3)</sup>同皮膚科): 色素失調症の1例と本邦報告例の皮膚外合併症について. *日小児皮会誌* 1999; 18(2): 107-110.
- 8) 畑 三恵子, 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 三浦祐理子, 沼野香世子, 岩切加奈, 弓削真由美, 尾見徳弥<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>クィーンズスクエア・皮膚・アレルギー科): Image Colorimeterによる皮膚色の定量: 第1報. *日皮学会誌* 1999; 109(14): 2237-2241.
- 9) 畑 三恵子, 沼野香世子, 立原利江子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ヒョウダニ抗原の混入によるネコ抗原特異 IgE抗体測定結果の偽陽性. *アレルギー* 49(4) 2000; 49(4): 365-368.
- 10) 畑 三恵子, 沼野香世子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 秋本眞喜雄<sup>2)</sup>, 太田真琴<sup>3)</sup>, 松窪由美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>関東学院大学工学総合研究所, <sup>3)</sup>佐々部医院, <sup>4)</sup>松窪クリニック): 乳酸を用いたケミカルピーリングの治療効果. *Aesthetic Dermatology* 2000; 9(3): 79-85.
- 11) 木村陽一<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 山本泰一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田代征夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>横浜労災病院病理部): 下脛に生じた悪性黒色腫の1例: Neural Transforming Malignant Melanoma. *日皮病理組織会誌* 1999; 15(1): 70-73.

### 著書

- 1) 畑 三恵子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): [分担]毛染めによるトラブル. 皮膚科診療プラクティス“毛と爪のオフィスダーマトロジー”(勝岡憲正, 宮地良樹, 瀧川雅治), 1999; pp102-103, 文光堂.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 畑 三恵子, 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>関東学院大学工学総合研究所, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): アトピー性皮膚炎の低出力半導体レーザー治療: イメージカラーメーターを用いた検討. 日本医工学治療学会代14回学術大会, 2000. 2.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 菊地伊豆実, 畑 三恵子, 平井 隆<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 内藤秀哉<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>第二病院病理部): 皮下に発生した高分化型脂肪肉腫の1例. 第99回日本皮膚科学会総会, 2000. 5.

(3) 一般講演 :

- 1) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hata M, Miura Y, Numano K, Yuge M<sup>2)</sup>, Nakagawa E<sup>2)</sup>, Omi T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>横浜クィーンズスクエア): Development of an imaging colorimeter for noncontact skin color measurement and its clinical application. 5th Meeting of the German-Japanese Society for Dermatology (Germany), 1999. 5.
- 2) Akimoto M<sup>1)</sup>, Takata S<sup>2)</sup>, Hata M<sup>3)</sup>, Asaeda T<sup>2)</sup>, Yang L<sup>3)</sup>, Miyakawa M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Yokohama, Japan, <sup>2)</sup>Niigata, Japan, <sup>3)</sup>Kawasaki, Japan): Physical Basis of skin Color and Its Clinical Evaluation. Progress In Electromagnetics Research Symposium (America), 2000. 7.
- 3) 鈴木かやの, 木村陽一, 畑 三恵子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): アトピー性皮膚炎患者における抗黄色ブドウ球菌外毒素特異的IgE抗体の測定. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 4) 畑 三恵子, 藤本和久<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>埼玉, <sup>3)</sup>神奈川): 33年間に於けるアミノ配糖体系抗生物質アレルギー例. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 5) 小坂祥子, 岩切加奈, 三浦祐理子, 畑 三恵子, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): Metallosis. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 6) 岩崎谷子, 榊原貴子, 畑 三恵子, 森本健介<sup>1)</sup>, 荒牧 純<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 12年間に経験した顔面播種状粟粒性狼瘡の統計的観察. 第98回日本皮膚科学会総会, 1999. 4.
- 7) 池村暁子<sup>1)</sup>, 森本健介<sup>1)</sup>, 立原利江子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 血管芽細胞腫(中川)の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 8) 弓削真由美, 中川絵里, 畑 三恵子, 山本泰一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 森山マサミ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>横浜市): 腰部に生じた脂腺腫の1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 9) 中川絵里, 畑 三恵子, 郡家正彦<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>, 黒川昌子<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院皮膚科, <sup>4)</sup>鎌倉市): Angiokeratomaとlymphangioma circumscriptumを合併した1例. 日本皮膚科学会第747回東京地方会, 1999. 6.
- 10) 秋本真喜雄<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 榊原貴子, 中川絵里, 沼野香世子, 弓削真由美, 尾見徳弥<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>横浜クィーンズスクエア): Image Colorimeterによるアトピー性皮膚炎患者の半導体レーザー治療効果判定. 第11回日本レーザー治療学会, 1999. 7.
- 11) 畑 三恵子, 榊原貴子, 中川絵里, 沼野香世子, 弓削真由美, 秋本真喜雄<sup>1)</sup>, 尾見徳弥<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>横浜クィーンズスクエア, <sup>3)</sup>同皮膚科): アトピー性皮膚炎患者の半導体レーザー治療効果. 第11回日本レーザー治療学会, 1999. 7.
- 12) 木村陽一<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 山本泰一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田代征夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>横浜労災病院病理部): 下脛に生じた悪性黒色腫の1例: Neural Transforming Malignant Melanoma. 第15回日本皮膚病理組織学会, 1999. 7.
- 13) 畑 三恵子, 沼野香世子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 秋本真喜雄<sup>2)</sup>, 太田真琴<sup>3)</sup>, 松窪由美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>東京都, <sup>3)</sup>佐々部医院, <sup>4)</sup>松窪クリニック): 乳酸を用いたケミカルピーリングの治療効果. 第17回日本美容皮膚科学会, 1999. 8.
- 14) 秋本真喜雄<sup>1)</sup>, 畑 三恵子, 川名誠司<sup>2)</sup>, 尾見徳弥<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>横浜クィーンズスクエア): ビデオカメラによる皮膚色計測装置の開発とその臨床への応用. 第17回日本美容皮膚科学会, 1999. 8.
- 15) 岩崎谷子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 弓削真由美, 畑 三恵子(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 小児膿疱性乾癬のシ

クロスポリン療法．第14回日本乾癬学会学術大会，1999．9．

- 16) 秋本眞喜雄<sup>1)</sup>，畑 三恵子，川名誠司<sup>2)</sup>，尾見徳弥<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>薬理学，<sup>2)</sup>付属病院皮膚科，<sup>3)</sup>クイーンズスクエア): Image colorimeterによる皮膚色の定量化の試み．日本皮膚科学会東部支部総会・学術大会，1999．9．
- 17) 畑 三恵子，榊原貴子，中川絵理，沼野香世子，弓削真由美，川名誠司<sup>1)</sup>，尾見徳弥<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科，<sup>2)</sup>クイーンズスクエア): アトピー性皮膚炎患者の半導体レーザー治療効果．日本皮膚科学会東部支部総会・学術大会，1999．9．
- 18) 畑 三恵子，沼野香世子，立原利江子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 特異IgE抗体価検査法の比較．第49回日本アレルギー学会総会，1999．9．
- 19) 尾見徳弥<sup>1)</sup>，本田光芳<sup>1)</sup>，畑 三恵子，川名誠司<sup>2)</sup>，山本一哉<sup>3)</sup>，KThestrup P<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科，<sup>2)</sup>付属病院皮膚科，<sup>3)</sup>愛育病院皮膚科，<sup>4)</sup>Aarhus 大学皮膚科): 皮膚固有Tリンパ球培養におけるフローサイトメトリーでの解析と病理組織学的検討．第49回日本アレルギー学会総会，1999．9．
- 20) 畑 三恵子: 美しく老いるために: 紫外線によるシワ・シミと皮膚ガン．日本医科大学公開講座，1999．10．
- 21) 詫間由一<sup>1)</sup>，川目 裕<sup>2)</sup>，畑 三恵子，榊原貴子(<sup>1)</sup>都立清瀬小児病院神経科，<sup>2)</sup>都立北療育医療センター遺伝科): 1歳代で診断したGorlin症候群の1例．第32回日本小児神経学会関東地方会，2000．3．

## [ 多摩永山病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 薬疹，接触皮膚炎: パッチテスト，プリックテスト，チャレンジテスト，光パッチテストによる原因物質の確認と交叉感作，抗原決定基の検索，アレルギーカードの発行．
2. 動物性皮膚疾患: 疥癬，Creeping disease等に対する新しい内服療法の研究．
3. 褥創，難治性潰瘍: 新しい素材，薬剤を用いた保存的，外科的治療法の研究．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

- 1) 藤本和久: 疥癬の内服療法．日医大誌 1999; (66): 366．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 藤本和久，高田香織<sup>1)</sup>，弓削真由美<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 果実アレルギーの1例．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 2) 藤本和久，高田香織<sup>1)</sup>，弓削真由美<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 果実アレルギーの1例．第24回日本接触皮膚炎学会，1999．12．

## [ 千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

- 1) 薬疹，接触皮膚炎: patch scratch test，challenge testによる原因物質の確認と，アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究: とくに電顕，酵素抗体法を用いた研究
- 3) 円形脱毛症におけるHLAタイプの検索

#### 4) アトピー性皮膚炎における精神的要素の研究

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 栗原和久：尋常性疣贅．日医大誌 2000；67(1)：60．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Hattori S, Higashi N<sup>1)</sup>, Kurihara K, Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dep. of Dermatology, Nippon Medical School): Six cases of fixed drug eruption. The fifth Meeting German Japan Dermatology (Marburg), 1999. 5.
- 2) 服部怜美：右腋窩の皮下腫瘍の1例．皮膚病理セミナー1999，1999．4．
- 3) 池村暁子，落合廣武，森本健介，栗原和久，服部怜美，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科)：Yellow Nail Syndromeの1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 4) 服部怜美，栗原和久，落合廣武，森本健介，池村暁子，東直行<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科)：湿布剤による接触皮膚炎．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 5) 森本健介，池村暁子，落合廣武，栗原和久，服部怜美，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科)：日光角化症の病巣内に生じた有棘細胞癌の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 6) 栗原和久，服部怜美，秋元正宇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科)：Subcutaneous Panniculitis T-cell Lymphomaの1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 7) 森本健介，服部怜美，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科)：セファクロルによるアナフィラキシーショックの1例．日本皮膚科学会第753回東京地方会，2000．1．

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1外科 ]

#### 研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている．

1. 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている．
2. 急性腹症の病態の解析，とくにジッツマークを用いたイレウスの新しい診断と治療の選択法は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている．
3. 腹腔鏡下手術は，その適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎に対しても積極的に用い，さらに早期胃癌，早期大腸癌，癒着性イレウス，門脈圧亢進症にも応用され，良好な成績を得ている．患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている．
4. 進行食道癌，胃癌，大腸癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，患者のQOLの向上を図っている．
5. 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績をあげている．
6. 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌に対するEMR，また，総胆管結石，脾石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる．
7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係の臨床的および基礎的な研究が進められている．
8. 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している．
9. 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的，臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある．
10. 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている．

教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記のごとく内外の学会誌，専門誌に発表された．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kawamura N, Nagai H, Bando K, Koyama M, Matsumoto S, Tajiri T, Onda M, Fujimoto J, Ueki T, Konishi N, Shiba T, Emi M : PTEN/MMAC1 Mutation in Hepatocellular Carcinoma : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 413-418 .
- 2) Balducci E<sup>1)</sup>, Horiba K, Usuki J<sup>1)</sup>, Park M<sup>1)</sup>, Ferrans V. J<sup>1)</sup>, Moss J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NHLBI ): Selective expression of RT6 superfamily in human bronchial epithelial cells . Am J Respir Cell Mol Biol 1999 ; 21 ( 3 ): 337-346 .
- 3) Matsumoto Y, Horiba K, Usuki J, Chu S. C, Ferrans V. J, Moss J : Markers of cell proliferation and expression of melanomal antigen in lymphangiolyomyomatosis . Am J Respir Cell Mol Biol 1999 ; 21 ( 3 ): 327-336 .
- 4) Bando K, Nagai H, Matsumoto S, Koyama M, Kawamura N, Onda M, Emi M : Identification of 1-cM Region of Common Deletion on 4q35 Associated with Progression of Hepatocellular Carcinoma . Genes, Chrom.

- Cancer 1999 ; 25 : 284-289 .
- 5) Chu S. C<sup>1)</sup>, Horiba K, Usuki j<sup>1)</sup>, Nilo A. A<sup>1)</sup>, Clara C. C<sup>1)</sup>, T<sup>1)</sup>, William D<sup>1)</sup>, Ferrans V. J<sup>1)</sup>, Moss J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>NHLBI ): Comprehensive evaluation of 35 patients with lymphangiomyomatosis . Chest 1999 ; 115 : 1041-1052 .
  - 6) Efron DT<sup>1)</sup>, Thornton FJ<sup>1)</sup>, Steulten C<sup>1)</sup>, Tantry US<sup>1)</sup>, Witte MB<sup>1)</sup>, Kiyama T, Barbul A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Surg, Johns Hopkins Med Inst ): Expression and function of inducible nitric oxide synthase during rat colon anastomotic healing . J Gastrointest Surg 1999 ; 3 ( 6 ): 592-601 .
  - 7) Emi M, Yoshimoto M, Sato T, Matsumoto S, Utada Y, Ito I, Minobe K, Iwase T, Katagiri T, Bando K, Akiyama F, Harada Y, Fukino K, Sakamoto G, Matsushima M, Iida A, Tada T, Saito H, Miki Y, Kasumi F, Nakamura Y : Allelic Loss of 1p34, 13q12, 17p13. 3, and 17q21. 1 Correlates with Poor Postoperative prognosis in Breast Cancer . Genes Chrom Cancer 1999 ; 26 : 134-141 .
  - 8) Furukawa K, Onda M, Suzuki H, Maruyama H, Akiya Y, Ashikari M, Maezawa K, Tokunaga A, Tanaka N, Yamashita K : The usefulness of conducting investigations on intra-abdominal bacterial contamination in digestive tract operations . Surgery Today 1999 ; 29 : 701-706 .
  - 9) Kawamura N, Nagai H, Bando K, Koyama M, Matsumoto S, Tajiri T, Onda M, Fujimoto J, Ueki T, Konishi N, Shiba T, Emi M : PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 413-418 .
  - 10) Kiyama T, Efron DT, Tantry U, Barbul A : Effect of Nutritional Route on colonic anastomotic healing in the rat . J Gastrointest Surg 1999 ; 3 ( 4 ): 441-446 .
  - 11) Koyama M, Nagai H, Bando K, Ito M, Moriyama Y, Emi M : Localization of a Target Region of Allelic Loss to a 1-cM Interval on Chromosome 16p13. 13 in Hepatocellular Carcinoma . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 951-956 .
  - 12) Matsukura N, Hoshino A<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Hasegawa H, Okino T, Onda M, Iijima O<sup>2)</sup>, Akiyama K<sup>2)</sup>, Goto T<sup>2)</sup>, Takubo K<sup>3)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dep of Biochemistry Molecular Biology, <sup>2)</sup>Tsukuba Laboratory, Hisamitsu Pharmaceutical Co. Inc, <sup>3)</sup>Dept of Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): In situ gene transfer and suicide gene therapy of gastric cancer induced by N-ethyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 1039-1049 .
  - 13) Mine N, Bando K, Utada Y, Nagai H, Araki T, Emi M : Two Single Nucleotide Polymorphisms of the hSNF5/INI1 gene . J Hum Genet 1999 ; 44 : 354-355 .
  - 14) Minobe K, Bando K, Fukino K, Soma S, Kasumi F, Sakamoto G, Furukawa K, Higuchi K, Onda M, Nakamura Y, Emi M : Somatic Mutation of the PTEN/MMAC1 gene in Breast Cancers with Microsatellite Instability . Cancer Lett 1999 ; 144 : 6-16 .
  - 15) Sasajima K, Inokuchi K, Onda M, Miyashihta M, Okawa K, Matsutani T, Takubo K : Detection of T cell apoptosis after major surgery . Eur J Surg 1999 ; 165 : 1020-1023 .
  - 16) Sasajima K, Koizumi K, Onda K, Miyashita M, Yoshiyuki T, Matsutani T, Inokuchi K, Takubo K : Thoracoscopic excision with mini-thoracotomy for a bronchogenic cyst of the esophagus . Hepato-Gastroenterology 1999 ; 46 : 1785-1787 .
  - 17) Taniiai N, Onda M, Tajiri T, Toba M, Yoshida H : Endoscopic variceal ligation ( EVL ) combined with partial splenic embolization ( PSE ). Hepato-Gastroenterology 1999 ; 46 : 2849-2853 .
  - 18) Tsuchiya Y, Onda M, Miyashita M, Sasajima K : Serum level of cytokeratin 19 fragment ( CYFRA21-1 ) indicates tumour stage and prognosis of squamous cell carcinoma of the oesophagus . Medical Oncol 1999 ; 16 : 31-37 .



- 19) Umehara M , Onda M , Tajiri T , Toba M , Yoshida H , Yamashita K : Sclerotherapy plus ligation versus ligation for the treatment of esophageal varices : a prospective randomized study . *Gastrointest Endosc* 1999 ; 50 ( 1 ): 7-12 .
- 20) Yamamoto K , Onda M , Tajiri T : Correlation between Angiographic Features of Esophageal Varices and Recurrence after Endoscopic Treatment . *Hepato-Gastroenterology* 1999 ; 46 : 3136-3141 .
- 21) Yamamura S , Onda M , Uchida E : Two types of peritoneal dissemination of pancreatic cancer cells in a hamster model . *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 : 253-261 .
- 22) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Akimaru K , Uchida E , Arima Y , Mamada Y , Taniai N , Yamamoto K , Kaneko M , Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept of Radiology ): New techniques : Splenic artery embolization followed by intraarterial infusion chemotherapy for the treatment of pancreatic cancer . *Hepato-Gastroenterology* 1999 ; 46 : 2024-2027 .
- 23) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Umehara M , Mamada Y , Matsumoto S , Yamamoto K , Kaneko M , Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept of Radiology ): Treatment of Spontaneous Ruptured Hepatocellular Carcinoma . *Hepato Gastroenterology* 1999 ; 46 : 2451-2453 .
- 24) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Uchida E , Arima Y , Mamada Y , Yamamoto K , Kaneko M , Terada Y , Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept of Pathology ): Experience with intraarterial infusion of styrene maleic acid neocarzinostatin ( SMANCS ) -Lipiodol in pancreatic cancer . *Hepato Gastroenterology* 1999 ; 46 : 2612-2615 .
- 25) Hagiwara N , Onda M , Miyashita M , Sasajima K : Detection of circulating anti-p53 antibodies in esophageal cancer patients . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 : 110-117 .
- 26) Tsuchiya Y , Onda M , Miyashita M , Hagiwara N , Maruyama H , Matsutani T , Okawa K , Takubo K , Yamashita K , Sasajima K : Combined Modality Therapy for Basaloid Squamous Carcinoma of the Esophagus . *Hepato-Gastroenterology* 1999 ; 46 ( 29 ): 2868-2871 .
- 27) Taniai N , Egami K , Wada M , Tajiri T , Onda M : Adrenal metastasis from hepatocellular carcinoma ( HCC ): report of 3 cases . *Hepato-Gastroenterol* 1999 ; 46 : 2523-2528 .
- 28) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Matsukura N , Tokunaga A , Yamashita K , Yoshiyasu M , Hashimoto M : A case of abscess caused by a penetrating duodenal ulcer . *Hepato-Gastroenterology* 1999 ; 46 : 2379-2381 .
- 29) Taniai N , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Naitou Z : Synchronous carcinoma of the gallbladder in a patient with intrahepatic bile duct carcinoma . *Hepato-Gastroenterol*, 2000 ; 47 : 121-124 .
- 30) 内田英二 , 恩田昌彦 , 中村慶春 , 田尻 孝 : 重症急性膵炎の早期重症度判定と後期膿瘍形成の予測 ( 特集重症急性膵炎の重症度診断と初期治療 ) . *消化器科* 1999 ; 29 ( 1 ): 77-84 .
- 31) 加藤俊二 , 内藤善哉 : 広範囲 血液・尿化学検査 , 免疫学的検査 ( 1 ): その数値をどう読むか : グルタチオン S-トランスフェラーゼ . *日本臨牀* 1999 ; 57 : 451-453 .
- 32) 加藤俊二 , 恩田昌彦 , 吉行俊郎 , 長谷川博一 , 松倉則夫 , 田尻 孝 , 徳永 昭 : 胃癌手術後の肝障害発生要因の解析 . *日外科系連会誌* 1999 ; 24 : 580-585 .
- 33) 森山雄吉 , 恩田昌彦 , 松田範子 , 谷合信彦 , 吉田 寛 , 松倉則夫 , 徳永 昭 , 田尻 孝 , 京野昭二 : 食道静脈瘤治療中あるいは肝切除術後の肝機能増悪例に対する高気圧酸素治療 . *日高圧医学会誌* 1999 ; 23 ( 4 ): 179-187 .
- 34) 清水一雄<sup>2)</sup> , 田尻 孝 , 明楽重夫<sup>1)</sup> , 北川 亘<sup>2)</sup> , 赤須東樹<sup>2)</sup> , 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科 , <sup>2)</sup>外科第2 ): Video-assisted neck surgery ( VANS ): 吊り上げ法を応用した内視鏡下甲状腺 , 上皮小体手術 . *日鏡外会誌* 1999 ; 4 ( 6 ): 553-557 .
- 35) 吉田 寛 , 恩田昌彦 , 田尻 孝 , 鳥羽昌仁 , 梅原松臣 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院 外科 ): 内視鏡的胃静脈瘤硬化結紮術の経験 . *外科治療* 1999 ; 81 : 732-734 .

- 36) 宮下正夫, 恩田昌彦, 池田研吾, 坂東功一, 萩原信敏, 土屋喜一, 木山輝郎, 斎藤忠生, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌における化学療法時の悪心, 嘔吐に Ondansetron Hydrochloride 注射剤および  
経口剤による組合せ投与の臨床効果. 癌と化学療法 1999; 26: 1629-1635.
- 37) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美: 深在性カンジダ症の治療指針: 外科領域か  
ら. 日本外科感染症研究11 1999; 223-227.
- 38) 山田岳史, 江上 格, 恩田昌彦, 岡崎滋樹, 和田雅世, 内田英二, 田尻 孝, 吉岡正智: 膵胆管合流異常にお  
ける膵炎. 胆膵の生理機能 1999; 15(1): 61-63.
- 39) 長谷川博一, 恩田昌彦, 徳永 昭, 永嶋裕司, 横山滋彦, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 和田雅世<sup>1)</sup>, 京野  
昭二<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 江上 格<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 経内視鏡的胃瘻造  
設術. 日医大誌 1999; 66(3): 191-194.
- 40) 長谷川博一, 恩田昌彦: 手術術式からみた周術期管理のすべて, 出血性素因. 外科治療, 増刊 1999; 1013-  
1016.
- 41) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 田尻 孝: 重症急性膵炎の早期重症度判定と後期膿瘍形成の予測. 消化器科  
1999; 29: 77-84.
- 42) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 飯田信也, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 丸山 弘, 古川清  
憲: 腹膜炎ラットにおける大腸吻合部治癒: 食餌開始時期の検討. Progress in Medicine 1999; 19(9):  
2218-2219.
- 43) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 平本義浩, 池田研吾, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則  
夫: 幽門側胃切除後残胃機能評価の試み; 24時間pHモニター, 胆汁測定による検討. 胃分泌研究会誌  
1999; 31: 17-20.
- 44) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 山下精彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭(<sup>1)</sup>千葉北総病院  
外科): 胃切除後の骨代謝障害とその評価: Microdensitometry (MD) 法およびMD/MS (Multiple scanning  
X-ray photodensitometry) 法による骨量測定. 日外科系連会誌 2000; 25: 36-42.
- 45) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭: 術後肝障害発生要因の解析とプロスペクテ  
ィブスタディによる肝障害発症の予防. 日外科系連会誌 2000; 25: 166-172.
- 46) 島貫公義<sup>1)</sup>, 樋口勝美, 相本隆幸, 廣井 信, 武内俊章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>総合会津中央病院外科): 急性胆嚢炎における  
Epstein-Barr Virusの関与について. 日消外会誌 2000; 33(3): 299-303.
- 47) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛: 原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の  
経験. 日臨外会誌 2000; 61: 1040-1043.
- 48) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎: プタを用いた消化管吻合創治癒の実験モデル: 胃全摘食道空腸器  
械吻合創の治癒過程と吻合部狭窄の発生. 外科と代謝・栄養 2000; 34(1): 17-26.
- 49) 川俣博志, 館野 温, 金子昌裕, 高橋修司, 田島廣之, 隈崎達夫, 小嶋隆行, 田尻 孝, 恩田昌彦, 恩田宗  
彦: 回転デジタル血管撮影下経カテーテルの動脈塞栓術で止血し得た空腸平滑筋腫の1切除例. 日消誌  
1999; 96(10): 1153-1158.
- 50) 松田明久, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 鈴木英之, 江上 聡, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 2度にわたる緊  
急血管造影検査にて診断し手術を施行した大腸憩室大量出血の1例. 手術 1999; 53(13): 2017-2020.
- 51) 谷谷信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 小川芳雄, 内藤善哉: アレルギー性肉芽腫性血管炎  
(allergic granulomatous angiitis) による多発性小腸穿孔の1例. 日消外会誌 1999; 32: 2591-2595.
- (2) 総説:
- 1) 田尻 孝, 恩田昌彦, 吉田 寛: 最適な治療法の選択には効果の確実性と永続性も考慮(食道静脈瘤患者の管  
理). LiSA (Life Support and Anesthesia) 1999; 6(7): 692-695.
- 2) 田尻 孝, 恩田昌彦, 吉田 寛: TAE(経動脈的塞栓術). 臨床外科 増刊号; 薬物療法マニュアルII検査・処

- 置・内視鏡的治療に伴う薬物療法 1999 ; 54 ( 11 ): 130-131 .
- 3) 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘: 抗エンドトキシン療法: 抗エンドトキシン抗体, 抗メデイエーター抗体の有用性? . 集中治療 1999 ; 11 ( 2 ): 153-159 .
  - 4) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 横山滋彦, 永嶋裕司: イレウスに対する手術のタイミング. 外科 1999 ; 471-476 .
  - 5) 古川清憲: 外科領域における深在性カンジダ症の治療指針. Current Antifungal News ( CAN ). Medical Mycology 1999 ; 19 : 1-3 .
  - 6) 古川清憲: 外科領域における深在性真菌症の診断と治療指針. 第6回外科フオ - ラム 1999 ; 56-63 .
  - 7) 古川清憲: 腸ガス発生メカニズムとその対応. 総合臨床 1999 ; 49 ( 2 ): 385-386 .
  - 8) 高崎秀明, 恩田昌彦: 特集 急性腹症の治療; 手術治療と保存的治療: 治療法選択のdecision makingを含めて腸閉塞. 消化器外科 1999 ; 22 : 1109-1114 .
  - 9) 高崎秀明, 恩田昌彦: 特集 急性消化管疾患: 重症患者へのアプローチ 絞扼性イレウス. 救急医学 1999 ; 23 : 809-812 .
  - 10) 小川芳雄, 恩田昌彦, 田尻 孝: 胆嚢ポリープと胆嚢腺筋腫症 ( 消化器疾患 state of arts ( Ver. 2 ) II . 肝・胆・膵. 別冊・医学のあゆみ 1999 ; 490-493 .
  - 11) 松倉則夫: 残胃の *H. pylori* 感染. 日本医事新報 1999 ; 3902 : 123 .
  - 12) 松倉則夫, 恩田昌彦: *H. pylori* 感染と残胃癌発生. 消化器科 1999 ; 29 : 40-44 .
  - 13) 松倉則夫, 恩田昌彦: 胃癌遺伝子治療の展望. 日消誌 1999 ; 96 : 1359-1364 .
  - 14) 松倉則夫, 恩田昌彦, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): イヌ胃癌の遺伝子治療: ヒトに応用可能な自殺遺伝子治療法. 日医大誌 1999 ; 66 : 370-371 .
  - 15) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一: 胃癌に対する遺伝子治療. 消化器科 1999 ; 29 : 432-436 .
  - 16) 牧野浩司, 宮下正夫, 恩田昌彦: ショック. 外科 1999 ; 61 : 1430-1443 .
  - 17) 牧野浩司, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 外科的侵襲とTリンパ球のアポトーシス. 侵襲と免疫 1999 ; 18 : 22-26 .
  - 18) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦: 臓器移植と臨床検査: 脳死からの移植を中心に: D肝臓移植 ( 特集: 脳死と臓器移植: 臨床検査からのアプローチ ). Medical Technology 2000 ; 28 ( 3 ): 272-279 .
  - 19) 恩田昌彦, 高崎秀明, 田中宣威: 特集 イレウス診療のupdate イレウスの病態: 最近の知見. 臨外 2000 ; 55 : 145-150 .
  - 20) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 金沢義一: 急性虫垂炎の診断, 治療の進歩. 臨床外科 2000 ; 1535-1539 .
  - 21) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美: 大腸手術の術前抗菌薬投与の是非. 消化器外科 2000 ; 23 : 297-299 .

## 著 書

- 1) Lee Y, Onda M, Tokunaga A, Hiramoto Y, Ikeda K, Shirakawa T, Takita M, Okuda T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N : [ 分担 ] Measurement of the thymidylate synthase and dihydropyrimidine dehydrogenase protein in gastric cancer . 3rd INTERNATIONAL GASTRIC CANCER CONGRESS , 1999 ; pp747-749 , MONDUZZI EDITORE .
- 2) Travis W. D, Usuki J, Horiba K, Ferrans V. J : [ 分担 ] LAM and other disease characterized by smooth muscle proliferation : Histopathologic studies on lymphangiomyomatosis . Lung biology in health and disease , 1999 ; pp171-217 , Marcel Dekker, Inc. New York .

- 3) Maruyama H, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Matsutani T: [分担] Role of tumor necrosis factor-alpha in the increase of nitric oxide in surgical stress and sepsis. 5th World Congress on Trauma, Shock, Inflammation and Sepsis (Edit. Faist, E.), 2000; pp179-182, Monduzzi Editore Bologna.
- 4) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦苺正幸, 前澤勝美, 田中宣威: [分担] 消化器外科領域における血中エンドトキシンと血液培養成績の検討. エンドキシン研究2: 新しい展開(日本エンドトキシン研究会編), 1999; pp205-210, 菜根出版(東京).
- 5) 松倉則夫, 宮下正夫: [分担] 消化管障害の生理学. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp843-850, 医学書院.
- 6) 田尻 孝, 恩田昌彦, 吉田 寛: [分担] V 脾機能亢進症 部分脾動脈塞栓術. 肝・脾疾患のIVR治療(税所宏光, 江原正明編), 1999; pp148-152, メジカルビュー社.
- 7) 内田英二, 宮下正夫: [分担] 消化管の消化と吸収. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp831-842, 医学書院.
- 8) 加藤俊二, 宮下正夫: [分担] 消化管分泌機能. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp813-830, 医学書院.
- 9) 徳永 昭, 宮下正夫: [分担] 消化管機能の一般原理 運動性, 神経支配, 血液循環. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp793-802, 医学書院.
- 10) 笹島耕二, 宮下正夫: [分担] 消化管内における食物の輸送と混和. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp803-812, 医学書院.
- 11) 恩田昌彦, 古川清憲, 小玉正智, 中野昌康: [編集] エンドトキシン研究2. エンドトキシン研究2: 新しい展開(恩田昌彦, 古川清憲, 小玉正智, 中野昌康編), 1999; 菜根出版.
- 12) 松倉則夫: [分担] 大腸癌発生における食事要因. 大腸癌: 発生から治療まで(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp34-42, メディカグループ.
- 13) 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲: [分担] II症状. 1大腸癌の症状. 大腸癌(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp58-62, メディカグループ(弘前).
- 14) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲: [分担] II症状. 3直腸指診. 大腸癌(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp80-81, メディカグループ(弘前).
- 15) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲, 瀬谷知子: [分担] II症状. 4便潜血反応. 大腸癌(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp82-86, メディカグループ(弘前).
- 16) 古川清憲, 恩田昌彦, 田中宣威, 横山滋彦: [分担] III診断. 7画像診断. B超音波検査. 大腸癌(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp128-134, メディカグループ(弘前).

#### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

#### シンポジウム:

- 1) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 鈴木 聡<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化第2): 自殺遺伝子による胃癌治療における遺伝子の分布と副作用. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

#### 一般講演:

- 1) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Matsukura N, Yamada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Endoscopy, Tama Nagayama Hospital, (<sup>2)</sup>2nd dept. Pathology): An endoscopic observation of Helicobacter pylori in infection and gastric mucosa in Asian people. 11th Asian Pacific Congress of Gastroenterology (Hong Kong, China), 1999. 3.
- 2) 松田明久, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 金子昌裕, 永嶋裕司, 高橋由至,

杉浦 篤, 小泉岐博, 田中元子, 江上 聡, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>(1)</sup>放射線科): 2度にわたる緊急血管造影検査にて診断し手術施行した大腸憩室大量出血の1例. 第771回外科集談会, 1998. 12.

- 3) 笹島耕二, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌術後の多臓器障害の病態. 第99回日本外科学会総会, 1999. 3.

(1) 招待講演:

- 1) 古川清憲, 恩田昌彦: 外科領域における深在性真菌症の診断と治療指針. 第6回外科フオ - ラム, 1999. 5.  
2) 徳永 昭: 消化器器械吻合時の創傷治癒について. 第6回大分外科侵襲懇話会, 1999. 8.  
3) 徳永 昭, 恩田昌彦: 手術・外傷後の免疫抑制の解明と制御: 健康人NK細胞活性に対する創浸出液の抑制作用. 第12回山口県術前術後管理懇話会, 1999. 11.  
4) 吉行俊郎: 胃癌, 大腸癌におけるTS・DPDの検索と効果予測. 第5回腫瘍分子生物学懇話会, 1999. 12.

(2) 教育講演:

- 1) 秋丸琥甫: 移植肝の穿刺吸引細胞診. 第40回 日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.

(3) シンポジウム:

- 1) Matsukura N, Onda M, Kato S, Hasegawa H, Yoshiyuki T, Okino T, Lee Y, Tokunaga A: Role of *Helicobacter pylori* infection in carcinogenesis of remnant-stump cancer after gastrectomy. 9th World Congress International Gastro-Surgical Club (Nagasaki), 1999. 10.  
2) Matsukura N, Onda M, Yokomuro S, Arima Y, Miki M, Yamada N<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>2nd Dept of Pathology): *H. pylori* and gastric cancer: How *H. pylori* infection attribute to the carcinogenesis of the stomach?. 45th Annual Scientific Meeting International College of Surgeons (Kanchanaburi, Thailand), 1999. 12.  
3) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 鈴木 聡<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 稲田健一<sup>2)</sup>, 立松正衛<sup>2)</sup>(<sup>(1)</sup>生化第2, <sup>2)</sup>愛知県がんセンター病理): 胃癌に対する遺伝子治療の展望: 可能性と問題点. 第71回日本胃癌学会総会, 1999. 6.  
4) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 松久威史<sup>2)</sup>(<sup>(1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院内視鏡): 民族差による *H. pylori* 感染と粘膜萎縮, 腸上皮化生の関係の組織学的検討. 第5回日本ヘリコバクター学会, 1999. 6.  
5) 針原 康<sup>1)</sup>, 幕内雅敏<sup>1)</sup>, 高山忠利<sup>1)</sup>, 窪田敬一<sup>1)</sup>, 平田 勝<sup>1)</sup>, 北 嘉昭<sup>1)</sup>, 佐野圭二<sup>1)</sup>, 久富伸哉<sup>1)</sup>, 三浦泰朗<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 日下浩二<sup>1)</sup>, 回 愛民<sup>1)</sup>, 青木 琢<sup>1)</sup>, 平井一郎<sup>1)</sup>, 松倉 聡<sup>1)</sup>, 長谷川 潔<sup>1)</sup>, 前間 篤<sup>1)</sup>, 阪本良弘<sup>1)</sup>, 小林 隆<sup>1)</sup>, 緑川泰<sup>1)</sup>, 加藤正人<sup>1)</sup>, 高津 光<sup>1)</sup>, 伊東充宏<sup>1)</sup>, 水田耕一<sup>1)</sup>, 田中秀明<sup>1)</sup>, 吉野浩之<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>東大肝移植チーム): 肝炎ウイルス陽性例に対する生体部分肝移植. 第17回肝移植研究会, 1999. 6.  
6) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝: 当科における肝癌に対するマイクロ波凝固壊死療法(MCT)の位置づけ. 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 6.  
7) 宮下正夫, 恩田昌彦, 萩原信敏, 土屋喜一, 松谷 毅, 大川敬一, 長澤重直, 丸山 弘, 野村 務, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌術後合併症予防に対する術前ステロイド投与の randomized study. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.  
8) 樋口勝美, 島貫公義<sup>1)</sup>, 野村 務, 相本隆幸, 平本義浩, 廣井 信<sup>(1)</sup>総合会津中央病院外科): 乳癌患者における緩和医療. 第22回福島・宮城乳腺研究会, 1999. 9.  
9) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 秋丸琥甫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 胃静脈瘤の破裂時の特徴と予防的治療の是非. 第6回日本門脈圧亢進症学会総会, 1999. 9.  
10) 萩原信敏, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, Cawley HM<sup>1)</sup>, Trivers GE<sup>1)</sup>, 松谷 毅, 土屋喜一, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 大川敬一, 長澤重直, 山下精彦<sup>2)</sup>, Harris CC<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>National Cancer Institute, NIH, USA,

2) 千葉北総病院外科): 食道癌患者の血清抗p53抗体の臨床的応用について．第10回日本消化器癌発生学会，1999．9．

- 11) 針原 康<sup>1)</sup>，幕内雅敏<sup>1)</sup>，河原崎秀雄<sup>1)</sup>，高山忠利<sup>1)</sup>，窪田敬一<sup>1)</sup>，平田 勝<sup>1)</sup>，北 嘉昭<sup>1)</sup>，佐野圭二<sup>1)</sup>，久富伸哉<sup>1)</sup>，谷合信彦，伊東充宏<sup>1)</sup>，水田耕一<sup>1)</sup>，吉野浩之<sup>1)</sup>，橋都浩平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大肝移植チーム): ドナーからみた生体肝移植の適応拡大とその限界．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 12) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，李 榮浩，小野寺浩之，古川清憲: 消化器縫合不全・瘻孔患者の血中増殖因子．第29回創傷治療研究会，1999．12．
- 13) 秋丸琥甫，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛: 肝移植後のモニタリング: 移植肝の穿刺吸引細胞診．第39回日本臨床病理学会東海・北陸支部総会，2000．3．
- 14) 吉村和泰，恩田昌彦，美濃部かおり，源河敦史，会田邦晴，鈴木英之，高崎秀明，古川清憲，田中宣威: 術後単純性イレウスの手術適応．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

#### (4) パネルディスカッション:

- 1) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，前澤勝美，秋谷行宏，丸山 弘，吉村和泰，高崎秀明，会田邦晴，源河敦史，田中宣威: 薬剤耐性を考慮した術前術中予防的抗菌剤投与の意義: 大腸疾患手術症例における controlled randomized study．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 2) 加藤俊二，恩田昌彦，田尻 孝: 肝硬変の発癌を促進するアルコールの影響およびその代謝酵素の遺伝的個体差と肝癌発症の予測．第41回日本消化器病学会大会，第3回日本肝臓学会大会，1999．10．
- 3) 松倉則夫: *H. pylori*除菌前後の内視鏡像および病理所見．第15回胃炎研究会，1999．11．
- 4) 小野寺浩之，恩田昌彦，徳永 昭，木山輝郎，吉行俊郎，李 榮浩，白川 毅，加藤俊二，長谷川博一，宮下正夫，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): ステロイド投与患者腹部救急疾患の治療．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

#### (5) セミナー:

- 1) 吉行俊郎，恩田昌彦: 消化管疾患における漢方治療: 術後腸管麻痺に対する大建中湯の効果．第33回日本腹部救急医学会総会，1999．9．

#### (6) ワークショップ:

- 1) Shimizu K<sup>1)</sup>，Tajiri T，Tanaka K<sup>1)</sup>，Kitagawa W<sup>1)</sup>，Akasu H<sup>1)</sup>，Tanaka S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): Video-Assisted Neck Surgery (VANS): Endoscopic Resection of Papillary Carcinoma of the Thyroid with Cervical Lymph nodes Clearance Using the Gasless Anterior Neck Lift Method．International Workshop on Endocrine Telesurgery (Lucknow, India), 1999．10．
- 2) 田尻 孝，恩田昌彦，秋丸琥甫，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，峯田章，吉岡正人，内田英二，有馬保生，山下精彦<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>放射線科): 肝硬変症に伴う食道・胃静脈瘤に対するIVRとIVE．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 3) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，梅原松臣，吉田 寛，谷合信彦，金子昌裕，吉岡正人，峯田章，平方敦史，寺田淑恵，山下精彦<sup>1)</sup>，荒牧琢巳<sup>2)</sup>，小林正文<sup>3)</sup>，金沢秀典<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>内科第1，<sup>3)</sup>内科第3): 難治性腹水に対する腹腔: 鎖骨下静脈シャント術の検討．第6回日本門脈圧亢進症学会，1999．9．
- 4) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，大川敬一，松谷 毅，長澤重直，萩原信敏，土屋喜一，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌術後管理における早期経腸栄養の有用性．第33回日本腹部救急医学会総会，1999．9．

#### (7) 一般講演:

- 1) Hagiwara N，Onda M，Miyashita M，Cawley H<sup>2)</sup>，Trivers G<sup>2)</sup>，Matsutani T，Nomura T，Maruyama H，Nagasawa S，Sasajima K，Yamashita K<sup>1)</sup>，Harris C<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>National Cancer Institute):

- Serum anti-p53 antibodies in Japanese esophageal cancer patients . 90th Annual Meeting of American Association for Cancer Research ( Philadelphia, USA ), 1999 . 4 .
- 2) Tsuchiya Y , Onda M , Miyashita M , Nomura T , Makino H , Matsutani T , Okawa K , Nagasawa S , Takubo K , Yamashita K<sup>1)</sup> , Sasajima K ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Serum level of CYFRA 21-1 and immunohistochemistry of cytokeratin19 in esophageal carcinoma . 90th Annual Meeting of American Association for Cancer Research ( Philadelphia, USA ), 1999 . 4 .
  - 3) Lee Y , Onda M , Hiramoto Y , Ikeda K , Shirakawa T , Takita M , Okuda T , Kiyama T , Yoshiyuki T , Matsukura N : Measurement of the thymidrate synthase and dihydropyrimidine dehydrogenase protein in gastric cancer . 第3回国際胃癌学会 , 1999 . 4 .
  - 4) Hagiwara N , Onda M , Miyashita M , Cawley H. M<sup>2)</sup> , Trivers G. E<sup>2)</sup> , Matsutani T , Tsuchiya Y , Nomura T , Makino H , Maruyama H , Nagasawa S , Sasajima K , Yamashita K<sup>1)</sup> , Harris CC<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>National Cancer Institute, Bethesda, MD 20892 ( C. H. M. , T. G. E. , H. C. C ) ): Serum anti-p53 antibodies in Japanese esophageal cancer patients. . American Association for Cancer Research ( AACR )( Philadelphia, USA ), 1999 . 4 .
  - 5) Kato S , Onda M , Matsukura N , Matsuda N , Tokunaga A , Matsushita H , Kitoh T , Kudoh H , Naito Z , Asano G , Shields P : Genotype-Phenotype Relationships for Cytochrome p450s ( CYP ) in Gastric Normal and Tumor Tissues . 90th Annual Meeting of American Association for Cancer Research ( Philadelphia USA ), 1999 . 4 .
  - 6) Matsukura N , Hoshino A<sup>1)</sup> , Igarashi T<sup>1)</sup> , Hasegawa H , Okino T , Onda M , Suzuki S<sup>1)</sup> , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Biochemistry and Molecular Biology ): In situ gene transfer and suicide gene therapy of gastric cancer in dogs induced by N-methyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine : effect and adverse effect . 35th Annual Meeting American Society of Clinical Oncology ( Atlanta, USA ), 1999 . 5 .
  - 7) Matsukura N , Onda M , Kato S , Hasegawa H , Yoshiyuki T , Ikeda K , Okino T , Lee Y , Tokunaga A , Yamahatsu J , Morino K , Yamashita K<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>2nd Dept of Pathology ): Helicobacter pylori infection and chronic active gastritis in the remnant stomach after distal gastrectomy . International Surgical Week 99 ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
  - 8) Tokunaga A , Onda M , Hiramoto Y , Ikeda K , Lee Y , Shirakawa T , Takita M , Kiyama T , Yoshiyuki T , Onodera H , Matsukura N : EXPERIMENTAL STUDIES ON GI ANASTOMOTIC HEALING : STRUCTURE AFTER STAPLED ESOPHAGOJEJUNAL ANASTOMOSIS IN SWINE . 3rd Joint Meeting of The European Tissue Repair Society & The Wound Healing Society , 1999 . 8 .
  - 9) Tokunaga A , Onda M , Hiramoto Y , Ikeda K , Lee Y , Shirakawa T , Takita M , Kiyama T , Yoshiyuki T , Matsukura N : EXPERIMENTAL STUDIES ON STRICTURE OF ESOPHAGOJEJUNAL ANASTOMOSIS WITH PLUS CEEA AFTER TOTAL GASTRECTOMY IN SWINE . International Surgical Week ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
  - 10) Kiyama T , Onda M , Tokunaga A , Yoshiyuki T , Barbul A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Surgery, Johns Hopkins University, Baltimore, U. S. A. ): HEALING OF COLONIC ANASTOMOSIS ; REAPPRAISAL OF SINGLE-LAYER AND MATTRESS SUTURES . 3rd ETRS and WHS joint meeting ( Borduex, France ), 1999 . 8 .
  - 11) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Ogawa Y , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Yamamoto K , Kaneko M , Yoshioka M , Mineta S , Yamashita K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Peritoneal patch for reconstruction of the vena cava . The 38th World Congress of Surgery ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
  - 12) Kaneko M , Onda M , Tajiri T , Toba M , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Yamamoto K , Kumazaki T : The limitation of treating portal systemic shunts ( PSS ) with interventional radiology ( IVR ) . ISW99

( ISS/SIC )( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .

- 13) Tajiri T , Onda M , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Kaneko M , Mineta S , Yoshioka M , Umehara M , Toba M , Akimaru K , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): The long-term results of modified distal splenorenal shunt for the treatment of esophageal varices . ISW99 ( ISS/SIC )( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
- 14) Tani ai N , Harihara Y<sup>1)</sup> , Kita Y<sup>1)</sup> , Hirata M<sup>1)</sup> , Sano K<sup>1)</sup> , Kusaka K<sup>1)</sup> , Kubota K<sup>1)</sup> , Takatyama T<sup>1)</sup> , Makuuchi M<sup>1)</sup> , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T , Onda M (<sup>1)</sup>Liver Transplantation Team, Faculty of Medicine, University of Tokyo ): Persistent discharge of ascites and/or pleural effusion after adult-to-adult living related liver transplantation . 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 15) Tani ai N , Harihara Y<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Akune T<sup>1)</sup> , Kita Y<sup>1)</sup> , Hirata M<sup>1)</sup> , Sano K<sup>1)</sup> , Kusaka K<sup>1)</sup> , Kubota K<sup>1)</sup> , Takayama T<sup>1)</sup> , Makuuchi M<sup>1)</sup> , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T , Onda M (<sup>1)</sup>Liver Transplantation Team, Faculty of Medicine, University of Tokyo ): Pre-transplant evaluation of bone mineral density in adult patients with end-stage cholestatic liver disease . 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 16) Tani ai N , Harihara Y<sup>1)</sup> , Kita Y<sup>1)</sup> , Hirata M<sup>1)</sup> , Sano K<sup>1)</sup> , Kusaka K<sup>1)</sup> , Kubota K<sup>1)</sup> , Takatyama T<sup>1)</sup> , Makuuchi M<sup>1)</sup> , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T , Onda M (<sup>1)</sup>Liver Transplantation Team, Faculty of Medicine, University of Tokyo ): Formation and rupture of esophageal varices after adult-to-adult living related liver transplantation . 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 17) Hirata M<sup>1)</sup> , Harihara Y<sup>1)</sup> , Hisatomi S<sup>1)</sup> , Miura Y<sup>1)</sup> , Yoshino H<sup>1)</sup> , Mizuta K<sup>1)</sup> , Ito M<sup>1)</sup> , Sano K<sup>1)</sup> , Tani ai N , Kusaka K<sup>1)</sup> , Kita Y<sup>1)</sup> , Kawarasaki H<sup>1)</sup> , Kubota K<sup>1)</sup> , Takayama T<sup>1)</sup> , Hashizume K<sup>1)</sup> , Makuuchio M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Liver Transplantation Team, Faculty of Medicine, University of Tokyo ): Living-related liver transplantation for patients with primary biliary chrrhosis . 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 18) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Uchida E , Arima Y , Mamada Y , Kobayashi T , Tani ai N , Yamamoto K , Kaneko M , Terada Y , Akimaru K , Yamashita K<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>Dept of Radiology ): Experience with intraarterial infusion of Styrene Maleic Acid Neocarzinostatin ( SMANCS ) -Lipiodol in pancreatic cancer . 9th World congress international Gastro-surgical club ( Nagasaki, Japan ), 1999 . 10 .
- 19) Kiyama T , Onda M , Tokunaga A , Matsukura N , Yoshiyuki T , Mizutani T , Lee Y , Onodera H , Matsuda N , Moriyama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Gastroenterological center, Nippon Medical School Second Hospital ): THE INFLUENCE OF HYPERBARIC OXYGEN ON COLON ANASTOMOTIC HEALING . 10th International Hyperbaric Conference , 1999 . 10 .
- 20) Akimaru K : Comparative study between tumor and non-tumor ABC findings of the liver . Symposium on Fine Needle Aspiration Cytology of Hepatobiliary Tract by Thailand division of the international academy of pathology ( Bangkok, Thailand ), 1999 . 10 .
- 21) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Umehara M , Yoshida H , Yokomuro S , Nomura T , Mamada Y , Tani ai N , Yamamoto K , Kaneko M , Yoshioka M , Mineta S , Masuda G , Uchida E , Arima Y , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Resection of the liver, inferior vena cava and right kidney for recurrences over nine years after right adrenalectomy for carcinoma . The 9th World Congress of International Gastro-Surgical Club ( Nagasaki, Japan ), 1999 . 10 .
- 22) Yanagi K , Onda M , Uchida E , Lu Y , Fukuhara M , Matsushita A , Yamamura S , Nakamura Y , Inoue M , Aimoto T , Kobayashi T , Tajiri T , Egami K , Naito Z<sup>1)</sup> , Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Pathol ): EFFECT OF ANGIO-STATIN ON THE LIVER METASTASIS OF EXPERIMENTAL PANCREATIC CANCER . American Pan-



- creatic Association ( Chicago, USA ), 1999 . 11 .
- 23) Matsushita A , Onda M , Uchida E , Lu Y , Fukuhara M , Yanagi K , Yamamura S , Inoue M , Nakamura Y , Yokoyama T , Aimoto T , Kobayashi T , Aida K , Tajiri T , Egami K , Maekawa R , Yoshioka T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Shionogi Research Laboratories<sup>1</sup>): New matrix metalloproteinase inhibitor inhibits invasion, growth of tumor and liver metastasis in experimental pancreatic cancer . Annual meeting of american pancreatic association ( Chicago, USA ), 1999 . 11 .
- 24) Koizumi M , Onda M , Tanaka N , Furukawa K , Takasaki H , Yoshimura K , Seya T , Yamada T , Takahashi Y , Naito Z , Asano G : The Effect of Somatostatin Analogue ( Octreotide ) on Rectal Neuroendocrine Carcinoma ( NEC ). 7th UEGW , 1999 . 11 .
- 25) Akimaru K , Onda M , Matsuda N , Moriyama Y , Tajiri T , Tokunaga A , Matsukura N , Kato S , Kiyama T , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Yoshimura K , Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): Effectiveness of hyperbaric oxygen on liver regeneration after carbon tetrachloride administration and hepatectomy . The 13th international congress on hyperbaric medicine ( Kobe, Japan ), 1999 . 11 .
- 26) Akimaru K : Cytology of the liver ( supplementary comments ). International Symposium in The 38th Autumn Meeting of The Japanese Society of Clinical Cytology ( Nagoya, Japan ), 1999 . 11 .
- 27) Fukuhara M , Onda M , Uchida E , Lu Y , Matsushita A , Yanagi K , Yamamura S , Inoue M , Nakamura Y , Yokoyama T , Aimoto T , Kobayashi T , Tajiri T , Egami K , Naitou Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Pathol): VEGF EXPRESSION IN METASTATIC LIVER TUMORS AND DIRECTLY TRANSPLANTED LIVER TUMORS OF PANCREATIC CANCER RELATIONSHIP WITH THE MICROVESSEL DENSITY . American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 1999 . 11 .
- 28) Uchida E , Onda M , Nakamura Y , Tajiri T , Yamamura S , Aimoto T , Kobayashi T , Matsushita A , Yanagi K , Fukuhara M , Lu Y , Aida K , Egami K , Yamashita K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理第2): K-RAS POINT MUTATION IN PANCREATIC JUICE IN PANCREATIC REMNANT AFTER PANCREATO-DUODENECTOMY . Annual meeting of American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 1999 . 11 .
- 29) Lu Y , Onda M , Uchida E , Yamamura S , Yanagi K , Matsushita A , Fukuhara M , Kobayashi T , Aida K , Tajiri T : The inhibitory effects of bile acids on human pancreatic cancer PANC-1 cell lines . Annual meeting of American Pancreatic Association ( Chicago, USA ), 1999 . 11 .
- 30) Arima Y , Onda M , Tajiri T , Matsukura N , Ogawa Y , Saito T , Yokomuro S , Yoshida H , Kobayashi T , Aimoto T , Nakanura Y , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): Effectiveness and Complication of Expandable Metallic Stent for Malignant Biliary Stenosis . International Surgeon ( Thailand ), 1999 . 12 .
- 31) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): Combined endoscopic sclerotherapy and endoscopic ligation for gastric varices . 5th Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery ( Malaysia ), 1999 . 12 .
- 32) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): Prophylactic treatment of gastric varices is unnecessary . 5th Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery ( Malaysia ), 1999 . 12 .
- 33) Mineta S , Onda M , Tajiri T , Umehara M , Yoshida H , Mamada Y , Hirose Y , Yamamoto K , Kaneko M , Yoshioka M , Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>2nd Dept of Pathology ): Liver Cell Adenoma in a Young Man . Fifth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery , 1999 . 12 .
- 34) Mineta S , Onda M , Tajiri T , Toba M , Ogawa Y , Umehara M , Yoshida H , Mamada Y , Yamamoto K , Kaneko M , Kumazak T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept of Radiology ): A Case of Intractable Esophageal Varices Resistant to

- Various Therapies . Fifth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery , 1999 . 12 .
- 35) Yokomuro S , Onda M , Demetris A. J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Thomas E. Starzl Transplantation Institute, Department of Pathology, University of Pittsburgh ): THE EFFECT OF INTERLEUKIN-6 ( IL-6 ) /GP130 SIGNALING ON HUMAN CHOLANGIOCARCINOMA . Fifth Congress of Asian Society of HEPATO-BILIARY-PANCREATIC SURGERY ( Malaysia ), 1999 . 12 .
- 36) Tajiri T , Onda M , Yoshida H , Umehara M , Mamada Y , Tani N , Kaneko M , Yamamoto K , Akimaru K , Yamashita K<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>Dept of Radiology ): Evaluation of Trans-arterial Embolization for spontaneous ruptured Hepatocellular Carcinoma . The 45th Annual Scientific Meeting International College of Surgeons ( Kanchanaburi, Thailand ), 1999 . 12 .
- 37) Kobayashi T , Onda M , Uchida E , Tajiri T : Topical application of glyceryl trinitrate ( GTN ) to the papilla improves the success rate of ERCP cannulation . Fifth Congress of Asian Society of Hepato- Biliary- Pancreatic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 1999 . 12 .
- 38) Nakamura Y , Onda M , Uchida E , Yanagi K , Matsushita A , Yamamura S , Aimoto T , Kobayashi T , Arima Y , Tajiri T , Yamashita K<sup>1)</sup> , Yoshioka M , Egami K , Wada M (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Analysis of K-ras codon 12 point mutations using duodenal lavage fluid for diagnosis of pancreatic carcinoma . Fifth Congress of Asian Society of Hepato- Biliary- Pancreatic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 1999 . 12 .
- 39) Tajiri T , Onda M , Arima Y , Uchida E , Yokoyama S , Ogawa Y , Saito T , Yokomuro S , Yoshida H , Kobayashi T , Mamada Y , Tani N , Nakamura Y , Akimaru K , Egami K , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): Biliary duodenal shunt with Endoscopic gastrotomy for Biliary obstruction . Fifth Congress of Asian Society of Hepato- Biliary- Pancreatic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 1999 . 12 .
- 40) Maruyama H , Onda M , Sasajima K , Miyashita M , Nomura T , Makino H , Matsutani T , Nagasawa S , Tsuchiya Y , Hagiwara N : Role of tumor necrosis factor-alpha and its soluble receptors after major surgery and sepsis . 5th International Congress on shock, trauma, inflammation and sepsis ( Munich, Germany ), 2000 . 2 .
- 41) Kiyama T , Onda M , Tokunaga A , Yoshiyuki T , Barbul A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Johns Hopkins University, Baltimore, U. S. A ): Immediate post-operative feeding decreases loss of colon structural collagen during intra-abdominal sepsis . 第24回日本外科系連合学会学術集会 , 1999 . 6 .
- 42) 長谷川博一 , 恩田昌彦 , 吉行俊郎 , 小野寺浩之 , 李 栄浩 , 沖野哲也 , 木山輝郎 , 水谷 崇 , 加藤俊二 , 松倉則夫 , 山下精彦<sup>1)</sup> , 徳永 昭 (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の検討 . 第72回日本胃癌学会総会 , 1999 . 2 .
- 43) 会田邦晴 , 恩田昌彦 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 吉村和泰 , 鈴木英之 , 源河敦史 , 美濃部かおり , 高橋由至 , 杉浦篤 , 小泉岐博 , 田中元子 , 田中宣威 : 左側大腸癌イレウスに対する内視鏡的経肛門減圧術の有効性 . 第34回日本腹部救急医学会総会 , 1999 . 3 .
- 44) 松倉則夫 , 恩田昌彦 : 残胃癌発生における *Helicobacter pylori* 感染の役割 . 第85回日本消化器病学会総会 , 1999 . 4 .
- 45) 谷合信彦 , 恩田昌彦 , 田尻 孝 , 秋丸琥甫 , 鳥羽昌仁 , 梅原松臣 , 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 金子昌裕 , 峯田章 , 吉岡正人 , 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 食道静脈瘤の長期予後に対する血管塞栓術の効果に関する検討 . 第85回日本消化器病学会総会 , 1999 . 4 .
- 46) 木山輝郎 , 恩田昌彦 , 徳永 昭 , 吉行俊郎 , 飯田信也 : 熱ショック反応による線維芽細胞表現型の誘導 . 第85回日本消化器病学会総会 , 1999 . 4 .
- 47) 李 栄浩 , 恩田昌彦 , 徳永 昭 , 吉行俊郎 , 木山輝郎 , 平本義浩 , 池田研吾 , 加藤俊二 , 長谷川博一 , 松倉則夫 : 幽門側胃切除後残胃機能評価の試み : 24時間pHモニター , 胆汁酸測定による検討 . 第85回日本消化器病

学会大会，1999．4．

- 48) 李 栄浩，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，平本義浩，池田研吾，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫：幽門側胃切除後残胃機能評価の試み：24時間pHモニター，胆汁測定による検討．第31回胃分泌研究会，1999．4．
- 49) 徳永 昭，恩田昌彦，池田研吾，平本義浩，李 栄浩，瀧田雅仁，白川 毅，寺本 忠，藤田逸郎，飯田信也，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫：消化管創傷治癒：食道空腸器械吻合創傷治癒過程のブタを用いた研究．第85回日本消化器病学会総会，1999．4．
- 50) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，小林 匡，相本隆幸，山村 進，柳 健，松下 晃，会田邦晴，田尻 孝，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：予後点数の推移からみた重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤持続動注療法の適応および開始時期．第85回日本消化器病学会総会，1999．4．
- 51) 高橋 翼，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，木山輝郎，李 栄浩，小野寺浩之，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫，末岡信夫<sup>1)</sup>，三宅一昌<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3)：早期胃癌とGastrointestinal stromal tumor (GIST)を合併した1例．第254回日本消化器病学会関東支部例会，1999．5．
- 52) 樋口勝美，廣井 信：閉経前再発乳癌の治療．第7回日本乳癌学会総会，1999．5．
- 53) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，丸山 弘，秋谷行宏，芦苺正幸，前澤勝美，田中宣威：細菌性腹膜炎時の循環動態におけるNOの関与．第14回日本Shock学会総会，1999．5．
- 54) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，峯田 章，吉岡正人，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：食道静脈瘤破裂と胃静脈瘤破裂の比較検討．第57回日本消化器内視鏡学会総会，1999．5．
- 55) 峯田 章，恩田昌彦，山下精彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，小川芳雄，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，松本智司，山本一仁，広瀬洋一郎，金子昌裕，坂東功一，吉岡正人，隈崎達夫<sup>1)</sup>，荒牧琢巳<sup>2)</sup>，勝田悌実<sup>2)</sup>，関山達也<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>内科第1，<sup>3)</sup>病理第2)：青年男子に発症した肝細胞腺腫の1例．第11回肝胆膵外科学会総会，1999．5．
- 56) 金沢義一，沖浜裕司，松田 健，佐々部一，恩田昌彦：大腸リンパ管腫の3自験例と本邦報告例の臨床的検討．第254回日本消化器病学会関東支部例会，1999．5．
- 57) 源河敦史，恩田昌彦，古川清憲，樋口勝美<sup>1)</sup>，美濃部かおり，古川恵子，有馬保生(<sup>1)</sup>会津中央病院外科)：再発乳癌に対するdocetaxelの使用経験．第7回日本乳癌学会総会，1999．5．
- 58) 高橋 翼，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，中村慶春，金子昌裕，峯田章，吉岡正人：肝細胞癌根治術後5年目に腹膜転移によるイレウスで発症した1例．第11回日本肝胆膵外科学会，1999．5．
- 59) 古川清憲，恩田昌彦，源河敦史，美濃部かおり，有馬保生，古川恵子，樋口勝美，宮下次廣<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：教室におけるStager I，II乳癌の再発例の検討．第7回日本乳癌学会総会，1999．5．
- 60) 美濃部かおり，恩田昌彦，古川清憲，樋口勝美，源河敦史，古川恵子，霞富士雄<sup>1)</sup>，坂元吾偉<sup>2)</sup>，江見 充<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳癌外科，<sup>2)</sup>病理，<sup>3)</sup>老人病研究所分子生物)：Microsatellite Instabilityを示す乳癌におけるPTENの変異．第7回日本乳癌学会総会，1999．5．
- 61) 高橋 翼，恩田昌彦，秋丸琥甫，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，渡会泰彦<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>永山病院病理部)：肝のinflammatory pseudotumorの1例：FNAは有用か？．第40回日本臨床細胞学会総会，1999．6．
- 62) 徳永 昭，恩田昌彦，池田研吾，平本義浩，李 栄浩，瀧田雅仁，白川 毅，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：ブタを用いた胃全摘・食道空腸器械吻合創の治癒過程と吻合部狭窄作成．第24回日本外科系連合学会，1999．6．
- 63) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，加藤俊二，長谷川博一，小野寺浩之，高橋 翼，増田剛太郎，江

上 聡, 松倉則夫: プロトンポンプ・インヒビター (PPI) を投与された早期胃癌の2例. 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 6.

- 64) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松倉則夫, 吉行俊郎, 李 栄浩, 松田範子, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 高圧酸素療法の大腸吻合部治癒に対する影響. 第2回関東地区高圧環境医学懇話会総会, 1999. 6.
- 65) 坂東功一, 永井尚生<sup>1)</sup>, 河村直樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物): 肝癌における第4番染色体長腕欠失の解析. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 66) 松田明久, 恩田昌彦, 徳永 昭, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 源河敦史, 田中宣威: 巨大後腹膜脂肪腫の1例. 第773回外科集談会, 1999. 6.
- 67) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 栄浩, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 有馬保生, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 再発胃癌患者の閉塞症状に対する palliation: 腸吻合術, PTCD, 腎瘻の意義. 第71回 日本胃癌学会総会, 1999. 6.
- 68) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 平本義浩, 池田研吾, 小野寺浩之, 松倉則夫: 初診時 Virchow 転移を伴う胃癌5例の検討. 第71回日本胃癌学会総会, 1999. 6.
- 69) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 小野寺浩之, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>, 西 恵吾<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>西クリニック): 急速に発育した胃癌の3例. 第24回日本外科系連合学会, 1999. 6.
- 70) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 大川敬一, 松谷 毅, 長澤重直, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 切除標本からみた GERD と食道癌症例の検討. 第53回食道疾患研究会, 1999. 6.
- 71) 吉村成子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 森山雄吉<sup>2)</sup>, 松田範子, 徳永 昭, 松倉則夫 (<sup>1)</sup>吉村せいこクリニック, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): シニアダイバーのダイビングスタイルとその健康管理. 第2回関東地区高気圧環境医学懇話会総会, 1999. 6.
- 72) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 金子昌裕, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝: アルコール代謝酵素の遺伝的個体差と遺伝子多型性分析による肝癌発症の危険度評価の試み. 第35回日本肝臓学会総会, 1999. 6.
- 73) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭: 術後肝障害発生要因の解析とプロスペクティブスタディ (Pro-Study) による肝障害発生の予防. 第24回日本外科系連合学会学術集会, 1999. 6.
- 74) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 抗がん剤の抗腫瘍効果および毒性発現におよぼす宿主側の因子の解析: glutathione S transferase (GST), cytochrome p450 (CYP), Dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD) 酵素の遺伝子多様性との関連. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 6.
- 75) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 松田範子, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 発がん物質の活性化酵素 Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) の遺伝子の多様性と酵素活性の個体差および胃がんや残胃のがん発生との関連. 第71回日本胃癌学会総会, 1999. 6.
- 76) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭: 胃切除後の骨粗鬆症様症状の出現と MD 法骨量測定による骨代謝障害の評価. 第24回外科系連合学会学術集会, 1999. 6.
- 77) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 福原宗久, 松下 晃, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): Angiostatin による膵癌肝転移抑制効果の実験的検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 78) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 福原宗久, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前川隆司<sup>2)</sup>, 吉岡貴幸 (<sup>1)</sup>病

- 理第2, 2) 塩野義製薬中央研究所): 実験膀胱癌における MMP-2, 9 の発現および MMP 阻害剤 (MMI-166) を用いた浸潤能抑制の検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 79) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博: 抗癌剤効果予測における TP, DPD 活性および mRNA 発現レベルの意義: 5-DFUR 術前投与組織における 5-FU 濃度および組織学的効果との比較. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 80) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 真々田裕宏, 吉田寛, 小林 匡, 牧野浩司, 中村慶春, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 総胆管結石に対する腹腔鏡下手術の工夫: 吸収性クリップ「ラブラタイ」使用による総胆管の連続: 次縫合術の有用性. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 81) 清水哲也, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 野村 務, 小林 匡, 谷合信彦, 山村 進, 山下精彦: 石灰乳胆汁に胆嚢, 総胆管結石を伴った1例. 第255回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 7.
- 82) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 李 栄浩, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 谷合信彦, 松倉則夫: 長期ステロイド治療患者における消化管手術の検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 83) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 小野寺浩之, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 消化管創傷治癒の実験モデル: プタ胃全摘食道空腸器械吻合創の治癒過程観察および吻合創狭窄作成. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 84) 徳永 昭, 恩田昌彦, 池田研吾, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌術前化学療法の効果; 切除例における 5FU/CDDP と UFT/CDDP 療法の検討. 第71回日本胃癌学会総会, 1999. 7.
- 85) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 小野寺浩之, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): プタを用いた消化管吻合創治癒の実験モデル: 胃全摘食道空腸器械吻合創の治癒過程と吻合部狭窄作性の試み. 第36回日本外科代謝栄養学会, 1999. 7.
- 86) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 李 栄浩, 小野寺浩之, 古川清憲: ラット大腸吻合部治癒における1層およびマットレス縫合の影響. 第36回日本外科代謝・栄養学会, 1999. 7.
- 87) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 小野寺浩之, 沖野哲也, 李 栄浩, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭: 出血性胃潰瘍と *H. pylori* の関与. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 88) 坂東功一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 小川芳雄, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田 章, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所・分子生物学部門, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 肝細胞癌における第16番染色体長腕の欠失の検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 89) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 金子昌裕, 坂東功一, 峯田 章, 平方敦史, 寺田淑恵, 山下精彦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>放射線科): 多発性肝癌に SMANCS/Lipiodol リザーバー動注療法の臨床成績. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 90) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 小林 匡, 谷合信彦, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 教室における胆管癌手術症例の予後因子に関する検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 91) 杉浦 篤, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 田中元子: 大腸癌における dThdPase 活性と術後再発について. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 92) 沼野藤雅, 恩田昌彦, 田尻 孝, 徳永 昭, 古川清憲, 内田英二, 高崎秀明, 小川芳雄, 吉行俊郎, 源河敦史,

- 真々田裕宏，長澤重直：アレルギー性肉芽腫性血管炎（Allergic granulomatous angitis；AGA）による多発性小腸穿孔の1例．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 93) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，李 栄浩，池田研吾，平本義浩，木山輝郎，長谷川博一，加藤俊二，宮下正夫，高崎秀明，松倉則夫，古川清憲，田尻 孝：消化器創傷治癒障害に対する血液凝固第XIII因子製剤（フィプロガミンPTM）の効果：血中増殖因子の変動．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 94) 土屋喜一，恩田昌彦，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，松谷 毅，大川敬一，萩原信敏，長澤重直，山下精彦<sup>1)</sup>，田久保海誉<sup>2)</sup>，笹島耕二（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>東京都老人総合研究所臨床病理）：食道癌術前化学療法の臨床病理学的検討．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 95) 松谷 毅，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，横山滋彦，丸山 弘，長澤重直，萩原信敏，土屋喜一，大川敬一，山本一仁，羽尾邦彦，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：食道癌手術前ステロイド投与によるAT-III減少の機序．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 96) 会田邦晴，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，源河敦史，杉浦 篤，高橋由至，小泉岐博，田中元子，田中宣威：左側大腸癌イレウスに対する経肛門的減圧術によるQOL向上の検討．第51回大腸癌研究会，1999．7．
- 97) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，小川芳雄，梅原松臣，吉田 寛，谷合信彦，松本智司，金子昌裕，坂東功一，峯田 章，平方敦史，寺田淑恵，内田英二，山下精彦<sup>1)</sup>，荒牧琢己<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>内科第1，<sup>3)</sup>放射線科）：原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の経験．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 98) 長澤重直，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，松谷 毅，大川敬一，土屋喜一，萩原信敏，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：気管支肺胞洗浄液（BALF）アルブミン測定による術後肺合併症の早期診断．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 99) 李 栄浩，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，木山輝郎，平本義浩，池田研吾，小野寺浩之，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：幽門側胃切除後逆流現象の検討；24時間pHモニター，胆汁測定による評価．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 100) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，大川敬一，松谷 毅，長澤重直，萩原信敏，土屋喜一，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：食道癌術後合併症が長期予後におよぼす影響．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 101) 小川芳雄，恩田昌彦，田尻 孝，有馬保生，内田英二，斎藤忠生，吉田 寛，横室茂樹，小林 匡，真々田裕宏，谷合信彦，松下 晃，川野陽一，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：慢性関節リウマチ（RA）に合併したシェーグレン症候群と，原発性硬化性胆管炎（PSC）の1例．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 102) 中村慶春，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，松下 晃，山村 進，相本隆幸，小林 匡，有馬保生，田尻 孝，山下精彦<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院外科）：急性膵炎の重症度スコアによる特殊療法の適応判定．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 103) 小林 匡，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，松下 晃，山村 進，中村慶春，相本隆幸，野村 務，横室茂樹，斎藤忠生，会田邦晴，小川芳雄，有馬保生，秋丸琥甫，田尻 孝，山下精彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院外科）：総胆管結石症におけるENBD tubeの効用：特に腹腔鏡下胆管結石切石術において．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 104) 吉村和泰，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，瀬谷知子，高橋由至，杉浦 篤，小泉岐博，田中元子：下部直腸癌側方リンパ節郭清の成績の検討．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 105) 高橋由至，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，会田邦晴，小泉岐博，田中元子，瀬谷知子，横井公良，田中宣威：大腸癌治癒切除後の再発危険因子に関する検討．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．

- 106) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 吉田 寛, 小林 匡, 真々田裕宏, 野村 務, 横山滋彦, 中村慶春, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 胆道閉塞に対する胆管経胃十二指腸シャント. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 107) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕, 峯田章, 吉岡正人, 秋丸琥甫, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 大腸癌肝転移症例に対する肝動脈塞栓術の適応と限界: 術前画像からの評価. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 108) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 術後肝障害の発症要因と宿主側因子の関与: 薬物解毒要素の遺伝的欠損と肝障害発生の予測およびその対策. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 109) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 松下 晃, 柳 健, 呂 毅, 福原宗久, 田尻 孝, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線科): 重症急性膵炎に対する動注療法: 予後点数, APACHEIIおよび重症度スコアの推移. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 110) 廣瀬洋一郎, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁, 中村 孝, 下村隆保(<sup>1</sup>下館市民病院): 後腹膜に発生した神経節神経腫の1例. 第192回茨城外科学会, 1999. 8.
- 111) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 沖野哲也, 李 栄浩, 徳永 昭, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理第2): *H. pylori*除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討(第2法). 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 112) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 小林 匡, 会田邦晴, 相本隆幸, 横山 正, 井上松応, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 福原宗久, 呂 毅, 江上 格, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理第2): 実験膵癌肝転移モデルにおけるangiostatinの転移抑制効果. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 113) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 福原宗久, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前川隆司<sup>2)</sup>, 吉岡貴幸(<sup>1</sup>病理第2, <sup>2</sup>塩野義製薬中央研究所): 実験膵癌の膵内移植モデルにおけるMMP阻害剤(MMI-166)の抗腫瘍効果の検討. 第67回日本医科大学学会総会, 1999. 9.
- 114) 清水哲也, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田章, 平方敦史, 寺田淑恵, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 荒牧琢巳<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>放射線科, <sup>2</sup>内科第1): 部分的脾動脈塞栓術にて止血し得た門脈圧亢進性胃症の1例. 第33回日本腹部救急医学会総会, 1999. 9.
- 115) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 佐々部一, 寺本 忠, 中村慶春, 山田岳史, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智, 恩田昌彦: 腹腔鏡下総胆管結石症手術例の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 116) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 小嶋隆行, 山田岳史, 秋谷行宏, 池田研吾, 吉岡正智, 恩田昌彦: 原発性肝細胞癌の破裂4症例の検討. 第33回日本腹部救急医学会総会, 1999. 9.
- 117) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 李 栄浩, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃癌手術操作による局所浸出液の免疫抑制作用と細胞増殖因子: 根治度別の検討. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 118) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, Barbul A<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Johns Hopkins Univ., 外科): 多発外傷モデルにおける創傷治癒; 栄養補給経路の検討. 第33回日本腹部救急医学会, 1999. 9.
- 119) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 小野寺浩之, 沖野哲也, 李 栄浩, 木山輝郎, 水谷 崇, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 穿孔性胃潰瘍に対し広範囲胃切除術を基本術式とする当科での治療成績. 潰瘍病態研究会第8回フォーラム, 1999. 9.
- 120) 白川 毅, 森 正陽, 笠井源吾<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 斎藤忠生, 古川恵子, 二見良平(<sup>1</sup>波崎済生病院): 大量吐血にて緊急胃全摘術を行った胃悪性リンパ腫の1例. 第33回日本腹部救急医学会総会, 1999. 9.
- 121) 坂東功一, 永井尚生<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物): 肝癌における第4番染

- 色体長腕の欠失領域のゲノムクローニング．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 122) 小山雅章<sup>1)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>，坂東功一，伊藤正秀<sup>2)</sup>，森山雄吉<sup>2)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物，<sup>2)</sup>消化器病センター): 肝細胞癌16p共通欠失領域の16p13.13上1-cMへの限局化．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 123) 寺田淑恵，永井尚生<sup>1)</sup>，坂東功一，田尻 孝，恩田昌彦，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物): ヒト原発性肝癌における第4番染色体長腕の共通欠失領域の同定．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 124) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，小川芳雄，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，松本智司，山本一仁，金子昌裕，峯田 章，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 特異な血行動態を呈し保存的治療に難渋した食道胃静脈瘤の1例．第6回日本門脈圧亢進症学会，1999．9．
- 125) 小泉岐博，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，瀬谷知子，山田岳史，高橋由至，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 直腸neuroendocrine cell carcinoma (NEC)細胞株に対するoctreotideの増殖抑制効果．第85回日本癌学会総会，1999．9．
- 126) 柏原 元，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，木山輝郎，李 栄浩，小野寺浩之，加藤俊二，長谷川博一，宮下正夫，松倉則夫，山下精彦: 長期ステロイド投与患者における消化性潰瘍穿孔の1例．第774回外科集談会，1999．9．
- 127) 松久威史<sup>1)</sup>，松倉則夫，山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>病理第2): アジア人における背景胃粘膜の観察: Helicobacter pylori感染との関連も含めて．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 128) 高橋 健，恩田昌彦，吉行俊郎，小野寺浩之，李 栄浩，平本義浩，池田研吾，木山輝郎，長谷川博一，加藤俊二，宮下正夫，松倉則夫，徳永 昭，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 5-FU・CDDP術前化学療法が大動脈周囲リンパ節転移に対し著効を示した進行胃癌の1例．第774回外科集談会，1999．9．
- 129) 宮下正夫，恩田昌彦，笹島耕二，萩原信敏，Cawley H<sup>2)</sup>，Trivers G<sup>2)</sup>，土屋喜一，松谷 毅，牧野浩司，長澤重直，山下精彦<sup>1)</sup>，Harris C<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>National Cancer Institute): 食道癌患者の血清抗p53抗体の検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 130) 会田邦晴，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，源河敦史，高橋由至，杉浦 篤，小泉岐博，田中元子，田中宣威: 左側大腸癌イレウスに対する内視鏡的経肛門減圧術の有用性．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 131) 平方敦史，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，吉岡正人，峯田 章，寺田淑恵，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 稀な肝内門脈: 大循環短絡路による肝性脳症の1例．第6回日本門脈圧亢進症学会総会，1999．9．
- 132) 秋谷行宏，木内博之，小川芳雄，瀧田雅仁，坂東功一，高島良樹，内藤委伸<sup>1)</sup>，山下直行，倉持晋久，恩田昌彦(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科): 診断に難渋した嚢胞内乳癌の1例．第23回山形県乳腺疾患研究会，1999．9．
- 133) 松田範子，恩田昌彦，加藤俊二，吉田 寛，真々田裕宏，松倉則夫，徳永 昭，秋丸琥甫，田尻 孝，工藤光洋，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): アルコール代謝酵素の遺伝的個体差と肝がん発症およびCytocrom p450 2E1 (CYP2E1)の肝組織における局在と遺伝子多型性との関連．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 134) 李 栄浩，恩田昌彦，徳永 昭，池田研吾，長谷川博一，加藤俊二，木山輝郎，小野寺浩之，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌におけるTS及びDPD活性測定の意義．第10回日本消化器癌発生研究会，1999．9．
- 135) 李 栄浩，恩田昌彦，徳永 昭，白川 毅，吉行俊郎，池田研吾，小野寺浩之，加藤俊二，松倉則夫: 胃癌におけるTSおよびDPD活性測定の意義．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 136) 福原宗久，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，松下 晃，柳 健，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 微小血管密度との関連からみた膵癌肝転移巣と肝内移植巣におけるVEGF発現の実験的検討．第58回日本癌学会



総会，1999．9．

- 137) 福原宗久，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，松下 晃，柳 健，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2)：実験膵癌の肝転移巣と肝内移植巣におけるVEGF発現の意義．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 138) 山村 進，恩田昌彦，内田英二，福原宗久，柳 健，松下 晃，井上松応，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2)：RGD peptideの八ムスター膵癌腹膜播種抑制効果に関する検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 139) 高橋保裕<sup>1)</sup>，上田洋一<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，清水秀治<sup>1)</sup>，古明知弘和<sup>1)</sup>，大須賀勝<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，勝田悌実<sup>1)</sup>，荒牧琢己<sup>1)</sup>，進士誠一，吉田 寛，田尻 孝，恩田昌彦(<sup>1)</sup>内科第1)：肝炎症性偽腫瘍を合併した特発性門脈圧亢進症の1例．第256回日本消化器病学会関東支部例会，1999．9．
- 140) 小林 匡，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，松下 晃，山村 進，中村慶春，相本隆幸，横室茂樹，斎藤忠生，会田邦晴，小川芳雄，有馬保生，田尻 孝，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：腹腔鏡下胆管切石術におけるENBD tubeの有用性．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 141) Lu Y, Onda M, Uchida E, Yamamura S, Yanagi K, Matsushita A, Fukuhara M, Kobayashi T, Aida K, Tajiri T, Li Q<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Hygiene and Public Health)：The Inhibitory Effects of Bile Acids on Human Pancreatic Cancer Cell Lines．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 142) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，福原宗久，松下 晃，柳 健，山村 進，相本隆幸，小林 匡，田尻 孝，山下精彦<sup>1)</sup>，山口敏和<sup>2)</sup>，ユン晁青<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>BML研)：膵頭十二指腸切除後の残膵液中K-ras癌遺伝子点突然変異の検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 143) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，山村 進，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，松下 晃，柳 健，呂 毅，福原宗久，峯田 章，吉岡正人，田尻 孝，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：予後点数，APACHEIIおよび重症度スコアの推移からみた重症膵炎における動注療法の効果．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 144) 松倉則夫，恩田昌彦，加藤俊二，長谷川博一，吉行俊郎，沖野哲也，李 栄浩，大川敬一，横室茂樹，徳永昭：H. pyloriのstep up除菌法：耐性菌の発生しない除菌法を目指して．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 145) 柳 健，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，松下 晃，山村 進，中村慶春，井上松応，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，石渡俊行，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2)：膵癌肝転移に対するAngiostatinの転移抑制効果の実験的検討．第30回日本膵臓学会大会，1999．10．
- 146) 柳 健，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，松下 晃，山村 進，中村慶春，井上松応，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，石渡俊行<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2)：Angiostatinの実験膵癌肝転移におよぼす転移抑制効果．第58回日本癌学会総会，1999．10．
- 147) 松下 晃，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，前川隆司<sup>2)</sup>，吉岡貴幸(<sup>1)</sup>病理第二，<sup>2)</sup>塩野義製薬中央研究所)：MMP阻害剤(MMI-166)の実験膵癌における抗腫瘍効果の検討．第58回日本癌学会総会，1999．10．
- 148) 松下 晃，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，前川隆司<sup>2)</sup>，吉岡貴幸(<sup>1)</sup>病理第二，<sup>2)</sup>塩野義製薬中央研究所)：実験膵癌におけるMMP阻害剤(MMI-166)の抗腫瘍効果の検討．第30回日本膵臓学会大会，1999．10．
- 149) 有馬保生，恩田昌彦，田尻 孝，伊藤誠二，内田英二，小川芳雄，斎藤忠生，横室茂樹，吉田 寛，小林 匡，真々田裕宏，中村慶春，松下 晃，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：上腹部手術既往例に対する腹腔鏡下手

- 術の検討：胆石症症例について．第59回日本消化器内視鏡学会総会，1999．10．
- 150) 小野寺浩之，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，木山輝郎，李 栄浩，加藤俊二，長谷川博一，宮下正夫，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：胃癌EMR後の遺残再発に対する外科的治療を施行した2例．第42回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 151) 徳永 昭，恩田昌彦，李 栄浩，平本義浩，池田研吾，加藤俊二，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：胃癌術前化学療法に効果と問題点：切除例における5FU/CDDPとUFT/CDDP療法の検討．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
- 152) 徳永 昭，恩田昌彦，木山輝郎，池田研吾，平本義浩，李 栄浩，小野寺浩之，白川 毅，瀧田雅仁，吉行俊郎，長谷川博一，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：消化管吻合創治癒過程の実験モデル：ブタ胃全摘食道空腸器械吻合創の治癒過程および吻合部狭窄作成の試み．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 153) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，会田邦晴，源河敦史，高橋由至，杉浦 篤，小泉岐博，田中元子，田中宣威：教室における大腸多発癌（異時性・同時性）の検討．第54回日本大腸肛門病学会総会，1999．10．
- 154) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，寺田淑恵，秋丸琥甫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：静脈瘤破裂症例の検討：食道静脈瘤と胃静脈瘤との比較．第58回日本消化器内視鏡学会総会，1999．10．
- 155) 谷合信彦，針原 康<sup>1)</sup>，北 嘉昭<sup>1)</sup>，平田 勝<sup>1)</sup>，佐野圭二<sup>1)</sup>，久富伸哉<sup>1)</sup>，窪田敬一<sup>1)</sup>，高山忠利<sup>1)</sup>，幕内雅敏<sup>1)</sup>，吉田 寛，秋丸琥甫，田尻 孝，恩田昌彦(<sup>1)</sup>東大移植チーム)：成人生体部分肝移植患者における術前骨密度の検討．第3回日本肝臓学会大会，1999．10．
- 156) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，加藤俊二，長谷川博一，小野寺浩之，李 栄浩，白川 毅，奥田武志，水谷 崇，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：プロトンポンプ・インヒビター（PPI）の早期胃癌に対する影響；2症例の検討．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
- 157) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎：大腸吻合部治癒と術後栄養補給．第54回日本大腸肛門病学会総会，1999．10．
- 158) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，李 栄浩，小野寺浩之，古川清憲：消化管吻合部における治癒機転の検討．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 159) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，峯田章，平方敦史，寺田淑恵，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：多発性肝癌にSMANCS/Lipiodolリザーバー動注療法の副作用．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 160) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，峯田章，平方敦史，寺田淑恵，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：多発性肝癌に対するSMANCS/Lipiodol少量反復動注療法の成績について．第20回リザーバー研究会，1999．10．
- 161) 小泉岐博，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，瀬谷知子，山田岳史，高橋由至，杉浦 篤，田中元子：大腸癌原発巣と肝転移巣におけるPCNA発現とその意義．第54回日本大腸肛門病学会総会，1999．10．
- 162) 峯田 章，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，内田英二，小川芳雄，斎藤忠生，横室茂樹，吉田 寛，小林 匡，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，山村 進，松下 晃，柳 健，吉岡正人，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：教室における乳頭部癌手術成績および予後因子に関する検討．第41回日本消化器病学会大会，1999．10．
- 163) 杉浦 篤，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，高橋由至，小泉岐博，田中元子，前澤勝美，田中宣威，瀬谷知子：大腸癌における術中腫瘍還流静脈（DV）採血の意義．第54回日本大腸肛門病学会総会，1999．10．
- 164) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，李 栄浩，奥田武志，木山輝郎，長谷川博一，加藤俊二，宮下

- 正夫, 有馬保生, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 再発胃癌患者の閉塞症状に対する palliation 腸吻合術, 腸瘻, 胆汁瘻PTCD, 腎瘻の意義. 第37回日本癌治療学会総会, 1999. 10.
- 165) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 李 栄浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 残胃早期癌の診断における胃切術後定期的内視鏡検査の意義: 残胃早期癌切除例からの検討. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 166) 丸山 弘, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 土屋喜一, 長澤重直, 松谷 毅, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 教室における内視鏡的食道ステント留置術の成績. 第58回 日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 167) 牧野浩司, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所): 食道表在癌切除標本の臨床病理学的分子生物学的検討からの発育進展の予測. 第58回 日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 168) 松谷 毅, 横山滋彦, 羽尾邦彦, 山本一仁, 永嶋裕司, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 長澤重直, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦<sup>1)</sup>, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌手術後の吻合部狭窄. バルーン拡張術の胃管穿孔に対して食道ステント留置が有効であった1例. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 169) 柴美佳子, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 吉行俊郎, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所): 術前化学療法にて down staging および内視鏡上肉眼軽の形態変化を認めた食道小細胞癌の1治療例. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 170) 会田邦晴, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 源河敦史, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中元子, 田中宣威: 大腸イレウスに対する内視鏡下経肛門減圧術の有用性. 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999. 10.
- 171) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田 章, 寺田淑恵, 山下精彦<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>2)</sup>, 黒田 肇<sup>2)</sup>, 金澤秀典<sup>2)</sup>, 杉浦敏昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>内科第3): 胆道出血を合併した原発性肝癌の1例. 第7回 DDW-Japan, 1999. 10.
- 172) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷合信彦, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 秋丸琥甫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 長期予後からみた原発性肝癌に対する門脈塞栓術の検討: 治療戦略としての位置づけ. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 173) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 吉岡正人, 金子昌裕, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 徳永昭, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): Cytochrom p450 2E1 (CYP2E1) の肝組織における局在と Rsa1, Dra1 遺伝子多型性の関連およびアルコール代謝酵素の遺伝的個体差と肝癌の発症. 第3回日本肝臓学会大会, 1999. 10.
- 174) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 木山輝郎, 平本義浩, 池田研吾, 小野寺浩之, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫: 幽門側胃切除後, 腸液逆流の再建法による比較. 第7回 DDW-Japan, 1999. 10.
- 175) 福原宗久, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 実験肝癌肝転移巣と肝内移植巣における VEGF 発現の意義: 微小血管密度との関連から. 第30回日本肝臓学会大会, 1999. 10.
- 176) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 山本一仁, 峯田 章, 吉岡正人, 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 99m Tc-GSA による Scintiphotosplenoportography (SSP) の検討. 第41回日本消化器病学会大会, 第3回日本肝臓学会大会, 1999. 10.

- 177) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 野村 務, 横室茂樹, 斎藤忠生, 会田邦晴, 小川芳雄, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): Glyceryl Trinitrate (GTN) のファーター乳頭への局所投与の意義. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 178) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 会田邦晴, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 粘液性膵嚢胞疾患の増殖能に関する検討. 第58回日本癌学会総会, 1999. 10.
- 179) 吉村和泰, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 源河敦史, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子, 小泉岐博: 大腸癌肝転移切除症例の検討. 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999. 10.
- 180) 高橋由至, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 小泉岐博, 田中元子, 瀬谷知子, 田中宣威: 大腸癌治癒切除後の再発危険因子およびCEA doubling time (CEA-dt) と予後に関する検討. 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999. 10.
- 181) 江上 聡, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 源河敦史, 会田邦晴, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中元子, 松田明久, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中宣威(<sup>1)</sup>放射線科): 当教室における下部消化管出血の検討. 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999. 10.
- 182) 呂 毅, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝: The Effects of Bile Acids on Proliferation of Pancreatic Cancer Cell Lines. 第30回日本膵臓学会大会, 1999. 10.
- 183) 呂 毅, 恩田昌彦, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝: 胆汁酸の膵癌細胞の増殖におよぼす効果の検討. 第58回日本癌学会総会, 1999. 10.
- 184) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 松下 晃, 柳 健, 福原宗久, 田尻 孝, 山下精彦<sup>1)</sup>, 会田邦晴, 江上 格<sup>2)</sup>, 山口敏和<sup>3)</sup>, ユン暁青<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>BML 研究所): 膵頭領域腫瘍における術前術後の膵液中k-ras点突然変異の推移. 第30回日本膵臓学会大会, 1999. 10.
- 185) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌および残胃の癌発生における発がん物質活性化酵素の遺伝的個体差と発癌高危険度群の予測. 第7回DDW-Japan, 1999. 10.
- 186) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 松田範子, 徳永 昭, 松下洋久, 工藤光洋, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 残胃のがん発生機序の解明: Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) の遺伝子多型性および酵素活性の個体差との関連. 第58回日本癌学会総会, 1999. 10.
- 187) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 土屋喜一, 池田研吾, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二: フッ化ビリミジン- CDDPの胃癌および食道癌術前化学療法における効果とcytochrome p450 (CYP) 2E1 遺伝子多様性との関連. 第37回日本癌治療学会, 1999. 10.
- 188) 清水哲也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 丸山 弘, 松倉則夫, 古川清憲, 落 雅美<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): 心大血管手術を同時施行した消化管悪性腫瘍の3例. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 189) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 李 栄浩, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 長期ステロイド治療患者と消化管手術. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 190) 徳永 昭, 恩田昌彦, 池田研吾, 平本義浩, 李 栄浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 藤田逸郎, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 消化管創傷治癒の治癒過程. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 191) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕, 峯田章, 吉岡正人, 秋丸琥甫, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 大腸癌肝転移症例に対する治療戦略: 術前画像

- による肝動脈塞栓術の適応と限界．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 192) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎：術後栄養管理からみた消化管吻合部治癒．第61回臨床外科学会総会，1999．11．
- 193) 永井尚生<sup>1)</sup>，坂東功一，峯 伸也<sup>1)</sup>，藤原博通<sup>2)</sup>，寺田淑恵，宮崎久美<sup>1)</sup>，横田 孝<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物)：肝臓における4q21欠失領域のゲノムクローニング．日本人類遺伝学会第44回大会，1999．11．
- 194) 松田明久，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，美濃部かおり，木山輝郎，吉村和泰，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：スクリーニング検査の高CEA血症により発見された進行胃癌の2例．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 195) 松久威史<sup>1)</sup>，松倉則夫，山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>病理第2)：中国，タイ，ベトナム人における*Helicobacter pylori*感染，背景胃粘膜の比較観察．*Helicobacter pylori*感染の診断と治療に関するコンセンサス会議，1999．11．
- 196) 菅 隼人，江上 格<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，水谷 崇，飯田信也，中村慶春，大野智康，山田岳史，瀧田雅仁，秋谷行宏，前田昭太郎<sup>2)</sup>，恩田昌彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同病理部)：後腹膜に発生した気管支性嚢胞の1例．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 197) 杉浦 篤，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，瀬谷知子，高橋由至，小泉岐博，田中元子：大腸癌における術中腫瘍還流静脈(DV)血の検討．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 198) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，李 栄浩，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：幽門側胃切除後の再建術式と術後障害．第29回胃外科・術後障害研究会，1999．11．
- 199) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，李 栄浩，平本義浩，池田研吾，木山輝郎，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫，宮下正夫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：心疾患を有する胃癌患者における，血中ノルエピネフリン，ナトリウム利尿ペプチドを用いた心機能評価．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 200) 水口義昭，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，長澤重直，土屋喜一，萩原信敏，隈崎達夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科)：食道癌気管支浸潤に対し気管支ステントを挿入した2例．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 201) 飯田信也，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二，松島申治，宮下正夫，和田雅世，山本英希，水谷 崇，牧野浩司，丸山弘，藤田逸郎，中村慶春，山田岳史，秋谷行宏，吉岡正智<sup>1)</sup>，沖浜裕司，松田 健，山下精彦<sup>2)</sup>，恩田昌彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院外科)：縦隔鏡補助下食道抜去術の検討．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 202) 松谷 毅，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，横山滋彦，丸山 弘，長澤重直，萩原信敏，土屋喜一，大川敬一，山本一仁，羽尾邦彦，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：食道癌手術後肺合併症と気管支肺胞洗浄液中シフラとNitric Oxide測定の意義．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 203) 会田邦晴，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，源河敦史，横山滋彦，永嶋裕司，佐々部一，田中宣威：教室における癒着性イレウスの治療指針．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 204) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，梅原松臣，吉田 寛，谷合信彦，金子昌裕，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，寺田淑恵，秋丸琥甫，山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：原発性肝臓に対する治療戦略としての動脈門脈塞栓術の長期予後．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 205) 清水一雄<sup>1)</sup>，田尻 孝，北村 裕<sup>1)</sup>，北川 亘<sup>1)</sup>，赤須東樹<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2)：上皮小体腫瘍に対する内視鏡下手術．第9回吊り上げ研究会，1999．11．
- 206) 松倉則夫，恩田昌彦，吉行俊郎，長谷川博一，加藤俊二，沖野哲也，李 栄浩，徳永 昭：残胃の癌発生における*H. pylori*感染の役割．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．

- 207) 高橋由至, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 小泉岐博, 瀬谷知子, 田中宣威: 大腸癌治癒切除後の再発危険因子およびCEA doubling time (CEA-dt) と予後に関する検討. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 208) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小林 匡, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 有馬保生, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 乳頭拡張バルーンを用いた内視鏡的総胆管結石摘出術: ニトログリセリン処置の併用. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 209) 加藤俊二, 恩田昌彦, 土屋喜一, 池田研吾, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二: フッ化ピリミジン- CDDPによるネオアジュバント療法の治療効果とチトクロームp450 (CYP) 2E1酵素の遺伝的個体差との関連. 第61回日本臨床外科医学会総会, 1999. 11.
- 210) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 樋口勝美, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 小林 匡, 中村慶春, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 上腹部手術既往例に対する腹腔鏡下手術の検討. 第12回日本内視鏡外科学会総会, 1999. 12.
- 211) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 佐々部一, 寺本 忠, 中村慶春, 山田岳史, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智, 恩田昌彦: 腹腔鏡下総胆管結石症手術例の検討. 第12回日本内視鏡外科学会総会, 1999. 12.
- 212) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 李 栄浩, 白川 毅, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫: 長期ステロイド治療患者における消化管手術の検討: 創傷治癒は遅延するか. 第29回創傷治癒研究会, 1999. 12.
- 213) 斎藤忠生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 野村 務, 小林 匡, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 肝硬変合併胆石症における腹腔鏡下手術と開腹手術の比較検討. 第12回日本内視鏡外科学会総会, 1999. 12.
- 214) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松倉則夫, 吉行俊郎, 松田範子, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター): 大腸吻合部治癒に対する高圧酸素療法の影響. 第34回日本高気圧環境医学会総会, 1999. 12.
- 215) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 李 栄浩, 小野寺浩之, 古川清憲: 創傷治癒からみた消化管吻合方法の検討. 第29回創傷治癒研究会, 1999. 12.
- 216) 長谷川博一, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 木山輝郎, 水谷 崇, 加藤俊二, 有馬保生, 松倉則夫, 徳永昭, 田尻 孝: 早期胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討: 開腹手術との比較. 第12回日本内視鏡外科学会総会, 1999. 12.
- 217) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理第2): タイ人におけるHelicobacter pylori感染, 萎縮, 腸上皮化生: 日本人との比較観察. 第69回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 12.
- 218) 長澤重直, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 食道癌術後における可溶性TNFレセプターの役割. 第6回サイトカイン研究会, 1999. 12.
- 219) 松田範子, 恩田昌彦, 秋丸琥甫, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 吉田寛, 真々田裕宏, 吉村成子<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>吉村せいこクリニック, <sup>3)</sup>病理第2): 障害肝ラット肝切除後の残肝再生に及ぼす高圧酸素療法の効果. 第34回日本高気圧環境医学会総会, 1999. 12.
- 220) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 水谷 崇, 小野寺浩之, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 幽門側胃切除後障害と機能検査: 24時間pHモニター, 胆汁測定による検討. 胃外科術後障害研究会, 1999. 12.
- 221) 清水一雄<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 北川 亘<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科第2): 褐色細胞腫に対するバイポーラシザーズの有用性. 第8回クリニカル・ビデオフォーラム (CVF), 1999. 12.

- 222) 栗山登至, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 有馬保生, 徳永 昭, 田尻 孝, 田中宣威, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 腹腔鏡下手術にて摘出した回腸腺管絨毛線種による腸重積の1例. 第775回外科集談会, 1999. 12.
- 223) 土屋喜一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 長澤重直, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所臨床病理): 食道扁平上皮癌とcytokeratin 19. 食道癌悪性度セミナー, 1999.
- 224) 堀場光二, 大川敬一, 谷口善郎, 吉安正行, 恩田昌彦: 下血を主訴とした後腹膜神経鞘腫の1例. 日本消化器病学会支部例会, 1999.
- 225) 長澤重直, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 食道癌のcyclin D1発現と臨床病理学的特徴. 生物学的特性と臨床応用研究会, 2000. 1.
- 226) 高島良樹, 樋口勝美, 島貫公義<sup>1)</sup>, 野村 務, 平本義浩, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>総合会津中央病院外科): 緊急手術を施行した空腸腸管囊腫様気腫の1例. 第166回日本消化器病学会東北支部例会, 2000. 2.
- 227) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 李 栄浩, 白川 毅, 平本義浩, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 難治性皮膚疾患と胃癌の合併4例. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 228) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小野寺浩之, 木山輝郎, 吉行俊郎, 李 栄浩, 水谷 崇, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 根治手術不能胃癌患者における積極治療の意義を問題点. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 229) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 小野寺浩之, 李 栄浩, 松倉則夫: 早期胃癌のプロトンポンプ・インヒビター(PPI)に対する反応. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 230) 小泉岐博, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 吉田 寛, 高橋由至, 田中元子, 高橋 翼: 超音波検査によって穿孔前に診断し得た幼児急性虫垂炎の3例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 2.
- 231) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 李 栄浩, 池田研吾, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 田中元子, 古川清憲, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌におけるTS及びDPD活性測定による5-FU効果の予測. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 232) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 幽門側胃切除後, 食道, 残胃胆汁逆流の検討. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 233) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭: Microdensitometry(MD)法による骨量測定と胃癌術後の骨代謝障害の評価. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- 234) 樋口勝美, 島貫公義, 野村 務, 平本義浩, 仲田幸世<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 古川清憲, 源河敦史, 美濃部かおり(<sup>1)</sup>総合会津中央病院外科): 閉経前乳癌の治療. 第6回東北乳腺疾患研究会, 2000. 3.
- 235) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 高崎秀明, 古川清憲, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 汎発性腹膜炎: 術後栄養管理の実験および臨床的研究. 第34回日本腹部救急医学会, 2000. 3.
- 236) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 谷田貝茂雄, 平方敦史, 野村 務, 真々田裕宏, 吉田 寛, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 田尻 孝, 吉安正行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院): 肝硬変患者の十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術2例の経験. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 237) 勝野 暁, 恩田昌彦, 内田英二, 高橋 翼, 二見良平, 松下 晃, 会田邦晴, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胆嚢軸捻転症の1例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 238) 田原一郎, 恩田昌彦, 田尻 孝, 徳永 昭, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史,

柏原 元, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): イレウスで発症した小腸悪性リンパ腫の1例. 第776回外科集談会, 2000. 3.

239) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 小林 匡, 相本隆幸, 山村 進, 柳 健, 松下 晃, 福原宗久, 吉岡正人, 峯田 章, 田尻 孝, 山下精彦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>放射線科): 重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤持続動注療法後の重症度指標の推移. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.

240) 倉持晋久, 山下直行, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄, 瀧田雅仁, 秋谷行宏, 坂東功一, 内藤委伸<sup>1)</sup>, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科): 腹腔内出血にて発症した胃hemangiopericytomaの1例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.

(8) インターナショナルセッション:

1) Lu Y, Uchida E, Kobayashi T, Yamamura S, Yanagi K, Matsushita A, Fukuhara M, Aida K, Tajiri T, Onda M: The cytotoxic effects of purified crude bile on human pancreatic cancer cells. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.

(9) パラレルシンポジウム:

1) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 食道静脈瘤再発症例からみる血管塞栓術の長期予後に及ぼす影響. 第35回日本肝臓学会総会, 1999. 6.

(10) ビデオセッション:

1) Tajiri T, Onda M, Arima Y, Uchida E, Higuchi K, Ogawa Y, Yoshida H, Saitoh T, Kobayashi T, Mameda Y, Taniai N, Yokomuro S, Nakamura Y, Kaneko M, Itoh S, Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): Pitfalls of laparoscopic cholecystectomy: causes and prevention. ISW99 (ISS/HPBSS) (Vienna, Austria), 1999. 8.

2) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 秋丸琥甫, 有馬保生, 内田英二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 下大静脈腫瘍栓合併肝細胞癌に対する肝切除術. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.

3) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 秋丸琥甫, 小泉 潔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): 横隔膜浸潤を呈した巨大転移性肝癌に対する横隔膜パッチ形成術併施した1切除症例. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.

4) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 吉村和泰, 斎藤忠生, 木山輝郎, 真々田裕宏, 谷合信彦, 丸山 弘, 江上聡: 教室における成人鼠径ヘルニア手術. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.

(11) ミニシンポジウム:

1) 進士誠一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 長澤重直, 土屋喜一, 萩原信敏, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 術前化学放射線療法が奏効した食道扁平上皮癌の2例. 第774回外科集談会, 1999. 9.

(12) 診療と研究のトピックス:

1) 横室茂樹, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, Demetoris A. J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Departments of Pathology, University of Pittsburgh): 閉塞性黄疸におけるInterleukin-6の動態. 第34回日本腹部救急学会総会, 2000. 3.

## [ 多摩永山病院外科 ]

### 研究概要

(1) 臨床における問題点を研究課題として, 研究結果を臨床ヘフィード・バックすることにより治療成績の向上をめざしている. 研究成果を学会発表し論評をうけ, さらにこれを学術雑誌に論文掲載することにより知識の整理,



問題解決の探究心を培う。

- 1) 中心的研究対象は肝・胆・膵疾患であるが消化管、乳腺疾患、侵襲による生体反応である。
- 2) 基礎的研究は病理学的、分子生物学的手法を用い病理部との共同研究により消化器疾患を対象として行っている。
- 3) 内視鏡下手術は胆石症をはじめ大腸の腫瘍、胃疾患、肝腫瘍、食道疾患などほとんどすべての外科領域に行っている。

(2) 胸部外科は平成9年に外科に新設され、胸部疾患ならび血管病変(大静脈、末梢動脈、静脈疾患)に対する外科治療を中心とした臨床的研究を行っている。胸部疾患は肺癌、肺良性腫瘍、縦隔腫瘍(胸腺腫など)、肺気腫、自然気胸など年々増加の傾向を示し、各疾患に対する鏡視下手術も積極的に取り入れ治療成績の向上を目指している。血管病変は大動脈瘤をはじめ、閉塞性動脈硬化症、Buerger病、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤など血管外科領域に対する治療および臨床的研究を行い治療成績の向上に努めている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Matsushima S, Yamamoto H, Suzuki S, Egami K, Yamada N<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>2nd Department of Pathology, <sup>2)</sup>2nd Department of Surgery): Evaluation of prognostic factors and PCNA expression for metastatic pulmonary tumors of colorectal carcinoma. J. Nippon Med Sch 2000; 67: 28-31.
- 2) 佐々部一<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 江上 格, 和田雅世, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 消化性潰瘍手術症例の検討。多摩消化器シンポジウム 2000; 14(1): 21-29.

### 著書

- 1) Watanabe H, Ezure T<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Kodaira Y<sup>1)</sup>, Suzuki S, Matsui S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): [分担] Multiple malignancies in the stomach and other organs. 3rd International Gastric Cancer Congress (Jim-Pok Kim ed), 1999; pp1007-1010, Monduzzi Editore S. p. A.
- 2) 江上 格: [分担] 吐血, 下血。今日の小児治療指針 第12版。いい(矢田純一他), 2000; pp14-15, 医学書院。
- 3) 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 山本英希(<sup>1)</sup>病理第2): [分担] 3章 診断, 10. 生陰。大腸癌: 発生から治療まで(恩田昌彦, 浅野伍朗編), 2000; pp161-172, メディカグローブ。

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 飯田信也, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 佐々部一, 山田岳史, 池田研吾, 加藤圭介, 石塚朋樹, 山村進, 吉岡正智: 縦隔鏡補助下食道抜去術の検討。第19回多摩消化器シンポジウム, 2000. 2.
- 2) 飯田信也, 江上 格, 松田 健<sup>1)</sup>, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 吉岡正智, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>, 大塚敏文<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>救急医学科): 小児腹部外傷のpit-fall-肝外傷について。第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.

#### (2) 一般講演:

- 1) 中村慶春, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 山田岳史, 秋谷行宏, 池田研吾, 加藤圭介, 吉岡正智, 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術前診断が可能であった左閉鎖孔ヘルニアの1例。第61回臨床外科学会総会, 1999. 11.

- 2) Watanabe H, Ezure T<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Kodaira Y<sup>1)</sup>, Suzuki S, Matsui S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Multiple malignancies in the stomach and other organs. 3rd International Gastric Cancer Congress (Seoul), 1999. 4.
- 3) Yamada K<sup>1)</sup>, Ishihara Y<sup>1)</sup>, Shimada S<sup>2)</sup>, Yoshioka M (<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科, <sup>2)</sup>同耳鼻咽喉科): The effect of nerve block treatments in cervicogenic headache. 9th World Congress on Pain (Austria), 1999. 8.
- 4) Nakamura Y, Onda M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Yamamura S, Aimoto T<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Ekami K, Wada M (<sup>1)</sup>外科学第一): Analysis of K-ras Codon 12 Point Mutations Using Duodenal Lavage Fluid for Diagnosis of Pancreatic Carcinoma. 5th congress of Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic surgery (Malaysia), 1999. 12.
- 5) Yamamura S, Egami K, Matsushita S, Watanabe H, Wada M, Yamamoto H, Mizutani T, Iida S, Fujita I, Suzuki S, Nakamura Y, Teramoto T, Sasabe H, Yamada T, Ikeda K, Katou K, Ishizuka T, Yoshioka M, Onda M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Primary Leiomyoma of the Pancreas: Report of a case. 5th Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Malaysia), 1999. 12.
- 6) 中村慶春, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 水谷 崇, 飯田信也, 吉岡正智, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 膵胆管合流異常症例における膵炎合併例の検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 7) 山本英希, 松島申治, 江上 格, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 超高齢者肺癌肺切除の検討. 第16回日本呼吸器外科学会総会, 1999. 5.
- 8) 中村慶春, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 菅 隼人, 藤田逸郎, 大野智康, 山田岳史, 瀧田雅仁, 秋谷行宏, 吉岡正智, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根勝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 膵原発平滑筋腫の1例. 第11回日本肝胆膵外科学会, 1999. 5.
- 9) 池田研吾: 巨大嚢胞性乳癌の1例. 第4回多摩乳腺懇話会, 1999. 6.
- 10) 松島申治, 山本英希, 鈴木成治, 江上 格: 胸腺腫に対する胸腔鏡下手術. 第1回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 1999. 7.
- 11) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 吉岡正智: 当科における腹腔鏡下手術. 第1回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 1999. 7.
- 12) 中村慶春, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 呂 毅<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>外科学第1): 急性膵炎の重症度スコアによる特殊療法の適応判定. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 13) 山田岳史, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 水谷 崇, 瀧田雅仁, 菅 隼人, 藤田逸郎, 中村慶春, 秋谷行宏, 吉岡正智, 田中宣威<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 脾臓転移をきたした横行結腸癌の1例. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 14) 鈴木成治: Comparative genomic hybridizationと定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた固形腫瘍の遺伝子診断. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 15) 平瀬美弥子<sup>1)</sup>, 木本陶子<sup>1)</sup>, 椎野元裕<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 和田雅世, 江上 格, 吉岡正智(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 外来薬物療法における薬剤師の参加とその意義. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 16) 草風博昭<sup>1)</sup>, 山王なお子<sup>1)</sup>, 餃波正博<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 池田研吾, 江上 格, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 原発性頭蓋骨腫瘍と鑑別が困難であった転移性頭蓋骨腫瘍の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 佐々部一, 寺本 忠, 中村慶春, 山田岳史, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村進, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管結石症手術例の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.

- 18) 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 江上 格, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 総胆管のmetallic stentの抜去に成功した1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 19) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 佐々部一, 山田岳史, 池田研吾, 加藤圭介, 石塚朋樹, 山村進, 内田英二<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 膵胆管石流異常症例における膵炎合併症の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 20) 鈴木成治, 松島申治, 山本英希, 江上 格, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 3種の自己免疫疾患を合併した右肺腺癌の一手術例. 第111回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1999. 9.
- 21) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 小嶋隆行, 山田岳史, 秋谷行宏, 池田研吾, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 原発性肝細胞癌の破裂4症例の検討. 第33回日本腹部救急医学会総会, 1999. 9.
- 22) 山村 進, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 井上松広<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 小林匡<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理第2): RGD peptideのハムスター膵癌腹膜播種抑制効果に関する検討. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 23) 渡辺秀裕, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 吉岡正智, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>外科学第1): 高齢者癌の特徴と治療上の問題点: 胃癌例での検討. 第37回日本癌治療学会総会, 1999. 10.
- 24) 山本英希, 松島申治, 鈴木成治, 大野智康, 和田雅世, 江上 格, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>外科学第2): 胃および小腸転移を伴った肺癌の1切除例. 第40回日本肺癌学会総会, 1999. 10.
- 25) 中村慶春, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 山田岳史, 秋谷行宏, 池田研吾, 加藤圭介, 吉岡正智, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 膵体尾部欠損症に合併した膵solid and cystic tumorの1切除例. 第30回日本膵臓学会大会, 1999. 10.
- 26) 秋谷行宏, 江上 格, 和田雅世, 松島申治, 水谷 崇, 飯田信也, 山本英希, 藤田逸郎, 中村慶春, 山田岳史, 大野智康, 池田研吾, 加藤圭介, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 原因不明な全大腸壊死の1例. 第30回日本膵臓学会大会, 1999. 10.
- 27) 鈴木成治, 江上 格, 渡辺秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 山田岳史, 日野佳昭<sup>1)</sup>, 中山総一郎<sup>1)</sup>, 向後俊昭<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 急性腹症にて開腹された腸管出血性大腸菌(EHEC)感染による出血性腸炎の1例. 第34回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 1999. 11.
- 28) 山村 進, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 山本英希, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 佐々部一, 山田岳史, 池田研吾, 加藤圭介, 石塚朋樹, 吉岡正智: 右肝静脈起始部の再発肝臓癌に対してマイクロ波凝固壊死療法+エタノール注入療法が著効した1例. 第18回Microwave Surgery研究会, 1999. 11.
- 29) 山田岳史, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 秋谷行宏, 吉岡正智, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌術後副腎転移の1切除例. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 30) 飯田信也, 江上 格, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 松島申治, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 和田雅世, 山本英希, 水谷 崇, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 丸山弘<sup>2)</sup>, 藤田逸郎, 中村慶春, 山田岳史, 秋谷行宏, 吉岡正智, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 縦隔鏡補助下食道抜去術の検討. 第61回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 31) 加藤圭介, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 佐々部

- 一、寺本 忠、中村慶春、山田岳史、池田研吾、石塚朋樹、山村 進：腹腔鏡下総胆管結石症手術例の検討．第12回日本内視鏡外科学会総会，1999．12．
- 32) 飯田信也、恩田昌彦<sup>1)</sup>、徳永 昭<sup>1)</sup>、池田研吾、平本義浩<sup>1)</sup>、木山輝郎<sup>1)</sup>、松倉則夫<sup>1)</sup>、江上 格、前田昭太郎<sup>2)</sup>、細根 勝<sup>2)</sup>、片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1、<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：消化管の創傷治癒：ヒト十二指腸潰瘍治癒過程における増殖因子ならびにその受容体の局在・発現の解析．第29回創傷治癒研究会，1999．12．
- 33) 渡辺秀裕、江上 格、松島申治、和田雅世、山本英希、飯田信也、藤田逸郎、鈴木成治、中村慶春、寺本 忠、佐々部 一、山田岳史、池田研吾、加藤圭介、石塚朋樹、山村 進、吉岡正智、恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：早期胃癌リンパ節転移例の検討．第72回日本胃癌学会総会，2000．2．
- 34) 鈴木成治、江上 格、渡辺秀裕、和田雅世、飯田信也、藤田逸郎、中村慶春、寺本 忠、恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：Dual color FISHを用いた胃癌組織の低レベルc-myc遺伝子コピー数増幅の検討．第72回日本胃癌学会総会，2000．2．
- 35) 山本英希、松島申治、山村 進、鈴木成治、江上 格、細根 勝<sup>1)</sup>、前田昭太郎<sup>1)</sup>、田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部、<sup>2)</sup>外科学第2)：前縦隔原発と考えられる悪性黒色腫の1例．第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．2．
- 36) 松田 健：小児虫垂炎手術例の検討．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

## [ 多摩永山病院消化器科 ]

### 研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし、それらに関する研究と幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している。現在、地域中核病院の診療科として、消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている。

- 1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管の内視鏡検査件数も増え続けているが、それらの検査診断技術の向上に努めている。
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている。早期癌の内視鏡的治療、総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などについて研究および治療成績の向上に努力している。
- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法を中心とした臨床研究を続けている。
- 4) イレウス、腹膜炎など、急性腹症の病態と治療について、研究を継続中である。
- 5) 肝硬変症、門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により、放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている。
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法、肝細胞癌に対する治療についても、症例を蓄積中である。
- 7) GERD (Gastro-esophageal Reflux Disease) についての臨床研究を開始している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Matsuda T, Okihama Y, Kojima T, Hiroi M, Onda M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School)：A case study of colonic lymphangioma treated by endoscopic resection and a review of Japanese 234 cases．Prog Dig Endosc 1999；55：92-93．
- 2) 松田 健、沖浜裕司、藤田逸郎、寺本 忠、江上 格<sup>1)</sup>、吉岡正智<sup>1)</sup>、恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科、<sup>2)</sup>外科学第1)：消化器癌終末期医療の検討．多摩消化器シンポジウム誌 1999；13：72-78．
- 3) 佐々部 一、沖浜裕司、松田 健、金沢義一、江上 格<sup>1)</sup>、和田雅世<sup>1)</sup>、吉岡正智<sup>1)</sup>、恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山

病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 消化性潰瘍手術症例の検討．多摩消化器シンポジウム誌 2000；14：21-29．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 飯田信也<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，松田 健，松島伸治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，沖浜裕司，恩田昌彦<sup>2)</sup>，山本保博<sup>3)</sup>，大塚敏文<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1，<sup>3)</sup>救急医学)：小児腹部外傷のpit-fall：肝外傷について．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

### (2) 一般講演：

- 1) 金沢義一，沖浜裕司，松田 健，佐々部一，恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸リンパ管腫の3自験例と本邦報告例の臨床的検討．第254回日本消化器病学会関東支部例会，1999．5．
- 2) 松田 健，沖浜裕司，佐々部 一，金沢義一，恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 横行結腸リンパ管腫の1内視鏡的切除例と本邦報告234例の臨床的検討．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 3) 松田 健，沖浜裕司，佐々部 一，金沢義一，小嶋隆行，廣井 信，江上 格<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，大野智康<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，秋谷行宏<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，池田研吾<sup>1)</sup>，加藤圭介<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 上部消化管出血に対する内視鏡的治療の検討：当科における最近の消化性潰瘍症例を中心として．第4回多摩消化管疾患研究会，1999．7．
- 4) 松田 健，沖浜裕司，佐々部一，金沢義一，小嶋隆行，廣井 信，江上 格<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，石塚朋樹<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，池田研吾<sup>1)</sup>，加藤圭介<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 当院における消化性潰瘍の検討：最近18年間における手術症例の推移．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 5) 小嶋隆行，沖浜裕司，松田 健，廣井 信，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 総胆管のmetallic stentの抜去に成功した1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 6) 廣井 信，沖浜裕司，松田 健，小嶋隆行，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 大腸リンパ管腫3治験例と本邦報告269例の臨床的検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 7) 飯田信也<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>2)</sup>，松島伸治<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>2)</sup>，丸山 弘<sup>2)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，秋谷行宏<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，沖浜裕司，松田 健，山下精彦<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 縦隔鏡補助下食道抜去術の検討．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 8) 松田 健，江上 格<sup>1)</sup>，沖浜裕司，松島申治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 小児虫垂炎手術例の検討．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い，治療成績を中心として，その成果を学会および学会誌で報告している．

開院後6年目であるが，外来・入院患者とも徐々に増加し，それに伴い年間手術件数も700例を超え，来年度はさらに増える見通しで地域における基幹病院として，また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し，その重責を担ってきた．

1) 胃癌・大腸癌を中心とした消化器癌に乳癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で、特に食道、胃、大腸癌が多く、これらに対し手術、化学療法を組み合わせた集学的治療をさらに精度を高めるため、専門的な診療、研究体制を整いつつある。また、胃、大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行っているが、腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ胃、大腸腫瘍にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている。

2) 良性疾患には従来の手技・手法を基本に、新しい手技を取り入れている。

3) 院内において内科と合同 conference を定期的に行っており、個々の症例について臨床的検討をより深めている。

## 研究業績

### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

1) Mikami K<sup>12)</sup>, Naito M<sup>1)</sup>, Ishiguro T<sup>13)</sup>, Yano H<sup>13)</sup>, Tomida A<sup>1)</sup>, Yamada T, Tanaka N, Shirakusa T<sup>2)</sup>, Tsuruo T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Inst. of Mol. and Cell. Biosc., Univ. of Tokyo, <sup>2)</sup> 2nd Dept. of Surg., Sch. of Med., Fukuoka Univ., <sup>3)</sup> 1st Dept. of Surg., Univ. of Tokyo ): Immunological quantitation of DT-diaphorase in carcinoma cell lines and clinical colon cancer : Advanced tumor express greater levels of DT-diaphorase . Jpn J Cancer Res 1998 ; 89 ( 9 ): 910-915 .

( 1 ) 原著：

1) Tanaka N, Onda M, Seya T, Kanazawa Y, Naito Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 2nd Dept. of Path ): Establishment and characterization of a human rectal neuroendocrine carcinoma xenograft into nude mice . Digestion 1999 ; 60 ( 1 ): 117-124 .

2) Tanaka N, Onda M, Seya T, Furukawa K, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiol ): Diffuse cavernous haemangioma of the rectum . Eur J Surg 1999 ; 165 ( 2 ): 280-283 .

3) Bando K<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>2)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Koyama M<sup>2)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery 1, NMS, <sup>2)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS ): Localization of a Tumor Suppressor Gene Associated with Progression of Hepatocellular Carcinoma Within a 1-cM Region on 4q35 . Genes Chrom Cancer 1999 ; 25 : 284-289 .

4) Mitsuru E<sup>1)</sup>, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Soto T<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>2)</sup>, Utada Y<sup>1)</sup>, Iwase T<sup>1)</sup>, Ito I<sup>1)</sup>, Minobe K<sup>2)</sup>, Tada T<sup>1)</sup>, Katagiri T<sup>3)</sup>, Bando K<sup>2)</sup>, Akiyama F<sup>4)</sup>, Kasumi F<sup>4)</sup>, Sakamoto G<sup>4)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS, <sup>2)</sup> Department of Surgery 1, NMS, <sup>3)</sup> Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, the University of Tokyo, <sup>4)</sup> Department of Surgery and Pathology, Cancer Institute ): Allelic loss at 1p34, 13q12, 17p13. 3, and 17q21. 1 Correlates with Poor Postoperative prognosis in Breast Cancer . Genes Chrom Cancer 1999 ; 26 : 134-141 .

5) Mitsuru E<sup>1)</sup>, Utada Y<sup>1)</sup>, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Minobe K<sup>2)</sup>, Matsumoto S<sup>2)</sup>, Sakamoto G<sup>3)</sup>, Kasumi F<sup>3)</sup>, Nakamura Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS, <sup>2)</sup> Department of Surgery 1, NMS, <sup>3)</sup> Department of Surgery and Pathology, Cancer Institute, <sup>4)</sup> Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, the University of Tokyo ): Correlation of Allelic Loss with Poor Postoperative survival in Breast Cancer . Breast Cancer 1999 ; 6 : 351-356 .

6) Yoshida H<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Umehara M<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery 1 ): Treatment of Spontaneous Ruptured Hepatocellular Carcinoma . Hepato-Gastroenterology 1999 ; 46 : 2451-2453 .

7) Kawamura N<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Bando K<sup>2)</sup>, Koyama M<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup>) Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, (<sup>2</sup>) Department of Surgery 1, NMS): PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas: Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors. Jpn J Cancer Res 1999; 90: 413-418.

8) Matsumoto S<sup>1)</sup>, Minobe K<sup>1)</sup>, Utada Y<sup>2)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Sakamoto G<sup>3)</sup>, Kasumi F<sup>3)</sup>, Nakamura Y<sup>4)</sup>, Emi M<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>) Department of Surgery 1, NMS, (<sup>2</sup>) Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS, (<sup>3</sup>) Department of Surgery and Pathology, Cancer Institute, (<sup>4</sup>) Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, the University of Tokyo): Loss of heterozygosity at 3p24-p25 as a prognostic factor in breast cancer. Cancer Letters 2000; 152: 63-69.

9) 横井公良, 山下精彦, 田中宣威, 石川紀行, 瀬谷知子, 大秋美治<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>) 千葉北総病院病理部, (<sup>2</sup>) 外科第1): 直腸 Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) の1例. 日本大腸肛門病学会雑誌 1999; 52 (5): 424-430.

10) 高橋由至, 恩田昌彦, 松田 健, 内田英二, 田尻 孝, 山下精彦 (<sup>1</sup>) 外科第1): 胆管, 胃, 脾に同時発生した三重複癌の一切除例. 臨床外科 1999; 54 (6): 829-832.

11) 松本智司: 乳癌の遺伝子診断. 日医大誌 1999; 66 (5): 28-30.

## (2) 総説:

1) 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子: 消化管狭窄に対する緩和的外科治療. がん看護 1999; 4 (2): 100-104.

## 著 書

### [ 1998 年度追加分 ]

1) 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲: [ 分担 ] 1. 大腸癌の症状. 大腸癌: 発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗), 1999; pp58-62, メディカグローブ.

2) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲: [ 分担 ] 3. 直腸指診. 大腸癌: 発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗), 1999; pp80-81, メディカグローブ.

3) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲, 瀬谷知子: [ 分担 ] 4. 便潜血反応. 大腸癌: 発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗), 1999; pp82-86, メディカグローブ.

4) 古川清憲, 恩田昌彦, 田中宣威, 横山滋彦: [ 分担 ] B. 超音波検査. 大腸癌: 発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗), 1999; pp128-134, メディカグローブ.

5) 田中宣威, 恩田昌彦, 横井公良: [ 分担 ] 9. 集検. 大腸癌: 発生から治療まで (恩田昌彦, 浅野伍朗), 1999; pp157-160, メディカグローブ.

1) 古川清憲, 恩田昌彦, 田中宣威: [ 分担 ] 2. 下部消化管手術. 消化器外科 周術期感染症 (炭山嘉伸), 1998; pp95-101, 南山堂.

2) 田中宣威, 恩田昌彦: [ 分担 ] 周術期管理と術後のケア I. 救急処置. 大腸外科 (安富正幸, 武藤徹一郎, 馬場正三), 1999; pp69-72, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

1) Tanaka N, Seya T, Ishikawa N, Yokoi K, Yamashita K, Koizumi M<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Naito N<sup>2)</sup>, Asano G<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>) 1st Dept. of Surg., (<sup>2</sup>) 2nd Dept. of Path): Expression of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in colorectal cancer and its prognosis. 7th United European Gastroenterology Week. (Rome, Italy), 1999. 11.

2) Seya T, Tanaka N, Yamashita K, Yokoi K, Ishikawa N, Koizumi M<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>,

- Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Yoshimura K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 1st Dept. of Surg. , <sup>2)</sup> 2nd Dept. of Path. Nippon Med. School): P21 and p53 expression in advanced colorectal cancer . 7th United European Gastroenterology Week ( Rome, Italy ), 1999 . 11 .
- 3) Koizumi M , Onda M , Tanaka N , Furukawa K , Takasaki H , Yoshimura K , Seya T , Yamada T , Takahashi Y , Naito Z , Asano G : The effect of somatostatin analogue ( Octoreotide ) on rectal neuroendocrine carcinoma ( NEC ) . 7th United European Gastroenterology Week ( Rome, Italy ), 1999 . 11 .
  - 4) Ishikawa N<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyouno S<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ono T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital ): A Case of A rectal metastatic tumor in the hand . 11th Asian Pacific Congress of Gastroenterology 8th Asian Pacific Congress of Digestive Endoscopy ( 香港 ), 2000 . 3 .
  - 5) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 米沢真興<sup>2)</sup>, 柴田喜明<sup>2)</sup>, 篠沢 功<sup>2)</sup>, 田中 周<sup>2)</sup>, 星野哲夫<sup>2)</sup>, 辰口篤史<sup>2)</sup>, 佐藤順<sup>2)</sup>, 李 峯<sup>2)</sup>, 吉田 豊<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 小林正文<sup>2)</sup>, 横井公良, 田中宣威 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第3): 平均赤血球容積 ( MCV ) と大腸腺腫に関する検討 . 第85回日本消化器病学会総会, 1999 . 4 .
  - 6) 山下直行, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 松本智司, 井上松応, 大川敬一, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 山下精彦, 大秋美治<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理, <sup>2)</sup>第1外科): 術前に診断しえた胃 GIST の1例 . 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999 . 6 .
  - 7) 歌田貴仁<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1,2)</sup>, 横田 隆<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>3)</sup>, 霞富士雄<sup>3)</sup>, 秋山 太<sup>3)</sup>, 坂本吾偉<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>, 江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所・分子生物, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>癌研・病・外, <sup>4)</sup>東大・ヒトゲノム): 乳癌術後予後の遺伝マーカーの解析 . 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999 . 6 .
  - 8) 松本智司<sup>1,2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 吉本賢隆<sup>3)</sup>, 霞富士雄<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所・分子生物, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>癌研・病・外, <sup>4)</sup>東大・ヒトゲノム): ホルモン依存性および非依存性乳癌における術後予後の遺伝子診断 . 第7回日本乳癌学会総会, 1999 . 6 .
  - 9) 高橋由至<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田中元子<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 横井公良, 田中宣威 (<sup>1)</sup>外科第1): 大腸癌治癒切除後の再発危険因子に関する検討 . 第54回日本消化器外科学会総会, 1999 . 7 .
  - 10) 桜澤信行: ヒト大腸 aberrant crypt foci ( ACF ) における X 染色体メチル化の不安性 . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
  - 11) 松本智司<sup>1,2)</sup>, 吉本賢隆<sup>3)</sup>, 霞 富士雄<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人研・分子生物, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>癌研・病・外, <sup>4)</sup>東大・ヒトゲノム): 3p25 . 1 領域における LOH と乳癌の術後の相関 . 第58回癌学会総会, 1999 . 9 .
  - 12) 瀬谷知子, 田中宣威, 山下精彦, 横井公良, 石川紀行, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理第2): 早期大腸癌における p53, p21, p27 の発現 . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
  - 13) 田中宣威, 瀬谷知子, 石川紀行, 横井公良, 京野昭二, 山下精彦, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理第2): 大腸癌肝転移症例における VEGF, Matrix-metalloproteinase ( MMP-9 ) の発現の意義 . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
  - 14) 高橋由至<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田中元子<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 田中宣威 (<sup>1)</sup>外科第1): 大腸癌治癒切除後の再発危険因子および CEA doubling time ( CEA-dt ) と予後に関する検討 . 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999 . 10 .
  - 15) 山下直行, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 松本智司, 井上松応, 大川敬一, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 山下精彦, 大秋美治<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科第1): 術後4年目に横行結腸に孤立性再発を来した胃癌の1例 . 第41回日本消化器学会大会, 1999 . 10 .
  - 16) 高橋由至<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 瀬谷知



- 子, 田中宣威<sup>(1)</sup> (外科第1): 大腸癌治療切除後の再発危険因子およびCEA doubling time (CEA-dt) と予後に関する検討. 第54回日本臨床外科学会総会, 1999. 11.
- 17) 歌田貴仁<sup>(1)</sup>, 松本智司<sup>(2)</sup>, 吉本賢隆<sup>(3)</sup>, 霞 富士雄<sup>(3)</sup>, 秋山 太<sup>(3)</sup>, 坂本吾偉<sup>(3)</sup>, 中村祐輔<sup>(4)</sup> (<sup>(1)</sup>老人研・分子生物, <sup>(2)</sup>外科第1, <sup>(3)</sup>癌研・病・外, <sup>(4)</sup>東大・ヒトゲノム): 乳癌術後予後遺伝マーカーの解析: n0乳癌の検討. 日本人類遺伝学会第44回大会, 1999. 11.
- 18) 石川紀行, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 瀬谷知子: 2度の出血性ショックをきたした出血性大腸憩室の1例. 第11回CCM研究会, 1999. 12.
- 19) 井上松応, 田中宣威, 横井公良, 山下精彦, 京野昭二, 石川紀行, 瀬谷知子, 奥田武志, 松本智司, 大川敬一, 江上 聡, 柴 美佳子, 恩田昌彦<sup>(1)</sup> (<sup>(1)</sup>外科第1): 術前診断に難渋した妊娠21週で発症した絞扼性イレウスの1例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 20) 瀬谷知子, 川野陽一, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 大秋美治<sup>(1)</sup>, 恩田昌彦<sup>(2)</sup> (<sup>(1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>(2)</sup>外科第1): 2度の出血性ショックをきたした大腸憩室の1例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 21) 松本智司, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 山下精彦, 石川紀行, 瀬谷知子, 奥田 武, 井上松応: 巨大臍体尾部腫瘍2症例の検討. 第37回千葉県外科医会, 2000. 3.

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第2外科，付属第二病院外科，付属第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部外科，多摩永山病院胸部外科，多摩永山病院内視鏡センターの各施設において教育，研究，診療を担っている．付属病院第2外科では以下の項目を重点的に研究している．

1) 心臓血管外科では年間約250例の開胸術を行い，虚血性心疾患が最も多く，続いて先天性心疾患，心臓弁膜疾患，胸部大動脈瘤がこれに次ぐ．したがって，心筋保護領域の研究が多い．また，不整脈外科の研究は教室では特に力を注いでおり，新しい研究発表も多い．胸部大動脈瘤の手術症例数も多く，脳保護，骨髄神経保護の研究も多い．

2) 呼吸器外科領域では，悪性腫瘍の手術症例が多い．近年，QOLの改善を目的とした低侵襲手術に注目し，Video assisted thoracoscopic surgery (VATS) による手術成績の評価は，外部からも注目されている．臨床例における randomized study も計画している．

腫瘍学の領域では従来からの FISH法による研究も継続しており，研究発表も多数おこなっている．

3) 内分泌外科領域では年間約150例の手術をおこなっている．特に内視鏡下手術として，甲状腺腫瘍摘出術に，Video assisted neck surgery (VANS) を国内では最も早く取り組み，全国各地からの紹介患者も多い．また，海外からの問い合わせも多く，世界各地での学会発表も頻回におこなっている．

その他，8名の海外留学者が，それぞれ異なった分野で研究活動を継続している．研究分野は，心筋保護，不整脈の発生，停止のメカニズム，臓器移植の基礎的研究などである．いずれの領域も世界的にも最先端に行く施設での研究であり，将来的には帰国後の成果は十分に期待しうるものと思われる．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nitta T, Imura H, Bessho R, Hosaka H, Yamauchi S, Tanaka S : Wavelength and conduction inhomogeneity in each atrium in patients with isolated mitral valve disease and atrial fibrillation . J Cardiovasc Electrophysiol 1999 ; 10 ( 4 ): 521-528 .
- 2) Kubokura H<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of SurgeryII, Nioppon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. of Thoracic Surgery, Saitama Cancer Center ): Chromosome 8 copy numbers and the c-myc gene amplification in non-small cell lung cancer . J Nippon Med Sch 1999 ; 66 ( 2 ): 107-112 .
- 3) Nitta T, Imura H, Bessho R, Hosaka H, Yamauchi S, Tanaka S : Wavelength and conduction inhomogeneity in each atrium in patients with isolated mitral valve disease and atrial fibrillation . J Cardiovasc Electrophysiol 1999 ; 10 ( 4 ): 521-528 .
- 4) Shiga T<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Koizumi K, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology ): Endoscopic Thoracic Sympathectomy for Primary Erythromelalgia in the Upper Extremities . Anesth Analg 1999 ; 88 ( 4 ): 865-866 .
- 5) Lee R<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Schuessler R<sup>1)</sup>, Johnson D<sup>1)</sup>, Boineau J<sup>1)</sup>, Cox J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Washington University ): The Closed Heart MAZE : A Nonbypass Surgical Technique . Ann Thorac Surg 1999 ; 67 ( 6 ): 1696-16701 .
- 6) Kyoji H, Munehiro Y, Goro A, Shigeo T : Expression of cathepsin B and cystatin c in human colorectal cancer . Human Pathol 1999 ; 30 : 680-686 .

- 7) Shimizu K , Akira S<sup>1)</sup>, Ali Y J<sup>2)</sup>, Kitamura Y , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka S ( <sup>1)</sup> Department of Gynecology , <sup>2)</sup> Universiti of Kebangsaan Malaysia ): Video-Assisted Neck Surgery : Endoscopic Resection of Thyroid Tumors with Very Minimal Neck Wound . Journal of the American College of Surgeons 1999 ; 188 ( 6 ): 697-703 .
- 8) Ochi M , Kutsukata N , Ohkubo N , Ogasawara H , Fujii M , Tanaka S : Combined non-cardiac operations with minimally invasive direct coronary artery bypass grafting . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 1999 ; 1 ( 8 ): 398-401 .
- 9) Nitta T , Sakamoto S , S , Miyagi Y , Ogasawara H , Ishii Y , Yamada K , Kanno S , Tanaka S : Initial Experience with the Radial Incision Approach for Atrial Fibrillation . Ann Thorac Surg 1999 ; 68 ( 3 ): 805-811 .
- 10) Yigang W , Kyoji H , Muhammad A : Activation of mitochondrial ATP sensitive K<sup>+</sup> channel for cardiac protection against ischemic injury is dependent on protein kinase C activity . Circ Res 1999 ; 85 : 731-741 .
- 11) Kitamura Y , Shimizu K , Nagahama M , Sugino K<sup>1)</sup>, Ozaki O<sup>1)</sup>, Mimura T<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> Ito Hospital ): Immediate causes of death in thyroid carcinoma : clinicopathological analysis of 161 fatal cases . The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism 1999 ; 84 ( 11 ): 4043-4049 .
- 12) Haraguchi S , Fukuda Y , Sugisaki Y , Yamanaka N : pulmonary carcinosarcoma : immunohistochemical and ultrastructural studies . pathology international 1999 ; 49 : 903-908 .
- 13) Ochi M , Yamada K , Fujii M , Ohkubo N , Ogasawara H , Tanaka S : Role of Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting in Patients with Malignant Neoplastic Disease . Japanese Circulation Journal 2000 ; 64 ( 1 ): 13-17 .
- 14) Kitamura Y , Shimizu K , Tanaka S , Ito K<sup>1)</sup>, Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Ito Hospital , <sup>2)</sup> Institute of Gerontology ): Allelotyping of anaplastic thyroid carcinoma : frequent allelic losses on 1q, 9p, 11, 17, 19p and 22q . Genes Chromosomes Cancer 2000 ; 27 ( 2 ): 244-251 .
- 15) 新田 隆 : 心房細動に対する新しい手術 : Radial Approach . Therapeutic Research 1999 ; 20 ( 6 ): 94-100 .
- 16) 新田 隆 : ( 特集 : 重症不整脈における救命治療 ): 重症不整脈の外科治療 . ハートナーシング 1999 ; 12 ( 6 ): 882-886 .
- 17) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 西田一典<sup>2)</sup>, 西村仁志<sup>1)</sup>, 山本光伸<sup>1)</sup>, 出雲俊之<sup>2)</sup>, 土屋永寿<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター胸部外科 , <sup>2)</sup> 同病理部 ): Embryonal carcinoma 様の所見を認めた Biphasic Pulmonary Blastoma の 1 症例 . 肺癌 1999 ; 39 ( 3 ): 339-344 .
- 18) 小泉 潔 , 三上 徹 , 田中茂夫 , 秋山博彦 , 原口秀司 : 超高齢者肺癌に対する VATS 肺切除術の適応 . 日本胸部臨床 1999 ; 58 ( 8 ): 558-566 .
- 19) 松山 謙<sup>1)</sup>, 吉川 晃<sup>1)</sup>, 露口直彦<sup>2)</sup>, 石原勝也<sup>2)</sup>, 高野 一<sup>2)</sup>, 尾畑純栄<sup>2)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 甲府城南病院胸部心臓血管外科 , <sup>2)</sup> 同病院循環器科 ): 当院におけるペースメーカー患者の生命予後 . 山梨医学 1999 ; 27 : 140-143 .
- 20) 藤松利浩<sup>1)</sup>, 林 晃一<sup>1)</sup>, 具志堅政道<sup>1)</sup>, 大城康一<sup>1)</sup>, 小笠原隆行<sup>2)</sup>, 藤松泰三 , 落 雅美 , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 浦添総合病院循環器センター , <sup>2)</sup> 浦添総合病院麻酔科 ): Port access system を用いない三枝病変に対する minimal access CABG . 胸部外科 1999 ; 52 ( 11 ): 920-923 .
- 21) 清水一雄 , 田尻 孝<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 北川 亘 , 赤須東樹 , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 外科第 1 , <sup>2)</sup> 産婦人科 ): Video-assisted neck surgery ( VANS ): 吊り上げ法を応用した内視鏡下甲状腺 , 上皮小体手術 . 日本内視鏡外科学会雑誌 1999 ; 4 ( 6 ): 553-557 .
- 22) 清水一雄 : 甲状腺・上皮小体の内視鏡下手術 : 65 例の経験から . 内分泌外科 1999 ; 16 ( 4 ): 255-260 .
- 23) 山田研一 : 両側定型的乳房切断術後にペースメーカー植込み術を施行した 1 例 . 不整脈 1999 ; 15 ( 5 ): 534-

- 24) 新田 隆, 渡辺嘉之, 北川彰信, 藤井正大, 小笠原英継, 石井庸介, 大久保直子, 山田研一, 矢島俊巳, 田中茂夫: 3次元動画表示が可能な256チャンネルマッピングシステム. 心臓 1999; 31(1): 5-6.
- 25) 新田 隆: 心房細動に対する外科治療. 東京医師会誌 1999; 52(4): 6-10.
- 26) 清水一雄: 甲状腺の鏡下手術とハーモニクスカルペルの応用. 外科治療 1999; 81: 56-60.
- 27) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦: 肝臓移植. Medical Technology 1999; 28: 272-279.
- 28) 新田 隆: (特集: 不整脈をどうするか): 薬物療法と非薬物療法 心房細動の外科治療. 今月の治療 2000; 8(2): 165-172.
- 29) 新田 隆: 心房細動の外科的治療. 治療レビュー 2000; 8(2): 165-172.
- 30) 新田 隆: 不整脈治療Q&A: ペースメーカー患者のフォローアップについてご教示ください. 不整脈診療 2000; 20(20): 17-18.
- 31) 別所竜蔵: 開心術に於ける心筋保護法の研究: Ultra Short-acting  $\beta$ -blockerを用いた常温虚血下における心筋保護法の開発. 日医大誌 2000; 67(2): 153-155.
- 32) 安藤真弘<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 持丸 博<sup>1)</sup>, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 福田 悠<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>病理第1): 末梢型小型肺腺癌のCT画像所見と確定診断に至る経緯の検討. 気管支学 2000; 21(6): 381-386.
- 33) 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫, 有馬保雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の経験. 日本臨床外科 2000; 61: 1040-1043.

## (2) 総説:

- 1) Shimizu K, Akira S<sup>1)</sup>, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Araki T<sup>1)</sup>, Tanaka S(<sup>1)</sup>Department of Gynecology): Video-Assisted Neck Surgery (VANS): Endoscopic Resection for Three Cases of Micro-Papillary Carcinoma of the Thyroid with a Very Minimal Neck Wound Using the Gasless Anterior Neck Lift Method-A Comparison with 30 Benign Thyroid and Parathyroid Tumors. European Surgical Research: Clinical and Experiment Surgery (Abstract) 1999; 120-121.
- 2) 田中茂夫: ICDはもっと使われるべきか. 心臓 1999; 31(7): 499-503.
- 3) 田中茂夫: 植込み型除細動器の現状と問題点. Heart View 1999; 3(10): 707-715.
- 4) 清水一雄: 甲状腺機能亢進症. 臨床外科 増刊号 薬物療法マニュアル 1999; 54(11): 197-200.
- 5) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): 甲状腺癌におけるゲノム異常. 日医大誌 1999; 66(5): 319-323.
- 6) 田中茂夫: 植込み型除細動器. 心電図 1999; 19(6): 707-715.
- 7) 新田 隆: 不整脈外科の現況と将来の展望. 不整脈 1999; 15(1): 6-16.
- 8) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫: (特集: 甲状腺・上皮小体をめぐって) 甲状腺髄様癌. JOHNS 1999; 15: 917-921.
- 9) 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>同放射線科): 動脈硬化性大動脈解離の病理学的検討: matrix metalloproteinaseの関与を含めて. 胸部外科 2000; 53(3): 194-201.
- 10) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 田中茂夫: 内分泌外科シリーズ: 第8報 甲状腺悪性腫瘍の診断と治療. 日医大誌 2000; 67(2): 134-138.

## 著 書

- 1) 落 雅美: [分担] 心臓ペースメーカー: 合併症とその対策. 心臓ペースメーカー, 植え込み型除細動器(編集: 田中茂夫), 1999; pp111-120, メヂカルビュー社.

- 2) 別所竜蔵：〔分担〕ICD 植込み術の手術手技．心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（編集：田中茂夫），1999；pp199-215，メヂカルビュー社．
- 3) 清水一雄：〔分担〕一般総論（93A-53）一般各論（93B-81, 83）臨床各論（93F-47）必修問題（93D-6）．第93回医師国家試験問題解説書（編集：医師国家試験問題解説書編集委員会），1999；p49，医学評論社．
- 4) 清水一雄：〔分担〕副甲状腺（上皮小体）疾患．甲状腺疾患診療実践マニュアル（含 副甲状腺疾患）（監修：伊藤國彦，編集：三村 孝，百溪尚子），1999；pp153-158，文光堂．
- 5) 新田 隆：〔分担〕不整脈手術．最近の心臓手術と麻酔管理のながれ（監修：小川 龍，編集：坂本篤裕，高尾あや子），1999；p12536，真興交易医書出版部．
- 6) 新田 隆：〔分担〕心房細動の外科治療．不整脈 '99（監修：杉本恒明，編集：井上 博），1999；pp180-191，メディカルレビュー社．
- 7) 清水一雄：〔翻訳〕蛋白質合成，細胞機能細胞増殖の遺伝子制御．ガイトン臨床生理学（監訳：早川弘一），1999；pp29-45，医学書院．
- 8) 矢島俊巳，田中茂夫：〔分担〕植込み型除細動器の植込み現況．Clinical Engineering（編集責任：横山正義），1999；pp1118-1121，秀潤社．
- 9) 落 雅美：〔分担〕最近の心臓手術の動向：冠動脈再建術．最近の心臓手術と麻酔管理のながれ（監修：小川龍，編集：坂本篤裕，高尾あや子），1999；pp91-113，真興交易医書出版部．
- 10) 小泉 潔：〔共著〕胸腔鏡による治療．呼吸器疾患：専門医にきく最新の臨床，2000；pp85-87，中外医学社．
- 11) 田中茂夫：〔分担〕心臓ペースメーカーの選択と植込み患者の管理．循環器疾患最新の治療 2000 - 2001（編集：篠山重威，矢崎義雄），2000；pp326-330，南江堂．
- 12) 清水一雄：〔分担〕内分泌疾患 クッシング症候群．経静脈治療オーダーマニュアル（編集：和田孝雄，小川龍，林田憲明，島崎修次，飯野靖彦），2000；pp298-302，メディカルレビュー社．
- 13) 清水一雄：〔分担〕甲状腺機能亢進症．救急医療・外来診療（監修：伊東 洋，庄司進一），2000；pp219-224，医学評論社．
- 14) 落 雅美：〔翻訳〕細胞とその機能．ガイトン臨床生理学（監訳：早川弘一），2000；pp11-27，医学書院．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Nitta T：Return Cycle Mapping After Entrainment of Ventricular Tachycardia．3rd Taipei-Tokyo Cardiac Arrhythmia Joint Conference（Hualien, Taiwan ROC），1999．12．
- 2) 落 雅美：虚血性心疾患の外科治療．第1回心臓病同好会，1999．7．
- 3) 清水一雄：ホルモンックが切り開くサージカルイノベーション．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 4) 田中茂夫：突然死に対する不整脈治療の最先端．栃木突然死ミニシンポ，1999．11．
- 5) 新田 隆：心室頻拍の非薬物治療．第23回神奈川心臓ペースング電気生理研究会，2000．2．

### (2) 招待講演：

- 1) Ochi M：Current strategies toward better long-term outcome in coronary artery bypass grafting．3rd Annual Meeting of Bridging Cardiovascular Science and Medicine in The University of Hong Kong Faculty of Medicine（Hong Kong），1999．10．
- 2) 新田 隆：頻脈性不整脈に対する非薬物治療の現況．第1回心臓病同好会学術講演会，1999．7．
- 3) 落 雅美：冠動脈バイパス術に於ける術式の選択と成績．県央西湘心臓血管外科研究会，1999．7．

### (3) 教育講演：

- 1) 秋丸琥甫：移植肝の穿刺吸引細胞診．第40回日本臨床細胞学会総会，1999．6．

(4) シンポジウム：

- 1) 田中茂夫, 奥村 謙, 井上 博, 小坂井嘉夫, 笠貫 宏, 田中敏博：致死性不整脈に対する植込み型除細動器．第25回日本医学会総会, 1999 . 4 .
- 2) 石井庸介, 新田 隆, 渡辺嘉之, 丸山雄二, 宮脇佳世, 藤井正大, 小笠原英継, 大久保直子, 山田研一, 矢島俊巳, 田中茂夫：心房細動に対する新しい術式：Radial incision approach . 第14回 日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 1999 . 5 .
- 3) 落 雅美, 山田研一, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 藤井正大, 矢島俊巳, 新田 隆, 田中茂夫：他部位血管病変を合併する冠動脈バイパス術例の検討：術式と手術時期を中心に . 第27回日本血管外科学会総会, 1999 . 5 .
- 4) 北村 裕, 田中茂夫：多因子性疾患の遺伝子解析と臨床応用：“甲状腺癌” . 日本医科大学医学会第9回「公開シンポジウム」, 1999 . 6 .
- 5) 秋丸琥甫：肝癌の細胞診：特別発言 . 第38回日本臨床細胞学会秋期大会, 1999 . 11 .
- 6) 矢島俊巳, 新田 隆, 田中茂夫：ICD植込みにおける外科手技上の問題点 . 第13回日本冠疾患学会学術集会, 1999 . 12 .
- 7) 秋丸琥甫, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1)：肝移植後のモニタリング：移植肝の穿刺吸引細胞診 . 第39回日本臨床病理学会東海・北陸支部総会, 2000 . 3 .

(5) パネルディスカッション：

- 1) 落 雅美：LMT病変に絡んだ治療法の選択 . 第13回日本冠疾患学会総会, 1999 . 12 .

(6) ワークショップ：

- 1) Shimizu K：Video-Assisted Neck Surgery (VANS) . 1999 Work Shop; Thyroid and Parathyroid Surgery (Seoul, Korea), 1999 . 9 .
- 2) Shimizu K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S (<sup>1)</sup>Department of Surgery I)：Endoscopic Thyroidectomy . International Workshop on Endocrine Telesurgery (Lucknow, India), 1999 . 10 .
- 3) 窪倉浩俊, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 徹, 平井恭二, 平田知己, 山内仁紫, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫：小児胸部心疾患に対する胸腔鏡補助下手術 (VATS) の検討 . 日本内視鏡外科学会総会, 1999 . 12 .

(7) 一般講演：

- 1) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 田中茂夫：Video-Assisted Neck Surgery (VANS)：内視鏡下甲状腺片葉切除と頸部リンパ節隔清を施行した甲状腺微小癌の1症例 . 第11回日本内分泌外科学会総会, 1999 . 5 .
- 2) Shimizu K, Akira S<sup>1)</sup>, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Araki T<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>Department of Gynecology)：Video-Assisted Neck Surgery (VANS)：Endoscopic resection for three cases of micro-papillary carcinoma of the thyroid with a very minimal neck wound using the gasless anterior neck lift method-A comparison with 30 benign thyroid and parathyroid tumors . 34th Congress of the European Society of Surgical Research (ESSR) (Bern, Switzerland), 1999 . 4 .
- 3) Bessho R, Chambers DJ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute, St. Thomas Hospital)：Cardioplegia or ventricular fibrillation for optimal myocardial protection? . XX Annual Scientific Sessions-International Society for Heart Research European Section-(Maastricht, The Netherlands), 1999 . 4 .
- 4) Fujii M, Ochi M, Ogasawara H, Yamada K, Terada K, Yajima T, Nitta T, Tanaka S：Experience of the obturator foramen bypass in patients with complicated femoral vascular problems . 41st Annual World Congress International college of Angiology (Sapporo), 1999 . 4 .
- 5) Kubokura H, Mikami I, Tenjin T, Koizumi K, Akiyama H<sup>1)</sup>, Nishimura H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Tanaka S

- (<sup>1</sup>) Dept. of Thoracic Surgery, Saitama Cancer Center ): Chromosome 8 copy numbers and the c-myc gene amplification in non-small cell lung cancer . International Society of Surgery ( International Surgical Week '99 ) ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
- 6 ) Shimizu K , Akira S<sup>1</sup> , Kitagawa W , Akasu H , Takatsu K , Ishii R , Araki T<sup>1</sup> , Tanaka S ( <sup>1</sup> Department of Gynecology ): Video-Assisted Neck Surgery ( VANS ): Endoscopic resection of thyroid and parathyroid tumors with a very minimal neck wound using the gasless anterior neck lift method-Experience of 30 cases . 38th World Congress of Surgery of the International Society of Surgery ( ISS ) International association of Endocrine Surgeons ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
- 7 ) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Ogawa Y , Yoshida H , Mamada H , Tani ai N , Yamamoto K , Kaneko M , Yoshioka M , Mineta S , Yamashita K : Peritoneal patch for reconstruction of the vena cava . The 38th World Congress of Surgery ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
- 8 ) Ochi M , Yamada K , Ohkubo N , Ishii Y , Ogasawara H , Fujii M , Miyawaki K , Tanaka S : Postoperative Echocardiographic and Angiographic Evaluation of the Flow Capacity of the Right Gastroepiploic Artery . World Congress of the International Society for Cardiovascular Surgery ( Melbourne ), 1999 . 9 .
- 9 ) Shimizu K , Tanaka S : Minimally invasive endoscopic surgery in thyroid and parathyroid tumors . 4th Postgraduate course in Endocrine Surgery & International Workshop on Endocrine Telesurgery ( Lucknow, India ), 1999 . 10 .
- 10 ) Akimaru K : Comparative study between tumor and non-tumor ABC findings of the liver . Symposium on Fine Needle Aspiration Cytology of Hepatobiliary Tract by Thailand division of the international academy of pathology ( Bangkok, Thailand ), 1999 . 10 .
- 11 ) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Uemura M , Yoshida H , Yokomuro S , Nomura T , Mamada H , Tani ai N , Yamamoto K , Kaneko M , Yoshioka M , Mineta S , Masuda G , Uchida E , Arima Y , Yamashita K : Resection of the liver, inferior vena cava and right kidney for recurrences over nine years after right adrenalectomy for carcinoma . The 9th World Congress of International Gastro-Surgical Club ( Nagasaki, Japan ), 1999 . 10 .
- 12 ) Nitta T , Miyawaki K , Watanabe Y , Fujii M , Ishii Y , Ogasawara H , Hirai K , Ohkubo N , Yamauchi H , Tanaka S : Focal and Reentrant Mechanisms Underlie Permanent Atrial Fibrillation in Patients with Mitral Valve Disease . 72nd Scientific Sessions of the American Heart Association ( Atlanta, GA, USA ), 1999 . 11 .
- 13 ) Akimaru K , Onda M , Matsuda N , Moriyama Y , Tajiri T , Tokunaga A , Matsukura N , Katoh S , Kiya ma T , Yoshida H , Mamada H , Tani ai N , Yoshimura S , Naitou Z : Effectiveness of hyperbaric oxygen on liver regeneration after carbon tetrachloride administration and hepatectomy . The 13th international congress on hyperbaric medicine ( Kobe, Japan ), 1999 . 11 .
- 14 ) Akimaru K : Cytology of the liver ( supplementary comments ) . International Symposium in The 38th Autumn Meeting of The Japanese Society of Clinical Cytology ( Nagoya, Japan ), 1999 . 11 .
- 15 ) Ishii Y , Nitta T , Fujii M , Ogasawara H , Iwaki H , Ohkubo N , Tanaka S : Radial Incision Approach for atrial fibrillation . Asian Pacific Conference on Cardiac Electrophysiology and Pacing ( Hualien, Taiwan ), 1999 . 12 .
- 16 ) Miyawaki K , Nitta T , Yajima T , Tanaka S : Circadian Variation in the incidence of ventricular tachyarrhythmias in ICD recipients . Asian Pacific Conference on Cardiac Electrophysiology and Pacing ( Hualien, Taiwan ROC ), 1999 . 12 .
- 17 ) Kitagawa W , Shimizu K , Akasu H , Kitamura Y , Iida T<sup>1</sup> , Nakamura T<sup>2</sup> , Emoto N<sup>3</sup> , Yamada N<sup>1</sup> , Asano G<sup>1</sup> , Tanaka S ( <sup>1</sup> Department of Pathology II , ( 2 ) Nakamura Hospital , ( 3 ) Ohmiya-Chuo General

- Hospital : Adrenal myelolipoma : A report of 2 cases . 13th ASIA-PACIFIC ENDOCRINE CONFERENCE ( Honolulu, Hawaii ), 2000 . 2 .
- 18) Ishii Y , Nitta T , Fujii M , Ogasawara H , Iwaki H , Ohkubo N , Yamauchi H , Yajima T , Ochi M , Tanaka S : Sufficient Atrial Contraction After the Radial Incision Approach Prevents Thromboembolism . 36th Annual Meeting of The Society of Thoracic Surgeons ( Fort Lauderdale, FL, USA ), 2000 . 2 .
- 19) 川瀬康裕 , 清水一雄 , 北川 亘 , 赤須東樹 , 高草木幸子 , 平井恭二 , 山田規予美 , 田中久美 , 石井律子 , 田中茂夫 : Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery Using Anterior Neck Lifting Method : A Consecutive Study of 70 Cases . 13th APEC ( Honolulu, Hawaii ), 2000 . 2 .
- 20) Akasu H , Shimizu K , Akira S<sup>1)</sup> , Kitagawa W , Tanaka S ( <sup>1)</sup>Gynecology & Obstetrics ): Experience of 30 Cases of Video-Assisted Neck Surgery ( VANS ) Endoscopic Resection of Thyroid and Parathyroid Tumors with A Minimal Wound Using The Anterior Neck Lift Method . 13th Asia-Pacific Endocrine Conference ( Honolulu Hawaii ), 2000 . 2 .
- 21) Akasu H , Shimizu K , Kitagawa W , Naito Y<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>2)</sup> , Tanaka S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology II , <sup>2)</sup>Nakamura Hospital : Pathological Examination of Thyroid Papillary Carcinoma After PEIT . 13th Asia-Pacific Endocrine conference ( Honolulu Hawaii ), 2000 . 2 .
- 22) Yamada K , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka K , Ishii R , Kawase Y , Fukuda Y<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>2)</sup> , Tanaka S ( <sup>1)</sup>病理第1 , <sup>2)</sup>病理第2 ): Large Liposarcoma Arising From the Retroperitoneal Space . 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Honolulu, Hawaii ), 2000 . 2 .
- 23) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hirai K , Takatsu K , Ishii R , Tanaka K , Tanaka S : Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using gasless anterior neck lifting method ; A consecutive study of 78 cases . The 7th congress of Asian Association of Endocrine Surgeons ( Adelaide, South Australia ), 2000 . 3 .
- 24) Ochi M , Yamada K , Ohkubo N , Ishii Y , Ogasawara H , Fujii M , Yoshino N , Tanaka S : Simultaneous left subclavian artery reconstruction in a patient undergoing CABG ; Aorto-axillary bypass using a PTEE graft . The 7th Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery ( Singapore ), 2000 . 5 .
- 25) Tanaka K , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Morino K<sup>1)</sup> , Tanaka S ( <sup>1)</sup>Waseda Medical Clinic ): Efficacy of bipolar scissors for the surgery in patient with pheochromocytoma . 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference ( Honolulu, Hawaii ), 2000 . 12 .
- 26) 丸山雄二 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 北川 亘 , 飯田竹美<sup>1)</sup> , 山田宣孝<sup>1)</sup> , 浅野伍朗<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>病理学第二 ): 甲状腺硝子化索状腺腫の1例 . 第11回内分泌外科学会 , 1999 . 5 .
- 27) 新田 隆 , 渡辺嘉之 , 丸山雄二 , 藤井正大 , 石井庸介 , 小笠原英継 , 平井恭二 , 大久保直子 , 山田研一 , 田中茂夫 : 心房細動に対するRadial Incision Approach . 第52回日本胸部外科学会総会 , 1999 . 10 .
- 28) 清水一雄 , 北村 裕 , 北川 亘 : Video-Assisted Neck Surgery ( VANS ): 内分泌頸部腫瘍に対する内視鏡下手術 : 工夫と改善 . 第61回日本臨床外科学会総会 , 1999 . 11 .
- 29) 窪倉浩俊 , 三上 巖 , 天神敏博 , 小泉 潔 , 秋山博彦<sup>1)</sup> , 西村仁志<sup>1)</sup> , 山本光伸<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター 胸部外科 : FISH法を用いた肺癌細胞における8番染色体数的異常とc-myc遺伝子増幅率の検討 . 日本呼吸器外科学会総会 , 1999 . 4 .
- 30) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 北村 裕 , 飯田竹美<sup>1)</sup> , 中村 隆<sup>2)</sup> , 江本直也<sup>3)</sup> , 山田宣孝 ) , 浅野伍朗<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>病理第2 , <sup>2)</sup>中村病院 , <sup>3)</sup>大宮中央総合病院 ): 教室で経験した副腎骨髄脂肪腫の2例 . 第11回日本内分泌外科学会総会 , 1999 . 5 .
- 31) 新田 隆 : EPセミナー : ペースメーカー手術の手法 . 第14回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会 , 1999 . 5 .
- 32) 宮脇佳世 , 清水一雄 , 北川 亘 , 赤須東樹 , 三村 孝<sup>1)</sup> , 伊藤公一<sup>1)</sup> , 伊藤国彦<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>伊藤病院 ):



- 進行甲状腺癌に対して胸骨縦切開，鎖骨授動を施行した2例．第11回日本内分泌外科学会総会，1999．5．
- 33) 宮脇佳世，新田 隆，佐々木孝，宮本哲也，北川彰信，渡辺嘉之，丸山雄二，仲吉 隆，山田研一，矢島俊巳，田中茂夫：心室頻拍，心室細動と非持続性心室頻拍の出現時刻の検討．第14回日本心臓ペースング，電気生理学学会学術大会，1999．5．
- 34) 矢島俊巳，山田研一，石井庸介，大久保直子，新田 隆，落 雅美，田中茂夫：銀繊維による電磁波防止効果の検討．第14回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，1999．5．
- 35) 山田研一，矢島俊巳，新田 隆，小笠原英継，石井庸介，落 雅美，田中茂夫：ペースメーカーの絶縁コーティング方法の違いによる筋電位抑制及び筋刺激の検討．第14回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，1999．5．
- 36) 天神敏博，赤須東樹，清水一雄，田中茂夫：乳癌におけるDual color FISH法を用いたc-myc gene amplification rateとchromosome 8 copy numberの関係．第7回日本乳癌学会，1999．5．
- 37) 北村 裕，江見 充<sup>1)</sup>，清水一雄，北川 亘，赤須東樹，佐々木隆，田中茂夫，渡辺 淳<sup>2)</sup>，山本基子<sup>2)</sup>，島田隆<sup>2)</sup>，前田美穂<sup>3)</sup>，津田晃男<sup>3)</sup>，山西慎吾<sup>3)</sup>，福永慶隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所，<sup>2)</sup>生化第2，<sup>3)</sup>小児科)：遺伝子診断を行ったMEN2Bの一家系．第5回家族性腫瘍研究会，1999．5．
- 38) 北村 裕，清水一雄，伊藤公一<sup>1)</sup>，田中茂夫，江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院，<sup>2)</sup>老人病研究所)：甲状腺未分化癌のallelotyping study．第11回内分泌外科学会総会，1999．5．
- 39) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，内藤善也<sup>1)</sup>，田中茂夫，中村 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>中村病院)：PEIT後の甲状腺乳頭癌の病理組織学的検討．第11回内分泌外科学会，1999．5．
- 40) 原口秀司：肺癌肉腫の一切除例．histogenesisについて．第16回日本呼吸器外科総会，1999．5．
- 41) 藤井正大，小笠原英継，山田研一，矢島俊巳，新田 隆，田中茂夫，寺田功一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>総合会津中央病院心臓血管外科)：閉鎖孔経路を用いた血行再建術の検討．第27回日本血管外科学会総会，1999．5．
- 42) 大森裕也，新田 隆，矢島俊巳，山内茂生，山内仁紫，別所竜蔵，山田研一，石井庸介，宮脇佳世，宮本哲也，北川彰信，田中茂夫，林 明聡<sup>1)</sup>，宮内靖史<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，加藤貴雄<sup>1)</sup>，早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1)：ICD誤作動例の検討．第14回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会，1999．5．
- 43) 中田朋子<sup>1)</sup>，南 史朗<sup>1)</sup>，勝又晴美<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>1)</sup>，藤森 実，横山史朗<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所)：甲状腺乳頭癌においてc-retと融合している新規遺伝子cDNAのクローニング．第72回日本内分泌学会学術総会，1999．5．
- 44) 小野瀬裕之<sup>1)</sup>，江本直也<sup>1)</sup>，杉原 仁<sup>1)</sup>，清水一雄，若林一二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3)：甲状腺組織内プロテオグリカンのイムノプロット法を用いた新しい定量的分析法の開発．第72回日本内分泌学会学術総会，1999．5．
- 45) 清水一雄，北村 裕，北川 亘，赤須東樹，高津圭介，田中茂夫：Video-Assisted Neck Surgery (VANS)：内分泌外科領域における内視鏡下頸部手術．第11回日本内分泌外科学会総会，1999．5．
- 46) 高草木幸子，清水一雄，北村 裕，北川 亘，赤須東樹，丸山雄二，宮脇佳世，田中茂夫：Video-Assisted Neck Surgery (VANS)：内視鏡下内分泌頸部外科手術における手術時間に関する因子の検討．第11回日本内分泌外科学会総会，1999．5．
- 47) 高津圭介，清水一雄，田近義博<sup>1)</sup>，北村 裕，北川 亘，赤須東樹，田中茂夫(<sup>1)</sup>内科第3)：進行炎症性乳癌に対して非定型的乳房切除術後に造血幹細胞移植を施行した1例．第11回日本内分泌外科学会総会，1999．5．
- 48) 江本直也<sup>1)</sup>，小野瀬裕之<sup>1)</sup>，杉原 仁<sup>1)</sup>，清水一雄，若林一二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3)：甲状腺乳頭癌およびパセドウ甲状腺における組織内遊離FGF-2増加のメカニズム．第72回日本内分泌学会学術総会，1999．5．
- 49) 笹井 巧<sup>1)</sup>，仁科 大<sup>1)</sup>，塩田昌彦，真崎義隆，佐地嘉章，岡田大輔，五味淵誠，田中茂夫(<sup>1)</sup>海老名総合病院呼吸器外科)：気胸手術時，胸腔鏡から開胸手術に移行した症例の検討．第16回日本呼吸器外科学会，1999．5．
- 50) 仁科昌平<sup>1)</sup>，山崎純一<sup>1)</sup>，正林浩高<sup>1)</sup>，新田 隆，田中茂夫，藤井正大，榎本 豊(<sup>1)</sup>東邦大学)：慢性心房細

- 動に脳梗塞，腎梗塞を合併した1例．第172回日本循環器学会学術集会関東甲信越地方会，1999．6．
- 51) 小笠原英継，新田 隆，渡辺嘉之，丸山雄二，藤井正大，石井庸介，山田研一，矢島俊巳，田中茂夫：心房細動に合併した左房内血栓症に対してRadial approachと血栓摘出術を施行した2例．第110回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．6．
- 52) 窪倉浩俊，小原邦彦，三上 巖，鈴木誠治，秋山博彦<sup>1)</sup>，天神敏博，小泉 潔，田中茂夫（<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター 胸部外科）：Dual color FISH法を用いた肺腺癌細胞におけるHER-2/neu増幅率の検討．日本サイトメトリー学会総会，1999．6．
- 53) 天神敏博，窪倉浩俊，三上 巖，小原邦彦，鈴木成治，小泉 潔，田中茂夫：FISH法によるHER-2/neuの異常と乳癌の関係．第9回日本サイトメトリー学会，1999．6．
- 54) 小原邦彦，横山宗伯，天神敏博，浅野伍朗（<sup>1)</sup>病理第2）：FISH法を用いた大腸癌におけるC-MYCの遺伝子増幅の検討．第9回日本サイトメトリー学会，1999．6．
- 55) 小笠原英継，新田 隆，渡辺嘉之，丸山雄二，藤井正大，石井庸介，山田研一，矢島俊巳，落 雅美，田中茂夫：心房細動に合併した左房内血栓症に対してRadial approachと血栓摘出術を施行した2症例．第110回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．6．
- 56) 北村 裕，清水一雄，伊藤公一<sup>1)</sup>，田中茂夫，江見 充<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>伊藤病院，<sup>2)</sup>老人病研究所）：甲状腺乳頭癌におけるallelic lossと予後．第10回 Medical Genetics 研究会，1999．6．
- 57) 平田知己，小泉 潔，天神敏博，平井恭二，三上 巖，窪倉浩敏<sup>1)</sup>，福嶋光浩，藤井正大，岡田大輔，田中茂夫，川本雅司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2）：肺炎を繰り返した1歳6ヵ月男児の肺葉内肺分画症に対する胸腔鏡補助下肺葉切除の1例．日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．6．
- 58) 藤井正大，山内仁紫，宮本哲也，丸山雄二，渡辺嘉之，北川彰信，岩城秀行，井村 肇，落 雅美，田中茂夫，小川俊一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>小児科）：巨大冠動脈瘤を伴う川崎病患児の外科治療の検討．第36回日本小児外科学会総会，1999．6．
- 59) 渡辺嘉之，落 雅美，丸山雄二，宮脇佳代，藤井正大，小笠原英継，石井庸介，山田研一，田中茂夫，森田典成<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，川俣博志<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>内科第1，<sup>(2)</sup>放射線科：ステントグラフト挿入中に上行解離を発症した慢性B型解離の一手術例．日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．6．
- 60) 高橋 翼，恩田昌彦，秋丸城甫，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，渡会泰彦，内藤善哉，杉崎祐一，前田昭太郎：肝のinflammatory pseudotumorの1例：FNAは有効か？．第40回日本臨床細胞学会総会，1999．6．
- 61) 石井庸介，落 雅美，藤井正大，小笠原英継，山田研一，矢島俊巳，新田 隆，田中茂夫，木内 要<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>集中治療室）：緊急冠動脈バイパス術における使用グラフトの検討．第4回日本冠動脈外科学会学術大会，1999．7．
- 62) 山内仁紫，石井庸介，藤井正大，宮本哲也，宮脇佳世，福見大地<sup>1)</sup>，倉持雪穂<sup>1)</sup>，大久保隆志<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>1)</sup>，田中茂夫（<sup>1)</sup>小児科）：胸腔鏡を併用した心房中隔欠損症手術．第35回日本小児循環器学会総会，1999．7．
- 63) 藤井正大，山内仁紫，渡辺嘉之，石井庸介，小笠原英継，落 雅美，田中茂夫，小川俊一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>小児科）：川崎病患児（12才以下）に対する冠血行再建術の検討．第4回日本冠動脈外科学会総会，1999．7．
- 64) 落 雅美，山田研一，大久保直子，小笠原英継，石井庸介，藤井正大，宮脇佳世，渡辺嘉之，矢島俊巳，新田隆，田中茂夫：両側内胸動脈を用いたcomposite Y-graftとsequential吻合を併用した多枝血行再建．第4回日本冠動脈外科学会，1999．7．
- 65) 丸山雄二，山内仁紫，藤井正大，石井庸介，岩城秀行，内木場庸子<sup>1)</sup>，福見大地<sup>1)</sup>，大久保隆志<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>1)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>，田中茂夫（<sup>1)</sup>小児科）：Bidirectional cavopulmonary shuntの検討．第67回日本医科大学学会総会，1999．8．
- 66) 平井恭二：Modulation of Adenosine Effects in Attenuation of Ischemia and Reperfusion Injury in Rat Heart．第67回日本医科大学医学学会総会，1999．9．

- 67) 北村 裕, 江見 充<sup>1)</sup>, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 佐々木隆, 田中茂夫, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 山本基子<sup>2)</sup>, 島田隆<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>3)</sup>, 津田晃男<sup>3)</sup>, 山西慎吾<sup>3)</sup>, 福永慶隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>生化第2, <sup>3)</sup>小児科): 遺伝子診断を施行した多内分泌腺腫症2B型の一家系. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 68) 北村 裕, 清水一雄, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院, <sup>2)</sup>老人病研究所): 甲状腺未分化癌の全ゲノム遺伝的变化の特徴: LOHによるアリロタイプ解析. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 69) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫, 片桐 誠<sup>1)</sup>, 矢野宏和<sup>2)</sup>, 津島朋憲<sup>2)</sup>, 山田英文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>永寿病院, <sup>2)</sup>チェルノブイリ支援:九州): チェルノブイリ原発事故後の小児甲状腺癌に対する医療支援活動に関する報告(第1報). 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 70) 三上 巖, 北村 裕, 江見 充<sup>1)</sup>, 清水一雄, 田中茂夫, 伊藤公一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>伊藤病院): 甲状腺未分化癌のallelotyping study. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 71) 清水一雄: 内分泌頸部外科領域における内視鏡下手術. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 72) 北川 亘, 清水一雄, 北村 裕, 赤須東樹, 高津圭介<sup>1)</sup>, 石井律子, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 野口志郎<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>野口病院, (2)産婦人科): Video-Assisted Neck Surgery (VANS): 甲状腺微小乳頭癌に対するリンパ節郭清を含めた内視鏡下手術. 第32回甲状腺外科学会, 1999. 10.
- 73) 石井庸介, 新田 隆, 藤井正大, 小笠原英継, 山田研一, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: Radial Incision Approach術後心房収縮能の経時的変化. 第52回 日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 74) 藤井正大, 新田 隆, 渡辺嘉之, 丸山雄二, 北川彰信, 宮脇佳世, 榎本 豊, 小笠原英継, 石井庸介, 平井恭二, 山田研一, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 心房細動に対するRadial Incision Approach (RIA)の術後hANPの推移に関する検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 75) 新田 隆, 宮脇佳世, 北川彰信, 坂本俊一郎, 藤井正大, 石井庸介, 小笠原英継, 平井恭二, 田中茂夫, 川本雅司: 僧帽弁疾患に合併する慢性心房細動の電気生理学的特徴: 256チャンネル3次元ダイナミックマッピングによる検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 76) 窪倉浩俊, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 巖, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 天神敏博, 西村仁志<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 山本光伸<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター 胸部外科): 非小細胞肺癌におけるc-myc遺伝子増幅率と病理学的因子との検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 77) 山内仁紫, 丸山雄二, 渡辺嘉之, 藤井正大, 石井庸介, 小笠原英継, 岩城秀行, 大久保直子, 矢島俊巳, 新田隆, 落 雅美, 田中茂夫: 川崎病冠動脈疾患の外科治療. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 78) 山内仁紫, 岩城秀行, 窪倉浩俊, 石井庸介, 藤井正大, 丸山雄二, 渡辺嘉之, 田中茂夫: 胸腔鏡を用いた心房中隔欠損直接縫合閉鎖. 第19回日本小児外科手術手技研究会, 1999. 10.
- 79) 赤須東樹, 清水一雄, 江本直也<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>2)</sup>, 松沢一郎<sup>2)</sup>, 橋本義孝<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>3)</sup>, 秋元成太<sup>2)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>内科第3, (<sup>2)</sup>泌尿器科学, (<sup>3)</sup>伊藤病院): 甲状腺原発明細胞癌と腎臓甲状腺転移の鑑別に関する抗aFGFモノクローナル抗体AF1-52の組織化学的, 生化学的検討. 第32回甲状腺外科学会, 1999. 10.
- 80) 平田知己, 小泉 潔, 天神敏博, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 吉野直之, 榎本 豊, 田中茂夫, 川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1): 心, 血管合併切除を要した原発性肺癌に対する評価と反省. 日本肺癌学会, 1999. 10.
- 81) 藤井正大, 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 山田研一, 小笠原英継, 石井庸介, 田中茂夫: 両側内胸動脈によるcomposite T graftを用いた冠血行再建術76例の検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 82) 藤井正大, 新田 隆, 渡辺嘉之, 丸山雄二, 北川彰信, 宮脇佳世, 榎本 豊, 小笠原英継, 石井庸介, 平井恭二, 山田研一, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 心房細動に対するRadial Incision Approachの術後hANPの推移に関する検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 83) 落 雅美, 山田研一, 小笠原英継, 藤井正大, 宮脇佳世, 丸山雄二, 渡辺嘉之, 矢島俊巳, 田中茂夫: 亜急性

- 期B型解離に対するstent graft内挿術中に上行解離を発症した上行～弓部置換例．第52回日本胸部外科学会総会，1999．10．
- 84) 佐々木孝，小泉 潔，天神敏博，平田知己，平井恭二，三上 巖，窪倉浩俊，福島光浩，岡田大輔，吉野直之，榎本 豊，田中茂夫：肺気腫合併肺癌症例に対する肺切除術後肺機能：定型的開胸とVATSとの比較．第52回日本胸部外科学会総会，1999．10．
- 85) 小泉 潔，天神敏博，平田知己，平井恭二，三上 巖，窪倉浩俊，福島光浩，岡田大輔，吉野直之，榎本 豊，田中茂夫，川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1)：超高齢者肺癌での胸腔鏡補助下肺葉切除術の肺機能の検討：予測術後肺機能との関連．第52回日本胸部外科学会総会，1999．10．
- 86) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，峯田 章，平方敦史，寺田淑恵，隈崎達夫：多発性肝細胞癌に対するSMANCS/Lipiodol少量反復動注療法の成績について．第20回リザーバー研究会，1999．10．
- 87) 宮本哲也，仲吉 隆，榎本 豊，岡田大輔，福島光浩，窪倉浩俊，三上 巖，平井恭二，平田知己，天神敏博：歩行障害にて発症した，小児後縦隔小円形細胞腫瘍の1症例．第40回日本肺癌学会，1999．10．
- 88) 小笠原英継，矢島俊巳，山田研一，藤井正大，岩城秀行，山内仁紫，田中茂夫：小児ペースメーカー植込み症例の検討．第13回小児人口臓器研究会，1999．11．
- 89) 北村 裕，清水一雄，伊藤公一<sup>1)</sup>，田中茂夫，江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院，<sup>2)</sup>老人病研究所)：甲状腺分化癌における染色体欠失と予後．第44回人類遺伝学会，1999．11．
- 90) 田畑美弥子：肺腫瘍と鑑別が困難であったRuptured penetrating atheromatous ulcer．血管外科学会地方会，1999．11．
- 91) 清水一雄，田尻 孝<sup>1)</sup>，北村 裕，北川 亘，赤須東樹，田中茂夫(<sup>1)</sup>外科第1)：甲状腺・上皮小体に対する内視鏡下手術．第9回吊り上げ法手術研究会，1999．11．
- 92) 田中久美，大久保直子，丸山雄二，宮本哲也，石井庸介，岩城秀行，山内仁紫，新田 隆，田中茂夫：Radial Procedureと弁輪拡大(Nicks法)を伴う二弁置換術を行った連合弁膜症・慢性心房細動の1例．第112回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．12．
- 93) 平井恭二，吉野直之，岡田大輔，窪倉浩俊，福島光浩，三上 巖，天神敏博，平田知己，小泉 潔，田中茂夫：びまん性肺疾患(DPD)診断に対する胸腔鏡下(VATS)肺生検の新しい診断的意義について．第12回日本内視鏡外科学会総会，1999．12．
- 94) 平田知己，吉野直之，岡田大輔，福島光浩，三上 巖，平井恭二，天神敏博，小泉 潔，田中茂夫：超高齢者肺癌に対する胸腔鏡補助下肺葉切除術10例の検討．第12回日本内視鏡外科学会，1999．12．
- 95) 石井庸介，落 雅美，藤井正大，小笠原英継，岩城秀行，大久保直子，矢島俊巳，新田 隆，田中茂夫，市川和雄<sup>1)</sup>，川俣博志<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：遠位弓部大動脈瘤に対するグラフト遠位部ステント固定術の検討．第30回日本心臓血管外科学会学術総会，2000．2．
- 96) 石井庸介，落 雅美，藤井正大，小笠原英継，岩城秀行，大久保直子，矢島俊巳，新田 隆，田中茂夫，安武正弘<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>内科第1)：急性心筋梗塞，不安定狭心症に対する緊急冠動脈バイパス術の手術時期とグラフとの選択．第30回日本心臓血管外科学会学術総会，2000．2．
- 97) 大久保直子，新田 隆，細田 進，佐々木孝，丸山雄二，石井庸介，岩城秀行，山内仁紫，矢島俊巳，落 雅美，田中茂夫：僧帽弁逆流と狭心性に伴う発作性心房細動に対してMap-guided心房細動手術を行った1例．第14回不整脈外科研究会，2000．2．
- 98) 藤井正大，新田 隆，丸山雄二，田畑美弥子，石井庸介，小笠原英継，檜山和弘<sup>1)</sup>，羽鳥信郎<sup>1)</sup>，矢島俊巳，落 雅美，田中茂夫(<sup>1)</sup>防衛医科大学校第二外科)：心房細動に対するカテーテルを用いた心内除細動．第30回日本心臓血管外科学会総会，2000．2．
- 99) 小笠原英継，新田 隆，丸山雄二，田畑美弥子，藤井正大，石井庸介，岩城秀行，山田研一，大久保直子，矢

- 島俊巳，落 雅美，田中茂夫：左房内血栓症を伴う孤立性心房細動に対する外科治療．第30回日本心臓血管外科学会総会，2000．2．
- 100) 小笠原英継，新田 隆，丸山雄二，田畑美弥子，藤井正大，石井庸介，岩城秀行，山田研一，大久保直子，矢島俊巳，落 雅美，田中茂夫：左房内血栓症を伴う孤立性心房細動に対する外科治療．第30回日本心臓血管外科学会学術大会，2000．2．
- 101) 川瀬康裕，山内仁紫，岩城秀行，小笠原英継，佐地嘉章，田畑美弥子，八巻重雄<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>(1)</sup> 公立刈田綜合病院循環器科)：術後肺動脈圧の著明な減少を示した高度肺血管病変を有する ASD・PHの1症例．第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．2．
- 102) 藤井正大，落 雅美，大久保直子，小笠原英継，石井庸介，丸山雄二，田畑美弥子，矢島俊巳，新田 隆，田中茂夫：両側内胸動脈による composite T graftを用いた冠血行再建術の有用性について．第30回日本心臓血管外科学会総会，2000．2．
- 103) 藤井正大，新田 隆，丸山雄二，田畑美弥子，石井庸介，小笠原英継，檜山和弘<sup>1)</sup>，羽鳥信郎<sup>1)</sup>，矢島俊巳，落 雅美，田中茂夫<sup>(1)</sup> 防衛医科大学第二外科)：心房細動に対するカテーテルを用いた心内除細動．第30回日本心臓血管外科学会総会，2000．2．
- 104) 岡本淳一：Pancoast 症候群を呈した悪性胸膜中皮腫の1例．胸部外科学会地方会，2000．2．
- 105) 清水一雄，田尻 孝<sup>1)</sup>，赤須東樹，田中茂夫<sup>(1)</sup> 外科第1)：褐色細胞腫に対するパイポラーシザーズの有用性．第8回クリニカルビデオフォーラム，2000．2．
- 106) 田畑美弥子：自家動静脈使用不能症例に PTFE graft を用いた上腕内側での腋窩動静脈シャント術の検討．血管外科学会総会，2000．5．
- (8) Live Operation：
- 1) Shimizu K, Akasu H, Tanaka K, Tanaka S: Endoscopic left lobectomy of the thyroid tumor (Live Operation). International Workshop on Endocrine Telesurgery (Lucknow, India), 1999．10．
- (9) Video Presentation：
- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S: Adrenalectomy using bipolar scissors. International Workshop on Endocrine Telesurgery (Lucknow, India), 1999．10．
- (10) Visiting Professor：
- 1) Nitta T: Surgical Management of Atrial Fibrillation: The Radial Incision Approach. St. Luke's Medical Center (Milwaukee, WI, USA), 2000．2．

## [ 第二病院外科 ]

### 研究概要

心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている。

(1) 心臓血管外科領域：開心術の周術期における心機能に対する諸種の薬剤の薬理効果についての研究を行っており、術後合併症に対する薬剤の効果、術後管理における有効な心機能改善法の開発に努め、又、より有効な心筋保護法の確立にも力を入れている。高齢者や合併症を有する心血管手術例の分析も行っている。手術手技に関する研究としては人工弁置換等に対する Minimally invasive surgery や心臓手術への胸腔鏡の応用がある。

(2) 呼吸器外科領域：肺癌症例で OK432 に対する Lymphocyte stimulation test を行い免疫療法の定量的な効果予測を研究中である。再発肺癌や二次肺癌に対して積極的に手術を行い成績を分析、非癌性肺腫瘍性疾患ではリンパ系腫瘍の検討を行い、stainless steel mesh を用いた胸壁再建術や胸腔鏡を併用した手術を行い、術後の呼吸機能の検討も行っている。

(3) 乳腺甲状腺内分泌外科領域：男性乳癌などの特殊な乳癌に対する臨床研究の他に、進行性・再発乳癌に対して

は術前に局所動注療法施行後に原発巣切除を行うなど集学的治療の有効性妥当性について分析中である。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Yamashita K<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Nishimura H<sup>2)</sup>, Akiyama H<sup>2)</sup>, Tsuchiya E<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Chest Surgery Saitama Cancer Center, Department of Surgery , <sup>2)</sup> Departments of Chest Surgery Saitama Cancer Center , <sup>3)</sup> Pathology Saitama Cancer Center , <sup>4)</sup> Department of Surgery ) : Hilar Lymph Node Metastasis in Renal Cell Carcinoma . The Japanese journal of THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY 2000 ; 48 ( 3 ) : 194-197 .
- 2) 秋山博彦<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 西村仁志<sup>1)</sup>, 山本光伸<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 平田知己, 久吉隆郎, 真崎義隆<sup>3)</sup>, 五味淵誠<sup>3)</sup>, 松島伸治<sup>4)</sup>, 富士崎隆<sup>5)</sup>, 向井佐志彦<sup>5)</sup>, 榎本 豊<sup>6)</sup>, 岡田大輔<sup>6)</sup>, 福島光浩<sup>6)</sup>, 窪倉浩俊<sup>6)</sup>, 三上 巖<sup>6)</sup>, 小泉 潔<sup>6)</sup>, 田中茂夫<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター , <sup>2)</sup> 防衛医科大学第二病院 , <sup>3)</sup> 千葉北総病院胸部外科 , <sup>4)</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>5)</sup> 中野佼成病院外科 , <sup>6)</sup> 付属病院第2外科 ) : 乳び胸・乳び心嚢で発症した縦隔リンパ管腫の1例 . 日医大誌 1999 ; 66 ( 5 ) : 58-61 .
- 3) 久吉隆郎, 佐藤雅史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院放射線科 ) : 背部痛に胸壁腫瘤像を伴った57歳の男性 . medicina 1999 ; 11 ( 10 ) : 1909-1915 .
- 4) 吉野直之<sup>1)</sup>, 滝沢恒世<sup>1)</sup>, 小池輝明<sup>1)</sup>, 寺島雅範<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科 ) : 呼吸器外科におけるクリニカルパスの臨床経験 . 新潟県立がんセンター新潟病院医誌 2000 ; 39 ( 1 ) : 16-18 .
- 5) 久吉隆郎, 山岸茂樹, 日置正文, 平田知己<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第2外科 ) : 金属性メッシュとマーレックスメッシュによる胸壁再建 . 手術 2000 ; 54 ( 1 ) : 71-76 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 久吉隆郎, 平田知己, 山岸茂樹, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第2外科 ) : 横隔神経合併切除後に肋骨神経による再建を試みた呼吸器外科手術3症例について . 第16回日本呼吸器外科学会総会 , 1999 . 5 .
- 2) 吉野直之, 小池輝明<sup>1)</sup>, 滝沢恒世<sup>1)</sup>, 寺島雅範<sup>1)</sup>, 森山寛史<sup>2)</sup>, 横山 晶<sup>2)</sup>, 塚田裕子<sup>2)</sup>, 阿部徹哉<sup>2)</sup>, 栗田雄三<sup>2)</sup>, 本間慶一<sup>3)</sup>, 太田玉紀<sup>3)</sup>, 根本啓一<sup>3)</sup>, 小田純一<sup>4)</sup>, 伊藤和彦<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科 , <sup>2)</sup> 同内科 , <sup>3)</sup> 同病理 , <sup>4)</sup> 同放射線科 , <sup>5)</sup> 済生会新潟第二病院 ) : 右中幹を閉塞し管状中葉切除を施行したCarcinoid症例 . 第28回日本気管支学会合同北陸地方会 , 1999 . 6 .
- 3) 川村 純, 家所良夫, 山岸茂樹, 織井恒安, 平野滋之, 平田知己, 増田 栄, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第2外科 ) : Stanford A 症例に対し上行置換 , 弁拳手術施行2年後のARに対する再手術の1例 . 第110回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 , 1999 . 6 .
- 4) 山岸茂樹, 久吉隆郎, 川村 純, 織井恒安, 平野滋之, 平田知己, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第2外科 ) : Poland 症候群に発生した気胸の1例 . 第110回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 , 1999 . 6 .
- 5) 吉野直之, 寺島雅範<sup>1)</sup>, 小池輝明<sup>1)</sup>, 滝沢恒世<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科 ) : 特異的な発育形態を示し, 右中幹を閉塞したカルチノイドの1手術例 . 第111回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 , 1999 . 9 .
- 6) 山下浩二, 久吉隆郎, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 平野滋之, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第2外科 ) : 化学療法後に摘出し得た胸壁腫瘤形成胸腺癌の1例 . 第111回日本胸部外科学会関東甲

信越地方会，1999．9．

- 7) 吉野直之，滝沢常世<sup>1)</sup>，小池輝明<sup>1)</sup>，寺島雅範<sup>1)</sup>，栗田雄三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科，<sup>2)</sup>同内科): 肺癌手術におけるクリティカルパスの比較試験．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 8) 山岸茂樹，久吉隆郎，川村 純，織井恒安，山下浩二，増田 栄，家所良夫，日置正文，佐藤雅史<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，平田知己<sup>3)</sup>，田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>付属病院第2外科): 奇静脈葉に合併した肺癌の一切除例．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 9) 久吉隆郎，日置正文，家所良夫，山下浩二，増田 栄，織井恒安，山岸茂樹，川村 純，佐藤雅史<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>付属病院第2外科): 胸腺カルチノイド再発手術2症例について．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 10) 吉野直之，滝沢恒世<sup>1)</sup>，小池輝明<sup>1)</sup>，寺島雅範<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科): 縦隔静脈血管腫の一手術例．第112回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．12．
- 11) 久吉隆郎，日置正文，家所良夫，山下浩二，増田 栄，平野滋之，織井恒安，山岸茂樹，川村 純，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2外科): 気腫性嚢胞に発育した肺非定型抗酸菌症 (Mycobacterium xenopi) の一切除例．第112回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．12．
- 12) 吉野直之，滝沢恒世<sup>1)</sup>，小池輝明<sup>1)</sup>，寺島雅範<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科): 咯血を繰り返す気管支腫瘍に対してレーザー焼却が有効であった1例．第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．2．
- 13) 山口朋禎<sup>1)</sup>，鮎澤理人<sup>1)</sup>，高橋直人<sup>1)</sup>，網谷賢一<sup>1)</sup>，櫛方美文<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>，織井恒安(<sup>1)</sup>付属第二病院内科): 心房内残存カテーテルのカテーテルによる抜去に成功した1例．第17回日本医師会医学会プログラム，2000．2．
- 14) 吉野直之，小池輝明<sup>1)</sup>，塚田裕子<sup>2)</sup>，横山 晶<sup>2)</sup>，栗田雄三<sup>2)</sup>，本間慶一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>同病理): 同時性多発腺癌に対する両側縮小手術．第127回日本肺癌学会関東部会，2000．3．
- 15) 増田 栄，日置正文，川村 純，織井恒安，家所良夫，村澤恒男<sup>1)</sup>，稲葉敦彦<sup>2)</sup>，門松 豊<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科，<sup>2)</sup>同透析室，<sup>3)</sup>外科第2): 開心術後における体内水分量の経時的変化についての考察．第27回日本集中治療学会総会，2000．3．
- 16) 川村 純，日置正文，家所良夫，増田 栄，織井恒安，山岸茂樹，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2外科): 透析用カテによる右内胸動脈穿通を来した1治療例．第27回日本集中治療学会総会，2000．3．

## [ 多摩永山病院内視鏡科 ]

### 研究概要

当内視鏡科では従来より消化器全般にわたる幅広い研究を行っている．東南アジア諸国における上部消化管内視鏡検査も順調に進行し，すでに1,500例の内視鏡検査，ヘリコバクター・ピロリ感染診断を行った．タイ王国(チェンマイ)，中国(北京，福州)，ベトナム国(ホー・チ・ミン)における内視鏡検査の成績も蓄積し，胃十二指腸疾患，ヘリコバクター・ピロリ感染の日本人との相違点も徐々に明らかとなってきた．さらに，東南アジア諸国における小児のヘリコバクター・ピロリ感染についての調査も開始した．

1) 消化器領域の中で現在最も脚光を浴びているヘリコバクター・ピロリに関する研究が当然のことながら中心となっている．論文発表，国内，外におけるシンポジウム講演，一般講演を多数行った．

2) 国際学会からの依頼により，タイ王国で内視鏡の基本手技について招待講演を行った．

3) ヘリコバクター・ピロリの除菌治療により胃ポリープが消失することを論文報告し，注目されている．

4) 胃炎と神経症指数，うつ病指数，嗜好品との関係についての成績を報告した．

- 5) ヘリコバクター・ピロリ感染の観点よりびらん性胃炎を観察した。
- 6) 下部消化管疾患についての症例報告も行った。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tomtitchong P<sup>1)</sup>, Tiemtanom S<sup>1)</sup>, Eiamtrakul S<sup>1)</sup>, Miki M<sup>2)</sup>, Matsuhisa T, Yamada N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Thammasat 大学 外科, <sup>2)</sup> 白石中央病院 外科, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): *Helicobacter pylori* infection and the correlation to chronic active gastritis detected by the histological division of the Sydney System. *Siriraj Hosp Gaz* 1999 ; 51 ( 4 ): 339-347 .
- 2) 松久威史, 羽山亭宏, 伊藤 博, 吉原一郎, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): *Helicobacter pylori* 感染からみた胃ポリープ. *臨床と研究* 1999 ; 76 ( 4 ): 737-741 .
- 3) 松久威史, 権田昌洋, 伊藤 博: 出血性消化性潰瘍に対する緊急内視鏡検査と内視鏡的治療の実際. *日医大誌* 1999 ; 66 ( 3 ): 199-202 .
- 4) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): ( 特集: シドニー分類と胃炎の診断 ) Sydney System の評価: 3点生検法を用いて. *消化器科* 1999 ; 28 ( 6 ): 647-654 .
- 5) 松久威史, 羽山亭宏, 権田昌洋, 中村 洋<sup>1)</sup>, 吉野樺一<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院リウマチ外科, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): レバミピドにて組織学的胃炎の改善を認めた慢性関節リウマチ患者の2例. *臨床と研究* 1999 ; 76 ( 7 ): 1435-1438 .
- 6) 松久威史, 日下部史郎, 羽山亭宏, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): *Helicobacter pylori* 陽性消化性潰瘍における背景慢性胃炎の組織学的研究: 胃潰瘍と十二指腸潰瘍の相違. *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 54 : 90-91 .
- 7) 吉原一郎, 権田昌洋, 日下部史郎, 森 洋, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 除菌療法により縮小, 消失した腺窩上皮型過形成性胃ポリープの6症例. *消化器内視鏡の進歩* 1999 ; 54 : 112-113 .
- 8) 中村 洋<sup>1)</sup>, 吉野樺一<sup>1)</sup>, 松久威史, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院リウマチ外科, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): RA と *Helicobacter pylori*. *リウマチ科* 1999 ; 22 ( 9 ): 273-277 .

#### (2) 総説：

- 1) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): *Helicobacter pylori* 感染の臨床的観察. *日医大誌* 1999 ; 66 ( 4 ): 222-228 .

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) Matsuhisa T : Efficient uses of gastroscope : Basic technique . International College of Surgeons , Thailand Section ( カンチャブリ , タイ王国 ), 1999 . 12 .

#### (2) シンポジウム：

- 1) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 松久威史 ( <sup>1)</sup> 病理学第2 , <sup>2)</sup> 外科第1 ): 民族差による *H. pylori* 感染と粘膜萎縮, 腸上皮化生の関係の組織学的検討 . 第5回日本ヘリコバクター学会, 1999 . 6 .

#### (3) セミナー：

- 1) Matsuhisa T : Endoscopic study of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection between Japan and Viet Nam . The 2nd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopical and Histrogical Diagnosis of Gastroduodenal Disease , Endoscopical Division ( ホー・チ・ミン , ベトナム ), 1999 . 8 .
- 2) Matsuhisa T : *Helicobacter pylori* infection of children in Japan . The 2nd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopical and Histrogical Diagnosis of Gastroduodenal Disease , Endoscopical Division ( ホー・チ・



ミン, ベトナム), 1999 . 8 .

- 3) Matsuhisa T : New non-invasive diagnostic method of *Helicobacter pylori* . The 2nd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City , Endoscopical and Histological Diagnosis of Gastroduodenal Disease, Endoscopical Division ( ホー・チ・ミン, ベトナム), 1999 . 8 .
- 4) Matsuhisa T : Efficient uses of gastroscop : Basic technique . The 3rd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City , Endoscopical and histological Diagnosis of Gastroduodenal Disease , Endoscopical Division ( ホー・チ・ミン, ベトナム), 2000 . 3 .
- 5) Matsuhisa T : *Helicobacter pylori* infection of children in Japanese , Chinese and Vietnamese . The 3rd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City , Endoscopical and histological Diagnosis of of Gastroduodenal Disease , Endoscopical Division ( ホー・チ・ミン, ベトナム), 2000 . 3 .

(4) 一般講演 :

- 1) Matsuhisa T , Yamada N<sup>1)</sup>, Dong En-Yu<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>中日友好医院消化内科): Study of *Helicobacter pylori* infection and gastroduodenal disease in China ( Beijing ) and Japan . '99 瀋陽中日消化内鏡及消化病學術交流會 ( 瀋陽, 中国), 1999 . 6 .
- 2) Tomtitchong P<sup>1)</sup>, Tiemtanom S<sup>1)</sup>, Eiamtrrakul S<sup>1)</sup>, Miki M<sup>2)</sup>, Matsuhisa T , Yamada N<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Thammasat 大学 外科 ( バンコク, タイ王国), <sup>2)</sup>白石中央病院外科, <sup>3)</sup>病理学第2): Gastroduodenal pathology in asymptomatic gallbladder stone patients : The preliminary results . DDW Thailand 1999, The 43th Annual Gastroenterological Association of Thailand Conference and 5th Asian-Pacific American Gastroenterological Association Conference ( チェンマイ, タイ王国), 1999 . 12 .
- 3) Matsuhisa T , Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): An endoscopic observation of *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosa in Asian people . 11th Asian Pacific Congress of Gastroenterology ( 香港, 中国), 2000 . 3 .
- 4) 松久威史, 権田昌洋, 日下部史郎, 羽山亭宏, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): The Updated Sydney System に基づく慢性胃炎の胃内分布 : *Helicobacter pylori*陽性消化性潰瘍の観察 . 第85回日本消化器病学会総会, 1999 . 4 .
- 5) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 権田昌洋, 松久威史 (<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 地域, 民族差による *H. pylori*感染と粘膜萎縮, 腸上皮化生の関係の組織学的検討 ( 第2報) . 第88回日本病理学会総会, 1999 . 4 .
- 6) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): タイ王国における胃十二指腸潰瘍疾患の特徴 : *Helicobacter pylori*感染と慢性胃炎の胃内分布 . 第57回日本消化器内視鏡学会総会, 1999 . 5 .
- 7) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 老年者慢性関節リウマチ患者における *Helicobacter pylori*感染, 胃病変の臨床的観察 . 第41回日本老年医学会学術集会, 1999 . 6 .
- 8) 松久威史, 権田昌洋, 日下部史郎 : ヘリコチェック<sup>R</sup>の有用性についての検討 . 第5回日本ヘリコバクター学会, 1999 . 6 .
- 9) 松久威史, 井上泰夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 小児における *Helicobacter pylori*感染の観察 . 第5回日本ヘリコバクター学会, 1999 . 6 .
- 10) 松久威史 : 上部消化管細径二素子超音波スコープGF-UM240は何を変えらるか . 第4回首都消化器内視鏡懇談会, 1999 . 6 .
- 11) 日下部史郎, 羽山亭宏, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*感染からみた疣状 (びらん性) 胃炎 : 背景胃粘膜との関連性を含めて . 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999 . 6 .
- 12) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 松久威史 (<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>外科第1): 三定点生検法による胃病変の意義について . 第5回日本ヘリコバクター学会, 1999 . 6 .
- 13) 松久威史 : NSAIDs 起因性消化性潰瘍の臨床的検討 . 第4回多摩 *Hp*研究会, 1999 . 7 .

- 14) 井上泰夫, 羽山亭宏, 松久威史: 胃炎症例における神経症状, 嗜好品の観察. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 15) 松久威史, 権田昌洋, 日下部史郎, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*感染からみた食道炎: 血清ガストリン値, ペプシノゲンI/II比との関連も含めて. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 16) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): アジア人における背景胃粘膜の観察: *Helicobacter pylori*感染との関連も含めて. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 日下部史郎, 羽山亭宏, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 症状(びらん性)胃炎の内視鏡的検討: *Helicobacter pylori*感染を含めて. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 18) 井上泰夫, 松久威史, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 急性腹症により発見された大腸赤痢アメーバ症の1例. 第256回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 9.
- 19) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 中国(北京)と日本における *Helicobacter pylori*感染, 胃十二指腸疾患の比較観察. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.
- 20) 松久威史, 羽山亭宏, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 除菌前の尿素呼気試験値からみた *Helicobacter pylori*除菌率. 第58回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 21) 井上泰夫, 日下部史郎, 松久威史: 非典型的な大腸内視鏡所見を呈した潰瘍性大腸炎の2例. 第37回多摩消化器病研究会, 1999. 10.
- 22) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 中国, タイ, ベトナム人における *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の比較観察. *Helicobacter pylori*感染の診断と治療に関するコンセンサス会議'99, 1999. 11.
- 23) 井上泰夫, 羽山亭宏, 松久威史: 神経症指数, 嗜好品からみた胃炎の検討. 第69回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 12.
- 24) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): タイ人における *Helicobacter pylori*感染, 萎縮, 腸上皮化生: 日本人との比較観察. 第69回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999. 12.
- 25) 松久威史: 尿中Hp抗体価からみた小児の *Helicobacter pylori*感染: 日本, 中国(福州), 越南(胡志明). 第5回多摩Hp研究会, 1999. 12.
- 26) 松久威史: 日本とタイ王国における老年者の胃十二指腸疾患: *Helicobacter pylori*感染を含めて. 第2回日本高齢消化器学会学術会議, 2000. 1.

## [ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

### 研究概要

千葉北総病院胸部外科は循環器センターと呼吸器センターの外科部門の診療を行っている。循環器の手術では冠動脈バイパス術, 心臓弁膜症, 胸部大動脈瘤から閉塞性動脈疾患, 静脈瘤, 心臓ペースメーカー植込み術まで多彩な手術を行っており, これらに関する研究が主である。呼吸器の手術は肺癌や縦隔腫瘍が中心で, 気胸の手術も多い。肺手術の60%以上では胸腔鏡が用いられており, 胸腔鏡手術の手技や工夫に関する研究も多かった。

1. 呼吸器手術の適応の決定に関する運動負荷試験の有用性の研究
2. 術後疼痛やQOL改善に関する研究
3. 肺癌の発癌機序に関する研究
4. 胸腔鏡手術の手技に関する研究
5. 胸腔内播種への温熱療法の研究
6. 術後合併症に関する研究

## 7. 開心術症例の心内電位についての研究

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kawanami O<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Gomibuchi M, Takeuchi T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>日本赤十字病院病理部): Mosaic-like distribution of endothelial cell antigens in capillaries and juxta-alveolar microvessels in the normal human lung. *Pathology International* 2000; 50(1): 136-141.
- 2) 五味淵誠, 真崎義隆, 木下裕康, 仁科 大, 佐地嘉章, 山内茂生: 80歳以上の高齢者肺癌症例に対する胸腔鏡下手術の経験. *臨床呼吸生理* 1999; 31(1): 15-18.
- 3) 渡 潤<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 五味淵誠, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>第4内科): Computed Radiographyによる肺癌検診比較読影システムの開発とその臨床応用. *肺癌* 1999; 39(4): 437-442.
- 4) 五味淵誠, 大森裕也, 木下裕康, 宮城泰雄, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 笹井 巧<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>附属千葉北総病院第2外科, <sup>2)</sup>海老名総合病院呼吸器科): 気腫性肺手術へのGelatin-Resorcin-Formaldehyde glueの使用経験. *日臨外会誌* 1999; 60(9): 2291-2294.
- 5) 三上 巖, 五味淵誠, 岡田大輔, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院第2外科): 血性胸水から慢性膿胸に移行した von Recklinghausen 病の1手術例. *日呼外会誌* 1999; 13(7): 838-843.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 真崎義隆, 五味淵誠, 宮城泰雄, 大森裕也, 藤井正大, 仲吉 隆, 山内茂生, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院第2外科): GRF glueのpleuralization効果を利用した術式の工夫. 第16回日本呼吸器外科学会総会, 1999. 5.
- 2) 大森裕也, 五味淵誠, 真崎義隆, 宮城泰雄, 藤井正大, 佐地嘉章, 榎本 豊, 木下裕康, 佐々木孝, 山内茂生, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院第2外科): 体外循環回路を用いた胸腔内温熱療法の経験. 第16回日本呼吸器外科学会総会, 1999. 5.
- 3) 五味淵誠, 真崎義隆, 山内茂生, 宮城泰雄, 佐地嘉章, 木下裕康, 仁科 大, 大森裕也, 佐々木孝, 仲吉 隆, 北川彰信, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院第2外科): 胸腔鏡下手術にGRF glueを使用するための1方法について. 第16回日本呼吸器外科学会総会, 1999. 5.
- 4) 笹井 巧<sup>1)</sup>, 仁科 大<sup>1)</sup>, 塩田昌彦<sup>2)</sup>, 真崎義隆, 佐地嘉章<sup>2)</sup>, 岡田大輔<sup>2)</sup>, 五味淵誠, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院呼吸器科, <sup>2)</sup>附属病院第2外科): 気胸手術時, 胸腔鏡から開胸手術に移行した症例の検討. 第16回日本呼吸器外科学会総会, 1999. 5.
- 5) 大森裕也, 新田 隆<sup>1)</sup>, 矢島俊巳<sup>1)</sup>, 山内茂生, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 山田研一<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 宮脇佳世<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 北川彰信<sup>1)</sup>, 田中茂生<sup>1)</sup>, 林 明総<sup>2)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院第2外科, <sup>2)</sup>同 第1内科): ICD誤作動例の検討. 第14回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 1999. 5.
- 6) 宮城泰雄, 山内茂生, 大森裕也, 石井律子, 真崎義隆, 五味淵誠: 開心手術操作の手順. 第12回東葛心臓血管外科研究会, 1999. 5.
- 7) 日野光紀<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 橋元恭士<sup>1)</sup>, 杣 知行<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 瀬尾宣嗣<sup>1)</sup>, 五味淵誠, 真崎義隆, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部): 若年女子に発症した縦隔型卵黄嚢腫瘍の1例. 第7回東葛肺癌研究会, 1999. 6.

- 8) 大森裕也, 五味淵誠, 真崎義隆, 宮城泰雄, 山内茂生, 仲吉 隆, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第2外科): 咽後膿瘍より縦隔炎を発症した1例. 第110回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1999. 6.
- 9) 本橋典久<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 瀬尾宣嗣<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 橋元恭士<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 真崎義隆, 五味淵誠, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 付属病院第4内科): 進行性の四肢筋力低下で発症, その後急激なII型呼吸不全を呈し診断に難渋した肺小細胞癌の1例. 第125回日本肺癌学会関東部会, 1999. 6.
- 10) 宮城泰雄, 大森裕也, 鈴木世考, 北川彰信, 真崎義隆, 五味淵誠: 高齢者(70歳以上)に対する冠動脈バイパス術の術後合併症の検討. 第111回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1999. 9.
- 11) 清水 一<sup>1)</sup>, モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 五味淵誠(<sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>3)</sup> 千葉北総病院病理部): 細気管支肺胞上皮癌におけるVEGF-isoformの発現. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 12) 宮城泰雄, 山内茂生, 大森裕也, 鈴木世考, 北川彰信, 真崎義隆, 五味淵誠: 高齢者に対する冠動脈バイパス術の術後合併症の検討. 第111回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1999. 9.
- 13) 真崎義隆, 五味淵誠, 山内茂生, 宮城泰雄, 大森裕也, 石井律子, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 山本光伸<sup>2)</sup>, 西村仁志<sup>2)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 益田貞彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第2外科, <sup>2)</sup> 埼玉県立がんセンター胸部外科, <sup>3)</sup> 東京通信病院呼吸器外科): 原発巣不明縦隔リンパ節転移癌とされる症例の検討. 第52回日本胸部外科学会総会, 1999. 10.
- 14) 金 恩京<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, モハマッドガジザデ<sup>1)</sup>, 姜 莉<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 五味淵誠, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部): 共焦点顕微鏡の三次元分析によるヒト肺微小血管内皮細胞のモザイク状構造. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 15) 五味淵誠, 真崎義隆, 山内茂生, 佐地嘉章, 宮城泰雄, 大森裕也, 佐々木孝, 仲吉 隆, 高草木幸子, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第2外科): GRF glueの新しい使用方法: 胸腔鏡手術のために. 第52回日本胸部外科学会, 1999. 10.
- 16) 新井 悟<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 五味淵誠(<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 同 内科): 高度の粘液産生性を示した肺腫瘍の1例. 日本病理学会千葉地区集会, 1999. 10.
- 17) 真崎義隆, 五味淵誠, 日野光紀<sup>1)</sup>, 大秋良治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部): 原発性肺癌の癌細胞に対するEpstein-Barr virus感染の検討. 第40回日本肺癌学会総会, 1999. 11.
- 18) 藤井正大, 山内茂生, 宮脇佳世, 鈴木世考, 真崎義隆, 五味淵誠: 感染性心内膜炎における外科手術の至適時期と感染起因菌の考察. 第13回東葛心臓血管外科研究会, 1999. 12.
- 19) 鈴木世考, 五味淵誠, 北川彰信, 宮城泰雄, 真崎義隆, 山内茂生, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第2外科): 肺原発粘液嚢胞腺癌が疑われた1手術例. 第八回東葛肺癌研究会, 2000. 1.
- 20) 鈴木世考, 藤井正大, 真崎義隆, 山内茂生, 五味淵誠: 肺線維症症例の手術経験. 第37回千葉県外科医会, 2000. 2.

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

本年度の研究論文業績は、英文原著34編(含補遺3編)、邦文原著12編、邦文総説15編、著書編集2編、著書分担23編、翻訳9編であった。

脳神経外科学教室では研究グループを下垂体、腫瘍、血管、外傷の4つの班に分けている。英文原著34編を分類すると、下垂体18編、腫瘍6編、血管2編、外傷2編、その他6編であった。別の切り口として、基礎的研究と臨床的研究に分けてみると、それぞれ24編と10編になる。当教室の主な研究課題が「間脳下垂体疾患の臨床と基礎」にあることを考えると以上の業績は比較的良くバランスがとれていると考えられる。

現在、当教室と研究協力関係にあるのは、生理学第2教室、老人病研究所、東海大学病理学教室、東京大学第四内科であるが、今後より広く学内外の基礎医学分野と提携を拓げていく予定である。また、臨床的研究をより活性化し、若手医師は症例報告を中堅医師は臨床材料をまとめた報告を年1編以上行うよう指導していきたい。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

- 1) Takakura K<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Neurological Institute, Tokyo Women's Medical College ): Management of huge pituitary adenomas . Acta Neurochir ( Wien ) 1996 ; 65 ( Suppl ): 13-15 .
- 2) Hoshino S , Tamaoka A<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>2)</sup>, Kobayashi S , Furukawa T , Okai Y<sup>3)</sup>, Mori O<sup>3)</sup>, Matsuno S<sup>1)</sup>, Shoji S<sup>1)</sup>, Inomata M<sup>4)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba , <sup>2)</sup>Yamanouchi Pharmaceutical , <sup>3)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital , <sup>4)</sup>Health Sciences Research Institute ): Emergence of immunoreactivities for phosphorylated tau and amyloid- protein in chronic stage of fluid percussion injury in rat brain . Neuroreport 1998 ; 9 ( 8 ): 1879-1883 .
- 3) Ikeda K<sup>1)</sup>, Mochizuki Y<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Dohi K<sup>1)</sup>, Jinbo H<sup>1)</sup>, Shimazu M<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine ): Protective effect of L-histidine on brain edema following cryogenic brain injury . Advances in Neurotrauma Research 1998 ; 10 : 1-3 .

(1) 原著：

- 1) Sanno N , Ishii Y , Sugiyama M , Takagi R<sup>1)</sup>, Node Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Radiology ): Subarachnoid haemorrhage and vasospasm due to pituitary apoplexy after pituitary function tests . Acta Neurochir ( Wien ) 1999 ; 141 ( 1 ): 1009-1010 .
- 2) Sugiyama M , Takumi I , Node Y , Sanno N , Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Neurohypophyseal germinoma with prolactinoma. Case illustration . J Neurosurg 1999 ; 90 ( 1 ): 170 .
- 3) Fukino K , Iida A<sup>1)</sup>, Teramoto A , Sakamoto F<sup>2)</sup>, Kasumi F<sup>3)</sup>, Nakamura F<sup>4)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup>Department of Pathology, Cancer Institute , <sup>3)</sup>Department of Surgery, Cancer Institute , <sup>4)</sup>Laboratory of Molecular Medicine, Institute of Medical Science, Tokyo Univer-

- ity ): Frequent allelic loss at the *TOC* locus on 17q25. 1 in primary breast cancers . *Genes Chromosomes Cancer* 1999 ; 24 ( 1 ): 345-350 .
- 4 ) Tsushima T<sup>1)</sup>, Katoh Y<sup>2)</sup>, Miyachi Y<sup>3)</sup>, Chihara K<sup>4)</sup>, Teramoto A , Irie M<sup>5)</sup>, Hashimoto Y<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 2, Tokyo Women's Medical University , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine 1, Shimane Medical School , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine 1, Toho University School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine 3, Kobe University School of Medicine , <sup>5)</sup> Toho Medical School , <sup>6)</sup> Institute of Biological Science, Mitsui Pharmaceuticals, Inc ): Serum concentration of 20K human growth hormone ( 20K hGH ) measured by a specific enzyme-linked immunosorbent assay . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 ( 1 ): 317-322 .
- 5 ) Murai Y , Yamashita Y , Ikeda Y<sup>1)</sup>, Node Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University ): Ruptured aneurysm of the orbitofrontal artery associated with dural arteriovenous malformation in the anterior cranial fossa. Case report . *Neurol Med Chir* 1999 ; 39 ( 2 ): 157-160 .
- 6 ) Yasufuku-Takano J<sup>1)</sup>, Takano K<sup>1)</sup>, Takei T<sup>1)</sup>, Fukumoto S<sup>1)</sup>, Teramoto A , Takakura K<sup>2)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 4, University of Tokyo , <sup>2)</sup> Neurological Institute, Tokyo Women's Medical College ): Heterozygous *gsp* mutation renders ion channels of human somatotroph adenoma cells unresponsive to growth hormone-releasing hormone . *Endocrinology* 1999 ; 140 ( 5 ): 2018-2026 .
- 7 ) Tahara S , Sanno N , Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of Rab3, a Ras-related GTP-binding protein, in human nontumorous pituitaries and pituitary adenomas . *Mod Pathol* 1999 ; 12 ( 6 ): 627-634 .
- 8 ) Yoshida D<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>3)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital ): Cavernous hemangioma of the skull in a neonate . *Childs Nerv Syst* 1999 ; 15 ( 6-7 ): 351-353 .
- 9 ) Shuto Y , Nakano T , Sanno N , Domoto H , Sugihara H , Wakabayashi I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 3 ): Reduced growth hormone receptor messenger ribonucleic acid in an aged man with chronic malnutrition and growth hormone resistance . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 ( 7 ): 2320-2323 .
- 10 ) Wenbin C<sup>1)</sup>, Asai A<sup>1)</sup>, Teramoto A , Sanno N , Kirino T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Tokyo ): Mutations of the *MEN1* tumor suppressor gene in sporadic pituitary tumors . *Cancer Lett* 1999 ; 142 ( 1 ): 43-47 .
- 11 ) Tajima A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Takekoshi S , Itoh Y , Sanno N , Mine T<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 4, University of Tokyo , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Distribution of adrenomedullin ( AM ) , proadrenomedulin N-terminal 20 peptide, and AM mRNA in the rat gastric mucosa by immunocytochemistry and in situ hybridization . *Histochem Cell Biol* 1999 ; 112 ( 2 ): 139-146 .
- 12 ) Murai Y , Takagi R<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Yamamoto Y<sup>3)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University , <sup>3)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Three dimensional computerized tomography angiography in patients with hyperacute intracerebral hemorrhage . *J Neurosurg* 1999 ; 91 ( 3 ): 424-431 .
- 13 ) Fukino K , Kitamura H<sup>1)</sup>, Sanno N , Teramoto A , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Analysis of the *MEN1* gene in sporadic pituitary adenomas from Japanese patients . *Cancer Lett* 1999 ; 144 ( 1 ): 85-92 .
- 14 ) Matsuno A<sup>1)</sup>, Katakami H<sup>2)</sup>, Sanno N , Ogino Y<sup>3)</sup>, Osamura RY<sup>4)</sup>, Matsukura S<sup>2)</sup>, Shimizu N<sup>5)</sup>, Na-

- gashima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine 3, Miyazaki Medical College , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Hyogo College of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine 3, Teikyo University of Medicine ): Pituitary somatotroph adenoma producing growth hormone ( GH )-releasing hormone ( GHRH ) with an elevated plasma GHRH concentration : A model case for autocrine and paracrine regulation of GH secretion by GHRH . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 ( 9 ): 3241-3247 .
- 15) Sanno S , Tahara S , Yoshida Y , Onose H<sup>1)</sup> , Wakabayashi I<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 3 ): Ectopic corticotroph adenoma in the cavernous sinus : Case report . *Neurosurgery* 1999 ; 45 ( 4 ): 914-918 .
- 16) Yamada S , Yamaguchi F , Brown R<sup>1)</sup> , Berger MS<sup>2)</sup> , Morrison RS<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Genta Incorporated, San Diego, California , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, and Brain Tumor Research Center, University of California , <sup>3)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington ): Suppression of glioblastoma cell growth following antisense oligonucleotide-mediated inhibition of fibroblast growth factor receptor expression . *Glia* 1999 ; 28 ( 1 ): 66-76 .
- 17) Kurotani R<sup>1)</sup> , Tahara S , Sanno N , Teramoto A , Mellon PL<sup>2)</sup> , Inoue K<sup>3)</sup> , Yoshimura S<sup>4)</sup> , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Reproductive Medicine and Neuroscience, School of Medicine, University of California , <sup>3)</sup> Department of Regulation Biology, Faculty of Science, Saitama University , <sup>4)</sup> Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine ): Expression of Ptx1 in the adult rat pituitary glands and pituitary cell lines : Hormone-secreting cells and folliculo-stellate cells . *Cell Tissue Res* 1999 ; 298 ( 1 ): 55-61 .
- 18) Takahashi H<sup>1)</sup> , Hamada H , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Effect of niravoline ( RU51599 ) ,  $\mu$ -opioid receptor agonist, on tumor-origin brain oedema . *Acta Neurochir ( Wien )* 1999 ; 141 ( 7 ): 771-778 .
- 19) Sanno N , Sugawara A<sup>1)</sup> , Tahara S , Osamura RY<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Retinoid X receptors ( RXRs ) mRNA expression in human pituitary adenomas . *Endocrine Pathology* 1999 ; 10 : 73-83 .
- 20) Matsuno A<sup>1)</sup> , Sanno N , Tahara S , Teramoto A , Osamura RY<sup>2)</sup> , Wada H<sup>1)</sup> , Murakami M , Tanaka H , Nagashima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Silent somatotroph adenoma, detected by catalyzed signal amplification and non-radioisotopic in situ hybridization . *Endocr J* 1999 ; 46 ( Suppl ): 81-84 .
- 21) Muramatsu H<sup>1)</sup> , Matsumoto M<sup>2)</sup> , Shimura T<sup>2)</sup> , Node Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School of Medicine, Tama Nagayama Hospital ): Treatment of ventriculoperitoneal shunt dysfunction during rehabilitation therapy in patients with normal pressure hydrocephalus . *Neuro Rehabilitation* 1999 ; 12 : 205-210 .
- 22) Oka H , Jin L , Scheithauer BW , Sanno N , Fujii K , Kameya T , Plummer TB , Lloyd RV : Growth hormone-releasing hormone receptor ( GHRH-R ) mRNA expression in human pituitary adenomas : A study by catalyzed reporter deposition-in situ hybridization ( CARD-ISH ). *Endocrine Pathology* 1999 ; 10 : 27-36 .
- 23) Osamura RY<sup>1)</sup> , Komatsubara K , Itoh Y<sup>1)</sup> , Kajiwarra H<sup>1)</sup> , Kurotani R<sup>1)</sup> , Sanno N , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): PIT-1 positive  $\beta$ -subunit positive non-functioning human pituitary adenomas : A dedifferentiated GH cell lineage? . *Pituitary* 1999 ; 1 : 269-272 .
- 24) Yamaguchi F , Morrison RS<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Washington University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ):

- Anti-telomerase therapy suppressed glioma proliferation . *Oncol Rep* 1999 ; 6 ( 4 ) : 773-776 .
- 25) Takahashi H<sup>1)</sup>, Adachi K, Yamaguchi F, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ) : Experimental treatment of malignant gliomas with human monoclonal antibody-drug conjugates . *Anticancer Res* 1999 ; 19 ( 5 ) : 4151-4156 .
- 26) Yamada SM, Ikeda Y<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A, Yamada S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University ) : Hemangioblastomas with blood supply from the dural arteries : Two case reports . *Neurol Med Chir* 2000 ; 40 ( 1 ) : 69-73 .
- 27) Fukino K, Teramoto A, Adachi K, Takahashi H, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ) : A family with hydrocephalus as a complication of cerebellar hemangioblastoma : Identification of Pro157Leu mutation in the *VHL* gene . *J Hum Genet* 2000 ; 45 ( 1 ) : 47-51 .
- 28) Kitamura T, Teramoto A : The clinical efficacy of neuroendoscope in surgical treatment for deafferentation pain . *J Nippon Med School* 2000 ; 67 ( 1 ) : 13-17 .
- 29) Tsushima T<sup>1)</sup>, Kotoh Y<sup>2)</sup>, Miyachi Y<sup>3)</sup>, Chihara K<sup>4)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Medicine 2, Tokyo Women's Medical University , <sup>2)</sup> Department of Medicine 1, Shimane Medical School , <sup>3)</sup> First Department of Medicine, Toho University School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine 3, Kobe University School of Medicine ) : Serum concentration of 20K human growth hormone in normal adults and patients with various endocrine disorders . *Endocrine J* 2000 ; 47 ( Suppl ) : 17-21 .
- 30) 源河 茂<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 戸塚共立病院脳神経外科 ) : GRH産生腫瘍 . 肝胆膵 1999 ; 38 ( 6 ) : 1015-1019 .
- 31) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 同内科 ) : 椎骨動脈環椎部窓形成による脊髄圧迫にて後頭神経痛を来した1例 . 脳神経外科 1999 ; 27 ( 7 ) : 645-650 .
- 32) 前川正義<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 目白病院脳神経外科 ) : 閉塞性脳血管障害に対する初診時3D-CT angiographyの有用性 . 脳神経外科 1999 ; 27 ( 7 ) : 617-623 .
- 33) 前川正義<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 目白病院脳神経外科 ) : 外減圧術後の頭蓋形成術前後における脳血流量変動に関する検討 : Xe-CTを用いて . 脳神経外科 1999 ; 27 ( 8 ) : 717-722 .
- 34) 池田幸穂<sup>1)</sup>, 松本 清<sup>1)</sup>, 林 敏彦<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 昭和大学医学部脳神経外科 , <sup>2)</sup> 付属病院放射線科 ) : 脳ドックにおける高速fluid-attenuated inversion recovery ( FLAIR ) 法の有用性 . 脳と神経 1999 ; 51 ( 11 ) : 933-937 .
- 35) 前川正義<sup>1)</sup>, 根本 繁<sup>2)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 目白病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 東京警察病院脳神経外科 ) : もやもや病に合併した外側後脈絡叢動脈末梢動脈瘤の1例 . 脳神経外科 1999 ; 27 ( 11 ) : 1047-1051 .
- 36) 山王なほ子, 寺本 明 : TSH産生下垂体腺腫15例の長期治療成績 . ホルモンと臨床・間脳下垂体腫瘍 IX 1999 ; 47 ( Suppl ) : 46-48 .
- 37) 高木 亮<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 寺本 明, 山王なほ子, 石原真木子<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科 ) : 下垂体腺腫に対するmagnetization transfer contrast ( MTC ) 法を用いた初期臨床評価 . ホルモンと臨床・間脳下垂体腫瘍 IX 1999 ; 47 ( Suppl ) : 80-83 .
- 38) 高木 亮<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 村井保夫, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 , <sup>2)</sup> 昭和大学医学部脳神経外科 ) : 三次元CTによる脳血管性病変の診断 . 脳と神経 1999 ; 51 ( 12 ) : 1015-1022 .
- 39) 草野博昭<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ) : 難治性のMRSA感染症に補中益気湯が著効した1例 . 漢方診療 1999 ; 18 : 21-23 .
- 40) 金 景成<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 池田幸穂, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科 ) : 第4脳室内出血を呈した末梢性後下小脳動脈瘤の2例 . 脳神経外科ジャーナル 1999 ; 8 : 611-616 .
- 41) 池田幸穂<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明, 松本 清<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 昭和大学医学部脳神経外科 , <sup>2)</sup> 高度救命救急センター ) :



脳凍結損傷モデルによる外傷性脳浮腫の2相性変化に関する実験的研究．日本救急医学会雑誌 1999；10  
(4): 186-187．

(2) 総説：

- 1) 山口文雄，高橋 弘，寺本 明：転移性脳腫瘍．日医大誌 1999；66(1): 56-58．
- 2) 寺本 明：トルコ鞍という変わった名称の由来は何か．Clinical Neuroscience 1999；17(7): 839．
- 3) 山王なほ子，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学)：Catalyzed signal amplification (CSA)法による免疫染色．Clinical Neuroscience 1999；17(10): 1084-1085．
- 4) 寺本 明，吉田陽一，山王なほ子：Cushing症候群に対する海綿静脈洞 multi-spot samplingの意義．ACTH Related Peptides 1999；9: 195-200．
- 5) 喜多村孝幸：神経内視鏡手術．Brain 1999；55: 4-5．
- 6) 吹野晃一，江見 充<sup>1)</sup>，中村祐輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>東京大学医科学研究所)：癌と遺伝子(特集：臨床医に必要な遺伝医学)．臨床医 1999；25: 1285-1289．
- 7) 寺本 明：海綿静脈洞サンプリング その臨床的意義と限界．Clinical Neuroscience 2000；18(1): 48-51．
- 8) 山王なほ子：視床下部ホルモンレセプター．Clinical Neuroscience 2000；18(1): 16-23．
- 9) 山王なほ子，梅村しのぶ<sup>1)</sup>，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学)：5. mRNA in situ hybridization法の応用3) in situ RT-PCR．病理と臨床 2000；18: 293-298．
- 10) 山王なほ子，松野 彰<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部附属市原病院脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学病態診断系病理学)：5. mRNA in situ hybridization法の応用4) in situ hybridization法と免疫組織科学の二重染色法．病理と臨床 2000；18: 299-302．

著 書

- 1) Sanno N, Osamura RY<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine)：〔分担〕Methods in cellular and molecular pathology, 2000；pp17-39, Arnold Pub．
- 2) 寺本 明：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Rathke嚢胞．Clinical Neuroscience, 1999；pp103-104, 中外医学社．
- 3) 玉置智規，寺本 明：〔分担〕播種性血管内凝固症候群(DIC)．Brain Nursing, 1999；pp171-175, メディカ出版．
- 4) 野手洋治：〔分担〕Neuroimaging Quiz：cholesterol granuloma．Clinical Neuroscience, 1999；pp99-100, 中外医学社．
- 5) 吉田大蔵：〔分担〕Neuroimaging Quiz：頭蓋骨 cavernous angioma．Clinical Neuroscience, 1999；pp577-578, 中外医学社．
- 6) 吉田大蔵：〔分担〕Neuroimaging Quiz：neurofibromatosis type 1に合併した頸部内頸動静脈瘤．Clinical Neuroscience, 1999；pp827-828, 中外医学社．
- 7) 高橋 弘：〔分担〕Neuroimaging Quiz：血管奇形を伴う小脳器質化血腫．Clinical Neuroscience, 1999；pp939-940, 中外医学社．
- 8) 山王なほ子，寺本 明：〔分担〕図で見る解剖生理3．間脳・下垂体の構造と働き．Brain Nursing, 1999；pp795-799, メディカ出版．
- 9) 吉田大蔵：〔分担〕Neuroimaging Quiz：脳原発性悪性髄膜腫の腹部転移とそのグルコース代謝亢進による低血糖発作．Clinical Neuroscience, 1999；pp1053-1054, 中外医学社．
- 10) 寺本 明：〔分担〕Pituitary adenoma．脳腫瘍病理カラーアトラス 第2版, 1999；pp146-149, 医学書院．
- 11) 山口文雄：〔分担〕Neuroimaging Quiz：Fibrous meningioma．Clinical Neuroscience, 1999；pp1277-1278, 中外医学社．

- 12) 寺本 明 他：〔編集〕ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；医学書院。
- 13) 野手洋治：〔翻訳〕第53章 化学性感覚：味覚および嗅覚．ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；pp681-687，医学書院。
- 14) 喜多村孝幸：〔翻訳〕第48章 体性感覚：II. 痛み，頭痛および温度感覚．ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；pp615-627，医学書院。
- 15) 足立好司：〔翻訳〕第52章 聴覚．ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；pp669-679，医学書院。
- 16) 山口文雄：〔翻訳〕第50章 眼：II. 網膜受容体と神経機能．ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；pp643-656，医学書院。
- 17) 吹野晃一：〔翻訳〕第45章 神経系の構成；シナプスと神経伝達物質の基本的機能．ガイドン臨床生理学（監訳 早川弘一），1999；pp567-588，医学書院。
- 18) 足立好司：〔分担〕Neuroimaging Quiz：真性多血症による深部静脈洞血栓症．Clinical Neuroscience，1999；pp1411-1412，中外医学社。
- 19) 寺本 明，山王なほ子：〔編集〕間脳下垂体腫瘍の基礎と臨床：新しい概念を中心に．ホルモンと臨床・間脳下垂体腫瘍IX（寺本 明・山王なほ子編集），1999；医学の世界社。
- 20) 寺本 明：〔分担〕下垂体腺腫の治療：最近の進歩．Annual Review 神経（後藤文男ら編），1999；pp186-195，中外医学社。
- 21) 寺本 明：〔分担〕経蝶形骨洞下垂体手術．耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス（小松崎篤監修），1999；pp310-315，医学書院。
- 22) 山王なほ子，寺本 明：〔分担〕内分泌疾患と意識障害．知っておきたい意識障害の診断と治療（松本 清編集），1999；pp85-95，真興交易医書出版部。
- 23) 金 景成<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科）：〔分担〕III. 脳血管障害のangiography：X線angiography．脳血管障害の診断，1999；pp175-188，現代医療社。
- 24) 山王なほ子：〔分担〕Neuroimaging Quiz：下垂体腺腫（非機能性）．Clinical Neuroscience，2000；pp101-102，中外医学社。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Teramoto A：Management of ACTH-dependent Cushing's syndrome．13th Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii)，2000．2。
- 2) 寺本 明：ここまでできる脳外科治療．第79回福島県北臨床懇話会，1999．6。
- 3) 寺本 明：治療困難な下垂体腫瘍．第14回FHU脳神経外科研究会，1999．7。
- 4) 寺本 明：下垂体腫瘍の治療：最近の動向．第31回香川臨床内分泌研究会，1999．9。

##### (2) 招待講演：

- 1) 喜多村孝幸，寺本 明：脳室内病変に対する神経内視鏡手術．名古屋大学脳神経外科特別講演会，2000．2。

##### (3) 教育講演：

- 1) 喜多村孝幸：神経内視鏡手術．日本医科大学千駄木臨床研究会，1999．6。
- 2) 寺本 明：脳腫瘍の治療と看護の要点．第8回脳神経外科看護教育研修会教育講演，1999．8。

##### (4) シンポジウム：

- 1) 喜多村孝幸，寺本 明：下垂体腫瘍に対する経蝶形骨手術における神経内視鏡の有用性．第12回日本内視鏡外科学会，1999．12。
- 2) 高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明（<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科）：悪性脳腫瘍に対する漢方療法の有用性．第8回脳神経外科と漢方研究会，2000．3。

3) 寺本 明：脳下垂体腫瘍と性差．第9回性差医学研究会，2000．3．

(5) 一般講演：

- 1) Tamaki T , Node Y , Teramoto A : Changes of arterial ketone body ratio ( AKBR ) in patients with intracerebral hemorrhage . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Korea ) , 1999 . 5 .
- 2) Oyama K , Node Y , Shimizu K , Kitamura T , Teramoto A : A case of deep sinus thrombosis accompanied with polycythemia vera . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Korea ) , 1999 . 5 .
- 3) Node Y , Sato H<sup>1)</sup> , Ohashi K<sup>1)</sup> , Ishino S<sup>1)</sup> , Miyauchi M<sup>1)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Shimura T<sup>3)</sup> , Takahashi H<sup>2)</sup> , Murai Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency and Critical Care Center , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital ) : A case of dissecting aneurysm of the middle cerebral artery . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Korea ) , 1999 . 5 .
- 4) Node Y , Sato H<sup>1)</sup> , Ohashi K<sup>1)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency and Critical Care Center ) : Surgical treatment of cerebral aneurysms in elderly patients . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Korea ) , 1999 . 5 .
- 5) Node Y , Tahara S , Teramoto A : Postoperative three-dimensional CT angiography ( 3D-CTA ) in evaluation of proximal clipping for ruptured vertebral artery aneurysms . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Korea ) , 1999 . 5 .
- 6) Takahashi H<sup>1)</sup> , Hamada H , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ) : Usefulness of niravoline, an arginine vasopressin inhibitor, on tumor-origin brain oedema . The 11th International Symposium of Brain Oedema and Mechanisms of Cellular Injury , 1999 . 6 .
- 7) Sanno N , Tahara S , Oyama K , Teramoto A , Kurotani R<sup>1)</sup> , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ) : Expression of Ptx-1 in nontumorous human pituitaries and pituitary adenomas . The 6th International Pituitary Congress , 1999 . 6 .
- 8) Teramoto A : Recent management of pituitary adenomas . International Friendship Symposium on Neurosurgery ( Harbin, China ) , 1999 . 8 .
- 9) Shimura T<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Noha M<sup>1)</sup> , Watanabe K , Teramoto A , Asano G<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology ) : Apoptosis by estramustine phosphate on a human malignant glioma cell line -electron microscopic study- . International Symposium on Electron Microscopy in Medicine and Biology , 1999 . 9 .
- 10) Node Y , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency and Critical Care Center ) : The study of elderly patients with meningiomas . The 11th European Congress of Neurosurgery , 1999 . 9 .
- 11) Node Y , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency and Critical Care Center ) : The use of hydroxyapatite ceramics in the reconstruction of surgical skull defects following a frontotemporal approach . The 11th European Congress of Neurosurgery , 1999 . 9 .
- 12) Node Y , Sato H<sup>1)</sup> , Ohashi Y<sup>1)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency and Critical Care Center ) : Treatment of cerebral aneurysms in elderly patients . The 11th European Congress of Neurosurgery , 1999 . 9 .
- 13) Adachi K , Takahashi H<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ) : An animal model for active immunotherapy . International Conference on Brain Tumor Research and

Therapy, 1999. 10.

- 14) Kojima T, Mizumura S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>2)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Sanno N, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): <sup>99m</sup>Tc-MIBI uptake in pituitary adenoma. European Association Nuclear Medicine Congress, 1999. 10.
- 15) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M<sup>2)</sup>, Watanabe K, Shimura T<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital ): Induction of apoptosis through Bcl-2 phosphorylation by estramustine phosphate on human malignant gliomas; in vitro study. The 49th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons ( Boston ), 1999. 11.
- 16) Yamaguchi F, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Identification of MG160 in brain tumors. The 49th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons ( Boston ), 1999. 11.
- 17) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Matsumoto M<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Node Y, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School of Medicine, Tama Nagayama Hospital ): Ventriculoperitoneal shunt dysfunction during rehabilitation therapy for patients with normal pressure hydrocephalus. American Academy of Physical Medicine & Rehabilitation 61st Annual Assembly in Conjunction with the 13th World Congress of the International Federation of Physical Medicine and Rehabilitation, 1999. 11.
- 18) Takahashi H<sup>1)</sup>, Hamada H, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Attenuation of tumor-origin brain edema by arginine vasopressin inhibitor niravoline. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 19) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院 ): Anterior temporal approachによる破裂脳底動脈瘤急性期手術. 第28回日本脳卒中の外科学会, 1999. 4.
- 20) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 渡辺国博, 相原 薫<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 ): Estramustine薬剤誘発apoptosisにおけるBcl2蛋白の意義. 第17回脳腫瘍病理学会, 1999. 5.
- 21) 若林孝一<sup>1)</sup>, 水谷暢秀, 志村俊郎, 小出 章<sup>2)</sup>, 山際 修<sup>3)</sup>, 高橋 均<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 新潟大学脳研究所脳疾患解析センター, <sup>2)</sup> 村上総合病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 横浜新都市脳神経外科病院, <sup>4)</sup> 病理学分野 ): Primary solitary leptomeningeal gliomaの3生検例. 第17回脳腫瘍病理学会, 1999. 5.
- 22) 木暮一成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 目白第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経外科 ): knifeにより長期生存を得た小児tectum gliomaの1例. 第27回日本小児脳神経外科学会, 1999. 5.
- 23) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ): 脳腫瘍浸潤細胞のフェノタイプ解析. 第12回「脳と免疫」研究会, 1999. 6.
- 24) 山王なほ子, 田原重志, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海大学病態診断系病理学 ): TSH産生下垂体腺腫におけるsomatostatin receptor ( SSTR ) mRNAの発現. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 6.
- 25) 田原重志, 山王なほ子, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 太組一朗, 小松原清光, 杉山 誠, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 東海大学病態診断系病理学 ): ヒト下垂体腺腫におけるpituitary homeo box 1 ( Ptx1 ) の発現. 第72回日本内分泌学会総会, 1999. 6.
- 26) 玉置智規, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 野手洋治, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ): 頸部超音波断層法 ( B-mode法 ) とMRI画像上の梗塞巣およびPVH所見の関連性の検討. 第18回日本脳神経超音波学会, 1999. 6.
- 27) 大山健一, 玉置智規, 植松正樹<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ): 頸部超音波検査が早期診

- 断に有用であった解離性椎骨動脈瘤の2例．第18回日本脳神経超音波学会，1999．6．
- 28) 玉置智規，高橋 弘<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>，野手洋治，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科): 高血圧性脳内出血と頸動脈アテローム性硬化病変の関連性．第23回日本脳卒中学会総会，1999．6．
- 29) 大山健一，玉置智規，植松正樹<sup>1)</sup>，林 靖人<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 頸部超音波検査が早期診断に有用であった解離性椎骨動脈瘤の2例．第23回日本脳卒中学会総会，1999．6．
- 30) 吹野晃一，飯田有俊<sup>1)</sup>，寺本 明，吉本賢隆<sup>2)</sup>，霞富士夫<sup>2)</sup>，秋山 太<sup>3)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>，中村祐輔<sup>4)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>癌研究会附属病院乳腺外科，<sup>3)</sup>癌研究会附属病院病理，<sup>4)</sup>東京大学医科学研究所): 散発性乳癌における第17番染色体長腕 TOC 座位 (17q25. 1) の高頻度欠失．第7回日本乳癌学会，1999．6．
- 31) 吹野晃一，足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明，江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 日本人 von Hippel-Lindau 病1家系の遺伝子診断．第9回メディカルジェネティクス研究会，1999．6．
- 32) 喜多村孝幸，寺本 明: 神経内視鏡手術の現況．第1回日本医科大学内視鏡手術懇話会，1999．7．
- 33) 杉山 誠<sup>1)</sup>，岡田 崇<sup>1)</sup>，樋口皓史<sup>1)</sup>，矢部憲恵<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>海老名総合病院附属東病院脳神経外科): 痙攣発作にて発症した脳囊虫症の1例．第74回日本脳神経外科学会関東地方会，1999．7．
- 34) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経外科): knifeにより長期生存を得た小児 tectum glioma の1例．第74回日本脳神経外科学会関東地方会，1999．7．
- 35) 林 靖人<sup>1)</sup>，山田昌興<sup>1)</sup>，植松正樹<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 臨床経過と画像診断が一致しないびまん性軸索損傷 (DAI) の1例．第74回日本脳神経外科学会関東地方会，1999．7．
- 36) 吹野晃一，北村 裕<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，寺本 明，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 散発性下垂体腺腫における MEN1 遺伝子の解析．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 37) 星野 茂: マウス反復性軽度頭部外傷による脳損傷．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 38) 草薨博昭<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，饒波正博<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，池田研吾<sup>3)</sup>，江上 格<sup>3)</sup>，寺本 明  
(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>同外科): 原発性頭蓋骨腫瘍と鑑別が困難であった転移性頭蓋骨腫瘍の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 39) 吹野晃一<sup>1)</sup>，足立好司，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 日本人 von Hippel-Lindau 病1家系における *VHL* 遺伝子変異．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 40) 林 靖人<sup>1)</sup>，山田昌興<sup>1)</sup>，植松正樹<sup>1)</sup>，吉田大蔵<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 画像上非典型的所見を呈したびまん性軸索損傷 (DAI) の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 41) 河野 潤，金 景成，山口文雄，水谷暢秀，寺本 明: くも膜下出血にて発症した SLE の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 42) 立山幸次郎，小島豊之，足立好司，渡邊 玲，寺本 明: 頭皮に発生した malignant lymphoma の1例: 他の頭皮腫瘍との画像所見の比較．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 43) 酒井直之，田原重志，鈴木紀成，玉置智規，足立好司，寺本 明，高木 亮<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 脳出血を発症した trans-sellar intracavernous intercarotid connection の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 44) 竹井麻生，河原 清，村井保夫，山口文雄，寺本 明: 両側性慢性硬膜下血腫にて発症した低髄液圧症候群の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 45) 佐藤 俊，小松原清光，田原重志，玉置智規，寺本 明: 両側側頭葉に発症した multicentric glioblastoma の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 46) 村松 光<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，野手洋治<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>春日居リハビリテーション病院内科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup>高度救命救急センター): リハビリテーション治療入院患者にみられる脳室腹腔シ

- ャント機能不全の頻度とその対策．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 47) 饒波正博<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，草薨博昭<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 静脈洞に浸潤した転移性頭蓋骨腫瘍の1例．第75回日本脳神経外科学会関東地方会，1999．9．
- 48) 杉山 誠<sup>1)</sup>，岡田 崇<sup>1)</sup>，樋口皓史<sup>1)</sup>，矢部憲憲<sup>1)</sup>，小林直紀<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>海老名総合病院附属東病院脳神経外科): CT, MRI にて診断が困難であった視交叉部に発生した海綿状血管腫の1例．第75回日本脳神経外科学会関東地方会，1999．9．
- 49) 水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院): 脳幹部脳梗塞に対する後頭蓋窩血行再建術．第38回東葛地区脳神経外科研究会，1999．9．
- 50) 草薨博昭: 抗生物質多剤耐性のMRSA肺炎に補中益気湯が著効した1例．第7回脳神経外科と漢方研究会学術集会，1999．10．
- 51) 田原重志，大山健一，小松原清光，太組一朗，山王なほ子，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 同一腫瘍内にGH産生腺腫からPRL産生腺腫への移行が観察されたacromegalyの1例．第3回日本内分泌病理研究会・学術集会，1999．10．
- 52) 大山健一，黒谷玲子<sup>1)</sup>，小松原清光，田原重志，太組一朗，山王なほ子，長村義之<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるneuro D1/ 2の分子病理学的検討．第3回日本内分泌病理研究会・学術集会，1999．10．
- 53) 高橋 弘<sup>1)</sup>，足立好司，山口文雄，吉田大蔵<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 悪性グリオーマに対する術後補助療法としてのcombined platinum化学療法(PEC regimen)の有効性．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 54) 野手洋治，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，大橋一善<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>高度救命救急センター): 破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対しての脳室ドレナージの臨床的検討．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 55) 吉田大蔵<sup>1)</sup>，饒波正博<sup>1)</sup>，渡辺国博，志村俊郎<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Estramustine薬剤誘発性apoptosisにおけるBcl 2蛋白の意義．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 56) 水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院): Anterior temporal approachによる破裂脳底動脈瘤急性期手術の検討．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 57) 足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 実験的ラットグリオーマにおける腫瘍浸潤細胞が産生するサイトカインmRNAの定量解析．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 58) 山王なほ子，田原重志，小松原清光，大山健一，長村義之<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>東海大学病態診断系病理学): Pituitary incidentalomaの臨床病理学的検討．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 59) 山口文雄，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳腫瘍におけるMG160の発現．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 60) 戸田茂樹，寺本 明: ラット前脳虚血再灌流におけるアスコルビン酸の動態．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 61) 清水健司，足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): グリオーマに対するNK活性の成長ホルモンによる増強効果．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 62) 小島豊之，水村 直<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>2)</sup>，石原眞木子<sup>2)</sup>，木島鉄仁<sup>3)</sup>，中條秀信<sup>1)</sup>，秋山一義<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>付属病院放射線科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科，<sup>3)</sup>大洗海岸病院脳神経外科): <sup>99m</sup>Tc-MIBI SPECTによる下垂体腺腫の評価 細胞活性から捉えた微小腺腫の検出へのアプローチ．第39回日本核医学会総会，1999．10．
- 63) 志村俊郎<sup>1)</sup>，吉田大蔵<sup>2)</sup>，饒波正博<sup>2)</sup>，渡辺国博，寺本 明，浅野伍朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>第二

- 病院脳神経外科,<sup>3)</sup>病理第2): 培養ヒト悪性グリオーマ細胞における抗 microtubule 剤 estramustine 誘発アポトーシスの電子顕微鏡学的研究. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会, 1999. 11.
- 64) 喜多村孝幸, 金 景成, 石井雄道, 寺本 明: Intraventricular mass lesion に対する神経内視鏡手術の検討. 第6回神経内視鏡研究会, 1999. 11.
- 65) 喜多村孝幸, 金 景成, 田原重志, 玉置智規, 寺本 明: 閉塞性水頭症に対する神経内視鏡手術の有用性. 第2回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 1999. 11.
- 66) 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明: 脳腫瘍浸潤細胞と産生サイトカインの解析. 第8回日本脳腫瘍カンファレンス, 1999. 11.
- 67) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 神経血管減圧術 (MVD) における MR cisternography の有用性: distal portion での圧迫が原因であった顔面痙攣の1例. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- 68) 山田昌興<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 植松正樹<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 化学療法が著効した胚細胞腫の髄液播種例. 第76回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999. 11.
- 69) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 自然寛解した特発性急性頸椎硬膜外血腫の1例. 第76回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999. 11.
- 70) 酒井直之, 田原重志, 玉置智規, 足立好司, 寺本 明: 脳出血にて発症した trans-sellar intracavernous intercarotid connection の1例. 第76回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999. 11.
- 71) 大山健一, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 小松原清光, 田原重志, 太組一朗, 山王なほ子, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫における neuro D1/ 2 の分子病理学的検討. 第40回日本組織細胞化学会, 1999. 12.
- 72) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 後頭蓋窩の meningeal hemangiopericytoma の1例. 第23回日本脳神経CI学会, 2000. 1.
- 73) 山王なほ子, 太組一朗, 田原重志, 小松原清光, 大山健一, 長村義之<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): Pituitary incident aloma の臨床・組織学的特徴: 症候性非機能性腺腫との対比. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 74) 吉田陽一, 山王なほ子, 寺本 明: Cushing 病における海綿静脈洞内下垂体ホルモン濃度の検討. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 75) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>, 小林直紀<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>海老名総合病院附属東病院脳神経センター): 経蝶形骨下垂体腺腫摘出術において3D-CT表示を試みた1例. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 76) 太組一朗, 大山健一, 田原重志, 小松原清光, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 山王なほ子, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫における VAMP-1 発現の免疫組織化学による解析. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 77) 田原重志, 山王なほ子, 大山健一, 太組一朗, 小松原清光, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 同一組織内に GH 産生腺腫から pure PRL 産生腺腫への移行が確認された先端巨大症の1例. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 78) 梅岡克哉, 山田正三<sup>1)</sup>, 鮫島直之<sup>1)</sup>, 高田浩次<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 佐野壽昭<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>2)</sup>徳島大学第一病理): 再発を繰り返した鞍上部嚢胞性病変の1例. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 79) 陳 文彬<sup>1)</sup>, 浅井昭雄<sup>1)</sup>, 寺本 明, 桐野高明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学脳神経外科): 孤発性下垂体腫瘍における *MEN1* 遺伝子異常. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 80) 高野順子<sup>1)</sup>, 高野浩次<sup>1)</sup>, 大山健一, 盛田幸司<sup>1)</sup>, 寺本 明, 高倉公朋<sup>2)</sup>, 藤田敏郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学分院内科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学脳神経外科): 本邦の GH 産生下垂体腺腫における *gsp* 変異の頻度と臨床的特徴. 第10回日

本間脳下垂体腫瘍学会，2000．2．

- 81) 磯尾綾子<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>，石井一彦<sup>1)</sup>，井合茂夫<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>(1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): 第三脳室前半部髄膜腫の1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 82) 山田昌興<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，植松正樹<sup>1)</sup>，林 靖人<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> 第二病院脳神経外科): 201 T1-シンチグラムにて脳腫瘍が疑われた脳梗塞．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 83) 水谷暢秀<sup>1)</sup>，金澤隆三郎<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 頭蓋内転移した胸腺メラノーマの1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 84) 斉藤寛浩<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科): 外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻にtrapping. EC-ICbypassを施行した1症例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 85) 梅岡克哉，山田正三<sup>1)</sup>，鮫島直之<sup>1)</sup>，高田浩次<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，佐野壽昭<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 徳島大学第一病理): 再発を繰り返した鞍上部嚢胞性病変の1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 86) 前川正義<sup>1)</sup>，粟屋 栄<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> 目白病院脳神経外科): コイル塞栓術にて治療した瘻が動脈瘤化した外傷性dural AVFの1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 87) 大山健一，山王なほ子，黒谷玲子<sup>1)</sup>，田原重志，太組一朗，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるNeuro D1/ 2の分子病理学的検討．第11回CRH・ACTH研究会，2000．3．
- 88) 山王なほ子，田原重志，小松原清光，大山健一，沖 隆<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> 浜松医科大学第二内科，<sup>2)</sup> 東海大学病態診断系病理学): 不顕性ACTH産生下垂体腺腫からCushing病に変化した1例．第11回CRH・ACTH研究会，2000．3．
- 89) 喜多村孝幸: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性．木曜会特別講演会，2000．3．
- 90) 山口文雄: 術中機能マッピングを用いた脳腫瘍手術．木曜会特別講演会，2000．3．

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経奇形・機能的疾患（顔面痙攣，三叉神経痛など）とあらゆる脳神経疾患の外科的治療を対象として臨床的，基礎的研究を行い，毎年確実に国内外に論文を発表している．

特に，悪性脳腫瘍に関しては，多くの基礎的研究に基づいて，腫瘍抗原に対するモノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種のBRM製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し，着実な効果をあげてきている．

また，分子生物学的基礎研究も盛んで，脳腫瘍の悪性度にしたがって発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究，一部文部省科学研究費補助金の援助を受けながら，腫瘍血管新生抑制に関する基礎研究や，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎的研究，さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている．

一方，臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい免疫化学療法を行い，良好な結果をおさめてきている．

脳血管障害や頭部外傷に関しては，超音波ドップラーやSPECTを用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである．

小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経奇形についても，形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる．



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Takahashi H, Members of the subcommittee of scoring for prolonged coma : Trial of establishing a new scoring system for prolonged impaired consciousness . Soc Treat Coma 1999 ; 7 : 93-99 .
- 2) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>University of Washington): Anti-telomerase therapy suppressed glioma proliferation . Oncol Rep 1999 ; 6 : 773-776 .
- 3) Takahashi H, Hamada H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Effect of niravoline (RU51599), a  $\mu$ -opioid receptor agonist, on tumour-origin brain oedema . Acta Neurochir (Wien) 1999 ; 141 : 771-778 .
- 4) Takahashi H, Adachi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Experimental treatment of malignant gliomas with human monoclonal antibody-drug conjugates . Anticancer Res 1999 ; 19 : 4154-4156 .
- 5) Yoshida D, Chen M<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Kohsei General Hospital, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital): Congenital cavernous angioma of the skull : A case report . Child's Nerv Syst 1999 ; 15 : 351-353 .
- 6) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Induction of apoptosis through bcl-2 phosphorylation by estramustine phosphate on human malignant gliomas : In vitro study . J Neuro-Oncol 1999 ; 45 (3) : 265 .
- 7) Yamada S, Ikeda Y<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>2)</sup>, Yamada S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Showa University, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>3)</sup>Loma Linda University Medical Center): Hemangioblastomas with blood supply from the dural arteries : Two case reports . Neurol Med Chir 2000 ; 40 : 69-73 .
- 8) Fukino K<sup>1,2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup>, Takahashi H, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital): A family with hydrocephalus as a complication of cerebellar hemangioblastoma : Identification of Pro157Leu mutation in the VHL gene . J Hum Genet 2000 ; 45 : 47-51 .
- 9) Noha M, Yoshida D, Watanabe K<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Suppression of cell invasion of human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27, in vitro study . Neuro-oncology 2000 ; 2 : 27-27 .
- 10) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 転移性脳腫瘍 . 日医大誌 1999 ; 66 : 56-58 .
- 11) 高橋 弘: Neuroimaging Quiz : Gangliocytomaの1例 . Clinical Neurosci 1999 ; 17 : 99-100 .
- 12) 高橋 弘: Neuroimaging Quiz : 血管奇形を伴う小脳器質化血腫 . Clinical Neurosci 1999 ; 17 : 95-96 .
- 13) 高橋 弘: 悪性グリオーマに対するサイトカイン療法 . 日医大誌 1999 ; 66 : 152-152 .
- 14) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz : 側頭骨 cavernous angioma . Clinical Neurosci 1999 ; 17 (5) : 577-578 .
- 15) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz : Neurofibromatosis type 1 に合併した頸部内頸動静脈瘤 . Clinical Neurosci 1999 ; 17 (7) : 827-828 .
- 16) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz : 脳原発性悪性髄膜腫の腹部転移とそのグルコース代謝亢進による低血糖発作 . Clinical Neurosci 1999 ; 17 (9) : 1053-1054 .

#### (2) 総説:

- 1) 高橋 弘: グリアと病態: グリアの腫瘍化と遺伝子異常 . Clinical Neurosci 1999 ; 17 : 1049-1052 .
- 2) 高橋 弘: 神経症候群: その他の神経疾患も含めて: III. 髄上皮腫 . 日本臨床, 領域別症候群シリーズ 2000 ; 28 : 103-104 .
- 3) 高橋 弘: 神経症候群: その他の神経疾患も含めて: III. 神経芽細胞腫 . 日本臨床, 領域別症候群シリーズ

2000 ; 28 : 105-107 .

- 4) 高橋 弘 : 神経症候群 : その他の神経疾患も含めて : III. 上衣芽細胞腫 . 日本臨床, 領域別症候群シリーズ  
2000 ; 28 : 108-109 .

## 著 書

- 1) 高橋 弘 : [ 分担 ] 眼 ; III. 視覚の中樞神経生理学 . ガイトン臨床生理学 ( 監訳 早川弘一 ), 1999 ; pp657-668 , 医学書院 .  
2) 吉田大蔵 : [ 分担 ] 眼 ; 1. 影像の光学 . ガイトン臨床生理学 ( 監訳 早川弘一 ), 1999 ; pp631-641 , 医学書院 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 高橋 弘 , 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 悪性脳腫瘍に対する漢方療法の有用性 . 第8回脳神経外科と漢方研究会 , 2000 . 3 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Takahashi H , Hamada H , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital) : Usefulness of niravoline, an arginine vasopressin inhibitor, on tumour-origin brain oedema . The 11th International Symposium of Brain Oedema and Mechanisms of Cellular Injury ( Newcastle upon Tyne England ), 1999 . 6 .  
2) Shimura T<sup>1)</sup>, Yoshida D , Noha M , Watanabe K<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital) : Apoptosis by estramustine phosphate on a human malignant glioma cell line -electron microscopic study . International Symposium on Electron Microscopy in Medicine and Biology ( Seoul Korea ), 1999 . 9 .  
3) Ymaguchi F<sup>1)</sup>, Takahashi H , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital) : Identification of MG160 in brain tumors . The 49th American Congress of Neurological Surgeons ( Boston U. S. A. ), 1999 . 11 .  
4) Yoshida D , Watanabe K<sup>1)</sup>, Noha M , Shimura T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup>Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Induction of Apoptosis through Bcl-2 Phosphorylation on Human Malignant Gliomas : In Vitro Study . The 49th Annual Meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons ( Boston U. S. A. ), 1999 . 11 .  
5) Noha M , Yoshida D , Watanabe K<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital) : Suppression of cell invasion of human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27, in vitro study . 4th Congress of the European Association of Neuro-Oncology ( Copenhagen Denmark ), 2000 . 3 .  
6) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, Yamada S , Takahashi H , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup>University of Washington) : Loss of FGF receptor 2 expression in glioblastoma multiforme . The 68th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons ( San Francisco U. S. A. ), 2000 . 4 .  
7) Takahashi H , Hamada H , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital) : Attenuation of tumor-origin brain edema by arginine vasopressin inhibitor niravoline . 第58回日本脳神経外科学会総会 , 1999 . 10 .  
8) 吉田大蔵 , 志村俊郎<sup>1)</sup>, 渡辺国博<sup>2)</sup>, 相原 薫<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 , <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科 , <sup>3)</sup>中央電顕施設) : Estramustine薬剤誘発性apoptosisにおけるBcl 2蛋白の意義 . 第17回日本脳腫瘍病理学会 , 1999 . 5 .  
9) 林 靖人 , 山田昌興 , 植松正樹 , 高橋 弘 , 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 臨床経過と画像診断が一致しないびまん性軸索損傷 ( DAI ) の1例 . 第74回日本脳神経外科学会関東地方会 , 1999 . 7 .  
10) 林 靖人 , 山田昌興 , 植松正樹 , 吉田大蔵 , 高橋 弘 , 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 画像上非典型的所見を呈したびまん性軸索損傷の1例 . 第67回日本医科大学医学会総会 , 1999 . 9 .

- 11) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 悪性グリオーマに対する術後補助療法としての combined platinum 化学療法 (PEC regimen) の有用性. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 12) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 脳腫瘍における MG160 の発現. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 13) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 実験的ラットグリオーマにおける腫瘍浸潤細胞が産生するサイトカイン mRNA の定量解析. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 14) 清水健司<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 東戸塚記念病院, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): グリオーマに対する NK 活性の成長ホルモンによる増強効果. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 15) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 饒波正博, 渡辺国博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): 培養悪性ヒトグリオーマ細胞における抗 microtubule 剤 Estramustine 誘発アポトーシスの電子顕微鏡. 第31回日本臨床電子顕微鏡学会, 1999. 10.
- 16) 吉田大蔵, 饒波正博, 渡辺国博<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): Estramustine 薬剤誘発性 apoptosis における Bcl 2 蛋白の意義. 第40回脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 17) 山田昌興, 高橋 弘, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 化学療法が著効した胚細胞腫の髄液播種例. 第76回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999. 11.
- 18) 山田昌興, 高橋 弘, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 201TI-シンチグラムにて脳腫瘍が疑われた脳梗塞. 第77回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 3.
- 19) 高橋 弘, 山田昌興, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 小児脳幹部グリオーマ治療の再検討. 第19回ニューロ・オンコロジーの会, 2000. 4.

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は、日本脳神経外科学会専門医訓練施設として、診療、教育、研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている。

当科の第1の研究テーマは、主として急性期脳血管障害と外傷性びまん性脳損傷の症例において、持続頭蓋内圧測定(光センサー硬膜下法)、脳血流測定(超音波ドップラー法)、SPECT、およびトレンドグラフを用いた電気生理学的検査(聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位)、MRI・MRA等の多くの諸検査により経時的な測定をすることにより、その脳虚血および軸索損傷の病態解明を行っている。

第2のテーマは脳梗塞急性期患者において抗トロンピン薬投与によるSPECTとTranscranialドップラーによる脳血流測定を行うことにより、その臨床薬理学的効果を検討している。

第3のテーマは悪性脳腫瘍の治療に伴う臨床および病理形態学的研究を行っている。

第4のテーマは脳下垂体の臨床内分泌学的研究を行っている。

第5のテーマは頸椎症の電気生理学的研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Sanno N, Tahara S, Yoshida Y, Onose H<sup>1)</sup>, Wakabayashi I<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine 3, Nippon Medical School): Ectopic Corticotroph Adenoma in the Cavernous Sinus: Case Report. Neurosurgery 1999; 45(4): 914-918.

- 2) Sanno N , Sugawara A<sup>1)</sup>, Tahara S<sup>2)</sup>, Osamura RY<sup>3)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> The 2nd Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Retinoid X Receptors ( RXRs ) mRNA Expression in human Pituitary Adenomas . *Endocrine Pathology* 1999 ; 10 ( 1 ): 73-83 .
- 3) Sanno N , Ishii Y , Sugiyama M , Takagi R<sup>1)</sup>, Node Y , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ): Subarachnoid Haemorrhage and Vasospasm due to Pituitary Apoplexy After Pituitary Function Tests . *Acta Neurochir* 1999 ; 141 : 1009-1010 .
- 4) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Matsumoto M , Shimura T , Node Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital , <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Treatment of ventriculoperitoneal shunt dysfunction during rehabilitation therapy in patients with normal pressure hydrocephalus . *Neuro Rehabilitation* 1999 ; 12 : 205-210 .
- 5) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Nathan DR<sup>2)</sup>, Shimura T ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital , <sup>2)</sup> Department of Physiology, Texas Tech University Health Sciences Center, Lubbock, Texas, U. S. A. ): A TTX-sensitive transient Na<sup>+</sup> current recorded in morphologically identified primary pacemaker cells . *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 ( 5 ): 62-94 .
- 6) Yoshida D<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Shimura T , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital ): Cavernous hemangioma of the skull in a neonate . *Child's Nerv Syst* 1999 ; 15 : 351-353 .
- 7) Wenbin C<sup>1)</sup>, Asai A<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Sanno N , Kirino T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Tokyo , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): MUtations of the *MEN1* tumor suppressor gene in sporadic pituitary tumors . *Cancer Letters* 1999 ; 142 : 43-47 .
- 8) Tajima A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Takekoshi S<sup>2)</sup>, Itoh Y<sup>2)</sup>, Sanno N , Mine T<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Tokyo University School of Medicine , <sup>2)</sup> Tokai University School of Medicine ): Distribution of adrenomedullin ( AM ) , proadrenomedullin N-terminal 20 peptide, and AM mRNA in the rat gastric mucosa by immunocytochemistry and in situ hybridization . *Histochem Cell Biol* 1999 ; 112 : 139-146 .
- 9) Matsuno A<sup>1)</sup>, Katakami H<sup>2)</sup>, Sanno N , Ogino Y<sup>3)</sup>, Osamura R. Y<sup>4)</sup>, Matsukura S<sup>2)</sup>, Shimizu N<sup>3)</sup>, Nagashima T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Miyazaki Medical College , <sup>3)</sup> Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Pituitary Somatotroph Adenoma Producing Growth Hormone ( GH ) -releasing Hormone ( GHRH ) with an Elevated Plasma GHRH Concentration : A Model Case for Autocrine and Paracrine Regulation of GH Secretion by GHRH . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 ( 9 ): 3241-3247 .
- 10) Matsuno A<sup>1)</sup>, Sanno N , Tahara S<sup>2)</sup>, teramoto A , Osamura R. Y , Wada H<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Tanaka H<sup>1)</sup>, Nagashima T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Silent Somatotroph Adenoma, detected by Catalyzed Signal Amplification and Non-radioisotopic *In situ* Hybridization . *Endocrine Journal* 1999 ; 46 : 81-84 .
- 11) Shuto Y<sup>13)</sup>, Nakano T<sup>1)</sup>, Sanno N , Domoto H<sup>2)</sup>, Sugihara H<sup>3)</sup>, Wakabayashi I<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>2)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine 3, Nippon Medical School ): Reduced growth hormone receptor messenger ribonucleic acid in an aged man with chronic malnutrition and growth hormone resistance . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 ( 7 ): 2320-2323 .

- 12) Kurotani R, Tahara S, Sanno N, Teramoto A, Mellon PL, Inoue K, Yoshimura S, Osamura RY : Expression of Ptx1 in the adult rat pituitary glands and pituitary cell lines : Hormone-secreting cells and folliculo-stellate cells. . Cell Tissue Res 1999 ; 298 : 55-61 .
- 13) 山王なほ子 : 下垂体腺腫における遺伝子異常 . 内分泌・糖尿病科 1999 ; 8 ( 4 ) : 386-392 .
- 14) 山王なほ子, 寺本 明 : II . 疾患編 : 内分泌 下垂体腫瘍 インフォームドコンセントの実際 : 患者への説明のポイント . 内科 1999 ; 83 ( 6 ) : 1480-1483 .
- 15) 山王なほ子, 寺本 明 : 間脳・下垂体の構造と働き . ブレインナーシング 1999 ; 15 ( 8 ) : 795-799 .
- 16) 山王なほ子, 寺本 明 : 特集 最近話題となっている疾患 : 概念, 病態, 診断基準 : 非機能性下垂体腺腫 . ホルモンと臨床 1999 ; 47 : 1019-1024 .
- 17) 志村俊郎 : Neuroimaging Quiz . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 : 1169-1170 .
- 18) 山王なほ子, 田原重志, 吉田陽一, 若林一二<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>内科第3) : 海綿静脈洞内ectopic ACTH産生下垂体腺腫の1例 : cavernous sinus samplingのpitfall . Acthrelated Peptides 1999 ; 10 : 283-290 .
- 19) 草薨博昭, 志村俊郎, 寺本 明 : 難治性のMRSA感染症に補中益気湯が著効した1例 . 漢方診療 1999 ; 18 ( 2 ) : 21-23 .
- 20) 草薨博昭, 寺本 明<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>(1)</sup>付属病院脳神経外科) : 家族性脳内海綿状血管腫 : 父娘例の報告 . CI研究 1999 ; 21 ( 3・4 ) : 153-157 .
- 21) 山王なほ子, 長村義之 : Catalyzed signal amplification ( CSA ) 法による免疫染色 . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 ( 10 ) : 1084-1085 .
- 22) 山王なほ子 : 視床下部ホルモンレセプター . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 : 23-26 .
- 23) 山王なほ子 : Neuroimaging Quiz . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 : 101-102 .
- 24) 山王なほ子, 梅村しのぶ<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病理学教室) : 5. mRNA in situ hibridization法の応用3) in situ RT-PCR . 病理と臨床 2000 ; 18 : 293-298 .
- 25) 松野 彰<sup>1)</sup>, 山王なほ子, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部附属市原病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学) : 5. mRNA in situ hibridization法の応用4) in situ hybridization法と免疫組織科学の二重染色法 . 病理と臨床 2000 ; 18 : 299-302 .

## 著 書

- 1) Sanno N, Osamura RY<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology Tokai University School of Medicine) : [ 分担 ] Methods in cellular and molecular pathology . Molecular and Cellular Endocrine Pathology ( Stefaneanu L, Sasano H, Kovacs K ), 2000 ; pp17-39, Arnold pub .
- 2) 志村俊郎, 村松 光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1) : [ 分担 ] 体性感覚 : I . 全身の機構 ; 触覚と位置覚 . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ), 1999 ; pp601-613, 医学書院 .
- 3) 志村俊郎 : [ 分担 ] 14 . Anaplastic ependymoma 退形成性上衣腫 . 脳腫瘍病理カラーアトラス第2版 ( 日本脳腫瘍病理学会 ), 1999 ; p48, 医学書院 .
- 4) 志村俊郎, 平野朝雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>モンテフィオーレメディカルセンター) : [ 分担 ] 15 . Myxopapillary ependymoma 粘液乳頭状上衣腫 . 脳腫瘍病理カラーアトラス第2版 ( 日本脳腫瘍病理学会 ), 1999 ; p49, 医学書院 .
- 5) 山王なほ子 : [ 分担 ] 6 . 内分泌疾患と意識障害 . 知っておきたい意識障害の診断と治療 ( 松本 清 ), 2000 ; pp85-108, 真興交易医書出版部 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 志村俊郎 : “ ボケ ” は治せるか . 日本医科大学付属多摩永山病院第9回公開講座, 2000 . 3 .

(2) 一般講演 :

- 1) Sanno N, Tahara S, Ooyama K, Teramoto A, Kurotani R, Osamura RY : Expression of Ptx-1 in nontumorous human pituitaries and pituitary adenomas . 6th International Pituitary Congress , 1999 . 6 .
- 2) Shimura T, Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Teramoto A, Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School) : Apoptosis by Estramustine Phosphate on a Human Malignant glioma cell line : Electron microscopic study . International Symposium on Electron Microscopy in Medicine and Biology , 1999 . 9 .
- 3) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Matsumoto M, Shimura T, Node Y, Teramoto A (<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital) : Ventriculoperitoneal Shunt Dysfunction During Rehabilitation Therapy for Patients with Normal Pressure Hydrocephalus . American Academy of Physical Medicine & Rehabilitation 61st Annual Assembly in conjunction with The 13th World Congress of the International Federation of Physical Medicine and Rehabilitation ( Washington ), 1999 . 11 .
- 4) Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Shimura T, Teramoto A : Induction of Apoptosis through Bcl-2 Phosphorylation by Estramustine Phosphate on Human Malignant Gliomas : In Vitro Study . The 49th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons , 1999 . 11 .
- 5) 吉田大蔵, 志村俊郎, 渡辺国博, 寺本 明 : Estramustine 薬剤誘発 apoptosis における Bcl 蛋白の意義 . 第 17 回脳腫瘍病理学会, 1999 . 5 .
- 6) 若林孝一<sup>1)</sup>, 水谷暢秀, 志村俊郎, 小出 章<sup>3)</sup>, 山際 修<sup>4)</sup>, 高橋 均<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>新潟大学脳研究所脳疾患解析センター, <sup>2)</sup>新潟大学病理学分野, <sup>3)</sup>村上総合病院脳神経外科, <sup>4)</sup>横浜新都市脳神経外科病院) : Primary Solitary leptomeningeal glioma の 3 生検例 . 第 17 回脳腫瘍病理学会, 1999 . 5 .
- 7) 山王なほ子, 田原重志, 寺本 明, 長村義之 : TSH 産生下垂体腺腫における Somatostatin receptor ( SSTR ) mRNA の発現 . 第 72 回 日本内分泌学会学術総会, 1999 . 6 .
- 8) 饒波正博, 山王なほ子, 草薨博昭, 志村俊郎, 寺本 明 : 静脈洞に浸潤した転移性頭蓋骨腫瘍の 1 例 . 第 75 回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999 . 9 .
- 9) 村松 光<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 山王なほ子, 野手洋治<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>春日居リハビリテーション病院, <sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター) : リハビリテーション治療入院患者にみられる脳室腹腔シャント機能不全の頻度とその対策 . 第 67 回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 10) 草薨博昭, 山王なほ子, 饒波正博, 志村俊郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 池田研吾, 江上 格<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科) : 原発性頭蓋骨腫瘍と鑑別が困難であった転移性頭蓋骨腫瘍の 1 例 . 第 67 回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 11) 草薨博昭 : 抗生物質多剤耐性の MRSA 肺炎に補中益気湯が著効した 1 例 . 第 7 回脳神経外科と漢方研究会学術集会, 1999 . 10 .
- 12) 大山健一, 黒谷玲子, 小松原清光, 田原重志, 太組一朗, 山王なほ子, 長村義之, 寺本 明 : 下垂体腺腫における Neuro D1/ 2 の分子病理学的検討 . 第 3 回日本内分泌病理研究会・学術集会, 1999 . 10 .
- 13) 田原重志, 大山健一, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 長村義之, 寺本 明 : 同一腫瘍内に GH 産生腺腫から PRL 産生腺腫への移行が観察された acromegaly の 1 例 . 第 3 回 日本内分泌病理研究会・学術集会, 1999 . 10 .
- 14) 山王なほ子, 田原重志, 小松原清光, 大山健一, 長村義之, 寺本 明 : Pituitary Incidentaloma の臨床病理学的検討 . 第 58 回日本脳神経外科学会総会, 1999 . 10 .
- 15) 金澤隆三郎, 水谷暢秀, 山王なほ子, 志村俊郎, 寺本 明 : 自然寛解した特発性急性頸椎硬膜外血腫の 1 例 . 第 76 回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999 . 11 .
- 16) 志村俊郎, 吉田大蔵, 饒波正博, 渡辺国博, 寺本 明, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第 2) : 培養ヒト悪性グリオーマ細

胞における抗microtubule剤Estramustine誘発アポトーシスの電子顕微鏡学的研究．第31回日本臨床電子顕微鏡学会，1999．11．

- 17) 山王直子，志村俊郎，玉井 仁<sup>1)</sup>，市川太郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 神経血管減圧術(MVD)におけるMR cisternographyの有用性: Distal portionでの圧迫が原因であった顔面痙攣の1例．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 18) 山王なほ子，大山健一，田原重志，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理): Pituitary incidentalomaの臨床・組織学的特徴: 症候性非機能性腺腫との対比．厚生省特定疾患対策研究事業間脳下垂体機能障害調査研究班平成11年度班会議，2000．1．
- 19) 金澤隆三郎，水谷暢秀，山王なほ子，志村俊郎，寺本 明: 後頭蓋窩のMeningeal hemangiopericytomaの1例．第23回日本脳神経CI学会，2000．1．
- 20) 長村義之，黒岩玲子，梶原 宏，伊藤良子<sup>1)</sup>，大山健一，田原重志，山王なほ子，寺本 明(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理): 非機能性腺腫における転写因子Ptx-1およびNeuroD1の局在について: 特にゴナドトロピン陽性例における検討．厚生省間脳下垂体疾患研究班平成11年度班会議，2000．1．
- 21) 山王なほ子，大山健一，田原重志，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理): Pituitary incidentalomaの臨床・組織学的特徴: 症候性非機能性腺腫との対比．第10回日本間脳下垂体腫瘍学会，2000．2．
- 22) 磯尾綾子<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>，石井一彦<sup>1)</sup>，井合茂夫<sup>1)</sup>，志村俊郎(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 第三脳室前半部髄膜腫の1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 23) 水谷暢秀，金澤隆三郎，山王なほ子，志村俊郎，寺本 明: 頭蓋内転移した胸腺メラノーマの1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
- 24) 大山健一，山王なほ子，黒岩玲子<sup>1)</sup>，田原重志，太組一朗，寺本 明，長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるNeuro D1/ 2の分子病理学的検討．第11回CRH・ACTH研究会，2000．3．
- 25) 山王なほ子，田原重志，小松原清光，大山健一，沖 隆<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>浜松医科大学第二内科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理): 不顕性ACTH産生下垂体腺腫からCushing病に変化した1例．第11回CRH・ACTH研究会，2000．3．
- 26) 山王なほ子，田原重志，小松原清光，大山健一，長村義之<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理): Pituitary Incidentalomaの臨床・組織学的特徴症候性非機能性腺腫との対比．臨床内分泌 update，2000．3．

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設後6年が経過した千葉北総病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら，脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍を中心とした臨床および基礎的研究を行った．平成11年4月より脳神経センターにおいて神経内科グループと合同の診療を開始し，Stroke care unit (SCU) 創設の準備を行なって来たが，平成12年4月11日の開設が決定した．

1) 脳血管障害: 前交通動脈瘤に対する新しい手術法であるorbitocranial approachによる手術症例の経験を重ね，従来の方法であるinterhemispheric approachおよびpterional approachとの比較を行い，orbitocranial approachの利点を報告した．血行再建術においてはradial artery graftを用いるhigh flow bypassを行った．頸部内頸動脈狭窄症に対するCEAを積極的に行った．

2) 頭部外傷: 頭部外傷はアルツハイマー病のひとつの環境因子である．慢性期の振盪性脳外傷を研究するためラットのfluid percussion脳外傷2～6カ月後の組織学的検索を行った．外傷6カ月後，無数の正常神経細胞がリン酸化タウとアミロイドベーター蛋白免疫染色で陽性となった．大脳皮質の神経細胞数は徐々に外傷後減少し，外傷6カ月

後には42%減少した。これらの結果、この動物モデルはアルツハイマー病などの神経変性疾患のよい動物モデルになることを証明した。臨床例において小児頭部外傷例の脳血流量の検討を行った。

3) 脳腫瘍：種々の出血性脳腫瘍用例に対する術前の人工塞栓術の有効性を確認した。新たに導入した骨メス(Midas Rex)を使用して行う頭蓋底外科のうち、lower lateral suboccipital approachの検討を行った。脳腫瘍手術に際してのPALの有効性を立証した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Mizukami K<sup>1)</sup>, Yamakawa Y<sup>2)</sup>, Yokoyama H<sup>2)</sup>, Shiraishi H<sup>1)</sup>, Kobayashi S ( <sup>1)</sup> Department of Psychiatry, Insititute of Clinical Medicine, University of Thukuba , <sup>2)</sup> Department of Psychiatry, Thukuba Higashi Hospital): A case of psychotic disorder associated with a rigrt temporal lesion : A special reference to mabnetic resonance imaging and single photon emission computed tomography findings . Psychiatry and Clinical Neurosciences 1999 ; 53 : 603-606 .
- 2) 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 石井新哉<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 椎骨動脈環椎部窓形成による脊髄圧迫にて後頭神経痛を来した1例。脳神経外科 1999 ; 27 : 645-650 .
- 3) 金 景成, 粟屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 第四脳室内出血を呈した末梢性後下小脳動脈瘤の2例。脳神経外科ジャーナル 1999 ; 8 : 611-616 .

### 著書

- 1) 小林士郎, 星野 茂 : [ 翻訳 ] 第46回 知覚受容器：情報伝達の神経回路。ガイドン臨床生理学 ( 早川弘一 ), 1999 ; pp589-600, 医学書院 .
- 2) 小林士郎 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 神経鞘腫 . Clinical Neuroscience , 2000 ; pp223-224, 中外医学社 .
- 3) 水成隆之 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : hemorrhagic infarction . Clinical Neuroscience , 2000 ; pp343-344, 中外医学社 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Kudo T<sup>1)</sup>, Okada M<sup>1)</sup>, Yokomine K<sup>1)</sup>, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Hoshino S, Kobayashi S, Teramoto A<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Ishioka Neurosurgery Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Rare complications of cervical anterior plating : Two case report . The Second Biennial Korea-Japan Conference on Spinal Surgery ( Seoul, Korea ), 1999 . 9 .
- 2) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): Anteriotemporal approach による破裂脳底動脈瘤急性期手術。第28回日本脳卒中の外科学会, 1999 . 4 .
- 3) 木暮一成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): -knife により長期生存を得た小児 tectum glioma の1例。第27回日本小児脳神経外科学会, 1999 . 5 .
- 4) 水成隆之 : 当科における椎骨脳底動脈動脈瘤に対する外科的治療の現況。木曜会, 1999 . 6 .
- 5) 金澤隆三郎, 木暮一成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): AFP が高値を示した Ependymal cyst の1例。第74回日本脳神経外科学会関東地方会, 1999 . 7 .
- 6) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): 多発性脳幹部脳梗塞に対する後頭蓋窩血行再建術。第38回東葛地区脳神経外科研究会, 1999 . 9 .
- 7) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): An-



- teriotemporal approachによる破裂脳底動脈瘤急性期手術の検討．第58回日本脳神経外科学会総会，1999．10．
- 8) 小南修史，小林士郎，吉田大蔵<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): GDCを用いた脳動脈瘤の治療成績．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
  - 9) 齋藤寛浩，小林士郎，水成隆之，小南修史，鈴木紀成，村井保夫，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 硬膜下血腫にて発症した外傷性脳動脈瘤の1例．第5回日本脳神経外科救急研究会，2000．1．
  - 10) 鈴木紀成，星野 茂<sup>1)</sup>，小林士郎，水成隆之，村井保夫，齋藤寛浩，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 小児頭部外傷における脳血流量の検討．第5回日本脳神経外科救急研究会，2000．1．
  - 11) 水成隆之: 脳動脈瘤に対する頭蓋底手術手技の応用．木曜会，2000．1．
  - 12) 金 景成<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 末梢性後下小脳動脈瘤の検討．第5回日本脳神経外科救急研究会，2000．1．
  - 13) 古川哲也<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，星野 茂<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 目白第3病院，<sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): Rendu-Oster-Weber症候群における難治性鼻出血に対して人工塞栓術が有効であった1例．第5回日本脳神経外科救急研究会，2000．1．
  - 14) 木暮一成，小林士郎，井須豊彦<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): 脊髄症状で発症した原因不明の慢性脊椎炎の2症例．第23回日本脳神経CI学会，2000．1．
  - 15) 齋藤寛浩，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻にtrapping EC-IC bypassを施行した1例．第77回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．3．
  - 16) 酒井直之，村井保夫，山崎道生，寺尾 健，雨宮志門，齋藤寛浩，鈴木紀成，三品雅洋，小南修史，駒場祐一，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 内頸動脈解離に対してRA graftを施行した1例．第40回東葛地区脳神経外科研究会，2000．3．
  - 17) 水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科): 治療に難渋した巨大脳底動脈瘤の症例．第3回房総イブニングフォーラム，2000．3．
  - 18) 加藤健吾，小南修史，駒場祐一，三品雅洋，酒井直之，山崎道生，齋藤寛浩，村井保夫，鈴木紀成，水成隆之，小林士郎，岡田 進<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup> 付属病院第2内科，<sup>3)</sup> 付属病院脳神経外科): 脳底動脈塞栓症に対する急性期血栓溶解療法の1例．第40回東葛地区脳神経外科研究会，2000．3．

## 12. 整形外科科学講座

[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

### 研究概要

現代の整形外科科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っているので、そのすべてを網羅することは到底不可能であるが、出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている。

研究項目は：

- 1) 電気生理学；脊髄電位，神経電位，交感神経電位，筋電図，電気刺激および電磁場刺激による骨・軟骨・神経の再生
- 2) Biomechanics；脊椎，膝関節，股関節，仙腸関節，肩関節などの Biomechanics
- 3) 軟骨再生と移植；将来には骨銀行のみではなく軟骨銀行をめざしている。
- 4) 人工関節，人工靭帯，人工骨の開発実験および関節（主として股・膝関節）の同種移植
- 5) 脊椎管内血管の解剖学
- 6) 脊髄馬尾の解剖学
- 7) 手根骨動態
- 8) 職業性腰痛の疫学・予防対策
- 9) Back School の実施
- 10) 交感神経電気活動状況
- 11) 疼痛発生の基礎研究およびレーザー治療による除痛効果の基礎研究
- 12) スポーツ医学外来（各種スポーツ障害・外傷の治療）
- 13) 脚および骨延長の基礎と臨床
- 14) 臨床的研究；伝統的に脊椎・脊髄疾患に対する治療例が圧倒的に多く，その手術法の開発と予後の検索を行っている。また，現代の流れで交通事故の外傷，老人の人工関節置換術や骨粗鬆症，若者のスポーツ医学や近年急増している骨・軟部悪性腫瘍等に関して先進的，かつ独自のな治療法を試みている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Kornmann M<sup>1)</sup>, Maruyama H, Bergmann U<sup>1)</sup>, Tangvoranuntakul P<sup>1)</sup>, Beger HG<sup>1)</sup>, White MF<sup>1)</sup>, Korc M ( <sup>1)</sup>Department of Medicine, University of California, Irvine, USA ): Enhanced expression of the insulin receptor substrate-2- docking protein in human pancreatic cancer . Cancer Res 1998 ; 58 ( 19 ): 4250-4254 .
- 2) Kleeff J<sup>1)</sup>, Maruyama H, Friess H<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Falb D<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Medicine, University of California, Irvine, USA ): Smad6 suppresses TGF- beta- induced growth inhibition in COLO- 357 pancreatic cancer cells and is overexpressed in pancreatic cancer . Biochem Biophys Res Commun 1999 ; 255 ( 2 ): 268-273 .
- 3) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Takeuchi T, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Isolation and radiation hybrid mapping of a highly polymorphic CA repeat sequence at the human nuclear factor kappa - beta subunit 1 ( NFKB1 ) locus . Journal of Human Genetics 1999 ; 44 : 129-130 .

- 4) Nakajima T<sup>1)</sup>, Ota N, Shirai Y, Yoshida H<sup>2)</sup>, Watanabe S<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Hospital ): Ethnic difference in contribution of Sp 1 site variation of COL1A 1 gene in genetic predisposition to osteoporosis . *Calcified Tissue International* 1999 ; 65 : 352-353 .
- 5) Ota N, Hunt S<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup>, Hosoi T<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>3)</sup>, Shirai Y, Emi M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Cardiovascular Genetics, Department of Medicine, University of Utah School of Medicine, USA , <sup>2)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Hospital ): Linkage of interleukin 6 locus to human osteopenia by sibling pair analysis . *Human Genetics* 1999 ; 105 : 253-257 .
- 6) Nakajima T<sup>1)</sup>, Ota N, Kodama T<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Isolation and radiation hybrid mapping of a highly polymorphic CA repeat sequence at the SREBP cleavage - activating protein ( SCAP ) locus . *Journal of Human Genetics* 1999 ; 44 : 350-351 .
- 7) Kleeff J<sup>1)</sup>, Kusama T<sup>1)</sup>, Rossi DL<sup>1)</sup>, Ishikawa T<sup>1)</sup>, Maruyama H, Friess H<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Zlotnik A<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, University of California, Irvine, USA ): Detection and localization of Mip- 3 alpha/ LARC/ Exodus, a macrophage proinflammatory chemokine, and its CCR6 receptor in human pancreatic cancer . *Int J Cancer* 1999 ; 81 ( 4 ): 650-657 .
- 8) Kleeff J<sup>1)</sup>, Maruyama H, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Sawhney H<sup>1)</sup>, Friess H<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, University of California, Irvine, USA , <sup>2)</sup> Department of pathology, Nippon Medical School ): Bone morphogenetic protein 2 exerts diverse effects on cell growth in vitro and is expressed in human pancreatic cancer in vivo . *Gastroenterology* 1999 ; 116 ( 5 ): 1202-1216 .
- 9) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Mori A : Remodeling of patellar tendon grafts augmented with woven polyester after anterior cruciate ligament reconstruction in humans . *Orthopaedic Science* 1999 ; 4 : 163-170 .
- 10) Iwaki K<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>1)</sup>, Ota N, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): A common Ile 796 Val polymorphism of the human SREBP cleavage : Activating protein ( SCAP ) gene . *Journal of Human Genetics* 1999 ; 44 : 421-422 .
- 11) Maruyama H, Kleeff J<sup>1)</sup>, Wildi S<sup>1)</sup>, Friess H<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Israel MA<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, University of California, Irvine, USA ): Id- 1 and Id-2 are overexpressed in pancreatic cancer and in dysplastic lesions in chronic pancreatitis . *Am J Pathol* 1999 ; 155 ( 3 ): 815-822 .
- 12) Kleeff J<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Maruyama H, Friess H<sup>1)</sup>, Truong P<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Falb D<sup>1)</sup>, Korc M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of California, Irvine, USA , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): The TGF- beta signaling inhibitor Smad 7 enhances tumorigenicity in pancreatic cancer . *Oncogene* 1999 ; 18 ( 39 ): 5363-5372 .
- 13) Wildi S<sup>1)</sup>, Kleeff J<sup>1)</sup>, Maruyama H, Maurer CA<sup>1)</sup>, Friess H<sup>1)</sup>, Buchler MW<sup>1)</sup>, Lander AD<sup>1)</sup>, Korc M ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of California, Irvine, USA ): Characterization of cytokeratin 20 expression in pancreatic and colorectal cancer . *Clin Cancer Res* 1999 ; 5 ( 10 ): 2840-2847 .
- 14) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Takeuchi T, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): A highly polymorphic CA repeat marker at the interleukin - 11 locus . *Genes and Immunity* 1999 ; 1 : 159-160 .
- 15) Nakajima T<sup>1)</sup>, Ota N, Yoshida H<sup>2)</sup>, Watanabe S<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Hospital ): Allelic variants in the interleukin - 6 gene and essential hypertension in Japanese women . *Genes and Immunity* 1999 ; 1 : 115-119 .

- 16) Mori A, Shirai Y, Nakayama Y, Narita T, Takeda T, Hattori M : Efficacy of an athletic rehabilitation program after anterior cruciate ligament reconstruction . Jpn J Orthop Sports Med 1999 ; 19 : 387-393 .
- 17) Yaoita H, Orimo H<sup>1)</sup>, Shirai Y, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Biochemistry II): Expression of bone morphogenetic proteins rat distal : Less homolog genes following rat femoral fracture . J Bone Miner Metab 2000 ; 18 : 63-70 .
- 18) Takayama A, Ito H, Shirai Y : Subacromial bursitis mimicking a soft tissue tumor . J Shoulder Elbow Surg 2000 ; 9 ( 1 ): 72-75 .
- 19) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Hunt S<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup>, Hosoi T<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>3)</sup>, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Cardiovascular Genetics, Department of Medicine, University of Utah School of Medicine, USA , <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Hospital ): Linkage of human tumor necrosis factor alpha to human osteoporosis by sib : Pair analysis . Genes and Immunity 2000 ; 1 : 261-265 .
- 20) Mizue F, Shirai Y, Ito H : Surgical treatment of a comminuted fracture on a distal clavicle using Wolter plate . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 ( 1 ): 32-34 .
- 21) 成田哲也 : スポーツ選手における関節傷害の診断と治療 : 膝関節障害を中心として . 日医大誌 1998 ; 65 : 245-248 .
- 22) 林 英俊, 江川慶長 : 当院における肩関節鏡視下手術について : 投球障害肩を含めて . 信州医学雑誌 1999 ; 47 ( 5 ): 459-466 .
- 23) 沢泉卓哉, 白井康正, 橋口 宏, 今野俊介, 服部幹彦, 川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 両前腕骨折の手術的治療の検討 . 骨折 1999 ; 21 : 401-405 .
- 24) 中嶋隆夫, 白井康正, 玉井健介, 小林俊之, 村田修二 : Lisfanc関節脱臼骨折の治療経験 . 骨折 1999 ; 21 : 320-324 .
- 25) 村田修二, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之 : 距骨骨折の治療経験 . 骨折 1999 ; 21 ( 1 ): 299-302 .
- 26) 白井康正 : 仙腸関節の画像診断 : 骨盤骨折と仙腸関節 . 関節外科 1999 ; 18 ( 5 ): 20-25 .
- 27) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 星川裕一, 山田哲士 : 足関節果部骨折に対する吸収性骨接合材の臨床応用 . 骨折 1999 ; 21 ( 2 ): 292-295 .
- 28) 橋口 宏 : 人工骨を用いた上腕骨近位端骨折の治療経験 . 東北整形災害外科紀要 1999 ; 43 : 122-124 .
- 29) 北川泰之, 白井康正, 沢泉卓哉, 角田 隆, 丸山晴久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 手の骨・軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の経験 . 東日本整災会誌 1999 ; 11 : 288-293 .
- 30) 星川裕一, 白井康正, 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 熊坂庸恵<sup>1)</sup>, 村田修二, 江川慶長 (<sup>1)</sup>熊坂整形外科医院): 大腿神経麻痺を伴う腸腰筋断裂による血腫の1例 . 骨・関節・靭帯 1999 ; 12 : 831 .
- 31) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 中原義人, 六郷知行, 南部昭彦, 萬歳祐子 : 骨性マレット指に対する小切開ピンニング法の成績不良例の検討 . 日本手の外科学会雑誌 1999 ; 16 ( 2 ): 300 .
- 32) 田中功一, 白井康正, 中山義人, 藤井信人 : 80歳以上の大腿骨頸部外側骨折の予後 . 神奈川整形災害外科医学会雑誌 1999 ; 12 ( 2 ): 23-26 .
- 33) 高山景範, 伊藤博元, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 鈴木康之, 江川慶長 : 上腕骨近位端粉碎骨折に対する手術治療成績 . 肩関節 1999 ; 23 ( 3 ): 405-408 .
- 34) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 中井文彦, 柴田靖章, 小野寺剛, 杉山 修 : 仙腸関節炎の治療経験 . 日本腰痛研究会雑誌 1999 ; 5 : 43-47 .
- 35) 間瀬泰克, 白井康正, 渡邊 誠, 南 和文, 梶本陽司 : ACL部分断裂に対する鏡視下ACL部分再建の試み . 関節鏡 1999 ; 24 ( 2 ): 137-141 .
- 36) 玉井健介, 中嶋隆夫, 小林俊之, 村田修二, 白井康正, 保坂純郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 股関節手術後の深部静脈血

- 栓症の検討．Hip Joint 1999；25：89-93．
- 37) 玉井健介，白井康正，藤井信人，中嶋隆夫，小林俊之，村田修二：超高齢者の非転位型大腿骨頸部内側骨折の治療．Hip Joint 1999；25：513-516．
- 38) 青木孝文，白井康正，沢泉卓哉，金 竜，南部昭彦：肘部管症候群の診断における知覚性インテグレーション法について．日本手の外科学会雑誌 1999；16(4)：535-539．
- 39) 中嶋隆夫，白井康正，玉井健介，小林俊之，星川裕一，村田修二，保坂純郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院放射線科)：人工股関節置換術，人工骨頭置換術後の深部静脈血栓症の検討．日本人工関節学会誌 1999；29：247-248．
- 40) 上坂真司，武内俊次，井出勝彦，吉原 潔，中山義人，白井康正：変形性膝関節症におけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法：OAの進行度と関節マーカーおよび臨床評価との関連について．関節の外科 1999；26：106-112．
- 41) 上坂真司：変形性膝関節症におけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法．骨・関節・靭帯 1999；12：1365-1374．
- 42) 伊藤博元：遷延治癒骨折，偽関節に対する電磁場刺激(PEMFs)療法．運動療法と物理療法 1999；10(2)：102-106．
- 43) 間瀬泰克，白井康正，渡邊 誠，南 和文，肥沼正明，梶本陽司：膝屈筋腱による近位脛腓靭帯再建の試み．東京膝関節学会誌 1999；20：119-121．
- 44) 原崎淳子，広村 健，縄井清志，伊東浩一，三木あゆみ：広範囲熱傷患者の自己評価：3症例のself-esteemと通して．PTジャーナル 1999；33(4)：255-260．
- 45) 沢泉卓哉，白井康正，伊藤博元，南野光彦，家田俊也，金 竜，南部昭彦，六郷知行：小児上腕骨顆上骨折に対するてこを利用した簡便な経皮的整復法．日本肘関節研究会誌 2000；6(1)：27-28．
- 46) 林 英俊，江川慶長：投球障害肩に対する治療成績：Bennet Lesionに対する鏡視下手術を中心として．信州医学雑誌 2000；48(2)：146-152．
- 47) 沢泉卓哉，橋口 宏：小児上腕骨顆上骨折の経皮的ピンニング．整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2000；6：17-23．
- 48) 青木孝文，白井康正，沢泉卓哉，南野光彦，河路秀巳：吸収性骨接合ピンを髓内釘として用いた手指骨々折の治療経験．日本手の外科学会雑誌 2000；16(6)：935．
- 49) 萬歳祐子，白井康正，宮本雅史，元文芳和，橋口 宏，飯沢典茂：特発性胸椎硬膜外血腫の2例．東日本整災会誌 2000；12：104-107．
- 50) 成田哲也，増島 篤<sup>1)</sup>，内山英司<sup>2)</sup>，三木英之<sup>3)</sup>，森 淳(<sup>1</sup>東芝病院スポーツ整形外科，<sup>2</sup>関東労災病院スポーツ整形外科，<sup>3</sup>横浜市スポーツ医科学センター)：バスケットボール・ナショナルチームにおける医科学サポートの現状．臨床スポーツ医学 2000；17：452-455．
- 51) 成田哲也，白井康正：バスケットボールにおける成長期スポーツ障害．MB Orthopaedics 2000；13：108-113．
- 52) 南 和文，白井康正，土屋正光<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>同愛記念病院)：相撲における腰椎椎間板ヘルニアの手術治療成績．臨床スポーツ医学 2000；17：195-199．
- (2) 総説：
- 1) 宮本雅史：職業と腰痛．からだの科学 1999；206：94-97．
- 2) 白井康正：腰痛の疫学．からだの科学 1999；206：16-20．
- 3) 宮本雅史：介護労働者を対象にした腰痛予防教室の実際．生活教育 1999；43：27-32．
- 4) 中山義人，白井康正：急性腰・背部痛．老年医学 1999；37：1471-1475．
- 5) 白井康正：学生相撲選手の仙腸関節変化と腰痛．中部日本整形外科災害外科学会雑誌 1999；42(6)．
- 6) 伊藤博元：高齢者に対する肩関節外科の考え方．関節外科 1999；18(4)：35-41．

- 7) 伊藤博元：筋・骨格系疾患による痛み，五十肩．ペインクリニック 1999；20：79-81．
- 8) 前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，伊藤博元，横山宗伯<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：穿刺吸引細胞診の役割．病理と臨床 1999；17(9)：886-893．
- 9) 中山義人，白井康正：腰痛・四肢関節痛．今月の治療 1999；7：95-98．

## 著 書

- 1) 青木孝文：〔分担・翻訳〕平滑筋の生理学．ガイドン臨床生理学，1999；pp101-110，医学書院．
- 2) 青木孝文：〔分担・翻訳〕スポーツ生理学．ガイドン臨床生理学，1999；pp1071-1084，医学書院．
- 3) 武内俊次：〔翻訳〕膜の生理，神経，筋（第4，5，6，7章）．ガイドン臨床生理学，1999；pp49-99，医学書院．
- 4) 南 和文：〔分担〕整形外科領域のスポーツ外傷と障害．健康作り指導者養成テキスト（運動分野），1999；pp127-154，東京都健康推進財団．
- 5) 玉井健介：〔分担〕大腿骨頸部（内側）骨折．今日の整形外科治療指針 第4版（二ノ宮節夫，富士川恭輔，越智隆弘，国分正一），2000；pp657-659，医学書院．
- 6) 玉井健介：〔分担〕大腿骨頸部（外側）骨折．今日の整形外科治療指針 第4版（二ノ宮節夫，富士川恭輔，越智隆弘，国分正一），2000；pp659-660，医学書院．
- 7) 成田哲也：〔分担〕慢性関節リウマチ変形性関節症．臨床薬物治療学 疾病の解説と薬の使い方（医療薬学研究協議会編），2000；pp153-165，アークメディア．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 白井康正：日本整形外科スポーツ医学会20年の歩み．第73回日本整形外科学術集会，2000．4．

### (2) 教育講演：

- 1) 白井康正：学生相撲選手の腰痛．山口大学医学会講演，1999．9．
- 2) 南 和文：スポーツ外傷・障害の診断治療．東京都柔道接骨師会，1999．11．
- 3) 南 和文：相撲による外傷と障害．日本整形外科勤務医会千葉県支部講演会，1999．11．
- 4) 白井康正：学生相撲選手の仙腸関節変化と腰痛．和歌山県立医科大学整形外科同門会，2000．3．
- 5) 南 和文：スポーツ傷害の診断と治療．東京都委託講習会・東京都柔道接骨師会総会，2000．3．

### (3) シンポジウム：

- 1) Aoki T, Shirai Y：A comparative roentgenologic evaluation of bone healing of medial malleolar fracture of the ankle using bioabsorbable osteosynthetic implants versus metal implants．International Orthopaedic Symposium in Yokohama (Yokohama)，1999．4．
- 2) Aoki T：An electrophysiological study for disuse muscular atrophy．The 9th Taiwan-Japanese Orthopaedic Symposium (Taipei)，1999．5．
- 3) Genbun Y：Pre-operative psychological evaluations for patients with spinal problems．第9回 Taiwan-Japanese Orthopaedic Symposium (Taipei)，1999．5．
- 4) Nakayama Y：Biochemical analysis of synovial fluid in osteoarthritis．The 9th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium (Taipei)，1999．5．
- 5) 南 和文，白井康正，宮本雅史，元文芳和，土屋正光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>同愛記念病院)：相撲における腰椎椎間板ヘルニアの手術治療成績．第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，1999．5．

### (4) パネルディスカッション：

- 1) Miyamoto M：Epidemiological study on low back pain and occupational risks factors among professional drivers．第9回 Taiwan-Japanese Orthopaedic Symposium (Taipei)，1999．5．

- 2) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 萬歳祐子, 梅ヶ枝健一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>梅ヶ枝整形外科): バスケットボール競技特性と前十韌帯損傷: 日本リーグにおける障害調査を中心に. 第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 1999. 5.
  - 3) 森 淳, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 小林 薫: 再再建を要した膝前十字韌帯再建後不安定性再発例について. 第7回よこはまスポーツ整形外科フォーラム, 1999. 6.
  - 4) 間瀬泰克, 白井康正, 伊藤博元, 藤井信人, 肥沼正明, 梶本陽司, 高他俊哉, 林 英俊: 投球障害肩に対する鏡視下Bennett病変形成術の経験. 第25回日本関節鏡学会, 1999. 12.
- (5) 一般講演:
- 1) Maruyama H, Kleeff J, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Rossi D L, Friess H, Buchler MW, Zlotnik A, Korc M (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School): MIP-3, A macrophage proinflammatory chemokine, and its receptor CCR-6 are overexpressed in human pancreatic cancer. 第10回 American Pancreatic Association, INC. Meeting (Chicago, Illinois, USA), 1998. 11.
  - 2) Nawai K: Physical Side View of Self-esteem. 13th WCPT (Yokohama), 1999. 5.
  - 3) Shirai Y: Low back pain following unstable pelvic fractures. The 9th Taiwan-Japanese Orthopaedic Symposium (Taipei), 1999. 5.
  - 4) Takayama A, Shirai Y, Ito H, Hashiguchi H, Ide K, Mizue F: Subacromial bursitis mimicking a soft tissue tumor. The 6th Japanese-Scandinavian Shoulder Congress International Symposium & Practical Course on Shoulder Surgery (Kyoto), 1999. 8.
  - 5) Shirai Y: Row Back Pain followed by a traumatic destruction of the Pelvic Ring: Treated with External Fixation. The 2nd Kunming International Symposium of Spine and Joint Surgery (Kunming China), 1999. 8.
  - 6) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School): Linkage of interleukin 6 locus to human osteopenia by sibling pair analysis. 第21回 American Society of Bone and Mineral Research (St. Louis), 1999. 9.
  - 7) Rowland G, M. A, Maruyama H, Kusama T, Ralli S, Korc M: Soluble type II TGF-beta receptor inhibits TGF-beta signaling in COLO-357 pancreatic cancer cells in vitro and tumor formation in vivo. 3RD TGF-International Conference (Bethesda, Maryland, USA), 1999. 9.
  - 8) Miyamoto M, Shirai Y, Genbun Y, Kaneda K: An epidemiological study on low back pain among the newly employed nurses in our hospital. 第4回 Combined meeting of spinal and paediatric sections of WPOA (Thailand), 1999. 10.
  - 9) Aoki T, Shirai Y, Nanno M, Takamatsu M, Yamada T, Kakegawa Y: The diagnosis and treatment for insufficiency of tibiofibular syndesmosis at the ankle. Congress of the International Federation of Foot and Ankle Societies (京都), 1999. 10.
  - 10) Aoki T, Shirai Y, Sawaizumi T, Nanno M, Yamada T, Nambu A: Clinical outcome of the use of bioabsorbable osteosynthetic implants for fractures of the proximal phalanges and metacarpals. The 3rd Combined Meeting of the Japanese and American Societies for Surgery of the Hand (Hawaii), 2000. 3.
  - 11) Kitagawa Y, Shirai Y, Nakayama Y, Narita T, Mori A: 40-Year-Old Liposarcoma myxoid type. 第13回 Forum of the Surgical Society for Musculo Skeletal Sarcoma (Tokyo), 2000. 3.
  - 12) Sawaizumi T, Shirai Y, Hashiguchi H, Kakegawa Y: Application of external fixation for Rolando fracture. 第3回 Combined meeting of the Japanese and American Societies for Surgery of the Hand (ハワイ), 2000. 2.
  - 13) 間瀬泰克, 白井康正, 渡邊 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司: 膝屈筋腱による近位脛腓韌帯再建の試み.

第20回東京膝関節学会，1999．2．

- 14) 掛川裕治，白井康正，宮本雅史，元文芳和，橋口 宏，山田哲士：腰椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間板摘出術の治療成績．第72回日本整形外科学術大会，1999．4．
- 15) 橋口 宏，白井康正，飯澤典茂，掛川裕治，杉山 修：大腿骨転子部周辺骨折に対する Intramedullary Hip Screw (IMHS) の治療成績．第72回日本整形外科学会学術集会，1999．4．
- 16) 上坂真司，白井康正，中山義人，藤井信人，吉原 潔：変形性膝関節症におけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法．第72回日本整形外科学会，1999．4．
- 17) 高山景範，白井康正，伊藤博元，橋口 宏，今野俊介，井出勝彦，水江史樹：上腕骨近位端粉碎骨折，脱臼骨折に対する手術治療成績．第73回日本整形外科学術集会，1999．4．
- 18) 宮本雅史，白井康正，武内俊次，元文芳和，金田和容，柴田靖章：大学付属病院新人看護婦の腰痛に関する追跡調査．第72回日本整形外科学会，1999．4．
- 19) 元文芳和，白井康正，宮本雅史，金田和容，柴田靖章，小野寺剛：腰部脊柱管狭窄症の治療成績．第72回日本整形外科学会，1999．4．
- 20) 高山景範，白井康正，伊藤博元，橋口 宏，今野俊介，井出勝彦，水江史樹：上腕骨近位端粉碎骨折，脱臼骨折に対する手術治療成績．第72回日本整形外科学会，1999．4．
- 21) 玉井健介，白井康正，藤井信人，肥沼正明，中嶋隆夫，今野俊介，河路秀巳，赤石文洋，清水要吉，中井文彦，小林俊之，村田修二：超高齢者の非転位型大腿骨頸部内側骨折の治療．第72回日本整形外科学会学術集会，1999．4．
- 22) 山田哲士，白井康正，沢泉卓哉，北川泰之，中原義人，六郷知行：両側指屈筋腱鞘滑膜炎を認めた高Igh血症の1例．第38回関東整形災害外科学会，1999．5．
- 23) 石田良太，白井康正，宮本雅史，元文芳和，金田和容，柴田靖章：嚙下障害をきたした頸椎前縦韧带骨化症の2症例．第38回関東整形災害外科学会，1999．5．
- 24) 村重良一，白井康正，中山義人，藤井信人，吉原 潔，井出勝彦，沢泉卓哉：バスケットボールによる手指中節骨骨折の2例．第25回日本整形外科スポーツ医学会，1999．5．
- 25) 青木孝文，白井康正，沢泉卓哉，金 竜，南部昭彦：肘部管症候群の診断における知覚性インテグレーション法について．第42回日本手の外科学会学術集会，1999．5．
- 26) 北村繁行，白井康正，武内俊次，橋口 宏，金 竜：アトピー性皮膚炎に併発した化膿性股関節炎の1例．第596回関東整形災害外科学会月例会，1999．6．
- 27) 金 竜，白井康正，武内俊次，青木孝文，南部昭彦，萬歳祐子：頸髄損傷患者のF波の経時的変化と臨床症状との関連性について．第28回日本脊椎外科学会，1999．6．
- 28) 田中功一，白井康正，中山義人，武内俊次，吉原 潔：特発性上腕骨頭壊死の1例．第106回神奈川整形災害外科医会，1999．6．
- 29) 太田信孝，中島敏晶<sup>1)</sup>，鈴木隆雄<sup>2)</sup>，吉田英世<sup>2)</sup>，細井孝之<sup>2)</sup>，白井康正，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>東京都老人総合研究所)：sib-pair解析法による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定．第9回メディカルジェネティクス研究会，1999．6．
- 30) 青木孝文，白井康正，藤井信人，中嶋隆夫，高松 眞：リスフラン関節脱臼および脱臼骨折の治療成績と問題点．第25回日本足の外科学会学術集会，1999．6．
- 31) 小野寺剛，白井康正，宮本雅史，元文芳和，金田和容，高松 眞：家兔モデル腰椎前方固定術における椎間関節に分布する知覚神経終末の変化．第28回日本脊椎外科学会，1999．6．
- 32) 南 和文，清水要吉，川角 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医学技術専門学校)：流行婦人靴の細菌学的検討．第13回日本靴医学会，1999．6．
- 33) 吉原 潔，白井康正，中山義人，武内俊次，宮本雅史：腰部多裂筋の組織化学的評価．第11回日本理学診療医



学会, 1999 . 7 .

- 34) 沢泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 南部昭彦, 六郷知行, 小寺訓江: 関節鏡を利用した橈骨遠位端関節内骨折の治療経験. 第25回日本骨折治療学会, 1999 . 7 .
- 35) 六郷知行, 白井康正, 武内俊次, 大野達朗: 経皮的末梢神経電気刺激 (transcutaneous electrical nerve stimulation) におけるラット復根神経節内サブスタンスPの変化. 第11回日本理学診療医学会, 1999 . 7 .
- 36) 武田知通, 白井康正, 成田哲也, 八百板仁志: Dynamizationの骨折治療経過に及ぼす影響の実験的検討 (第1報). 第25回骨折治療学会, 1999 . 7 .
- 37) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 小林 薫, 佐藤和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院理学療法室): 膝前十字靭帯再建術後療法早期におけるIcing・CPM併用療法の効果の検討. 第11回日本理学診療医学会, 1999 . 7 .
- 38) 北川泰之, 白井康正, 沢泉卓哉, 金 竜, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診で推定診断した類皮上肉腫の1例. 第32回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 1999 . 7 .
- 39) 青木孝文, 白井康正, 北川泰之, 鈴木康之, 山田哲士, 掛川裕治: 陥没型踵骨骨折の治療における吸収性骨接合材を用いた簡便な整復固定法. 第25回日本骨折治療学会, 1999 . 7 .
- 40) 小野寺剛, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 金田和容, 高松 眞: 腰椎前方固定術後における家兔椎間関節の知覚神経終末分布の変化. 第11回日本理学診療医学会, 1999 . 7 .
- 41) 尾崎大也, 白井康正, 中山義人, 武内俊次, 藤井信人, 井出勝彦: 高齢発症RAにみられた急速進行性白底突出症の1例. 第28回リウマチの外科研究会, 1999 . 8 .
- 42) 林 英俊, 江川慶長: 投球障害肩の治療成績: Benuettlesionに対する鏡視下手術を中心として. 第84回信州整形外科懇談会, 1999 . 8 .
- 43) 上坂真司: 変形性膝関節症における血中コンドロイチン硫酸濃度. 第28回リウマチ外科学会, 1999 . 8 .
- 44) 中山義人, 白井康正, 成田哲也, 森 淳, 吉原 潔, 上坂真司, 尾崎大也: 健常関節液の生化学的分析. 第28回リウマチの外科研究会, 1999 . 8 .
- 45) 尾崎大也, 白井康正, 中山義人, 武内俊次, 吉原 潔, 藤田武久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 小児SLEの治療経過中にみられた多発魚椎変形の1例. 第48回東日本整形災害外科学会, 1999 . 9 .
- 46) 太田信孝, 中島敏晶<sup>1)</sup>, 鈴木隆雄<sup>2)</sup>, 吉田英世<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>2)</sup>, 折茂 肇<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 白井康正(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所): sib-pair解析法による骨粗鬆症の原因遺伝子の同定. 第14回日本整形外科学会基礎学術集会, 1999 . 9 .
- 47) 井出勝彦, 白井康正, 伊藤博元, 中山義人, 武内俊次, 藤井信人: 上腕骨外科頸骨折の治療成績. 第48回東日本整形災害外科学会, 1999 . 9 .
- 48) 縄井清志: 肢体不自由者の自尊感情と障害受容. 第18回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 1999 . 9 .
- 49) 高松 眞, 宮本雅史, 吉本正美<sup>1)</sup>, 伊藤博信<sup>1)</sup>, 白井康正(<sup>1)</sup>解剖学第2): ラット最長筋紡錘における感覚神経終末の組織化学的観察. 第87回日本解剖学会関東地方会, 1999 . 10 .
- 50) 沢泉卓哉: 橈骨遠位端切除後にulnar plus variantを呈した1例. 第5回東京手・肘の外科研究会, 1999 . 10 .
- 51) 斉藤 善, 白井康正, 玉井健介, 南 和文, 中嶋隆夫, 清水要吉, 小林俊之, 村田修二: 術整復不能だった示指DIP関節背側脱臼の1例. 第598回関東整形災害外科学会月例会, 1999 . 10 .
- 52) 林 英俊, 白井康正, 中山義人, 南 和文, 成田哲也, 森 淳, 間瀬泰克, 江川慶長: スキー, スノーボード共同利用ゲレンデによる外傷の特異性について. 第10回日本臨床スポーツ医学会, 1999 . 10 .
- 53) 村重良一, 武内俊次, 井出勝彦, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 田中功二: 橈骨頭単独後方脱臼の1例. 神奈川関節外科学会, 1999 . 10 .
- 54) 萬歳祐子, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 橋口 宏, 飯澤典茂: 特発性胸椎硬膜外血腫の2例. 第48回東日本整形災害外科学会, 1999 . 10 .

- 55) 宮本雅史, 白井康正, 中山義人, 元文芳和, 南部昭彦, 山田哲士: 急速に椎間板破壊を認めた SAPHO Syndrome の 1 例. 第 7 回日本腰痛研究会, 1999. 10.
- 56) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 南野光彦, 河路秀巳: 吸収性骨接合ピンを髄内釘として用いた手指骨骨折の治療経験. 第 5 回神奈川手・肘の外科研究会, 1999. 10.
- 57) 小野寺剛, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 金田和容, 高松 眞: 腰椎前方固定術後における家兎椎間関節の知覚神経終末分布の変化. 第 16 回日本整形外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 58) 玉井健介, 白井康正, 中嶋隆夫, 小林俊之, 村田修二: 特発性大腿骨頭壊死の凝固, 線溶系の検討. 第 26 回日本股関節学会, 1999. 10.
- 59) 林 英俊, 江川慶長: 関節鏡視下手術と超早期リハビリテーションによる治療の試み. 第 50 回長野県医学会, 1999. 11.
- 60) 武田知通, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 八百板仁志: Dynamization の骨折治癒過程に及ぼす影響の実験的検討 (第 2 報). 第 26 回日本臨床バイオメカニクス学会, 1999. 11.
- 61) 村田修二, 白井康正, 南 和文, 間瀬泰克, 中嶋隆夫, 小林俊之: プロボクシングの同一試合中に両側の中手骨折を起こした 1 例. 第 10 回日本臨床スポーツ医学会, 1999. 11.
- 62) 服部幹彦, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 金 竜, 南部昭彦, 萬歳祐子, 江川慶長: 間欠的牽引療法が体性感覚誘発電位に及ぼす影響. 第 29 回日本脳波・筋電図学会, 1999. 11.
- 63) 中島敏晶<sup>1)</sup>, 岩本喜久美<sup>1)</sup>, 太田信孝, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): ステロールセンサー SREBP deavage-activating protein (SCAP) 遺伝子の構造解析と多型マーカーの同定. 第 44 回日本人類遺伝学会, 1999. 11.
- 64) 江川慶長, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 金 竜, 南部昭彦, 萬歳祐子, 服部幹彦: 頸部脊髄症を外傷的頸部症候群における C 反応の検討. 第 29 回日本脳波筋電図学会, 1999. 11.
- 65) 南野光彦, 白井康正, 青木孝文, 南部昭彦, 萬歳祐子: 手根管症候群における順行性感覚神経 inching 法の試み. 第 29 回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1999. 11.
- 66) 萬歳祐子, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 金田琴恵, 金 竜, 南部昭彦: 腰部脊柱管狭窄症患者の交感神経活動に関する微小電図学的検討. 第 29 回日本脳波・筋電図学会, 1999. 11.
- 67) 井出勝彦, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 橋口 宏: 上腕骨外科頸骨折の内反変形に対する治療法の検討. 第 26 回日本肩関節学会, 1999. 11.
- 68) 鈴木康之, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文: Double crush syndrome の動物モデルによる再現実験. 第 29 回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1999. 11.
- 69) 青木孝文, 白井康正, 武内俊次, 金 竜, 南部昭彦, 萬歳祐子, 服部幹彦, 江川慶長: 頸椎症性脊髄症における上肢の SSEP と MEP 関連について. 第 29 回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1999. 11.
- 70) 井出勝彦, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 橋口 宏: 上腕骨外科頸骨折の内反変形に対する治療法の検討. 第 26 回日本肩関節学会, 1999. 11.
- 71) 林 英俊, 白井康正, 間瀬泰克, 米田 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪厚生年金病院整形外科): 夜間痛を主訴とする腱板断裂に対する鏡視下肩峰下除圧術. 第 25 回日本関節鏡学会, 1999. 12.
- 72) 沢泉卓哉, 白井康正, 青木孝文: 成人ばね指に対するステロイド腱鞘内注入: トリアムシノロンとベヌメサゾンの比較. 第 14 回東日本手の外科研究会, 2000. 2.
- 73) 沢泉卓哉, 白井康正, 黒川高秀, 南野光彦, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行: 指尖部欠損例に対するイリザロフ法による仮骨延長法. 第 14 回東日本手の外科研究会, 2000. 2.
- 74) 沢泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 橋口 宏, 家田俊也, 南部昭彦, 六郷知行, 小寺訓江: 小児上腕骨顆上骨折後の anterior spike の残存と治療成績. 第 6 回日本肘関節研究会, 2000. 2.
- 75) 六郷知行, 白井康正, 伊藤博元, 沢泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦: Zonell III における長母指屈筋腱皮下断裂の 1

- 症例．第14回東日本手の外科研究会，2000．2．
- 76) 杉山 修，白井康正，中山義人，南 和文，中嶋隆夫，清水要吉，小林俊之，村田修二：大腿骨顆部に巨大な Geode が生じた RA の 1 例．第 600 回関東整形災害外科学会月例会，2000．2．
- 77) 橋口 宏，白井康正，沢泉卓哉，南野光彦，小寺訓江：上腕骨遠位関節内骨折における術後成績不良因子の検討．第 12 回日本肘関節研究会，2000．2．
- 78) 小寺訓江，白井康正，沢泉卓哉，橋口 宏，南野光彦，北川泰之：内反肘に合併した滑膜ひだ障害の 1 例．第 12 回日本肘関節研究会，2000．2．
- 79) 林 英俊，江川慶長：肩関節不安定症に対する関節鏡視下 Boukout 法の小経験．第 85 回信州整形外科懇親会，2000．2．
- 80) 小林 薫，白井康正，中山義人，成田哲也，森 淳：ACL 再建術における半月板損傷放置例の術後経過．第 1 回日本膝関節学会，2000．2．
- 81) 成田哲也，白井康正，中山義人，森 淳，小林 薫，武田知通：超早期後療法を行った半腱様筋・薄筋腱を用いた Augmentation 法鏡視下膝前十字靭帯再建術の短期成績．第 1 回日本膝関節学会学術集会，2000．2．
- 82) 江川慶長，林 英俊：肩関節不安定症に対し関節鏡視下縫縮．第 85 回信州整形外科懇談会，2000．2．
- 83) 南野光彦，白井康正，沢泉卓哉，六郷知行：橈骨遠位端骨折の保存的治療による治療成績．第 14 回東日本手の外科研究会，2000．2．
- 84) 南野光彦，白井康正，沢泉卓哉，青木孝文，橋口 宏，小寺訓江：橈骨頭および頸部骨折の治療．第 12 回日本肘関節研究会，2000．2．
- 85) 吉原 潔，武内俊次，井出勝彦，上坂真司，丸山晴久，田中功一，村重良一：腰椎棘突起に転移した肺原発 adenocarcinoma の 1 例．第 108 回神奈川整形災害外科医会，2000．3．
- 86) 南部昭彦，白井康正，武内俊次，青木孝文，金 竜，萬歳祐子：筋交感神経活動と前脛骨筋内血流量の相関について．第 29 回日本脳波・筋電図学会，1999．10．
- 87) 太田信孝，中島敏晶<sup>1)</sup>，鈴木隆雄<sup>2)</sup>，吉田英世<sup>2)</sup>，細井孝之<sup>2)</sup>，折茂 肇<sup>2)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>，白井康正<sup>(1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所)：骨粗鬆症における IL6 遺伝子座の sib-pair 解析．第 44 回日本人類遺伝学会，1999．11．

## 13. 産婦人科学講座

### [ 付属病院産婦人科 ]

#### 研究概要

本年度の当教室における研究は以下のごとく、広く産婦人科全域をカバーするものであった。

周産期部門：低酸素による胎児脳障害の予防法としての低体温療法に関する研究や、同病態におけるNOの関与形式などが研究された。胎児脳機能とadenosineの生理的役割も引き続き検討され、さらに、妊娠中毒症発症との関連性も検討された。臨床的研究としては、羊水過少へに対するmaltose療法、twin to twin syndromeの胎児予後判定における中大脳動脈の血流速度の意義、臍帯動脈血流速度の各種疾病における臨床的意義などが研究され、国際的な雑誌に収載された。

腫瘍学：子宮筋腫発生機序における遺伝子異常の解析、婦人科腫瘍におけるPyNPase活性とDPD活性などが研究されている。臨床研究としては、卵巣成熟嚢胞性奇形種悪性転化例をまとめ、マーカーコンビネーションアッセイを完成した。

不妊症：習慣性流産の機序を想定した流産ラットモデルにおけるICAM-1/LFA-1の役割や、細径の腹腔鏡を用いた観察の臨床的意義を発表した。

手術学：子宮癌に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術式を完成させた。

その他、多くの臨床症例を論文としてまとめ国際的な雑誌に投稿した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu K, Akira S, Yaakub A, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : Video-assisted neck Surgery : Endoscopic resection of thyroid tumors with a very minimal neck wound . American Collese of Surgeons 1999 ; 188 ( 6 ) : 697-703 .
- 2) Asakura H, Nakai A, Yokota A, Sekiguchi A, Koshino T, Araki T : Continuous observation of nitric oxide production in the fetal rat brain during uteroplacental ischemia . Fetal Diagnosis and Therapy 1999 ; 14 : 354-359 .
- 3) Kurose K, Araki T, Matsunaka T<sup>1)</sup>, Takada Y<sup>1)</sup>, Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>西条中央病院内科, <sup>2)</sup>老人病研究所分子生物学部門 ): Variant Manifestation of Cowden Disease in Japan : Hamartomatous Polyposis of the Digestive Tract with Mutation of the PTEN Gene . Am J Hum Genet 1999 ; 64 : 308-310 .
- 4) Suzuki S, Power GG : Role of adenosine in regulation of brain temperature in fetal sheep . Am J Obstet Gynecol 1999 ; 181 : 681-687 .
- 5) Chihara H, Otsubo Y, Ohta Y, Araki T : Prenatal diagnosis of succenturiate lobe by ultrasonography and color Doppler imaging . Arch Gynecol Obstet 1999 ; 263 ( 3 ) : 137-138 .
- 6) Otsubo Y, Shinagawa T, Chihara H, Araki T : Conservative management of a case of placenta praevia percreta . Aust N Z J Obstet Gynaecol 1999 ; 39 ( 4 ) : 518-519 .
- 7) Suzuki S, Mine K, Sawa R, Yoneyama Y, Araki T : 10% maltose infusion therapy for oligohydramnios . Aust NZ Obstet Gynecol 1999 ; ( 39 ) : 373-375 .
- 8) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Shinagawa T, Hayashi T, Araki T : Amniotic Band Syndrome in Triplet Pregnancy . Fetal Diagnosis Therapy 1999 ; 14 : 351-353 .

- 9) Suzuki S , Otsubo Y , Sawa R , Yoneyama Y , Araki T : Prediction of oligohydramnios in prolonged pregnancy . *Gynecol Obstet Invest* 1999 ; 48 : 85-88 .
- 10) Suzuki S , Sawa R , Yoneyama Y , Otsubo Y , Araki T : Fetal middle cerebral artery Doppler waveforms in twin-twin transfusion syndrome . *Gynecol Obstet Invest*. 1999 ; ( 48 ): 237-240 .
- 11) Otsubo Y , Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Araki T : Sonographic evaluation of umbilical cord insertion with umbilical coiling index . *J Clin Ultrasound* 1999 ; 27 ( 6 ): 341-344 .
- 12) Ohshita T , Suzuki S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : Perinatal diagnosis of acute massive fetomaternal hemorrhage . *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 : 266-269 .
- 13) Mine K , Suzuki S , Watanabe S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : Perinatal diagnosis of autosomal recessive polycystic kidney disease . *J Nippon Med Sch* 1999 ; 6 : 188-190 .
- 14) Suzuki S , Ishikawa G , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : Umbilical venous pulsation indicating tight cord entanglement in monoamniotic twin pregnancy . *J Ultrasound Med* 1999 ; 18 : 425-427 .
- 15) Mine N , Bnado K<sup>1)</sup> , Utada Y , Nagai H<sup>1)</sup> , Araki T , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所分生物学部門 ): Tow single nucleotide polymorphism of the hSNF5/IN1 gene . *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 354-355 .
- 16) Suzuki S , Okudaira S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Shin S , Kaneko K , Akira T : Characteristics of monochorionic-diamniotic growth-retarded twins during the third trimester . *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 : 300-304 .
- 17) Otsubo Y , Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Araki T : Fetal brain death and Dandy-Walker malformation . *Prenat Diagn* 1999 ; 19 ( 8 ): 777-779 .
- 18) Nakai A , Asakura H , Oya A , Yokota A , Koshino T , Araki T : Pulsed doppler US findings of renal interlobar arteries in pregnancy-induced hypertension . *Radiology* 1999 ; 213 : 2423-2428 .
- 19) Murata T , Jiang L , Hunter C , Power G. G : Application of Laser Doppler floemetry to measure cerebral microvascular perfusion in the fetal sheep . *Keio Journal of Medicine* 1999 ; 49 ( 1 ): 58-59 .
- 20) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Takeuchi T , Power GG , Araki T : Maternal Plasma Adenosine Levels in Pregnancies complicated by Toxemia . *Trophoblast Research* 1999 ; 13 : 407-414 .
- 21) Takeshita T , Satomi M , Akira S , Nakagawa Y , Takahashi H , Araki T : Preventive Effect of Monoclonal Antibodies to ICAM-1 and LFA-1 on Murine Spontaneous Fetal Resorption . *Am J Reprod Immunol* 2000 ; 43 ( 3 ): 180-185 .
- 22) Satomi M , Takeshita T , Ichikawa M , Kin E , Takahashi H , Araki T : Blocking the ICAM-1/LFA-1 interaction reduces murine spontaneous fetal resorption by improving the Th1/Th2 balance . *J Reprod Immunol* 2000 ; 46 ( 2 ): 31-32 .
- 23) Kurose K , Araki T , Mine N , Doi D , Ota Y , Yoneyama K , Konishi H , Araki T , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門 ): Novel gene fusion of COX6C at HMGIC at 12q15 in a uterine leiomyoma . *Genes Chromosomes & Cancer* 2000 ; 27 : 303-307 .
- 24) Kurose K , Mine N , Doi D , Ota Y , Yoneyama K , Konishi H , Araki T , Rme M : Novel gene fusion of COX6C at HMGIC at 12q15 in a uterine leiomyoma . *Genes Chromosomes Cancer* 2000 ; 27 : 303-307 .
- 25) Suzuki S , Otsubo Y , Sawa R , Yoneyama Y , Araki T : Clinical trial of induction of labor versus expectant management in twin pregnancy . *Gynecol Obstet Invest* 2000 ; 49 : 24-27 .
- 26) Nishi Y , Suzuki S , Ohtsubo Y , Ishikawa G , Ichikawa M , Takei R , Sawa R , Yoneyama K , Yoneyama Y , Araki T : B-cell-type malignant lymphoma with placental involvement . *J Obste Gynecol Res* 2000 ; 26 : 39-43 .
- 27) Suzuki S , Murata T , Jiang L , Power GG : Hypothermia prevents metabolic and cerebral flow responses

- to hypoxia in the fetal sheep . J Soc Gynecol Investig 2000 ; ( 7 ) : 45-50 .
- 28) Nakai A , Asakura H , Taniuchi Y , Koshino T , Araki T : Sjesjo Bo K, Effect of - phenyl-N-tert-Butyl Nitrotrone ( PBN ) on fetal cerebral energy metabolism during intrauterine ischemic and reperfusion in rats . Pediatr Resaerch 2000 ; 47 : 451-456 .
- 29) 桑原慶充 , 石川 源 , 鈴木俊治 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 , 平田倫生<sup>1)</sup> , 与田仁志<sup>1)</sup> , 川上義<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日赤医療センター小児科 ) : 胎児 MRI を施行した脳室内出血後水頭症 : Single shot fast spin echo法による胎児 MRI の検討 . 産婦東京会誌 1999 ; 48 ( 3 ) : 437-441 .
- 30) 柴田浩之 , 竹内正人 , 桑原慶充 , 窪谷 潔 , 篠原継男<sup>1)</sup> , 粟田口康一<sup>1)</sup> , 進 純郎 ( <sup>1)</sup>葛飾赤十字産院 ) : 当院における思春期の妊娠の現状 . 産婦東地方誌 1999 ; 48 ( 4 ) .
- 31) 清水一雄 , 田尻 孝 , 明楽重夫 , 北川 亘 , 赤須東樹 , 田中茂夫 : Video-assisted neck surgery ( VANS ) : 吊り上げ法を応用した内視鏡下甲状腺 , 上皮小体手術 . 日本内視鏡外科学会雑誌 1999 ; 4 ( 6 ) : 553-557 .
- 32) 中山裕樹 , 松下径広 , 宮城悦子 , 小野瀬亮 , 加藤久盛 , 土居大祐 , 仲沢経夫 , 岡島弘幸 : 子宮体癌の予後因子 : 術中病巣体部限局例の検討 . 産婦の実際 1999 ; 48 : 1117-1121 .
- 33) 清川寧子 , 鈴木俊治 , 木島一洋 , 林 瑞成 , 武井麟太郎 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 : 胎児消化管狭窄症に対する羊水造影の有用性の再評価 . 産婦の実際 1999 ; 49 .
- 34) 渡辺昇一 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 : 妊娠悪阻における体温調節の特徴 : 甲状腺機能との関連性 . 産婦の世界 1999 ; 51 : 33-39 .
- 35) 明楽重夫 , 石川 源 , 荒木 勤 , 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院麻酔科 ) : 腹腔鏡下手術時の麻酔トラブルの対処 . 産婦人科の実際 1999 ; 48 ( 4 ) : 509-514 .
- 36) 鈴木俊治 , 土居大祐 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 : 胃癌合併妊娠 . 産婦人科治療 1999 ; 79 : 434-436 .
- 37) 朝倉啓文 , 関口敦子 , 荒木 勤 : 胎児・新生児の体温調節 . 体外環境と胎児・新生児 1999 ; 18 ( 6 ) : 486-489 .
- 38) 荒木 勤 : 満足のいくお産へのプレリユード . 島根母性衛生学会雑誌 1999 ; 30 : 3-7 .
- 39) 武内 務 , 岩崎卓爾 , 里見操緒 , 高橋 肇 , 若月雅美 , 松本讓二 , 鴨井青龍 , 河村 堯 , 荒木 勤 : 妊娠18週より両側胸水・皮下浮腫を認めた非免疫性胎児水腫の1例 . 産婦関東連合会報 1999 ; 36 ( 2 ) : 201-201 .
- 40) 金 栄淳 , 大坪保雄 , 加藤真紀子 , 石川 源 , 鈴木俊治 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 荒木 勤 : 産褥期に発症した潰瘍性大腸炎 . 産婦東京会誌 1999 ; ( 48 ) : 24-27 .
- 41) 米山剛一 , 土居大祐 , 黒瀬圭輔 , 峯 克也 , 西 弥生 , 太田雄治郎 , 荒木 勤 , 川本雅司<sup>1)</sup> , 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第1 , <sup>2)</sup>付属病院病理部 ) : 細胞診にて発見され腫瘍随伴神経症候群を呈したneuroendocrine carcinoma . 産婦東京地方部会誌 1999 ; 48 ( 4 ) : 496-496 .
- 42) 瀬戸真理子 , 林 瑞成 , 渡辺昇一 , 鈴木俊治 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 : 低髄圧症候群合併妊娠の経験 . 産婦東京地方部会誌 1999 ; ( 49 ) : 23-26 .
- 43) 鈴木俊治 , 米山芳雄 , 澤倫太郎 , 窪谷 潔 , 朝倉啓文 , 河村 堯 , 荒木 勤 : 母体低酸素ストレス下の胎仔脳温変化の観察 . 日本産科婦人科栄養代謝研究会誌 1999 ; 5 ( 1 ) : 62-63 .
- 44) 鈴木俊治 , 進 純郎 , 荒木 勤 : 双胎妊娠とウエイトコントロール . 日本産科婦人科栄養代謝研究会誌 1999 ; 5 ( 1 ) : 10-12 .
- 45) 渡辺昇一 , 朝倉啓文 , 関口敦子 , 越野立夫 , 荒木 勤 : 妊娠悪阻の体温調節の特徴 . 日本産科婦人科栄養代謝研究会誌 1999 ; 5 ( 1 ) : 56-57 .
- 46) 渡辺昇一 , 明楽重夫 , 山中温子 , 大村 浩 , 竹下俊行 , 荒木 勤 : 新しい腹壁吊り上げ鉤の使用経験 . 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 1999 ; 15 : 129-131 .

- 47) 石川みずえ, 依光あゆみ, 高橋英彦, 宮川 昇, 岡田 清: 帝王切開癒痕部に反復した腹壁子宮内膜症. 日本産婦人科学会東京地方部会誌 1999; 48: 203-206.
- 48) 渡辺昇一, 関口敦子, 八木修立郎, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 妊娠悪阻とreverse T3 との関連性. 日本産婦人科新生児血液学会誌 1999; 9(1): 121-122.
- 49) 渡辺昇一, 鈴木俊治, 八木修立郎, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 妊娠2半期で発症した急性妊娠性脂肪肝の経験. 日本妊娠中毒症学会誌 1999; (7): 119-120.
- 50) 大下知子, 林 瑞成, 鈴木俊治, 米山芳雄, 竹下俊行, 朝倉啓文, 荒木 勤: 超音波観察による胎盤Gradeと血液凝固状態との関連性の検討. 日本妊娠中毒症学会誌 1999; (7): 125-126.
- 51) 可世木久幸, 貝原賢二, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 卵管注入圧パターン解析による卵管機能評価法の基礎的検討. 日不妊会誌 2000; 45(1): 25-29.
- 52) 瀬戸真理子, 林 瑞成, 渡辺昇一, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 低髄圧症候群合併妊娠の経験. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2000; 49(1): 21-23.
- 53) 林 隆, 奥平さやか, 渡辺美千明, 石塚 修<sup>1)</sup>, 中村 理<sup>1)</sup>, 赤池 康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>下都賀総合病院呼吸器内科, <sup>2)</sup>同病理): 子宮体癌およびMeigs症候群を併発して卵巣顆粒膜細胞腫の1例. 栃木県産婦人科医報 2000; 27(1).
- 54) 澤倫太郎, 荒木 勤: 産科DICの診断と治療. 産婦人科治療 2000; 78(4): 365-366.
- 55) 藤田千歳, 米山剛一, 荒木 勤, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 子宮がん検診の頸部細胞診が発見の契機となったNormal-sized ovary carcinoma syndrome の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 2000; 39(2): 117-118.

(2) 総説:

- 1) 朝倉啓文, 関口敦子, 荒木 勤: 体外環境と胎児, 新生児: 胎児, 新生児の体温調節. ペリネータルケア 1999; 18: 486-490.
- 2) 竹下俊行, 石川 源, 荒木 勤: (特集:産婦人科薬物療法) Step upとその限界 2. 婦人科薬物療法 習慣流産. 産婦人科の実際 1999; 48(12): 1825-1832.
- 3) 鈴木俊治, 奥平さやか, 桑原慶充, 澤倫太郎, 荒木 勤: 前回IUGRの既往のある妊娠. 周産期医学 1999; 29(9): 1061-1064.
- 4) 竹下俊行, 小林 肇, 桑原慶充, 荒木 勤: 周産期管理の実際: わが教室における妊婦管理. 産婦人科治療 1999; 78: 268-274.
- 5) 米山芳雄, 荒木 勤: 過強陣痛. 産婦人科の実際 1999; 48(12): 1783-1788.
- 6) 明楽重夫, 荒木 勤: 子宮外妊娠. 産婦人科の実際 1999; 48(12): 1819-1824.
- 7) 澤倫太郎, 鈴木俊治, 米山芳雄, 荒木 勤: 脳性麻痺は予防できるか. 産婦人科 1999; (48): 1333-1339.
- 8) 米山芳雄, 荒木 勤: 産婦人科救急疾患に対する補助診断: 症状と画像的診断. 救急医学 2000; 24: 19-23.
- 9) 朝倉啓文, 荒木 勤: 反復の帝切. 臨床産婦 2000; 53: 486-490.
- 10) 荻原弘光, 大坪保雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 重症悪阻の栄養管理. 産婦治療 2000; (80): 255-259.
- 11) 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 肥満妊婦に対する周産期母子保健指導. 周産期医学 2000; 30: 177-179.

著 書

- 1) 明楽重夫: [分担, 翻訳] 妊娠前の女性生殖生理学と女性ホルモン. ガイトン臨床生理学(早川弘一), 1999; pp1027-1042, 医学書院.
- 2) 武谷雄二: [編集] 8. 産婦人科救急. 新女性医学大系(全44巻)(武谷雄二, 荒木 勤編), 1999; 中山書店.

- 3) 明楽重夫, 荒木 勤: [分担] 子宮外妊娠. 新女性大系 8. 産婦人科救急 (荒木 勤編), 1999; 中山書店.
- 4) 澤倫太郎, 荒木 勤: [分担] 常位胎盤早期剥離. 新女性大系 8. 産婦人科救急 (荒木 勤編), 1999; 中山書店.
- 5) 荒木 勤, 澤倫太郎, 進 純郎: [分担] 常位胎盤早期剥離. 臨床エビデンス産科学 (佐藤和雄, 藤本征一郎編), 1999; pp260-265, メディカルビュー社.
- 6) 大坪保雄, 荒木 勤: [分担] 骨盤計測. 産婦人科研修医ノートD検査 (三橋直樹編), 2000; pp135-137, 診断と治療社.
- 7) 林 瑞成, 荒木 勤: [分担] 妊娠の異常: 高年妊娠・出産におけるインフォームド・コンセント. インフォームド・コンセント ガイダンス: 周産期編 (佐藤和雄, 水口弘司編), 2000; pp330-339, 先端医学社.
- 8) 荒木 勤, 大村 浩: [分担] 母子感染: 適切な診断と治療法 クラミジア (カンジダ, トリコモナスを含む). 図説産婦人科VIEW (荻田幸雄, 今中基晴編), 2000; pp114-121, メディカルビュー社.
- 9) 大坪保雄, 荒木 勤: [分担] 骨盤計測. 産婦人科研修医ノート, 2000; pp80-81, 診断と治療社.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 荒木 勤: 21世紀の脳性麻痺予防対策: 夢から現実へ. 第123回新潟産科婦人科集団会, 1999. 6.
- 2) 朝倉啓文: 双胎児の問題点とその対策. 東北周産期セミナー, 1999. 7.
- 3) 朝倉啓文: 我が国における出生時仮死による脳性麻痺児発症の実態: 日母全国調査結果. 群馬県高崎市産婦人科医会ジャーナルクラブ, 1999. 11.
- 4) 荒木 勤: 過期妊娠の取り扱い方: 今, 何が問題か. 第112回日本産科婦人科学会秋田地方部会, 1999. 11.
- 5) 荒木 勤: 安全で満足のゆく分娩へのプレユード. 第250回足立区産婦人科医会二金会, 1999. 11.
- 6) 竹下俊行: 妊娠第41週の取扱い: 今何が問題か. 江戸川区産婦人科医会, 2000. 1.
- 7) 竹下俊行: 過期妊娠の取り扱い. 日本産科婦人科学会岩手地方部会例会, 2000. 1.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 明楽重夫: 子宮癌に対するリンパ節郭清術への腹腔鏡の応用. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会, 1999. 8.
- 2) 米山剛一: 腫瘍マーカー combination assay の現状と限界: 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーコンビネーションアッセイ. 第4回日本産科婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 2000. 2.

##### (3) パネルディスカッション:

- 1) 明楽重夫: 新しい内視鏡外科手技: 泌尿器・産婦人科領域. 第12回内視鏡外科学会, 1999. 12.

##### (4) セミナー:

- 1) 竹下俊行: 不育症の取り扱い. 岩手不妊セミナー, 2000. 10.

##### (5) ワークショップ:

- 1) 竹下俊行: 「妊娠41週の取り扱い」過期妊娠いま何が問題か. 第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 10.
- 2) 竹下俊行, 里見操緒, 中川洋子<sup>1)</sup>, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 市川雅男, 金 栄淳, 荒木 勤, 高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科, <sup>2)</sup>微生物学・免疫学): 産産モデルマウス (CBA/JxDBA/2) における ICAM-1/LFA-1 相互作用の意義. 第29回日本免疫学会総会, 1999. 12.

##### (6) 一般講演:

- 1) Kijima K, Akira S, Kitamura Y, Kitagawa W, Takatsu K, Akusu H, Araki T, Tanaka S: Endoscopic Resection of Thyroid and Parathyroid Tumors with a very Minimal Neck Wound using The Gasless Anterior Neck Life Method: Experience of 30 Cases. 34th Congress of the European Society of Surgical Research (ESSR) (Switzerland), 1999. 4.



- 2) Hirose T, Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Asakura H, Araki T : Fetal Renal Artery Doppler Waveforms in Prolonged Pregnancy . 12th Congress of the International Perinatal Doppler Society, 2nd Workshop on Fetal Asphyxia ( Greece ), 1999 . 6 .
- 3) Nakai A, Asakura H, Taniuchi Y, Koshino T, Araki T, Siesjo B. K : Effect of  $\alpha$ -phenyl-N-tert-butyl-nitron (PBN) on Fetal cerebral energy metabolism during intrauterine ischemia and perfusion in rats . 19th International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 4th International Conference on Quantification of Brain Function with PET ( Denmark ), 1999 . 6 .
- 4) Shimizu K, Akira S, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Ishii R, Araki T, Tanaka S : Endoscopic resection of thyroid and parathyroid tumors with a very minimal neck wound using the gasless anterior neck lift method : Experience of 30 cases . 38th World Congress of Surgery of the International Society of Surgery ( ISS ), International Association of Endocrine Surgeons ( Austria ), 1999 . 8 .
- 5) Murata T, Jiang L, Hunter C, Power G. G : Application of Laser Doppler flowmetry to measure cerebral microvascular perfusion in the fetal sheep . 5th International Conference on Xenon CT-CBF ( 東京 ), 1999 . 9 .
- 6) モハマットガジザデ<sup>1)</sup>, 申 桂華, 清水 一<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 井上京子, 川並汪一<sup>1)</sup>, 荒木 勤, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): Significance of Vascular Endothelial Growth Factor Expression and Micro Vessel Count in Human Ovarian Carcinomas . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
- 7) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Ohshita T, Okudaira S, Kawase R, Asakura H, Araki T : Fetal heart rate patterns in massive fetomaternal transfusion syndrome : Acute or chronic? . 31st International Congress on Pathophysiology of Pregnancy ( China ), 1999 . 10 .
- 8) Yamanaka A, Akira S, Ishihara T, Seto M, Takeshita T, Araki T : Expression of CRF and CRF-R Type I Messenger RNA in the Rat Fetal Brain and Its Responsiveness to LPS Challenge . 13th Asia-Pacific Endocrine Conference ( Hawaii ), 2000 . 2 .
- 9) Ishikawa G, Akira S, Yamanaka A, Nishida N, Takeshita T, Araki T : New Retractor System for Gasless Laparoscopic Surgery and Its Clinical Applications in the OB/GYN Field . 13th Asia-Pacific Endocrine Conference ( Hawaii ), 2000 . 2 .
- 10) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otubo Y, Hayashi Z, Araki T, Murata T, Power G. G : Maternal Plasma Adenosine Concentrations and Platelet Activation in Normal Pregnancy . 47th Annual Meeting of Society for Gynecologic Investigation ( Chicago ), 2000 . 3 .
- 11) 新見やよい<sup>1)</sup>, 落合廣武<sup>1)</sup>, 森本健介<sup>1)</sup>, 青木恵理<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 米山剛一, 篠田欣也<sup>2)</sup>, 楠俊雄<sup>1)</sup>, 橋本 隆<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院第4内科, <sup>3)</sup>久留米大学皮膚科 ): 子宮癌を伴った paraneoplastic pemphigus . 第98回日本皮膚科学会総会, 1999 . 4 .
- 12) 鴨井青龍, 高橋 肇, 里見操緒, 武内 務, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 河村 堯, 荒木 勤 : 子宮頸部腺癌に対する術前BOAI法の病巣部免疫担当細胞に与える影響 . 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999 . 4 .
- 13) 小野瀬亮, 松下径広, 宮城悦子, 加藤久盛, 中山裕樹, 土居大祐, 仲沢経夫, 杉山正人, 山下浩介, 北村達夫 : MRI計測による子宮頸癌放射線治療例の予後検討 . 第37回日本癌治療学会, 1999 . 10 .
- 14) 太田雄治郎, 黒瀬圭輔, 八田充子, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤 : 婦人科腫瘍のPyN-Pase活性とDPD活性の測定 . 第37回日本癌治療学会, 1999 . 10 .
- 15) 渡辺昇一, 朝倉啓文, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 米山芳雄, 峯 克也, 越野立夫, 荒木 勤 : 悪阻における体温調節機能と脂肪酸代謝との関連性 . 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999 .
- 16) 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤 : ヒト胎盤Ca<sup>2+</sup>非依存性一酸化窒素合成酵素の検討 . 第51回日本

産科婦人科学会総会, 1999. 4.

- 17) 渡辺昇一, 朝倉啓文, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 米山芳雄, 峯 克也, 越野立夫, 荒木 勤: 悪阻における体温調節機能と胎代謝との関連性. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 18) 中井章人, 朝倉啓文, 谷内良成, 臼井文男, 三田俊二, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 虚血再環流障害におけるラット胎仔脳のエネルギー代謝と *p*-phenyl-N-butyl nitron (PBN) の効果. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 19) 黒瀬圭輔, 江見 充<sup>1)</sup>, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤<sup>(1)</sup> (老人病研究所分子生物学部門): 日本人子宮体癌患者において同定したPTEN遺伝子両側対立遺伝子の不活化. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 20) 山中温子, 明楽重夫, 川瀬里衣子, 竹下俊行, 荒木 勤: 妊婦における腹壁吊り上げ法腹腔鏡下卵巢嚢腫摘出術: 術式の確立と児の予後の検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 21) 可世木久幸, 平田昌二, 貝原賢二, 斉藤 恵, 小林三平, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮鏡下ソノヒステログラフイー (H-SHG) の開発と臨床応用. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 22) 澤倫太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 桑原慶充, 武井麟太郎, 兼子和彦, 進 純郎, 荒木 勤: Wernicke-Korsakoff症候群を合併した重症妊娠悪阻50症例の検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 23) 木島一洋, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 小林 肇, 朝倉啓文, 河村 堯, Power G. G, 荒木 勤: ヤギ胎仔に対するendotoxin投与が陣痛発来機構におよぼす影響. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 24) 塚田克也, 松島 隆, 斉藤糧三, 三並伸二, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: ラット新生黄体における血管構築と血流の検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 25) 関谷隆夫, 小田部徹, 深見武彦, 塚田克也, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮腔内病変の超音波3D画像の作製と臨床的意義の検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 26) 斉藤 恵, 貝原賢二, 林 康子, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波画像からみた前置胎盤における産科出血の予測. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 27) 深見武彦, 関谷隆夫, 吉松和彦, 根本芳広, 三並伸二, 斉藤糧三, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中期の子宮頸部の超音波画像からみた切迫流産の前方視的検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 28) 米山剛一, 太田雄治郎, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 卵巢成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の臨床的因子に関する検討. 第51回日本産科婦人科学会総会, 1999. 4.
- 29) 桑原慶充, 石川 源, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤, 平田倫生<sup>1)</sup>, 与田仁志<sup>1)</sup>, 川上義<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日赤医療センター小児科): 胎児MRIを施行した脳室内出血後水頭症. 第310回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1999. 5.
- 30) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基: 卵巢腫瘍との鑑別が困難であった, von Recklinghausen母斑症合併小腸平滑筋肉腫の1例. 第313回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1999. 5.
- 31) 石川みずえ, 依光あゆみ, 高橋英彦, 宮川 昇, 岡田 清: 付属器疾患との鑑別に苦慮した虫垂腫瘍の2症例. 第313回日産婦東京地方部会例会, 1999. 6.
- 32) 林 隆, 渡辺美千明, 奥平さやか: 巨大卵巢嚢腫および類比嚢腫に対する腹腔鏡手術. 第3回栃木県内視鏡外科学研究会, 1999. 6.
- 33) 渡辺美千明: 腹腔鏡下单純子宮全摘術 (LH) およびLHにおける課題. 第3回栃木県内視鏡外科学研究会, 1999. 6.
- 34) 加藤久盛, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 中山裕樹, 土居大祐, 仲沢経夫: 子宮頸癌1a2期の細胞診断学的検討. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.
- 35) 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 土居大祐, 仲沢経夫: 子宮体部漿液性腺癌7例の検討. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.

- 36) 宮城悦子, 松下径広, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 仲沢経夫: 長期間の帯下を主訴とし悪性腺腫が共存した高分化型子宮頸部腺癌の1例. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.
- 37) 中山裕樹, 松下径広, 宮城悦子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 土居大祐, 仲沢経夫: 内膜細胞診偽陽性例の臨床的背景. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.
- 38) 小田部徹, 関谷隆夫, 石原楷輔, 根本芳広, 塚田克也, 可世木久幸, 荒木 勤: 新しい経膈的卵巣ドレナージ用バルーンキットの開発と使用経験. 第72回日本超音波医学会総会, 1999. 6.
- 39) 関谷隆夫, 石原楷輔, 小田部徹, 深見武彦, 吉松和彦, 塚田克也, 可世木久幸, 荒木 勤: Cinememoryを用いた3D超音波画像による妊娠初期胎児の観察. 第72回日本超音波学会総会, 1999. 6.
- 40) 小林 肇, 明楽重夫, 大村 浩, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤: 嚢胞性変化を呈した深在性子宮内膜症. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 6.
- 41) 品川志野, 大下知子, 河合尚基: 卵巣悪性腫瘍茎捻転の4例. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 6.
- 42) 貝原賢二, 根本芳広, 林 康子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 我々の行っているヒト卵管通水圧測定法. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 43) 三並伸二, 小田部徹, 林 康子, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 更年期外来における経膈超音波の有用性. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 44) 武井麟太郎, 林 瑞成, 小木三郎, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 出生前診断し得た胎児鞍上部クモ膜嚢胞. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 45) 金 栄淳, 米山剛一, 峯 克也, 土居大祐, 太田雄治郎, 明楽重夫, 荒木 勤: 小児急性腹症としての卵巣成熟嚢胞性奇形腫茎捻転. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 46) 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 常位胎盤早期剥離における超音波画像の検討. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 47) 斉藤糧三, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 性器出血を伴う絨毛膜下血腫の検討. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 48) 渡辺昇一, 鈴木俊治, 八木修立郎, 木島一洋, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 妊娠23週で発症した急性妊娠症脂肪肝の経験. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 49) 小林 肇, 明楽重夫, 大村 浩, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤: 嚢胞性変化を呈した深在性子宮内膜症. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 50) 三宅秀彦, 中井章人, 佐々木茂, 磯崎太一, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 超音波断層法による出生前診断の有用性. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1999. 6.
- 51) 石川 源, 藤井俊彦<sup>1)</sup>, 谷内良成, 五十嵐俊夫, 大村 浩, 明楽重夫, 松尾健志<sup>1)</sup>, 若麻績佳樹, 東 恭彦, 荒木 勤 ( <sup>1)</sup> 東京都立母子保健院産婦人科 ): 発疹出現前に診断し得た麻酔合併妊娠の2例. 第17回日本産科婦人科感染症研究会, 1999. 7.
- 52) 石川 源, 竹下俊行, 里見操緒, 山中温子, 明楽重夫, 可世木久幸, 荒木 勤: 反復流産症例におけるNK細胞活性と抗リン脂質抗体価との関連. 第17回日本受精着床学会, 1999. 7.
- 53) 貝原賢二, 可世木久幸, 松島 隆, 明楽重夫, 竹下俊行, 石原楷輔, 荒木 勤: 腹腔鏡下卵管細胞診の試み. 第17回日本受精着床学会, 1999. 7.
- 54) 斉藤 恵, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 術中多量出血を発症した前置胎盤の超音波画像. 第22回産科婦人科ME懇話会, 1999. 7.
- 55) 武井麟太郎, 荻原弘光, 大坪保雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 荒木 勤, 兼子和彦: 重症妊娠悪阻管理の再検討. 第23回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 1999. 7.
- 56) 渡辺昇一, 朝倉啓文, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 米山芳雄, 荒木 勤: 妊娠悪阻における体温調節機能

と lipolysis との関連性．第23回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，1999．7．

- 57) 鴨井青龍，里見操緒，武内 務，岩崎卓爾，若月雅美，河村 堯，荒木 勤：Perinodular hydropic degenerationを伴った子宮平滑筋腫の4例．第28回日本婦人科腫瘍学会，1999．7．
- 58) 米山剛一，峯 克也，渡辺昇一，大村 浩，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：術前診断が困難であった子宮粘液平滑筋肉腫．第28回日本婦人科腫瘍学会，1999．7．
- 59) 里見操緒，鴨井青龍，高橋 肇，武内 務，若月雅美，河村 堯，荒木 勤，大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部)：流産後に trophoblastic embolism を疑った1例．第28回日本婦人科腫瘍学会，1999．7．
- 60) 米山芳雄，澤倫太郎，鈴木俊治，窪谷 潔，桑原慶充，荒木 勤：正常妊娠における母体血漿 adenosine 濃度の調節機構．第35回日本新生児学会総会，1999．7．
- 61) 鈴木俊治，渡辺昇一，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：双胎妊娠に対する妊娠37週での積極的分娩誘発の検討．第35回日本新生児学会総会，1999．7．
- 62) 渡辺昇一，明楽重夫，山中温子，大村 浩，竹下俊行，荒木 勤：新しい腹壁吊り上げ鉤の使用経験．第39回日本産科婦人科内視鏡学会，1999．8．
- 63) 館岡佐知，武井麟太郎，西 弥生，木島一洋，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：産褥期多発性筋炎．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 64) 朝倉啓文，市川 尚，中林正雄，安藤一人，石渡 勇，兼子和彦，佐々木誠，野坂研介，今橋経任，丹羽国泰，足高善彦，杉本充弘，長澤和磨，高橋恒男，樋口正俊，落合和彦，川端正清，谷 昭博，大村 浩，佐藤 仁，高橋克幸，坂元正一：正期産仮死児調査：最終報告．第26回日母産婦人科大会，1999．9．
- 65) 柴田浩之，竹内正人，桑原慶充，窪谷 潔，篠原健男<sup>1)</sup>，粟田口康一<sup>1)</sup>，進 純郎(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院)：当院における思春期の妊娠の現状．第311回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，1999．9．
- 66) 林 隆，奥平さやか，渡辺美千明，赤池 康<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>下都賀総合病院病理)：腫瘍マーカー高値を示す卵巣腫瘍と大量胸水を合併した子宮体癌の1例．第50回日本産科婦人科学会栃木地方部会，1999．9．
- 67) 峯 伸也，永井尚生<sup>1)</sup>，宮崎久美，大垣憲司，飯田優俊，吹野晃一<sup>1)</sup>，荒木 勤，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)：乳癌における高頻度欠失領域(17q25.1)の物理地図の作成．第58回日本癌学会総会，1999．9．
- 68) 伊藤尚子，土居大祐，山田 隆，桑原慶充，川瀬里衣子，太田雄治郎，米山剛一，荒木 勤：悪性腫瘍との鑑別が困難であった卵巣甲状腺腫．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 69) 瀬戸真理子，太田雄治郎，川瀬里衣子，土居大祐，米山剛一，荒木 勤：急速な転機をとった carcinosarcoma．第67回日医大医学会総会，1999．9．
- 70) 館岡佐知，武井麟太郎，西 弥生，木島一洋，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：産褥期多発性筋炎．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 71) 峯 伸也，黒瀬圭輔，永井尚生，江見 充<sup>1)</sup>，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)：子宮平滑筋腫において同定した HMGI-C 遺伝子と COSV1c 遺伝子との新規遺伝子融合．第67回日医大医学会総会，1999．9．
- 72) 西田直子，林 瑞成，西 弥生，加藤真紀子，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：大動脈炎症候群合併妊娠の1症例の分娩産褥管理経験．第67回日医大医学会総会，1999．9．
- 73) 清川寧子，木島一洋，武井麟太郎，西 弥生，林 瑞成，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：羊水過多を伴った胎児先天性十二指腸狭窄症．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 74) 新井麻紀，米山剛一，小林肇，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，竹下俊行，荒木 勤，小川秀臣<sup>1)</sup>，高梨安弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立横須賀病院産婦人科)：外陰悪性線維性組織球腫．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 75) 石川 源，瀬戸真理子，武井麟太郎，荏原弘光，山中温子，大坪保雄，大村 浩，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：全身麻酔導入時に挿管困難を来した Kallmann 症候群の経験．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部

会総会，1999．9．

- 76) 大下知子，林 瑞成，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：超音波観察による胎盤のGradeと血液凝固状態との関連性の検討．第20回日本妊娠中毒症学会，1999．10．
- 77) 林 康子，吉村昇治，三並伸二，松島 隆，塚田克也，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：妊娠ラット門脈一過性遮断を用いたHELLP症候群モデル．第20回日本妊娠中毒症学会，1999．10．
- 78) 渡辺昇一，鈴木俊治，八木修立郎，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠第2半期で発症した急性妊娠性脂肪肝の経験．第20回日本妊娠中毒症学会，1999．10．
- 79) 北川 亘，清水一雄，北村 裕，赤須東樹，高津圭介，石井律子，明楽重夫，野口志郎，荒木 勤，田中茂夫：Video-assisted neck Surgery (VANS)：甲状腺微小乳頭癌に対するリンパ節郭清を含めた内視鏡手術．第32回甲状腺外科研究会，1999．10．
- 80) 土居大祐，太田雄治郎，黒瀬圭輔，米山剛一，小西英喜，関谷隆夫，塚田克也，松島 隆，石原楷輔，荒木 勤，大島正行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科)：Current Perception Threshold (CPT) の測定によるPaclitaxelの神経毒性の評価．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 81) 関谷隆夫，小西英喜，松島 隆，吉松和彦，石原楷輔，荒木 勤：Sonohysterography (HSG) および3D超音波画像を利用した子宮腔内病変の多角的検索．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 82) 松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，中山裕樹，土居大祐，仲沢経夫：子宮頸癌における骨盤リンパ節郭清の意義とリスク．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 83) 宮城悦子，松下径広，小野瀬亮，加藤久盛，宇田川香織，仲沢経夫，五来逸雄，平原史樹，土居大祐，中山裕樹：子宮体癌晩期再発症例の検討：診断および治療の現状と諸問題．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 84) 加藤久盛，松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，中山裕樹，土居大祐，仲沢経夫：当がんセンター婦人科に紹介された他院既治療例の転院理由についての検討．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 85) 米山剛一，八田充子，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，林 隆，渡辺美千明，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：卵巣成熟嚢胞奇形腫悪性転化例の臨床的特徴．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 86) 関谷伊久乃，中井章人，飯田早苗，高杉誠子，小林由香，酒井和子，飯野伸子，八田充子，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症における入浴効果の検討．第40回日本母性衛生学会，1999．10．
- 87) 谷内良成，中井章人，三田俊二，三宅秀彦，磯崎太一，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症症状が先行することなく発症した子癇様発作の2症例．第40回日本母性衛生学会，1999．10．
- 88) 相馬照美，宇佐美歎子，小河原美代子，石原楷輔，荒木 勤：褥婦の足浴(香浴)によるリラクゼーション効果．第40回日本母性衛生学会，1999．10．
- 89) 川瀬里衣子，明楽重夫，山中温子，竹下俊行，荒木 勤：不妊症への細径腹腔鏡における5mm オプティビューの有用性．第44回日本不妊学会，1999．10．
- 90) 新井麻紀，米山剛一，小林 肇，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，竹下俊行，荒木 勤，小川秀臣<sup>1)</sup>，高梨安弘<sup>1)</sup>，濱谷次郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立横須賀病院産婦人科)：外陰に発生した悪性線維性組織球腫．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 91) 瀬戸真理子，太田雄治郎，川瀬里衣子，土居大祐，米山剛一，荒木 勤：急速な転帰をとったcarcinosarcomaの1例．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 92) 阿部俊之，鴨井青龍，若月雅美，里見操緒，品川寿弥，武内 務，松本讓二，河村 堯：骨盤内膿瘍の診断で開腹した小腸間質腫瘍の2例．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 93) 館岡佐知，武井麟太郎，西 弥生，木島一洋，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，荒木 勤：産褥期に顕性化した多発性筋炎．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 94) 八田充子，横田明重，中井章人，関谷伊久乃，大屋敦子，三宅秀彦，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：重複子宮の片側完全腔閉鎖に腔壁開窓術を行い同時に妊娠が成立し生児を得た1症例．第98回日本産科婦人科学会関

- 東連合地方部会，1999．10．
- 95) 斉藤 恵，林 康子，関谷隆夫，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：術前多量出血をきたした前置胎盤の超音波画像．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 96) 石川 源，瀬戸真理子，武井麟太郎，荏原弘光，山中温子，大坪保雄，大村 浩，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：全身麻酔導入時に挿管困難を来した Kallmann 症候群の経験．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 97) 西田直子，林 瑞成，西 弥生，加藤真紀子，朝倉啓文，荒木 勤：大動脈炎症候群合併妊娠の周産期管理．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 98) 伊藤 尚子，土居大祐，山田 隆，桑原慶充，川瀬里衣子，太田雄治郎，米山剛一，荒木 勤：大量腹水を伴った卵巣甲状腺腫．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 99) 三並伸二，松島 隆，塚田克也，関谷隆夫，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：腹腔鏡・子宮鏡下選択的卵管洗浄液細胞診による臨床的検討．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 100) 清川寧子，木島一洋，武井麟太郎，西 弥生，伊藤尚子，林 瑞成，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：羊水過多を伴った先天性十二指腸狭窄症．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 101) 山田 隆，大坪保雄，荏原弘光，米山剛一，荒木 勤：膈前壁尿道直下に発生した Angiomyofibrosarcoma．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，1999．10．
- 102) 加藤真紀子，品川志野，河合尚基：CDDP，DTIC，THP3者併用療法が著効を示した子宮肉腫IV期症例の検討．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1999．10．
- 103) 河合尚基，品川志野，加藤真紀子：進行卵巣癌に対する IpTcc の有用性についての検討．第103回東京衛生局学会，1999．11．
- 104) 荏原弘光，大坪保雄，米山芳雄，鈴木俊治，澤倫太郎：正常妊婦における体組成および安静時代謝量の検討．第21回日本臨床栄養学会総会，1999．11．
- 105) 中山裕樹，松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，土居大祐，仲沢経夫：細胞診で子宮内膜異型増殖症の鑑別診断は可能か．第38回日本臨床細胞学会秋季大会，1999．11．
- 106) 松下径広，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，中山裕樹，土居大祐，仲沢経夫：子宮頸部および内膜細胞診における誤陰性，誤陽性例の検討．第38回日本臨床細胞学会秋季大会，1999．11．
- 107) 土居大祐，太田雄治郎，黒瀬圭輔，米山剛一：子宮頸部異形成における HPV の型別分類と koilocytosis の出現頻度との関係．第38回日本臨床細胞学会秋季大会，1999．11．
- 108) 松島 隆，可世木久幸，塚田克也，石原楷輔，荒木 勤：卵管洗浄液中の細胞の検討．第44回日本不妊学会総会，1999．11．
- 109) 川瀬里衣子，明楽重夫，山中温子，竹下俊行，荒木 勤：不妊症への細径腹腔鏡における5mmオブティビューの有用性．第44回日本不妊学会学会術講演会，1999．11．
- 110) 明楽重夫，土居大祐，米山剛一，竹下俊行，荒木 勤：子宮癌に対するリンパ節郭清術への腹腔鏡の応用．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 111) 関谷隆夫，松島 隆，塚田克也，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：子宮腔内病変の三次元超音波診断．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 112) 川瀬里衣子，明楽重夫，山中温子，竹下俊行，荒木 勤：細径腹腔鏡システムにおける5mmオブティビューの有用性．第12回日本内視鏡外科学会，1999．12．
- 113) 里見操緒，竹下俊行，市川雅男，金 栄淳，高橋秀実<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>(1)</sup> 微生物学・免疫学)：ICAM-1/LFA-1相互作用のブロックは Th1/Th2 バランスの変調を介して流産率を低下させる．第14回日本生殖免疫学会，1999．12．

- 114) 米山剛一, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 峯 克也, 西 弥生, 太田雄治郎, 荒木 勤, 川本雅司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>病理第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 細胞診にて発見され腫瘍随伴神経症候群を呈したneuroendocrine carcinoma. 第311回 日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1999. 12.
- 115) 瀬戸真理子, 林 瑞成, 渡辺昇一, 鈴木俊治, 朝倉啓文, 荒木 勤: 低髄圧症候群合併妊娠. 日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1999. 12.
- 116) 奥平さやか, 渡辺美千明, 柴田浩之, 吉岡 徹<sup>1)</sup>, 渡辺和宏<sup>1)</sup>, 関口弘道<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>下都賀総合病院循環器内科): 術前に診断し, 無事手術を施行し得た肺塞栓症合併子宮線筋症の1例. 第51回日本産科婦人科学会栃木地方部会, 2000. 1.
- 117) 林 瑞成, 小林 肇, 明楽重夫, 渡辺 淳, 島田 隆, 荒木 勤: 21-水酸化酵素欠損症の遺伝子多型解析. 第4回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 2000. 2.
- 118) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 明楽重夫, 小西英喜, 荒木 勤, 永井尚生, 江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 子宮平滑筋腫に新たに見出されたHMGI-C遺伝子とCOX6C遺伝子との遺伝子融合. 第5回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 2000. 2.
- 119) 神戸 仁, 中井章人, 大屋敦子, 山口 稔, 朝倉啓文, 越野立夫: 母体妊娠中のトレーニング効果: 分娩による活性酸素の産生を中心に. 第13回女性スポーツ医学研究会, 2000. 3.
- 120) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基: 癌性胸膜炎による呼吸困難から診断された正常大卵巣癌の1例. 第313回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2000. 3.
- 121) 峯 克也, 太田雄治郎, 伊藤尚子, 小林 肇, 荏原弘光, 石川 源, 土居大祐, 米山剛一, 荒木 勤: 子宮頸部病変に対するヒトパピローマウイルス感染の関与. 第313回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2000. 3.

## [ 第二病院産婦人科 ]

### 研究概要

#### 1. 超音波診断学

石原楷輔教授と関谷隆夫講師を中心に産婦人科領域で多くのテーマで研究を行っており, 本邦の産婦人科超音波医学をリードする立場にある. 産科領域では, 子宮頸管無力症や切迫早産に対する超音波画像診断を用いた予後評価を確立した. 前置胎盤の画像パターンによる術後出血の予測や常位胎盤早期剥離の新しい画像診断の試み, など斬新な研究を行っている. また, 三次元立体超音波断層法を用いた胎児診断も盛んに行われ, 胎児奇形や多胎妊娠の診断に新しい知見を報告している. 婦人科領域では, 三次元立体超音波断層法を用いて, 子宮腔内病変の評価や, 卵巣腫瘍の内部の立体構築の研究が盛んである. また, 超音波造影剤を用いた婦人科腫瘍の血流観察や不妊症における子宮内膜や卵巣血流の研究も日常的に行われている.

#### 2. 婦人科腫瘍学

臨床的研究として, 小西英喜講師を中心にタキソール等の抗癌剤の副作用の解析, 評価を行っている. また, 子宮頸癌発症とHPVとの前方視的研究を日常臨床レベルで続けている. 基礎的研究として, LCMとgene filterを用いた子宮筋腫や子宮内膜症の遺伝子学的研究を始めている.

#### 3. 内視鏡診断治療学

可世木久幸助教授を中心に新しい内視鏡治療器具や内視鏡下レーザー手術 超音波内視鏡の開発などの研究を行い, 学会発表は数多い. 内視鏡技術に関しても学会をリードする立場にあり, 全国的に普及活動を行っている.

#### 4. その他

ラットを用いたHELLP症候群モデルの作製や脳虚血ラットを用いたPVLモデル作製の研究, 卵管細胞診による不妊症の評価, などの基礎的研究を行っている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 小西英喜, 石原楷輔, 進 純郎, 荒木 勤：教室で行う会陰切開縫合法．日産婦神奈川地方部会誌 1999．
- 2) 可世木久幸：アンチレゼクトスコープ．日本産科婦人科内視鏡学会誌 1999；15(1)：234-238．
- 3) 石原楷輔：経膈超音波の婦人科領域への活用．臨床婦人科産科 1999；53(4)：414-419．
- 4) 石原楷輔：婦人科画像診断の特異性．日産婦誌 1999；51(9)：314-317．
- 5) 可世木久幸：近未来の不正子宮出血に対する対応：粘膜下子宮筋腫・内膜ポリープの考え方．臨床婦人科産科 1999；53(11)：1388-1391．
- 6) 石原楷輔：胎盤の位置異常と妊婦管理．臨床婦人科産科 2000；54(1)：20-25．
- 7) 林 康子, 石原楷輔, 荒木 勤：妊娠ラット門脈：過性遮断を用いたHELLP症候群モデル．日本妊娠中毒症学会雑誌 1999；7(10)：115-116．
- 8) 可世木久幸, 貝原賢二, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤：卵管注入圧パターン解析による卵管機能評価法の基礎的検討．日本不妊学会雑誌 2000；45(1)：25-29．
- 9) 松島 隆, 可世木久幸, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤：腹腔鏡・子宮鏡下卵管細胞診の試み．日本受精着床学会雑誌, 2000；pp215-217．

#### (2) 総説：

- 1) 小西英喜：婦人の尿失禁．Modern Physician 1999；19(1)：90-91．
- 2) 関谷隆夫, 石原楷輔：妊娠 胎児 28, 妊娠中・末期の超音波診断．周産期管理の実際 1999；78(増刊)：798-807．
- 3) 関谷隆夫, 松島 隆, 石原楷輔：頸管縫縮術．周産期医学 1999；29(5)：525-531．
- 4) 関谷隆夫：産婦人科におけるドブラ検査の実際．日産婦神奈川地方部会雑誌 1999；36(1)：93-111．
- 5) 関谷隆夫, 深見武彦, 吉松和彦, 石原楷輔：特集 超音波診断の進歩：超音波による頸管所見と切迫早産．産婦人科の世界 1999；51(9)：83-94．
- 6) 関谷隆夫, 松島 隆, 石原楷輔：領域別レベルアップのコツ 4, 産科・婦人科三次元画像(原理と実践)．Innervision 超音波検査シリーズ 1999；14(12)．
- 7) 石原楷輔：癒着胎盤, 子宮内膜癌の経膈超音波画像．日医大誌 1999；66：2-3．

### 著書

#### (1) 原著：

- 1) 石原楷輔：〔分担〕前置胎盤, New Epoch産科外来診療, 1999；pp102-106, 医学書院．
- 2) Kaseki H, A K：〔共著〕Laparoscopy and hysteroscopy．Interventional Ultrasound (S. WEINER and A. KURJAK), 1999；pp145-156, Parthenon Publishing．
- 3) 小西英喜, 石原楷輔：〔自著〕胎勢異常(反屈胎勢)．新女性医学大系第26巻異常分娩, 1999；中山書店．
- 4) 石原楷輔：〔自著〕前置胎盤．New Epoch産科外来診療(岡井 崇), 1999；医学書院．
- 5) 石原楷輔：〔共著〕前置胎盤．今日の治療指針(多賀須幸男 尾形悦郎), 1999；医学書院．
- 6) 石原楷輔：〔共著〕子宮復古不全．今日の産婦人科治療指針(武田佳彦 武谷雄二), 1999；医学書院．
- 7) 石原楷輔：〔自著〕パワーアップ経膈超音波．パワーアップ経膈超音波(監修荒木 勤), 1999；メジカルビュー社．
- 8) 深見武彦, 関谷隆夫, 吉松和彦, 根本芳広, 小田部徹, 石原楷輔, 荒木 勤：〔自著〕妊娠中期の子宮頸部超音波画像による切迫流早産の前方視的検討．産婦人科の実際, 2000；pp101-108, 金原出版．



## 学会発表

[ 1996 年度追加分 ]

### 教育講演 :

- 1) 可世木久幸 : 卵管疾患・子宮外妊娠 . 第 1 回日本産科婦人科内視鏡学会実行講習会 , 1996 . 11 .

[ 1997 年度追加分 ]

### 教育講演 :

- 1) 可世木久幸 : 卵管疾患・子宮外妊娠 . 第 2 回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会 , 1997 . 5 .
- 2) 可世木久幸 : 卵管疾患・子宮外妊娠 . 第 3 回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会 , 1997 . 11 .

[ 1998 年度追加分 ]

### 教育講演 :

- 1) 可世木久幸 : 卵管疾患・子宮外妊娠 . 第 4 回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会 , 1998 . 5 .
- 2) 可世木久幸 : 器具機材の取扱い , 術前・術後のケア , 合併症防止のための基本手技 . 第 5 回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会 , 1998 . 11 .

### 一般講演 :

- 1) 貝原賢二 , 可世木久幸 , 関谷隆夫 , 塚田克也 , 松島 隆 , 根本芳広 , 小西英喜 , 石原楷輔 , 荒木 勤 : 我々の行っているヒト卵管通水圧測定法 . 神奈川県地方部会 , 1999 . 2 .

( 1 ) 特別講演 :

- 1) 石原楷輔 : 産婦人科領域における最近の超音波診断 . 日本産科婦人科香川地方部会学術講演会 , 1999 . 6 .
- 2) 石原楷輔 : 婦人科画像診断の特異性 . 第 51 回日本産科婦人科学会総会学術講演会 , 1999 . 1 .
- 3) 小西英喜 : 子宮頸部の上皮内病変 ( CIN と HPV 感染 ) . 川崎市産婦人科医会学術講演会 , 1999 . 4 .
- 4) 石原楷輔 : 最近の超音波診断 . 杉並区産婦人科研究会 , 1999 . 6 .
- 5) 石原楷輔 : 産婦人科領域における最近の超音波診断 : カラー Doppler , ワイドスキャン , 3 次元画像 . 茨城県日母・日産婦講演会 , 1999 . 7 .
- 6) 石原楷輔 : 経膈超音波と SHG , カラー Doppler , 三次元表示法 . 千葉日母・日産婦学術講演会 , 1999 . 7 .
- 7) 石原楷輔 : 産婦人科の新しい超音波診断 . 相模原市産婦人科医会 , 1999 . 7 .
- 8) 石原楷輔 : 経膈超音波と SHG , カラー Doppler , 三次元画像 . 新潟日産婦・日母学術講演会 , 1999 . 8 .
- 9) 石原楷輔 : 最近の超音波診断の現況 . 柏市産婦人科医会 , 1999 . 10 .
- 10) 石原楷輔 : 婦人科腫瘍の画像診断 . 福岡市産婦人科医会 , 1999 . 11 .
- 11) 石原楷輔 : 妊娠中期の超音波診断の留意点 . 城北産婦人科学術講演会 , 1999 . 11 .
- 12) 石原楷輔 : 最新の超音波診断 . 静岡産婦人科医会 , 2000 . 1 .
- 13) 石原楷輔 : 最近の超音波診断 . 秋田産婦人科医会 , 2000 . 1 .
- 14) 石原楷輔 : 超音波診断 : 経膈超音波 . 盛岡産婦人科医会 , 2000 . 2 .
- 15) 石原楷輔 : 最新の超音波診断 . 日本医科大学医学会第 100 回例会 , 2000 . 2 .
- 16) 石原楷輔 : 新しい経膈超音波診断 . 旭川産婦人科医会 , 2000 . 2 .

( 2 ) 招待講演 :

- 1) Kaseki H : Histeroscopia en la menopausia . IX Curso Internacional 「 EL Adulto Mayor Hacia EL Siglo XXI 」 ( Lima Peru ) , 1999 . 5 .
- 2) Kaseki H : Hacia una terapia optima : Los squemas hormonales . IX Curso Internacional 「 EL Adulto Mayor Hacia EL Siglo XXI 」 ( Lima , Peru ) , 1999 . 5 .
- 3) Kaseki H : Osteoporosis : Epidemia silenciosa del siglo XXI . IX Curso Internacional 「 EL Adulto Mayor Hacia EL Siglo XXI 」 ( Lima , Peru ) , 1999 . 5 .

- 4) 可世木久幸：低容量ピルの使い方とその周辺．草加・八潮医師会講演会，1999．9．
- 5) 可世木久幸：産婦人科内視鏡最近のトピックス．第5回四国産婦人科内視鏡研究会，2000．3．
- (3) 教育講演：
- 1) 可世木久幸：器具機材の取り扱い，術前・術後のケア，合併症防止のための基本手技．第6回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会，1999．5．
- 2) 関谷隆夫：更年期女性の超音波検査と骨粗鬆症診療．川崎市産科婦人科医会学術講演会，1999．4．
- 3) 関谷隆夫，石原楷輔，小田部徹，根本芳広，塚田克也，可世木久幸，荒木 勤：子宮腔内病変の新しい超音波診断．第72回日本超音波医学会，1999．6．
- 4) 可世木久幸：アンチレゼクトスコープ．第39回日本産科婦人科内視鏡学会講習会，1999．8．
- 5) 関谷隆夫：産婦人科超音波検査の基礎と実践．第19回群馬県産婦人科超音波研究会(群馬県日医生涯教育講座)，1999．11．
- 6) 可世木久幸：器具機材の取り扱い，術前・術後のケア，合併症防止のための基本手技．第7回日本産科婦人科内視鏡学会実技講習会，1999．11．
- (4) シンポジウム：
- 1) Sekiya T, Ishihara K, Yoshimatsu K：3D ultrasonography of uterine cavity abnormalities．Japan-Korea Symposium on 3D Ultrasound in Obstetrics and Gynecology，1999．9．
- 2) 関谷隆夫：子宮腔内病変の三次元超音波診断．第1回国際産婦人科三次元超音波シンポジウム，1999．4．
- 3) 塚田克也：産科出血とその対策：超音波断層法による前置胎盤の出血予測．第342回神奈川産婦人科地方部会，1999．9．
- 4) 可世木久幸：レーザー子宮鏡vsレザクトスコープ．第20回日本レーザー医学会，1999．10．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 小田部徹，三並伸二，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：Transvaginal sonographic evaluation of the uterus in postmenopausal bleeding．9th International Menopause Society World Congress，1999．10．
- (6) ワークショップ：
- 1) 石原楷輔：女性骨盤臓器の画像診断：超音波MRI 婦人科疾患：症状と画像診断．第19回日本画像医学会，2000．2．
- (7) 一般講演：
- 1) 三並伸二，小田部徹，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：Is ultrasonography effective for monopausal clinic?．9th International Menopause Society World Congress on the Menopause，1999．10．
- 2) 斉藤 恵，林 康子，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔：超音波画像からみた前置胎盤の術中出血量の予測．第51回日本産婦人科学会総会，1999．4．
- 3) 関谷隆夫，小田部徹，深見武彦，塚田克也，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：cinememoryを用いた3次元超音波断層法による子宮腔内病変の観察．第51回日本産科婦人科学会学術講演会，1999．4．
- 4) 関谷隆夫，小田部徹，深見武彦，塚田克也，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：cinememoryを用いた3次元超音波経膈走査法断層法による子宮腔内病変の観察．第51回日本産科婦人科学会学術講演会，1999．4．
- 5) 可世木久幸，貝原賢二，三並伸二，石原楷輔，荒木 勤：子宮鏡下ソノヒステログラフィー(H-SHG)の開発と臨床応用．第51回日本産科婦人科学会総会学術講演会，1999．4．
- 6) 深見武彦，関谷隆夫，吉松和彦，根本芳広，三並伸二，斎藤糧三，石原楷輔，荒木 勤：妊娠中期の子宮頸部超音波画像による切迫流産の前方視的検討．第51回日本産科婦人科学会総会，1999．5．
- 7) 菊谷真理子，小田部徹，松島 隆，塚田克也，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：超音波断層法による多嚢胞性内膜像の臨床的意義．日本産科婦人科学会総会，1999．6．

- 8) 三並伸二, 小田部徹, 林 康子, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 更年期外来における経膈超音波検査. 第97回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 6.
- 9) 関谷隆夫, 石原楷輔, 小田部徹, 根本芳広, 塚田克也, 可世木久幸, 荒木 勤: Cinememory を用いた3次元超音波断層法による妊娠初期胎児の観察. 第72回日本超音波医学会, 1999. 6.
- 10) 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 常位胎盤早期剥離における超音波画像の検討. 第98回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 6.
- 11) 斎藤糧三, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 性器出血を伴う絨毛膜下血腫の検討. 第97回日本産婦人科関東連合地方部会, 1999. 6.
- 12) 小田部徹, 関谷隆夫, 石原楷輔, 根本芳広, 塚田克也, 可世木久幸, 荒木 勤: 新しい経膈的卵巢ドレナージ用バルーンキットの開発と使用経験. 第72回日本超音波医学会学術集会, 1999. 6.
- 13) 貝原賢二, 根本芳広, 林 康子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 我々の行っているヒト卵管通水圧測定法. 第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 6.
- 14) 三並伸二, 丸山智美<sup>1)</sup>, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 鈴江緑衣郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和女子大学): 月経周期内におけるレプチン変動について. 第23回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 1999. 7.
- 15) 松島 隆, 可世木久幸, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤: 腹腔鏡下卵管細胞診の試み. 第17回受精着床学会, 1999. 7.
- 16) 斎藤糧三, 塚田克也, 林 康子, 関谷隆夫, 小西英喜, 石原楷輔: 双胎妊娠のうち一児に下部尿路閉鎖を合併した症例. 第341回日本産科婦人科神奈川地方部会, 1999. 7.
- 17) 貝原賢二, 可世木久幸, 松島 隆, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 石原楷輔, 荒木 勤(<sup>1)</sup>付属病院産婦人科): 卵管通水圧測定法の基礎的検討. 第17回受精着床学会, 1999. 7.
- 18) 斎藤糧三, 小田部徹, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 三次元超音波断層法を用いた妊娠初期胎児の観察. 第345回日本産科婦人科神奈川地方部会, 1999. 8.
- 19) 林 康子, 松島 隆, 小西公磨, 可世木久幸, 石原楷輔: 腹腔鏡にて副角を伴った単角子宮と診断された不妊症の1例. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会, 1999. 8.
- 20) 貝原賢二, 可世木久幸, 三並伸二, 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: アッシャーマン症候群に対する子宮鏡手術. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 21) 可世木久幸, 石坂春彦<sup>1)</sup>, 仲沢慶紀<sup>2)</sup>, 石原楷輔, 荒木 勤(<sup>1)</sup>八光電気製作所, <sup>2)</sup>神奈川県畜産研究所): 子宮腔トロッカー開発の基礎的検討. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 22) 可世木久幸, 林 康子, 小田部徹, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: プタを用いる子宮鏡教育の可能性. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 23) 吉松和彦, 可世木久幸, 斎藤糧三, 菊谷真理子, 平田昌二, 小西公磨, 石原楷輔, 荒木 勤: 腹腔鏡手術トレーニング器具の改良. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 24) 可世木久幸, 根本芳広, 斉藤 恵, 三並伸二, 松島 隆, 塚田克也, 山藤泰功, 石原楷輔, 荒木 勤: どの子宮鏡を選ぶべきか?: 今後の子宮鏡手術の方向性. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 25) 仲沢慶紀<sup>1)</sup>, 矢後敬司<sup>1)</sup>, 岸井誠男<sup>1)</sup>, 可世木久幸(<sup>1)</sup>八光電気製作所): プタ繁殖のための内視鏡手術. 第39回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 1999. 8.
- 26) 貝原賢二, 可世木久幸, 三並伸二, 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮腔癒着症に対する子宮鏡手術. 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 8.
- 27) 関谷隆夫, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: Sonohysterography とおよび3D超音波画像を利用した子宮内腔病変の多角的検索. 第37回日本癌学会総会, 1999. 10.
- 28) 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 術中多量出血をきたした前置胎盤の超音波画像. 第98回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 10.

- 29) 三並伸二, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 腹腔鏡・子宮鏡下選択的卵管洗浄液細胞診による臨床的検討. 第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1999. 10.
- 30) 林 康子, 吉村昇治, 三並伸二, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠ラット門脈一過性遮断を用いたHELLP症候群モデル. 第20回日本妊娠中毒症学会, 1999. 10.
- 31) 松島 隆, 可世木久幸, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤: 卵管洗浄液中の細胞の検討. 第44回不妊症学会, 1999. 11.
- 32) 松島 隆, 可世木久幸, 塚田克也, 齊藤良明<sup>1)</sup>, 太田吉男<sup>1)</sup>, 大庭孝男<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 卵管洗浄液摂取による細胞診学会. 第38回臨床細胞診の試み, 1999. 11.
- 33) 関谷隆夫, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 3D超音波画像を利用した子宮内腔病変の多角的検索. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- 34) 三並伸二, 小西英喜, 吉松和彦, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: タキソールによる末梢神経障害の定量的評価の試み. 第346回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2000. 2.
- 35) 貝原賢二, 石原楷輔, 越野立夫<sup>1)</sup>, 荒木 勤(<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科): 後遺症なく治癒しえた羊水塞栓症の1例. 四水会, 2000. 3.

## [ 多摩永山病院産婦人科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下のごとくである.

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神神経的側面から幅広く研究を行っている. 身体面では, 超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価を始め, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している. また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある.

#### (2) 出生前診断

従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え, 非侵襲的な母体尿中hCG<sup>-</sup> core fragmentによる出生前診断の可能性を検討している.

#### (3) 周産期領域

臨床面では妊娠中毒症, 子宮内胎児発育遅延に対し, 超音波断層装置, 生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている. 超音波断層装置による母体腎, 肝臓の観察では, 新たな視点から, 妊娠中毒症発症に関する有益なデータが集積しつつある. また, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血再灌流傷害の関係を検討している.

### 研究業績

#### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著:

- 1) Kong B, Isozaki T, Sasaki S: IL-6 antisense-mediated growth inhibition of a choriocarcinoma cell line: An intracellular autocrine growth mechanism. *Gynecol Oncol* 1996; 63(1): 78-84.
- 2) Cole L, Isozaki T, Palomaki G, Canic J, Kellner L: Detection of beta-core fragment in second trimester Down's syndrome pregnancies. *Early Human Dev* 1996; 30(Suppl)(47): 47-48.
- 3) Isozaki T, Palomaki GE, Bahado-Singh RO, Cole LA: Screening for Down syndrome pregnancy using

beta-core fragment : Prospective study . Prenat Diagn 1997 ; 17 ( 5 ): 407-413 .

- 4) Cole LA , Kellner LH , Isozaki T , Palomaki GE , Iles RK , Walker RP , Ozaki M , Canick JA : Comparison of 12 assays for detecting hCG and related molecules in urine samples from Down syndrome pregnancy . Prenat Diagn 1997 ; 17 ( 7 ): 607-614 .
- 5) Lee IS , Chung DY , Cole LA , Isozaki T , Hsu CD : Elevated serum nicked and urinary beta-core fragment hCG in preeclamptic pregnancies . Obstet Gynecol 1997 ; 90 ( 6 ): 889-892 .
- 6) Cole LA , Jacobs M , Isozaki T , Palomaki GE , Bahado-Singh RO : Screening for Down syndrome using urine hCG free beta-subunit in the second trimester of pregnancy . Prenat Diagn 1997 ; 17 ( 12 ): 1107-1111 .
- 7) Cole LA , Acuna E , Isozaki T , Palomaki GE , Bahad-Singh RO : Combining beta-core fragment and total oestriol measurements to test for Down syndrome pregnancies . Prenat Diagn 1997 ; 17 ( 12 ): 1125-1133 .
- 8) Cole LA , Isozaki T , Jones EE : Urine beta-core fragment, a potential screening test for ectopic pregnancy and spontaneous abortion . Fetal Diagn Ther 1997 ; 12 ( 6 ): 336-339 .
- 9) Bahado-Singh RO , Oz U , Isozaki T , Seli E , Kovanci E , Hsu CD : Midtrimester urine human chorionic gonadotropin beta-subunit core fragment levels and the subsequent development of pre-eclampsia . Am J Obstet Gynecol 1998 ; 179 ( 3 Pt 1 ): 738-741 .

#### (1) 原著 :

- 1) Nakai A , Asakura H , Oya A , Yokota A , Koshino T , Araki T : Pulsed doppler US findings of renal interlobar arteries in pregnancy-induced hypertension . Radiology 1999 ; 213 ( 2 ): 423-428 .
- 2) Asakura H , Nakai A , Yokota A , Sekiguchi A , Koshino T , Araki T : Continuous observation of nitric oxide production in the fetal rat brain during uteroplacental ischemia . Fetal Diagn Ther 1999 ; 14 : 354-359 .
- 3) 関谷伊久乃 , 中井章人 , 三宅秀彦 , 白井文男 , 三田俊二 , 磯崎太一 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 正常2倍体の部分胞状奇胎に臍帯ヘルニアを伴った1症例 . 日産婦東京会誌 1999 ; 48 ( 2 ): 199-202 .
- 4) 国重浩二 , 三田俊二 , 中井章人 , 阿部俊之 , 磯崎太一 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 産褥7カ月に急激な腹水貯留を認めた卵巣卵嚢腫瘍の1例 . 日産婦東京会誌 1999 ; 48 ( 3 ): 411-415 .
- 5) 関谷伊久乃 , 横田明重 , 中井章人 , 三田俊二 , 磯崎太一 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 治療に苦慮した分娩後腹膜血腫の1例 . 日産婦東京会誌 1999 ; 48 ( 4 ): 528-531 .
- 6) 中井章人 , 朝倉啓文 , 越野立夫 , 荒木 勤 : 妊娠高血圧における腎実質内の血流動態変化 . 妊中誌 1999 ; 7 : 48-51 .
- 7) 国重隆生 , 中井章人 , 三田俊二 , 永野玲子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 妊娠 11週に頭蓋内出血にて発症した脳動静脈奇形合併妊娠の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 ( 1 ): 15-18 .

#### (2) 総説 :

- 1) 越野立夫 : 妊婦と胎児の音環境 . Japan Medical Society 1999 ; 62-63 .
- 2) 大屋敦子 , 中井章人 , 越野立夫 : 特集 : 分娩・産褥時出血に関わる胎盤の異常 : 重症感染性胎盤 . ペリネイタル ケア 1999 ; 18 ( 8 ): 699-705 .
- 3) 中井章人 , 神戸 仁 : 特集 : マタニティスポーツの現状と将来 : 運動強度と感情変化 : マタニティスポーツが母体感情・精神状態に与える影響について . 臨床スポーツ医学 1999 ; 16 ( 10 ): 1117-1122 .
- 4) 中井章人 : スポーツ医科学キーワード : 胎児心拍 . 臨床スポーツ医学 1999 ; 16 ( 臨時増刊号 ): 349 .
- 5) 中井章人 : スポーツ医科学キーワード : 妊婦スポーツ . 臨床スポーツ医学 1999 ; 16 ( 臨時増刊号 ): 425 .
- 6) 佐々木茂 : 特集 : 周産期の母子保健指導 : 母性編 : 飲酒 , 喫煙の習慣をもつ妊婦に対する周産期母子保健指導 .

著 書

- 1) 佐々木茂 : [ 分担 ] 4. 妊婦の心とからだ . 母子の健康科学 ( 日暮 眞 , 近藤喜代太郎編 ) , 1999 ; pp54-56 , 放送大学教育振興会 .
- 2) 岩田ともみ<sup>1)</sup> , 田中伸行<sup>1)</sup> , 楯 弘行<sup>2)</sup> , 永野玲子 ( <sup>1)</sup> 付属病院第2内科 , <sup>2)</sup> 沖縄県立中部病院内科 ) : [ 翻訳 ] UNIT V : 腎臓と体液 ; 排尿 , 利尿と腎疾患 . ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一監修 ) , 1999 ; pp405-420 , 医学書院 .
- 3) 中井章人 , 越野立夫 : [ 分担 ] 産婦人科救急 : V 妊娠・分娩・産褥期の産科救急 : 子宮破裂 . 新女性医学大系 8 ( 武谷雄二総編集 青野敏博 , 麻生武士 , 中野仁雄 , 野澤志朗編集 荒木 勤担当編集 ) , 1999 ; pp226-233 , 中山書店 .
- 4) 中井章人 , 越野立夫 : [ 分担 ] F. 産科疾患の診断・治療・管理 : 妊娠悪阻 . 産婦人科研修医ノート ( 三橋直樹編著 ) , 2000 ; pp241-243 , 診断と治療社 .
- 5) 中井章人 : [ 分担 ] コラム : たかが「つわり」 , されど「つわり」 . 産婦人科研修医ノート ( 三橋直樹編著 ) , 2000 ; p244 , 診断と治療社 .

学会発表

( 1 ) 教育講演 :

- 1) 佐々木茂 : 早産の管理 . 南多摩産婦人科医会 , 1999 . 8 .

( 2 ) 一般講演 :

- 1) Nakai A , Asakura H , Taniuchi Y , Koshino T , Araki T , Siesjö BK<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for the study of Neurological Disease, The Queen's Medical Center, Honolulu, Hawaii, U. S. A. ) : Effect of  $\alpha$ -phenyl-N-tert-butyl-nitronone ( PBN ) on fetal cerebral energy metabolism during intrauterine ischemia and reperfusion in rats . Brain '99 ( Copenhagen Denmark ) , 1999 . 6 .
- 2) 中井章人 , 朝倉啓文 , 谷内良成 , 臼井文男 , 三田俊二 , 横田明重 , 越野立夫 , 荒木 勤 : 虚血再灌流傷害におけるラット胎仔脳のエネルギー代謝と  $\alpha$ -phenyl-N-tert butyl-nitronone ( PBN ) の効果 . 第51回日本産科婦人科学会学術講演会 , 1999 . 4 .
- 3) 渡辺昇一 , 朝倉啓文 , 大屋敦子 , 澤倫太郎 , 鈴木俊治 , 米山剛一 , 峯 克也 , 越野立夫 , 荒木 勤 : 悪阻における体温調節機能と脂肪酸代謝との関連性 . 第51回日本産科婦人科学会学術講演会 , 1999 . 4 .
- 4) 鴨井青龍 , 高橋 肇 , 里見操緒 , 武内 務 , 太田雄治郎 , 米山剛一 , 小西英喜 , 河村 堯 , 荒木 勤 : 子宮頸部腺癌に対する術前BOAI法の病巣部免疫担当細胞に与える影響 . 第51回日本産科婦人科学会学術講演会 , 1999 . 4 .
- 5) 近江禎子<sup>1)</sup> , 飯野 治<sup>1)</sup> , 横山和子<sup>1)</sup> , 中井章人 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院麻酔科 ) : 帝王切開時の臍帯動静脈ガス分析 : 母胎の血圧と酸素投与の影響について . 日本麻酔学会第46回大会 , 1999 . 5 .
- 6) 国重浩二 , 三田俊二 , 中井章人 , 阿部俊之 , 磯崎太一 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 産褥7カ月に急激な腹水貯留を認めた卵巣卵黄嚢腫の1例 . 第310回日本産科婦人科学会東京地方部会例会 , 1999 . 5 .
- 7) 三宅秀彦 , 中井章人 , 佐々木茂 , 磯崎太一 , 横田明重 , 越野立夫 , 荒木 勤 : 超音波断層法による出生前診断の有用性 . 第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 , 1999 . 6 .
- 8) 三宅秀彦 , 横田明重 , 関谷伊久乃 , 国重浩二 , 中井章人 , 松本讓二<sup>1)</sup> , 佐々木茂 , 越野立夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院産婦人科 ) : 当科における子宮鏡下筋腫切除術 ( TCR ) の経験 . 第1回日本医科大学内視鏡手術懇話会 , 1999 . 7 .
- 9) 関谷伊久乃 , 横田明重 , 中井章人 , 三田俊二 , 磯崎太一 , 佐々木茂 , 越野立夫 : 治療に苦慮した分娩後後腹膜

血腫の1例．第311回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，1999．9．

- 10) 中井章人，谷内良成，横田明重，佐々木茂，越野立夫：ラット胎仔，新生仔の脳におけるミトコンドリア機能とエネルギー代謝の発達変化．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 11) 三宅秀彦，中井章人，佐々木茂，磯崎太一，横田明重，越野立夫：超音波断層法を用いた胎児染色体異常スクリーニングの有用性．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 12) 高橋 肇，中井章人，国重浩二，神戸 仁，谷内良成，横田明重，佐々木茂，越野立夫：病変描出に超音波カラードプラが有用であった臨床的侵入奇胎の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 13) 三田俊二，国重浩二，中井章人，磯崎太一，横田明重，佐々木茂，越野立夫，細根 勝<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部）：産褥7カ月に発症した卵巣卵黄嚢腫瘍の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 14) 谷内良成，中井章人，三田俊二，三宅秀彦，磯崎太一，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症症状が先行することなく発症した子癇様発作の2症例．第40回日本母性衛生学会総会，1999．10．
- 15) 関谷伊久乃，中井章人，飯田早苗<sup>1)</sup>，高杉誠子<sup>1)</sup>，小林由香<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，飯野伸子<sup>1)</sup>，八田充子，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤（<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科病棟）：妊娠中毒症における入浴効果の検討．第40回日本母性衛生学会総会，1999．10．
- 16) 八田充子，横田明重，中井章人，関谷伊久乃，大屋敦子，三宅秀彦，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：重複子宮の片側完全腔閉鎖に腔壁開窓術を行い同側に妊娠が成立し生児を得た1症例．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1999．10．
- 17) 国重隆生，三田俊二，永野玲子，高橋 肇，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：妊娠11週に頭蓋内出血にて発症した脳動静脈奇形合併妊娠の1例．第312回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，1999．12．
- 18) 神戸 仁，中井章人，大屋敦子，山口 稔，朝倉啓文，越野立夫：母体運動トレーニング効果：分娩による活性酸素の産生を中心に．第13回女性スポーツ医学研究会学術集会，1999．12．
- 19) 谷内良成，中井章人，神戸 仁，大屋敦子，三田俊二，横田明重，佐々木茂，越野立夫：多発性子宮筋腫に合併した卵管間質部妊娠の1例．第13回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第313回日産婦東京地方部会例会，2000．3．

## [ 千葉北総病院産婦人科 ]

### 研究概要

医局の特徴は，産婦人科と新生児管理を切り離さず，母子センターとして総合的に機能させているところにある．周産期管理とそれに引き続く母児管理は，同施設内のGCU（Growing Care Unit）において行っている．現在，周産期管理の側からみた新生児管理と新生児管理の側からみた周産期管理の相互の観点から総合的研究を始めている．当病院には基礎的研究設備がないので臨床研究を主体としている．すなわち，周産期の分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究を，また生殖内分泌の分野では，不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を，さらに腫瘍学の分野では，悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) 五十嵐俊夫<sup>1)</sup>，藤井俊彦<sup>1)</sup>，谷内良成<sup>1)</sup>，村上 清<sup>1)</sup>，松尾健志<sup>1)</sup>，若麻績佳樹<sup>1)</sup>，東 恭彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>都立母子保健院産婦人科）：診断が困難であった帝王切開後膀胱内巨大血腫の1例．日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報 2000；37（1）：45-48．

## 著 書

- 1) 河村 堯：〔分担〕胎児形態異常，消化器疾患 胎児異常．臨床エビデンス産科学（佐藤和雄，藤本征一郎），1999；pp440-446，メディカルビュー社．
- 2) 若月雅美：〔分担〕羊水過多症，17 異常妊娠．今日の産婦人科治療指針 第2版（武田佳彦，武谷雄二），1999；pp216-216，医学書院．

## 学会発表

〔1998 年度追加分〕

### 一般講演：

- 1) 里見操緒，鴨井青龍，高橋 肇，武内 努，若月雅美，河村 堯，荒木 勤，新井 悟<sup>1)</sup>，森 修<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：絨毛遺残に合併した trophoblastic embolism の1例．日本医科大学医学会第97回例会，1999．2．

### （1）一般講演：

- 1) 鴨井青龍，高橋 肇，里見操緒，武内 努，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，河村 堯，荒木 勤<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院産婦人科）：子宮頸部腺癌に対する術前 BOAI 法の病巣部免疫担当細胞に与える影響．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，1999．4．
- 2) 米山剛一，太田雄治郎，土居大祐，黒瀬圭輔，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の臨床的因子に関する検討．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，1999．4．
- 3) 鴨井青龍，大秋美治<sup>1)</sup>，高橋 肇，河村 堯，小黒辰夫<sup>1)</sup>，清水秀樹<sup>1)</sup>，早澤久美<sup>1)</sup>，三枝順子<sup>1)</sup>，安藤 哲<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：高用量 MPA 療法を施行した若年性子宮体癌の病理組織および細胞診所見の経時的変化．第40回日本臨床細胞学会総会，1999．6．
- 4) 武内 努，岩崎卓爾，里見操緒，高橋 肇，松本讓二，鴨井青龍，河村 堯，荒木 勤：妊娠18週より両側胸水皮下浮腫を認めた非免疫性胎児水腫の1例．第97回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術講演会，1999．6．
- 5) 鴨井青龍，大秋美治<sup>1)</sup>，里見操緒，武内 努，岩崎卓爾，若月雅美，河村 堯（<sup>1)</sup>付属千葉北総病院病理部）：Perinodular hydropic degeneration を伴った子宮筋腫の4例．第28回日本婦人科腫瘍学会学術集会，1999．7．
- 6) 里見操緒，鴨井青龍，高橋 肇，武内 努，若月雅美，河村 堯，荒木 勤，大秋美治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：流産後に trophoblastic embolism を疑った1例．第28回日本婦人科腫瘍学会学術集会，1999．7．
- 7) 里見操緒，若月雅美，弘末卓也，阿部俊之，武内 努，品川寿弥，鴨井青龍，河村 堯：重症 OHSS に腹水濾過濃縮再静注法を用いた品体妊娠の1例．第8回千葉県生殖内分泌懇話会，1999．9．
- 8) 弘末卓也，鴨井青龍，阿部俊之，里見操緒，武内 務，品川寿弥，若月雅美，河村 堯：母児ともに救命しえた絞扼性イレウス合併妊娠の1例．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 9) 阿部俊之，鴨井青龍，若月雅美，里見操緒，品川寿弥，武内 務，松本讓二，河村 堯，荒木 勤，大秋美治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：骨盤内膿瘍の診断で開腹した小腸間質腫瘍の2例．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術講演会，1999．11．
- 10) 鴨井青龍，里見操緒，武内 務，岩崎卓爾，若月雅美，河村 堯，荒木 勤，大秋美治<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：Perinodular hydropic degeneration を伴った子宮平滑筋腫の4例．第28回日本婦人科腫瘍学会，1999．11．
- 11) 里見操緒，鴨井青龍，高橋 肇，武内 務，若月雅美，河村 堯，荒木 勤，大秋美治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：流産後に trophoblastic embolism を疑った1例．第28回日本婦人科腫瘍学会，1999．11．
- 12) 若月雅美，弘末卓也，阿部俊之，里見操緒，武内 務，松下径広，鴨井青龍，河村 堯：最近経験した常位胎



盤早期剥離例における管理面での問題点．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．

- 13) 弘末卓也，鴨井青龍，阿部俊之，里見操緒，武内 務，松下径広，若月雅美，河村 堯，井上松応<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院同外科)：超音波像が重要であった妊娠中期絞扼性イレウスの1例．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 14) 阿部俊之，鴨井青龍，弘末卓也，里見操緒，武内 務，松下径広，若月雅美，河村 堯，新井 悟<sup>1)</sup>，森修<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部)：会陰切開縫合部に発生した外性子宮内膜症の1例．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 15) 河村 堯，阿部俊之，弘末卓也，阿部俊之，里見操緒，武内 務，松下径広，若月雅美，鴨井青龍：手術中の医療トラブルは如何にして起こるか？ その時の対応は如何に？：最近経験したgastrointestinal stromal tumorを中心に．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 16) 里見操緒，鴨井青龍，阿部俊之，弘末卓也，武内 務，松下径広，若月雅美，河村 堯，新井 悟<sup>1)</sup>，森修<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部)：Epitheloid Trophoblastic Tumorの1例．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 17) 大下知子，山口 暁，阿部俊之，弘末卓也，武内 務，松下径広，若月雅美，鴨井青龍，河村 堯：アンケート調査による更年期における尿失禁の実態．第9回千葉県生殖内分泌懇話会，2000．3．

## 14 . 耳鼻咽喉科学講座

### [ 付属病院耳鼻咽喉科 ]

#### 研究概要

教室の主研究テーマは、耳科学、聴覚学、平衡神経科学、免疫学、アレルギー学、頭頸部腫瘍学、音声言語学ならびに嚥下に関する研究などである。本年度は、厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究事業の主任研究者として、八木が新たに3年間の研究が開始され、メニエール病や遅発性内リンパ水腫に関する研究をさらに深く追求することになった。また、厚生科学研究費補助金として高額の研究費を受けた、感覚器障害研究事業も3年度目の研究が終了し、その結果の一部が和文、英文論文として発表されている。聴覚学に関しては、耳鳴の発生機序とその治療に関する研究が大きな進歩をみせている。また、真珠腫性中耳炎の骨破壊に関与するサイトカインの研究も軌道にのってきており、英文誌への掲載が決定している。免疫学では、呼吸上皮の検討や内耳での免疫応答に関する研究が、新たな展開を見せている。アレルギー学ではその基礎と薬物治療に関する研究も引き続き積極的に行われている。また、腫瘍の増殖に関する分子生物学的研究も進行しており、その一部が学会口演や原著とし発表されている。また、文部省科学研究の基礎研究や奨励研究の研究費を得て、それぞれの分野で研究が活発に行われている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Hasegawa S<sup>1)</sup>, Pawankar R, Suzuki K<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Ra C<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pediatrics, Yamaguchi Univ. , <sup>2)</sup>Dept. of Immunology, Juntendo Univ. ): Functional expression of the FcεRI in human platelets and in human megakaryocytes. . Blood 1999 ; 93 ( 8 ): 2543-2551 .
- 2) Tomiyama S, Jin-nouchi K, Ikezono T, Pawankar R, Yagi T : Experimental autoimmune labyrinthitis induced by cell-mediated immune reaction . Acta Otolaryngol ( Stockh ) 1999 ; 199 ( 6 ): 665-670 .
- 3) Yokoshima K, Nigauri T<sup>1)</sup>, Kamata S<sup>1)</sup>, Kawabata K<sup>1)</sup>, Hoki K<sup>1)</sup>, Mitani H<sup>1)</sup>, Yoshimoto S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Head and Neck, Cancer Institute Hospital ): New classification of stage IV squamous cell carcinoma of the oropharynx . Auris Nasus Larynx 1999 ; 26 ( 3 ): 311-316 .
- 4) Pawankar R, Takizawa R, Goto M, Goto Y, Okubo K, Nonaka M, Yamagishi S, Okuda M, Yagi T : Effect of pullulan immunotherapy on nasal T cell cytokine profile, mast cells and lymphocytes . 耳鼻免疫アレルギー 1999 ; 17 ( 2 ): 50-51 .
- 5) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Distinct expression of RANTES and GM-CSF in upper but not lower airway fibroblasts . Int Arch Allergy Appl Immunol 1999 ; 119 ( 4 ): 314-321 .
- 6) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Effect of macrolide antibiotics on the growth of nasal polyp fibroblasts . Am J Rhinol 1999 ; 3 ( 4 ): 267-272 .
- 7) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Eotaxin expression in nasal polyp fibroblasts . Acta Otolaryngol 1999 ; 119 : 314-318 .
- 8) Yeo Sang G<sup>1)</sup>, Cho Joong S<sup>1)</sup>, Pawankar R, Cha Chang I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyung Hee Univ. ): Functional heterogeneity of peripheral and nasal mucosal gd T cells in allergic rhinitis . Rhinology 1999 ; 15 : 49-51 .
- 9) Yamagishi S, Ohnishi M, Pawankar R, Nonaka M, Yagi T : IL-1 and TNF-alpha-mediated regulation of IL-6, IL-8, and GM-CSF release from cultured nasal epithelial cells . Rhinology 1999 ; 15 : 103-105 .

- 10) Yagi T, Kamura E, Shitara A : Three dimensional eye movement analysis during off vertical axis rotation in human subjects . Arch Ital Biol 2000 ; 138 ( 1 ): 39-47 .
- 11) Watanabe K, Hess A<sup>1)</sup>, Bloch W<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne ): Expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the vestibule of guinea pigs after the application of cisplatin . Anti-Cancer Drugs 2000 ; 11 : 29-32 .
- 12) Pawankar R : Pathogenesis of allergic rhinitis. Allergy a disease of modern society. . Ind. J. Rhinol 2000 ; 1 : 10-18 .
- 13) Pawankar R, Yamagishi S, Takizawa R, Yagi T : Local IgE synthesis : Its functional significance and strategy for new therapy . 日鼻誌 2000 ; 39 ( 1 ): 142-148 .
- 14) Pawankar R : Airway gamma-delta T cells in allergic diseases . J Rhinol 2000 ; 7 : 102-107 .
- 15) Ikezono T, Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Suzuki Y, Yagi T : Passive transfer of the experimental autoimmune labyrinthitis . Audiol Neuro-Otol 2000 .
- 16) 中溝宗永, 横島一彦, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 山岸茂夫, 八木聡明, 森園徹志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡済生会病院): 頭頸部再建における遊離皮弁移植の成績: 皮弁移植に関連した合併症 . 頭頸部外科 1999 ; 9 ( 3 ): 125-130 .
- 17) 三枝英人, 馬場俊吉, 八木聡明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学音声言語): 嚥下のリハビリテーション: より良い食生活への復帰を目指す . 耳鼻と臨床 1999 ; 45 ( 2 ): 397-400 .
- 18) 大久保公裕, 後藤 穰, 山岸茂夫, 滝沢竜太, 横島一彦, 奥田 稔, 八木聡明: アレルギー反応における鼻粘膜粘液中上皮層中の遊走細胞とメディエーター . アレルギー科 1999 ; 8 ( 1 ): 32-37 .
- 19) 陣内 賢, 中溝宗永, 富山俊一, 嘉村恵理子, 後藤 穰, 渡邊健一, 池園哲郎, 百束比古<sup>1)</sup>, 大河原大次(<sup>1)</sup>形成外科): 耳下腺癌再発例の拡大全摘手術の経験 . 耳喉頭頸 1999 ; 71 ( 4 ): 265-269 .
- 20) 大久保公裕, 奥田 稔, 後藤 穰, 滝沢竜太, 八木聡明: アレルギー性鼻炎に対する下鼻甲粘膜炎高周波電気凝固術 . 日鼻誌 1999 ; 38 ( 1 ): 111-116 .
- 21) 八木聡明: 急性中耳炎 . 小児科 1999 ; 40 : 787-791 .
- 22) 横島一彦, 中溝宗永, 矢嶋裕徳, 渡辺秀行, 富山俊一, 八木聡明: 他院での根治治療を希望して転院した頭頸部悪性腫瘍患者の検討 . 耳喉頭頸 1999 ; 71 ( 7 ): 421-423 .
- 23) 大久保公裕, Pawankar R, 奥田 稔: プルラン結合スギ抗原とT細胞反応 . アレルギー・免疫 1999 ; 6 ( 2 ): 72-76 .
- 24) 大久保公裕, 後藤 穰, 山岸茂夫, 角尾道夫<sup>1)</sup>, 川上高幸<sup>1)</sup>, 中村典彦<sup>1)</sup>, 国見聡宏<sup>1)</sup>, 岩沢邦明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>貴葉会ほうせん診療所): 標準化スギ花粉エキス ( TO-194 ) の特異的減感作療法における安全性の検討 . 耳鼻と臨床 1999 ; 45 ( 3 ): 251-263 .
- 25) 奥田 稔, 馬場廣太郎<sup>1)</sup>, 大久保公裕, 大塚博邦<sup>2)</sup>, 後藤裕一<sup>3)</sup>, 林 鷹治<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>獨協医大, <sup>2)</sup>第二病院, <sup>3)</sup>静岡済生会病院, <sup>4)</sup>たかの橋中央病院): 特異的減感作療法のための標準化スギ花粉エキス ( TO-194 ): アレルゲン活性におけるスギ花粉エキス標準品との比較 . 耳鼻と臨床 1999 ; 45 ( 3 ): 239-244 .
- 26) 藤倉輝道<sup>1)</sup>, 佐橋紀男<sup>2)</sup>, 秋元利香<sup>1)</sup>, 佐治富砂子<sup>1)</sup>, 馬場俊吉, 青木秀治 (<sup>1)</sup>谷津保健病院, <sup>2)</sup>東邦大薬学): スギ花粉症患者の外来初診日の動向 . 耳鼻咽喉科展望 1999 ; 42 ( 1 ): 292-297 .
- 27) 後藤 穰: プラディキニン鼻誘発反応におけるアンジオテンシン変換酵素の関与: 正常者と鼻アレルギー症例の比較 . 日耳鼻会報 1999 ; 102 : 218-225 .
- 28) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1)</sup>東京大学音声言語): “ 直接的 ” 間接的嚥下訓練とその効果発現機序 . 耳鼻と臨床 1999 ; 45 ( 4 ): 123-127 .
- 29) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂, 八木聡明: 鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生: 気道の他の部位の線維芽細胞との違い . 日鼻誌 1999 ; 38 : 53-58 .
- 30) 八木聡明: 多発神経症状を呈したRamsay Hunt症候群 . JOHNS 1999 ; 15 : 1300-1302 .

- 31) 八木聰明：めまいの原因疾患．カレントセラピー 1999；17：2045-2050．
- 32) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する新しい免疫療法．治療 1999；81(増刊)：579-583．
- 33) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明：鼻・副鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生：他の部位の線維芽細胞の比較．耳鼻免疫アレルギー 1999；17(2)：68-69．
- 34) 中溝宗永, 横島一彦, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 山岸茂夫, 八木聰明, 森園徹志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科)：頭頸部再建における遊離皮弁移植の成績：皮弁移植に関連した合併症．頭頸部外科 1999；9(2)：125-130．
- 35) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明：鼻茸由来線維芽細胞におけるeotaxin産生について．日鼻誌 1999；38(4)：44-47．
- 36) 八木聰明：日常診療におけるめまいの診断．大宮医師会報 1999；525：926-930．
- 37) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎の取り扱い．耳喉頭頸 1999；71(12)：881-885．
- 38) 大久保公裕, 奥田 稔：アレルギー性鼻炎の症状と重症度分類, QOL 評価．現代医療 1999；31(増刊IV)：2843-2850．
- 39) 大久保公裕, 八木聰明：オスラー病に対する超音波凝固切開装置の使用経験．耳喉頭頸 1999；71(13)：955-958．
- 40) 三枝英人<sup>1)</sup>, 秋山 稔<sup>2)</sup>, 新美成二<sup>3)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院, <sup>2)</sup>秋山医療器, <sup>3)</sup>東京大学音声言語)：舌癌術後等の咽頭への送り込み障害に対する摂食補助具の検討と工夫．日本気管食道科学会会報 1999；50(6)：597-602．
- 41) 横島一彦, 中溝宗永, 中嶋博史, 青柳美生, 矢嶋裕徳, 粉川隆行, 滝沢竜太：頭頸部同時重複癌2症例での遊離空腸による口腔再建．耳喉頭頸 2000；72(2)：109-112．
- 42) 三枝英人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院)：耳鼻咽喉科における訪問医療の役割：訪問医療に参加して気付いたこと．日耳鼻群馬県地方部会報 2000；18：10-12．
- 43) 藤倉輝道：鼻粘膜におけるCC-chemokine mRNA 発現へのエラスチンの影響．Progress in Medicine 2000；20(1)：137-177．
- 44) 森園徹志：1998年春のスギ花粉症飛散と患者動向について．臨床と研究 2000；77：170-172．
- (2) 研究報告書：
- 1) 八木聰明, 池園哲郎, 大久保公裕, Pawankar R, 大森 彬<sup>1)</sup>, 一ノ瀬幸代<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所)：2次元電気泳動法による内耳蛋白の解析．厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成11年度報告書 2000；pp35-37．
- 2) 八木聰明, Pawankar R, 池園哲郎, 馬場俊吉：感音難聴患者末梢血のリンパ球分画の変化．厚生省特定疾患 前庭機能異常調査研究分科会 平成11年度報告書 2000；pp33-34．
- (3) 総説：
- 1) Pawankar R：Mast cell function modulating IgE-mediated allergy．Allergology International 1999；48：72-89．
- 2) Pawankar R：Gamma-delta T cells in airway allergic diseases．Clin Exp Allergy 2000；130：318-323．
- 3) 中溝宗永：再建材料とその採取法2．皮弁：(2)血管付き：前腕皮弁の採取法．耳喉頭頸 1999；71(増刊)：22-27．
- 4) 相原康孝, 八木聰明：Meniere病．Clinical Neuroscience 1999；17：830．
- 5) 八木聰明：Meniere病．Clinical Neuroscience 1999；17：1418．
- 6) 大久保公裕：花粉症に対する抗原特異的免疫療法(減感作療法)．臨床と薬物治療 1999；8(12)：1108-1112．
- 7) 大久保公裕：鼻アレルギーに対する抗原特異的免疫療法の適応・方法・効果．アレルギー科 2000；9(suppl 1)：297-305．

- 8) 大久保公裕：花粉症の薬物療法．*medicina* 2000；37(2)：210-212．
- 9) 大久保公裕：スギ花粉症の治療．*東京都医師会雑誌* 2000；53(3)：287-292．
- 10) 大久保公裕：花粉症に対する抗原特異的免疫療法(減感作療法)．*眼科診療プラクティス* 2000；3(3)：84-85．

## 著書

- 1) Pawankar R：〔分担〕Nasal polyposis：Novel concepts．*Diseases of the Nose* (Bhide R & Wagh U)，1999；pp44-48，Mrittika International．
- 2) Pawankar R：〔分担〕Strategy of the management of Allergic rhinitis．*Advances in Allergy* (A. Singh & S. Kumar)，1999；pp81-95，Gupta Med Publishers．
- 3) Pawankar R：〔分担〕Cytokine network in Allergic rhinitis．*Advances in Allergy* (A. Singh & S. Kumar)，1999；pp21-32，Gupta Med Publishers．
- 4) Pawankar R：〔分担〕Pharmacotherapy of Allergic Rhinitis．*Otolaryngological Series* (G. Verghese & P. Karnik)，2000；pp66-75，Vashist Med Publishers．
- 5) Pawankar R：〔分担〕Pathogenesis of Allergic Rhinitis．*Otolaryngological Series* (G. Verghese & P. Karnik)，2000；pp33-41，Vashist Med Publishers．
- 6) 八木聰明：〔分担〕鼓膜形成術．*耳鼻咽喉科・頭頸部手術アトラス 上巻*(小松崎篤)，1999；pp62-65，医学書院．
- 7) 八木聰明：〔分担〕内耳疾患．*NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科学*(喜多村健，森山 寛)，1999；pp70-79，南江堂．
- 8) 八木聰明：〔分担〕眼球運動の三次元解析．*21世紀耳鼻咽喉科 めまい・平衡障害*(小松崎篤)，1999；pp314-321，中山書店．
- 9) 大久保公裕：〔分担〕耳鼻咽喉科におけるカルテの見方と治験例．*直接閲覧に必要なカルテの見方*(大橋和史)，1999；pp111-131，サイエンティスト社．
- 10) 八木聰明：〔分担〕眼球運動検査．*新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1. 内耳*(八木聰明)，2000；pp146-157，メジカルビュー社．
- 11) 八木聰明：〔分担〕良性発作性頭位めまい症．*新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1. 内耳*(八木聰明)，2000；pp184-187，メジカルビュー社．
- 12) 八木聰明：〔分担〕癭孔症状．*新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1. 内耳*(八木聰明)，2000；pp196-199，メジカルビュー社．
- 13) 大久保公裕：〔分担〕抗原特異的減感作療法の長期予後とその評価法について 2) スギ花粉症の免疫療法．*第4回那須ティーチイン記録集*(高坂知節)，2000；pp80-93，日本アレルギー協会．
- 14) Pawankar R：〔分担〕マスト細胞 IgE axisと気道過敏性．*第4回那須ティーチイン記録集*(高坂知節)，2000；pp8-16，日本アレルギー協会．
- 15) 大久保公裕：〔共著〕花粉症とは．*花粉症保健指導マニュアル*(花粉症保健指導マニュアル作成委員会)，2000；pp1-2，環境庁環境保健部環境安全課．
- 16) 大久保公裕：〔共著〕花粉について．*花粉症保健指導マニュアル*(花粉症保健指導マニュアル作成委員会)，2000；pp2-6，環境庁環境保健部環境安全課．
- 17) 大久保公裕：〔共著〕花粉症発症のメカニズム．*花粉症保健指導マニュアル*(花粉症保健指導マニュアル作成委員会)，2000；pp6-12，環境庁環境保健部環境安全課．
- 18) 大久保公裕：〔共著〕花粉症の概要．*花粉症保健指導マニュアル*(花粉症保健指導マニュアル作成委員会)，2000；pp13-37，環境庁環境保健部環境安全課．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Pawankar R : Etiopathogenesis of polyp formation . Brussels ( University of Brussels ), 1999 . 7 .
- 2) Pawankar R : Epithelial cells as immunomodulatory cells . 6th Kyung Hee University Symposium ( Seoul, Korea ), 1999 . 9 .
- 3) Pawankar R : Mast cell-IgE-IgE receptor cascade in allergic rhinitis . Swiss Institute of Allergy & Asthma: Special Lecture ( Davos, Switzerland ), 1999 . 12 .
- 4) Pawankar R : New insights into the pathogenesis of nasal polyposis . 5th Seminar Pune Medical Association ( Pune, India ), 1999 . 12 .
- 5) Pawankar R : Management of allergic rhinitis . Symposium on Airway diseases ( Pune, India ), 2000 . 1 .
- 6) Pawankar R : Management of nasal polyposis . Symposium on Airway diseases ( Pune, India ), 2000 . 1 .
- 7) Pawankar R : Pathogenesis and diagnosis of allergic rhinitis . AFMC International Lecture Series ( Pune, India ), 2000 . 1 .
- 8) Pawankar R , Akimoto R , Yagi T : New insights into the pathogenesis of cholesteatoma . AFMC International Lecture Series ( Pune, India ), 2000 . 1 .
- 9) Pawankar R : Pharmacotherapy of Allergic rhinitis . AFMC International Lecture Series ( Pune, India ), 2000 . 1 .
- 10) Pawankar R : From pathogenesis to treatment of allergic rhinitis . Special Lecture: Mahidol University ( Bangkok, Thailand ), 2000 . 1 .
- 11) Pawankar R : Novel roles of mast cells in Allergic inflammation . Special Lecture : Kyung Hee University School of Medicine ( Seoul, Korea ), 2000 . 1 .
- 12) Pawankar R : Anti-IgE treatment in allergic diseases . 3rd International Symposium on Basic Approach to Allergic Rhinitis ( Seoul, Korea ), 2000 . 1 .
- 13) Pawankar R : Mucosal Immunity of the upper airway . 5th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bangkok, Thailand ), 2000 . 1 .
- 14) Pawankar R : Diagnosis and Management of Allergic Rhinitis . 52nd Annual Congress of Otolaryngology Society of India ( Cochin, India ), 2000 . 1 .
- 15) Pawankar R : New insights into the etiopathogenesis of polyp formation. . Kyung Hee University Lecture ( Seoul, Korea ), 2000 . 2 .
- 16) Pawankar R : Rhinitis and asthma : The link . Special Lecture: Phillipine Otolaryngology Society ( Manila, Phillipines ), 2000 . 2 .
- 17) Pawankar R : Cytokine network in allergic rhinitis . Special Lecture: St. Lukes Medical Centre ( Manila, Phillipines ), 2000 . 2 .
- 18) Pawankar R : Update on the Pathogenesis of Allergic Rhinitis . 9th Asia-Oceania Congress in Otolaryngology ( Quezon, Phillipines ), 2000 . 2 .

### (2) 招待講演：

- 1) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の診断と治療．青森市耳鼻科医会，1999．5．
- 2) 大久保公裕：通年性鼻アレルギーの治療．文京区耳鼻咽喉科医会，1999．8．
- 3) 八木聰明：日常診療におけるめまいの診断．平成11年度第10回大宮医師会医学講座，1999．10．
- 4) 大久保公裕，後藤 穰：鼻粘膜抗原誘発での好酸球浸潤に対するニューロペプチドの役割．第7回ニューロペプチド研究会，1999．10．
- 5) 大久保公裕：アレルギーの局所点鼻療法について．東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会，1999．10．

- 6) 八木聰明：めまいについて．健康科学総合研究 市民講座，1999．11．
  - 7) 大久保公裕：鼻アレルギーの診断と治療．川口医師会学術講演会，1999．11．
  - 8) 中溝宗永：最近の頭頸部癌治療．第14回青春会，1999．11．
  - 9) 大久保公裕：アレルギーの診断と治療．練馬区医師会学術部耳鼻咽喉科医会合同講演会，2000．1．
  - 10) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎と減感作療法．関西鼻アレルギーフォーラム，2000．1．
  - 11) 八木聰明：めまいと眼球運動三次元解析．第15回高度先進医療研究会総会，2000．2．
  - 12) 大久保公裕：スギ花粉症の治療方針．神奈川花粉症学術セミナー，2000．2．
  - 13) 大久保公裕：花粉症の診断と治療．流山医師会学術講演会，2000．2．
  - 14) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎について．東京都中央区保健医療圏合同学術講演会，2000．2．
  - 15) 大久保公裕：花粉症治療の問題点と対応策．福岡市中央区医師会学術講演会，2000．2．
  - 16) 中溝宗永：最近の頭頸部癌治療．平成12年度台東区耳鼻咽喉科医師会学術講演会，2000．2．
  - 17) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎の診断と治療．第148回同愛記念病院小児科懇話会，2000．3．
  - 18) 大久保公裕：花粉症の臨床．横浜市中区医師会学術講演会，2000．3．
- (3) 教育講演：
- 1) Pawankar R：Management of Rhinosinusitis．52nd Annual Congress of Otolaryngology Society of India (Cochin, India)，2000．1．
  - 2) 大久保公裕：花粉症の治療．日本医師会生涯教育講座，1999．9．
  - 3) 大久保公裕：鼻粘膜アレルギー性炎症．埼玉県医師会生涯教育講座，2000．2．
- (4) シンポジウム：
- 1) Pawankar R：Local IgE synthesis in allergic rhinitis．18th European Academy of Allergy & Clinical Immunology (Brussels, Belgium)，1999．7．
  - 2) Pawankar R：Eosinophils in Nasal Polyps．18th European Academy of Allergy & Clinical Immunology (Brussels, Belgium)，1999．7．
  - 3) Cho Joong S<sup>1)</sup>，Pawankar R，Kim Su W<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyung Hee University School of Medicine)：Peripheral blood and Sinus mucosa T cells in allergic patients．4th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand)，2000．1．
  - 4) Cho Joong S<sup>1)</sup>，Pawankar R，Cha Cl<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyung Hee University School of Medicine)：Herbal medicine in allergic rhinitis．4th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand)，2000．1．
  - 5) Pawankar R：Etiopathogenesis of Allergic Rhinitis．52nd Annual Congress of Otolaryngology Society of India (Cochin, India)，2000．1．
  - 6) Pawankar R：Etiopathogenesis of Nasal polyposis．52nd Annual Congress of Otolaryngology Society of India (Cochin, India)，2000．1．
  - 7) Pawankar R：The shock organ in the clinical expression of disease：Role for anti-IgE treatment．2nd Congress of the Federation of Immunological Societies of Asia (Bangkok, Thailand)，2000．1．
  - 8) Pawankar R，Takizawa R，Yamagishi S，Yagi T：Mast cell function modulating IgE-mediated allergy：Cellular and molecular basis of allergic diseases．2nd Congress of the Federation of Immunological Societies of Asia (Bangkok, Thailand)，2000．1．
  - 9) Pawankar R，Takizawa R，Yamagishi S，Nonaka M，Yagi T：Impact of mast cells in nasal polyposis．5th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand)，2000．1．
  - 10) Nonaka M，Pawankar R，Saji F，Yagi T：Heterogeneity of airway fibroblasts．5th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand)，2000．1．

- 11) Pawankar R : Management of Allergic Rhinitis . 9th Asia-Oceania Congress in Otolaryngology ( Quezon, Phillipines ), 2000 . 2 .
  - 12) Pawankar R : Regulation of MCTC development by SCF, especially with regard to nasal mast cells . 第49回日本アレルギー学会, 1999 . 10 .
  - 13) 大久保公裕, 滝沢竜太, 山岸茂夫, 奥田 稔 : 成人の鼻粘膜アレルギー反応 : アレルギー性鼻炎の発症機序・病態と治療 . 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 5 .
  - 14) 大久保公裕 : 鼻アレルギーに対する免疫治療の問題点 : アレルギー疾患治療の問題点 . 第10回日光カンファレンス, 1999 . 7 .
  - 15) Pawankar R : マスト細胞と気道過敏性成立 . 第3回那須ティーチイン 研究会, 1999 . 7 .
  - 16) 大久保公裕, 後藤 稔, 八木聡明 : アレルギー反応における鼻粘膜神経原性炎症の成立機序 ( アレルギー性鼻炎における鼻粘膜炎症の成立機序とその臨床的意義 ) . 第38回日本鼻科学会, 1999 . 9 .
  - 17) Pawankar R : マスト細胞研究の最前線 . 第49回日本アレルギー学会, 1999 . 10 .
  - 18) Pawankar R : アレルギー性鼻炎における鼻粘膜炎症の成立機序とその臨床的意義 . 第38回日本鼻科学会, 1999 . 10 .
  - 19) Pawankar R : 花粉症 : アレルギー性鼻炎の病態と治療 . 第49回日本アレルギー学会, 1999 . 10 .
  - 20) 後藤 稔, 大久保公裕 : ACE, NEPによる鼻粘膜血管透過性亢進の制御 . 第12回気道病態シンポジウム, 2000 . 2 .
  - 21) 大久保公裕 : 頭痛 : 耳鼻咽喉科の立場から . 第29回日本慢性疼痛学会, 2000 . 3 .
- (5) ワークショップ :
- 1) 大久保公裕, 奥田 稔, 大塚博邦<sup>1)</sup>, 今野昭義<sup>2)</sup>, 藤田洋祐<sup>2)</sup>, 石井豊太<sup>3)</sup>, 宇佐神篤<sup>4)</sup>, 馬場駿吉<sup>5)</sup>, 坂倉康夫<sup>6)</sup>, 生駒尚秋<sup>7)</sup>, 石川 哮<sup>8)</sup>, 信太隆夫<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院, <sup>2)</sup>千葉大, <sup>3)</sup>国立相模原病院, <sup>4)</sup>県西部浜松医療センター, <sup>5)</sup>名古屋市大, <sup>6)</sup>三重大, <sup>7)</sup>鳥取大, <sup>8)</sup>熊本大, <sup>9)</sup>日本アレルギー研究所) : プルラン結合スギ花粉抗原での免疫療法の効果 ( アレルギー性鼻炎の最新治療 ) . 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 5 .
  - 2) 大久保公裕, 奥田 稔 : 耳鼻咽喉科におけるアレルギー科標榜の現状 ( アレルギー科標榜の現状と課題 ) . 第11回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1999 . 5 .
  - 3) Pawankar R : アレルギー性鼻炎におけるマスト細胞の役割 . 第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2000 . 3 .
- (6) 一般講演 :
- 1) Yamagishi S, Pawankar R, Takizawa R, Saito H<sup>1)</sup>, Kempuraj D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院アレルギー科) : Regulation of Stem Cell Factor Production in Nasal Epithelial Cells . 56th American Academy of Allergy Asthma and Immunology ( San Diego, USA ), 1999 . 3 .
  - 2) Ikezono T, Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Aihara Y, Suzuki Y, Yagi T : Histological findings of the passively transferred autoimmune labyrinthitis . 4th International Symposium on Menieres Disease ( Paris ), 1999 . 5 .
  - 3) Watanabe K, Hess A<sup>1)</sup>, Zumegegn C<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Stennert E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of ORL, University of Cologne) : Elektrokochleographie und histologische Analyse der Cochlea des Meerschweinchens nach intratympanaler Endotoxingabe ( Lipopolysaccharid ) . Deutsche Gesellschaft fuer Hals-Nasen-Ohren-Heilkunde, Kopf- und Hals-Chirurgie ( Aachen, Germany ), 1999 . 5 .
  - 4) Watanabe K, Hess A<sup>1)</sup>, Zumegegn C<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Bloch W<sup>1)</sup>, Addicks K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne) : Expression of inducible nitric oxide synthase in the cochlea of guinea pigs treated with cisplatin . 36th Workshop on Inner Ear Biology ( Helsinki ), 1999 . 6 .
  - 5) Yamagishi S, Pawankar R, Takizawa R, Saito H, Kempuraj D : Stem cell Factor productin in allergic and



non-allergic infective rhinitis . the XVIIth Congress of the European Academy of Allergology and Clinical Immunology ( Brussels Belgium ), 1999 . 7 .

- 6) Yagi T , Aihara Y , Sakuma A , Yajima H : Influence of vibratory stimulation to the neck, trunk, thigh, and leg muscles on the equilibrium in normals and patients with unilateral labyrinthine lesion . Collegium ORLAS ( Lyon ( France ) ), 1999 . 8 .
- 7) Ohkubo K , Gotoh M , Okuda M : Adhesive explant culture of allergic nasal mucosa . 8th Japan-Korea Joint Allergy Symposium ( Utsunomiya, Japan ), 1999 . 11 .
- 8) Takizawa R , Pawankar R , Yamagishi S , Yagi T : HLA-DR, CD80 and CD86 expression in nasal epithelial cells . 5th Asian Reserch Symposium in Rhinology ( Bangkok, Thailand ), 2000 . 1 .
- 9) Ohkubo K , Pawankar R , Okuda M : Prepro-endothelin and endothelin receptor expression in nasal surface after allergen challenge . 56th American Academy of Allergy, Asthma, & Immunology ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 10) Okuda M , Ohkubo K , Goto M : Intranasal pollen count for Japanese cedar pollinosis . 56th American Academy of Allergy, Asthma, & Immunology ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 11) Takizawa R , Pawankar R , Yamagishi S , Yagi T : HLA-DR, CD80 and CD86 expression on nasal epithelial cells . 56th American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 12) Saito H , Pawankar R , Takai S<sup>2)</sup> , Ahn K<sup>1)</sup> , Iida M<sup>1)</sup> , Matsumoto K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Allergy, National Childrens Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pharmacology, Osaka Medical College ): Formation of pure chymase-positive mast cell colonies from multipotent human cord blood progenitors . 56th Annual Meeting of the Am. Acad. Allergy Asthma & Immunol ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 13) Kimura Y , Pawankar R , Aoki M<sup>1)</sup> , Niimi Y , Kawana S ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology ): Cytokines expressed by mast cells infiltrating the lesions of Kimura's disease . 56th Annual Meeting of the Am. Acad. Allergy Asthma & Immunol ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 14) Pawankar R , Yamagishi S , Saito H<sup>1)</sup> , Takizawa R , Ahn K<sup>1)</sup> , Nonaka M , Yagi T ( <sup>1)</sup> Dept. of Allergy, National Childrens Hospital ) Influence of Stem cell factor on the distribution and phenotypes of nasal mast cells . 56th Annual Meeting of the Am. Acad. Allergy Asthma & Immunol ( San Diego, USA ), 2000 . 3 .
- 15) Takizawa R , Pawankar R , Yamagishi S , Yagi T : Localization of mite allergen in the nasal mucosa of allergic rhinitis . The Annual Meeting of the European Academy of Allergology and Clinical Immunology ( Brussels, Belgium ), 2000 . 7 .
- 16) Ahn K<sup>1)</sup> , Kempuraj D<sup>1)</sup> , Pawankar R , Takai S<sup>2)</sup> , Miyazaki S<sup>1)</sup> , Saito H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Allergy, National Childrens Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pharmacology, Osaka Medical College ): Reversible regulation of chymase levels in cord blood-derived human mast cell colonies . 第49回日本アレルギー学会総会 , 1999 . 10 .
- 17) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Saito H<sup>1)</sup> , Ahn K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Allergy, National Childrens Hospital ): Increased expression of the FcεRI, IL-4, and IL-13 in nasal mast cells of seasonal allergic rhinitis . 第49回日本アレルギー学会総会 , 2000 . 10 .
- 18) 中溝宗永 , Pawankar R , 横島一彦 , 陣内 賢 , 八木聰明 : ヒト唾液腺腫瘍におけるエンドセリン - 1 の発現 . 第100回日本耳鼻咽喉科学会 , 1999 . 5 .
- 19) 滝沢竜太 , Pawankar R , 山岸茂夫 : 鼻粘膜上皮細胞における HLA-DR の発現と調節因子 . 第 11 回日本アレルギー学会春期臨床大会 , 1999 . 4 .
- 20) 中溝宗永 , 横島一彦 , 佐野和史<sup>1)</sup> , 青木 律<sup>1)</sup> , 平井 隆<sup>1)</sup> , 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 形成外科 ): 頭頸部再建術後の合併症からみた遊離皮弁と有茎皮弁の比較 . 第42回日本形成外科学会 , 1999 . 4 .
- 21) 島田健一 , 後藤 穰<sup>1)</sup> , 森園徹志<sup>1)</sup> , 小山 守<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 静岡済生会病院 ): スギ花粉症の特異的減感作療法につい

- て．第57回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．4．
- 22) 森園徹志，後藤 穰<sup>1)</sup>，小山 守<sup>1)</sup>，島田健一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡済生会病院)：気管内挿管後の嘔声．第57回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．4．
- 23) 三枝英人：喉頭挙上に左右差があることに起因する嚥下障害患者への対応．第8回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会，1999．4．
- 24) 三枝英人<sup>12)</sup>，新美成二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院，<sup>2)</sup>東京大音声言語)：喉頭挙上に左右差があることに起因する嚥下障害患者の対応．第8回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会，1999．4．
- 25) 横島一彦，中溝宗永，矢嶋裕徳，陣内 賢，富山俊一，八木聰明：大唾液腺粘表皮癌の術前悪性度診断．第100回日本耳鼻咽喉科学会，1999．5．
- 26) 大久保公裕，Baraniuk J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Rheumatology, Allergy, & Immunology, Georgetown Univ. )：鼻粘膜アミノペプチデース．第11回日本アレルギー学会春期臨床大会，1999．5．
- 27) 中川武正<sup>1)</sup>，秋山一男<sup>2)</sup>，長谷川真紀<sup>2)</sup>，岩崎栄作<sup>3)</sup>，大久保公裕，宮本昭正<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>セントマリアンナ医大，<sup>2)</sup>国立相模原病院，<sup>3)</sup>同愛記念病院，<sup>4)</sup>東京大)：MAST-26の臨床的有用性に関する研究．第11回日本アレルギー学会春期臨床大会，1999．5．
- 28) 横島一彦，中溝宗永，矢嶋裕徳，陣内 賢，富山俊一，八木聰明：大唾液腺粘膜表皮癌の術前悪性度診断．第100回日本耳鼻咽喉科学会総会，1999．5．
- 29) 後藤 穰，森園徹志，小山 守，島田健一(<sup>1)</sup>静岡県花粉症調査委員会)：1999年春のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況および花粉症患者動向．第100回日本耳鼻咽喉科学会総会，1999．5．
- 30) 三枝英人<sup>12)</sup>，新美成二<sup>2)</sup>，熊田政信<sup>3)</sup>，山下和雄<sup>4)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院，<sup>2)</sup>東京大音声言語，<sup>3)</sup>防衛医大生理，<sup>4)</sup>日本医大解剖)：舌の組織解剖：特にオトガイ舌筋について．第100回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会，1999．5．
- 31) 横島一彦，中溝宗永，中嶋博史，矢嶋裕徳，粉川隆行，滝沢竜太，八木聰明：頭頸部同時重複癌治療での遊離空腸による口腔再建．第23回日本頭頸部腫瘍学会，1999．6．
- 32) 中溝宗永，横島一彦，滝沢竜太，陣内 賢，矢嶋裕徳，山岸茂夫，粉川隆行，中嶋博史，富山俊一，八木聰明，渡辺秀行：頭頸部癌治療における有茎皮弁の使用頻度と有用性．第23回頭頸部腫瘍学会，1999．6．
- 33) 藤倉輝道：鼻粘膜におけるCC-chemokine mRNA 発現へのエバスタチンの影響．第4回鼻アレルギー治療研究会，1999．6．
- 34) 渡辺幸子，相原康孝，滝沢竜太，池園哲郎，八木聰明：両側高度感音難聴をきたした急性中耳炎の1症例．第113回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，1999．6．
- 35) 小津千佳<sup>1)</sup>，後藤 穰<sup>1)</sup>，森園徹志，小山 守<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡済生会病院)：1999年春のスギ・ヒノキ科花粉症飛散状況および花粉症患者動向．第58回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．7．
- 36) 小山 守<sup>1)</sup>，森園徹志，後藤 穰<sup>1)</sup>，小津千佳<sup>1)</sup>，田中秀夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>静岡済生会病院，<sup>2)</sup>田中耳鼻科クリニック)：外リンパ瘻の3症例．第58回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．7．
- 37) 横島一彦，渡辺秀行，富山俊一，陣内 賢，中溝宗永，矢嶋裕徳，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部)：耳下腺リンパ腫から生じた扁平上皮癌症例．第37回日本癌治療学会，1999．10．
- 38) 滝沢竜太，Pawankar R，山岸茂夫：鼻粘膜上皮細胞におけるHLA-DR，CD86の発現と調節因子．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 39) 滝沢竜太，Pawankar R，山岸茂夫，八木聰明：鼻アレルギー患者鼻粘膜におけるダニ抗原の局在．第37回日本鼻科学会，1999．10．
- 40) 渡辺幸子，相原康孝，滝沢竜太，池園哲郎，八木聰明：両側高度感音難聴をきたした急性中耳炎の1例．第133回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，1999．10．
- 41) 相原康孝，横島一彦，馬場俊吉，上野博史，陣内 賢，八木聰明：先天性真珠種症例の検討．第9回日本耳科

学会総会，1999．10．

- 42) 山岸茂夫，Pawankar R，滝沢竜太：鼻アレルギー患者鼻粘膜におけるSCF産生能（上皮層，固有層での比較）．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 43) 藤倉輝道，Pawankar R，大塚博邦：上顎洞漿液性貯留液中IgEについての検討．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 44) 小津千佳<sup>1)</sup>，森園徹志，後藤 穰<sup>1)</sup>，小山 守<sup>1)</sup>，池田雅一<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>静岡済生会病院，<sup>2)</sup>池田耳鼻科）：気道狭窄の3症例．第59回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．10．
- 45) 小山 守<sup>1)</sup>，森園徹志<sup>1)</sup>，後藤 穰<sup>1)</sup>，小津千佳<sup>1)</sup>，寺崎正起<sup>2)</sup>，西関 修<sup>2)</sup>，中溝宗永（<sup>1)</sup>静岡済生会病院耳鼻科，<sup>2)</sup>同 外科）：喉頭癌摘出後の再建方法の検討．第59回日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会，1999．10．
- 46) 飯田 誠<sup>1)</sup>，富田久志<sup>1)</sup>，野村伊知郎<sup>1)</sup>，勝沼俊雄<sup>1)</sup>，Pawankar R，森山 寛<sup>2)</sup>，斎藤博久<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立小児病院アレルギー科，<sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科）：マスト細胞末梢血前駆細胞の至適培養法の確立．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 47) 木村陽一<sup>1)</sup>，Pawankar R，青木美佳子<sup>1)</sup>，新見やよい<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院皮膚科）：木村病におけるマスト細胞の動態．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 48) 長谷川俊史<sup>1)</sup>，田代紀陸<sup>1)</sup>，松原知代<sup>1)</sup>，Pawankar R，古川 漸<sup>1)</sup>，羅 智靖<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>山口医科大学小児科，<sup>2)</sup>順天堂大学免疫）：広島ヒト血小板における高親和性IgE受容体（Fc RI）を介したRANTES遊離の検討．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 49) 野中 学：線維芽細胞におけるSmooth muscle actinの上気道と下気道の違い．第38回日本鼻科学会，1999．10．
- 50) 島田健一，滝沢竜太，大久保公裕，森園徹志<sup>1)</sup>，矢島 洋<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>静岡済生会病院）：茶による鼻アレルギー症例の検討．第44回臨床アレルギー研究会，1999．11．
- 51) 森下まき，粉川隆行，設楽明子，嘉村恵理子，八木聡明：注視時と暗所開眼時の眼球位置に関する検討．第58回日本平衡神経科学会総会，1999．11．
- 52) 中嶋博史，相原康孝，矢嶋裕徳，八木聡明：能動的姿勢変化に対する下腿深部知覚の関わり．第58回日本平衡神経科学会，1999．11．
- 53) 福元 晃，池園哲郎，中溝宗永，粉川隆行，中嶋博史，横島一彦，八木聡明：上顎洞血腫の3症例．第134回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，1999．11．
- 54) 池園哲郎，大森 彬<sup>1)</sup>，一ノ瀬幸代<sup>1)</sup>，大久保公裕，Pawankar R，八木聡明（<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所）：2次元電気泳動法による内耳蛋白の解析．第58回日本平衡神経科学会総会，1999．11．
- 55) 相原康孝，中嶋博史，矢嶋裕徳，八木聡明：能動的姿勢変化と重心動揺：正常者と一側内耳機能廃絶者との比較．第58回日本平衡神経科学会総会，1999．11．
- 56) 三枝英人<sup>1,2)</sup>，山下和雄<sup>3)</sup>，新美成二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院，<sup>2)</sup>東京大音声言語，<sup>3)</sup>日本医大解剖）：舌内の筋紡錘の分布について．第44回日本音声言語医学会総会・学術講演会，1999．11．
- 57) 立 雅容，池園哲郎，中溝宗永，横島一彦，田村浩一<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，相原康孝，山岸茂夫，八木聡明（<sup>1)</sup>病理第2）：喉頭の骨外性骨肉腫の1症例．第135回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，1999．12．
- 58) 横島一彦，中溝宗永，矢嶋裕徳，滝沢竜太，粉川隆行，中嶋博史，富山俊一，八木聡明：死亡症例からみた頭頸部癌診療でのインフォームドコンセントの限界．第10回日本頭頸部外科学会，2000．1．
- 59) 森園徹志，後藤 穰，小山 守，小津千佳<sup>1)</sup>，西関 修，伊能和彦，大野稔之<sup>2)</sup>，中溝宗永（<sup>1)</sup>静岡済生会病院耳鼻科，<sup>2)</sup>同形成外科）：当科における頭頸部再建手術の手術成績と問題点．第10回頭頸部外科学会，2000．1．
- 60) 後藤 穰：1999年のスギ花粉症調査報告．第18回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー研究会，2000．1．
- 61) 八木聡明，嘉村恵理子：OVARによる三次元眼球運動．第2回耳石機能と頭位変化に伴うめまい検査の再評価，

2000 . 2 .

- 62) 新藤 晋, 池園哲郎, 馬場俊吉, 八木聰明: 外傷性耳小骨連鎖障害症例の検討 . 第136回日本耳鼻咽喉科学会 東京都地方部会, 2000 . 2 .
- 63) 大久保公裕, 後藤 穰, 山岸茂夫, 奥田 稔, 八木聰明: 標準化スギ花粉エキスによる抗原特異的免疫療法 . 第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2000 . 3 .
- 64) 小川千鶴子, 中溝宗永, 横島一彦, 滝沢竜太, 森下まき, 八木聰明: 喉頭腺癌の1症例 . 第137回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 2000 . 3 .
- 65) 三枝英人<sup>12)</sup>, 小泉康雄<sup>1)</sup>, 大山義雄<sup>3)</sup>, 新美成二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院, (<sup>2)</sup>東京大学音声言語, (<sup>3)</sup>神尾記念病院): 高度な嘔声に至った小児胃食道逆流症の1例 . 第12回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2000 . 3 .
- 66) 野中 学, Pawankar R, Saji F, Yagi T: 線維芽細胞のTGF-betaに関する反応性について . 第18回耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2000 . 3 .
- 67) 森園徹志: 頸部郭清術 . 第8回静岡県耳鼻咽喉科手術手技研究会, 2000 . 12 .

(7) その他:

- 1) 藤倉輝道: スギ花粉症の患者服薬指導について . 大日本製薬記念学術講演会, 1999 . 12 .

## [ 第二病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

今年度の研究業績は, スギ花粉症の花粉飛散開始日と外来初診日の関係を調査した, 臨床的研究の報告と慢性副鼻腔炎の最新治療についての総説が掲載された . その他の研究としては, アレルギー性鼻炎の発症機序に関する研究が, 引き続き行われている . また, 穿刺細胞診の有用性に関する研究や, リンパ節生検の適応に関する検討も継続中である .

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 藤倉輝道<sup>1)</sup>, 佐橋紀男<sup>2)</sup>, 秋元利香<sup>1)</sup>, 佐地富砂子<sup>1)</sup>, 青木秀治, 馬場俊吉 (<sup>1)</sup>谷津保健病院耳鼻咽喉科, (<sup>2)</sup>東邦大学薬学部生物学教室): スギ花粉症の外来初診日の動向 . 耳展 1999 ; 42 (3): 292-297 .
- 2) 小坂和美<sup>1)</sup>, 野中玲子, 野中 学, 青木秀治 (<sup>1)</sup>こさか耳鼻咽喉科): 眼窩内骨膜下血腫を伴った副鼻腔嚢胞の1例 . 耳鼻 2000 ; 46 (2): 119-122 .

(2) 総説:

- 1) 青木秀治: 慢性副鼻腔炎治療の進歩 . 日医大誌 1999 ; 66 (6): 406-406 .

## [ 多摩永山病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

- (1) 扁桃の加齢による変化について
- (2) 内耳の自己免疫の研究 (特に抗体について)
- (3) 呼吸器粘膜障害時の細胞変化について
- (4) 睡眠時無呼吸の手術による効果について

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Nonaka M, Pawankar R, Tomiyama S, Yagi T : A macrolide antibiotics, Roxithromycin, inhibits the growth of nasal polyp fibroblast . Am J Rhinol 1999 ; 13 ( 4 ) : 267-272 .
- 2) Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Pawankar R, Yagi T : Experimentyal autoimmune labyrinthitis induced by cell-mediated reaction . Acta Otolaryngol 1999 ; 119 : 665-670 .
- 3) 八木聡明<sup>1)</sup>, 伊藤壽一<sup>2)</sup>, 久保 武<sup>3)</sup>, 高橋正統<sup>4)</sup>, 高橋光明<sup>5)</sup>, 古屋信彦<sup>6)</sup>, 山下敏夫<sup>7)</sup>, 渡辺行雄<sup>8)</sup>, 工田昌也<sup>9)</sup>, 室伏利久<sup>10)</sup>, 富山俊一 ( <sup>1)</sup>日本医大耳鼻科, <sup>2)</sup>京大耳鼻科, <sup>3)</sup>阪大耳鼻科, <sup>4)</sup>東海大耳鼻科, <sup>5)</sup>旭川耳鼻科, <sup>6)</sup>群大耳鼻科, <sup>7)</sup>関西医大耳鼻科, <sup>8)</sup>富山医薬大耳鼻科, <sup>9)</sup>広大耳鼻科, <sup>10)</sup>東大耳鼻科 ): メニエール病の重症度分類について . Equilibrium Res 1999 ; 58 ( 1 ) : 61-64 .
- 4) 八木聡明, 伊藤壽一<sup>1)</sup>, 久保 武<sup>2)</sup>, 高橋正統<sup>3)</sup>, 高橋光明<sup>4)</sup>, 古屋信彦<sup>5)</sup>, 山下敏夫<sup>6)</sup>, 渡辺行雄<sup>7)</sup>, 工田昌也<sup>8)</sup>, 室伏利久<sup>9)</sup>, 富山俊一 ( <sup>1)</sup>大津日赤耳鼻科, <sup>2)</sup>阪大耳鼻科, <sup>3)</sup>山口大耳鼻科, <sup>4)</sup>旭川医大耳鼻科, <sup>5)</sup>群大耳鼻科, <sup>6)</sup>関西医大耳鼻科, <sup>7)</sup>富山医薬大耳鼻科, <sup>8)</sup>広大耳鼻科, <sup>9)</sup>東大耳鼻科 ): メニエール病の重症度分類について . Equilibrium Res 1999 ; 58 ( 1 ) : 61-64 .

#### (2) 研究報告書：

- 1) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎：内耳浸潤細胞の表面マーカー分析．厚生省特定疾患聴覚平衡機能系疾患調査研究班前庭機能異常：主任研究者 八木聡明 2000 ; 1 ( 1 ) : pp90-92 .

#### (3) 総説：

- 1) 富山俊一：内耳自己免疫病．アレルギーの臨床 1999 ; 19 ( 5 ) : 429-433 .

### 著書

- 1) Harris J P<sup>1)</sup>, Tomiyama S ( <sup>1)</sup> Univerdity California San Diego, Dept. of Otolaryngology Head & Neck Surgery ): [ 分担 ] Immunology/virology of Meniere's disease . Meniere's Disease ( Hairs JP ), 1999 ; pp125-138, Kugler Publications .

### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

#### 一般講演：

- 1) 島田早苗, 頼 徳成：花粉アレルギーの治療と現況．調布市医師会学術講演会, 1999 . 1 .

#### (1) 特別講演：

- 1) 富山俊一：メニエール病の病態の免疫学的研究．第20回東海メニエール病研究会, 1999 . 9 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 富山俊一：実験的自己免疫迷路炎モデルにおける内耳自己抗体の検討．第9回日本耳科学会, 1999 . 10 .
- 2) Ikezono T, Tomiyama S, Pawankar R, Yagi T : Histological findings of the passively transferred autoimmune labyrinthitis . 4th International Symposium on Meniere's Disease ( Parris ), 1999 . 4 .
- 3) Yamada K<sup>1)</sup>, Ishihara Y<sup>1)</sup>, Shimada S ( <sup>1)</sup> Anestheology ): The effect of nerve block treatments in cervicogenetic headache . 9th World Congress on Pain ( Vienna, Austria ), 1999 . 8 .
- 4) 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲朗：内耳免疫障害に対する半夏白朮天麻湯の効果．第15回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, 1999 . 9 .
- 5) 高橋光明<sup>1)</sup>, 富山俊一 ( <sup>1)</sup> 旭川医大 ): 内リンパ水腫作成動物における内耳自己抗体の検討．第9回日本耳科学

会，1999．10．

- 6) 横島一彦，中溝宗永，矢島祐徳，滝沢竜太，粉川隆行，中島博史，富山俊一，八木聡明：死亡例からみた頭頸部癌診療でのインフォームドコンセントの限界．第10回日本頭頸部外科学会，2000．1．
- 7) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎における浸潤細胞のCD分画．第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2000．3．

## [ 千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

耳科学，聴覚学，平衡神経学，アレルギー学を中心に臨床にそくした研究が行われた．耳科学では鼓膜正常の伝音難聴症例の検査所見と手術時診断の検討から術前診断率の向上に努めている．聴覚学では突発性難聴の臨床経過，耳鳴の発生機序とマスクによる治療や客観的評価の研究が進んでいる．平衡神経学では重心動揺計を用いた平衡機能検査など臨床を中心にした研究と基礎的研究として眼球運動の三次元解析を付属病院と共同で行っている．アレルギー学ではマクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響など組織培養を中心に基礎的研究を行っている．また，文部省科学研究費の基礎研究を得てアレルギーの研究を行っている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Nonaka M, Pawankar R, Tomiyama S, Yagi T : A Macrolide Antibiotic, Roxithromycin, Inhibits the Growth of Nasal Polyp Fibroblasts . American Journal Rhinology 1999 ; 13 (4) : 267-272 .
- 2) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Distinct Expression of RANTES and GM-CSF by Lipopolysaccharide in Human Nasal Fibroblasts but Not in Other Airway Fibroblasts . International Archives of Allergy and Immunology 1999 ; 119 (4) : 314-321 .
- 3) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Eotaxin Synthesis by Nasal Polyp Fibroblasts . Acta Otolaryngol (Stockh) 1999 ; 119 (7) : 816-820 .
- 4) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明：鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生：気道の他の部位の線維芽細胞との違い．日本鼻科学会誌 1999 ; 38 (1) : 53-58 .
- 5) 富山俊一<sup>1)</sup>, 野中 学, 池園哲郎<sup>3)</sup>, 後藤裕一<sup>4)</sup>, 木下俊之<sup>5)</sup>, 陣内 賢<sup>6)</sup>, Pawankar R<sup>7)</sup>, 八木聡明<sup>7)</sup>, 高橋光明<sup>8)</sup>, Harris Jeffery P<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医大多摩永山病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>日本医大付属病院耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup>東埼玉病院耳鼻咽喉科, <sup>5)</sup>日本医大第二病院耳鼻咽喉科, <sup>6)</sup>海老名総合病院耳鼻咽喉科, <sup>7)</sup>日本医大付属病院耳鼻咽喉科, <sup>8)</sup>旭川医大耳鼻咽喉科, <sup>9)</sup>カルフォルニア大学耳鼻咽喉科 ): 内耳免疫の基礎と臨床．耳鼻免疫アレルギー 1999 ; 17 (2) : 34-35 .
- 6) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明：鼻・副鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生：他の部位の線維芽細胞との比較．耳鼻免疫アレルギー 1999 ; 17 (2) : 68-69 .
- 7) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明：鼻茸由来線維芽細胞におけるeotaxin産生について．日本鼻科学会誌 1999 ; 38 (4) : 44-47 .
- 8) 青柳美生, 設楽明子, 三枝英人, 頼 徳成, 相原康孝, 八木聡明：栄養障害後脳症として発症したWernicke脳症の1症例．耳鼻咽喉科 頭頸部外科 1999 ; 71 (12) : 868-871 .
- 9) 嘉村恵理子, 相原康孝<sup>1)</sup>, 山口 潤<sup>2)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>山口耳鼻咽喉科 ): めまい外来1万例の統計的検討．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 1999 ; 71 (13) : 901-906 .
- 10) 野中玲子<sup>1)</sup>, 野中 学, 小坂和己<sup>2)</sup>, 嘉村恵理子, 馬場俊吉 ( <sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>小坂耳鼻咽喉科医

院): 扁桃により尿中IL-6が改善したIgA腎症例. 耳鼻咽喉科臨床 2000; 93(2): 131-134.

(2) 総説:

- 1) 馬場俊吉: 突発性難聴治療の最前線: プロスタグランディンの効果. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会教育パネルテキスト 1999; 24(3): 19-23.
- 2) 馬場俊吉: 慢性中耳炎の手術の工夫. Otol Jap 2000; 10(1): 14-15.
- 3) 馬場俊吉: 耳鳴の検査と治療. かがみ 2000; 87(1): 119-124.

著書

- 1) 馬場俊吉: [自著] CHART: 耳鼻咽喉科2. CHART: 耳鼻咽喉科2, 1999; 医学評論社.
- 2) 馬場俊吉: [分担] 聴覚: 2-聴覚検査法: 音叉による検査. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1 内耳(八木聰明), 2000; pp10-11, メジカルビュー社.
- 3) 馬場俊吉: [分担] 聴覚: 2-聴覚検査法: 耳鳴検査. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1 内耳(八木聰明), 2000; pp46-47, メジカルビュー社.
- 4) 馬場俊吉: [分担] 聴覚: 3-聴覚異常: 外リンパ瘻. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1 内耳(八木聰明), 2000; pp74-77, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 馬場俊吉: 突発性難聴. 東京都耳鼻咽喉科医会, 1999. 7.
- 2) 馬場俊吉: 難聴, 耳鳴, めまい, 日常診療への対応耳鳴. 日本耳鼻咽喉科医会連合会 第24回臨床科フォーラム, 1999. 8.
- 3) 野中 学: 当院における内視鏡下鼻・副鼻腔手術. 第54回千葉県地方部会, 2000. 2.
- 4) 馬場俊吉: 春季花粉症の治療の実際. 神奈川県保険医協会第376回月例研究会, 2000. 2.
- 5) 馬場俊吉: めまい検査と診断. 習志野市医師会学術講演会, 2000. 3.

(2) シンポジウム:

- 1) Pawankar R<sup>1)</sup>, Takizawa R<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>2)</sup>, Nonaka M, Yagi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 下谷病院耳鼻咽喉科): Impact of Mast Cells in Nasal Polyps. 5th Asian Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand), 2000. 1.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 馬場俊吉: 突発性難聴治療の最前線: プロスタグランディンの効果. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会教育パネル, 1999. 12.
- 2) 馬場俊吉: 慢性化膿性中耳炎の手術の工夫. 第9回日本耳科学会, 1999. 9.

(4) 一般講演:

- 1) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T: Heterogeneity of Airway Fibroblasts. 5th Research Symposium in Rhinology (Bangkok, Thailand), 2000. 1.
- 2) Pawankar R<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>2)</sup>, Saito H<sup>3)</sup>, Takizawa R<sup>1)</sup>, Kangmo A<sup>4)</sup>, Nonaka M, Yagi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 下谷病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup> 国立小児病院小児科, <sup>4)</sup> 国立小児病院小児科): Influence of Stem Cell Factor on the Distribution and Phenotypes of Nasal Mast Cells. 56st Congress of the American Academy of Allergy and Immunology (San Diego, USA), 2000. 3.
- 3) 嘉村恵理子, 設楽明子<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 一側前庭機能喪失者におけるOVAR. 日本耳鼻咽喉科学会総会, 1999. 5.
- 4) 神尾友信, 嘉村恵理子, 野中玲子, 野中 学, 馬場俊吉: 両側感音難聴を呈した小脳テント下腫瘍の1症例.

第52回千葉県地方部会，1999．7．

- 5) 馬場俊吉，神尾友信，嘉村恵理子，野中 学，野中玲子：高齢者の耳鳴マスカ―療法．第10回耳鼻咽喉科と老化の研究会，1999．7．
- 6) 神尾友信，野中 学，野中玲子，嘉村恵理子，馬場俊吉：RIの有無とマスカ―後効果との関係．第19回耳鳴研究会，1999．7．
- 7) 野中 学，Pawankar R，佐地富砂子，八木聰明：線維芽細胞におけるSmooth muscle -actinの誘導：上気道と下気道の違い．第38回日本鼻科学会総会，1999．10．
- 8) 嘉村恵理子，青柳美生，神尾友信，野中玲子，野中 学，馬場俊吉：反復性顔面神経麻痺で発見された先天性真珠腫の1例．第53回千葉県地方部会，1999．11．
- 9) 青柳美生，嘉村恵理子，神尾友信，野中 学，馬場俊吉：鼓膜所見正常な伝音難聴症例の検討．第54回千葉県地方部会，2000．2．
- 10) 青柳美生，嘉村恵理子，神尾友信，野中 学，馬場俊吉：鼓膜所見正常な伝音難聴症例の検討．日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会，2000．2．
- 11) 野中 学，Pawankar R，佐地富砂子，八木聰明：鼻腔線維芽細胞のTGF- $\beta$ に対する反応性について．第18回耳鼻免疫アレルギー，2000．3．
- 12) Pawankar R<sup>1)</sup>，Yamagishi S<sup>2)</sup>，Saito H<sup>3)</sup>，Takizawa R<sup>1)</sup>，Kangmo A<sup>3)</sup>，Nonaka M，Yagi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>下谷病院耳鼻咽喉科，<sup>3)</sup>国立小児病院小児科)：Effect of Stem Cell Factor on the Phenotypes of Nasal Mast Cells．第18回耳鼻免疫アレルギー，2000．3．



## 15. 泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

泌尿器科学講座では泌尿器腫瘍学，尿路結石学，尿路神経学，泌尿器内視鏡学，男性学（Andorogy），腎移植学，婦人科的泌尿器科学，血液浄化療法を中心に研究を行っている。

1) 泌尿器科腫瘍学：早期腎癌に対する腎温存手術，進行性腎癌に対する免疫療法，尿路上皮内癌および表在性膀胱腫瘍に対するBCG注入療法，浸潤性尿路腫瘍に対する化学療法・手術療法を中心とした集学的治療，QOLを重視した尿路変向術，前立腺癌に対する早期発見，腹腔鏡下手術を含めた外科的療法，化学療法，ホルモン療法を中心に研究している。また，泌尿器癌細胞におけるシクロオキシゲナーゼ2の役割についても研究している。

2) 尿路結石学：腎結石ならびに尿管結石に対する体外衝撃波結石破砕術，レーザーなどの破砕手段を用いた経皮的ならびに経尿道的結石破砕術などの臨床的研究を行っている。

3) 尿路神経学：前立腺肥大症に対する交感神経遮断薬の臨床効果，神経因性膀胱に対する尿流動態検査，薬物療法を中心に臨床的検討を行っている。

4) 泌尿器内視鏡学：ホルニウムYAGレーザーを用いた内視鏡手術，腹腔鏡下手術の有用性について研究している。さらに，尿路疾患に対する細径プローブ超音波診断の有用性と課題について，基礎的ならびに臨床的検討を行っている。

5) 男性学（Andorogy）：基礎的には雄ラットの性行動に対する研究，臨床的には勃起障害の病態と薬物療法についての研究を行っている。

6) 腎移植学：ブタ腎のヒトへの異種移植に関する基礎的研究を行っている。

7) 婦人科的泌尿器科学：腹圧性尿失禁に対する薬物療法を中心とした保存的治療について検討している。

8) 血液浄化療法：様々な疾患に対する各種血液浄化療法の有用性，腎機能傷害者に対する血液透析の造影剤除去効果について研究している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hattori T, Kimura G, Horiuchi K, Tsuboi N, Yoshida K, Akimoto M : The efficacy of Bacillus Calmette Guerin instillation therapy of the upper urinary tract for carcinoma in situ . Int. J Clin Oncology 1999 ; 4 ( 5 ): 295-297 .
- 2) Ohgaki K, Iida A<sup>1)</sup>, Ogawa O<sup>2)</sup>, Kubota Y<sup>3)</sup>, Akimoto M, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NHS, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Kyoto Univ. , <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Yokohama City Univ. ) : Localization of Tumor Suppressor Gene Associated with Distant Metastasis of Urinary Bladder Cancer to a 1-Mb Interval on 8p22 . Genes Chromosomes Cancer 1999 ; 25 : 1-5 .
- 3) Yanagiya T, Imura N<sup>1)</sup>, Kondo Y, Himeno S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health Kitasato Univ. ) : Reduced uptake and enhanced release of cadmium in cadmium-resistant metallothionein null fibroblasts. . Life Sci 1999 ; 65 ( 14 ): PL177-182 .
- 4) Kondo Y, Himeno S<sup>1)</sup>, Endo W<sup>1)</sup>, Mita M<sup>1)</sup>, Suzuki Y, Nemoto K, Akimoto M, Lazo J<sup>2)</sup>, Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health Kitasato Univ. , <sup>2)</sup> Dept. of Pharmacol. Univ. of Pittsburgh ) : Metallothionein modulates the carcinogenicity of N-butyl-N-( 4-hydroxybutyl ) nitrosamine in mice. . Carcinogenesis 1999 ; 20

(8): 1625-1628 .

- 5) Horiuchi K , Yoshida K , Tuboi N , Akimoto M , Tajima H<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Radiology, Nippon Medical School ): Elimination of non-ionic contrast medium by hemodialysis in patients with impaired function . J Nippon Med Sch 1999 ; 66 ( 5 ): 17-19 .
- 6) Ohgaki K , Minobe K<sup>1)</sup> , Kurose K<sup>1)</sup> , Iida A<sup>1)</sup> , Habuchi T<sup>2)</sup> , Ogawa O<sup>2)</sup> , Kubota Y<sup>3)</sup> , Akimoto M , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, NMS , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto Univ. , <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Yokohama City Univ. ): Two Target Regions of Allelic Loss on Chromosome 9 in Urinary-bladder Cancer . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 957-964 .
- 7) Sakurai A<sup>1)</sup> , Hara S<sup>1)</sup> , Okano N<sup>1)</sup> , Kondo Y , Inoue J<sup>2)</sup> , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health Kitasato Univ. , <sup>2)</sup> Medical Inst. Univ. of Tokyo ): Regulatory role of metallothionein in NF-kB activation . FEBS letter 1999 ; 455 : 55-58 .
- 8) Horiuchi K , Tuboi N , Yoshida K , Akimoto M : The short-term effect of tamsulosin in Japanese men with benign prostatic hyperplasia . J Nippon Med Sch 1999 ; 66 ( 6 ): 382-387 .
- 9) Nemoto K , Kondo Y , Himeno S<sup>1)</sup> , Suzuki Y , Hara S<sup>1)</sup> , Akimoto M , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health Kitasato Univ. ): Modulation of telomerase activity by zinc in human prostatic and renal cancer cells . Biochem Pharmacol 1999 ; 59 : 401-405 .
- 10) Tsuboi N , Horiuchi K , Osawa S , Hamasaki T , Yoshida Y , Murakami M<sup>1)</sup> , Akimoto M ( <sup>1)</sup> Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School ): Endoscopic treatment of vesicoureteral reflux in children with glutaraldehyde cross-linked dermal collagen short-term results . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 ( 1 ): 9-12 .
- 11) Yanagiya T<sup>1)</sup> , Imura N<sup>2)</sup> , Enomoto S<sup>1)</sup> , Kondo Y , Himeno S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Inst. of Science , <sup>2)</sup> Dept. of Public Health Kitasato Univ. ): Suppression of high-affinity transport system for manganese in cadmium-resistant metallothionein-null cells . J Pharmacol Exp Therap 2000 ; 292 ( 3 ): 1080-1086 .
- 12) 橋本義孝 , 山形健治 , 近藤幸尋 , 濱崎 務 , 坪井成美 , 秋元成太 : 下大静脈に腫瘍塞栓を伴う性腺外胚細胞腫瘍の1例 . 泌尿器科紀要 1999 ; 45 ( 9 ): 613-615 .
- 13) 木全亮二 , 渡辺 潤 , 塩路 豪 , 服部智任 , 堀内和孝 , 秋元成太 : 陰茎異物に起因する壊死性筋膜炎 . 臨床泌尿器科 1999 ; 53 ( 12 ): 1011-1013 .
- 14) 塩路 豪 , 木村 剛 , 松沢一郎 , 山形健治 , 堀内和孝 , 秋元成太 : インディアナパウチの自然破裂 . 臨床泌尿器科 1999 ; 53 ( 13 ): 1093-1095 .
- 15) 清水宏之 , 大場修司<sup>1)</sup> , 角 泰廣<sup>2)</sup> , 尾関 豊<sup>2)</sup> , 秋元成太 ( <sup>1)</sup> 国立東静病院泌尿器科 , <sup>2)</sup> 同外科 ): 食道癌腎転移の1例 . 臨床泌尿器科 2000 ; 54 ( 1 ): 75-77 .
- 16) 塩路 豪 , 山形健治 , 渡辺 潤 , 堀内和孝 , 秋元成太 , 古川清憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第1 ): 腎結腸瘻を合併した両側腎サンゴ状結石 . 臨床泌尿器科 2000 ; 54 ( 2 ): 133-135 .

## (2) 総説 :

- 1) 大澤秀一 , 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ): 前立腺全摘術後バルーンカテーテルが抜けないときのスタイレットを用いた抜去法 . 臨床泌尿器科 1999 ; 53 ( 6 ): 458-458 .
- 2) 堀内和孝 , 秋元成太 : 薬物療法マニュアル , 併存病態の理解と薬物療法 : 前立腺肥大症 . 臨床外科 1999 ; 54 ( 11 ( 増刊号 ) ): 489-492 .
- 3) 木村 剛 : 前立腺疾患の治療 up to date : 最先端の診断技術から患者QOLまで : 症例呈示と解説 前立腺癌の3症例 . 今月の治療 1999 ; 7 ( 11 ): 83-86 .
- 4) 近藤幸尋 , 秋元成太 : 特集 : 高齢者診療における各科のトピックス , 泌尿器科 . クリニカ 1999 ; 26 : 366-371 .
- 5) 堀内和孝 : 特集 : 前立腺疾患の治療 up to date : 最先端の診断技術から , 患者QOLまで , 治療レビュー [ 各論 ]

- 前立腺肥大症に対する薬物療法．今月の治療 1999；7(11): 40-46．
- 6) 堀内和孝：疾患別診療指針：泌尿器科疾患（腎尿路異常/閉塞性尿路疾患），前立腺肥大症．腎と透析 1999；47（増刊号）：429-434．
- 7) 堀内和孝：特集：前立腺肥大症；最新の治療と看護，疾患を理解するための医学知識，必要な検査とその目的，直腸内触診．臨床看護 2000；26（3）：328-331．
- 8) 堀内和孝，秋元成太：特集：前立腺肥大症の薬物療法：高齢化時代のQOL，前立腺肥大症の薬物療法の進め方．薬局 2000；51（3）：1007-1013．
- 9) 坪井成美，秋元成太：泌尿器科外来診療：私はこうしている，外来検査方法のポイント，尿道膀胱鏡検査．臨床泌尿器科 2000；54（増刊号）（4）：57-62．

## 著書

- 1) 坪井成美，堀内和孝，木村 剛，近藤幸尋，服部智任：〔共著〕新泌尿器科学第9版（秋元成太監修，吉田和弘編集），1999；pp1-230，日本医事新報社．
- 2) 坪井成美：〔分担〕X線画像診断：施行上，読影上の注意点とpitfall 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編集），2000；pp2-12，医学書院．
- 3) 長谷川潤：〔分担〕CT，MRI：施行上，読影上の注意点とpitfall 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編集），2000；pp13-16，医学書院．
- 4) 坪井成美：〔分担〕レノグラム：施行上，読影上の注意点とpitfall 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編集），2000；pp17-19，医学書院．
- 5) 吉田和弘：〔分担〕骨シンチ・スキャン：骨転移の画像診断 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編集），2000；pp20-23，医学書院．
- 6) 木村 剛：〔分担〕超音波検査：施行上の注意点とpitfall どこまでわかる？ 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp24-36，医学書院．
- 7) 秋元成太：〔分担〕下部尿路内視鏡検査：施行上の注意点とpitfall 検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp37-38，医学書院．
- 8) 堀内和孝：〔分担〕ウロダナミックスタディ（尿流動態検査）：検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp39-42，医学書院．
- 9) 吉田和弘：〔分担〕腫瘍マーカーの読み方：検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp43-46，医学書院．
- 10) 木村 剛：〔分担〕生検法：検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp47-52，医学書院．
- 11) 清水宏之：〔分担〕遺伝子診断：検査．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp53-55，医学書院．
- 12) 堀内和孝：〔分担〕薬物療法：前立腺肥大症．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp61-63，医学書院．
- 13) 堀内和孝：〔分担〕薬物療法以外の治療法とその選択：前立腺肥大症．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp64-66，医学書院．
- 14) 小川秀弥：〔分担〕泌尿器科悪性腫瘍の臨床病期分類（TNM分類と学会分類）：悪性腫瘍．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp72-91，医学書院．
- 15) 沖 守：〔分担〕膀胱腫瘍の深達度診断法：悪性腫瘍．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司編），2000；pp92-94，医学書院．
- 16) 近藤幸尋：〔分担〕膀胱腫瘍の臨床進行度別治療法：悪性腫瘍．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋

- 元成太, 西村泰司編), 2000 ; pp95-100, 医学書院 .
- 17) 近藤幸尋 : [ 分担 ] 膀胱腫瘍手術の補助療法 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp101-106, 医学書院 .
  - 18) 堀内和孝 : [ 分担 ] 尿路変向の選択と術前術後管理 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp107-113, 医学書院 .
  - 19) 近藤幸尋 : [ 分担 ] 腎盂・尿管腫瘍の治療 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp114-116, 医学書院 .
  - 20) 吉田和弘 : [ 分担 ] 前立腺癌の臨床深達度診断とGleason分類 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp117-120, 医学書院 .
  - 21) 吉田和弘 : [ 分担 ] 前立腺癌における治療法の選択 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp121-123, 医学書院 .
  - 22) 吉田和弘 : [ 分担 ] 前立腺癌に対する根治的的前立腺全摘除術 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp124-126, 医学書院 .
  - 23) 木村 剛 : [ 分担 ] 精巣胚細胞腫瘍の組織学的分類 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp127-128, 医学書院 .
  - 24) 木村 剛 : [ 分担 ] 精巣腫瘍の治療方針 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp129-135, 医学書院 .
  - 25) 長谷川潤 : [ 分担 ] 副腎インシデンタローマの治療 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp148-149, 医学書院 .
  - 26) 本田 了 : [ 分担 ] 泌尿器科癌の動注化学療法 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp150-153, 医学書院 .
  - 27) 堀内和孝 : [ 分担 ] 末期癌患者の疼痛管理 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp154-157, 医学書院 .
  - 28) 服部智任 : [ 分担 ] 腎細胞癌の深達度診断法 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp158-158, 医学書院 .
  - 29) 服部智任 : [ 分担 ] 腎細胞癌の治療法の選択 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp159-161, 医学書院 .
  - 30) 服部智任 : [ 分担 ] 腎細胞癌の温存手術 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp162-162, 医学書院 .
  - 31) 近藤幸尋 : [ 分担 ] 泌尿器, 男性生殖器悪性腫瘍の治療効果判定基準 : 悪性腫瘍 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp163-167, 医学書院 .
  - 32) 坪井成美 : [ 分担 ] 結石の学会分類 : 尿路結石 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp170-173, 医学書院 .
  - 33) 坪井成美 : [ 分担 ] 治療法の決め方 : 尿路結石 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp174-176, 医学書院 .
  - 34) 坪井成美 : [ 分担 ] 治療難渋症例の治療 : 尿路結石 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp177-177, 医学書院 .
  - 35) 大場修司 : [ 分担 ] 単純性尿路感染症の起炎菌とempirical therapy : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp184-188, 医学書院 .
  - 36) 堀 夏樹 : [ 分担 ] 尿路性敗血症 ( urosepsis ) の治療 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp189-191, 医学書院 .
  - 37) 藤岡良彰 : [ 分担 ] 淋菌感染症の厳密な診断 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太,

- 西村泰司編), 2000 ; pp199-200, 医学書院 .
- 38) 藤岡良彰 : [ 分担 ] Clamidia trachomatisの診断と治療 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp201-202, 医学書院 .
- 39) 本田 了 : [ 分担 ] 精巢上体炎の診断と治療 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp206-207, 医学書院 .
- 40) 佐藤三洋 : [ 分担 ] Fournier's gangreneの治療 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp208-209, 医学書院 .
- 41) 秋元成太 : [ 分担 ] 血精液症の診断と治療 : 感染症 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp210-212, 医学書院 .
- 42) 佐藤三洋 : [ 分担 ] 泌尿器科領域における異物除去 : 救急疾患 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp231-233, 医学書院 .
- 43) 長谷川潤 : [ 分担 ] 陰茎持続勃起症の診断と治療 : 救急疾患 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp235-236, 医学書院 .
- 44) 佐藤三洋 : [ 分担 ] 嵌頓ヘルニアと泌尿器科疾患の鑑別 : 救急疾患 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp237-239, 医学書院 .
- 45) 堀内和孝 : [ 分担 ] 神経因性膀胱の病型および保存的治療 : 神経因性膀胱および尿失禁 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp242-247, 医学書院 .
- 46) 吉田和弘 : [ 分担 ] 男性不妊症の原因分類と診断 : 男性不妊症および性分化異常 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp262-264, 医学書院 .
- 47) 吉田和弘 : [ 分担 ] 検査すべきホルモン値の異常と検査, 治療の進め方 : 男性不妊症および性分化異常 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp265-267, 医学書院 .
- 48) 沖 守 : [ 分担 ] 精索静脈瘤の治療法の選択 ( 腹腔下治療を含む ) : 男性不妊症および性分化異常 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp268-269, 医学書院 .
- 49) 吉田和弘 : [ 分担 ] 性分化異常の診断 : 男性不妊症および性分化異常 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp270-273, 医学書院 .
- 50) 長谷川潤 : [ 分担 ] 勃起障害の分類と治療 : 勃起障害 ( ED ). 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp276-281, 医学書院 .
- 51) 長谷川潤 : [ 分担 ] 形成性陰茎硬結 ( Peyronie ) の治療 : 勃起障害 ( ED ). 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp282-283, 医学書院 .
- 52) 近藤幸尋 : [ 分担 ] 膿尿の鑑別診断 : 疼痛, 血尿, 膿尿, 細菌尿 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp293-294, 医学書院 .
- 53) 服部智任 : [ 分担 ] 細菌尿の鑑別診断 : 疼痛, 血尿, 膿尿, 細菌尿 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp295-296, 医学書院 .
- 54) 沖 守 : [ 分担 ] 尿道狭窄, 前立腺肥大症におけるカテーテル留置法 : 泌尿器科基本手技とトラブル対処法 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp298-299, 医学書院 .
- 55) 本田 了 : [ 分担 ] バルーンカテーテルが抜けない時の対処 : 泌尿器科基本処置とトラブル対処法 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 医学書院 ), 2000 ; pp305-305, 医学書院 .
- 56) 長谷川潤 : [ 分担 ] 腎瘻が抜去されてしまった時の対処 : 泌尿器科基本処置とトラブル対処法 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp306-306, 医学書院 .
- 57) 沖 守 : [ 分担 ] 嵌頓包茎の処置 : 泌尿器科基本処置とトラブル対処法 . 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版 ( 秋元成太, 西村泰司編 ), 2000 ; pp307-307, 医学書院 .
- 58) 大場修司 : [ 分担 ] 陰囊水腫, 精索瘤の穿刺法 : 泌尿器科基本処置とトラブル対処法 . 泌尿器科ベッドサイド

- マニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp311-313,医学書院.
- 59)坪井成美:〔分担〕腎嚢胞のアルコールブロック:泌尿器科基本処置とトラブル対処法.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp314-315,医学書院.
- 60)服部智任:〔分担〕内シャント作成と血栓除去法(declotting):泌尿器科基本処置とトラブル対処法.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp316-318,医学書院.
- 61)堀 夏樹:〔分担〕再開通せず,かつ吻合しやすい精管切断術:泌尿器科基本処置とトラブル対処法.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp319-320,医学書院.
- 62)佐藤三洋:〔分担〕出血性膀胱炎の治療:泌尿器科基本処置とトラブル対処法.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp321-322,医学書院.
- 63)沖 守:〔分担〕停留精巢(停留睾丸)の局所診断法:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp324-325,医学書院.
- 64)大場修司:〔分担〕夜尿症の治療:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp326-327,医学書院.
- 65)坪井成美:〔分担〕先天性水腎症の診断と手術適応:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp328-330,医学書院.
- 66)川村直樹:〔分担〕膀胱尿管逆流の程度と治療方針:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp331-334,医学書院.
- 67)川村直樹:〔分担〕尿管瘤の治療:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp335-337,医学書院.
- 68)川村直樹:〔分担〕ウイルムス腫瘍の化学療法:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp338-340,医学書院.
- 69)長谷川潤:〔分担〕腎動脈瘤,腎動脈瘤の診断と治療:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp343-344,医学書院.
- 70)秋元成太:〔分担〕巨大尿管症の分類と手術方法:小児泌尿器科疾患および奇形.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp347-349,医学書院.
- 71)近藤幸尋:〔分担〕尿管腔瘻の診断と治療:婦人科疾患と泌尿器科.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp355-356,医学書院.
- 72)小川秀弥:〔分担〕膀胱下垂,尿道脱,尿道カルクルの処置:婦人的疾患と泌尿器科.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp357-359,医学書院.
- 73)堀内和孝:〔分担〕腹腔鏡下手術.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp363-368,医学書院.
- 74)山田和彦:〔分担〕脳死判定基準:腎移植.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp370-372,医学書院.
- 75)山田和彦:〔分担〕拒絶反応の診断と対応:腎移植.泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太,西村泰司編),2000;pp373-375,医学書院.

## 学会発表

### (1)シンポジウム:

- 1)井村伸正<sup>1)</sup>,柳谷隆宏<sup>2)</sup>,姫野誠一郎<sup>1)</sup>,近藤幸尋,蛭沼利江子<sup>2)</sup>,榎本秀一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・薬・公衛,<sup>2)</sup>理化学研究所):メタロチオネイン遺伝子を欠失したカドミウム耐性細胞における微量元素の取り込みの変化.第16回微量栄養素研究会,1999.5.
- 2)近藤幸尋:遺伝子欠損細胞を用いたメタロチオネインの生理的役割に関する研究.メタロチオネイン'99,1999.

## (2) パネルディスカッション :

1) 木村 剛 : フィルム・カンファレンス : この症例をどう読むか . 第 64 回日本泌尿器科学会東部総会 , 1999 . 10 .

## (3) 一般講演 :

- 1) Kondo Y , Himeno S<sup>1)</sup> , Hara S<sup>1)</sup> , Nemoto K , Suzuki Y , Akimoto M , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato Univ. ) : Metallothionein null bladder tumor cells have increased sensitivity to cisplatin . 90th American Association of Cancer Reseach ( Philadelphia, USA ) , 1999 . 4 .
- 2) Nemoto K , Kondo Y , Suzuki Y , Akimoto M , Himeno S<sup>1)</sup> , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato Univ. ) : Modulation of telomerase activity by zinc in cancer cells . 90th American Association for Cancer Research ( Philadelphia, USA ) , 1999 . 4 .
- 3) Hara S<sup>1)</sup> , Kondo Y , Matsuzawa I , Hashimoto Y , Kimura G , Akimoto M , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato Univ. ) : Expression of cyclooxygenase-2 in human bladder and renal cell carcinoma . 6th International Conference on Eicosanoids and Other Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases ( Boston, USA ) , 1999 . 9 .
- 4) Himeno S<sup>1)</sup> , Yanagiya T<sup>2)</sup> , Enomoto S<sup>2)</sup> , Kondo Y , Imura N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato Univ. , <sup>2)</sup> Inst. of Science ) : Suppression of a high-affinity manganese transport pathway in cadmium-resistant metallothionein null fibroblasts . 39th Annual Meeting Society of Toxicology ( Philadeophia, USA ) , 2000 . 3 .
- 5) 根本 勺 , 近藤幸尋 , 鈴木康友 , 吉田和弘 , 秋元成太 : 尿路悪性腫瘍におけるテロメラーゼ活性の変化とメタロチオネインの誘導 . 第 9 回泌尿器科細胞解析研究会 , 1999 . 3 .
- 6) 堀内和孝 , 木村 剛 , 松沢一郎 , 渡辺 潤 , 山形健治 , 服部智任 , 近藤幸尋 , 坪井成美 , 吉田和弘 , 秋元成太 : 上部尿路腫瘍に対する深達度診断における経尿道的超音波診断の有用性 . 第 87 回日本泌尿器科学会総会 , 1999 . 4 .
- 7) 堀内和孝 , 藤原博通 , 鈴木康友 , 佐藤三洋 , 山形健治 , 近藤幸尋 , 吉田和弘 , 秋元成太 : 長期血液透析患者に発生した表在性膀胱腫瘍の 1 例 . 第 44 回日本透析医学会学術総会・総会 , 1999 . 4 .
- 8) 木村 剛 , 吉田和弘 , 松沢一郎 , 服部智任 , 渡辺 潤 , 秋元成太 : パワードップラエコーによる前立腺癌診断における高血流信号域の病理学的検討 . 第 87 回日本泌尿器科学会総会 , 1999 . 4 .
- 9) 木村 剛 , 吉田和弘 , 松沢一郎 , 橋本義孝 , 服部智任 , 秋元成太 : 腎・尿路腫瘍における Film in situ zymography ( FIZ 法 ) による mmp 活性の局在の検討 . 第 87 回日本泌尿器科学会総会 , 1999 . 4 .
- 10) 木村 剛 , 木全亮二 , 塩路 豪 , 松沢一郎 , 服部智任 , 秋元成太 : ギランバレー症候群に対する治療成績 . 第 44 回日本透析医学会学術総会・総会 , 1999 . 4 .
- 11) 坪井成美 , 大澤秀一 , 濱崎 務 , 渡辺 潤 , 佐藤三洋 , 服部智任 , 木村 剛 , 堀内和孝 , 吉田和弘 , 秋元成太 : VUR に対する GAX コラーゲン注入療法の経験 . 第 87 回日本泌尿器科学会総会 , 1999 . 4 .
- 12) 近藤幸尋 , 木村 剛 , 鈴木康友 , 根本 勺 , 秋元成太 : メタロチオネイン欠損マウスにおける BBN 誘発膀胱腫瘍の病理組織学的検討 . 第 87 回日本泌尿器科学会総会 , 1999 . 4 .
- 13) 大垣憲司 , 渡辺 潤 , 堀内和孝 , 木村 剛 , 大澤秀一 , 三浦剛史<sup>1)</sup> , 坪井成美 , 秋元成太 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ) : 高齢者における経尿道的尿管結石破碎術の再評価 : Alexantriptor / 細径硬性尿管鏡の有用性 . 第 12 回老年泌尿器科研究会 , 1999 . 5 .
- 14) 木全亮二 , 松沢一郎 , 山形健治 , 木村 剛 , 近藤幸尋 , 堀内和孝 , 坪井成美 , 吉田和弘 , 秋元成太 : 精巣腫瘍との鑑別が困難であった精巣上体結核の 1 例 . 第 534 回日本泌尿器科学会東京地方会 , 1999 . 7 .
- 15) 木村 剛 , 服部智任 , 千賀康弘<sup>1)</sup> , 秋元成太 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院泌尿器科 ) : 上部尿路腫瘍に対するシフラ 21-1 の意義 . 第 26 回尿路悪性腫瘍研究会 , 1999 . 7 .
- 16) 木全亮二 , 大場修司<sup>1)</sup> , 桐山 功<sup>1)</sup> , 清水宏之 , 秋元成太 ( <sup>1)</sup> 国立東静岡病院泌尿器科 ) : サンゴ状結石を伴った

- L型腎の1例．第535回日本泌尿器科学会東京地方会，1999．9．
- 17) 佐藤三洋，大垣憲司，鈴木康友，秋元成太：嚢胞変成を伴った前立腺癌の1例．第22回日本泌尿器科学会東北地方会，1999．9．
  - 18) 大垣憲司，美濃部かおり<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，飯田有俊<sup>1)</sup>，羽瀨友則<sup>2)</sup>，小川 修<sup>2)</sup>，窪田吉信<sup>3)</sup>，秋元成太，江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所，<sup>2)</sup>京都大学泌尿器科，<sup>3)</sup>横浜市立大学泌尿器科)：膀胱癌における2つの第9番染色体欠失の領域の検討．第58回日本癌学会総会，1999．9．
  - 19) 橋本義孝，木村 剛，大澤秀一，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：腎細胞癌の腫瘍径における生物学的特性とその予後．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
  - 20) 松沢一郎，堀内和孝，近藤幸尋，秋元成太，横山広行<sup>1)</sup>，及川恵子<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第1内科)：Sildenafil (パイアグラ)を用いた勃起不全(Erectile Dysfunction；ED)に対する治療とその問題点．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
  - 21) 近藤幸尋，姫野誠一郎<sup>1)</sup>，鈴木康友，根本 勺，秋元成太，井村伸正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・薬・公衛)：メタロチオネイン欠失膀胱癌細胞株の樹立とその制癌剤に対する感受性．第58回日本癌学会，1999．9．
  - 22) 根本 勺，近藤幸尋，姫野誠一郎<sup>1)</sup>，鈴木康友，秋元成太，井村伸正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・薬・公衛)：亜鉛によるヒト腎癌及び前立腺癌のテロメラゼ活性の亢進．第58回日本癌学会，1999．9．
  - 23) 堀内和孝，清水宏之，渡辺 潤，山形健治，服部智任，近藤幸尋，木村 剛，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：尿路上皮腫瘍の深達度診断に対するENDOLUMINAL ULTRASONOGRAPHYの有用性：病理学的深達度との比較．第64回日本泌尿器科学会東部総会，1999．10．
  - 24) 木村 剛：経尿道的パワードップラーエコー下前立腺生検の意義．東京前立腺癌フォーラム，1999．10．
  - 25) 清水宏之，堀内和孝，秋元成太，大場修司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静病院泌尿器科)：腎癌術後多発性肺転移が自然消失した1例．第64回日本泌尿器科学会東部総会，1999．10．
  - 26) 大澤秀一，西村泰司<sup>1)</sup>，阿部裕行<sup>1)</sup>，三浦剛史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科)：外来前立腺生検時の感染に対する前処置の有用性について．第64回泌尿器科学会東部総会，1999．10．
  - 27) 橋本義孝，木村 剛，大澤秀一，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：腎細胞癌の腫瘍径における生物学的特性とその予後．第64回日本泌尿器科学会東部総会，1999．10．
  - 28) 松沢一郎，近藤幸尋，木村 剛，橋本義孝，根本 勺，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：膀胱腫瘍におけるCOX-2の検討．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
  - 29) 橋本義孝，近藤幸尋，木村 剛，松沢一郎，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：腎細胞癌におけるcyclooxygenase-2 (cox-2)発現の検討．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
  - 30) 近藤幸尋，松沢一郎，木村 剛，堀内和孝，山形健治，渡辺 潤，大垣憲司，沖 守<sup>1)</sup>，長谷川潤<sup>1)</sup>，坪井成美，秋元成太(<sup>1)</sup>長谷川病院)：膀胱腫瘍に対する動注療法．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
  - 31) 小林千絵<sup>1)</sup>，近藤幸尋，井村伸正<sup>1)</sup>，原俊太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・薬・公衛)：ヒト腎臓における低酸素応答性転写因子HIF-3 の発現．第72回日本生化学会大会，1999．10．
  - 32) 堀内和孝，清水宏之，木村 剛，鈴木康友，木全亮二，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：膀胱腫瘍の深達度診断におけるEndoluminal Ultrasonographyの有用性．第13回日本Endourology・ESWL学会総会，1999．11．
  - 33) 清水宏之，堀内和孝，山形健治，根本 勺，秋元成太：腎温存のためのEndoluminal Ultrasonographyを用いた上部尿路腫瘍の深達度診断の有用性．第13回日本Endourology・ESWL学会，1999．11．
  - 34) 松沢一郎，堀内和孝，近藤幸尋，秋元成太，横山広行<sup>1)</sup>，及川恵子<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第1内科)：Sildenafil (パイアグラ)を用いた勃起不全(Erectile Dysfunction；ED)に対する治療とその問題点．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
  - 35) 木村 剛，山形健治，木全亮二，近藤幸尋，坪井成美，秋元成太：PSA/ -seminoprotein比による早期前立腺癌診断における移行領域体積の診断能に与える影響について．第15回前立腺癌シンポジウム，1999．12．



- 36) 原俊太郎<sup>1)</sup>, 小林千絵<sup>1)</sup>, 近藤幸尋, 井村伸正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・薬・公衛): ヒト腎臓における低酸素応答性転写因子の発現. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 37) 根本 勺, 木全亮二, 佐藤三洋, 近藤幸尋, 秋元成太, 渡辺 潤: ドパーミン産生悪性副腎褐色細胞腫の1例. 第538回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000. 2.
- 38) 柳谷隆宏<sup>1)</sup>, 榎本秀一<sup>1)</sup>, 姫野誠一郎<sup>2)</sup>, 井村伸正<sup>2)</sup>, 近藤幸尋(<sup>1)</sup>理化学研究所,<sup>2)</sup>北里大・薬・公衛): カドミウム耐性細胞におけるマンガン輸送系の変化. 日本薬学会第120年会, 2000. 3.

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

第二病院泌尿器科では, 尿路感染症, MRSA 感染症, 膀胱腫瘍, 特に膀胱腔内注入療法など主に臨床的各研究を行っている. 最近では男子不妊症, 尿失禁に関する臨床的研究にも力をいれている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 塩路 豪, 木村 剛<sup>1)</sup>, 松沢一郎, 山形健治<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): インディアナパウチの自然破裂. 臨泌 1999; 53: 1093-1095.
- 2) 塩路 豪, 山形健治<sup>1)</sup>, 渡辺 潤<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>同第1外科): 腎結腸癌を合併した両側腎サンゴ状結石. 臨泌 2000; 54: 133-135.

#### 著書

- 1) 廣瀬始之: [ 自著 ] 前立腺肥大症の診断・検査の進め方. 薬局, 2000; pp8-13, 南山堂.

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は開設して11年になるが研究業績の主なもの次のようなものである.

前立腺肥大症: 前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来1,900例を超えている. 本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である.

前立腺癌: 平岡式経尿道的前立腺剥離切除術(剥離TURP)は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある. この特徴を生かして, 内腺を完全切除したあと, 外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した. これにより, 前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり, 外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている. 最近では早期前立腺癌に対して, 会陰式根治的前立腺全摘術を施行し, 限局性進行前立腺癌に対するネオアジュバント療法として, ホルモンと放射線療法の併用を行っている.

膀胱癌: 進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている. 最近, 治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCCDPと放射線照射との併用治療を行っている.

腎細胞癌: 腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し, インターフェロンを動注し, 腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている. 3~6ヶ月後に腫瘍核出術, 腎部分切除術が腎摘出術を行っている. 今までの研究では, 9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている.

腹圧性尿失禁: 女子腹圧性尿失禁に対して, 恥骨結合に孔をあけて, 膀胱頸部と尿道を糸で吊り上げて恥骨結合に

固定する，平岡式恥骨固定式膀胱頸部吊り上げ術を施行している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Homma Y<sup>1)</sup>, Akaza H<sup>2)</sup>, Okada K<sup>3)</sup>, Yokoyama M<sup>4)</sup>, Moriyama N<sup>1)</sup>, Usami M<sup>5)</sup>, Hirao Y<sup>6)</sup>, Tsushima T<sup>7)</sup>, Sakamoto A<sup>8)</sup>, Ohashi Y<sup>9)</sup>, Aso Y<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Tokyo, <sup>2)</sup> Nihon Univrsity, <sup>3)</sup> Toranomom Hospital, Tokyo, <sup>4)</sup> University of Tsukuba, Tsukuba, <sup>5)</sup> Osaka Medical Center for Cancer Cardiovascular Disease, Osaka, <sup>6)</sup> Nara Medical University, Nara, <sup>7)</sup> Okayama University, Okayama, <sup>8)</sup> Department of Pathology, <sup>9)</sup> Department of Epidemiology and Biostatistics, School of Health Sciences and Nursing, University of Tokyo, Tokyo, <sup>10)</sup> Fujieda Municipal General Hospital, Fujieda ): Early results of radical prostatectomy and adjuvant endocrine therapy for prostate cancer with or without preoperative androgen deprivation. International Journal of Urology 1999 ; 229-237 .
- 2) 平岡保紀：経尿道的前立腺切除術・高温度治療後の性機能障害．日医新報 1999 ; ( 3921 ): 112 .
- 3) 長久保一朗<sup>1)</sup>，桜井孝彦<sup>1)</sup>，桑原勝孝<sup>1)</sup>，竹内昭雄<sup>1)</sup>，花井俊典<sup>2)</sup>，平岡保紀，岩本和矢，堀場優樹<sup>3)</sup>，星長清隆<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 長久保クリニック，<sup>2)</sup> 知多市民病院，<sup>3)</sup> 藤田保健衛生大学 )：アルプロスタジルのインポテンスに対する経尿道の使用経験．日性会誌 1999 ; 17 ( 1 ) : 8-14 .
- 4) 平岡保紀：女性の根治的膀胱全摘徐術に対するコメント．臨泌 1999 ; 53 ( 11 ) : 860-861 .

#### (2) 総説：

- 1) 平岡保紀，清水有二：前立腺肥大症の病態と臨床症状．薬局 2000 ; 51 ( 3 ) : 995-998 .

### 著書

- 1) 平岡保紀：〔分担〕結晶性沈渣．year note ATLAS ( 青木裕美 川瀬泰弘 )，1999 ; p130, MEDIC MEDIA .
- 2) 平岡保紀：〔分担〕膀胱腫瘍．year note ATLAS ( 青木裕美 川瀬泰弘 )，1999 ; p146, MEDIC MEDIA .
- 3) 平岡保紀：〔分担〕前立腺肥大症．year note ATLAS ( 青木裕美 川瀬泰弘 )，1999 ; p147, MEDIC MEDIA .
- 4) 平岡保紀：〔分担〕会陰式前立腺全摘除術：膀胱頸部離断のコツ．臨床泌尿器科のコツと落とし穴：手術療法Part1 ( 阿曾佳郎 )，1999 ; pp118-119, 中山書店 .
- 5) 平岡保紀：〔分担〕腹圧性尿失禁に対する恥骨固定式尿道吊り上げ術：恥骨結合固定式．臨床泌尿器科のコツと落とし穴：手術療法Part2 ( 阿曾佳郎 )，1999 ; pp112-113, 中山書店 .
- 6) 平岡保紀：〔分担〕経尿道的前立腺切除術完全切除のコツ：剥離 TURP．臨床泌尿器科のコツと落とし穴：非観血的治療法，内視鏡手術 ( 阿曾佳郎 )，1999 ; pp98-99, 中山書店 .

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症における剥離 TUR-P．国際内視鏡診療技術シンポジウム ( 中国沈陽 中国医科大学 )，1999 . 5 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 左 維，平岡保紀，岩本和矢，清水有二，高橋洋文，沼沢和夫：前立腺癌に対する放射線，ホルモン，CDDP併用による Neoadjuvant 療法の試み．第 87 回日本泌尿器科学会総会，1999 . 4 .
- 2) 岩本和矢，平岡保紀，清水有二，高橋洋文，沼沢和夫，左 維，小川秀彌<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 関東通信病院 )：前立腺偶発癌症例での剥離 TUR-P 癌残存予測の可能性について．第 87 回日本泌尿器科学会総会，1999 . 4 .

- 3) 清水有二, 平岡保紀, 岩本和矢, 清水有二, 高橋洋文, 沼沢和夫, 左 維, 千賀康弘, 伊藤 博, 藤田和明, 山田光輝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科): TURP時に誘発される前立腺被膜反射性収縮について. 第64回日本泌尿器科学会東部総会, 1999. 10.

## [ 千葉北総病院泌尿器科 ]

### 研究概要

1) 泌尿器内視鏡学・泌尿器腫瘍学: a) 経尿道的前立腺および膀胱腫瘍の切除において帯状電極は, 術中の出血が少ない, 水中毒や腫瘍の播種を防止できる, などから有用なことを論文発表したが, 出血に関しては差がないとの, 反対意見もあり, 説得できる臨床研究を行っている. b) 尿路腫瘍のみならず子宮癌, 直腸癌の末期に尿路の通過障害のため水腎に腎瘻を置く必要のある症例は少なくないが, これらの症例において, 一期的に出血することなく直径5 - 6mmの腎瘻造設する方法や, 経尿道的手術で膀胱に溜まった組織片を短時間に除去する方法を開発するなど, 尿路内視鏡学において常に新しく有用な手技を本邦で先駆けて行っている. c) 当科で開発した吸引およびスネアーによる膀胱腫瘍の切除が有用なことはすでに海外誌に発表した, 膀胱全摘の適応か否かを迷う症例の判断, すなわち画像診断でも難しい浸潤度判定に有用か否かを検討している. d) 腎細胞癌に対するmutantHSV-TKを用いた新しい遺伝子治療を行うあたり基礎的研究を行っている.

2) 尿路感染症学: 1/4世紀研究しても, 経過の長い前立腺炎における前立腺液中の白血球の長期存続の機序の解明は極めて難しいテーマであるが, 現在はbcl-2のみならずMcl-1やさらに新しいA1など抗アポトーシス因子による影響を検討している.

3) アンドロロジー: 雄ラットの性行動の内, intromissionにおいて, 坐骨海綿体筋と球海綿体筋の筋電図の周波数変化を検討した結果, 膣から亀頭への刺激, さらにそれによる海綿体内圧の上昇が示唆された. 今後は薬物投与による解析を進めて行く.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Abe H, Nishimura T, Osawa S, Hamasaki T, Miura T, Ikeda K<sup>1)</sup>, Oka F<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): New method of bladder biopsy using combined aspiration and snare. Urol. Int 1999; 63 (3): 175-178.
- 2) Takahashi M<sup>1)</sup>, Nishimura T, Yokomuro K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Microbiology and Immunology): Quantitative analysis of cytokine gene expression in the liver. Immunology and Cell Biology 1999; 77 (4): 139-142.
- 3) Nishimura T, Abe H: Day surgery in urology. Asian Medical Journal 2000; 43 (1): 25-32.
- 4) Abe H, Nishimura T, Osawa S, Miura T, Oka F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院泌尿器科): Acute pancreatitis caused by extracorporeal shock wave lithotripsy for bilateral renal pelvic calculi. Int. J. Urol 2000; 7 (2): 65-68.
- 5) 西村泰司, 阿部裕行: 泌尿器科におけるDay Surgery. 日医師会誌 1999; 121 (7): 1000-1005.
- 6) 大澤秀一, 西村泰司: 前立腺全摘除術後バルーンカテーテルが抜けないときのスタイレットを用いた抜去法. 臨床泌尿器科 1999; 53 (6): 458-458.
- 7) 三浦剛史, 西村泰司: 舟状窩嵌頓結石に対する超音波結石破砕器とペアン鉗子による安全, 迅速な碎石術. 臨泌 1999; 53 (12): 1015-1015.

##### (2) 総説:

- 1) 西村泰司, 阿部裕行: 経尿道的前立腺切除術. 臨床と研究 2000; 77 (3): 499-503.
- 2) 西村泰司: Day Surgeryの現状と実際, 前立腺肥大症の手術(TUR-P). 臨泌 2000; 54 (4): 343-346.

## 著 書

- 1) 西村泰司：〔分担〕やや大きめの膀胱腫瘍に対する帯状ループを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術．臨床泌尿器科のコツと落とし穴（阿曾佳郎），1999；pp18-19，中山書店．
- 2) 西村泰司：〔分担〕帯状ループを用いた経尿道的の前立腺切除術．臨床泌尿器科のコツと落とし穴（阿曾佳郎），1999；pp110-111，中山書店．

## 学会発表

〔1998 年度追加分〕

### 一般講演：

- 1) 坪井成美<sup>1)</sup>，西村泰司，堀内和孝<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，服部智任<sup>1)</sup>，吉田和弘<sup>1)</sup>，秋元成太<sup>1)</sup>，菱沢利行<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 藤間病院）：人間ドックで発見された腎腫瘍の検討．第86回日本泌尿器科学会総会，1998．4．
- 2) 坪井成美<sup>1)</sup>，堀内和孝<sup>1)</sup>，吉田和弘<sup>1)</sup>，秋元成太<sup>1)</sup>，大澤秀一，濱崎 務，阿部裕行，西村泰司（<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科）：小児VURに対するGAXコラーゲン注入療法．第12回日本Endourology・ESWL学会，1998．10．
- 3) 間庭裕子<sup>1)</sup>，加治裕子<sup>1)</sup>，横川文江<sup>1)</sup>，小林京子<sup>1)</sup>，久保田麻美<sup>1)</sup>，坪井成美<sup>2)</sup>，西村泰司，荻野淑郎<sup>1)</sup>，菱沢利行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 藤間病院，<sup>2)</sup> 付属病院泌尿器科）：超音波検査で発見された膀胱腫瘍．日本総合健診医学会第27回大会，1999．1．

### (1) 教育講演：

- 1) 西村泰司：「癌検診の在り方：現状と展望」膀胱・前立腺の癌健診．日本総合健診医学会第28回大会，2000．1．

### (2) シンポジウム：

- 1) 西村泰司：「前立腺肥大症・どの手術がベストか？」帯状電極による経尿道的前立腺切除術．第20回日本レーザー医学会大会，1999．10．
- 2) 西村泰司：経尿道的前立腺電気蒸散術の長期成績．第13回日本Endourology・ESWL学会総会，1999．11．

### (3) 一般講演：

- 1) Abe H, Nishimura T, Osawa S, Miura T: Bladder random biopsy using aspiration and snare. 16th Korea-Japan urological congress (Korea), 1999. 9.
- 2) 西村泰司，阿部裕行，大澤秀一，三浦剛史：帯状電極によるTUR-Bt：筋層生検時の切れ味に関する因子についての検討．第87回日本泌尿器科学会総会，1999．4．
- 3) 西村泰司，阿部裕行，大澤秀一，三浦剛史：非細菌性前立腺炎における前立腺液中のマクロファージの長期生存はアポトーシス抑制と関連があるか．第87回日本泌尿器科学会総会，1999．4．
- 4) 阿部裕行，西村泰司，大澤秀一，三浦剛史：スネアーと吸引を用いた有茎性膀胱腫瘍切除術の腫瘍浸潤度判定における有用性に関する検討．第87回日本泌尿器科学会総会，1999．4．
- 5) 内木場拓史，五十嵐健人<sup>1)</sup>，鈴木 聡<sup>1)</sup>，清水宏之，木村 剛，坪井成美，島田 隆<sup>1)</sup>，秋元成太（<sup>1)</sup> 生化学第2）：腎細胞癌に対するmutant HSV-TKを用いた新しい遺伝子治療の試み．第87回日本泌尿器科学会総会，1999．4．
- 6) 西村泰司，阿部裕行，大澤秀一，三浦剛史：コードレス膀胱尿道鏡の有用性について．第71回千葉泌尿器科集談会，1999．6．
- 7) 阿部裕行，西村泰司，大澤秀一，三浦剛史：膀胱CISの診断における吸引とスネアー法の有用性について．第71回千葉泌尿器科集談会，1999．6．
- 8) 内木場拓史，清水宏之，木村 剛，坪井成美，秋元成太，五十嵐健人<sup>1)</sup>，鈴木 聡<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 生化学第2）：腎細胞癌に対するmutant HSV-TKを用いた新しい遺伝子治療の試み．第67回日本医科大学医学会総会，

1999 . 9 .

- 9) 川野圭二<sup>1)</sup>, 矢野雅隆<sup>1)</sup>, 北原聡史<sup>1)</sup>, 安田耕作<sup>1)</sup>, 西村泰司 ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学付属越谷病院泌尿器科 ): 強い下部尿路症状を呈する, 排尿後の排尿筋過活動に対して低周波治療および大量塩酸フラボキサート療法が奏功した1例 . 第64回日本泌尿器科学会東部総会, 1999 . 10 .
- 10) 大澤秀一, 西村泰司, 阿部裕行, 三浦剛史 : 外来前立腺生検時の感染に対する前処置の有用性について . 第64回日本泌尿器科学会東部総会, 1999 . 10 .
- 11) 西村泰司, 阿部裕行, 三浦剛史, 内木場拓史, 大澤秀一 : 高齢女子におけるConticare Deviceの使用経験 . 第72回千葉泌尿器科集談会, 1999 . 11 .
- 12) 内木場拓史, 坪井成美<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 大沢秀一<sup>1)</sup>, 山形健治<sup>1)</sup>, 渡辺 潤<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): 当院における体外衝撃波結石破碎装置 ( ESWL ) による上部尿路結石の治療成績 . 第13回日本Endourology. ESWL学会, 1999 . 11 .
- 13) 加治裕子<sup>1)</sup>, 横川文江<sup>1)</sup>, 小林京子<sup>1)</sup>, 久保田麻美<sup>1)</sup>, 今井裕子<sup>1)</sup>, 荻野淑郎<sup>1)</sup>, 菱沢利行<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 西村泰司, 宮下次廣<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 藤間病院総合健診システム, <sup>2)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>3)</sup> 同放射線科 ): 健診で発見された腎血管筋脂肪腫 . 日本総合健診医学会第28回大会, 2000 . 1 .
- 14) 西村泰司, 阿部裕行, 三浦剛史, 内木場拓史 : 新型エバキューターEasivacの有用性に関する検討 . 第537回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000 . 1 .

## 16. 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科 ]

#### 研究概要

##### 臨床研究：

ぶどう膜炎外来では、大原國俊教授，山口恵子助手を中心に，眼サルコイドーシスの診断基準について検討した．ポストドクターの陳 軍は，眼サ症疑い例の結膜生検陽性率を調べ，サ症における P acnes の関与について PCR，免疫組織化学的手法を用いて共同研究を行った．斜視弱視外来では，茨木信博助教授，中西史憲助手を中心に，斜視の治療法について臨床研究を継続した．角膜アレルギー外来では，高橋 浩助教授（講師より昇任）が難治性角膜潰瘍の治療法について研究を行った．本年度から倫理委員会の認可のもとに羊膜移植を開始し症例を蓄積している．緑内障外来では，中村 弘講師，瀬津直久兼任講師，山田幸永兼任講師により，難治例の手術治療について研究を継続し，手術成績と術後合併症を検討した．新たに緑内障の乳頭形状変化，急性閉塞隅角緑内障の病態の研究に着手した．第二病院，多摩永山病院，千葉北総病院では，清水暢夫助教授，中山滋章助教授，中西史憲助手が臨床症例について検討した．その他，付属病院において，超音波白内障手術手技として Phaco Prechop 法を導入し，手術手技の改良に取り組んだ．

##### 基礎研究：

茨木信博助教授を中心に，水晶体上皮細胞について細胞科学的研究を行った．不死化ヒト水晶体上皮細胞株をもちいて，細胞外基質，血清蛋白，ICAM-1，酸化ストレスとアポトーシス，水晶体上皮細胞由来成長因子の角膜内皮への影響について検討した．高橋 浩講師は，角膜上皮細胞について，グルコーストランスポーター，マトリックスメタプロテアーゼを指標として糖尿病上皮障害モデルを用い，糖尿病角膜症の成因を研究した．中村 弘講師は，緑内障の視神経乳頭の形状変化を Scanning laser tomography を用いて研究した．

その他，平成 11 年度文部省管轄の私立大学等教育・学習方法高度情報化推進事業助成金により，中央手術室と臨床講堂を結び映像・音声配信システムを設置し，学生教育の研究と改革を行った．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wang Y, He H, Zigler JS J, Iwata T, Ibaraki N, Reddy VN, Carper D : bFGF suppresses serum-deprivation-induced apoptosis in a human lens epithelial cell line . *Exp Cell Res* 1999 ; 249 : 123-130 .
- 2) Kunimatsu S<sup>1)</sup>, Araie M<sup>1)</sup>, Ohara K, Hamada C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Tokyo): Ultrasound biomicroscopy of ciliary body cysts . *American Journal of Ophthalmology* 1999 ; 127 ( 1 ): 48-55 .
- 3) Carper DA<sup>1)</sup>, Sun JK<sup>1)</sup>, Iwata T<sup>1)</sup>, Zigler JS J<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Lin LR<sup>2)</sup>, Reddy VN<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>National Institute of Health, <sup>2)</sup>Oakland University ): Oxidative stress induces differential gene expression in a human lens epithelial cell line . *Invest Ophthalmol Vis Sci* 1999 ; 40 : 400-406 .
- 4) Oharazawa H, Ibaraki N, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Michigan ): The effects of extracellular matrix on cell attachment, migration and proliferation in a human lens epithelial cell line . *Exp. Eye Res* 1999 ; 66 : 603-610 .
- 5) Nakamura H, Maeda T<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>2)</sup>, Inoue Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>オリンピア眼科, <sup>2)</sup>東京大学): Scanning laser tomography to evaluate optic discs of normal eyes . *Jpn J Ophthalmol* 1999 ; 43 ( 5 ): 410-414 .
- 6) 岸岡浩之, 茨木信博, 大原國俊：乳児期に眼内レンズ挿入術を施行した先天性白内障の 1 症例．*IOL&RS*

1999 ; 13 ( 1 ) : 47-51 .

- 7) 林 康司<sup>1)</sup>, 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>オリンピア眼科): 若年者と中高年者の正常眼圧緑内障の比較. あたらしい眼科 1999 ; 16 ( 3 ) : 423-426 .
- 8) 伊藤由香<sup>1)</sup>, 川島秀俊<sup>1)</sup>, 神原千浦<sup>1)</sup>, 我孫子育美<sup>1)</sup>, 渋井洋文<sup>1)</sup>, 釜田恵子<sup>1)</sup>, 佐々木洋<sup>2)</sup>, 大久保彰<sup>3)</sup>, 大原國俊 ( <sup>1)</sup>自治医科大学, <sup>2)</sup>金沢医科大学, <sup>3)</sup>済生会宇都宮病院 ): 自治医科大学におけるサルコイドーシスの検討. 臨床眼科 1999 ; 53 ( 5 ) : 828-832 .
- 9) 禰津直久: 加齢と白内障の進行による水晶体厚の変化. 臨床眼科 1999 ; 53 ( 5 ) : 923-926 .
- 10) 山口郁子, 清水暢夫, 大原國俊, 岩崎容子<sup>1)</sup>, 伊東文行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科): 活動性眼病変を合併した神経ペーチェット病の1例. 臨床眼科 1999 ; 53 ( 6 ) : 1301-1304 .
- 11) 中西史憲, 高橋 浩, 茨木信博, 大原國俊: 眼部帯状疱疹発症後対側眼に桐沢型ぶどう膜炎は発症した1例. 日眼 1999 ; 103 ( 6 ) : 477-481 .
- 12) 山口 貴, 平岡美紀, 西横貴代美<sup>1)</sup>, 大原國俊, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学): ウサギ眼組織における Water Channel Protein . あたらしい眼科 1999 ; 16 ( 7 ) : 977-980 .
- 13) 五十嵐勉, 大塚千明, 矢口智恵美, 高橋 浩, 大原國俊: シアノコバラミンの処方例におけるドライアイ頻度. 眼紀 1999 ; 50 ( 8 ) : 601-603 .
- 14) 高橋 浩, 北原由紀, 大原國俊: 強膜菲薄化を呈した炎症型テリエン周辺角膜変性の1例. 眼紀50 : 604-607, 1999 . 眼紀 1999 ; 50 ( 8 ) : 604-607 .
- 15) 赤星隆幸: Phaco Prechop : 新しい核分割手技による一手法手術の再評価. あたらしい眼科 1999 ; 16 ( 9 ) : 1219-1233 .
- 16) 鈴木輝彦, 長松淳一, 塚本佐知子, 中山滋章: 1年後に病変の拡大を呈した卵黄様黄斑変性症の1症例. 眼臨 1999 ; 93 ( 10 ) : 1535-1537 .
- 17) 林 康司<sup>1)</sup>, 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>オリンピア眼科): 視野障害の左右差が大きい正常眼圧緑内障の蛍光眼底所見. 臨眼 1999 ; 53 ( 12 ) : 1889-1893 .

## (2) 綜説:

- 1) 山口恵子, 大原國俊: 眼病変の診断基準: 眼サ症における「眼サ症診断の手引き」と「サ症診断基準」の有用性と妥当性. サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 1999 ; 19 ( 1 ) : 5-9 .
- 2) 中村 弘, 安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院): トラベクレクトミー後のレーザー切糸術のタイミングならびに切糸が困難な場合の対処の仕方について教えてください. あたらしい眼科 1999 ; 16 ( 1 ) : 142-143 .
- 3) 大原國俊: サルコイドーシス: ぶどう膜炎. 医学書院 ( 増田寛次郎, 宇山昌延, 白井正彦, 大野重昭編 ) 1999 ; 99-117 .
- 4) 大原國俊: 高齢者診療における各科のトピックス・眼科: 老人性白内障, 老人性黄斑変性, 糖尿病網膜症. クリニカ 1999 ; 26 ( 5 ) : 351-356 .

## 著 書

- 1) 赤星隆幸: [ 分担 ] 前房炎症: 軽度および中等度るとき. 眼科診療プラクティス 52巻, 1999 ; p6, 文光堂 .
- 2) 赤星隆幸: [ 分担 ] 乱視: 2D以上の直乱視. 眼科診療プラクティス 52巻, 1999 ; pp22-23, 文光堂 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Akahoshi T : Phaco Prechop : mechanical nucleofracture prior to phacoemulsification . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
- 2) Akahoshi T : Personal results from 12. 000 AcrySof implants . Alcon Morning Seminer ( Thailand ), 2000 .

3.

- 3) 茨木信博：老人性白内障は自己免疫疾患か？．第29回東海大学・神奈川県眼科医会合同カンファランス，1999．6．
- 4) 茨木信博：水晶体上皮細胞の不死化．平成11年度白内障研究所カンファランス，1999．6．
- 5) 赤星隆幸：近代的白内障手術と手術顕微鏡．'99カールツァイス講演会，1999．7．
- 6) 茨木信博：ヒト水晶体上皮細胞株の作成．第38回日本白内障学会，1999．7．
- 7) 大原國俊：眼サルコイドーシスの臨床：非典型例を中心に．第22回独協医科大学・栃木県眼科医会合同講演会，1999．7．
- 8) 小林茂樹：眼科医の見た眼：糖尿病性網膜症を中心として．下館市民病院看護研究会，1999．9．
- 9) 小林茂樹：ほんとうに恐い糖尿病性眼疾患．下館市民病院健康講座，1999．10．
- 10) 赤星隆幸：白内障術後炎症の予防と対策．'99中央区眼科医会講演会，1999．11．
- 11) 小林茂樹：緑内障の病態と治療について．下館薬剤師会研修会，1999．11．
- 12) 中村 弘：原発閉塞隅角緑内障へのアプローチ．第33回東京緑内障談話会，2000．3．

(2) 招待講演：

- 1) 赤星隆幸：最近の白内障手術：Phaco Prechop と超高吸引圧超音波手術．'99北海道眼科医会生涯教育講演会，1999．6．
- 2) 赤星隆幸：新しい粘弾性物質を用いた超音波白内障手術．山口県白内障講演会，2000．2．
- 3) 赤星隆幸：新しい粘弾性物質を用いた角膜切開白内障手術．第4回ALCON福島県眼科手術講演会，2000．2．

(3) シンポジウム：

- 1) Ibaraki N：RGD-peptide inhibits attachment of human lens epithelial cells to extracellular matrix. Clinical and experimental aspects of posterior capsule opacification．EVER meeting (Spain)，1999．10．
- 2) 鈴木康之：遺伝子からみた発見と治療の展望．第103回日本眼科学会，1999．4．
- 3) 茨木信博：水晶体上皮細胞の酸化障害に対するポリフェノールの効果．第38回日本白内障学会，1999．7．
- 4) 鈴木康之：先天緑内障：原発先天緑内障．第10回日本緑内障学会，1999．9．
- 5) 茨木信博：水晶体上皮細胞とサイトカイン受容体．第26回水晶体研究会，2000．1．

(4) 一般講演：

- 1) 赤星隆幸：10,000 AcrySof implantation．25th ASCRS (Seattle)，1999．4．
- 2) 赤星隆幸：Mechanical Nucleofracture．25th ASCRS (Seattle)，1999．4．
- 3) 赤星隆幸：Phaco education by Phaco Prechop．25th ASCRS (Seattle)，1999．4．
- 4) 赤星隆幸：Phaco Prechop for soft nucleus．25th ASCRS (Seattle)，1999．4．
- 5) 赤星隆幸：Phaco Prechop for hard nucleus．25th ASCRS (Seattle)，1999．4．
- 6) 赤星隆幸：Memorial lecture/ Schollmaier Auditorium：Ten years with phacomulsification & 10,000 AcrySof implantation. '99 Alcon AcrySof Symposium, Fort Worth．'99 Alcon AcrySof Symposium (Fort Worth)，1999．4．
- 7) Takahashi H，Akiba K<sup>1)</sup>，Ohmura T<sup>1)</sup>，Takahashi R<sup>1)</sup>，Ezure Y<sup>1)</sup>，Ohara K ( <sup>1)</sup>Wakamoto Pharmaceutical Co. )：High glucose downregulates proliferation and proteinase expression of human corneal epithelial cell．ARVO 99 (Florida)，1999．5．
- 8) Fan W，Yan M<sup>1)</sup>，Ibaraki N ( <sup>1)</sup>West China University of Medical Sciences )：Apoptosis of human lens epithelial cell induced by hydrogen peroxide．ARVO 99 (Florida)，1999．5．
- 9) Oharazawa H，Wei F，Ibaraki N，Matsui H，Reddy VN<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>University of Michigan )：The expression of alpha-smooth muscle actin in human lens epithelial cells in culture．ARVO 99 (Florida)，1999．5．
- 10) Ibaraki N，Wei F，Oharazawa H，Singh DP<sup>1)</sup>，Chylack LT<sup>1)</sup>，Shinohara T<sup>1)</sup>，Oakland U：An adhesive



- and survival factor stimulates lens epithelial cell attachment . ARVO 99 ( Florida ), 1999 . 5 .
- 11) Okamoto H<sup>1)</sup>, Lin LR<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Reddy VN<sup>1)</sup>, Oakland U : Expression of mRNA for growth factor receptors in primary and immortalized human lens epithelial cell lines . ARVO 99 ( Florida ), 1999 . 5 .
  - 12) Oharazawa H, Wei F, Ibaraki N, Matsui H, Reddy VN<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Oakland University): The expression of alpha-smooth muscle actin in human lens epithelial cells in culture . ARVO 99 ( Florida ), 1999 . 5 .
  - 13) 赤星隆幸 : Phaco Prechop and Ultrahigh Vacuum . '99 UCLA Cataract Study Group meeting ( LosAngels ), 1999 . 5 .
  - 14) Akahoshi T : Clinical experience of 10. 000 Cases of Acrysof implantation after temporal clear corneal cataract surgery . 2nd AUSCRS ( Australia ), 1999 . 6 .
  - 15) Akahoshi T : Efficacy of Phaco Prechop . 2nd AUSCRS ( Australia ), 1999 . 6 .
  - 16) Akahoshi T : Mechanical nucleofracture . 12th DOC German Ophthalmic Surgeons ( Germany ), 1999 . 6 .
  - 17) Akahoshi T : Memoreal Lecture/Opera House : Personal results from 12. 000 Acrysof implants . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 18) Akahoshi T : Instructional course : Phaco Prechop/Mechanical Nucleofracture prior to Phacoemulsification . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 19) Akahoshi T : Ultrahigh Vacuum Phaco . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 20) Akahoshi T : Ultrahigh Vacuum Phaco & Acrysof . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 21) Akahoshi T : Mechanical necleofracture . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 22) Otsuka C, Ibaraki N, Ohara K : A case of liquefied aftercataract . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 23) Azuma H, Ohara K : Phaco prechop reduces ultrasound time . 17th ESCRS ( Vienna ), 1999 . 9 .
  - 24) Akahoshi T : Phaco Prechop/超音乳化前碎核 . 12th International Cataract Implant Microsurgery & Refractive Keratoplasty Meeting ( China ), 1999 . 9 .
  - 25) Ibaraki N, Wei F, Lin LR<sup>1)</sup>, Giblin J<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Oakland University): Green tea polyphenols protect against oxidative damage in lens epithelial cells . 1999 US-Japan Cooperative Cataract Research Group Meeting ( Hawaii ), 1999 . 10 .
  - 26) Carper D<sup>1)</sup>, Giblin F<sup>1)</sup>, Lin LR<sup>2)</sup>, Ibaraki N, Reddy VN<sup>2)</sup>, Spectoe A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>National Institute of Health, <sup>2)</sup>Oakland University): Differential display analysis of oxidative stress models of cataract . 1999 US-Japan Cooperative Cataract Research Group Meeting ( Hawaii ), 1999 . 10 .
  - 27) Akahoshi T : Personal results from 13. 000 AcrySof implants . 103th AAO ( Orlando ), 1999 . 10 .
  - 28) 赤星隆幸 : Phaco Prechop . 11th ZOC Clinical Ophthalmological Symposium ( China ), 1999 . 12 .
  - 29) Takahashi H : Elevated glucose culture enhanced matrix metalloproteinases ( MMPs ) activities of human corneal epithelial cells . The 2nd Meeting of the Asia Pacific of Cornea and Refractive Surgery ( Chiba ), 2000 . 2 .
  - 30) Akahoshi T : Ultrahigh Vacuum phaco with ABS tips . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 31) Akahoshi T : Soft shell stain technique for while mature cataract . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 32) Akahoshi T : Phaco surgery of complicated cases . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 33) Akahoshi T : Trouble Management during phaco surgery . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 34) Akahoshi T : Personal experience with 12. 000 AcrySof implantation . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 35) Akahoshi T : Personal results from 12. 000 AcrySof implants . Phaco Beyond 2000 ( Thailand ), 2000 . 3 .
  - 36) 小林茂樹, 大原國俊, Hernandez MR<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Washington University): 小林茂樹, 大原國俊, M. R. Hernandez : 視神経篩板星状神経膠細胞 ( LCA ) に対する圧力の影響 . 第 103 回日本眼科学会総会 , 1999 . 4 .

- 37) 高橋 浩, 秋葉 清<sup>1)</sup>, 大村武雄<sup>1)</sup>, 高橋良樹<sup>1)</sup>, 江連洋治<sup>1)</sup>, 大原國俊 ( <sup>1)</sup>わかもと製薬研究所 ): 高グルコースはヒト角膜上皮細胞の移動, 増殖, 蛋白分解酵素発現を阻害する . . . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 38) 中村 弘, 南野麻美<sup>1)</sup>, 安田典子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京警察病院 ): MMC併用線維柱帯切除術後の濾過胞からの房水漏出の頻度および漏出に関係する因子 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 39) 中村 弘, 南野麻美<sup>1)</sup>, 安田典子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京警察病院 ): 線維芽細胞増殖阻害剤併用の有無と濾過胞の形態および房水漏出 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 40) 小原澤英彰, 茨木信博, Wei F, 松井洋法, 大原國俊, Reddy VN<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>ミシガン大学 ): 培養水晶体上皮細胞の -smooth muscle actin 発現について . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 41) 山田敬子, 富田剛司<sup>1)</sup>, 北澤克明<sup>1)</sup>, 船木繁雄<sup>2)</sup>, 白柏基宏<sup>2)</sup>, 阿部春樹<sup>2)</sup>, 国松志保<sup>3)</sup>, 鈴木康之, 新家 真<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>岐阜大学, <sup>2)</sup>新潟大学, <sup>3)</sup>東京大学 ): 正常眼における網膜神経線維層厚の左右差の検討 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 42) 鈴木康之, 新家 真<sup>1)</sup>, 山上淳吉<sup>1)</sup>, 北澤克明<sup>2)</sup>, 山本哲也<sup>2)</sup>, 石田恭子<sup>2)</sup>, 阿部春樹<sup>3)</sup>, 白柏基宏<sup>3)</sup>, 船木繁雄<sup>3)</sup>, 三嶋 弘<sup>4)</sup>, 鈴木雅信<sup>4)</sup>, 高松倫也<sup>4)</sup>, 柴田大朗<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学, <sup>2)</sup>岐阜大学, <sup>3)</sup>新潟大学, <sup>4)</sup>広島大学, <sup>5)</sup>東京大学生物統計学 ): 緑内障における視野感度低下進行を検出する定量的判定方法の検討 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 43) 谷口富美子<sup>1)</sup>, 鈴木康之, 新家 真<sup>2)</sup>, 鈴木 香<sup>2)</sup>, 葛西洋芳<sup>2)</sup>, 白土城照<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>大宮赤十字病院, <sup>2)</sup>東京大学, <sup>3)</sup>東京医大 ): MYOC/TIGR 遺伝子配列の種差と緑内障患者における遺伝子変異の関係 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 44) 国松志保<sup>1)</sup>, 鈴木康之, 新家 真<sup>2)</sup>, 小関信之<sup>3)</sup>, 吉川啓司<sup>4)</sup>, 山崎芳夫<sup>5)</sup>, 松元 俊<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学分院, <sup>2)</sup>東京大学, <sup>3)</sup>東京都老人医療センター, <sup>4)</sup>吉川眼科クリニック, <sup>5)</sup>日本大学, <sup>6)</sup>東京通信病院 ): Glaucoma-like disc の Heidelberg Retina Tomograph による形状解析 . 第103回日本眼科学会総会, 1999 . 4 .
- 45) 赤星隆幸 : 最近の白内障手術 : 三井記念病院での7年間 . '99 参天製薬社内勉強会, 1999 . 4 .
- 46) 高橋 浩, 大塚千明, 五十嵐勉, 大原國俊, 新見やよい<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>皮膚科 ): 悪性関節リウマチと眼類天疱瘡の合併が疑われた角膜穿孔の1例 . 第3回東京オキュラーサーフェスフォーラム, 1999 . 6 .
- 47) 中嶋花子, 大山夏子, 大原國俊 : 眼窩内多発浸潤巣を認めた悪性リンパ腫の1例 . 第16回関東眼科学会, 1999 . 6 .
- 48) 高橋 琢, 山口郁子, 清水暢夫, 大原國俊 : 網膜動脈瘤を伴った先天性網膜動静脈吻合の1例 . 第16回関東眼科学会, 1999 . 6 .
- 49) 赤星隆幸 : 最近の白内障手術 . '99 興和新薬講演会, 1999 . 6 .
- 50) 中嶋花子, 秋田恵子, 大原國俊 : ステロイド内服で治癒した重症HLA-B27 関連急性前部ぶどう膜炎の1例 . 第33回日本眼炎症学会, 1999 . 7 .
- 51) 禰津直久 : 眼内レンズの固定位置予測における前嚢, 後嚢の位置の補正 . 第14回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1999 . 7 .
- 52) 東 永子, 李 俊哉, 山口恵子, 中嶋花子, 大原國俊 : 超音波水晶体乳化吸引術における Prechop 法と超音波時間 . 第14回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1999 . 7 .
- 53) 赤星隆幸 : 新しいアクリルレンズ挿入セッション . 第14回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1999 . 7 .
- 54) 大塚千明, 茨木信博, 大原國俊 : YAG 後嚢切開術が奏功した液状後発白内障の1例 . 第14回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1999 . 7 .
- 55) 赤星隆幸 : 新しい超音波チップの使用経験 . 第14回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1999 . 7 .
- 56) 赤星隆幸 : 新しいアクリルレンズ挿入セッションについて . 第3回白内障手術合併症研究会, 1999 . 7 .
- 57) 赤星隆幸 : 新しいアクリルレンズ用インジェクターについて . 第3回白内障手術合併症研究会, 1999 . 7 .
- 58) 赤星隆幸 : 新しい核分割セッションについて . 第3回白内障手術合併症研究会, 1999 . 7 .

- 59) 赤星隆幸：硝子体腔中落下眼内レンズの処置法．第3回白内障手術合併症研究会，1999．7．
- 60) 赤星隆幸：脱臼水晶体の白内障手術．第3回白内障手術合併症研究会，1999．7．
- 61) 赤星隆幸：チン小帯断裂症例の対処法．第3回白内障手術合併症研究会，1999．7．
- 62) 若山かおり，国松志保<sup>1)</sup>，鈴木康之，大原國俊，荒巻 純<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学，<sup>2)</sup>皮膚科)：線維柱帯切開術が奏功した太田母斑に伴った開放隅角緑内障の1例．第10回日本緑内障学会，1999．9．
- 63) 南野麻美<sup>1)</sup>，中村 弘，安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院)：超音波白内障手術とマイトマイシンC併用トラベキュトミーの同時手術の成績．第10回日本緑内障学会，1999．9．
- 64) Akahoshi T：Phaco Prechop/超高負圧下の超声乳化PRE-CHOP技術．'99愛称康超声乳化新技術検討会(北京)，1999．9．
- 65) Takahashi H，Akiba K<sup>1)</sup>，Ohmura T<sup>1)</sup>，Takahashi R<sup>1)</sup>，Ohara K(<sup>1)</sup>わかもと製薬研究所)：Alteration of matrix metalloproteinase activities of human corneal epithelial cells by elevated glucose culture．21st Biennial Research Conference (Boston)，1999．9．
- 66) 禰津直久：前囊・後囊の位置補正による眼内レンズ挿入眼の光線追跡法．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 67) 堀 秀行<sup>1)</sup>，酒井理恵子<sup>1)</sup>，渋井洋文<sup>1)</sup>，川島秀俊<sup>1)</sup>，大原國俊(<sup>1)</sup>自治医科大学)：網膜細動脈瘤を合併したサルコイドーシスの4例．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 68) 山口恵子，矢口智恵美，中嶋花子，東 永子，茨木信博，大原國俊：眼サルコイドーシスにおける網膜新生血管の成因．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 69) 呉 玲々<sup>1)</sup>，鈴木康之，国松志保<sup>1)</sup>，新家 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学)：半視野のみに異常を認める開放隅角緑内障症例でのFDP及びHRT測定．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 70) 間山千尋<sup>1)</sup>，鈴木康之，新家 真<sup>2)</sup>，北澤克明<sup>3)</sup>，石田恭子<sup>3)</sup>，阿部春樹<sup>4)</sup>，白柏基宏<sup>4)</sup>，三嶋 弘<sup>5)</sup>，柴田大朗<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>久我山病院，<sup>2)</sup>東京大学，<sup>3)</sup>岐阜大学，<sup>4)</sup>新潟大学，<sup>5)</sup>広島大学，<sup>6)</sup>東京大学生物統計学)：正常眼圧緑内障と原発開放隅角緑内障における末期中心視野障害形態の相違と屈折の影響．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 71) 山口 貴，大原國俊：ステロイドにて視野改善の認められた虚血性視神経症の1例．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 72) 東 永子，李 俊哉，大原國俊：眼底に巨大隆起性病変を認めた多発性骨髄腫の1例．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 73) 深川 晃，大原國俊：巨大な脈絡膜肉芽腫性病変を認めた眼サルコイドーシス疑診の1例．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 74) 国松志保<sup>1)</sup>，鈴木康之，新家 真<sup>1)</sup>，山田敬子<sup>2)</sup>，富田剛司<sup>2)</sup>，北澤克明<sup>2)</sup>，船木繁雄<sup>3)</sup>，白柏基宏<sup>3)</sup>，阿部春樹<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学，<sup>2)</sup>岐阜大学，<sup>3)</sup>新潟大学)：緑内障眼における網膜神経線維層厚の左右差の検討．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 75) 赤星隆幸：Phaco Prechopと超音波チップ．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 76) 桂 佳枝<sup>1)</sup>，鈴木康之，江口秀一郎<sup>2)</sup>，江口まゆみ<sup>2)</sup>，多田桂一<sup>2)</sup>，江口甲一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学分院，<sup>2)</sup>江口眼科病院)：最近20年間の学童近視化傾向とビデオゲーム利用時間の関係について．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 77) 赤星隆幸：白内障手術手技：Phaco Prechop Brush Up．第14回AMISの会，1999．10．
- 78) 赤星隆幸：合併症：粘弾性物質をケチると・・・第14回AMISの会，1999．10．
- 79) 南野麻美<sup>1)</sup>，中村 弘，安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院)：マイトマイシンC併用トラベキュトミーの若年者での成績．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 80) 赤星隆幸：Phaco Prechopと超音波チップ．第53回日本臨床眼科学会，1999．10．
- 81) 高橋 浩：テリエンor モーレンの1例．第5回Cornea and Ocular Surface Seminar in Tokyo，1999．11．

- 82) 大塚千明, 五十嵐勉, 深川 晃, 進藤江里子, 高橋 浩, 大原國俊: 難治性角膜疾患に対する羊膜移植. 日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.
- 83) 北原由紀, 大原國俊: 多発性の網膜動脈閉塞所見を呈した抗リン脂質抗体症候群と思われる1例. 第65回日本中部眼科学会, 1999. 11.
- 84) 矢口智恵美, 茨木信博, 大原國俊: 巨大虹彩腫瘍が発見動機となった転移性肺癌の1例. 第65回日本中部眼科学会, 1999. 11.
- 85) 正木茂夫<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>2)</sup>, 茨木信博 ( <sup>1)</sup>愛知コロニー研・生化, <sup>2)</sup>Michigan大学 ): レンズフィレンシン遺伝子のプロモーター活性と, レンズ特異的発現機構の解析. 第26回水晶体研究会, 2000. 1.
- 86) 矢口智恵美, 大原國俊, 東 永子, 進藤江里子: アクリリックレンズのグリスニング頻度. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 87) 中元兼二, 大原國俊, 高橋 浩, 大塚千明, 秋庭幹生, 中山滋章: 局所切除を行った毛様体腫瘍の1例. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 88) 三村達哉<sup>1)</sup>, 新家 真<sup>2)</sup>, 鈴木康之, 松尾 寛<sup>2)</sup>, 小関信之<sup>3)</sup>, 原 岳<sup>4)</sup>, 白土城照<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>東京女子医大, <sup>2)</sup>東京大学, <sup>3)</sup>東京老人医療センター, <sup>4)</sup>大宮日赤, <sup>5)</sup>東京医大 ): 線維柱帯切除術後の低眼圧黄斑症の検討. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 89) 東 永子, 大原國俊, 中嶋花子, 森瀬景子: プレチヨップ超音波白内障手術: パドルプレチヨッパーの使用経験. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 90) 中嶋花子, 大原國俊, 矢口智恵美, 東 永子, 進藤江里子: アクリリックレンズ: グリスニングのスリットランプ所見. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 91) 大塚千明, 矢口智恵美, 高橋 浩, 大原國俊: 耳側壊死性強膜炎, 角膜潰瘍に対し表層角膜移植後耳側角膜切開超音波白内障手術を施行した1例. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 92) 赤星隆幸: 新しい粘弾性物質による角膜内皮保護. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 93) 八木郁子<sup>1)</sup>, 木戸口裕<sup>1)</sup>, 春山賢介<sup>1)</sup>, 赤星隆幸 ( <sup>1)</sup>済生会川口総合病院 ): 新しい超音波チップ ( Flared Tip ) に使用経験. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 94) 赤星隆幸: 新しいアクリルレンズ用インジェクター. 第23回日本眼科手術学会総会, 2000. 1.
- 95) 大塚千明, 五十嵐勉, 高橋 浩, 大原國俊: 眼類天疱瘡と悪性関節リウマチの合併例における角膜穿孔. 第24回角膜カンファランス, 2000. 2.
- 96) 赤星隆幸: Phaco Prechop & ultrahigh vacuum Phaco. ALCON 仙台白内障 Live Surgery 講演会, 2000. 3.
- 97) 赤星隆幸: ビスコートを応用した ICG 染色. ALCON 仙台白内障 Live Surgery 講演会, 2000. 3.

## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本教室の研究テーマはショックの病態生理と治療，手術侵襲とその防御，麻酔と循環動態，術後疼痛管理，ペインクリニック，外科系集中治療管理であり，本年度はさらに周術期の輸液・輸血，麻酔と免疫反応（アポトーシス）等の新たなテーマも加わり，臨床および基礎的研究が幅広く行われた．以下に本年度に成果をあげた主な研究内容を示す．

臨床的研究：（１）外科侵襲と麻酔による防御（大侵襲手術時のサイトカイン変動と心機能，麻酔法の違いと周術期管理，術中の白血球反応，侵襲によるCO-Hbの変動，侵襲による凝固能変動）（２）ショック患者の麻酔と病態治療（３）周術期の循環動態・心機能解析（TEEによる心機能測定，塞栓子の早期発見）（４）心疾患患者の周術期心機能解析（術前評価と虚血性変化）（５）周術期の体液代謝（膠質浸透圧変動，循環血液量変動）（６）外科系患者の集中治療（炎症反応と心機能，非侵襲的呼吸法の確立）（７）慢性疼痛治療（CRPS患者の交感神経活動，胸部交換神経節切除術の応用，精神患者の鎮痛法）（８）日帰り麻酔の安全性検討（９）術後鎮痛法の検討など．

基礎的研究：（１）心臓・血管輪灌流モデル（炎症反応による循環抑制と治療，虚血再灌流による麻酔薬の影響，ガス状ラジカルと循環動態変動）（２）ショックモデル（高張膠質液と微小循環，サイトカインと臓器障害，ショック時のNOおよびCOの役割）（３）培養細胞研究（ガス状ラジカルによる細胞障害，局所麻酔薬によるアポトーシスの誘導）（４）パッチクランプモデル（呼吸中枢抑制のメカニズム）（５）神経原性疼痛モデル（脊髄c-fos変動とプロスタグランジンの効果）など．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sakamoto A, Hoshino T, Suzuki N, Suzuki H<sup>1)</sup>, Kimura M<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>Dept. of Neuropsychiatry ): Effects of propofol anesthesia on cognitive recovery of patients undergoing electroconvulsive therapy . Psychiatry & Clinical Neurosciences 1999 ; 53 ( 6 ): 655-660 .
- 2) Shiga T, Sakamoto A, Koizumi K<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>2nd dept. of Surgery ): Endoscopic Thoracic sympathectomy for primary erythromelalgia in the upper extremities . Anesthesia & Analgesia 1999 ; 88 : 865-866 .
- 3) Kato N, Ogawa R : Dose use of propofol in heavy alcohol drinkers tend to discolor their urine? . Acta Anaesthesiol Scand 1999 ; 43 : 868-869 .
- 4) Sakamoto A, Hoshino T, Suzuki H<sup>1)</sup>, Kimura M<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>Dept. of Neuropsychiatry ): Repeated propofol anesthesia for a patient with a history of neuroleptic malignant syndrome . Journal of Nippon Medical School 1999 ; 66 : 262-265 .
- 5) Wajima Z<sup>1)</sup>, Shitara T, Inoue T<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>Department of Anaesthesia, Chiba Hokusoh Hospital ): The effect of previous administration of nizatidine on the neuromuscular effects of vecuronium and the effect of nizatidine on gastric secretion . Anaesthesia and Intensive Care 2000 ; 28 : 46-48 .
- 6) Kamuro H, Komoriya N, Ogawa R : Optimal dose and duration of glucose administration during fasting period surgery in rabbits . J Anesth 2000 ; 14 : 19-23 .
- 7) 志賀俊哉, 小川 龍 : 麻酔中の左室拡張能の把握法 . Cardiovascular Anesthesia ( 日本心臓血管麻酔学会誌 ) 1999 ; 12 ( 2 ): 30-36 .

- 8) 星野 健, 坂本篤裕, 鈴木規仁, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 鈴木博子<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>精神医学): うつ症状を合わせもつ慢性疼痛患者への電気痙攣療法の効果. 麻酔 1999; 48(7): 763-766.
- 9) 中島祐史, 林 行雄<sup>1)</sup>, 宮下徹也<sup>1)</sup>, 堀之口典子<sup>1)</sup>, 大西佳彦<sup>1)</sup>, 畔 政和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立循環器病センター麻酔科): 末期拡張型および肥大型心筋症患者に対する補助人工心臓装着術の麻酔経験. 麻酔 1999; 48: 767-772.

(2) 総説:

- 1) 明楽重夫<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>産婦人科学): 腹腔鏡下手術時の麻酔トラブルの対処(特集: 腹腔鏡下手術: ピットフォールからの脱出). 産婦の実際 1999; 48(4): 509-515.
- 2) 小川 龍, 坂本篤裕, 星野 健, 北澤由香: 電気痙攣療法の麻酔. 総合病院精神医学 別冊 1999; 11(1): 1-6.
- 3) 小川 龍: ケタミン麻酔導入時に離人感が現われることがあるが, なぜか?. CLINICAL NEUROSCIENCE 1999; 17: 467.
- 4) 糸満盛憲, 小川 龍: 腰痛症を対象としたTG62の二重盲検比較試験. Prog. Med 1999; 19: 1517-1533.
- 5) 竹田晋浩: NPPVの汎用性をめぐって 7. 肺水腫. 呼吸と循環 1999; 256-259.
- 6) 加藤 実, 天羽敬祐, 小川 龍, 他5名: 長時間作用性局所麻酔薬塩酸ロピバカイン(NA-001)の浸潤麻酔による鎮痛効果と安全性の検討: 第III層試験. 臨床医 1999; 15: 1563-1575.
- 7) 竹田晋浩: 肺高血圧を伴う心不全患者におけるアムリノンおよびNOの役割. 肺高血圧に対するアムリノンの有用性 1999; 32-34.
- 8) 小川 龍, 森山ひろみ: 女性は男性より痛みに強いのか?. 産婦の世界 1999; 48: 1375-1383.
- 9) 小川 龍: 血流分布不均衡性ショック(distributive shock)と血管作動薬. 日外会誌 1999; 100(10): 679-682.
- 10) 林 宏光, 隈崎達夫, 小川 龍, 他12名: 高速らせんCTによる造影CT: イオヘコソールを用いた3次CT血管造影における造影効果, 安全性, 有用性ならびに至適用量の検討. 映像情報 Medical 1999; 31: 1261-1274.
- 11) 小川 龍: 術中輸液は今. パレット 1999; 13: 3-8.
- 12) 小川 龍: 悪性高熱症. CLINICAL NEUROSCIENCE 1999; 1275-1276.
- 13) 小川 龍, 森山ひとみ: 痛覚感受性に性差はありますか?. CLINICAL NEUROSCIENCE 1999; 17: 1293.
- 14) 坂本篤裕: 頭頸部外傷患者の気道確保と周術期管理.(特集: 救急領域における麻酔法と周術期管理). 救急医学 1999; 23(12): 1707-1713.
- 15) 坂本篤裕: 集中治療とClinical Engineering; 除細動器. 集中治療 1999; 11: 116-120.
- 16) 坂本篤裕, 小川 龍: 麻酔管理におけるThiobarbituratesの有用性. 日本麻酔・薬理学会誌 2000; 12(1): 62-64.
- 17) 寺嶋克幸, 小川 龍: 糖尿病患者の術前評価と術中管理. Pharmacoanesthesiology 2000; 12(1): 52-56.

著 書

- 1) Ogura A: [分担] Thoracic Epidural Blockade: A Safe Technique for Epidural Puncture and Catheter Placement. Regional Anaesthesia and Pain Management (GP Dureja, R Madan and HL Kaul), 2000; pp171-175, Churchill Livingstone.
- 2) 坂本篤裕, 高尾あや子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>榊原記念病院麻酔科): [編集] 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ, 1999; pp1-224, 真興交易医書出版部.
- 3) 坂本篤裕: [分担] モニタリングの最近の動向. 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ(小川 龍・坂本篤裕), 1999; pp17-24, 真興交易医書出版部.
- 4) 坂本篤裕: [分担] 開心術に伴う炎症反応とその対策. 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ(小川 龍・坂本

- 篤裕), 1999 ; pp40-65, 真興交易医書出版部 .
- 5) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 開心術に伴う出血傾向とその対策 . 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ ( 小川 龍・坂本篤裕 ), 1999 ; pp66-75, 真興交易医書出版部 .
  - 6) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 冠動脈再建術の麻酔 . 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ ( 小川 龍・坂本篤裕 ), 1999 ; pp165-181, 真興交易医書出版部 .
  - 7) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 不整脈手術の麻酔 . 最近の心臓手術と麻酔管理のながれ ( 小川 龍・坂本篤裕 ), 1999 ; pp189-198, 真興交易医書出版部 .
  - 8) 小川 龍 : [ 分担 ] ショック診療の道程 . ショックの新たな診療 ( 小川 龍 ), 1999 ; pp143-161, 新興交易医書出版部 .
  - 9) 小川 龍 : [ 分担 ] ショック : 病態生理, モニタリング . 標準集中治療医学 ( 天羽敬祐 ), 2000 ; pp216-220, 新興交易医書出版部 .
  - 10) 坂本篤裕 : [ 分担 ] 全身性障害の病態と治療 : ショックの治療 . 標準集中治療医学 ( 天羽敬祐 ), 2000 ; pp221-224, 真興交易医書出版部 .

#### 学会発表

##### (1) 教育講演 :

- 1) Ogura A : Thoracic Epidural Blockade : A Safe Technique for Epidural Puncture and Catheter Placement . 5th Biennial Congress Asian and Oceanic Society of Regional Anaesthesia ( AOSRA ) ( New Delhi, India ), 1999 . 10 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 坂本篤裕 : 吸入麻酔と完全静脈麻酔 . 日本麻酔・薬理学会第21回学術大会, 1999 . 6 .
- 2) 竹田晋浩 : 最近のARDSに対する臨床治療 . 第35回日本界面医学会総会, 1999 . 9 .
- 3) 坂本篤裕 : Protective anesthesia ; For patient : Stress response . 日本臨床麻酔学会第19回大会, 1999 . 11 .
- 4) 大井良之 : 輸血の将来と人工膠質液 . 第19回日本臨床麻酔学会, 1999 . 11 .
- 5) 大井良之 : 術中輸血における赤血球濃厚液使用のガイドラインと膠質液の位置づけ . 第19回日本臨床麻酔学会, 1999 . 11 .

##### (3) パネルディスカッション :

- 1) Ogura A : Teaching and Training in RA . 5th Biennial Congress Asian and Oceanic Society of Regional Anaesthesia ( AOSRA ) ( New Delhi, India ), 1999 . 10 .

##### (4) 一般講演 :

- 1) Nakanishi K, Takeda S, Ikezaki H, Ogawa R : RELATIONSHIP OF INTERLEUKIN-6 PRODUCTION TO RIGHT VENTRICULAR EJECTION FRACTION AFTER MAJOR SURGERY . 6th America-Japan Anesthesia Congress / 74th Annual Congress of the International Anesthesia Congress , 2000 . 3 .
- 2) 鈴木規仁, 坂本篤裕, 清水 淳, 小川 龍 : 炎症性サイトカインによる心機能抑制と一酸化窒素の関与 . 第20回日本循環制御医学会総会, 1999 . 5 .
- 3) 岩崎かな子, 坂本篤裕, 星野 健, 小川 龍 : 妊娠合併うつ病患者に対するelectroconvulsive therapy ( ECT ) の麻酔 : Thiopental vs Propofol . . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 5 .
- 4) 清水 亨, 坂本篤裕, 小川 龍 : 炎症性サイトカインによる各種血管反応性の相違 . . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 5 .
- 5) 星野 健, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍 : 電気痙攣療法におけるプロポフォール至適濃度の検討 . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 5 .
- 6) 中西一浩, 角谷仁司, 竹田晋浩, 森山みちる, 坂本篤裕, 小川 龍 : 食道亜全摘術後の心機能抑制に対する

ジギタリスの効果．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．

- 7) 河原裕泰，加藤信也，中西一浩，北村 晶，坂本篤裕，小川 龍：低侵襲性冠動脈バイパス術（MIDCAB）及び腫瘍切除術を一期的に行った3症例の麻酔経験．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 8) 赤田信二，森山みちる，設楽敏朗<sup>1)</sup>，志賀俊哉，大井良之，坂本篤裕，小川 龍（<sup>1</sup>）集中治療室）：Batista手術症例における経食道心エコーの有用性．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 9) 鈴木博子<sup>1)</sup>，木村真人<sup>1)</sup>，竹澤健司<sup>1)</sup>，下田健吾<sup>1)</sup>，坂本篤裕，森 隆夫<sup>1)</sup>，遠藤俊吉<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）精神医学）：modified ECT 施行後の再発について．第95回日本精神神経学会総会，1999．5．
- 10) 鈴木規仁，清水 淳，中西一浩，竹田晋浩，設楽敏朗<sup>1)</sup>，池崎弘之<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，小川 龍（<sup>1</sup>）集中治療室）：右開胸食道亜全摘術施行患者の周術期管理に与える大量フェンタニール麻酔の影響．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 11) 竹田晋浩，小川 龍，池崎浩之，中西一浩：オピオイドによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの検討．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 12) 中島祐史，高橋めぐみ<sup>1)</sup>，高橋秀美<sup>1)</sup>，小川 龍（<sup>1</sup>）微生物学・免疫学）：胸腺細胞のapoptosis誘導に対する局所麻酔薬の影響．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 13) 岸川洋昭，中西一浩，小川 龍：心肺バイパス下心臓手術後のトロポニン-T放出をニコランジルは抑えるか？．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 14) 横田哲也<sup>1)</sup>，北澤由香，足立 仁，上原 清<sup>1)</sup>，野本幸子<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）関東労災病院麻酔科）：突発対するプロスタグランジンE1の効果．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 15) 石田浩康<sup>1)</sup>，小川 龍（<sup>1</sup>）東京女子医科大学薬理学教室）：Lipid A アナログによる血管透過性の亢進とその対策．第14回日本Shock学会総会，1999．5．
- 16) 石田浩康<sup>1)</sup>，小川 龍（<sup>1</sup>）東京女子医科大学薬理学教室）：Lipid A analog（ONO-4007）によるマウス皮膚血管透過性亢進作用．日本麻酔学会第46回大会，1999．5．
- 17) 北澤由香，大井良之，坂本篤裕，小川 龍：各種輸液輸注後の血漿膠質浸透圧の変化．日本麻酔・薬理学会第21回学術大会，1999．6．
- 18) 寺嶋克幸，坂本篤裕，小川 龍：褐色細胞種摘出術中のインスリン抵抗性の変化．日本麻酔・薬理学会第21回学術大会，1999．6．
- 19) 金 徹，小林正雄，坂本篤裕，小川 龍：硬膜外麻酔は上腹部手術執刀時の白血球反応を抑制する．日本麻酔・薬理学会第21回学術大会，1999．6．
- 20) 石田浩康，藤井恵美子<sup>2)</sup>，入江かをる<sup>1)</sup>，吉岡俊正<sup>1)</sup>，村木 篁<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）東京女子医科大学薬理学教室，<sup>2)</sup>東京女子医科大学薬剤部）：ONO-4007（Lipid A analog）によるマウス皮膚血管透過性亢進作用における各種炎症性メディエーターおよびNOの役割．第100回日本薬理学会関東部会，1999．6．
- 21) 小川 龍，坂本篤裕，北村 晶，角田 健，星野 健：体感症（cenesthopathy）と判明した顔面痛患者の治療経験．日本ペインクリニック学会第33回大会，1999．7．
- 22) 池崎弘之<sup>1)</sup>，設楽敏朗<sup>1)</sup>，中西一浩，竹田晋浩，井上哲夫<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，小川 龍（<sup>1</sup>）日本医科大学集中治療室，<sup>2)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院麻酔科）：当院集中治療におけるBiPAP利用の現状，適応および限界．第21回日本呼吸療法医学会学術総会，1999．7．
- 23) 山下理恵子，坂本篤裕，小川 龍：動脈血カルボキシヘモグロビン（CO-Hb）濃度は手術侵襲を反映するか？．第39回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1999．9．
- 24) 大井良之：LPSショックにおける腸管微小循環と高張膠質液．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 25) 大井良之，小川 龍：高張膠質液は，豚のLPSショックにおける腸管微小循環を改善する．日本蘇生学会第18回大会，1999．9．
- 26) 中村順之，角田 健，本郷 卓，大井良之，小川 龍：EEC症候群の麻酔経験．第39回日本麻酔学会 関東



- 甲信越地方会，1999．9．
- 27) 鈴木規仁，坂本篤裕，清水 淳，小川 龍：炎症性サイトカインによる心機能抑制と一酸化窒素の関与．日本蘇生学会第18回大会，1999．10．
- 28) 森山みちる，小野寺英貴，寺嶋克幸，坂本篤裕，小川 龍：CRPS患者における交感神経系活動について．日本臨床麻酔学会第19回大会，1999．11．
- 29) 本郷 卓，杖下隆哉，北村 晶，坂本篤裕，小川 龍：慢性関節リウマチ患者の挿管困難症例と頸椎環軸関節亜脱臼の程度．日本臨床麻酔学会第19回大会，1999．11．
- 30) 北澤由香，大井良之，坂本篤裕，小川 龍：各種輸液の血漿量動態に与える影響．日本臨床麻酔学会第19回大会，1999．11．
- 31) 加藤信也，中西一浩，小川 龍：経食道心エコーを用いた骨セメント使用時寒栓子の観察．第19回日本臨床麻酔学会大会，1999．11．
- 32) 竹本恭子<sup>1)</sup>，木村真人<sup>1)</sup>，森 隆夫<sup>1)</sup>，鈴木英朗<sup>1)</sup>，葉田道雄<sup>1)</sup>，鈴木博子<sup>1)</sup>，坂本篤裕，近喰ふじ子<sup>1)</sup>，橋口英俊<sup>1)</sup>，遠藤俊吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>精神医学)：ペインクリニック通院患者の心理的特性について．第87回日本心身医学会関東地方会，1999．12．
- 33) 中島祐史，高橋めぐみ<sup>1)</sup>，小川 龍，高橋秀美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学)：Effect of local anesthetics on induction of thymocyte apoptosis．第29回 日本免疫学学会総会，1999．12．
- 34) 坂本篤裕，清水 淳，鈴木規仁，松村純也，小川 龍：エンドトキシンショック時の一酸化窒素と一酸化炭素の関連．第27回日本集中治療学会総会，2000．3．
- 35) 中村順之，寺嶋克幸，設楽敏朗<sup>1)</sup>，池崎弘之<sup>1)</sup>，坂本篤裕，安武正弘<sup>1)</sup>，田中啓二<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，小川 龍(<sup>1)</sup>集中治療室)：右開胸開腹食道亜全摘術後のソノクロットによる凝固機能の評価．第11回日本臨床モニター学会総会，2000．3．
- (5) 奨学賞受賞記念講演：
- 1) 竹田晋浩：非侵襲的人工呼吸治療方法の確立．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

本邦における無痛分娩の現況とその展望ならびに分娩経過に及ぼす影響，また帝王切開術の麻酔法の検討など，従来どおり産科麻酔についての研究を継続した．

A<sub>1</sub>，A<sub>2</sub>，C線維の個々の神経線維の閾値を測定できるニューロメーターを用いて，血中プロゲステロン値の変化するさまざまな状況での知覚閾値を比較検討し，また，抗癌剤であるパクリタキセルの末梢神経障害の評価を行った．

さらに，モルヒネの術後鎮痛に対する低容量ケタミン投与の増強作用，周術期の合併症，褐色細胞腫の麻酔法，24時間対応輸血検査法の有用性などについて検討し報告した．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Manzo S, Kentaro T<sup>1)</sup>, Peter S L<sup>1)</sup>, Merritt M T<sup>1)</sup>, Thomas M F<sup>1)</sup>, Connie I I<sup>1)</sup>, Rachel A S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Louisville School of Medicine)：Small-Dose Ketamine Enhances Morphine-Induced Analgesia After Outpatient Surgery．*Anesth Analg* 1999；89：98-103．
- 2) 董 文毅<sup>1)</sup>，島田洋一，紙谷裕昭(<sup>1)</sup>中国医科大学附属第二医院)：頑固性心律失常案．*中国針灸* 2000；20

(3): 165 .

3) 島田洋一: 無痛分娩とその現況 . 日臨麻会誌 1999 ; 19 (5): 307-315 .

4) 横山健至, 岩田隆成, 鈴木恵一郎, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: 周術期心筋虚血を再発した1例 . 神奈川医会誌 1999 ; 26 (2): 167 .

5) 島田洋一: 分娩経過におよぼす影響 . 分娩と麻酔 2000 ; 79 : 30-43 .

(2) 総説 :

1) 大島正行 : Spinal nerve lesion-induced mechanoallodynia and adrenergic sprouting in sensory ganglia are attenuated in interleukin-6 knockout mice . ペインクリニック 1999 ; 20 (3): 439 .

学会発表

(1) 一般講演 :

1) 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 妊娠に伴う電流知覚閾値 (CPT : Current Perception Threshold) の増加 . 第46回日本麻酔学会, 1999 . 5 .

2) 横山健至, 岩田隆成, 鈴木恵一郎, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: 腹腔鏡併用子宮鏡下手術中に水中毒を来した1症例 . 第46回日本麻酔学会, 1999 . 5 .

3) 大島正行, 島田洋一: 当施設における帝王切開術の麻酔法の検討 . 東京麻酔専門医会総会, 1999 . 6 .

4) 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1)</sup>海老名総合病院麻酔科): 当施設における帝王切開術の麻酔 . 東京麻酔専門医会総会, 1999 . 6 .

5) 土居大祐<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 関谷隆夫<sup>2)</sup>, 塚田克也<sup>2)</sup>, 松島 隆<sup>2)</sup>, 石原 楷輔<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 大島正行 (<sup>1)</sup>付属病院産婦人科, <sup>2)</sup>第二病院産婦人科): Current Perception Threshold (CPT) の測定による Paclitaxel の神経毒性の評価 . 第37回日本癌治療学会総会, 1999 . 10 .

6) 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 横山健至, 稲木敏一郎, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一 (<sup>1)</sup>海老名総合病院麻酔科): パルス式色素希釈法を用い周術期循環血流量を管理した褐色細胞腫の1例 . 日本臨床麻酔学会第19回大会, 1999 . 11 .

7) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 月経周期において CPT (Current Perception Threshold) は変化しない . 日本臨床麻酔学会第19回大会, 1999 . 11 .

8) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 周術期を硬膜外ブロックにて管理した ITP 合併帝王切開術の1症例 . 日本臨床麻酔学会第19回大会, 1999 . 11 .

9) 井上雅則<sup>1)</sup>, 井梅和美<sup>1)</sup>, 花出 豊<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): Auto Vue システムによる輸血検査の24時間体制 . 日本医科大学医学会第99回例会, 1999 . 11 .

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

当教室は、以下に記す継続的研究内容を持ち研究報告を行っている .

#### [ 1 ] 脊椎麻酔

(1) Open-end Pencil Point 針の臨床検討, (2) 0.5% 等比重プロピバカインの広がり, (3) 0.5% 高比重プロピバカインの広がり, (4) 0.25% 高比重プロピバカインの広がり, (5) 高度肥満者に対する脊椎麻酔, (6) Pace maker 挿入患者に対する脊椎麻酔, (7) 脊椎麻酔の現状と展望, (8) 帝王切開手術における硬膜外麻酔併用脊椎麻酔 .

#### [ 2 ] 硬膜外麻酔

(1) 気道内圧と硬膜外麻酔の広がりとの関係

#### [ 3 ] ペインクリニック

(1) SSP 療法, (2) 各種難治療疼痛に対するブロック法の考察, (3) 頸性頭痛に対する神経ブロック .

#### [4] プロポフォール

(1) 咳込み発生率, (2) 硬膜外麻酔併用中の不整脈.

#### [5] その他

(1) 産科麻酔, (2) 低流量麻酔, (3) 帝王切開時の臍動静脈血ガス分析 母体の血圧と酸素投与の影響, (4) 腋窩神経ブロック, (5) 甲状腺機能亢進症の麻酔, (6) 医療における安全対策, 医療事故, 医事紛争, (7) 女医と麻酔.

### 研究業績

#### 論文

1) 横山和子: 医療の質向上が基本 “医療関係者の意識改革から始めよう”. 病院経営新事情 1998; 171: 4-11.

#### (1) 原著:

- 1) Masuda R<sup>1)</sup>, Yokoyama K, Inoue T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesia, Chiba-Hokusoh Hospital ): Effects of Propofol Sedation on High and Low Spinal Anaesthesia. The International Monitor 1999; 11 (3): 199.
- 2) Yokoyama K, Omi S, Mori H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Kusakabe Hospital ): The Effects of Airway Pressure Change on the Spread of Epidural Anaesthesia. The International Monitor 1999; 11 (3): 106.
- 3) Yokoyama K: The Open-end 25-Gauge Needle: A New Pencil-Point Needle for Spinal Anesthesia. Regional Anesthesia and Pain Medicine 2000; 25 (2): 2.
- 4) 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 横山和子, 志賀麻記子 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): 塩酸メチルフェニデートが生活の質改善に奏効したモルヒネ治療中の末期癌4症例. 日本ペインクリニック学会誌 1999; 6 (4): 397-402.
- 5) 石原之法, 山田光輝: 産科麻酔・除痛の実際と工夫: 子宮内容清掃術 (D&C). 産婦人科の実際 1999; 48 (11): 1487-1494.
- 6) 横山和子: 第18回ヨーロッパ局所麻酔学会. 臨麻 1999; 23 (11): 1822.
- 7) 柴崎敬乃, 近江禎子, 横山和子: Propofol鎮静中の咳込み発生率について. 日麻薬理学会誌 1999; 12 (1): 19-22.
- 8) 横山和子: 新しいopen-end pencil point針による0.5%等比重ピバカイン脊椎麻酔の広がりについて. 麻酔 1999; 48 (12): 1308-1313.

#### [1998年度追加分]

#### 総説:

- 1) 横山和子: 医療における安全対策について. 茨城県医師会報 1999; (548): 4-19.
- 2) 横山和子: 環境問題からみた低流量麻酔. 医器学 2000; 70 (3): 122-126.
- 3) 横山和子: 麻酔科における医療事故・医事紛争の実状. 日医師会誌 2000; 123 (5): 671.

#### 著書

- 1) 横山和子: [分担] 脊椎麻酔. 専門医のための麻酔科学レビュー '99 (天羽敬祐 (東京医科歯科大学名誉教授/東北大学名誉教授) 監修), 1999; pp125-130, 総合医学社.
- 2) 横山和子: [共著] 総論: 1. 脊椎麻酔の歴史と展望 (A. 歴史 B. 脊椎麻酔の現状と展望) 2. 脊椎麻酔の適応 (A. 患者側の適応 B. 外科医の適応 C. 麻酔科医の適応 D. 手術が行われる状況) 3. 脊椎麻酔の禁忌. 脊椎麻酔: 正しい知識と確実な手技 (横山和子 編著), 2000; pp1-14, 診断と治療社.
- 3) 横山和子: [共著] 基礎編: 4. 解剖 (A. 脊柱 B. 脊柱連結 C. 脊柱管と脊髄 D. 髄膜 E. 脊髄神経とその支配領域 F. 脊髄の血管系 G. 脊髄部脳脊髄液の量について). 脊椎麻酔: 正しい知識と確実な手技 (横山和子 編著), 2000; pp17-50, 診断と治療.

- 4) 横山和子：〔共著〕臨床編：7. 脊椎麻酔の手技（A. 術前評価 B. 禁食 C. 前投薬 D. モニター機器 E. 点滴路の確保 F. くも膜下穿刺 G. 術後回診） 8. 一般外科（A. 概要 B. 上腹部手術 C. 下腹部手術 D. 会陰、肛門部の手術 E. 腹壁、臍の手術 F. 下肢の手術）. 脊椎麻酔：正しい知識と確実な手技（横山和子編著），2000；pp127-218，診断と治療社．
- 5) 横山和子：〔共著〕臨床編：14. 脊椎麻酔の合併症と併発症（A. 神経系の合併症 B. 神経系の併発症 C. 循環系の併発症 D. 呼吸器系の併発症）. 脊椎麻酔：正しい知識と確実な手技（横山和子編著），2000；pp341-359，診断と治療社．
- 6) 横山和子：〔共著〕14. 脊椎麻酔の合併症と併発症（F. その他の合併症と併発症 G. 合併症の予防とは）. 脊椎麻酔：正しい知識と確実な手技（横山和子編著），2000；pp366-376，診断と治療社．
- 7) 近江禎子：〔共著〕10. 産婦人科（A. 婦人科の麻酔 B. 産科麻酔）11. 泌尿器科（A. TUR手術の麻酔 B. 検査の麻酔 C. 尿道，外陰部手術の麻酔 D. 膀胱，前立腺手術の麻酔 E. 尿管手術の麻酔 F. 腎手術の麻酔 G. 慢性腎不全患者（特に血液透析中）の麻酔 H. 高齢者の問題点）. 脊椎麻酔（正しい知識と確実な手技）（横山和子編著），2000；pp241-316，診断と治療社．
- 8) 近江禎子：〔共著〕14. 脊椎麻酔の合併症と併発症（E. 異常反応）. 脊椎麻酔（正しい知識と確実な手技）（横山和子編著），2000；pp360-365，診断と治療社．

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) 横山和子：産婦人科麻酔事故．分娩と麻酔研究会，1999．12．

##### (2) 教育講演：

- 1) 横山和子：低流量麻酔の実際．第39回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1999．9．

##### (3) パネルディスカッション：

- 1) 横山和子：女医と麻酔．日本麻酔学会第46回大会，1999．4．

##### (4) 一般講演：

- 1) Yokoyama K, Koiwa M<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Orthopedic Surgery, Kasukabe Syuuwa Hospital ): Extent and Duration of Isobaric Spinal Anesthesia by Using New Open-end Pencil Point Spinal Needle . 17th Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress ( GENEVA ), 1998 . 9 .
- 2) Omi S, Shiga M, Yokoyama K : Onset Side of Spinal Anaesthesia with 0. 5% Plain Bupivacaine in the Lateral Decubitus Position . 17th Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress ( GENEVA ), 1998 . 9 .
- 3) Masuda R<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Yokoyama K, Omi S, Shiga M ( <sup>1)</sup>Department of Anaesthesia, Chiba -Hokusho Hospital ): Effects of Epidural Local Anaesthetic for Gastrointestinal Function in Postoperative Analgesia with Morphine . 17th Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress ( GENEVA ), 1998 . 9 .
- 4) Yamada K, Ishihara Y, Shimada S<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>2)</sup>, Matsumoto M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology , <sup>2)</sup>Dept. of 1st Surgery , <sup>3)</sup>Dept. of Neurosurgery ): The effect of nerve block treatments in cervicogenic headache . 9th World Congress on Pain ( VIENNA ), 1999 . 8 .
- 5) Masuda R<sup>1)</sup>, Yokoyama K, Inoue T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesia, Chiba -Hokusho Hospital ): Effects of Propofol Sedation on High and Low Spinal Anaesthesia . 18th Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress ( ISTANBUL ), 1999 . 9 .
- 6) Yokoyama K, Omi S, Mori H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Kusakabe Hospital ): The Effects of Airway Pressure Change on the Spread of Epidural Anaesthesia . 18th Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress ( ISTANBUL ), 1999 . 9 .

- 7) Nasuhara H, Yokoyama K : Anesthesia for emergency D&C in a patient with poor controlled hyperthyroidism . 14th Asian Oceanian Congress of Internal Secretion ( Hawaii ) , 2000 . 2 .
- 8) Yokoyama K : The Open-end 25- Gauge Needle : A New Pencil Point Needle for Spinal Anesthesia . The American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine 25th Anniversary Meeting ( ORLANDO ) , 2000 . 3 .
- 9) 近江禎子, 飯野 治, 横山和子, 中井章人<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院産婦人科): 帝王切開時の臍帯動静脈血ガス分析: 母体の血圧と酸素投与の影響について . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 4 .
- 10) 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 横山和子, 近江禎子, 佐々木静子<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>付属千葉北総病院麻酔科, <sup>2</sup>まつしま産婦人科小児科病院): 婦人科開腹術後の硬膜外モルヒネ鎮痛におけるブピバカイン併用が腸管機能に及ぼす影響 . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 4 .
- 11) 飯野 治, 近江禎子, 横山和子: 0.25%高比重ブピバカインによる脊椎麻酔の広がりとは2分節下降時間 . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 4 .
- 12) 近江禎子, 柴崎敬乃, 横山和子: 高度肥満者(体重100kg以上)に対する脊椎麻酔 . 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 4 .
- 13) 松尾千恵美, 横山和子: Pace maker 挿入 Parkinson 病患者への脊椎麻酔 . 日本麻酔・薬理学会第21回学術大会, 1999 . 6 .
- 14) 志賀麻記子, 横山和子, 粟野啓子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>竹林病院ペインクリニック科): SSP療法が著効した中心性脊椎損傷の一症例 . 第33回ペインクリニック学会, 1999 . 7 .
- 15) 南須原宏城, 松尾千恵美, 山田光輝: 中心静脈カテーテル抜去困難となった1症例 . 第67回日本医科大学医学部会総会, 1999 . 9 .
- 16) 南須原宏城, 横山和子: 硬膜外併用, プロポフォル麻酔により徐脈となった1症例 . 第39回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1999 . 9 .
- 17) 横山和子: 新しい脊椎麻酔・open-end pencil point 針の臨床検討(その2) . 日本臨床麻酔学会第19回大会, 1999 . 11 .
- 18) 横山和子: 27ゲージ針による腋窩神経ブロック . 第12回日本局所麻酔学会, 1999 . 11 .
- 19) 南須原 宏城, 横山和子: 甲状腺機能亢進症患者における緊急子宮内容掻爬の1症例 . 三多摩麻酔科医会, 2000 . 3 .

## [ 千葉北総病院麻酔科 ]

### 研究概要

付属病院および多摩永山病院との連携により、「外科侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止」,「硬膜外麻酔・脊椎麻酔の生体への影響および管理法・手技」をテーマとした臨床研究が継続されていることに変わりはない。

具体的には,手術室,病室,外来(ペインクリニック)など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践手技の研究開発が必要であると考えられる。実践目標には,患者の苦痛の除去, QOLの改善はもとより,医師側の治療への協力・助力となる方向での配慮が重要なものというまでもない。鎮痛法(術後疼痛,難治性疼痛,脊椎麻酔,神経ブロック)の向上に向けた研究は,この意味で継続して行われるべきであろう。

産科麻酔後の鎮痛法,プロポフォル麻酔による鎮静度の評価,慢性疼痛患者の痛覚認識の特徴などに新たな知見が得られつつあるところである。新たに導入された気管内挿管困難に応用される器具類の評価や硬膜外麻酔の穿刺法の再評価も継続した研究対象となっている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Yoshikawa T, Wajima Zen'ichiro, Ogura A, Imanaga K, Inoue T : Thoracoscopic lung biopsy in a patient with pulmonary lymphangiomyomatosis . Canadian Journal of Anesthesia 2000 ; 47 : 62-64 .
- 2) Wajima Zen'ichiro, Shitara T<sup>1)</sup>, Inoue T, Yoshikawa T, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : The effect of previous administration of nizatidine on neuromuscular effects of vecuronium and the effect of nizatidine on gastric secretion . Anaesthesia and Intensive Care 2000 ; 28 : 46-48 .
- 3) 益田律子, 井上哲夫, 横山和子<sup>1)</sup>, 志賀麻記子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科) : 塩酸メチルフェニデートが生活の質改善に奏功したモルヒネ治療中の末期癌4症例 . 日本ペインクリニック学会誌 1999 ; 14 (4) : 397-402 .

#### (2) 総説：

- 1) 井上哲夫 : 挿管困難 : 予測と対策 . 麻酔 1999 ; 48 : S201-S207 .
- 2) 益田律子 : 高度肥満の小児急性腹症 : Neuraxial anesthesiaを成功させるために . LiSA 1999 ; 16 (11) : 1116-1120 .
- 3) 井上哲夫 : Day Surgeryの麻酔 : 日帰り麻酔 (特集 : 泌尿器科外来診療 : 私はこうしている) . 臨泌 2000 ; 54 : 353-356 .

### 著書

- 1) Ogura A : [分担] Thoracic Epidural Blockade : A Safe Technique for Epidural Puncture and Catheter Placemnt . Regional Anaesthesia and Pain Management (GP Dureja, Rashhmi Madan and HL Kaul P. O. ), 1999 ; pp171-175, Current Perspectives New Delhi: B. I. Churchill Livingstone .
- 2) 益田律子 : [翻訳] 脊椎麻酔, 硬膜外麻酔, 仙骨麻酔 . MGH麻酔の手引き 第4版 (稲田英一), 2000 ; pp217-236, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 3) 益田律子 : [分担] 薬理 . 脊椎麻酔 (横山和子), 2000 ; pp85-124, 診断と治療社 .
- 4) 益田律子 : [分担] 整形外科 . 脊椎麻酔 (横山和子), 2000 ; pp219-240, 診断と治療社 .
- 5) 益田律子 : [分担] 脊椎麻酔の臨床応用 . 脊椎麻酔 (横山和子), 2000 ; pp317-336, 診断と治療社 .
- 6) 益田律子, 横山和子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科) : [分担] 脊椎麻酔の合併症と併発症 . 脊椎麻酔 (横山和子), 2000 ; pp341-376, 診断と治療社 .

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) Ogura A : Thoracic Epidural Blockade : A Safe Technique for Epidural Puncture and Catheter Placement . 5th Biennial Congress Asian and Oceanic Society of Regional Anesthesia (AOSRA) (New Delhi), 1999 . 10 .
- 2) 井上哲夫 : 人工呼吸器・麻酔器の臨床における問題点と安全対策 . 日本ME学会専門別研究会, 1999 . 6 .
- 3) 井上哲夫 : こんな薬物いれてしまった . 第6回硬膜外麻酔研究会, 2000 . 2 .
- 4) 井上哲夫 : 人工呼吸療法 . 3学会合同呼吸療法士認定更新のための講習会, 2000 . 2 .

#### (2) シンポジウム：

- 1) 益田律子 : 麻酔薬の心疾患を有する動物への影響 . 第70回日本獣医循環器学会, 1999 . 5 .
- 2) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, Anesthesiology Research Laboratory, University of California, San Diego) : GF109203X (PKC inhibitor) は substance P 髄注による thermal hyperalgesia を抑制する . 日本ペインクリニック学会第33回大会, 1999 . 7 .
- 3) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, Anesthesiology Research Laboratory, University of California, San

Diego): GF109203X (protein kinase C inhibitor) は formalin test による hyperalgesia を抑制する。日本ペインクリニック学会第33回大会, 1999. 7.

4) 井上哲夫: 新設病院における医療ガス配管設備の現状と招来展望。第3回日本医療ガス学会総会, 1999. 9.

(3) パネルディスカッション:

1) Ogura A: Teaching and Training in RA. 5th Biennial Congress Asian and Oceanic Society of Regional Anaesthesia (AOSRA) (New Delhi), 1999. 10.

(4) 一般講演:

1) Ogura A, Inoue T, Masuda R, Imanaga K, Yoshikawa T: Distance from Skin to Vertebral Lamina as A Principal Landmark to Predict The Epidural Depth for Paramedian Approach. 9th World Congress on Pain (Vienna), 1999. 8.

2) Masuda R, Inoue T, Imanaga K, Ogura A: Effects of intrathecal morphine on post operative analgesia and oxygen saturation after Cesarean Section. 9th World Congress on Pain (Vienna), 1999. 8.

3) Masuda R, Inoue T, Yokoyama K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): Effects of propofol sedation on high and low spinal anaesthesia. X VIII Annual ESRA Congress (Istanbul), 1999. 9.

4) Wajima Z, Hua Xiao-Y<sup>1)</sup>, Yaksh Tony L<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Anesthesiology Research Laboratory, University of California, San Diego): Intrathecal substance P-induced thermal hyperalgesia is mediated by activation of protein kinase C. American Society of Anesthesiologists 1999 Annual Meeting (Dallas, Texas, USA), 1999. 10.

5) Yoshikawa T, Wajima Z, Ogura A, Inoue T: The effect of epidural anesthesia on the pain on injection of propofol. 6th America-Japan Anesthesia Congress (Honolulu), 2000. 3.

6) 小倉 明, 吉河達祐, 井上哲夫: 側孔型および先端開口型の2種類の硬膜外カテーテル間における硬膜外造影所見および無痛域の比較。日本麻酔学会第46回大会, 1999. 5.

7) 今永和幸, 小倉 明, 山口真人, 吉河達祐, 池田健次, 益田律子, 井上哲夫: 麻酔導入後プロポフォール持続静注の血行動態に及ぼす影響。日本麻酔学会第46回大会, 1999. 5.

8) 吉河達祐, 小倉 明, 今永和幸, 井上哲夫: プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対する硬膜外麻酔の効果(5)。日本麻酔学会第46回大会, 1999. 5.

9) 益田律子, 井上哲夫, 横山和子<sup>1)</sup>, 近江禎子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科): 婦人科開腹術後の硬膜外モルヒネ鎮痛におけるプピバカイン併用が腸管機能におよぼす影響。日本麻酔学会第46回大会, 1999. 5.

10) 小倉 明, 今永和幸, 益田律子, 井上哲夫: 原因不明の高カリウム血症により心停止となり蘇生しえなかった1症例。第3回千葉麻酔科医会, 1999. 6.

11) 吉河達祐, 小倉 明, 井上哲夫: 頸椎脊柱管減圧・前方固定術後に呼吸困難・心停止となり, 1週間後に死亡した症例。第3回千葉麻酔科医会, 1999. 6.

12) 小倉 明, 吉河達祐, 益田律子, 井上哲夫: 腰部硬膜外穿刺時における正中法と旁正中法の比較(第2報)。日本ペインクリニック学会第33回大会, 1999. 7.

13) 池崎弘之<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>2)</sup>, 中西一浩<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科): 当院集中治療室におけるBIPAP利用の現状, 適応および限界。第21回日本呼吸療法医学会学術総会, 1999. 7.

14) 益田律子, 井上哲夫, 今永和幸, 小倉 明: くも膜下モルヒネによる帝王切開術後鎮痛と術後SpO<sub>2</sub>値の変動。日本ペインクリニック学会第44回大会, 1999. 7.

15) 輪嶋善一郎: GF 109203X (Protein kinase C inhibitor) は substance P くも膜下投与による thermal hyperalgesia を抑制する。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.

16) 小倉 明: 原因不明の高カリウム血症により心停止となり蘇生しえなかった1例。日本蘇生学会第18回大会,

1999 . 10 .

17) 吉河達祐, 小倉 明, 今永和幸, 輪島善一郎, 井上哲夫: 頸椎脊柱管減圧・前方固定術後に呼吸困難・心停止となり, 1週間後に死亡した症例. 日本蘇生学会第18回大会, 1999 . 10 .

18) 山口真人, 今永和幸, 輪嶋善一郎, 池田健次, 益田律子, 井上哲夫, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 吉川栄省<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院神経科): 健康成人の知覚痛覚認知機能に対する relaxation の効果: Neurometer による評価. 第29回日本慢性疼痛学会, 2000 . 2 .

(5) リフレッシュコースセミナー:

1) 井上哲夫: 挿管困難: 予測と対策. 日本麻酔学会第46回大会, 1999 . 5 .



## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成11年度の研究概要を班別に述べる。

1. 外傷班：肝損傷の保存的治療における問題点と診断的腹腔洗浄の意義，頭部外傷急性期における線溶動態の研究を行った。
2. 熱傷班：超広範囲熱傷に対する挑戦のため，以下の3つの研究を行った。第1は人工真皮の新たな可能性として，自家移植と組み合わせた治療法，第2はわずかな皮膚資源を有効に活用する手段として Microskin graft(ミンチ植皮)，そして第3は低出力超音波パルス照射装置の損傷治癒促進に関する研究である。
3. 脳外科班：くも膜下出血の重傷度と髄液中のmarkerの測定，脳虚血に対する低体温療法の検討，高齢者脳卒中の問題点，小児神経外傷の検討，救急医学での脳外科の役割の明確化，などを発表および検討した。
4. 災害班：厚生科学研究費補助金により，「コンピューター2000年問題における災害時医療危機管理計画の作成に関する研究」および「災害初動期におけるトリアージに関する研究」の報告書を作成した。また，国外活動としては，班員が国際緊急援助隊のメンバーとして，台湾地震，およびモザンビークの洪水災害に派遣され，被災民の治療とサーベイランスを行い報告した。
5. 感染症班：当救命救急センターにおけるヘテロVRSAの検出状況とバンコマイシン，テイコプラニンに対する感受性に関する研究を行った。
6. 整形班：難治性骨折に対して積極的に超音波治療を行い，その有用性について検討した。
7. 中毒班：付属病院，付属多摩永山病院の中毒症例に対して，過去5年間の症例を検討し，その実態についての調査を行った。外国薬やインターネットを利用した症例がみられるようになり，今後においてもその実態を追跡，調査する必要性を報告した。
8. 病態整理：各種病態におけるIL-18，血液凝固系の関与，immunonutritionとしてのセレンを解析。さらに，侵襲下における血液浄化法の有用性に関する多施設研究を開始した。
9. 基礎研究班：多臓器不全の発生メカニズムを解明するために，腸管虚血・再灌流モデルで検討しているが，平成11年度は世界で始めてマウスの遠隔臓器障害発生モデルの作成に成功した。また，マウス熱傷モデルにおいては，IL-6治療がアルブミンを含む急性反応性タンパク産生を促進することを発見した。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

- 1) Harada N, Okajima K, Kushimoto S : Gabexate mesilate, a synthetic protease inhibitor, reduces ischemia/reperfusion injury of rat liver by inhibiting leukocyte activation. . Crit Care Med 1999 ; 27 (9): 1958-1964 .

総説：

- 1) 望月 徹，山本保博，川井 真，野口裕幸：広範囲熱傷および熱傷後急性腎不全．救急医 1999；23(1)：1569-1572．

(1) 原著 :

- 1) Taniguchi T, Koido Y, Aiboshi J, Yamashita T, Suzuki S, Kurokawa A : The Ratio of Interleukin-6 to Interleukin-10 Correlates With Severity in Patients With Chest and Abdominal Trauma . Am J Emerg Med 1999 ; 17 ( 6 ): 548-551 .
- 2) Peigang Y, Koike K, Qiang W, et al : Causes and clinical relevance of thrombocytopenia after operation for lethal peptic ulcer hemorrhage . Journal of China-Japan Friendship Hospital 1999 ; 13 : 279-281 .
- 3) Sugiyama M, Takumi I, Node Y, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY : Neurohypophysial germinoma with prolactinoma . J Neurosurg 1999 ; 90 ( 1 ): 170 .
- 4) Murai Y, Yamashita Y, Ikeda Y, Node Y, Teramoto A : Ruptured aneurysms of the orbitofrontal artery associated with dural arteriovenous malformation in the anterior cranial fossa. -case report- . Neurologia medico-chirurgica 1999 ; 39 ( 2 ): 157-160 .
- 5) Sanno N, Ishii Y, Sugimama M, Takagi R, Node Y, Teramoto A : Subarachnoid haemorrhage and vasospasm due to pituitary apoplexy after pituitary function tests . Acta Neurochir 1999 ; 141 : 1009-1010 .
- 6) Muramatsu H, Matsumoto M, Shimura T, Node Y, Teramoto A : Treatment of ventriculoperitoneal shunt dysfunction during rehabilitation therapy in patients with normal pressure hydrocephalus . Neurorehabilitation 1999 ; 12 : 205-210 .
- 7) Taniguchi T, Koido Y, Aiboshi J, Yamashita T, Suzuki S, Kurokawa A : Change in the ratio of interleukin-6 to interleukin-10 predicts a poor outcome in patients with systemic inflammatory response syndrome . Crit Care Med 1999 ; 27 ( 7 ): 1262-1264 .
- 8) 野手洋治 : Neuroimaging Quiz . Clinical Neuroscience 1999 ; 17 ( 4 ): 99-100 .
- 9) 難波江功二, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博, 野崎正太郎, 小川太志, 原口義座, 辺見 弘 : 最近経験したコレラ患者の1例 : 行政対応の問題点について . 日救急医学会関東誌 1999 ; 20 : 56-57 .
- 10) 宮内雅人, 吉田竜介, 小井土雄一, 山本保博 : 帝王切開後羊水塞栓症によりCPAに陥った1症例 . 日救急医学会関東誌 1999 ; 20 ( 1 ): 130-131 .
- 11) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘 : 迅速なヘリコプター搬送にて救命し得た腹部大動脈瘤破裂の1例 . 日本救急医学会雑誌 1999 ; 10 ( 7 ): 415-419 .
- 12) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 加藤宏, 野崎正太郎, 久志本成樹, 白井康正<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 整形外科 ): 脂肪塞栓症候群21例の検討 : SIRSとの関連 . 骨折 1999 ; 21 ( 2 ): 630-633 .
- 13) 松園幸雅, 松田 潔, 小山 敦, 長谷川栄寿, 山本修三, 高相和彦, 中澤 勉 : 気管損傷を伴った犬咬傷の1例 . 山梨医 1999 ; 27 : 178-181 .
- 14) 瀬尾憲正, 箱田 滋, 大友康裕 : コロンビア共和国震災に対する国際緊急援助隊医療チーム活動について . 日本集団災害医学会誌 1999 ; 4 : 51-56 .
- 15) 東 和明, 小林辰輔, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 山本保博 : PMX施行症例におけるsuperantigenの検討 . エンドトキシン血症治療研究会誌 1999 ; 3 : 87-92 .
- 16) 吉田竜介, 山本保博 : 母体の心肺機能停止と蘇生法 : 母体救急の基本と実際 . 産婦の世界 1999 ; 51 : 4-10 .
- 17) 吉田竜介, 前川和彦, 寺田泰蔵, 山本保博 : アメリカのプレホスピタル・ケアにおけるメディカル・コントロールと今後の日本における展望 . 救急医療ジャーナル 1999 ; 38 ( 7 ): 59-62 .
- 18) 吉田竜介, 寺田泰蔵, 前川和彦, 山本保博 : Prehospital CareにおけるMedical Controlの意味 ( Letter to editor ). 日救急医学会誌 1999 ; 10 ( 7 ): 426-427 .
- 19) 吉田竜介, 山本保博 : 多発外傷患者の処置 : Advanced Trauma Life Support ( ATLS ) を中心に . 外科 1999 ; 61 ( 12 ): 1349-1352 .
- 20) 小川太志, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博, 野崎正太郎, 本間正人, 原口義座, 辺見

- 弘：軽微な外力で発症した腎破裂の1例．日救急医学会関東誌 1999；20：144-145．
- 21) 松島俊介，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，塩崎隆博，野崎正太郎，小川太志，原口義座，辺見弘：最近経験した成人腸重積症の2例．日救急医学会関東誌 1999；20：274-275．
- 22) 大泉 旭，川井 真，加藤 宏，原 義明，野崎正太郎，山本保博：偽関節に対する超音波治療器の使用経験．骨折 1999；22：672-675．
- 23) 小井土雄一，浅利 靖，中村 建，山本 基，今野孝雄，大塚 恵，金澤 豊，荒井尚之，西村満治，古屋年章，秋山純一：パプアニューギニア国津波災害における医療活動の自己評価．日本集団災害医学会誌 2000；4(2)：133-138．
- 24) 大塚 恵，浅利 靖，金澤 豊，山本 基，今野孝雄，小井土雄一：パプアニューギニア国津波災害における災害看護について．日本集団災害医学会誌 2000；4(2)：139-144．
- (2) 研究報告書：
- 1) 吉田竜介，寺田泰蔵，前川和彦，山本保博：米国各地区におけるプレホスピタルケア事情の調査研究．平成10年度厚生科学研究医療技術評価総合研究推進事業：財団法人日本救急医療財団 研究実績報告集 pp63-85．
- (3) 総説：
- 1) Koike K, Yamamoto Y：Splanchnic hypoperfusion in critically ill patients．日外傷会誌 1999；13：80-87．
- 2) 大友康裕：腹部実質臓器損傷に対する開腹術の基本：肝，脾，腎の手術法の基本．救急医 1999；23：573-585．
- 3) 小井土雄一，益子邦洋，山本保博：組織の剥離法と切離法．救急医 1999；23(5)：506-508．
- 4) 川井 真：K-1における危機管理対策について．臨スポーツ医 1999；16(7)：848-849．
- 5) 小林辰輔，益子邦洋，大友康裕，辺見 弘：肺挫傷とARDS．救急医 1999；23：967-971．
- 6) 大友康裕：義歯誤飲の診断治療．日医新報 1999；3943：111-112．
- 7) 二宮宣文：災害医療のあり方と今後の展望．消防科学と情報 1999；(59)：44-59．
- 8) 久志本成樹，山本保博：MOFからの回避策．ICUとCCU 1999；23(3)：207-217．
- 9) 久志本成樹，新井正徳，増野智彦：急性腹症：Diagnostic peritoneal lavage．カレントセラピー 1999；17(4)：685-690．
- 10) 小池 薫，山本保博：MOFの現状と治療の将来．ICUとCCU 1999；23：165-171．
- 11) 小池 薫，山本保博：腹部臓器虚血と遠隔臓器障害：(特集：腹部臓器の虚血)：病態の基礎と臨床．日外会誌 1999；100：357-360．
- 12) 大友康裕：外傷患者フィールドトリアージの標準化．治療 1999；81：2782-2790．
- 13) 川井 真：救急整形外傷マニュアル：編集にあたって．救急医 2000；24(3)：249．
- 14) 大泉 旭，川井 真，山本保博：救急整形外傷マニュアル：脛骨遠位部骨折．救急医 2000；24(3)：359-361．
- 15) 大泉 旭，川井 真，山本保博：救急整形外傷マニュアル：足関節骨折．救急医 2000；24(3)：363-365．
- 16) 野崎正太郎，川井 真，山本保博：救急整形外傷マニュアル：手部骨折．救急医 2000；24(3)：324-328．
- 17) 川井 真：嫌気性感染症．Emergency Bible-救急診療のすべて- 2000；94-95．
- 18) 久志本成樹，佐藤格夫：PIC，D-dimer．救急医 2000；24(4)：419-420．

## 著 書

- 1) 山本保博：〔分担〕1呼吸管理．新版エマージェンシー(藤井千穂編)，1999；pp88-95，メヂカ出版．
- 2) 牧野俊郎，黒川 顕，小池 薫，吉田竜介，大友康裕，富岡譲二：〔分担〕第15回救急救命士国家試験問題解答解説集．第15回救急救命士国家試験問題解答解説集(山本保博監修)，1999；pp15-27，へるす出版．
- 3) 大友康裕：〔分担〕第15回救急救命士国家試験問題解答解説集．第15回救急救命士国家試験問題解答解説集

- 山本保博監修，1999；pp58-90，へるす出版。
- 4) 大友康裕：〔分担〕第16回救急救命士国家試験問題解答解説集．第16回救急救命士国家試験問題解答解説集 山本保博監修，1999；pp61-96，へるす出版。
  - 5) 山本保博：〔監修〕第15回救急救命士国家試験問題解答・解説集（山本保博監修），1999；へるす出版。
  - 6) 牧野俊郎，黒川 顕，小池 薫，吉田竜介，大友康裕，富岡譲二：〔分担〕第16回救急救命士国家試験問題解答解説集．第16回救急救命士国家試験問題解答解説集（山本保博監修），1999；pp15-27，へるす出版。
  - 7) 山本保博：〔監修〕第16回救急救命士国家試験問題解答解説集（山本保博監修）．第16回日本救急救命士国家試験問題解答解説集，1999；へるす出版。
  - 8) 吉田竜介：〔分担〕脱水症；急患への対応．今月の治療（編集上嶋権兵衛）第7巻 臨時増刊号，1999；pp126-128，総合医学社。
  - 9) 山本保博：〔編集〕厚生科学研究合同班円卓会議 International Roundtable Discussion on Disaster Medical Management and International Contribution，1999。
  - 10) 山本保博：〔分担〕I わが国の救急医療体制．新女性医学体系8 産婦人科救急（武谷雄二総編集），1999；pp3-7，中山書店。
  - 11) 山本保博，牧野俊郎：〔分担〕外傷患者とショック．知っておきたいショックの新たな診療（小川 龍編集），1999；pp29-42，真興交易医書出版部。
  - 12) 野手洋治：〔翻訳〕第53章．ガイトン臨床生理学（早川弘一監訳），1999；pp681-687，医学書院。
  - 13) 小井土雄一，黒川 顕：〔分担〕その他の急性腹症．急性腹症ハンドブック（山崎洋次編集），1999；pp226-244，南江堂。
  - 14) 二宮宣文，山本保博，登坂直規：〔監修〕救命処置．救命処置，2000；東京法令出版。
  - 15) 二宮宣文：〔分担〕開胸心マッサージ．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎編），2000；pp53-54，医学書院。
  - 16) 大友康裕：〔分担〕観血的血圧測定法．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎編），2000；pp62-63，医学書院。
  - 17) 山本保博：〔分担〕急性中毒治療の原則．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎総編集），2000；pp122-122，医学書院。
  - 18) 山本保博，山下 衛，鶴飼 卓：〔分担〕急性中毒．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎総編集），2000；pp1021-1037，医学書院。
  - 19) 山本保博：〔編集〕今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎編），2000；医学書院。
  - 20) 二宮宣文：〔分担〕災害医療総論．国際災害看護マニュアル（山本保博，三浦 規監修），2000；pp21-31，真興交易医書出版部。
  - 21) 二宮宣文：〔分担〕災害外科．国際災害看護マニュアル（山本保博，三浦 規監修），2000；pp48-57，真興交易医書出版部。
  - 22) 山本保博，角田隆文<sup>1)</sup>，尾家重治<sup>2)</sup>：〔分担〕感染症患者の搬送ガイドライン．感染症患者の搬送ガイドライン（厚生省保健医療局結核感染症課監修小林寛伊編集），2000；pp65-86，へるす出版。
  - 23) 山本保博：〔監修〕国際災害看護マニュアル．国際災害看護マニュアル（山本保博，三浦 規監修），2000；真興交易医書出版部。
  - 24) 二宮宣文：〔分担〕胸腔穿刺・胸腔ドレナージ．救急看護の手技&ケア，2000；pp181-184，メディカ出版。
  - 25) 大友康裕：〔分担〕腹腔・ダグラス窩穿刺．救急看護の手技&ケア（鶴飼 卓編），2000；pp185-189，メディカ出版。

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 吉田竜介：米国プレホスピタルケアにおけるメディカルコントロールについて．第9回日本救急医学会北陸地方会，1999．6．

### (2) 招待講演：

- 1) Ninomiya N：The medical system for disaster in Japan．LXI Congreso Medico Nacional-Regional ( San Jose Costa Rica ), 1999．12．
- 2) Kawai M, Ninomiya N, Yamamoto Y：The treatment of extensively burned patients in japan．LXI Congreso Medico Nacional-Regional ( San Jose Costa Rica ), 1999．12．
- 3) Yamamoto Y：El Sistema de Emergencias Medicas en Japon．LXI Congreso Medico Nacional-Regional ( San Jose Costa Rica ), 1999．12．
- 4) Yamamoto Y：The Role of the Designated Disaster Hospital During Major Disaster in Japan．8th International Conference on Emergency Medicine ( Boston, Massachusetts, USA ), 2000．5．
- 5) 山本保博：救急医療におけるプレホスピタルケア．第23回北海道救急医学会総会学術集会，1999．10．

### (3) 教育講演：

- 1) 山本保博：救急医療における医療ガス．第3回日本医療ガス学会総会，1999．9．

### (4) シンポジウム：

- 1) 本間正人，大友康裕，原口義座，辺見 弘：東京多摩地区におけるヘリコプター搬送の現状と今後の課題．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．
- 2) 久志本成樹，柴田泰史<sup>1)</sup>，大橋一善，佐藤秀貴，石野真輔，野手洋治，須崎紳一郎，山本保博：頭部外傷急性期における線溶動態とその役割．第13回日本外傷学会，1999．5．
- 3) 小池 薫，望月 徹，大木更一郎，勝見 敦，久志本成樹，木村昭夫，小井土雄一，川井 真，山本保博：当院の重症熱傷における多臓器障害の管理．第25回日本熱傷学会総会，1999．5．
- 4) 本間正人，井上潤一，大友康裕，原口義座，辺見 弘，横田裕行，黒川 顕，山本保博：頭部外傷とpriorityの決定．第13回日本外傷学会，1999．5．
- 5) 山本保博：ICE列車事故における救助救急活動．第2回全国消防救助シンポジウム，1999．10．
- 6) 二宮宣文，山本保博，青木政幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ワールドアクセスKK)：緊急国際患者搬送における医療調整の重要性．第6回日本エアレスキュー研究会，1999．11．
- 7) 川井 真，久志本成樹，大木更一郎，山本保博：広範囲熱傷における人工真皮の有用性．第8回日本熱傷学会関東地方会，2000．1．
- 8) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，荒井他嘉司，友保洋三，原口義座：シンポジウム；大地震発生！各機関の初期対応は？：南関東大地震における災害医療をモデルとして：基幹災害拠点病院としての役割．第5回日本集団災害医学会，2000．2．

### (5) パネルディスカッション：

- 1) 大友康裕，本間正人，井上潤一，辺見 弘：腓損傷に対する脾温存腓体尾部切除術の検討．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．
- 2) 吉田竜介，小井土雄一，二宮宣文，須崎紳一郎，山本保博：救急救命士養成課程からみた救急救命士生涯教育への提言．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．
- 3) 小井土雄一，新井正徳，大友康裕，木村昭夫，犬塚 祥，高橋 聡，益子邦洋，黒川 顕，山本保博：救急医に求められるもの：真の救急医を如何に育てるのか．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．
- 4) 大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，辺見 弘：パネルディスカッション：外傷診療の新たな戦略：外傷患者の救命率を向上させるには：外傷センター整備の意義．第27回日本救急医学会総会，1999．11．

- 5) 吉田竜介, 寺田泰蔵, 前川和彦, 山本保博: Pre-Hospital Careにおける Medical Control : 殊にQuality Assuranceに関して. 第27回日本救急医学会総会, 1999 . 11 .
  - 6) 川井 真, 小井土雄一, 二宮宣文, 野口裕幸, 山本保博: 救命センターにおけるY2K対策. 第27回日本救急医学会総会, 1999 . 11 .
  - 7) 新井正徳, 増野智彦, 登坂直規, 久志本成樹, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博: 腹部外傷におけるAbdominal Compartment Syndrome ( ACS ) の治療戦略. 第27回日本救急医学会総会, 1999 . 11 .
  - 8) 徳永尊彦, 井上潤一, 本間正人, 大友康裕, 原口義座, 友保洋三, 辺見 弘, 荒井他嘉司: 緊急報告; 茨城県東海村臨界事故災害: 国立病院東京災害医療センターの災害派遣医療活動. 第5回日本集団災害医学会, 2000 . 2 .
- (6) ランチョンセミナー:
- 1) 小池 薫: 小腸虚血・再灌流誘発肺障害モデル: 肺機能障害におけるホスホリパーゼA2の役割. 第13回日本ショック学会総会, 1999 . 5 .
- (7) ワークショップ:
- 1) Ninomiya N : Training Medical Personnel for Disaster Medicine . The Third U. S. -Japan Workshop International Cooperation in medical Disaster Relief , 2000 . 2 .
  - 2) 増野智彦, 小池 薫, 佐藤格夫, 望月 徹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野口裕幸, 久志本茂樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博, 勝又聖夫<sup>2)</sup>, 南 正康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査室, <sup>2)</sup>衛生学・公衆衛生学): 多臓器障害患者における血清セレン濃度の測定. 第27回日本集中治療学会総会, 2000 . 3 .
- (8) 一般講演:
- 1) Kondo H , Fumie T , Katuhiko S , Koido Y , Ninomiya N , Yamamoto Y : The Action of the Japan Disaster Relief Team for Nicaragua in Hurricane Mitch . 11th Congress Of World Association For Disaster And Emergency Medicine ( Osaka Japan ) , 1999 . 5 .
  - 2) Tamaki T , Node Y<sup>1)</sup> , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): Changes of arterial ketone body ratio ( AKBR ) in patients with intracerebral hemorrhage . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Cheju Island ( Korea ) , 1999 . 5 .
  - 3) Ninomiya N , Kaneda M<sup>1)</sup> , Uehara N<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>1)</sup> , Kunii O<sup>1)</sup> , Yamazaki T<sup>1)</sup> , Ohara M<sup>1)</sup> , Nishizawa K<sup>1)</sup> , Yasuhiro Y ( <sup>1)</sup>Japan Association for International Disaster ): Humanitarian Relief Experts ( HUREX ) in Japan . 11th Congress Of World Association For Disaster And Emergency Medicine, Osaka Japan , 1999 . 5 .
  - 4) Oyama K<sup>1)</sup> , Node Y , Shimizu K<sup>1)</sup> , Kitamura T<sup>1)</sup> , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): A case of deep sinus thrombosis accompanied with polycythemia vera . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Cheju Island Korea ) , 1999 . 5 .
  - 5) Node Y , Sato H , Ohashi K , Ishino S , Miyauchi M , Yamamoto Y , Yoshida D<sup>1)</sup> , Shimura T<sup>1)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> , Murai Y , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): A case of dissecting aneurysm of the middle cerebral artery . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Cheju Island Korea ) , 1999 . 5 .
  - 6) Node Y , Sato H , Ohashi K , Yamamoto Y , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): Surgical treatment of cerebral aneurysms in elderly patients . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Cheju Island Korea ) , 1999 . 5 .
  - 7) Node Y , Tahara S<sup>1)</sup> , Terada A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): Postoperative Three-Dimensional CT angiography ( 3D-CTA ) in evaluation of proximal clipping for ruptured vertebral artery aneurysms . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Cheju Island Korea ) , 1999 . 5 .
  - 8) Node Y , Tahara S<sup>1)</sup> , Terada A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): The use of hydroxyapatite ceramics in the reconstruc-

- tion of surgical skull defects following a frontotemporal approach . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Cheju Island Korea , 1999 . 5 .
- 9) Node Y , Sato H , Ohashi K , Yamamoto Y , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): Treatment of cerebral aneurysms in elderly patients . The 5th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke ( Cheju Island Korea ), 1999 . 5 .
  - 10) Koido Y , Asari Y , Nakamura K , Yamamoto M , Konno T , Otsuka M , Kanazawa Y , Arai T , Nishimura M , Akiyama J : Our Experience of Treating Victims Following the Tidal Wave in Papua New Guide . 11th Congress Of World Association For Disaster And Emergency Medicine ( Osaka Japan ), 1999 . 5 .
  - 11) Kondo H , Takagi F , Sugimoto K , Koido Y , Ninomiya N , Yamamoto Y : The Action of the Japan Disaster Relief Team for Nicaragua in Hurricane Mitch . 11th Congress Of World Association For Disaster And Emergency Medicine ( Osaka Japan ), 1999 . 5 .
  - 12) Oki K , Ishimaru S<sup>1)</sup> , Hirai T<sup>1)</sup> , Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科): Scanning Electron Microscopic Observation of New Capillary Growing Process from Cryopreserved Allogenic Vasclar Bundles . 12th Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery , 1999 . 6 .
  - 13) Yamamoto Y , Koido Y : Preventive Procedures for Patient with Immunodeficiency against Infections in ICU . MUKTAMAR AHLI BEDAH INDONESIA ( MABI ) -XIII ( Jakarta ), 1999 . 7 .
  - 14) Koike K , Yamamoto Y , Hori Y , Ono T : Intestinal Ischemia and Reperfusion : Induced Lung Injury Is Mediated By Type II Phospholipase A2 . 38th World Congress of Surgery, International surgical week 99 ( Vienna Austria ), 1999 . 8 .
  - 15) Node Y , Yamamoto Y , Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): The study of elderly patients with meningiomas . 11th European Congress of Neurosurgery ( Copenhagen Denmark ), 1999 . 9 .
  - 16) Kushimoto S , Shibata Y , Koike K , Yamamoto Y : Excessive fibrinolysis in patients with severe head injury -Role of 2-plasmin inhibitor and factor XIII- . Society of Critical Care Medicine, 28th Educational and Scientific Symposium ( Orland Florida USA ), 2000 . 2 .
  - 17) Yoshida R : Serum Interleukin-18 Measurement in Burn Patients . 32nd Annual Meeting of American Burn Association Las Vegas ( Nevada USA ), 2000 . 3 .
  - 18) 大木更一郎 , 山本保博 , 村上正洋 , 平井 隆<sup>1)</sup> , 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科): 高度救命救急センターにおける形成外科の役割 . 第42回日本形成外科学会総会 , 1999 . 4 .
  - 19) 本間正人 , 大友康裕 , 原口義座 , 辺見 弘 : 頭部外傷は凝固線溶異常を起こしやすいか ? : Tissue Factor ( TF ) , Tissue Factor Pathway Inhibitor ( TFPI ) の検討から . 第2回日本臨床救急医学会総会 , 1999 . 4 .
  - 20) 大友康裕 , 本間正人 , 井上潤一 , 辺見 弘 , 益子邦洋 : PCPS ( 経皮的心肺補助装置 ) 補助下に修復を行った胸大動脈損傷の1例 . 第2回日本臨床救急医学会総会 , 1999 . 4 .
  - 21) 小池 薫 , 山本保博 , Peterson V. M , Emmett M : 熱傷後のIL-6治療が急性反応タンパク産生に及ぼす影響 . 第25回日本熱傷学会総会 , 1999 . 5 .
  - 22) 小川理郎 , 犬塚 祥 , 小林辰輔 , 工廣紀斗司 , 原 義明 , 中村 敏 , 嶋村文彦 , 丸山正明 , 益子邦洋 , 小池 薫 , 大友康裕 , 横田裕行 , 山本保博 : 当施設における throughbreeds trauma の検討 . 第13回日本外傷学会 , 1999 . 5 .
  - 23) 小池 薫 , 望月 徹 , 久志本成樹 , 柴田泰史<sup>1)</sup> , 小井土雄一 , 川井 真 , 須崎紳一郎 , 山本保博 (<sup>1)</sup> 付属病院中央検査室): 尿中アルブミン・クレアチニン比と肺機能 : 外科的症例における予備的検討 . 第13回日本外傷学会 , 1999 . 5 .
  - 24) 松浦有里子 , 小池 薫 , 辻井厚子 , 久志本成樹 , 橋本晴夫 , 山本保博 : 外傷後の多臓器不全発生メカニズムの解明をめざしたマウス小腸虚血・再灌流モデル . 第13回日本外傷学会 , 1999 . 5 .

- 25) 大友康裕, 辺見 弘, 本間正人, 井上潤一, 横田裕行, 山本保博: IIIb型肝損傷TAE後の継時的腹腔内貯溜血採取の意義: 胆汁性腹膜炎の早期発見およびその手術適応決定に関して. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 26) 小川理郎, 犬塚 祥, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 丸山正明, 益子邦洋, 小池 薫, 大友康裕, 横田裕行, 山本保博: 当院におけるthoroughbreds traumaの検討. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 27) 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘, 石丸 新: 高度肺挫傷を伴う外傷性胸部下行大動脈損傷に対してステントグラフト内挿術を施行した2例. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 28) 加藤 宏, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 野崎正太郎, 辺見 弘, 山本保博, 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 松浦有里子: 診断が遅れた頸椎損傷の検討. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 29) 大木更一郎, 勝見 敦, 川井 真, 百束比古<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>形成外科): 比較的広範囲な熱傷創に対するシート状植皮による整容的治療の試み. 第25回日本熱傷学会総会, 1999. 5.
- 30) 松園幸雅, 松田 潔, 小山 敦, 長谷川栄寿, 山本修三, 高相和彦: 重傷犬咬傷の3例. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 31) 佐藤秀貴, 野手洋治, 横田裕行, 黒川 顕, 中林基明, 大橋一善, 須崎紳一郎, 山本保博: 高度救命救急センターにおける重症頭部外傷の治療. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 32) 川井 真, 勝見 敦, 大木更一郎, 辺見 弘, 山本保博: 高齢者熱傷における網状自家植皮+人工真皮の有用性. 第25回日本熱傷学会総会, 1999. 6.
- 33) 野崎正太郎, 川井 真, 大泉 旭, 加藤 宏, 原 義明, 山本保博: 大腿骨複合骨折の治療の検討. 第25回日本骨折治療学会, 1999. 7.
- 34) 大泉 旭, 川井 真, 加藤 宏, 原 義明, 野崎正太郎, 山本保博: 偽関節に対する超音波治療器の使用経験. 第25回日本骨折治療学会, 1999. 7.
- 35) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 恵志正輝, 岩瀬龍之, 前田容子, 久志本成樹, 小井土雄一, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 国際空港における重症例および死亡例の検討. 第45回日本宇宙航空環境医学会, 1999. 9.
- 36) 松浦有里子, 小池 薫, 辻井厚子, 久志本成樹, 橋本晴夫, 山本保博: 外傷後の多臓器不全発生メカニズムの解明をめざしたマウス小腸虚血・再灌流モデル. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 37) 小池 薫, 望月 徹, 久志本成樹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 小井土雄一, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: 尿中アルブミン・クレアチニン比と肺機能: 外科的症例における予備的検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 38) 登坂直規, 小池 薫, 望月 徹, 木村昭夫, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 重症熱傷患者に対する予防的ST合剤投与が多臓器障害に及ぼす影響. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 39) 増野智彦, 小池 薫, 望月 徹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 外科的症例における血清Selenium濃度の測定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 40) 望月 徹, 小池 薫, 山本保博, 井上松久: 当救命救急センターにおけるヘテロVRSAの検出状況とバンコマイシン, テイコプラニンに対する感受性. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 41) 大木更一郎, 平井 隆<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科): Cryopreservationによる同種血管移植法: 第5報 同種血管束による瘻孔閉鎖の可能性. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 42) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): 破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血に対しての脳室ドレナージの臨床的研究. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 43) 本間正人, 辺見 弘, 脇本浩明<sup>1)</sup>, 正岡博幸<sup>1)</sup>, 高里良男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): 頭部外傷を有する多発外傷患者のpriorityの決定. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 44) 二宮宣文, 小井土雄一, 山本保博, 緒方容子<sup>1)</sup>, 辻 光一<sup>1)</sup>, 岡部博光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>テルモ): 救命救急領域におけるプレフィルドシリンジの意義について: 安全性・迅速性の観点から. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.
- 45) 久志本成樹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 大橋一善, 佐藤秀貴, 中林基明, 野手洋治, 山本保博(<sup>1)</sup>付属病院中央検査室): 頭



- 部外傷急性期における線溶動態： 2-plasmin inhibitor と XIII 因子からの解析．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 46) 小坂橋敏美，草野正孝，徳永尊彦，本間正人，大友康裕，原口義座，辺見 弘：多摩地区におけるヘリコプター搬送の現況と有効範囲について．第6回日本エアースキュー研究会，1999．11．
- 47) 本間正人，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，徳永尊彦，大友康裕，原口義座，辺見 弘：東京奥多摩地区における救急ヘリコプター搬送の評価：搬送患者の心理的・精神的な視点からの検討．第6回日本エアースキュー研究会，1999．11．
- 48) 本間正人，井上潤一，加藤 宏，大友康裕，原口義座，辺見 弘：東京奥多摩地区における救急ヘリコプター搬送の評価．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 49) 小井土雄一，山本保博，黒川 顕，高柳和江，大友康裕，犬塚 祥，松田 潔，高橋 聡，平間久雄：救急医療現場におけるEBM．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 50) 井上潤一，本間正人，加藤 宏，徳永尊彦，大友康裕，原口義座，辺見 弘，荒井他嘉司：当センターにおけるヘリコプター搬送患者の収容状況について．第75回多摩医学会，1999．11．
- 51) 大木更一郎，山本保博，村上正洋<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>2)</sup>，河原理子<sup>3)</sup>，三橋 清<sup>3)</sup>，青木 律<sup>3)</sup>，百束比古<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第1病院形成外科，<sup>2)</sup>放射線科，<sup>3)</sup>形成外科)：Target 3DCTによる顎関節突起部骨折の評価：第3報：術後骨折部形態の長期観察．第17回日本頭蓋顎顔面外科学会，1999．11．
- 52) 佐藤秀貴：重症頭部外傷に対する低体温療法の適応と限界．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 53) 牧野俊郎，浅野悦洋，恵志正輝，岩瀬龍之，前田容子，久志本成樹，小井土雄一，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：国際空港における重症例および死亡例の検討．日本医科大学医学会第99回例会，1999．11．
- 54) 望月 徹，小池 薫，山本保博，井上松久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北理大学微生物学)：当救命センターにおけるヘテロVRS Aの検出状況とバンコマイシン，テイコプラニンに対する感受性．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 55) 小池 薫，望月 徹，柴田泰史<sup>1)</sup>，野口裕幸，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，山本保博：尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害：外科的症例における予備的検討．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 56) 東 和明，小池 薫，小林辰輔，望月 徹，柴田泰史<sup>1)</sup>，久志本成樹，犬塚 祥，小井土雄一，川井 真，益子邦洋，山本保博：集中治療患者におけるスーパー抗原の測定．第27回日本救急医学会総会，1999．11．
- 57) 久志本成樹：頭部外傷急性期における線溶動態\_ 2-plasmin inhibitor と XIII 因子からの解析．第22回日本血栓止血学会学術集会，1999．12．
- 58) 増野智彦，久志本成樹，小池 薫，山本保博：単球HLA-DRのモニター下にインターフェロナー 療法を施行した難治性肺炎の1例．第12回日本外科感染症研究会，1999．12．
- 59) 小池 薫，久志本茂樹，勝見 敦，増野智彦，益子邦洋，黒川 顕，山本保博：septic shockに対するPMXカラムの有効性の検討：多施設臨床研究プロトコル．第4回エンドトキシン血症治療研究会，2000．1．
- 60) 松園幸雅，高山泰広，小池 薫，久志本茂樹，小井土雄一，川井 真，山本保博：6倍網状自家移植と人工真皮(テルダーミス)被覆により救命しえた85%広範囲熱傷の1例．第8回日本熱傷学会関東地方会，2000．1．
- 61) 大森見布江，大木更一郎，登坂直規，原田尚重，小井土雄一，小池 薫，山本保博：PCPSが有効であったnear drowningの1救命例．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．
- 62) 柴田泰史<sup>1)</sup>，野本剛史<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，小池 薫，久志本茂樹，山本保博(<sup>1)</sup>付属病院中央検査室)：集中治療患者におけるLipopolysaccharide Binding Proteinの検討．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．
- 63) 霧生信明，大友康裕，本間正人，徳永尊彦，柿沼敏行，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，石川誠彦，原口義座，辺見 弘：最近経験した十二指腸静脈瘤破裂の3例．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．
- 64) 井上文子，大友康裕，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，石川誠彦，柿沼敏行，原口義座，辺見 弘：初発症状出現時に3次救急対応となった急性白血病の2例．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．

- 65) 松岡輝昌, 大友康裕, 本間正人, 徳永尊彦, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 石川誠彦, 柿沼敏行, 原口義座, 辺見 弘: 秋季駅伝大会で多発した熱中症について. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 66) 石川誠彦, 大友康裕, 本間正人, 徳永尊彦, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 柿沼敏行, 原口義座, 辺見 弘: 飼育用エイ(ポルガドット・スティングレー)刺傷の1例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 67) 箱田 滋, 大友康裕, 瀬尾憲正, 中田敬司, 木野毅彦, 野沢美香, 谷 暢子, 鈴木秀明, 田村豊光, 今野孝雄, 玉井京子, 西澤健司, 青木利道, 関口美紀: コロンビア共和国震災に対する国際緊急援助隊医療チームの活動報告. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 68) 井上潤一, 辺見 弘, 大友康裕, 本間正人, 徳永尊彦, 加藤 宏, 松島俊介, 友保洋三, 荒井他嘉司: 災害訓練の新しい試み. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 69) 渡辺加寿雄, 鈴木康太, 益山恒夫, 檜垣昌夫, 大友康裕, 友保洋三, 辺見 弘, 荒井他嘉司: 当院における災害時急性血液浄化法の体制. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 70) 堀内義仁, 大友康裕, 広瀬脩二, 伊坂正明, 藤本幸宏, 友保洋三, 辺見 弘, 荒井他嘉司: LDRPSによる災害対応マニュアル管理について. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 71) 川井 真, 小井土雄一, 二宮宣文, 野口裕幸, 山本保博: Y2K医療対策をふりかえって. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 72) 小井土雄一, 二宮宣文, 近藤久禎, 島田 靖, 山本保博: 救命救急用プレフィルドシリンジの災害医療現場における有用性についての検討: アンケート結果から. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 73) 森村尚登, 勝見 敦, 橘田要一, 森脇義弘, 内田敬二, 安瀬正紀, 小井土雄一, 山本保博, 杉山 貢: 2002年日韓共催サッカーワールドカップにおける集団災害医療体制確立の提案. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 74) 小井土雄一, 近藤久禎, 多田章美, 宮崎朋子, 嶋田英子, 毛塚良江, 山岸 勉, 中田敬司, 三浦喜美男, 伏見勝利, 藤谷浩至: 台湾地震災害における医療活動報告: 国際緊急援助隊医療チームにおけるサイト選定について. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 75) 近藤久禎, 小井土雄一, 二宮宣文, 山本保博: 台湾地震災害救援における診察患者の疾病構造について. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 76) 中田敬司, 近藤久禎, 小井土雄一: 台湾地震災害救援における医療ニーズ・生活調査について. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 77) 島田 靖, 近藤久禎, 犬塚 祥, 益子邦洋, 小井土雄一, 二宮宣文, 山本保博: 病院における災害訓練の評価. 第5回日本集団災害医学会, 2000. 2.
- 78) 野崎正太郎, 川井 真, 大泉 旭, 加藤 宏, 原 義明: 下腿骨Gustilo IV開放骨折の治療経験および問題点. 救急整形外傷シンポジウム, 2000. 2.
- 79) 佐藤秀貴, 荒木 尚, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 先天性胆道閉鎖に合併したUit K欠乏による頭蓋内出血. 脳神経学科救急研究会, 2000. 2.
- 80) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup>薬理学): Lipopolysaccharideのモルモット腸管の収縮抑制機序. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 81) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup>薬理学): モルモット腸管の収縮反応に及ぼすlipopolysaccharideの抑制作用. 第73回日本薬理学会年会プログラム, 2000. 3.
- 82) 久志本成樹, 小池 薫, 新井正徳, 山本保博: 肝虚血再灌流障害における微小血栓の役割. 第99回日本外科学会総会, 2000. 3.
- 83) 小池 薫, 佐藤格夫, 増野智彦, 望月 徹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野口裕幸, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 多臓器障害患者における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害. 第27回日本集中治療学会総会, 2000. 3.

- 84) 東 和明, 小池 薫, 小林辰輔, 望月 徹, 柴田泰史, 久志本茂樹, 犬塚 祥, 小井土雄一, 川井 真, 益子邦洋, 山本保博: 熱傷患者におけるスーパー抗原の測定. 第27回日本集中治療学会総会, 2000. 3.
- 85) 小池 薫, 山本保博: 小腸虚血・再灌流が誘発する遠隔臓器障害とホスホリパーゼA2診療と研究のトピックス. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.

## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Teramoto S, Takayanagi K, Yokota H, Yamamoto T: The psychological and physiological effect of an intensive-care unit environment on healthy individuals. *Clinical Performance Quality Healty Care* 1999; 7 (2): 77-82.
- 2) Taniguti T<sup>1)</sup>, Koido Y<sup>1)</sup>, Aiboshi J<sup>1)</sup>, Yamashita T, Suzaki S<sup>1)</sup>, Kurokawa A ( <sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): The ratio of interieukin-6 to interieukin-10 correlates with severity in patients with chest and abdominal trauma. *American Journal of Emergency Medicine* 1999; 17: 548-551.
- 3) Hirata K<sup>1)</sup>, Matsumoto Y<sup>2)</sup>, Matsumoto M<sup>3)</sup>, Murata M<sup>1)</sup>, Kurokawa A ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院薬剤科, <sup>2)</sup> 昭和薬科大学薬物動態学, <sup>3)</sup> 同薬剤科): Analysis of acute benzodiazepine poisoning cases in critical care departments and police agencies in Japan during 1996. *日救急医誌* 1999; 10: 657-666.
- 4) 有賀 徹<sup>1)</sup>, 上田守三<sup>2)</sup>, 大和田隆<sup>3)</sup>, 神野哲夫<sup>4)</sup>, 島崎修次<sup>5)</sup>, 杉本 壽<sup>6)</sup>, 前川和彦<sup>7)</sup>, 丸川征四郎<sup>8)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 昭和大学救急医学教室, <sup>2)</sup> 東邦大学大橋病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 北里大学救命救急医学教室, <sup>4)</sup> 藤田保健衛生大学脳神経外科, <sup>5)</sup> 杏林大学救急医学教室, <sup>6)</sup> 大阪大学救急医学教室, <sup>7)</sup> 東京大学救急医学教室, <sup>8)</sup> 兵庫医科大学救急災害医学教室): 平成11年2月28日に行われた高知赤十字病院における脳死下臓器提供者に関する日本救急医学会による医学的立場からの検証. *日救急医誌* 1999; 10: 314-316.
- 5) 山下照代, 加地正人, 高橋 聡, 中林基明, 鈴木崇生, 中野渡雄一, 辻井厚子, 富岡譲二, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 骨盤骨折に合併したabdominal compartment syndromeを合併した1症例. *Therapeutic Research* 1999; 10: 3087-3094.
- 6) 横田裕行, 加地正人, 辻井厚子, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕, 久保田稔, 杉原秀人, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): ヒト心房性利尿ホルモン (hANP) の動態からみたエンドトキシン吸着カラム (PMX) の効果. *エンドトキシン血症治療研究会誌* 1999; 3: 79-84.
- 7) 平田清貴<sup>1)</sup>, 黒川 顕, 松本宣明<sup>2)</sup>, 福岡正道<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>3)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院薬剤科, <sup>2)</sup> 昭和薬科大学薬物動態学, <sup>3)</sup> 同薬剤科): Mupiron鼻腔用軟膏の三次救急医療施設におけるMRSA感染症発症防止効果の検討. *病院薬学* 1999; 25: 627-633.
- 8) 箕輪良行<sup>1)</sup>, 林 寛之<sup>2)</sup>, 今 明秀<sup>3)</sup>, 本松 茂<sup>4)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 船橋市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 福井県立病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>4)</sup> 救急救命士東京研修所): プラマリケア外傷初期治療 (Primary care Traume life support PTLS) コースの開発. *日本外傷学会雑誌* 2000; 14: 6-14.
- 9) 黒川 顕, 富岡譲二: 四環系抗うつ剤中毒の1臨床例. *Pharma Medica* 2000; 18: 139-141.

##### (2) 研究報告書:

- 1) 横田裕行: 法的脳死判定マニュアル. 平成11年度厚生科学特別研究事業 1999.
- 2) 横田裕行: 臓器移植の社会資源整備に向けての研究 臓器提供施設マニュアル. 平成11年度厚生科学研究補助金感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業 1999.

3) 吉岡敏治<sup>1)</sup>, 白川洋一<sup>2)</sup>, 黒川 顕, 嶋津岳士<sup>3)</sup>, 安部嘉子<sup>4)</sup>, 後藤京子<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>大阪府立病院救急診療科, <sup>2)</sup>愛媛大学医学部救急医学教室, <sup>3)</sup>大阪大学医学部救急医学教室, <sup>4)</sup>大阪府立病院救急医学教室, <sup>5)</sup>日本中毒情報センター大阪中毒110番施設): 中毒情報の自動収集, 自動帝京システムの構築とそのパイロットスタディ. 平成11年度厚生科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)研究報告書 2000; pp23-32.

1) 北川定謙<sup>1)</sup>, 大島伸一<sup>2)</sup>, 寺岡 慧<sup>3)</sup>, 柏原英彦<sup>4)</sup>, 雨宮 浩<sup>5)</sup>, 太田和夫<sup>6)</sup>, 小柳 仁<sup>7)</sup>, 真鍋禮三<sup>8)</sup>, 北村惣一郎<sup>9)</sup>, 町野 朔<sup>10)</sup>, 篠崎尚史<sup>11)</sup>, 長谷川友紀<sup>12)</sup>, 平賀聖悟<sup>13)</sup>, 桶之津史郎<sup>14)</sup>, 矢永勝彦<sup>15)</sup>, 中谷武嗣<sup>16)</sup>, 高本真一<sup>17)</sup>, 田中秀治<sup>18)</sup>, 丸山英二<sup>19)</sup>, 藤原研司<sup>20)</sup>, 金澤康德<sup>21)</sup>, 白倉良太<sup>22)</sup>, 島崎修次<sup>23)</sup>, 横田裕行<sup>24)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立大学, <sup>2)</sup>名古屋大学医学部泌尿器科, <sup>3)</sup>東京女子医科大学第3外科, <sup>4)</sup>国立佐倉病院, <sup>5)</sup>国立小児病院小児医療研究センター, <sup>6)</sup>太田医学研究所, <sup>7)</sup>東京女子医科大学循環器外科, <sup>8)</sup>財団法人日本眼球銀行協会, <sup>9)</sup>国立循環器病センター, <sup>10)</sup>上智大学法学部, <sup>11)</sup>東京歯科大学市川総合病院角膜センター, <sup>12)</sup>東邦大学医学部公衆衛生学, <sup>13)</sup>社会保険三島病院, <sup>14)</sup>東京大学医学部健康科学, <sup>15)</sup>九州大学医学部第2外科, <sup>16)</sup>国立循環器病センター研究所実験治療開発部, <sup>17)</sup>東京大学医学部心臓血管外科, <sup>18)</sup>杏林大学医学部高度救急救命センター, <sup>19)</sup>神戸大学法学部, <sup>20)</sup>埼玉医科大学第3内科, <sup>21)</sup>埼玉医科大学第3内科, <sup>22)</sup>大阪医科大学医学部附属バイオメデカル教育研究センター, <sup>23)</sup>杏林大学医学部高度救急救命センター, <sup>24)</sup>日本医科大学多摩永山病院救急救命センター): 臓器移植の社会資源整備に向けての研究. 平成11年度厚生科学研究費補助金感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業 北川班総合研究報告会 2000.

[ 1998 年度追加分 ]

綜説:

1) Yokota H, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Otsuka T, Aruga T, Manaba K (<sup>1)</sup>Department of public Health, Toho University School of Medicine): Medical activities and staes of preparedness of donor hospitals. . Transplantation Proceedings 1999; 31: 1948-1949.

(3) 総説:

1) Yokota H<sup>1)</sup>, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Otsuka T, Aruga T, Manabe K (<sup>1)</sup>Department of Public Health, Toho University School of Medicine): Medical activities and states of preparedness of donor hospitals. Transplantation Proceedings 1999; 31: 1948-1949.

2) 横田裕行, 畝本恭子, 黒川 顕: 脳酸素モニター. 救急医 1999; 23: 221-226.

3) 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 穿頭, 頭蓋内モニタリング, 脳室ドレナージ. 救急医 1999; 23: 528-533.

4) 横田裕行, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): 低体温療法の現状と問題点. Clinical Neuroscience 1999; 17: 572-575.

5) 横田裕行: 米国におけるパラメディックの教育, 生涯教育について. 救急救命 1999; 2: 8-12.

6) 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 穿頭, 頭蓋内圧モニタリング, 脳室ドレナージ術. 救急医 1999; 23: 528-533.

7) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 脳循環代謝モニターと管理法. 救急医 1999; 23: 651-655.

8) 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行: 蘇生後脳症に対する脳低体温療法の現状. 救急医 1999; 23: 1856-1860.

9) 直江康孝, 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子: 症状からみた高齢者救急のポイント 失神. Geriatric Medicine (老年医学) 1999; 37: 1405-1410.

10) 黒川 顕: 急患への対応: 知っておきたい処置と処方: 尿管結石・疼痛発作. 今月の治療 1999; 7: 195-197.

11) 黒川 顕: 化学物質による健康障害 中毒死に関する統計. 総合臨床 1999; 48: 2488-2492.

12) 黒川 顕: 急性疾患とエマージェンシー 破傷風. 救急医 1999; 23: 1478-1480.

13) 黒川 顕: 皮膚下手出血の診断と手術適応. 救急医 2000; 24: 185-188.

14) 横田裕行: 突然の意識障害をきたした外傷症例. レジデントノート 2000; 1(6): 7-8.

- 15) 横田裕行：救急医療における病診連携（疾患別にみた転送のタイミング）脳血管障害．CURRENT THERAPY 2000；18：43-49．
- 16) 横田裕行，黒川 顕：ICP, CPP 指標の正しい理解と使い方．救急医 2000；24：392-393．
- 17) 横田裕行：脳血管障害 救急医療における病診連携．カレントセラピー 2000；18：395-401．

## 著 書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕基本的な救急処置とケア 胃管・ED管挿入留置．救急看護の手技とケア Medicus Library15（鷓飼卓），1999；pp113-117，メディカ出版．
- 2) 横田裕行：〔共著〕突然の頭痛．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎），1999；pp6-7，医学書院．
- 3) 横田裕行：〔共著〕突然の頭痛．今日の治療指針 ポケット版（多賀須幸男，尾形悦郎），1999；pp6-7，医学書院．
- 4) 横田裕行，畝本恭子，黒川 顕：〔共著〕脳酸素モニター．救急医学 23，1999；pp221-226，へるす出版．
- 5) 横田裕行，富岡譲二，辻井厚子，高橋 聡，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>附属病院高度救命救急センター）：〔分担〕意識障害・痙攣．救急看護30のポイント（高橋章子），1999；pp116-122，メディカ出版．
- 6) 横田裕行，富岡譲二，辻井厚子，高橋 聡，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>附属病院高度救命救急センター）：〔分担〕麻痺．救急看護30のポイント（高橋章子），1999；pp122-123，メディカ出版．
- 7) 横田裕行：〔分担〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル99，1999；pp36-39，メディカルレビュー社．
- 8) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷と脳循環．図説脳神経外科New Approach 脳脊髄外傷，1999；pp38-43，メディカルレビュー社．
- 9) 黒川 顕，牧野俊郎<sup>1)</sup>，小池 薫<sup>2)</sup>，吉田竜介<sup>3)</sup>，富岡譲二，大友康裕<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター，<sup>3)</sup>附属病院高度救命救急センター）：〔分担〕第15回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第15回救急救命士国家試験問題解答・解説集，1999；pp1-14，へるす出版．
- 10) 中村敏弘，横田裕行：〔分担〕蘇生後脳症に対する低体温（脳低温）療法について．ICUとCCU，1999；pp521-527，医学図書出版．
- 11) 黒川 顕，牧野俊郎<sup>1)</sup>，小池 薫<sup>2)</sup>，吉田竜介<sup>3)</sup>，富岡譲二，大友康裕<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター，<sup>3)</sup>附属病院高度救命救急センター）：〔分担〕第16回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第16回救急救命士国家試験問題解答・解説集，1999；pp1-15，へるす出版．
- 12) 黒川 顕：〔分担〕救急診療のプリンシプル 初期対応．新女性医学大系 8産婦人科救急，1999；pp9-17，中山書店．
- 13) 黒川 顕：〔分担〕有機溶剤中毒．今日の治療指針，2000；pp130-131，医学書院．
- 14) 加地正人，横田裕行：〔分担〕輸液薬と中心静脈栄養 選択と適正使用 救命救急における輸液．治療薬 ，2000；pp80-84，日本医学出版．
- 15) 黒川 顕，横田裕行：〔共著〕脳血管障害．標準集中治療医学（天羽敬祐），2000；pp265-268，真興交易医書出版部．
- 16) 横田裕行：〔分担〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル99，2000；pp40-43，メディカルレビュー社．
- 17) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷と脳循環．脳脊髄外傷（高倉公朋，斉藤 勇，佐藤 潔），2000；pp38-43，メディカルレビュー社．

## 学会発表

### (1) セミナー :

- 1) 横田裕行: 平坦脳波記録の意味とアーチファクト対策. 第36回日本脳波・筋電図技術講習会, 1999. 11.

### (2) 一般講演 :

- 1) 高橋 聡, 石之神小織, 牧 真彦, 中野渡雄一, 畝本恭子, 上田康晴, 辻井厚子, 横田裕行, 黒川 顕: 当院救命救急センターにおける自殺企図者の動向. 第2回日本臨床救急医学会, 1999. 4.
- 2) 鈴木克昌, 中村敏弘, 石之神小織, 畝本恭子, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: うっ血性心不全に肺梗塞を合併した1例. 第2回日本臨床救急医学会, 1999. 4.
- 3) 横田裕行, 畝本恭子: 第1頸椎硬膜外血腫, 椎骨動脈解離に脳幹梗塞を合併した1例. 第2回多摩脊椎・脊髄カンファランス, 1999. 5.
- 4) 横田裕行, 黒川 顕, 畝本恭子, 高橋 聡, 加地正人, 直江康孝, 中林基明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 外傷性脳血管障害の急性期診断の問題点. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 5) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕, 中林基明<sup>1)</sup>, 大橋一善<sup>1)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 高度救命救急センターにおける重症頭部外傷の治療. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 6) 直江康孝, 畝本恭子, 中村敏弘, 加地正人, 中野渡雄一, 小笠原智子, 宮田美穂, 早川秀幸, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 保存的治療にて救命し得た胸部銃創の1例. 第24回東京医大・日本医大救命救急カンファレンス, 1999. 6.
- 7) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 本間正人<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 多発外傷のpitfall: 多発外傷を伴う頭部外傷・脳外科医の立場から. 第24回日本外科系連合学会学術集会, 1999. 6.
- 8) 横田裕行: 脳死判定の現状. 第20回関東生理機能技師研究会, 1999. 6.
- 9) 横田裕行: 脳死判定と平坦脳波の意義. 第20回関東神経生理検査技術研修会, 1999. 6.
- 10) 畝本恭子, 宮田美穂, 小笠原智子, 上田康晴, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: くも膜下出血後脳血管攣縮により汎下垂体機能低下症をきたした1例. 第47回日本救急医学会関東地方会, 1999. 6.
- 11) 小笠原智子, 早川秀幸, 宮田美穂, 中野渡雄一, 直江康孝, 加地正人, 中村敏弘, 上田康晴, 猪鹿倉恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 頭部外傷後に体温異常をきたした1例. 第13回日本神経救急研究会, 1999. 7.
- 12) 横田裕行: 頭部脊椎外傷. 杉並区教育委員会救命救急処置研修, 1999. 7.
- 13) 横田裕行: 救急医から望まれるコーディネータ. 平成11年度都道府県コーディネータ研修会, 1999. 7.
- 14) 猪鹿倉恭子, 直江康孝, 小笠原智子, 中林基明<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 脳低温療法持続期間の検討: 長期持続について. 第2回日本脳低温療法研究会, 1999. 7.
- 15) 鶴町好司, 黒川 顕, 畝本恭子, 加地正人, 中野渡雄一, 中村敏弘, 小野寺謙吾, 直江康孝, 横田裕行: 診断に難渋したアメーバ性大腸炎の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 16) 清 一哲, 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 加地正人, 中野渡雄一, 中村敏弘, 直江康孝, 小野寺謙吾: 発症時の脳血管撮影にて描出されなかった脳動脈瘤2症例の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 脳血管内皮障害からみた頭部外傷の病態. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 10.
- 18) 横田裕行, 中野渡雄一, 小笠原智子, 直江康孝, 加地正人, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>, 岩本 勇<sup>2)</sup>, 杉浦啓一<sup>2)</sup>, 小澤秀夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>日本光電株式会社): プレホスピタル対応型パルスオキシメータ・心電図計の試作. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.

- 19) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行, 野手洋治<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 大橋一善<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 重症同部外傷に対する低体温療法の適応と限界. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.
- 20) 直江康孝, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 軽微な外傷により頸髄損傷を来した癒合頸椎の1例. 第3回多摩脊髄脊椎カンファレンス, 1999. 11.
- 21) 鶴町好司, 清 一哲, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 直江康孝, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 骨盤骨折, 出血性ショックのTAE施行後に腎・臀部膿瘍及びMOFを生じた1例. 第24回過大侵襲研究会, 1999. 11.
- 22) 清 一哲, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 発症時の脳血管撮影にて描出されなかった破裂脳動脈瘤の2症例. 第20回多摩脳卒中研究会, 1999. 11.
- 23) 猪鹿倉恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院脳神経外科): 直達手術が困難な重症くも膜下出血に対する血管内治療の効果と問題点. 第58回日本脳神経外科学会総会, 1999. 11.
- 24) 加地正人, 鶴町好司, 弥富俊太郎, 直江康孝, 中野渡雄一, 中村敏弘, 横田裕行, 黒川 顕: 苛性ソーダ服用により広範な食道狭窄を来した1例. 第48回救急関東地方会, 2000. 2.
- 25) 猪鹿倉恭子, 直江康孝, 中林基明, 横田裕行, 黒川 顕: 外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻に外傷性内頸動脈硬膜輪近傍動脈瘤を合併した1例. 第1回多摩神経外傷カンファレンス, 2000. 2.
- 26) 横田裕行, 中野渡雄一, 中村敏弘, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕, 杉浦啓一<sup>1)</sup>, 小澤秀夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本光電): プレホスピタル指向反射型パルスオキシメータの試作と問題点. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 27) 弥富俊太郎, 清 一哲, 中野渡雄一, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: Stevens-Johnson症候群治療中にpneumatosis sytoides intestinalisを合併した1例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 28) 清 一哲, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 直江康孝, 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 初回脳血管撮影にて脳動脈瘤を描出し得なかったくも膜下出血の2症例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 29) 直江康孝, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 加地正人, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 軽微な外傷にて頸椎・頸髄損傷を来したKlippel-Feil症候群の1例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 30) 鶴町好司, 小野寺謙吾, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 治療に難渋したアメーバ性大腸炎の1例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 31) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 杉原秀人<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター): 脳死判定前における聴性脳幹反応検査(ABR)の意義. 第13回日本脳蘇生研究会, 2000. 3.

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された。

その後、平成8年11月に千葉県基幹災害拠点病院に、また平成9年7月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。近年は救急患者のヘリ搬送ネットワークの構築も行い、平成11年4月には救命救急センターに認定され、各種学会において活発な活動を行っている。研究テーマとしては、救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発・新しい心肺脳蘇生法の開発、多発外傷の病態生理、特に臓器相関の解明、重症熱傷や気道熱傷の病態解明、急性中毒の病態生理の解明ならびに敗血症、SIRS、多臓器不全の病態解明、感染制御、救急医学教育学の研究

等があるが、本学が中心になって推進している産学共同事業（北総メディカルコンプレックス）に積極的に参加し、新たな価値の創造をめざしている。

## 研究業績

### 論文

〔1998年度追加分〕

#### 原著：

- 1) 原 義明, 川井 真<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 高野研一郎<sup>2)</sup>, 野崎正太郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 獨協医科大学越ヶ谷病院整形外科, <sup>3)</sup> 付属病院整形外科): 当施設における floating shoulder の検討. 骨折 1998; 20(2): 419-422.

#### 総説：

- 1) 嶋村文彦, 益子邦洋: 胸部外傷. 救急医 1998; 22(10): 1431-1436.

#### (1) 原著：

- 1) Kunihiro M: Trauma systems/centres: a Japanese perspective. Trauma 1999; 1(4): 285-289.
- 2) 住田 亮<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学): 診断的腹腔洗浄法で確定診断できた外傷性空腸損傷の1例. 日小児外会誌 1999; 35(2): 226-230.
- 3) 原 義明, 川井 真<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 水江史樹<sup>1)</sup>, 野崎正太郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 同整形外科): Floating knee 症例の検討. 骨折 1999; 21(1): 251-254.
- 4) 原 義明, 川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 四肢骨折・骨盤骨折に対する創外固定術, 観血的整復固定術. 救急医 1999; 23(5): 595-602.
- 5) 小林辰輔, 犬塚 祥, 宮崎善史, 山田将紀, 肥田誠治, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小川理郎, 益子邦洋: 術前診断しえた出血性十二指腸平滑筋腫の1例. 日救急医学会関東誌 1999; 20(1): 22-23.
- 6) 肥田誠治, 山田将紀, 工廣紀斗司, 原 義明, 嶋村文彦, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: 医原性食道穿孔による縦隔洞炎及び右膿胸の治療例. 日救急医学会関東誌 1999; 20(1): 272-273.
- 7) 原 義明: 全身に影響を与える整形外科疾患. Emergency Nursing 1999; 12(10): 23-28.
- 8) 東 和明<sup>1)</sup>, 小林辰輔, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 済生会神奈川県病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター): PMX 施行症例における superantigen の検討 (第2報). エンドトキシン血症治療研究会誌 1999; 3(1): 87-92.
- 9) 橋本聡隆<sup>1)</sup>, 中澤厚元<sup>1)</sup>, 血脇敏行<sup>1)</sup>, 伊藤和彦<sup>2)</sup>, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小川理郎, 田中啓治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 印西地区消防組合消防本部白井消防署, <sup>2)</sup> 伊藤診療所, <sup>3)</sup> 付属千葉北総病院 CCU): 適確な早期BLSが社会復帰を可能にしたCPA 事例: バイスタンダーの重要性と特定行為の効果. 千葉県救急医療研究会記録集 1999; 2: 26-28.
- 10) 早乙女貴子, 久野将宗, 山田将紀, 肥田誠治, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 交通外傷, 熱湯, 縊頸により現場で呼吸停止となり適切な医療連携にて救命し得た1例. 千葉県救急医療研究会記録集 1999; 2: 39-41.
- 11) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 磯田麻里<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 益子邦洋(<sup>1)</sup> 付属千葉北総病院集中治療部): エアバックによる胸部圧迫を契機に発症したと思われる急性大動脈解離(IIIa)の1例. 千葉県救急医療研究会記録集 1999; 2: 50-52.
- 12) 久野将宗, 早乙女貴子, 山田将紀, 肥田誠治, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 急性腹症の診断でダイバートに至った巨大感染性水腎症の1例. 千葉県救急医療研究会記録集 1999; 2: 56-58.



- 13) 原 義明：大腿骨骨幹部骨折．救急医 2000；24(3)：339-341．  
 14) 原 義明：大腿骨顆部・顆上部骨折．救急医 2000；24(3)：342-344．  
 15) 益子邦洋：救急医たるもの，知識を貯え技を磨け．救急医 1999；23(5)：497．

(2) 研究報告書：

- 1) 越 正毅<sup>1)</sup>，長山泰久<sup>2)</sup>，長江啓泰<sup>3)</sup>，益子邦洋，西川 健<sup>4)</sup>，大島啓太郎<sup>4)</sup>，島崎有平<sup>4)</sup>，矢代隆義<sup>5)</sup>，中川雅量<sup>5)</sup>，松本治男<sup>6)</sup>，東川 一<sup>6)</sup>，米田 壯<sup>6)</sup>，小西 哲<sup>6)</sup>，佐々木順司<sup>7)</sup>，北見耕一<sup>7)</sup>，角田 隆<sup>8)</sup>，磯部文雄<sup>8)</sup>，佐久間優<sup>9)</sup>，釣谷 康<sup>9)</sup>，村川昌道<sup>10)</sup>，三宅哲志<sup>10)</sup>，荒井俊行<sup>11)</sup>，田島正興<sup>11)</sup>，村上純一<sup>12)</sup>，納 宏<sup>12)</sup>，鷺坂長美<sup>13)</sup>，高橋正樹<sup>13)</sup>，小濱本一<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup> 日本大学名誉教授，<sup>2)</sup> 交通科学研究所，<sup>3)</sup> 日本大学，<sup>4)</sup> 総務庁長官官房交通安全対策室，<sup>5)</sup> 警察庁交通局交通企画課，<sup>6)</sup> 警察庁交通局交通規制課，<sup>7)</sup> 文部省体育局学校健康教育課，<sup>8)</sup> 厚生省健康政策策局指導課，<sup>9)</sup> 運輸省運輸政策局技術安全課，<sup>10)</sup> 運輸省自動車交通局技術安全部保安・環境課，<sup>11)</sup> 建設省道路局交通管理課 <sup>12)</sup> 建設省道路局道路環境課 <sup>13)</sup> 消防庁救急救助課)：交通事故の長期予測を行う際の対策効果の予測手法に関する調査．交通安全対策の効果評価に関する調査研究報告書 1999．  
 2) 南谷幹夫，大塚敏文<sup>1)</sup>，藤井千穂<sup>2)</sup>，有賀 徹<sup>3)</sup>，相馬一亥<sup>4)</sup>，益子邦洋，荒木恒敏<sup>5)</sup>，木村昭夫<sup>6)</sup>，工廣紀斗司(<sup>1)</sup> 東京都立駒込病院，<sup>2)</sup> 日本医科大学，<sup>3)</sup> 川崎医科大学救急医学科，<sup>4)</sup> 昭和大学救急医学科，<sup>5)</sup> 北里大学救命救急医学講座，<sup>6)</sup> 久留米大学高度救命救急センター，<sup>7)</sup> 国立国際医療センター救急部)：エイズ治療拠点病院における救急医療体制に関する研究．厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症の医療体制に関する研究班 平成11年度研究報告書 2000．  
 3) 辺見 弘<sup>1)</sup>，古幡 博<sup>2)</sup>，益子邦洋，鶴巻郁夫<sup>3)</sup>，原 修<sup>3)</sup>，畠山義行<sup>4)</sup>，水崎保男<sup>5)</sup>，大森軍司<sup>6)</sup>，本田義雄<sup>7)</sup>，森井基夫<sup>8)</sup>，中村大助<sup>9)</sup>，石岡達郎<sup>10)</sup>，李家孝昭<sup>11)</sup>，星野 亮<sup>12)</sup>，藤田眞一<sup>13)</sup>，大熊順三<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>2)</sup> 東京慈恵医科大学総合医科学総合センター，<sup>3)</sup> 自治省消防庁救急救助課，<sup>4)</sup> 埼玉県環境生活部消防防災課，<sup>5)</sup> 東京消防庁参事兼救急管理課，<sup>6)</sup> 東京消防庁装備部航空隊，<sup>7)</sup> 川崎市消防局警防部警防課，<sup>8)</sup> 三井物産エアロスペース株式会社ヘリコプター営業部，<sup>9)</sup> 川崎重工株式会社 航空宇宙事業本部民間航空機部，<sup>10)</sup> 川鉄商事株式会社 航空宇宙本部，<sup>11)</sup> 三菱商事株式会社情報産業第三本部ヘリコプターユニット課 <sup>12)</sup> ソニートレーディングインターナショナル株式会社 航空機部門，<sup>13)</sup> 財団法人東京救急協会 <sup>14)</sup> 財団法人 日本消防設備安全センター)：救急ヘリコプター機内における疾病者管理のあり方等調査研究報告．救急ヘリコプター機内における疾病者管理のあり方等調査研究報告書 2000．

(3) 総説：

- 1) 益子邦洋：空の旅の安全を確保するために 航空機内に搭載する医薬品の見直し．アスカ21 1999；8(2)：12-13．  
 2) 益子邦洋，滝口雅博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 弘前大学医学部付属病院救急部)：航空機内の医薬品搭載を見直す：機内での急患に対応するために．ナーシング・トゥデイ 1999；14(5)：62-63．  
 3) 小井土雄一<sup>1)</sup>，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学)：組織の剥離法と切離法．救急医 1999；23(5)：506-508．  
 4) 嶋村文彦，益子邦洋：輸液療法．臨床医 1999；25(増刊)：808-810．  
 5) 益子邦洋，小川理郎：咬刺傷：蛇，蜂，海洋生物など．臨床医 1999；25(増刊)：1097-1099．  
 6) 益子邦洋：交通事故における一般市民の応急手当を如何にして普及させるか．アスカ21 1999；8(3)：12-13．  
 7) 小林辰輔，益子邦洋，大友康裕<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：肺挫傷とARDS．救急医 1999；23(8)：967-971．  
 8) 益子邦洋：トリアージタッグの活用法．日医師会誌 1999；122(5)：793-796．  
 9) 益子邦洋：胸大動脈損傷 救急症例．レジデントノート 1999；1(4)：5-6．  
 10) 益子邦洋：交通安全対策の効果評価は多角的視点で．アスカ21 1999；8(4)：10-11．

- 11) 益子邦洋：特定非営利活動法人（NPO法人）「救急ヘリ病院ネットワーク」の設立について．プレホスピタル・ケア 1999；12（4）：17-19．
- 12) 滝口雅博<sup>1)</sup>，益子邦洋（<sup>1</sup>弘前大学医学部附属病院）：航空機に搭載する医薬品等に関する規則の変更について．プレホスピタル・ケア 1999；12（4）：20-23．
- 13) 益子邦洋，工廣紀斗司：I．救急患者の薬物療法 嗜血．臨外 1999；54（11）：69-70．
- 14) 益子邦洋，大塚敏文<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>日本医科大学名誉教授）：蘇生指標標準化と情報公開の必要性．近代消防 1999；37（12）：40-44．
- 15) 中村 敏，益子邦洋：蘇生後の集中治療；全身管理のポイント．救急医 1999；23（13）：1845-1848．
- 16) 益子邦洋，犬塚 祥：出血性ショック．今日の治療 1999；7（臨時増刊号）：219-221．
- 17) 益子邦洋：プレホスピタルケアの検討はグローバルな視点で：韓国救急医学会に出席して．アスカ21 2000；9（1）：10-11．
- 18) 益子邦洋：胸部外傷．カレントセラピー 2000；（206）：435-441．

## 著 書

- 1) 益子邦洋，木村昭夫<sup>1)</sup>，有賀 徹<sup>2)</sup>，相馬一玄<sup>3)</sup>，荒木恒敏<sup>4)</sup>，工廣紀斗司，藤井千穂<sup>5)</sup>（<sup>1</sup>国立国際医療センター救急部，<sup>2</sup>昭和大学医学部救急医学，<sup>3</sup>北里大学救命救急医学，<sup>4</sup>久留米大学高度救命救急センター，<sup>5</sup>川崎医科大学救急医学）：〔分担〕エイズ救急医療体制の現状と問題点．公開シンポジウム公式レポートエイズ医療体制の確立を目指して（主任研究者南谷幹夫），1999；pp35-37，厚生科学研究「HIV感染症の医療体制に関する研究」班．
- 2) 益子邦洋：〔分担〕救急医学．医学生のための進路ナビ，1999；pp473-474，日本医事新報社．
- 3) 益子邦洋：〔分担〕主な救急医療器具，救急医薬品とその使い方．産婦人科救急（総編集武谷雄二），1999；pp351-363，中山書店．
- 4) 益子邦洋：〔分担〕急性脱水症．今日の治療指針2000年版（総編集多賀須幸男・尾形悦郎），2000；p21，医学書院．
- 5) 益子邦洋：〔分担〕肺挫傷．今日の治療指針2000年版（総編集多賀須幸男・尾形悦郎），2000；pp28-29，医学書院．
- 6) 小林士郎<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，益子邦洋（<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2</sup>多摩永山病院救命救急センター）：〔分担〕脳死判定．図解救急・応急処置ガイド：縮刷版（Medical Practice編集委員会・編），2000；pp1016-1033，文光堂．
- 7) 犬塚 祥：〔分担〕虫刺傷．図解救急・応急処置ガイド：縮刷版（和田 攻・大久保昭行・永田直一・矢崎義雄），2000；pp102-103，文光堂．
- 8) 肥田誠治，益子邦洋：〔分担〕熱傷性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル（和田孝雄・小川 龍・林田憲明・島崎修次・飯野靖彦），2000；pp59-63，大塚製薬．

## 学会発表

### （1）特別講演：

- 1) 益子邦洋：救急医療の将来と医療従事者の使命．第18回福岡救急医学会，1999．9．
- 2) 益子邦洋：災害拠点病院の役割並びに地域医療機関との連携のあり方．平成11年度千葉県医師会防災医療研修会，1999．10．
- 3) 益子邦洋：外傷傷病者の観察・判断・処置に際してのPitfall．第12回船橋救輪会，2000．1．
- 4) 益子邦洋：胸腹部外傷に対するdamage control surgeryとminimally invasive surgery．第7回広島外傷研究会，2000．1．

5) 益子邦洋：災害時のトリアージ．三郡医師会航空機対策協議会研修会，2000．2．

6) 益子邦洋：新しい時代の救急医療と災害医療．第5回長崎救急講演会，2000．2．

## (2) シンポジウム：

1) 益子邦洋：救急搬送体制のあり方．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．

2) 益子邦洋，犬塚 祥，小川理郎，嶋村文彦，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏，丸山正明，小林辰輔，山田将紀，宮崎善史，田中啓二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院集中治療部)：民間ヘリを利用したEMSヘリ搬送システムの構築と将来の展望．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．

3) 坂本哲也<sup>1)</sup>，高柳和江<sup>2)</sup>，森村尚登<sup>2)</sup>，小井土雄一<sup>2)</sup>，松田 潔<sup>2)</sup>，小関一英<sup>2)</sup>，益子邦洋，有賀 徹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>公立昭和病院救命救急センター，<sup>2)</sup>EMSQ研究会 (Emergency Medical System-for Quality Research Group))：頭部外傷の重症度評価法．第13回日本外傷学会，1999．5．

4) 益子邦洋，犬塚 祥，小川理郎，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏：多発外傷診療のPitfall；胸部外傷を中心に．第24回日本外科系連合学会学術集会，1999．6．

5) 益子邦洋：エイズ救急医療体制の確立と問題点．公開シンポジウム エイズ医療体制の確立を目指して，2000．2．

## (3) パネルディスカッション：

1) 小井土雄一<sup>1)</sup>，新井正徳<sup>2)</sup>，大友康裕<sup>3)</sup>，木村昭夫<sup>4)</sup>，大塚 祥，高橋 聡<sup>5)</sup>，益子邦洋，黒川 顕<sup>5)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救急救命センター，<sup>2)</sup>山梨県立中央病院，<sup>3)</sup>国立病院東京災害医療センター，<sup>4)</sup>国立国際医療センター，<sup>5)</sup>付属多摩永山病院救命救急センター)：救急医に求められるもの：真の救急医を如何に育てるか．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．

2) 梅里良正<sup>1)</sup>，前田幸宏<sup>1)</sup>，有賀 徹<sup>2)</sup>，伊藤弘人<sup>3)</sup>，井上徹英<sup>4)</sup>，上島権兵衛<sup>5)</sup>，坂本哲也<sup>6)</sup>，佐々木順子<sup>7)</sup>，鈴木荘太郎<sup>8)</sup>，益子邦洋，山本修三(<sup>1)</sup>日本大学医学部，<sup>2)</sup>昭和大学医学部，<sup>3)</sup>国立医療・病院管理研究所，<sup>4)</sup>北九州総合病院，<sup>5)</sup>東邦大学大森病院，<sup>6)</sup>公立昭和病院，<sup>7)</sup>茨城県立医療大学，<sup>8)</sup>東邦大学医学部，<sup>9)</sup>済生会神奈川県病院)：クリニカルインディケータの開発に関する研究．第37回日本病院管理学会学術総会，1999．10．

## (4) ミニワークショップ：

1) 益子邦洋：横隔膜損傷分類に当たって．第13回日本外傷学会，1999．5．

## (5) 一般講演：

1) Kunihiro M：Emergency Medical Service System and Prehospital Care in Japan．The celebration meeting of 10th Anniversary Foundation of Korean Society of Emergency Medicine (韓国 ソウル)，1999．11．

2) 酒主敦子，岡田一郎，高橋明子，田辺晴山，小柳正雄，工廣紀斗司，原 義明，倉田 潔，小川理郎，丸山正明，犬塚 祥，益子邦洋：胸腹部単純X線写真で確認困難であった異物誤飲の1例．第48回日本救急医学会関東地方会，1999．2．

3) 小川理郎，犬塚 祥，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏，嶋村文彦，丸山正明，益子邦洋，田中啓治<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室，<sup>2)</sup>救急医学)：当院における航空機搬送 [救急医療専用装備ヘリコプター (EMSヘリ；Emergency Medical Services)] の現状と問題点．第2回日本臨床救急医学会総会，1999．4．

4) 小林辰輔，犬塚 祥，工廣紀斗司，嶋村文彦，久野将宗，山田将紀，丸山正明，中村 敏，原 義明，小川理郎，益子邦洋：呼吸器からの離脱困難であった高齢者 Flail Chest の1例．第23回過大侵襲研究会，1999．4．

5) 益子邦洋，岡田芳明<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，葛西 猛<sup>1)</sup>，川島喜代志<sup>1)</sup>，大和田隆<sup>1)</sup>，杉山 貢<sup>1)</sup>，池田寿昭<sup>1)</sup>，大橋教良<sup>1)</sup>，松本孝夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」)：NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」の立ち上げと今後の課題．第6回日本エアレスキュー研究会，1999．4．

6) 大友康裕<sup>1)</sup>，本間正人<sup>1)</sup>，井上純一<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，益子邦洋(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急セン

- ター): PCPS (経皮の心肺補助装置) 補助下に修復を行った胸大動脈損傷の1例. 第2回日本臨床救急医学会総会, 1999. 4.
- 7) 犬塚 祥, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 宮崎善史, 山田将紀, 小林辰輔, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 鈍の外傷による心嚢内横隔膜ヘルニアの1治験例. 第2回日本臨床救急医学会総会, 1999. 4.
- 8) 益子邦洋, 犬塚 祥: 初期および二次救急医療のあり方. 第25回日本医学会総会, 1999. 4.
- 9) 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 嶋村文彦, 久野将宗, 小林辰輔, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 益子邦洋: 外傷患者治療には感染防御のスタンダードが必要である. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 10) 犬塚 祥, 工廣紀斗司, 嶋村文彦, 久野将宗, 小林辰輔, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 益子邦洋: 臍管形成術後, 臍仮性嚢胞・十二指腸外瘻を合併したが保存的療法にて治癒した鈍的脾損傷(IIIa)の1例. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 11) 小川理郎, 犬塚 祥, 小林辰輔, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 嶋村文彦, 丸山正明, 益子邦洋, 小池薫<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 当施設における thoroughbreds trauma の検討. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 12) 犬塚 祥, 工廣紀斗司, 小林辰輔, 丸山正明, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 益子邦洋: 出血性胃十二指腸潰瘍に対する治療戦略: クリッピング術の有用性と止血不能例からの検討. 第6回千葉SIRS/Sepsis研究会, 1999. 6.
- 13) 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 小川理郎, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 小林辰輔, 益子邦洋: 腹腔鏡下開窓術を施行するも再発し, 開腹手術を要した巨大肝嚢胞の1例. 第47回日本救急医学会関東地方会, 1999. 6.
- 14) 小林辰輔, 犬塚 祥, 小川理郎, 丸山正明, 中村 敏, 原 義明, 工廣紀斗司, 益子邦洋: 術前診断し得た破裂性内腸骨動脈瘤の1例. 第47回日本救急医学会関東地方会, 1999. 6.
- 15) 丸山正明, 中村 敏, 小林辰輔, 高橋明子, 岡田一郎, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 犬塚 祥, 益子邦洋: 著明な高血糖を呈した糖尿病性昏睡の1例. 第13回千葉県重症患者管理研究会, 1999. 9.
- 16) 高橋明子, 岡田一郎, 山本修三, 斎藤 善, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 急性腎不全を合併した広範囲熱傷(76%)の1治験例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>1)</sup>, 前田容子<sup>2)</sup>, 久志本成樹<sup>3)</sup>, 小井土雄一<sup>3)</sup>, 益子邦洋, 山本保博<sup>3)</sup>, 大塚敏文<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院看護部, <sup>3)</sup>救急医学, <sup>4)</sup>日本医科大学理事長名誉教授): 国際空港における重症例および死亡例の検討. 第45回日本宇宙航空環境医学会総会, 1999. 9.
- 18) 岡田一郎, 高橋明子, 山本修三, 斎藤 善, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: びまん性の肝浸潤を認め急激な転帰をとった神経内分泌癌の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 19) 山本修三, 岡田一郎, 高橋明子, 斎藤 善, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 肺炎の診断で転送された遅発性脾破裂の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 20) 原 義明, 小柳正雄, 野崎正太郎<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 大腿骨顆部骨折の治療法とその予後. 第39回関東整形災害外科学会, 1999. 11.
- 21) 岡田一郎, 小柳正雄, 高橋明子, 酒主敦子, 田辺晴山, 山本修三, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 倉田潔, 小川理郎, 丸山正明, 犬塚 祥, 益子邦洋: 脂肪塞栓症を呈した大腿骨骨折の2症例. 第11回千葉Critical Care Medicine 研究会, 1999. 12.
- 22) 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 小林辰輔, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 丸山正明, 益子邦洋: 突発性血気胸に対

する緊急胸腔鏡下手術は第1選択となり得る．第12回日本内視鏡外科学会総会，1999．12．

- 23) 小池 薫<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，勝見 敦<sup>2)</sup>，増野智彦<sup>3)</sup>，益子邦洋，黒川 顕<sup>4)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病院救命救急センター，<sup>2)</sup>武蔵野赤十字病院，<sup>3)</sup>総合会津中央病院，<sup>4)</sup>付属多摩永山病院): septic shock に対するPMX 吸着カラムの有効性の検討：多施設臨床研究プロトコール．第4回エンドトキシン血症治療研究会，2000．1．
- 24) 益子邦洋：「救急医療体制の評価指標に関する調査研究」．厚生科学研究成果発表会，2000．1．
- 25) 倉田 潔，酒主敦子，岡田一郎，高橋明子，田辺晴山，小柳正雄，工廣紀斗司，原 義明，小川理郎，丸山正明，犬塚 祥，益子邦洋：大腸憩室穿通による殿部大腿ガス壊疽の1例．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．
- 26) 牧 真彦，犬塚 祥，丸山正明，倉田 潔，原 義明，工廣紀斗司，小柳正雄，山口康宏，高山康広，高橋明子，益子邦洋：非手術的に治癒し得たIII d型脾損傷の2例．第14回千葉県集中治療研究会，2000．2．
- 27) 益子邦洋，加藤恒生，龍野勝彦，伊良部徳次，織田成人，伊藤範行，高橋長裕，金 弘，吉野肇一，渋谷正徳，中村紀夫，小川 清，平山愛山，岡田 正，福家伸夫，磯部勝見，亀田伸介，上村公平，鈴木弘祐，堀内和之，野口照義(<sup>1)</sup>千葉県災害拠点病院連絡会議): 千葉県災害拠点病院連絡会議の発足とこれまでの成果．第5回日本集団災害医学会，2000．2．
- 28) 近藤久禎，久野将宗，中村 敏，工廣紀斗司，原 義明，犬塚 祥，益子邦洋，二宮宣文<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院救命救急センター): 基幹災害医療センターとしての災害研修について：千葉県消防・救急隊災害医療セミナー報告．第5回日本集団災害医学会，2000．2．
- 29) 工廣紀斗司，犬塚 祥，丸山正明，高橋明子，岡田一郎，小柳正雄，原 義明，倉田 潔，小川理郎，益子邦洋：緊急内視鏡の止血術としてのアルゴンプラズマ凝固法の有用性．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

## 19．形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科 ]

#### 研究概要

本年度はケロイドの基礎研究において遺伝子レベルでの新知見の解明がさらに進展した。皮弁研究においては、1991年より当教室が世界に先駆けて開発してきた超薄（真皮下血管網）皮弁についての実証的研究において、従来の皮弁血流理論の定説を覆すような新事実を報告し大いなる反響を巻き起こした。さらに再生医学に貢献するであろう、凍結保存同種血管束を用いた創傷治癒促進の可能性についても新知見を提示できた。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

##### 原著：

- 1) 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 陣内 賢<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 富山俊一<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 百束比古, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>同病理部): 多発性対称性脂肪腫の1例。耳喉頭頸 1998 ; 70 ( 12 ): 839-842 .
- 2) 王 春梅, 百束比古, 青木 律: 小児顔面における内視鏡下腫瘍摘出の経験。形成外科 1999 ; 42 ( 1 ): 65-70 .
- 3) 百束比古: 豊胸術とくに注入異物の unfavorable results とその再建手術。日本美容外科学会会報 1999 ; 21 ( 1 ): 16-22 .

##### (1) 原著：

- 1) Takayanagi K<sup>1)</sup>, Kawai M<sup>2)</sup>, Aoki R (<sup>1)</sup>Department of Health Services Administration, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine): The Cost of Burn Care and Implications for Efficient Care. Clinical Performance and Quality Health Care 1999 ; 7 ( 2 ): 70-73 .
- 2) 五十嵐司<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古 (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 多数の角質嚢腫を伴い Keratoacanthome plurikystique pseudo-sebace (Degos) に相当する有 細胞癌の1例。日本皮膚悪性腫瘍学会機関誌 1999 ; 14 ( 1 ): 48-51 .
- 3) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科): 小皮膚腫瘍に対する巾着縫合法の経験。日美容外会報 1999 ; 21 ( 2 ): 87-93 .
- 4) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古, 大久保正智<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup>第二病院形成外科): 自己注入による陰茎異物の4例: 未成年症例の経験と社会的啓蒙の重要性。日美容外会報 1999 ; 21 ( 2 ): 94-99 .
- 5) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 國本健太<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 紙オムツによる褥瘡処置の試み: ポリマー入り紙オムツを使用して。北村山病医誌 1999 ; 4 ( 1 ): 48-51 .
- 6) 青木 律, 百束比古: Evans' Flap を応用した鼻翼口唇部再建。日マイクロサージ会誌 2000 ; 13 ( 1 ): 79-83 .

##### (2) 総説：

- 1) 百束比古, 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup>北村山公立病院形成外科): 皮膚難治性潰瘍 (褥瘡を除く) の治療。形成外科 1999 ; 42 ( 増刊号 ): 45-49 .
- 2) 青木 律: 関節の癭痕拘縮形成術: Monthly Book Orthopaedics 診療に役立つ形成外科治療法。整形外科 2000 ; 13 ( 3 ): 49-54 .

## 著 書

- 1) 百束比古：〔自著〕Bilaterally divided free TRAM flapによる異物埋入乳房の再建手術．乳房・乳頭の再建 最近の進歩 形成外科ADVANCEシリーズII-5(波利井清紀監修 山田敦編著), 1999; pp36-42, 克誠堂．
- 2) 百束比古：〔自著〕Bilaterally divided free TRAM flapによる異物埋入乳房の再建手術．乳房・乳頭の再建： 最近の進歩 形成外科ADVANCEシリーズII-5(波利井清紀監修 山田敦編著), 1999; pp36-42, 克誠堂．
- 3) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院放射線科): 〔自著〕ケロイドの放射線治療：術後照射を中心に．臨床放射線のコツと落とし穴 -治療(小塚隆弘編集), 1999; pp210-214, 中山書店．

## 学会発表

〔1998 年度追加分〕

### 一般講演：

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>, 石井和博<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 大浜第一病院形成外科): 双茎DIEA皮弁で陰嚢を再建したフルニエ壊疽の1例．第47回日本形成外科学会九州支部学術集会, 1998. 3.

### (1) シンポジウム：

- 1) 青木 律, 百束比古：形成外科領域における微小血管吻合の現状と展望．第11回日本血管外科学会関東地方会, 1999. 11.

### (2) パネルディスカッション：

- 1) Aoki R, Hyakusoku H : Prefabrication and other advanced techniques in customized flaps . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
- 2) 山本 達, 百束比古, 平井 隆, 青木 律, 王 春梅：形成外科のあり方と問題点．第42回日本形成外科学会総会学術集会, 1999. 4.
- 3) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 佐野和史<sup>(1)</sup> 総会津中央病院形成外科): 肋間穿通枝を microvascular augmentationとした真皮下血管網皮弁の可能性．第42回日本形成外科学会総会学術集会, 1999. 4.
- 4) 青木 律, 百束比古, 平井 隆, 山本 達, 有吉雅徳, 石丸さやか, 千明美保, 簡野晃次<sup>1)</sup>, 利根川均<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 西新井形成外科皮膚科医院, <sup>2)</sup> 博慈会記念総合病院形成外科): 皮膚表面の resurfacing chemical peeling と laser peeling : その適応と限界．第42回日本形成外科学会総会学術集会, 1999. 4.

### (3) 一般講演：

- 1) 橋本網子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院皮膚科): 経過中に退色がみられた悪性黒色腫の2例．第14回日本皮膚悪性腫瘍学会学術集会学術大会, 1998. 6.
- 2) 尾見徳弥<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 三橋 清, 百束比古, 浅野伍朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 病理第2): 27歳女性に生じたPaget病においてNeurogenic Metaplastic Hyperproliferationが見られた1例．第14回日本皮膚病理組織学会, 1998. 7.
- 3) 王 春梅, 岩切 致, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学): ケロイドと肥厚性癬痕の分類についての代謝学的検討：1H-NMRによる分析．第9回日本医科大学外国人留学者研究会, 1998. 11.
- 4) 岩切 致, 王 春梅, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科): 核磁気共鳴装置を用いた, ケロイド, 肥厚性癬痕の乳酸値測定 臨床像との関連を中心に．第5回ケロイド, 肥厚性癬痕研究会, 1999. 3.
- 5) Hyakusoku H, Gao J<sup>1)</sup>, Hirai T, Oki K, Inoue S ( <sup>1)</sup> Nan-fang Hospital, Guang-Zhou, China ): Reconstruc-

- tion of postburn scar contracture using microvascular augmentation of subdermal axial flaps . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
- 6) Aoki R , Hyakusoku H : Treatment of pigmented skin lesions using flash lamp . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
  - 7) Hyakusoku H , Aoki R , Mitsuhashi K , Inoue S : Bilaterally divided free TRAM flaps for re-augmentation of the silicone implanted breasts : Trial of endoscopy-aided operation . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
  - 8) Oki K , Ishimaru S , Hirai T , Hyakusoku H : Scanning electron microscopic observation of new capillary growth from cryopreserved allogenic vascular bundles . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
  - 9) Tosa M , Hyakusoku H , Oki K : Revascularization of the subdermal vascular network flap in the rat : Microangiography and scanning electron microscopic study . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
  - 10) Gao J<sup>1)</sup> , Hyakusoku H , Zhu B<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nan-fang Hospital, Guang-Zhou, China ): Effect of various pedicle widths on survival of random pattern flap with subdermal vascular network and conventional thickness in the pig . 12th Congress of The International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( San Francisco ), 1999 . 6 .
  - 11) Sano K , Hyakusoku H : Use of the Square Flap Advancement Method in Repairing the Patients with Cleft Lip and Its Related Anomalies . The 4th Asian Pacific Cleft Lip&Palate Conference ( 福岡 ), 1999 . 9 .
  - 12) Akimoto M , Hyakusoku H : Laser Peeling for Cleft Lip Scar . The 4th Asian Pacific Cleft Lip&Palate Conference ( 福岡 ), 1999 . 9 .
  - 13) Hyakusoku H , Oki K , Aoki R , Hirai T : Possibility of free vascular bundle implantation for making a pre-fabricated flaps and its application to the allogeneic vascular introduction . 10th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( 大阪 ), 1999 . 10 .
  - 14) Wang C , Hyakusoku H , Asano G<sup>1)</sup> , Nakazawa N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Departments of Pathology ): Restriction fragment length polymorphism ( RELP ) in p53-gene of keloids and hypertrophic scars . 10th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( 大阪 ), 1999 . 10 .
  - 15) Inoue S , Hyakusoku H , Sano K : Subdermal vascular network flaps augmented with intercostal perforators . 10th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( 大阪 ), 1999 . 10 .
  - 16) Kawahara S , Hyakusoku H , Aoki R , Mitsuhashi K , Inoue S , Okubo S : Salvage operation of the patients with post-augmentation mammoplasty complications . 10th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( 大阪 ), 1999 . 10 .
  - 17) Mitsuhashi K , Hyakusoku H , Cigira M , Wang C , Iwakiri I : Effectiveness of postoperative electron beam irradiation to the earlobe keloid and their chemicalanalytic study . 10th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( 大阪 ), 1999 . 10 .
  - 18) 大木更一郎<sup>1)</sup> , 山本保博<sup>1)</sup> , 村上正洋<sup>2)</sup> , 平井 隆 , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター , <sup>2)</sup> 大浜第一病院形成外科 ): 高度救命救急センターにおける形成外科の役割 . 第42回日本形成外科学会総会学術集会 , 1999 . 4 .
  - 19) 岩切 致 , 平井 隆 , 秋元正宇 , 百束比古 : 形成外科領域疾患における超音波診断装置の応用と発展 . 第42回日本形成外科学会総会学術集会 , 1999 . 4 .
  - 20) 中溝宗永<sup>1)</sup> , 横島一彦<sup>1)</sup> , 八木聰明<sup>1)</sup> , 佐野和史 , 青木 律 , 平井 隆 , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科 ): 1999 . 4 .



- 頭頸部再建術後の合併症からみた遊離皮弁と有茎皮弁の比較．第42回日本形成外科学会総会学術集会，1999．4．
- 21) 岩切 致，平井 隆，青木 律，百束比古：乳房外ページョットの術前超音波診断．第15回日本皮膚悪性腫瘍学会，1999．5．
- 22) 大木更一郎<sup>1)</sup>，勝見 敦<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，百束比古，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター)：比較的広範囲な熱傷創に対するシート状植皮による整容的治療の試み．第25回日本熱傷学会総会学術集会，1999．5．
- 23) 青木 律，百束比古，川原理子：広範囲熱傷救命患者の社会的問題点について．第25回日本熱傷学会総会学術集会，1999．5．
- 24) 石丸さやか，青木 律，百束比古：ラットCO2レーザーピーリング創の治癒過程の検討：創傷被覆材による比較．第25回日本熱傷学会総会学術集会，1999．5．
- 25) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古，山本 達，嘉陽宗隆(<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科)：Multi-lobed propellar flap methodによる熱傷瘢痕拘縮再建の応用と結果．第25回日本熱傷学会総会学術集会，1999．5．
- 26) 河原理子，百束比古，青木 律，石丸さやか：当施設における小児熱傷の治療と長期経過．第25回日本熱傷学会総会学術集会，1999．5．
- 27) 河原理子，青木 律，百束比古：出生前診断によって判明した唇顎裂の1症例．日本形成外科学会第214回東京地方会，1999．5．
- 28) 青木 律，佐野和史，百束比古：広範囲切除を要した顔面皮膚悪性腫瘍摘出後再建における皮弁の選択．第23回日本頭頸部腫瘍学会，1999．6．
- 29) 王 春梅，百束比古，青木 律，三橋 清，井上幸彦：形成外科における内視鏡手術．第1回日本医科大学内視鏡手術懇話会，1999．7．
- 30) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古，石井和博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科，<sup>2)</sup>大浜第一病院形成外科)：小皮膚腫瘍に対する巾着縫合法の経験．第75回日本美容外科学会学術集会，1999．7．
- 31) 三橋 清，百束比古，青木 律，井上幸彦：下半身麻痺患者の褥瘡の手術における皮弁の選択について．第1回日本褥瘡学会学術集会，1999．9．
- 32) 仲田幸世<sup>1)</sup>，岩切 致<sup>1)</sup>，井上幸彦，井上尚子，百束比古(<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科)：総合会津中央病院における顔面骨折症例の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 33) 栗原和久<sup>1)</sup>，服部怜美<sup>1)</sup>，秋元正宇(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科)：Subcutaneous Panniculitic T-cell lymphomaの1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 34) 利根川均<sup>1)</sup>，百束比古，大木更一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科，<sup>2)</sup>付属病院救命救急センター)：血栓性静脈炎による難治性下腿潰瘍に併発した腸管膜静脈血栓症の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 35) 井上幸彦，井上尚子，百束比古，平川慶子<sup>1)</sup>，植草協子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学)：乳房埋入異物の核磁気共鳴装置を用いた化学分析法の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 36) 河原理子，百束比古，青木 律，石丸さやか：当施設における小児熱傷の治療と長期経過．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 37) 王 春梅，百束比古，石渡俊行<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，中沢南堂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2)：ケロイドおよび肥厚性瘢痕におけるp53遺伝子異常の発現の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 38) 大久保暁司，糸井由里恵，岩田友稀江，青木 律，百束比古，青木見佳子<sup>1)</sup>，竹崎伸一郎<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科)：Recombinant-IL2が著効を示したMHEの1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 39) 石丸さやか，百束比古，平井 隆，青木 律，有吉雅徳，山本 達，千明美保，簡野晃次<sup>1)</sup>，利根川均<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>西新井形成外科医院，<sup>2)</sup>博慈会記念病院形成外科)：各種peeling法の比較：その適応と限界．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 40) 木田橋久明，井上幸彦，百束比古，中元兼示<sup>1)</sup>，大原國俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院眼科)：眉間皮弁(Glabella flap)で再

- 建した上眼瞼マイボーム腺癌の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 41) 千明美保<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>1)</sup>，黒田周一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> 千葉北総病院形成外科): 皮弁腋臭症手術におけるタイオーバーの工夫．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 42) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>，石井和博<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> 大浜第一病院形成外科，<sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科): 局所皮弁の弾性モデルによるシュミレーション．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 43) 百束比古，青木 律，佐野和史，井上幸彦，大木更一郎，大木琴美，高 建華<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 中国第一軍医大学形成外科): 筋皮穿通枝を付加した真皮下血管網皮弁の開発．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 44) 土佐真美子<sup>1)</sup>，井上尚子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，大木更一郎，河原理子，百束比古<sup>(1)</sup> 第二病院形成外科): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する実験的研究：樹脂鋳型標本による血管新生の3次元的観察．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 45) 秋元正宇<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科): GUI インターフェースによる皮膚形成術シュミレーションプログラムの開発．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 46) 岩田友稀江，佐藤和夫，百束比古，青木 律，大久保暁司，新見やよい<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 形成手術を要した鼻瘤：III度酒渣の2例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 47) 村上正洋<sup>1)</sup>，嘉陽宗隆<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> 北村山公立病院形成外科，<sup>2)</sup> 大浜第一病院形成外科): 巾着縫合法を用いた顔面皮膚腫瘍の治療経験．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 48) 青木 律，百束比古，大久保暁司，岩田友稀江，青木見佳子<sup>1)</sup>，五十嵐司<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 顔面皮膚悪性腫瘍の再建術式の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 49) 内谷栄一，百束比古，佐野和史，河原理子: Ectrodactyly, Ectodermal dysplasia, Clef lip and plate (EEC) 症候群の1治療経験．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 50) 黒田周一<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>1)</sup>，千明美保<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup> 千葉北総病院形成外科): チタニウムスクリューを用いた顎間固定法について．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 51) 大木琴美，青木 律，三橋 清，井上幸彦，佐野和史，石丸さやか，百束比古，大木更一郎<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 緊急手術を要した顔面骨折症例の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 52) 小川 令，大木琴美，三橋 清，百束比古，野手洋治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫症例の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 53) 利根川均<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，百束比古，河原理子<sup>(1)</sup> 博慈会記念総合病院形成外科，<sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 血栓性静脈炎による難治性下腿潰瘍に併発した腸間膜静脈血栓症の1例．日本形成外科学会第216回東京地方会，1999．9．
- 54) 木田橋久明，井上幸彦，三橋 清，百束比古，青木見佳子<sup>1)</sup>，五十嵐司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): マイボーム腺癌の2例．日本形成外科学会第216回東京地方会，1999．9．
- 55) 平井 隆<sup>1)</sup>，井上尚子<sup>1)</sup>，土佐真美子<sup>1)</sup>，河原理子，百束比古，青木見佳子<sup>2)</sup>，五十嵐司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院形成外科，<sup>2)</sup> 付属病院皮膚科): 表皮嚢腫に合併した有棘細胞癌症例．日本形成外科学会第216回東京地方会，1999．9．
- 56) 岩田友稀江，青木 律，大久保暁司，百束比古，新見やよい<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): ウルトラパルスCO2レーザーを併用した高度鼻瘤の1治療例．日本形成外科学会第216回東京地方会，1999．9．
- 57) 井上幸彦，百束比古: 血管柄付遊離組織移植による顔面輪郭修正の経験．第22回日本美容外科学会総会，1999．10．
- 58) 井上幸彦，百束比古: 体内埋入異物患者の自己抗体陽性値と摘出後経過の検討：第1報 シリコン注入乳房異物例．第22回日本美容外科学会総会，1999．10．
- 59) 岩田友稀江，百束比古，青木 律，大久保暁司: 高度鼻瘤の治療経験．第22回日本美容外科学会総会，1999．

10 .

- 60) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 北村山公立病院形成外科): 陰茎注入異物の検討. 第22回日本美容外科学会総会, 1999. 10 .
- 61) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 山村美和, 千明美保, 王 春梅: 乳房充填物質の画像診断. 第22回日本美容外科学会総会, 1999. 10 .
- 62) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 百束比古, 村上正洋, 秋元正宇<sup>(1)</sup> 大浜第一病院形成外科): 先天性耳垂裂症例の検討と正方皮法を基本とした耳垂裂手術法. 第22回日本美容外科学会総会, 1999. 10 .
- 63) 三橋 清, 百束比古, 岩切 致, 王 春梅, 千明美保: 耳介部のケロイドの代謝分析. 第22回日本美容外科学会総会, 1999. 10 .
- 64) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 平井 隆, 河原理子, 大木琴美, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): Cryopreservationによる同種血管移植法: 第5報 同種血管束による孔閉鎖の可能性. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10 .
- 65) 王 春梅, 百束比古, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 中沢南堂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): ケロイド及び肥厚性癬痕のLDHアイソザイム型による代謝学的分析. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10 .
- 66) 高 建華<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 王 春梅<sup>(1)</sup> 中国第一軍医大学形成外科): Narrow Pedicled Skin Flapの生着に関する実験的研究: 厚い皮弁における皮膚茎の幅の違いによる生着域と血流動の比較. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10 .
- 67) 王 春梅, 百束比古, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 中沢南堂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): ケロイド及び肥厚性癬痕におけるp53遺伝子異変の発現の検討. 第10回日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11 .
- 68) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>, 高木 亮<sup>3)</sup>, 河原理子, 三橋 清, 青木 律, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 大浜第一病院形成外科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科): Target 3DCTによる顎関節突起部骨折の評価: 第3報 術後骨折部形態の長期観察. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会, 1999. 11 .
- 69) 郡家正彦<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 伊勢崎市民病院形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科, <sup>3)</sup> 第二病院形成外科): 新しい顎間固定法概念: IMF Screw Systemの使用経験. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1999. 11 .
- 70) 石丸さやか, 佐野和史, 百束比古, 河原理子, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 上下小顎症, 歯牙欠損, 小舌症, 舌骨上下筋群低形成を呈したまれな先天奇形と思われる1例. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1999. 11 .
- 71) 小川 令, 大木琴美, 三橋 清, 百束比古, 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター): 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫症例の検討. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1999. 11 .
- 72) 青木 律, 百束比古: Evans皮弁を応用した顔面再建法. 第26回日本マイクロサージャリー学会, 1999. 11 .
- 73) 大久保暁司, 青木 律, 王 春梅, 百束比古: 形成外科領域における内視鏡手術の現況について. 第2回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 1999. 11 .
- 74) 王 春梅, 岩切 致, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 青木 律, 三橋 清, 大野曜吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 法医学): 1H-NMR法を用いた癬痕組織の代謝学的分析: ケロイドと肥厚性癬痕の分類について. 第29回創傷治癒研究会, 1999. 12 .
- 75) 石丸さやか, 青木 律, 河原理子, 百束比古: ラットCO2レーザーピーリング創治癒過程におけるサイトカインの経時的変化: 創傷被覆材による比較. 第29回創傷治癒研究会, 1999. 12 .
- 76) 小川 令, 青木 律, 百束比古: 被写体の色調を正確に再現できるデジタルカメラの検討. 日本形成外科学会第217回東京地分会, 1999. 12 .
- 77) 五十嵐司<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>(1)</sup> 付属病院皮膚科): 鼻瘤の1例. 日本皮膚科学会第753回東京地分会, 2000. 1 .

- 78) 金城 泉<sup>1)</sup>, 城間伸雄<sup>1)</sup>, 金城 治<sup>1)</sup>, 棚原 豊<sup>2)</sup>, 荒垣 寛<sup>2)</sup>, 知念 弘<sup>2)</sup>, 嘉陽宗隆<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>大浜第一病院外科, <sup>2)</sup>同整形外科): 多科にわたる治療をおこなった進行乳癌の1例. 第39回沖縄県外科学会, 2000. 2.
- 79) 大木琴美: 顔面に多発した基底細胞上皮腫の1例. 日本形成外科学会第218回東京地方会, 2000. 2.
- 80) 大木琴美: 項部膿皮症の血管束付加真皮下血管網皮弁による再建. 日本形成外科学会第219回東京地方会, 2000. 3.

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

本年度より研修教育施設の認定を受け, 認定医養成の教育体制が整った. 他の付属病院に比べて救急症例こそ少ないものの, 皮膚悪性腫瘍, 先天奇形, 美容外科症例が豊富であることが当院の特徴である. したがって, それらの症例を活かした学会研究活動を積極的に展開している. 基礎研究面では, 科学研究費を得て, adipose tissueが血管新生に及ぼす影響を, 樹脂鑄型血管標本を用いて検索中であり, その成果を漸次報告中である.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>2)</sup>, 大木琴美<sup>2)</sup>, 三橋 清<sup>2)</sup>, 青木 律<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院形成外科): Target 3D-CTによる顎関節突起骨折の評価. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会, 1999. 11.
- 2) 平井 隆, 井上尚子, 土佐眞美子, 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): 表皮嚢胞に合併した有棘細胞癌症例. 第216回日本形成外科学会東京地方会, 1999. 9.
- 3) 石丸さやか, 百束比古, 平井 隆<sup>1)</sup>, 青木 律, 有吉雅徳<sup>2)</sup>, 山本 達<sup>3)</sup>, 千明美保, 簡野晃次<sup>4)</sup>, 利根川均<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>共立美容外科, <sup>3)</sup>東戸塚記念病院形成外科, <sup>4)</sup>西新井皮膚科形成外科, <sup>5)</sup>博慈会記念病院形成外科): 各種ピーリング法の比較: その適応と限界. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 4) 土佐眞美子, 井上尚子, 平井 隆, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院形成外科): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する実験的研究: 樹脂鑄型標本による血管新生の三次元的観察. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 5) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 平井 隆, 河原理子<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): Cryopreservationによる同種血管移植法: 第5報 同種血管束による瘻孔閉鎖の可能性. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 6) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): Secondary avascularized Flapにおける血管構築過程の血流量変化について. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 10.
- 7) 郡家正彦<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 平井 隆(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院形成外科): 新しい顎間固定法の概念: IMF screw systemの使用経験. 第17回日本頭蓋顎顔面外科学会, 1999. 11.
- 8) 井上尚子, 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): レーザー脱毛続発症. 第22回日本美容外科学会総会, 1999. 11.
- 9) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 井上尚子, 王 春梅<sup>1)</sup>, 山村三和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子<sup>2)</sup>, 植草協子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>法医学): 体内埋入異物の核磁気共鳴装置を用いた化学分析法の検討. 第8回日本形成外科学会基礎学術集会, 1999. 11.

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

千葉北総病院にて形成外科の診療を開始してはや4年半が経過した。本院では、外傷、特に顔面外傷が比較的多く、この特性を生かした顔面外傷の診断、治療技術のための研究、また学内LANを利用したイントラネット技術の基礎、応用の研究を行っている。外傷では、軟部組織用超音波診断装置とコンピュータを組み合わせた3次元超音波表示装置を独自に開発し、これを顔面骨折に適用しその評価を行っている。本研究は非侵襲検査である超音波検査によって骨折の診断、整復の評価を行うものである。また、イントラネット技術の研究では、形成外科における臨床画像の取り扱いをテーマに、異機種相互接続可能な画像データベースシステムの開発を行ない、ほぼ実用的な運用ができるまでになった。本年度は、引き続き以上の研究と、さらに新たなテーマとして非線型大変形有限要素法の技術を用いた皮弁手術のコンピュータシミュレーションの研究を行う。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Akimoto M : Laser Peeling for Cleft Lip Scar . The 4th Asian Pacific Cleft Lip&Palate Conference ( 福岡 ) , 1999 . 9 .
- 2) 岩切 致<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): 形成外科領域における超音波診断装置の応用と発展 . 第42回日本形成外科学会総会・学術集会, 1999 . 4 .
- 3) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): クラゲ型テープを用いたタイオーバー法 . 第42回日本形成外科学会総会・学術集会, 1999 . 4 .
- 4) 栗原和久<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 秋元正宇 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科): Subcutaneous Panniculitic T-cell lymphoma の1例 . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 5) 千明美保, 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): 皮弁法による腋臭症手術におけるタイオーバーの工夫 . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 6) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 石井和博<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): 局所皮弁の弾性モデルによるシミュレーション . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 7) 秋元正宇: GUI インターフェースによる皮膚形成術シミュレーションプログラムの開発 . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 8) 黒田周一, 秋元正宇, 千明美保, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): チタニウムスクリューを用いた顎間固定法について . 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 9) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>, 秋元正宇 (<sup>1)</sup> 大浜第一病院形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): 先天性耳垂裂症例の検討と正方皮法を基本とした耳垂裂手術法 . 第22回日本美容外科学会総会, 1999 . 10 .

## 20. 付属病院付置施設等

### [ 付属病院集中治療室 ]

#### 研究概要

開設からまもなく30年を迎える当集中治療室は、いままでに10000例を超える患者を収容し、急性心筋梗塞は2987例、心不全は993例に達した。急性心筋梗塞の死亡率は開設当初30%を超えていたが昨年のそれは10%を下回るすばらしい治療効果が得られるようになった。しかし、難治性心不全例の治療効果はなお不十分であり、急性大動脈解離などの死亡率はまだまだ高く、新たな診断、治療法の検討が行われた。また、肺血栓塞栓症の収容例が増えており、本症における積極的なカテーテルインターベンション法が検討された。心臓外科手術や食道手術後の術後管理の症例数も順調に伸びているが、特記すべきは、当大学初めての肝移植が、タイより来日した先天性胆道閉塞を有する小児に行われたことである。数週間におよぶ第1外科と麻酔科医のICUでの術後管理によりこの症例は無事退院した。日本医大の移植の先駆けと思われる。平成11年12月より当集中治療室の部長が高野照夫から田中啓治に換わり、名実ともに21世紀への過渡期となった。現在進行中の研究テーマとして、心筋梗塞の迅速診断法としてのhFABP測定、RI心筋スペクトルでの急性期モニタリング、難治性心不全に対する成長ホルモン、両室同時ペーシング、心臓移植を踏まえた人工心臓の導入法、急性期難治性不整脈に対するカテーテル治療法の導入などが挙げられる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kiuchi K, Nejima J<sup>1)</sup>, Kiuchi A, Takayama M, Takano T, Hayakawa H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科): Lest Coronary Artery-Left Ventricular Fistula With Acute Myocardial Infarction, Representing the Coronary Steal Phenomenon: A Case Report. J Cardiol 1999; 34(5): 279-284.
- 2) Kitayama H<sup>1)</sup>, Kiuchi K, Nejima J<sup>2)</sup>, Katoh T<sup>2)</sup>, Takano T, Hayakawa H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>県南病院, <sup>2)</sup>第1内科): Long-term treatment with antipsychotic drugs in conventional doses prolonged QTc dispersion, but did not increase ventricular tachyarrhythmias in patients with schizophrenia in the absence of cardiac disease. Eur J Clin Pharmacol 1999; 55: 259-262.
- 3) Kotani E, Kiuchi K, Takayama M, Takano T, Tabata M<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>, Kawamatsu H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科, <sup>2)</sup>放射線科): Effectiveness of Transcatheter Chemoembolization for Metastatic Right Ventricular Tumor Derived From Hepatocellular Carcinoma. Chest 2000; 117: 287-289.
- 4) 松田裕之<sup>1)</sup>, 田中啓治, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): PCPSの有効性の評価と血液浄化法という新たな治療戦略の検討. 医工学治療 1999; 11(4): 612-616.
- 5) 木内 要, 子島 潤<sup>1)</sup>, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 高野照夫, 林 宏光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科, <sup>2)</sup>放射線科): 心異常陰影を認めた46歳女性. J Cardiol 2000; 35(2): 147-148.

##### (2) 総説：

- 1) 上村竜太, 高野照夫: 知っておきたい補助循環 IABP. Heart View 1999; 3(4): 368-372.
- 2) 田中啓治, 磯田麻里<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): ICU領域におけるカテコラミン製剤の使い方. Pharma Medica 1999; 17(6): 99-104.
- 3) 高山守正, 中村 泰<sup>1)</sup>, 村上幹高<sup>2)</sup>, 林田憲明<sup>3)</sup>, 田村 勤<sup>4)</sup>, 癸生川恵一<sup>5)</sup>, 坂井 誠<sup>6)</sup>, 住吉徹哉<sup>7)</sup>, 山口徹<sup>8)</sup>, 斉藤 徹<sup>9)</sup>, 長尾 建<sup>10)</sup>, 本江純子<sup>11)</sup>, 斉藤克己<sup>12)</sup>, 本宮武司<sup>13)</sup>, 木村 満<sup>14)</sup>, 一色高明<sup>15)</sup>, 内山隆史<sup>16)</sup>, 吉野秀朗<sup>17)</sup>, 相良耕一<sup>18)</sup>, 中西成元<sup>19)</sup>, 河口正雄<sup>20)</sup>, 木村祐介<sup>21)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部付

属順天堂医院,<sup>2)</sup>昭和大学病院,<sup>3)</sup>聖路加国際病院,<sup>4)</sup>三井記念病院,<sup>5)</sup>立正佼成会付属校成病院,<sup>6)</sup>東京都老人医療センター,<sup>7)</sup>榊原記念病院,<sup>8)</sup>東邦大学医学部付属大橋病院,<sup>9)</sup>東邦大学医学部付属大森病院,<sup>10)</sup>日本大学付属駿河台病院,<sup>11)</sup>日本大学板橋病院,<sup>12)</sup>西新井病院,<sup>13)</sup>東京都立広尾病院,<sup>14)</sup>東京都済生会中央病院,<sup>15)</sup>帝京大学医学部付属病院,<sup>16)</sup>東京医科大学八王子医療センター,<sup>17)</sup>杏林大学医学部付属病院,<sup>18)</sup>心臓血管研究所付属病院,<sup>19)</sup>虎の門病院,<sup>20)</sup>東京女子医科大学病院,<sup>21)</sup>東京都医師会会長): 東京都CCUネットワークの活動状況. Therapeutic Research 1999; 20(9): 2555-2559.

- 4) 高山守正: 不安定狭心症の治療. 救急医学 1999; 23(9): 1028-1031.
- 5) 田中啓治, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 木村祐子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): 新しい脚ブロックの出現. 救急医学 1999; 23(9): 1094-1095.
- 6) 木内 要, 高野照夫: 系統別にみた急性疾患の診断と初期治療: 急性心不全: 急性疾患とエマージェンシー. 救急医学 1999; 23(9): 1239-1242.
- 7) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 高橋修司<sup>1)</sup>, 後藤慎介<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>放射線科): 急性肺血栓塞栓症に対するInterventional Radiologyの進歩. 脈管学 1999; 39(9): 475-479.
- 8) 田中啓治, 森山 岳<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 補助循環を行っている急性心筋梗塞. 救急医学 1999; 23(11): 1609-1611.
- 9) 安武正弘, 高野照夫: 不安定狭心症のインターベンション. Pharma Medical 1999; 11(17): 41-46.
- 10) 佐藤直樹, 高野照夫: 処置・治療の実際 循環器救急. 今月の治療 1999; 7(臨時増刊号): S49-S56.
- 11) 高山守正: 推薦処方とその解説 急性心筋梗塞. 今月の治療 1999; 7(臨時増刊号): S139-S143.
- 12) 田中啓治: 指標の正しい使い方: CVP, PCWP. 救急医学 2000; 24(1): 384-386.
- 13) 木内 要, 高野照夫: 21世紀のCCUに求められるものは何か?. medicina 2000; 37(1): 116-117.
- 14) 田中啓治, 石井庸介: 心原性ショックの集中治療 PCPS. Heart View 2000; 4(3): 320-325.
- 15) 田中啓治, 関戸司久, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科): 初期治療と循環器医へのコンサルテイングのタイミング. 腎と透析 2000; 48(3): 325-329.

## 著 書

- 1) 高野照夫, 木内 要: [分担] 救急診療のプリンシプル 急性心・肺機能不全. 新女性医学大系8 産婦人科救急(武谷 雄二総編集), 1999; pp48-62, 中山書店.
- 2) 黒沢 尚<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>精神医学): [共著] 心筋梗塞の経過と精神症状. 虚血性心疾患患者の精神症状~その理解と対応(黒沢 尚), 2000; pp3-5, へるす出版.

## 学会発表

[1998年度追加分]

### 特別講演:

- 1) 田中啓治: 急性心不全の最新の治療. 北摂心不全研究会(大阪), 1999. 2.

### 一般講演:

- 1) 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 川口直美<sup>2)</sup>, 東 直行<sup>3)</sup>, 服部怜美<sup>3)</sup>, 保坂純郎<sup>4)</sup>, 岡田 進<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同皮膚科, <sup>4)</sup>同放射線科): ハイドロライザーによる血栓吸引療法をおこなった急性肺血栓塞栓症を伴うKlippel-Trenaunary-Weber症候群(KTWS)の1例. 第171回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1999. 2.

(1) シンポジウム :

- 1) 木内 要, 高野照夫: 心不全における右心機能の役割: 右心機能と神経体液性因子. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.

(2) セミナー :

- 1) 田中啓治: 難治性急性心不全の治療. 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999. 9.
- 2) 田中啓治: 新東京国際空港を中心とした循環器救急疾患の発生状況とその対策. 北東北心臓病救急セミナー, 1999. 9.

(3) ワークショップ :

- 1) 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> (千葉北総病院集中治療部): 急性肺血栓塞栓症に対するカテーテルインターベンションの有用性. 第36日本臨床生理学会, 1999. 10.

(4) 一般講演 :

- 1) Seimiya K<sup>1)</sup>, Tanaka K, Tanabe J<sup>1)</sup>, Matsuda H<sup>1)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> ICU & CCU, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital): Utility of concurrent treatment of PCPS and blood purification method to severe cardiogenic shock. . The 3rd Annual Scientific Meeting of the Japanese heart failure Society, 1999. 9.
- 2) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 磯田麻里<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治, 益子邦洋<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup> 千葉北総病院救急救命部): エアバックによる胸部圧迫を契機に発症したと思われる急性大動脈解離 (IIIa) の1例. 第2回千葉救急医療研究会, 1999. 4.
- 3) 田中啓治, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療部): 急性広範囲肺血栓塞栓症に対するカテーテルインターベンションの有用性. 第96回日本内科学会総会, 1999. 4.
- 4) 木内 要, 高野照夫, 太田眞夫<sup>1)</sup>, 橋本英洋<sup>1)</sup>, 大竹 稔<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第1内科): 糖尿病患者における冠動脈硬化の発症, 進展に対する Advanced glycation and products の役割. 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999. 5.
- 5) 太田眞夫<sup>1)</sup>, 田中古登子<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 福本裕子<sup>1)</sup>, 木内 要, 橋本英洋<sup>1)</sup>, 高野照夫, 大竹 稔<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第1内科): 糖尿病性合併症の進展評価におけるペントシジン測定の意義. 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999. 5.
- 6) 徳山権一<sup>1)</sup>, 磯田麻里<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治, 大秋美治<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup> 同病理部): 肩甲痛で発症し, 骨格筋と心筋に giant cell の浸潤をみとめた劇症型心筋炎の1例. 第172回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1999. 6.
- 7) 稲見茂信<sup>1)</sup>, 田辺 潤<sup>1)</sup>, 小野いすず<sup>1)</sup>, 張 清<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 山内茂夫<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> (千葉北総病院循環器センター, <sup>2)</sup> 同集中治療部): 高齢者虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション治療の成績. 第41回日本老年医学会学術集会, 1999. 6.
- 8) 石川正也<sup>1)</sup>, 磯田麻里<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup> 第1内科): 超高齢者急性大動脈解離の臨床的特徴. 第41回日本老年医学会学術集会, 1999. 6.
- 9) 高山守正, 中村 泰<sup>1)</sup>, 村上幹高<sup>2)</sup>, 林田憲明<sup>3)</sup>, 田村 勤<sup>4)</sup>, 癸生川恵一<sup>5)</sup>, 坂井 誠<sup>6)</sup>, 住吉徹哉<sup>7)</sup>, 中村正人<sup>8)</sup>, 五十嵐正樹<sup>9)</sup>, 長尾 建<sup>10)</sup>, 本江純子<sup>11)</sup>, 本宮武司<sup>12)</sup>, 斉藤克己<sup>13)</sup>, 木村 満<sup>14)</sup>, 竹内 聡<sup>15)</sup>, 内山隆史<sup>16)</sup>, 吉野秀朗<sup>17)</sup>, 相良耕一<sup>18)</sup>, 川名正敏<sup>19)</sup>, 中西成元<sup>20)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup> 順天堂大学医学部付属順天堂医院, <sup>2)</sup> 昭和大学病院, <sup>3)</sup> 聖路加国際病院, <sup>4)</sup> 三井記念病院, <sup>5)</sup> 立正佼成会付属校成病院, <sup>6)</sup> 東京都老人医療センター, <sup>7)</sup> 榊原記念病院, <sup>8)</sup> 東邦大学医学部付属大橋病院, <sup>9)</sup> 東邦大学医学部付属大森病院, <sup>10)</sup> 日本大学駿河台病院, <sup>11)</sup> 日本大学板橋病院, <sup>12)</sup> 東京都立広尾病院, <sup>13)</sup> 西新井病院, <sup>14)</sup> 東京都済生会中央病院, <sup>15)</sup> 帝京大学医学部付属病院, <sup>16)</sup> 東京医科大学八王子医療センター, <sup>17)</sup> 杏林大学医学部付属病院, <sup>18)</sup> 心臓血管研究



所付属病院,<sup>19)</sup>東京女子医科大学病院,<sup>20)</sup>虎の門病院):日本人でも女性は急性心筋梗塞の予後不良因子か?:多施設登録例からの検討.第19回心筋梗塞研究会,1999.7.

- 10) 徳山権一<sup>1)</sup>, 田中啓治, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部,<sup>2)</sup>同内科):左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策.第19回心筋梗塞研究会,1999.7.
- 11) 竹永清人<sup>1)</sup>, 高山守正, 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 横山広行, 川嶋修司<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 桜井 薫<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>第1内科):閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術の長期成績.第8回日本心血管インターベンション学会学会集會,1999.7.
- 12) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 桜井 薫<sup>1)</sup>, 関戸司久, 内田高浩<sup>1)</sup>, 横山広行, 安武正弘<sup>1)</sup>, 木内 要, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>第1内科):冠内圧測定によるIABPの効果の検討.第8回日本心血管インターベンション学会学会集會,1999.7.
- 13) 上村竜太, 高山守正, 小谷英太郎, 関戸司久, 酒井俊太, 横山広行, 木内 要, 子島 潤, 高野照夫, 桜井 薫<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科):非梗塞例における左室収縮低下を生じる冠灌流圧の検討.第8回日本心血管インターベンション学会学会集會,1999.7.
- 14) 関戸司久, 上村竜太, 小谷英太郎, 桜井 薫<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 横山広行, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>第1内科):虚血性心不全の病態と急性期治療戦略:冠血行再建術を含めて.第8回日本心血管インターベンション学会学会集會,1999.7.
- 15) 高橋保裕<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 関戸司久, 木内 要, 小林義典<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>第1内科,<sup>2)</sup>放射線科):左外腸骨動脈瘤破裂に対しDacron Covered Stentの緊急留置が有効であった1例.第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,1999.8.
- 16) 山科育子, 横山広行, 飯泉 匡, 木内 要, 高山守正, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科,<sup>2)</sup>放射線科,<sup>3)</sup>第1外科):術後発症の肺血栓塞栓症の1例:血栓溶解療法の至適容量・至適時期に関する検討.第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,1999.8.
- 17) 藤谷 仁, 設楽敏朗, 清水 亨, 池崎弘之, 高野照夫:顎下腺腫瘍摘出術後に悪性高熱症が疑われ,集中治療管理を要した1症例.第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,1999.8.
- 18) 野本真由美, 夏目江里子, 鈴木智恵子, 原 千鶴:心機能評価を加えた褥瘡ケアアルゴリズムの検討.第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,1999.8.
- 19) 徳山権一<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 田中啓治, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部,<sup>2)</sup>同内科):Trouser-like stentingおよびPCPSとCHDF併用によって救命しえた38歳LMT梗塞の1例.第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,1999.8.
- 20) 小島康正, 緒方憲一, 増谷佑人, 渡辺綾子, 山口 寛, 大野則彦, 笠神康平, 設楽敏朗, 上村竜太, 関戸司久, 横山広行, 池崎弘之, 安武正弘, 高山守正, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科):先天性Protein S欠損に伴う肺血栓塞栓症の2例.第173回日本循環器学会関東甲信越地方会,1999.9.
- 21) 木村祐子<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 磯田麻里<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部):新東京国際空港で発症した4例の急性肺血栓塞栓症の検討.第173回日本循環器学会関東甲信越地方会,1999.9.
- 22) 掃部弘行:急性心筋梗塞に伴う虚血性不整脈に対するカリウムチャネル遮断薬MS-551の有用性.第12回心臓性急死研究会,1999.9.
- 23) 池崎弘之, 設楽敏朗, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 高野照夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科):当院集中治療室におけるNOガス利用の現状,応用.第3回日本医療ガス学会総会,1999.9.
- 24) 関戸司久, 小谷英太郎, 上村竜太, 横山広行, 木内 要, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高山守正, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>第1内科):心収縮機能簡便指標の確立:Pressure-Volume LoopによるEmaxとの対比.

第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．

- 25) 清宮康嗣<sup>1)</sup>，田中啓治，松田裕之<sup>1)</sup>，今泉孝敬<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，徳山権一<sup>1)</sup>，石川正也<sup>1)</sup>，磯田麻里<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): 急性心筋梗塞に伴う難治性心不全に対する血液浄化法の新しい適応法．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 26) 松田裕之<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，田中啓治，今泉孝敬<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，徳山権一<sup>1)</sup>，大國真一<sup>2)</sup>，酒井俊太<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部，<sup>2)</sup>同内科): 左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 27) 中野緑香<sup>1)</sup>，高原かほり<sup>1)</sup>，曾根原はる美<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，田中啓治(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター): 治験コーディネーターの必要性と治験患者意識の実態．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 28) 東京都CCU連絡協議会，高山守正，高野照夫: 多施設集計による急性大動脈解離の治療成績: 1997年東京都CCU Network報告．第47回日本心臓病学会学術総会，1999．9．
- 29) 内田高浩<sup>1)</sup>，小谷英太郎，関戸司久，藤田進彦<sup>1)</sup>，桜井 薫<sup>1)</sup>，高橋保裕<sup>1)</sup>，石川正也<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，笠神康平，上村竜太，藤岡幹雄<sup>1)</sup>，佐藤直樹，中込明裕<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，高山守正，高野照夫，宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科，<sup>2)</sup>第二病院内科): Multi-Link Stentのデリバリー困難後のステント離脱に，Low profile Balloonを用い離脱ステント通過により標的病変治療に成功した2例．第15回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，1999．10．
- 30) 池崎弘之，設楽敏朗，竹田晋浩<sup>1)</sup>，木内 要，高山守正，小川 龍<sup>1)</sup>，高野照夫(<sup>1)</sup>麻酔科): 急性心不全における非侵襲的人工呼吸器BiPAPR利用の現状および有用性．第37回日本人工臓器学会大会，1999．10．
- 31) 石川正也，上村竜太，植木信江，高井恵美子，佐々木孝，進士陽子，石井庸介，大野則彦，笠神康平，設楽敏朗，緒方憲一，関戸司久，佐藤直樹，池崎弘之，安武正弘，高山守正，森田典成<sup>1)</sup>，藤岡幹雄<sup>1)</sup>，清野精彦<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科): 多枝冠攣縮が誘発された“たこつぼ型心筋症”の2例．第174回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．11．
- 32) 吉川雅智<sup>1)</sup>，伊佐治剛<sup>1)</sup>，石川正也<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，今泉孝敬<sup>1)</sup>，田中啓治，清宮康嗣<sup>2)</sup>，酒井俊太<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部，<sup>2)</sup>同内科): 人工弁に由来すると考えられた可動性円形塞栓により切迫梗塞をきたした1例．第174回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．11．
- 33) 高山守正，高野照夫: 東京都におけるCCUネットワークの利用状況．第19回CCU研究会，1999．11．
- 34) 大野則彦，笠神康平，高山守正，池崎弘之，設楽敏朗，上村竜太，関戸司久，佐藤直樹，安武正弘，高野照夫: 高齢者急性冠症候群の急性期治療と退院後の活動について．第19回CCU研究会，1999．11．
- 35) 山科育子，横山広行，飯泉 匡，木内 要，高山守正，清野精彦<sup>1)</sup>，高野照夫，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>，牧野浩司<sup>3)</sup>，恩田昌彦<sup>3)</sup>，池崎弘之，小川 龍<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科，<sup>2)</sup>放射線科，<sup>3)</sup>第1外科，<sup>4)</sup>麻酔科): 術後早期発症の肺血栓症に対する線溶療法の用量・投与時期に関する検討．第6回肺血栓症研究会，1999．11．
- 36) 小林 肇，榑戸律子，石井庸介，大野則彦，笠神康平，上村竜太，関戸司久，佐藤直樹，安武正弘，高山守正，田中啓治，清野精彦<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科): 急性心膜炎の臨床像: 心のう液貯留の有無からみた検討．第175回日本循環器学会関東甲信越地方会，2000．2．
- 37) 高山守正，上村竜太，高野照夫: 急性心筋梗塞の冠血行動態と左室機能維持効果について: 急性期冠内圧評価．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 38) 上村竜太，笠神康平，大野則彦，石井庸介，緒方憲一，設楽敏朗，関戸司久，佐藤直樹，池崎弘之，安武正弘，高山守正，高野照夫: CHDFの効果と限界．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 39) 池崎弘之，設楽敏朗，後藤吉次，渡辺朋子，佐藤直樹，安武正弘，高山守正，高野照夫，小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): 当院集中治療室におけるpercussion ventilator利用の現状，その効果．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 40) 設楽敏朗，関戸司久，佐藤直樹，池崎弘之，安武正弘，高山守正，高野照夫，小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): 肺炎患

者に対する伏臥位療法の効果について．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．

- 41) 緒方憲一，石井庸介，上村竜太，設楽敏朗，関戸司久，池崎弘之，安武正弘，高山守正，山科育子<sup>1)</sup>，横山広行<sup>1)</sup>，木内 要<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，川俣博志<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科，<sup>2)</sup>放射線科): 急性期血栓性肺動脈血栓症に対する経カテーテル肺動脈血栓吸引術の効果．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 42) 山科育子，横山広行，安武正弘，木内 要，高山守正，清野精彦<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>，池崎弘之，小川 龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科，<sup>2)</sup>放射線科，<sup>3)</sup>麻酔科): 術後早期発症の急性肺血栓性肺動脈血栓症に対する線溶療法の有効性と合併症に関する検討．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 43) 石川正也，森田典成<sup>1)</sup>，高山守正，石井庸介，進士陽子，上村竜太，設楽敏朗，緒方憲一，関戸司久，佐藤直樹，池崎弘之，安武正弘，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科): 術中に発症した“ たこつぼ型心筋症 ” の回復後に肺血栓性肺動脈血栓症を発症した1例．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 44) 後藤吉次，上村竜太，石井庸介，田中久美，安武正弘，高山守正，高野照夫: IABPバルーンの部分破裂によりバルーンが抜去不能となった1症例．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 45) 峯 克也，関戸司久，笠神康平，大野則彦，石井庸介，緒方憲一，設楽敏朗，上村竜太，佐藤直樹，池崎弘之，安武正弘，高山守正，高野照夫: 急性大動脈解離発症に遅延する低酸素血症病態の分析．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．

## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

第一病院統合に伴う暫定定員1名を含めて3名の病理診断業務を中心とした部署の性格上，本年も，各臓器毎に病理学教室を初めとする各領域の研究者との共同研究が主体とならざるを得なかったが，わずかではあるが新しい動きも出てきた年である．

心血管系では，弁膜病変の病態・病因の解析に向けての研究が田村助教授を中心に継続されており，本年度はmitral valveのwound healingの研究が論文に纏められたほか，aortic valveに関して新しい手法を用いた研究の成果が報告された．また，臨床医への情報発信として，大動脈解離に関しての新しい角度からの研究が報告された．生検，剖検症例を対象として，今まで十分に説明されていなかった病態の解析について進行中である．

*H. pylori*と消化器疾患に関する研究が，温助手，病理部兼務医の山田助教授（病理学第2）を中心に海外の共同研究者を加えて進行中でありその一部が纏められた．日常の診断業務の検体が研究対象として活かされている好例として更なる発展が期待される．

腎炎の発症進展機構の解明に向けての研究は，病理学教室の腎臓斑の研究に参画する形で継続されているが，本年度は，新しく大学に設置された共焦点レーザー顕微鏡を駆使した3次元解析の成果が実験腎炎の領域で報告出来た．toolを駆使することで新しい角度からの解析を行い易い環境が整いつつある．生検・剖検症例についても解析が進行中である．

リンパ腫を中心とした造血器疾患の領域の成果は稀少症例の報告に止まったが，学内外の血液病理医の協力により運営されているリンパ腫勉強会（千駄木）も年6回から10回へと回数も増えるとともに，貴重な症例が多く集積され，病理診断の検討の為だけでなく，臨床医をも交えた意見交換の場として定着しつつある．新しい研究への情報発信の出来る会へ発展することを願っているが，幸い病理・臨床とも参加機関が増え幅の広い勉強会へ発展しつつある．

細胞診の分野でも，技師を中心に日常業務で拾い上げ積み重ねて来た症例の解析および貴重症例の報告がなされた．今後も日常業務で接する症例を活かして研究へと結びつけていく方針である．

本年の特筆すべきことは，技師の協力をも得て自主学習から発展した学部学生の研究成果が，田村助教授の指導で論文・学会発表の形に纏められたことである．日常の医療業務に密接した中に研究の面白さが隠れていることを体験する良い機会であり，診療・教育・研究の接点として発展させる計画である．現在も新しいプロジェクトが進行中である．

ある。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Wen M, Zhang T<sup>4)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology Nippon Medical School, <sup>2)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Endoscopy, Nippon Medical School Tama nagayama Hospital, <sup>4)</sup> PLA Institute of Digestive Diseases, First Medical University, Gangzhou, People's Republic of China ): An evaluative system for the response of antibacterial therapy : Based on the morphological change of *Helicobacter pylori* and mucosal inflammation . Pathology International 1999 ; 49 : 332-337 .
- 2) Haraguchi S<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>病理学第1): Pulmonary carcinosarcoma : Immunohistochemical and ultrastructural studies. . Pathol Int 1999 ; 49 ( 10 ): 903-908 .
- 3) Tamura K, Jones M<sup>1)</sup>, Yamada I<sup>1)</sup>, Ferrans Victor J<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>National Institutes of Health ): Wound healing in the mitral valve . J Heart Valve Dis 2000 ; 9 : 53-63 .
- 4) 森嶋慶子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 田中佐知<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 浅川一枝, 松原美幸, 渡会泰彦, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学第6学年学生 ): 当院における最近5年間の卵巣腫瘍の傾向と術中迅速診断における問題点 . 日医大誌 1999 ; 66 : 134-138 .
- 5) 片山泰朗<sup>1)</sup>, 安 恵美<sup>2)</sup>, 壇 和夫<sup>2)</sup>, 杉 原仁<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 岸田輝幸<sup>2)</sup>, 荒牧琢己<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>4)</sup>, 若林一二<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 田村浩一 ( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>内科学第1, <sup>4)</sup>内科学第4 ): 高度の鉄過剰症を伴う貧血に糖尿病, 下垂体機能低下症, 心不全を合併した症例 . 内科 1999 ; 84 : 152-162 .
- 6) 田村浩一 : 大動脈解離の病理 : 特に解離腔の経時的変化およびULP病変について ( 特集 : 画像診断と病理からみた急性心血管イベントの治療戦略 ). 進歩する心臓研究 1999 ; 19 : 36-41 .
- 7) 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>4)</sup>, 恩田宗彦<sup>6)</sup>, 若林一二<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>5)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 田村浩一, 岸田 浩<sup>5)</sup>, 荒牧琢己<sup>5)</sup>, 内海甲一<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>東京都臨床医学総合研究所, <sup>4)</sup>内科学第4, <sup>5)</sup>内科学第1, <sup>6)</sup>病理学第2 ): 慢性腎不全に心肥大・徐脈を合併して入院精査中, 腸間膜脂肪織炎を発症した1例 . 内科 1999 ; 83 : 939-949 .
- 8) 清水 章<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1 ): 腎生検所見から何を学ぶか, 遅発性純粋妊娠中毒症の臨床経過をとり, 電顕で糸球体に dense deposit を認めた1例, 病理側の考え方 . 腎と透析 1999 ; 47 ( 1 ): 98-104 .
- 9) 田村浩一, 杉崎祐一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>外科学第2 ): 動脈硬化性大動脈解離の病理学的検討 : Matrix metalloproteinase の関与を含めて . 胸部外科 2000 ; 53 : 194-201 .
- 10) 藤田千歳<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup>産婦人科, <sup>3)</sup>付属多摩永山病院病理部 ): 子宮がん検診の頸部細胞診が発見の契機となった Normal-sized ovary carcinoma syndrome の1例 . 日本臨床細部診学会雑誌 2000 ; 39 ( 2 ): 117-118 .
- 11) 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>産婦人科学教室, <sup>2)</sup>病理学第1 ): 細胞診にて発見され腫瘍随伴神経症候群を呈した neuroendocrine carcinoma . 日産婦東京会誌 1999 ; 48 ( 4 ): 496-500 .

#### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

#### 特別講演：

- 1) 杉崎祐一 : 共焦点レーザー顕微鏡による病変の三次元的解析 . 北京三次元シンポジウム ( 北京 ), 1998 . 7 .

一般講演：

- 1) 清水 章<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup> (病理学第1): 遅発性純粋妊娠中毒症の臨床経過をとり, 電顕で糸球体に dense deposit を認めた1例, 病理側の考え方. 第9回東京腎生検カンファランス, 1999. 4.

(1) シンポジウム：

- 1) Tamura K : Pathological features of atherosclerosis-related aortic dissection and ulcer like projection . 第50回心臓血管放射線研究会, 2000. 1.
- 2) 田村浩一: 画像診断と病理からみた急性心血管イベントの治療戦略: 大動脈解離腔の経時的变化およびULP病変の病理. 第49回東京心臓の会, 1999. 5.

(2) 一般講演：

- 1) Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Shiota M<sup>2)</sup>, Mori S<sup>2)</sup>, Asano G<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 東京大学医科学研究所病理研究部, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): CD56+ non-nasal aggressive NK cell lymphoma with coexpression of Fas and Fas-ligand . VII. International Congress on Malignant Lymphoma ( Lugano, Switzerland ), 1999. 6.
- 2) Masuda Y<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Ohashi R<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): Glomerular endothelial injury with capillary destruction induces glomerular sclerosis in progressive glomerulonephritis . American Society of Nephrology, 32nd Annual Meeting ( Miami ), 1999. 11.
- 3) Ohashi R<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): Peritubular capillary injury during the progression of experimental glomerulonephritis in rat . American Society of Nephrology, 32nd Annual Meeting ( Miami ), 1999. 11.
- 4) Tamura K, Iida T<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Ferrans Victor J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 病理学第1, <sup>3)</sup> 外科学第2, <sup>4)</sup> National Institutes of Health ): Increased Activity of Matrix Metalloproteinases in Floppy Aortic Valves . American College of Cardiology 49th Annual Scientific session ( Anaheim, USA ), 2000. 3.
- 5) 杉崎祐一, 田村浩一, 細根 勝<sup>1)</sup>, 森茂 郎<sup>2)</sup>, 山口博樹<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): EBV感染に伴うVAHSを発症後に顕在化した横紋筋原発性T細胞リンパ腫. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 6) 田村浩一, 杉崎祐一, 小川俊一<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>2)</sup>, 岡田了三<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 小児科, <sup>2)</sup> 外科学第2, <sup>3)</sup> 群馬パース看護短期大学 ): 僧帽弁腱索断裂後に弁膜の腫瘍状変化をきたした小児弁疾患の1例. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 7) 飯田竹美<sup>1)</sup>, 田村浩一, 石崎正通<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 病理学第1, <sup>3)</sup> 外科学第2 ): 大動脈弁 Floppy Valve における MMPs/TIMPs の発現. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 8) 王 培榮<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): 高血圧自然発症ラットにおける Thy-1 腎炎進展過程の検討. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 9) 森 貴博<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): 抗 Thy-1 腎炎に対する HGF の抑制効果. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 10) 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): 少量投与 Thy-1 腎炎の障害・増殖期におけるメサンギウム転送機能障害. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 11) 杉崎祐一, 温 敏, 石崎正通<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): 共焦点レーザー顕微鏡による腎糸球体の三次元解析: Thy-1 腎炎を中心に. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 12) 枝川聖子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマド<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 渡会泰彦, 杉崎祐一, 大田吉男<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 小黒辰夫<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 第二病院病理部, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 本学の気管支肺胞洗浄法 ( Bronchoalveolar Lavage ) における各種肺疾患での

atypical lymphoid cellの出現とその意義．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．

- 13) 青木亜佐子，坂本 徹<sup>1)</sup>，寺田てる美<sup>1)</sup>，山川裕之<sup>1)</sup>，田村浩一，杉崎祐一（<sup>1)</sup>日本医科大学第4学年学生）：Coronary Intervention（PTCA/Stent）後剖検例に対する臨床病理学的検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 14) 浅川一枝，渡會泰彦，松原美幸，佐藤春明，釜口晴美，永井祥子，村瀬幸宏，田村浩一，杉崎祐一，内藤善哉<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>外科学第1）：男性の乳腺アポクリン癌の1例．第38回日本臨床細胞学会秋期大会，1999．9．
- 15) 森 貴博<sup>1)</sup>，益田幸成<sup>1)</sup>，清水 章<sup>1)</sup>，大橋隆治<sup>1)</sup>，石崎正道<sup>1)</sup>，杉崎祐一，山中宣昭<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第1）：抗Thy-1腎炎に対するHGFの抑制効果．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 16) 青木恵理<sup>1)</sup>，池村暁子<sup>1)</sup>，鈴木かやの<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>，杉崎祐一（<sup>1)</sup>付属病院皮膚科）：足白癬に対する放射線治療後の慢性放射線皮膚炎上に有きよく細胞癌，ポーエン病，基底細胞癌が生じた1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 17) 宮本哲也<sup>1)</sup>，仲吉 隆<sup>1)</sup>，榎本 豊<sup>1)</sup>，岡田大輔<sup>1)</sup>，福島光浩<sup>1)</sup>，窪倉浩俊<sup>1)</sup>，三上 巖<sup>1)</sup>，平井恭二<sup>1)</sup>，平田知己<sup>1)</sup>，天神敏博<sup>1)</sup>，小泉 潔<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，杉崎祐一（<sup>1)</sup>外科学第2，<sup>2)</sup>病理学第1）：歩行障害にて発症した，小児縦隔小円形細胞腫瘍の1症例．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 18) 松原美幸，川本雅司<sup>1)</sup>，渡会泰彦，佐藤春明，村瀬幸宏，浅川一枝，釜口晴美，永井祥子，杉崎祐一（<sup>1)</sup>病理学第1）：過敏性肺臓炎の気管支洗浄液に出現する異型リンパ球の検討．第38回日本臨床細胞学会秋期大会，1999．11．
- 19) 河本陽子<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>，川原清子<sup>1)</sup>，松原美幸，藤井雄文<sup>1)</sup>，手塚 潔<sup>1)</sup>，西海けい子<sup>1)</sup>，村松浩美<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>病理学第1）：Elastica-Masson-Goldner染色法の染色結果改善の試み．第46回日本臨床病理学会総会，1999．11．
- 20) 大橋隆治<sup>1)</sup>，杉崎祐一（<sup>1)</sup>病理学第1）：エンドトキシン吸着療法が著効したSIRS（全身性炎症反応症候群）を伴う無尿性急性腎不全の1例，病理側の考え方．第16回東京腎生検カンファレンス，2000．3．

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

当検査部は近年のシステム化の試みとともに臨床支援体制の充実を図りつつ，本年度も多岐に渡り活発な活動が行われた．

各分野における活動概要として（1）微生物学分野ではヘテロVRSAやESBLs検出状況について，（2）血液学分野では末梢血幹細胞分析，（3）生化学一般検査分野ではLDLコレステロールの利用効果，種々のCRP検出法比較や自動化による便潜血検査の検討，（4）免疫学分野では全自動化学発光免疫測定装置を用いたCA19-9，PSA，AFP，CEAの解析，イムノクロマトグラフィー法によるHBs抗原・抗体の検索，（5）血液凝固学分野ではワーファリン投与患者におけるアンケート調査や凝固因子の解析，（6）輸血学分野では手術用準備血の実体と不規則性抗体のチェック方法について，（7）高度救命救急および集中治療関連において頭部外傷急性期の線溶動態の追跡，熱傷患者におけるセレン濃度の動向，肺機能疾患・血管内皮細胞傷害時における尿中アルブミン・クレアチニン比の検討やスーパー抗原・ポリサッカライド結合蛋白・2プラスミンインヒビターについての研究，（8）臨床検査に関する一連のシステム化の模索と診療支援として各課題への取り組み，（9）保険制度の変遷に伴う臨床検査と今後の対応について，（10）その他，管理分野においては施設管理上での細菌学的院内清浄度チェックおよび各種委員会への学術的協力，公共機関を通じた首都圏の精度管理状況の調査など，数々の継続課題を含め本年度も極めて広範囲における活動が行われ，厳しい条件下の中でも充実した成果が得られている．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 福田高久, 野本剛史, 里村克章: イムノクロマトグラフィ法を利用したHBs抗原およびHBs抗体検出試薬パイオクリットの基礎的検討. 臨床検査機器・試薬 1999; 22(5): 377-384.
- 2) 園野一成, 田尾清一, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 全自動便潜血測定装置の比較検討. 機器・試薬 1999; 22(4): 335-341.
- 3) 野本剛史: 甲状腺疾患の治療指標とTBG値の存在. Medical Practice 1999; 16(4): 681-681.
- 4) 山本信也: 日本海裂頭条虫. Medical Practice 1999; 16(10): 1685-1685.

### 著書

- 1) 野本剛史: [分担]平成11年度版. 第18回東京都衛生検査所精度管理事業報告書(東京都立衛生研究所), 1999; 東京都衛生局医療計画部.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 大橋一善<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 石野真輔<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>救急医学教室 ): 頭部外傷急性期における線溶動態とその役割. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.

#### (2) ワークショップ：

- 1) 増野智彦<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 小井戸雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 川又聖夫<sup>2)</sup>, 南 正康<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>救急医学教室, <sup>2)</sup>衛生学・公衆学 ): 熱傷患者における血清セレン濃度の測定. 第27回日本集中治療医学会学会総会, 2000. 3.

#### (3) 一般講演：

- 1) 亀山澄子, 植田貴子, 高橋亜紀子, 吉野早恵子, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章: カラム凝集法(Bio Vue)を用いた不規則性抗体検査における血清検体と血漿検体の比較. 第47回日本輸血学会, 1999. 5.
- 2) 福田高久, 長谷川栄子, 高木 豊, 中島弘美, 間宮一夫, 岸美智子, 野本剛史: ワーファリン服用者についての対応 第1報: アンケート調査集計結果. 第48回日本臨床衛生検査学会, 1999. 5.
- 3) 日ノ澤進一郎, 景山憲貴, 吉水 瞳, 福田節子, 野本剛史: CRP測定試薬4種の比較検討2. 第48回日本臨床衛生検査学会, 1999. 5.
- 4) 景山憲貴, 日ノ澤進一郎, 吉水 瞳, 福田節子, 野本剛史: CRP測定試薬4種の比較検討1. 第48回日本臨床衛生検査学会, 1999. 5.
- 5) 青砥泰二, 前田良子, 川上直美, 篠山明宏, 後藤明子, 小嶋佳子, 野本剛史: 臨床材料より分離したヘテロVRSAの検討. 第48回日本臨床衛生検査学会, 1999. 5.
- 6) 小池 薫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>救急医学教室 ): 尿中アルブミン・クレアチニン比と肺機能: 外科的症例における予備的検討. 第13回日本外傷学会, 1999. 5.
- 7) 野本剛史, 片山勝利<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>JR東京総合病院 ): 保険医療における臨床検査と今後の対応. 第48回日本臨床衛生検査学会, 1999. 5.
- 8) 植田貴子, 亀山澄子, 高橋亜紀子, 吉野早恵子, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 手術用準備血の使用状況. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 9) 三橋 太, 村上尚子, 田島克美, 野本剛史, 里村克章: ARCHITECTの使用経験: 第2報 CA19-9・PSAの基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会第31回大会, 1999. 9.

- 10) 日ノ澤進一郎, 野本剛史, 里村克章: 当院中央検査部におけるシステム化の経緯と今後の課題. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 11) 篠山明宏, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: 当院における extended-spectrum  $\beta$ -lactamase (ESBLs) 産生菌検出状況について. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 12) 中村祐三, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: IMI (immature leukocyte information) チャンネルを利用した末梢血幹細胞分析プログラム (HPC測定) について (第2報). 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 13) 村上尚子, 三橋 太, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: ARCHITECT の使用経験: 第1報 AFP・CEA における基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会第31回大会, 1999. 9.
- 14) 村上尚子, 三橋 太, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT における基礎的検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 15) 増野智彦<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 外科的症例における血清 Selenium 濃度の測定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 16) 小池 薫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 尿中アルブミン・クレアチニン比と肺機能: 外科的症例における予備的検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 三橋 太, 村上尚子, 福田高久, 山本信也, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT を使用した腫瘍マーカー測定の評価: 第2報 特にCA19-9・PSA を対象として. 第36回関東甲信地区医学検査学会, 1999. 10.
- 18) 村上尚子, 三橋 太, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT を使用した腫瘍マーカー測定の評価 (第1報). 第36回関東甲信地区医学検査学会, 1999. 10.
- 19) 東 和明<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 集中治療患者におけるスーパー抗原の測定. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.
- 20) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 大橋一善<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 頭部外傷急性期における線溶動態: 2-plasmin inhibitor と XIII 因子からの解析. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.
- 21) 小池 薫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮細胞傷害: 外科的症例における予備的検討. 第27回日本救急医学会総会, 1999. 11.
- 22) 高木 豊, 福田高久, 岸美智子, 間宮一夫, 中島弘美, 萩原直久, 野本剛史: ワーファリン服用者についての対応 (第2報) アンケート調査集計結果の性別による比較. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 23) 中島弘美, 岸美智子, 間宮一夫, 高木 豊, 福田高久, 萩原直久, 野本剛史: ワーファリン服用者におけるトロンボテスト (TT) プロトロンビン (PT-INR) 時間の比較について. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 24) 三橋 太, 村上尚子, 田島克美, 野本剛史: 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT の評価: 第2報 CA19-9・Total-PSA における基礎的・臨床的検討. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 25) 日ノ澤進一郎, 野本剛史: LDL コレステロール直接測定法の臨床的有用性. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 26) 景山憲貴, 日ノ澤進一郎, 吉水 瞳, 福田節子, 野本剛史: CRP 測定試薬の検討. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 27) 篠山明宏, 小嶋佳子, 園部一成, 青砥泰二, 橋本政子, 野本剛史: 当院における ESBLs 産生菌の検出法と検出率について. 第4回都臨技医学検査学会, 2000. 1.
- 28) 小長谷勝利<sup>1)</sup>, 橋本政子 (<sup>1)</sup>日本医学技術専門学校): 未病システムにおける臨床検査のありかた. 第6回日本



未病システム学会，2000．1．

- 29) 村上尚子，三橋 太，福田高久，野本剛史，里村克章：全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECT の評価：第1報 AFP・CEA・AFPにおける基礎的・臨床的検討．第4回都臨技医学検査学会，2000．1．
- 30) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，小池 薫<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室)：集中治療患者におけるLipopolysaccharide Binding Proteinの検討．第48回日本救急医学会関東地方会，2000．2．
- 31) 小池 薫<sup>1)</sup>，佐藤格夫<sup>1)</sup>，増野智彦<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，柴田泰史，野口裕幸<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室)：多臓器障害患者における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害．第27回日本集中治療医学会総会，2000．3．
- 32) 東 和明<sup>1)</sup>，小池 薫<sup>1)</sup>，小林辰輔<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，柴田泰史，久志本成樹<sup>1)</sup>，犬塚 祥<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室)：熱傷患者におけるスーパー抗原の測定．第27回日本集中治療医学会学会総会，2000．3．

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

平成11年1月に横浜市立大学医学部付属病院において2人の患者を取り違えて手術した事件以来，多くの医療事故が報道されている．患者の命を守るべき医療従事者による医療事故は，あってはならない事故である．薬剤部としては今年度は，医薬品による事故防止対策の他，継続的に行われている特定機能病院に求められる医薬品適正使用のための薬剤師業務について研究を行った．

まず治験業務に関しては，当院では未だ設置されていない治験コーディネーター（CRC）の必要性について検討した．また，薬剤師法25条の2に規定された「患者への調剤薬に関する情報提供義務」については，特に癌の患者へは慎重に対処する必要があると考え，告知されていない患者の頻度および担当医が癌患者に処方薬についてどのように説明しているかなど調査した．その他，患者への副作用情報提供文書については，各製薬会社ごとに表現が異なることから，副作用の重症度にグレード分類を取り入れた当院としての表現の統一化を検討するとともに，副作用が発生した場合の院内対応についても検討した．

最近，病棟における医療事故がマスコミで多く報道されていることから，病棟での医療事故防止対策として，消毒薬の誤注入が患者の死亡原因となった「ヘパリン生食液」の薬剤部における一括製剤化について検討した．また，現在最も病院薬剤師に求められている病棟薬剤師業務については，より質の高い薬学的管理をより多くの患者に提供するためには業務の標準化が必要であると考え，POSの一つのスキルであるフォーカスチャージングの導入について検討した．

今後も，医薬品の適正使用並びに医薬品によるリスクの防止対策など，患者の利益を守るための研究を積極的に進めていきたいと考えている．

### 研究業績

#### 論文

(1)原著：

- 1) Katayama S, Nishizawa K, Hirano M, Yamamura S<sup>1)</sup>, Momose Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>School of Pharmaceutical Sciences, Toho University)：Effect of polaprezinc on healing acetic acid-induced ulcers in hamsters．J Pharm Pharmaceut Sci 2000；3(1)：114-117．
- 2) 菅谷量俊，川瀬晴子，西澤健司，平野公晟，福生吉裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第2内科)：医療用医薬品と一般用医薬品の併用による問題点．日本未病システム学会雑誌 1999；5(1)：86-88．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 伊勢雄也, 内田 亨, 片山志郎, 平野公晟：Focus Chartingを用いた薬歴作成．第9回日本病院薬学会, 1999．9．
- 2) 川瀬晴子, 西澤健司, 平野公晟：熱傷患者へのアミノ配糖体系抗生物質の投与についての検討．第20回東京都病院薬剤師会 会員研究発表会, 1999．5．
- 3) 西澤光代, 濃沼政美, 平野公晟：院内製剤「IVH用ヘパロックシリンジ」の考察と調製に関する検討．日本病院薬剤師会関東ブロック第29回学術大会, 1999．7．
- 4) 中島博子, 平野公晟, 本間 博<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第1内科,<sup>2)</sup>第3内科): 治験コーディネーター(CRC)業務を試行して．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 5) 濃沼政美, 西澤光代, 瀬尾 誠, 平野公晟：付属病院における製剤業務の役割(1)．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 6) 川瀬晴子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟：「お薬の説明書」を用いた薬剤情報提供への取り組み．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 7) 菅谷 量俊, 川瀬 晴子, 西澤健司, 平野公晟：患者への薬品情報提供についての検討：情報提供のグレード分類と薬剤師としての対応．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 8) 多田けい子, 川島あゆみ, 高田未来, 井澤淑子, 西澤健司, 平野公晟：高齢患者に望ましい経口剤の剤形並びに包装形態の検討(1)．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 9) 宋 静香, 渡邊暁洋, 片山志郎, 平野公晟：整形外科病棟における薬剤管理指導業務について．第67回日本医科大学医学会総会, 1999．9．
- 10) 西澤健司, 川瀬晴子, 菅谷量俊, 片山志郎, 平野公晟, 山村重雄<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): アミノグリコシド系抗菌薬の分布容積と熱傷面積．第9回日本病院薬学会, 1999．9．
- 11) 鷺見正宏<sup>1)</sup>, 西谷篤彦<sup>1)</sup>, 明石貴雄<sup>1)</sup>, 阿部和史<sup>1)</sup>, 小清水美子<sup>1)</sup>, 豊川志保子<sup>1)</sup>, 中山博幸<sup>1)</sup>, 成田延幸<sup>1)</sup>, 前彰<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 吉尾 隆<sup>1)</sup>, 佐伯康弘<sup>1)</sup>, 橋本ひろ美<sup>1)</sup>, 並木徳之<sup>1)</sup>, 村山純一郎<sup>1)</sup>, 平野公晟(<sup>1)</sup>東京都病院薬剤師会第二教育研修部): 薬学生4週間病院実習の実施状況と問題点．第9回日本病院薬学会, 1999．9．
- 12) 濃沼政美, 西澤光代, 瀬尾 誠, 平野公晟：リスクマネジメントへの病院薬剤部の取り組み：病院薬局製剤の供給を通じて．第37回日本病院管理学会学術総会, 1999．10．
- 13) 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟, 青木 健<sup>1)</sup>, 成田 年<sup>1)</sup>, 鈴木 勉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬学部): モルヒネ併用薬としてのフルボキサミンの有用性に関する基礎的検討．日本薬学会第120年会, 2000．3．
- 14) 奥山 清<sup>1)</sup>, 伊東昭彦<sup>1)</sup>, 坂井賢一<sup>1)</sup>, 川井龍美<sup>1)</sup>, 鷺見正宏<sup>1)</sup>, 南 武夫<sup>1)</sup>, 月村正史<sup>1)</sup>, 菊野史豊<sup>1)</sup>, 細田順一<sup>1)</sup>, 片山志郎, 平野公晟(<sup>1)</sup>関東私立医大薬剤部研究会): 私立医大病院の「院外処方箋発行」に関するアンケート調査．日本薬学会第120年会, 2000．3．
- 15) 山村重雄<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>, 西澤健司, 片山志郎, 平野公晟, 高山幸三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部,<sup>2)</sup>星薬科大学薬学部): データマイニングを応用したアミノグリコシド系抗菌薬の体内動態．日本薬学会第120年会, 2000．3．

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

当センターでは、医療はサービス産業であるとの認識のもと、来るべき21世紀における理想の医療サービスを目指すべく、スタッフ一丸となって日々努力している。また、大学病院としての位置づけとして、患者の満足度を最大限に高めるよう、検査内容についても臨床的に意義のあるものに関しては臨床側と協力して新規検査項目として積極的に取り入れて充実を図っている。

研究内容については、例年循環器部門の心臓超音波を中心として行っているが、今年度は、特に慢性心不全症例に対してPDE - III阻害薬である塩酸オルプリノン（OP）を単回投与して、その血管拡張作用をair-plethysmography（AGP）を用いて評価した。

また、生理機能検査での院内感染の可能性が高い肺機能検査部門で、その対策としてスパイロフィルターの有用性とその検査成績への影響について検討し、成果を得ている。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 本間 博, 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬学<sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)</sup>: Integrated backscatter 解析を用いた左室心筋 viability 評価と心機能回復予測. 日本超音波医学会第72回学術集会, 1999. 6.
- 2) 五十嵐亜希, 小松裕子, 関口由紀子, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬学, 石井玲子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 黒田 肇, 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 平山悦之, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)</sup>): 慢性心不全症例における末梢循環の評価: 塩酸オルプリノン負荷とair-plethysmography を用いて. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 3) 小松裕子, 菅谷寿理, 関口由紀子, 山本雪貴美, 加藤政利, 五十嵐亜希, 水瀬学, 與那嶺弘子, 青木 亘, 平野美子, 瀬川純子, 緒方たつ子, 藤井克彦, 野原秀明, 齋藤公一, 平山悦之, 本間 博, 黒田 肇, 村田朗<sup>1)</sup>, 中広一善<sup>1)</sup>, 伊藤永喜<sup>1)</sup>, 金子泰之<sup>1)</sup>, 高崎雄司<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>内科学第4)</sup>): 肺機能検査におけるスパイロフィルターの有用性と検査成績への影響. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 4) 中島博子<sup>1)</sup>, 平野公成<sup>1)</sup>, 本間 博, 新 博次<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 小林正文<sup>3)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>内科学第3)</sup>): 治験コーディネーター（CRC）業務を試行して. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 5) 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 本間 博, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬学, 石井玲子, 齋藤公一, 伊月葉子, 黒田 肇, 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)</sup>): 慢性心不全例に対するPDEIII阻害薬, 塩酸オルプリノン負荷試験の試み. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第11回学術集会, 1999. 10.
- 6) 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 本間 博, 平山悦之, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)</sup>): 慢性心不全例における末梢循環の評価: 塩酸オルプリノン負荷とair-plethysmography を用いて. 第20会日本臨床薬理学会年会, 1999. 12.
- 7) 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 本間 博, 松崎つや子, 平山悦之, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)</sup>): 慢性心不全症例におけるPDE-III阻害薬, 塩酸オルプリノン負荷. 第40回日本脈管学会総会, 1999. 12.

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

外科病棟領域では、絆創膏かぶれ発生状況を対象の病態から、その要因についてを分析・検討した。

集中治療室で勤務する看護婦の経験歴に応じた仕事継続に影響を及ぼす要因の分析から、職場環境とサポートシステムについての検討を行った。冠動脈バイパス術クリティカルパス用患者オリエンテーションを活用した術前訪問を実施し、その効果と治療参加の程度、患者満足度などから、患者 - 看護婦関係についての評価を行った。BiPAP装着患者の実態調査から、有効な看護基準についての検討を行った。

クリティカルケアの場で活用できる褥創発生予測式を開発した。また、褥創発生予測式判別得点により褥創予防の

予測を行い、実際の褥創発生有無との比較を通して検査特性分析し、褥創発生予測スケールとしての精度の検証を行った。

当施設の過去5年間における低体温療法患者が併発した合併症を調査し、看護上の問題点を分類した結果、温度設定と復温時期によって合併症の併発率が大きく異なっていることが明らかになった。これらの結果をもとに低体温療法中の看護マニュアルを作成した。

## 研究業績

### 著書

- 1) 辻日呂美, 鈴木 一美, 佐藤トキ子: [分担] コミュニケーション技術 「胃癌手術を受けた患者とのコミュニケーション」. ナーシングカレッジ, 1999; pp40-44, 医学芸術社.
- 2) 佐藤憲明: [分担] 救急認定看護師による事例解説 突然の乏尿・無尿. ナース専科, 1999; pp84-87, 文化放送ブレン.
- 3) 生山美奈子, 小松ひろみ: [分担] 膠原病 コミュニケーション技術 「慢性関節リウマチ患者とのコミュニケーション」. ナーシングカレッジ, 1999; pp69-73, 医学芸術社.
- 4) 原 千鶴, 早坂百合子: [分担] 抑制ガイドラインの検討. 看護, 1999; pp49-52, 日本看護協会出版会.
- 5) 工藤優子, 長谷川幸子: [分担] コミュニケーション技術 「健忘がある痴呆性老人とのコミュニケーション」. ナーシングカレッジ, 1999; pp58-62, 医学芸術社.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 佐藤憲明: 救急看護認定看護師の現状報告と今後の展望. 第13回日本手術看護学会, 1999. 11.

#### (2) 一般講演:

- 1) 草野三奈, 町田直美, 佐藤トキ子: 絆創膏かぶれの発生状況および貧血との関連性. 日本看護学会 成人看護1, 1999. 9.
- 2) 野本真由美, 前原茂子, 原 千鶴: 集中治療室で働く看護婦の仕事継続に影響を及ぼす要因の分析. 第30回日本看護学会 看護管理, 1999. 10.
- 3) 磯由美子, 福井美和子, 瀧川真朱美, 山田貴子, 佐藤憲明, 早坂百合子: クリティカルケアに於ける効果的な褥創発生予測とケアの検討: 山勢の褥創発生アセスメントデータベースを活用して. 第1回日本救急看護学会, 1999. 11.
- 4) 小林 愛, 大橋留美, 福土真由美, 梅野奈美, 佐藤憲明, 早坂百合子: 低体温療法中に於ける呼吸合併症の検討. 第1回日本救急看護学会, 1999. 11.
- 5) 鈴木智恵子, 原 千鶴: 術前訪問から見る患者 看護婦関係. 第27回日本集中治療医学会総会, 2000. 3.
- 6) 天海恵美, 土橋夕香, 高橋邦子, 原 千鶴: BiPAP装着患者の看護基準の検討. 第27回日本集中治療医学会総会, 2000. 3.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線科技術部門は、診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般撮影、CT、RI、MRI、血管造影および放射線治療等に関する研究を日常的に行っている。

一般撮影部門では、各メーカーより開発されているスクリーン・フィルムのそれぞれの物理特徴を研究し、部位毎に最適な組み合わせによる高画質なX線写真を各科に提供するように進めている。

血管撮影部門では、回転デジタル撮影（回転DSA）システムを救急医療の現場において、特に大動脈解離症における有用性について検討を行った。1回の造影剤注入にて全周性に撮像を行うための利点が多数あり、救急医療の現場における血管撮影検査に有用なシステムと考えられた。また、得られたデータを利用した三次元再構成画像処理の作成・表示について研究を進めている。

MRI部門では、造影剤を用いたMR Angiographyの画質改善に対する研究を中心に行った。特に良好なMRAを得るために重要な、撮像タイミングの最適化に関する研究ならびに、背景信号の抑制（脂肪信号の抑制）に関する研究を行った。また、体内金属が存在する場合のMR画像への影響および安全性についてまとめた。

RI部門では、心筋ファントムを用いた心筋SPECT用体動補正プログラム（AMC）について検討し、その有用性について評価を行った。また、QGS+TMプログラムを用いた3D左室機能画像の研究を進めている。

放射線科技術部門は診療用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門毎に研究テーマをもち「正確な画像診断」を行える「よりよい画像データ」を提供できるよう研究に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 土橋俊男, 藤田 功<sup>1)</sup>, 榎 利夫, 北川松雄, 鈴木 健<sup>(1)</sup> (浦和市長立病院): 高速SE法における超常磁性酸化鉄のT2短縮効果: 実効TEに用いられるecho number (偶数・奇数)の影響。日放線技会誌 1999; 55 (10): 1009-1017。
- 2) 千葉ミチ子, 土橋俊男, 鈴木 健: Smart Prepを用いた造影三次元MR angiography: Smart Prep法の動作不良の対策について。日放線技会誌 1999; 55 (12): 1247-1251。
- 3) 土橋俊男, 藤田 功, 榎 利夫, 鈴木 健: Spectrally Selected Inversion Recovery Pulse (Spec-IR法)を用いた脂肪抑制: Phase Loopによる脂肪抑制効果への影響について。日放線技会誌 2000; 56 (2): 283-289。

#### (2) 総説：

- 1) 土橋俊男, 鈴木 健: 体内金属: 安全性とMR画像への影響。日本放射線技術学会放射線撮影分科会雑誌 1999; (32): 42-46。
- 2) 土橋俊男, 佐々木禎之, 榎 利夫, 森 克彦, 鈴木 健: Double IR Pulseを用いたFast Spin Echo Black-Blood Imagingの基礎的検討: Sampling Bandwidth, Echo Train Length, Echo Spaceと画質の関係。日本放射線技術学会東京部会雑誌 1999; (72): 80-83。

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男: 各モダリティにおける最新技術 (MRI): k-spacsから見た技術の進歩。第21日本放射線技術学会東京部会, 1999. 11。
- 2) 土橋俊男: 体内金属の身体および画像への影響: メタルアーチファクの発生原因と対策を中心に。第8回近畿MR講演会, 2000. 1。

#### (2) ワークショップ：

- 1) 土橋俊男: MR検査の安全性を考える「体内金属: 安全性とMR画像への影響」。第55回日本放射線技術学会, 1999. 4。

#### (3) 一般講演：

- 1) 尾科隆司, 小菅 豊, 鈴木 健, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (放射線医学): AMC Programの使用経験: 心筋ファントムを使用した検討。第55回日本放射線技術学会, 1999. 4。
- 2) 尾科隆司, 北俣 誠, 小菅 豊, 鈴木 健, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (放射線医学): QGS Programを用

いた3-D左室機能画像のQuick Time File化(第2報). 第55回日本放射線技術学会, 1999. 4.

- 3) 土橋俊男, 榎 利夫, 鈴木 健, 藤田 功<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>浦和市立病院): Spec-IRを用いた脂肪抑制: Phase Loopによる脂肪抑制効果への影響について. 第55回日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 4) 佐久間治子, 赤坂晃彦, 大貫洋子, 大湾朝仁, 新田武史, 鈴木 健: 大動脈解離症例に対する回転デジタル血管撮影システムの有用性. 第55回日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 5) 谷越雅幸, 小林宏之, 水谷光樹, 鈴木 健: 最新のオルソシステムの物理特性. 第27回日本放射線技術学会, 1999. 10.
- 6) 松本 剛, 土橋俊男, 榎 利夫, 岩崎 淳, 森 克彦, 鈴木 健: 造影三次元MR Angiographyにおける撮像パラメータと描出能: ファントムを用いた検討. 第21回日本放射線技術学会東京部会, 1999. 11.
- 7) 岩崎 淳, 土橋俊男, 松本 剛, 榎 利夫, 森 克彦, 鈴木 健: 頭部T1コントラストと静磁場強度の関係. 第21回日本放射線技術学会東京部会, 1999. 11.
- 8) 土橋俊男, 岩崎 淳, 松本 剛, 榎 利夫, 森 克彦, 鈴木 健: Triple Inversion Recovery Pulseを用いたBlack Blood T1強調画像の検討. 第21回日本放射線技術学会東京部会, 1999. 11.

## [ 日本医科大学腎クリニック ]

### 研究概要

当施設は, 平成9年2月に新設され, 付属病院第2内科学教室(腎臓内科)が診療・研究・教育を担当しております. 診療内容は, 外来維持透析(血液透析, 腹膜透析)と腎疾患・高血圧外来です.

研究課題; 腎性骨異栄養症(ROD)および透析アミロイド症の予防と治療を目的として, 保存期から長期維持透析期に至るまで, 骨密度, 各種骨マーカー, PTH, 2MG, AGEsなどの測定を経時的に行い, 予防を中心とする積極的な治療と研究を行っております. 2000年7月よりは, 最新のオン・ライン・HDF療法も開始の予定であります. 糖尿病性腎症の蛋白制限食開始の時期, 各種ACE阻害薬の投与などでの腎機能の経過を把握し, 治療に積極的に応用すると同時に, 尿中インテグリン測定などで糖尿病性腎症の発症に関する研究を行っております. 脳血管障害は透析患者の重要死因の一つであり, そのリスクとなる高血圧患者は多いです. 特にrecombinant erythropoietinの副作用としてコントロール困難な高血圧もあり, かつ透析中の血圧低下などで透析困難となる症例も多く, 一酸化窒素(NO), endothelin, PRAなどRAS系の測定を行い, その病態と降圧薬の影響などの研究を行っております. 体組成分析(impedance法)にて腎疾患, 特に蛋白異化亢進状態の慢性腎不全に対する栄養管理の検討を行っております. 腹膜のthree pore theoryを応用した腹膜機能検査, peritoneal equilibrium testなどによる腹膜管理と, 体組成分析(impedance法)により, 腹膜透析の処方透析, 適正透析の検討を行っております. 現在検討中でありますのは, 未治療のRODにおける破骨細胞の培養と, その時のインテグリン測定です. 結果としてではなく, 病態としての破骨細胞を診れると期待がかかっております.

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Utsumi K, Kase R<sup>1)</sup>, Takata T<sup>1)</sup>, Sakuraba H<sup>1)</sup>, Matsui N<sup>2)</sup>, Saito H<sup>3)</sup>, Nakamura T, Kawabe M, Iino Y, Katayama Y (<sup>1)</sup>Department of Clinical Genetics, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup>Department of Nephrology, Tsuchiura Kyodo Hospital, Ibaraki, Japan, <sup>3)</sup>Department of Nephrology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, Japan): Fabry disease in patients receiving maintenance dialysis. Clin Exp Nephrol 2000; 4(1): 49-51.
- 2) 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>5)</sup>, 若林一二<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>4)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 葉山修

陽, 田村浩一<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 荒牧琢己<sup>2)</sup>, 内海甲一 ( <sup>1)</sup>内科第3, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>内科第4, <sup>4)</sup>病理第1, <sup>5)</sup>病理第2): 《Conference Room》慢性腎不全に心肥大・徐脈を合併し入院精査中, 腸間膜脂肪織炎を発症した1例. 内科 1999; 83(5).

(2) 総説:

- 1) 河邊満彦, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科): ネフローゼ症候群(増刊号"薬物療法マニュアル"). 臨床外科 1999; 54(11): 486-488.

著書

- 1) 河邊満彦, 飯野靖彦: [分担]  $\alpha_2$ ミクログロブリン吸着. 透析療法辞典(中本雅彦, 佐中 孜, 秋澤忠男編集), 1999; pp108-109, 医学書院.
- 2) 河邊満彦, 飯野靖彦: [分担] 免疫吸着. 透析療法辞典(中本雅彦, 佐中 孜, 秋澤忠男編集), 1999; pp112-115, 医学書院.
- 3) 河邊満彦, 飯野靖彦: [分担] ビリルビン吸着. 透析療法辞典(中本雅彦, 佐中 孜, 秋澤忠男編集), 1999; pp109-110, 医学書院.
- 4) 松信精一, 中村 正, 大沢弘和: [翻訳] 26章: 腎臓による尿の生成. ガイトン臨床生理学(監訳 早川弘一), 1999; pp319-334, 医学書院.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Kawabe M, Takei H, Oh T, Hayama N, Iino Y, Katayama Y: Evaluation of Renal osteodystrophy with Renal Function. Eighth Annual Clinical Nephrology Meetings, National Kidney Foundation, USA (Washington DC, USA), 1999. 5.
- 2) 武井寛之, 河邊満彦, 松信精一, 王 恒維, 飯野靖彦, 片山泰朗: ギランバレー症候群における免疫吸着療法の有効性と実施開始時間に関する検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 3) 河邊満彦, 武井寛之, 王 恒維, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: %体重水分比及びhanp値からの心胸比の問題点の検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 4) 王 恒維, 酒寄 修, 鎌野千佐子, 武井寛之, 石渡明子, 松信精一, 河邊満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病・非糖尿病維持血液透析患者の脳循環における至適Hct値の検討. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.
- 5) 河邊満彦, 武井寛之, 王 恒維, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 血清AGE値及びNeurometer-CPT値からみた約1年間の  $\alpha_2$ MG値. 第42回日本腎臓学会学術総会, 1999. 6.
- 6) 斉藤 博<sup>1)</sup>, 吉川桃乃<sup>1)</sup>, 佐久間資子<sup>1)</sup>, 長井 徹<sup>1)</sup>, 柏木哲也<sup>2)</sup>, 内海甲一 ( <sup>1)</sup>都立駒込病院腎臓内科, <sup>2)</sup>博慈会記念病院): 不明熱で入院し, 抗結核療法が奏効した縦隔リンパ節結核と考えられた1例. 第44回日本透析医学会学術集会総会, 1999. 6.

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

1972年(昭和47年)の当施設開設以来, 当施設に登録された悪性腫瘍患者累積数は, 1999年(平成11年)末現在, 342,767例を算した. 丸山千里先生のご逝去後も以前同様, 多い日には新患50名前後, 再来・郵送申込を含めて500名もの多数の紹介患者を迎えている. 従来からの2万数千名にのぼる共同治験医師に, さらに新規参入がみられ, 世界に先駆けて非特異的癌免疫療法を唱導された丸山千里先生の丸山ワクチン(SSM: 人型結核菌体抽出物質)とい

う偉大な遺産が、進行期癌の治療において一層定着しつつある。また、SSMの濃厚溶液が放射線療法による白血球減少抑制剤として健保適用となったことは、基礎的ならびに臨床的研究が評価された結果である。現在、産婦人科領域の悪性腫瘍の放射線療法併用時における効果について、全国の国公立大学・国公立病院等において治験が進められている。

1979年から1999年12月までの患者数241,418例のうち23,121例(9.58%)が3年以上の長期にわたるSSM加療例であった。これらの症例の多くが進行期癌であるにも拘わらず、良好なPerformance Status(PS)を維持しつつ長期延命する症例が多数を占めていることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられ、その治療状況や成績について検討を重ねてきた。現在は、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers(BRM)としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life(QOL)向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な患者数を基にした臨床生命表を作成し、検討を続行中である。また、SSMの経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Shimizu-Suganuma M<sup>1)</sup>, Mwanatambwe M<sup>2)</sup>, Iida K, Shichinohe K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Laboratory Animal Science, <sup>2)</sup> Department of Pathology): Effect of shark cartilage on tumor growth and survival time in mice. 35th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (Atlanta, USA), 1999. 5.
- 2) Iida K, Fujita K, Hirai T, Goto H, Miyazaki S, Arai Y, Iwaki H, Sassa S<sup>1)</sup>, Mitamura T<sup>1)</sup>, Kudo H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakayama T<sup>1)</sup>, Maemura M<sup>1)</sup>, Kuwa K<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University): Preventive Effect of Polysaccharides Extracted from Human Tubercle Bacilli (Maruyama Vaccine) on Colorectal Carcinogenesis in Mice with Ulcerative Colitis. The 27th Meeting of the International Society for Oncodevelopmental Biology and Medicine (Kyoto, Japan), 1999. 11.
- 3) Shimizu-Suganuma M<sup>1)</sup>, Iida K, Shichinohe K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Laboratory Animal Science): Shark cartilage product suppressed tumor growth in mice. 2nd International Conference on Food Factors (Kyoto, Japan), 1999. 12.
- 4) Fujita K, Iida K, Hirai T, Goto H, Arai Y, Iwaki H, Miyazaki S, Takahara M, Otake M: The Clinical Statistics of Cancer Patients in Treatment with an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM, generally called "Maruyama Vaccine") and Some Clinical Cases. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 5) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活: 当施設における結核菌体抽出物質(SSM)使用登録癌患者の現況(第21報). 第37回日本癌治療学会総会, 1999. 10.
- 6) 飯田和美, 藤田敬四郎, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活: マウス実験皮膚腫瘍発生に対する人型結核菌体抽出物質(SSM)経口投与の影響(続報). 第37回日本癌治療学会総会, 1999. 10.



## 21. 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは1989年より日本医科大学付属第二病院の診療科として診療を開始した。1991年、独立した診療科として運営細則が制定され、消化器外科医、消化器内科医の協力のもとに、消化器疾患の診断から治療まで幅広く診療を行っている。森山雄吉教授（院長，部長）の指導のもとに、消化器外科，消化器内科，内視鏡の各分野の充実が進み、臨床面だけでなく、臨床腫瘍学および消化器病学にも力を入れている。

研究内容：1) 消化器癌の集学的治療，2) 腸閉塞の保存的・外科的治療，3) 再建法・吻合法の工夫，4) 上部消化管穿孔に対する大網移植術，5) 自己血輸血，6) 鏡視下手術の技術改良と適応拡大，7) 消化管・胆道・血管内へのステント留置，8) 大腸癌転移に関する免疫組織化学・分子生物学的研究，9) 肝移植の基礎的研究，10) ヘリコバクター・ピロリと上部消化管病変（胆汁逆流，微量元素との関連から），11) 肝細胞癌・大腸癌の発癌の関する基礎的研究，特に癌抑制遺伝子（老人病研究所との合同研究）12) functional dyspepsiaの病態生理，13) 胆石胆汁の微量元素分析，14) 電子内視鏡画像処理と病理組織所見との検討，15) 胃癌の免疫組織化学，16) 血液浄化法（血漿交換療法，PMX），である。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kawamura N<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Bando K<sup>2)</sup>, Koyama M, Mastumoto S<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Fujimoto J<sup>3)</sup>, Ueki T<sup>3)</sup>, Konishi N<sup>4)</sup>, Shiba T<sup>5)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of the First Surgery, <sup>3)</sup> Department of Surgery I Hyogo Medical College, <sup>4)</sup> Department of Pathology Nara Medical University, <sup>5)</sup> Faculty of Science Kitazato University ): PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors . Jpn J Cancer 1999 ; 90 : 413-418 .
- 2) Koyama M, Ito M, Nagai H<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Moriyama Y ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Inactivation of Both Alleles of the DPC4/SMAD4 Gene in Advanced Colorectal Cancers : Identification of Seven Novel Somatic Mutations in Japanese Patients . Mutation Research 1999 ; 406 : 71-77 .
- 3) Bando K<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>2)</sup>, Mastumoto S<sup>1)</sup>, Koyama M, Kawamura N<sup>2)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of the First Surgery, <sup>2)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Identification of a 1-cM Region of Common Deletion on 4q35 Associated with Progression of Hepatocellular Carcinoma . Genes Chrom Cancer 1999 ; 25 : 284-289 .
- 4) Tsunoda S, Ito M, Sakurai M<sup>1)</sup>, Yukawa M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Environmental Science, School of Social Information Studies, Otsuma Women's University, <sup>2)</sup> Division of Human Radiation Environment, National Institute of Radiological Sciences ): Comparative Study of Pathological Findings and Trace elements Profiles of Gastric Mucosa in Benign Gastric Disease . IJPIXE 1999 ; 8 ( 2 & 3 ): 115-123 .
- 5) Koyama M, Nagai H<sup>1)</sup>, Bando K<sup>1)</sup>, Ito M, Moriyama Y, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Localization of a Target Region of allelic Loss a 1-cM Interval on Chromosome 16p. 13.13 in Hepatocellular Carcinoma . Jpn J Cancer 1999 ; 90 : 951-956 .

- 6) 須田雍夫<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 田中洋一<sup>1)</sup>, 桑島良夫<sup>2)</sup>, 矢野喬史<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部, <sup>3)</sup> 栄研化学イムノアッセイ検査所): 胃癌における5-Fluorouracil感受性とThymidylate Synthase. 癌と化療 1999; 26: 2169-2173.
- 7) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 森山雄吉, 清水淑文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院保険審査室): 医療保険指導室より5術後合併症の制御: DIC, 循環不全, 呼吸不全. 臨床外科 1999; 54: 1061-1067.
- 8) 豊島 明<sup>1)</sup>, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通(<sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター外科): *Helicobacter pylori*除菌に伴う胃粘膜変化の検討: 内視鏡所見の変化とその組織像. Progress of Digestive Endoscopy 1999; 55(2): 64-66.
- 9) 塩谷 猛, 須田雍夫<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科): 胃癌を含む3臓器以上の多複癌の臨床病理学的検討. 癌の臨 2000; 46: 116-120.
- 10) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 塩谷 猛, 吉野雅則, 小峯 修, 廣田 淳, 小泉正樹, 森山雄吉: 胃癌手術における貯血式自己血輸血の有用性の検討. 日臨外会誌 1999; 60: 513.

## 著 書

- 1) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 森山雄吉, 清水淑文(<sup>1)</sup> 付属病院保険審査室): [分担] 医療保険指導室より5術後合併症の制御: DIC, 循環不全, 呼吸不全. 臨床外科, 1999; pp1061-1067, 医学書院.
- 2) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 内藤英二, 森山雄吉: [分担] 吻合器による人工肛門の作製. 手術, 1999; pp1425-1430, 金原出版.
- 3) 渡辺昌則, 森山雄吉: [分担] イレウス管留置法. 図解救急・応用処置ガイド: 縮刷版(和田 攻), 2000; pp358-363, 文光堂.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) Suda Y<sup>1)</sup>, Uchida K<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Sakamoto H<sup>1)</sup>, Hashiguchi Y<sup>1)</sup>, Shioya T, Sekine T<sup>1)</sup>, Kuwashima T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Abdominal Surgery Saitama Cancer Center Hospital, <sup>2)</sup> Division of Clinical Pathology Saitama Cancer Center Hospital): Immunohistochemical expression of Thymidylate Synthase (TS) in the several aspects of gastric cancer (GC). 3rd International Gastric Cancer Congress (Korea), 1999. 4.
- 2) Shibuya T, Uchiyama K, Shioya M, Moriyama Y, Mori H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Kusakabe Hospital): Subcutaneously performed anastomosis between a fistula and the jejunum in patients with intractable pancreatic fistula after pancreaticojejunostomy. The 38th World Congress International Society of Surgery (Vienna Austria), 1999. 8.
- 3) Toyashima A: Reflux bile acid, helicobacter pylori and trace mineral in pepticulcer patients: taurine conjugated deoxycholic acid. The 6th International Congress on Amino Acids (Bonn Germany), 1999. 8.
- 4) Isiwata T<sup>1)</sup>, Watanabe M, Nishigai K<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Moriyama Y(<sup>1)</sup> Department of Pathology Nippon Medical School): Characterization of keratinocyte growth factor and its receptor in human colon cancer. The 17th European Congress of Pathology and XIX Spanish Congress of Pathology (Spain), 1999. 9.
- 5) Kiyama T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Mastukura N<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Lee Y<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>1)</sup>, Mastuda N<sup>1)</sup>, Moriyama Y(<sup>1)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School): The Influence of Hyperbaric Oxygen on Colon Anastomotic Healing. The 13th International Congress on Hyperbaric Medicine (Kobe Japan), 1999. 11.
- 6) Tsunoda S, Ito M, Sakurai S<sup>1)</sup>, Yukawa M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Environmental Science, School of Social Information Studies, Ostuma Women's University, <sup>2)</sup> Division of Human Radiation Environment, National Institute of Radiological Sciences): Comparative study of *Helicobacter pylori* infection and trace elements profiles

- of gastric mucosa . The Third International Symposium on Bio-PIXE ( Kyoto, Japan ), 1999 . 11 .
- 7) Obara K, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Moriyama Y, Shibuya T, Uchiyama K, Ito M ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Detection of c-myc Oncogene Amplification in Colorectal Cancer Analyzed by Fluorescence in situ Hybridization . The 15th Asia Pacific Cancer Conference ( India ), 1999 . 12 .
  - 8) 豊島 明, 増田 亮<sup>1)</sup>, 古畑善章<sup>1)</sup>, 田中 勲<sup>1)</sup>, 井上雅晴<sup>1)</sup>, 武村民子, 折津 愈 ( <sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター ): Sjogren 症候群に合併した多房性胸腺腫の一切除例 . 第 122 回日本肺癌学会関東部会, 1997 . 12 .
  - 9) 小原邦彦, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第 2 ): 大腸癌における Dual Color FISH による染色体異常の検討 . 第 88 回日本病理学会, 1999 . 4 .
  - 10) 吉野雅則, 内山喜一郎, 原 一郎, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 大矢 徹<sup>2)</sup>, 渡辺英之<sup>3)</sup>, 渋谷哲男, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup> 金沢医院, <sup>2)</sup> 日産玉川病院, <sup>3)</sup> 大宮共立病院 ): 肝亜区域切除後難治性大量腹水に対し, 経頸静脈の肝内門脈大循環短略術 ( TIPS ) が著効した 1 例 . 第 86 回消化器病学会総会, 1999 . 4 .
  - 11) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 森山雄吉, 恩田昌彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第 1 外科 ): *Helicobacter Pylori* 除菌における背景胃粘膜変化の部位別検討 . 第 85 回日本消化器病学会総会, 1999 . 4 .
  - 12) 角田誠之, 伊藤正秀, 森山雄吉, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup> 国立放射線医学総合研究所環境衛生部 ): 良性胃疾患の胃粘膜内微量元素の検討 ( 第 3 報 ): 金属薄膜法による PIXE 分析の応用 . 第 57 回日本消化器内視鏡学会総会, 1999 . 5 .
  - 13) 田中洋一<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 須田 雍夫<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup>, 田久保海誉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部, <sup>3)</sup> 東京都老人研究所臨床病理部門 ): 頸胸境界部食道癌の治療成績 . 第 53 回日本食道疾患研究会, 1999 . 6 .
  - 14) 小林純哉<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 須田 雍夫<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部 ): Barrett 上皮を伴う表在食道腺癌の 3 例 . 第 41 回食道色素研究会, 1999 . 6 .
  - 15) 内田健二<sup>1)</sup>, 須田雍夫<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科 ): C 領域胃癌に対する縮小手術の検討 . 第 71 回日本胃癌学会, 1999 . 6 .
  - 16) 田中洋一<sup>1)</sup>, 須田雍夫<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup>, 山口研成<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部, <sup>3)</sup> 同消化器科 ): 胃原発悪性リンパ腫の外科治療成績 . 第 71 回日本胃癌学会, 1999 . 6 .
  - 17) 小原邦彦, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第 2, <sup>2)</sup> 付属病院第 2 外科 ): FISH 法を用いた大腸癌における C-MYC 遺伝子増幅の検討 . 第 9 回サイトメトリー学会, 1999 . 6 .
  - 18) 小山雅章, 永井尚生<sup>1)</sup>, 伊藤正秀, 森山雄吉, 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物部門 ): 肝細胞癌における第 6 番染色体長腕 6q のヘテロ接合性の消失の解析 . 第 9 回メディカルジェネティクス研究会, 1999 . 6 .
  - 19) 角田誠之, 伊藤正秀, 森山雄吉, 櫻井四郎, 湯川雅枝 ( <sup>1)</sup> 大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup> 国立放射線医学総合研究所環境衛生部 ): 良性胃疾患の胃粘膜内微量元素の検討 ( 第 4 報 ): 金属薄膜法による PIXE 分析の応用 . 第 68 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999 . 6 .
  - 20) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 森山雄吉: *H. Pylori* 除菌に伴う胃粘膜変化の検討 . 第 68 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1999 . 6 .
  - 21) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 栗原雄司, 小峯 修, 森山雄吉: 三角法による消化管吻合 ( ヴィデオ ). 第 54 回日本消化器外科学会総会, 1999 . 7 .
  - 22) 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 右田隆之<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部 ): 大腸多発癌の臨床病理学的特徴と遠隔成績, 歴史的変遷の検討 . 第 51 回大腸癌研究会, 1999 . 7 .

- 23) 塩谷 猛, 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 須田 雍夫<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup>同臨床病理部): 子宮癌放射線治療後に発生した直腸癌の3例. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 24) 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 武内 脩<sup>1)</sup>, 須田 雍夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 直腸癌根治度 A 症例の予後, 局所再発および遠隔転移のリスクファクターの検討. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 25) 栗原雄司, 南部弘太郎, 高橋真佐司<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 森山雄吉(<sup>1)</sup>湯河原厚生年金病院): 初期段階と思われた胃絨毛癌の1例. 第16回神奈川胃癌治療研究会, 1999. 7.
- 26) 小原邦彦, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>2)</sup>, 内山喜一郎, 渋谷哲男, 森山雄吉, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院第2外科): FISH法を用いた大腸癌におけるc-myc増幅の検討. 第54回日本消化器外科学会総会 プレナリーセッション, 1999. 7.
- 27) 駒崎敏昭, 渡辺昌則, 吉野雅則, 小峯 修, 小山雅章, 伊藤正秀, 渋谷哲男, 森山雄吉: 胃全摘術後空腸パウチ再建術の検討. 第16回神奈川胃癌治療研究会, 1999. 7.
- 28) 小峯 修, 渋谷哲男, 栗原雄司, 内山喜一郎, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup>, 山本泰一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 虫垂杯細胞カルチノイドの1例. 第54回日本消化器外科学会総会, 1999. 7.
- 29) 渡辺昌則, 小峯 修, 塩谷 猛, 的場康徳, 内藤英二, 内山喜一郎, 伊藤正秀, 渋谷哲男, 森山雄吉, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 西海けい子<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 大腸癌組織におけるKeratinocyte growth factor (KGF) とそのレセプターの発現と局在の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 30) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 大腸癌におけるKeratinocyte growth factor (KGF) とそのレセプターの発現. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 31) 駒崎敏昭, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 渡辺昌則, 伊藤正秀, 森山雄吉: 胃全摘術後空腸パウチ再建術の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 32) 小峯 修, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 森山雄吉: S状結腸憩室炎のより臍癭を形成した1例. 第774回外科集談会, 1999. 9.
- 33) 小山雅章, 永井尚生<sup>1)</sup>, 坂東功一, 伊藤正秀, 森山雄吉, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物部門): 肝細胞癌16p共通欠失領域の16p13. 13上1-cMへの限局化. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 34) 小山雅章, 永井尚生<sup>1)</sup>, 伊藤正秀, 森山雄吉, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物部門): 肝細胞癌における第6番染色体短腕の欠失地図の作成. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 35) 角田誠之, 伊藤正秀, 森山雄吉, 櫻井四郎, 湯川雅枝(<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 胃潰瘍の胃粘膜内微量元素の検討. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 36) 的場康徳, 栗原雄司, 渡辺昌則, 内藤英二, 内山喜一郎, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松林富士男<sup>1)</sup>, 望月 功<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ブラザ記念病院, <sup>2)</sup>東戸塚記念病院): 胃癌穿孔の術前診断と治療戦略. 第33回日本腹部救急医学会総会, 1999. 9.
- 37) 橋口陽二郎<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 右田隆之<sup>1)</sup>, 野津 聡<sup>2)</sup>, 山口研成<sup>3)</sup>, 山本邦男<sup>3)</sup>, 大倉康男<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup>同放射線診断部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>同臨床病理部): 病理組織学的分類と肉眼形態分類からみた大腸癌の悪性度. 第54回日本大腸肛門病学会総会, 1999. 10.
- 38) 角田誠之, 伊藤正秀, 森山雄吉, 櫻井四郎, 湯川雅枝(<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 良性胃疾患の胃粘膜内微量元素の検討: (第5報) 金属薄膜法によるPIXE分析の応用. 第57回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 39) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 森山雄吉, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第1外科): *H. Pylori*除菌前後の部位別背景胃粘膜変化の検討. 第57回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 10.
- 40) 豊島 明, 伊藤正秀, 森山雄吉: *H. Pylori*除菌後の経時的部位別背景胃粘膜の変化: 胃内視鏡像と病理像の比

較において．第58回日本消化器内視鏡学会総会，1999．10．

- 41) 木山輝郎<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第1外科)</sup>：大腸吻合部治癒に対する高圧酸素療法の影響．第34回日本高気圧環境医学会総会，1999．11．
- 42) 吉野雅則，渋谷哲男，栗原雄司，坊 英樹，小峯 修，廣田 淳，森山雄吉：Tension Freeヘルニア根治術の9例．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 43) 松田範子<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，秋丸琥甫<sup>1)</sup>，森山雄吉，田尻 孝<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，真々田裕宏，吉村成子<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第1外科，<sup>2)</sup> 吉村せいこクリニック，<sup>3)</sup> 病理学第2)：障害肝ラット肝切除後の残肝再生におよぼす高圧酸素療法の効果．第34回日本高気圧環境医学会総会，1999．12．
- 44) 塩谷 猛，橋口陽二郎<sup>1)</sup>，小林純哉<sup>1)</sup>，右田隆之<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，武内 脩<sup>1)</sup>，関根毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科)：大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討．第61回日本臨床外科学会総会，1999．12．
- 45) 塩谷 猛，渡辺昌則，千原直人，小峯 修，吉野雅則，栗原雄司，星野有哉，的場康德，内藤英二，平野文也，小熊将之，渋谷哲男，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院病理部)：亜分類によるsm胃癌の臨床病理学的検討．第17回神奈川胃癌治療研究会，1999．12．
- 46) 豊島 明，増田 亮<sup>1)</sup>，古畑善章<sup>1)</sup>，喜島健雄<sup>1)</sup>，野地 満<sup>1)</sup>，高島正樹<sup>1)</sup>，井上雅晴<sup>1)</sup>，田中 勲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター外科)：内視鏡的粘膜切開腫瘍核出術を施行した大きさの異なる食道粘膜下腫瘍の2例．第12回日本消化器内視鏡外科学会総会，1999．12．
- 47) 的場康德，渡辺昌則，内山喜一郎，森山雄吉，可世木久幸<sup>1)</sup>，関谷隆夫<sup>1)</sup>，山川達郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院産婦人科，<sup>2)</sup> 帝京大学溝口病院外科)：腹鏡下に作成した有茎腸管を用いた膪形成術の1例．第12回日本内視鏡外科学会総会，1999．12．
- 48) 駒崎敏昭，渡辺昌則，吉野雅則，小峯 修，小山雅章，伊藤正秀，渋谷哲男，森山雄吉：術後愁訴における胃術後再建法の比較検討．第17回神奈川胃癌研究会，1999．12．
- 49) 塩谷 猛，渡辺昌則，小熊将之，渋谷哲男，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院病理部)：亜分類によるsm胃癌の臨床病理学的検討．第72回日本胃癌学会総会，2000．2．
- 50) 駒崎敏昭，渋谷哲男，渡辺昌則，塩谷 猛，森山雄吉：胃全摘術後の空腸パウチ再建術の検討．第72回日本胃癌学会総会，2000．2．
- 51) 角田誠之，伊藤正秀，櫻井四郎，湯川雅枝<sup>(<sup>1)</sup> 大妻女子大学社会情報学部，<sup>2)</sup> 国立放射線医学総合研究所環境衛生部)</sup>：大腸腫瘍における粘膜内微量元素の検討：金属薄膜法によるPIXE分析の応用．第25回神奈川大腸疾患研究会，2000．2．
- 52) 内藤英二，森山雄吉，渋谷哲男，平野文也，渡辺昌則，的場康德，栗原雄司，駒崎敏昭，小峯 修，千原直人：イレウスにて偶然発見されたS状結腸膀胱瘻の1例．第34回日本腹部救急医学会総会，2000．3．

## [ 第二病院リハビリテーションセンター ]

### 研究概要

リハビリテーション科では脳外科，神経内科，整形外科，小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり，患者層は多彩であるとともに，スタッフも医師をはじめ理学療法士，作業療法士，言語療法士，ソーシャルワーカー，看護婦といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている．研究面にもこのことが反映され，各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている．

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ，またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている．

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている。言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソーシャルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kurusu K, Kitamura Jun-ichi : Long-latency reflexes in contracted hand and foot muscles and their relations to somatosensory evoked potentials and transcranial magnetic stimulation of the motor cortex . Clinical Neurophysiology 1999 ; 110 : 2014-2019 .

#### (2) 研究報告書：

- 1) 竹内孝仁：特別養護老人ホーム老人保健施設サービス評価事業報告書（平成10年度）. 東京都高齢者施策推進室 1999 .
- 2) 竹内孝仁：川崎市における総合的な地域リハビリテーションシステム構想について。川崎市リハビリテーションシステム基本構想検討委員会 1999 .
- 3) 竹内孝仁：高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について。世田谷区地域保健福祉審議会 2000 .
- 4) 竹内孝仁：機能訓練事業実態調査報告書。東京都衛生局 2000 .
- 5) 竹内孝仁：川崎市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画。川崎市健康福祉局 2000 .
- 6) 竹内孝仁：世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成12年度～16年度）。世田谷区 2000 .

#### (3) 総説：

- 1) 竹内孝仁：介護保険時代における理学療法士への期待。北海道理学療法士会誌 1999 ; 16 : 9-13 .
- 2) 竹内孝仁：ケアプラン：誰が、どのように作成するか。medicina 1999 ; 36 ( 5 ) : 810-811 .
- 3) 竹内孝仁：高齢者介護先進諸国の現状と問題点 3. イギリス。総合臨床 1999 ; 48 ( 増刊 ) : 393-396 .
- 4) 竹内孝仁：介護の達人になろう。ケアデザイン 1999 ; ( 2 ) : 67-69 .
- 5) 竹内孝仁：介護保険とケアマネジメント：長崎県リハビリテーション協議会20周年記念大会より。病院 1999 ; ( 7 ) : 696-702 .
- 6) 竹内孝仁：私のケアマネジメント論。ケアマネジャー 1999 ; 1 ( 創刊 ) : 9 .
- 7) 竹内孝仁：ケアマネジャーは資格ではなく機能。ケアマネジャー 1999 ; 1 ( 創刊 ) : 72-74 .
- 8) 竹内孝仁：介護保険制度におけるケアマネジメントの役割と課題：コミュニティケアが介護を変える。総合ケア 1999 ; ( 別冊 ) : 57-76 .
- 9) 竹内孝仁：介護の達人になろう3. 幕下からの脱出が鍵。ケアデザイン 1999 ; ( 3 ) : 43-45 .
- 10) 竹内孝仁：介護保険時代における地域保健の課題。公衆衛生 1999 ; 63 ( 9 ) : 650-656 .
- 11) 竹内孝仁：地域リハビリテーション：ケアマネジメントと老人保健施設。第9回全国老人保健施設大会大会誌 1999 ; 27-38 .
- 12) 竹内孝仁：閉じこもり症候群が寝たきりをつくる。笑顔 1999 ; ( 臨時増刊 ) : 6-11 .
- 13) 竹内孝仁：介護保険時代に求められるコミュニティケアの課題と展望。総合ケア 1999 ; 9 ( 11 ) : 16-23 .
- 14) 竹内孝仁：コミュニティケアマネジメントが介護の世界を変革し得るか。総合ケア 1999 ; 9 ( 12 ) : 21-39 .
- 15) 竹内孝仁：自立支援とQOLの向上を基本理念とするケアマネジメント。老年歯科医学 1999 ; 14 ( 2 ) : 79-85 .
- 16) 竹内孝仁：アルツハイマー型痴呆患者の介護（ケア）：痴呆性高齢者ケア4原則の提案。CLINICIAN 1999 ; 46 ( 486 ) : 85-90 .
- 17) 竹内孝仁：介護の達人になろう：最終回 すべての人に開かれている横綱への道。ケアデザイン 1999 ;

(4): 43-45 .

- 18) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論 介護の達人を育てよう．GPネット 2000；(1): 40-45 .
- 19) 竹内孝仁：介護論の構築：介護と自立支援．おはよう21 2000；(1): 18-21 .
- 20) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論 能力の低いケアマネジャーとは．GPネット 2000；(2): 38-40 .
- 21) 竹内孝仁：閉じこもり症候群が寝たきりをつくる．笑顔 2000；(2): 25-28 .
- 22) 竹内孝仁：介護保険導入前の現状．リハビリテーションひろば 2000；(2): 13-19 .
- 23) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論 対人サービスの3本柱．GPネット 2000；(3): 48-50 .
- 24) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論 在宅ケアにおける家族の役割．GPネット 2000；(4): 48-50 .
- 25) 竹内孝仁：介護保険システムについて：介護保険をめぐる現状．関節外科 2000；19(増刊): 40-43 .
- 26) 竹内孝仁：ケアマネジャーは役に立つか．月刊ケアマネジメント 2000；11(4): 8 .

## 著 書

- 1) 竹内孝仁，米本恭三，石神重信，石田 暉，眞野行生，宮野佐年：〔共著〕リハビリテーション医学，1999；医歯薬出版．
- 2) 竹内孝仁，Carol B：〔共著〕痴呆性老人のユースフルアクティビティ，1999；三輪書店．
- 3) 竹内孝仁：〔共著〕おとしよりとくらす：高齢者の介護のてびき，1999；文光堂．
- 4) 竹内孝仁，山崎泰彦，高橋紘士，池田省三，高橋信幸，石川 誠，丸山美知子，松本博規，筒井孝子，小山秀夫：〔共著〕介護保険システムのマネジメント，1999；医学書院．
- 5) 竹内孝仁，平田豪成：〔共著〕医療福祉の分野と実践，1999；中央法規．
- 6) 竹内孝仁：〔自著〕TAKEUCHI実践ケア学セミナー 事例研究 介護か世話か，2000；医歯薬出版．
- 7) 竹内孝仁：〔共著〕35歳からの家庭医学百科：成人病健診を受けるようになったら，2000；時事通信社．
- 8) 竹内孝仁：〔共著〕NHK すこやかシルバー介護：家庭での介護やリハビリの疑問に答える「在宅ケアと介護保険Q&A」，2000；NHK出版．
- 9) 竹内孝仁，米本恭三，石神重信：〔共著〕リハビリテーション医学，2000；医歯薬出版．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 木村義徳，宮田光明，丸山玲子，榎本雪絵，井上直子，竹内孝仁：口頭指示による膝屈伸，足踏み運動時における姿勢変化に伴う酸素摂取量の比較検討．第13回世界理学療法連盟学術集会（横浜市），1999．5．
- 2) 大矢亜野：ミトコンドリア脳筋症1症例におけるリハビリテーションの経験．第36回日本リハビリテーション医学会学術集会，1999．5．
- 3) 三松ゆかり：神奈川県内大学病院における転院援助困難ケースに対するソーシャルアクション第2報．第19回日本社会事業学術集会，1999．5．
- 4) 望月秀樹，富田義昭，熊耳さやか，竹内孝仁，長田優香：行為障害の評価の試み．第33回日本作業療法学会，1999．6．
- 5) 富田義昭，望月秀樹，熊耳さやか，長田優香，竹内孝仁：当院における摂食・嚥下障害に対する取り組み．第33回日本作業療法学会，1999．6．
- 6) 新貝尚子：失語症者の漢字：文字の読みについて．第2回認知神経心理学研究会，1999．8．
- 7) 新貝尚子：単語の読字成績が心像性によって影響された1例．第23回日本失語症学会総会，1999．11．

## [ 第二病院健康管理科 ]

### 研究概要

健康管理科では、1) 人間ドック受診者を対象とした生活習慣病の診断と予防について、2) 老人健康診査の受診者を対象とした現代老人の健康度と生活習慣との関連についてを2つの大きな主題として研究をすすめている。

本年度は、1) については、インスリン非依存型糖尿病 (NIDDM) の発症要因だけでなく、動脈硬化性危険因子として注目されているインスリン抵抗性の研究をすすめた。簡便にインスリン抵抗性を評価することができる Matthews らによるインスリン抵抗性指数 (HOMA - R (Homeostasis Model Assessment)) を用いて、インスリン抵抗性と生活習慣病との関連、また喫煙・飲酒・肥満といった生活習慣との関連を検討した。前者の結果、HOMA - R 高値群で生活習慣病が高率に認められた。また併せ持つ生活習慣病の数が増えるほど HOMA - R が高値となった。以上より、インスリン抵抗性が動脈硬化性疾患の成因に関与すると示唆された。従って、人間ドックでインスリン抵抗性を測定することは、事後指導の上からも有用と思われた。後者の結果、肥満はインスリン抵抗性の増大に関与し、またインスリン抵抗性の高い肥満は動脈硬化性疾患のリスクが高いと考えられた。喫煙と飲酒に関しては、インスリン抵抗性との関連は認められなかった。

2) については、抑うつ状態のスクリーニングに使用される SDS (Self-rating Depression Scale) テスト、心気状態に関するテスト、および背景因子についてアンケート形式でのデータ収集を行った。現在、これらを元に在宅老人の心理的評価とその影響を検討中である。

### 研究業績

#### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

- 1) 松村典昭<sup>1)</sup>、岡崎恭次<sup>1)</sup>、犬塚有紀<sup>1)</sup>、佐藤周三<sup>1)</sup>、鈴木達也<sup>1)</sup>、安室尚樹、中野博司<sup>1)</sup>、大庭建三<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup>、山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科、<sup>2)</sup> 病理第2)：2年間の経過観察後、原発性マクログロブリン血症に移行した1例。老年者造血管研究会誌 1998；7(1)：6-10。

(1) 原著：

- 1) 大庭建三<sup>1)</sup>、鯉淵 仁<sup>1)</sup>、岡崎恭次<sup>1)</sup>、猪狩吉雅<sup>1)</sup>、犬塚有紀<sup>1)</sup>、矢野 誠<sup>1)</sup>、山口 祐<sup>1)</sup>、網代由美子<sup>1)</sup>、佐藤周三<sup>1)</sup>、永井信也、鈴木達也<sup>1)</sup>、中野博司<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科)：老年糖尿病患者におけるスルホニル尿素薬療法：糖尿病罹患年数と血糖日内変動の関係からの検討。日老医誌 1999；36(10)：715-720。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 大庭建三<sup>1)</sup>、渡邊威之、木川好章<sup>1)</sup>、網代由美子<sup>1)</sup>、笹井恵子<sup>1)</sup>、永井信也、中野博司<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科)：老年糖尿病患者の肥満と食行動異常：「食行動質問表」による検討。第42回日本糖尿病学会年次学術集会、1999. 5。
- 2) 笹井恵子<sup>1)</sup>、大庭建三<sup>1)</sup>、猪狩吉雅<sup>2)</sup>、松村典昭<sup>3)</sup>、鯉淵 仁<sup>1)</sup>、矢野 誠<sup>1)</sup>、渡邊威之、中野博司<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科、<sup>2)</sup> 岡崎病院内科、<sup>3)</sup> 大宮共立病院)：血清レプチン濃度に及ぼす加齢の影響。第41回日本老年医学会学術集会、1999. 6。
- 3) 永井信也、板垣真一、安室尚樹、中野博司<sup>1)</sup>、大庭建三<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科)：生活習慣病におけるインスリン抵抗性について：人間ドックにおけるインスリン抵抗性測定の有用性。第40回日本人間ドック学会、1999. 8。



- 4) 永井信也, 安室尚樹, 板垣眞一, 中野博司<sup>1)</sup>, 大庭建三<sup>1)</sup>, 妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科): 肥満におけるインスリン抵抗性について. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 5) 永井信也, 板垣眞一, 渡邊威之, 安室尚樹, 中野博司<sup>1)</sup>, 大庭建三<sup>1)</sup>, 妻鳥昌平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院老人科): インスリン抵抗性と生活習慣について. 第17回川崎市医師会医学会, 2000. 2.

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に, 外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索といった病院病理学業務に沿った研究が主体である. また, 平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により, 細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが, 各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易となったため, 今後疾患の統計学的な解析を行っていく予定である. スタッフ(医師2名, 技師5名, 研究補助員1名)の少ない当病理部としては, 各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが, それぞれの得意分野から徐々に研究を進展させてゆきたいと考えている. また, 昨年, 一昨年の年報でも述べたが, 平成5年より続けている群馬大学との共同研究(1)臓器移植の際の保存再灌流障害(肺, 肝臓, 小腸, 心臓)に関する研究,(2)NHBD(non-heart beating donor)からの臓器移植に関する研究は, この1年の間に国内外で高い評価を得たが, さらに課題を進展させ継続中である. また, 平成7年より慶応大学医学部で, 平成9年より日大医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続中であるが, さらに症例を積み重ねることにより, 今後活発に行われるであろう臓器移植に対応の出来る体制を整えていく予定である.

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Matsumoto K, Watanabe Y, Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): Thyroid papillary carcinoma arising in ectopic thyroid tissue within a branchial cleft cyst. *Pathol Int* 1999; 49: 444-446.
- 2) Tanahashi Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): The Effect of FK409 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs. *Transpl Int* 1999; 12: 402-407.
- 3) Matsumoto K, Yamamoto T, Wen M<sup>2)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Moriyama M<sup>1)</sup>, Matsumoto T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 順天堂大学医学部第一病理学教室): Ossifying fibromyxoid tumor of soft parts: Clinicopathologic, immunohistochemical and ultrastructural study of four cases. *Pathol Int* 1999; 49: 742-746.
- 4) Oshima K<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>, Yamagishi T<sup>1)</sup>, Mohara J<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Long-Term Heart Preservation Using a New Portable Hypothermic Perfusion Apparatus. *J Heart Lung Transplant* 1999; 18: 852-861.
- 5) Iwanami K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morisita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of Lazaroid U-74389G on extended liver resection with ischemia in dogs. *Surgery* 1999; 126: 908-917.
- 6) Mohara J<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Oshima K<sup>1)</sup>, Yamagishi T<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): A Comparative Study of Celsior and University of Wisconsin Solutions Based on 12-hr Preservation Followed by Transplantation in Canine Models. *J Heart Lung Transplant* 1999; 18: 1202-1210.

- 7) Izumi T<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Kawasima Y<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Kobayashi J<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Satoh S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effect of FR167653 on Small Bowel Ischemia-Reperfusion Injury in Dogs . Dig Dis Sci 1999 ; 44 ( 11 ): 2334-2343 .
- 8) Sunose Y<sup>1)</sup>, Izumi T<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tamizawa N<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The Effect of FK409-a Nitric Oxide Donor-on Canine Lung Transplantation . J Heart Lung Transplant 2000 ; 19 : 298-309 .
- 9) Izumi T<sup>1)</sup>, Otani Y<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Beneficial Effect of Novel Nitric Oxide Donor ( FK409 ) on pulmonary Ischemia-Reperfusion Injury in Rats . J Heart Lung Transplant 2000 ; 19 ( 2 ): 185-192 .
- 10) Otani Y<sup>1)</sup>, Izumi T<sup>1)</sup>, Koibuchi Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Muramoto M<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The Effect of FR167653 on pulmonary Ischemia-Reperfusion Injury in Rats . J Heart Lung Transplant 2000 ; 19 : 377-383 .
- 11) Tanahashi Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Kamoshita N<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Ohawda S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of steroids on pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs . Kitakanto Med J 2000 ; 50 ( 3 ): 209-214 .
- 12) 木村陽一<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 山本泰一, 松本光司, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田代征夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>横浜労災病院病理部): 下眼瞼に生じた悪性黒色腫の1例 . 日本皮膚組織病理学会 1999 ; 15 : 70-73 .
- 13) 斎藤良明, 太田吉男, 山本泰一, 松本光司: 著明なメラニン産生を示した明細胞肉腫の1例 . 神奈川臨検技師会誌 1999 ; 34 : 219-223 .
- 14) 松本俊治<sup>1)</sup>, 前山史郎<sup>2)</sup>, 志賀淳治<sup>3)</sup>, 永山亮造<sup>4)</sup>, 上垣佐登子<sup>4)</sup>, 滝川 一<sup>4)</sup>, 三宅和彦<sup>4)</sup>, 三浦英明<sup>5)</sup>, 山田春木<sup>5)</sup>, 石川 隆<sup>6)</sup>, 大部 誠<sup>7)</sup>, 柴田 実<sup>8)</sup>, 馬場俊之<sup>8)</sup>, 三田村圭二<sup>8)</sup>, 大竹寛雄<sup>9)</sup>, 太田裕彦<sup>10)</sup>, 松本光司, 福里利夫<sup>11)</sup>, 近藤福夫<sup>12)</sup>, 中野雅行<sup>13)</sup>, 内田俊和<sup>14)</sup>, 打越寛雄<sup>2)</sup>, 山中正己<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部第一教室, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学病理, <sup>3)</sup>帝京大学医学部病理, <sup>4)</sup>帝京大学医学部内科, <sup>5)</sup>社会保険中央総合病院内科, <sup>6)</sup>東京大学医学部第三内科, <sup>7)</sup>北里大学医療衛生学部病理, <sup>8)</sup>昭和大学医学部第二内科, <sup>9)</sup>都立駒込病院内科, <sup>10)</sup>東芝中央病院内科, 日本医科大学付属第二病院病理部, <sup>11)</sup>群馬大学医学部病院病理, <sup>12)</sup>社会保険船橋中央病院病理, <sup>13)</sup>千葉大学医学部病院病理, <sup>14)</sup>昭和大学医学部病理): 原発性硬化性胆管炎 ( PSC ) の診断をめぐる臨床・病理学的問題点 . 診療と新薬 1999 ; 36 : 559-570 .
- 15) 大部 誠<sup>1)</sup>, 前山史郎<sup>2)</sup>, 岩場昌子<sup>2)</sup>, 尾形靖一郎<sup>2)</sup>, 中沢貴秀<sup>3)</sup>, 渋谷明隆<sup>3)</sup>, 国分茂博<sup>3)</sup>, 林 星舟<sup>4)</sup>, 佐伯俊一<sup>4)</sup>, 永山亮造<sup>4)</sup>, 大竹寛雄<sup>4)</sup>, 山崎滋孝<sup>5)</sup>, 松本俊治<sup>5)</sup>, 飯原久仁子<sup>6)</sup>, 松本光司, 福里利夫<sup>7)</sup>, 加藤佳瑞紀<sup>8)</sup>, 近藤福雄<sup>9)</sup>, 石川 隆<sup>10)</sup>, 太田裕彦<sup>11)</sup>, 奥平雅彦<sup>12)</sup>, 打越敏之<sup>2)</sup>, 志賀淳治<sup>13)</sup>, 三宅和彦<sup>14)</sup>, 山中正己<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学医療衛生学部病理, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学病理, <sup>3)</sup>北里大学医学部消化器内科, <sup>4)</sup>都立駒込病院内科, <sup>5)</sup>順天堂大学医学部第一病理, <sup>6)</sup>杏林大学医学部病理, <sup>7)</sup>群馬大学医学部病院病理, <sup>8)</sup>千葉大学医学部第二病理, <sup>9)</sup>社会保険船橋中央病院病理, <sup>10)</sup>東京大学医学部第三内科, <sup>11)</sup>東芝中央病院内科, <sup>12)</sup>北里大学名誉教授, <sup>13)</sup>帝京大学医学部病理, <sup>14)</sup>帝京大学医学部内科): 非硬変性門脈圧亢進症を巡る諸問題: 特に背景病変と肝内腫瘍性病変について . 診療と新薬 1999 ; 36 : 752-761 .
- 16) 菊池真理<sup>1)</sup>, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 梶原景子<sup>1)</sup>, 菊竹晴子<sup>1)</sup>, 南部春江<sup>1)</sup>, 山本博人<sup>1)</sup>, 小俣 香<sup>1)</sup>, 高橋政之<sup>1)</sup>, 山本 章<sup>1)</sup>, 松本光司, 太田吉男, 長澤由英 (<sup>1)</sup>第二病院放射線科): 喀痰中に異型細胞が検出された肺塞栓症の1例 . 日本胸部臨床 1999 ; 58 ( 7 ): 491-495 .
- 17) 志賀淳治<sup>1)</sup>, 三宅和彦<sup>2)</sup>, 前山史郎<sup>3)</sup>, 打越敏之<sup>3)</sup>, 山田春木<sup>4)</sup>, 大竹寛雄<sup>5)</sup>, 松本俊治<sup>6)</sup>, 福里利夫<sup>7)</sup>, 大部 誠<sup>8)</sup>, 内田俊和<sup>9)</sup>, 太田裕彦<sup>10)</sup>, 近藤福雄<sup>11)</sup>, 中野雅行<sup>12)</sup>, 松本光司, 山中正己<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部病理, <sup>2)</sup>帝京大学医学部内科, <sup>3)</sup>聖マリアンナ医科大学病理, <sup>4)</sup>社会保険中央総合病院内科, <sup>5)</sup>東京都立駒込病院病理科, <sup>6)</sup>順天堂大学医学部第一病理, <sup>7)</sup>群馬大学医学部付属病院病理, <sup>8)</sup>北里大学医療衛生学部病理, <sup>9)</sup>昭和

大学医学部病理,<sup>10)</sup> 東芝中央病院内科,<sup>11)</sup> 社会保険船橋中央病院病理,<sup>12)</sup> 千葉大学医学部病院病理): 薬剤性肝障害の診断を巡る問題点. 診療と新薬 1999; 37: 18-34.

#### 学会発表

##### (1) ワークショップ:

- 1) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 鯉淵幸生<sup>1)</sup>, 笠原群生<sup>1)</sup>, 小山 透<sup>1)</sup>, 中曽根豊<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラットエンドトキシン血症時のFR167653の有用性とサイトカイン発現調節におけるMAPKinaseの関与. 第54回日本消化器外科外科学会総会, 1999. 7.

##### (2) 一般講演:

- 1) Mohara J<sup>1)</sup>, Oshima K<sup>1)</sup>, Yamagishi T<sup>1)</sup>, Koyano T<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): A comparative study of the Celsior and the University of Wisconsin solution based upon 12-hr preservation followed by transplantation in canine models. The 19th Annual Meeting and Scientific Sessions of the International Society of Heart and Lung Transplantation (San Francisco), 1999. 4.
- 2) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FK409 on ischemia-reperfusion injury in canine lung transplantation models. The 25th Meeting of the American Society of Transplant Surgeons (Chicago), 1999. 5.
- 3) Iwazaki S<sup>1)</sup>, Owada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Protective effect of FR128998, PAF antagonist the increase of pulmonary vascular resistance associated with ischemia-reperfusion injury in canine lung. The 41st Annual World Congress of the International College of Angiology (Sapporo), 1999. 7.
- 4) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The protective effect of FR183998 against the increase of microvascular permeability associated with ischemia-reperfusion injury in canine lung. The 41st Annual World Congress of the International College of Angiology (Sapporo), 1999. 7.
- 5) Mohara J<sup>1)</sup>, Oshima K<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): FK409 enhances posttransplant cardiac function following 12-hr cold preservation. The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation (Singapore), 1999. 9.
- 6) Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Kasahara M<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Owada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of cyclooxygenase inhibitor (FK3311) on ischemia reperfusion injury with hepatectomy in dogs. The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation (Singapore), 1999. 9.
- 7) Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tanahashi Y<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Kasahara M<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Spontaneous nitric oxide donor (FK409) ameliorates pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs. The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation (Singapore), 1999. 9.
- 8) Iwazaki S<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Owada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): FR128998 ameliorates liver injury after ischemia-reperfusion with extended liver resection in dogs. The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation (Singapore),

1999 . 9 .

- 9) Aiba M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Kobayashi J<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FR167653 on ischemia- reperfusion injury with extended liver resection in dogs . The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 10) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FR167653 on ischemia-reperfusion injury in canine lung transplantation models . The 6th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Sigapore ), 1999 . 9 .
- 11) Otani Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FK409 on pulmonary ischemia reperfusion injury in rats . The 6 th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Singapore ), 1999 . 9 .
- 12) 棚橋美文<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 松本光司, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺温阻血再灌流に対するNOドナーFK409の有用性 . 第99回日本外科学会総会, 1999 . 3 .
- 13) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 石川 仁<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 大谷嘉己<sup>1)</sup>, 鯉淵幸生<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺の虚血再灌流に対するIL-1及びTNF-a産生阻害剤FR167653の有用性 . 第99回日本外科学会総会, 1999 . 3 .
- 14) 饗場正明<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺移植におけるFR167653の有用性に関する実験的検討 . 第99回日本外科学会総会, 1999 . 3 .
- 15) 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺虚血再灌流障害に対するPlatelet-Activating Factor ( PAF ) 拮抗剤FR128998の効果 . 第99回日本外科学会総会, 1999 . 3 .
- 16) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 血行遮断を伴う拡大肝切除術におけるPlatelet-Activating Factor ( PAF ) 拮抗剤FR128998の効果 . 第99回日本外科学会総会, 1999 . 3 .
- 17) 松本光司, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): Multiple pulmonary metastasizing leiomyomasを伴ったuterine intravenous leiomyomatosisの1例 . 第88回日本病理学会総会, 1999 . 4 .
- 18) 茂原 淳<sup>1)</sup>, 高橋 徹<sup>1)</sup>, 大嶋清宏<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 山岸敏治<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 小谷野哲也<sup>1)</sup>, 石川 進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 同所性心移植におけるCelsior液の心保護効果 . 第17回日本心臓移植研究会, 1999 . 5 .
- 19) 弓削真由美<sup>1)</sup>, 中川絵里<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 山本泰一, 松本光司, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科): 腰部に生じた脂腺腫の1例 . 日本皮膚科学会東京地方回第746回, 1999 . 5 .
- 20) 中川絵里<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 郡家正彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科): Lymphangioma circumscriptumの1例 . 日本皮膚科学会東京地方回第746回, 1999 . 5 .
- 21) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるCyclooxygenaseII拮抗剤FK3311の効果 . 第54回日本消化器外科外科学会総会 , 1999 . 7 .
- 22) 木村陽一<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 山本泰一, 松本光司, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田代征夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>横浜労災病院病理部): 下眼瞼に生じた悪性黒色腫の1例 . 第15回日本皮膚組織病理学会 , 1999 . 7 .
- 23) 小峰 修<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司, 山本泰一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器

- 病センター，<sup>2)</sup>第二病院病理部): 虫垂杯細胞カルチノイドの1例．第54回日本消化器外科学会総会，1999．7．
- 24) 竹吉 泉<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，岩崎 茂<sup>1)</sup>，須納瀬豊<sup>1)</sup>，堤 裕史<sup>1)</sup>，富沢直樹<sup>1)</sup>，饗場正明<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，小川哲史<sup>1)</sup>，川手 進<sup>1)</sup>，笠原群生<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺の虚血再灌流実験モデルにおける CyclooxygenaseII 拮抗剤 FK3311 の有効性．第35回日本移植学会，1999．9．
- 25) 川島吉之<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，大谷嘉巳<sup>1)</sup>，鯉淵幸生<sup>1)</sup>，饗場正明<sup>1)</sup>，須納瀬豊<sup>1)</sup>，吉成大介<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺の温阻血における p38 MAPkinase の発現とサイトカイン産生阻害剤 FR167653 の p38 MAPkinase の発現に対する効果．第35回日本移植学会，1999．9．
- 26) 須納瀬豊<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，岩崎 茂<sup>1)</sup>，饗場正明<sup>1)</sup>，富沢直樹<sup>1)</sup>，堤 裕史<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，小川哲史<sup>1)</sup>，川手 進<sup>1)</sup>，笠原群生<sup>1)</sup>，織内 登<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 肺移植における FK409 の有効性．第35回日本移植学会，1999．9．
- 27) 大谷嘉巳<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，吉成大介<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，森下靖雄<sup>1)</sup>，松本光司(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラットの肺虚血再灌流傷害における新しい NO ドナー (FK409) の有用性．第35回日本移植学会，1999．9．
- 28) 山岸茂樹<sup>1)</sup>，久吉隆郎<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>，家所良夫<sup>1)</sup>，山下浩二<sup>1)</sup>，増田 栄<sup>1)</sup>，平野滋之<sup>1)</sup>，織井恒安<sup>1)</sup>，川村純<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>2)</sup>，松本光司，田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科，<sup>2)</sup>同放射線科，<sup>3)</sup>付属病院第2外科): 有茎肋間筋・動静脈・神経による横隔神経合併切除後神経再建の試みについて．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 29) 久吉隆郎<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>，家所良夫<sup>1)</sup>，山本浩二<sup>1)</sup>，増田 栄<sup>1)</sup>，平野滋之<sup>1)</sup>，織井恒安<sup>1)</sup>，山岸茂樹<sup>1)</sup>，川村純<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>，松本光司，田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科，<sup>2)</sup>付属病院第2外科): 呼吸器外科手術における結核及び非定型抗酸菌症例の検討．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 30) 山岸茂樹<sup>1)</sup>，久吉隆郎<sup>1)</sup>，川村 純<sup>1)</sup>，織井恒安<sup>1)</sup>，山下浩二<sup>1)</sup>，増田 栄<sup>1)</sup>，家所良夫<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>，松本光司，平田知己<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院第2外科): 奇静脈葉に合併した肺癌の一切切除．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 31) 久吉隆郎<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>，家所良夫<sup>1)</sup>，山本浩二<sup>1)</sup>，増田 栄<sup>1)</sup>，織井恒安<sup>1)</sup>，山岸茂樹<sup>1)</sup>，川村 純<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>，松本光司，田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院第2外科): 胸腺カルチノイド再発手術2症例について．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 32) 塩谷 猛<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，千葉直人<sup>1)</sup>，小峰 修<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，栗原雄司<sup>1)</sup>，星野有哉<sup>1)</sup>，的場康德<sup>1)</sup>，内藤英二<sup>1)</sup>，平野文也<sup>1)</sup>，小熊将之<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>，松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 亜分類による sm 胃癌の臨床病理学的検討．第17回神奈川胃癌治療研究会，1999．12．
- 33) 須納瀬豊<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，堤 裕史<sup>1)</sup>，饗場正明<sup>1)</sup>，富沢直樹<sup>1)</sup>，川島吉之<sup>1)</sup>，川手 進<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 犬の肺移植実験における NO ドナー FK409 の有効性について．第16回日本肺及び心肺移植研究会，2000．2．
- 34) 塩谷 猛<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，小熊将之<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>，松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 亜分類による sm 胃癌の臨床病理学的検討．第72回日本胃癌学会総会，2000．2．
- 35) 須納瀬豊<sup>1)</sup>，大和田進<sup>1)</sup>，竹吉 泉<sup>1)</sup>，堤 裕史<sup>1)</sup>，川田 清<sup>1)</sup>，笠原群生<sup>1)</sup>，松本光司，森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 心停止ドナーからの小腸移植における endothelin 拮抗剤の有効性について．第13回小腸移植研究会，2000．3．

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

近年，臨床検査は保険点数上の絡みを含め，ルーテイン測定項目としては頭打ちの状況である．

一方、臨床検査の自動化が進む中で、新機種の傾向として同機種上で、生化学、内分泌、免疫学的検査が測定可能となり、経済性を重視したスポット項目測定機種、また緊急時に最重要とされる感染症測定機種と現況に求められている機種が開発されている。

今般、日常における検査水準を24時間維持し、より多くの情報提供する目的で、国内で初めて輸血時の交差試験、不規則抗体、血液型の同時測定機の導入を計ったので維持を含め報告する。

## 研究業績

### 著書

- 1) 菅原 通：〔分担〕第2部 臨床で使用されるチューブ類の知識・感染症の微生物検査（第11回日本臨床微生物学会総会），2000；pp105-137，日本臨床微生物学会。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 菅原 通，天野 肇<sup>1)</sup>，高木妙子<sup>1)</sup>，田沢節子<sup>1)</sup>，二本柳伸<sup>1)</sup>，宮本豊一<sup>1)</sup>，阿部美知子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川臨床微生物研究会)：神奈川県内11施設における臨床分離菌のラクタマーゼ陽性率。第48回日本臨床衛生検査学会，1999.5.
- 2) 丹羽美和，小伊藤保雄，畑 哲，森本 進，新宅孝征，松岡和彦：糖尿病検査項目自動分析装置DM-JACKの性能評価。第67回日本医科大学医学学会総会，1999.9.
- 3) 西島美輝子，山賀節子，越谷美由紀，鈴木久美，荒井誠一，渡部紀子，狩野貴子，新宅孝征，松岡和彦，宗像一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：老年層の白衣高血圧と血圧日内変動について。第67回日本医科大学医学学会総会，1999.9.
- 4) 井上雅則，井梅和美，花出 豊，新宅孝征，松岡和彦，島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科)：Auto Vueシステム導入による輸血検査の24時間体制。日本医科大学医学学会第99回例会，1999.11.
- 5) 菅原 通，阿部美知子<sup>1)</sup>，高木妙子<sup>2)</sup>，佐川孝夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学医療衛生学部，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院臨床検査部，<sup>3)</sup>神奈川県子ども医療センター検査科)：日常診療に使用されるカテーテル類の供覧。第11回日本臨床微生物学会総会，2000.2.

## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

医薬品の適正使用について厚生省薬務局より「21世紀の医薬品のあり方に関する懇談会」の最終報告書が出されてすでに7年が経過した。これに合わせて、当院薬剤科は「適正な薬物療法の実践」を目標に掲げ、「患者QOLへの薬剤師の関わり」という継続テーマで医療現場に参画し、今年も研究発表を行った。

また、薬剤情報提供において外来患者がより求めている情報の項目を調査し、実際に必要とされている情報の見直しなどに重点を置いた研究発表も行った。

医薬分業が叫ばれ、病院薬剤師の業務も外来患者から入院患者へとシフトし、薬剤管理指導業務を軸に適正使用のみならず、誤投薬防止のためのリスクマネージャーとしての活躍をも視野に入れた活動を行っていく所存である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 木村利美<sup>1)</sup>，岩田政則<sup>2)</sup>，小坂好男，許斐吟子<sup>3)</sup>，竹内尚子<sup>4)</sup>，永野弘子<sup>5)</sup>，中村和夫<sup>2)</sup>，深谷真理子<sup>6)</sup>，山崎

頭<sup>7)</sup>、佐川賢一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学病院薬剤部、<sup>2)</sup>横浜市立大学医学部附属病院薬剤部、<sup>3)</sup>東海大学医学部附属病院薬剤部、<sup>4)</sup>北里大学東病院薬剤部、<sup>5)</sup>昭和大学藤が丘病院薬剤部、<sup>6)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜西部病院薬剤部、<sup>7)</sup>聖マリアンナ医科大学病院薬剤部): 医薬品情報活動の現状分析と変遷: 神奈川県内病院での調査・研究. 病院薬学 1999; 25(6): 656-662.

2) 深谷真理子<sup>1)</sup>、木村利美<sup>2)</sup>、小坂好男、許斐吟子<sup>3)</sup>、竹内尚子<sup>4)</sup>、永野弘子<sup>5)</sup>、山崎 顕<sup>6)</sup>、中村和夫<sup>7)</sup>、佐川賢一<sup>2)</sup>、酒井英洋<sup>8)</sup>、小林輝明<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜西部病院薬剤部、<sup>2)</sup>北里大学病院薬剤部、<sup>3)</sup>東海大学医学部附属病院薬剤部、<sup>4)</sup>北里大学東病院薬剤部、<sup>5)</sup>昭和大学藤が丘病院薬剤部、<sup>6)</sup>聖マリアンナ医科大学病院薬剤部、<sup>7)</sup>横浜市立大学医学部附属浦舟病院薬剤部、<sup>8)</sup>横浜赤十字病院薬剤部): 適応外使用についての調査報告: 現状と問題点. 日本病院薬剤師会雑誌 1999; 35(11): 1513-1517.

#### 学会発表

##### (1) セミナー:

- 1) 小坂好男: DI業務の実際. 神奈川県病院薬剤師会実務者研修会, 1999. 6.
- 2) 村川弥栄子: 薬の知識 Part3. 日本医科大学公開講座, 1999. 10.
- 3) 山崎まゆ美: 薬の知識 Part3. 日本医科大学公開講座, 1999. 10.
- 4) 野口周作, 小坂好男, 毛利多嘉江, 園部直美, 佐藤数馬, 菊池有道: 医療従事者からみた病棟薬剤師. 第6回川崎市南部医療圏病院薬剤師セミナー, 2000. 3.

##### (2) 一般講演:

- 1) 毛利多嘉江, 小坂好男, 菊池有道, 上野照子<sup>1)</sup>、鯨澤理人<sup>2)</sup>、宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部、<sup>2)</sup>内科): 患者QOLへの薬剤師の関わり(第V報): エンドステージの1症例. 第9回日本病院薬学会年会, 1999. 9.
- 2) 平原理香, 渋谷正則, 赤羽伸一, 森田秋夫, 菊池有道: 外来患者に対する薬剤情報提供のアンケート. 第7回神奈川県病院薬剤師会学術大会, 1999. 11.

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院病理部 ]

#### 研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 病理学教室から大学院生が病理部に配属され, また臨床医の病理部での研究も行われるようになり, さらにタイ国病理学者の留学以外にも中国より留学中の整形外科医を大学院生および研究生として迎え, 研究部門もさらに充実してきた。

現在の主な研究テーマは以下の通りである。

(1) 乳腺腫瘍; 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立, 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について, 3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究 (特に接着因子と基底膜分解酵素について)

(2) 骨軟部腫瘍; 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用), 2) Solitary fibrous tumor および GIST (gastro intestinal stromal tumor) について

(3) 子宮癌; 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法。

(4) リンパ節病変; 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ, 2) リンパ節病変の分子生物学的検索, 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学。

(5) 体腔液の細胞診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Mernyei M<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Kimura M<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, SRL, Inc): Cytodiagnosis by static electronic images: Telecytology of cervical smears and breast aspirates. J Jpn Soc Clin Cytol 1999; 38 (6): 517-521.
- 2) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 白川 毅<sup>2)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 水谷 宗<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 片山博徳 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 消化管の創傷: ヒト十二指腸潰瘍における塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) および線維芽細胞増殖因子 (bFGF) の発現の解析. Progress in Medicine 1998; 18: 2059-2060.
- 3) 北川泰之<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 澤泉卓哉<sup>1)</sup>, 角田 隆<sup>1)</sup>, 丸山晴久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>整形外科): 手の骨・軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の経験. 東日本整災会誌 1999; 11 (2): 288-293.
- 4) 前田昭太郎, 細根 勝, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 穿刺吸引細胞診の役割. 病理と臨床 1999; 17 (9): 886-893.
- 5) 藤田千歳<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup>付属病院産婦人科, <sup>3)</sup>同病理部): 子宮がん検診の頸部細胞診が発見の契機となった Normal-size ovary carcinoma syndrome の1例. 日臨細胞会誌 2000; 39 (2): 117-118.

##### 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

##### プレナリーセッション:

- 1) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>2)</sup>, 水谷 宗<sup>1)</sup>, 木山輝



郎<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 片山博徳 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2 ): 消化管の創傷治療: ヒト十二指腸潰瘍における TGF-a/EGFR, S-2 および bFGF/FGFR の発現の解析. 第84回日本消化器病学会総会, 1998. 4.

一般講演:

- 1) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 水谷崇<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>3)</sup>, 末松伸夫<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>4)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>内科学第3, <sup>4)</sup>病理学第2 ): 消化管の創傷治療: ヒト十二指腸潰瘍における増殖因子およびその増殖因子受容体等の局在, 発現の解析. 第28回創傷治療研究会, 1998. 2.
- 2) 長谷川匡<sup>1)</sup>, 横山良平<sup>2)</sup>, 別府保男<sup>2)</sup>, 下田忠和<sup>3)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>国立がんセンター-研究所病理部, <sup>2)</sup>国立がんセンター-中央病院整形外科, <sup>3)</sup>国立がんセンター-中央病院臨床検査部病理 ): 左脛骨骨腫瘍. 第31回日本整形外科学会. 骨, 軟部腫瘍学術集会, 1998. 6.
- 3) 北川泰之<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 青木孝文<sup>1)</sup>, 丸山晴久<sup>1)</sup>, 南部昭彦<sup>1)</sup>, 高比良薫<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 横山宗伯<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部 ): 腓骨遠位端骨腫瘍. 第31回日本整形外科学会. 骨, 軟部腫瘍学術集会, 1998. 6.
- 4) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根勝, 片山博徳, 末岡伸夫<sup>3)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>内科学第3 ): 消化管の創傷治療: ヒト十二指腸潰瘍治療過程における増殖因子およびその受容体等の局在ならびに発現の解析. 第40回日本消化器学会大会, 1998. 10.

(1) 特別講演:

- 1) 前田昭太郎: 乳腺腫瘍の細胞診: 臨床所見 (画像) との関連性. 第4回多摩乳腺懇話会, 1999. 6.
- 2) 前田昭太郎: 細胞診断と病理診断. 第7回日本細胞学会千葉支部会研修会, 2000. 1.

(2) 教育講演:

- 1) 前田昭太郎: 骨, 軟部腫瘍の細胞診. 平成11年度細胞診従事者講習会, 2000. 2.

(3) シンポジウム:

- 1) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 尾崎正行: 病院病理部の現況: 多摩永山病院病理部の現況. 日本医科大学医学会第100回例会, 2000. 2.

(4) セミナー:

- 1) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝: 画像診断と細胞診シリーズ2: 乳腺: 画像診断と細胞判定 (所見) の一致した症例について. 第37回細胞検査士教育セミナー, 1999. 8.

(5) ワークショップ:

- 1) Maeda S: Cytologic Diagnosis of Body Fluid Specimen. Workshop on Cytologic Diagnosis of Female Genital Tract and Body Fluid Specimen (Khon Kaen, Thailand), 2000. 1.
- 2) Maeda S: Cytodignosis of breast. The Sixth Thai-Japanese Workshop in Diagnosis Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2000. 2.
- 3) Maeda S: Apocrine Carcinoma of the Breast By Fine Needle Aspiration Cytology: A Case Report. The Sixth Thai-Japanese Workshop in Diagnosis Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2000. 2.
- 4) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 磯部宏昭, 原 博, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科 ): 乳腺の細胞診: 判定困難例の検討. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.

(6) 一般講演:

- 1) Hosone M, Maeda S, Katayama H, Sugisaki Y, Siota M<sup>1)</sup>, Mori S<sup>1)</sup>, Asano G ( <sup>1)</sup>The Institute of Medical

Science, The University of Tokyo. Tokyo, Japan ): CD56+Non-Nasal Aggressive NK cell Lymphoma with Co-expression of Fas and Fas-Ligand . VII. International Conference on Malignant Lymphoma ( Lugano, Switzerland ), 1999 . 6 .

- 2) 細根 勝, 前田昭太郎, 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 片山博徳, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 極めて緩慢な経過を示すCD5陽性, 肺原発低悪性度B細胞性MALT型リンパ腫と考えられる1例. 第88回日本病理学会, 1999 . 4 .
- 3) 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 細胞診の併用が術中診断に有用であった扁桃原発パーキットリンパ腫の1例. 第88回日本病理学会, 1999 . 4 .
- 4) 片山博徳, 前田昭太郎, 大石一二三<sup>1)</sup>, 細根 勝, 澤田名美枝<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>協同乳業研究所素材開発部, <sup>2)</sup>病理学第2): 転移性腫瘍におけるヘパリチナーゼの局在部位におけるp53蛋白およびPCNAの発現. 第88回日本病理学会, 1999 . 4 .
- 5) 中村慶春<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 大野智康<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 瀧田雅二<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科第1): 脾原発平滑筋腫の1例. 第11回日本肝胆脾外科学会, 1999 . 5 .
- 6) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 杉崎健一<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 三田俊二<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>同産婦人科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 卵巣hepatoid carcinomaの1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999 . 6 .
- 7) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大野智康<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 加藤圭介<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科第1): 急性腹症にて発症した原因不明の全大腸壊死の1例. 日本救急医学会関東地方会, 1999 . 6 .
- 8) 磯部宏昭, 細根 勝, 前田昭太郎, 原 博, 片山博徳, 柳田裕美, 日吾美栄子, 阿部久美子, 江上 格<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 捺印細胞診が有効であった脾臓浸潤を伴う脾内分泌腫瘍の1例. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999 . 6 .
- 9) 高橋 翼<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 肝のinflammatory pseudotumorの1例: FNAは有用か?. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999 . 6 .
- 10) 長尾 緑<sup>1)</sup>, 白田忠男<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 大島美子<sup>1)</sup>, 猪狩優子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup>付属病理部): 喀痰集検で発見された上気道癌. 第10回日本口腔病理学会総会, 1999 . 8 .
- 11) 澤田名美枝, 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 穿刺吸引細胞診の併用が術中迅速細胞診に有効であった扁桃原発パーキットリンパ腫の1例. 第10回日本口腔病理学会総会, 1999 . 8 .
- 12) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 小倉順子<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>病理学第2): 約10年間の緩徐な臨床経過を示す肺原発CD5+ low-grade B-cell MALT lymphomaと考えられる1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 13) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 穿刺吸引材料に対する電顕的検索が診断に有用であった乳癌の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 14) 草薮博昭<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 原発性頭蓋骨腫瘍と鑑別が困難であった転移性頭蓋骨腫瘍の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 15) 四田千穂美<sup>1)</sup>, 菊地英子<sup>1)</sup>, 杉原秀人<sup>1)</sup>, 澤柳妙子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>同救命救急センター): 虫垂炎診断されたアメーバ性大腸炎の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .
- 16) 三田俊二<sup>1)</sup>, 國重浩二<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 磯崎太一<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎: 産褥7ヵ月に発症した卵巣卵黄嚢腫の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999 . 9 .

- 17) 枝川聖子<sup>1)</sup>, ガジザテモハマッド<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 太田吉男<sup>3)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 片山博徳, 前田昭太郎, 小黒辰夫<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門,<sup>2)</sup>付属病院病理部,<sup>3)</sup>第二病院病理部,<sup>4)</sup>千葉北総病院病理部): 本学の気管支肺胞洗浄法 (Bronchoalveolar Lavage) における各種肺疾患での atypical lymphoid cell の出現とその意義. 第67回日本医科大学医学学会総会, 1999. 9.
- 18) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 大野智康<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 加藤圭介<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>外科第1): 原因不明な全大腸壊死の1例. 消化器病学会, 1999. 10.
- 19) 小林由子<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 田中古登子<sup>2)</sup>, 藤田信輔<sup>2)</sup>, 長澤 紘一<sup>2)</sup>, 細根 勝, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科,<sup>2)</sup>同内科,<sup>3)</sup>付属病院放射線科): 心膜中皮腫の1例. 第13回胸部放射線研究会, 1999. 10.
- 20) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 日野佳昭<sup>2)</sup>, 中山総一郎<sup>2)</sup>, 向後俊昭<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同小児科,<sup>3)</sup>外科第1): 急性腹痛にて開腹された腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染による出血性腸炎の1例. 第34回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 1999. 11.
- 21) 前田昭太郎, 細根 勝, 磯部宏昭, 片山博徳, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部,<sup>2)</sup>病理学第2): 穿刺吸引細胞診におけるセルブロック, 電顕試料作製の有用性: 骨・軟部腫瘍. 第46回日本臨床病理学会総会, 1999. 11.
- 22) 尾崎正行, 片山博徳, 細根 勝, 澤田名美枝, 孫 宇良, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 森川記代子, 前田昭太郎: Helicobacter Pylori の免疫染色の検討. 日本医科大学医学学会第99回例会, 1999. 11.
- 23) 柳田裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 磯部宏昭, 日吾美栄子, 阿部久美子, 三田俊二<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科,<sup>2)</sup>病理学第2): 腹膜偽粘液腫の2症例. 第38回日本臨床細胞学会秋季大会, 1999. 11.

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 久保田稔, 杉原秀人, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): ヒト心房性利尿ホルモン (hANP) の動態からみたエンドトキシン吸着カラム (PMX) の効果. 第3回エンドトキシン血症治療法研究会 1999; 3(1): 79-84.
- 2) 池野廣幸, 横澤光博<sup>1)</sup>, 佐野和三<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国家公務員共済連合会 東京共済病院,<sup>2)</sup>駿河台日本大学病院): 種々の臨床分離株の cefditoren に対する感受性サーベイランス. 日治療誌 1999; 47(15): 257-263.

## 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) 中澤 宏, 山本泰与, 坂爪百合子, 西島美輝子, 池野廣幸, 鈴木 健 : Pelger-Hu t 核異常における好中球分類基準の検討 (第1報). 第47回日本臨床衛生検査学会, 1998. 5.

(1) 特別講演 :

- 1) 池野廣幸 : 結核菌と結核症. 神奈川県臨床衛生検査技師会湘南地区研修会, 2000. 1.
- 2) 池野廣幸 : 細菌検査 (分離培養) について. 日本BD講演会, 2000. 2.

(2) 一般講演 :

- 1) 四田千穂美, 菊地英子, 杉原秀人, 澤柳妙子, 池野廣幸, 鈴木 健, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 虫垂炎と診断されたアメーバ性大腸炎の1例. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 2) 鈴木純子, 柴田明佳, 真下 恵, 佐藤知枝, 菊地英子, 池野廣幸, 鈴木 健 : 血液培養における細菌検出自動化の評価. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 3) 池野廣幸, 鈴木 健 : 呼吸器感染症の主な起因菌に対する経口セフェム剤の抗菌力. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 4) 中澤 宏, 相澤泰与, 渡部百合子, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健 : 当院における血液学的検査基準値の設定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 5) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 杉原秀人, 久保田稔, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ): 脳死判定前における聴性脳幹反応検査 ( ABR ) の意義. 第13回日本脳蘇生研究会, 2000. 3.

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

薬剤科は医薬品適正使用の推進に向けて, 入院患者における薬剤管理指導業務を始め, 入院注射調剤, 外来患者への薬剤情報提供を行っている.

これらの業務からBZD系抗不安薬の更年期障害に対する使用評価, epalrestatの効果の検討, CDDPの副作用の調査検討, 外来注射薬物療法に対する薬剤師の取り組みなどの研究活動の成果を発表した. また, 救命救急センターとともにpropofol, miconazoleの適正使用の検討などについて共同研究を行った.

さらに薬科大学との基礎的共同研究も行っている.

これらの研究を通し, 医薬品の適正使用の推進に努め, 薬剤師の職能を十分発揮することを目標に, 「顔の見える薬剤師」となるように努力していきたいと考えている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Hirata K, Matumoto Y, Murata M, Kurokawa A, Matumoto M ( <sup>1)</sup> Department of Emergency ): Analysis of Acute Benzodiazepine Poisoning in Critical Care Departments and Police Agencies in Japan during 1996. J Jpn Assoc Acute Med 1999; 627-633.
- 2) Honda H<sup>1)</sup>, Unemoto T, Kogo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): Different Mechanisms for Testosterone-Induced Relaxation of Aorta Between Normotensive and

Spontaneously Hypertensive Rats . Hypertension 1999 .

- 3) 畝本賜男, 竹内良夫<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>3)</sup>, 長澤紘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科, <sup>3)</sup>明治薬科大学臨床薬学): 23 (1) 21-27 (1999) 消毒用エタノールゼリーの有効性と手荒れの検討 . 医薬品相互作用研究 1999 .
- 4) 平田清貴, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 松本宣明<sup>2)</sup>, 福岡正道<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup>, 村田正弘<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>昭和薬科大学, <sup>3)</sup>明治薬科大学臨床薬学): Mupirocin 鼻腔用軟膏の三次救急医療施設における MRSA 感染症発症防止効果の検討 . 病院薬学 1999 ; 627-633 .
- 5) 島田慈彦<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>2)</sup>, 仲川義人<sup>3)</sup>, 矢後和夫<sup>4)</sup>, 東海林徹<sup>3)</sup>, 松原 肇<sup>1)</sup>, 村田和也, 小川幸雄<sup>4)</sup>, 豊口義夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学病院薬剤部, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>3)</sup>山形大学医学部附属病院薬剤部, <sup>4)</sup>北里大学東病院薬剤部): プレフィルドシリンジの有用性に関する研究 . 新薬と臨牀 1999 ; 48 (4) : 485-497 .
- 6) 平野公晟<sup>1)</sup>, 村山純一郎<sup>1)</sup>, 西谷篤彦<sup>1)</sup>, 明石貴雄<sup>1)</sup>, 鷲見正宏<sup>1)</sup>, 成田延幸<sup>1)</sup>, 阿部和史<sup>1)</sup>, 並木徳之<sup>1)</sup>, 小清水美千子<sup>1)</sup>, 佐伯康弘<sup>1)</sup>, 豊川志保子<sup>1)</sup>, 中山博幸<sup>1)</sup>, 橋本ひろ美<sup>1)</sup>, 前 彰<sup>1)</sup>, 村田和也, 吉尾 隆<sup>1)</sup>, 八木下将也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都病院薬剤師会第二教育研修部): 薬学生4週間病院実習を実施して : (1) 都内の受入状況・問題点, 大学への要望 . 日本病院薬剤師会雑誌 2000 ; 36 (2) : 261-264 .
- 7) 平野公晟<sup>1)</sup>, 村山純一郎<sup>1)</sup>, 西谷篤彦<sup>1)</sup>, 明石貴雄<sup>1)</sup>, 鷲見正宏<sup>1)</sup>, 成田延幸<sup>1)</sup>, 阿部和史<sup>1)</sup>, 並木徳之<sup>1)</sup>, 小清水美千子<sup>1)</sup>, 佐伯康弘<sup>1)</sup>, 豊川志保子<sup>1)</sup>, 中山博幸<sup>1)</sup>, 橋本ひろ美<sup>1)</sup>, 前 彰<sup>1)</sup>, 村田和也, 吉尾 隆<sup>1)</sup>, 八木下将也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都病院薬剤師会第二教育研修部): 学生4週間病院実習を実施して : (2) 評価項目に対する実習の実施状況と評価基準の問題点 . 日本病院薬剤師会雑誌 2000 ; 36 (3) : 393-398 .

## (2) 総説 :

- 1) 宿前貴子 : アスピリン100年 : そしてこれから . 都薬雑誌 2000 ; 49 (1) : 25-31 .

## 著 書

- 1) 平野公晟<sup>1)</sup>, 村山純一郎<sup>1)</sup>, 西谷篤彦<sup>1)</sup>, 明石貴雄<sup>1)</sup>, 鷲見正宏<sup>1)</sup>, 成田延幸<sup>1)</sup>, 阿部和史<sup>1)</sup>, 並木徳之<sup>1)</sup>, 小清水美千子<sup>1)</sup>, 佐伯康弘<sup>1)</sup>, 豊川志保子<sup>1)</sup>, 中山博幸<sup>1)</sup>, 橋本ひろ美<sup>1)</sup>, 前 彰<sup>1)</sup>, 村田和也, 吉尾 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都病院薬剤師会第二教育研修部): [ 分担 ] 病院実習テキスト . 病院実習テキスト, 1999 ; pp1-110, 薬業時報社 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 本多秀雄<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>, 畝本賜男 (<sup>1)</sup>東京薬科大学第二薬理学教室): Mechanismes for testosterone-induced vasorelaxation in spontaneously hypertensive rats . 第3回日本心血管内分泌代謝学会総会, 1999 . 11 .
- 2) 上田康晴<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>2)</sup>, 倉田 潔<sup>2)</sup>, 玉井英世<sup>2)</sup>, 木村壮介<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 平田清貴 (<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>国立国際医療センター救急部): 救急領域におけるプロポフォル鎮静の有効性と問題点 . 第47回日本救急医学会関東地方会, 1999 . 6 .
- 3) 前田國光, 村田正弘, 村田和也 (<sup>1)</sup>明治薬科大学臨床薬学): メガ・スタディに対するCRCとしての薬剤科の対応 . 日本病院薬剤師会関東ブロック第29回学術大会, 1999 . 7 .
- 4) 堀川佳津美, 平田清貴, 村田和也, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 長澤紘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科): 当院における更年期障害に対するベンゾジアゼピン (BZD) 系抗不安薬の使用評価 . 第9回日本病院薬学会, 1999 . 9 .
- 5) 伊藤淳雄, 加藤浩子, 村田和也, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 関 勝洋<sup>2)</sup>, 村田正弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>明治薬科大学臨床薬学): 当院外来患者での糖尿病性末梢神経障害に対する aldose reductase inhibitor (Epal-

restat) の血糖コントロール指標 (HbA1c) 別および罹病期間別における効果の検討。第9回日本病院薬学会, 1999. 9.

- 6) 平瀬美弥子, 木本陶子, 椎野元裕, 村田和也, 和田雅世<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 外来薬物療法における薬剤師の参加とその意義。第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 7) 宮沢伸介<sup>1,2)</sup>, 畝本賜男, 伊藤淳雄, 村田和也, 村田正弘<sup>1)</sup>, 加藤恵子<sup>1)</sup>, 橋口正行<sup>1)</sup>, 越前宏俊<sup>1)</sup>, 力久忠昭<sup>1)</sup>, 緒方宏泰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>明治薬科大学大学院臨床薬学, <sup>2)</sup>クオール 兜町薬局): 副作用スクリーニングのための調査項目の検討とその総合評価に関する研究: 消化器用剤による医原性錐体外路障害について。第9回日本病院薬学会, 1999. 10.
- 8) 高田雅史, 清水有二<sup>1)</sup>, 平岡保紀<sup>1)</sup>, 岩本和矢<sup>1)</sup>, 高橋洋文<sup>1)</sup>, 左 維<sup>1)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>多摩永山病院泌尿器科): 補中益気湯が放射線治療による下痢(放射線腸炎)に有効であった2症例。日本東洋医学会第56回関東甲信越支部学術総会, 1999. 10.
- 9) 畝本賜男<sup>1)</sup>, 本多秀雄<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学第二薬理学教室): 自然発症高血圧ラットにおけるテストステロンの血管弛緩作用機構。第44回西東京内分泌代謝研究会, 1999. 12.
- 10) 稲葉育広, 堀川佳津美, 伊藤淳雄, 村田和也, 横田明重<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 平岡保紀<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>同泌尿器科): 当院における Cisplatin (CDDP) 投与患者の副作用(腎毒性)に関する調査。日本薬学会第120年会, 2000. 3.
- 11) 平田清貴<sup>1)</sup>, 南須原宏城<sup>1)</sup>, 松本宣明<sup>2)</sup>, 柴崎敏明<sup>2)</sup>, 清水万紀子<sup>2)</sup>, 福岡正道<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup>, 山田光輝<sup>1)</sup>, 横山和子<sup>1)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>昭和薬科大学): 定速静注時の propofol 血中濃度と体脂肪の関係。日本薬学会120年会, 2000. 3.
- 12) 溝口智子<sup>2)</sup>, 知久間敏幸<sup>2)</sup>, 平田清貴<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中村敏弘<sup>1)</sup>, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 村田和也, 黒川 彰<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>昭和薬科大学): 重症患者に対する抗真菌薬フルコナゾールの検討。日本薬学会第120年会, 2000. 3.

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究概要

- 1) 意識障害を有する患者に対して, 経口摂取を始める時期を判断するための患者の変化を, 評価する方法を検討した。
- 2) 分娩時の産婦を取り巻く環境について調査し, 施設内の壁やカーテンに多く用いられるピンク色に着目し, 産婦に与える影響を検証した。
- 3) 重症患者における下側肺障害の予防, 改善の為, 従来通りの体位交換に加え, シムス位の導入を試み, 肺障害を予防する効果があるとの示唆を得た。
- 4) 訪問看護の際交わされる, 患者・家族と看護婦との話し合いをプロセスレコードに構築することにより在宅医療を継続していくために必要な訪問看護婦の役割, 行動を再認識した。
- 5) 看護婦が触覚による患者観察をどのように行い, またそれをどのように記録しているのか, 実態を明らかにする。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 後藤由香, 斉藤やよい<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大学看護学部看護実践研究指導センター): 看護婦の触覚による情報収集と記

録の実際について．第25回日本看護研究学会，1999．8．

- 2) 石川祐子，大森律子，藤田佐代子，石塚富美枝，永田信子，高橋久美子：在宅医療における訪問看護婦の役割と今後の課題．第30回日本看護協会地域看護学会，1999．9．
- 3) 飯塚ひろみ，宮井真紀，北條由紀：産科施設に適した色．第40回日本母性衛生学会総会，1999．10．
- 4) 前原美紀，瀬畑由美子：意識障害患者の経口摂取時期の分析．平成11年度東京都看護研究学会，1999．11．
- 5) 本多広子，小林信子，佐々木亜希，松本富美子，松本ふき子，稲葉はるみ，緋田雅美，遠藤三代子：下側肺障害の予防と改善における45°シムス位の有効性．第27回日本集中治療医学会総会，1999．11．

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科4教室から医局員の派遣を受け臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、呼吸器疾患および内分泌・代謝とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患、心不全、不整脈が中心。心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。不整脈は電氣的焼灼法や電気整理を研究している。

肝臓では、慢性活動性肝炎（ウイルス性）におけるインターフェロン療法の治療効果、PBCに対するUDCA治療効果などの検討を行っている。

神経では、パーキンソン病における臨床症状とL-dopa血中濃度の相関および多発性硬化症における抗リン脂質抗体の関連についての検討を行っています。

腎臓では、蛋白尿から急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全に対しては血液透析、CAPD療法への導入、さらに他疾患の対外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、1) 食道運動異常と胸部症状との関連、2) 上腹部症状と早期慢性膵炎との関連、3) 大腸腫瘍の血流および発生背景、4) 血液疾患の大腸癌合併率などの検討を行っている。

呼吸器では、1) 肺癌に対する抗癌剤化学療法、およびびまん性肺疾患に対する気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、2) 気管支喘息に対する急性期治療、3) 慢性呼吸不全患者に対する循環系からの治療アプローチを中心に検討を行っている。

内分泌・代謝では、甲状腺を中心にした種々の内分泌療法における成長因子および細胞外マトリックスの役割について、また糖尿病における大血管および腎臓でのプロテオグリカンの変化と、その病態生理学的意義についての研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著：

- 1) 磯田菊生, 里村公生, 亀沢康里, 村公生裕, 秋間 崇, 高瀬凡平, 草野浩幸, 西沢健也, 浜部 晃, 渋谷利雄, 荒川 宏, 中村治雄, 大鈴文孝, 栗田 明, 水野杏一: 血管内視鏡における黄色プラークと白色プラークの病理学的検討. 循環器科 1999; 45 (2): 197-201.
- 2) 宮本 明, 水野杏一: 血管内視鏡による vulnerable plaque の定量的評価の試み. 循環器科 1999; 45 (2): 202-207.

(1) 原著：

- 1) Omata M, Hino M, Ohaki Y, Gomibuchi M, Hayashibara K, Furuta T, Enomoto T, Kudoh S: Mediastinal yolk sac tumor in a woman. International Journal of Clinical Oncology 1999; 4: 248-252.
- 2) Li F, Kishida T, Kobayashi M: Serum iron and ferritin levels in patients with colorectal cancer in relation to the size, site, and disease stage of cancer. J Gastroenterol 1999; 34: 195-199.
- 3) Katsumata T, Katayama Y, Obo R, Muramatsu H, Ohtori T, Terashi A: Delayed administration of ethyl



eicosapentate improves local cerebral blood flow and metabolism without affecting infarct volumes in the rat focal ischemic model . Eur J pharmacol 1999 ; 372 : 167-174 .

- 4) Li F , Kishida T , Kobayashi M : Serum iron and ferritin levels in patients with colorectal cancer in relation to the size, site, and disease stage of cancer . J Gastroenterol 1999 ; 34 : 195-199 .
- 5) Iwakiri K , Sugiura T , Kotoyori M , Yamada H , Hayashi Y , Nakagawa Y , Kawakami A , Kobayashi M : Effect of body position on lower esophageal sphincter pressure . J Gastroenterol 1999 ; 34 : 305-309 .
- 6) Fujimori S , Kishida T , Yoshida Y , Kobayashi M : Superficial Blood Flow, Blood Volume and Blood Velocity in Colorectal Tubular Adenomas and Adenocarcinomas. . J Gastroenterol 1999 ; 34 : 467-473 .
- 7) Hitoshi S , Emoto N , Tamura H , Kamegai J , Shibasaki T<sup>1)</sup> , Minami S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology , <sup>2)</sup> Institute of Gerontology ) : Effect of insulin-like growth hormone factor-1 on growth hormone-releasing factor receptor expression in primary rat anterior pituitary cell culture . Neurosci Lett 1999 ; 276 ( 2 ) : 87-90 .
- 8) Sai KY , Uchikawa Y , Kotani M , Ohmura K , Mizuno K : MCG measurement using a high-Tc SQUID in patients with inferior infarction . Applied Superconductivity Research Laboratory 2000 ; 53-56 .
- 9) Fujimori S , Kishida T , Yonezawa M , Shibata Y , Shinozawa I , Tanaka S , Hoshino T , Tatsuguchi A , Sato J , Yoshida Y , Yokoi K , Tanaka N , Ohaki Y , Sakamoto C , Kobayashi M : Mean corpuscular volume ( MCV ) may be a useful index of the risk of colorectal Adenoma in middle-aged Japanese men. . Am J Gastroenterol 2000 ; 95 : 793-797 .
- 10) 酒井俊太 , 水野杏一 , 稲見茂信 , 岡松健太郎 , 横山真也 , 大国眞一 , 今泉孝敬 , 富田喜文 , 草間茂樹 , 高山守正 , 宗像一雄 , 高野照夫 , 岸田 浩 , 早川弘一 : 急性心筋梗塞に対する primary stenting の血管内視鏡所見 . Jpn J Interv Cardiol 1999 ; 14 ( 4 ) : 339-346 .
- 11) 中村治雄 , 金澤武道 , 斎藤 康 , 大橋靖雄 , 中谷矩章 , 五島雄一郎 , 板倉弘重 , 馬淵 宏 , 北 徹 , 松澤佑次 , 山本 章 , 荒川規矩男 , 水野杏一 ( <sup>1)</sup> Japan Cholesterol Lowering Atrovastation Study ( J-CLAS ) Group ) : 新規 HMG-CoA 還元酵素阻害薬 CI-981 ( アトルバスタチン ) の長期投与による臨床効果 : 有効性ならびに安全性の検討 . Prog Med 1999 ; 19 ( 9 ) : 2123-2160 .
- 12) 水野杏一 , 酒井俊太 , 稲見茂信 , 横山真也 , 大場崇芳 , 大村和子 , 松本 真 , 小倉宏道 , 富村正登 , 田邊 潤 , 山内茂生 : 血管内視鏡による急性冠症候群の治療戦略 . Tokyo Heart Journal 1999 ; XIX ( 2 ) : 2-4 .
- 13) 宮本 明 , Abela GS , 水野杏一 : 血管内視鏡による易破綻性プラークの定量的評価の試み . 脈管学 1999 ; 39 ( 11 ) : 747-750 .
- 14) 酒井俊太 , 水野杏一 , 大国眞一 , 稲見茂信 , 横山真也 , 大場崇芳 , 松本 真 , 富村正登 , 大村和子 , 山内茂生 : 冠動脈内視鏡を治療戦略ガイドランスとして用いたカテーテルインターベンション . 脈管学 1999 ; 39 ( 12 ) : 805-810 .
- 15) 杉浦敏昭<sup>1)</sup> , 岩切勝彦<sup>1)</sup> , 林 良紀<sup>1)</sup> , 琴寄 誠<sup>1)</sup> , 山田久木<sup>1)</sup> , 中川義也<sup>1)</sup> , 川上明彦<sup>1)</sup> , 坂本長逸<sup>1)</sup> , 小林正文<sup>1)</sup> , 渡 淳 , 大国眞一 , 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 付属病院第3内科 ) : 狭心症と nutcracker esophagus が併存したと考えられた1例 . 日消誌 1999 ; 96 : 398-402 .
- 16) 日野光紀 , 林原賢治 , 工藤翔二 : 呼吸機能検査の評価 : 過誤腫性肺脈管筋腫症 . 呼吸 1999 ; 18 ( 8 ) : 849-850 .
- 17) 上村光弘<sup>1)</sup> , 武田雄一郎<sup>1)</sup> , 川名明彦<sup>1)</sup> , 鈴木直仁<sup>1)</sup> , 朱 浩殷<sup>1)</sup> , 吉沢篤人<sup>1)</sup> , 杣 知行 , 工藤宏一郎<sup>1)</sup> , 野村友清<sup>2)</sup> , 伊藤秀幸<sup>2)</sup> , 矢野 真<sup>2)</sup> , 稲垣敬三<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立国際医療センター呼吸器科 , <sup>2)</sup> 同呼吸器外科 ) : 胸膜下病変に対する体表走査超音波ガイド下気管支鏡検査の試み . 日呼吸会誌 1999 ; 10 .
- 18) Sanno N<sup>1)</sup> , Tahara Y<sup>1)</sup> , Yoshida Y<sup>1)</sup> , Onose H , Wakabayashi I , Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery ) : Ectopic corticotroph adenoma in the cavernous sinus . Neurosurgery 1999 ; 99 ( 4 ) : 914-917 .
- 19) 佐野純子 , 水野杏一 , 稲見茂信 , 酒井俊太 , 大国眞一 , 高野照夫 : 冠動脈狭窄に対する緑茶飲用の効果 . 脈管

学 2000 ; 40 ( 2 ) : 93-98 .

20) 那須元夫, 梅本泰弘, 小林宏一郎, 内川義則, 小倉宏道, 水野杏一, 大村和子, 早川弘一: 三次元ベクトル計  
画に基づく心磁図の研究. ハイテクリサーチセンター研究報告 2000 ; 47-48 .

(2) 総説 :

- 1) 水野杏一: 急性冠症候群の抗血栓療法. 心臓 (Heart) 1999 ; 31 ( 7 ) : 561-562 .
- 2) 水野杏一: 心血管内イメージングの最前線. 日医師会誌 1999 ; 122 ( 2 ) : 306-307 .
- 3) 小倉宏道, 水野杏一: 高齢者虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション治療の成績 狭心症の心電図診  
断. 救急医学 1999 ; 23 ( 9 ) : 1007-1009 .
- 4) 水野杏一: プラークの破綻と急性冠症候群. 臨床医 1999 ; 25 ( 9 ) : 22:1630-25:1633 .
- 5) 泰江弘文, 奥村 博, 水野杏一, 百村伸一: 遮断薬の心臓保護作用. Prog. Med 1999 ; 19 ( 9 ) : 2087-2094 .
- 6) 水野杏一: 抗血小板療法, 抗トロンピン療法. Heart View 1999 ; 3 ( 12 ) : 77 ( 1313 ) -81 ( 1317 ) .
- 7) 高野雅充, 水野杏一: Acute coronary syndromeの内視鏡所見. 循環器科 1999 ; 46 ( 6 ) : 543-548 .
- 8) 水野杏一: 経皮的冠動脈再建術におけるGIIb/IIIaインヒターと低用量ヘパリン. 血栓と循環 1999 ; 17  
( 4 ) : 67 ( 431 ) -68 ( 432 ) .
- 9) 酒井俊太, 水野杏一: スtent植え込み術後の抗血小板療法: アスピリン, チクロピジンおよび両者併用療法  
の効果の比較検討. 血栓と循環 1999 ; 17 ( 4 ) : 115 ( 479 ) -116 ( 480 ) .
- 10) 岩切勝彦, 琴寄 誠, 石川久木, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 平川恒久, 坂本長逸, 小林正文: 逆流性食  
道炎の病態, 胃・十二指腸を重視した立場から. 胃と腸 1999 ; 34 : 995-999 .
- 11) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 小林正文: NUD ( non-ulcer dyspepsia ), 問診のコツと検査計画  
のたて方. 消化器の臨床 1999 ; 4 : 367-370 .
- 12) 片山泰朗, 勝又俊弥: イコサペント酸 ( EPA ), 広範囲血液, 尿化学検査 免疫学的検査: その数値をどう読  
むか. 日本臨床増刊号 1999 ; 750 ( 増刊 ) : 114-116 .
- 13) 水野杏一: 急性冠症候群: 新しい情報 不安定プラークと画像. Progress in Medicine 2000 ; 20 ( 1 ) : 25-  
28 .
- 14) 江本直也: Basedow病の診断と治療. 日医大誌 2000 ; 67 ( 1 ) : 35-37 .
- 15) 片山泰朗, 勝又俊弥: 脳梗塞と頭痛. Brain Medical 2000 ; 12 : 78-81 .

著 書

- 1) 酒寄 修, 端 和夫, 小林祥泰: [ 分担 ] 無症候性脳梗塞と非特異的自覚症状. 無症候性脳血管障害と血管病  
変 ( 端 和夫, 小林祥泰 ), 1999 ; pp161-166, 南山堂 .
- 2) 日野光紀, 工藤翔二: [ 共著 ] 胸膜中皮腫の診断と治療. 呼吸器疾患 ( 専門医に聞く最新の臨床 ) ( 工藤翔二,  
永井厚志 ), 1999 ; pp256-258, 中外医学社 .
- 3) 酒井俊太, 水野杏一: [ 分担 ] 血管内視鏡. Stent再狭窄 ( 光道和明 ), 1999 ; pp49-58, 医学書院 .
- 4) 水野杏一: [ 分担 ] 血管内視鏡による診断. 心臓血管外科の最前線 ( 岡田昌義 ( 監修 ) ), 1999 ; pp190-196,  
先端医療技術研究所 .
- 5) 小野瀬裕之, 鈴木信周: [ 翻訳 ] 77章 副腎皮質ホルモン. ガイトン臨床生理学 ( 早川弘一 ), 1999 ; pp967-  
980, 医学書院 .
- 6) 水野杏一: [ 分担 ] 動脈硬化の臨床診断 血管内視鏡. 図表でとらえる高脂血症・動脈硬化 ( 松澤佑次 ( 監修 ) ),  
1999 ; pp72-73, 朝日新聞社 .
- 7) 水野杏一: [ 分担 ] 血管造影所見と臨床疫学. 粥状動脈硬化症Plaqueの成り立ちと修復 ( 斉藤 康 ( 企画・構  
成 ) ), 1999 ; pp85-89, メジカルビュー社 .
- 8) 横山真也, 水野杏一: [ 分担 ] 血管内エコー, 血管内視鏡. 狭心症・心筋梗塞 治療戦略へのアプローチと長

期管理 (ブラックティカル内科)(山口 徹(編)), 1999; pp66-70, 南江堂.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 水野杏一: 冠動脈プラークと血管内視鏡. 10回21世紀心臓核医学カンファランス記念大会, 1999. 9.
- 2) 水野杏一: 急性冠症候群と血小板血栓: 血管内視鏡による検討. 17回血小板・脈管研究会, 1999. 10.

##### (2) 招待講演:

- 1) 水野杏一: 冠動脈プラーク破綻の内的及び外的要因: 血管内視鏡・IVUSによる検討. 9回Vascular Medicine and Pathobiology研究会, 1999. 8.

##### (3) シンポジウム:

- 1) 水野杏一: 冠血管内視鏡による冠動脈インターベンションにおける評価. 49回東京心臓の会, 1999. 5.
- 2) 大場崇芳, 水野杏一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 松田裕之, 横山真也, 松本 真, 野村敦宣, 大村和子, 酒井俊太, 今泉孝敬, 大國真一, 張 静, 田中啓治: 当院における第3世代ステント使用における合併症および再狭窄の検討. 5回日本血管内治療学会総会, 1999. 6.
- 3) 酒井俊太, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 松本 真, 張 静, 大村和子, 大國真一, 水野杏一, 清宮康嗣, 松田裕之, 野村敦宣, 今泉孝敬, 田中啓治: 冠動脈内視鏡ガイダンスカテーテルインターベンションについての検討. 5回日本血管内治療学会総会, 1999. 6.
- 4) 酒井俊太, 平澤泰宏, 田邊 潤, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登, 小倉宏道, 水野杏一: 急性冠症候群(ACS)に対するステント療法: 血管内視鏡による検討. 13回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会, 1999. 10.
- 5) 横山真也, 酒井俊太, 平澤泰宏, 田邊 潤, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 富村正登, 小倉宏道, 水野杏一: Culprit lesionとNon culprit lesionにおける内膜の差異: 黄色プラークのスコアによる検討. 7回心臓血管内イメージング研究会, 1999. 12.
- 6) 宮本 明, 水野杏一, 荒井恒憲: 定量的色彩評価を用いた血管内視鏡によるUnstable Plaqueの診断. 7回心臓血管内イメージング研究会, 1999. 12.

##### (4) ワークショップ:

- 1) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 小林正文: 食事中的つかえ感と食道運動異常との関連: 食道内圧検査による検討. 第41回日本消化器病学会大会, 1999. 10.

##### (5) 一般講演:

- 1) Katsumata T, Nishiyama Y, Otori T, Muramatsu H, Katayama Y: Spatial memory disturbance after chronic hypoperfusion in rat brain following bilateral carotid artery occlusion. International Stroke society regional meeting at Yokohama. (Yokohama), 1999. 4.
- 2) Katsumata T, Nishiyama Y, Otori T, Muramatsu H, Nakamura H, Katayama Y: Effect of JTP-2942, a novel thyrotropin-releasing hormone analogue, on behavioral pharmacology and cerebral circulation in the rat chronic hypoperfusion model. The XIXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism (Copenhagen), 1999. 6.
- 3) Emoto N, Shimizu K, Onose H, Sugihara H, Shimonaka M, Wakabayashi I: Synthesis of abnormal heparan sulfate is a mechanism for the increase of intra-tissue ECM-free FGF-2 in human papillary thyroid carcinomas and Graves' thyroids. The Endocrine Society 81th annual meeting (San Diego), 1999. 6.
- 4) 林 良紀, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: nutcracker esophagus (NE) とhypertensive LES (HLES) が併存がみられた1例. 第256回日本消化器病学会関東支部例会, 1999. 9.

- 5) 二俣 健, 進士陽子, 周東祐仁, 小野瀬裕之, 亀谷 純, 江本直也, 及川眞一, 杉原 仁, 若林一二: 副腎癌の1例. 第10回臨床内分泌代謝 Update, 2000. 3.
- 6) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 山田久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 食事中的つかえ感と食道運動機能との関連: 食道内圧検査による検討. 第13回EG club, 1999. 4.
- 7) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: Los Angeles (LA) 分類 grade A, Bの違い: 粘膜障害5mmの意義について, 食道内圧検査による検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 8) 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 杉浦敏昭, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 小林正文: 同一施行医による初回内視鏡検査の逆流性食道炎の頻度, 症状, ヘルニアに関する prospective な検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 9) 稲見茂信, 今泉孝敬, 小野いすず, 田邊 潤, 長門孝道, 張 静, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登, 小林利行, 松本 真, 大村和子, 酒井俊太, 大國眞一, 山内茂夫, 水野杏一, 清宮康嗣, 松田宏之, 田中啓治: 種々の Transcatheter therapy を施行した慢性肺血栓栓症の1例. 14回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1999. 4.
- 10) 藤森俊二, 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 李 峰, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 平均赤血球容積 (MCV) と大腸腺腫に関する検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 11) 岸田輝幸, 米沢真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 李 峰, 藤森俊二, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 結腸癌患者における血清胆汁酸分析の検討. 第85回日本消化器病学会総会, 1999. 4.
- 12) 水野杏一: 冠動脈疾患の新しい診断法と治療. 日本医師会生涯教育講座, 1999. 4.
- 13) 水野杏一: 急性冠症候群の病因と治療. 四葉会学術研修会, 1999. 5.
- 14) 酒井俊太, 水野杏一, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 大村和子, 山内茂生: "Empty Lipid Pool" 像を血管内視鏡と血管内エコーで観察した非Q波前壁梗塞の1例. 25回千葉冠動脈疾患研究会, 1999. 5.
- 15) 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 小久保豊, 橋元恭士, 杣 知行, 上原隆志, 田中恵美, 本橋典久, 真崎義隆, 五味淵誠, 工藤翔二: 人工呼吸管理下での気管支肺胞洗浄の有用性の検討. 第22回日本気管支学会総会, 1999. 5.
- 16) 津金澤俊和, 北村 伸, 片山泰朗, 望月秀樹<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学脳神経内科, (<sup>2)</sup>日本医科大学学生化学第2): rAAVベクターを用いた中枢神経系細胞への遺伝子導入. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 17) 勝又俊弥, 大鳥達雄, 西山 穰, 中村秀紀, 片山泰朗: ラット慢性脳循環不全モデルにおける記憶学習障害の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 5.
- 18) 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 若林一二(<sup>1)</sup>第2外科): 甲状腺乳頭癌およびバセドウ甲状腺における組織内遊離 FGF-2 増加のメカニズム. 第72回日本内分泌学会総会, 1999. 5.
- 19) 小野瀬裕之, 江本直也, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 若林一二(<sup>1)</sup>第2外科): 甲状腺組織内プロテオグリカンのイムノプロット法を用いた新しい定量的分析法の開発. 第72回日本内分泌学会総会, 1999. 5.
- 20) 本橋典久, 小久保豊, 瀬尾宣嗣, 田中庸介, 上原隆志, 杣 知行, 橋元恭士, 日野光紀, 真崎義隆, 五味淵誠, 大秋美治, 工藤翔二: 進行性の四肢筋力低下で発症, その後急激なII型呼吸不全を呈し診断に難渋した肺小細胞癌の1例. 第125回日本肺癌学会地方会(1999年6月9日), 1999. 6.
- 21) 日野光紀, 小久保豊, 橋元恭士, 杣 知行, 上原隆志, 田中庸介, 本橋典久, 瀬尾宣嗣, 五味淵誠, 真崎義隆, 大秋美治: 若年女子に発症した縦隔型卵黄嚢腫瘍の1例. 第七回東葛肺癌研究会, 1999. 6.
- 22) 竹永清人:  $\beta$ -blocker 投与により冠動脈攣縮が誘発されたと推測された1例. 172回日本循環器学会関東甲信

越地方会, 1999 . 6 .

- 23) 横山真也, 酒井俊太, 稲見茂信, 大場崇芳, 松本 真, 大村和子, 大國眞一, 張 静, 水野杏一, 清宮康嗣, 松田裕之, 野村敦宣, 今泉孝敬, 田中啓治: 血管内視鏡で観察されるSTENT-plaque protrusion-の検討 . 5回日本血管内治療学会総会, 1999 . 6 .
- 24) 藤森俊二, 岸田輝幸: 血液疾患の大腸腺腫, 癌合併頻度 . 第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会ラウンドテーブルディスカッション, 1999 . 6 .
- 25) 本橋典久, 小久保豊, 小俣雅稔, 田中庸介, 柚 知行, 橋元恭士, 小野 靖, 日野光紀, 真崎義隆, 五味淵誠, 葉山修陽, 大秋美治, 臼杵二郎, 工藤翔二: NSIPの経過中に膜性腎症を合併した1例 . 第135回 日本呼吸器学会関東地方会, 1999 . 7 .
- 26) 横山真也, 酒井俊太, 田邊 潤, 長門裕道, 稲見茂信, 大場崇芳, 富村正登, 松本 真, 大村和子, 大國眞一, 張 静, 山内茂生, 水野杏一, 清宮康嗣, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治: 急性心筋梗塞例の1カ月後のSTENTの新内膜被覆について: 血管内視鏡での検討 . 8回日本心臓血管インターベンション学会, 1999 . 7 .
- 27) 富村正登, 酒井俊太, 田邊 潤, 小野いすず, 稲見茂信, 長門孝道, 横山真也, 大場崇芳, 松本 真, 小林利行, 大村和子, 大國眞一, 張 静, 山内茂生, 水野杏一: 急性心筋梗塞の血栓溶解療法施行後の血栓の形態について . 8回日本心臓血管インターベンション学会, 1999 . 7 .
- 28) 大場崇芳, 田邊 潤, 稲見茂信, 長門孝道, 横山真也, 小林利行, 富村正登, 松本 真, 大村和子, 酒井俊太, 大國眞一, 張 静, 山内茂生, 水野杏一: gfxステントとMultilinkステント留置の初期成績および遠隔成績 . 8回日本心臓血管インターベンション学会, 1999 . 7 .
- 29) 水野杏一: 抗血小板薬・抗凝固剤使用の適応 . 日本医師会生涯教育講座, 1999 . 7 .
- 30) 水野杏一: CHD合併症の管理: 狭心症・心筋梗塞 . リップドアカデミー松本(マルチリスクファクターの管理), 1999 . 8 .
- 31) 徳山権一, 田中啓治, 今泉孝敬, 淀川顕司, 松田裕之, 清宮康嗣, 酒井俊太, 水野杏一: 左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策 . 19回心筋梗塞研究会, 1999 . 7 .
- 32) 田邊 潤, 酒井俊太, 小野いすず, 稲見茂信, 長門孝道, 横山真也, 大場崇芳, 松本 真, 富村正登, 小林利行, 大村和子, 大國眞一, 張 静, 山内茂生, 水野杏一: PTCAによる冠動脈内膜の変化: 血管内視鏡による検討 . 8回日本心臓血管インターベンション学会, 1999 . 7 .
- 33) 水野杏一, 酒井俊太: 急性冠症候群 (ACS) に対するステント植込術の有用性: 血管内視鏡による検討 . 34回六甲カルディアックセミナー, 1999 . 8 .
- 34) 小倉宏道, 大村和子, 石井律子, 稲見茂信, 宮城泰雄, 酒井俊太, 山内茂生, 水野杏一, 高野照夫: 完全房室ブロックによる心不全を発症した超高齢者に対しペースメーカー植込み術を施行した1例 . 8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999 . 8 .
- 35) 徳山権一, 今泉孝敬, 淀川顕司, 品田卓郎, 清宮康嗣, 松田裕之, 田中啓治, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一: Trouser-like stentingおよびPCPSとCHDF併用によって救命しえた38歳LMT梗塞の1例 . 8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1999 . 8 .
- 36) 新井 悟, 大秋美治, 森 修, 日野光紀, 五味淵誠: 高度の粘液産生性を示した肺腫瘍の1例 . 日本病理学会病理医協会関東支部千葉地区集会, 1999 . 9 .
- 37) 小野 靖, 小久保豊, 篠田欣也, 日比野俊, 松田久仁子, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 接着, 浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果 . 第58回日本癌学会総会, 1999 . 9 .
- 38) 稲見茂信, 酒井俊太, 菊池有紀子, 土田貴也, 田邊 潤, 長門孝道, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登, 松本 真, 大村和子, 山内茂生, 水野杏一: なぜSTENTは再狭窄が少ないか? PTCAとの比較: 血管内視鏡による検討 . 47回日本心臓病学会, 1999 . 9 .
- 39) 松本 真, 大村和子, 水野杏一, 斉藤寛和, 岩崎雄樹, 大野則彦, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘

- ー：T波オルタナンスにおける判定心拍数設定の問題点．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 40) 松田裕之，清宮康嗣，田中啓治，今泉孝敬，淀川顯司，徳山権一，大國眞一，酒井俊太，水野杏一：左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 41) 大場崇芳，酒井俊太，稲見茂信，田邊 潤，長門孝道，横山真也，富村正登，松本 真，大村和子，山内茂生，水野杏一：急性冠症候群発生と感染症との関連：血管内視鏡による検討．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 42) 田邊 潤，酒井俊太，稲見茂信，横山真也，大場崇芳，松本 真，富村正登，大村和子，山内茂生，水野杏一：急性心筋梗塞に対するステント留置後の効果：血管内視鏡による内膜の経時的観察．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 43) 横山真也，酒井俊太，稲見茂信，大場崇芳，松本 真，富村正登，大村和子，水野杏一：急性冠症候群における黄色プラークの濃淡と血栓の関係．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 44) 中野緑香，高原かほり，曽根原はる美，酒井俊太，水野杏一，田中啓治：治験コーディネーターの必要性と治験患者意識の実態．47回日本心臓病学会，1999．9．
- 45) 清宮康嗣，大場崇芳，田邊 潤，稲見茂信，横山真也，松本 真，富村正登，小倉宏道，大村和子，酒井俊太，山内茂生，水野杏一：非責任冠動脈にも血栓が認められた1例．173回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．9．
- 46) 柚 知行，日野光紀，橋元恭士，小久保豊，五味淵誠，工藤翔二：喘息発作寛解後の再発作に関する関連要因の臨床的検討．第49回日本アレルギー学会総会，1999．10．
- 47) 小野 靖，小久保豊，篠田欣也，日比野俊，松田久仁子，渋谷昌彦，工藤翔二：接着，浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果．第37回日本癌治療学会総会，1999．10．
- 48) 小野 靖，小久保豊，篠田欣也，日比野俊，松田久仁子，渋谷昌彦，工藤翔二：接着，浸潤阻害作用によるクラリスロマイシンの実験的肺転移抑制効果．第40回日本肺癌学会総会，1999．10．
- 49) 杉原 仁，亀谷 純，周東祐仁，田村秀樹，小野瀬裕之，若林一二：GH分泌促進ペプチド（GHRP）とACTHのGH分泌促進作用の機序について．第26回日本内分泌学会，1999．10．
- 50) 岡松健太郎，稲見茂信，横山真也，大場崇芳，松本 真，富村正登，小倉宏道，大村和子，酒井俊太，大國眞一，水野杏一，高野照夫：血管内エコー（IVUS）による動脈硬化とCoronary Artery Distensibility（DIST）との関係．36回日本臨床生理学会総会，1999．10．
- 51) 高野雅充，酒井俊太，平澤泰宏，田邊 潤，清宮康嗣，横山真也，大場崇芳，富村正登，小倉宏道，水野杏一：Cutting ballon angioplastyにおける血管内エコーの有用性．13回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会，1999．10．
- 52) 江本直也，小野瀬裕之，石井新哉，杉原 仁，清水一雄<sup>1)</sup>，若林一二<sup>(1)</sup>第2外科)：腫大性甲状腺疾患における細胞外マトリックス・ヘパラン硫酸の量的および質的变化とFGF-2活性制御の検討．第42回日本甲状腺学会，1999．11．
- 53) 牧野俊郎，浅野悦洋，恵志正輝，岩瀬龍之，前田容子，横井公良，田中宣威，水野杏一，山下精彦，久志本成樹，小井土雄一，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：国際空港における重傷例および死亡例の検討．99回日本医科大学医学会例会，1999．11．
- 54) 吉川雅智，伊佐治剛，石川正也，品田卓郎，掃部弘行，今泉孝敬，田中啓治，清宮康嗣，酒井俊太，水野杏一：人工弁に由来すると考えられた可動性円形血栓により切迫梗塞をきたした1例．174回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．11．
- 55) 篠澤 功，岸田輝幸，米沢真興，柴田喜明，田中 周，星野哲夫，佐藤 順，田口文彦，藤森俊二，吉田 豊，小林正文，横井公良，田中宣威：過去5年間における大腸の進行癌と早期癌に関する都市部と町村部との疫学的比較検討．第17回日本大腸検査学会総会，1999．11．
- 56) 篠澤 功，岸田輝幸，米沢真興，柴田喜明，田中 周，星野哲夫，辰口篤志，佐藤 順，藤森俊二，玉川恭二，

吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 当科における大腸腫瘍内視鏡的分割切除症例の検討. 第57回日本消化器内視鏡学会総会, 1999. 11.

- 57) 水野杏一: 動脈硬化の診断における血管内視鏡と血管内超音波. 岩国市医師会学術講演会, 1999. 11.
- 58) 水野杏一: 急性冠症候群におけるvulnerable plaqueの診断と治療. 5回呉西脂質冠動脈疾患談話会, 1999. 11.
- 59) 大場崇芳, 田邊 潤, 清宮康嗣, 横山真也, 高野雅充, 富村正登, 酒井俊太, 水野杏一, 掃部弘行, 今泉孝敬: ステンツ再狭窄規定因子. 1回第一内科心臓カテーテル班年次研究会, 1999. 12.
- 60) 大場崇芳, 酒井俊太, 加藤良人, 平澤泰宏, 田邊 潤, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 富村正登, 小倉宏道, 水野杏一: STENT再狭窄の規定因子: IVUSによる検討. 17回循環器合同カンファランス, 1999. 11.
- 61) 田邊 潤, 酒井俊太, 稲見茂信, 横山真也, 大場崇芳, 松本 真, 富村正登, 大村和子, 山内茂生, 水野杏一, 清宮康嗣, 松田宏之, 今泉孝敬, 田中啓治: 急性心筋梗塞に対するステント留置後の内膜の経時的観察. 7回心血管内イメージング研究会, 1999. 12.
- 62) 堀江修治, 本橋典久, 小俣雅稔, 田中庸介, 杣 知行, 小久保豊, 小野 靖, 日野光紀, 真崎義隆, 五味淵誠, 工藤翔二, 大秋美治: 気道分泌物を分析し得た気管支胆嚢ろうの1例. 第91回日本気管支学会関東支部会, 1999. 12.
- 63) 大場崇芳, 酒井俊太, 平澤泰宏, 田邊 潤, 清宮康嗣, 稲見茂信, 高野雅充, 横山真也, 富村正登, 小倉宏道, 山内茂生, 水野杏一: 血管内エコーによりステント留置後再狭窄はどの程度減らせるか?. 13回日本冠疾患学会, 1999. 12.
- 64) 稲見茂信, 田邊 潤, 平澤泰宏, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登, 小倉宏道, 酒井俊太, 山内茂生, 畑 典武, 水野杏一: 感染症やホモシステインが虚血性心疾患の病態にいかに関与するか?. 13回日本冠疾患学会, 1999. 12.
- 65) 清宮康嗣, 水野杏一, 平澤泰宏, 田邊 潤, 稲見茂信, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 小倉宏道, 酒井俊太, 山内茂生: 急性冠症候群におけるプラークの破綻部位の検討. 13回日本冠疾患学会, 1999. 12.
- 66) 清宮康嗣, 横山真也, 平澤泰宏, 田邊 潤, 高野雅充, 大場崇芳, 富村正登, 小倉宏道, 酒井俊太, 水野杏一, 吉川雅智, 伊佐治剛, 石川正也, 品田卓郎, 掃部弘行, 今泉孝敬, 田中啓治: 人工弁由来血栓性症の診断および治療方針決定に血管内視鏡が有用であった切迫梗塞の1例. 日本心血管インターベンション学会第8回ウインターミーティング, 2000. 1.
- 67) 田邊 潤, 酒井俊太, 平澤泰宏, 高野雅充, 清宮康嗣, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 小倉宏道, 山内茂生, 水野杏一, 品田卓郎, 掃部弘行, 今泉孝敬, 田中啓治: 内膜の経時的観察による急性心筋梗塞に対するステント療法の有用性の検討. 日本心血管インターベンション学会第8回ウインターミーティング, 2000. 1.
- 68) 水野杏一: 急性冠症候群の病因と治療: 血管内視鏡による検討. いわき心疾患勉強会, 2000. 1.
- 69) 渡邊綾子, 周東祐仁, 杉原 仁, 小野瀬裕之, 亀谷 純, 若林一二: 食事摂取にGHが著明に反応した先端巨大症の1例. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000. 2.
- 70) 田邊 潤, 平澤泰宏, 品田卓郎, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 大場崇芳, 横山真也, 小倉宏道, 酒井俊太, 今泉孝敬, 草間芳樹, 山内茂生, 水野杏一: Cutting balloon後, 大きなflapとなった血管内xanthomaの1例. 175回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 2.
- 71) 杣 知行, 日野光紀, 本橋典久, 小野靖, 小久保豊, 田中庸介, 小俣雅稔, 五味淵誠, 工藤翔二: BDPからフルチカゾン(FP)へ変更した喘息症例における使用感の検討. 第40回呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 72) 田中庸介, 本橋典久, 小俣雅稔, 杣 知行, 小久保豊, 小野 靖, 日野光紀, 五味淵誠, 工藤翔二, 榎原桂太郎<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>1)</sup>, 福村基之<sup>1)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>, 三上理一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜労災病院呼吸器科): 心臓超音波検査を用いた慢性呼吸不全患者の肺高血圧とADLの相関の検討. 第40回日本呼吸器学会総会, 2000. 3.
- 73) 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊, 杣 知行, 田中庸介, 小俣雅稔, 本橋典久, 堀江秀治, 真崎義隆, 五味淵誠,

工藤翔二：中葉舌区症候群に対する気管支鏡検査の有用性．第40回日本呼吸器学会総会，2000．3．

74) 小俣雅念，日野光紀，柚 知行，小野 靖，小久保豊，田中庸介，本橋典久，堀江秀治，五味淵誠，工藤翔二：フルチカゾン（FP）を使用している呼吸器疾患患者と口腔真菌との関連についての検討．第40回日本呼吸器学会総会，2000．3．

75) 岡島史宜，周東祐仁，杉原 仁，亀谷 純，小野瀬裕之，田村秀樹，江本直也，岡田憲明<sup>1)</sup>，及川眞一，若林一二（<sup>1</sup>博慈会記念病院総合内科）：Addison病の1例．第10回臨床内分泌代謝Update，2000．3．

76) 進士陽子，小野瀬裕之，周東祐仁，亀谷 純，杉原 仁，江本直也，及川眞一，若林一二：橋本病に合併したACTH単独欠損症．第10回臨床内分泌代謝Update，2000．3．

77) 今泉孝敬，草間芳樹，掃部弘行，品田卓郎，堀江 格，宣保陽介，福島正人，水野杏一：ミルリノンの使用適応の検討．2回千葉ミルリノン研究会，2000．3．

#### (6) ラウンドテーブルディスカッション：

1) 岩切勝彦，杉浦敏昭，琴寄 誠，小林正文：逆流性食道炎の重症度と食道運動機能．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．

## [ 千葉北総病院集中治療部 ]

### 研究概要

急性心筋梗塞，不安定狭心症，解離性大動脈瘤，うっ血性心不全，肺血栓塞栓症を中心に集中管理を行い，最新かつ安定した治療法の確立を目指し研究を重ねた．本施設の特徴は人工補助療法が可能であることと，成田空港に近いために長期飛行にともなう肺血栓塞栓症例が多いことである．成田空港には本学附属成田空港クリニックが24時間稼働しており，連携を密にすることにより重症患者の早期診断と迅速な搬送に続く集中管理開始が可能となっている．徹底した救急患者受け入れも患者源を大きくしている．

#### (1) 人工補助装置

救命救急科での重症患者受け入れ，麻酔科，全般的な外科的治療，透析設備，画像診断設備，臨床検査部門が充実しており，集中治療部では重症患者の管理においてこれらをフルに活用しつつ，人工呼吸器，血液浄化法，IABP，PCPSなどの補助装置を駆使している．多臓器不全合併患者の他施設からの転送も多く，千葉県での重症患者管理，血液浄化法に関する研究の拠点として活動している．

#### (2) 肺血栓塞栓症

本疾患については概念，診断法が確立されており，本邦でも増加傾向がある．しかし，急性期の病態把握と積極的治療ならびに予後調査については未だ不十分である．我々の施設は，長時間飛行に係わる本症発症例（いわゆるエコノミーシート症候群）が多く搬送される．画像診断部門，臨床検査部門の協力を得て，本症の急性期病態把握と最新かつ有効な治療法の確立を提唱できる全国でも筆頭の施設である．現在，下肢静脈血栓を有する本症に対し一時的ならびに永久下大静脈フィルター装着の有用性を検討し学会での提唱を行っている．

#### (3) 急性心筋梗塞

当院では心筋梗塞急性期の治療に，冠動脈内視鏡，血管内エコーを活用し，新しい治療戦略の確立と治療法の選択基準の確立に努めている．また，不安定狭心症を含めた急性冠症候群においても同様の戦略確立を目的に多方面からの研究を重ねている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) 松田裕之，田中啓治，清宮康嗣，今泉孝敬：PCPSの有効性の評価と血液浄化法という新たな治療戦略の検討．



医工学治療 1999 ; 11 ( 4 ) : 612-614 .

(2) 総説 :

- 1) 田中啓治, 磯田麻里 : ICU領域におけるカテコラミン製剤の使い方 . Pharma Medica 1999 ; 17 ( 6 ) : 99-104 .
- 2) 田中啓治, 加藤浩司, 木村祐子 : 新しい脚ブロックの出現 . 救急医 1999 ; 23 ( 9 ) : 1094-1095 .
- 3) 田中啓治, 森山 岳, 松田裕之 : 補助循環を行っている急性心筋梗塞 . 救急医 1999 ; 23 ( 11 ) : 1609-1611 .

学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

特別講演 :

- 1) 田中啓治 : 急性心不全の最新の治療 . 北摂心不全研究会 ( 大阪 ), 1999 . 2 .

一般講演 :

- 1) 愛須紀子, 高橋保裕, 野村敦宣, 清宮康嗣, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 東直行<sup>2)</sup>, 服部怜美<sup>2)</sup>, 保坂純郎<sup>3)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同皮膚科, <sup>3)</sup>同放射線科): ハイドライザーによる血栓吸引療法をおこなった急性肺血栓塞栓症を伴うKippel-Trenaury-Weber症候群 (KTWS) の1例 . 第171回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1999 . 2 .

(1) シンポジウム :

- 1) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 松田裕之, 横山真也<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 野村敦宣, 大村和子<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 大国真一<sup>1)</sup>, 張 静<sup>1)</sup>, 田中啓治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 当院における第3世代ステント使用における合併症および再狭窄の検討 . 第5回日本血管内治療学会総会, 1999 . 6 .
- 2) 酒井俊太<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 張 静<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 大国真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 松田裕之, 野村敦宣, 今泉孝敬, 田中啓治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈内視鏡ガイダンスカテーテルインターベンションについての検討 . 第5回日本血管内治療学会総会, 1999 . 6 .

(2) セミナー :

- 1) 田中啓治 : 難治性急性心不全の治療 . 第47回日本心臓病学会学術集会, 1999 . 9 .
- 2) 田中啓治 : 新東京国際空港を中心とした循環器救急疾患の発生状況とその対策 . 北東北心臓病救急セミナー, 1999 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) Seimiya K, Tanaka K, Tanabe J, Matsuda H, Imaizumi T : Utility of concurrent treatment of PCPS and blood purification method to severe cardiogenic shock . The 3rd Annual Scientific Meeting of the Japanese heart failure Society, 1999 . 9 .
- 2) 稲見茂信<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 小野いすず<sup>1)</sup>, 田邊 潤<sup>1)</sup>, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 張 静<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 大国真一<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 松田裕之, 田中啓治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科): 種々のTranscatheter therapyを施行した慢性肺血栓塞栓症の1例 . 第14回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1999 . 4 .
- 3) 清宮康嗣, 磯田麻里, 石川正也, 五十嵐勉, 品田卓郎, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急救命部): エアバッグによる胸部圧迫を契機に発症したと思われる急性大動脈解離 (IIa) の1例 . 第2回千葉救急医療研究会, 1999 . 4 .
- 4) 田中啓治, 今泉孝敬, 松田裕之, 野村敦宣 : 急性広範囲肺血栓塞栓症に対するカテーテルインターベンションの有効性 . 第96回日本内科学会総会, 1999 . 4 .
- 5) 徳山権一, 磯田麻里, 石川正也, 品田卓郎, 清宮康嗣, 松田裕之, 今泉孝敬, 田中啓治, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 肩甲部痛で発症し, 骨格筋と心筋にgiant cellの浸潤をみとめた劇症型心筋炎の1例 . 第172

回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．6．

- 6) 稲見茂信<sup>1)</sup>，田邊 潤<sup>1)</sup>，小野いすず<sup>1)</sup>，張 静<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，松本 真<sup>1)</sup>，大村和子<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，大国真一<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，今泉孝敬，田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): 高齢者虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション治療の成績．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 7) 石川正也，磯田麻里，品田卓郎，松田裕之，清宮康嗣，今泉孝敬，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>第1内科 ): 超高齢者急性大動脈解離の臨床的特徴．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 8) 横山真也<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，松本 真<sup>1)</sup>，大村和子<sup>1)</sup>，大国真一<sup>1)</sup>，張 静<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，清宮康嗣，松田裕之，野村敦宣，今泉孝敬，田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 血管内視鏡で観察されるSTENT-plaque protrusion-の検討．第5回日本血管内治療学会総会，1999．6．
- 9) 徳山権一，田中啓治，今泉孝敬，淀川顕司，松田裕之，清宮康嗣，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策．第19回心筋梗塞研究会，1999．7．
- 10) 横山真也<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，田邊 潤<sup>1)</sup>，長戸裕道<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，富村正登<sup>1)</sup>，松本 真<sup>1)</sup>，大村和子<sup>1)</sup>，大国真一<sup>1)</sup>，張 静<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，清宮康嗣，松田裕之，今泉孝敬，田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>同外科 ): 急性心筋梗塞例の1カ月後のSTENTの新内膜被覆について．血管内視鏡での検討．第8回日本心血管インターベンション学会，1999．7．
- 11) 徳山権一，今泉孝敬，淀川顕司，品田卓郎，清宮康嗣，松田裕之，田中啓治，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): Trouser-like stentingおよびPCPSとCHDF併用によって究明しえた38歳LMT梗塞の1例．第8回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1999．8．
- 12) 木村祐子，徳山権一，磯田麻里，石川正也，品田卓郎，清宮康嗣，松田裕之，今泉孝敬，田中啓治：新東京国際空港で発症した4例の急性肺血栓栓症の検討．第173回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．9．
- 13) 松田裕之，清宮康嗣，田中啓治，今泉孝敬，淀川顕司，徳山権一，大国真一<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 左冠動脈主幹部梗塞の病態とその対策．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 14) 中野緑香<sup>2)</sup>，高原かほり<sup>2)</sup>，曽根原はる美<sup>2)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>シミック株式会社CRC事業部 ): 治験コーディネーターの必要性と治験患者意識の実態．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 15) 清宮康嗣，田中啓治，松田裕之，今泉孝敬，淀川顕司，徳山権一，石川正也，磯田麻里，品田卓郎：急性心筋梗塞に伴う難治性心不全に対する血液浄化法の新しい適応法．第47回日本心臓病学会学術集会，1999．9．
- 16) 今泉孝敬，松田裕之，清宮康嗣，淀川顕司，徳山権一，田中啓治：急性肺血栓栓症に対するカテーテルインターベンションの有用性．第36回日本臨床生理学会総会，1999．10．
- 17) 吉川雅智，伊佐治剛，石川正也，品田卓郎，掃部弘行，今泉孝敬，田中啓治，清宮康嗣<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 人工弁に由来すると考えられた可動性円形塞栓により切迫梗塞をきたした1例．第174回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．11．
- 18) 掃部弘行，田中啓治，小原俊彦，今泉孝敬，高山英男<sup>1)</sup>，加藤貴雄<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>第1内科 ): 急性心筋梗塞に伴う虚血性不整脈に対するカリウムチャネル遮断薬MS-551の有用性．第12回心臓性急死研究会，1999．12．
- 19) 大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，品田卓郎，平澤泰宏<sup>1)</sup>，田邊 潤<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，掃部弘行，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，富村正登<sup>1)</sup>，小倉宏道<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>2)</sup>，草間芳樹，水野杏一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): 血管内エコーによりステント留置後再狭窄はどの程度減らせるか？．第13回日本冠疾患学会，1999．12．
- 20) 清宮康嗣<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，平澤泰宏<sup>1)</sup>，田邊 潤<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，富村正登<sup>1)</sup>，小倉宏道<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，吉川雅智，伊佐治剛，石川正也，品田卓郎，掃部弘行，今泉孝敬，田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総

病院内科): 人工弁由来血栓塞栓症の診断および治療方針決定に血管内視鏡が有用であった切迫梗塞の1例。日本心血管インターベンション学会第8回ウインターミーティング, 2000. 1.

- 21) 田邊 潤<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小倉宏道<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 掃部弘行, 今泉孝敬, 田中啓治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科 ): 内膜の経時的観察による急性心筋梗塞に対するステント療法の有用性の検討。日本心血管インターベンション学会第8回ウインターミーティング, 2000. 1.
- 22) 田邊 潤<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 小倉宏道<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 草間芳樹, 山内茂生<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科 ): Cutting balloon 後, 大きな flap となった血管内 xanthoma の1例。第175回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 2.

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

開設の経緯: 千葉北総病院に新駅開設の決定にともない平成11年7月に医師1名で開設された。平成11年10月によりやく医師3名となり, 医科大学の診療科の医局として臨床ばかりでなく, 英文論文, 国際共同研究や国際学会への発表などを行っている。

研究課題としては, 神経生理を電気生理を中心として解明している。運動関連脳電位による随意運動の解明と脳血管障害などの中枢神経障害のあとにおきる脳の可塑性と機能回復の研究, 音刺激にたいする認知機能と失語との関係を行っている。この研究にかんしては北総メデイカルコンプレックスによる東京電気大学との脳磁図による共同研究を行っている。動作解析および運動解析としては日南学園の中川博文博士との共同研究による光弾性方法を利用した種々の疾患における病態解析を行っている。血友病にとねなう関節障害や東南アジア医学研究会をつうじたタイのチェンマイ大学リハ科との切断と義足の側圧分布や脊髄損傷の共同研究を行っている。地域リハや在宅生活支援もリハ科としての大切な社会的研究課題であり, 在宅支援をおこなっている川崎市の民間病院との共同事業を行っており, 今後ハワイの民間リハ病院とのリハサービスのシステムについて経験の交流をおこなう予定である。

このように着実に研究業績をあげてはいるが, 学問の府である大学の付属病院の診療科として世界の学術雑誌に成果を発表できリハ医師を育成できるような臨床, 教育と研究を持続するための環境の整備が必要である。

### 研究業績

#### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著:

- 1) Kitamura J, Shibasaki H<sup>1)</sup>, Tashima K ( <sup>1)</sup>Department of Brain Pathophysiology, Faculty of Medicine, Kyoto University ): Cortical potentials preceding voluntary finger movement in focal cerebellar lesion. Clinical Neurophysiology 1999; 110: 126-132.
- 2) Kurusu K<sup>1)</sup>, Kitamura J ( <sup>1)</sup>Department of Rehabilitation, Nippon Medical School Second Hospital ): Long-latency reflexes in contracted hand and foot muscles and their relations to somatosensory evoked potentials and transcranial magnetic stimulation. Clinical Neurophysiology 1999; 110: 2014-2019.
- 3) 北村純一<sup>1)</sup>, 岩井良成<sup>2)</sup>, 津村貢太郎<sup>2)</sup>, 小野重五郎<sup>2)</sup>, 赫 彰朗<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院リハビリテーション科, <sup>2)</sup>川崎幸病院脳外科, <sup>3)</sup>第2内科 ): 脳血管障害における脳波と機能予後との関係。日医大誌 1998; 65: 28-33.

総説:

- 1) 北村純一: 運動関連脳電位。最新医学 1998; 53: 1720-1724.
- 2) 北村純一: 遷延性弛緩性麻痺の機能予後は不能?。総合リハビリテーション 1998; 26: 695-697.

- 3) 北村純一：脳血管障害のリハビリテーション update . MEDICO 1998 ; 29 : 11-13 .
- 4) 北村純一：体性感覚誘発電位と手指機能回復評価 . Clinical Neuroscience 1999 ; 18 : 51-53 .

## 著 書

- 1) Kitamura J , Kurusu K<sup>1)</sup> , Ohya A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Second Hospital ) : long loop reflexes and movement-related cortical potentials in patients with focal cerebellar lesions . Recent Advances in Human Neurophysiology ( Hashimoto I and Kakigi R ) , 1998 ; pp922-925 , Elsevier .
- 2) Kitamura J , Kurusu K<sup>1)</sup> , Ohya A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Rehabilitation, Nippon Medical School Second Hospital ) : V3 component evoked in the thenar muscles of patients with cerebral as compared to cerebellar lesions . Recent Advances in Human Neurophysiology ( Hashimoto I and Kakigi R ) , 1998 ; pp919-925 , Elsevier .
- 3) Kurusu K<sup>1)</sup> , Kitamura J ( <sup>1)</sup> Department of Rehabilitation, Nippon Medical School Second Hospital ) : Long-latency reflexes evoked in the hand muscles as compared to those in the foot muscles . Recent Advances in Human Neurophysiology ( Hashimoto I and Kakigi R ) , 1998 ; pp926-928 , Elsevier .

## 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

### シンポジウム :

- 1) Kitamura J : Long loop reflexes and movement-related cortical potentials in patients with focal cerebellar lesions . XIV International Symposium of Evoked Potentials ( Okazaki, Aichi, Japan ) , 1998 . 3 .

### 一般講演 :

- 1) Kitamura J : V3 component evoked in the thenar muscles in patients with cerebral as compared to cerebellar lesions . XIV International Symposium of Evoked Potentials ( Okazaki, Aichi, Japan ) , 1998 . 3 .
- 2) Kurusu K , Kitamura J : Long-latency reflexes evoked in the hand muscles as compared to those in foot muscles . XIV International Symposium of Evoked Potentials ( Okazaki, Aichi, Japan ) , 1998 . 3 .

### ( 1 ) 一般講演 :

- 1) 北村純一 , 杉本篤夫 , 福地勇人 : Guillan-Barre 症候群と長ループ反射 . 第 11 回日本神経学会 , 1999 . 5 .
- 2) 中川博文 , 北村純一 , 古賀良平 : 血友病患者における立位姿勢時の足圧分布の解析 . 第 36 回日本リハビリテーション医学学会 , 1999 . 5 .
- 3) 宮本幹男 , 北村純一 : 弁蓋部症候群にたいするリハビリテーション . 第 36 回日本リハビリテーション医学学会 , 1999 . 5 .
- 4) 北村純一 : Guillan-Barre 症候群における長ループ反射 . 第 36 回日本リハビリテーション医学学会 , 1999 . 5 .
- 5) 北村純一 , 杉山孝博 : パイパップが有効であった先天性ミオパチーの 1 例 . 第 10 回日本リハビリテーション医学学会関東地方会 , 1999 . 7 .
- 6) 北村純一 , 杉本篤夫 , 福地勇人 : Guillan-Barre 症候群と長ループ反射 . 第 29 回日本脳波筋電図学会 , 1999 . 11 .

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

開院以来の目標であった 600 床体制が実現したことにより , 手術件数などの増加に対応可能な病理部の体制作りの

最終段階に入った年度であったが、開院以来の方針である病理部に提出される症例を用いて、病理組織診断に寄与する臨床病理学的な検討を引き続き行ってきた。また、病理学、法医学教室との共同研究も継続中である。

- 1) 消化器系疾患については、大腸癌、消化管間質腫瘍の臨床病理学的検索の結果を発表、報告した。
- 2) アルツハイマー病を中心とする中枢神経系変性疾患については、その発生機構の解析を法医学教室、病理学第2教室との共同研究により継続中である。
- 3) 当院産婦人科と共同して、女性器腫瘍を中心とする婦人科疾患の臨床病理学的解析を実施中である。
- 4) 電子顕微鏡の検索法を用いて、希有症例の超微形態の観察を行った。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kawanami O<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Thoracic Surgery, Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Red Cross Hospital Center): Mosaic-like distribution of endothelial cell antigens in capillaries and juxta-alveolar microvessels in the normal human lung. *Pathol Int.* 1999 ; 50 (2): 136-141 .
- 2) Omata M<sup>1)</sup>, Hino M<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Hayashibara K<sup>2)</sup>, Furuta T<sup>2)</sup>, Enomoto T<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Kudoh S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Internal Medicine, Ebina General Hospital, <sup>2)</sup> Department of Respiratory Disease, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital): Mediastinal yolk sac tumor in a woman. *Int J Clin Oncol* 1999 ; 4 : 248-252 .
- 3) Nakahara M<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Mori O (<sup>1)</sup> Department of Radiology): Value of magnetization transfer contrast as a sensitive technique to reflect histopathological changes in the white matter adjacent to the frontal horns of lateral ventricles. *J Nippon Med Sch* 1999 ; 66 (4): 245-252 .
- 4) Yamazaki M<sup>1)</sup>, Oyanagi K<sup>2)</sup>, Mori O, Kitamura S<sup>1)</sup>, Ohyama M<sup>1)</sup>, Terashi A<sup>1)</sup>, Kitamoto T<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 2nd. Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute of Neurology): Variant Gerstmann-Strausler syndrome with the P105L prion gene mutation: An unusual case with nigral degeneration and widespread neurofibrillary tangles. *Acta Neuropathol* 1999 ; 98 (5): 506-511 .
- 5) Mori O, Haseba T<sup>1)</sup>, Kameyama K<sup>2)</sup>, Shimizu H, Kudoh M<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Arai Y<sup>3)</sup>, Yamazaki M<sup>3)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> 2nd. Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> 2nd. Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Histological distribution of class III alcohol dehydrogenase in human brain. *Brain Res* 2000 ; 852 (1): 186-190 .
- 6) Abe H<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup>, Osawa S<sup>1)</sup>, Hamasaki T<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Ikeda K<sup>1)</sup>, Oka F<sup>1)</sup>, Ohaki Y (<sup>1)</sup> Department of Urology, Chiba Hokusoh and 2nd Hospital): New method of bladder biopsy using combined aspiration and snare. *Urol Int* 2000 ; 63 (3): 175-178 .
- 7) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Shinozawa I<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Hoshino T<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Sato J<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Sakamoto C<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Third Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> First Department of Surgery): Mean corpuscular volume may be a useful index of risk for colorectal adenoma in middle-aged Japanese men. *Am J Gastroenterol* 2000 ; 95 (3): 793-797 .
- 8) Kawanami O<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Arai S, Gomibuchi M<sup>3)</sup>, Takeda K<sup>4)</sup>, Yu Z-X<sup>4)</sup>, Ferrans V<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Mole-

cular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Red-Cross Hospital Center, <sup>3)</sup> Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, <sup>4)</sup> Pathology Section, National Heart, Lung, and Blood Institute, National Institutes of Health, USA ): Heterogeneous Distribution of Thrombomodulin and von Willebrand Factor in Endothelial Cells in the Human Pulmonary Microvessels. J Nippon Med Sch 2000; 67 (2): 118-125.

- 9) 横井公良<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 大秋美治, 管 隼人<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院第1外科 ): 直腸Gastrointestinal Stromal Tumor ( GIST ) の1例. 日本大腸肛門学会雑誌 1999; 52 (5): 424-430.
- 10) 何 群, 大秋美治, 田中宣威<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 大腸癌におけるp53, *c-erb-B2*の発現とapoptosisとの関連性についての検討. 日医大誌 1999; 66 (3): 181-187.
- 11) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院第1外科 ): 直腸における神経内分泌癌の1症例. 日本消化器病学会雑誌 1999; 96. (9): 1057-1061.

## 著 書

- 1) 小黒辰夫: [ 分担 ] 電顕酵素細胞化学. Medical Technology 別冊 新染色法のすべて ( 水口国雄 他 ), 1999; pp74-76, 医歯薬出版.

## 学会発表

[ 1998 年度追加分 ]

一般講演:

- 1) 渡辺善正<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 新井 悟, 浅野伍朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 側頸嚢胞内の異所性甲状腺原発と考えられた乳頭癌の1例. 第87回日本病理学会総会, 1998. 4.
- 2) 太田吉男<sup>1)</sup>, 大庭孝男<sup>1)</sup>, 斎藤良明<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 新井 悟, 松本光司<sup>1)</sup>, 平田知巳<sup>2)</sup>, 佐藤春明<sup>3)</sup>, 相田昌子<sup>3)</sup>, 枝川聖子<sup>4)</sup>, 清水 一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 同外科, <sup>3)</sup> 付属病院病理部, <sup>4)</sup> 老人病研究所分子病理部門 ): 胸壁より発生した骨外性骨肉腫の1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 3) 斎藤良明<sup>1)</sup>, 太田吉男<sup>1)</sup>, 大庭孝男<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 新井 悟, 松島 隆<sup>2)</sup>, 塚田克也<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 同産婦人科 ): 腔原発amelanotic melanomaの1例. 第39回日本臨床細胞学会総会, 1998. 6.
- 4) 服部怜美<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 天野薫子<sup>1)</sup>, 小黒辰夫, 早澤久美, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 ): Film sheet resin embedding method ( FSEM ) を電子顕微鏡検査に応用したcystic basal cell carcinomaの1例. 第14回日本皮膚悪性腫瘍学会, 1998. 7.
- 5) 峰岸祐司<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 古田知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中恵美<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 真崎義隆<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 同胸部外科 ): Lymphoepithelioma-like carcinomaが疑われた小型肺癌の1例. 第6回東葛肺癌研究会, 1998. 11.
- 6) 金 恩京<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 姜 莉<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>, 大秋美治, 川並汪一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup> 日本赤十字医療センター病理部 ): 正常肺および癌における気管支微小血管と肺胞毛細血管の発現抗原の違い. 第11回気道病態シンポジウム, 1999. 1.
- 7) 新井 悟, 大秋美治, 森 修: 乳腺腫瘍の1例. 第11回日本病理学会関東支部千葉地区集会, 1999. 3.

(1) シンポジウム:

- 1) 小黒辰夫: 病院病理の現況: 電子顕微鏡学の体系化と応用. 日本医科大学医学会第100回例会, 2000. 2.

(2) 一般講演:

- 1) 森 修, 新井 悟, 大秋美治, 渡 淳<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>病理学第2): 熱帯熱マラリアに伴う諸臓器障害: 初期脳マラリアを中心とする電顕および免疫組織化学的検討. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 2) 森 修, 大秋美治, 新井 悟, 柳沢正志<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科, <sup>2)</sup>病理学第2): 腸管型 MELAS の腸管筋層超微形態. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 3) 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 五味測誠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科, <sup>3)</sup>千葉北総病院胸部外科): 多発性嚢胞性肺疾患の病理: 瀰漫性過誤腫性肺脈管筋腫症(LAM)の病態に関する免疫組織化学的, 超微形態学的検討を中心に. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 4) 金 恩京, 藤原正和<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 姜 莉<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>, 大秋美治, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup>日本赤十字医療センター病理部): ヒト肺微小血管内皮細胞の領域別特異性と癌細胞の転移した肺胞壁での特徴. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 5) 清水 一<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 大秋美治, 武村民子<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup>日本赤十字医療センター病理部): Chromosomal aneuploidy in bronchioloalveolar carcinoma as detected by interphase cytogenetics. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 6) 何 群, 大秋美治, 森 修, 新井 悟, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) における免疫組織学的検討: 特に抗原性の発現様式の多様性について. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 7) ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 大秋美治, 武村民子<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup>日本赤十字医療センター病理部): Analysis of CDK4 and Its Inhibitor P16<sup>INK4</sup> Protein in Bronchioloalveolar Carcinoma. 第88回日本病理学会総会, 1999. 4.
- 8) 内原俊記<sup>1)</sup>, 中村綾子, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 森 修(<sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所神経病理, <sup>2)</sup>付属病院第2内科): タウ陽性神経細胞の線維形成: Thiazin red と蛍光二重染色による CBD の特徴. 第40回日本神経病理学会総会, 1999. 6.
- 9) 森 修, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 渡辺英樹<sup>3)</sup>, 真柳佳昭<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院病理, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>東京警察病院脳神経外科): 難治性てんかんの外科病理. 第40回日本神経病理学会総会, 1999. 6.
- 10) 新井裕至<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 村松浩美<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科, <sup>2)</sup>病理学第2): アルツハイマー型およびLewy小体型痴呆における  $\alpha$ -synuclein. 第40回日本神経病理学会総会, 1999. 6.
- 11) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 岩坪 威<sup>2)</sup>, 森 修, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科, <sup>2)</sup>東京大学大学院薬学系): Guam Parkinsonism-dementia complex の扁桃核に認められた  $\alpha$ -synuclein 陽性封入体. 第40回日本神経病理学会総会, 1999. 6.
- 12) 新井裕至<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 森 修, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科, <sup>2)</sup>病理学第2): 変性性痴呆の連続剖検30例における  $\alpha$ -synuclein 陽性構造物の検討. 第40回日本神経学会総会, 1999. 6.
- 13) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 大秋美治, 高橋 肇<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 小黒辰夫, 清水秀樹, 早澤久美, 三枝順子, 安藤 哲(<sup>1)</sup>千葉北総病院産婦人科): 高用量 MPA 療法を施行した若年性子宮体癌の病理組織および細胞診所見の経時的変化. 第40回日本臨床細胞学会総会, 1999. 6.
- 14) 内山史生<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 片桐宥代<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 大秋美治, 河村 堯<sup>2)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同産婦人科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 子宮内膜 adenoacanthoma に合併した子宮筋層内 sex-cord like tumor の1例. 第13回腹部放射線研究会, 1999. 6.
- 15) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 武内 努<sup>1)</sup>, 岩崎卓爾<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院産婦人科, <sup>2)</sup>付属病院産婦人科): Perinodular hydropic degeneration を伴った子宮平滑筋腫の4例.

第28回日本婦人科腫瘍学会総会，1999．7．

- 16) 里見操緒<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>1)</sup>，高橋 肇<sup>1)</sup>，武内 努<sup>1)</sup>，若月雅美<sup>1)</sup>，河村 堯<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>2)</sup>，大秋美治<sup>(1)</sup> (千葉北総病院産婦人科，<sup>2)</sup> 付属病院産婦人科): 流産後に trophoblastic embolism を疑った1例．第28回日本婦人科腫瘍学会総会，1999．7．
- 17) 早澤久美，森 修，大秋美治，小黑辰夫，浅野伍朗<sup>1)</sup>，山崎峰雄<sup>2)</sup>，新井裕至<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第2，<sup>2)</sup> 付属病院第2内科): 消化管症状を伴う MELAS ( Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes ) の腸管超微形態．第31回日本臨床電子顕微鏡学会，1999．9．
- 18) 新井 悟，森 修，大秋美治，小黑辰夫，日野光紀<sup>1)</sup>，五味淵誠<sup>2)</sup>，浅野伍朗<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科，<sup>2)</sup> 同胸部外科，<sup>3)</sup> 病理学第2): 肺びまん性過誤腫性脈管筋腫症 ( LAM ) の病理組織学的・免疫組織学的・超微形態学的検索．第31回日本臨床電子顕微鏡学会，1999．9．
- 19) 清水 一<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，栗原雄司<sup>2)</sup>，大秋美治，五味淵誠<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 老人病研究所分子病理部門，<sup>2)</sup> 第二病院消化器病センター，<sup>3)</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 細気管支肺胞上皮癌における VEGF-isoform の発現．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 20) 金 恩京<sup>1)</sup>，藤原正和<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>，姜 莉<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，大秋美治，五味淵誠<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 老人病研究所分子病理部門，<sup>2)</sup> 千葉北総病院胸部心臓呼吸器外科): 共焦点顕微鏡の三次元分析によるヒト肺胞微小血管内皮細胞のモザイク構造．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 21) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>，Shimizu H<sup>1)</sup>，Nagashima M<sup>1)</sup>，Kurihara Y<sup>1)</sup>，Jin E<sup>1)</sup>，Li J<sup>1)</sup>，Fujiwara M<sup>1)</sup>，Egawa S<sup>1)</sup>，Arai S，Moriyama Y<sup>2)</sup>，Kawanami O<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology): Feasibility of Laser Capture Microdissection of Immunostained cells for molecular analysis．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 22) 枝川聖子<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，渡会泰彦<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>，太田吉男<sup>3)</sup>，松本光司<sup>3)</sup>，片山博徳<sup>4)</sup>，前田昭太郎<sup>4)</sup>，小黑辰夫，大秋美治 (<sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門，<sup>2)</sup> 付属病院病理部，<sup>3)</sup> 第二病院病理部，<sup>4)</sup> 多摩永山病院病理部): 本学の気管支肺胞洗浄法 ( Bronchoalveolar Lavage ) における各種肺疾患での atypical lymphoid cell の出現とその意義．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 23) 岡田一郎<sup>1)</sup>，高橋明子<sup>1)</sup>，山本修三<sup>1)</sup>，斎藤 善<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，中村 敏<sup>1)</sup>，小川理郎<sup>1)</sup>，丸山正明<sup>1)</sup>，犬塚 祥<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，大秋美治 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院救命救急センター): 瀰漫性の肝浸潤を認め急激な転帰をとった神経内分泌癌の1例．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．
- 24) 新井 悟，大秋美治，森 修: 肺粘液産生性腫瘍の1例．第12回日本病理学会関東支部千葉地区集会，1999．10．
- 25) 阿部俊之<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>1)</sup>，若月雅美<sup>1)</sup>，里見操緒<sup>1)</sup>，品川寿弥<sup>1)</sup>，武内 務<sup>1)</sup>，松本讓二<sup>1)</sup>，河村 堯<sup>1)</sup>，荒木勤<sup>2)</sup>，大秋美治 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院産婦人科，<sup>2)</sup> 付属病院産婦人科): 骨盤内膿瘍の診断で開腹した小腸間質腫瘍の2例．第98回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術講演会，1999．11．
- 26) 阿部俊之，鴨井青龍<sup>1)</sup>，広末卓也<sup>1)</sup>，里見操緒<sup>1)</sup>，武内 務<sup>1)</sup>，松下径広<sup>1)</sup>，若月雅美<sup>1)</sup>，河村 堯<sup>1)</sup>，新井悟，森 修，大秋美治 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院産婦人科): 会陰切開縫合部に発生した外性子宮内膜症の1例．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 27) 里見操緒，鴨井青龍<sup>1)</sup>，阿部俊之<sup>1)</sup>，弘末卓也<sup>1)</sup>，武内 務<sup>1)</sup>，松下径広<sup>1)</sup>，若月雅美<sup>1)</sup>，河村 堯<sup>1)</sup>，新井悟，森 修，大秋美治 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院産婦人科): Epithelioid Trophoblastic Tumor の1例．平成11年度日本産科婦人科学会千葉地方部会冬期学術講演会，2000．2．
- 28) 鴨井青龍<sup>1)</sup>，大秋美治，森 修，新井 悟，河村 堯<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院産婦人科): Epithelioid trophoblastic tumor の1例．第13回日本病理学会関東支部千葉地区集会，2000．3．
- 29) 新井 悟，大秋美治，森 修，松本智司<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科): Serous microcystic adenoma の1例．第13回日本病理学会関東支部千葉地区集会，2000．3．



## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

当中央検査室では、臨床検査体制の整備と拡充を主眼におき、検査測定機器や試薬および測定方法の有用性、検査精度や迅速性の向上を検討し、その成果を日常の臨床検査に反映させてきた。

今後、著しく発展するであろうと推測される臨床検査領域の技術習得を行い、検査精度の向上を図るため、各検査技術員が積極的に各種の認定資格取得を目指して精進中である。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 市原準平，岡本直人，柳下照子，飯野幸永，水野杏一：新しい細菌検査システムの有用性：MicroScan Walkaway と Vitek．第67回日本医科大学医学会総会，1999．9．

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

本年度は、医薬品の評価，細菌学的検討などの研究を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 浜田康次：医薬品情報媒体の改革．医薬品相互作用研究 1999；23(2)：75-82．
- 2) 大園英一<sup>1)</sup>，栗原 怜<sup>2)</sup>，大和田一博<sup>2)</sup>，桜井裕成<sup>2)</sup>，小野田教高<sup>2)</sup>，竹内正至<sup>2)</sup>，葉山修陽<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，式田竜司<sup>3)</sup>，佐治 守，米島秀雄<sup>2)</sup>，高橋秀美<sup>4)</sup>，大國寿士<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大付属病院第2内科，<sup>2)</sup>春日部秀和病院内科，<sup>3)</sup>付属病院中央検査室，<sup>4)</sup>日本医大微生物学・免疫学，<sup>5)</sup>日本医大老人病研究所)：外来維持血液透析患者の上気道における細菌学的検討．日本透析療法学雑誌 1999；185-190．
- 3) 浜田康次：医薬品情報ビジュアル化の試み．薬局 2000；51(3)：82-91．

##### (2) 総説：

- 1) 浜田康次：西暦2000年問題．薬局 1999；50(4)：118-119．
- 2) 浜田康次：学校薬剤師．薬局 1999；50(6)：130-131．
- 3) 浜田康次：バリアフリー．薬局 1999；50(7)：134-135．
- 4) 浜田康次：薬：薬連携．薬局 1999；50(8)：124-125．
- 5) 浜田康次：医療事故．薬局 1999；50(9)：120-121．
- 6) 浜田康次：医薬品情報システム．薬局 1999；50(10)：142-143．
- 7) 浜田康次：欧米の4～5倍もいるMRの数．PharmD 1999；1(2)：73-73．
- 8) 浜田康次：レンタルMR．薬局 1999；50(11)：134-135．
- 9) 浜田康次：死について．薬局 1999；50(12)：120-121．
- 10) 浜田康次：臨床薬剤師のためのIFの読み方．千葉県病院薬剤師会報 1999；(127)：81-95．
- 11) 浜田康次：添付文書・IF新記載要領．薬局 2000；51(1)：134-135．
- 12) 浜田康次：負けるな古い薬たち．薬事日報 2000；26(9238)：26-26．
- 13) 浜田康次：遺伝子組み換え食品．薬局 2000；51(2)：126-127．

14) 浜田康次：たかが薬剤師，されど薬剤師．ネオフィスト 2000；1(1): 3-3．

15) 浜田康次：オーダーメイド医療．薬局 2000；51(3): 114-115．

## 著書

- 1) 浜田康次，菅谷量俊<sup>1)</sup>，林 昌洋<sup>2)</sup>，大嶋 繁<sup>3)</sup>，井上直子<sup>4)</sup>，大野哲朗<sup>5)</sup>，笠原英城<sup>6)</sup>，笹嶋 勝<sup>7)</sup>，嶋崎芳枝<sup>8)</sup>，田中恒明<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大付属病院，<sup>2)</sup>虎の門病院，<sup>3)</sup>獨協医大越谷病院，<sup>4)</sup>埼玉医大医療センター，<sup>5)</sup>聖マリアンナ病院，<sup>6)</sup>国際電信電話診療所，<sup>7)</sup>昭和大学，<sup>8)</sup>滝野川病院，<sup>9)</sup>済生会横浜市南部病院)：〔分担〕振戦(局所麻酔剤)，痴呆様症状(インターフェロン)，てんかん(インターフェロン)．重大な副作用回避のための服薬指導集3(日本病院薬剤師会編)，1999；pp120-133，じほう．

## 学会発表

### (1) 教育講演：

1) 浜田康次：臨床薬剤師のためのIFの読み方．第3回南河内CP研究会，1999．5．

2) 浜田康次：臨床薬剤師のためのIFの読み方．第6回Pharmaceutical Care Seminar，1999．7．

3) 浜田康次：臨床薬剤師のためのインタビューフォームの読み方 新IFの改正点を中心に．千葉県中堅薬剤師研修会，1999．10．

4) 浜田康次：賢くつきあう薬講座：薬の正しい飲み方，使い方．第6回地域健康セミナー，2000．2．

### (2) パネルディスカッション：

1) 浜田康次：「医薬品情報媒体の改革」インタビュー時の現場からの要望．第48回医薬品相互作用研究会，1999．5．

### (3) 一般講演：

1) 石井直子<sup>1)</sup>，小茂田昌代<sup>2)</sup>，伊藤義樹，中山 健(<sup>1)</sup>田中農協病院，<sup>2)</sup>柏光陽病院)：医薬品の評価報告(ナテグリニド)．千葉県病北部支部研修会，1999．10．

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では，診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから，それぞれの画像検査についての研究を日常的に行っています．一般撮影部門では，CRの画像処理パラメータの条件に対する検討や骨密度測定の精度向上および撮影時の整位の研究開発を各診療科との連携において進めています．透視撮影部門では，胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究開発が中心となっています．MRI検査部門では，造影3D MRAの血流背景信号の抑制による検出能の改善，クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号の除去，STAR法を用いた頭部MRAの撮像条件の検討を中心に骨盤部の疑解像信号抑制やMRCPなどの研究も進めています．CT検査部門では，3DCTの信頼性の向上を目的に設定条件の検討を行っています．RI検査部門では，SPECTにおける呼吸動態と心筋の信号検出能との関係に対する検討やMRIとRIの技術を応用した循環器系の研究を進めています．特にMRI検査部門では，日本放射線技術学会において年間最優秀論文賞をはじめ数々の賞を受ける等目覚ましいものがあります．今後の課題として放射線治療部門の創設に伴う治療技術の研究や画像診断を総合的取り扱った研究等があり，他にも課題は多く存在しているものと認識しています．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 加藤丈司, 渡辺典男, 川村義彦: single shot fast short TI inversion recovery法を用いたsingle thick slice MR myelography. 日放線技会誌 2000; 56(2): 304-306.

### 著書

- 1) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): [分担] デジタルイメージングの落とし穴: 頭頸部撮影のテクニック. インナービジョン, 2000; pp60-64, 医療科学社.
- 2) 渡辺典男, 丸山智之, 川村義彦, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): [分担] デジタルイメージングの落とし穴: 造影検査撮影のテクニック. インナービジョン, 2000; pp25-29, 医療科学社.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Sakurai M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>2)</sup>, Mizumura S<sup>1)</sup>, Ishihara M<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Nakamura A, Onitsuka T, Kawamura Y, Okada S, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital): A Comparison of 180 and 360 data reconstruction for <sup>99m</sup>Tc myocardial SPECT images: relationship between pseudo-deficits and left ventricular long axis. International Conference of Nuclear Cardiology (Athens, Greece), 1999. 4.
- 2) Tomisato K, Watanabe T, Katoh J, Saitoh H, Cho K<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Tsuchihashi T<sup>2)</sup>, Ishihara M<sup>1)</sup>, Kawamura Y, Okada S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, Nozaki A<sup>3)</sup>, Takahashi Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>3)</sup>GE-YMS Application Research Group): Fluid Enhanced MRI: Comparison Between Fast Recovery Fast Spin Echo. International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Philadelphia, USA), 1999. 5.
- 3) Tamura K, Matsumaru K, Nakano T, Arima K, Ishihara M<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Hosaka J<sup>1)</sup>, Kawamura Y, Okada S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital): Application of Half-Scan to brain CT: reduced lens exposure and preserved image quality. European Congress of Radiology (Vienna, Austria), 2000. 3.
- 4) 有馬光一, 中野 徹, 櫻井 実, 松丸和弘, 川村義彦: 側頭骨CT検査における撮影条件の検討. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 5) 河原崎昇, 高岡慎市, 今井 豪, 渡辺典男, 川村義彦: 放射線治療計画装置 (PINNACLE3D: ADAC) による複数ビームの重み付け三次元的線量分布の検討. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 6) 高岡慎市, 河原崎昇, 菅沼一男, 今井 豪, 渡辺典男, 川村義彦: 三次元線量重畳積分 (Convolution Superposition) モデルを用いた基礎的検討. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 7) 丸山智之, 渡辺典男, 山田泰彦<sup>1)</sup>, 川村義彦, 岡田 進<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Fuji film, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): Multi周波数処理を用いた低濃度信号の強調処理. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 8) 水野正之, 原田耕次, 櫻井 実, 丸山智之, 河原崎昇, 渡辺典男, 川村義彦: 頭部ステレオ拡大血管造影における濃度補償フィルタの検討. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 9) 齋藤晴美, 富里謙一, 牧野仁美, 加藤丈司, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 川村義彦 (<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 拍動型心臓ファントムを用いた脂肪抑制併用呼吸停止下冠動脈MRAにおける撮像条件. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
- 10) 櫻井 実, 中村亜矢, 牧野仁美, 川村義彦: <sup>99m</sup>Tc心筋SPECTにおける前壁の偽欠損と心筋軸の関係: 360度再構成と180度再構成画像の比較. 日本放射線技術学会, 1999. 4.

- 11) 富里謙一, 加藤文司, 齋藤晴美, 川村義彦: 3D Spinning Imaging Systemにおける頭部MR Angiography三次元化の試み. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
  - 12) 松丸和弘, 有馬光一, 中野 徹, 尾畑 円, 川村義彦: SUM(重ね合わせ)スキャンの検討. 日本放射線技術学会, 1999. 4.
  - 13) 牧野仁美, 櫻井 実, 中村亜矢, 有馬光一, 川村義彦: GaシンチSPECTの短時間収集と腫瘍検出率の検討. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 5.
  - 14) 丸山智之, 渡辺典男, 高岡慎市, 川村義彦: 患者さんに優しい撮影技術: 股関節単純撮影. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 5.
  - 15) 渡辺典男, 丸山智之, 高岡慎市, 川村義彦: 患者さんに優しい撮影技術: 腰椎側面単純撮影. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 5.
  - 16) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: CRにおけるUSM処理とMulti周波数処理のNoize特性. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 5.
  - 17) 丸山智之: CRに於けるMulti周波数処理. 東北画像研究会, 1999. 7.
  - 18) 齋藤晴美, 富里謙一, 加藤文司, 川村義彦, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 3Dcard™ in C-packageの使用経験. 千葉MR研究会, 1999. 7.
  - 19) 櫻井 実, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1)</sup>, 牧野仁美, 中村亜矢, 有馬光一, 川村義彦, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 心筋軸の傾きによる線広がり関数の変化: 斜断面上の画像に与える影響. 日本核医学会, 1999. 10.
  - 20) 河原崎昇, 高岡慎市, 今井 豪, 菅沼一男, 渡辺典男, 川村義彦: Filmを用いた簡便的Wedge角測定の一試案. 日本放射線技術学会, 1999. 10.
  - 21) 高岡慎市, 河原崎昇, 今井 豪, 渡辺典男, 川村義彦: 三次元線量重畳積分(Convolution Superposition)モデルを用いた基礎的検討: 境界面における線量評価. 日本放射線技術学会, 1999. 10.
  - 22) 田村 京, 松丸和弘, 中野 徹, 有馬光一, 川村義彦: Half Scanを用いた乳幼児頭部CTの検討. 日本放射線技術学会, 1999. 10.
  - 23) 中村亜矢, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 尾科 隆<sup>1)</sup>, 櫻井 実, 川村義彦, 岡田 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): QGS™プログラムによる左室駆出率算出への心拍数の影響: R-R 8分割 vs R-R 16分割. 日本核医学会, 1999. 10.
  - 24) 河原崎昇, 高岡慎市, 今井 豪, 菅沼一男, 渡辺典男, 川村義彦: 簡便的Wedge角度測定を試み. 千葉県放射線治療研究会, 1999. 11.
  - 25) 有馬光一, 牧野仁美, 中村亜矢, 櫻井 実, 川村義彦: <sup>99m</sup>Tc製剤によるLVEF値算出の検討: first法とMUGA法を比較して. 千葉核医学技術研究会, 1999. 12.
- (2) 技術フォーラム:
- 1) 丸山智之: 患者さんに優しい撮影技術: 脊椎. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 4.
- (3) 技術講演:
- 1) 丸山智之: 各モダリティに於ける最新技術: CRに於けるMulti周波数処理. 日本放射線技術学会東京部会, 1999. 11.

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

レーザー治療の中で透過性が無く強い熱作用を持ち, 組織振達性が低く, 治療部位以外の周囲の組織へのダメージが少ない炭酸ガスレーザーを応用して軟組織への蒸散, 止血, 切開, メラニンの除去への有用性. また, 硬組織への

歯周外科時の根面処理への応用について研究。また、近年行われている歯周組織再生誘導法（Guided Tissue Regeneration：GTR法）は、歯周組織の再生を目的として開発されたバリアーとなる膜を用いることにより上皮と歯肉結合組織由来の細胞が歯根面に接するのを阻止し、歯根膜由来の細胞を誘導することにより付着器官を再生させる概念による術式である。その応用方法として、架橋アルギン酸ゲル移植材、CAPセメントを実験的に作製したClass II分岐部骨欠損部、インプラント治療の応用によりGTR法の概念に基づく歯周組織再生が得られるかについて研究。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 鴨井久博, 遅沢弘明<sup>1)</sup>, 茂田圭弘<sup>1)</sup>, 長内麻子<sup>1)</sup>, 苗代 明<sup>1)</sup>, 川村浩樹<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学教室)：集団検診におけるPeriodontal Screening and Recording (PSR)の応用。日本歯科人間ドック学会誌 2000；1(1)：37-40。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 我妻瑞穂<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>：CO<sub>2</sub>レーザー照射が歯周組織再生に与える影響。第108回日本歯科保存学会春季学会, 1999. 5。
- 2) 鴨井久博, 和崎佳子<sup>1)</sup>, 長内麻子<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学教室)：CAPセメントのインプラント埋入：初期固定に関する研究。第29回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 1999. 7。
- 3) 鴨井久博：早期発症型歯周炎に対する包括的治療の1症例。第42回秋季日本歯周病学会総会, 1999. 10。
- 4) 和崎佳子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 根津雅彦<sup>1)</sup>, 菅又 香<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学教室)：架橋アルギン酸ゲル移植材の歯周組織再生療法への応用(II)。第42回秋季日本歯周病学会総会, 1999. 10。
- 5) 鴨井久博, 我妻瑞穂<sup>1)</sup>, 神田昌宏<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学教室)：CO<sub>2</sub>レーザーによる急性症状に対する歯周治療への応用。第111回日本歯科保存学会秋季学会, 1999. 11。

## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [ 病理部門 ]

### 研究概要

分子生物学的手法の病理形態観察への導入

#### I 組織学的レベルでの血管内皮細胞と癌との関係

正常における微小血管内皮細胞の基本的な形態学的表現型を内皮細胞の標識抗体である von Willebrand factor (vWf: 凝固因子) と thrombomodulin (TM: 抗凝固因子) の分布から A (alveolar) -zone は, TM-rich endothelial cell で, C (connective tissue) -zone は vWf-rich の特性を示した. それらの中間介在部に存在する J (junctional) -zone の内皮細胞は両者がモザイク状に出現した. この形態的特異性出現機序を知るために以下の検索を試みた.

1) 原発性肺癌の肺泡領域への浸潤により, A-zone capillary endothelium は, 本来の TM-rich type から急速に vWf-reactive endothelium の性格を獲得する. そして最終的に vWf-rich に転換した. 肺胞壁には ECM の異常な沈着, すなわち肺泡の線維化現象が発現した. これは, ヒトや動物の間質性肺炎における肺胞壁の毛細血管内皮細胞と同様であった. Alveolar epithelial (neoplastic) cell, ECM/fibroblast, endothelial cell の3者間に共通して発現する一定の法則性があるのが分かる.

#### II in vitro系での内皮細胞の phenotypic heterogeneity

肺動脈, 肺微小血管, 大動脈, 皮膚微小血管の各内皮細胞を Matrigel の環境で培養すると, それぞれの組織における本来の phenotypic pattern を再現することが出来た.

#### III 新規 Laser analysis system と Gene filter, microarray 法の導入と検索

大学院創造教育研究設備として, laser capture microdissection 法, laser confocal scanning microscopy 法, comparative genomic hybridization 法, fluorescence in situ hybridization (FISH) 法の諸機器が導入された. 当初の実験として, cancer cell line を用いて anticancer agent に対する resistant および sensitive cell line の2種類を用いて, RNA の発現の違いを検索し, 現在その意義に関して分析中である. confocal microscopy に関しては, 内皮細胞における ligand-receptor の分布に関して観察を開始した.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Fujiwara M, Jiang L, Nagashima M, Shimizu H, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Surgical Pathology Section, Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup>2nd Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center ): Mosaic-like distribution of endothelial cell antigens in capillaries and juxtaalveolar microvessels in the normal human lung. . Pathol Int 2000 ; 50 ( 2 ): 136-141 .
- 2) Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Fujiwara M, Jiang L, Takemura T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Gomibuchi M<sup>3)</sup>, Arai S<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>4)</sup>, Yu ZX<sup>4)</sup>, Ferrans V. J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section, Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup>2nd Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, <sup>4)</sup>NHLBI, NIH, USA ): Heterogeneous distribution of thrombomodulin and von Willebrand factor in endothelial cells in the human pulmonary microvessels. . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 ( 2 ): 118-125 .
- 3) 榎本達治<sup>1)</sup>, 川並汪一, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 中田紘一郎<sup>1)</sup>, 永井英明<sup>1)</sup>, 倉島篤行<sup>1)</sup>, 蛇澤 晶<sup>1)</sup>, 杉田博宣<sup>1)</sup>, 河端美則<sup>1)</sup>, 岩井和郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>第二病院放射線科 ): ランゲルハンス細胞性肉芽腫症の気管支

肺胞洗浄液中に出現する特異な組織球．呼吸 1999；18：528-536．

## 著 書

- 1) 川並汪一，金子泰之<sup>1)</sup>，武村民子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4，<sup>2)</sup>日本赤十字医療センター病理)：〔分担〕血管新生(呼吸器の立場から)．分子呼吸器病，1999；pp55-57，先端医学社．
- 2) 川並汪一：〔分担〕樹状細胞．Annual Review 呼吸器，2000；pp50-56，中外医学社．

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) Kawanami O：Current topics of the bronchoalveolar lavage with special reference to patients with extrapulmonary sarcoidosis．中国遼寧省呼吸器学会(瀋陽)，1999．5．

### (2) シンポジウム：

- 1) 川並汪一：気道リモデリングに関わる細胞とその役割．第49回日本アレルギー学会総会，1999．9．

### (3) 一般講演：

- 1) Jin E, Kawanami O, Ghazizadeh M, Jiang L, Fujiwara M, Takemura T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>3)</sup>, Zu-Xi Y<sup>3)</sup>, Ferrans VJ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup>NHLBI, NIH, USA): Mosaic-like distribution of endothelial cell antigens in areas of bronchopulmonary anastomoses in normal human lung．1999 ALA/ATS International Conference (San Diego, USA), 1999．4．
- 2) Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Jian L, Takemura T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>3)</sup>, Zu-Xi Y<sup>3)</sup>, Ferrans VJ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup>NHLBI, NIH, USA): Alteration in the expression of endothelial cell antigens in areas of primary adenocarcinoma of the lung．1999 ALA/ATS International Conference (San Diego, USA), 1999．4．
- 3) Ghazizadeh M, Jin E, Kawanami O, Takemura T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Ferrans VJ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup>NHLBI, NIH, USA): Detection of chromosomal aneuploidy in bronchioloalveolar carcinoma by interphase cytogenetics．1999 ALA/ATS International Conference (San Diego, USA), 1999．4．
- 4) Ghazizadeh M, Jin E, Shimizu H, Egawa S, Fujiwara M, Takemura T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Kawanami O(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section, Chiba Hokuso Hospital): Analysis of cyclin-dependent kinase 4 and its inhibitor p16INK4 protein in bronchioloalveolar carcinomas．88th Japan Pathology Society Congress, 1999．4．
- 5) Shimizu H, Ghazizadeh M, Jin E, Egawa S, Fujiwara M, Nagashima M, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Kawanami O(<sup>1)</sup>Surgical Pathology Section, Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, Chiba: Chromosomal aneuploidy in bronchioloalveolar carcinoma as detected by interphase cytogenetics．88th Japan Pathology Society Congress, 1999．4．
- 6) Ghazizadeh M, Shen G H, Shimizu H, Egawa S, Inoue K<sup>1)</sup>, Kawanami O, Araki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches, <sup>2)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology): Vascular permeability factor or vascular endothelial growth factor expression and microvessel density in human ovarian carcinomas．58th Japan Cancer Association Congress, 1999．9．
- 7) Ghazizadeh M, Shimizu H, Nagashima M, Kurihara Y, Jin E, Jian L, Fujiwara M, Egawa S, Arai S<sup>1)</sup>, M, Kawanami O(<sup>1)</sup>Surgical Pathology Section, Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>2nd surgery): Feasibility of laser capture microdissection of immunostained cells for molecular analysis．67th Association of Nippon Med-



ical School Congress Meeting, 1999. 9.

- 8) 金 恩京, 藤原正和, 武村民子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (日本赤十字医療センター病理部): 原発性肺腺癌における VEGF Isoform と肺泡毛細血管内皮細胞の形質転換との関係. 第40回日本呼吸器学会総会(広島), 2000. 3.
- 9) 藤原正和, 金 恩京, 川並汪一: 肺血管内皮細胞のサイトカイン反応をみる in vitro モデル. 第40回日本呼吸器学会総会(広島), 2000. 3.
- 10) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 武村民子<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (日本赤十字医療センター病理, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部): ヒトの肺微小血管内皮細胞の領域別特異性と癌細胞の転移した肺胞壁での特徴. 第88回日本病理学会, 1999. 4.
- 11) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 川並汪一: ヒト肺の微小血管内皮細胞に発現する凝固, 抗凝固因子のモザイク状分布(1)(共焦点顕微鏡による三次元解析). 第2回日本血管細胞生物学会, 1999. 9.
- 12) 藤原正和, 金 恩京, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 川並汪一: ヒト肺血管内皮細胞の in vitro における反応特異性. 第2回日本血管細胞生物学会, 1999. 9.
- 13) 清水 一, 永島幹夫, ガジザデモハマッド, 枝川聖子, 藤原正和, 金 恩京, 大秋美治<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本赤十字医療センター病理: Bronchilo-Alveolar Carcinoma における VEGF の発現 Isoform pattern の解析について. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 14) 清水 一, ガジザデモハマッド, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部): 細気管支肺胞上皮癌における VEGF-isoform の発現. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 15) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 大秋美治<sup>1)</sup>, 五味淵 誠<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 外科第2): 共焦点顕微鏡の三次元分析によるヒト肺微小血管内皮細胞のモザイク状構造. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 16) 枝川聖子, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 太田吉男<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 小黒辰夫<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>, ガジザデモハマッド, 川並汪一<sup>(1)</sup> (付属病院病理部, <sup>2)</sup> 第二病院病理部, <sup>3)</sup> 永山病院病理部, <sup>4)</sup> 千葉北総病院病理部): 本学の気管支肺胞洗浄法 (Bronchoalveolar Lavage) における各種疾患での atypical lymphoid cell の出現とその意義. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 17) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 川並汪一: 肺微小血管内皮細胞の炎症時における発現抗原の転換. 第49回日本アレルギー学会総会, 1999. 10.
- 18) 藤原正和, 金 恩京, ガジザデモハマッド, 姜 莉, 川並汪一: 炎症において発現される肺微小血管内皮細胞の特徴. 第49回日本アレルギー学会総会, 1999. 10.
- 19) 姜 莉, 藤原正和, 金 恩京, 潘 欣, ガジザデモハマッド, 川並汪一: プレオマイシン肺線維症におけるマウス血管内皮細胞の形態学的変化. 第10回日本医科大学外国人留学者研究会, 1999. 11.
- 20) 金 恩京, 藤原正和, 武村民子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)</sup> (日本赤十字医療センター病理部): 原発性肺腺癌における VEGF Isoform と肺泡毛細血管内皮細胞の形質転換との関係. 第40回日本呼吸器学会総会(広島), 2000. 3.
- 21) 藤原正和, 金 恩京, 川並汪一: 肺血管内皮細胞のサイトカイン反応をみる in vitro モデル. 第40回日本呼吸器学会総会(広島), 2000. 3.

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

「細胞死のメカニズムも解明」「アルツハイマー病などの神経変性疾患の危険因子を見出し、それに対処する方法の解明」「ミトコンドリアゲノムの変異によって生じるミトコンドリア病の分子機構および他の疾患への関与」「ミトコンドリアゲノムと核ゲノムのクロストークの分子機構の解明」が研究テーマである。(1) 細胞死を制御する遺伝

子群にBcl-2ファミリー蛋白がある。アポトーシスを抑制する因子Bcl-xの遺伝子を改変し、強力にアポトーシスを抑制する因子を作成した。(2)アルツハイマー病の原因解析には ミトコンドリアのクエン酸回路の酵素 dihydrodipicolinate succinyltransferase (DLST) とアルデヒドを酸化する酵素 ALDH2 の遺伝子の解析を中心に行われた。アルデヒドを酸化する酵素の ALDH2 遺伝子の変異がアルツハイマー病のリスクであることを明らかにした。さらに、アルツハイマー病のリスクとして確立している APOE4 と相乗効果を示し、アルツハイマー病発症の頻度を高くし、さらに発症時期をはやめることを発見した。(3) ミトコンドリア脳筋症 MERRF の原因遺伝子変異の tRNA<sup>Lys</sup> 変異において変異 tRNA<sup>Lys</sup> のアンチコドンの塩基修飾が欠損することを発見した。この発見は、ミトコンドリア脳筋症の tRNA 変異がアンチコドンの異常という共通の現象であることを示したもので大変意義のある研究成果であった。(4) ミトコンドリア DNA 欠損株において、発現が増加する因子をクローニングし、新規遺伝子をクローニングした。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ito S<sup>1)</sup>, Ohta S, Nishimaki K, Kagawa Y<sup>2)</sup>, Miyazaki R<sup>1)</sup>, Kuno S-Y<sup>1)</sup>, Komatsuzaki Y<sup>3)</sup>, Mizusawa H<sup>4)</sup>, Hayashi J-i<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大・生物, <sup>2)</sup> 女子栄養大, <sup>3)</sup> 初石病院, <sup>4)</sup> 東京医科歯科大・神経内科 ): Functional integrity of mitochondrial genomes in human platelets and autopsied brain tissues from elderly patients with Alzheimer's disease . Proc Natl Acad Sci USA 1999 ; 96 : 2099-2103 .
- 2) Asoh S, Mori T<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> 埼玉医大 ): Practicable recovery of plasmids carrying cDNA encoding anti-apoptotic factors that had been introduced by particle bombardment into 5- week old rat hippocampal slices . Neuroscience Letters 1999 ; 272 : 62-66 .
- 3) Yasukawa T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ishii N, Ueda T<sup>1)</sup>, Ohta S, Watanabe K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東大院工学系 ): Defect in Modification at the Anticodon Wobble Nucleotide of Mitochondrial tRNA<sup>Lys</sup> with the MERRF Encephalomyopathy Pathogenic Mutation . FEBS Letters 2000 ; 467 : 175-178 .
- 4) Yasukawa T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Ohta S, Watanabe K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東大院工学系 ): Modification Defect at Anticodon Wobble Nucleotide of Mitochondrial tRNAs LEU ( UUT ) with Pathogenic mutations of mitochondrial myopathy, encephalopathy, lactic acidosis, and stroke-like Episodes . J Biol Chem 2000 ; 275 : 4251-4757 .
- 5) Tanabe T<sup>1)</sup>, Takata I<sup>2,3)</sup>, Kuwabara T<sup>2,3)</sup>, Warashina M<sup>2,3)</sup>, Kawasaki H<sup>2)</sup>, Tani K<sup>1)</sup>, Ohta S, Asano S<sup>1)</sup>, Taira K<sup>2,4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東大・医科研, <sup>2)</sup> 工技院・融合研, <sup>3)</sup> 筑波大・応生, <sup>4)</sup> 東大院工学系 ): Maxizymes, Novel Allosterically Controllable Ribozymes, Can Be Designed to Cleave Various Substrates . Biomacromolecules 2000 ; 1 ( 1 ): 108 .

#### (2) 総説：

- 1) 太田成男：老人性痴呆：多因子性疾患の遺伝解析と臨床応用．日医大誌 1999 ; 66 ( 5 ): 309-318 .

### 著書

- 1) Kamino K, Wijsman E<sup>1)</sup>, Anderson L<sup>1)</sup>, Nemens E<sup>1)</sup>, Yamagata H<sup>2)</sup>, Ohta S, Bird T. D<sup>1)</sup>, Schellenberg G. D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Geriatric Research, Education and Clinical Center, <sup>2)</sup> 愛媛大学・医・老人科 ): [ 共著 ] A family with late-onset Alzheimer's disease carrying Val91 Met mutation of apolipoprotein A-II gene suggests altered plasma lipid metabolism in Alzheimer's disease . In: Alzheimer's disease & related disorders ( edited by K. Iqbal, D. F. Swaab, B. Winblad and H. M. Wisniewski. ), 1999 ; pp501-506, John Wiley & Sons Ltd .
- 2) 太田成男：〔分担〕アポトーシスにおけるミトコンドリアの新たな役割．アポトーシスの最前線と疾患（井村裕夫，高久史磨），1999 ; pp853-860, 最新医学社 .

- 3) 太田成男：〔分担〕ミトコンドリアの分子生物学．臨床遺伝子医学ガイダンス：分子医学へのアプローチ（小澤敬也編），2000；pp75-79，南山堂．
- 4) 太田成男，安川武宏<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東大院工学系）：〔分担〕ミトコンドリア脳筋症（ミトコンドリア変異tRNAのWobbling異常）．細胞工学，2000；pp594-604，秀潤社．
- 5) 紙野晃人，太田成男：〔分担〕ミトコンドリア障害「脳の科学」（2000年度増刊号「アルツハイマー病のすべて」アルツハイマー病の発症機序．），2000；pp142-148，星和書店．
- 6) 紙野晃人，太田成男：〔共著〕アルツハイマー病におけるミトコンドリア機能障害（Functional alteration of Mitochondria Enzymes in Alzheimer's）．「脳と神経」（特集：アルツハイマー病の発症要因），2000；pp193-201，医学書院．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Kamino K, Yamamoto H<sup>1)</sup>, Yoneda H<sup>2)</sup>, Miki T<sup>3)</sup>, Imagawa M<sup>4)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>大阪市立弘済病院・内科，<sup>2)</sup>大阪医科大学・老人科，<sup>3)</sup>愛媛大学・老人科，<sup>4)</sup>尼崎県立尼崎病院・精神科)：Association screening of Alzheimer's disease with chromosome 12 candidate genes．International Symposium on Dementia (Kobe)，1999．9．
- 2) Ohta S：Defect in the modification at anticodon wobble bases of mitochondrial tRNAs with pathogenic mutations of mitochondrial encephalomyopathy Mitochondrial Encephalomyopathy -from Pathophysiology to Treatment．(Mitochondrial DNA defect)(Tokyo)，1999．9．
- 3) Ohta, S., Yasukawa, T.<sup>1)</sup>, Suzuki, T.<sup>1)</sup>, Ueda T.<sup>1)</sup>, Watanabe, K.<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Univ. Tokyo)：Defect in the modification at anticodon wobble base of mutant mitochondrial tRNAs in MELAS mitochondrial encephalopathy．4th European Meeting on Mitochondrial Pathology．(Molecular aetiology of mtDNA disease)(Queens College Cambridge, (UK).)，1999．9．
- 4) 太田成男：老人性痴呆「多因子性疾患の遺伝解析と臨床応用」．日本医科大学医学会第9回公開シンポジウム，1999．6．
- 5) 紙野晃人，太田成男：ミトコンドリアと老化の生理．第42回日本神経科学会「神経老化の最前線」，1999．9．

##### (2) ワークショップ：

- 1) 麻生定光，大津 敬，太田成男：Bcl-xLのpore-formingドメインのflexibilityを改変したスーパー抗アポトーシス因子Bcl-xLFNKは生長因子非依存的増殖誘導能を獲得した．第22回日本分子生物学会年会，1999．12．

##### (3) 一般講演：

- 1) Asho S, Ohtu T, Ohta S：ANTI-apoptotic factor rat BCL-xL mutant generated by site-directed mutagenesis gains a novel function of inducing IL-3-Independent cell growth．American Society of Cell Biology (Washington DC)，1999．12．
- 2) 紙野晃人，山本秀樹<sup>1)</sup>，三木哲郎<sup>2)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>大阪市立弘済病院附属・内科，<sup>2)</sup>愛媛大学・医学部・老人)：アルツハイマー病におけるAPOA-II遺伝子変異の検討．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 3) 浦上克哉<sup>1)</sup>，紙野晃人，桶谷陽介<sup>1)</sup>，和田健二<sup>1)</sup>，古和久典<sup>1)</sup>，足立芳樹<sup>1)</sup>，太田成男，中島健二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>鳥取大・医学部・神経内科)：アルツハイマー病におけるアポリポA-II遺伝子変異の解析．第41回日本老年医学会学術集会，1999．6．
- 4) 安川武宏<sup>1)</sup>，鈴木 勉<sup>1)</sup>，上田卓也<sup>2)</sup>，渡辺公綱<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>東大大学院・工学系研究科・化学生命工学，<sup>2)</sup>東大大学院・新領域・先端生命)：ミトコンドリア病変異tRNAにおけるアンチコドン修飾塩基の欠損．第1回日本RNA学会年会，1999．8．
- 5) 紙野晃人，三木哲郎<sup>1)</sup>，今川正樹<sup>2)</sup>，山本秀樹<sup>3)</sup>，米田 博<sup>4)</sup>，植木 彰<sup>5)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>愛媛大学・医学部・

- 老人学,<sup>2)</sup>兵庫県立尼崎病院・精神科,<sup>3)</sup>大阪市立弘済病院附属・内科,<sup>4)</sup>大阪医科大学・老人学,<sup>5)</sup>自治医科大学・大宮医療センター): アルツハイマー病におけるミトコンドリア酵素遺伝子多型との関連. 第18回日本痴呆学会, 1999. 10.
- 6) 田中理絵, 石橋佳朋, 太田成男: BH3, BH1領域を欠く Bax (112-192) は単独でアポトーシスを誘導する. . 第72回日本生化学学会年会, 1999. 10.
- 7) 西楨喜代美, 麻生定光, 表 弘志<sup>1)</sup>, 二井将光<sup>1)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup>大阪大・産研): 大腸菌 ATP合成酵素変異株による, アポトーシス誘導因子 Bax 蛋白の大腸菌致死作用の抑制効果. 第72回日本生化学学会年会, 1999. 10.
- 8) 中野恭子<sup>1)</sup>, 水島千春<sup>2)</sup>, 田邊真理子<sup>1)</sup>, 中河志朗<sup>3)</sup>, 太田成男, 松田貞幸<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>鹿児島女子短大・生化学, <sup>2)</sup>鹿児島大・理学部, <sup>3)</sup>鹿児島大・医学部・解剖学, <sup>4)</sup>鹿屋体育大・生物): 骨格筋細胞膜の25K-DLSTはDLST遺伝子のイントロン7から転写される. 第72回日本生化学学会年会, 1999. 10.
- 9) 伊藤清香<sup>1)</sup>, 太田成男, 香川靖雄<sup>2)</sup>, 水澤英洋<sup>3)</sup>, 林 純一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>筑波大学・生物, <sup>2)</sup>女子栄養大学, <sup>3)</sup>東京医科歯科大学・医学・神経内科): アルツハイマー病患者ミトコンドリアDNAの培養細胞への移植と解析. 第72回日本生化学学会年会, 1999. 10.
- 10) 金森 崇, 西川周一<sup>1)</sup>, Shin I<sup>2)</sup>, Schultz Peter. G<sup>3)</sup>, 遠藤斗志也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>名古屋大院・理学, <sup>2)</sup>Yonsei大・化学, <sup>3)</sup>Scripps研・化学): 部位特異的光架橋法によるタンパク質のミトコンドリア外膜透過機構の解析. 第72回日本生化学学会年会, 1999. 10.
- 11) 紙野晃人, 永坂恵子, 太田成男: ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損はアルツハイマー型老年痴呆の発症リスクを高める. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 12) 田中理絵, 石橋佳朋, 太田成男: N末端欠如Baxによる caspase-3に依存しないアポトーシス. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 13) 西楨喜代美, 紙野晃人, 金森 崇, 麻生定光, 石橋佳朋, 松田貞幸<sup>1)</sup>, 中野恭子<sup>2)</sup>, 井原康夫<sup>3)</sup>, 山口晴保<sup>4)</sup>, 太田成男 ( <sup>1)</sup>鹿屋体育大・生物, <sup>2)</sup>鹿児島女子短大・生化学, <sup>3)</sup>東大院・医学系・基礎神経, <sup>4)</sup>群馬大・医学・保健): インtron7から開始するDLSTM RNAはアルツハイマー病患者脳に少ない. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 14) 石橋佳朋, 麻生定光, 太田成男: ミトコンドリアDNA欠失により発現誘導される新規遺伝子ILmtD. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 15) 日野成実<sup>1)</sup>, 安川武宏<sup>1)</sup>, 鈴木 勉<sup>2)</sup>, 太田成男, 渡辺公綱<sup>12)</sup>, 上田卓也<sup>12)</sup> ( <sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命科学, <sup>2)</sup>東大院・工学部・化学生命): 乳児致死性心筋症由来点変異をもつミトコンドリアtRNA<sup>LLe</sup>の異常な不安定性の解析. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 16) 三上俊夫<sup>1)</sup>, 石橋佳朋, 太田成男 ( <sup>1)</sup>日医大・スポーツ科学): 持久的運動トレーニングは生体のストレス耐性の獲得に有効か否か: HSP70の発現からの検討. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 17) 中野恭子<sup>1)</sup>, 水島千春<sup>2)</sup>, 田邊真理子<sup>1)</sup>, 中河志朗<sup>3)</sup>, 太田成男, Rafamantanantsoa H. H, 松田貞幸<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>鹿児島女子短大・生化学, <sup>2)</sup>鹿児島大・理学部, <sup>3)</sup>鹿児島大・医学・解剖, <sup>4)</sup>鹿屋体育大・生物学): インtron7から転写される骨格筋細胞膜の25K-DLSTの解析. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.

## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

1. 自己免疫疾患の発病機構の解明を目的として, 細菌細胞壁ペプチドグリカン (PG) をラットに投与することにより, 病理学的にヒト慢性関節リウマチ (RA) に極めて類似した多発性関節炎のモデルを作製した. その結果をふまえ, RAと変形関節症 (OA) 患者から得られた滑膜細胞をPGで刺激しながら培養し, その反応性を検討した. 培養上清中の各種サイトカインを経時測定すると, RAではOAに比しIL-6が著明に増加していたが, basic FGFでは

RA よりも OA で増加していた。VEGF, TGF- $\beta$  間では明確な差を認めることはできなかった。また, OA 由来の滑膜細胞は一部形態学的に変形し, 培養液中に浮遊する傾向にあった。RA と OA の PG 刺激培養細胞テロメラーゼ活性を測定したが, 両細胞間で差はなかった。現在アポトーシスの面から検討を行っている。

2. 化膿レンサ球菌 (GAS) の産生する発熱毒素 (SPE-B) がヒト肥満細胞ならびに好塩基球からの脱顆粒とヒスタミンの放出を誘導することを明らかにし, GAS 感染症ないしは GAS 感染に基づく敗血症性ショックの病態成立にヒスタミンの関与を示唆した。また, 劇症型 A 群レンサ球菌感染症患者血清中にヒスタミンが高値を示す症例が確認された。このヒスタミンの放出は, Ca イオン依存性であり, SPE-B はヒト肥満細胞株の細胞膜に結合することが免疫電顕で確認され, この結合サイトは GAPDH であることが生化学的, 免疫学的ならびにホモロジー検索から示唆された。最近, リコンビナント SPE-B (rSPE-B) の作製に成功し, 現在ではこの rSPE-B を用いて各種の実験が行われている。

3. 緑色レンサ球菌群の一つである *Streptococcus mitis* の一部の菌株が産生するヒト血小板凝集因子 (Sm-hPAF) の遺伝子クローニングを行い, 全塩基配列が決定され, その発現系の検討が行われている。

## 研究業績

### 論文

[ 1998 年度追加分 ]

原著:

- 1) Yoshida S<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Sakurada S, Kurono C<sup>2)</sup>, Yang JP<sup>1)</sup>, Matsui N<sup>3)</sup>, Soji T<sup>2)</sup>, Okamoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Mol. Genetics, <sup>2)</sup> Dept. Anatomy, <sup>3)</sup> Dept. Orthoped., Nagoya City Univ., Med. Sch. ): Inhibition of IL-6 and IL-8 induction from cultured rheumatoid synovial fibroblasts by treatment with aurothioglucose. Int. Immunol 1998 ; 11 : 151-158 .
- 2) Kimura H<sup>1)</sup>, Inukai Y<sup>1)</sup>, Takaii T<sup>1)</sup>, Furutani Y<sup>2)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Sakurada S, Okamoto T<sup>3)</sup>, Inoue J<sup>4)</sup>, Oomoto Y<sup>5)</sup>, Onozaki K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Hyg. Chem., Nagoya City Univ., Fac. Pharmac. Sci., <sup>2)</sup> Bioresearch Inst., Dainippon Pharmac. Co., Dept., <sup>3)</sup> Mol. Genetics, Nagoya City Univ., Med. Sch., <sup>4)</sup> Dept. Cancer, Int. Med. Sci., Univ. Tokyo, <sup>5)</sup> Dept. Immunol., Ootsuka Pharmac. Co. ): Molecular analysis of constitutive IL- $\beta$  gene expression in human melanoma cells : Autocrine stimulation through NF- $\kappa$ B activation by endogenous IL- $\beta$ . Cytokine 1998 ; 10 : 872-879 .

(1) 原著:

- 1) Katano H<sup>1)</sup>, Sata T<sup>2)</sup>, Suda T<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup>, Tachikawa N<sup>3)</sup>, Nishizumi H<sup>4)</sup>, Sakurada S, Hayashi Y<sup>5)</sup>, Koike M<sup>5)</sup>, Iwamoto A<sup>6)</sup>, Kurata T<sup>3)</sup>, Mori S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Pathol., Inst. Med. Sci. Univ. Tokyo, <sup>2)</sup> Dept. Pathol., Nat. Inst. Infant. Dis., <sup>3)</sup> Lab. Pathol. AIDS Res. Center, Nat. Inst. Infect. Dis., <sup>4)</sup> Dept. Biophys. Biochem., Graduate Sch., Univ. Tokyo, <sup>5)</sup> Dept. Pathol. Komagome Metrop. Hosp., <sup>6)</sup> Dept. Infect. Dis., Inst. Med. Sci. Univ. Tokyo ): Expression and antigenicity of human Herpes virus 8 encoded ORF 59 protein in AIDS-associated Kaposi's sarcoma. J Med Virol 1999 ; 59 : 346-355 .
- 2) Asamitsu K<sup>1)</sup>, Sakurada S, Mashiba K<sup>2)</sup>, Nakagawa K<sup>3)</sup>, Torikai K<sup>2)</sup>, Onozaki K<sup>4)</sup>, Okamoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Mol. Genetics, Nagoya City Univ. Med. Sci., <sup>2)</sup> Dept. Int. Med. Fujita Health Univ., <sup>3)</sup> Dept. Orthoped. Fujita Health Univ., <sup>4)</sup> Dept. Hyg. Chem., Nagoya City Univ., Fac. Pharmac. Sci. ): Alteration of the cellular response to interleukin-1 $\beta$  by SV 40 large T antigen in rheumatoid synovial fibroblasts. Arch Virol 1999 ; 144 : 317-327 .
- 3) Ohsono E<sup>1, 2, 3)</sup>, Takahashi M<sup>2)</sup>, Kurihara S<sup>1)</sup>, Ohwada K<sup>1)</sup>, Sakurai Y<sup>1)</sup>, Onoda N<sup>1)</sup>, Takeuchi M<sup>1)</sup>, Yoneshima H<sup>1)</sup>, Hayama N<sup>3)</sup>, Iino Y<sup>3)</sup>, Saji M<sup>4)</sup>, Shikita R<sup>4)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Ohkuni H ( <sup>1)</sup> Dept. Nephrol.

, Kasukabe Shuwa Hosp. , <sup>2)</sup> Dept. Microbiol. Immunol. , <sup>3)</sup> Second Int. Med. , <sup>4)</sup> Committee Infect. Cont. First. Hosp. ): Effect of "isolating hemodialysis" on prevention of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* cross-infection in a hemodialysis unit . Clin Nephrol 2000 ; 54 : 128-133 .

- 4) Saji M<sup>1)</sup>, Fujii K<sup>2)</sup>, Ohkuni H, Irie N<sup>2)</sup>, Osono E<sup>3)</sup>, Kato F<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Sec. Pharmac. , Chiba Hokuso Hosp. , <sup>2)</sup> Dept. Microbiol. , Sch. Pharmac. Sci. , Toho Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Second Int. Med. ): Synergism of the bacterial effects of acrinol and tetracycline against *Pseudomonas aeruginosa* . J Infect Chemother 2000 ; 6 : 86-92 .
- 5) 木村昭夫<sup>1)</sup>, 留目優子, 櫻田紳策, 大國寿士, 倉田 潔<sup>1)</sup>, 登坂直規<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 木村壮介<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国際医療セ救急救命 ): 中等度低体温下における多核白血球機能についての検討 . 日外傷会誌 1999 ; 13 : 203-207 .
- 6) 木村昭夫<sup>1)</sup>, 櫻田紳策, 倉田 潔<sup>1)</sup>, 留目優子, 大國寿士, 登坂直規<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国際医療セ救急救命 ): 中等度低体温下におけるヒト末梢血単核球の炎症性サイトカイン放出能についての検討 . 日救急医学会誌 1999 ; 10 : 448-452 .

## (2) 研究報告書 :

- 1) 大國寿士 : " 劇症型 A 群レンサ球菌感染症の分子発症機構 " 研究班 ( 主任研究者 大國寿士 ) 平成 10 年度研究報告書 . 厚生省科学研究費補助金 「 新興・再興感染症研究事業 」 1999 .

## 著 書

- 1) 大國寿士 : [ 分担 ] 劇症型 A 群レンサ球菌感染症 . エマージングディジーズ ( 竹田美文 五十嵐章 小島荘明 ), 1999 ; pp80-85 , 近代出版 .
- 2) 大國寿士 : [ 分担 ] 溶血性レンサ球菌感染症 . 感染症必携 ( 山崎修道 , 井上 栄 , 大久保一郎 , 神谷 斉 , 倉田 毅 , 小池麟一郎 , 竹内 勤 , 千葉峻三 , 蓑輪真澄 ), 1999 ; pp340-352 , ( 財 ) 日本公衆衛生協会 .
- 3) 大國寿士 : [ 分担 ] レンサ球菌関節炎 . 関節炎モデル : 最近の話題 ( 京極方久 ), 2000 ; p 印刷中 , 日本医学館 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Watanabe Y , Todome Y , Sakurada S , Ohkuni H , Jones KF<sup>1)</sup> , Fischetti VA<sup>2)</sup> , Zabriskie JB<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> SIGA Pharmac. , Inc. , <sup>2)</sup> Rockefeller Univ. ): Cloning and expression of *Streptococcus mitis*-derived human blood platelet aggregation factor ( Sm-hPAF ) gene in *Streptococcus gordonii* after chromosomal integration . XIVth. Lancefield International Symposium on Streptococci and Streptococcal Diseases ( Auckland, New Zealand ), 1999 . 10 .
- 2) Ohkuni H , Sakurada S , Todome Y , Watanabe Y , Saito H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. Allergy, Nat. Child Med. Inst. ): Analysis of the role of streptococcal cell wall components on inflammatory responses : NF-kB activation and production of macrophage migration inhibitory factor ( MIF ) in human peripheral monocytes-derived macrophages . XIVth. Lancefield International Symposium on Streptococci and Streptococcal Diseases ( Auckland, New Zealand ), 1999 . 10 .
- 3) Sakurada S , Ohikuni H , Todome Y , Watanabe Y , Saito H<sup>1)</sup> , Fischetti VA<sup>2)</sup> , Zabriskie JB<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. Allergy Nat. Child. Med. Inst. , <sup>2)</sup> Rockefeller Univ. ): Release of histamine from human cultured mast cells and basophils by streptococcal pyrogenic exotoxin-B ( SPE-B ) /streptococcal cystein proteinase ( SCP ) . XIVth. Lancefield International Symposium on Streptococci and Streptococcal Diseases ( Auckland, New Zealand ), 1999 . 10 .
- 4) Todome Y , Ohkuni H , Sakurada S , Watanabe Y , Fischetti VA<sup>1)</sup> , Zabriskie JB<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Rockefeller Univ. ): Release of histamine from human mast-cell line, HMC-1 stimulated with streptococcal pyrogenic exotoxin-B/streptococcal cysteine proteinase ( SCP ) . XIVth Lancefield International Symposium on Streptococci and

Streptococcal Diseases ( Auckland, New Zealand ), 1999 . 10 .

(2) 一般講演 :

- 1) Sakurada S, Ohkuni H, Todome Y, Watanabe Y, Saito H<sup>1)</sup>, Fischetti VA<sup>2)</sup>, Zabriskie JB<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Allergy Nat. Child. Med. Inst. , <sup>2)</sup> Rockefeller Univ. ): Release of histamine from human cultured mast cells and basophils by streptococcal pyrogenic exotoxin-B ( SPE-B ) /streptococcal cystein proteinase ( SCP ). 第29回日本免疫学会, 1999 . 12 .
- 2) 櫻田紳策, 留目優子, 渡邊ユキノ : Streptococcal extotoxin-B/Cystein proteinaseのmast細胞ならびに好塩基球に対する作用 . 平成11年度厚生科学研究費補助金 ( 新興・再興感染症・研究事業 ) 「劇症型A群レンサ球菌感染症の分子発症機構」研究班会議, 1999 . 2 .
- 3) 大國寿士 : ジーゼル排気ガス粒子中のIgE抗体産生におけるアジュバント活性化因子について . 第5回日本医大感染・免疫・アレルギー研究会, 1999 . 6 .
- 4) 渡邊ユキノ : MRSAは本当に多剤耐性菌か . 第5回日本医大感染・免疫・アレルギー研究会, 1999 . 6 .
- 5) 大國寿士, 櫻田紳策, 留目優子 : Streptococcal pyrogenic exotoxin-B ( SPE-B ) によるヒトmast細胞・好塩基球からのヒスタミン遊離に関する検討 . 第20回日本炎症学会, 1999 . 7 .
- 6) 森下 実<sup>1)</sup>, 山初晋也<sup>1)</sup>, 倉井年幸<sup>1)</sup>, 小山泰朗<sup>1)</sup>, 平野大地<sup>1)</sup>, 永島正一<sup>1)</sup>, 吉野慎一<sup>1)</sup>, 大國寿士 ( <sup>1)</sup> リウマチ科 ): 関節リウマチに合併した劇症型A群レンサ球菌感染症の一例 . 第10回日本リウマチ学会関東地方会, 1999 . 12 .

## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

1) 成長ホルモン分泌における超日リズムの発現機構と意義の研究 : 成長ホルモン分泌抑制因子であるソマトスタチンの分泌に周期性を与えるメカニズムとして, アンドロゲンによる視床下部機能修飾作用を検討し, アンドロゲンの作用点が視床下部視索前野にあることを明らかとした .

2) 成長ホルモンの視床下部を介する自己分泌調節機構の研究 : 成長ホルモンの脳内作用部位と機序を検討し, サイトカインの細胞内シグナルのネガティブフィードバック系と同様のメカニズムが視床下部のGH作用細胞にあることを指摘した .

3) コルチコトロピン分泌促進因子 ( CRF ) の視床下部室傍核における分泌・合成調節系の研究 : CRF自身による室傍核CRF産生細胞でのオートクリン・パラクリン効果を明らかにした .

4) ウロコルチンの生理作用の研究 : CRFのファミリーペプチドであるウロコルチン遺伝子発現が浸透圧刺激で調節されることを明らかにした .

5) 新しい神経ペプチド, プロラクチン分泌促進ペプチドおよびグレリンの生理的作用と特性を検討中である .

6) 新規遺伝子ELKSについての研究 : ELKSがc-retと融合し, 甲状腺乳頭癌の原因遺伝子である可能性を指摘した . ELKS遺伝子およびその産物の特徴と癌化の関連について検討をしている .

7) 多施設共同研究として, 文部省学術フロンティア事業「多因子性疾患の遺伝要因解明・学際的共同研究プロジェクト」に参加している .

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Minami S, Nakata T, Tokita R, Onodera H<sup>1)</sup>, Imaki J<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Anesthesiology , <sup>2)</sup> Dept Anatomy ): Cellular localization of prolactin-releasing peptide messenger RNA in the rat brain . Neurosci Lett 1999 ; ( 266

): 73-75 .

- 2) Tokita R , Nakata T , Katsumata H , Konishi S , Onodera H<sup>1)</sup> , Imaki J<sup>2)</sup> , Minami S ( <sup>1)</sup>Dept Anesthesiology , <sup>2)</sup>Dept Anatomy ): Prolactin secretion in response to prolactin-releasing peptide ( PrRP ) and the expression of the PrRP gene in the medulla oblongata are estrogen dependent in rats . *Neurosci Lett* 1999 ; ( 276 ): 103-106 .
- 3) Imaki T , Yamada S<sup>1)</sup> , Harada S<sup>2)</sup> , Tsuchiya M<sup>2)</sup> , Sano T<sup>3)</sup> , Demura H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Neurosurgery, Toranomon Hosp , <sup>2)</sup>Dept Medicine, Tokyo Woman's Med Univ , <sup>3)</sup>Dept Pathology, Tokushima Univ Med Sch ): Amelioration of acromegaly after pituitary infarction due to gastrointestinal hemorrhage from gastric ulcer . *Endocr J* 1999 ; ( 46 ): 147-151 .
- 4) Naruse M<sup>1)</sup> , Tanabe A<sup>1)</sup> , Seki T<sup>1)</sup> , Adachi C<sup>1)</sup> , Yoshimoto T<sup>1)</sup> , Mishina N<sup>1)</sup> , Imaki T , Naruse K<sup>1)</sup> , Demura R<sup>1)</sup> , Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Medicine, Tokyo Woman's Med Univ ): Effects of two calcium channel blockers on messenger RNA expression of endothelin-1 and nitric oxide synthase in cardiovascular tissue of hypertensive rats . *J Hypertens* 1999 ; ( 17 ): 53-60 .
- 5) Harada S<sup>1)</sup> , Imaki T , Chikada N<sup>1)</sup> , Naruse M<sup>1)</sup> , Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Medicine, Tokyo Woman's Med Univ ): Distinct distribution and time-course changes in neuronal nitric oxide ( NO ) synthase ( nNOS ) and inducible NOS ( iNOS ) in the paraventricular nucleus ( PVN ) following lipopolysaccharide ( LPS ) injection . *Brain Research* 1999 ; ( 821 ): 322-332 .
- 6) Harada S<sup>1)</sup> , Imaki T , Naruse M<sup>1)</sup> , Chikada N<sup>1)</sup> , Nakajima K<sup>1)</sup> , Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Medicine, Tokyo Woman's Med Univ ): Urocortin is expressed in the enteric nervous system of the rat . *Neurosci Lett* 1999 ; ( 267 ): 125-128 .
- 7) Seki T<sup>1)</sup> , Naruse M<sup>1)</sup> , Naruse K<sup>1)</sup> , Yoshimoto T<sup>1)</sup> , Tanabe A<sup>1)</sup> , Seki M<sup>1)</sup> , Tago K<sup>1)</sup> , Imaki T , Demura R<sup>1)</sup> , Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Medicine, Tokyo Woman's Med Univ ): Induction of heme oxygenase produces load-independent cardioprotective effects in hypersensitive rats . *Life Sci* 1999 ; ( 65 ): 1077-1086 .
- 8) Nakata T , Kitamura Y<sup>1)</sup> , Shimizu K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Fujimori M<sup>2)</sup> , Yokoyama S<sup>2)</sup> , Ito K<sup>3)</sup> , Emi M<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Surgery II , <sup>2)</sup>Dept Surgery, Shinshu Univ , <sup>3)</sup>Ito Hosp , <sup>4)</sup>Dept Molecular Biology ): Fusion of a novel gene, ELKS, to RET due to translocation t ( 10; 12 )( q11; p13 ) in a papillary thyroid carcinoma . *Genes Chromosom Cancer* 1999 ; ( 25 ): 97-103 .
- 9) Kitamura Y<sup>1)</sup> , Minobe K<sup>2)</sup> , Nakata T , Shimizu K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Fujimori M<sup>3)</sup> , Yokoyama S<sup>3)</sup> , Ito K<sup>4)</sup> , Onda M<sup>2)</sup> , Emi M<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Surgery II , <sup>2)</sup>Dept Surgery I , <sup>3)</sup>Dept Surgery, Shinshu Univ , <sup>4)</sup>Ito Hosp , <sup>5)</sup>Dept Molecular Biology ): Ret/PTC3 is the most frequent form of gene rearrangement in papillary thyroid carcinomas in Japan . *J Hum Genet* 1999 ; ( 44 ): 96-102 .
- 10) Katsumata H , Emi M<sup>1)</sup> , Nobe Y<sup>1)</sup> , Nakajima T<sup>1)</sup> , Hirayama T<sup>2)</sup> , Wu L<sup>3)</sup> , Stephenson S<sup>3)</sup> , Hopkins P<sup>3)</sup> , Williams R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Molecular Biology , <sup>2)</sup>Dept Pediatrics , <sup>3)</sup>Univ Utah ): Familial Hypercholesterolemia in Utah Kindred with Novel R103W Mutations in Exon 4 of the LDL Receptor Gene . *Jpn Heart J* 1999 ; ( 40 ): 443-450 .
- 11) Hopkins P<sup>1)</sup> , Wu L<sup>1)</sup> , Stephenson S<sup>1)</sup> , Xin Y<sup>1)</sup> , Katsumata H , Nobe Y<sup>2)</sup> , Nakajima T<sup>2)</sup> , Hirayama T<sup>3)</sup> , Emi M<sup>2)</sup> , Williams R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ Utah , <sup>2)</sup>Dept Molecular Biology , <sup>3)</sup>Dept Pediatrics ): A Novel LDLR Mutation, H190Y, in a Utah Kindred with Familial Hypercholesterolemia . *J Hum Genet* 1999 ; ( 44 ): 364-367 .
- 12) Nobe Y<sup>1)</sup> , Emi M<sup>1)</sup> , Katsumata H , Nakajima T<sup>1)</sup> , Hirayama T<sup>2)</sup> , Wu L<sup>3)</sup> , Stephenson S<sup>3)</sup> , Hopkins P<sup>3)</sup> , Williams R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Molecular Biology , <sup>2)</sup>Dept Pediatrics , <sup>3)</sup>Univ Utah ): Familial Hypercholesterolemia in Utah Kindred with Novel 2412-6 Ins G Mutations in exon 17 of the LDL Receptor Gene . *Jpn Heart J* 1999 ; ( 40 ): 435-442 .



- 13) Emi M<sup>1)</sup>, Keicho N<sup>2)</sup>, Tokunaga K<sup>3)</sup>, Katsumata H, Souma S<sup>1)</sup>, Nakata K<sup>4)</sup>, Taguchi K<sup>5)</sup>, Ohishi N<sup>2)</sup>, Azuma A<sup>6)</sup>, Kudoh S<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Molecular Biology, <sup>2)</sup> Dept Resp Medicine, Univ Tokyo, <sup>3)</sup> Dept, Hum Genet Univ Tokyo, <sup>4)</sup> Toranomon Hosp, <sup>5)</sup> Tenri Hosp, <sup>6)</sup> Dept Intern Med IV ): Association of diffuse panbronchiolitis with microsatellite polymorphism at the human interleukin 8 ( IL-8 ) locus . J Hum Genet 1999 ; ( 44 ): 169-172 .
- 14) Sugihara H<sup>1)</sup>, Emoto N<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Kamegai J<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup>, Minami S, Wakabayashi I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Medicine ): Effect of insulin-like growth factor-I on growth hormone-releasing factor receptor expression in primary rat anterior pituitary cell culture . Neurosci Lett 1999 ; ( 276 ): 87-90 .
- 15) Yokota T<sup>1)</sup>, Nakata T, Minami S, Inazawa J<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Molecular Biology, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental Univ ): Genomic organization and chromosomal mapping of ELKS, a gene rearranged in a papillary thyroid carcinoma . J Hum Genet 2000 ; ( 45 ): 5-11 .

(2) 総説 :

- 1) 中田朋子 : 甲状腺乳頭癌における遺伝子異常について . 日医大誌 1999 ; 66 : 405 .
- 2) 今城俊浩, 出村 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大内科 ): 神経内分泌代謝学のトピックス . 最新医学 1999 ; ( 54 ): 15-21 .
- 3) 出村 博<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 今城俊浩 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大内科 ): 内分泌学の最近の進歩 . 東京女医大誌 1999 ; ( 69 ): 138-148 .

著 書

- 1) 今城俊浩, 吉岡成人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学 ): [ 分担 ] 内分泌・代謝疾患 . 認定内科医・認定内科専門医受験のための演習問題と解説, 第2集 ( 日本内科学会認定内科専門医会 ), 1999 ; pp35-41-137-146, 医学書院 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学第二内科 ): ACTH産生腫瘍の長期予後 : 術後内分泌検査との関連, 術後放射線の効果 . 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2000 . 2 .

(2) 一般講演 :

- 1) Imaki T, Harada S<sup>1)</sup>, Chikada N<sup>1)</sup>, Nakajima K<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>1)</sup>, Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Medicine, Tokyo Women's Medical Univ ): Autofeedback regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) in the hypothalamus . 81st Meeting of The Endocrine Society ( San Diego ), 1999 . 6 .
- 2) Imaki T, Naruse M<sup>1)</sup>, Tanabe A<sup>1)</sup>, Harada S<sup>1)</sup>, Chikada N<sup>1)</sup>, Demura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Medicine, Tokyo Women's Medical Univ ): Adrenocorticotrophic-hormone ( ACTH ) secretion in preclinical Cushing's syndrome . 6th International Pituitary Congress ( Long Beech ), 1999 . 6 .
- 3) Tokita R, Nakata T, Katsumata H, Konishi S, Onodera H<sup>1)</sup>, Imaki J<sup>2)</sup>, Imaki T, Minami S ( <sup>1)</sup> Dept Anesthesiology, <sup>2)</sup> Dept Anatomy ): Prolactin secretion in response to prolactin releasing peptide ( PrRP ) and the expression of the PrRP gene in the medulla oblongata are estrogen dependent in rats . 13th Asian and Pacific Endocrine Conference ( Honolulu ), 2000 . 2 .
- 4) Onodera H<sup>1)</sup>, Nakata T, Tokita R, Ogawa R<sup>1)</sup>, Imaki J<sup>2)</sup>, Imaki T ( <sup>1)</sup> Dept Anesthesiology, <sup>2)</sup> Dept Anatomy ): Cellular localization of PrRP mRNA- and its receptor mRNA-containing cells in the rat brain . 13th Asian and Pacific Endocrine Conference ( Honolulu ), 2000 . 2 .
- 5) 中田朋子, 南 史朗, 勝又晴美, 清水一雄<sup>1)</sup>, 藤森 実<sup>2)</sup>, 横山史朗<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2, <sup>2)</sup> 信州大学, <sup>3)</sup> 分子生物学 ): 乳頭癌において c-ret と融合している新規遺伝子 cDNA のクローニング . 第72回日本内分

泌学会学術総会, 1999. 5.

- 6) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 今城純子<sup>2)</sup>, 時田玲子, 勝又晴美, 中田朋子, 南 史朗<sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科, <sup>2)</sup> 解剖学第1)</sup>: ラット脳内におけるプロラクチン放出ペプチド mRNA 含有細胞の局在: in situ ハイブリダイゼーション. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 7) 時田玲子, 南 史朗, 中田朋子, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 今城純子<sup>2)</sup>, 小野昌美<sup>3)</sup>, 三木伸泰<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科, <sup>2)</sup> 解剖学第1, <sup>3)</sup> 東京女子医大内科): ラットにおけるプロラクチン放出ペプチドに対するプロラクチン分泌反応. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 8) 今城俊浩, 中島貴志子<sup>1)</sup>, 原田章子<sup>1)</sup>, 近田直子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 出村 博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医科大学内科): 浸透圧刺激下における Corticotropin-releasing factor (CRF) 1型受容体特異的拮抗薬の視床下部遺伝子発現に対する作用. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 9) 中島貴志子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 原田章子<sup>1)</sup>, 近田直子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 出村 博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医科大学内科): ストレス後の c-fos 及び Corticotropin-releasing factor 1 型受容体 (CRFR1) の視床下部室傍核での発現の解析. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 10) 原田章子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 近田直子<sup>1)</sup>, 中島貴志子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 出村 博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医科大学内科): 中枢神経内及び末梢組織における Urocortin (Un) 遺伝子発現の検討. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 11) 高木佐知子, 田辺晶代, 吉本貴宣, 田中正己, 関 敏郎, 田胡克哉, 今城俊浩, 成瀬清子, 成瀬光栄, 出村博<sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医大内科)</sup>: 血中 ACTH が正常域であるにもかかわらず副腎シンチグラフィにて一側性の取込みを示した Preclinical Cushing 症候群の1例. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 12) 勝又晴美, 南 史朗, 野辺由紀子<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 分子生物学): 家族性高コレステロール血症家系における遺伝子変異の同定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 13) 横田 隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 中田朋子, 南 史朗<sup>(<sup>1)</sup> 分子生物学)</sup>: ELKS 遺伝子の構造とマッピング. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 14) 横田 隆<sup>1)</sup>, 中田朋子, 平田知巳<sup>2)</sup>, 日置正文<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 分子生物学, <sup>2)</sup> 外科第2, <sup>3)</sup> 伊藤病院): 甲状腺癌に関わる ELKS 遺伝子ゲノム構造異常の解析. 第58回日本癌学会総会, 1999. 9.
- 15) 南 史朗, 時田玲子, 勝又晴美, 中田朋子, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 今城純子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科, <sup>2)</sup> 解剖学第1): ラット脳内におけるプロラクチン放出ペプチド受容体 (UHR-1) mRNA. 第26回日本神経内分泌学会, 1999. 10.
- 16) 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 今城純子<sup>2)</sup>, 小西俊一郎, 南 史朗<sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科, <sup>2)</sup> 解剖学第1)</sup>: ラット大脳皮質における c-fos mRNA の日内変動. 第26回日本神経内分泌学会, 1999. 10.
- 17) 今城俊浩, 宇治原誠<sup>1)</sup>, 村田洋二<sup>1)</sup>, 近田直子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 須田俊宏<sup>2)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医大内科, <sup>2)</sup> 弘前大学内科): Occult ectopic ACTH 症候群の3例: 多彩な臨床像と診断・治療に関する考察. 第26回日本神経内分泌学会, 1999. 10.
- 18) 近田直子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 原田章子<sup>1)</sup>, 中島貴志子<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医大内科): 中枢性尿崩症で発症し汎下垂体機能低下症をきたした下垂体炎の1例. 第26回日本神経内分泌学会, 1999. 10.
- 19) 鈴木 博, 加藤由美子<sup>1)</sup>, 南部みほ<sup>1)</sup>, 西尾 治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 公衆衛生院): 二枚貝におけるウイルス汚染. 第58回日本公衆衛生学会総会, 1999. 10.
- 20) 西尾 治<sup>1)</sup>, 鈴木 博, 高野 陽<sup>2)</sup>, 磯村思无<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 公衆衛生院, <sup>2)</sup> 東洋英和, <sup>3)</sup> 名古屋大): パキスタン・カラチ地区における HIV 意識調査について. 第58回日本公衆衛生学会総会, 1999. 10.
- 21) 加藤由美子, 南部みほ, 西尾治<sup>1)</sup>, 鈴木 博, 大瀬戸光明<sup>2)</sup>, 内田和枝<sup>3)</sup>, 西川真<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 公衆衛生院, <sup>2)</sup> 愛媛衛研, <sup>3)</sup> 埼玉衛研, <sup>4)</sup> 新潟衛研): 全国各地で検出されたヒトカリシウイルスの遺伝子配列. 第47回日本ウイルス学会総会, 1999. 11.

- 22) 松井清彦<sup>1)</sup>, 西尾 治<sup>1)</sup>, 加藤由美子<sup>1)</sup>, 久松 栄<sup>1)</sup>, 鈴木 博, 藤本嗣人<sup>2)</sup>, 栄 賢司<sup>3)</sup>, 小澤 茂<sup>4)</sup>, 河田一伸<sup>5)</sup>, 鈴木 宏<sup>6)</sup>, 長谷川斐子<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> 公衆衛生院, <sup>2)</sup> 兵庫衛研, <sup>3)</sup> 愛知衛研, <sup>4)</sup> 山梨衛研, <sup>5)</sup> 三重衛研, <sup>6)</sup> 新潟大学, <sup>7)</sup> 感染症): 1950年代と現在のアデノウイルス7型分離株の分子疫学的解析について. 第47回日本ウイルス学会総会, 1999. 11.
- 23) 中田朋子, 横田 隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 南 史朗(<sup>1)</sup> 分子生物学): 甲状腺乳頭癌で見つかった新規融合タンパク質 ELKS-c-ret の解析. 第22回日本分子生物学会年会, 1999. 12.
- 24) 今城俊浩, 近田直子<sup>1)</sup>, 高野加寿江<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医科大学第二内科): 下垂体Cushing病に対する術後放射線療法の効果: 術後の血中コルチゾール(F)濃度との関係. 第11回CRH-ACTH研究会, 2000. 3.
- 25) 近田直子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 肥塚直美<sup>1)</sup>, 酒井 謙<sup>2)</sup>, 酒井陽子<sup>2)</sup>, 須田俊宏<sup>2)</sup>, 桑山明夫<sup>3)</sup>, 高野加寿江<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京女子医科大学第二内科, <sup>2)</sup> 弘前大学第三内科, <sup>3)</sup> 国立名古屋病院脳神経外科): 術後長期間経過を観察しえた下垂体性Preclinical Cushing病の1例. 第11回CRH-ACTH研究会, 2000. 3.

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

老人病研究所・分子生物学部門は、日本医科大学大学院分子生物学科目であるとともに、丸子アイソトープおよび組換えDNA実験施設を兼ねています。現在20名の研究者(教職員6名, 学内・学外からの院生・研究生他14名)が日夜、本学学術フロンティア推進事業, 共同研究推進センターとして、ヒトゲノムプロジェクトの推進を基盤とした様々なヒト疾患の遺伝子レベルでの病因解明と診断法の開発に取り組んでいます。

1) ヒトゲノム解析プロジェクト(文部省ゲノムサイエンス計画研究, 文部省総合がん総括班研究): 我々は乳癌, 肝癌, 膀胱癌, 甲状腺癌の検体を用いて, 高頻度な異常を見出した染色体について高精度ゲノム欠失地図を作製し, 共通して欠失するゲノム領域の, ショットガン法によるゲノムシーケンシングを行ない, コンピュータを用いたエキソン予測法により未知の遺伝子をクローニングしています。

2) ヒトcDNAプロジェクト(文部省ゲノムサイエンス計画研究, 文部省総合がん総括班研究): 癌を始めとする各種疾患で染色体位置を局限化したものに対して, それら領域よりESTを多数同定し, cDNA発現プロファイル解析を行なうことにより, 疾患関連遺伝子をクローニングしています。

3) ヒトDNA多型(SNP)解析プロジェクト(厚生省長寿科学研究, 厚生省特定疾患): ヒト疾患に対する遺伝的感受性を規定している遺伝子多型解析を用いて骨粗鬆症, 高脂血症, 高血圧症の候補遺伝子について, 大規模な人口の解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と表現型間の関係を検討しています。

4) 乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断(文部省がん診断治療研究, 同基盤(c), 厚生省がん研究助成金, 車両財団研究助成): 乳癌および甲状腺癌の遺伝子診断の研究については, 多形性DNAマーカーを用いた解析から癌の悪性度, 転移, 再発, 生命予後に関わる遺伝的変化の特定と臨床応用を目指しています。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Ota N, Hunt S<sup>1)</sup>, Nakajima T, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Shirai Y<sup>3)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup> Univ. Utah, <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp., <sup>3)</sup> Dept. Orthoped.): Linkage of interleukin 6 locus to human osteopenia by sibling pair analysis. Hum Genet 1999; 105: 253-257.
- 2) Nakajima T, Ota N, Yoshida H<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol.): Allelic variants in the interleukin-6 gene and essential hypertension in Japanese women. Genes Immunity 1999; 1: 115-119.

- 3) Koyama M , Nagai H , Bando K , Ito M<sup>1)</sup> , Moriyama Y<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Ctr. Digest. Dis. , Second Hosp. ): Localization of a Target Region of Allelic Loss to a 1-cM Interval on Chromosome 16p. 13. 13 in Hepatocellular Carcinoma . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 951-956 .
- 4) Bando K , Nagai H , Matsumoto S<sup>1)</sup> , Koyama M , Kawamura N , Onda M<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. ): Identification of a 1-cM Region of Common Deletion on 4q35 Associated With Progression of Hepatocellular Carcinoma . Genes Chrom Cancer 1999 ; 25 : 284-289 .
- 5) Minobe K , Bando K , Fukino K , Soma S , Kasumi F<sup>1)</sup> , Sakamoto G<sup>1)</sup> , Furukawa K<sup>2)</sup> , Higuchi K<sup>2)</sup> , Onda M<sup>2)</sup> , Nakamura Y<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> Dept. Surgery I , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Somatic Mutation of the PTEN/MMAC gene in Japanese Breast Cancer with Microsatellite Instability . Cancer Lett 1999 ; 144 : 9-16 .
- 6) Koyama M , Ito M<sup>1)</sup> , Nagai H , Emi M , Moriyama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Inst. Digest. Dis. , Second Hosp. ): Inactivation of Both Alleles of the DPC4/SMAD4 Gene in Advanced Colorectal Cancers : Identification of Seven Novel Somatic Mutations in Tumors from Japanese Patients . Mutat Res Genome 1999 ; 406 : 71-77 .
- 7) Noguchi K<sup>1)</sup> , Kasugai K<sup>2)</sup> , Miki Y<sup>3)</sup> , Fukutomi T<sup>4)</sup> , Emi M , Nomizu T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka Univ. , <sup>2)</sup> Osaka Med. Ctr. , <sup>3)</sup> Cancer Inst. , <sup>4)</sup> Natl. Cancer Cent. , <sup>5)</sup> Hoshi General Hosp. ): Clinicopathologic Analysis of BRCA1-or BRCA2- Associated Hereditary Breast Carcinoma in Japanese Woman . Cancer 1999 ; 85 : 2200-2205 .
- 8) Ota N , Nakajima T , Takeuchi T , Shirai Y<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Orthoped. ): A highly polymorphic CA repeat marker at the interleukin-11 locus . Genes Immunity 1999 ; 1 : 159-160 .
- 9) Keicho N<sup>1)</sup> , Emi M , Nakata K<sup>2)</sup> , Taguchi Y<sup>3)</sup> , Azuma A<sup>4)</sup> , Tokunaga K<sup>5)</sup> , Ohishi N<sup>1)</sup> , Kudoh S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Toranomon Hosp. , <sup>3)</sup> Tenri Hosp. , <sup>4)</sup> Dept. Intern Med. , <sup>5)</sup> Dept. Hum. Genet. , Univ. Tokyo ): Promoter variation of tumor necrosis factor-alpha gene: possible high risk for chronic bronchitis but not diffuse panbronchiolitis . Resp Med 1999 ; 93 : 752-753 .
- 10) Katsumata H , Emi M , Nobe Y , Nakajima T , Hirayama T , Wu L<sup>1)</sup> , Stephenson S<sup>1)</sup> , Hopkins P<sup>1)</sup> , Williams R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Utah ): Familial Hypercholesterolemia in Utah Kindred with Novel R103W Mutations in Exon 4 of the LDL Receptor Gene . Jpn Heart J 1999 ; 40 : 443-450 .
- 11) Nakajima T , Hamakubo T<sup>1)</sup> , Kodama T<sup>1)</sup> , Inazawa J<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Genomic structure and chromosomal mapping of the human sterol regulatory element binding protein ( SREBP ) cleavage-activating protein ( SCAP ) gene . J Hum Genet 1999 ; 44 : 402-407 .
- 12) Hopkins P<sup>1)</sup> , Wu L<sup>1)</sup> , Stephenson S<sup>1)</sup> , Xin Y<sup>1)</sup> , Katsumata H , Nobe Y , Nakajima T , Hirayama T , Emi M , Williams R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Utah ): A Novel LDLR Mutation, H190Y, in a Utah Kindred with Familial Hypercholesterolemia . J Hum Genet 1999 ; 44 : 364-367 .
- 13) Nobe Y , Emi M , Katsumata H , Nakajima T , Hirayama T , Wu L<sup>1)</sup> , Stephenson S<sup>1)</sup> , Hopkins P<sup>1)</sup> , Williams R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Utah ): Familial Hypercholesterolemia in Utah Kindred with Novel 2412-6 Ins G Mutations in exon 17 of the LDL Receptor Gene . Jpn Heart J 1999 ; 40 : 435-441 .
- 14) Fukino K , Kitamura H , Sanno N<sup>1)</sup> , Teramoto A<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Neurosurg. ): Analysis of the MEN1 gene in sporadic pituitary adenomas from Japanese patients . Cancer Lett 1999 ; 144 : 85-92 .
- 15) Iwaki K , Nakajima T , Ota N , Emi M : A common Ile796Val polymorphism of the human SREBP cleavage-activating protein ( SCAP ) gene . J Hum Genet 1999 ; 44 : 421-422 .
- 16) Mine N , Bando K , Utada Y , Nagai H , Araki T , Emi M : Two single nucleotide polymorphisms of the hSNF5/INI1 gene . J Hum Genet 1999 ; 44 : 354-355 .
- 17) Nakajima T , Ota N , Kodama T<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo ): Isolation and radiation hybrid mapping of a

- highly polymorphic CA repeat sequence at the SREBP cleavage-activating protein (SCAP) locus . J Hum Genet 1999 ; 44 : 350-351 .
- 18) Emi M , Utada Y , Yohimoto M<sup>1)</sup> , Sato T<sup>1)</sup> , Minobe K , Matsumoto S , Akiyama F<sup>1)</sup> , Iwase T<sup>1)</sup> , Haga S<sup>2)</sup> , Kajiwara T<sup>2)</sup> , Sakamoto G<sup>1)</sup> , Kasumi F<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ) : Correlation of Allelic Loss with Poor Postoperative survival in Breast Cancer . Breast Cancer 1999 ; 6 : 351-356 .
  - 19) Nagai H , Baba M<sup>2)</sup> , Konishi N<sup>3)</sup> , Kim Y<sup>4)</sup> , Nogami M , Okumura K<sup>2)</sup> , Emi M , Matsubara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka Univ. , <sup>2)</sup> Mie Univ. , <sup>3)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>4)</sup> KIST. ) : Isolation of Not Clusters Hypomethylated in HBV-integrated Hepatocellular Carcinomas by Two-Dimensional Electrophoresis . DNA Res 1999 ; 6 : 219-225 .
  - 20) Ueda T<sup>1)</sup> , Emi M , Suzuki H<sup>1)</sup> , Komiya A<sup>1)</sup> , Akakura K<sup>1)</sup> , Ichikawa T<sup>1)</sup> , Shiraishi T<sup>2)</sup> , Masai M<sup>3)</sup> , Igarashi T<sup>1)</sup> , Ito H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Chiba Univ. , <sup>2)</sup> Mie Univ. , <sup>3)</sup> Teikyo Univ. ) : Identification of a 1-cM Region of Common Deletion on 13q14 Associated with Metastasis of Human Prostate Cancer . Genes Chrom Cancer 1999 ; 24 : 183-190 .
  - 21) Yokota T , Yoshimoto M<sup>1)</sup> , Akiyama F<sup>1)</sup> , Sakamoto G<sup>1)</sup> , Kasumi F<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> IMS, Univ. Tokyo ) : Localization of a Tumor Suppressor Gene Associated with Progression of Human Breast Cancer Within a 1-cM Interval of 8p22-p23. 1 . Cancer 1999 ; 85 : 447-452 .
  - 22) Fukino K , Iida A , Teramoto A<sup>1)</sup> , Sakamoto G<sup>2)</sup> , Kasumi F<sup>2)</sup> , Nakamura Y<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Neurosurg. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ) : Frequent Allelic Loss at the TOC locus on 17q25. 1 in Primary Breast Cancers . Genes Chrom Cancer 1999 ; 24 : 345-350 .
  - 23) Ohgaki K , Iida A , Ogawa O<sup>1)</sup> , Kubota Y<sup>2)</sup> , Akimoto M<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Kyoto , <sup>2)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Urol. ) : Localization of Tumor Suppressor Gene Associated with Distant Metastasis of Urinary Bladder Cancer to a 1-Mb Interval on 8p22 . Genes Chrom Cancer 1999 ; 25 : 1-5 .
  - 24) Yokota T , Yoshimoto M<sup>1)</sup> , Akiyama F<sup>1)</sup> , Sakamoto G<sup>1)</sup> , Kasumi F<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> IMS, Univ. Tokyo ) : Frequent Multiplication of chromosomal region 8q24. 1 associated with aggressive histologic types of Breast Cancers . Cancer Lett 1999 ; 139 : 7-13 .
  - 25) Kurose K , Araki T<sup>1)</sup> , Matsunaka T<sup>2)</sup> , Takada Y<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Ob. Gyn. , <sup>2)</sup> Saijo Cent. Hosp. ) : Variant manifestation of Cowden Disease in Japan : Hamartomatous polyposis of the Digestive Tract with Mutation of the PTEN Gene . Am J Hum Genet 1999 ; 64 : 308-310 .
  - 26) Ohgaki K , Minobe K , Kurose K , Iida A , Habuchi T<sup>1)</sup> , Ogawa O<sup>1)</sup> , Kubota Y<sup>2)</sup> , Akimoto M , Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Kyoto , <sup>2)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Urol. ) : Two Target Regions of Allelic Loss on Chromosome 9 in Urinary-bladder Cancers . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 957-964 .
  - 27) Nakata T , Kitamura Y , Shimizu K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Fujimori M<sup>2)</sup> , Yokoyama S<sup>2)</sup> , Ito K<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surgery II , <sup>2)</sup> Shinshu Univ. , <sup>3)</sup> Ito Hosp. ) : Fusion of a Novel Gene, ELKS, to c-ret due to Translocation t ( 10;12)( q11;p13 ) in a Papillary Thyroid Carcinoma . Genes Chromosome Cancer 1999 ; 25 : 97-103 .
  - 28) Tsukamoto K , Yoshimoto M<sup>1)</sup> , Kasumi F<sup>1)</sup> , Akiyama F<sup>1)</sup> , Sakamoto G<sup>1)</sup> , Nakamura Y<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> IMS, Univ. Tokyo ) : Frequent Multiplication of Chromosome 1q in Non-invasive and Papillotubular Carcinoma of the Breast . Cancer Lett 1999 ; 141 : 21-28 .
  - 29) Kitamura Y , Nakata T , Minobe K , Shimizu K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Fujimori M<sup>2)</sup> , Yokoyama S<sup>2)</sup> , Ito K<sup>3)</sup> , Onda M<sup>4)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surgery II , <sup>2)</sup> Shinshu Univ. , <sup>3)</sup> Ito Hosp. , <sup>4)</sup> Dept. Surgery I ) : Ret/PTC3 is the most frequent form of gene rearrangement among papillary thyroid carcinomas in Japan . J Hum Genet 1999 ; 44 : 96-102 .
  - 30) Emi M , Yoshimoto M<sup>1)</sup> , Sato T<sup>1)</sup> , Matsumoto S , Utada Y , Iwase T<sup>1)</sup> , Ito I<sup>1)</sup> , Minobe K , Tada T<sup>1)</sup> ,

- Katagiri T<sup>1)</sup>, Bando K, Akiyama F<sup>1)</sup>, Harada Y<sup>1)</sup>, Fukino K, Sakamoto G<sup>1)</sup>, Matsushima M<sup>2)</sup>, Iida A, Saito H<sup>1)</sup>, Miki Y<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Cancer Inst. , <sup>2)</sup>IMS, Univ. Tokyo ): Allelic loss at 1p34, 13q12, 17p13. 3, and 17q21. 1 Correlates with Poor Postoperative Prognosis in Breast Cancer . *Genes Chrom Cancer* 1999 ; 26 : 134-141 .
- 31 ) Ota N , Nakajima T , Takeuchi T<sup>1)</sup>, Shirai Y<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Dept. Orthoped. ) : Isolation and radiation hybrid mapping of a highly polymorphic CA repeat sequence at the human nuclear factor kappa-beta subunit 1 ( NFKB1 ) locus . *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 129-130 .
- 32 ) Keicho N<sup>1)</sup>, Tokunaga K<sup>1)</sup>, Nakata K<sup>2)</sup>, Taguchi Y<sup>3)</sup>, Azuma A<sup>4)</sup>, Tanabe K<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Emi M, Ohishi N<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ. Tokyo , <sup>2)</sup>Toranomon Hosp. , <sup>3)</sup>Tenri Hosp. , <sup>4)</sup>Dept. Intern. Med. IV ) : Contribution of TAP genes to genetic predisposition in diffuse panbronchiolitis . *Tissue Antigen* 1999 ; 53 : 366-373 .
- 33 ) Tsukamoto K , Yoshida H<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Miyao M<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup>Univ. Tokyo ) : Association of radial bone mineral density with CA repeat polymorphism at the human interleukin 6 locus in postmenopausal Japanese women . *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 148-151 .
- 34 ) Nakajima T , Ota N , Shirai Y<sup>1)</sup>, Hata A<sup>2)</sup>, Yoshida H<sup>3)</sup>, Watanabe S<sup>3)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup>, Hosoi T<sup>4)</sup>, Orimo H<sup>4)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Dept. Orthoped. , <sup>2)</sup>Asahikawa Med. Coll. , <sup>3)</sup>Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>4)</sup>Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. ) : Ethnic difference in contribution of Sp1 site variation of COL1A1 gene in genetic predisposition to osteoporosis . *Calcified Tissue Int* 1999 ; 65 : 352-353 .
- 35 ) Emi M , Keicho N<sup>1)</sup>, Tokunaga K<sup>2)</sup>, Katsumata H , Souma S , Nakata K<sup>3)</sup>, Taguchi K<sup>4)</sup>, Ohishi N<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>5)</sup>, Kudoh S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Resp. Med. , Univ. Tokyo , <sup>2)</sup>Dept. Hum. Genet. , Univ. Tokyo , <sup>3)</sup>Toranomon Hosp. , <sup>4)</sup>Tenri Hosp. , <sup>5)</sup>Dept. Intern. Med. IV ) : Association of diffuse panbronchiolitis with microsatellite polymorphism at the human interleukin 8 ( IL-8 ) locus . *J Hum Genet* 1999 ; 44 : 169-172 .
- 36 ) Pineau P<sup>1)</sup>, Nagai H , Prigent S<sup>1)</sup>, Wei Y<sup>1)</sup>, Gyapay G<sup>2)</sup>, Weissenbach J<sup>2)</sup>, Tiollais P<sup>1)</sup>, Buendia M A<sup>1)</sup>, Dejean A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Inst. Pasteur , <sup>2)</sup>Genethon ) : High density mapping of three major regions of deletion on chromosome 8p in human hepatocellular carcinoma . *Oncogene* 1999 ; 18 : 3127-3134 .
- 37 ) Nagai H , Kim Y<sup>1)</sup>, Yasuda T<sup>2)</sup>, Ohmachi Y<sup>2)</sup>, Yokouchi H<sup>2)</sup>, Monden M<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Nogami M<sup>4)</sup>, Okumura K<sup>4)</sup>, Matsubara K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>KIST , <sup>2)</sup>Osaka Univ. , <sup>3)</sup>Nara Med. Univ. , <sup>4)</sup>Mie Univ. ) : A Novel Sperm Specific Hypomethylation Sequence is a Demethylation Hotspot in Human Hepatocellular Carcinomas . *Gene* 1999 ; 237 : 15-20 .
- 38 ) Kawamura N , Nagai H , Bando K , Koyama M , Matsumoto S , Tajiri T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Fujimoto J<sup>2)</sup>, Ueki T<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Shiba T<sup>4)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery I , <sup>2)</sup>Hyogo Med. Coll. , <sup>3)</sup>Nara Med. Univ. , <sup>4)</sup>Kitasato Univ. ) : PTEN/MMAC1 Mutations in Hepatocellular Carcinomas : Somatic Inactivation of Both Alleles in Tumors . *Jpn J Cancer Res* 1999 ; 90 : 413-418 .
- 39 ) Kitamura Y , Shimizu K<sup>1)</sup>, Nagahama M<sup>2)</sup>, Sugino K<sup>2)</sup>, Ozaki O<sup>2)</sup>, Mimura T<sup>2)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surg. II , <sup>2)</sup>Ito Hosp. ) : Immediate Causes of Death in Thyroid Carcinoma : Clinicopathologic Analysis of 161 Fatal Cases . *J Clin Endocrinol Metab* 1999 ; 84 : 4043-4049 .
- 40 ) Hiroi S<sup>1)</sup>, Harada H , Nishi H<sup>1)</sup>, Satoh M<sup>1)</sup>, Nagai R<sup>1)</sup>, Kimura A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo Med. Dent. Univ. ) : Polymorphisms in the SOD2 and HLA-DRB1 genes are associated with nonfamilial idiopathic dilated cardiomyopathy in Japanese . *Biochem Biophys Res Comm* 1999 ; 261 : 332-339 .
- 41 ) Nakajima T , Cheng T<sup>1)</sup>, Bloem L<sup>2)</sup>, Pratt H<sup>2)</sup>, Inoue I<sup>1)</sup>, Lalouel J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ. Utah , <sup>2)</sup>Indiana Univ. Med. Cent. ) : Functional analysis of a mutation occurring between the two in-frame AUG codons of human

- angiotensinogen . J Biol Chem 1999 ; 274 : 35749-35755 .
- 42) Orimo H<sup>1)</sup>, Nakajima E<sup>1)</sup>, Ikejima M<sup>1)</sup>, Emi M , Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Biochem. II ): Frameshift mutations and a length polymorphism in the hMSH3 gene and the spectrum of microsatellite instability in sporadic colon cancer . Jpn J Cancer Res 1999 ; 90 : 1310-1315 .
- 43) Utada Y , Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup>Cancer Inst. , <sup>3)</sup>IMS, Univ. Tokyo ): Mapping of Target Regions of Allelic Loss in Primary Breast Cancers to 1-cM intervals on Genomic Contigs at 6q21 and 6q25. 3 . Jpn J Cancer Res 1999 ; 91 : 293-300 .
- 44) Fukino K , Teramoto A<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Dept. Neurosurg. ): A Family with Hydrocephalus as a Complication of Cerebellar Hemangioblastoma : Identification of Pro157Leu Mutation in the VHL Gene . J Hum Genet 2000 ; 45 : 47-51 .
- 45) Tsukamoto K , Yoshida H<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Miyao M<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup>Univ. Tokyo ): Association of Bone Mineral Density with Polymorphism of the Human Matrix Gla protein locus in elderly women . J Bone Miner Metab 2000 ; 18 : 27-30 .
- 46) Saeki R<sup>1)</sup>, Nagai H , Kaneko S<sup>1)</sup>, Unoura M<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>2)</sup>, Okamoto E<sup>2)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Matsubara K<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Kanazawa Univ. , <sup>2)</sup>Hyogo Med. Coll. , <sup>3)</sup>Nara IST. ): Intratumoral Genomic Heterogeneity in Human Hepatocellular Carcinoma Detected by Restriction Landmark Genomic Scanning . J Hepatol 2000 ; 99-105 .
- 47) Kurose K , Mine N , Doi D<sup>1)</sup>, Ota Y<sup>1)</sup>, Yoneyama K<sup>1)</sup>, Konishi H<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Dept. Obs. Gyn. ): Novel Gene Fusion of COX6C at 8q22-23 to HMGIC at 12q15 in a Uterine Leiomyoma . Genes Chrom Cancer 2000 ; 27 : 303-307 .
- 48) Kitamura Y , Shimizu K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Dept. Surg. II , <sup>2)</sup>Ito Hosp. ): Allelotyping of Anaplastic Thyroid Carcinoma : Frequent Allelic Losses on 1q, 9p, 11, 17, 19p, and 22q . Genes Chrom Cancer 2000 ; 27 : 244-251 .
- 49) Nagai H , Sugiyama T<sup>1)</sup>, Yoshikawa H<sup>2)</sup>, Kim Y<sup>3)</sup>, Yeo S<sup>4)</sup>, Konishi N<sup>5)</sup>, Matsubara K<sup>6)</sup>, (<sup>1)</sup>Osaka Univ. , <sup>2)</sup>Akita Univ. , <sup>3)</sup>KIST , <sup>4)</sup>Kyungpook Nat. Univ. , <sup>5)</sup>Nara Med. Univ. , <sup>6)</sup>Nara Inst. Sci. Tech. ): Genomic DNA analyses of Spontaneous hepatocellular carcinomas in LEC rat liver using a new technique . Oncol Reports 2000 ; 7 : 315-318 .
- 50) Yokota T , Nakata T , Minami S , Inazawa J<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Tokyo Med. Dent. Univ. ): Genomic organization and chromosomal mapping of ELKS, a gene rearranged in a papillary thyroid carcinoma . J Hum Genet 2000 ; 45 : 6-11 .
- 51) Keicho N<sup>1)</sup>, Ohashi J<sup>1)</sup>, Tamiya G<sup>2)</sup>, Nakata K<sup>3)</sup>, Taguchi Y<sup>4)</sup>, Azuma A<sup>5)</sup>, Ohishi N<sup>1)</sup>, Emi M , Park M<sup>6)</sup>, Inoko H<sup>2)</sup>, Tokunaga K<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>Univ. Tokyo , <sup>2)</sup>Tokai Univ. , <sup>3)</sup>Toranomon Hosp. , <sup>4)</sup>Tenri Hosp. , <sup>5)</sup>Dept. Intern. Med. , <sup>6)</sup>Seoul Nat. Univ. ): Fine localization of a major disease-susceptibility locus for diffuse panbronchiolitis . Am J Hum Genet 2000 ; 66 : 501-507 .
- 52) Utada Y , Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup>Cancer Inst. , <sup>3)</sup>IMS, Univ. Tokyo ): Allelic Loss at 8p22 Region as a Prognostic Factor in Large and Estrogen Receptor Negative Breast Carcinomas . Cancer 2000 ; 88 : 1410-1416 .

(2) 総説 :

- 1) 中島敏晶, 江見 充 : 動脈硬化と遺伝子多型 (特集 : 老年医学の展望). 日老医学会誌 1999 ; 36 : 113-117 .
- 2) 吹野晃一, 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大・医科研): 癌と遺伝子 (特集 : 臨床医に必要な遺伝医学). 臨床医 1999 ; 25 : 1285-1289 .

- 3) 中島敏晶, 江見 充: 高血圧関連遺伝子 最近の知見と動向.(特集: 高血圧 up-date). 臨床成人病 1999 ; 29 : 101-105 .
- 4) 折茂 肇<sup>1)</sup>, 橋本 勉<sup>2)</sup>, 坂田清美<sup>2)</sup>, 吉村典子<sup>2)</sup>, 清野佳紀<sup>3)</sup>, 江見 充, 羽田 明<sup>4)</sup>, 鈴木隆雄<sup>5)</sup>, 細井孝之<sup>1)</sup>, 宮尾益理子<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人病センター, <sup>2)</sup>和歌山県立医科大学, <sup>3)</sup>岡山大学, <sup>4)</sup>旭川医科大学, <sup>5)</sup>東京都老人総合研究所, <sup>6)</sup>東京大学): 第3回大腿骨頸部骨折全国頻度調査. 日本醫事新報 1999 ; 3916 : 46-49 .
- 5) 歌田貴仁, 江見 充: 乳がんの成因と発生機序(特集: 乳がん). からだの科学 1999 ; 209 : 31-34 .
- 6) 中島敏晶, 江見 充, 児玉龍彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大・先端科学技術センター): 動脈硬化の遺伝子検査の可能性(特集: 遺伝子検査). Mebio 1999 ; 16 : 84-88 .
- 7) 常泉道子, 歌田貴仁, 江見 充: 乳癌の遺伝子診断(特集: 乳癌診療の最前線). 外科治療 1999 ; 81 : 669-674 .
- 8) 霞富士雄<sup>1)</sup>, 多田隆士<sup>1)</sup>, 林 孝子<sup>1)</sup>, 高橋かおる<sup>1)</sup>, 齋藤光江<sup>1)</sup>, 藤田益次郎<sup>1)</sup>, 内田恵博<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>2)</sup>, 須田幸子<sup>2)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>2)</sup>癌研・ゲノム解析): 家族性乳癌の臨床ムBRCA-1, BRCA-2遺伝子を含む(特集: 家族性腫瘍と遺伝子). 遺伝子医学 1999 ; 3 : 431-438 .
- 9) 歌田貴仁, 美濃部かおり, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 梶原哲郎<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>女子医大・二病・外科, <sup>2)</sup>癌研, <sup>3)</sup>東大・医科研): 乳癌の術後予後予測遺伝子診断の診断率向上の検討. 乳癌の臨床 1999 ; 4 : 540-541 .
- 10) 永井尚生, 原田晴仁, 江見 充: 癌遺伝子・癌抑制遺伝子(特集: 乳癌の診断と治療). 日本臨牀 2000 ; 58 : 25-29 .
- 11) 歌田貴仁, 江見 充: 染色体欠失の遺伝子診断(特集: 乳癌の診断と治療). 日本臨牀 2000 ; 58 : 473-477 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) Emi M , Utada Y , Kitamura Y , Nakamura Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>IMSUT): Molecular diagnosis of breast and thyroid cancer . The 13th Asia-Pacific Endocrine Conference ( Honolulu, USA ), 2000 . 2 .
- 2) Emi M , Utada Y , Kitamura H , Nakamura Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>IMSUT): Molecular Diagnosis Breast and Thyroid Cancer . The 19th International Symposium of Sapporo Cancer Seminar , 1999 . 7 .
- 3) Nagai H , Kim Y , Koyama M , Matsubara K , Emi M : Inactivation of JAK/STAT inhibitor gene in human hepatocellular carcinoma . The 19 International Symposium of the Sapporo Cancer Seminar , 1999 . 7 .
- 4) 原田晴仁: Expression profiling of transcripts in chromosome regions with frequent LOH . 文部省先端がん若手カンファランス, 2000 . 1 .
- 5) 永井尚生: Inactivation of JAK/STAT Inhibitor Gene Human Hepatocellular Carcinoma . 文部省先端がん若手カンファランス, 2000 . 1 .
- 6) 江見 充: がんの分子診断法の進歩. 第25回日本医学会総会, 1999 . 4 .
- 7) 江見 充, 歌田貴仁: 乳癌術後予後遺伝マーカーの解析: n0乳癌の検討. 第7回日本乳癌学会, 1999 . 6 .
- 8) 江見 充, 松本智司, 歌田貴仁, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会・乳腺外科, <sup>2)</sup>癌研究会・乳腺病理, <sup>3)</sup>東大・医科研・ゲノム解析セ): 乳癌における術後再発の遺伝子診断: 5年プロスペクティブ研究. 第58回日本癌学会, 1999 . 9 .
- 9) 江見 充: 動脈硬化を防ぐために. 平成11年度日本医科大学・文京区教育委員会共催大学公開講座, 1999 . 9 .
- 10) 永井尚生, 松原謙一, 江見 充: 原発性肝癌における遺伝子及びゲノム変化の解析. 日本消化器癌発生学会, 1999 . 9 .
- 11) 江見 充, 歌田貴仁, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研・病理, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌における術後再発死亡の遺伝子診断. 第37回日本癌治療学会, 1999 . 10 .



- 12) 歌田貴仁, 松本智司<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>癌研, <sup>3)</sup>東大・医科研 ): 乳癌術後予後遺伝マーカーの解析: n0乳癌の検討. 日本人類遺伝学会第44回大会, 1999. 11.
- 13) 江見 充: 乳癌・甲状腺癌の分子遺伝学. 東京大学医学部老年病学会研究会・特別講演, 1999. 12.
- 14) 江見 充: 乳癌術後予後のDNA診断. 文部省がん特定研究公開・合同シンポジウム, 2000. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Ota N, Hunt SC<sup>1)</sup>, Nakajima T, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Shirai Y<sup>3)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Univ. Utah, <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp., <sup>3)</sup> Dept. Orthoped. ): Linkage of Interleukin 6 Locus to Osteoporosis by Sib-Pair Analysis. American Society of Bone, Mineral Research ( St. Louis. USA. ), 1999. 10.
- 2) 中田朋子, 南 史朗, 勝又晴美, 清水一雄<sup>1)</sup>, 藤森 実<sup>2)</sup>, 横山史朗<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>信州大学第2外科 ): 甲状腺乳頭癌においてc-retと融合している新規遺伝子cDNAのクローニング. 第72回日本内分泌学会学術総会, 1999. 5.
- 3) 北村 裕, 清水一雄<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>伊藤病院 ): 甲状腺癌の allelo-typing study. 第11回日本内分泌学術学会総会, 1999. 5.
- 4) 北村 裕, 江見 充, 清水一雄<sup>1)</sup>, 北川 亘<sup>1)</sup>, 佐々木隆<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 山本基子<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>3)</sup>, 山西慎吾<sup>4)</sup>, 福永慶隆<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>第2生化学, <sup>3)</sup>小児科 ): 遺伝子診断を施行した多内分泌腫瘍症2B型の一家系. 第5回家族性腫瘍研究会, 1999. 6.
- 5) 吹野晃一, 足立好司<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>脳神経外科 ): von Hippel-Lindau病1家系の遺伝子診断. 第5回家族性腫瘍研究会, 1999. 6.
- 6) 歌田貴仁, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 梶原哲郎<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>3)</sup>, 坂本吾偉<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>東京女子医大第2病院外科, <sup>2)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>3)</sup>癌研・乳腺病理, <sup>4)</sup>東大・医科研 ): 乳癌の術後予後予測のための遺伝子診断の診断率向上と半自動化の検討. 第7回日本乳癌学会, 1999. 6.
- 7) 吹野晃一, 飯田有俊, 寺本 明<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>3)</sup>, 坂本吾偉<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>脳外科, <sup>2)</sup>癌研・外科, <sup>3)</sup>癌研・病理, <sup>4)</sup>東大・医科研・ヒトゲノム ): 散発性乳癌における第17番染色体長腕TOC座位(17q25.1)の高頻度欠失. 第7回日本乳癌学会, 1999. 6.
- 8) 横田 隆, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>癌研・外科, <sup>2)</sup>癌研・病理, <sup>3)</sup>東大・医科研・ヒトゲノム ): 散発性乳癌における第8番染色体長腕増幅領域の解析. 第7回日本乳癌学会, 1999. 6.
- 9) 美濃部かおり<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 古川恵子<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>3)</sup>癌研・病理 ): Microsatellite Instabilityを示す乳癌におけるPETNの変異. 第7回日本乳癌学会, 1999. 6.
- 10) 原田晴仁, 三上 巖, 常泉道子, 吹野晃一, 永井尚生, 江見 充: cDNA プロファイリングによる新規癌関連候補遺伝子の検索. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 11) 北村 裕, 清水一雄<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 田中茂夫, 江見 充 ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>伊藤病院 ): 甲状腺乳頭癌における染色体欠失と予後. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 12) 歌田貴仁, 松本智司, 横田 隆, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>癌研究会・乳腺外科, <sup>2)</sup>癌研究会・乳腺病理, <sup>3)</sup>東大・医科研 ゲノム解析セ ): 乳癌術後予後の遺伝マーカーの解析: 8p22LOHの意義. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 13) 永井尚生, 峯 伸也, 横田 隆, 宮崎久美, 中島敏晶, 原田晴仁, 江見 充: TOC原因遺伝子領域のゲノム地図作成及び同領域の塩基配列解析. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 14) 江見 充, 野辺由紀子, 中島敏晶, 平山恒憲<sup>1)</sup>, Wu L<sup>1)</sup>, Hopkins P<sup>1)</sup>, Williams R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>ユタ大学心血管研 ): 混合型高脂血症の発症関わる遺伝因子の解析. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.

- 15) 太田信孝, 中島敏晶, 鈴木隆雄<sup>1)</sup>, 吉田英世<sup>1)</sup>, 細井孝之<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>東京都老人総合研究所, <sup>2)</sup>整形外科): sib-pair 解析法による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 16) 吹野晃一, 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>脳神経外科): 日本人 von Hippel-Lindau 病1家系の遺伝子診断. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 17) 中島敏晶, 太田信孝, 江見 充: モステロールセンサーモ SREBP cleavage-activating protein, SCAP, の遺伝子構造の解析と遺伝子多型マーカーの同定. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 18) 坂東功一, 永井尚生, 河村直樹, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>外科第1): 肝臓における第4番染色体長腕欠失の解析. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 19) 小山雅章, 永井尚生, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>消化器病センター): 肝細胞癌における第6番染色体長腕6qのヘテロ接合性の消失の解析. 第9回メディカルジェネティクス研究会, 1999. 6.
- 20) 折茂 肇<sup>1)</sup>, 橋本 勉<sup>2)</sup>, 坂田清美<sup>2)</sup>, 吉村典子<sup>2)</sup>, 清野佳紀<sup>3)</sup>, 江見 充, 羽田 明<sup>4)</sup>, 鈴木隆雄<sup>5)</sup>, 細井孝之<sup>1)</sup>, 宮尾益理子<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人病センター, <sup>2)</sup>和歌山県立医科大学, <sup>3)</sup>岡山大学, <sup>4)</sup>旭川医科大学, <sup>5)</sup>東京都老人総合研究所, <sup>6)</sup>東京大学): 第3回大腿骨頸部骨折全国頻度調査成績. 第7回日本骨代謝学会, 1999. 7.
- 21) 大垣憲司, 美濃部かおり, 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 羽淵友則<sup>2)</sup>, 小川 修<sup>2)</sup>, 窪田吉信<sup>3)</sup>, 秋山成太<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>泌尿器科, <sup>2)</sup>京都大・医・泌, <sup>3)</sup>横浜市大・医・泌): 膀胱癌における2つの第9番染色体欠質領域の検討. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 22) 北村 裕, 清水一雄<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>伊藤病院): 甲状腺未分化癌の全ゲノム遺伝的変化の特徴: LOHによるアリロタイプ解析. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 23) 峯 伸也, 永井尚生, 宮崎久美, 飯田有俊, 吹野晃一, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>産婦人科): 乳癌における高頻度欠質領域(17q25.1)の物理地図の作成. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 24) 坂東功一, 永井尚生, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>外科第1): 肝臓における第4番染色体長腕の欠失領域のゲノムクローニング. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 25) 永井尚生, 峯 伸也, 横田 隆, 宮崎久美, 中島敏晶, 原田晴仁, 江見 充: 17q25.1上のTOC (Tylosis with oesophageal cancer) 原因遺伝子領域のゲノムシーケンシング. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 26) 原田晴仁, 永井尚生, 三上 徹, 常泉道子, 吹野晃一, 江見 充: 17q25.1上のTOC (Tylosis with oesophageal cancer) 領域新規ESTの癌における発現解析. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 27) 横田 隆, 中田朋子, 平田知己<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>外科第2, <sup>2)</sup>伊藤病院): 甲状腺癌に関わるELKS遺伝子ゲノム構造異常の解析. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 28) 吹野晃一, 北村 裕, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>脳神経外科): 散発性下垂体におけるMEN1遺伝子の解析. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 29) 歌田貴仁, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 梶原哲朗<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>3)</sup>, 坂元吾偉<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>東京女子医大・第2病院・外科, <sup>2)</sup>癌研究会・乳腺外科, <sup>3)</sup>癌研究会・乳腺病理, <sup>4)</sup>東大・医科研・ゲノム解析セ): 乳癌における6q共通欠失領域のゲノム・クローニング. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 30) 小山雅章, 永井尚生, 坂東功一, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>第二病院消化器センター): 肝細胞癌16p共通欠失領域の16p13.13上1-cMへの限局化. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 31) 永井尚生, 松原謙一<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup>奈良先端技術大学院大学): 原発性肝臓における遺伝子及びゲノムDNA変化の解析. 第58回日本癌学会, 1999. 9.
- 32) 松本智司, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 歌田貴仁, 江見 充<sup>(1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>癌研究会・乳腺外科, <sup>3)</sup>東大・医科研・ゲノム解析セ): 3p25.1領域におけるLOHと乳癌の術後予後との相関. 第58回日本癌学会, 1999. 9.

- 33) 江見 充, 歌田貴仁, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会, <sup>2)</sup>東大・医科研・ゲノム解析センター): 乳癌術後予後遺伝マーカーの解析: nO乳癌の解析. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 34) 永井尚生, 峯 伸也, 宮崎久美, 七井 彩, 元永満子, 藤原博通, 横田 隆, 中島敏晶, 原田晴仁, 江見 充: TOC (Tylosis with oesophagea cancer) 原因遺伝子領域のゲノムシークエンスによる新規遺伝子単離. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 35) 中島敏晶, 岩木喜久美, 太田信孝, 稲沢譲治<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>東京医科歯科大・難治研): “ステロールセンサー” SREBP cleavage-activating proteinの遺伝子構造の解析. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 36) 原田晴仁, 三上 巖, 常泉道子, 吹野晃一, 永井尚生, 江見 充: 癌細胞株において発現異常を示す4q21領域の新規癌関連遺伝子の同定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 37) 北村 裕, 江見 充, 清水一男<sup>1)</sup>, 北川 亘<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 佐々木隆<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 山本基子<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>3)</sup>, 山西慎吾<sup>3)</sup>, 福永慶隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2, <sup>2)</sup>生化第2, <sup>3)</sup>小児科): 遺伝子診断を施行した多内分泌腺腫症2B型の一家系. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 38) 歌田貴仁, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 梶原哲郎<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>3)</sup>, 中村祐輔<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大・第2病院・外科, <sup>2)</sup>癌研究会・乳腺外科, <sup>3)</sup>癌研究会・乳腺病理, <sup>4)</sup>東大・医科研・ゲノム解析センター): 乳癌における6q共通欠失領域のゲノム解析. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 39) 横田 隆, 中田朋子, 南 史朗, 江見 充: ELKS遺伝子の構造とマッピング. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 40) 吹野晃一, 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>脳神経外科): 日本人 von Hippel ミ Lindau 病1家系におけるVHL遺伝子変異. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 41) 太田信孝, 中島敏晶, 白井康正<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>整形外科): 骨粗鬆症におけるIL6遺伝子座sib-pair解析. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 42) 小山雅章, 永井尚生, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 肝細胞癌における第6番染色体腕の欠失地図の作成. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 43) 勝又晴美, 野辺由紀子, 南 史朗, 江見 充: 家族性高コレステロール血症家系における遺伝子変異の同定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 44) 常泉道子, 原田晴仁, 三上 巖, 吹野晃一, 永井尚生, 江見 充: cDNA プロファイリングによる新規癌関連候補遺伝子の検索. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 45) 三上 巖, 北村 裕, 清水一雄<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>伊藤病院): 甲状腺未分化癌のallelotyping study. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 46) 岩木喜久美, 太田信孝, 中島敏晶, 柴 忠義<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>北里大学・理学部): SCAP, NFkB1, IL-11遺伝子座のDNA多型性マーカーの単離. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 47) 元永満子, 永井尚生, 峯 伸也, 横田 隆, 宮崎久美, 七井 彩, 中島敏晶, 原田晴仁, 江見 充: Sequencherプログラムによるゲノム塩基配列のコンティグ形成. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 48) 宮崎久美, 永井尚生, 七井 彩, 元永満子, 峯 伸也, 横田 隆, 原田晴仁, 江見 充: ABI PRISM377-96を用いた大量塩基配列解析. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 49) 七井 彩, 永井尚生, 宮崎久美, 元永満子, 峯 伸也, 横田 隆, 中島敏晶, 原田晴仁, 江見 充: BLASTおよびGrai2によるゲノム配列からの遺伝子予測. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 50) 寺田淑恵, 永井尚生, 坂東功一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>外科学第1): ヒト原発性肝癌における第4番染色体長腕の共通欠失領域の同定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 51) 藤原博通, 永井尚生, 大垣憲司<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>泌尿器科): 膀胱癌における第9番染色体欠失部位の同定. 第67回日本医科大学医学会総会, 1999. 9.
- 52) 峯 伸也, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 永井尚生, 江見

- 充 ( <sup>1</sup>産婦人科学 ): 子宮平滑筋腫において同定した HMGI-C 遺伝子と COSV1c 遺伝子との新規遺伝子融合 . 第 67 回日本医科大学医学学会総会 , 1999 . 9 .
- 53) 太田信孝 , 中島敏晶 , 鈴木隆雄<sup>1</sup> , 吉田英世<sup>1</sup> , 細井孝之<sup>1</sup> , 折茂 肇<sup>1</sup> , 白井康正<sup>2</sup> , 江見 充 ( <sup>1</sup>東京都老人総合研究所 , <sup>2</sup>整形外科 ): sib-pair 解析法による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定 . 第 14 回日本整形外科学会 , 1999 . 10 .
- 54) 歌田貴仁 , 江見 充 : 乳癌の染色体の欠失による予後診断 . 第 21 回東京女子医科大学乳癌研究会 , 1999 . 10 .
- 55) 永井尚生 , 坂東功一 , 峯 伸也 , 藤原博通 , 寺田淑恵 , 宮崎久美 , 横田 隆 , 江見 充 : 肝癌における 4q21 欠失領域のゲノムクローニング . . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 56) 原田晴仁 , 三上 徹 , 常泉道子 , 吹野晃一 , 永井尚生 , 江見 充 : cDNA プロファイリングによる新規癌関連候補遺伝子の検索 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 57) 江見 充 , 野辺由紀子 , 中島敏晶 , 平山恒憲 , Wu L<sup>1</sup> , Hopkins P<sup>1</sup> , Williams R<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>ユタ大学 ): 混合型高脂血症に関わる遺伝因子の解析 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 58) 中島敏晶 , 岩木喜久美 , 太田信孝 , 稲沢譲治<sup>1</sup> , 江見 充 ( <sup>1</sup>東京医歯大・難治疾患研 ): “ ステロールセンサー ” SREBP cleavage-activating protein ( SCAP ) 遺伝子の構造解析と多型マーカーの同定 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 59) 北村 裕 , 清水一雄<sup>1</sup> , 伊藤公一<sup>2</sup> , 田中茂夫<sup>1</sup> , 江見 充 ( <sup>1</sup>外科第 2 , <sup>2</sup>伊藤病院 ): 甲状腺乳頭癌における allelic loss と予後 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 60) 太田信孝 , 中島敏晶 , 鈴木隆雄<sup>1</sup> , 吉田英世<sup>1</sup> , 細井孝之<sup>1</sup> , 折茂 肇<sup>1</sup> , 白井康正<sup>2</sup> , 江見 充 ( <sup>1</sup>東京都老人総合研究所 , <sup>2</sup>整形外科 ): Sib-pair 解析法による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 61) 成戸卓也<sup>1</sup> , Atipham P<sup>1</sup> , 福田陽司<sup>1</sup> , 永井尚生 , 江見 充 , 嶋田 裕<sup>2</sup> , 中村祐輔<sup>3</sup> , 稲沢譲治<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東京医歯大・難治研 , <sup>2</sup>京都大腫瘍外科 , <sup>3</sup>東大医科研・ヒトゲノム解析セ ): 食道扁平上皮癌ならびに肝細胞癌細胞株で高頻度に検出する増幅領域 14q13-21 の詳細なアンプリコンマップの作製 . 日本人類遺伝学会第 44 回大会 , 1999 . 11 .
- 62) 中田朋子 , 横田 隆 , 江見 充 , 南 史朗 : 甲状腺乳頭癌で見つかった新規融合タンパク質 ELKS-c-ret の解析 . 第 22 回日本分子生物学会 , 1999 . 12 .
- 63) 峰 伸也 , 黒瀬圭輔<sup>1</sup> , 土居大祐<sup>1</sup> , 太田雄治郎<sup>1</sup> , 米山剛一<sup>1</sup> , 明楽重夫<sup>1</sup> , 小西英喜<sup>1</sup> , 荒木 勤<sup>1</sup> , 永井尚生 , 江見 充 ( <sup>1</sup>産婦人科 ): 子宮平滑筋腫に新たに見出された HMGI-C 遺伝子と COX6C 遺伝子との遺伝子融合 . 第 4 回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会 , 2000 . 2 .
- 64) 北村 裕 , 清水一雄<sup>1</sup> , 北川 亘<sup>1</sup> , 赤須東樹<sup>1</sup> , 長浜充二<sup>2</sup> , 伊藤公一<sup>2</sup> , 田中茂夫<sup>1</sup> , 江見 充 ( <sup>1</sup>外科学第 2 , <sup>2</sup>伊藤病院 ): 甲状腺癌死亡症例 41 例における染色体領域のヘテロ接合性消失 ( LOH ) の検討 . 第 99 回外科学会総会 , 2000 . 3 .

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 11 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究者代表	所属・職	交付額 (万円)	研究課題
国際学術研究		西野 武士	生化学第一・教授	320	活性酸素を生成する複合金属フラビン酵素の構造と機能
特定領域研究(A)(1)		西野 武士	生化学第一・教授	2,180	金属蛋白質による情報変換
		太田 成男	老人病研究所・教授	5,530	RNA 高次機能の分子基盤
特定領域研究(A)(2)		江見 充	老人病研究所・教授	750	乳癌の遺伝子診断法の確立
	"	池島三与子	生化学第二・講師	200	ヒト MSH3 蛋白質の機能解析
	"	麻生 定光	老人病研究所・助教授	130	ジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素遺伝子由来ペプチドによる神経細胞死誘導機構
"		岩崎 俊雄	生化学第一・講師	180	古細菌コハク酸脱水素酵素複合体の構造機能解析
基盤研究(B)(1)一般		坂本 長逸	内科学第三・教授	100	folliculin 様構造をもつ新規 EGF 様蛋白質の消化管粘膜における役割
基盤研究(B)(2)一般		西野 武士	生化学第一・教授	230	フリーラジカルを生成する金属フラビン酵素の構造と機能
"	"	西野 武士	生化学第一・教授	320	活性酸素を生成する複合金属フラビン酵素の構造と機能
"	"	工藤 翔二	内科学第四・教授	210	肺癌抑制遺伝子候補の全 cDNA 配列, ゲノム構造の決定と変異のスクリーニング
"	"	佐久間康夫	生理学第一・教授	60	レポータ遺伝子による脳内エストロゲン受容体陽性ニューロンの同定と機能解析
"	"	長谷場 健	法医学・講師	640	細胞防御系ハウスキーピング酵素 Class ADH のアルコール代謝における役割
"	"	川並 汪一	老人病研究所・教授	690	肺の微小血管内皮細胞の cDNA 作製と特異プローブの検討
"	展開	荒木 勤	産婦人科学・教授	250	脳虚血, 脳低酸素症におけるヒツジ胎仔脳温と脳障害発生機構に関する研究
"	"	島田 隆	生化学第二・教授	300	Gaucher 病に対する造血幹細胞を標的とした遺伝子治療
基盤研究(C)(2)一般		鈴木 博	老人病研究所・講師	70	二枚貝におけるウイルス汚染に関する研究
"	"	安 恵美	内科学第三・助手	70	正常高齢者の免疫機能, 特にナチュラルキラー細胞活性に関する研究
"	"	佐藤 直樹	内科学第一・助手	50	心不全における末梢血管平滑筋のギャップ・ジャンクション機能の検討
"	"	緒方 清行	内科学第三・助教授	70	造血器腫瘍患者の樹状細胞に関する研究 その性状と機能の解析

"	"	清水 一雄	外科学第二・助教授	20	永続的甲状腺機能低下症に対する甲状腺移植の基礎的研究と臨床応用
"	"	二宮 淳一	外科学第二・助教授	10	レーザーによる心筋血行再建術の研究
"	"	パーハー S・イシュワー	生理学第一・講師	50	テラピアにおける部位特異的に発現するゴナドトロピン放出ホルモン遺伝子の制御機構
"	"	高市 眞一	生物学・助教授	80	葉緑体のネオキサチンは全てダーシス型である；系統発生と分布と機能
"	"	杉本 啓治	解剖学第一・助教授	50	血管内皮細胞の伸展刺激に対する応答反応系
"	"	加藤 昌克	生理学第一・助教授	70	視床下部ペプチド含有ニューロンのレポータ遺伝子による標識と機能解析
"	"	麻生 定光	老人病研究所・助教授	90	ミトコンドリアの機能の低下を識別する核遺伝子の転写制御機構
"	"	浅野 健	小児科学・講師	90	薬剤耐性癌種に対するトポイソメラーゼ 遺伝子導入による遺伝子治療
"	"	大国 寿士	老人病研究所・教授	80	緑色レンサ球菌群の代謝の組織障害作用に関する研究
"	"	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	50	中毒の指標としての血清コリンエステラーゼのホモ比活性
"	"	永島 正一	内科学(第二(リウマチ科))・講師	110	関節リウマチのサイトカインおよび血管増殖因子抑制効果に関する基礎的研究
"	"	津久井 拓	内科学第三・助手	80	ヒトパピローマウイルスを特異的に認識する T 細胞の誘導とそのエピトープの解析
"	"	片山 泰朗	内科学第二・教授	50	脳虚血耐性現象におけるアポトーシス制御機序の関与の解明
"	"	桂 研一郎	内科学第二・助手	150	高血糖及びそれに伴うアシドーシスによる虚血性神経細胞障害の分子生物学的機構の解明
"	"	新井 桂子	生理学第二・講師	60	高血圧発症におけるアミロライド感受性ナトリウムチャネルの関与様式の解析
"	"	木内 要	内科学第一・助手	70	心不全進展時における高親和性受容体および 受容体キナーゼの役割
"	"	小川 俊一	小児科学・助教授	60	アントラサイクリン系薬剤による心筋細胞のアポトーシス出現の機序と交換神経系の関与に対する解明
"	"	勝部 康弘	小児科学・助手	50	ヒト心筋 ATP 感受性 K チャネルの生理学的・薬理学的研究
"	"	江本 直也	内科学第三・助教授	130	腫大性甲状腺疾患における細胞外マトリックス・プロテオグリカンの病態生理学的意義
"	"	杉原 仁	内科学第三・講師	140	成長ホルモン分泌促進ペプチドの作用機序と受容体の発現調節

"	"	松倉 則夫	外科学第一・講師	110	自家発生動物胃癌モデルを用いた胃癌遺伝子治療の研究
"	"	寺本 明	脳神経外科学・教授	70	下垂体腺腫の発生・機能発現における視床下部ホルモンの意義
"	"	山王 直子	脳神経外科学・講師	70	転写活性因子として核内レセプターの機能と相互作用
"	"	竹田 晋浩	麻酔科学・助手	80	オピオイドによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
"	"	中西 一浩	麻酔科学・助手	70	重症肺水腫における非侵襲的人工呼吸治療法の確立
"	"	江見 充	老人病研究所・教授	100	子宮平滑筋腫における新規融合遺伝子のクローニング
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	100	内耳自己免疫傷害性疾患の発症機序の研究
"	"	平井 幸彦	生化学第二・講師	130	ウイルス蛋白質の直接導入によるヒト遺伝子上の特定部位への目的遺伝子導入法の開発
"	"	今城 純子	解剖学第一・講師	80	ラット大脳皮質における c-fos 発現の日内変動とその発現機構
"	"	長島 隆	哲学・倫理学・助教授	120	ドイツ観念論(シェリング, ヘーゲルを中心とする)における自然哲学の研究
"	"	平野 大地	内科学(第二(リウマチ科)・助手)	210	自己免疫疾患発症の分子機構の解明およびその制御
"	"	和田 謙	内科学第三・助手	180	新規 follistatin 様蛋白質の各種消化管病変における機能解析
"	"	小山 雅章	消化器病センター・助手	210	肝細胞癌の第 16 番染色体短腕におけるヘテロ接合性の消失(LOH)の解析
"	"	弦間 昭彦	内科学第四・講師	180	樹立したヒト肺癌高転移株による高転移能の機序の解明
"	"	紙野 晃人	老人病研究所・助手	180	ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損による神経障害, 痴呆発症機序の解明
"	"	安武 正弘	内科学第一・助手	160	心筋ミトコンドリア Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> 交換系と Ca <sup>2+</sup> イオン動態, redox 状態との関連
"	"	新 博次	内科学第一・助教授	150	心房電気生理学的特徴における renin-angiotensin 系の役割
"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	220	熱性けいれんおよびてんかん焦点形成における神経ペプチドの役割に関する実験的研究
"	"	猪口 孝一	内科学第三・助教授	190	慢性骨髄性白血病進展に関わるアポトーシス制御遺伝子と c-kit 遺伝子
"	"	清水 章	病理学第一・助手	90	同種腎移植における免疫寛容(トランス)導入と移植臓器における免疫応答の特異性
"	"	芝崎 保	生理学第二・教授	290	中枢神経系における CRF を中心とするストレス反応調節機構の解析
"	"	南 史朗	老人病研究所・教授	250	成長ホルモンの拍動性分泌におけるアンドロゲンの意義



"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	180	Growth Hormone Secretagogue 受容体の遺伝子発現調節
"	"	木山 輝郎	外科学第一・助手	190	創傷治癒におけるストレス蛋白 (HSP70) の誘導と線維芽細胞活性化の調節機構
"	"	加藤 俊二	外科学第一・助手	90	抗癌剤感受性及び術後薬剤性肝障害発生の個人差と薬物解毒酵素の遺伝的個体差との関連
"	"	永井 尚生	老人病研究所・助教授	210	段階的肝発癌における分子機構の解析
"	"	笹島 耕二	外科学第一・助教授	120	可溶性 TNF レセプターによる敗血症の病態解明と治療
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	70	悪性グリオーマ細胞における微小管蛋白の微小管阻害剤投与時の細胞内動態
"	"	小池 薫	救急医学・助手	140	多臓器不全の病態解明をめざした動物モデルの構築とその評価
"	"	坂本 篤裕	麻酔科学・助教授	220	一酸化窒素および一酸化炭素変動からみたショック時の循環系変動とその対策
"	"	木村 剛	泌尿器科学・講師	190	ホルモン不応性前立腺癌の細胞増殖因子の究明
"	"	近藤 幸尋	泌尿器科学・講師	220	膀胱癌における発癌・増殖因子としてのメタロチオネインの役割の究明
"	"	米山 芳雄	産婦人科学・講師	180	胎児アデノシンの tumor necrosis factor- $\alpha$ 産性抑制機構の研究
"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	210	アデノシンによる胎児心筋の虚血耐性メモリー獲得機構
"	"	明樂 重夫	産婦人科学・講師	80	ラット胎仔視床下部 CRF mRNA の感染ストレスに対する応答への NOS の関与
"	"	鈴木 俊治	産婦人科学・助手	160	アデノシン作動薬による胎児脳低温の導入
"	"	ルビー・パワ ンカール	耳鼻咽喉科学・講師	190	アレルギー性鼻炎局所での IgE 産生 DEP によるアレルギー性炎症の増悪の機序
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	100	好酸球性炎症における気道構築細胞 (特に線維芽細胞) の役割について
"	"	鈴木 秀典	薬理学・助教授	190	神経因性疼痛に対する GDNF 関連分子による治療法の開発の基礎的研究
萌芽的研究		鈴木 健治	生理学第二・助手	50	変性により退萎した球海綿体筋運動ニューロンにおけるテストステロンの機能維持作用
"		大木由加志	小児科学・助教授	80	造血幹細胞移植による異染性ロイコジストロフィーの遺伝子治療法の開発
"		隈崎 達夫	放射線医学・教授	40	超常磁性酸化鉄コロイド使用による転移性肝癌の新しい治療法の開発
"		茨木 信博	眼科学・助教授	80	ヒト網膜血管壁細胞株の作成

"	南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	80	妊娠出産に伴う母体側要因の研究：ドパミン及びプロスタグランジン代謝を中心として
"	坂本 長逸	内科学第三・教授	200	新たにクローニングしたEGF様増殖因子の大腸腫瘍病変における発現と役割
"	北村 伸	内科学第二・助教授	140	TH遺伝子を導入したヒト羊膜細胞を用いたパーキンソン病に対する細胞移植療法
"	右田 真	生化学第二・助手	100	ヒト羊膜細胞をキャリアーとする酵素欠損症に対する遺伝子導入細胞移植治療の検討
"	金子 勝美	皮膚科学・助手	130	アトピー性皮膚炎のストレスによる増悪機序の神経内分泌学および免疫学的解析
奨励研究(A)	後藤 穰	耳鼻咽喉科学・助手	70	鼻アレルギーにおけるブラディキニンの機能
"	周東 祐仁	内科学第三・助手	110	成長ホルモン分泌促進ペプチドの視床下部における作用の解析
"	三浦 剛史	泌尿器科学・助手	70	雄ラット性行動中におけるペニス活動のモニタリングとその調節機構
"	岡本 研	生化学第一・助手	90	キサンチン酸化酵素における非ヘム鉄の機能に関する研究
"	恩田 宗彦	病理学第二・助手	50	糖尿病症例の動脈硬化病変内のAGE自家蛍光物質の化学組成分析及び構造解析
"	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	50	N,N'-ジエチルアニリンによるリンパ球染色体異常はリンパ球の機能に影響を与えるか
"	佐藤 順	内科学第三・助手	10	細胞死の観点からみた潰瘍性大腸炎の臨床的検討
"	川上 康彦	小児科学・助手	50	細菌性髄膜炎における髄液中細胞処理機構の解明
"	新見やよい	皮膚科学・講師	100	線状IgA/IgG水疱性皮膚症の抗体が認識する基底膜抗原の分子生理学的解析
"	汲田伸一郎	放射線医学・講師	40	心電図同期法を併用した心筋SPECT/MRI統合画像に関する研究
"	水村 直	放射線医学・助手	50	動脈硬化症による脳循環への影響
"	趙 圭一	放射線医学・助手	10	動脈硬化症による脳循環への影響 血管自動調節の観点からみた機能異常評価
"	石原真木子	放射線医学・助手	70	MRI拡散強調像を用いた大脳連合線維の評価 血管性痴呆の機能評価への応用
"	林 宏光	放射線医学・講師	40	高速らせんCTによる血管内超音波,血管内視鏡イメージの3次元統合CT画像の開発
"	美濃部かおり	外科学第一・助手	70	乳癌の染色体変化と臨床病理学的因子との関連の解析

"	田原 重志	脳神経外科学・助手	40	下垂体細胞・腺腫における分泌顆粒放出の分子機構に関する基礎的研究
"	森 淳	整形外科科学・助手	50	人工材料を併用した再建前十字靭帯の3DFE法MRI評価と病理組織像の比較
"	内木場拓史	泌尿器科学・助手	90	担癌患者樹状細胞を用いた膀胱腫瘍特異的細胞障害性T細胞誘導の試み
"	山本 直之	解剖学第二・助手	60	終神経のゴナドトロピン放出ホルモン細胞への感覚入力
"	石橋 佳朋	老人病研究所・助手	130	アポトーシス促進因子Baxのチャネル形成ドメインによる新しいアポトーシス誘導経路
"	渡邊 淳	生化学第二・助手	120	トリプレット病におけるミスマッチ修復遺伝子の関与及び治療に関する研究
"	藤原 正和	老人病研究所・助手	140	肺微小血管内皮細胞の分子生物学的レベルでの特徴づけ
"	上田 雅之	内科学第二・助手	120	脳虚血耐性現象におけるグリア・神経細胞相互作用の解明
"	八島 正明	内科学第一・助手	180	心室細動波の光学的マッピングによる除細動至適時期の推定
"	立原利江子	皮膚科学・講師	60	Helicobacter pyloriを病因とする慢性蕁麻疹の発生機序の解明
"	高木 亮	放射線医学・助手	80	脳動脈瘤破裂の予測：多検出器型CTを用いた瘤内血流解析
"	小野瀬裕之	内科学第三・助手	110	甲状腺癌の増殖と転移における細胞外マトリックス・プロテオグリカンと成長因子の役割
"	中島 敏晶	老人病研究所・助手	120	骨粗鬆症予防のための遺伝子マーカーの開発
"	松本 智司	外科学第一・助手	120	原発性肝癌における第4番染色体長腕の高精度欠失地図の作成
"	太組 一郎	脳神経外科学・助手	140	脳下垂体腺腫の分泌小胞成熟過程における基礎的研究
"	山口 文雄	脳神経外科学・講師	150	神経膠腫におけるdominant-negative FGFRの欠損
"	大坪 保雄	産婦人科学・助手	120	胎児脳循環自働能における一酸化窒素の意義
"	土佐真美子	形成外科学・助手	110	新しい樹脂鑄型標本を用いた真皮下血管網皮弁における3次元的血管新生の研究
"	岩崎 俊雄	生化学第一・講師	110	一酸化窒素合成酵素活性中心の構造機能解析

2. 平成 11 年度文部省科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

	研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1	高市 眞一 生物学	基盤研究(A)	嶋田 敬三 東京都立大学	亜鉛バクテリオクロロフィルを持つ細菌の光合成機構の研究
2	西野 武士 生化学第一	特定領域研究(A)	西野 朋子 横浜市立大学	複反応中心をもつ金属フラビン蛋白群の構造と機能
3	高橋 秀実 微生物学・免疫学	特定領域研究(1)	内山 卓 京都大学医学部	エイズ制御のための基礎研究柱2. HIV 感染症の病態と免疫
4	仁平 信 法医学	基盤研究(B)	小嶋 亨 広島大学医学部	ネットワークによる薬毒物検査法のデータベース化に関する研究
5	林田眞喜子 法医学	基盤研究(B)	小嶋 亨 広島大学医学部	ネットワークによる薬毒物検査法のデータベース化に関する研究
6	江見 充 老人病研究所	特定領域研究(A)	大木 操 国立がんセンター	ヒトゲノム構造解析
7	北村 純一 北総病院リハビリ	萌芽的研究	黒岩 義人 横浜市立大学	図形・文字刺激を用いた視覚性事象関連電位の臨床応用
8	坂本 長逸 内科学第三	特定領域研究(A)	黒木登志夫 昭和大学腫瘍分子生物学研究所	上皮細胞の形態形成と増殖・分化の制御機構 分担 胃粘膜上皮細胞の増殖因子の解析
9	山寺 博史 永山神経科	基盤研究(B)	兼子 直 弘前大学医学部	てんかんおよび熱性けいれんの遺伝子解析
				補助金額合計 20,126,000 円

3. 平成 11 年度厚生省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

	研究者・所属	主任分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1	芝崎 保 生理学第二	分担	中枢性節食異常症調査研究・中尾一和・京都大学医学部	中枢性摂食異常症に関する調査研究
2	鈴木 秀典 薬理学	分担	戦略的基礎研究推進事業・小西史朗・三菱化学生命科学研究所	抑制性シナプス可塑性の分子機構の解明とその応用
3	高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業・倉田毅・国立感染症研究所副所長	HIV/AIDS の感染病態とその生体防御に関する研究
4	高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	戦略的基礎研究推進事業・神奈木真理・東京医科歯科大学医学部	生体防御のメカニズム
5	大野 曜吉 法医学	分担	厚生科学特別研究事業・中原雄二・国立医薬品食品衛生研究所	薬物中毒, 薬害, 農薬中毒等の予防と原因解明のための毛髪診断研究 毛髪からのパラコート分析
6	木村 哲彦 医療管理学	主任	厚生省精神神経疾患研究委託費	中枢神経疾患の介護機器の開発と応用に関する研究
7	木村 哲彦 医療管理学	主任	障害保健福祉事業	身体障害者福祉法における障害認定のあり方に関する研究
8	大國 壽 老人病研究所	主任	新興・再興感染症研究事業	劇症型 A 群レンサ球菌感染症の分子発症機構

9	江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究事業・折茂肇・東京都老人医療センター	骨粗鬆症予防のための危険因子に関する研究
10	江見 充 老人病研究所	分担	がん研究助成金・津田 均・国立がんセンター	がんの予後因子決定としての遺伝子診断に関する研究
11	江見 充 老人病研究所	分担	特定疾患研究・北 徹・京都大学医学部	原発性高脂血症の調査研究
12	太田 成男 老人病研究所	主任	脳科学研究事業	ミトコンドリア機能障害によるアルツハイマー病の発症機序と予測に関する研究
13	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究委託費・荒畑喜一・国立精神神経センター	ミトコンドリア脳筋症の原因変異遺伝子をもつ培養細胞の細胞死の制御
14	太田 成男 老人病研究所	分担	長寿医療研究委託事業・下方 浩史・国立療養所 中部病院 長寿医療研究センター	老年病におけるリスクファクターとしての遺伝子に関する疫学的並びに分子遺伝学的研究
15	早川 弘一 内科学第一	分担	社会保険基礎調査委託費・五島雄一郎・東海大学医学部	急性期入院医療の定額払いに関する試行調査研究
16	岸田 浩 内科学第一	主任	医薬安全総合研究事業・岸田浩・日本医科大学	抗狭心症薬の臨床評価法に関する研究
17	新 博次 内科学第一	分担	循環病に関する治療・研究事業・大江 透・岡山大学医学部教授	心房細動の発症機序に基づく治療体系の確立に関する研究
18	清野 精彦 内科学第一	分担	循環器病研究委託事業・野々木宏・国立循環器病センター	循環器疾患における血液生化学的マーカー迅速診断システムの導入に関する研究
19	及川 眞一 内科学第三	分担	特定疾患調査研究班・北 徹・京都大学大学院医学研究科	炎症性大腸疾患における Lp(a)の変動について
20	及川 眞一 内科学第三	分担	健康科学総合研究事業・松澤 祐次・大阪大学大学院医学研究科	糖尿病発症高危険群におけるインスリン抵抗性とその生活習慣基盤に関する多施設共同追跡調査 介入対象としての内臓肥満の意義の確立
21	及川 眞一 内科学第三	分担	慢性疾患総合研究事業・赤沼 安夫・朝日生命糖尿病研究所	糖尿病の治療に関する研究
22	工藤 翔二 内科学第四	主任	厚生科学研究費補助金による特定疾患対策臨床調査研究事業	びまん性肺疾患臨床調査研究
23	工藤 翔二 内科学第四	主任	厚生科学研究費補助金による特定疾患対策重点研究事業	持発性間質性肺炎の細胞分子病態に基づく疾病の病態に応じた治療法の開発研究
24	吾妻安良太 内科学第四	分担	特定疾患対策臨床調査研究事業・工藤 翔二・日本医科大学	びまん性肺疾患の細胞分子病態に応じた治療法の開発研究
25	高崎 雄司 内科学第四	分担	長寿科学総合研究・木田 厚瑞・東京都老人医療センター	高齢者閉塞性肺疾患における総合的ケアのあり方に関する研究
26	伊藤 保彦 付属第二病院小児科	分担	健康科学総合研究事業・木谷 照夫・市立堺病院	疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究
27	村上 睦美 小児科学	分担	厚生科学研究厚生省医薬安全総合事業・大西 鐘寿・香川医大小児科	小児薬物療法における医薬品の適正使用の問題点の把握及びに関する研究
28	村上 睦美 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業・伊藤拓・国立小児病院院長	小児難治性腎尿路疾患の病因
29	大木由加志 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業	小児糖尿病・生活習慣病の発症要因、治療予防に関する研究

30	前田 美穂 小児科学	分担	がん研究助成金・月本 一郎・東邦大学医学部	小児の難治性，二次性白血病の治療法の確立に関する研究
31	松倉 則夫 外科学第一	主任	がん研究助成金・総合研究	胃がんの発生・進展に関わる要因の把握とその診療への応用に関する研究
32	加藤 俊二 外科学第一	分担	がん研究助成金・安井 弥・広島大学医学部	食道および胃の前がん性病変に関する分子病理学的研究他
33	寺本 明 脳神経外科学	分担	間脳下垂体特能障害調査研究・加藤 謙・島根医科大学	プロラクチン産生下垂体腺腫における転写因子、受容体発現とその意義
34	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	特定疾患対策研究事業	前庭機能異常に関する調査研究
35	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業	平衡覚障害の発症機序と病巣局在診断法に関する研究
36	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業・今野 昭義・千葉大学医学部	花粉症に対する各種治療法に関する科学的根拠を踏まえた評価研究
37	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	主任	花粉症対策事業	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作治療研究
38	山本 保博 救急医学	主任	厚生科学特別研究事業	コンピューター 2000 年問題における災害時医療危機管理計画の作成に関する研究

補助金金額合計 245,374,500 円

4. 平成 11 年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 芝崎 保 生理学第二	喫煙科学研究財団	研究助成	ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析
2 程 久美子 薬理学	薬力学研究会	研究助成金	中枢神経系神経細胞株を用いた細胞死の研究
3 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	DNA ワクチンによる細胞性免疫の誘導
4 熊谷 善博 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス振興財団	HIV 研究 2	抗体超可変部へのエピトープ分子移植を利用した AIDS ワクチンの分子設計
5 江見 充 老人病研究所	(財)車両競技公益資金記念財団	がん・心臓病の基礎的研究	乳癌の遺伝子変異と遺伝子診断
6 八島 正明 内科学第一	福田記念医療技術振興財団		光学的マッピングを用いた心室細動発生様式及び除細動至適時期の検討
7 酒井 俊太 北総病院・循環器科学	循環器学研究振興財団		プラーク安定化に対する定量的評価法の開発及び臨床的応用
8 若林 一二 内科学第三	成長科学協会	自由課題研究	成長ホルモン分泌調節におけるエスロゲン効果
9 壇 和夫 内科学第三	高橋産業経済研究財団	研究助成金	慢性骨髄性白血病に突然変異を認める c-mpl, c-kit 遺伝子に関する研究
10 工藤 翔二 内科学第四	(財)喫煙科学研究財団	喫煙と呼吸器系	肺癌発生母地としての特発性肺線維症の遺伝子不安定
11 工藤 翔二 内科学第四	公害健康被害補償予防協会	生活環境中の汚染物質の健康影響に関する研究	粒子状物質中の主に微小粒子による健康影響に関する疫学的研究
12 高崎 雄司 内科学第四	東京都老人医療センター	大気汚染による健康影響に関する総合的研究	成人慢性気管支炎・気管支喘息に関する調査研究，他
13 伊藤 保彦 第二病院小児科	赤枝医学研究財団	研究助成金	小児の慢性的不定愁訴と自己免疫についての検討
14 宮本 雅史 整形外科	平成 11 年度交通事故医療研究助成金	交通事故医療研究助成金	交通事故による頸椎・頸髄損傷に関する研究
15 大久保公裕 耳鼻咽喉科学	国立公衆衛生院	花粉症保健指導	マニュアル作成
16 阿部 裕行 泌尿器科学	(財)内視鏡医学研究振興財団	研究助成	膀胱腫瘍に対するスネアーと吸引を用いた内視鏡的治療と生検法の開発

補助金額合計 39,147,000 円

## 5. 平成 11 年度各種補助金の交付状況一覧 [内訳]

(単位：千円)

項 目	平成 11 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学研究設備整備費等補助金(文・研・設)			
・研究設備	28,267	32,305	60,572
・情報関係設備			
計	28,267	32,305	60,572
私立学校施設整備費補助金(文・施・設)			
・研究施設			
・研究装置	51,866	51,864	103,730
・教育装置	20,948	20,947	41,895
・学内 LAN 装置			
・創造教育装置[10 年度で廃止]			
・マルチメディア装置	19,451	19,450	38,901
計	92,265	92,261	184,526
高度化推進特別経費			
・大学院重点特別経費	37,500	32,300	69,800
・ティーチング・アシスタント経費	4,560	3,600	8,160
・教育研究交流事業費	0	405	405
・大学院の基盤整備	0	357,013	357,013
・研究機能の強化(研究基盤の充実)	0	28,954	28,954
・ " (共同研究)	68,800	68,700	137,500
・リサーチ・アシスタント, ポスト・ドクター支援経費	8,650	10,600	19,250
・研究施設・設備等の運営(研究所等)	0	22,700	22,700
・ " (大型設備等)	0	2,500	2,500
情報化推進特別経費			
・情報処理関係設備(借入)	10,630	8,698	19,328
・教育学術情報ネットワーク	15,571	11,549	27,120
・教育研究用ソフトウェア	2,485	2,480	4,965
・教育学術情報データベース等の開発	2,147	2,140	4,287
国際交流特別経費			
・外国人教員による教育	0	1,000	1,000
・アジア諸国語教育	0	500	500
・外国大学等との学生・教員の交流	0	2,500	2,500
・海外研修派遣	2,324	2,322	4,646
・外国人留学生の受入れ	0	4,458	4,458
大学改革推進特別経費[11 年度から組替]			
・大学改革推進経費	0	1,500	1,500
・特色ある教育研究	6,907	5,000	11,907
計	159,574	568,919	728,493
学術研究振興資金			
学術研究振興資金	10,000	7,500	17,500
総合計	290,106	936,185	1,226,291



各種補助金の交付状況一覧(内訳)(再掲)

(単位：千円)

項 目	平成 11 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
ハイテク・リサーチ・センター整備事業			
文・研・設(研究設備)			
文・研・設(研究施設)			
" (研究装置)			
経常費補助金特別補助(共同研究)	20,000	20,000	40,000
計	20,000	20,000	40,000
学術フロンティア推進事業			
文・研・設(研究設備)			
経常費補助金特別補助(共同研究)	48,800	48,700	97,500
計	48,800	48,700	97,500

## あ と が き

平成11年度の研究業績年報が発行される季節になった。評価という言葉が多くの場所で語られ、また活字として目に入ってくる昨今である。おそらくこの研究年報も本学の研究成果を年毎にまとめ、自己評価さらには外部評価の対象資料にすることを目的に発行されるようになったと推測される。一大ブームを成したインパクトファクターによる評価法が見直されていることから、研究業績の評価を数値化することの難しさが理解される。また、研究の細分化が著しい現在、自分の研究分野とは異なった分野の発表論文に対する評価は困難である。したがって、各研究者の研究発表に対する評価は、完璧な評価がなされるという保証はないが、外部の同一専門分野の複数の研究者に委ねることが必要であろう。

論文数をもって研究者およびその研究内容が評価されるはずはない。しかし、一方では発表論文数は研究活動の指標になるうる側面を有しているとも考えられている。こういった背景を考慮しつつ業績年報に目をやれば、発表論文数、学会発表数が本学の研究の活動度を示す判りやすい指標の一つにとりあえずなるであろう。そこで、この10年間の論文数の変遷を辿ってみると、総論文数が1990年の1432編から今年度の1927編へ、英文論文数は1990年の210編から今年度の665編へと増加している。英文論文数の増加率が著しく、総論文数に対する英文論文数の比率は1990年代前半の十数%から今年度の34.5%へと目覚ましく上昇している。また、学会発表数も増加したが、その増加率よりも総論文数の増加率がそれを上回っている。今年度の総学会発表数が3885件であり、総論文数が1927編であることから、単純計算では学会発表された研究成果の約半数が確実に論文に仕上げられていることになる。これらの右肩上がりの傾向は誇るべきものであり、さらなる向上が期待される。研究の質の評価は難しい。しかし、各々の研究分野においてインパクトが強く貢献度の高い研究成果は自ずから多数の人々の高い評価を受けるものである。本研究年報に掲載されている発表論文の質に関しては発表者自身が良く理解されているはずであり、さらなる質の向上を目指し、本学に対する評価を高めていきたいものである。

研究委員会委員長 芝崎 保

平成12年 12 月 15 日 印 刷

平成12年 12 月 20 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 ( 3822 ) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 ( 3910 ) 4 3 1 1 5